

2025年度

テキスト履修 シラバス・レポート課題集

玉川大学教育学部教育学科
通信教育課程

新カリキュラム

(2019 年度以降の入学生用)

- 科目コードと科目名を確認のうえ、該当する科目をクリックしてください。
シラバス・レポート課題が表示されます。
- レポートの提出様式が「Word添付」の場合は以下よりテンプレートをダウンロード
してご利用ください。

[「テキスト履修レポート用テンプレート（横書き）」](#)

[「テキスト履修レポート用テンプレート（縦書き）」](#)

TT0001	ELF（通信 101）	12
TT0002	ELF（通信 102）	14
TT0003	ICT 利活用の授業実践	16
TT0025	一年次セミナー 101	18
TT0027	異文化理解と教育	20
TT0028	宇宙科学	24
TT0029	音楽	26
TT0032	音楽科指導法	28
TT0033	外国語（英語）	30
TT0034	外国語（英語）指導法	32
TT0035	外国史概論	34
TT0036	外国史各論 A	36
TT0037	外国史各論 B	38
TT0052	学習・発達論	40
TT0053	学習指導と学校図書館	42
TT0054	学校経営と学校図書館	44
TT0055	学校図書館メディアの構成	46
TT0056	家庭	48
TT0057	家庭科指導法	50
TT0058	環境教育	52
TT0059	観光地誌論	54

TT0060	教育学概論	56
TT0061	教育課程編成論	58
TT0062	教育原理	60
TT0089	教育社会学（新刊テキスト）	62
TT0089	教育社会学（旧刊テキスト）	64
TT0090	教育心理学	66
TT0091	教育相談の理論と方法	70
TT0092	教育哲学	72
TT0093	教育の制度と経営	74
TT0094	教育の方法と技術	76
TT0095	教育方法学	78
TT0096	教職（健康教育）	80
TT0098	教職概論	82
TT0123	経済学（国際経済を含む。）	84
TT0124	健康教育	86
TT0125	健康スポーツ理論	88
TT0139	現代社会の教育課題	90
TT0140	考古学（新刊テキスト）	92
TT0140	考古学（旧刊テキスト）	94
TT0141	国語	96
TT0142	国語科指導法	98
TT0143	国際関係論	100
TT0144	コミュニケーション論	104
TT0145	算数	106
TT0146	算数科指導法	108
TT0179	自然科学史	112
TT0184	自然地理学	114
TT0185	視聴覚教育メディア論	118
TT0186	児童サービス論	120
TT0187	市民社会と法	122
TT0188	社会	124
TT0189	社会科・公民科指導法Ⅰ	126

TT0190	社会科・公民科指導法Ⅱ	128
TT0191	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	130
TT0192	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	132
TT0193	社会学	134
TT0194	社会科指導法	138
TT0213	宗教学	140
TT0214	生涯学習概論	142
TT0215	情報科学入門（新刊テキスト）	144
TT0215	情報科学入門（旧刊テキスト）	146
TT0218	情報サービス論	148
TT0221	情報資源組織論（新刊テキスト）	152
TT0221	情報資源組織論（旧刊テキスト）	154
TT0222	情報メディアの活用	156
TT0234	人文地理学	158
TT0235	心理学	160
TT0236	数学入門	162
TT0237	図工	164
TT0238	図工科指導法	168
TT0239	生活	170
TT0240	生活科指導法	172
TT0241	政治学（国際政治を含む。）	174
TT0242	精神保健	178
TT0243	生徒・進路指導の理論と方法	180
TT0244	生物学入門	182
TT0245	生命と性の教育	184
TT0246	西洋哲学思想史	186
TT0247	西洋美術史	188
TT0248	西洋文化史	192
TT0249	世界の教育と文化環境	194
TT0250	世界の宗教と文化	196
TT0251	全人教育論	198
TT0394	総合的な学習の時間の理論と方法	200

TT0396	体育（幼・小）	202
TT0397	体育科指導法	204
TT0410	地球科学	208
TT0411	地誌学概論（新刊テキスト）	212
TT0411	地誌学概論（旧刊テキスト）	214
TT0412	地理学概論	216
TT0413	地理情報論（新刊テキスト）	218
TT0413	地理情報論（旧刊テキスト）	220
TT0414	哲学	222
TT0415	道德教育の理論と方法	224
TT0416	東洋思想史	226
TT0417	東洋文化史	228
TT0418	読書と豊かな人間性	232
TT0419	特別活動の理論と方法	234
TT0420	特別支援教育	236
TT0421	日本の伝統文化と歴史	238
TT0422	図書・図書館史	240
TT0423	図書館概論	244
TT0424	図書館サービス概論	248
TT0425	図書館情報技術論	252
TT0426	図書館情報資源概論	256
TT0427	図書館情報資源特論	258
TT0428	図書館制度・経営論	260
TT0429	日本国憲法（新刊テキスト）	264
TT0429	日本国憲法（旧刊テキスト）	266
TT0430	日本語表現	268
TT0431	日本史概論	270
TT0432	日本史各論 A	272
TT0433	日本史各論 B	274
TT0434	日本と外国の歴史	276
TT0435	日本美術史	280
TT0436	博物館概論	282

TT0437	博物館教育論	284
TT0438	博物館経営論	286
TT0441	博物館情報・メディア論	288
TT0442	博物館資料保存論	290
TT0443	博物館資料論	292
TT0444	博物館展示論	294
TT0445	発達心理学	296
TT0446	比較文化論（新刊テキスト）	298
TT0446	比較文化論（旧刊テキスト）	300
TT0447	物理学入門	302
TT0448	文化史	306
TT0449	文化人類学	308
TT0450	保育内容指導法（環境）	310
TT0451	保育内容指導法（健康）	312
TT0452	保育内容指導法（言葉）	314
TT0453	保育内容指導法（人間関係）	316
TT0454	保育内容指導法（表現）	318
TT0455	保育内容総論	320
TT0456	法律学（国際法を含む。）（新刊テキスト）	322
TT0456	法律学（国際法を含む。）（旧刊テキスト）	324
TT0457	ボランティア概論	326
TT0458	民俗学入門	328
TT0459	幼児教育課程論	330
TT0460	幼児指導論	332
TT0461	幼児理解と教育相談	336
TT0462	理科	338
TT0463	理科指導法	340
TT0464	臨床心理学	342
TT0465	倫理学	344
TT0466	歴史（世界）	346
TT0467	歴史（日本）	348
TT0468	歴史資料情報論	350

TT0469	図書館施設論	352
TT0470	社会教育経営論 A	354
TT0471	社会教育経営論 B	356
TT0472	生涯学習支援論 A	358
TT0474	生涯学習と生涯教育	360
TT0475	教育方法・技術論	362
TT0476	ICT 活用の理論と実践	364
TT0496	子どもと環境	366
TT0497	子どもと健康	370
TT0498	子どもと言葉	372
TT0499	子どもと人間関係	374
TT0500	代数学 I	378
TT0501	代数学 II	380
TT0502	幾何学 I	382
TT0503	幾何学 II	384
TT0504	解析学 I	386
TT0505	解析学 II	388
TT0506	解析学 III	390
TT0507	確率統計学 I	392
TT0508	確率統計学 II	394
TT0509	コンピュータ	396
TT0510	数学科指導法 I	398
TT0511	数学科指導法 II	400
TT0512	数学科指導法 III	402
TT0513	数学科指導法 IV	404
TT0600	子どもと表現	406
TT0601	統計学入門	408
TT0603	体育 (小)	412

旧カリキュラム

(2018 年度以前の入学生用)

- 科目コードと科目名を確認のうえ、該当する科目をクリックしてください。
シラバス・レポート課題が表示されます。
- レポートの提出様式が「Word添付」の場合は以下よりテンプレートをダウンロード
してご利用ください。
[「テキスト履修レポート用テンプレート（横書き）」](#)
[「テキスト履修レポート用テンプレート（縦書き）」](#)

01101	全人教育論 / 全人教育研究Ⅰ	414
01105	健康教育 / 体育理論 / 全人教育（体育理論）	416
01112	一年次セミナー 101 / 通信教育 F Y E	418
02119	英語	420
02401	日本語表現 / （コア）文章表現	424
02501	英語リテラシー / 英語コミュニケーション	426
02601	国際関係論（入門） / （コア）国際関係入門	428
02609	（コア）心理学	432
02615	歴史（日本） / （コア / 一般）日本史	434
02617	歴史（世界） / （コア）外国史 / （一般）西洋史	436
02618	コミュニケーション論	438
02701	数学入門 / （コア）数学入門 / （一般）数学 1-2	440
02703	物理学入門 / （コア）物理学入門	442
02705	化学入門 / （コア）化学入門	446
02707	生物学入門 / （コア）生物学入門	448
02711	地球科学 / （コア）地球科学	450
02715	情報リテラシー / （コア）情報科学入門（新刊テキスト）	454
02715	情報リテラシー / （コア）情報科学入門（旧刊テキスト）	456
02803	健康スポーツ理論 / （コア）健康スポーツ	458
03101	教育学概論 / 教育学概論Ⅰ / 1-2	460
04152	視聴覚教育メディア論	462

04201	日本国憲法（新刊テキスト）	464
04201	日本国憲法（旧刊テキスト）	466
07125	ボランティア概論	468
07133	社会教育経営論 A	470
07134	社会教育経営論 B	472
07135	生涯学習支援論 A	474
07137	生涯学習と生涯教育	476
07401	図書館概論	478
07425	児童サービス論	482
07431	図書館情報技術論	484
07432	図書館制度・経営論	488
07433	図書館サービス概論	492
07434	情報サービス論	496
07437	図書館情報資源概論	500
07438	情報資源組織論（新刊テキスト）	502
07438	情報資源組織論（旧刊テキスト）	504
07441	図書館情報資源特論	508
07442	図書・図書館史	510
07715	日本美術史	514
07717	西洋美術史	516
07719	考古学（新刊テキスト）	520
07719	考古学（旧刊テキスト）	522
07721	民俗学	524
07723	自然科学史	528
07730	博物館概論	530
07731	博物館経営論	532
07732	博物館資料論	534
07733	博物館情報・メディア論	536
07734	博物館資料保存論	538
07735	博物館展示論	540
07739	文化史	542
07801	教職概論 / 教師論	544

07802	教育原理 / 教育の原理	546
07803	学習・発達論 / 人間の発達と学習	548
07804	教育の制度と経営 / 学校制度と社会 / I	550
07808	幼児理解と教育相談	552
07813	教育哲学 / 教育哲学 I / 1-2	554
07815	教育心理学 / 教育心理学 I / 1-2	556
07817	環境教育	560
07818	学習心理学	562
07819	異文化理解と教育 / 国際理解教育	564
07820	発達心理学	568
07821	生涯学習概論	570
07822	日本教育史 / 日本教育史 I	572
07824	西洋教育史 / 西洋教育史 I	574
07826	教育社会学 / 教育社会学 I (新刊テキスト)	576
07826	教育社会学 / 教育社会学 I (旧刊テキスト)	578
07828	教育行政学 / 教育行政学 I	580
07830	学級経営	582
07831	生命と性の教育	584
07834	教育課程編成論 (小)	586
07840	幼児教育課程論	588
07841	保育内容総論	590
07842	幼児指導論 / 幼児指導論 I	592
07870	道德教育の理論と方法 (小)	596
07872	特別活動の理論と方法 (小)	598
07874	教育の方法と技術 (幼・小)	602
07876	生徒・進路指導の理論と方法 (小)	604
07878	教育相談の理論と方法 (小)	608
07882	教育方法学 (幼・小)	610
07884	特別支援教育	612
07885	外国語活動の指導法	614
07886	総合学習の指導法	616
08802	国語科指導法	618

08803	社会科指導法	620
08804	算数科指導法	622
08805	理科指導法	626
08806	生活科指導法	628
08807	音楽科指導法	630
08808	図工科指導法	632
08809	家庭科指導法	634
08810	体育科指導法	636
08811	(教科) 国語 (書写を含む。)	640
08812	(教科) 社会	642
08813	(教科) 算数	644
08814	(教科) 理科	646
08815	(教科) 生活	648
08816	(教科) 音楽	650
08817	(教科) 図画工作	652
08818	(教科) 家庭	656
08819	(教科) 体育	658
08820	保育内容の指導法 (健康)	660
08821	保育内容の指導法 (人間関係)	662
08822	保育内容の指導法 (環境)	664
08823	保育内容の指導法 (言葉)	666
08824	保育内容の指導法 (表現)	668
08832	外国史 (東洋)	670
08843	哲学概論Ⅰ	672
08845	倫理学概論Ⅰ	674
08848	人間関係論	676
08852	宗教学	678
08853	西洋思想史	680
08854	東洋思想史	682

TT0001 ELF (通信 101)

2単位

テキスト名

NHK WORLD NEWS: Global Perspectives - A Guide to English Listening and Reading -

科目概要	英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解・克服する。また通信教育の特色を活かし、リーディング、リスニングの基礎を確実なものとするために身の回りにある日本語の情報源や辞書の活用を最大限に行いながら学修する。
主な到達目標	これまでの英語学習を振り返り、苦手な領域を確認して各自が克服することを目標とする。最終評価は総合的判断によるが、履修完了時に TOEIC® Listening & Reading IP テストにおいて 300 点相当以上が最低限の目安となる。
テキスト学修の留意点	テキストは NHK の海外向けテレビ放送 NHK World の番組をもとに制作されている。日本と関連するニュースが殆どであるので、テキスト学修と同時に、普段から新聞（日本語、英語）を読んだり、NHK World https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ の動画を見ながら、時事英語を聴く習慣をつけておくとよい。

	学修テーマ	課 題
1	コースの概要	テキスト学修と同時に、NHK World の動画を見て、時事英語を聴く習慣をつけること。
2	Unit 1	Japan's Refueling Mission in the Indian Ocean Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 1, Tips for Reading 1 Unit 1 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
3	Unit 2	Prime Minister Yasuo Fukuda Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 2, Tips for Reading 2 Unit 2 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
4	Unit 3	Pakistan's Election Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 3, Tips for Reading 3 Unit 3 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
5	Unit 4	U.S. Democratic Presidential Nomination Race Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 4, Tips for Reading 4 Unit 4 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
6	Unit 5	Food Safety Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 5, Tips for Reading 5 Unit 5 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
7	Unit 6	Collision between an MSDF Destroyer and a Fishing Boat Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 6, Tips for Reading 6 Unit 6 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
8	Unit 7	Rape of a 14-year-old Girl in Okinawa Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 7, Tips for Reading 7 Unit 7 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
9	Unit 8	Kosovo's Independence Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 8, Tips for Reading 8 Unit 8 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
10	Unit 9	Attacks on Japanese Whaling Ships Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 9, Tips for Reading 9 Unit 9 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
11	Unit 10	Vacancy of BOJ Governor Post Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 10, Tips for Reading 10 Unit 10 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
12	Unit 11	South Korean President Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 11, Tips for Reading 11 Unit 11 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
13	Unit 12	Tibetan Unrest Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 12, Tips for Reading 12 Unit 12 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと。
14	Unit 13	New Governor of BOJ Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 13, Tips for Reading 13 Unit 13 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと
15	Unit 14	Zenkoji Temple and the Beijing Olympics Listening Step 1, 2, 3, Reading, Tips for Listening 14, Tips for Reading 14 Unit 14 に関連する最新ニュースを NHK World や Radio Japan から探し、最低 1 つ聴く・読むこと

シラバス執筆：飯田 美耶

レポート課題

第1分冊 飯田 美耶

第2分冊 飯田 美耶

第1分冊 〈略題〉最新記事を読み、自分の意見を書く Units 1-7 (pp. 7-34)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

NHK World にて (1) 日米関係と (2) 食の安全についてそれぞれ最新記事を読み、その記事における自分の意見を英語で書きなさい。語彙数は (1) (2) とともに 100 語程度とし、Word を使用すること。伝わりやすい文になるよう、英文の段落構成 (Title, Introduction, Body Paragraph, Conclusion) を用いて書きましょう。また、第1分冊と第2分冊をまとめて提出するのではなく、第1分冊のコメントを参考に第2分冊の課題に取り組みましょう。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・ヘッダーに、科目名・科目コード・学籍番号・氏名を記載すること。
- ・(1), (2), 共にタイトルは、太文字を使い、中央揃えにすると共に、前後1行の空白を設けること。
- ・段落初めは半角5文字空けて書き始めること。
- ・スペルチェック機能を利用し、スペルミスに注意すること。
- ・最新記事のリンクを必ず添付すること。

〈評価の観点〉

記事の内容の抜粋だけでなく、自分の意見が書かれているかを評価します。また、読み手に分かりやすい英語の文になるよう、英文の構成も意識しましょう。「課題」「レポート作成にあたっての留意事項」「その他の注意点」に沿って書かれているかも評価の対象となりますので、必ず提出前に確認してください。

〈その他の注意点〉

下記の文字フォント、文字の大きさ、用紙一枚の文字数と行数に従って書いてください。

文字フォント: Times New Roman

文字の大きさ: 12 ポイント

文字数と行数: 45 字 × 38 行

大学指定のテンプレートを使用せず、自分で Word 設定を行いテンプレートを作成してください。

第2分冊 〈略題〉最新記事を読み、自分の意見を書く Units 8-14 (pp. 35-62)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

NHK World にて (1) 日本経済と (2) 自分が興味のあるテーマについてそれぞれ最新記事を読み、その記事における自分の意見を英語で書きなさい。語彙数は (1) (2) とともに 100 語程度とし、Word を使用すること。伝わりやすい文になるよう、英文の段落構成 (Title, Introduction, Body Paragraph, Conclusion) を用いて書きましょう。また、第1分冊と第2分冊をまとめて提出するのではなく、第1分冊のコメントを参考に第2分冊の課題に取り組みましょう。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・ヘッダーに、科目名・科目コード・学籍番号・氏名を記載すること。
- ・(1), (2), 共にタイトルは、太文字を使い、中央揃えにすると共に、前後1行の空白を設けること。
- ・段落初めは半角5文字空けて書き始めること。
- ・必ずスペルチェック機能を利用し、スペルミスに注意すること。
- ・最新記事のリンクを必ず添付すること。

〈評価の観点〉

記事の内容の抜粋だけでなく、自分の意見が書かれているかを評価します。また、読み手に分かりやすい英語の文になるよう、英文の構成も意識しましょう。「課題」「レポート作成にあたっての留意事項」「その他の注意点」に沿って書かれているかも評価の対象となりますので、必ず提出前に確認してください。

〈その他の注意点〉

下記の文字フォント、文字の大きさ、用紙一枚の文字数と行数に従って書いてください。

文字フォント: Times New Roman

文字の大きさ: 12 ポイント

文字数と行数: 45 字 × 38 行

大学指定のテンプレートを使用せず、自分で Word 設定を行いテンプレートを作成してください。

参考文献

NHK World <https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>

科目試験等への
アドバイス

それぞれの Unit に関連する最新ニュースを NHK World から探し、読んでおいてください。出来るだけ声に出して、どこで区切るというか、読みや意味が分かったつもりになっている単語・文はないか確認しながら読んでおくようにして下さい。

教員からの
メッセージ

日本のニュースがどのような英語 (単語・文法など) で表現されているのか、似ている点や異なった視点からの意見を学びましょう。また、英語の記事を読む・聞くことによって、英語の文章構造の理解・ネイティブの英語のスピードに慣れていきましょう。
テキスト学修では、テキストや NHK WORLD の最新記事を読「読む」、テキストの音声教材 (CD) を使って「聴く」、音声教材に合わせて声に出して読む事で「話す」ことを目的としています。
課題では、少しまとまった文章を「書く」ことに挑戦してみましょう。テキスト学修でインプットした英語の力を確認することと、文章のまとまりを作るルールや英文の構成を学修します。そのため、第1分冊と第2分冊をまとめて提出するのではなく、学修範囲毎に提出し教員からのフィードバックをもらうことをおすすめします。

TT0002 ELF (通信 102)

2単位

テキスト名

NHK WORLD NEWS: Global Perspectives-A Guide to English Listening and Reading 南雲堂

科目概要	ELF (通信 101) に引き続き、英語の「読む」「書く」「聴く」「話す」の4技能において、それぞれの弱点を理解し、克服しながら通信教育の特色を活かし学修する。リーディング、リスニングの基礎をもとに、ELF (通信 102) では、4技能のバランスを意識しながらも、通信教育の特性を活かし、特に「書く」分野の向上を目指す。
主な到達目標	これまでの英語学習を振り返り、苦手な領域を確認して各自が克服することを目標とする。最終評価は総合的判断によるが、履修完了時に TOEIC® Listening & Reading IP テストにおいて 450 点相当以上が最低限の目安となる。
テキスト学修の留意点	テキストは NHK の海外向けテレビ放送 NHK World の番組をもとに制作されている。日本と関連するニュースが殆どです。テキスト学修と同時に、最新の時事情報を普段から新聞（日本語、英語）を読んだり、NHK World https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ の動画を観たり、Radio Japan の英語ニュース（NHK の海外向けラジオ放送：ポッドキャストもあり）を聴くなどし、短い英文でまとめておくといよい。

	学修テーマ	課題
1	コースの概要 Study Skills	学修指導書の study skills を熟読し、この科目における学修計画を現実的に立てる。テキスト Unit 1 を元に Listening Step と Reading Step をテキスト冒頭の「本書の使い方」をあくまでも参考に ELF101 の Listening からの学修を基盤に自身に合う英語習得の学修計画を立ててください。
2	サマリーの書き方	学修指導書の該当項目を熟読し、精読ではなく主旨を自身の言葉で理解し更にそれを端的に第三者に伝える表現方法を習得する。
3	Unit 9	101 で学修した記事内容 [Attacks on Japanese Whaling Ships] を復習し、NHK world news のサイト等から関連記事を読み、その読解のみならず自身の言葉で要約 summarize し、日英語で第三者に伝える表現を演習。
4	Unit 13	[New Governor of BOJ] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。本テキスト Unit 10 の関連記事を読み、2 つの unit の要約を短い英文で書き、さらに自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える。
5	Unit 14	[Temple and Olympics] など現代のメディアで用いる表現を含む、Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
6	Unit 15	[Dalai Lama and China] を例にテキスト掲載のニュースだけではなく関連記事を事前に情報収集する演習をする。予備知識を日本語で修得したうえで英語で同トピックの情報収集をする。そのうえでテキストの内容の主旨を理解したうえで要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
7	Unit 16	[Olympic Torch Relays in Confusion] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
8	Unit 17	[Gasoline Surcharge] gasoline はアメリカ英語だがイギリス英語だと petrol となる。同じニュースでも英語表現の違いを意識的に読み聞く。テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
9	Unit 13-17	これまで学修したトピックの最新情報(学修日現在の)を英字新聞や NHK World のウェブサイト、他のメディアを利用して更新する。それぞれのニュースに関連する新しい語句や表現を書きとめ語彙強化を同時に図る。
10	Unit 18	[New Phase with China] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
11	Unit 19	[Cyclone-Hit Myanmar] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
12	Unit 20	[Obama's Victory in Democratic Nomination] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
13	Unit 21, 22	[Japan's Initiative in Climate Change] [Stabbing Rampage in Akihabara] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
14	Unit 23 Unit 24	[Sichuan Earthquake] [Centennial of Japanese Emigration to Brazil] Listening 学修した内容の主旨を理解し、テキスト記事の読解のみならず自身の言葉で日英語で第三者に伝える表現を学修。理解した情報を要約し、自身の見解や感想を簡潔に英語で伝える表現を演習。
15	Unit 1-24 Review	これまで学修したトピックの最新情報(学修日現在の)を英字新聞や NHK World のウェブサイト、他のメディアを利用して更新する。それぞれのニュースに関連する新しい語句や表現を書きとめ語彙強化を同時に図る。

レポート課題

第1分冊 常岡 亜希子

第2分冊 常岡 亜希子

第1分冊 〈略題〉Issues on Olympics 2025 Unit 14, Unit 16

横書き

Word添付

〈課題〉

テキスト 14, 16 の記事を英語で 180-200 語程度 (1 語は英単語 1 つ 例 : a word =2 語) で要約してください。また本トピックについての自身の意見や見解を 130-150 語程度で述べてください。(必須ではありませんが、直近のオリンピックについて言及するするとよいでしょう) 要約と自身の見解の合計語数を 310-350 語とする。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- * 指定された UNIT を確認すること。また提出する前にスペルチェック等し、見直すこと。
- * 要約は元の記事の要旨をまとめて丸写しするものではありません。専門用語など言い換えの出来ない語句や表現を除き自身の英語で書くこと。
- * 内容のまとまり毎に段落を分けるようすること。(段落 paragraph の分け方はテキスト内の記事を参考にするとよい)

〈評価の観点〉

- * 要約においては指定 unit すべての要点が含まれていること
- * 要約は原文そのまま書き写さず、自分の言葉で書き換えられていること
- * 英文に文法的、語法的ミスがないこと

〈その他の注意点〉

翻訳ソフトやアプリなどの使用は不可。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。
要約する際、テキスト記事の重要語句 (key words) をノートなどにメモをし、要約文を書くときには元の記事は見ないで書くようにするよい。
必要に応じてテキストの英語を引用する場合には明確に区別すること。
テキスト、他の文献や WEB 情報から引用する際、出典元を明記すること。ただし WEB 情報はものにより正確性が欠けたり、変更や削除される可能性があるため良く検証すること。WEB 情報の引用は掲載された日時だけでなく、自身がアクセス日時も明記すること。

第2分冊 〈略題〉Japan's Initiative in Climate Change today: 2025 UNIT 18-24

横書き

Word添付

〈課題〉

テキスト Unit21 のトピックの当時の情報と 13 年過ぎた現状を比較し、論述してください。比較する情報元は下記から 2 点以内を参考文献・WEB 情報として含める。記事は和訳されたものではなく英語原文を推奨。またこのトピックについて自身の意見や提案を述べなさい。全体で英語で 250-300 語とする。
【参考情報元】新聞 : 「The Japan Times ST」 「Mainich Weekly」 「Asahi Weekly」 「The Japan News (旧 The Daily Yomiuri)」 WEB 情報 : [NHK World] [The Japan Times ST online][CNN] [VOA] [BBC]

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- * 指定された UNIT を確認すること。また提出する前にスペルチェック等し、見直すこと。
- * 要約する際、テキスト記事の重要語句 (key words) をノートなどにメモをし、要約文を書くときには元の記事は見ないで書くようにするよい。テキストの英語を引用する場合には明確に区別すること。
- * 内容のまとまり毎に段落を分けるようすること。(段落 paragraph の分け方はテキスト内の記事を参考にするとよい)
- * 文中での引用の明記、レポートの最後に引用・参考文献として明記すること。

〈評価の観点〉

- * テキスト記事と最新情報が比較されている事
- * 引用もしくは参考文献が明記され、自身の知識や情報との区別されていること
- * スペル、文章構造、語法において正確な英語を用いていること

〈その他の注意点〉

翻訳ソフトやアプリなどの使用は不可。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。
参考文献やウェブサイトから引用する際、出典元を明記すること。ものにより正確性が欠けたり、変更や削除される可能性があるため良く検証すること。WEB 情報の引用は掲載された日時だけでなく、自身がアクセス日時も明記すること。
英語で疎通する表現を主旨に write in English を課題としており、研究論文などで用いる表現を求めておりません。自身の英語で意見を表現することを意識して、本課題についての見解を述べるようするとよいでしょう。

参考文献

指定参考文献はありません
ELF102 では英語で表現することの習得を目標にしています。
英文の組み立てに比するような基本文法に不安な学生は高校レベルの演習問題がある参考書を使い、復習をして臨むといいでしょう。
高校時代使っていた、もしくは現在使用している書籍を活用してください。
手元にない場合、ご自身で使いやすい参考書を選定してください。
目安は苦手の文法項目を書店などで複数の参考書の同項目を比較し、ご自身が一番理解しやすい書を選ぶことです。
トピックに沿って自分の意見や見解を英語で表現することが要求されますので英語の基本的な文章構造を見直しておくこと。
自身の見聞を英語、日本語でも広めるために日常から日本の新聞と英字新聞、NHK,CNN,BBC などニュースを意識的に触れるとよいでしょう。

科目試験等へのアドバイス

ELF102 はテキスト Unit 9-24 を扱います。但し、テキスト記事暗記のみで解答できる試験ではなく与えられた記事、関連記事の英語と日本語でサマリー (要約) をする記述問題が中心となります。記事で用いられる基本語句を英語で説明できるようにしてください (例 : I will book a table. の book を英語で説明)。(英英辞書の丸写しは不可) テキストの理解確認のみならずトピックについて自身の意見や内容の要約を英語で出来るようにしてください。テキスト学修の際、日ごろから英作文をする習慣を身に付けましょう。

教員からのメッセージ

日本と関連するニュースで用いられる日本語に該当する英語表現を会得するために普段から日本語の新聞等のニュースを意識的に読む、聞くようにしてください。
同じニュースでも報道媒体により伝え方が異なることが多々あります。英字新聞で「読む」だけではなく異なったメディアでの報道を比較するように心がけるとよいでしょう。

科目概要	学習指導の現場では、ICT を活用した新しい試みが次々と行われている。これらはすべて、目の前の児童・生徒の学びをより良いものにするためのものである。本科目では、ICT 活用の具体例も一部確認するが、それらを支える「ICT 活用の系譜」「教授メディアと授業設計」「ICT 活用による効果測定」「ICT 環境の整備」「諸外国の取り組み」などについて学修する。
主な到達目標	・ ICT 利用時の課題などについて説明できる。 ・ ICT を効果的に利用する際の環境整備について説明できる。 ・ 教員や児童・生徒が ICT を利用する際の方法について説明できる。
テキスト学修の留意点	・ テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。 ・ キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切にして学修を進めてください。 ・ レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているかを見ます。 ・ 「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしながら学修を進めてください

	学修テーマ	課 題
1	我が国における ICT 利用の系譜 (1)	1970 年代から 1990 年代までの初等中等における ICT の活用について学修する。
2	我が国における ICT 利用の系譜 (2)	2000 年代から 2010 年代までの初等中等における ICT の活用について学修する。
3	ICT 活用の分類	教育メディアの特性や分類、教育メディアを活用した授業設計などについて学修する。
4	教員による ICT 活用 (1)	教員による ICT 活用の特徴や ICT を活用する際の教授行動などについて学修する。
5	教員による ICT 活用 (2)	デジタル教科書を活用した授業について学修する。
6	児童・生徒による ICT 活用 (1)	児童・生徒による ICT の活用の特徴や効果について学修する。
7	児童・生徒による ICT 活用 (2)	児童・生徒による ICT 活用の研究の動向について学修する。
8	ICT 活用の効果	ICT 活用の効果を測定する方法について学修する。
9	ICT 活用指導力の向上	「教員の ICT 活用指導力の基準」をもとにした、教員養成や教員研修の実態などについて学修する。
10	ICT 環境整備 (1)	普通教室における ICT 環境の整備について学修する。
11	ICT 環境整備 (2)	大型提示装置の配置などの検討や今後の方向性について学修する。
12	諸外国における ICT 活用の動向	英国やシンガポールなど諸外国の ICT 活用の様子と今後の動向について学修する。
13	ICT 活用の展望 (1)	ICT 活用の現状と動向について学修する。
14	ICT 活用の展望 (2)	家庭学習との連携や学校制度のデザインなど、これからの学びについて学修する。
15	学修のまとめ	これまでの学修を振り返り、ICT 利活用について自身の考えをまとめる。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉教員と児童・生徒による ICT 活用 第1～4章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 教員による ICT 活用の背景・特徴・教授活動について、テキストの該当部分を要約しなさい。
- (2) 児童・生徒による ICT 活用の効果・活用場面と教育実践の動向についてテキストの該当部分を要約しなさい。

〈評価の観点〉

テキストの該当箇所が適切に要約されているか。

〈その他の注意点〉

最新のテンプレートを利用すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 課題(1)、課題(2)と表記してレポートを作成すること。
- ② 要約とは「文章のポイントを短くまとめて示すこと」です。テキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。
(テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるのが要約ではありません)
- ③ 要約では、自分の解釈を示すのではなく、テキストに何が記されているのかを正確に説明すること(要約すること)。

第2分冊 〈略題〉諸外国における ICT 活用 第5～9章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 諸外国における ICT 活用の動向について、テキストの該当部分を要約しなさい。
- (2) ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、ICTを効果的に活用した授業を学習指導案の形式で設計しなさい。科目名、単元名、対象学年も記述すること。

〈評価の観点〉

- ① テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ② ICTを効果的に活用した学習指導案が設計されているか。
- ③ 作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。

〈その他の注意点〉

学習指導案は、授業がイメージしやすくなるように詳しく説明すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 課題(1)、課題(2)と表記してレポートを作成すること。
- ② 要約とは「文章のポイントを短くまとめて示すこと」です。テキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。
(テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるのが要約ではありません)
- ③ 要約では、自分の解釈を示すのではなく、テキストに何が記されているのかを正確に説明すること(要約すること)。
- ④ 学習指導案は表を利用した形式で示し、「予想される児童・生徒の反応」は複数示すこと。

参考文献

.....
より深く学修するためには、テキストの巻末にある参考文献を確認してみてください。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
 - ・学修指導書の「科目試験の準備」も必ず読んでおいてください。

教員からの
メッセージ

-
- ・ただテキストを読み進めるだけでは、現場で役立つ学びにはなりません。
 - ・教師にとって必要なもののひとつに想像力があります。
 - ・テキストを読む時、レポートを作成する時、学習指導案を作成する時など、いつも子どもたちの前で授業をしている自分自身をイメージしてみてください。目の前にいる子どもたちの反応をイメージしてください。
 - ・そうする日々の取り組みが、将来、教育実践の現場に立った時には必ず役立つ筈です。

科目概要	通信教育の一年次生のための科目である。通信教育での学修は、主体的な学修が求められている。自学自習の学修方法を学び取ってほしい。具体的には、通信教育で学ぶことの意義、学び方、学ぶための情報収集とまとめ方、学びの活かし方について学修する。
主な到達目標	・通信教育で学ぶことの意義を知る。 ・学ぶための理論と技法を知る。 ・学ぶための情報収集とまとめ方を知る。 ・学びを活かす方法を知る。
テキスト学修の留意点	・レポート作成に当たっては、「レポート課題」に掲載されている留意事項や評価の観点を参考にしてほしい。 ・スクーリングの授業時間や実施形態といった制度的な部分については、テキスト刊行後に変更になっているところがある。「学生要覧」や WebTAMA 等で最新情報を確認すること。

	学修テーマ	課 題
1	大学で学ぶこと	・大学で学ぶことの意義について考える。 ・充実した生活をどう送るか考える。 ・卒業後の生活とのつながりを考える。
2	全人教育とは何か	・全人教育とは何か知る。
3	通信教育で学ぶ	・通信教育で学ぶことの目的を明確にする。 ・自立的な学修の方法を理解する。
4	考えること・わかること	・覚えることと考えることの相違について理解する。 ・論理的に思考するとはどのようなことか知る。
5	自己管理と学び	・学修のための時間管理について考える。 ・レポートやスクーリングの計画を立てる。
6	テキストで学ぶ	・テキストでの学び方を知る。 ・レポート・科目試験にどう対応するか考える。
7	スクーリングで学ぶ	・テキスト学修とスクーリング学修の違いを知る。 ・仲間との学びあいの機会としてとらえる。
8	学びのための情報収集	・情報収集の仕方を知る。 ・情報の活用を知る。
9	学修成果の整理・発信 (1) レポートの書き方	・レポートの書き方を理解する。
10	学修成果の整理・発信 (2) グループ学修・発表	・グループ学修・発表の仕方を知る。
11	人とのつながりで 学ぶ (1) 批判的思考とは何か	・批判的思考とはどのようなことかを理解する。
12	人とのつながりで 学ぶ (2) 仲間との学びあい	・仲間と学びあうことの意義を理解する。
13	学びと職業	・教師・司書・学芸員などの仕事を知る。 ・資質を磨くために心がけるべきことをおさえる。
14	生き方への学び	・人とともに生きることの意義を理解する。 ・一所懸命生きることを意味を理解する。
15	まとめ	・これまでに分かったことをまとめてみよう。 ・航海の旅に出かけよう。

レポート課題

第1分冊 魚崎 祐子

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉学びの自立 テキスト1章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの1章から7章を読み、通信教育で学んでいく際に大切なことはどのようなことか、テキストの内容を要約する形で述べなさい。その上で、自身の通信教育における課題について、具体例を挙げながら述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストを熟読し、テキストの内容にそって考えていくこと。なお、要約とはテキストの情報をつなぎ合わせることでない。
- ・自分自身の学修への取り組みなどを振り返り、課題を述べること。
- ・テキストや文献、インターネットなどからの引用は、必ず出典を明示すること。

〈評価の観点〉

- ・レポート作成の基本的なルールを守って記されているかどうか。
- ・テキストの内容が理解されているかどうか。
- ・単文を箇条書きにするような形ではなく、段落毎にまとまりのある文章の形で記しているかどうか。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

第2分冊 〈略題〉学びを深めて活かす テキスト8章～12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの8章から12章までを読み、大学での学びをまとめたり活用するために大切なことは何かについて、テキストを要約する形で述べなさい。そのうえで、自らの学びのあり方をふり返り、考えたことを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・必ずテキスト学修に基づく考察をすること。
- ・引用する場合は、引用と自分の意見を明確に分けて記入すること。引用の作法（文献表記も含む）については、本テキスト第9章を参考にすること。
- ・テキストは読んでいることから、少なくともテキストは引用文献、もしくは参考文献としてレポート最後に表記すること。その際、文献表記についてはテキスト第9章を参考にすること。
- ・導入を書き、導入から結論まで1本の筋を通して構造的に述べること。

〈評価の観点〉

- ・上記の留意事項を踏まえているか。
- ・レポートの基本的な書き方を修得しているか。
- ・論旨が明確な文章になっているか。

〈その他の注意点〉

自分の文章になるように練り上げること。「自分はテキストでこれだけのことを学んだ」という成果を担当教員に報告（report）するのがレポートであることを忘れずに。そのためには、テキストの内容をしっかりと踏まえること、必要に応じてテキストを適切に引用することが求められる。

参考文献

- ・テキストの各章末に掲載されている参考文献。
- ・レポートや論文の書き方に関する文献（どのような文献が出ているか調べ、図書館や書店などで実際に読んでみて、自分にあった本を探すこと。テキストに書かれていたように、必要な文献を探す力も大学生に求められる情報リテラシーの一つである。）。

科目試験等への
アドバイス

基本的な知識や考え方を問う問題を出題する。全範囲について学修しておく必要がある。

教員からの
メッセージ

読み手を意識して書くことが、良いレポートへの一歩である。

TT0027 異文化理解と教育

2単位

テキスト名

佐藤郡衛
『国際化と教育—
異文化間教育学の視点から—』

科目概要	本講では、国際関係のみならず、身近な異文化としての帰国児童生徒、在日外国人、国際結婚の子ども達など、多様化している日本人と日本で共生している異文化を背景に持つ子どもの教育についての理解を深め、そのような子ども達が学校で直面する問題に対して、教員として支援していく力を養っていくことを目的とする。
主な到達目標	・多文化共生や異文化理解に関わる基礎的な知識を実践に活かしていくことができる。 ・机上の学習で終わらず、自分の地域／勤務地の情報を調べ、その情報を活用したレポート作成ができる。 ・多様な児童生徒や保護者に対して、多文化共生に向けた適切な支援ができる。
テキスト学修の留意点	レポートなどには、テキストの統計データをそのまま使わず、文科省ホームページの「統計情報」などから最新のデータを使ってください。統計データを使う場合は、必ず何年度のデータなのか明記してください。また、多文化共生・異文化理解の取り組みについて書かれた新聞や雑誌を読んでも、より深い学習になります（記事をじっくり読むのは、第6回目と第11回目の学習で結構です）。*なお、テキストの第1章、第14章、第15章は研究者向けに書かれているので、軽く目を通す程度で結構です。

	学修テーマ	課 題
1	異文化理解とは何か	テキスト第2章を読み、異文化理解の教育についてのポイントをまとめなさい。
2	日本の異文化間教育とその視点	テキスト第3章を読み、ニューカマーの子どもについてポイントをまとめなさい。
3	異文化背景を持つ子ども達	文科省の統計情報を活用し、「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」を読み、そのデータからどんなことがわかるか簡単に整理しまとめなさい。
4	異文化体験と教育	テキスト第4章を読み、文化体験と適応などに関するポイントをまとめなさい。
5	学校における多文化共生	テキスト第5章を読み、異文化背景を持つ子ども達が直面している学校のハードルや外国人学校などの処遇についてポイントをまとめなさい。テキストの統計データは古いので、文科省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」の結果などで新しいデータを確認してください。
6	中間のまとめ	ここまででまとめてきたポイントを整理しなさい。また、異文化理解の事例について書かれている新聞記事などを使って、現状を読み取り、まとめておくこと。
7	具体的な実践	あなたの地域の学校／あるいは勤務されている学校での多文化共生を目指した取り組みについて調べなさい（教育委員会などのホームページなどに、統計データを含め、全体像が見える情報があれば参考にしてください）。
8	教育における国際交流	テキスト第6章を読み、国際交流にどのようなものがあるかポイントをまとめなさい。
9	地域における国際化	テキスト第7章を読み、地域が異文化背景を持った人々をどのように支援できるのかポイントをまとめなさい。
10	地域のデータ	皆さんの地域／勤務先の課題を見つける。地域に異文化背景を持った人はどのくらいの割合でいるのか、そのような人々への支援はどのようにになっているのか調べなさい。
11	中間のまとめ	ここまででまとめてきたポイントを整理しなさい。また、異文化理解の事例について書かれている新聞記事などを使って、根拠をしめしながら、課題をまとめておくこと。
12	多文化共生の教育	テキスト第8章を読み、国際理解教育と多文化共生の教育の違いについてまとめなさい。
13	異文化間教育とアイデンティティ	テキスト第10章を読み、どのようなアイデンティティがあるか分類しなさい。
14	異文化間教育と第二言語	テキスト第12章を読み、第二言語としての日本語と母語教育の課題についてまとめなさい。
15	実践に向けて	ここまでの学習を総合し、勤務校（勤務されていない人は想定可）で担当する児童生徒向けの授業計画を立てなさい。地域や児童生徒の特徴をよく分析した上で、授業目的、到達目標、具体的な授業計画を作成しなさい。

シラバス執筆：星野 あゆみ

レポート課題

第1分冊 星野 あゆみ

第2分冊 星野 あゆみ

第1分冊 〈略題〉多様な子ども達を教育する学校の現状と今後の課題
第2章、第3章、第4章、第5章、第7章、第8章、第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の言葉を使って、多様な子ども達を教育する学校の現状と今後の課題について論じなさい。学校の制度上の問題などにも必ず触れること。なお、レポートでは、下記の言葉には下線を引いてください。

(在日外国人の子ども、帰国児童生徒、外国人学校の処遇の問題、総合的な学習の時間／総合的な探究の時間における国際理解教育、多文化共生)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・抽象的な説明で終らず、具体的な例や自分の経験などを盛り込み、説得力のある論述を期待します。
- ・データを用いる際は、文部科学省や統計局などの最新のデータに更新してください。(テキストのデータをそのまま使わずに更新することです)
- ・統計データには、必ず、何年のデータかわかるように()内に年を入れてください。
- ・参考文献の書き方は、以下のような一般的な参考文献の書き方ルールに従って書いてください。
新聞記事やインターネット上の資料なども、一般的な書き方ルールに従ってください。
よくわからない方は、ネットなどにも情報があります(ただし、信頼できるサイトを参考にしてください)。
例：著者名(出版年)『本のタイトル』出版社名 所在ページ

〈評価の観点〉

- ・テキストの要約だけに終わらずに、自分の言葉で具体的に書けているか。
- ・データなどは、新しいものを使っているか。
- ・キーワードと自分との関わりについて触れられ、自分自身の問題として書かれているか。
- ・自分の住む地域、あるいは勤務校や先進校などの取り組みなどを具体的な例としてあげてあるか。
- ・参考文献の書き方など体裁が整っているか。

〈その他の注意点〉

テキスト「国際化と教育」は、改訂新版のものをお使いください。少し古い文献になりますが、多文化共生や異文化理解についてバランス良くまとめられたテキストです。ただし、統計データなどは自分で文科省の統計データで新しいものを確認していくことが、現在の状況を読み取っていく上で必要です。

〈課題〉

自分の教えている子ども達を対象（教えていない場合は想定可）に異文化理解や多文化共生を目的とした単元計画を作成しなさい。せっかく作るのだから、ぜひ自分の授業／保育で使えるもの（将来使いたいもの）を作ってください。なお、幼稚園児などを対象にする場合は、「授業案」ではなく、「活動案」で構いません。幼稚園児の成長や発達段階に合わせ、無理のない活動を計画してください。（大人の自己満足に終わらない内容）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

書き方は、以下の項目ごとに小見出しを付け、わかりやすく書いてください。レポートでも、各項目の小見出しをつけて、書いてください。なお、「その他の注意点」もしっかり読んで上で作成してください。

1. この単元の対象となる子ども達の背景：想定する場合でも、教えるつもり児童生徒の背景を書く（地域の特徴なども入れ、どのような子ども達なのかイメージできるように書いてください）。どれだけ自分の児童生徒を理解しているのか、見ているのか、ここの記述で見えてきます。
2. この単元を設定する問題意識：あなたが、実際に直面している問題／課題、または一般的な問題／課題で授業やホームルームなどを通して取り組んでいくべきと思われるもの。第一分冊のテキストを参考に、対象となる子ども達の実態などを分析しながら、問題／課題を具体的に書いてください。
3. 単元を設定する・授業をする目的：教師の問題意識を反映させ、何のために授業をするのかかわかるように書いてください。目的は、その授業の方向性を示すものなので、シンプルに2行くらいで書いてください。
4. この単元の学習者の到達目標（達成目標）：その単元の授業が終わった時に、子どもは何を達成しますか？「知る」「学ぶ」「気づく」「理解する」といった抽象的な言葉がよく書かれますが、これらは子どもの内面で起こる変化で、他者が外から確認する事はできません。しかし、そのような内面的変化が起きた子どもはそれまでとは違う言動を取るはずで、内面的変化が起こったことを、どのような言動で（この授業後に）確認できるのか？と考えて、具体的な「目に見える」到達目標を書きます。人によって、判断が変わってしまう主観的な到達目標でなく、客観的に確認できるものを書きます。授業後の子どもに対する評価の目安になりますので、「子ども達は、～ができるようになる。」といったような、具体的な書き方をしてください。1つ1つの達成目標が、評価ポイントとなるので、わかりやすい箇条書きにします。
5. 単元計画：どの学校種の、どの学年の、どの教科の科目（時間）が明記してください。1コマ何分（時間）を何回で1つのセット、つまり単元になるか、授業回数と各授業の目的、簡単に授業概要がわかるように、表にしてください。年間計画ではありませんので、授業目的を達成するのに必要な回数（1つの単元）でいいです。

6. 単元の中での教師の役割：教師は、その授業の中で、どのような役割をしますか？どのようなことに配慮や工夫をしますか？授業目的にあった役割を果たしていることがわかるように書いてください。

7. 授業案：単元計画の中から1回の授業を選んで授業案を作成します。全体の中の何回目の授業かわかるようにしてください。見やすいように、表にし、「導入→展開→まとめ」の流れに分けて、時間配分も入れてください。教師の指示や支援などがイメージできるように、具体的な指示の内容を書いてください。また、授業でワークシートなどを使用する場合は、ワークシートの見本を添付してください。

授業案の表の見本

<http://www.tamagawa.ac.jp/teachers/edu/ohtani/lessonplan.pdf>

8. 評価：単元および授業をどのように評価するか、何をもって、子ども達が目標を達成したと判断できるのか書きます。「知る」「理解する」「興味・関心を持つ」などの抽象的な言葉で終わらせないでください。何をもって「知った」「理解した」「興味・関心を持った」と判断できるか、具体的に評価の観点を書いてください。

〈評価の観点〉

- ・課題の通りに授業計画（上述したポイントを全て押さえている）が作成されているか。
- ・対象となる学習者の実態と教師の問題意識が交差する接点に、授業目的が立っているか。
- ・学習者の到達目標が、抽象的な目標で終わっていないか。授業後／活動後に、評価できるものになっているか（他者が確認できる）。
- ・学習者の到達目標にあった授業計画になっているか。
- ・授業目的や学習者の到達目標にあった授業方法や授業内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ・共通書式でタイプすると、授業案の表などが見にくくなる場合は、表の部分だけ、通大の書式形式外になっても構いません。
- ・この授業案は、略案ではありません。他の先生が、この授業案で皆さんが意図した通り、授業を再現できるように書いてください。（どのように子ども達に呼びかけるのか、どのような資料をいつ提示するのか、どのように説明するのか）
- ・児童／生徒による発表の回を選ばれる方がいますが、発表会は避けてください。
- ・ゲストスピーカーをお招きする場合は、その話の内容もわかるように書いてください。
- ・提示する写真やビデオがある場合は、どんなものか、添付資料に見本をつけるか、具体的に説明してください

参考文献

.....
 レポート課題2では、具体的な授業計画を作成していただきます。その際に、以下の文献はアクティビティのアイディアに役立つかもしれません。

デイビット・セルビー&グラハム・パイク（2007）『グローバル・クラスルーム』明石書店

また、本学大谷先生の授業ページの“Guest Speakers”のメニューを選ぶと、授業「異文化理解と教育」などでお迎えしたゲストの講話の内容を閲覧できます。ご興味あれば見てください。

大谷先生の授業ページ <http://www.tamagawa.ac.jp/teachers/edu/ohtani/>

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験では、テキストなどで学ばれたことを踏まえて具体的に論述してください。したがって、テキストだけの学習だけでなく、皆さんの地域や勤務先などの異文化背景を持つ子ども達についてのデータや具体的な取り組みなどについても情報収集しておかれると説得力のある論述ができると思います。

教員からの
メッセージ

.....
 国内・国外の多様化は進み、もはや「国際理解」という言葉では表現しきれなくなっています。日本国内の多言語・多文化化によっていろいろな問題が顕在化し、「異文化理解」の必要性がますます高まっていると言えます。したがって、「国際理解」というよりも、今は「異文化理解」「多文化共生」と考えていくことが大切です。どうぞ、机上の学習で終わらせず、皆さんの身近なところで1つ1つの小さな行動（アクション）を起こしていただきたいと思います。

科目概要	我々に最も身近な宇宙と言ってもよい太陽系は、太陽と惑星、衛星、準惑星、小惑星、彗星、ダスト（塵）などの天体の集合体であるが、これらの天体についてこれまでの観測や探査などによって解明されてきたことを学ぶ。また、現在の太陽系が、138億年という時間を経て進化してきた宇宙という大きな空間の一部であることや、その太陽系にある我々の地球という天体が生命にとっていかに特別で掛け替えのない天体であるかについて学ぶ。
主な到達目標	太陽系天体である太陽、惑星、衛星、準惑星、小惑星、彗星、ダスト（塵）がどのような特徴を持つ天体であるのか、そして、その形成・進化の過程について理解する。また、このような知識がどのようにして得られてきたのかについても理解する。このことで、地球という天体がいかに掛け替えのない天体であるか、そして、宇宙を学ぶことが実は地球を学ぶことであり、さらには人類の存在にとっても重要であることを理解する。
テキスト学修の留意点	テキストは太陽系天体について基本的な事項が分かりやすく解説されているので、学習としてはテキストをきちんと理解すればよい。ただし、太陽系天体については探査や研究がどんどん進んでいるので、ニュースなどで関連事項が報道されたときには、最新情報として把握しておくのがよい。また、インターネット上の情報も参考にして欲しい。下の「参考文献」も参照のこと。

	学修テーマ	課 題
1	太陽系の概観（第1章）	太陽系にはどのような天体が存在するのか、その名称と特徴についてまとめる。また、太陽系の広がりについて、最近の観測によってどこまで分かってきたのかについて整理する。広大な宇宙の中の太陽系の位置づけを理解する。
2	恒星としての太陽（第2章）	太陽系の中心にある太陽について、他の太陽系天体とは異なる「恒星」であることに着目して理解する。特に、太陽がどうして莫大なエネルギーを生み出すことができるのか、恒星としての太陽はどのように進化していくのかについて、他の恒星と比較しながら理解する。
3	太陽と地球（第3章）	我々の生命活動も含めて、地球上の現象の多くは、そのエネルギーの源は太陽である。その太陽が地球に与える恵みや影響について理解する。また、太陽が地球に与える影響が太陽のどのような性質（構造、現象）に起因しているのかを理解する。
4	太陽系の誕生（第4章）	太陽系は、今から約46億年前に誕生したと言われているが、現在考えられている太陽系形成論について理解する。また、太陽系が誕生したばかりの頃には惑星の軌道が変化した可能性があることについて理解する。さらに、惑星の軌道を調べることによって生まれた天体力学について理解する。
5	地球と月（第5章）	人類の故郷である地球について、形成、内部構造、プレートテクトニクス、海洋、大気について理解する。また、地球の衛星である月について、その形成や表面の特徴を把握し、地球との相互作用について理解する。人類にとって身近な月と文化との関係も理解する。
6	地球型惑星の世界（第6章）	水星、金星、地球、火星が地球型惑星と呼ばれているが、これらの天体および月について、相違点および類似点についてまとめる。そのことで、地球型惑星とひとまとめに言っても実際にはかなり異なっていること、また、いかに地球が特別な天体であるかを理解する。
7	火星探査（第7章）	火星は、現在、最も注目されて多くの探査機が送られている惑星であるが、その理由について、これまでの探査結果などを参照しながら考察する。また、火星と生命の関係や、将来の火星への有人探査の可能性について考えてみる。
8	巨大ガス惑星の世界（第8章）	木星と土星は巨大ガス惑星と呼ばれているが、これらの惑星について、最新の探査による情報も含めてそれらの特徴をまとめる。また、これらの巨大ガス惑星が太陽系初期に果たした役割について理解する。
9	氷惑星の世界（第9章）	天王星と海王星は氷惑星と呼ばれているが、これらの惑星について特徴をまとめる。これらの天体は、惑星として人類が望遠鏡で発見した天体という歴史的な背景もあることを理解し、天文学の発展との関係を考察する。
10	惑星の衛星と環（第10章）	惑星ごとに衛星や環の特徴を整理し、衛星や環についても多様な世界が広がっていることを理解する。また、衛星や環を調べることでどのような事実が解明されてきたのかについてまとめる。
11	太陽系の小天体（第11章）	小惑星、彗星、隕石、流星という太陽系小天体の特徴についてまとめる。また、これらの天体が太陽系の起源を理解する鍵になっていることや、宇宙資源あるいは地球衝突問題など今後の人類にとって重要な天体であることを理解する。
12	太陽系の果て（第12章）	海王星の軌道付近やその外側に、多数の小天体が発見されているが、冥王星も含めてこれら太陽系外縁天体の特徴をまとめる。また、より遠方にあると考えられているオールトの雲など太陽系の最遠部について理解する。
13	太陽系探査技術と今後の展開（第13章）	太陽系天体探査としてどのような試みがなされてきたのかをまとめる。また、ロケットや探査機など探査のためにどのような技術が開発されてきたかを理解する。さらに今後の太陽系天体探査について考察する。
14	地球外生命（第14章）	まだ地球外生命は発見されていないが、地球外生命についてどのような研究が行われてきているのかを理解する。また、地球外生命について、太陽系内・太陽系外存在の可能性について考察する。
15	銀河系の中の太陽系（第15章）	我々の銀河系（天の川銀河）や、銀河の世界についてより広い視点で宇宙を眺めて、その中における太陽系の位置づけを把握する。また、太陽系が、銀河系の誕生と進化とどのような関係をもって誕生し進化してきたかを理解する。

レポート課題

第1分冊 吉川 真

第2分冊 吉川 真

第1分冊 〈略題〉太陽系における地球という存在について テキスト3、5～13章

横書き

Word添付

〈課題〉

太陽系天体について、さまざまな観点から比較を行い、類似点や相違点を分かりやすく説明せよ。この比較の結果を使って、地球生命にとって地球がいかに掛け替えのないものであるのかを考察せよ。太陽系天体の比較については、物理的性質、軌道（分布）、観測・研究の経緯などいろいろな観点から比較をする。どのような比較を行うかを考えることも自体も課題の一部である。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートは自由に書いてよいが、最初に簡潔に全体のまとめ（論文では、アブストラクトと呼ぶ）を記載すること。起承転結を意識した書き方がよいが、説明の分かりやすさを優先してよい。また、多くの情報を分かりやすく整理することも重要なポイントとなる。なお、自分の考え（考察）を必ず書くこと。

〈評価の観点〉

レポートは、正しい理解がなされているか、説明の仕方が分かりやすいか、自分の考えが整理されて述べられているか、で評価する。テキストや参考文献に書かれていることをそのまま写すのではなく、独自の説明の仕方を工夫しているか、文章だけでなく図や表などを効果的に利用しているかを評価の重要な観点とする。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉宇宙における太陽系という存在について テキスト1、2、4、14、15章

横書き

Word添付

〈課題〉

宇宙全体から見た場合、太陽系がどのような位置づけになるのかを説明せよ。また、138億年という宇宙の歴史の中で、太陽系がどのように誕生し進化してきたかを説明せよ。この課題は、宇宙という非常に大きな空間と非常に長い時間の中で、太陽系というものを正しく認識することを目指したものである。上記の説明を行った後で、地球という存在について感じたことを記載せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートは自由に書いてよいが、最初に簡潔に全体のまとめ（論文では、アブストラクトと呼ぶ）を記載すること。起承転結を意識した書き方がよいが、説明の分かりやすさを優先してよい。また、多くの情報を分かりやすく整理することも重要なポイントとなる。なお、自分の考え（考察）を必ず書くこと。

〈評価の観点〉

レポートは、正しい理解がなされているか、説明の仕方が分かりやすいか、自分の考えが整理されて述べられているか、で評価する。テキストや参考文献に書かれていることをそのまま写すのではなく、独自の説明の仕方を工夫しているか、文章だけでなく図や表などを効果的に利用しているかを評価の重要な観点とする。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

参考文献としては、「渡部潤一・井田茂・佐々木晶編、太陽系と惑星、2008年、978-4-535-60729-3」を挙げる。ただし、「太陽と太陽系の科学」よりも少しレベルが高いので、より平易な文献の方がよい場合には図書館や書店などで太陽系に関連しそうな本を手にとってみて、分かりやすそうなものを選ぶのがよい。なお、太陽系については情報更新の頻度が高いため、印刷された内容がすぐに古くなってしまう場合が多い。最新の情報に触れるためには、天文や科学の雑誌（ニュートン、天文ガイド、星ナビなど）やネット上の情報を活用するのがよい。

科目試験等への
アドバイス

テキストは、極端に専門的なことは書かれておらず、基本的なことが分かりやすく解説されている。また、理解を助けるための図・写真なども多く掲載されている。まずは、章ごとに全体を通読し、どのような話題が書かれているのかを把握する。次に、図表や写真などを丁寧に理解しながら学習を進めるのがよい。基本的には最初から順番に読むのがよいが、1章と15章以外は、読む順番は変更しても構わない。1章と15章は、それぞれ最初と最後に読むのがよい。特に太字になっている専門用語はきちんと理解しておく。用語など理解できないことがあれば、ネット上の情報（たとえば、日本天文学会の天文学辞典 {<https://astro-dic.jp>}）を利用するのが便利である。

教員からの
メッセージ

太陽系は、最も身近な宇宙であり、望遠鏡で観測するだけでなく探査機や場合によっては人類が到達できる領域である。宇宙全体から見れば非常にちっぽけな存在であるが、その中の天体は、多種多様である。しかし、生命が広く存在できる環境をもつ天体は地球のみなのである。太陽系の学習を通して、地球がいかに奇跡的な存在であるのか、また生命存在のためにいかに貴重であるのかを感じて欲しい。

科目概要	小学校教科「音楽」、及び幼稚園において「音楽」を実践するにあたり必要な音楽の基礎知識と基礎技能を修得する。
主な到達目標	実践を踏まえ知識として知っておくべき事柄を認識し、且つどのように運用されるかを見極める。そういった目標を理解、習得しさらに応用力をつける。教材を実践する。
テキスト学修の留意点	常に実践にどのように生かされるべきかを考えたい。机上での学習のほか、ピアノ伴奏の学習の仕方、子どもの歌唱に適した伴奏については通信の特色上自学が求められる。

	学修テーマ	課 題
1	授業内容の確認	自身に不足している知識、技能についてテキスト全体を読み確認する。
2	音楽とは	基礎的事項Ⅰ・Ⅱを学修し、基礎的事項を理解する。第1・2章の確認問題に取り組む
3	歌唱	共通教材を知る。学修指導書を参考に24曲すべてを歌唱出来るようにする。第3・4章の確認問題に取り組む。
4	歌唱	就学前～小学校低学年の歌唱指導について学修する。第5章確認問題に取り組む。
5	歌唱	中学年～高学年の歌唱指導について学修する。第6・7章の確認問題に取り組む。
6	器楽	器楽を伴う歌唱を学修する。第8章確認問題に取り組む。
7	器楽	リコーダー・鍵盤ハーモニカの指導を学修する。リコーダー・鍵盤ハーモニカを演奏できるようにする。第9章確認問題に取り組む。
8	器楽	リコーダー・鍵盤ハーモニカ以外の楽器を用いた器楽曲の指導を学修する。第10章確認問題に取り組む。
9	音楽づくり	低学年の音楽づくりの指導を学修する。第11章確認問題に取り組む。
10	音楽づくり	中学年～高学年の音楽づくりの指導を学修する。第12・13章の確認問題に取り組む。
11	鑑賞	鑑賞の指導法の概要を知る。第14章確認問題に取り組む。
12	鑑賞	具体的な楽曲の鑑賞指導方法を学修する。第15章確認問題に取り組む。
13	リトミック	リトミックの実践例を知り、小学校音楽の活動について考える。第16章確認問題に取り組む。
14	伴奏	学修指導書を使用して共通教材をピアノで演奏出来るようにする。またピアノでの弾き歌い、ギターでの弾き歌いのいずれかを出来るようにする。
15	まとめ	総復習

シラバス執筆：

レポート課題

第1分冊 久保 絃子・小口 浩司

第2分冊 久保 絃子・小口 浩司

第1分冊 〈略題〉表現の方法 第1章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

表現「歌唱」「器楽」の二つについて、それぞれ①適切な学年と②曲目を具体的に示し、音楽的根拠を示しながら適切な理由を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

具体的に示された曲目が適切といえるか？選曲の根拠は何か？自身の考えがまとまっているか？必ず本文の内容を2,000～2,400字にすること。内容は最低でも2,000字以上として、参考文献を含まないように作成すること。

〈評価の観点〉

- 1) 選択された楽曲が相当学年に適切か。
- 2) 具体的な根拠が示されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

自身の考えを具体的な音楽的な根拠をあげ述べること。
引用が多すぎるものは認められない。
参考文献、参照楽譜を明記すること。

第2分冊 〈略題〉鑑賞教材 第11章～第16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

鑑賞教材を選ぶのにあたりどんな配慮が必要か。具体的な曲名を示し、学年・時間・音楽の構成要素など考慮して述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

リズム・メロディー・ハーモニーなどの音楽構成要素や、曲想また、曲の長さなど考慮する。必ず本文の内容を2,000～2,400字にすること。内容は最低でも2,000字以上として、参考文献を含まないように作成すること。

〈評価の観点〉

- 1) 選択された楽曲が相当学年に適切か。
- 2) 具体的な留意点が示されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

自身の考えを述べること。
引用が多すぎるものは認められない。
参考文献、視聴音源を明記すること。

参考文献

音楽書全般
「ニューグローブ音楽辞典」 講談社 柴田南雄、遠山一行編
「音楽大事典」 平凡社 下中邦彦編
改訂「音楽通論」 教育芸術社
教科指導法シリーズ「音楽」 玉川大学出版部 梅沢一彦編
学習指導要領 小学校音楽科
※必ず参考文献明示すること。

科目試験等への
アドバイス

各章の確認問題に取り組み、学修を深めておきましょう。テキストを読むだけでなく、学修指導書や音源資料を使用して実際に音を出して音楽を実践しましょう。

教員からの
メッセージ

児童に指導する以上、理論の理解は必須です。まずは音楽の基礎知識をしっかりと学修してください。そのうえで「音楽を楽しむ心」を大切に実際にたくさんの音楽に触れてください。音楽科の目標は「豊かな情操を培う」ことです。まずは自身が音楽のある豊かな生活を送ってください。

科目概要	小学校教育における音楽の役割を理解し、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」及び共通事項の実践的指導法を学ぶ。指導上必要である知識や考え方を身につけ、指導力を養う。
主な到達目標	学習指導要領の各学年の目標を理解し子どもの発達に即した指導ができる。 教材研究を深めることによって指導の実践に活かせる知識を身につける。 また、題材を用いた学習指導案の作成方法を理解する。
テキスト学修の留意点	音楽科の目標を知り、各学年で扱う題材と指導法について確認する。レポートはそれらを踏まえて、自身の指導理念を追求してほしい。また、文部科学省のホームページなどから【小学校学習指導要領】を参照しテキストの内容と統合させながら学修すること。

	学修テーマ	課 題
1	音楽と指導	小学校教育における、音楽科の意義について研究する。 特に教材研究に必要な以下の基礎的知識を理解する。 ①音楽の三要素 ②音楽の諸要素
2	音楽科の目標	小学校学習指導要領音楽を読みテキスト1章と関連づけながら統合的に理解する。 また、わからない語彙などを調べ理解する。
3	音楽科の内容1	音楽科で児童に何を身につけさせれば良いのか、指導法の研究に関係する（共通事項）について、『学習指導要領』を用いて整理する。
4	音楽科の内容2	『学習指導要領』を用いて、音楽科の領域を理解する。 A 表現（歌唱／器楽／音楽づくり）・B 鑑賞・共通事項のそれぞれについて具体的にどのような取り組みであるか理解する。
5	第1学年・第2学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領低学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
6	第3学年・第4学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領中学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
7	第5学年・第6学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領高学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
8	「表現」分野の題材研究1	低学年向き題材 小学校第1学年・第2学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
9	「表現」分野の題材研究2	中学年向き題材 小学校第3学年・第4学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
10	「表現」分野の題材研究3	高学年向き題材 小学校第5学年・第6学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
11	「鑑賞」分野の題材研究	鑑賞題材の選択方法について確認する。各学年の目標に照らし合わせながらそれに相応しい題材について研究する。
12	特別活動における音楽	特別活動における音楽の取り組みについて考察する。
13	指揮法	2、3、4拍子の指揮の図形を確認する。様々な題材を歌いながら指揮の練習をする。
14	まとめ1	自身の音楽科の指導理念・指導方法論についてまとめる。 特に10章を熟読し、児童の主体的な学びが実現できる音楽教育の理想像を考察する。
15	まとめ2	自身で選択した題材を用いて、学習指導案を完成させる。

シラバス執筆：朝日 公哉

レポート課題

第1分冊 小口 浩司

第2分冊 朝日 公哉

第1分冊 〈略題〉表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、鑑賞 第1章から第6章まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1学年に相応しい歌唱題材について、「音楽を形づくっている要素」や「歌詞」の面から分析して述べなさい。
共通教材は除く。2000字程度。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「音楽を特徴付けている要素」「音楽の仕組み」について確認する。
指導方法の考察ではなく、楽曲そのものを分析すること。楽曲を分析したうえでの指導方法の考察は認める。

〈評価の観点〉

- 1) 適切な題材が選ばれているか。
- 2) 題材選択の理由が、客観的かつ具体的に述べられているか。
楽曲そのものが分析されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

教科書の要約、引用が多すぎるものは認められない。
必要に応じて、文部科学省の『小学校学習指導要領解説(平成29告示)音楽編』も参照のこと。

第2分冊 〈略題〉特別活動における音楽 第7章から第11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

特別活動における音楽の取り組みについて、あなたならどのような取り組みをするか、具体的に特別活動の場面を想定しその目的意義を述べなさい。また、その上でテキストに示された曲以外を選曲し、以下の項目について説明しなさい。

- ① その曲を選んだ理由(教材の歌詞や音楽的側面から分析を行い、その教材の特質がどのように目標の達成に寄与するか)
- ② 指導上の留意点(教育目標を達成するために必要な留意点)
2000字以上(必ず文末に文字数を入れること)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第8章を中心に読んで上で考察し、特別活動のどのような場面で扱い、どのような教育目標を達成させたいのか、扱う学年なども具体的に示すこと。

〈評価の観点〉

特別活動における音楽の関わりについてその目的意義を十分理解しているか。音楽の持つ特質を考慮し、より教育的効果を望める取り組みが考えられているか。テキストの要約に留まらず、特別活動の目標とも関連付けながら考察すること。

〈その他の注意点〉

音楽教育全体から考察し他章の内容とも統合的に捉えてほしい。

参考文献

文部科学省ホームページより小学校学習指導要領第2章6節音楽及び第6章特別活動
教科音楽シリーズ 玉川大学出版部、梅沢一彦編
教科指導法シリーズ 特別活動、玉川大学出版部、北村文夫編著
※必ず参考文献明示すること。

科目試験等への
アドバイス

実践で使えることを目的として書かれているテキストを、臨場感を持って読み取ってほしい。机上のことだけで音楽の授業は進まない。どんな場合も実践で活かせることを念頭に置いて解答してほしい。

教員からの
メッセージ

- ・ レポートの提出方法を最初に必ず確認すること。
- ・ レポートのテーマをよく読み、内容がテーマに即しているかよく見直すこと。
- ・ できるだけ実際の指導をイメージし、指導への想い、具体的な指導法について言及すること。

TT0033 外国語（英語）

2単位

テキスト名

村野井仁編著
『小学校英語教育の基礎知識』
大修館書店

科目概要	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力と、英語に関する背景的な知識を身に付ける。
主な到達目標	・小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。 ・小、中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付ける。
テキスト学修の留意点	小学校において外国語活動・外国語を指導するためには、教師自身の授業実践に必要な英語運用力と知識、英語に関する背景的な知識は必要不可欠である。テキスト内容の知識習得のみならず、技能も当然必要である。通信の特質上、理論と実践を融合できるよう、日々の生活の中で英語に触れる時間が持てるように努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	英語授業実践に必要な知識・理解	学習指導要領や海外の外国語教育の指針を参考にしながら、日本の英語教育の目標と目的について理解を深める。
2	第二言語習得に関する知識と外国語教育実践への応用	人類共生のために重要な意味を持つ第二言語習得という現象がどのように研究されているのか、第二言語習得研究が外国語の指導者にどのような指針を示すのかを考える。
3	小学校の外国語授業実践と授業づくり	小学校教育の一環として行われる外国語活動・外国語において大切にすべきこと、目指すべき児童像、ことばを学ぶこと・コミュニケーションすることの意義などを考えつつ、シラバス作成や指導上の留意点について学ぶ。
4	小学校の学習指導案と単元指導計画	テキストに掲載されている学習指導案と単元指導計画をもとに、どのように指導計画をたてるのが効果的か考える。
5	小学校外国語教育の評価	言語評価の基本的な考え方を学び、学習目標に応じた適切な評価方法の選択について検討する。
6	クラスルーム・イングリッシュ／授業に必要なスピーキング力	クラスルーム・イングリッシュを用いる利点と注意点について学びながら、授業を運営する際に必要な基本表現やインタラクションについての理解を深める。
7	英語コミュニケーション能力の高め方ー多読・多聴	精読・精聴の学習法と同様に、大量の英語に触れ大まかな内容をとらえる多読・多聴もコミュニケーション能力の向上には不可欠な学習法であるため、読む力と聞く力を効果的に伸ばすと言われるその方法について考える。
8	英語コミュニケーション能力の高め方ー表現力の向上	英文を読む力を話す力につなげる英語学習法と、英文ライティングの基礎知識について学ぶ。
9	英語コミュニケーション能力の高め方ーシャドウイング	筆者の勧めるシャドウイングの方法について学ぶ。その上で、リスニング力とスピーキング力の向上に役立つ理由について、言語処理の認知メカニズムをもとに考える。
10	英語音声のしくみ	音声の産出課程、英語音声の特徴、強勢とイントネーション、日本語母語話者にとって難しい音について学ぶ。
11	英文法	品詞、文構造、時制等に焦点を当て、文の形式と意味との関係について学ぶ。
12	英語の歴史	最低限必要と考えられる発音の変化、文法の変化、語彙の変化の3つの項目について学ぶ。
13	英語文学と児童文学	多くの読者の支持を得ている代表的な英語文学作品の中で使われている英語表現を通して英語の読解力や表現力の向上を目指す。また、教室で実際に使える英語で書かれた児童文学、子ども向けの歌などについても学ぶ。
14	異文化間コミュニケーション	グローバル化に対応できる子どもを育成するために、英語の指導者として知っておくべき異文化間コミュニケーションに関する基本的な事柄についての知識を深める。
15	小学校における異文化間交流	異文化間交流は非日常ではなく日常であることを再認識し、異文化リテラシーを育む異文化間交流・異文化理解の必要性について理解する。

シラバス執筆：高野 のぞみ

レポート課題

第1分冊 高野 のぞみ

第2分冊 高野 のぞみ

第1分冊 〈略題〉なぜ外国語を学ぶのか 学修テーマ 3-4 中心

横書き指定

直接入力

〈課題〉

3年生児童Aさんから「なんで英語を勉強しないといけないの？」と質問されました。

1. あなたが外国語教育を通じて大切にしたいことや目指したいことを考えた上で、Aさんに英語を学ぶ理由を具体例を盛り込みながら説明してください。実際にAさんに答える口調で書いてください。
2. “Let's Try! 1” Unit3を進める際に、Aさんのような児童を動機づけるためにあなたが授業で工夫すること・注意することの具体例をまとめてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1では、まず教師としてのあなたが児童に何を教えたいのかを熟考しましょう。あなたの「めざす子ども像」(テキストP47)を考えてください。次に、それを3年生児童が納得するように説明する方法を考えてください。

2では、テキストP69-74にある「数」を指導する際に、あなたが工夫・注意する点(教材、活動、進め方、指導法、声掛け、フィードバック、授業運営、評価、など)を挙げ、何のためにどのような工夫・注意をするのか具体的に説明してください。

〈評価の観点〉

1. あなたなりの「めざす子ども像」が考えられているか、3年生児童が納得する説明になっているか、具体例を挙げながら説明できているか
2. 中学年に外国語を指導する際の注意点を理解しているか、児童の動機づけに繋がるような工夫ができているか、具体的に授業をイメージできているか

〈その他の注意点〉

- ・参考文献、教科書(指導書も含む)および補助教材、インターネット等から入手した例をそのまま引用したり、加筆・修正したりすることは認めない。必ず独自の言葉で書くこと。
- ・参考文献、教科書、インターネット上で検索したもの等がある場合は、必ず文末に明記すること。

第2分冊 〈略題〉「異文化理解」授業の学習指導案の作成 学修テーマ 14,15 中心

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ・あなたが扱いたい異文化のテーマを考え、高学年向けの「異文化理解」の学習指導案を作成して下さい。ALTとTTすることを前提にして、ALTの国(想定する)の文化紹介も含んでください。
- ・学習指導案(本時1時間分のみ)には、以下の項目を記述すること。
 1. タイトル・テーマ
 2. 本時の目標(主な評価の観点を1つ)
 3. 該当する学習指導要領における領域別目標(1つ)
 4. 言語材料(本時で教える英語の語彙や表現)
 5. 本時の指導課程(テキストp73参照。ただし、スペースの関係で、準備物の欄は削除してもよい)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・形式は大学指定のテンプレートを使用するが行番号および右余白は不要。
- ・活動内容は略さず具体的に説明する。
- ・児童の調べもの学習による異文化理解ではなく、教師らがリードする異文化理解授業を展開する。
- ・日本語で異文化について理解する授業ではなく、英語を使い英語の練習に結び付く活動を工夫する。

〈評価の観点〉

- ・小学生が興味を示す異文化を扱っているか
- ・異文化理解を目標にしつつ、英語の学修にもつながっているか
- ・教師の発話、想定するALTの発話、想定する児童の発話例が具体的に書かれているか
- ・英語・英文に間違いはないか(機械翻訳を使用して正しい英文を確認すること)
- ・指導と評価の一体化を意識して書かれているか
- ・ALTを活かし、協働できているか

〈その他の注意点〉

- ・教師らの発話、児童に期待する発話は、英語で書き記すこと(T1: ALT: S1: S2: などの記号を用いる)。
- ・参考文献、教科書(指導書も含む)および補助教材、インターネット等から入手した学習指導案や活動例をそのまま引用したり、加筆・修正したりすることは認めない。独自の学習指導案を考察すること。
- ・参考文献、教科書、インターネット上で検索したもの等がある場合は、必ず文末に明記すること。

参考文献

- ・文部科学省 Youtubeチャンネル mextchannel 「外国語教育はこう変わる！」動画
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/index_00004.htm
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf
- ・文部科学省 小学校外国語教育教材、指導案例
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

科目試験等へのアドバイス

- ・出題範囲はテキスト全体からとする。
- ・具体的・実践的に答えられているか、実際の授業がイメージできているかどうかを評価する。抽象的・理論的な説明だけでは不十分。
- ・指導する言語材料(英単語や英文など)を挙げながら説明し、英語には間違いがないように注意する。スペルチェックや機械翻訳の機能なども活用し正確な英文を確認すること。

教員からのメッセージ

外国語活動・外国語科の授業を担当するために指導法を学ぶことと同様、十分な英語の運用能力や専門知識を身に付けることも大切です。自身の4技能の力、更には異文化理解力を高めるために、テキストだけでなく自ら情報収集したり異文化交流をしたりしながら学修して下さい。

TT0034 外国語（英語）指導法

2単位

テキスト名

佐藤久美子・松本由美・小川隆夫・鈴木さおり著『小学校指導法 英語』玉川大学出版部

科目概要	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。
主な到達目標	・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 ・英語での語りかけ方等授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。 ・教材研究、指導計画、評価等実際の授業づくりに必要な知識・技能を身に付ける。
テキスト学修の留意点	2020年度より教科となった高学年の外国語科と中学年に導入された外国語活動とのつながりを意識しながら、教科としての英語をどのように指導するのが望ましいのか深く考察してほしい。指導者としてどの学修テーマも十分に理解する必要があるため、熟読し各章の最後にある課題に必ず取り組むこと。自らテキスト内で紹介されている英語の歌や絵本などにも触れたり、授業の様子が分かる映像を視聴したりすることで、実際の授業のイメージを持つことも大切である。

	学修テーマ	課 題
1	小学校外国語教育の変遷と新学習指導要領	新学習指導要領に高学年の外国語科が導入されるまでの小学校英語教育の変遷について知るとともに、新学習指導要領改訂のポイント、目標等について理解を深める。
2	聞くこと	新学習指導要領では、中学年では2技能3領域、高学年では4技能5領域について指導することになった。「聞くこと」は中高学年ともに指導内容になっており、基本的な技能である。「聞くこと」とはということか、具体的な実践例から効果的な活動やねらいを考える。
3	学習指導案の作成	よい授業を行うためには、学習指導案の作成は必要不可欠である。外国語科の目標を踏まえ、児童の興味や実態に応じた年間計画や単元計画を立案する具体や、学習指導案の作成に際する基本的な在り方について学修する。
4	Classroom English, Small Talk, TT	授業中にクラスルームイングリッシュを用いる利点を知り、実際の多数の例文に触れることで授業者の英語使用量の増加を目指す。高学年の指導内容であるSmall Talkの目的や事例、チームティーチングの授業についても理解を深める。
5	歌、チャンツ	小学校の英語教育には、歌やチャンツは欠かせない。ただリズムに乗って歌うことで学習の雰囲気づくりをするだけが目的ではなく、さまざまな効果が期待されている。ここでは、歌の教材としての魅力とその指導法について理解する。
6	文字指導	新学習指導要領より、外国語活動、外国語科で文字を系統的に指導することになった。ローマ字からアルファベットへの指導の接続や文字への興味を持たせる方法について学ぶ。
7	絵本の活用	子ども向けの英語の絵本を用いて良質なインプットをすることは英語学習に効果的である。児童の発達段階と授業の目的に合わせた絵本の選定、教師と児童とのやり取りを交えながらの読み聞かせが更なる効果を生む。ここでは、有効な絵本の活用法について学ぶ。
8	CLIL	CLIL（内容言語統合型学習）とは何かを理解し、その効果的な指導法について知る。実際にどのような点に気を付けて、何をテーマに授業を構成していけばよいのか、具体例を参考にCLILの授業について考察する。
9	ICT	まず、ICT、GIGAスクール構想といった言葉の意味を理解する。ICT活用の授業の利点やねらいを明らかにしたうえで、効果的な活用法について理解する。
10	評価	国立教育政策研究所から出された『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』をもとに、評価基準の設定例や評価法について理解を深める。また、振り返り、振り返りカードの作成および活用についても学修する。
11	話すこと（やりとり、発表）	「話すこと」は中高学年ともに指導すべき技能の一つであるが、「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」の2つに分かれている。やりとりや発表のしかたについて、実践例から効果的な活動やねらいを考える。
12	校内研修・授業研究の意義	英語専科教員も増えているが、一校に一人とまではいかず、依然として担任が指導する場面も多い。担任が自信を持って授業を進めるためにも校内研修は大切である。研修の実際や公開授業の方法などを知り、学校全体で取り組むことのよさについて理解を深める。
13	活動（Activity）	「言語活動」とは、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動である。コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした活動を設定し、必然性のある活動を効果的に設計することが大切である。これらを具現化するための理想的な活動について考察する。
14	読むこと、書くこと	「読むこと」「書くこと」は、新学習指導要領から高学年の指導内容として新たに加わったものであるが、中学年の外国語活動で慣れ親しんだ「聞くこと」がベースになっていることについても知る必要がある。それぞれの望ましい活動やねらいについて学ぶ。
15	小中連携	新学習指導要領では、小学校から中学校まで一貫して「言語活動を通して」コミュニケーションを図る素地／基礎となる資質・能力を育成することを目標にしている。小学校から中学校への指導内容の接続を「言語活動」を軸に理解する。

シラバス執筆：高野 のぞみ

レポート課題

第1分冊 高野 のぞみ

第2分冊 高野 のぞみ

第1分冊 〈略題〉ティーム・ティーチング(TT)について 学修テーマ4 中心

横書き指定

直接入力

〈課題〉

1. 日本の公立小学校において TT を行うことの効果やメリットは何だと思いますか。あなたの意見を書いて下さい。
2. ALT と協働するためにあなたが心掛けたいことは何ですか。
3. 新年度に新しい ALT と初めての打ち合わせをする際に、あなたが ALT に伝えることを英語で書いて下さい。(挨拶、自己紹介、外国語授業に対する抱負、ALT に期待している事、など)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストや参考文献を読み、あなたなりに考察して下さい。そして、レポートにはテキストなどに書かれていることを書くのではなく、あなたの意見を書いて下さい。
2. TT ではティームの協働する姿勢が重要です。あなたが外国人 ALT と良い人間関係を作るためにどんな働きかけをしたらいいかを考えてみましょう。
3. 英文作成には機械翻訳の機能などを活用して正しい英文かどうか確認しながら書いてください。実際にあなたが ALT に話すシンプルな話し言葉を使いましょう。

〈評価の観点〉

1. あなた独自の意見が述べられているか
2. 外国人 ALT と協働する際の配慮や留意点を理解しているか、ALT と自分の役割分担を把握しているか
3. 一緒に TT を行う ALT に伝えるべきことを伝えているか、伝わりやすく正しい英文か

〈その他の留意点〉

- ・参考文献、教科書(指導書も含む)および補助教材、インターネット等から入手した学習指導案や活動例をそのまま引用したり、加筆・修正したりすることは認めない。必ず独自のものを考察すること。
- ・参考文献、教科書、インターネット上で検索したもの等がある場合は、必ず文末に明記すること。

第2分冊 〈略題〉どうしたら聞き取れるようになりますか? 学修テーマ2 中心

横書き指定

直接入力

〈課題〉

6年生児童Aさんから「ALTの先生が言っていることが聞き取れない。どうしたらわかるようになるんですか?」と質問されました。

1. Aさんの質問に答え、具体的にアドバイスをして下さい。実際にAさんに答える口調で書いてください。
2. 6年生に自己紹介を教える際に、Aさんのような児童を動機づけるためにあなたが授業で工夫すること・注意することを具体的にまとめてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. では、まず「聞くこと」の教え方を理解しましょう。次に、6年生児童が実践できるような具体的な練習方法をAさんに説明してください。
2. では、まず6学年の自己紹介の単元について理解しましょう(テキストP25-31参照)。次に、自己紹介を指導する際に、あなたが工夫・注意する点(教材、活動、授業運営、指導法、フィードバック、声掛け、評価、など)を挙げ、何のためにどのような工夫・注意をするのか具体例を挙げながら解説してください。

〈評価の観点〉

1. 高学年向けの「聞くこと」の教え方を理解しているか、具体例を挙げながら説明できているか
2. 高学年を指導する際の留意点を理解しているか、「聞くこと」が苦手な児童の動機づけに繋がるような工夫ができているか、授業がイメージできるような具体例が含まれているか

〈その他の留意点〉

- ・参考文献、教科書(指導書も含む)および補助教材、インターネット等から入手した例をそのまま引用したり、加筆・修正したりすることは認めない。必ず独自の言葉で書くこと。
- ・参考文献、教科書、インターネット上で検索したもの等がある場合は、必ず文末に明記すること。

参考文献

- ・文部科学省 Youtube チャンネル mextchannel 「外国語教育はこう変わる!」動画
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/index_00004.htm
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf
- ・文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf
- ・文部科学省 小学校外国語教育教材、指導案例
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

科目試験等への
アドバイス

- ・出題範囲はテキスト全体からとする。
- ・具体的・実践的に答えられているか、実際の授業がイメージできているかどうかを評価する。抽象的・理論的な説明だけでは不十分。
- ・指導する言語材料(英単語や英文など)を挙げながら説明し、英語には間違いがないように注意する。スペルチェックや機械翻訳の機能なども活用し正確な英文を確認すること。

教員からの
メッセージ

この科目では「小学校外国語」授業を設計・運営するために必要な基礎的な知識・スキルを養うことを目標としていますが、実際に小学校の授業を見学したり外国人と交流して英語を使ったりするなど、実践することでより現実的な学びとなります。自らそのような機会を作り学修してください。

科目概要	「国家・社会を形成する市民として、どのように歴史（世界史）を学ぶべきか」。歴史を事実として整理し理解・暗記するだけではなく、世界の歴史の大きな流れを把握し説明することで、歴史を主体的に語る資質を育成する。
主な到達目標	○世界の歴史の大きな流れを把握する。 ○各時代の特色を整理し、説明する。 ○歴史教育としての外国史の在り方について考察する。
テキスト学修の留意点	○テキストを漫然と学習するのではなく、テキストの「各章のあらすじ」で時代を大観し、「読者への問い」「課題」「まとめの課題」に答えることができるように読み解く。 ○本文の記述を「コラム」と結びつけて読んだり、高等学校世界史探究の教科書、世界史資料集などを参考にして、テキストの内容理解を深めるようにする。

	学修テーマ	課 題
1	なぜ世界史を学ぶのか	歴史について、以下の3点について考察しよう。(1)すでにわかっている(動かない、変化しない)過去の事実なのだろうか、そして、(2)その過去の事実を暗記するだけの科目だろうか、また、(3)現在や未来とは関係のない、今を生きる私たちにとって役立たない科目だろうか。
2	古代文明・古代帝国と地域世界の形成	古代文明・帝国の特色や影響を与えた出来事を整理することで、諸地域世界の共通性や差異性を説明しよう。
3	地域世界の再編	ユーラシアの東部(中国)、中央部(中央アジア)、西部(西アジア・ヨーロッパ)における地域社会の再編を整理し、新しい地域世界の特色を説明しよう。
4	海陸の交流とモンゴル帝国	モンゴル帝国の特色を政治・経済・社会文化で整理し、モンゴル帝国が海と陸の交流をどのように結びつけたのかを説明しよう。
5	近世世界のはじまり	近世時代に繁栄したヨーロッパやアジアの諸帝国の特色を整理し、新しい国家・社会、信仰のあり方を説明しよう。
6	大航海時代	大航海時代におけるヨーロッパとアジアの交易関係の特色や変遷を整理し、近代世界システムとその形成について説明しよう。
7	アジア伝統社会の成熟	鎖国日本をはじめ、大航海時代以後のアジア諸国は、世界の動きをよそに眠り込んでいたのだろうか。18世紀を中心としたアジア諸国の成熟の様子を説明しよう。
8	ヨーロッパの奇跡	18世紀のヨーロッパ諸国の特色を政治・軍事・経済・社会を観点に整理し、アジア諸国を凌駕する「西ヨーロッパ諸国の奇跡」について具体的に説明しよう。
9	近代化の広がり	19世紀のイギリス・ロシア・アメリカ合衆国の関係を整理し、「パクス・ブリタニカ」時代における近代化の広がりについて説明しよう。
10	「ウエスタン・インパクト」とアジアの苦悩	ヨーロッパ勢力の進出に対抗して始まったアジア・イスラーム諸国の改革について整理し、植民地化に直面した人々の苦悩について説明しよう。
11	帝国主義とアジアのナショナリズム	帝国主義諸国の対立の帰結としての第一次世界大戦の特色を整理し、その後の国際関係やアジア諸国への影響を説明しよう。
12	第二次世界大戦とアジア太平洋戦争	第二次世界大戦とアジア太平洋戦争の原因・経過・結果を整理することで、「平和で民主的な国家及び社会」を形成するために必要なことを考察し説明しよう。
13	冷戦と民族独立の時代	東西両陣営の中心だったアメリカとソ連に、共通点はなかっただろうか。それぞれの「夢」を含めて考えよう。
14	現代世界の光と影	冷戦の終結、東アジア諸国の復興、イスラーム主義の台頭、中国の勃興などの世界の特色を整理し、アメリカを中心とするグローバル社会の光と影について説明しよう。
15	どのように世界史を学ぶか	歴史学とはどのような学問か、どのように発展してきたか。歴史学と歴史教育はどのように結びつけば良いのか。あなたの考えを説明しよう。

シラバス執筆：宮本 英征

レポート課題

第1分冊 宮本 英征

第2分冊 宮本 英征

第1分冊 〈略題〉過去と現在のグローバル化 テキスト 24～196, 252～270

横書き指定

Word添付

〈課題〉

過去と現代のグローバル化の共通性や差異性について考察せよ。特に、過去のグローバル化については前1千年紀～後2世紀、7・8世紀、13世紀、15・16世紀、19世紀に着目すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、できるだけ自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

第2分冊 〈略題〉ナショナリズムと国民国家 テキスト 197～270

横書き指定

Word添付

〈課題〉

19世紀、20世紀、現代（21世紀）におけるナショナリズムと国民国家の関係について考察せよ。特に、ヨーロッパ諸国とアジア諸国に区別して論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

参考文献

- ・グローバル・ヒストリーに関する文献を収集し、読み解くこと。
- ・高等学校世界史教科書、世界史資料集で確認しながら、学習すること。

科目試験等への
アドバイス

- ・重要語句を説明できる
- ・重要語句を用いて歴史的因果関係を説明できる
- ・各時代の特徴をつかむ
- ・貿易品、人々の移動、外交など地域世界、国家間の交流・再編に着目すること。

教員からの
メッセージ

テキストをもとにいろいろ調べながら、新しい発見をしたり、疑問を解いたりして歴史のおもしろさを味わってください。

テキスト名

大内宏一『ビスマルク』山川出版社
(テキスト A)、石田勇治『ヒトラーと
ナチ・ドイツ』講談社 (テキスト B)

科目概要	ビスマルクとヒトラーという二人の人物を通じて、ドイツの近現代史について学ぶ。ドイツだけでなく、同時代の西洋各国の歴史も広く対象となる。
主な到達目標	・ドイツを中心とした西洋近現代史の大きな流れを把握する。 ・ビスマルクとヒトラーのそれぞれの歩み・思想・政策等について理解する。 ・ビスマルクとヒトラーにそれぞれどのような歴史的意義があるのか考察する。
テキスト学修の留意点	・テキストの各章は基本的に「問い」と「答え」で結ばれている。細かい固有名詞やエピソード等に惑わされずに、「問い」と「答え」がどのような論理で結ばれているのか、意識しながらテキストを読むこと。 ・テキストはいずれも平易な概説書だが、高等学校世界史の予備知識があることが望ましい。 ・紙幅の都合上テキストには掲載地図が少ないので、高等学校世界史図説のような歴史地図帳を利用すると便利だろう。

	学修テーマ	課 題
1	ビスマルクの登場とプロイセン首相への道 (テキスト A 1～23 頁)	・ビスマルクが生まれた時のドイツとヨーロッパはどのような状態にあったのか。 ・ビスマルクはどのような経緯で政治家となり、ついにはプロイセン首相にまで上りつめることができたのか。 ・プロイセンの伝統的な保守派に対して、ビスマルクはどのような点で異なっていたのか。
2	ドイツ統一への道 (テキスト A 24～52 頁)	・クリミア戦争とドイツでの工業化の進展とが、ビスマルクによるドイツ統一の前提条件になったのはなぜか。 ・ビスマルクは普墺戦争や普仏戦争に先立って、どのような「状況」をつくりだし、既存の「状況」をどのように利用したのか。
3	ビスマルクの築いたドイツ帝国①——国内政策 (テキスト A 53～69 頁)	・ドイツ帝国はどのような政治体制を有していたのか。 ・ビスマルクが 1870 年代と 1880 年代 (1870 年代末も含む) にそれぞれ展開した国内政策の特徴は何か。
4	ビスマルクの築いたドイツ帝国②——対外政策 (テキスト A 69～87 頁)	・ビスマルクが 1870 年代と 1880 年代 (1870 年代末も含む) にそれぞれ展開した外交政策の特徴は何か。
5	ヒトラーの登場 (テキスト B 3～56 頁)	・ヒトラーが政治に関わるようになったきっかけは何か。 ・ヒトラーはどのようにしてナチ党の指導者となったのか。 ・ヒトラー率いるナチ党がバイエルン州で勢力を拡大できたのはなぜか。
6	ナチ党の台頭①——ナチ党の再建 (テキスト B 58～93 頁)	・クーデタに失敗したヒトラーはどのようにナチ党を再建したのか。 ・著作『我が闘争』からはヒトラーのどのような政治思想が読み取れるのか。
7	ナチ党の台頭②——ドイツ政治の表舞台へ (テキスト B 93～112 頁)	・ナチ党が国政に進出するきっかけとなったのは何か。 ・ナチ党が全国政党に躍進できたのはなぜか。
8	ヒトラー政権の成立 (テキスト B 114～132 頁)	・国会でナチ党が単独過半数を得ていなかったにもかかわらず、なぜヒトラーはドイツの首相に任命されたのか。 ・ヒンデンブルク大統領やその側近の保守派政治家たちは、どのような思惑からヒトラー政権を成立させたのか。
9	ナチ体制の確立①——議事堂炎上令と授權法 (テキスト B 134～166 頁)	・首相となったヒトラーはどのようにして独裁権を確立したのか。 ・「議事堂炎上令」と「授權法」はそれぞれどのような過程で制定され、どのような内容を有した法律か。
10	ナチ体制の確立②——民意の転換と体制の危機 (テキスト B 166～187 頁)	・ドイツ国民の多くがナチ体制の確立に表立って反対しなかったのはなぜか。 ・ヒトラーはどのような意図からレーム事件を起こしたのか。また、レーム事件の意義は何か。
11	ナチ体制下の内政 (テキスト B 190～228 頁)	・第二次世界大戦終結から間もないころの西ドイツで、ナチ時代の前半期を肯定的に捉える人々が多かったのはなぜか。 ・ナチ体制の権力構造の特徴は何か。 ・ヒトラー政権が失業者を大幅に減らすことができたのはなぜか。
12	ナチ体制下の外交 (テキスト B 228～251 頁)	・ヒトラー政権は、どのようにして外交政策のイニシアチブを外務省内の伝統的保守派から奪っていったのか。 ・フランス・イギリス・イタリアは、ヒトラー政権下のドイツに対してそれぞれどのような姿勢をとったのか。
13	レイシズムとユダヤ人迫害 (テキスト B 254～293 頁)	・ナチ政権によるユダヤ人迫害政策には、どのような思想的背景があったのか。 ・ナチ時代の前半期には、どのようなユダヤ人政策がとられたのか。 ・ナチ政権によるユダヤ人迫害に対して、ドイツ国民の多くが表立って反対しなかったのはなぜか。
14	ホロコーストと絶滅戦争① (テキスト B 296～326 頁)	・ナチ政権はどのような優生政策を行なったのか。 ・安楽死殺害政策とは何か。それはホロコーストとどのような関係にあるのか。 ・第二次世界大戦の勃発後、ナチ政権によるユダヤ人政策はどのように変化していったのか。
15	ホロコーストと絶滅戦争② (テキスト B 327～346 頁)	・アウシュヴィッツ収容所が巨大な絶滅収容所となったのはなぜか。 ・ヒトラーが最期までホロコーストをやめようとしなかったのはなぜか。

レポート課題

第1分冊 前川 陽祐

第2分冊 前川 陽祐

第1分冊 〈略題〉ビスマルクとヒトラーの比較 テキストA・B

横書き

Word添付

〈課題〉

ビスマルクとヒトラーの経歴・人物像・思想・政策などを比較し、そこにどのような類似点と相違点があるかまとめなさい。そのうえで、そこからどのようなことが言えるか考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・ 字数は最低 2000 字、最大 5000 字とする。脚注・参考文献一覧は字数に含まない（字数が多ければ自動的に高評価となるわけではない。その逆も然りなので、あまり字数にこだわる必要はない）。
- ・ 引用や叙述の典拠となる脚注を、いくつか（最低でも 3 つ）設けること。脚注には、著者（邦訳書の場合は翻訳者も）・書名・出版社・刊行年・頁数を明記すること（テキストの場合は、「テキスト A、〇頁。」で可）。
- ・ 参考文献としてウェブサイト을挙げる場合は、サイト名・URL・最終閲覧日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ・ テキストの内容が活かされているかどうか（テキストの内容を踏まえたうえで、それに反論や批判を加えても可）。
- ・ 論理的で説得力のある文章が、（テキストの引き写しではなく）自分の表現で書けているかどうか。
- ・ 適切に引用が行なえているかどうか。
- ・ 誤字脱字があるかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉ドイツと日本の比較 テキストA・B

横書き

Word添付

〈課題〉

ビスマルクとヒトラーの同時代（19 世紀初め～20 世紀半ば）の日本は、様々な点でドイツとよく比較される。19 世紀初め～20 世紀半ばのドイツと日本にどのような類似点と相違点があるかまとめなさい。そのうえで、そこからどのようなことが言えるか考察しなさい。なお、比較する時代をもっと広く設定しても構わない（例えば、中近世～冷戦期）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・ 字数は最低 2000 字、最大 5000 字とする。脚注・参考文献一覧は字数に含まない（字数が多ければ自動的に高評価となるわけではない。その逆も然りなので、あまり字数にこだわる必要はない）。
- ・ 引用や叙述の典拠となる脚注を、いくつか（最低でも 3 つ）設けること。脚注には、著者（邦訳書の場合は翻訳者も）・書名・出版社・刊行年・頁数を明記すること（テキストの場合は、「テキスト A、〇頁。」で可）。
- ・ 参考文献としてウェブサイト을挙げる場合は、サイト名・URL・最終閲覧日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ・ テキストの内容が活かされているかどうか（テキストの内容を踏まえたうえで、それに反論や批判を加えても可）。
- ・ 論理的で説得力のある文章が、（テキストの引き写しではなく）自分の表現で書けているかどうか。
- ・ 適切に引用が行なえているかどうか。
- ・ 誤字脱字があるかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

各テキストの巻末に詳細な参考文献一覧が付されている。

科目試験等への
アドバイス

テキストには、高等学校世界史レベルでは聞きなれない人名や地名、エピソードも多く登場しますが、そうした細かな点は出題の対象としません。あくまで歴史上の重要なポイントとなる事項のみを出題します。

教員からの
メッセージ

重要な用語は記憶する必要がありますが、歴史は暗記物ではありません。テキストを通じて、歴史の「物語性」と「論理性」を味わっていただきたいと思います。

科目概要	アジア・アフリカ地域のうち、「中国」と「イスラーム文明」の歴史を「隣接地域との関係」を重視しながら学び、「世界史」の文脈に位置付けて捉えることをめざす。「中国」は、古来、日本と関係の深い地域であり、世界人口におけるイスラーム教徒の割合が約4分の1と推定される現在、イスラーム文明への理解を深めることは社会的課題だからである。
主な到達目標	・東アジアとイスラーム圏の歴史および隣接地域との関係史の概要を把握する。 ・中国社会の歴史の変遷・特徴・多様性を理解する。 ・イスラーム圏の社会・文化の共通性・統一性および多様性を理解する。 ・東アジアとイスラーム圏の歴史を世界史の文脈に位置づけて把握する。
テキスト学修の留意点	・テキスト『中国の歴史』の構成は時代順で、各章の【焦点】【史料】で各時代の様相や文献の記述が紹介されている。『イスラーム』の構成はテーマ別で、「コラム」が挿入されている。 ・テキスト各章の流れ、趣旨・大要を把握し、重要語句（『外国史各論 B』学修指導書）や高校世界史教科書の太字語句）の概要を調べる。 ・学修テーマの課題・レポートに取り組む際には、各テキストの脚注・コラムも参考になる。『中国の歴史』の巻末の索引も役立つ。

	学修テーマ	課 題
1	「中国」とは何か（『中国の歴史』まえがき、1章）	・「中国」のなかの多様性について説明せよ。 ・「華夷思想」「中華思想」などと呼ばれる中国の伝統的世界観について説明せよ。
2	中国初期王朝の形成（2章）	・殷王朝の政治組織、祭祀・占い、甲骨文字の特徴について説明せよ。 ・周王朝の政治システム「封建」および血縁秩序のあり方について説明せよ。
3	春秋・戦国から秦の統一へ（3章）	・「郡県制」の概要を説明し、この統治システムが生まれた経緯について記述せよ。 ・秦の始皇帝が皇帝という称号を採用した理由と彼の時代の統一政策の特徴を説明せよ。
4	漢帝国と周辺地域（4章）	・前漢の時代の「郡国制」について説明せよ。 ・前漢の武帝の治世の内政・対外政策について、その特色と影響を説明せよ。
5	分裂と融合の時代（5章）	・北魏の政治制度・宗教・文化について、胡（北方民族）と漢民族の融合に着目し説明せよ。 ・魏晋南北朝時代における周辺諸国との朝貢・冊封関係について説明せよ（【焦点】も参照）。
6	隋唐帝国の形成（6章）	・唐初期の国家制度の概要と特色、8世紀以降の軍制・財政改革の原因・概要を説明せよ。 ・唐の対外関係について、地域・民族別に説明せよ（東方、南方、北方、西方）。
7	宋と北方諸民族（7章）	・「唐宋変革」の観点から宋の政治制度・社会経済・文化の特徴と背景について説明せよ。 ・13世紀のモンゴルの諸遠征の概要、元の制度・社会経済の特徴を説明せよ（8章も参照）。
8	元から明へ（8章）	・明の洪武帝（朱元璋）の政策、永楽帝の内政・対外政策の特色と影響を説明せよ。 ・16世紀の「北虜南倭」の意味を説明し、その活動と影響、明の対策について記述せよ。
9	清朝の平和（9章）	・清（後金）の成立経緯、中国本土・台湾・モンゴル・オイラト・チベット・新疆を支配下に収めた経緯、清とロシアとの関係、清への朝貢国と「互市の国」について説明せよ。
10	清末の動乱と社会の変容（10章）	・アヘン戦争の背景と南京条約の内容、太平天国の反乱の背景と鎮圧に至る経緯、洋務運動の概要について説明せよ。また19世紀後半、清が朝貢国を失った経緯・理由を記述せよ。
11	中国ナショナリズムの形成（11章、12章1節・2節：206-227頁）	・列強による中国分割の危機と光緒帝による改革について説明せよ。 ・清末に義和団事件が起きた背景と同事件の経緯・影響について説明せよ。
12	イスラームの誕生（『イスラーム』1章）	・メッカ（マッカ）出身のムハンマドがイスラームの伝道を始め、後にメディナ（マディーナ）へ移住した経緯と、彼がメディナで建設した共同体について説明せよ。 ・ムハンマド勢によるメッカ征服の意義・影響について説明せよ。
13	イスラームとは何か（2章）	・イスラームの聖典『クルアーン』の特色と「正典化」の経緯について説明せよ。 ・六信五行と「最後の審判」の概要、ジハード（聖戦、努力）と奴隷解放の目的を説明せよ。
14	歴史のなかのイスラーム（3章）	・カリフという言葉の意味とカリフの権限について説明せよ（コラムも参照）。 ・スンナ派とシーア派について、それぞれの特徴を説明せよ。
15	イスラームの知と文明（4章）	・イスラーム文明における学問体系、ギリシア語文献のアラビア語への翻訳活動とその意義について説明せよ。またイスラーム圏からヨーロッパに伝わった学問・技術・作物を挙げよ。

レポート課題

第1分冊 高木 小苗

第2分冊 高木 小苗

第1分冊 〈略題〉「中国」の朝貢・冊封体制と日本 テキスト第4章～第10章

横書き

直接入力

〈課題〉

テキストの内容を参考にして、(1) 朝貢・冊封の意味を説明せよ。(2) 後漢から清末までの「中国」と日本の関係の変遷について、その原因・背景・影響に言及しながら説明せよ。その際、朝貢・冊封という言葉を使用すること。(注：日本が中国と朝貢・冊封関係を結ばなかった時期についても言及すること。)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストの指定範囲と『外国史各論B』学修指導書』を通読し、レポートに反映すること。
- ・歴史上の出来事・現象の概要、それが起きた原因・背景、その結末・影響などに言及すること。
- ・テキストおよび参照した文献(ウェブサイトを含む)を丸写し・一括転載せず、自分の言葉で表現すること。
- ・文中でテキストや参照した文献などの記述を引用する際は、文末や脚注に出典を示すこと。
- ・レポート末尾に、参照した文献の著者・書名・出版社名・行年やウェブサイトのアドレスなどを記載すること。

〈評価の観点〉

- ・課題の趣旨を理解し、関連するテキストの記述の要点を記述しているかどうか。
- ・テキストや参考文献の文章を丸写しせず、自分の言葉で論理的かつ明確に記述しているかどうか。
- ・自分の考察を示す際に、主観的意見にならないよう、客観的な根拠が示されていると評価が高くなります。

〈その他の注意点〉

レポートの字数の対象となるのは本文のみ(題目、氏名、参考文献一覧等は含まない。)

第2分冊 〈略題〉イスラーム文明の歴史的変遷 テキスト第1章～第4章

横書き

直接入力

〈課題〉

(1) 「イスラーム世界」の歴史的展開について説明せよ(注：ムハンマドの事績、正統カリフ時代、ウマイヤ朝、アッバース朝、セルジューク朝、マムルーク朝、オスマン朝に言及すること。テキスト1章・3章を参照)。(2) イスラームは、イラク・シリア、イラン・エジプトで次第に受容され、さらに中央アジア・アフリカ・インド・東南アジア・中国に広まった。イスラーム教伝播の経緯やそれに貢献した人々について記述せよ(2章を参照)。(3) 「イスラーム世界」で発展した学問・技術がヨーロッパに伝わった経緯とその影響について記述せよ(4章を参照)。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストの指定範囲と『外国史各論B』学修指導書』を通読し、レポートに反映すること。
- ・歴史上の出来事・現象の概要、それが起きた原因・背景、その結末・影響などに言及すること。
- ・テキストおよび参照した文献(ウェブサイトを含む)を丸写し・一括転載せず、自分の言葉で表現すること。
- ・文中でテキストや参照した文献などの記述を引用する際は、文末や脚注に出典を示すこと。
- ・レポート末尾に、参照した文献の著者・書名・出版社名・行年やウェブサイトのアドレスなどを記載すること。

〈評価の観点〉

- ・課題の趣旨を理解し、関連するテキストの記述の要点を記述しているかどうか。
- ・テキストや参考文献の文章を丸写しせず、自分の言葉で論理的かつ明確に記述しているかどうか。
- ・自分の考察を示す際に、主観的意見にならないよう、客観的な根拠が示されていると評価が高くなります。

〈その他の注意点〉

レポートの字数の対象となるのは本文のみ(題目、氏名、参考文献一覧等は含まない。)

参考文献

- ・テキストの理解を深めるために、世界史の教科書や図説なども確認することをお勧めします。
- ・さらに知識を深めたい場合は、テキスト末尾の「参考文献」を参照してください。文庫本・新書・選書・リブレットなどは地域の図書館でも入手しやすいです。

科目試験等への
アドバイス

- ・シラバスの「学習テーマ」の「課題」の内容を自分の言葉で簡潔にまとめられるよう、復習してください。
- ・テキストの内容のうち、「学修テーマ」の「課題」に関連する箇所と、そこに登場する重要語句(『外国史各論B』学修指導書や世界史教科書の太字語句)を見直してください。

教員からの
メッセージ

昔、ある歴史学者から、「(過去の)どの時代の歴史も常に動いているのだよ」と言われました。過去の出来事に対する私たちの評価や認識が、時の流れにともない変わるように、教科書や概説書の記述も、歴史学・考古学研究の進展や時代の変遷により変化するものです。皆さんもテキストや教科書の内容を自分なりに検討し、課題に取り組んでみてください。そうして養われたものの見方・考え方は、日常生活にも応用できます。

科目概要	人間の発達と学習は、社会的・能動的存在である人間が社会的文化的な環境と出会う中でもたらされるものである。本科目では、人間の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけることを目的とする。また、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解していく。
主な到達目標	・乳幼児期から青年期の各段階における発達の特徴について、説明ができる。 ・人間の心身の発達に関する理論を理解しており、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する理論の基礎を理解している。 ・人間の心身の発達を踏まえた学習活動ならびに指導が提案できる。
テキスト学修の留意点	・「課題」内容は事前に確認し、テキストを読みながら取り組むこと。 ・各章のテーマを理解する上で重要だと考えられる用語を抽出し（Ex 線を引く、ノートにまとめる等）、説明できるようにしておくこと。その際、具体例も関連づけて学習することを勧める。 ・各章の最後に掲載されている演習問題を最後に解くこと。問題を解くことで、学習した内容を用いて考える力を養う。

	学修テーマ	課 題
1	発達とは何かを考える	・発達の捉え方について、これまでの自分が捉えていたことと比較する。 ・テキストで挙げられた視点から見た発達の捉え方の特徴を説明する。
2	身体の発育と運動の発達	・乳児期から青年期にかけての身体の発育の過程について説明する。 ・乳児期から学童期にかけての運動発達の過程について説明する。 ・心身の健康づくりにふさわしい遊びや運動の事例を挙げる。
3	ことばとコミュニケーションの発達	・ことばの獲得を説明する複数の理論を挙げ、それぞれの特徴を説明する。 ・ことばの学びにおける環境の影響について説明する。
4	認知の発達	・ピアジェの発達理論におけるそれぞれの段階の特徴について説明する。 ・ピアジェの理論に対応した子どもの姿の具体例をあげる。
5	人とのかかわりにみる遊びの発達	・ヴィゴツキーの発達観について説明する。 ・遊びの特質や役割について説明する。 ・年齢によって遊びにどのような違いがあるのかを説明する。
6	自己と自我の発達	・エリクソンの心理社会的発達理論について説明する。 ・心理社会的発達理論をどのように教育に生かせるのかについて説明する。
7	学習とは何かを考える	・行動からみた学習、「わかる」ということからみた学習、状況的な学びというそれぞれの考え方について特徴を説明する。 ・「教える」とはどのようなことなのか、テキストに挙げられた考え方を使って説明する。 ・複数の子ども観と教育観を比較し、特徴を説明する。
8	行動からみた学習	・古典的条件づけの仕組みについて説明する。 ・道具的条件づけの仕組みについて説明する。 ・自身の経験の中からそれぞれの条件づけの考え方で説明できる事例を挙げる。
9	認知からみた学習	・記憶のメカニズムについて説明する。 ・「深い学び」につながる要因について説明する。
10	参加からみた学習	・正統的周辺参加論について説明する。 ・コミュニティへの参加による学びにおける他者の存在の意義について説明する。
11	知能とは何かを考える	・テキストで挙げられた知能の理論について説明する。 ・知能検査の構成と得られる結果について説明する。
12	主体的な学びを考える	・外発的動機づけについて説明し、具体例を挙げる。 ・内発的動機づけについて説明し、具体例を挙げる。 ・子どもたちの主体的な学習を支えるための教師の工夫の事例を挙げる。
13	対話的な学びを考える	・教室でのやりとりに含まれる機能について説明する。 ・教室での対話について「足場かけ」という考え方をを用いて説明する。 ・対話における「傾聴」の必要性について説明する。
14	多様な学びを考える	・教室における特別な教育的ニーズの事例を挙げる。 ・インクルーシブ教育の特徴について説明する。
15	学びと育ちをみる視点	・教育場面における評価の例を挙げる。 ・「できる」と「わかる」の相違点を説明する。 ・ポートフォリオやドキュメンテーションを用いた評価の意義について説明する。

レポート課題

第1分冊 小野田 聡子

第2分冊 魚崎 祐子

第1分冊 〈略題〉発達段階を考慮した工夫 第1章～第6章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ① 小学校の学習指導には、子どもの発達段階を考慮した工夫が様々な形で含まれている。自身の経験を振り返り、(a) どの教科の、(b) どの内容に（何年生頃の内容に）、(c) どのような工夫がなされていたか、(d) またその工夫はピアジェの発達段階のうち、どの段階のどの特徴を考慮したものといえるか、(e) その工夫によりどのように学習が支援されたかについて、具体例を挙げながら説明せよ。
- ② ①で挙げた具体例に対して、さらに発達段階を考慮した工夫を取り入れるとしたら、どのようなものが可能か。具体的に考え、予想される効果も含めて説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

課題①について

- ・(a)～(e)の内容を必ず含めること（レポート内で(a)～(e)の記号付けや項目分けは不要）。

課題②について

- ・発達段階の特徴を踏まえた工夫を考えること。課題2についてはピアジェ以外の理論（Ex. エリクソン）も可とする。

課題全体について

- ・箇条書きのような形は避けること。
- ・テキストをそのまま写しただけのレポートにならるように注意すること。
- ・各課題には課題番号をつけ、別の課題だとわかるようにスペースを空けること。
- ・「課題」内容と「評価の観点」をよく確認すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・学年・教科・内容等の授業の概要を説明しているか。
- ・工夫点について説明しているか。
- ・ピアジェの発達段階の、どの段階の、どのような特徴を考慮した工夫だったのか、考察しているか。
- ・その工夫によっていかに学習が支援されたのか（何が促されたのか）、考察しているか。

課題②

- ・提案された工夫は具体的で実践可能であるか。
- ・子どもの発達段階を踏まえた提案になっているか。
- ・その工夫がいかに子どもの学習を支援するのか、プロセスを説明しているか。
- ・テキストに載っている発達の理論や知見を根拠として用いているか。

〈その他の注意点〉

文献（テキストも含む）やインターネット情報から引用をする場合は、引用箇所を明らかにし、最後に引用文献を示すこと。

第2分冊 〈略題〉「できる」と「わかる」 第7章～第15章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ① 日常生活での経験で培われる知識と学校教育で培われる知識とが結びつく過程について、自身の経験を挙げながら説明しなさい。
- ② 「できる」と「わかる」との関係性について、自身が「できた」「わかった」経験を挙げ、それぞれをどのように評価するのかについて言及しながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・関連する情報は複数の章に含まれているので、特定の章だけを参照して作成するのではなく、テキスト全体を学修した上で取り組むこと。
- ・各課題は1000～1200字で作成すること。
- ・各課題には課題番号をつけ、課題の間にはスペースを空けること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・それぞれの知識の特徴について述べる能够做到ているか。
- ・両者が結びつく過程について述べる能够做到ているか。

課題②

- ・両者の違いを含めた関係性について述べる能够做到ているか。
- ・それぞれの評価について述べる能够做到ているか。

両課題共通

- ・説明に対応する自身の具体的な経験例を挙げる能够做到ているか。
- ・制限字数が守られているか。
- ・テキストの内容をふまえて、自身の言葉で説明できているか（テキストを写したもののやつなぎ合わせただけのものは不可）。

〈その他の注意点〉

テキストを含む文献、インターネットなど、他者の書いたものを引用する場合には引用のマナーを守ること。
示し方についてはテキスト内で他の文献を引用した際にどのように表記されているのかを確認し、その書き方に倣うこと。

参考文献

.....
テキストの各章末に掲載された参考文献を参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....
「発達」と「学習・学び」に関する問題をそれぞれ出題する。双方のテーマに関する重要な用語や概念について積極的に学習してほしい。また、用語の定義のみ暗記するのではなく、それと関連する具体的な場面と関連づけられるようにしてほしい。

教員からの
メッセージ

.....
科目内容と日頃の生活とのつながりを意識しながら学習してほしい。

科目概要	本科目は「学校図書館司書教諭講習規定の一部を改正する省令」（平成10年3月）によって設置された講習科目の一つであり、文部科学省初等中等教育局により内容が規定されている。学校の教育課程の展開に寄与するために、学校図書館はどのように活用されるのかを、蔵書構成や利用指導、教科学習、総合学習といった側面から学習する。
主な到達目標	学習指導における学校図書館メディアの活用について理解を図る。
テキスト学修の留意点	以下の内容の理解に努めること。 1) 教育課程と学校図書館 2) 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 3) 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成 4) 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 5) 学習指導における学校図書館の利用 6) 情報サービス（レファレンスサービス等） 7) 教師への支援と働きかけ

	学修テーマ	課 題
1	教育課程と学校図書館	教育課程の展開に寄与する学校図書館のあり方を考える。
2	発達段階に応じた学校図書館メディアの選択①	図書資料の選択と活用について学ぶ。
3	発達段階に応じた学校図書館メディアの選択②	図書以外のメディアの選択と活用について学ぶ。
4	発達段階に応じた学校図書館メディアの選択③	図書以外のメディアの選択と活用について学ぶ。
5	児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成①	情報活用能力とは何かがわかる。
6	児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成②	メディア活用能力とは何かがわかる。
7	学習過程における学校図書館メディア活用の実際①	小学校の実践事例を知る。
8	学習過程における学校図書館メディア活用の実際②	中学校の実践事例を知る。
9	学習過程における学校図書館メディア活用の実際③	高等学校の実践事例を知る。
10	学習指導における学校図書館の利用①	学校図書館の利用指導計画の立案ができる。
11	学習指導における学校図書館の利用②	学校図書館メディアを使った検索ができる。
12	学習指導における学校図書館の利用③	学校図書館メディアの活用を指導できる。
13	情報サービス（レファレンスサービス等）	学習に役立つレファレンスの事例を知り技能を磨く。
14	教師への支援と働きかけ	ティームティーチングや同僚教師への情報提供について学ぶ。
15	まとめ	全体を振り返り学びを整理する。

シラバス執筆：木幡 智子

レポート課題

第1分冊 木幡 智子

第2分冊 木幡 智子

第1分冊 〈略題〉学校図書館と情報活用能力の育成 1-3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

1. 情報活用能力とは何か、必要性が認識された時代背景とともにまとめ、現代でも妥当するのかを考察しなさい。
2. 情報活用能力の育成において学校図書館の果たす役割についてまとめ、司書教諭として学級担任・教科担任に提示するための学習指導案を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①原稿用紙の間違った使用や、レポート作成の基本的な技法を踏まえずに執筆している例が目立つ。論の裏付けとなる客観的なデータや事例を引用する、引用した事例については出典を示す、参考文献リストを文末に付与する等、基本的な論文作法を守り執筆すること。
- ②学習指導案の形式について特定のフォーマットは定めないが、一般的な形式と記載内容を満たしていること。

〈評価の観点〉

- ①情報活用能力の定義について正しく引用されているか。
- ②情報活用能力の具体的な育成方法や環境について理解できているか。
- ③学校図書館を活用する意義について言及されているか。

〈その他の注意点〉

- ①指導（学習）案の対象の校種（小学校・中学校・高等学校・ほか）や学年を書き落とす例が目立ちます。完成度の高いレポートを目指して注意深く記述してください。
- ②学習指導案を読んでもどこが情報活用能力の育成になっているのか不明なものが目立つ。具体的な学習活動について詳細に記述すること。
- ③情報活用能力育成を〈学校図書館〉で応用することについて言及されていないものが目立ちます。評価の観点を確認し、レポートを作成してください。

第2分冊 〈略題〉学校図書館利用指導とその実例 4-7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

1. 学校図書館利用指導とは何か。指定テキストから引用して述べよ。
2. 実施する学年、教科・単元を特定した上で、その利用指導について学習目標や効果を学習指導案の形式に含めて記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①原稿用紙の間違った使用や、レポート作成の基本的な技法を踏まえずに執筆している例が目立つ。論の裏付けとなる客観的なデータや事例を引用する、引用した事例については出典を示す、参考文献リストを文末に付与する等、基本的な論文作法を守り執筆すること。
- ②学習指導案の形式について特定のフォーマットは定めないが、一般的な形式と記載内容を満たしていること。

〈評価の観点〉

- ①学校図書館利用指導とは何か明確に説明できているか。
- ②発達段階にふさわしい体系的な利用指導が設定できているか。
- ③学習指導案が適切に作成できるか。

〈その他の注意点〉

指導（学習）案の対象の校種（小学校・中学校・高等学校・ほか）や学年を書き落とす例が目立ちます。完成度の高いレポートを目指して注意深く記述してください。

参考文献

堀田龍也・塩谷京子編『学校図書館で育む情報リテラシー～すぐ実践できる小学校の情報活用スキル～』、社団法人全国学校図書館協議会、2007年
 山形県鶴岡市立朝陽第一小学校編『図書館へ行こう！図書館クイズ オリエンテーション・図書委員会資料付 ー知識と情報の宝庫＝図書館活用術ー』国土社、2007年
 全国学校図書館協議会編『情報を学習につなぐ：情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説』全国学校図書館協議会、2008年
 堀川 照代 著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂、2018年

科目試験等への
アドバイス

「学修の留意点」に記された内容ごとに主要な論点を説明できるようにしておくことが望ましい。

教員からの
メッセージ

現行の学習指導要領では、探究的な学習が重視されるようになり、学校図書館の活用についての記述が増えています。司書教諭には、児童生徒が、図書をはじめとした多様な情報源を用いて学習を深めることを指導するとともに、一般教員の指南役として学校図書館活用のリーダーシップを発揮することも求められています。そのためには、司書教諭自身が、資料からの正しい引用の方法など、情報活用の基本的な素養も身につけていることが重要です。テキスト発行以降、学習指導要領の改訂など新たな情報が発信されていますので、最新の動向について情報収集しながら学習を進めてください。

科目概要	本科目は「学校図書館司書教諭講習規定の一部を改正する省令」（平成10年3月）によって設置された講習科目の一つであり、文部科学省初等中等教育局により内容が規定されている。学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを学習する。
主な到達目標	学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る。
テキスト学修の留意点	以下の内容の理解に努めること。 1) 学校図書館の理念と教育的意義 2) 学校図書館の発展と課題 3) 教育行政と学校図書館 4) 学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等） 5) 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 6) 学校図書館メディアの選択と管理、提供 7) 学校図書館活動 8) 図書館の相互協力とネットワーク

	学修テーマ	課 題
1	学校図書館の理念と教育的意義	学校図書館法や学習指導要領に謳われた理念を確認し、生涯学習社会・情報社会における学校図書館の意義について考える。
2	学校図書館の発展と課題	学校図書館の歴史的経緯を辿った後、今日的なニーズに応える学校図書館の姿を描く。
3	教育行政と学校図書館	学習指導要領の変遷と学校図書館活用の歴史をひもとく。
4	学校図書館の経営①人員	学校図書館業務に従事する専門職について考える。
5	学校図書館の経営②施設	学校図書館デザインについて先進事例に触れる。
6	学校図書館の経営③資料	学校図書館メディアの選定について知識を獲得する。
7	学校図書館の経営④予算	各種応募事業など学校図書館支援策について知識を得る。
8	学校図書館の経営⑤評価	学校図書館業務とサービスを評価する指標・基準について学ぶ。
9	司書教諭の役割と校内の協力体制、研修	司書教諭の多重的な役割と校内組織のあり方を考える。
10	学校図書館メディアの選択と管理、提供	学校図書館メディアの特性に応じた管理と活用を考える。
11	学校図書館活動①学習支援	学校図書館における学習支援について実例を基に考察する。
12	学校図書館活動②読書指導	学校図書館における読書指導について実例を基に考察する
13	学校図書館活動③地域との連携	地域ボランティア、地域との連携事業について実例を探る。
14	図書館の相互協力とネットワーク	ネットワーク化された図書館における情報サービスの利点を学ぶ。
15	まとめ	全体を振り返り学びを整理する。

シラバス執筆：木幡 智子

レポート課題

第1分冊 木幡 智子

第2分冊 木幡 智子

第1分冊 〈略題〉学校図書館の理念と役割 1～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

1990年代後半以降の学校図書館を取り巻く状況の変化を、関連法令、文部科学省の施策、学習指導要領などの文書から読み取り、今後の学校図書館に望まれる機能と役割について、教育はこうあるべきであるという自らの理念をまじえて論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①原稿用紙の間違った使用や、レポート作成の基本的な技法を踏まえずに執筆している例が目立つ。論の裏付けとなる客観的なデータや事例を引用する、引用した事例については出典を示す、参考文献リストを文末に付与する等、基本的な論文作法を守り執筆すること。
- ②具体的な実践事例、文献などを紹介する場合には、必ず実施主体、実施年度、書誌事項などを明記すること。特定できない事例、匿名の事例の紹介があった場合にはレポートとして不適切とみなし不合格となるため注意して執筆してほしい。

〈評価の観点〉

- ①学校図書館の理念と役割が明記されている諸文献が適切に選択されているか。
- ②テキストから学んだ内容と自らの考察が明確に区別して記述されているか。
- ③適切な形式・作法によってレポートが作成されているか。

〈その他の注意点〉

- 単なる感想文や体験談に終わらない、大学レベルのレポートとするためには、①論の裏付けとなる客観的なデータを引用する、②引用した事例については出典を示す参考文献リストを文末に付与する等、基本的な論文作法の習得が必要である。推薦図書は以下：
- (1) 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018年
 - (2) 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員著『学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会、2014年

第2分冊 〈略題〉学校図書館の実践事例 4～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト第四章から第七章で取り上げている項目の中から、自身の体験あるいは近隣自治体（無い場合には遠方でも可）での取り組み例の一つを選び、具体的にその効果と問題点について司書教諭としての視点から論じなさい。過去5年以内の事例が望ましい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①原稿用紙の間違った使用や、レポート作成の基本的な技法を踏まえずに執筆している例が目立つ。論の裏付けとなる客観的なデータや事例を引用する、引用した事例については出典を示す、参考文献リストを文末に付与する等、基本的な論文作法を守り執筆すること。
- ②具体的な実践事例、文献などを紹介する場合には、必ず実施主体、実施年度、書誌事項などを明記すること。特定できない事例、匿名の事例の紹介があった場合にはレポートとして不適切とみなし不合格となるため注意して執筆してほしい。

〈評価の観点〉

- ①テキストから選択した項目が明示されているか。
- ②取り組みについて、定義や解説、実施要領、効果の評価、問題点などが適切に整理されて記述されているか。
- ③引用や取材の内容が正しく引用され、自身の考察と区別して書き分けられているか。

〈その他の注意点〉

具体的な実践事例、文献などを紹介する場合には、必ず実施主体、実施年度、書誌事項などを明記すること。特定できない事例、匿名の事例の紹介は不適当とみなし不合格とするので注意すること。

参考文献

全国学校図書館協議会（編）『学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』全国学校図書館協議会 2012年
 全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践』改訂版、悠光堂、2017年
 文部科学省「学校図書館ガイドライン」2016年
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm（参照日 2018-12-13）

科目試験等への
アドバイス

「学修の留意点」に記された内容ごとに主要な論点を説明できるようにしておくことが望ましい。

教員からの
メッセージ

子どもの読書活動推進計画や新学習指導要領では、学校図書館の活用に重点が置かれています。司書教諭には、児童生徒が、図書をはじめとした多様な情報源を用いて学習を深めることを指導するとともに、一般教員の指南役として学校図書館活用のリーダーシップを発揮することが求められています。そのため、司書教諭自身が、資料からの正しい引用の方法など、情報活用の基本的な素養も身につけていることが重要です。レポートではその点も厳しく評価します。

近年、学校図書館活用に注目が集まり、テキストでは最新の情報がカバーできていませんので、文部科学省ウェブサイトや全国学校図書館協議会ウェブサイトなどを適宜参照して最新の情報を収集してください。

TT0055 学校図書館メディアの構成

2単位

テキスト名
『学校図書館メディアの構成』
通信教育課程刊行テキスト

科目概要	学校図書館サービスの資源となる情報源の種類と特性について、教育課程との関連に留意しつつ論じる。また、情報源に対する利用者からの要求に対して、的確な情報源が検索できるための、メディアの組織化の技法について取り上げる。さらに、多様な学習環境に応じた学校図書館メディアの構成、学習情報センターとしての学校図書館のあり方について考察する。(司書教諭資格必修科目)
主な到達目標	メディアの組織化に関する基本的な理解ができていること。各種の情報源の特性を把握していること。メディアの各々の特性を考慮した上で適切なメディアを選択し、それを活用した授業が行えること。
テキスト学修の留意点	インターネットについてはテキストに触れられていないので、下記の参考文献などで補うこと。また、インターネットを含め学校図書館メディアを活用したさまざまな実践例に、図書・雑誌・インターネットなどで触れることができるので、参考にされたい。ただし、「特定のメディアを使うこと」自体が自己目的化しがちなので、「本科目においてはメディアは授業の中で活用する道具（ツール）である」という視点を忘れないようにしたい。 NDCの学習の箇所では、手元にNDC（新訂9版または新訂10版）を置いて学習を進めると理解しやすい。 なお、テキスト p.106 上7行目「チカン」は「チャン」が、また p.112 表題部の「網目表（あみめひょう?）」は「網目表（こうもくひょう）」が正しい。

	学修テーマ	課 題
1	学校図書館メディアの種類と特性（1）	学校図書館メディアとは何か、またどのような機能を持つか、どのようなありかたが求められるかを、学校図書館法や学習指導要領を手がかりにしつつ考察せよ。 なお、テキストに引用されている学校図書館法第2条は後半が省略されている。この条文を読むと、学校図書館の目的が何であるかが分かるのだが、その目的（2つある）のうち前半しか掲載されていないので、必ず実際の条文を調べること。
2	学校図書館メディアの種類と特性（2）	さまざまな学校図書館メディアについて、その種類と特性を把握し説明せよ。
3	学校図書館メディアの活用	学習過程の3段階をふまえて、各段階における学校図書館メディアの効果的な活用法を考えよ。
4	学校図書館メディアの選択	学校図書館メディアを選択する際の基準と、選定委員会の活動について理解し、その上でテキスト p.39 に掲載した各種の選定ツールを実際に見て（学校図書館や公共図書館にはたいていあるはず）、それぞれの特徴をまとめよ。
5	学校図書館メディアの構成	蔵書構成の基準、主題別の配分比率、排架の原則と資料の別置について理解し説明せよ。
6	学校図書館メディアの組織化（1）	メディアの組織化とは何か、それは何のために行うか。
7	学校図書館メディアの組織化（2）	書誌コントロールとは何か、それは何のために行うか。
8	記述目録法（1）	目録規則の意義、規則の概要、記述と標目について説明せよ。
9	記述目録法（2）	書誌階層、各種の記述目録法、MARC について説明せよ。
10	主題目録法（1）	主題検索の概要、主題分析と分類作業、NDC の概要を述べよ。
11	主題目録法（2）	分類規程、補助表、図書記号、件名作業とはどのようなものか、それぞれ述べよ。
12	学習環境としての学校図書館	学習環境としての学校図書館には何が求められるか。また、メディアの配置に関する留意点、集中管理と分散管理の得失について考察せよ。
13	学習・情報センターとしての学校図書館	学校図書館が学習・情報センターとして機能するためには何が求められるか、またメディアの配置はどうあるべきか。できるだけ実例に即して考えよ（テキスト掲載の例以外にも実際に視察したり文献などで探すと良い）。
14	読書センターとしての学校図書館	学校図書館が読書センターとして機能するためには何が求められるか、またメディアの配置はどうあるべきか。できるだけ実例に即して考えよ。
15	まとめ	これまでの学習を振り返り、学校図書館メディアの構成が学校図書館の機能の実現にとってなぜ重要かを考察せよ。

シラバス執筆：松山 巖

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉学校図書館メディアの特徴 第I部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

前半：テキストの記述等を参考にして、学校図書館メディアとは何かという自分なりの定義を述べよ。その上で、その特性と範囲、具体的な種類などを簡潔に述べよ。

後半：前半で述べた自分なりの定義に照らして考えた際、インターネット上の情報源は学校図書館メディアとして位置づけられるかどうかについて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

前半：

「学校図書館メディアの自分なりの定義」に、学校図書館メディアが持つさまざまな特質などを列挙する人がいるが、それでは定義にならない。「どういうものが学校図書館メディアと言えるのか」という判断に使えるような説明を考えること。また、「自分なり」といっても、「学校図書館メディアは必ず〇〇である！」式に、これまで誰も述べていない余りにも独創的なものを天下り的に導入するのではなく、テキスト等の記述によって裏付けられるような主張であること。

「学校図書館メディアの具体的な種類」については、単に名前を列挙するだけではなく、簡単な説明も付けること。

後半：

インターネットについてはテキストに記載されていない。学校図書館法の理念を踏まえ、また参考文献等を利用して論じること。また、レポート前半で書いた学校図書館メディアの定義に照らして、自分なりの考察を加えること。（前半と関係ない議論を展開して不合格となる例が多い。）

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 内容は課題にきちんと答えているか。
4. 後半で書かれていることが、前半で述べた内容をふまえたものになっているか。

〈その他の注意点〉

なし

第2分冊 〈略題〉組織化 第II部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

前半：学校図書館メディアの組織化（目録法と分類法）とは何か、説明せよ。

後半：前半で述べたことを踏まえ、学校図書館における実際の活用場面を想定しながら、組織化の意義と重要性について述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

単なる組織化の一般論について述べるにとどまるのではなく、「学校図書館において組織化がどう生きるか」という視点を忘れないこと。

「実際の活用場面」では、ある特定の学年・教科を想定した上で、具体的な事例（特定の単元の学習とか、特定の題材の調べ学習とか、児童からの特定の質問など）を挙げ（ただし図書館の利用の仕方自体を学ぶ時間については対象外とする）、それぞれの事例・場面においてこういう組織化（例えば書架分類法など）が生きる、というふうに述べる。その際、組織化の手法は複数取り上げること（目録法に全く触れていないレポートが非常に多い）。

指導案は書かないこと。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 内容は課題にきちんと答えているか。
4. 上記の留意事項が守られているか。

〈その他の注意点〉

なし

参考文献

堀川照代他編著『インターネット時代の学校図書館』東京電機大学出版局、2003年 ISBN 4-501-61970-8
他はテキストに紹介されているのでそちらを参照されたい。

科目試験等への
アドバイス

本科目に特有の方法といったものは特になし。テキストをしっかりと読んで学習し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずである。

例えば、学習ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つであろう。

教員からの
メッセージ

シラバスに記した「課題」は、どちらかといえば学習する際の主要な留意点と考えてほしい。このほかに、学習の節目節目で取り組むべき課題は、テキスト内の各所に「演習問題」として掲載してあるので、積極的に取り組まれない。

科目概要	本科目では教科に関する科目として、小学校家庭科の学修内容を指導する上で必要となる基礎的知識を学ぶ。まず、第1分冊では家族や生活時間、家事労働、さらに食生活における栄養、食品、調理について学ぶ。第2分冊では衣服の着装、被服材料や被服衛生、被服製作について、さらに住居の役割や室内環境などの住生活や、家庭経済及び消費者問題、環境問題について理解を深め、家庭生活を営む上での基本的な知識や考え方を理解する。
主な到達目標	・家庭生活を学修対象とする家庭科を指導する上で、家庭生活に関する基本概念や基礎的な知識を理解できること。 ・衣食住生活や消費・環境に関する基本概念を使用して、主体的に生活を創造する意識を高めることができること。 ・家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境等にかかわる諸問題を的確に把握し、現状をふまえた家庭の創造、豊かな家庭生活を旨とすることができること。
テキスト学修の留意点	・家庭生活を営むことはテキストに要約された知識だけでなく技能も必要であるので、技能を習得するために日常生活の中で理論と実践の連携を図ってほしい。 ・主な到達目標にかかわる課題について、基本概念を理解して説明できるようにする。 ・レポート課題は、テキストの内容をそのまま写すのではなく、内容を十分咀嚼して自己の言葉で解答しようとするよう努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	家族	・家族の機能とは何か。 ・わが国の家族構成はどのように変遷してきたか。 ・ファミリーライフサイクルの特徴についてまとめよ。 ・現代家族の多様な形態をあげよ。
2	生活時間と家事労働	・日本人の生活時間はどのように変遷してきたか。 ・労働と生活時間のかかわりをどうとらえるか。 ・アンペイドワークの特徴と貨幣評価について考察せよ。 ・M字型カーブと女性の就労との関係を考察せよ。
3	栄養	・栄養と栄養素の違いは何か。 ・栄養素の種類とその働きをまとめよ。
4	食品	・食品群とは何か。 ・食品の特性を具体的に例示せよ。 ・食品添加物の種類や役割について説明せよ。
5	調理	・調理の基本操作を具体的に述べよ。 ・米の栄養価、みその栄養価についてまとめよ。 ・米飯とみそ汁の調理法を整理せよ。
6	食生活	・食育とはなにか。 ・食事マナーについてどのように考えるか。 ・今日の食生活上の問題点は何か。
7	衣服の着装と機能	・衣服の着用目的をどうとらえるか。 ・ライフスタイルの変化と衣服の着装とはどうかかわっているか。
8	衣服材料と手入れ	・繊維の種類とその特徴を説明せよ。 ・織物と編み物の特徴を比較せよ。 ・汚れの種類にはどんなものがあるか。 ・洗剤の働きと汚れが落ちるメカニズムとの関係をどうとらえるか。
9	被服製作	・被服製作用具の種類をあげ、安全な取扱いについて説明せよ。 ・手縫いの基礎をあげ、練習してみよう。
10	住居の機能と設計	・住居の役割とはどのようなことか。 ・生活行為と住空間の構成とのかかわりをどのように考えるべきか。
11	住環境	・住環境（熱環境、空気環境、光環境、音環境）をどうとらえるか。 ・給・排水についてどのように生活上配慮をすべきか。
12	住居の管理	・住居の汚れにはどのようなものがあるか。 ・住居の手入れ、清掃について配慮すべきことをまとめよ。 ・安全に住まうために配慮することとは何か。
13	家庭経済	・家計構造（収入と支出）はどのように分類され、どのように考えればよいか。 ・消費支出の特徴を指摘せよ。
14	消費者問題	・消費者問題の変遷をたどり、今日の消費者問題の特徴を考察せよ。 ・消費者問題を誘発する事柄をあげよ（悪質商法、カード、多重債務 etc.）。
15	環境問題	・今日の環境問題をあげよ。 ・持続可能な社会を目指すにはどのようなことに配慮すべきかまとめよ。

レポート課題

第1分冊 若月 温美

第2分冊 藤田 昌子・若月 温美

第1分冊 〈略題〉家族 第1分冊(第1章～第5章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

今日の家族形態の特徴をあげなさい。また、「家族・家庭生活」の指導において配慮する事項をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①現代の子どもたちを取り巻く家族や家庭の変容をまとめること。
- ②家庭科で指導する時、どのような配慮を心がけたらよいか述べる。

〈評価の観点〉

- ①課題に沿って内容が整理・要約されているか。
- ②文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ③テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉住まい 第2分冊(第6章～第14章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

快適な住まいの条件をまとめ、自己の住まいを点検し、良い点や改善点等を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①良い住まい環境を多方面から明らかにすること。
- ②自己の住まいを見直し、自己点検すること。

〈評価の観点〉

- ①快適な住まいの条件が例示されてるか。
- ②自己の住まいを点検できているか。
- ③テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。
- ④趣旨が曖昧で、誤字脱字が多いと再提出になる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....
 テキストの学修を先行して行い、さらに発展的学修をするために有用な参考文献がテキストの各章末に記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験問題は、家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境に関する基礎的概念の説明を求める問題を出題する。テキスト全範囲から基礎的な知識を問う問題を出題する。
 - ・本科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

-
- ・テキスト学修は、机上のものになりがちであるが、テキストにより学んだことを実際の日常生活で確かめて実践することも必要である。
 - ・学んだことを自己の家庭生活で検証し、役立てていくことが望ましい。

TT0057 家庭科指導法

2単位

テキスト名

『教科指導法シリーズ 小学校指導法
家庭 改訂第2版』
玉川大学出版部

科目概要	小学校家庭科は家庭生活を営むために必要な衣・食・住生活や家族、消費、環境等に関わる知識や技能を実践的・体験的な学習を通して習得し、家族の一員として望ましい人間を形成することを目的としている。本科目は、家庭科の目標、内容、学習指導法、指導計画、評価、家庭科の歴史について理論的に学び、家庭科を指導する際、指導上理解しておくべき事項を習得する。そして、家庭科を担当する教師として望ましい資質や力量を養うことをめざす。
主な到達目標	- 家庭科教育の本質が理解でき、目標、内容など家庭科の教科論について説明できる。 - 家庭科を指導するための学習指導法や評価について、基本概念を使用して説明できる。 - 家庭科に対して興味・関心をもち、家庭科の指導を工夫し、指導しようとする意欲的な指導観を獲得できる。
テキスト学修の留意点	- 下記の各課題の解答をまとめ、説明できるようにする。 - 家庭科を指導するためには、テキストに要約された知識だけでなく技能も必要であるので、技能を習得するために日常生活の中で理論と実践の連携を図ってほしい。 - 主な到達目標にかかわる課題について、基本概念を理解して説明できるようにする。 - レポート課題は、テキストの内容をそのまま写すのではなく、内容を十分咀嚼して自己の言葉で解答するよう努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	家庭科教育の意義と役割	- 家庭科教育と家庭教育の類似点や相違点をまとめよ。 - 家庭科の教育的特質を述べよ。 - 教育課程における家庭科の位置づけを説明せよ。 - 児童の生活実態や心身の発達を考慮した家庭科の指導はどうあるべきか。
2	家庭科教育の目標・内容	- 家庭科の目標をまとめよ。 - 家庭科の学習内容にはどのような事項があるか。 - 他教科と家庭科との関連をどう考えるか。
3	家庭科教育の歴史	- 戦前の家庭科教育は何を主眼として指導されていたか。 - 戦後の家庭科教育と戦前の家庭科教育との類似点や相違点をまとめよ。
4	家庭科の指導法	- 学習指導の原理と家庭科指導の実際を具体的に関連づけて説明せよ。 - 家庭科の特徴的な学習指導法を例示せよ。
5	家庭科の評価	- 教師や学習者にとって評価はなぜ必要か。 - 家庭科の評価の4観点についてまとめよ。 - それぞれの評価の観点に基づいて評価するには、具体的にどのような方法を用いるとよいか。
6	家族・家庭生活	- 自分の成長と家族について、どのように指導するか。 - 家庭生活と仕事について、具体的にどのように工夫して指導するか。 - 家族・家庭生活についての課題と実践について、具体的に考えてみよう。
7	食生活	- 食事の大切さを実感をもって学習させるにはどうすべきか。 - 食品の体内での主な働きと含まれる食品についてまとめよ。 - 栄養を考えた食事計画の指導をどうしたらよいか。
8	調理の基礎	- 基本的な調理操作とは何か、例示せよ。 - 調理の基礎について指導するには、どのようなことを留意すべきか。 - 米飯とみそ汁の調理方法と指導上の留意点を整理せよ。
9	衣生活	- 衣服の着用目的をあげ、児童にどのように指導するか。 - 被服の手入れについてどのように指導するか。 - 洗剤の働きと汚れの落ちる様子を説明せよ。
10	生活を豊かにするための布を用いたものの製作	- 被服製作用具の種類と安全な取り扱い方をまとめよ。 - 手縫いの基礎とは何か。指導の留意点をあげよ。 - 生活を豊かにするための布を用いた物の製作をどのように指導すると効果的か。 - ミシンを扱う場合の指導の留意点をまとめよ。
11	住生活	- 住居の機能とは何か。 - 安全・快適な住まい方とはどのようなことに配慮して住むことか。 - 住居の管理とこれからの住生活についてどのようなことが指摘できるか。
12	消費と環境	- 今日の子どもをめぐる消費者問題について例示せよ。 - 購入したいと思う物を決め、購買の意思決定のプロセスを考えてみよう。 - 持続可能な社会と消費生活との関係を考察せよ。
13	家庭科の指導計画	- 指導計画作成の意義とは何か。 - 指導計画作成における留意点をあげよ。 - 題材の構成と配列を考える際に留意することをあげよ。
14	家庭科の施設・設備と家庭科教師	- 家庭科の施設・設備の管理・充足のために留意することを述べよ。 - 家庭科を指導する教師の資質・力量について例示せよ。
15	家庭科教育の課題と展望	- 家庭科教育の課題を整理し、どのようにとらえ、解決を図っていくか考察せよ。 - 今後の家庭科教育に望むことは何か。具体的に述べよ。

シラバス執筆：真田 知恵子

レポート課題

第1分冊 真田 知恵子

第2分冊 真田 知恵子

第1分冊 〈略題〉家庭科の指導内容 第1分冊(第1章～第5章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

児童の家庭生活の実態をふまえて、家庭科で指導したい事項をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①平成29年告示の学習指導要領の記述をふまえて論じること。
- ②児童の家庭生活等の変化から特に指導すべき事項を論じること。

〈評価の観点〉

- ①テーマに沿って内容が整理されているか。
- ②平成29年告示の学習指導要領をもとに言及しているか。
- ③文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ④テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉米飯とみそ汁 第2分冊(第6章～第13章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「米飯とみそ汁」の調理の指導の要点と指導上の留意点をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①具体的な対象者や授業の設定を明確にすること。
- ②小学校学習指導要領(平成29年告示)の記述内容についても参考にすること。
- ③図、表、写真等の資料を活用して具体的に述べること。

〈評価の観点〉

- ①課題に沿って内容が整理・要約されているか。
- ②文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ③授業の展開については、指導学年や指導内容を具体的に例示しているか。
- ④テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....
学習はテキストの学習を先行して行い、さらに発展的学習をするために、有用な参考文献がテキストの各章末に記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験問題は、家庭科や家庭科指導に関する基本概念の説明を求める問題と、家庭科を指導する上で理解しておくべき事項を出題する。基本概念の出題は、テキスト全範囲からとなるが、基礎的な指導事項は実践編の中から出題する。
 - ・本科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

-
- ・テキスト学習は机上のものになりがちなので、テキストにより学んだことを実際の日常生活で確かめてみる必要がある。特に、実習や製作などについて学んだことを、自己の家庭生活に役立てていくことが望まれる。そのことによって、指導の力量が養われるからである。

科目概要	学校教育における環境教育の意義を学び、それを実践する上で必要となる環境教育の基礎論および応用論を扱う。基礎論では主に環境問題とは何かを理解し、環境問題を解決していく上での環境教育の役割について学ぶ。応用論では、環境教育において有効性が確認されたさまざまな学習方法について学んでいく。主に小学校で環境教育を指導するための知識・理解を深め、学習活動における実践的な指導力を高めることを目標とする。
主な到達目標	1. 学校教育における環境教育の意義を理解する。 2. 社会の変化や私たちの暮らしと環境について理解する。 3. 学習指導要領の内容を理解・分析し、単元構成、指導案を作成することができる。 4. 児童が興味・関心を高めるような教材開発や指導法を身に付けることができる。
テキスト学修の留意点	1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。 2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。 3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。 テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。 4. レポート作成は「レポート作成にあたっての留意事項と評価の観点」を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	環境問題と環境教育の目的	「序章：なぜ環境教育を学ぶのか」「1章：人類の発展と環境問題」を読み、それぞれ要点をまとめ、環境問題と環境教育の役割を理解することができるようになること。
2	世界が抱える環境問題 1	「2章：世界が抱える環境問題 1～地球温暖化問題～」を読み、要点をまとめ、地球温暖化とは何か、地球温暖化の基礎を理解することができるようになること。
3	世界が抱える環境問題 2	「3章：世界が抱える環境問題 2～生態系と生物多様性～」を読み、要点をまとめ、生態系・生物多様性とその価値を理解することができるようになること。また生態系・生物多様性の危機やその現状を知り、その保全のためにどのようにすればよいかを考えることができるようになること。
4	世界が抱える環境問題 3	「4章：世界が抱える環境問題 3～資源制約とゴミ問題から循環型社会形成へ～」を読み、要点をまとめ、国や地球規模で物資収支・資源の枯渇性と再生可能性・廃棄物対策の原則・化学物質や有機廃棄物管理の原則の考え方を理解することができるようになること。
5	世界が抱える環境問題 4	「5章：世界が抱える環境問題 4～食料・水・人口～」を読み、要点をまとめ、食料生産および食料と水の国際的な移動に関する動向を理解し、その環境への負荷を人口問題を交えて STS の視点から考えることができるようになること。
6	持続可能性を脅かす諸問題	「6章：持続可能性を脅かす諸問題～ミレニアム開発目標（MDG）をめぐる～」を読み、要点をまとめ、MDG に挙げられた課題から国際社会がどのような課題に直面し、解決しようとしたのか。またそれらを解決するための国際協力や参加型学習の手法を理解できるようになること。
7	環境教育の進め方とその理論的背景	「7章：環境教育の進め方とその理論的背景」を読み、要点をまとめ、環境教育の目的・目標を理解し、持続可能な社会への参加の方法と環境教育の進め方について考えることができるようになること。
8	環境教育における環境倫理の使命と役割	「8章：環境教育における環境倫理の使命と役割」を読み、要点をまとめ、環境教育の基盤となる3つの環境倫理的な情操および環境倫理の思想の変遷について学び、その意義・役割について理解することができるようになること。
9	環境教育の目的と方法 1	「9章：環境教育の目的と方法 1～環境保全意識向上につながる自然観察・自然体験」を読み、要点をまとめ、自然観察・自然体験の内容・方法について学び、環境保全意識向上につながる自然観察の進め方について理解を深めることができるようになること。
10	環境教育の目的と方法 2	「10章：環境教育の目的と方法 2～参加型学習と市民学習～」を読み、要点をまとめ、環境教育における参加と参加型学習の意味、市民の視点が重視されるようになった背景を理解するとともに、参加型市民教育のあり方について理解を深めることができるようになること。
11	環境教育の目的と方法 3	「11章：環境教育の目的と方法 3～科学的アプローチ～」を読み、要点をまとめ、科学的な観点に立った環境教育には、どのようなものがあるのか、それぞれの観点について理解することができるようになること。
12	環境教育の目的と方法 4	「12章：環境教育の目的と方法 4～学校と地域の連携～」を読み、要点をまとめ、学校と地域が連携して進める環境教育のあり方について、自然環境学習や食農学習を例に理解することができるようになること。
13	環境教育の目的と方法 5	「13章：環境教育の目的と方法 5～多様なステークホルダーとの連携～」を読み、要点をまとめ、学校・NGO・メディア・企業など多様なステークホルダーの特徴を学び、その連携について地域社会・行政を中心に実践事例を通してその理解を深めることができるようになること。
14	学校における環境教育の計画・プログラムづくりに向けた視点	「14章：学校における環境教育の計画・プログラムづくりに向けた視点」を読み、要点をまとめ、学校の環境教育を充実させるための教育計画や学習プログラムの企画・立案における基本的視点を理解することができるようになること。
15	循環型社会の実現と人類の未来	「終章：循環型社会の実現と人類の未来のために」を読み、要点をまとめ、日本における持続可能性を脅かすさまざまな課題やこれまでの取り組みについて学び、循環型社会を実現するために日本が果たすべき役割について考えを持つことができるようになること。

レポート課題

第1分冊 市川 直子

第2分冊 市川 直子

第1分冊 〈略題〉環境教育と環境教育の目的 1～6章

横書き

Word添付

〈課題〉

はじめに、環境教育および環境教育の目的についてまとめなさい。次に、それを踏まえた上で、「持続可能な社会」に向けて、子供たちに身に付けてもらいたい意識や資質・能力、何を学ぶべきかについて、自分の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。
2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。
3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。
テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。
4. テキスト以外の文献を参考または引用し、論述すること。

〈評価の観点〉

1. 課題に対する理解：テキストやその他文献についての内容をよく理解していること。
2. 論理的構成：単なる思い出や感想文でなく、論理的な構成かつ的確にして簡潔に論述されていること。
3. 書式：正しい文章であることはもちろんのこと、記号をつけるなど、分かりやすい文脈の工夫がなされていること。
4. 文献：参考・引用文献数や内容。本文中およびレポート末尾の引用・参考文献の一覧が正しく表記されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストやその他文献を引用する場合、引用符「」を用いて、その出典（著者名、出版年）を明記すること。
- ・テキスト含め、参考文献（著者・文献名・出版社・出版年）を明記すること。
インターネットのURLを引用する場合は、開設ホーム先の名称とアドレス、閲覧日、主な内容を記載すること。
- ・参考・引用文献は重要であり、テキストを含めて文末に正しく記載すること。

第2分冊 〈略題〉理科における環境教育と学習指導案の作成 7章～14章

横書き

Word添付

〈課題〉

はじめに、理科における環境教育の目標および内容を具体的に解説しなさい。次に、それを踏まえた上で、小学校理科の単元のなかで実践可能な理科における環境教育の学習指導案を立案し、まとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。
2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。
3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。
4. テキスト以外の文献を参考または引用し、論述すること。

〈評価の観点〉

1. 課題に対する理解：テキストやその他文献についての内容をよく理解していること。
2. 論理的構成：単なる思い出や感想文でなく、論理的な構成かつ的確にして簡潔に論述されていること。
3. 書式：正しい文章であることはもちろんのこと、記号をつけるなど、分かりやすい文脈の工夫がなされていること。
4. 文献：参考・引用文献数や内容（種類）、本文中およびレポート末尾の引用・参考文献が正しく表記されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストやその他文献を引用する場合、引用符「」を用いて、その出典（著者名、出版年）を明記すること。
- ・テキスト含め、参考文献（著者・文献名・出版社・出版年）を明記すること。
インターネットのURLを引用する場合は、開設ホーム先の名称とアドレス、閲覧日、主な内容を記載すること。
- ・参考・引用文献は重要であり、テキストを含めて文末に正しく記載すること。

参考文献

- ・文部科学省 各教科の『学習指導要領（平成29年告知）解説』文部科学省、2018
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『環境教育指導資料（幼稚園・小学校編）』東洋館出版社、2014
- ・多田満『レーチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011
- ・嘉田由紀子ほか『レーチェル・カーソンに学ぶ現代環境論 アクティブラーニングによる環境教育の試み』法律文化社、2017
- ・北野日出夫ほか『自然との共生をめざす環境学習』玉川大学出版部、2002
- ・佐藤定久ほか『SDGsと環境教育』学文社、2017
- ・国立教育政策研究所『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕』
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf（2021年3月29日最終閲覧）

科目試験等への
アドバイス

- ・出題範囲はテキスト全体からとなるが、主に各章の要点から出題する。
- ・本科目試験ではテキスト内容を理解し、自分の言葉で説明できているかを重視する。
- ・問題に「具体的に説明せよ」とある場合、必ず実際の例を示して説明すること。
- ・一つの基本概念の学習には、関連する概念・考え方と結びつけた構造的な学習が必要である。そのためテキストだけでなく、いくつかの文献を引用・参考にしながら論を展開するとよい。

教員からの
メッセージ

- ・テキスト学習は机上のものになりがちだが、ここで学んだことを実際の児童の実態に合わせ、学習活動に結びつけて考えることができるようになることがねらいである。
- ・小学校における環境教育の関連する学習は「生活科」「理科」「社会科」「家庭科」ほか「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」等があり、これらの連携を図ることが望ましく、それを視野に入れて、環境教育の実践の向上に努めて欲しい。

科目概要	本講義では、日本・世界における美しい観光資源の風景を概観した上で、その類型や特性、観光利用の現状について理解を深めていく。その際、日本および海外の主な観光地でみられる特色的な観光資源の地域的特性、自然環境（地形・気候・植生など）との関わり、生活や産業などの現状や課題を地誌的に理解するとともに、持続可能な観光開発のあり方を考察していく。
主な到達目標	日本・世界の観光地誌に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得する。特に、人間と自然・環境との関連性を踏まえて、日本と世界の観光地域を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。同時に、観光に関する用語や、地図・統計グラフ・表を作成・分析する能力も修得する。
テキスト学修の留意点	本授業において指定したテキストは、各章のトピックに関する地図や統計データ・図・表・写真が豊富に掲載されており、文章をよりわかりやすく把握できるよう工夫されている。これらを参考に、観光の地誌的学修において不可欠な地図や図表等の表現技法を修得し、レポート作成に役立てて頂きたい。

	学修テーマ	課 題
1	観光の概念	本授業の最初の学びとして、「観光」とは何か、どのような事業が観光になり得るのか学ぶとともに、現代社会において対象となる観光地誌学の課題と学習の意義を理解する。
2	観光地の形成と観光地理学	観光地の成り立ちと形態はどのようになっているのか、観光地を地理学的視点から研究する「観光地理学」や「観光地誌学」はいかなる学問なのか、理解を深める。
3	温泉の基礎知識	観光地を形成する主要な地域資源である「温泉」について、まずは基礎知識としての「温泉の定義」、「温泉の生成」、「温泉の分類」を理解する。
4	温泉地の発展	温泉地が明治時代以降、どのようにして発展していったか、そのプロセスを理解する。また、環境省「国民保養温泉地」の指定や温泉の有効利用と需給バランスについて学ぶ。
5	観光多様性論	観光多様性の事例として「九州横断観光ルート」の現状を学ぶ。特に、観光地域指数を用いて、九州地方の観光業への依存度を定量的に把握する。そして、九州横断観光ルートの地域別観光多様性の概念を理解する。
6	砂丘の美観	日本を代表する砂丘である「鳥取砂丘」の形成過程や地形的特性を理解する。また、砂地に適したラッキョウ、白ネギなどの農作物の栽培、砂丘を活用した特色ある観光について学ぶ。そして、美しい砂丘景観を維持するための官民共働による砂丘保全再生活動を理解する。
7	海洋リゾートの美観	世界を代表する海洋リゾートの「ハワイ」について、まずハワイ諸島の形成と気候を把握する。次に、ハワイの多文化社会の形成と観光発展を学ぶ。そして、ハワイ州の州都・ホノルルの自然と文化が反映された観光名所を理解する。
8	山岳の美観	日本を代表する山岳観光地である「立山黒部アルペンルート」について、まず自然環境を把握する。次に、山岳信仰から近代登山へ、さらに大衆観光の時代へと発展した立山黒部の観光を学ぶ。そして、現在の観光客の特性を理解する。
9	温泉地の美観	スイスにおける山岳観光の先駆を成した「リギカルトバート」について、その歴史的変遷および温泉入浴と組み合わせた多様な観光形態を学ぶ。特に、リギ山周辺の保養に適した自然環境と整備された観光客輸送機関が、観光の多様性を実現させていることを理解する。
10	植生の美観	日本最初の国立公園に指定された「雲仙岳のミヤマキリシマ群落」について、まずミヤマキリシマ群落の生態と分布を把握する。次に、ミヤマキリシマ群落保護の経緯を時系列で学ぶ。そして、現在の保護活動と課題を理解する。
11	野鳥の美観	日本最大の「釧路湿原」に生息する美しい野鳥である「タンチョウ」について、まず釧路湿原の形成とタンチョウの生態を理解する。次に、釧路市丹頂鶴自然公園のタンチョウの保護活動および屋外展示を学ぶ。そして、タンチョウの保護・増殖の新たな課題を知る。
12	水上クルーズの美観	水都「大阪」の礎となった堀川の整備と舟運を知る。次に、大阪シティクルーズのブランドづくりと大阪水上クルーズの美観めぐりの内容を理解する。そして、大阪城・中之島めぐりの水上クルーズを事例に美観めぐりの現状を学ぶ。
13	歴史街道の美観	ドイツを代表する歴史街道の都市「ローテンブルク」について、まずロマンチック街道の形成とローテンブルクの地勢を把握する。次に、ローテンブルクの都市発展を時系列で学ぶ。そして、歴史・文化が反映された現在の観光名所を理解する。
14	アニメ聖地の美観	近年、新しい観光として人気を博している「アニメツーリズム」について、まず日本政府の推進事業を知る。次に、日本のアニメツーリズムを推進する民間団体の活動内容を理解する。そして、この民間団体が認定するアニメ聖地88の地域特性を学ぶ。
15	総括—持続可能な観光地域をつくるために—	テキストで学んできた内容の総括として、各章における事例地域の多様な地域的特性や多様な自然・人文資源の観光活用とその意義について考察する。そして、持続可能な観光地域をつくるために必要な観光開発のあり方を考察し、自らの考えを論述できるようにする。

レポート課題

第1分冊 小堀 貴亮

第2分冊 小堀 貴亮

第1分冊 〈略題〉持続可能な観光開発 1章～第6章、テキストP4～P72

横書き

Word添付

〈課題〉

1章において観光の基礎知識および観光地理学の学問的性質を把握した上で、第2章～第6章において学んだ各事例の内容を踏まえて、持続可能な観光地域開発（観光地域づくり）のあり方について考察し、論述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストで取り上げられている事例地域における特色的な観光資源の地域的特性、自然環境との関わり、観光動態の現状を具体的に説明した上で、地域の課題を考察し、持続可能な観光開発のあり方について自身の考えを説明すること。

〈評価の観点〉

観光地理学における基本的な用語が正しく用いられているか、各事例地域における図表やデータを正しく分析し、それに基づいた説明がなされているか、自分自身の言葉で説明できているかを評価の観点とする。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉国内外の観光地域の比較 7章～第12章、テキストP74～P144

横書き

Word添付

〈課題〉

第7章～第12章において学んだ各種観光地域の事例を踏まえて、日本と海外における観光地域の比較考察をし、その形成や地域的特性、観光動態の現状、課題と展望について、それぞれの相違点を整理し、論述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストで取り上げられている各種観光地域の形成や地域的特性、観光動態の現状などを具体的に説明した上で、課題を踏まえた展望を考察し、自らの考えを中心に説明すること。テキストの文章の引用に頼り過ぎないようにする。

〈評価の観点〉

各事例地域における図表やデータを正しく分析し、それに基づいた説明がなされているか、日本と海外の観光地域について比較考察がしっかりなされているか、自分自身の言葉で説明できているかを評価の観点とする。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

山村順次著（1998）：『新版日本の温泉地—その発達・現状とあり方—』日本温泉協会
山村順次著（2004）：『世界の温泉地—発達と現状—（新版）』日本温泉協会
山村順次編著（2012）：『観光地理学（第2版）—観光地域の形成と課題—』同文館出版

科目試験等への
アドバイス

観光地誌学は、地名・場所・場所イメージの相互関係を把握しながら、様々な地域の理解を深めることで、より臨場感のある学びが可能となる。中学校や高等学校の地理資料や地図帳はもとより、旅行ガイドブックなどの各種観光情報メディアも有益な資料となる。

教員からの
メッセージ

日頃の生活の中や各種メディア等における観光に関連するトピックを意識的に注視し、地誌学的な見方や考え方を意識しながら、視野を広げていただきたい。

科目概要	小原國芳が『全人教育論』の冒頭で「教育は人間文化の全部を盛らねばなりません」と述べているように、「教育学」の内容は広範囲に及ぶ。哲学的視点、心理学的視点、歴史的視点のみならず理論的視点、実践的視点などさまざまな視点から「教育」を概観するのが本科目である。それによって教育の今日的課題を学ぶことができる。
主な到達目標	・教育哲学の意義について説明できる。 ・「教」と「育」の調和的関係について説明できる。 ・教育の歴史を学ぶことの意義について説明できる。 ・教育の理論と実践について説明できる。
テキスト学修の留意点	「学修テーマ」と「課題」を念頭に置き、テキストに赤字で記されている問いに対してどのように答えるかをイメージしながらテキストを読むこと。また一つの章を精読し終えたら、章末の〈演習問題〉を解いてみることも重要である。

	学修テーマ	課 題
1	教育目標への視点	「自律化」とはどういうことか。「教育目標の性格」とはどのようなものか。「特殊性と普遍性」をどのようにとらえるか。(序)
2	教育の理論と教育の歴史	教育理論の内容にはどのようなものがあるか。教育の歴史を学ぶことの意義とは何か。(序)
3	教育哲学の立場	教育哲学を「理想主義的」「人文主義的」「自然主義的」に分けた場合、それぞれの特色は何か。(1)
4	人間観	人間を、「自然的人間」「社会的人間」「形而上的人間」に分けた場合、それぞれの特色は何か。(1)
5	教育の目的と教育作用 (1)	人間にとって「(人間に) なる」とはどのようなことか。目的と手段とはどのような関係にあるのか。教育の目的についての三つの考え方とはどのようなものか。(1)
6	教育の目的と教育作用 (2)	普遍的な教育の目的を設定する立場とそれを否定する立場、それぞれの特徴は何か。(1)
7	教育関係	「教」と「育」の調和的関係とはどのようなものか。望ましい教育関係を成り立たせるための「教育者の態度」とはどのようなものか。(1)
8	教育思想史	教育思想史研究の意義とは何か。教育思想史研究において注意すべき点は何か。(2)
9	教育思想史研究	教育思想史研究の立場(方法)を「列伝的」「文化史的」「問題史的」「類型的」の四つに分けた場合、それぞれの特徴は何か。(2)
10	西洋教育史	(古代・中世) スパルタとアテナイの教育の特色は何か。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、それぞれの教育思想の特色は何か。古代ローマの教育にはどのようなものがあったか。中世の教育の特色は何か。(2)
11	西洋教育史	(近世・現代) ルネッサンスや宗教改革の教育上の意味とは何か。啓蒙主義とは何か。日本の庶民教育の特色とは何か。(2)
12	教育の理論と実践	教育の理論は教育実践についてどのような性格を有するか。教育の理論と実践はどのような関係を有するか。(3)
13	科学としての教育学	ヘルバルトの教育思想の特徴とは何か。科学としての教育学とはどのようなものか。演繹的方法と帰納的方法の違いはどのようなものか。(3)
14	技術としての教育学	教育が技術であるとはどういうことか。技術論にはどのような理論が要求されるのか。(3)
15	教育理論の役割	バルノーの考える教育理論の意義とはどのようなものか。(3)

シラバス執筆：杉山 倫也

レポート課題

第1分冊 杉山 倫也

第2分冊 杉山 倫也

第1分冊 〈略題〉教育哲学について「序」「1」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「教育哲学」とはいかなるものかについて説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「テキストに赤字で記されている問い」に留意しつつ、テキストの該当箇所を特によく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。自分の「解釈」を示すのではなく、テキストで何が記されているかを正確にまとめること。

〈評価の観点〉

正確な説明（要約）がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明できるようになることがポイントです。

第2分冊 〈略題〉教育思想史について「2」「3」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教育思想史研究の意義について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「テキストに赤字で記されている問い」に留意しつつ、テキストの該当箇所を特によく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。自分の「解釈」を示すのではなく、テキストで何が記されているかを正確にまとめること。

〈評価の観点〉

正確な説明（要約）がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明できるようになることがポイントです。

参考文献

第1分冊

カント著 加藤泰史訳『教育学』岩波書店 2001年（カント全集 17巻に収録）ISBN 978-4000923576
（その他の参考文献としては、p85～86を参照）

第2分冊

村井実『教育思想（上）』東洋館出版社 ISBN 978-4491010830

村井実『教育思想（下）』東洋館出版社 ISBN 978-4491010847

（その他の参考文献としては、テキスト p173～174を参照）

科目試験等への
アドバイス

このテキストは内容的に難しいので、まずは、「学修テーマ」と「課題」に記された問いを説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

試験合格への近道は、上記の課題にきちんと答えることができるかどうかです。

科目概要	現在の学校教育内容がどのような状況に置かれているのか、その教育内容はどのような原理で決まるのか、どのような枠組みで定められているのか、教えられた内容はどのように評価されるのか等、現在の教育内容の概略をおさえた上で、学校教育内容を歴史的にも概観し、最終的には次世代を担う子どもたちにとってどのような教育内容が必要なのかを考察する。
主な到達目標	学習指導要領を中心とした教育課程の枠組みを理解し、学校での教育活動の質を高めることができる素地を養う。
テキスト学修の留意点	学習指導要領等の教育内容に関する基本的な事項を理解し、学校における仕事をイメージできるようにすること。小学校以外の学校種についても、児童生徒の発達を考慮し、テキストの内容について学ぶようにすること。

	学修テーマ	課 題
1	教育課程とは何か（第1章）	教育内容の計画、カリキュラムの2つの水準、教育内容の選択を支える論理を理解する。
2	教育課程編成の基本原則（第2章）	文化遺産の継承・発展、社会現実への対応、子どもの求めの実現、3つの編成原理から見た学習指導要領の現状を理解する。
3	資質・能力の育成と教育課程（第3章）	非認知能力の重要性と育成可能性、世界のトレンドとしての資質・能力の育成、2017年版学習指導要領の学力論、「見方・考え方」の角度から見た各教科等と教育課程を理解する。
4	就学前教育と幼稚園教育要領等（第4章）	就学前教育の概要、幼稚園教育要領等の改訂、教育課程及び全体的な計画の編成の考え方を理解する。
5	小学校と学習指導要領（第5章）	小学校教育課程編成の法的枠組み、小学校学習指導要領の構成とポイント、小学校教育課程の運用を理解する。
6	中学校と学習指導要領（第6章）	中学校の教育課程と今次改訂の経緯、2017年版学習指導要領の特色、主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントを理解する。
7	高等学校と学習指導要領（第7章）	高等学校の教育課程と学習指導要領改訂の経緯、2018年版高等学校学習指導要領の特色、主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントを理解する。
8	特別支援教育と学習指導要領（第8章）	特別支援教育の概要、小学校学習指導要領等における特別支援教育、特別支援学校学習指導要領、教育課程編成と個別の指導計画を理解する。
9	単元計画と授業づくり（1）（第9章）	授業の構成要素としての活動と内容、単元計画を理解する。
10	単元計画と授業づくり（2）（第9章）	教材単元の計画と教科書との付き合い方、経験単元における単元計画の実践を理解する。
11	年間指導計画とカリキュラム・マネジメント（1）（第10章）	年間指導計画、カリキュラム・マネジメントを理解する。
12	年間指導計画とカリキュラム・マネジメント（2）（第10章）	カリキュラム・デザインの側面、PDCAサイクルの側面、内外リソースの活用の側面を理解する。
13	学習指導要領の変遷（1）（第11章）	明治時代から昭和前半の教育課程の変遷を理解する。
14	学習指導要領の変遷（2）（第11章）	1947年の学習指導要領から2017年の学習指導要領までの変遷を理解する。
15	社会における学校の役割とカリキュラム（第12章）	学校は何のために、何を教えるのか、という根本的な、そして重要な課題として、学校の役割とカリキュラムを理解することを通して、現代日本における教育課程編成の特質について自分の考えを持つ。

シラバス執筆：湯藤 定宗

レポート課題

第1分冊 湯藤 定宗

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉カリキュラム及び3つの視点と資質能力の3つの柱 テキスト第1章から第6章

横書き指定

Word指定

〈課題〉

- 課題①教育課程をテキストに基づき、定義した上で、カリキュラムの2つの水準について、以下の用語をすべて用いて、説明せよ。学習指導要領、学校カリキュラム、地域カリキュラム、指導計画
- 課題②「3つの視点」と「資質能力の3つの柱」の関係構造について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

①指定した用語それぞれについてもテキストに基づき、説明をすること。②引用する場合は、テキストであっても引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号（（1）等）を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、テキスト学修をしたうえでのレポート課題作成であることから、最低限テキストを参考文献として示すことは必要である。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容が端的にまとめられているか。
②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
②文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、テキスト第6章を参考のこと。

第2分冊 〈略題〉よい授業と本質的な問い テキスト第7章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 課題①良い授業についてテキストに基づきまとめた上で、あなたにとっての良い授業についてテキスト以外の文献等を必ず参考・引用して、自分の意見を述べなさい。
- 課題②「各教科等には、その教科等における多様な学びを貫く『本質的な問い』が存在する」（テキスト180頁）が、小学校等の授業の本質的な問いを二つ挙げ、本質的な問いはどのような資質・能力を身に付けさせることを意図しているかについても説明すること。また対象学年を示した上で、それぞれ異なる教科等から本質的な問いを提示することと、テキストの本質的な問い以外を挙げること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

引用する場合は、テキストであっても引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号（（1）等）を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、テキスト学修をしたうえでのレポート課題作成であることから、最低限テキストを参考文献として示すことは必要である。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容が端的にまとめられているか。
②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
②文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、テキスト第6章を参考のこと。

参考文献

- ①田中耕治他『新しい時代の教育課程（第4版）』有斐閣、2018年、ISBN978-4-641-22107-9

科目試験等への アドバイス

科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出題する。

教員からの メッセージ

各学校段階の学習指導要領等をしっかりと読んで、テキストの内容をより深く理解すること。

科目概要	教育原理は、特定の研究分野を背景とする科目ではないが、教職の必修科目として重要な科目である。そこで本科目では西洋及び日本の教育思想並びに教育理念の変遷を概観するものである。教育の思想は、偉大な教育家の“教育に関する信念・経験”を自己および他者が叙述した思想史である。例えば、古代ギリシャのソクラテスの産婆術（助産術）、近世のルソーの著作である『エミール』、ペスタロッチーの著作である『隠者の夕暮』などである。
主な到達目標	教育の歴史や思想を考察する際には、その時代における社会状況、とりわけ政治・経済・文化と比較関連させながらその教育を捉えることが重要である。それは、人間の文化が、その時代における人々の思いや願いを実現したものの積み重ねであると同様に、教育とは人間の歴史的発展段階の現象だからである。この点をよく理解していただきたい。
テキスト学修の留意点	学修は常に丁寧におこなうものであり、手を抜けば抜いただけ真理から遠ざかることを忘れないで欲しい。故に、専門用語を正しく理解することは学修上極めて重要なことである。必ず調べて正しく理解することを心掛けてもらいたい。不明な点を担当者に尋ねることを躊躇わないでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	教育理念の意味 (1分冊1章)	教育理念の意味及びその変遷を理解すること。また、教育理念としての人格の完成、さらに今日道德の教科化が叫ばれているが、その人格の完成に不可避である道德的自由（意志の自由）について正しく理解することが必要である。
2	西洋教育史（1） 古代・中世 (1分冊2章1・2節)	西洋教育史の出発点である古代ギリシャのスパルタとアテネの教育の相違を捉えると共に、古典時代を代表するソクラテス、プラトン、アリストテレスの教育思想について理解すること。中世における教育の特徴と共に大学の創設とスコラ学について理解すること。
3	西洋教育史（2） ルネサンス・近代 (1分冊2章3・4節)	ルネサンスの教育、エラスムスの教育思想、さらに、宗教改革者として著名なルターの教育改革の功績と、近代教育に多大な影響を与えたコメニウスの教育思想を理解すること。
4	西洋教育史（3） 啓蒙主義と新人文主義 (1分冊3章1・2節)	ルソー、ペスタロッチー、カントは教育学においては勿論、近代教育に影響を与えた教育者として極めて重要な人物である。ペスタロッチー、カントはルソーの影響を受けており、その様な視座からも彼らの教育思想の特徴を理解すること。
5	西洋教育史（4） 19世紀（1分冊3章3節）	ペスタロッチーの下で学んだ世界で最初に幼稚園を創始した幼児教育のフレーベル、同じくペスタロッチーの下で学んだ世界で最初に科学としての教育学を確立したヘルバルトの功績は重要である。この点の理解に際しては必要に応じて他著も参考にしてほしい。
6	西洋教育史（5） 20世紀（1分冊3章4節）	19世紀末から展開する新教育運動に多大の影響を与えたアメリカを代表する教育学者デューイは戦前戦後の日本教育にも大きな影響を与えており、アメリカの教育を語る上で欠くことのできない人物である。これらの点の理解に際しては必要に応じて他著も参考にしてほしい。
7	日本教育史（1） 古代・中世 (1分冊4章1・2節)	日本教育史は日本書紀に記載されている厩戸皇子を始まりとして、その後歴史に残る最澄の一乗止観院、さらに空海の綜芸種智院、さらに室町時代の足利学校が教育機関として挙げられる。これらの教育機関としての役割について考察せよ。
8	日本教育史（2） 近世（1分冊4章3節）	近世の教育機関としては藩校、私塾、寺子屋、郷学が発達しており、諸外国と比しても幕末期における書字文化の普及率は高い水準に到達していた。私塾からは幕末期に活躍する多くの人物を輩出している。これらの教育機関の特徴について理解すること。
9	日本教育史（3） 明治・大正 (1分冊5章1・2節)	近代的教育制度の原点である個人主義的傾向を有する学制及び学制序文の意味について理解すること。さらに国家主義的な教育施策を推し進める原動力となる教育勅語の発布は戦前までの日本の教育の中核をなすものである。教育勅語の歴史的な意味について理解すること。
10	日本教育史（4） 昭和・現在 (1分冊5章3・4節)	戦後の日本の教育は軍国主義的・国家主義的教育への猛省を原点として、日本国憲法に基づき教育基本法の制定からスタートしたが、1980年代以降の学校教育における閉塞感と種々の危機的状況が噴出してきている現状を考えてもらいたい。
11	西洋の教育思想（1）プラトンからペスタロッチーまで (2分冊6章1～5節)	教育史上重要なプラトン、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチーの著作における名言の抜粋とその解説を読んで、彼らが今日なお高く評価される所以を理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
12	西洋の教育思想（2） ヘルバルトからボルノーまで (2分冊6章6～11節)	教育史上重要なヘルバルト、フレーベル、デューイ、エレン・ケイ、ペーターゼン、ボルノーの著作における名言の抜粋とその解説を読んで、彼らが今日なお高く評価される所以を理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
13	日本の教育思想（1） 憲法十七条から和俗童子訓まで (2分冊7章1～3節)	日本の教育思想史を概観して資料的にも重要である聖徳太子、北条早雲、貝原益軒、福沢諭吉に関する文献資料の解説と抜粋を読んで、その教育的意義について理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
14	日本の教育思想（2） 福沢諭吉から橋田邦彦まで (2分冊7章4～8節)	日本の教育思想史を概観して資料的にも重要である東京師範学校、澤柳政太郎、志垣寛、橋田邦彦に関する文献資料の解説と抜粋を読んで、その教育的意義について理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
15	総括	総括として本テキストを通して、教育がその時代時代の人々の思いや願いを実現したものを積み重ねたものであることを読み取ると共に、営みとしての教育とは人間にとって何なのかについて理解してもらいたい。

レポート課題

第1分冊 大沢 裕

第2分冊 佐久間 裕之

第1分冊 〈略題〉西洋の教育 第1章から第5章まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

西洋教育史の出発点である古代ギリシャのスパルタとアテネの教育の特徴について説明すると共に、西洋中世における教育の特徴、エラスムスの教育論、さらにコメニウスの教育論についても述べよ。(2400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストにおける重要な点や人物についてテキストの内容から説明すること。
- ②項目別にまとめたり、箇条書きにまとめたりしたものは不可とする。
- ③テキストを読み込み理解したうえで、自分なりの表現でまとめること。なお引用する場合も、当該箇所を「」で括り、引用のルールを守って必要最小限の範囲とすること。

〈評価の観点〉

- ①上記のレポート作成にあたっての留意事項が守られていない場合、テキストの内容が正確に説明(要約)されていない場合、テキストにおける重要な教育事項や人物名が正しく用いられていない場合は、その程度に応じて不可とする。
- ②課題が求めている点が理解されていない場合、読み手を意識して丁寧に書かれていない場合、その程度に応じて不可とする。

〈その他の注意点〉

行間を意味もなくあけないこと。
テキストを熟読した上でレポート課題に取り組むこと。
基礎的専門用語の記入ミスがよく見られるので、意味も含めて正しく理解すること。

第2分冊 〈略題〉ペスタロッチーとペーターゼンの人間観・教育観
第6章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

課題

- ①第6章第5節に登場するペスタロッチーの『隠者の夕暮』における人間観および教育観の特徴と、第6章第10節に登場するペーターゼンの『自由で一般的な国民学校のイエナ・プラン』における人間観および教育観の特徴について、テキストに掲載されたペスタロッチー並びにペーターゼンによる原文(邦訳)に基づいて、それぞれまとめた上で、両者を比較しなさい。(1600字)
- ②①の記述を踏まえて、ペスタロッチー並びにペーターゼンの人間観および教育観について、あなたの意見を述べなさい。(800字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第6章は、各節の前半が思想家及び著作の解説で、後半が著作の原文(邦訳、抜粋)となっている。レポート作成にあたっては、必ずこの原文(邦訳、抜粋)を精読したうえで、レポート作成を行うこと。
- ②レポート作成にあたっては、テキストの文章をそのまま写してはならない。テキストを読み込み理解したうえで、自分なりの表現でまとめること。なお引用する場合も、当該箇所を「」で括り、引用のルールを守って必要最小限の範囲とすること。

〈評価の観点〉

- 次の観点からみて不適切・不十分な場合、再提出となる。
- ①指定の書式、分量が守られているか。
 - ②テキスト後半の邦訳原文を読まず、前半の解説部分をまとめたようなレポートになっていないか。
 - ③引用がなされる場合、引用のルールが踏まえられ、かつ必要最小限の範囲にとどめられているか。
 - ④レポートの記述が自分の表現でなされているか(テキストの丸写しやそれに準じる箇所がないか)。
 - ⑤レポート課題で求められている教育観の特徴のまとめと比較、さらに自分の意見の提示が上記の観点を踏まえて、適切になされているか。

〈その他の注意点〉

通信教育課程における学修の基本は、テキストの自学である。テキストを精読し、その要点をつかみ、各回の学修課題および各章末の課題への取り組みが求められる。さらには、レポートと科目試験に合格しなければならない。自学をすすめていく上で、多くの困難が待ち構えていることと思う。しかし、「千里の道も一歩から」と言われるように、あわてず、たゆまず学修を続けてほしい。「継続は力なり」である。

参考文献

レポート課題に取り組むためには、配付テキストそのものを精読すること。今後さらに、より深く学習するためには、テキストで取り上げた著作を図書館で借りるなどして、全体を通読したり、関連する専門書をひも解くことをおすすめする。

科目試験等へのアドバイス

科目試験で問われることも、レポートと同様にテキスト学修の成果である。テキストを精読し、その内容を理解して自分の表現でまとめるなど、学修をきちんとすすめていけば突破できる程度の問題が用意されている。試験は、Web試験という形式で実施しているためWordでの作成となります。日頃からテキスト学修を行い、学修内容の要点をまとめておくのも良い。

教員からのメッセージ

通信教育ではテキスト学修が中心となる。テキストには歴史的な記述や古典からの引用も見られ、平易とはいえない箇所もある。辞典や事典を調べるなどして精読してほしい。その努力は学修の成果となって実を結ぶであろう。

科目概要	教育現象を社会学の視点から読み解くのが教育社会学である。「～すべき」「～であるべき」という規範的な考え方をいったん捨てて、実際はどうなっているのかという事実に着目することで、教育に関する問題をより幅広い視野から考え直す力を身につけることができる。この科目では、学歴社会、いじめ、教育格差、地域の教育力、ジェンダーといったテーマを取り扱う。
主な到達目標	・「～すべき」「～であるべき」という規範的な視点ではなく、実際はどうなっているのかという事実に着目するという立場から教育現象を観察し、論じることができるようになる。 ・教育社会学の基本概念について習熟し、説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・テキストの内容をまずは理解して欲しい。 ・参考文献も積極的に参照すること。 ・教育社会学は、教育学の中でも独特の視点や方法論を有しているので、教育学の他の科目のテキストの内容を参考にしても、レポートや試験における解答にはならないことが多い。注意されたい。 ・教育社会学も含めて社会学は「近代社会」という用語をよく利用する。その意味を考えながらテキストを読むと、見通しがよくなることがある。

	学修テーマ	課 題
1	学歴社会の基本理念	・急速な高学歴化の背景について ・学歴社会を支える理念について ・日本はどのようにして〈学歴社会＝能力（業績）社会〉へと転換したのか
2	エリートの近代化	・学歴社会の経済的側面 ・日本社会におけるエリートの構成 ・学歴社会は能力（業績）社会なのか
3	学力論の展開	・ゆとり教育と「学力低下」論の構造 ・日本の学歴社会に変化は起きるか
4	「いじめ」を捉える視点	・ネットいじめの実態 ・いじめを捉える視点 ・「ぼっち」化する若者と「つながる力」
5	子どもの貧困と教育支援	・子どもの貧困の実態 ・貧困とは何か ・子どもの貧困対策と教育支援
6	少年非行と学校教育	・少年非行の現状 ・少年非行に対する社会学的アプローチ ・少年非行と教育支援
7	リスク社会における教育格差	・リスク社会とは ・教育をめぐる格差問題 ・教育政策における教育投資の捉え方
8	マイノリティと多文化教育	・マイノリティの学力問題 ・学力問題を捉える視点 ・頑張る学校のジレンマ
9	学校危機管理	・学校におけるリスクと危機管理 ・学校安全の実現に向けた包括的な取り組み ・学校危機管理の取り組み事例とその問題点
10	学校における多職種協働の理念と教員の役割	・「チーム」としての学校 ・専門職の職業的境界に関わる議論 ・多職種協働のための制度づくり
11	地域社会と教育	・地域の教育力の低下 ・子どもの社会化と地域 ・地域におけるソーシャル・キャピタル
12	「地域の教育力」とは	・子どもの成長を支える地域社会 ・「地域の教育力」とは ・子どもの自己肯定感と地域の力
13	ジェンダーと教育	・教育分野のジェンダー・ギャップ指数 ・各分野におけるジェンダー・ギャップ ・学校文化とジェンダーの再生産機能
14	カリキュラム改革の社会学	・新学習指導要領と授業・入試 ・カリキュラム・マネジメントと学校責任論 ・カリキュラム改革と教育格差
15	学修のまとめ	・各章のまとめ ・各章の「学習の課題」の解決

レポート課題

第1分冊 藤村 朝子

第2分冊 藤村 朝子

第1分冊 〈略題〉「不登校」と教育社会学 第1分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

①「不登校」の定義と現状について、様々な文献やデータを調べてまとめ、②「不登校」に関する教育社会的な見方を複数示した上で、現時点での問題点や支援策について整理し自身の考えを論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にすることも必ず注を付記すること。無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

第2分冊 〈略題〉学校教育と地域連携 第2分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト p.193 「学習の課題」(3) の「子どもの自己肯定感やレジリエンスを高めていくために、学校と地域がどのように連携・協働していけばよいのか考えてみよう」という課題について、テキストや参考文献の内容をふまえた上で自身の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にすることも必ず注を付記すること。無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

参考文献

耳塚宏明他『平等の教育社会学』勁草書房、2019年
 岩永雅也『教育社会学概論』放送大学教育振興会、2019年
 高橋均編『想像力を拓く教育社会学』東洋館出版社、2019年
 油布佐和子編『教育と社会』学文社、2021年
 中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房、2021年

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、論述が1-2問、用語説明が1問（いくつかの用語から2-3つの用語を選択して説明）である。
- ・テキスト中の「学習の課題」に書かれている問いに対して答えられるよう、自学自習を済ませておくこと。

教員からの
メッセージ

- ・「～するべき」「～であるべき」という考えばかりをしていると、そうした規範どおりに行動しない人たちの理解が十分にできなくなるおそれがある。この科目の学習を通じて、幅広い視野を身につけ、規範や常識にとらわれないより洗練されたものの見方・議論の仕方を身につけて欲しい。
- ・関連科目として、(コア)社会学や社会学Ⅰ・Ⅱがある。それらの科目の理解があると、この科目の理解も容易になるであろう。

科目概要	教育現象を社会学の視点から読み解くのが教育社会学である。「～すべき」「～であるべき」という規範的な考え方をいったん捨てて、実際はどうなっているのかという事実に着目することで、教育に関する問題をより幅広い視野から考え直す力を身につけることができる。この科目では、不登校、家庭教育、幼児教育といったテーマを取り扱う。
主な到達目標	・「～すべき」「～であるべき」という規範的な視点ではなく、実際はどうなっているのかという事実に着目するという立場から教育現象を観察し、論じることができるようになる。 ・教育社会学の基本概念について習熟し、説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・テキストの内容をまずは理解して欲しい。 ・参考文献も積極的に参照すること。 ・教育社会学は、教育学の中でも独特の視点や方法論を有しているので、教育学の他の科目のテキストの内容を参考にしても、レポートや試験における解答にはならないことが多い。注意されたい。 ・教育社会学も含めて社会学は「近代社会」という用語をよく利用する。その意味を考えながらテキストを読むと、見通しがよくなることがある。

	学修テーマ	課 題
1	「不登校」の社会学	・「不登校」とは何か ・「不登校」「長期欠席」「学校に行かない子ども」
2	「不登校」の歴史と国際比較	・構築主義という視点 ・日本では「不登校」がどのように捉えられてきたのか ・米英の長期欠席問題と児童労働
3	「不登校」問題へのアプローチ	・教育臨床の社会学 ・ナラティブ・アプローチ ・カウンセリング・マインド
4	「不登校」に対する支援策	・日本における現状 ・米英の支援策
5	少年非行問題	・少年非行の推移 ・少年非行のメカニズム ・暗数
6	いじめ問題	・いじめ集団の四層構造論 ・いじめの定義と構築主義 ・小1プロブレムと中1ギャップ
7	携帯電話・インターネットと教育問題	・生徒の問題行動と携帯電話・インターネット ・仲間集団
8	教育問題の社会学的考察	・不登校数ばかりが報じられ長期欠席数が報じられないのはなぜか ・昭和28(1953)年度教育白書を読み、当時の状況や問題意識を考える ・身近にある教育相談所や教育支援センター(適応指導教室)について調べる
9	社会化・しつけ・家庭教育	・社会化としつけ ・家庭の教育力
10	家庭教育の社会学的考察	・人間はなぜ家族の中で育つことが必要なのだろうか ・家族や親が子ども育てることは、社会化とどう関係するのか ・家庭の教育力が低下しているという説が頻繁に言われるのはなぜか
11	幼児教育と早期教育	・幼稚園と保育園 ・早期教育が生み出す問題
12	早期教育の社会学的考察	・義務教育開始年齢を1年早めるとどうなるか ・早期教育は親と子にどのような問題をもたらすか ・子どもの地位達成が親の財を背景とする願望に影響されているか
13	子育て支援と児童虐待	・子育て支援と育児産業 ・育児不安と児童虐待
14	幼児教育の産業化	・子育てが産業化する背景は何か ・自分の市区町村ではどのような子育て支援が行われているか ・教育家族とは何か、今後どうなっていくか
15	幼児教育の社会学	・家族と社会化／社会階級と言語コード／みえない教育方法 ・社会階層と家庭教育／ペアレントクラシー／解釈的アプローチ

レポート課題

第1分冊 藤村 朝子

第2分冊 藤村 朝子

第1分冊 〈略題〉構築主義の理解 第1分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ニートという社会問題を、構築主義の立場から説明せよ。なお、説明する際には、①ニートは一般的にはどのような問題だと論じられているか、②一般的な論じ方だとどのような点が見落とされてしまっているのか、の2点について必ず言及せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にする際も必ず注を付記すること。
無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べる
こと。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

第2分冊 〈略題〉家庭教育・幼児教育の理解 第2分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト 119 頁 Think Yourself の 2 つめに関連して、以下の 2 点について述べよ。

- (1) あなたが住んでいる市区町村ではどのような子育て支援が行われているのかを調べ、まとめよ。
- (2) 今後どのような支援が必要であるかについて、その理由とともに述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にする際も必ず注を付記すること。
無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べる
こと。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

参考文献

新堀通也・加野芳正『教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
森岡清美他編『新社会学辞典』有斐閣
新堀通也・加野芳正『教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
森岡清美他編『新社会学辞典』有斐閣
加野芳正ほか編著『新説教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
志水宏吉『公立学校の底力』ちくま新書
広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、論述が 1-2 問、用語説明が 1 問（いくつかの用語から 2-3 つの用語を選択して説明）である。
- ・テキスト中の Think Yourself に書かれている問いに対して答えられるよう、自学自習を済ませておくこと。
- ・pp.293-299 のキーワード解説については、よく理解をしておくこと。

教員からの
メッセージ

- ・「～すべき」「～であるべき」という考えばかりをしていると、そうした規範どおりに行動しない人たちの理解が十分にできなくなるおそれがある。この科目の学習を通じて、幅広い視野を身につけ、規範や常識にとらわれないより洗練されたものの見方・議論の仕方を身につけて欲しい。
- ・関連科目として、(コア) 社会学や社会学Ⅰ・Ⅱがある。それらの科目の理解があると、この科目の理解も容易になるであろう。

科目概要	教育心理学は教育に関わる問題について心理学的に捉え、教育に役立てようとする学問である。そこで、本科目では人間の発達、教授と学習、適応、教育における評価などといった内容について心理学の理論と方法を用いて学んでいく。
主な到達目標	・人間の発達について説明することができる。 ・教授・学習の仕組みや関わる要因について説明することができる。 ・教室における個人差や対応について説明することができる。 ・教室における人間関係について説明することができる。 ・教育における評価について説明することができる。 具体的な到達目標としてはシラバスの課題欄に書かれた問いに答えられること、キーワードの説明ができることである。
テキスト学修の留意点	テキストに書かれた内容をまとめるだけでなく、自分の身のまわりの具体的事例と結びつけながら学んでほしい。また、章末に示された課題やシラバスに示された課題について考え、解答を書いてみてほしい。それにより、より深い理解となり、レポート作成や科目試験にも役立つだろう。

	学修テーマ	課 題
1	発達と教育	獲得と喪失という面から捉えると、発達とはどのように説明できるのか。 エリクソンによると発達はどのように進んでいくとされるのか。 発達において遺伝の影響をとらえる説とはどのような考え方なのか。 【キーワード】 遺伝、環境、輻輳説、促進的教育、最近接領域、足場かけ
2	認知の発達	ピアジェによる認知発達理論とはどのようなものなのか。 ピアジェによる認知発達段階はそれぞれどのような特徴を持つのか。 ピアジェ理論への指摘にはどのようなものがあるのか。 【キーワード】 シェマ、象徴的思考、直観的思考、自己中心性、領域固有性
3	学習の理論	行動論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 認知論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 状況論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 【キーワード】 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、認知構造、正統的周辺参加、高次精神機能
4	知識の獲得と問題解決	情報処理モデルに基づく、記憶の過程はどのように説明されるのか。 入力された情報を長期記憶にするためにはどのような方法があるとされるのか。 試行錯誤による問題解決と洞察による問題解決とはどのように異なるのか。 【キーワード】 符号化、リハーサル、体制化、精緻化、試行錯誤、洞察
5	学習への意欲と動機づけ	マズローによる欲求階層説とはどのような考え方なのか。 内発的動機づけと外発的動機づけとはどのようなものなのか。 動機づけにおける効力期待と結果期待とはどのようなものなのか。 【キーワード】 アンダーマイニング現象、学習性無力感、自己効力感、原因帰属
6	協働学習	協働学習のメリット、デメリットにはどのようなことが挙げられるのか。 グループ学習を行う際、グループ編成においてどのようなことに留意すべきなのか。 【キーワード】 バズ学習、ジグソー学習
7	授業のタイプ	発見学習のメリット、デメリットはどのようなものなのか。 先行オーガナイザーとはどのようなものなのか。 プログラム学習にはどのような原理があるのか。 反転授業における教師の役割はどのようなものがあるのか。 【キーワード】 発見学習、有意味受容学習、プログラム学習、反転授業
8	個に応じた学びと指導	教室における個人差の要因にはどのようなものが挙げられるのか。 適性処遇交互作用が見られる時、教師はどのようなことを考慮する必要があるのか。 ガードナーは知能の個人差についてどのように説明しているのか。 【キーワード】 適性処遇交互作用、多重知能理論、認知カウンセリング
9	学習観と学習方略	正統派の学習とごまかし勉強とはどのように異なるのか。 教え込み型と参み込み型の教育とはそれぞれどのようなものなのか。 自己調整学習のサイクルにはどのようなものが含まれるのか。 【キーワード】 学習観、学習方略、リハーサル方略、精緻化方略、体制化方略、自己調整学習
10	教室の中の人間関係	教師のリーダーシップにはどのような側面があるのか。 教師の認知が子どもに及ぼす影響にはどのようなものがあるのか。 学級集団を測定する道具にはどのようなものがあるのか。 【キーワード】 学級風土、PM理論、ピグマリオン効果、ソシオメトリック・テスト
11	不適応への理解と指導	不登校への考え方は時代によってどのように変化してきたのか。 いじめの四層構造とはどのような考え方なのか。 非行への対応をする上でどのようなことが大切なのか。 【キーワード】 不登校、いじめ、校内暴力

12	発達障がいと特別支援教育	発達障がいにはどのようなものがあるのか。 特別支援教育とはどのようなものなのか。 【キーワード】 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害
13	心理アセスメントと心理療法	心理アセスメントではどのような方法が用いられるのか。 学校で心理検査を実施する場合にはどのようなことに注意すべきなのか。 心理療法にはどのような手法があるのか。 【キーワード】 面接法、観察法、知能検査、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法
14	学び合うコミュニティ	教師が学校内のコミュニティで学び合う際にはどのような形があるのか。 教師が学校外のコミュニティで学び合う際にはどのような形があるのか。 【キーワード】 教師の力量形成、省察、校内研修
15	教育における評価	評価のタイミングにはどのようなものがあり、それぞれの目的はどのように異なるのか。 パフォーマンス評価とはどのような評価なのか。 「評価が人を育てる」とはどのようなことなのか。 【キーワード】 集団準拠評価、目標準拠評価、個人内評価、ルーブリック、ポートフォリオ評価

シラバス執筆：魚崎 祐子

レポート課題

第1分冊 魚崎 祐子

第2分冊 魚崎 祐子

第1分冊 〈略題〉観察学習 第1章―第9章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ①観察学習のメカニズムについて、自身の経験例を複数挙げながら説明しなさい。
- ②適性処遇交互作用とはどのようなものなのか、具体例を挙げながらその特徴を説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・各課題について1000～1200字で述べること。
- ・課題番号をつけ、スペースを分けた上で作成すること。
- ・テキストや文献、インターネットなどから引用する場合には、出典を明記すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・観察学習の流れをおさえられているか。
- ・適切な経験例を挙げることができているか。
- ・良いモデルを見た時と良くないモデルを見た時に言及できているか。

課題②

- ・適性処遇交互作用の特徴をおさえられているか。
- ・テキストで挙げられたもの以外の適切な具体例を挙げることができているか。

両課題共通

- ・制限字数を守っているか。
- ・自分の言葉で説明することができているか（テキストの丸写しやつなぎ合わせただけのものは不可）。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

第2分冊 〈略題〉不登校 第10章―第15章

横書き

直接入力

〈課題〉

課題①

不登校の歴史もふまえた現状について、テキストを要約する形で説明しなさい。

課題②

集団準拠評価と目標準拠評価の特徴について、それぞれに関する自身の具体的な経験を挙げながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・各課題について1000～1200字で述べること。
- ・課題番号をつけ、スペースを分けた上で作成すること。
- ・テキストや文献、インターネットなどから引用する場合には、出典を明記すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・不登校への捉え方の歴史について説明できているか。
- ・不登校の現状や背景について説明できているか。
- ・テキストの内容を適切に要約できているか（要約とは一部の情報を抜き出して繋ぐことではない）。

課題②

- ・それぞれの評価の特徴について説明することができているか。
- ・適切な具体的な経験の例を挙げることができているか。
- ・自分の言葉で説明することができているか（テキストの丸写しやつなぎ合わせただけのものは不可）。

両課題共通

- ・制限字数を守っているか。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

参考文献

まずはテキストの内容を十分に理解することを優先させて行い、さらに発展的に学びたい場合にはテキスト章末の参考図書を参照のこと。

科目試験等への アドバイス

科目試験では、テキストに書かれた内容について理解し、説明することができるかどうか問われる。また、シラバスに示されたキーワードについて説明できるかどうか問われる。シラバスの課題欄に示された問いおよびキーワードについて、テキスト内容をもとに自分の言葉で説明できるかどうかを確認しながら学修を進めてもらいたい。なお、テキスト等の文言をそのままつなぎ合わせたような答えは「説明できている」とはみなさない。また、テキスト等の文献やインターネットなどの情報を用いた場合には、その旨を明記すること。

教員からの メッセージ

教育心理学で学ぶ内容と教育現場でおこることとの間にはかい離があると言われることも多い。たしかに教育現場でおこる様々な問題はより複雑であり、即効性のある明確な解答を提供することは難しい。しかし、教育心理学で学んだ理論的な内容は、現場でおこることを捉える上で有効な枠組みになると考えられる。

科目概要	教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即して、個々の心の理解をし、適切な支援をするために必要な基礎的知識を身に付ける。組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、進め方が例示できるような学習をする。いじめ・不登校・学級崩壊、虐待、発達の問題などを早期発見し、的確な支援のための学習をする。
主な到達目標	児童生徒の心理的・身体的発達の知識を得て、心の理解を深める。教育相談の基礎的知識（意義、理論と方法）およびカウンセリングの基礎的事柄を学び、早期発見に繋がる力をつけ、教育相談に役立てることができる。学校内（教員及び養護教員、校医、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）及び学校外（家庭・地域社会など）との連携の在り方を学び、学校内の問題に組織的な取り組みができる基礎を作る。
テキスト学修の留意点	1. 児童生徒を理解する。 2. カウンセリング・教育相談の基礎知識を学ぶ。 3. 教育相談の実際を学ぶ 4. 組織的な取り組みやさまざまな連携について学ぶ、ことを学習目標とする。個性的な児童生徒や発達の差を理解し、保護者と連携しながら、児童生徒の適応を支援することを幾つかの視点から学び、教育現場で実践できるようにするための学習をする。

	学修テーマ	課 題
1	教育相談とは	教育相談とは何をすればよいのかを学習する。さらに、学校における教育相談の特徴を学修する。
2	学校における教育相談活動の在り方	学校における教育相談が実際にはどのように行われているかを学修する。
3	教師におけるカウンセリング理論	教師が教育相談を行う際に必要なカウンセリングの基礎用語を学び、代表的なカウンセリング技法を学修する。
4	児童生徒理解	児童生徒を理解するために必要な理論と方法を学習する。小学生、中学生、高校生のこころの発達について学修する。これらの知識をもとに、自分の意見を考え、実際に児童生徒理解ができるように学修を進める。
5	いじめ	いじめについて、定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての対応方法を学修する。実際に教員になったときに、いじめはいけないという啓発活動、いじめの早期発見およびアプローチなどをどのようにしていくか、具体的にイメージしながら学修すること。
6	不登校、学級崩壊	不登校、学級崩壊についてそれぞれ定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての対応方法を学修する。
7	虐待、非行、問題行動	虐待、非行、問題行動についてそれぞれ定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての、児童生徒理解をしたうえでの対応方法を学修する。
8	インターネット関係のトラブル、性的な問題	インターネット関連の問題や、性的な問題を学修する。
9	障害のある児童生徒とその保護者の理解と対応	障害のある児童生徒についての理解を深めるために、正しい障害の理解を身につける。さらに教員としてどのように援助すべきかを学習する。
10	通常学級に在籍するグレーゾーンの児童生徒の理解と対応	通常学級におけるいわゆるグレーゾーンといわれる児童生徒の理解と対応を学修する。
11	保護者との協力体制の作り方	保護者との協力体制（連携）は教育相談を行う際に必須である。児童生徒のために保護者と教員が信頼関係に基づく協力体制を作るにはどうしたらよいかを学修する。
12	教員によるこころのケア	人は生きていけば必ずこころが傷つくような体験をする。こころの傷（トラウマ）の理解と支援の方法を学修する。
13	教員のメンタルヘルス	教員特有のストレスを学習し、対処方法を学ぶ。休職率、離職率が高まる中で、自らのメンタルヘルスを考える。また、休職・離職・復職などの対応への知識を身に付ける。
14	事例の復習 1	1 章から 6 章までに出ている事例を読み、自分自身で教育相談を行い、解決していくためにどのように教育相談の体制を作っていくかなどを考え、まとめること（必ず文字にして書くこと）。
15	事例の復習 2	7 章から 12 章までに出ている事例を読み、自分自身で教育相談を行い、解決していくためにどのように教育相談の体制を作っていくかなどを考え、まとめること（必ず文字にして書くこと）。

シラバス執筆：原田 眞理

レポート課題

第1分冊 原田 眞理

第2分冊 原田 眞理

第1分冊 〈略題〉いじめ 1章から6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

いじめは被害者・加害者のみではなく、傍観者、観衆も含めて構成されているとテキストに書いてあります。では、いじめは卑劣であるという指導をする際に、どのように児童生徒に説明をしたらよいか、学年別に述べなさい。

1. 小学校3,4年生
2. 中学1年生

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いじめをはじめ、不登校、学級崩壊など、学校内の問題が多発している。早期発見早期解決はもとより、予防も大切である。いじめはいけない、いじめが卑劣であるという指導を、発達といじめ理論をふまえて、自分自身で考えるための課題である。とはいえ、感想文や自身の体験談を述べるだけでは学修とならず、テキスト学修を踏まえ、客観的根拠を伴い論じること。テキスト該当部分のみでなく、範囲全体を読むこと。

〈評価の観点〉

いじめの構造を理解しているか
児童生徒の発達を理解しているか
自分自身の意見が、客観的根拠を基に述べられているか

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉加害者理解 7章から12章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

小学校入学時から独特のこだわりがあり、人の気持ちを思いやるのが苦手な小5の女兒。掃除の時間に、その女兒が他の女兒から「キモい」「さっさと掃除しろ」といじめられているところを発見。加害児童は成績が良く、中学受験をするために塾に通い始めている。家庭も勉強に熱心で兄も有名高校に通学している。

1. その場で女兒および加害児童にどのように介入するか、具体的な言葉で述べなさい
2. 加害者についても理解が必要です。上記の情報のみから、いじめ加害をする理由を考えなさい
- 3.2. の理解に伴い、加害児童への対応方法を述べなさい

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

あなたが担任という設定で論じなさい
児童生徒理解の章、グレーゾーンの章を中心に、テキスト全体を学修すること
1. はそれぞれに対する具体的な会話の言葉で書きなさい
また、課題はいじめの場面の設定です。片方が加害児童ならば、「キモい」と言われている女兒は被害児童です。
被害児童と捉えずに、発達障害は迷惑をかけている児童だと論じているレポートがありますので、明確にしておきます

〈評価の観点〉

テキストにおける心の理解を学修しているか
教育相談における、言葉によるやりとりが実践できているか
加害者理解に基づく対応ができているか
経験談ではなく、テキスト学修に沿って論じられているか

〈その他の注意点〉

加害児童を理解せずに短絡的に指導するだけでは不合格となる
レポート課題以外のテキスト、すなわちテキスト全体を学修したうえで取り組むこと

参考文献

学修はテキスト学修を基本とする。さらに発展した学修をしたい場合には、テキストにある参考文献を探してみるとよい。また、文部科学省のHPには教育相談にかかわる新しい情報も提供されるので参考になる。
文部科学省、生徒指導提要（改訂版）令和4年12月に新しくなりましたので、目を通してください
原田眞理著『子どものこころ——教室や子育てに役立つカウンセリングの考え方』ナカニシヤ出版 2011
原田眞理著『子どものこころ、大人のこころ——先生や保護者が判断を誤らないための手引書』ナカニシヤ出版 2018

科目試験等への
アドバイス

本科目試験では、テキスト学修がきちんと成されてるか、すなわちテキストの内容を理解し、説明できるかを重視する。そのため、解答において、概念の説明の際は、テキストに書かれたキーワードなどを用いて、テキストで学修したことを解答することが望ましい。その後自分の考えを論じることが望ましい。自分の考えのみを論述されても、基本的な概念が学修されているかが測れないため、減点の対象となる。

教員からの
メッセージ

教育相談はテキスト学修だけでは、現場で実践的に使用しようとしてもなかなかうまくいかないものである。そのため、ただ受身的にテキストを読むだけではなくこのテキストに出ている具体例について自分ならどうするか、自分の対処方法（生徒指導も含む）を考えてみるのが大切である。また、的確な対処（指導）ができるかどうかは児童生徒を理解できているかにかかっている。健康な児童生徒の発達を理解し、何か起きたときになぜこの児童生徒がこの状況に陥っているのかを理解していく姿勢が非常に大切である。すべての事象について、問題が起きる前の解決、早期発見早期対応が大切となるので、理解ができていると、小さな変化に気づくことが可能となる。学修指導書もあわせて学修すること。

科目概要	教育哲学とは何かについて、教育学の構造的な理解を踏まえて考えていく。その後、教育哲学の諸問題について論じていく。特に本科目では教育に関係の深い用語としての「愛」の諸相について理解を深めていく。
主な到達目標	・メタ理論の立場から教育哲学について説明することができる。 ・教育理論と教育思想とそれらの関係について説明することができる。 ・「人間が人間となる」ということを問題にする際、その考察の根拠について、教育哲学的観点から述べることができる。
テキスト学修の留意点	・以下の各課題についてテキストをもとに解答をまとめ、説明できるようにしてください。 ・レポート課題は、テキストの関連する箇所を抜き書きすることを求めているわけではありません。テキストの内容を客観的にまとめていくレポート執筆者の立ち位置をしっかりと定めた記述を期待しています。 ・レポート作成にあたっては、留意事項および評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	教育哲学とは何か 1	・「過程としての哲学」と「体系としての哲学」について説明しなさい。 ・哲学が「終わりのない探求」と言われるのはなぜか述べなさい。 ・哲学の基本的性格について説明しなさい。
2	教育哲学とは何か 2	・哲学と教育の関係を整理しなさい。 ・なぜ「哲学は人間の形成を問題にしている」と言えるのか。
3	教育哲学とは何か 3	・教育学の構造について「教育理論」と「教育思想」の関係をまとめなさい。 ・教育哲学が「メタ教育理論」と言われる理由を説明しなさい。 ・「教育問題」「常識」「教育理論」「教育思想」「メタ教育理論」：左記の語句をすべて用い教育学の構造を説明し、教育哲学の課題を述べなさい。
4	教育理論とは何か：『メノン』を読む 1	・教育問題の基本的構成要素が「教えること」と「学ぶこと」と言われるのはなぜか。 ・ソクラテスはその方法として問答法を採用したのはなぜか。
5	教育理論とは何か：『メノン』を読む 2	・想起説とはどういう考えか。 ・ソクラテスの実験的授業について、ステップごとにソクラテスの（教授）活動とそれに対する少年の（学習）活動を書き出しまとめなさい。
6	教育理論とは何か：『メノン』を読む 3	・ソクラテスの実験的授業は教育の問題としてどんな意義があったか。 ・可謬主義を説明しなさい。
7	教育思想とは何か：『エミール』を読む 1	・ルソーは彼の生きていた時代の社会制度や文化をどのように考えていたか、ルソーが生きた時代の社会的状況をふまえ、説明しなさい。
8	教育思想とは何か：『エミール』を読む 2	・ルソーの時代の教育状況を説明しなさい。 ・子どもを「植物」モデルと「鉱物」モデルで考えるとでは、どのような違いがあるか。 ・「子どもの発見」とはどのようなことか。 ・ルソーの三つの「教育」概念を説明しなさい。
9	教育思想とは何か：『エミール』を読む 3	・ルソーの考えた人の発達段階についてまとめ、それらはどのような特色を持っているか説明しなさい。 ・「人間と人間の間柄」に関する教育とはどのようなものか説明しなさい。
10	「愛」への問い 1	・ルソー『エミール』からの引用文を読み、「自愛」についての彼の考えをまとめなさい。 ・「愛は命ぜられるか」という問いに対するカントの答えをまとめなさい。
11	「愛」への問い 2	・「汝の隣人を愛せよ」についてカントの意見とヘーゲルの意見を比較しなさい。
12	自愛と他愛 1	・ルソーの「自愛」、ナルキッススの「自愛」、ピグマリオンの「自愛」はそれぞれどのように類似しているか、また異なるか考えなさい。
13	自愛と他愛 2	・自己認識における媒介となっているものをあなた自身の日常生活の中から三つ取り出し、そのそれぞれについてどのような自己認識が得られるか述べなさい。 ・ルソーは自己愛がどのようにして他におよぶと考えていたか述べなさい。
14	愛と成長	・変わらぬものへの愛と変わるものへの愛のそれぞれの特長を明らかにしなさい。
15	課題としての愛	・人が一般に意識の上で他者になりかわってみたいことができるという事例をあげ、そうした意識作用と愛との関連を示すように本節を要約しなさい。

レポート課題

第1分冊 山口 意友

第2分冊 山口 圭介

第1分冊 〈略題〉ソクラテスの教育「Ⅰ教育とは何か」の1から3 (p1～113)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ソクラテスの『メノン』に基づき、教育（教える）と学習（学ぶ）の関係性について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

評価の観点すべてに目を通してレポート作成にとりかかってください。

〈評価の観点〉

1. テキストの正確な説明（要約）が出来ているかどうか。（それゆえ、他の参考文献を引いてきても無意味となる。）
2. 引用箇所はきちんと「」でくられ、ページが明記されているかどうか。
3. 主語と述語の関係が不明確であったり、文章表現の基本（例えば各段落冒頭のーマス空けなど）が出来ていない場合には「再提出」になりますので注意して下さい。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明することがポイントです。

第2分冊 〈略題〉人間の課題と愛「Ⅱ愛と成長」の1から4 (p115～252)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

人間にとって「愛」が課題であるということの意味を「個」と「類」という2つの観点から明らかにしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

○次の2点について対応できていない場合には、内容にかかわらず、再提出となります。

1. 文末には、註及び参考文献を正しい仕方（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、再提出となります。）
2. 誤字・脱字、段落の構成など、書き方が乱雑にならないようにすること。

〈評価の観点〉

1. 表記上のルールが守られているか。
2. 一つひとつの文章や段落の設け方が適切であるか。
3. 全体のまとまりがある文章が書けているか。
4. 課題に対する解答が明確に示されているか。
5. 作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

○テキストをはじめとする文献等（事実）と自己の「意見」とを明確に区別できる書き方を心がけてください。

参考文献

テキスト学習をしっかりと行うこと。その後今日的な話題を発展的に学習される方には、テキストに掲載された参考文献の他、さし当り以下の文献を挙げておきます。

- ・山崎英則編『教育哲学へのいざない』学術図書出版、2007年
- ・皇紀夫編『「人間と教育」を語り直す—教育研究へのいざない』ミネルヴァ書房、2012年

科目試験等への
アドバイス

科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視します。それゆえ上記の「学修テーマ／課題」を中心に試験します。

教員からの
メッセージ

教育哲学の学習や研究はわたくしたちの生活や経験と関連させることによって深められるものであり、またそうした研究や学習が、生活や経験の中でいかされるべきものです。単なるテキスト学習に終わらせるのではなく、自分の身近な経験と結びつけながらじっくり考えながら学習を深められることを願っています。

TT0093 教育の制度と経営

2単位

テキスト名

坂野慎二・湯藤定宗編
『学校教育制度概論【第3版】』
玉川大学出版部

科目概要	各教育段階における制度的・歴史的理解、そして諸外国との比較を通して、日本の教育の実態を理解しつつ、学校が有する課題を把握し、教育の制度と経営のあるべき姿について考察する。
主な到達目標	現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的知識を身に付けるとともにそれらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。
テキスト学修の留意点	本科目の学習では、教育基本法等の教育法令が多く登場する。テキスト巻末に収録されている法令、及び収録されていない法令等については、『教育小6法』等を参照しながら、各条文をその都度確認しながら理解を深めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	公教育の基本原則	公教育の基本原則について整理してみよう。
2	就学前教育制度	3つの就学前教育（幼稚園・保育所・認定こども園）の制度的特徴をまとめよう。
3	義務教育制度	義務教育の現状と課題についてまとめよう。
4	後期中等教育制度	高等学校の概要を理解した上で、後期中等教育の多様化についてまとめよう。
5	高等教育・生涯教育制度	高等教育機関の種類ごとに特徴をまとめよう。
6	教育行政制度 1（国と地方）	第一に、教育行政の3つの原則をまとめよう。 第二に、文部科学省の所掌事務について調べてみよう。
7	教育行政制度 2（地方・財政）	第一に、教育委員会の特徴と組織をまとめよう。 第二に、教育財政についてまとめよう。
8	学校の組織・経営・評価	第一に、自律的学校経営が求められるようになった歴史的流れをまとめよう。 第二に、学校評価の目的と方法を整理してみよう。
9	学校と地域との連携	学校と地域との連携のための制度の概要・意義・課題について整理してみよう。
10	学校・学級の諸課題	第一に、教育振興基本計画と中教審答申「令和の日本型学校教育」が共通して示す諸課題についてまとめよう。 第二に、効果的な学級経営についてまとめよう。
11	海外の学校制度と教育の国際化	第一に、諸外国の学校制度についてまとめてみよう。 第二に、近年の日本の成績順位と教育政策についてまとめてみよう。
12	学校教育制度の成立と発展	第一に、日本における近代学校制度の成立過程についてまとめてみよう。 第二に、戦後の教育改革としての単線型学校制度の成立についてまとめてみよう。
13	今日的学校教育制度の展開	第一に、戦後教育改革からの転換及び高度経済成長以降の教育改革の流れをまとめてみよう。 第二に、臨時教育審議会以降の教育改革をまとめてみよう。 第三に、教育基本法改正（2006年）以降の教育改革をまとめてみよう。
14	学校教育制度の行方	第一に、新自由主義における教育政策についてまとめてみよう。 第二に、公教育の成果と課題についてまとめてみよう。
15	教育の制度と経営に関するまとめ	これまでの学修のまとめとして、日本の学校教育の実態、及び制度的課題を踏まえつつ、歴史的観点や諸外国との比較の観点から、日本の学校教育制度のより良い在り方についてまとめてみよう。

シラバス執筆：湯藤 定宗

レポート課題

第1分冊 湯藤 定宗

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉公教育の基本原則と教育委員会制度 第1章から第7章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 課題1. 公教育の基本原則を端的にまとめよ。
- 課題2. 日本の教育委員会制度についてまとめた上で、2014年以降の現行教育委員会制度の問題点とその理由を指摘せよ。その際、課題1と2の関連についても言及すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題1と課題2の関連については必ず言及すること。
- ②文献の引用については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号を付けて、文末に引用文献として、著者名、文献名（著書の場合は『』、論文の場合は「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。参考にした場合についてもテキストも含めて文献を文末に参考文献として、明記すること。要約の場合は、頁数の表記は不要である。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
- ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
- ②文献などからの引用は、上記のルール（レポート作成にあたっての留意事項に記載）に則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、例えば、テキスト第8、9、10章を参考のこと。

第2分冊 〈略題〉学校と地域との連携 第8章から第14章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 課題1. 第8章以降を読んだ上で学校と地域の連携のための制度の5つを列挙し、それぞれを説明しなさい。なお、地域学校協働本部と地域学校協働活動は1つとします。
- 課題2. それら5つの制度の中で、学校と地域との連携に関して有効だと思う制度を取り上げ、テキスト及びその他の文献等に依拠しながら、有効だと思う根拠を示しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題2は根拠を示すことが求められており、あくまで文献等を根拠にして論じることが求められています。
- ②本課題は、文献（テキストも含む）を引用もしくは参考にすることを求めていることから、1つ以上の文献（テキストを含む）をレポート文章末に示すことを必須の条件とする。
- ③文献の引用については、第一分冊と同様である。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
- ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
- ②文献などからの引用は、上記のルール（レポート作成にあたっての留意事項に記載）に則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、例えば、テキスト第8、9、10章を参考のこと。

参考文献

.....

諏訪英広・福本昌之『新版 教育制度と教育の経営』あいり出版、2021年。ISBN 9784865550900

科目試験等への
アドバイス

.....

科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出题する。

教員からの
メッセージ

.....

学校教育制度については、常に改革が繰り返されている。日本の教育の実態を理解しつつ、学校が有する課題を把握し、教育の制度と経営のあるべき姿についてじっくりと考えてみてほしい。

科目概要	本科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むため、教授理論や授業設計の方法、学習指導案の作成方法や個人差に応じるための指導方法などについて学びます。また、教師にはコンピュータなどの情報機器を利用して、わかりやすい授業を展開するための技術の習得も求められています。そのため、ICT を実践の中で効果的に活用する方法についても学びます。
主な到達目標	・テキストに示されているキーワードについて説明できる。 ・教育方法の基礎的な理論と実践について理解している。 ・情報機器を効果的に活用した授業の方法について提案することができる。
テキスト学修の留意点	「主な到達目標」にも書いていますが、テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。各章の最後に載っている演習問題に取り組んでみましょう。レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているかを見ます。「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	授業の方法・技術	教育の方法と技術を学ぶにあたり、学習とは何か、また授業で指導するとはどういうことなのかを考えてみましょう。
2	授業と教授理論	効率的な授業を展開するためには適切な教授理論が必要です。ここでは、2つの教授理論とその具体例を確認します。
3	授業の設計	児童の学力を保障するためには、授業を適切に設計する必要があります。授業設計とは何か、どのように授業を設計するのかについて確認します。
4	授業の組織と展開	「何を」教えるのか？「どのように」教え、評価するのか？ここでは、指導過程や評価の方法などについて確認します。
5	授業と学習指導案	学習指導案には、その教師の児童観や授業観、教育観が表れます。ここでは、学習指導案の構成要素などについて確認します。
6	学習指導案の実例	学習指導案の書式について2つの例が示されています。具体例を参考に、どのように記述すれば良いのかを確認します。また、板書計画などについても考えます。
7	授業と個人差	教師が考慮すべき個人差にはさまざまなものがあります。ここでは、生徒自身の個人的要因に注目して分類されたものをベースに、個人差に応じる授業について考えてみましょう。
8	教育の情報化	学校教育における情報化の経緯について確認し、情報化の現状、情報活用能力などについて確認します。
9	教育メディアの活用	視覚用教育メディア、聴覚用教育メディアについて、授業での利用方法も含めて確認します。また、メディアリテラシーについても考えてみましょう。
10	コンピュータ・ネットワークの基礎知識	教育で利用するためのコンピュータの基礎知識について確認します。また、情報セキュリティなどについても確認します。
11	授業における ICT の活用	ICT を利用した授業の設計や実施手順について、具体例から考えてみましょう。
12	インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインのアイデアをもとにした教材設計などについて考えてみましょう。
13	情報モラル教育	具体例をもとに情報モラル教育の必要性について確認します。また、情報モラル教育のモデルカリキュラムについて確認します。
14	校務情報化	校務の情報化のあり方や情報化の進め方、セキュリティの課題などについて確認します。
15	まとめ	14回までに学習した内容を再確認し、適当な学年、科目、単元を決めて学習指導案を作成します。その際、ICT の活用についても考えます。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉授業設計と指導目標の明確化 1章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 授業設計の手順および指導目標の明確化について説明せよ。
- ② 1回分（1単位時間分）の授業を想定し、授業目標（本時の指導目標）と授業展開及び評価方法を説明せよ。科目名、単元名、対象学年も記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・課題①、②の両方に回答すること。
- ・課題①、②ともに、表形式や箇条書きは用いず、文章で説明すること。
- ・課題①は、テキストを良く読み、要約すること。
- ・課題②の授業例は、テキストや書籍、インターネット上に記載されているものを流用せず、自身で具体的に想定すること。本時の指導目標、授業展開、評価方法（どのようなデータを用いてどのような基準で評価するのか）をわかりやすく説明すること。
- ・「評価の観点」を良く読み、必要な事柄全てについて記述すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・授業設計の手順、「明確な指導目標」の定義、指導目標を明確化する方法、明確化することの利点についてわかりやすく説明されているか。

課題②

- ・本時の指導目標は明確化されているか。
- ・授業展開は、学習者が行う活動内容及び、評価に用いるデータの収集方法がわかるように書かれているか。
- ・評価方法は、本時の指導目標を学習者が達成したか否かを客観的に判断できるものか。学習者全員を個々に評価できるように考慮されているか。評価基準が具体的かつ明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

- ・課題②においてワークシート等の利用を想定した場合、その内容を本文中で説明するか、別紙としてワークシートを添付すること（別紙として添付した場合、制限文字数には含まれない）。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園などでの指導場面を想定し、作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

第2分冊 〈略題〉ICTを活用した授業の設計 8章～14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 授業におけるICT利用の概要（計画・実施・評価）を詳しく説明せよ。
- ② ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、ICTを効果的に活用した授業を学習指導案の形式で設計しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- （「その他の注意点」もあわせて確認すること）
- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に要約（説明）すること。
- ・①の要約では、表中の科目の具体例も利用すること。
- ・課題②で作成する学習指導案は、テキストp.81～83で示されているような表を利用した形式にすること。
- ・ICTを必ず利用すること。
- ・学習指導案は、本時の指導計画（「本時の目標」「準備・資料」「本時の展開」「本時の評価」は必須。「板書計画」は出来る限り記入）のみで構わない。

〈評価の観点〉

- ・授業におけるICT利用の概要について、テキストを参考に明確に要約（説明）できているか。
- ・上記の留意事項を守り、ICTを効果的に活用した学習指導案が適切に作成されているか。
- ・作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。

〈その他の注意点〉

- ・学習指導案の「本時の展開」は「導入－展開－まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。
- ・ワークシートを利用する場合は、その内容を具体的に記述すること。
- ・書籍などにある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園などでの指導場面を想定し、ICTを効果的に活用したものを作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

- ・学習指導案を作成する時は、教科書などを参照すること。
- ・より深く学修するためにはテキストの本文中、各章末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等へのアドバイス

- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
- ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。

教員からのメッセージ

教員になって実際に教壇に立った時、「本当にこのやり方でいいのだろうか」と悩む時がくると思います。そんな時、戻ることができる場所のひとつにこのテキストがなってくれる筈です。そのような意味からも、単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、理論や言葉などをしっかりと学ぶために、このテキストでの学修を大切にしてほしいと思っています。

科目概要	本科目では、子どもたちの視点に立った、より好ましい教育方法について学びます。具体的には、西洋や日本の教育方法の歴史を学ぶことから始め、学習理論や授業設計の方法、評価の方法などについて学びます。この教科は、これからの教育実践の現場で働こうとするみなさんにとって、最も必要とされる学問のひとつであり、他の多くの科目の基礎となるものです。
主な到達目標	・ テキスト本文に太字で示されているキーワードについて説明できる。 ・ 教育方法に関する歴史的な経緯や課題等を踏まえ、より良い授業を展開するための授業設計ができる。
テキスト学修の留意点	・ テキスト本文中で太字になっているキーワードについては、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切にして学修を進めてください。 ・ レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているか、それをもとに考察ができているのかを見ます。学修指導書の「2 研究と学習の方法」に書いてある方法や「レポート課題」に書いてある留意事項などを参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	西洋における教育思想と教育方法の歴史	西洋における教育思想と教育方法の歴史について学びます。例えば、「コメニウスの教授学」など、近代教育思想と教授学の成立について学び、「タイラーの原理」と呼ばれるカリキュラムモデルなどについても学びます。
2	日本における教育改革と教育方法の歴史	ここでは、日本における教育思想と教育方法の歴史について学びます。1 回目と同じく、多くのキーワードが出てきますので、確実に理解するようにしてください。
3	現代教育方法学の論点と課題	教育方法に関する 4 つの論争について取り上げます。ここで大切なのはどちらが勝ったのかではなく、これらの論争で何が提起されたのかを知ることです。
4	子どもは何を学ぶか	4 回目では「教育目標」について学びます。つまり、何を対象に、どのような力を子どもたちにつけることを目標とするのかについてです。どのように教育目標を設定すべきかについて考えてください。
5	学習とは何か (1)	学習について考える時、行動主義的学習理論、認知主義的学習理論、状況主義的学習理論を知る必要があります。5、6 回目に学習する中には、例えばピアジェによる発達段階論など、とても大切な言葉がたくさん出てきます。それぞれの用語をしっかりと理解していくようにしてください。
6	学習とは何か (2)	5 回目と同じです。
7	学力をどう高めるか	テキストでは、学力を「できる学力」と「わかる学力」にわけて考えます。また、その一例を示していますので、授業をイメージしながら読み進めてみてください。
8	授業をどうデザインするか (1)	8、9 回では、授業をデザインすることとはどのような意味なのかを考えてみましょう。また、「学び」と「勉強」の違いについて示されていますが、それについて皆さんはどう考えますか。
9	授業をどうデザインするか (2)	8 回目と同じです。
10	教育の道具・素材・環境を考える	子どもたちの興味・関心・意欲などを引き出す教材づくりについて考えてみましょう。また、メディア教育や学習空間などについても考えてください。
11	何をどう評価するか (1)	評価は子どもたちの成績をつけるためだけのものではなく、自分（教師）の設計した授業がうまく展開できたのかを確認するための手段です。11、12 回目では、評価に関する用語の意味だけではなく、その背景も理解してほしいと思います。
12	何をどう評価するか (2)	11 回目と同じです。
13	教科外教育活動を構想する	ここでは、教科外教育の役割を確認するとともに、「集団づくり・自治活動」「文化活動」「相談活動」の役割と特徴について確認します。
14	どのような教師を目指すべきか	教師を志すみなさんが、これからどのようなものを身に付けてゆくべきか、どのように身に付けられればいいのかをここでは考えてみましょう。
15	まとめ	教える専門職である教師にとって何が大切なのか。もう一度考えてみましょう。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉教育方法における論点 序章+第1～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 「問題解決学習」論争についてテキストの該当部分を要約しなさい。また、自身の考えを述べなさい。
- (2) 「たのしい授業」論争についてテキストの該当部分を要約しなさい。また、自身の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・課題(1)、課題(2)と表記してレポートを作成すること。
- ・要約とは「文章のポイントを短くまとめて示すこと」です。テキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。
- ・要約については、自分の解釈を示すのではなく、テキストに何が記されているのかを正確に説明すること(要約すること)。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・自分自身の考えを論理的に説明できているか。

〈その他の注意点〉

文献などから引用する際は、必ず注記すること。

第2分冊 〈略題〉対話的・協同的な学び合い 第4章～11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 対話的・協同的な学び合いについて、テキストの該当部分を要約しなさい。
- (2) ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、対話的・協同的な学び合いを実現する学習指導案を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (「その他の注意点」もあわせて確認すること)
- ・課題(1)についてはテキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について要約すること。
 - ・学習指導案は、本時の指導計画(「本時の目標」「準備・資料」「本時の展開」「本時の評価」は必須。「板書計画」は出来る限り記入)のみで構わない。
 - ・「本時の展開」は「導入ー展開ーまとめ」の流れに分けて表を利用して記入し、「予想される児童の反応」も記入すること。
 - ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。

〈評価の観点〉

- ・課題(1)については、テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。
- ・上記の留意事項をきちんと守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「班で〇〇について考えさせる」等、児童にグループ学習の成果を任せるような指導案を時々見かけるがそれは不可とする。グループ学習をさせる時は、教師の指示などを記入すること。
- ・書籍などにある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題(2)については幼稚園での指導場面を想定し、対話的・協同的な学び合いを実現するものを作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開(流れ)」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

- ・学習指導案を作成する時は、教科書を参照すること。
- ・より深く学修するためにはテキストの巻末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
- ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。
- ・学修指導書の「科目試験の準備」も必ず読んでおいてください。

教員からの
メッセージ

- ・ただテキストを読み進めるだけでは、教育実践の現場で役立つ学びにはなりません。
- ・教師にとって必要なもののひとつに想像力があります。
- ・テキストを読む時、レポートを作成する時、学習指導案を作成する時など、いつも子どもたちの前で授業をしている自分自身をイメージしてみてください。目の前にいる子どもたちの反応をイメージしてください。
- ・そうする日々の取り組みが、将来、教育実践の現場に立った時には必ず役立つ筈です。

科目概要	大学における体育は、教育課程における最終段階の健康に関わる科目である。今までは、必修として行政的に決められた教育活動であったが、これからの青年期は男女差、過去の運動経歴の違いにより、健康に対する取り組み方が多様化される。言い換えれば、真に自己の健康と体力を生涯にわたり考え、健康的で豊かな生活を営む基礎知識を得るための科目となる。
主な到達目標	WHO の積極的な健康観、人間の発育発達・老化、安全で効果的な体力づくりの方法等、幅広い健康に関する知識を獲得する。さらに、人生を豊かにしてくれるスポーツとの関わりやスポーツの楽しみ方を学び、生涯を通して健康的な生活を営むことができる実践力を身に付ける。
テキスト学修の留意点	・ シラバスをよく読んで、それぞれの学修テーマ、課題に対して説明できるようにする。 ・ レポート課題に関して、テキストの記述を写すのではなく、自分の言葉で適切に述べるようにする。 ・ レポート作成には、指導書や「レポート課題」にある留意事項や評価の観点を参考にする。

	学修テーマ	課 題
1	健康観について	WHO の健康観で積極的な概念と思われるところを考察する。
2	生活習慣と健康について	QOL とは何か。生活の質を向上させるには、どのような考え方があるか考察する。
3	女性と健康について	リプロダクティブヘルスについて理解し、女性の健康観について考える。
4	老化と健康について	超高齢化社会を前に、精神と心の健康の大切さについて理解する。
5	発育・発達について	発育・発達の観点から、自分自身や周囲の友人の様々な能力発揮時期の違いを考察する。
6	トレーナビリティ（運動効果）について	体力の内容から、各運動要素を高めるための留意点を考える。
7	身体運動の科学的分析	心臓の機能的余裕とは、どのようなことか。ジャンプ力とは何か考察する。
8	スポーツ栄養について	トレーニング効果を高めるために、栄養素と摂食タイミングの重要性を考察する。
9	体力について	体力の内容を理解し、生涯を通して健康に過ごすために大切な体力要素を考える。
10	スポーツと文化について（1）	スポーツ文化の果たす役割について、グローバルな視点から考察する。
11	スポーツと文化について（2）	現在、多くのニュースポーツが生まれている。ニュースポーツの果たす役割について、例を挙げながら考察する。
12	スポーツ傷害と救急法	RICE 処置を理解するとともに、アイシングの手順と留意点について学習する。
13	健康と運動について	水泳・水中運動の運動効果を科学的に理解し、その具体的な運動方法を学習する。
14	教育と体操（1）	古代ギリシャの身体観から、身体運動の必要性を考える。
15	教育と体操（2）	小原國芳が、デンマーク体操を通して日本の青年達に何を期待していたか。また、学校行事としての体育祭（運動会）の意義を考察する。

シラバス執筆：鈴木 淳也

レポート課題

第1分冊 鈴木 淳也

第1分冊 〈略題〉健康観について キスト p.14～p.16、p.19～p.22

横書き指定

直接入力

〈課題〉

WHO の健康の定義で、積極的な健康観と思われるところをグローバルな視点から述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートの「はじめに」と「おわりに」を付けること。
「はじめに」の内容は、今回の課題に関する社会問題など、「おわりに」は本レポートのまとめとして各 100 字から 200 字程度で簡単に触れる。改行については、文章の内容が変わるときに使い、不必要に多くの改行は慎しむなど、レポート作成の基本的なルールを守り、述べること。

〈評価の観点〉

- ・ WHO 憲章の前文が述べてあり、それぞれの健康の内容について考察されているかどうか。
- ・ WHO 憲章の積極的な健康観について、述べられているかどうか。
- ・ 精神と心の健康について、述べられているか。
- ・ テキスト以外の参考文献からも学習しているか。
- ・ レポートの「はじめに」と「おわりに」が適切に書けているか。

〈その他の注意点〉

- ・ 全体の字数が 2000 字以上であること。

参考文献

.....
テキストの章の後に文献が紹介されており、そちらを参照のこと。
また、現代における健康問題について、新聞やインターネットなどから情報を収集し、より深く幅広い学習をしてもらいたい。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストを熟読しておくこと。
・ 学修テーマと課題の内容について、テキスト中心に学習し理解を深め、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
健康・体育・スポーツ学は、総合学問である。生理学・解剖学・衛生学・病理学や社会学、歴史など様々な領域の学問が基礎となっているので、興味のある分野を深く学習し、生涯を通して健康管理できる幅広い知識や実践力を身に付けてほしい。

科目概要	テキストは『教職概論 改訂第2版』（佐久間裕之編著 2024年）を用い、第1章から第4章までを第1分冊、第5章から第8章までを第2分冊とする。テキストを通して、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 一般目標として主に下記の内容を学ぶ。 ①教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義。 ②教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力。 ③教員の職務内容：教員の職務内容の全体像・教員の服務上・身分上の義務。 ④チーム学校運営への対応：学校が担う役割の拡大・多様化と「チーム学校」の必要性。
主な到達目標	①・公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ②・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ③・幼児児童生徒への指導及び指導以外の公務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 ④・校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
テキスト学修の留意点	・「学修指導書」と下記の「学修テーマ」と「課題」を参考にしつつ、キーワードを確認しながらテキストを読んでいくこと。各章を読み終わる毎に、章末の「学修課題」を文章化して確認すること。

	学修テーマ	課題
1	教職の意義（1）	教育の目的・目標とはいかなるものか。教師聖職者論から見出される教職の意義とはいかなるものか。（第1章）
2	教職の意義（2）	教師労働者論、教師専門職論から見出される教職の意義とはいかなるものか。教員として適格性を持つためには、どのような努力が必要か。（第1章）
3	教員の職務（1）	いわゆる「教員」の名称にはどのようなものがあるか。教員の身分とは法令上どのように規程されているか。（第2章）
4	教員の職務（2）	教員の職務としてどのようなものがあるか。教員の服務において、職務上の義務と身分上の義務はどのような内容であるか。（第2章）
5	教員の資質能力（1）	資質能力の語義、実践的指導力、いつの時代にも求められる資質能力、今後特に求められる資質能力、これらの具体的内容とはいかなるものか。（第3章）
6	教員の資質能力（2）	教員の適格性、問題ある教師への対処、教員養成・免許制度の改革動向とはどのようなものか。現在の教員に求められている学び続ける教員像とチーム学校、ならびに教職課程コアカリキュラムとはどのようなものか。（第3章）
7	教員養成（1）	戦前の教員養成の歴史とはどのようなものであったか。また当時の教員はどのような教育観を持たねばならなかったのか。（第4章）
8	教員養成（2）	戦前に比べ戦後の教員養成はどのように変化したか。「開放性の教員養成」「相当免許主義」とはどのような意味か。（第4章）
9	教員資格と教員の採用（1）	教員免許状を有することの意味とは何か。教員免許制度における「総合化」「弾力化」とは何か。（第5章）
10	教員資格と教員の採用（2）	教員免許状の取得要件とは何か、また欠格事項とは何か。教員採用の具体的な方法とはどのようなものか。（第5章）
11	教員の研修と評価（1）	教員研修の意義とはどのようなものか。教員研修の種類にはどのようなものがあるか。（第6章）
12	教員の研修と評価（2）	教員評価とはどのようなものか。教員研修と教員評価をめぐる課題としてどのようなものがあるか。（第6章）
13	教員と学校経営（1）	学校経営の意義とはどのようなものか。学校組織の3つの特質とは何か。（第7章）
14	教員と学校経営（2）	「学校における意思決定組織」とは何を意味するのか。学校評価を生かした学校づくりとはどのようなものか。（第7章）
15	教職をめぐる新たな諸課題とまとめ	特別支援教育の理念とは何か。インクルーシブ教育の構築には何が必要か。（第8章）さらに今までの学修を振り返り、自分が教員になることの是非を自ら判断してみる。

レポート課題

第1分冊 山口 意友
第2分冊 佐久間 裕之

第1分冊 〈略題〉教育の基本構造と3つの教職観 第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

(1) 日本における教育の基本構造を正確に示した上で、(2) 3つの教職観（教師聖職者論、教師労働者論、教師専門職論）について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキストの当該箇所をよく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明（要約）すること。WebTamaのEdu Track（＝webtama右上のピンクの「学修する」アイコン）に補助動画があります。
- ② 自分の「解釈」を示すのではなく、テキストに何が記されているかを正確に説明（要約）すること。（それゆえ、他の参考文献から引いてきても無意味となる。）
- ③ 術語の誤記（変換ミスも含む）については、「再提出」になるので注意すること。

〈評価の観点〉

- ① 課題(1)については、「教育の目的」「教育の目標」「生きる力」の説明が正確になされているかどうか。
- ② 課題(2)については、3つの教職観の説明が正確になされているかどうか。

〈その他の注意点〉

- ① 2000～2400字位でまとめ、文章末に「総字数」を記載すること。総字数の記載が無い場合は、判定不可（再提出）となるので注意すること。また、2000字に満たない場合も再提出となる。
- ② 文章作成の基本事項（ex. 段落は最初の1マス空けがなされていない、段落が全く無いなど）が守られていないようなレポートは再提出となる。
- ③ 指定の様式で提出されていない場合には再提出となる。
- ④ 科目試験の受験資格を得るためだけの形式的提出（ex. 字数が異常に少ない、レポート内容が他の科目内容になっている等）は絶対にしないこと。（不正レポートとして処分されることもあります。）

第2分冊 〈略題〉教員資格と教員研修 5章～8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教員資格としての教員免許状を有することの意味と教員研修の意義について、テキストに基づいてまとめなさい。（2000～2400字）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① レポート作成にあたっては指定の様式を必ず守ること。
- ② レポート作成の前提条件はテキスト学習である。このレポートでは必ずテキスト第5章から第8章の全体を通読した上で、さらに第5章「教員資格と教員の採用」及び第6章「教員の研修と評価」の精読結果をレポートに反映させること。
- ③ レポート作成にあたっては、テキストの文章を丸写ししてはならない。テキストを精読し、理解したうえで、自分の表現でテキストの内容をまとめること。

〈評価の観点〉

次の観点からみて不適切・不十分な場合、再提出となる。

- ① 指定の様式・分量が守られているか。
- ② テキストの当該箇所がレポートに反映されているか。
- ③ まとめが自分の表現でなされているか（テキストの丸写しやそれに準じる箇所がないか、長すぎる引用文がないか）。

〈その他の注意点〉

- ・ 分量として規定の「2000～2400字」を守ること。規定の分量に満たない場合は再提出となる。
- ・ 引用はできるだけ避けること。文字数を埋める為だけの引用は不可とする。やむを得ず引用する場合は、必ず「」を付けて行うこと（引用箇所の途中省略などする場合は〔中略〕等の表示を入れて、省略したことがわかるようにすること）。

参考文献

.....
テキスト各章末に記載しているので、それを参照。

科目試験等への
アドバイス

.....
上記の「学修テーマ」と「課題」に記されたことを説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
試験合格の近道は、上記の課題にきちんと答えることができるかどうかです。

TT0123 経済学 (国際経済を含む。)

2単位

テキスト名

『入門 経済学 (第二版)』又は
『入門 経済学 (第三版)』
井堀利宏 新世社

科目概要	マクロ、ミクロ、国際といった特定分野を重視した学習ではなく、経済現象を分析するいくつかの思考方法を学び、一般的な問題にそれぞれを適用できるように学習します。家計、企業、政府といった経済主体や、市場、政策の機能という重要な用語ごとに、代表的な経済学の問題を扱います。その目的は、経済学の専門的な区別にとらわれず、経済の全体像を捉える力を養うことにあります。(第1分冊：第1～7回 第2分冊：7～14回)
主な到達目標	入門書を読破するための基礎的な経済学の思考法を身につけることを目指します。 本科目で登場する概念や考察の方法を、日常生活で見聞きする経済問題に対し、自ら調べ考えるための糸口にしましょう。
テキスト学修の留意点	一般的な経済学の教科書はマクロ経済学とミクロ経済学という分野に大別されています。双方の入門書を読んできると、まるで別の学問の様に感じられ、扱われている内容に関連性が見出せないことが多いかもしれません。したがって入門段階では、個別ばらばらに理論展開の理解のみにとらわれがちです。同じ経済問題を考える為の複数の視点として、経済理論の間にある共通点、相違点を理解するようにしましょう。

	学修テーマ	課 題
1	経済とは何か 経済学とは何か (第1章)	生産活動とそれらを支える仕組みを表現するために、どのような視点が必要になるか考えてみよう。(自分を含め、身近な家族の1日、また1年の生活を、言葉や図で簡単に描いてみると良い練習になる。)
2	家計の活動 消費行動 (第2章)	①家計が行う代表的な活動を考えてみよう。②消費という財の使い道は、どのような特徴を持っているか考えてみよう。(例えば投資とはどのような違いがあるだろうか。)
3	企業の生産活動 (第3章)	①利潤の定義、および最大化の条件を確認しよう。②完全競争市場の特徴と、成立の条件を調べてみよう。
4	国民経済計算 家計・企業・政府の 位置付け (第8章1節)	①三面等価の原則を確認しよう。②家計、企業、政府が経済の中で持つ役割を確認しよう。
5	完全競争市場均衡 (第6章)	①完全競争市場均衡が持つ意義を確実に押さえておこう。②完全競争市場均衡を図(グラフ)を用いて表現できるようにしよう。
6	市場の機能 市場の失敗 (第7章)	①前回と同じ図を用いて、不完全な取引の弊害を表現してみよう。②会部経済によって市場が失敗する例を挙げて説明してみよう。
7	貿易の利益 余剰分析 (第11章1節)	①貿易政策を価格政策として理解し、図(グラフ)によって価格の変化を確認しよう。②価格が変化することによって、余剰の増減が起こることを確認しよう。
8	政府の機能 (第4章)	①政府がもつ制度的な機能を整理しておこう。②所得再分配機能の是非、あるべき姿について考えてみよう。
9	金融システム (第5章)	①中央銀行が貨幣供給量を増減させる方法、その過程を調べてみよう。②銀行利子率の上昇・下降と貨幣需要の増・減の関係を確認しよう。
10	有効需要の原理 (第8章2節～)	①有効需要の原理とはどのような原理か説明してみよう。②有効需要が増加するとどのような波及効果が起きるか考えてみよう。
11	マクロ政策 (第9章)	①財政支出の増減がIS曲線のシフトにつながる理由を説明してみよう。②同様に、貨幣供給量の増減がLM曲線のシフトにつながる理由を説明してみよう。
12	IS-LM分析 (第9章)	①IS曲線、LM曲線の動きが均衡の生産・所得を変化させることを確認しよう。②生産・所得の変化に対応した利子率の変動パターンを確認しよう。
13	国際経済 為替レートの影響 (第11章第2節～)	①円高、円安とはどのような現象で、IS曲線、LM曲線をどちらにシフトさせるかを確認しよう。②外国利子率と国内利子率の差が広がると、資金の動きにどのような変化が起きるか確認しよう。
14	(参考) 経済の諸問題 (第10章、13章)	①現在までの日本にどのような問題があったのか概観してみよう。②経済学が応えられることとそうでないことの違いについて考えてみよう。
15	まとめ	第1回から第13回までを通して課題を確認し、レポート課題に取り組む。

シラバス執筆：江藤 圭也

レポート課題

第1分冊 江藤 圭也

第2分冊 江藤 圭也

第1分冊 〈略題〉需要と供給の均衡 シラバス参照

横書き

Word添付

〈課題〉

- ①需要と供給が価格を通して一致するまでの過程を説明し、市場均衡が消費者と生産者の余剰最大化行動に対してもつ意義を述べよ。
- ②上記①の均衡は、完全競争市場で達成されたとする。この市場均衡が実現させた資源配分が、最も効率的である理由を論じよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポート作成に使用した（WEB上の情報を含む）文献は、レポートの最後に参考文献として明記してください。（書籍・論文なら題名、著者、出版社、出版年、WEB情報ならサイトの運営者・団体、URLなど。）

レポートの中で、参考資料からそのまま論述を用いた場合、レポート中の該当箇所に注をつけてください。

〈評価の観点〉

上記留意事項にあるごとく、参考文献を用いた内容整理と、それらに対する自分の意見、考察との区別を明確にしてください。この点が守られない場合は、再提出です。

レポート（研究論文・論説文）として明確に伝わる文章であることが求められます。

文章の分量に関係なく、経済理論的な因果関係がはっきりした解説がなされていることが求められます。

〈その他の注意点〉

WEB上の情報を利用する際の注意。
WEB百科事典的な情報源には、学術理論的な解説に多くの間違いや誤解を生みやすい表現が含まれています。
また時事的問題に関しても、必ず正確とは限りません。情報源を確認するなど、利用の際には検証が必要です。

第2分冊 〈略題〉開放マクロ経済における諸政策 シラバス参照

横書き

Word添付

〈課題〉

国内均衡で成立した利率が、貿易相手国および世界市場のそれと一致しない場合、国内経済にどのような変化が起きるのか、IS曲線、LM曲線の動きとあわせて説明せよ。なお相対的に自国利率が高い場合、低い場合の区別をはっきりさせて論じること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポート作成に使用した（WEB上の情報を含む）文献は、レポートの最後に参考文献として明記してください。（書籍・論文なら題名、著者、出版社、出版年、WEB情報ならサイトの運営者・団体、URLなど。）

レポートの中で、参考資料からそのまま論述を用いた場合、レポート中の該当箇所に注をつけてください。

〈評価の観点〉

上記留意事項にあるごとく、参考文献を用いた内容整理と、それらに対する自分の意見、考察との区別を明確にしてください。この点が守られない場合は、再提出です。

レポート（研究論文・論説文）として明確に伝わる文章であることが求められます。

文章の分量に関係なく、経済理論的な因果関係がはっきりした解説がなされていることが求められます。

〈その他の注意点〉

WEB上の情報を利用する際の注意。
WEB百科事典的な情報源には、学術理論的な解説に多くの間違いや誤解を生みやすい表現が含まれています。
また時事的問題に関しても、必ず正確とは限りません。情報源を確認するなど、利用の際には検証が必要です。

参考文献

- 『入門 経済学』第4版 伊藤元重 日本評論社 2015年
『入門 ミクロ経済学』武隈 慎一 金子 浩一 ダイアモンド社 2005年
『入門 マクロ経済学』第6版 中谷巖 下井直毅 塚田裕昭 日本評論社 2021年

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、学習成果を測る最終的な手段として位置づけられます。しかし、大学で学ぶ学問として、じっくりと知識を深めるための手段はあくまで普段の学習・研究であり、その目標はレポート課題です。レポート課題に答えるために学習を進めれば、試験問題に対しても応用がきくはずですが、時間制限、資料の制限があるなかで学習内容を総括することが、筆記試験であると考えてください。合否が決まることは確かですが、科目試験は復習を兼ねた演習として臨み、より強く知識の定着を図ることを目指してください。

教員からの
メッセージ

十分に理解できた内容であっても、他の書籍による異なる表現、解説を読むことで、理解を深めることができます。参考書として挙げた書籍では、より詳細な説明や発展的内容を含みますが、基本的分野も扱っていますので役に立つことでしょう。

また、ある程度慣れた段階では問題に答える形式で理論を学ぶ方法も有効です。解答の解説が詳しい教科書を挙げました。

科目概要	大学における体育は、教育課程における最終段階の健康に関わる科目である。今までは、必修として行政的に決められた教育活動であったが、これからの青年期は男女差、過去の運動経歴の違いにより、健康に対する取り組み方が多様化される。言い換えれば、真に自己の健康と体力を生涯にわたり考え、健康的で豊かな生活を営む基礎知識を得るための科目となる。
主な到達目標	WHO の積極的な健康観、人間の発育発達・老化、安全で効果的な体力づくりの方法等、幅広い健康に関する知識を獲得する。さらに、人生を豊かにしてくれるスポーツとの関わりやスポーツの楽しみ方を学び、生涯を通して健康的な生活を営むことができる実践力を身に付ける。
テキスト学修の留意点	・ シラバスをよく読んで、それぞれの学修テーマ、課題に対して説明できるようにする。 ・ レポート課題に関して、テキストの記述を写すのではなく、自分の言葉で適切に述べるようにする。 ・ レポート作成には、指導書や「レポート課題」にある留意事項や評価の観点を参考にする。

	学修テーマ	課 題
1	健康観について	WHO の健康観で積極的な概念と思われるところを考察する。
2	生活習慣と健康について	QOL とは何か。生活の質を向上させるには、どのような考え方があるか考察する。
3	女性と健康について	リプロダクティブヘルスについて理解し、女性の健康観について考える。
4	老化と健康について	超高齢化社会を前に、精神と心の健康の大切さについて理解する。
5	発育・発達について	発育・発達の観点から、自分自身や周囲の友人の様々な能力発揮時期の違いを考察する。
6	トレーナビリティ（運動効果）について	体力の内容から、各運動要素を高めるための留意点を考える。
7	身体運動の科学的分析	心臓の機能的余裕とは、どのようなことか。ジャンプ力とは何か考察する。
8	スポーツ栄養について	トレーニング効果を高めるために、栄養素と摂食タイミングの重要性を考察する。
9	体力について	体力の内容を理解し、生涯を通して健康に過ごすために大切な体力要素を考える。
10	スポーツと文化について（1）	スポーツ文化の果たす役割について、グローバルな視点から考察する。
11	スポーツと文化について（2）	現在、多くのニュースポーツが生まれている。ニュースポーツの果たす役割について、例を挙げながら考察する。
12	スポーツ傷害と救急法	RICE 処置を理解するとともに、アイシングの手順と留意点について学習する。
13	健康と運動について	水泳・水中運動の運動効果を科学的に理解し、その具体的な運動方法を学習する。
14	教育と体操（1）	古代ギリシャの身体観から、身体運動の必要性を考える。
15	教育と体操（2）	小原國芳が、デンマーク体操を通して日本の青年達に何を期待していたか。また、学校行事としての体育祭（運動会）の意義を考察する。

シラバス執筆：鈴木 淳也

レポート課題

第1分冊 鈴木 淳也

第1分冊 〈略題〉健康観について テキスト p.14～p.16、p.19～p.22

横書き指定

直接入力

〈課題〉

WHO の健康の定義で、積極的な健康観と思われるところをグローバルな視点から述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートの「はじめに」と「おわりに」を付けること。
「はじめに」の内容は、今回の課題に関する社会問題など、「おわりに」は本レポートのまとめとして各 100 字から 200 字程度で簡単に触れる。改行については、文章の内容が変わるときに使い、不必要に多くの改行は慎しむなど、レポート作成の基本的なルールを守り、述べること。

〈評価の観点〉

- ・ WHO 憲章の前文が述べてあり、それぞれの健康の内容について考察されているかどうか。
- ・ WHO 憲章の積極的な健康観について、述べられているかどうか。
- ・ 精神と心の健康について、述べられているか。
- ・ テキスト以外の参考文献からも学習しているか。
- ・ レポートの「はじめに」と「おわりに」が適切に書けているか。

〈その他の注意点〉

- ・ 全体の字数が 2000 字以上であること。

参考文献

.....
テキストの章の後に文献が紹介されており、そちらを参照のこと。
また、現代における健康問題について、新聞やインターネットなどから情報を収集し、より深く幅広い学習をしてもらいたい。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストを熟読しておくこと。
・ 学修テーマと課題の内容について、テキスト中心に学習し理解を深め、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
健康・体育・スポーツ学は、総合学問である。生理学・解剖学・衛生学・病理学や社会学、歴史など様々な領域の学問が基礎となっているので、興味のある分野を深く学習し、生涯を通して健康管理できる幅広い知識や実践力を身に付けてほしい。

TT0125 健康スポーツ理論

2単位

テキスト名

『心と体の健康・スポーツ』
大修館書店、
茨城大学心と体の健康研究会編

科目概要	「健康スポーツ」は健康とスポーツがお互い個々に展開されるものではなく、生涯健康という同じ目的への手段であるとの前提で展開される。学校での体育は生涯スポーツへの能力、態度等を培うという側面を持ち、活動主体である人体の心身について正しい知識を得ることで効果的で安全な活動ができる。健康、運動、スポーツに関する理論や実践を個別のものとせず、相互に補完していくものと捉え、自他ともにより健康的な生活を送るための科目である。
主な到達目標	・健康と運動スポーツとの関係を具体例に基づき説明でき、かつ実践できる資質を養う。 ・身体運動を科学的に分析でき、安全に実施できる学術的根拠と実践的能力を身につける。 ・文化としてのスポーツを正しく理解し、生涯スポーツを実践できる能力を身につける。 ・「健康」「運動」「スポーツ」の関係を正しく理解し、学校教育や地域活動に指導者として活かせる資質および実践力を身につける。
テキスト学修の留意点	・各課題の解答をまとめ、説明できるようにする。また学修指導書の設問の回答をかんがえておく。 ・章をまたいで関連する項目がある場合は、それぞれを補強するよう学習すること。

	学修テーマ	課 題
1	基本的生活習慣と健康Ⅰ	①日本における「健康づくりのための身体活動基準 2013」を実践している人はどれくらいなのか調べてみよう。 ②1週間の食事内容と摂取時刻等についてまとめ、問題があれば改善点を指摘してみよう。
2	基本的生活習慣と健康Ⅱ	①日本版 AUDIT で質問に回答し、判定してみよう。 ②諸外国の喫煙率を調べ、日本と比較してみよう。 ③「肥満」と「やせ」のリスクをまとめ、自分の BMI を計算してみよう。
3	学生生活の充実と健康Ⅰ	①「かぜ」「インフルエンザ」とは何か比較しながらまとめてみよう。 ②一年間に日本における食中毒の事例はどれくらい発生しているのか調べてみよう。 ③頭痛の種類を整理してまとめてみよう。
4	学生生活の充実と健康Ⅱ	①住んでいる自治体のメンタルヘルスへの取り組みを調べてみよう。 ②自転車の交通ルールを調べてみよう。
5	運動スポーツの理論Ⅰ	①経験のあるスポーツの局面構造をまとめてみよう。 ②実践したことのあるトレーニングを原則に従いまとめてみよう。
6	運動スポーツの理論Ⅱ	①実践したことのあるトレーニングを原則に従いまとめてみよう。 ②実践したことのある有酸素トレーニングと筋肉のトレーニングをまとめてみよう。
7	運動スポーツの準備Ⅰ	①ウォーミングアップとクーリングダウンについてその必要性をまとめてみよう。 ②これからスポーツをするときのストレッチを組み合わせで作ってみよう。そして実践してみよう。 ③心身調節法を実践してみよう。
8	運動スポーツの準備Ⅱ	①運動時傷害の応急処置をまとめてみよう。 ②心肺蘇生に関する資格にはどのようなものがあるか、調べてみよう。 ③運動中の水分補給の必要性についてまとめてみよう。
9	運動スポーツの実践Ⅰ	プロジェクトアドベンチャーについて調べてみよう。
10	運動スポーツの実践Ⅱ	経験したことのあるスポーツの歴史、ルール、用具、技術・戦略等についてまとめてみよう。
11	スポーツのひろがりⅠ	スポーツの起源と歴史を海外と日本についてまとめてみよう。
12	スポーツのひろがりⅡ	①経験したことのあるニュースポーツがあれば紹介文を作成しよう。 ②テキスト以外の日本生まれのニュースポーツを調べてみよう。
13	現代社会とスポーツⅠ	①生涯スポーツのライフサイクルについて事例をあげてまとめてみよう。
14	現代社会とスポーツⅡ	①「スポーツ基本計画」について調べ、まとめてみよう。 ②総合型地域スポーツクラブについて調べてみよう。
15	健康・運動・スポーツ	・健康、運動、スポーツの関係を子どもたちに説明する際の要点をまとめてみよう。

シラバス執筆：川崎 登志喜

レポート課題

第1分冊 川崎 登志喜

第2分冊 川崎 登志喜

第1分冊 〈略題〉健康 1章「健康」～2章2節「運動と身体」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ある1日（あるいは数日）の摂取食物と行動の記録を表し、それを元により健康的に過ごすための条件（改善点など）を自身に対して提案しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・表中には食事内容や行動を具体的に示し、レポート内に組み入れること。
- ・必ず教科書を参考にし、その箇所（ページ）を明記すること。
- ・教科書以外の参考文献を使用した場合には、必ず明記すること。

〈評価の観点〉

- ・現在の生活を客観的に評価しているか。
- ・具体的な提案（改善点）を提示できているか。

〈その他の注意点〉

教科書内に示されている参考文献あるいは健康に関する新聞記事などでさらに学修が深まる。

第2分冊 〈略題〉スポーツ 2章3節～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

あなたの身近なスポーツ環境についてまとめ、より良くするための改善策を具体的に記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・一般的なスポーツ環境ではなく、あなたの住んでいる町のスポーツ環境（ハード面・ソフト面）を対象とすること。
- ・必ず教科書を参考にし、その箇所（ページ）を明記すること。

〈評価の観点〉

- ・スポーツ環境について具体的な長所・短所が記述されていること。
- ・改善策に具体性があること。

〈その他の注意点〉

教科書内に示されている参考文献あるいは健康に関する新聞記事、身近なスポーツ施設をみることでさらに学修が深まる。

参考文献

学習は、まず、テキスト自体の学習を先行して行い、さらに発展的に学習するのに有用な参考文献がテキストの項目ごとに記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、「健康」「運動」「スポーツ」に関する設問と、それぞれの関連に関する設問を用意する予定である。
- ・説明形式の回答様式である場合は、具体例をあげるとよい。科目試験の学習は実生活でどのように活用するのかを考えながら行うとよい。

教員からの
メッセージ

健康スポーツは実生活で活用できる要素を多く含んでいる。運動、スポーツをうまく生活に取り入れ、リズムを作り、健康的な人生を送れるようにしていただきたい。

科目概要	現代社会の様々な教育課題を列举し、各教育課題に関連する用語の定義・意味、研究や実践上の課題、さらには今後の課題について理解を深め、考察する。
主な到達目標	各教育課題に関連する各用語についての基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、何が課題になっているかを把握しつつ、今後の課題についても理解する。
テキスト学修の留意点	テキスト学修に加えて、文献・参考資料に関する情報も記載されているので、関連図書等も意欲的に読み、各教育課題に関する理解を深めるようにすること。

	学修テーマ	課 題
1	教育経営研究の基本概念	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「教育経営」、「リーダーシップ」、「協働」、「組織文化」、「組織開発」、「学校改善」、「経営参加」、「組織力」
2	教育経営研究の対象領域	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学校経営」、「地域教育経営」、「高等教育経営」、「生涯学習経営」、「教育課程経営」、「教師教育」、「学年・学級経営」
3	教育経営研究の方法	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「臨床的アプローチ」、「質的調査」、「量的調査」、「歴史研究」、「比較研究」
4	学校経営改革	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学校の自律性（自律的学校経営）」、「アカウンタビリティ」、「ガバナンス改革」、「チームとしての学校」、「地域とともにある学校」
5	教育委員会制度改革	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「教育委員会制度」、「教育長」、「教育財政」、「教育振興基本計画」
6	教育制度改革	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「就学前教育改革」、「義務教育改革」、「高校教育改革」、「高等教育改革」、「特別支援教育改革」、「フリースクール」
7	教員制度改革	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「教員免許制度」、「教員養成・研修制度」、「教職大学院」、「教員評価」
8	子どもと教育経営	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学力論」、「いじめ・不登校」、「子どもの貧困と格差」、「外国人児童生徒教育」
9	学校と教育経営	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学校規模」、「学校間連携（小中一貫教育、義務教育学校）」、「コミュニティ・スクール」、「学校事務の共同実施」
10	教育課程と教育経営	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学力と学習指導要領」、「少人数学級・指導」、「学校完全週5日制」、「ICT教育」
11	教員と教育経営	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「教員の専門性と高度化」、「スクールリーダー」、「ミドルリーダー」、「教員の多忙化とバーンアウト」
12	地域と教育経営	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「地域の教育力」、「地域人材の活用」、「ソーシャル・キャピタル」、「学校支援地域本部・地域学校協働本部」
13	組織マネジメント	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。 「学校組織マネジメント」、「経営ビジョン」、「経営戦略」、「学校評価」、「ミドル・アップダウン・マネジメント」、
14	カリキュラム・マネジメントとスタッフ・マネジメント(1)	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。「カリキュラム・マネジメントと開発」「教科横断カリキュラム」「社会に開かれた教育課程」「スタッフ・マネジメント」「職能成長とキャリア設計」「メンタルヘルス・マネジメント」
15	スタッフ・マネジメント(2)とリスク(クライシス)・マネジメント	以下の各用語の定義や意味を理解し、当該用語の研究・実践上の課題を把握し、今後の課題についても認識すること。「校内研修とOJT」、「女性の登用」、「学校安全」、「危機管理（危機管理マニュアル）」、「東日本大震災と防災教育」、「学校事故」、「スクール・コンプライアンス」

レポート課題

第1分冊 湯藤 定宗

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉教育経営と学校の自律性 テキスト第1・2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 課題1. 教育経営の意味を説明せよ。その際、「経営」という言葉が用いられている理由についても言及せよ。
- 課題2. 学校の自律性について説明せよ。そして、学校の自律性を考える場合の2つの側面について、テキストに基づき、まとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストも含めて、文献の引用については引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、参考にはしているはずなので、参考文献として、レポート文末に必ず表記すること。

〈評価の観点〉

1. テキストの内容が端的にまとめられているか。
2. 引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

1. 指定されたレポート形式等を遵守すること。
2. 文献等の引用は、上記のルールに則って、記述すること。
3. レポート課題に直接関係する頁のみを学修してレポートを作成するのではなく、シラバスを確認し、計画的に学習を進め、関連するキーワードも理解した上で、レポートを作成すること。

第2分冊 〈略題〉学校評価 テキスト第3・4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学校評価の意味、学校評価の実践上の課題、及び「学校評価」研究の課題について述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストも含めて、文献の引用については引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、参考にはしているはずなので、参考文献として、レポート文必ず必ず表記すること。

〈評価の観点〉

1. テキストの内容が端的にまとめられているか。
2. 引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

1. 指定されたレポート形式等を遵守すること。
2. 文献等の引用は、上記のルールに則って、記述すること。
3. レポート課題に直接関係する頁のみを学修してレポートを作成するのではなく、シラバスを確認し、計画的に学習を進め、関連するキーワードも理解した上で、レポートを作成すること。

参考文献

- 日本教育経営学会編『講座現代の教育経営 1 現代教育改革と教育経営』学文社、2018年、ISBN978-4-7620-2811-3
- 日本教育経営学会編『講座現代の教育経営 2 現代の教育課程と教育経営』学文社、2018年、ISBN978-4-7620-2812-0
- 日本教育経営学会編『講座現代の教育経営 3 教育経営学の研究動向』学文社、2018年、ISBN978-4-7620-2813-7
- 日本教育経営学会編『講座現代の教育経営 4 教育経営における研究と実践』学文社、2018年、ISBN978-4-7620-2814-4

科目試験等への
アドバイス

科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出题する。

教員からの
メッセージ

テキストを熟読し、さらに深めたい内容に関しては、参考文献等を読み、理解を深めてください。

科目概要	考古学とは、過去の人類が残した物質的な資料を通して、その当時の生活・技術・文化・集団等を復元しようとするものであり、そのための各種方法論と、それらを通して明らかになった各時代の様相について学ぶ。
主な到達目標	考古学の基本的な方法論について説明できる。 考古学上の基本的な用語について説明できる。 各時代の様相とその変遷について概説できる。 考古資料を通してわかる、当時の人類の活動について説明できる。
テキスト学修の留意点	考古学は土地に密着した学問であり、その調査成果には、地域的な特徴が強くあらわれる。テキストに述べられている内容も、例えば当時の政権の中心地と、現に各自が居住している地域とでは、微視的には相違することも多分にあり得る。通史的に語られているテキストの内容を理解することが必要なのは言うまでもないが、地域ごとの特徴も併せて理解することが、考古学を学ぶ上では重要である。

	学修テーマ	課 題
1	考古学とはどのような学問か	考古学の学問としての位置づけ、目的、調査研究の流れを理解する。
2	考古資料とは何か	考古学が扱うところの資料とはどのようなものから構成され、どのような特色を持っているかを理解する。
3	資料の観察	遺跡から出土した素資料・ナマの資料を、考古学の学術的資料とするための手順、方法、見方を理解する。
4	資料の解釈	資料を解釈し、そこから人間の活動を読み取る方法、モノからコト・コトガラを考える方法を理解する。
5	型式学・層位学・編年・年代決定法	考古資料を研究する上での時間的・空間的な物差しのかかり方について、考古学的手法、理化学的方法、両者のすり合わせ方について理解する。
6	分布論	資料の空間的な広がりのとらえ方と、そのことから分かる意味について理解する。
7	古代社会	考古資料を基にした社会・集団のとらえ方について理解する。
8	考古学と現代社会	考古学をめぐる今日的な課題、考古学と現代社会との接点について考察する。
9	旧石器文化	日本列島に人が住み始めたころの様相、人類の生活について理解する。
10	縄文文化	日本列島で長期にわたり営まれた狩猟採集を主とする時代はどのように始まり、どのような人々によって担われてきたのかについて理解する。
11	弥生・古墳文化	新しい生業や技術の導入により、生活や社会がどのように変化し、古代国家の誕生へとつながっていったかを理解する。
12	古代から中世前半の考古学	文字で書き残されてきた歴史と、物質資料から分かる歴史をすり合わせて研究する時代の様相と、それぞれの資料の特性について理解する。
13	中世後半から近現代の考古学	最近になって考古学的調査研究の対象とされるようになった、比較的近い時代の考古学の成果と課題について理解する。
14	列島北東部の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の北の文化について、考古学の視点から理解する。
15	南西諸島の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の南の文化について、考古学の視点から理解する。

シラバス執筆：菅野 和郎

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉考古学的年代決定法 第I部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

考古学的手法による年代の決定方法とは、どのようなものか。それはどのような調査及び資料操作によって導き出されるものであるか説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト等の単なる書き写しにならないように注意すること。テキスト等の内容を理解した上で、適切な用語を使用し自分の文章で説明するようにすること。理化学的手法による年代測定法との関連性も考察すること。ただし課題が問うのはあくまでも『『考古学的手法』による『年代（時代ではない）』の決定方法』であり、そちらを主にまとめること。具体的な事例に即すと、考察しやすいであろう。

〈評価の観点〉

作業仮説、検討する手順、遺跡調査における具体的手法、各種方法による成果の総合化についての考え方を正しく理解し、鍵となる術語（専門用語）等を適切に用いた上で論じられているかを基に評価を行う。

〈その他の注意点〉

考古学の方法論を論じたり、考古資料によって日本の歴史を語る上で、年代を決定することがどのような意味を持つのか、という視点を常に意識して考察することは、本レポート課題のみならず、考古学を学ぶ上で重要である。

第2分冊 〈略題〉地域と遺跡 第II部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

自分の居住する地域における考古学的知見について、博物館・資料館等を見学した上でまとめよ。なおその際、展示方法についても気付いた点があれば簡明に付記せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

求めているのは博物館等の見学記・体験記や展示評ではない。見学した内容をもとに調べ、考古学に主軸を置いた視点で記載するように注意すること。見学した博物館等の名称と所在地を明示すること。居住する市（区）、町、村に考古資料を扱う博物館等がない場合は、近隣の市町村あるいは県レベルの博物館等を見学すること。なお、本来は市町村及び都道府県という設置者レベル・対象範囲が異なる、両者の博物館等を見学して比較考察することが望ましい。可能であれば、とり上げる遺跡についても実地踏査をすることが望ましい。

〈評価の観点〉

- ①地域の考古学的な文化の変遷や特徴が分かるように大まかに述べた上で、
- ②特定の（興味を持った）時代・遺跡について深掘りする形で述べることで、考古学的調査で分かった「遺構」や「遺物」等の状況の詳細が記述されていること。
- ③記載内容が博物館の見学記や体験記の要素が強いと判断される場合は、再提出を求めることになる。

〈その他の注意点〉

展示解説や文献等の単なる書き写しにならないように注意すること。遺跡踏査の際、民有地・耕作地である場合もあるので、立ち入りの際は十分な配慮を行うこと。居住地周辺で遺跡の発掘調査が行われている場合、現場を見学をさせてもらうことができれば、知見が大いに広がるであろう。

参考文献

特にテキスト第II部（第2分冊）の内容については、テキストに紹介されているものをはじめ、理解の助けとなる多くの参考書が出版されているので、図書館等を利用して適切にまとめること。地域の考古学的状況の理解には、各自治体・教育委員会・博物館等で発行している自治体史・郷土誌・発掘調査報告書・展示図録等が参考になる。また、公共図書館の郷土資料コーナーにも、関連文献があると思われる。参考文献を使用した場合は、レポート末尾に明示すること。

科目試験等への
アドバイス

方法論及び考古資料に基づく歴史の双方共に、テキストの内容をよく理解しておくこと。具体的な事例を踏まえて解答できるようにしておくことが良いであろう。

教員からの
メッセージ

考古学を英語で archaeology というが、これは古代の学問という意味の古典ギリシア語に由来する語である。考古学の世界では、この語呂合わせで「歩けオロジー」とも言ってきた。実際に自分の足で踏査することの重要性を表すためである。考古学を学ぶ上で、テキスト、学修指導書を読むだけでなく、そこから得た知識をもって、各地の遺跡や考古・歴史系博物館等を訪ねて、遺跡、遺物から直接学ぶことが、ぜひ望まれる。

科目概要	考古学とは、過去の人類が残した物質的な資料を通して、その当時の生活・技術・文化・集団等を復元しようとするものであり、そのための各種方法論と、それらを通して明らかになった各時代の様相について学ぶ。
主な到達目標	考古学の基本的な方法論について説明できる。 考古学上の基本的な用語について説明できる。 各時代の様相とその変遷について概説できる。 考古資料を通してわかる、当時の人類の活動について説明できる。
テキスト学修の留意点	考古学は土地に密着した学問であり、その調査成果には、地域的な特徴が強くあらわれる。テキストに述べられている内容も、例えば当時の政権の中心地と、現に各自が居住している地域とでは、微視的には相違することも多分にあり得る。通史的に語られているテキストの内容を理解することが必要なのは言うまでもないが、地域ごとの特徴も併せて理解することが、考古学を学ぶ上では重要である。

	学修テーマ	課 題
1	考古学とはどのような学問か	考古学の学問としての位置づけ、目的、調査研究の流れを理解する。
2	考古資料とは何か	考古学が扱うところの資料とはどのようなものから構成され、どのような特色を持っているかを理解する。
3	資料の観察	遺跡から出土した素資料・ナマの資料を、考古学の学術的資料とするための手順、方法、見方を理解する。
4	資料の解釈	資料を解釈し、そこから人間の活動を読み取る方法、モノからコト・コトガラを考える方法を理解する。
5	型式学・層位学・編年・年代決定法	考古資料を研究する上での時間的・空間的な物差しのつくり方について、考古学的手法、理化学的方法、両者のすり合わせ方について理解する。
6	分布論	資料の空間的な広がりのとらえ方と、そのことから分かる意味について理解する。
7	古代社会	考古資料を基にした社会・集団のとらえ方について理解する。
8	考古学と現代社会	考古学をめぐる今日的な課題、考古学と現代社会との接点について考察する。
9	旧石器文化	日本列島に人が住み始めたころの様相、人類の生活について理解する。
10	縄文文化	日本列島で長期にわたり営まれた狩猟採集を主とする時代はどのように始まり、どのような人々によって担われてきたのかについて理解する。
11	弥生・古墳文化	新しい生業や技術の導入により、生活や社会がどのように変化し、古代国家の誕生へとつながっていったかを理解する。
12	古代から中世前半の考古学	文字で書き残されてきた歴史と、物質資料から分かる歴史をすり合わせて研究する時代の様相と、それぞれの資料の特性について理解する。
13	中世後半から近現代の考古学	最近になって考古学的調査研究の対象とされるようになった、比較的近い時代の考古学の成果と課題について理解する。
14	列島北東部の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の北の文化について、考古学の視点から理解する。
15	南西諸島の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の南の文化について、考古学の視点から理解する。

シラバス執筆：菅野 和郎

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉考古学的年代決定法 第I部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

考古学的手法による年代の決定方法とは、どのようなものか。それはどのような調査及び資料操作によって導き出されるものであるか説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト等の単なる敷き写しにならないように注意すること。テキスト等の内容を理解した上で、適切な用語を使用し自分の文章で説明するようにすること。理化学的手法による年代測定法との関連性も考察すること。ただし課題が問うのはあくまでも『『考古学的手法』による『年代（時代ではない）』の決定方法』であり、そちらを主にまとめること。具体的な事例に即すと、考察しやすいであろう。

〈評価の観点〉

作業仮説、検討する手順、遺跡調査における具体的手法、各種方法による成果の総合化についての考え方を正しく理解し、鍵となる術語（専門用語）等を適切に用いた上で論じられているかを基に評価を行う。

〈その他の注意点〉

考古学の方法論を論じたり、考古資料によって日本の歴史を語る上で、年代を決定することがどのような意味を持つのか、という視点を常に意識して考察することは、本レポート課題のみならず、考古学を学ぶ上で重要である。

第2分冊 〈略題〉地域と遺跡 第II部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

自分の居住する地域における考古学的知見について、博物館・資料館等を見学した上でまとめよ。なおその際、展示方法についても気付いた点があれば簡明に付記せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

求めているのは博物館等の見学記・体験記や展示評ではない。見学した内容をもとに調べ、考古学に主軸を置いた視点で記載するように注意すること。見学した博物館等の名称と所在地を明示すること。居住する市（区）、町、村に考古資料を扱う博物館等がない場合は、近隣の市町村あるいは県レベルの博物館等を見学すること。なお、本来は市町村及び都道府県という設置者レベル・対象範囲が異なる、両者の博物館等を見学して比較考察することが望ましい。可能であれば、とり上げる遺跡についても実地踏査することが望ましい。

〈評価の観点〉

- ①地域の考古学的な文化の変遷や特徴が分かるように大まかに述べた上で、
- ②特定の（興味を持った）時代・遺跡について深掘りする形で述べることで、考古学的調査で分かった「遺構」や「遺物」等の状況の詳細が記述されていること。
- ③記載内容が博物館の見学記や体験記の要素が強いと判断される場合は、再提出を求めることになる。

〈その他の注意点〉

展示解説や文献等の単なる敷き写しにならないように注意すること。遺跡踏査の際、民有地・耕作地である場合もあるので、立ち入りの際は十分な配慮を行うこと。居住地周辺で遺跡の発掘調査が行われている場合、現場を見学をさせてもらうことができれば、知見が大いに広がるであろう。

参考文献

特にテキスト第II部（第2分冊）の内容については、テキストに紹介されているものをはじめ、理解の助けとなる多くの参考書が出版されているので、図書館等を利用して適切にまとめること。地域の考古学的状況の理解には、各自治体・教育委員会・博物館等で発行している自治体史・郷土誌・発掘調査報告書・展示図録等が参考になる。また、公共図書館の郷土資料コーナーにも、関連文献があると思われる。参考文献を使用した場合は、レポート末尾に明示すること。

科目試験等への
アドバイス

方法論及び考古資料に基づく歴史の双方共に、テキストの内容をよく理解しておくこと。具体的な事例を踏まえて解答できるようにしておくことと良いであろう。

教員からの
メッセージ

考古学を英語で archaeology というが、これは古代の学問という意味の古典ギリシア語に由来する語である。考古学の世界では、この語呂合わせで「歩けオロジー」とも言ってきた。実際に自分の足で踏査することの重要性を表すためである。考古学を学ぶ上で、テキスト、学修指導書を読むだけでなく、そこから得た知識をもって、各地の遺跡や考古・歴史系博物館等を訪ねて、遺跡、遺物から直接学ぶことが、ぜひ望まれる。

科目概要	我が国の「教科国語」（国語科）は、日本語に関するすべての学習内容が含まれているという特徴をもつ。小学校の学習で、日本語の基礎基本のほとんどを習得することが求められ、その成果は、その後の言語生活に大きな影響を及ぼす。小学校での総授業時数の4分の1強が、国語科に充てられている理由がここにある。言語の働きと意義についての見識を深め、言語の教育としての教科の特徴を確実に理解することが必要である。
主な到達目標	小学校学習指導要領に示された「国語」の目標や内容を十分認識し、具体的な指導事項について理解する。（平成29年告示の学習指導要領に読み替えて考察すること） 児童の指導に役立つ基本的な言語知識を理解し、授業場面における教材研究の手順や方法を身に付ける。 音声・文字言語等、日本語についての認識を深め、その起源や変遷を理解し、今後の日本語の在り方等について考察することで、自分自身の言語生活の向上改善を図る。
テキスト学修の留意点	1. テキストの各章ごとに要約していく。 2. 各章末の確認問題を解く。 3. 学習指導要領（最新版・平成29年告示）や参考図書に当たり、テキストの背景理解を深める。 4. 実際の児童用教科書（レポート作成時点で手に入る最新版の教科書）の当該単元と照応させるなどして、実践的に学ぶ。

	学修テーマ	課 題
1	小学校学習指導要領『国語』の内容構成の特色	学習指導要領の改訂理由やその背景について理解を深める。 （知識及び技能）の3項目（思考力、判断力、表現力等）3領域の内容を2学年ごとのくくりで整理し、縦・横の関連性と特徴を理解する。 （学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること）
2	話すこと・聞くこと	小学校学習指導要領解説国語編 A 領域「話すこと・聞くこと」の指導内容を理解し、具体的な言語活動を開発する。（学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること）
3	書くこと（1）	小学校学習指導要領解説国語編 B 領域「書くこと」の指導内容を、児童用教科書と対応させ、具体的な指導過程を理解する。（学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること）
4	書くこと（2）	実作を通じて「書くこと」の文種の特徴を理解する。 （俳句・短歌・自由詩・意見文・説明文・紹介文・感想文など）
5	読むこと 説明文（1）	小学校学習指導要領解説国語 C 領域「読むこと」の指導内容の該当箇所を読み、実際の児童用教科書と対応させながら、具体的な指導過程を理解する。（学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること）
6	読むこと 説明文（2）	接続語の種類と機能を分類し、理解する。 段落の意味、段落相互の関係について実際の文章に当たって検証する。説明的な文章を読み、要旨をまとめる。
7	読むこと 文 学（1）	小学校学習指導要領解説国語 C 領域「読むこと」の指導内容の該当箇所を読み、実際の児童用教科書と対応させながら、具体的な指導過程を理解する。（学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること）
8	読むこと 文 学（2）	教科書に収録されている文学教材をできるだけ集めて読み、その内容価値や表現上の特徴をつかみ、まとめてみる。その際、学習指導要領の指導内容との関連を明記すること。（学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は令和2年度版を中心とすること）
9	読むこと 文 学（3）	テキストを参考に、自分の選んだ文学教材の教材分析をし、言語活動例を考える。
10	伝統的な言語文化	学習指導要領における「伝統的な言語文化」の内容について学習し、教材研究の方法について考える。
11	日本語の特質（文字）	漢字の構造を分析的にとらえ、系統化する。小学校で学習する教育漢字についてその成り立ちや構造をまとめる。 表意文字（漢字）・表音文字（仮名・ローマ字）について理解する。
12	日本語の特質（書写）	書写の学習要素10項目や基本点画について、理解を深める。 硬筆書写と毛筆書写、書道との関係について理解する
13	日本語の特質（文法）	小学校学習指導要領解説国語の該【知識及び技能】を読み、児童用教科書と対応させながら、学習の展開を理解する。
14	日本語の特質（語彙）	自分の言語体験や言語生活を見直し、語彙を豊かにするための環境整備や日常の取り組みについてまとめる。
15	思考力 まとめ	今、最も求められている「思考力」を育成することと、言語能力の育成、言語活動の充実との関連性について考え、生きる力で育成を目指す「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう人間性」についてまとめる。

レポート課題

第1分冊 鈴木 隆之

第2分冊 松本 修・鈴木 隆之

第1分冊 〈略題〉説明的文章教材の教材研究 第1分冊(第1章から第8章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第5章・第6章を読んで、次の内容についてまとめなさい。

①レポート作成時点で手に入る最新版の教科書に掲載されている小学校中・高学年の説明文教材の中から教材の一つを取り上げ、自分なりの教材分析をし、獲得させたい能力を明確にしたうえで、具体的な学習課題と学習活動（言語活動を含む）について説明する。

②①の学習と関連させて、①の学習で獲得した「説明的文章を読み解く能力」を活用して読み進めることのできる児童に紹介したい説明文の掲載されている「本」の題名・著者を挙げ、その本を選んだ理由を説明する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

最新版（平成29年告示）の学習指導要領の目標・指導内容や言語活動について触れながら説明する。

〈評価の観点〉

自分が教師として授業を行う場面を想定し、的確な教材分析に基づき、具体的に記述してあること。

課題の①、②、留意事項に配慮がなされていること。

〈その他の注意点〉

独自に参考にした文献を含め、引用はきちんと注を示して出典を明らかにすること。

（参考にした資料等の記載がない場合は再提出）

第2分冊 〈略題〉「ら」抜き「さ」入れ言葉の学習 第2分冊(第9章から第15章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第13章を読んで、文法学習のあり方について理解した上で、次の内容についてまとめなさい。

①「ら」抜き「さ」入れ言葉とはなにか。

②文法を学習するために「ら」抜き「さ」入れ言葉をどのように取りあげるか、具体的な学習内容について自分なりのプランを提示し、解説する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

指導案の形は取らなくて良いが、具体的な学習が理解できるように述べる。テキストでア、違うトピックについて「考える文法」の考え方に基づいた学習デザインが示してある。その趣旨をくみ取ってレポート作成にあたること。

〈評価の観点〉

自分が教師として授業を行う場面を想定し、具体的に記述してあること。

課題の①、②、留意事項に配慮がなされていること。

〈その他の注意点〉

独自に参考にした文献を含め、引用はきちんと注を示して引用すること。

参考文献

.....
テキストにあげられている参考文献。

科目試験等への
アドバイス

.....
特になし

教員からの
メッセージ

.....
固定観念にとらわれないこと。学習者の立場にたって、興味の持てる学習を想定すること。

科目概要	国語を適切に表現し、正確に理解する能力と確実に指導できる実践力を養う 1 国語科教育の理論と方法（国語科教育の意義と役割、学習指導要領国語を読み解く） 2 国語科教育の内容（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） 3 国語科教育の実践（指導案作成、教材研究と学習指導計画、言語環境の整備と日常指導の実践）
主な到達目標	1 国語科教育についての正しい理解とその方法の確実な修得 2 学習指導要領における目標と指導内容の理解 3 言語力育成の観点から、児童の発達段階に応じた指導の理解 4 指導計画の立案、指導案の作成、評価といった一連の指導の在り方についての実践力育成 5 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の具体的な教材研究の方法、言語環境の整備についての実践力育成
テキスト学修の留意点	1 目次を参考に学修計画を立てる 2 各章のリード文を熟読して理解し、節ごとの要約をまとめる 3 各章末の「課題」を解決する ○ テキスト内容の基本は、学習指導要領にある 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」と対応して学ぶ ○ テキストの「Ⅱ 国語科教育の内容」及び、テキストの「Ⅲ 国語科指導の実践」については、必ず現行の教科書を実際にあたり、テキストの内容理解を補う

	学修テーマ	課 題
1	国語教育の意義と役割	言語教育と国語科教育について理解を深める。 国語科教育の重要性から、その役割を考える。
2	国語科教育の目標と内容の変遷	戦後教育における国語科教育の位置づけや、その変遷の理由や背景を理解する。学習指導要領の目標を比較するなどし、求められている国語の力について考察する。
3	学習指導要領国語の内容①	今回の改訂で「各学年の目標及び内容」「内容の構成」がどのように変わったのかを理解し、「言葉による見方・考え方」とはどのようなことなのか具体的イメージを持つ。「知識及び技能」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を一覧表等にまとめ理解する。
4	学習指導要領国語の内容②	「思考力・判断力・表現力等」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を一覧表等にまとめ理解する。さらに「指導計画の作成と内容の取扱い」を確認し、学習指導案作成の際の配慮事項を理解する。
5	「知識及び技能」の指導①	学習指導要領に示された「知識及び技能」の内容について熟読し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を理解し要点をまとめる。
6	「知識及び技能」の指導②	学習指導要領に示された「知識及び技能」の内容について熟読し、「読書に関する事項」について、新旧を比較して指導内容の特徴をつかみ、意義や効用等を理解し要点をまとめる。
7	A領域 「話すこと・聞くこと」の指導	学習指導要領に示された A領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「話すこと・聞くこと」の指導の意義とねらい、指導内容、指導の方法について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「話すこと・聞くこと」の教材があるかを確認する。
8	B領域「書くこと」の指導	学習指導要領に示された B領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「書くこと」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「書くこと」の教材があるかを確認する。
9	C領域「読むこと」説明的な文章の指導	学習指導要領に示された C領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「読むことー説明的な文章」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「読むこと」説明的な文章の教材があるかを確認する。
10	C領域「読むこと」文学的な文章の指導	学習指導要領に示された C領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「読むことー文学的な文章」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「読むこと」文学的な文章の教材があるかを確認する。
11	国語科指導の実践ー指導案作成	国語科学習指導案の基本として構成要素を理解する。指導案の立案にはどのようなことに配慮すればよいか考察する。 具体的な教材文を使って学習指導案を作成してみる。
12	教材研究と学習指導計画①	「知識及び技能」の具体的な指導展開例をテキストで確認し、教材研究と指導の実施について理解を深める。 「書写（毛筆）の学習」もしくは「漢字の学習」について、学年を想定し、実際の現行の教科書を利用して教材研究を行い、単元の目標を明確にして学習指導案を作成してみる。
13	教材研究と学習指導計画②	「思考力・判断力・表現力等」の指導の実践をテキストで確認し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「説明的な文章を読むこと」「文学的な文章を読むこと」の指導法の留意点をまとめる。 また、学年を想定し、実際の現行の教科書を利用して教材研究を行い、学習指導案を作成してみる。
14	言語環境の整備と、日常指導の実践	言語能力を伸ばすための言語環境や日常指導にはどのようなものがあるか確認し、言語環境を整備する重要性について考察する。
15	国語科指導法の総括	国語科で育てなければならない言語の能力について概括し、そのための効果的な指導法について具体的な実践力を付ける。

レポート課題

第1分冊 天達 新一

第2分冊 天達 新一

第1分冊 〈略題〉「話すこと・聞くこと」の指導事項の理解と指導案の作成
第1章から第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 国語科学習指導要領を熟読し、A領域「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確にし、発達段階に応じた指導事項の内容についてまとめ、考察せよ。
- ② 現行の小学校の教科書から、A領域を指導する教材を取り上げ、教材研究をした上で、単元の学習指導案を作成せよ。
- ③ 課題②の学習指導案作成に関して工夫したところを具体的に示す。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- テキストの「話すこと・聞くこと」の指導並びに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」を熟読し、「話すこと・聞くこと」に関する指導事項の内容を理解してから取り掛かること
- 設定する教材は、必ず「現行」の教科書教材を用いること。また教科書では目次や各単元冒頭等に「話す・聞く」と領域が明示されているので、適切な教材を選択すること
- 学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章をよく確認すること
- 学習指導案の「児童観」については、発達段階を考慮した一般的な状況を記述すること

〈評価の観点〉

- 学習指導要領やテキストの内容が、正しく理解されていること（課題①）
- 指導案には、以下1～7までの項目を記述していること（課題②）
 - 1 単元名
 - 2 教材名
 - 3 単元の
 - 4 評価規準（3観点に沿って表記する）
 - 5 単元について（1）単元観（2）児童観（3）教材観
 - 6 指導上の工夫・ポイント
 - 7 単元指導計画（全何時間扱いかを明記し、表組で示す）
- （8 本時の指導計画と9 板書計画は割愛する）
- 指導案作成にあたって工夫した自分なりの創意を具体的に示すこと（課題③）

〈その他の注意点〉

- 表記は、正しく整っていること（変換ミスやタイピングミスに気をつける）
- 参考にした資料・文献等は、必ず明記すること（記載がない場合は再提出となる）
- 課題②については、実際の指導を想定して作成すること。実践事例などを参考にすることは有効な学びであるが、そのままコピーしたのでは実力は身につかない。実際にモデルを作るなど、自分の授業アイデアや創意工夫を取り入れて考えること。また、表組などの関係から、字数は自由。レポートの規定字数外で考えること。

第2分冊 〈略題〉「書くこと」の指導事項の理解と指導案の作成 第5章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 国語科学習指導要領を熟読し、B領域「書くこと」の学習過程を明確にし、発達段階に応じた指導事項の内容についてまとめ、考察せよ。
- ② 第2学年・第4学年・第6学年のいずれかで、現行の小学校の教科書から、B領域を指導する教材を取り上げ、教材研究をした上で、単元の学習指導案を作成せよ。
- ③ 課題②の学習指導案作成に関して工夫したところを具体的に示す。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- テキストの「書くこと」の指導並びに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」を熟読し、「書くこと」に関する指導事項の内容を理解してから取り掛かること
- 設定する教材は、必ず「現行」の教科書教材を用いること。また教科書では目次や各単元冒頭等に「書く」と領域が明示されているので、適切な教材を選択すること
- 学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章をよく確認すること
- 学習指導案の「児童観」については、発達段階を考慮した一般的な状況を記述すること

〈評価の観点〉

- 学習指導要領やテキストの内容が、正しく理解されていること（課題①）
- 指導案には、以下1～7までの項目を記述していること（課題②）
 - 1 単元名
 - 2 教材名
 - 3 単元の目標
 - 4 評価規準（3観点に沿って表記する）
 - 5 単元について（1）単元観（2）児童観（3）教材観
 - 6 指導上の工夫・ポイント
 - 7 単元指導計画（全何時間扱いかを明記し、表組で示す）
- （8 本時の指導計画と9 板書計画は割愛する）
- 指導案作成にあたって工夫した自分なりの創意を具体的に示すこと（課題③）

〈その他の注意点〉

- 表記は、正しく整っていること（変換ミスやタイピングミスに気をつける）
- 参考にした資料・文献等は、必ず明記すること（記載がない場合は再提出となる）
- 課題②については、実際の指導を想定して作成すること。実践事例などを参考にすることは有効な学びであるが、そのままコピーしたのでは実力は身につかない。実際にモデルを作るなど、自分の授業アイデアや創意工夫を取り入れて考えること。また、表組などの関係から、字数は自由。レポートの規定字数外で考えること。

参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省）
- 現行の児童用教科書（教材配列など、当該学年だけでなく系統的に理解すること）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

科目試験等への
アドバイス

シラバスは15テーマに分かれているが、試験は全範囲からの出題となっている。学修テーマに沿って学修計画をしっかり立て、各テーマの内容を整理して理解するとともに、テキスト各章の最後にある「課題」に取り組むことで、理解を深めておくことを勧める。

教員からの
メッセージ

シラバスに沿って、計画的に学修すること。
レポート課題は、シラバスでいうと学修テーマ4・7・8・11・13にあたるが、1から15までの総括的な学びの深さが、レポートにも反映するはずである。学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章で理解をした上で、テキスト第6章の実践事例等を参考に、学ぶことを勧める。
質問等には適宜応じることが可能である。

科目概要	国際関係論（入門）を履修する学生に「国際視点」を身に付き、さらに「問題解決力」を高める。国際関係論は入門の科目でもあるが、本テキストは、国際関係論においてかなり多い知識を提供しているため、多量の情報を整理する力も必要である。現代の国際問題を理解するうえで「何が起きているのか」だけでなく「なぜそのような事が起きているか」を理解することにより国際関係の複雑な仕組みを理解する。
主な到達目標	世界で起きている国際関係上の問題、例えば「ウクライナへの侵攻」、「米国とロシアの対立」、「米国と中国の対立」、「北朝鮮の核兵器開発」、「石油の相互依存」などの問題の背景を理解し、自分の考えを持つことができるようになる。このことにより学生諸君がどのように世界の平和と安定の実現に貢献できるかを考えられるようになる。
テキスト学修の留意点	国際問題には『国際紛争 理論と歴史』が本科目のテキストである。テキストには10章がある。第1と第2章は、国際関係論の入門として、国際政治学の分野紹介、国際関係論の主要な概念と理論、それに分析方法とパラダイムと理論の学派の紹介になる。第3章から第10章までは、17世紀に調印された一連のウェストファリア条約から現在に至るまでおよそ年代順に主な国際関係上の出来事とその解釈を網羅している。テキストの強みとして、第2次世界大戦後の情勢について豊富に論じているところがある。各章に関連文献の紹介があり、過去と現代の結びつきが非常に良くできていると思う。学修にあたっては『国際紛争 理論と歴史』を基にテキスト履修（レポート・試験）を行うこと。

	学修テーマ	課 題
1	国際政治理論	国際社会における正義と平和の問題について考える。古代ギリシャのツキュディデスは、ある国が急速に大国化する場合、不確実性と不安定化が伴うと考えたが、この考えが第一次大戦後の日本とドイツの急速な台頭、今日の中国の台頭に当てはまるかどうかについて考える。「聖書の左のほほを打たれば右のほほを出せ」という教えは、個人の信条としては成り立つが、日本の首相が政府の政策として採用すれば泥棒、暴力団が支配する無法地帯になってしまう事実を認識する。同様に世界の平和と安定を保つためには、秩序が必要であり場合によっては武力を使う行動が求められる実情を考える。武力の行使の有無は中世期の欧州においては、キリスト教会が正戦論として発達させ、それが現在は、国連安全保障理事会の判断にゆだねられていることを学ぶ。安全保障理事会が機能しない場合、自衛の戦争が許されていることを理解する。
2	国際政治における主要な概念、分析レベル、パラダイム	国際政治学の主要概念として、国家、国民、国民国家、主体、パワーなどがある。分析レベルは、個人、国家、システムのレベルがあり、分析レベルを意識して購読しないといけない。パラダイムとして、リベラリズム、リアリズム、マルクス主義、コンストラクティヴィズムといった4つのパラダイムがある。日本語ではリベラリズムを「理想主義」、リアリズムを「現実主義」と訳される。リアリズムは、国際社会は、自国の利益とパワーバランスによって動かされるとするがリベラリズムは、諸国民の強調と話し合い、人類の発展と平和という概念によって動かされると説く。現実の各国の行動は、厳密にその二つに分けられわけではなく両方の考えに動かされていることを理解する。
3	ナショナリズムと植民地	ナポレオン戦争を経て19世紀にヨーロッパにおいて「国民国家」といわれるナショナリズムが台頭したことを学ぶ。ヨーロッパにおけるナショナリズムが産業革命と相まってヨーロッパの帝国主義、植民地主義につながったことを学ぶ。長い歴史と高度な文化を持つアジアの多くの国が簡単にヨーロッパの植民地となった理由を考える。日本がヨーロッパの植民地とならなかったのはなぜかについても考える。欧州におけるバランスオブパワーによる安全保障がなぜ崩壊し、第一次世界大戦となったかを検証する。
4	第一次大戦の原因と国際連盟の設立	一連のウェストファリア講和で成立した主権国家システムの重要性を説明している。ウェストファリア講和の調印でヨーロッパでの戦争は無くなったわけではなかったが、戦争の頻度と強度は緩和されたと言えるかと著者が説明している。その鍵は大国間のバランス・オブ・パワーと関連する。バランス・オブ・パワー・システムは理論上説明力があることを考察して、第一次世界大戦の起源を追跡する。
5	第2次世界大戦の原因 大西洋戦争	第1次大戦後設立された国際連盟があるにもかかわらず第二次大戦となった原因を考える。ベルサイユ条約がドイツに課した賠償が1929年の世界恐慌と重なりヒトラーという人物を生んだことを考える。個人の役割とシステムレベルの原因で分析する。特にヒトラー、スターリン、ロースヴェルトの役割を考える。第2次大戦の原因であった、米国の国際連盟不参加、1929年の恐慌、ドイツに対する過酷な賠償を繰り返さないために米国はどのような考えで国際連合を設立したかを考える。
6	第2次世界大戦の原因 太平洋戦争	第2次世界は二つの大戦と分けられる。太平洋戦争の起源はヨーロッパでの戦争と異なる。太平洋戦争に関して、個人的役割、国内とシステムの要因の3つの分析レベルによって分析が変わってくる。日本が満州から中国になぜ侵攻していったかを考える。太平洋戦争は不可避だったでしょうか。また、日本がアメリカを攻撃したことは合理的であったかについて考える。
7	冷戦と核軍縮	第2次大戦後、世界の平和は、米、ソ連、英、仏、中国という主要戦勝国とされた5大国が中心となって維持するとの考えで国際連合が設立された。現実には、米国とソ連の対立、中国における共産党政権の成立により冷戦という状況が始まり国連は当初の機能を果たせなくなった。冷戦の過程を勉強するとともに米国がソ連の影響を抑えるために取った封じ込め政策は、欧州においては一定の目的を果たしたがアジアにおいては、朝鮮戦争、ベトナム戦争を生んだ。この違いを検証するとともに米国がなぜベトナムで失敗したかを勉強する。

8	キューバ危機と核軍縮	冷戦後米国とソ連は核抑止政策をとり、核競争を行ってきた。1962年のキューバ危機は、そのような核抑止政策が破綻し、米ソが核戦争の一手手前まで行った深刻な事態であった。世界は、その反省から核拡散防止条約（NPT）をはじめとする核兵器の削減に取り組んだが、いまだに核は廃絶されていない。日本は広島、長崎の核被害国として核廃絶の先頭に立つべき立場にある。他方、日本は、北朝鮮、中国、ロシアの核の脅威にさらされていることも事実であり、米国の核抑止に頼っていることも事実である。ここに外交の難しさがある。日本が核抑止のためにどのような立場をとるかについてテキスト「国際紛争」を読むとともに、外務省ホームページの「軍縮不拡散と我が国の取り組み」を併せ読んで政府の立場を理解したうえで皆さんの考えを持つことを目的とする。
9	ソ連崩壊後の紛争	1990年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終了としたとの認識が広まった。ところがそれまで米ソの冷戦のタガが緩んだとたんユーゴスラビア内戦、ルワンダ内戦、ソマリア内戦といった民族紛争が各地で浮き出してきた。これに対し国連を中心とする国際社会はどのように対応してきたかを検証する。国際社会においては、「保護する責任」という考えからこのような民族紛争に積極的に介入すべきであるとする考えが生まれてきた。他方、中国、ロシア、一部の途上国は「保護する責任」の名のもとに他国が国内問題に介入することに懸念を表明してきた。又このような内戦が終了した国が、紛争後どのように国を再建するかという平和構築も大きな課題となってきた。国際社会がこうした状況にどのように対処すべきかについて苦闘していることを勉強する。
10	現在の引火点東ヨーロッパ	ソ連の崩壊後、ソ連の影響下にあった東欧諸国が次々とEU、NATOに加入していったことにロシアは脅威と大国の威信を傷つけられたと感じた。これが今日のウクライナ問題の一因である。ウクライナは、これまで親欧州勢力と親ロシア勢力の間で揺れ動く外交をとってきた。ところが2014年のマイダン革命とそれに引き続くロシアによるクリミアの不法併合、ドンバス地域の軍事介入、そして2022年の侵攻により完全にロシアに見切りをつけEU加盟、NATO加盟に舵を切った。これを認めないプーチン大統領がウクライナに脅しをかけているのが現在の構図であり、ウクライナの主権と国民の総意を無視するものである。国際社会は断固ロシアの要求を拒否すべきである。他方でロシアが抱えている安全保障以上の懸念については欧州ひいては世界の安全保障上の問題として考え対処しなくてはウクライナ問題が解決しない事も事実である。この問題についてテキスト「国際紛争」と最近のニュースを参考に考えてみたい。
11	中東における紛争	中東においては、イスラエルの建国に伴うイスラエル・パレスチナ紛争（中東和平問題）、1991年に発生したイラクのクウェイト侵攻に伴う第一次湾岸紛争、その後の2003年に起こった第2次湾岸戦争、イランの核開発、アフガニスタンの混乱が続いているがいずれの問題にも米国が深くかかわってきた。米国の中東における権益、国益は何かを考え米国がどのようにかかわってきたかを検証する。
12	中国の台頭	中国は、第二次大戦後、大躍進、文化大革命の混乱を経て鄧小平による近代化が成功し、世界第2位の経済大国となった。他方、近年の中国の海洋進出は、日本のみならずフィリピン、ベトナム、米国といった国々と摩擦を引き起こしている。又、台湾に武力侵攻するのではないかと懸念もある。さらに新疆ウイグル、香港においては、人権問題を引き起こしている。こうした日本にとって、中国は、安全保障上の脅威であるとともに最大の貿易相手国であるという国である。こうした中国と向き合うべきかについて勉強する。
13	グローバリゼーションと相互依存	グローバリゼーションは多次元の現象であり、ここで軍事的グローバリゼーションと社会的ローバリゼーションに着目してほしい。相互依存の概念と源泉について理解する。特に石油をめぐる政治のセクションはとても重要である。1973年の石油危機と外国への依存について書かれていることを考察してほしい。また、主要国際経済制度の概観がこの章にあるので、諸組織の担うグローバリゼーションへの役割を考える。
14	エネルギーと環境問題	環境問題に関しては、二酸化炭素の削減のため、1992年にリオ環境開発会議が開かれ、その後、京都議定書、パリ協定が結ばれている。二酸化炭素の削減の必要性については、各国間で合意があるが具体的な削減数値目標になると先進国と途上国の間で意見が分かれる。途上国の立場からすればそもそも先進国が19世紀以来、石炭、石油といった化石燃料を使ったことが温暖化の原因であるとして先進国がより大きな責任を果たすべきとしている。今後の二酸化炭素削減に関する国際協力、日本が果たすべき役割について勉強する。
15	グローバリゼーションの未来	今後国際社会が直面する問題として大量破壊兵器の拡散、脱国家的テロリズム、サイバー戦争、コロナにみられる世界的感染症、気候変動、中国、ロシアによる既存の秩序に対する挑戦、民族、部族闘争を原因とする破綻国家の出現といった問題が存在することを理解する。日本は世界の主要国としてこれら全ての問題に主体的役割を果たす必要があることを理解する。

シラバス執筆：トレルファ ダグラス

レポート課題

第1分冊 トレルファ・ダグラス

第2分冊 トレルファ・ダグラス

第1分冊 〈略題〉(1) 第二次世界大戦 (2) 冷戦 テキスト『国際紛争』
第1章～第5章(1～235ページ)

横書き

直接入力

〈課題〉

議題選択(以下の問から一つ選択して答えよ)(1) 1941年に日本がアメリカを攻撃した背景と攻撃の不合理性、合理性について論じなさい。(2) 冷戦の終結にはハードパワーとソフトパワーはそれぞれどのように役割を果たしたかについて論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』をよく読んでください。レポートは自分の文書でまとめてください。他人の文書をコピーしたものは不合格とします。
- (2) 引用をする場合には、無断で引用せず「」をつけて、引用文献と引用ページを明記してください。
- (3) 利用した参考文献については、著者名・書名・出版社名・出版年をレポートの最後に明示してください。

〈評価の観点〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』及び指定された参考文献を充分理解しているか。
- (2) 論理構成が整っているか。
- (3) レポートとしての形式を満たしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト『国際紛争 理論と歴史』は良質なテキストであるがアジアの部分と国連の部分が弱いので参考文献を参照してください。

第2分冊 〈略題〉(1) 中国の台頭 (2) 石油をめぐる政治
第6章～第10章(235～453ページ)

横書き

直接入力

〈課題〉

1 議題選択(以下の問いから、一つ選択して答えよ)。(1) 台頭する中国と日本はどう向き合うのか。(2) 教科書の366ページに『1973年以降、石油に関する国際レジームは大きな転換をとげた。』と書いてある。その転換を説明するために取り上げたりアリズムの修正版の説得力について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』をよく読んでください。レポートは自分の文書でまとめてください。他人の文書をコピーしたものは不合格とします。
- (2) 引用をする場合には、無断で引用せず「」をつけて、引用文献と引用ページを明記してください。
- (3) 利用した参考文献については、著者名・書名・出版社名・出版年をレポートの最後に明示してください。

〈評価の観点〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』及び指定された参考文献を充分理解しているか。
- (2) 論理構成が整っているか。
- (3) レポートとしての形式を満たしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト『国際紛争 理論と歴史』は良質なテキストであるが著者は米国人であることとナイ博士は1970年代より米政府の政策に貢献した人物であり、カーター米大統領政権で国務副次官、クリントン米大統領政権では国家情報会議議長、国防次官補として任務された人物である。

参考文献

.....
学習指導書を参照

科目試験等への アドバイス

.....
テキスト『国際紛争 理論と歴史』に述べられていることを整理して、自分の考えで明確に解答するようにしてください。

教員からの メッセージ

.....
国際関係学を学ぶことで、新聞や、インターネット、テレビのニュース、解説を見聞きした際に、その問題の原因を理解するとともに今後の展望について自分の考えを持つことを理解してください。そしてアジアのみならず世界の指導的立場にある日本が世界の平和と安定の維持にどのような貢献ができるかを考えてください。

科目概要	社会的なかで人はコミュニケーション無くして日々の生活を送ることは不可能である。仕事や学校という組織の中はもちろんのこと家族、友人との関係を維持するのはコミュニケーションを通してである。「コミュニケーション論」では総合的なコミュニケーション力を向上させるため、対人コミュニケーションの基本理論とメカニズムを理解していく。
主な到達目標	コミュニケーションの基本概念と理論を理解し、テキスト内のエピソード例を元に対人関係に関わるコミュニケーション論の知見を学び、広げる。自己の対人コミュニケーションの重要性を再認識し、日常の場においても相互理解を深めるための考察力を身に着ける。
テキスト学修の留意点	テキストはエピソードから展開していくが、概念と理念またコミュニケーション論で用いられる用語を自分なりにまとめるようにするとよいでしょう。エピソードを参照し、普段から自身の体験などを記録しておくことを勧める。それらを考察し、自分の言葉で客観的に分析することでよりテキスト理解につながる。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 科学としての コミュニケーション	コミュニケーションを学ぶ意義とその目的を考える。
2	第2章 人間コミュニケーションの 基本的な考え方①	「コミュニケーション」とは何を示すのか。コミュニケーション論におけるコミュニケーション・モデルを理解する。
3	第2章 人間コミュニケーションの 基本的な考え方②	コミュニケーションのプロセスの要素の理解。
4	第3章 ことばとコミュニケーション ①	コミュニケーションにおける「ことば」とその役割を整理、理解する。恣意性、あいまい性、抽象性の違いを説明する。
5	第3章 ことばとコミュニケーション ②	「ことば」のコンピテンスのレベルを理解する。
6	第4章 ノンバーバル・ コミュニケーション①	ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解し、バーバル・コミュニケーションとの違いを比較する。
7	第4章 ノンバーバル・ コミュニケーション②	ノンバーバル・コミュニケーションの種類と機能の理解。ノンバーバル・コミュニケーションの認識法を考える。
8	第5章 認識コンピテンス①	総体的にコミュニケーションにおける認識をするための要素と行程を理解する。
9	第5章 認識コンピテンス②	コミュニケーション向上のためのリスニングの種類と向上法を理解する。Hear と listen の区別をする。
10	第6章 人を動かすコミュニケーション・ コンピテンス	コミュニケーションにおける「説得」の理論（認知的一貫性理論・接種理論・精査可能性理論）を理解し、コミュニケーションを円滑にするためのスキルを学修する。
11	第7章 対人コミュニケーション・ コンピテンス	マズローの*欲求断層理論とシュッツの対人欲求理論を理解し、コミュニケーション・コンピテンスの最小単位ともなる対人コンピテンスの要素、発展のプロセスを考察する。
12	第8章 小集団コミュニケーション・ コンピテンス	「小集団」グループの特徴と小集団におけるリーダーシップの役割と機能を理解する。
13	第9章 組織内コミュニケーション・ コンピテンス	「組織」の特徴と組織内コミュニケーションでの対立処理の種類とコンピテンスを理解する。第8章の小集団との違いを考察する。
14	第10章 異文化間コミュニケーション・ コンピテンス①	文化の定義と異文化適応の4パターン（多元的適応型・極端な異文化嗜好型・異文化回避型・文化拒絶型）の理解。図：異文化適応パターンを用いて自身や知人に当てはめ、その根拠を分析・説明する。
15	第10章 異文化間コミュニケーション・ コンピテンス②	異文化適応（カルチャーショックの克服）のプロセス、特徴、対処法と効果を理解する。日本国内においてのカルチャーショックを分析、理解をする。

レポート課題

第1分冊 常岡 亜希子

第2分冊 常岡 亜希子

第1分冊 〈略題〉ノンバーバル・コミュニケーション 第1章～第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ノンバーバル・コミュニケーションの特徴と役割をバーバル・コミュニケーションと比較し説明しなさい。また、自身の体験などノンバーバル・コミュニケーションによって効果的なコミュニケーションを図れた例をあげ、分析しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

大学指定のテンプレートを使用すること。
自分の文章と引用を明確に区別し、引用部は必ず「」で括り、出典を明示すること。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。参考文献を使用した場合、著者、書名、出版社を明記すること。WEB情報も参考文献として用いることは禁止しないが、ただし個人のサイトなどは正確性に欠け、変更や削除の可能性のあるものなどは検証して利用すること。

〈評価の観点〉

レポート課題に沿った内容であるか、留意事項の指示に従っていること。
自分の言葉でまとめられていること。
引用と自身の考察が区別されていないものは再提出とする。

〈その他の注意点〉

自分の言葉で表現するためには予めテキストを学修し、キーワードなど箇条書きでノートにまとめるとよいでしょう。

第2分冊 〈略題〉コミュニケーション・コンピテンス 第6章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

小集団コミュニケーションと組織内コミュニケーションの特徴を述べ、それぞれの共通点と相違点を論述し、自身もしくは身近な例を描写し、本論の理解をもとに分析しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

大学指定のテンプレートを使用すること。
自分の文章と引用を明確に区別し、引用部は必ず「」で括り、出典を明示すること。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。
参考文献を使用した場合、著者、書名、出版社を明記すること。WEB情報も参考文献として用いることは禁止しないが、ただし個人のサイトなどは正確性に欠け、変更や削除の可能性のあるものなどは検証して利用すること。

〈評価の観点〉

レポート課題に沿った内容であるか、留意事項の指示に従っていること。
自分の言葉でまとめられていること。
引用と自身の考察が区別されていないものは再提出とする。

〈その他の注意点〉

自分の言葉で表現するためには予めテキストを学修し、キーワードなど箇条書きでノートにまとめるとよいでしょう。

参考文献

1. 末田清子・福田浩子『コミュニケーション学 その展望と視点 増補版』松柏社 2011年
2. 石井敏編著『コミュニケーション論入門』1993年 桐原書店
3. 石井敏・岡部朗一・久米昭元（古田暁監修）『異文化間コミュニケーション』1987年 有斐閣

科目試験等への
アドバイス

科目試験は用語もしくは概念の説明と具体例を示す形式と用語を自分の言葉で説明する2つの形式で出題される。テキストの暗記ではなく理解の証明を重視する。

教員からの
メッセージ

テキスト学習を通してコミュニケーション論という学問を理解し、自身の日常の人間関係を円滑にする鍵を見出していくことを志向する。普段から気づいたことを記録しておくといよいでしょう。

*第11回 学修テーマの「課題」（テキスト訳「マズローの要求階層理論」は著者宮原の意図的な和訳ですが、本科目では Maslow's hierarchy of needs 原文の解釈から一般的に用いられている「マズローの欲求階層理論」で学修していきます）

科目概要	小学校で教えている算数科教育内容だけに留まらず、その教育内容の背景や関連する内容の知識を修得することを中心とする。そのため、現行の小学校の教育内容レベルを越えている内容、高等学校までの数学では扱わない内容の学修を含む。
主な到達目標	(1) 小学校算数科教育内容の教材の背景となる、数学の内容を理解する。 (2) 小学校算数科の教材研究の方法を体験する。
テキスト学修の留意点	(1) 各章の数学的内容をまず理解し、履修者自ら説明できるようにする。 (2) 現行の指導内容との関連を考え、説明できるようにする。 (3) 各章にある、製作や活動を実際に行う。そして、指導上の留意点をまとめる。 (4) 各章末にある、課題を解いてみる。 (5) レポート作成では、「レポート課題」に記載した留意事項と評価の観点に留意してほしい。 (6) 学習指導書にヒントやより詳しい内容が書かれている。また、EduTrack に資料を掲出しているので、テキストとあわせて学修に活用すること。

	学修テーマ	課 題
1	学習内容の概要	算数科の領域と中学校数学科の領域を比較して、算数の個々の内容が数学のどの内容につながっていくか、その系統性を調べる。
2	数と計算 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
3	数と計算 2	1. 現行の筆算形式とバラ数による筆算形式とで加減乗除の筆算を行い、どのような違いがあるかをまとめよ。2. 「分数×分数」、及び、「分数÷分数」の計算方法を、図や数直線、代数的方法のそれぞれで説明してみよ。さらに、それぞれの方法でのメリットと指導の際の注意点をまとめよ。
4	数と計算 3	1. 等号・不等号の意味の理解についての子どものつまづきを考え、それを打開するための指導方法を考えよ。2. 子どもの学習意欲喚起を目的として、次に述べる数学者をもとに、方程式の発展に関する数学史を調べ教材化せよ。(ヴィエト、カルダーノ、ガロア)
5	量と測定 1	1. 台形の積み上げで近似する方法で死海の面積を求めよ。2. カバリエリの原理を導入した三角形の求積方法の指導過程を記述せよ。
6	量と測定 2	1. 「自分物差し」を作って、自分の体の様々な部位のサイズを測ってみよ。2. 身近にいる動物や昆虫の速さを実際に計測せよ。
7	図形と論理 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
8	図形と論理 2	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
9	図形と論理 3	1. 帰納推論と演繹推論の違いを、算数科での例をあげて説明せよ。2. 命題論理の演算についての性質のド・モルガンの法則 (右) (p113) が成り立つことを、真理表を書いて確かめよ。
10	数量関係 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
11	数量関係 2	1. 宝くじの期待値を実際に調べてみよ。2. 自分で課題を設定し標本調査を行って、その結果を分析せよ。例として、『A「裸眼視力」と B「ゲームやテレビ等を見続けている時間」についてデータ調査を行い、ゲームやテレビを見続けることが視力低下へと結びついているのか。』がある。
12	問題解決と数学的モデリング	1. 作図によって九十九里浜の実長を求めよ。5年生へ指導することを想定した指導計画を立てよ。2. ジャガイモから車の形を切り出してケント紙で各辺が2倍の車を作れ。6年生へ指導することを想定した指導計画を立てよ。自分で作業した経験を生かして、指導の上で注意しておくこともまとめよ。
13	他教科との連携 1	1. 正三角形の基本の運動は、360°回転 (e)、120°回転 (r120)、240°回転 (r240)、縦線対称 (v)、右上斜め線対称 (d1)、右下斜め線対称 (d2) の各運動である。正三角形の台紙には何種類の模様を描けるか。3. 自分で目の高さや画面までの距離を決めて、トリックアートを描いてみよ。
14	他教科との連携 2	1. 自分の地域にあった赤道型日時計を作って、時刻を調べてみよ。その際に、製作上で気をつけたことなどをまとめてみよ。2. 南半球で使う日時計の作成方法と設置方法は、北半球で使う日時計とどう違うかを考えてみよ。
15	いろいろな問題	1. 本文にある問題を解いてみよ。また、中学校入試問題等を解いてみよ。2. いろいろな数学パズルを探して、解いてみよ。3. パズルなどを算数科で指導する場合の学習指導案を書いてみよ。

シラバス執筆：藤谷 哲

レポート課題

第1分冊 藤谷 哲

第2分冊 藤谷 哲

第1分冊 〈略題〉数と計算、量と測定、数量関係
第1章～第6章、第10章、第11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい。

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813_第1分冊レポート課題.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) では小学生が納得できる内容で、丁寧に説明する。ただし、文体は小学生風でなくてよい。
- (2) では、計測のための準備、方法を記述したうえで、確かに計測を行ったという証拠になる写真を添付すること。何回か計測して平均値を出すこと。
- (3) では、計算式と Excel 等への入力式を記すこと。● (3) では、PC 上の画面コピーか写真を添付すること。
- (4) では計算の過程を示すこと。
- ワープロで数式を入力する場合は、必ず数式エディタを使って入力すること。

〈評価の観点〉

- ① シラバスに従ってテキストと学習指導書を学習し、その成果が表れているか。
- ② 指示どおりに書かれているか。
- ③ 他人に分かるように丁寧な説明がされているか。
- ④ 全課題が正しく行われているか。
- ⑤ 自分で作業していないと思われる場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

第2分冊 〈略題〉図形と論理、問題解決 第7章～第9章、第12章～第15章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) ジャガイモから、天井とそれに接する側面との二面角の大きさが90度より大きい車を切り出し、ジャガイモの車と対応する辺の長さの相似比が1:2となる紙の車の展開図を作成した上で、紙製の車の模型を製作せよ。さらにこの製作活動を子どもに指導する場合の留意点をまとめよ。
- (2) 一直線上にない3点を通る円をコンパスを使って作図する手順を示し、なぜその手順で3点を通る円の中心が求められるのかを小学生が理解できるように円が線対称図形であることから説明せよ。さらに、千葉県九十九里浜の地図を入手し、作図によりその海岸線の実長を求めよ。
- (3) 台形の積み上げで近似する方法と、もう一つ別の方法で岩手県の面積を求めよ。
- (4) 第12章は、2は『死海はどのくらい小さくなっているのか』、3は『刺繍画に使う毛糸の、曲がり具合と長さはどう定めるか』という現実世界の問題に対して数学を用いその解決を目指す。同章を読み、小学校高学年から高校までの学年を決め「数学的モデリング」の取り組みができる事例を作れ。(A)『』で上述したような「タイトル」、(B)172ページ1～4行目のような「場面設定の説明文」、(C)決めた学年で出そうな「問題場面に作用する条件を整理した結果(現実モデル)」、(D)「数学的な処理の例(数学モデル)」と(E)「その結果」を書け。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) では、作図過程が残っている車の展開図、及びジャガイモの車と完成した紙の車のツーショットの2枚の写真を添付すること。色鉛筆や色サインペン等で綺麗に彩色し、作品としても美しくなるよう製作すること。組み立ての際セロハンテープは使わず、適切な大きさの糊しるを作ってから切り抜き、組み立てること。
- (2)、(3) では、作図や作業過程が残っている地図等を添付すること。
- (3) では、小学校で学習する範囲の知識を使って解くこと。
- (4) は、(A) (B) をふまえ (C) (D) を「児童生徒自身で作る」ことが学習活動にあたる。(A) (B) を、現実の問題場面にどのような条件が作用しているか、条件整理を行い数学モデルを作るのに繋がられる説明にしよう。
- 数式を入力する場合は必ず数式エディタを使い入力すること。

〈評価の観点〉

- ① シラバスに従ってテキストと学修指導書での学修を進め、その成果があらわれているか。
- ② 指示どおりに書かれているか。
- ③ 他人に分かるように丁寧な説明がされているか。
- ④ 全課題が正しく行われているか。
- ⑤ 自分で作業していないと思われる場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

参考文献

テキスト、及び、学修指導書に掲載している。

科目試験等への
アドバイス

テキストに書かれている数学的内容を理解しているか、また、その内容と現行の学習指導要領における指導内容との関連を理解しているかを問う。

教員からの
メッセージ

近年、「数学的活動」がキーワードになっている。必ずしも体験的活動を指すのではないが、テキストを単に読むだけでなく、そこに掲載された製作活動や作業を実際に行いながら、学習して欲しい。

科目概要	算数・数学教育の意義や歴史、諸外国の算数・数学教育、中学校以降の数学科との関連など、算数の指導上有用な知見について学習する。その上で「児童が自ら考え、学び合う」「発見があり、知識が整理・統合され、思考力・表現力が身につく」「考える楽しさ・分かる・できる喜びが味わえる」といったよりよい算数の授業をするための教材観、児童観、指導観などについて学習する。
主な到達目標	広く数学教育も含めた算数・数学教育の意義、歴史や諸外国の算数・数学教育等について知見を得て、小・中・高にわたる算数・数学教育の在り方や内容について理解する。さらに、よりよい算数の授業を行うのに必要な教材の見方、児童の反応の捉え方、指導計画づくり、指導方法・技術などについて理解する。
テキスト学修の留意点	テキストによる学習では、テキストやその他の必要な資料や文献を読んで内容を理解し、レポートの課題に答える小論文をまとめることになる。そこでは、目的をもって資料を読み調べ、それらを根拠として自分の考えを文章化するという知的に労の多い学習をする。これらは、講義を聴くという受動的になりがちな学習方法と比べると、極めて能動的であり、そこに大きな価値がある。こうした学習過程を通して得たものは、確実に自分の力となっていく

	学修テーマ	課 題
1	数学教育学、目標、研究方法	算数・数学教育の意義と役割、及び目標と内容、研究方法について、あなたが初めて知ったことにも触れながらまとめなさい。(第1章)
2	数学教育史	和算、算術教育、算数教育は何が重点となっていたかを年代を追って調べた上で、現在の算数教育の特徴をまとめなさい。(第2章)
3	世界の数学教育と幼児教育と特別支援教育における数学教育	世界的に重要視されている数学教育とな何か、STEM教育とは何かについてまとめなさい。また、幼児教育や特別支援教育ではどのような数学教育を必要とするかをまとめなさい。(第3章、第4章)
4	算数の指導内容① 数の概念と整数の四則演算	数概念や十進位取り記数法の意味、整数の四則計算の意味と計算の仕方について、内容の系統に沿って、何をどのように理解させることが大切であるかをまとめなさい。(第5章)
5	算数の指導内容② 小数と分数の導入と四則演算、文字の導入	小数・分数、及びその四則計算の意味と計算の仕方、文字の指導について、内容の系統に沿って、何をどのように理解させることが大切であるかをまとめなさい。(第6章)
6	算数の指導内容③ 図形と論理	図形についての素地的な学習とそれを踏まえた図形の内容について、指導学年を追って整理しなさい。また、ケント紙で立体を作り、指導上の留意点をまとめなさい。さらに、帰納的推論と演繹推論、類推の違いを整理して、算数のどの学習場面ですれらが使われるかを整理しなさい。(第7章)
7	算数の指導内容④ 測定(量)と面積・体積	身の回りにある様々な量を見つけて計測し、データを収集しなさい。また、テキストに掲載された方法で面積や体積を求め、指導するさいの留意点についてまとめなさい。(第7章、第8章)
8	算数の指導内容⑤ 変化と対応	割合につまずく原因を分析して考察しなさい。また、実際に昆虫や動物の速度を測ってみたり、実験をして変量を抽出し、それらをグラフに表してみたりしなさい。(第9章、第11章)
9	算数の指導内容⑥ データの活用	データの活用の内容にはどのようなものがあるか、指導学年を追って整理しなさい。また、何かテーマを決めて自分で資料を収集・分析して、PPDACサイクルを体験してみなさい。(第10章)
10	数学的活動とは	数学的活動について、複数の観点から述べなさい。また、数学的な見方・考え方と数学的活動との関係をまとめなさい。(新学習指導要領解説算数編を参照すること)(第11章)
11	授業づくりと指導方法① 授業設計と学習指導案	授業を設計する前に行う教材研究の意義と、何に注意して行うかをまとめなさい。(第12章)
12	授業づくりと指導方法② 授業方法と技術	課題提示の仕方、個々の子どもへの手立て、学び合いのさせ方、授業のまとめにおける観点と留意点をまとめなさい。また、発問・指示、机間巡視、板書の要点と留意点をまとめなさい。(第12章)
13	授業づくりと指導方法③ ICTの活用とプログラミング教育	ICTの効果的な活用場面と方法についてまとめなさい。また、小学生用のプログラミングを体験しなさい。(第12章)
14	学習指導案の作成①	第12章の学習指導案例を参考に、研究授業で使う形式の学習指導案細案(単元の目標、単元について、指導計画等を含む)を作成しなさい。(第12章)
15	学習指導案の作成②	ICTを効果的に使った授業の学習指導案を作成しなさい。(第12章)

シラバス執筆：藤谷 哲

レポート課題

第1分冊 藤谷 哲、長沢 剛

第2分冊 藤谷 哲

第1分冊 〈略題〉算数教育の歴史、数学的活動
第1章から第4章、第11章、第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 日本の算術・算数教育の歴史を振り返り、掛け算の指導がどのように変化してきたかをまとめよ。また、これからの数学教育に求められる点について、第3章と第4章を基に、多くの視点から述べよ。
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』（2017）の第2章第1節の1（2）（pp.21-29）及び第4章の1（1）（pp.322-323）を読みなさい。この内容を受け、数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動を通して児童の「主体的・対話的で深い学び」が行われるために、あなたならどのように指導を行っていくか、1時間（45分）の授業を想定し、具体的な方策を挙げて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 課題1では、テキストに掲載されている図版の中も読みレポートに生かす。また、これからの数学教育について第3章と第4章を基に多くの視点から述べる。
- 課題2では、「数学的な見方・考え方」と「数学的活動」とは何か、『小学校学習指導要領解説算数編』の記述を基に明示する。それとともに、「主体的・対話的で深い学び」をあなたはどのように捉えているかを明示する。その上で、1時間（45分）の授業のどの部分で、どのように指導を行うのか、時系列に沿って述べる。
- 字数は、2000字～2400字でまとめる。

〈評価の観点〉

- 課題1では、掛け算の指導における歴史的事実が正しく書かれているか。また、これからの数学教育に求められる点について、第3章と第4章を基に、多くの視点から述べているか。
- 課題2では、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して行う「主体的・対話的で深い学び」について、適切に捉えているか。なおかつ、その捉えに立って、自分が行う具体的な指導の方策を述べているか。
- 課題1、2のいずれか一方でも課題に正対していなかったり、規定字数を守らなかったりしたレポートは不可評価になる。

〈その他の注意点〉

- 参考文献は最後にまとめて明記する。
- テキストを学修することはもとより、『小学校学習指導要領解説算数編』（2017）での「数学的な見方・考え方」「数学的活動」もしっかりと勉強することが大切である。

第2分冊 〈略題〉面積、ICT、学習指導案 第5章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 平行四辺形の求積公式は学習済だが三角形の求積公式は未習である小学5年生が考え出すであろう三角形の面積の求め方を違ったアイデアで4種類、図を入れて説明せよ。
- テキストと学修指導書を学修し、台形の求積公式を5年生に指導する教育的意義を3つ以上示せ。
- 3～6年生の内容から1時間（45分）の学習指導案を作成せよ。まずテキストと学修指導書を学修し、算数科におけるICT（プログラミングも含む）の効果的な利用について考察し論ぜよ。更にそれを生かした学習指導案を書け。項目は第12章に準拠し、学年、単元名、本時の目標、本時の展開、板書計画とする。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 課題1では、既習のいくつかの求積公式に帰着させる方法を考えると良い。また課題1・2では、算数/（教科）算数の通大テキストが参考になる。
- 課題3学習指導案はA4版全体を使ってテキストに掲載の形式で書き、中に問題や図、表、PCの画面コピーなどを書き入れ、学習指導案だけから授業の様子がイメージできるくらい詳しく書くこと。予想される児童の反応と指導上の留意点を対応させながら書くとよい。授業者が「ICTを活用したからこそ、していないときは困難だった、こんな成果が出せる授業ができそうです」と考察することを含むように記述すること。

〈評価の観点〉

- 課題1では、4種類の違った方法が書かれているか。
- 課題2では、テキストを参考にして教育的意義を十分考え、3つ以上あげているか。
- 課題3「学習指導案」では、単に「デジタル教科書を電子黒板で表示する」「児童のノートを書画カメラで映す」というレベルではなく、プリントや板書だけの授業を上回る成果が期待できる授業で、さらに実施できるレベルの学習指導案になっているか。
- 課題1・2・3のいずれか一方でも課題に正対していないレポートは不可評価になる。

〈その他の注意点〉

- 参考文献は最後にまとめて明記する。

参考文献

- 通信の教科（算数）・算数のテキスト『小学校算数』とその学習指導書（一部抜粋しました『小学校算数』とその学修指導書を、EduTrack に転載しています。）
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（2017）（なお、同書は市販されているほか、文部科学省 Web サイトに掲出されている。）
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校算数』（2020）
- 児童用の算数の教科書（具体的な授業の内容、進め方の参考になる。）
- 『小学校指導法算数』改訂第 2 版で引用文献、参考文献として挙げられているもの

科目試験等への アドバイス

科目試験を受けるにあたっては、テキストと学習指導書全部をしっかりと読み込んでおくことが重要である。十分読まずにあいまいな理解のままだと解答として不十分になるので、しっかりと学習しておきたい。また、算数教育では重要専門用語・語句があるので、それらも調べておくことが必要である。さらにこれらまとめの成果としての、本時の展開（45 分）の学習指導案を書けるようにしておく。

教員からの メッセージ

算数科指導法であるから、レポート課題も児童に考えさせる指導をどのように進めるかを具体的に考察し、まとめることを問う内容が多い。テキスト以外に児童の使う教科書を参考にしたり、できれば、小学校の授業公開日や研究発表会に学生証を示して参加したりして、具体的に授業のイメージをもつようにすることが大切である。こうした学校の情報は、各学校のホームページなどから開催日時等を調べることができる（学校への直接の問い合わせは、極力さけること）。

科目概要	この科目は、自然科学の歴史を概観することによって、自然哲学・自然科学が人間の創り上げた文化の一つであることを知る。人類の歴史において、とくに近代以降の自然哲学と技術が社会と深く関係性をもつようになった。その結果として、自然哲学は文化としてのみならず、むしろ近代以降の人類にとって必要不可欠な知的体系へと変容する。その変化を理解すること、そして現代の人類が科学・技術とどのように向き合うのが妥当であるかを各自が考える。
主な到達目標	自然についての知見がどのように体系化されていくのかを知る。その過程においてそれぞれの時代における思想・文化との関連を理解する。また、近代以降、技術と自然哲学・自然科学との関係性が増してくることを知る。自然についての学問の研究態度が定量的手法に基づいているか否か、が近代とそれ以前とを分ける重要な目安であることを理解する。
テキスト学修の留意点	各章ごとにまとめを作成してみる。そして、そのまとめを基に、以下の学修テーマに取り組むとよいであろう。必要に応じて、テキストにある参考文献あるいは学修指導書に記載された参考文献などを用いて学修を深めることを推奨する。テキストや参考文献に書かれていることを無批判に正しいと見なすのではなく、事実を確認しながら、事実に基づき自分自身の意見を構築する。事実と意見の区別は極めて重要である。

	学修テーマ	課 題
1	科学と技術の定義および相関性	テキストの第1章をまとめる。科学、技術の定義を認識し、それらの関係性を考えてみる。また、余力があれば、古代バビロニアの数学について調べてみることもお勧める。
2	古代ギリシアの科学（自然哲学）	第2章をまとめる。古代ギリシアにおいて自然についての知識が学問として体系化していくこと、それがさらに時代が進むにつれて変容していくことを知る。
3	古代ローマの技術と自然哲学	第3章をまとめる。古代ギリシア人と古代ローマ人の関心の持ち方の違い、気質の違いがもたらす技術や自然哲学の特徴を理解する。
4	中世の科学・技術	第4章をまとめる。中世の特徴をキリスト教、大学、印刷術という観点から見てみる。
5	アラビアの科学	第5章をまとめる。アラビア語圏（イスラム圏）における8～11世紀の自然哲学（科学）を学ぶ。これらが後世に与えた影響を想像してみる。
6	ルネサンス期の科学	第6章をまとめる。それまでの時代とは異なる新しい自然の探求方法への道が開かれたことを学ぶ。
7	近代科学の誕生	第7章をまとめる。それまでの自然哲学研究との手法の違いを意識しまとめること。
8	産業革命期の科学・技術	第8章をまとめる。科学と技術との関係がこれまでと異なってきたことに注意してまとめること。
9	中国・インドにおける自然哲学と技術	第9章をまとめる。東洋における自然探求の在り方が、西洋と異なることを知る。
10	日本における科学と技術の流れ	第10章をまとめる。日本における科学の探求、および西洋からの学問の流入を見る。日本固有の学問と外来の学問との違いを認識するとよい。どちらが優れているか、という観点での考察は、それぞれの文化の違いを考慮しないことになるので、慎重である必要がある。
11	20世紀前半の科学・技術	第11章をまとめる。各分野ごとに簡潔にまとめるとよい。
12	20世紀後半の科学・技術	第12章をまとめる。科学・技術が現代の社会にもたらす影響を多角的に捉えることが重要である。
13	12世紀ルネサンス	テキストでは触れられていないが、イスラム圏の自然哲学や数学が流入するのは12世紀のことである。それを12世紀ルネサンスという。これについて、参考文献などで調べる。
14	自然哲学・自然科学の定量的研究	定量的研究手法、という観点からガリレオ以降の自然哲学（自然科学）の研究を、それ以前（中世までの研究）と比較してみる。
15	まとめ	ここまでの内容を整理してみよう。テキストにおいては、現代的視点に基づく価値観に従って古代や中世の自然哲学や技術が批判される傾向がある。これは正当な理解なのか各自で考察する。

シラバス執筆：庄司 高太

レポート課題

第1分冊 庄司 高太

第2分冊 庄司 高太

第1分冊 〈略題〉自然哲学が近代化されるまでの歴史 テキスト9ページから53ページ

横書き

直接入力

〈課題〉

古代の自然哲学から近代の自然哲学に至る流れをまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当する各章を要約したうえで、それらの関連を意識してまとめること。文章中にある事実に関する記述を重視してまとめること。

〈評価の観点〉

全体のバランス、表現の明確さ、参考文献の引用、の3点が主な観点である。レポートに含まれる情報量が極端に少ない場合や、誤字脱字が目立つ場合には再提出の対象となる。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉近代科学の発展と技術 テキスト55ページから117ページ

横書き

直接入力

〈課題〉

近代から現代までの科学・技術の流れを、相互の関係に注意してまとめよ。アジアおよび日本についての記述は適宜利用してもよいし、無理に含めなくてもよい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当する各章を要約したうえで、それらの関連を意識してまとめること。文章中にある事実に関する記述を重視してまとめること。

〈評価の観点〉

全体のバランス、表現の明確さ、参考文献の引用、の3点が主な観点である。レポートに含まれる情報量が極端に少ない場合や、誤字脱字が目立つ場合には再提出の対象となる。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

.....
学修指導書に挙げた参考書

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストの章立ての順に沿う形で出題します。各章を自分の言葉でまとめ、参考文献などで理解を深めましょう。

教員からの
メッセージ

.....
現代社会において、科学・技術とどのように向き合うのが妥当であるのかを考察することは大切です。自然科学史を学ぶことは、向き合い方を考えるうえで大切かつ有用であると考えます。歴史を見ると、時代ごとに科学や技術と社会との関係が変化しているのが分かります。専門化が進むと、多くの人にとっては何が妥当なのか、なかなか判断がつかなくなります。その状況が社会や人類にとって好ましいものなのか、考える必要があるでしょう。そのためにも、科学の教育の在り方も考えられるべきで、そのための材料が歴史の中に見いだされることもあるのではないのでしょうか。

科目概要	自然地理学における学習の第一歩として、地球の自然環境システムの理解があげられる。地球の自然環境を構成する要素は大きく岩圏、水圏、気圏、生物圏と分けられ、これらが相互に複雑に絡み合って様々な自然現象が引き起こされている。本授業ではこれらの要素について単元ごとに学習し、私たちが住む日本列島がどのような変遷を遂げて現在のような自然環境になったのか理解を深める。
主な到達目標	自然地理学における学習の第一歩として、地球の自然環境システムの理解があげられる。地球の自然環境を構成する要素は大きく岩圏、水圏、気圏、生物圏と分けられ、これらが相互に複雑に絡み合って様々な自然現象が引き起こされている。本授業ではこれらの要素について単元ごとに学習し、私たちが住む日本列島がどのような変遷を遂げて現在のような自然環境になったのか理解を深める。
テキスト学修の留意点	選定したテキストの章立て通りに読むことで理解を深められるが、学修指導書で書かれている関連する章もあわせて復習、あるいは先取りで目を通すことで、学習内容をより深く関連付けられるだろう。また、14章の自然災害、15章の環境問題については、刊行された時点での情報であるため、学修指導書で指定される参考文献やURLで指定したリンク先などを重視してほしい。

	学修テーマ	課 題
1	【自然地理学とは】 惑星としての地球、 pp.1-9、第1章	自分で1枚の地球の絵を描き図1.2と図1.3に書かれている、岩圏の地殻（もしくはリソスフェア）の厚さ、気圏の対流圏・成層圏・中間圏・熱圏のそれぞれの高度を記入してみよう。地球の気圏・岩圏の層構造を正しく理解すること。緯度・経度、方位が地図の基本であることを再確認すること。
2	【気候学】 気候要素と気候因子、 pp.10-21、第2章	気象と気候の違い、基本的な専門用語を整理し、使い分けられるようになること。本章を読了したら、日々の天気予報で登場する天気図や用語を見て、どの程度理解できるかを確認する。特に、自らにとって印象深い気象現象が発生した日の天気図を、日本気象協会/気象庁のサイトで確認してみる。
3	【気候学】 世界の気候区分、 pp.22-31、第3章	ケッペン、ソーンズウェイト、アリソフの気候区分図の違いを把握し、植生分布と気候区分の関連性を整理しておく。またケッペンの気候区分の解説で森林と土壌の間を無機元素が循環する様子を表した図3.2が用いられている。この図をよく理解しておくこと。
4	【気候学】 地球のエネルギー収支と大気大循環、pp.32-41、第4章	本章の図4.1に登場する潜熱・顕熱という言葉を理解するために、第3章のコラム「顕熱と潜熱」(pp.30-31)を読むこと。大気の循環がどこで起きているのかを第1章で学んだ気圏の層構造をもう一度復習して、図4.3の大気大循環の模式図を理解すること。
5	【気候学】 地域スケールの気候、 pp.42-52、第5章	本章を読了したら、都市気候の影響がどのように表れているか、新聞記事/ニュースを検索してみること。そのさいに、世界規模の気候変動とは分けて理解することを心掛ける。本章後半の局地的な気象現象について、自らの居住地周辺で観察されるものを探す。
6	【気候学】 日本の気候、 pp.53-64、第6章	本章を読了したら、線状降水帯について自ら調べてほしい。季節性の現象ではないが、集中豪雨をもたらす、水害・土砂災害を引き起こす可能性が高く、現在でも予報が難しい現象である。もし、教員として教えている学校近くで発生したら、という危機管理的な要素も考えておくことと良い。
7	【気候学】 気候の変化・変動、 pp.64-74、第7章	本章は、第4章、第5章を読み返して復習したうえで、読むこと。気候変動の発生する時間の長さや目盛りの大きさや、変化が起きている空間的な広がりや違いを整理する。
8	【地形学】 世界と日本の大地形、 pp.75-86、第8章	できれば海底地形図が描かれている地球儀、世界地図（Google Earthなど電子地図でもよい）を手元に置いて読み進めること。図8.5の日本列島の基盤地質図上で、石灰岩地域に発達するカルスト地形の場所（例：秋吉台、平尾台、四国カルストなど）がどこにあたるかを探してみる。
9	【地形学】 第四紀と氷河時代、 pp.87-97、第9章	現在が地質学上どのような位置づけにあるかを踏まえて、地球規模の自然な要因で起きている気候変動を理解し、第7章 pp.64-67 を再読して復習すること。氷河期の最も寒い時期は海水準が120 m以上低下したことを踏まえ、現在の水深100 m～150 m低下した場合の海岸線を地形図でたどってみる。
10	【地形学】 山地と丘陵地の地形、 pp.98-105、第10章	第8章（pp.80-82）の日本列島の山脈と盆地の形成について復習したうえで、本章を読み進めること。山脈、山地の名称が登場するので、地図帳でその場所を確認しながら読むとよい。断層運動によって山地と平野を分断することが多いことを確認するために、活断層データベースを見ること。
11	【地形学】 平野と海岸の地形、 pp.106-114、第11章	平野、河川、海岸の名称が登場するので、地図帳（国土地理院の色別標高図も良い）で場所を確認しながら読むとよい。台地の形成（pp.112）については第9章の海水準の変動について復習して読むこと。
12	【生物地理学】 生物の地理学、 pp.117-129、第12章	第9章について復習すること。第四紀に生物（植物・動物）がどのように適応して現在の分布を示すようになったかを整理すること。後半の pp.125～の話題は日本列島が成立するよりも前の話から始まっており、プレートテクトニクスによって大陸が移動した話とつながる（第8章；pp.85～pp.86）。
13	【水文学】 水の循環と水資源、 pp.130-138、第13章	地理学で取り扱う人間社会と関連の深い水の循環について整理する。河川の水位や流量の測り方を理解し、自らの居住地周辺での河川の水位を確認する（たとえば、国土交通省川の防災情報で検索）。悪天候であれば、その水位の変化をweb情報で観察する。

14	【自然災害】自然災害、pp.140-150、第14章	本章は災害発生のメカニズムの解説として熟読して理解されるとよい。ただし、テキストが2008年刊行であることから、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震、2018年西日本豪雨災害、2018年北海道胆振東部地震、2024年能登半島地震などは取り上げられていない。 現在の高校地理の課程では、自然災害への理解を深めることが求められている。以下の一覧を見て、自分の地元に近い地域の災害や、記憶に残る災害について調べることを推奨する。 気象庁が名称を定めた気象・地震・火山現象一覧 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/meishou/meishou_ichiran.html 平成26年（2014年）広島豪雨災害では線状降水帯の発生による豪雨と、それに伴う大規模土砂災害によって被害が拡大した。それ以降、天気予報等で線状降水帯について取り上げられる頻度が格段に増加し、気象庁も線状降水帯を予報する取り組みを続けている（まだ予報の確度は低い）。また、土砂災害ハザードマップが積極的に公開されるようになった。 平成26年（2014年）御岳山の噴火では、噴火の規模としては小規模な水蒸気爆発という現象であったが、観光シーズンで火口近くに登山客が多くいたことから犠牲者がでた。私たちは活火山の美しく雄大な景観や温泉といった自然の恵みを享受している一方で、地元住民と観光客の安全確保といった観点からも気を配る必要がある。
15	【地球環境問題】地球規模の環境問題、pp.151-161、第15章	本章は地球規模の環境問題が認識されてきた歴史的経緯と、温暖化、酸性雨、オゾンホールといった現象のメカニズムを理解するために読まれるとよい。地球温暖化については、2015年のパリ協定、2013年と2021年のIPCCのレポートといった重要項目が欠けていることに留意する必要がある。文科省と気象庁が共同でまとめている以下のサイトを参考にするとよい。 日本の気候変動2020—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書— https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html 概要、本編、詳細版と3種類あるが、少なくとも概要には目を通してほしい。本編は気候変動を学ぶ専門課程の学部生～大学院生程度の知識が必要だろう。詳細版は、専門家レベルの予備知識が必要である。 オゾンホールについては、フロンガス使用を禁止したモントリオール議定書の成果が出たこともあり、南極上空のオゾン濃度が回復しつつある。環境問題のなかでも珍しく世界が足並みをそろえて問題解決にとりくみ成功した事例である。また、オゾン濃度の完全な回復は21世紀末ごろといわれていたが、2023年に国連に出された報告書では数十年後には完全回復の見通しとされた。これは、フロンガス禁止の取り組みと同時に、皮肉なことではあるが温暖化で成層圏の温度が上昇したことによってオゾンを分解する化学反応速度が下がったことも原因にあるといわれている。 地球温暖化とオゾン層の回復 https://www.data.jma.go.jp/env/ozonehp/4-1Ozone_global_warming.html このように環境問題は複合的であり時々刻々と変化していくことから、最新の情報を得る努力をしてほしい。

シラバス執筆：青木 かおり

レポート課題

第1分冊 青木 かおり

第2分冊 青木 かおり

第1分冊 〈略題〉エルニーニョ・ラニーニャ現象と日本への影響 第1章～第7章

横書き

Word添付

〈課題〉

以下の3点について、テキストで書かれていた内容に基づいて2000字～2400字でまとめてください。

- 1) エルニーニョ・ラニーニャ現象について、どのような現象かまとめてください。
- 2) エルニーニョ・ラニーニャ現象が発生した場合の、日本への影響について記述してください。
- 3) 2019年1月～現時点までの間に、エルニーニョ・ラニーニャ現象発生の有無、期間について調べてください。そのときに、日本への影響はどうだったかも記述してください。

引用や参考にした資料を適切に書いてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

気圏の層構造、大気大循環、気候の変化・変動について復習すると良いでしょう。第1章～第7章までの内容を精読してください。そのうえで、気象学・気候学の用語を適切に使いながらまとめてください。地図、模式図などを使いながら説明をまとめると良いでしょう。図表を入れる場合はWord文書に挿入してください。

〈評価の観点〉

1) 2) は気候学の基本が理解できているかどうかを評価します。3) については、気象庁や日本気象協会、民間の気象予報会社などの情報を頼ることになると思います。内容を理解したうえでまとめているか、引用や参考資料を適切に示しているかを見ています。引用元としてWikipediaは禁止します。必ずWikipediaの情報元を見てください。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉ハザードマップについて 第8章～第14章

横書き

Word添付

〈課題〉

自分の住んでいる自治体がどのようなハザードマップを作成しているのかを調べて、2000字～2400字でまとめて記述して下さい。その際に、テキストで書かれていた内容に基づいてその地域の地形の成り立ちや、想定される危険度の高い災害について触れてください。また、どこが話題かが分かるように、必ず本文中に地図を挿入してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

まず、その場所の地形学的に見た場合の成り立ちを記述し(10章、11章を参考に)、あれば災害履歴を記述してその後にとられた対策などを踏まえると(13章、14章を参考に)、そのハザードマップがなぜ作られたかをまとめやすいでしょう。自治体によって、想定している災害の種類は異なると思います。ハザードマップが未整備の場合もあるかもしれません。その場合は、自らが関係しそうな場所のハザードマップについて調べてください。

〈評価の観点〉

山地から海岸までの地形に対する理解、河川の流域に対する理解、災害発生メカニズムへの理解度を見ています。また、必ず本文に地図を挿入して、地図を参照しながら文章をまとめる作業をしてください。ハザードマップそのものが大きくて取り扱いが難しい場合は、URLだけでも認めますが、その場合でも話題とする自治体の場所を示す地図は必須です。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

＜中学校・高等学校で地理分野の学習が苦手だった、あるいは記憶にないという人向け＞
吉田英嗣. はじめての自然地理学【第2版】. 古今書院、2019、111p.
山崎晴雄、久保純子. 日本列島100万年史 大地に刻まれた壮大な物語. 講談社ブルーバックス新書、2017、272p.

科目試験等へのアドバイス

それぞれの章で登場している専門用語を正しく理解しておいてください。また、示されている図は、本文に書かれている解説とつき合わせながら理解を深めておいてください。そして、身近に地図帳(地図アプリでも)を置いて登場してきた地名がどのような場所なのか、調べてください。

教員からのメッセージ

地理学では、空間スケールと時間スケールの認識がとても重要です。最初は、どのくらいの範囲の話を、どのくらいの時間経過を前提で話しているのかを、書き出しながらテキストを読み進めてみてください。この認識が自然にできるようになると、章と章のつながりが良くわかるようになると思います。

科目概要	視聴覚メディアを教育場面で利用する際の理論と方法について学びます。 また、視聴覚教育の歴史についても学びます。
主な到達目標	「学修テーマと課題」に示したキーワードについて説明できる。
テキスト学修の留意点	・「主な到達目標」にも書いていますが、テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。 ・キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切にして学修を進めてください。 ・レポート作成については、「レポート課題」に示している留意事項や評価の観点等を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	メディアとメッセージ	・メディアの教育利用について考える。 ・教育のシステム化とはどのようなものか。
2	代理経験とメディア (1)	カテゴリーに関する2つの理論についてまとめる。
3	代理経験とメディア (2)	ことばとメディアについて考える。
4	教育モデルとメディア (1)	教育についての3つのモデルについてまとめる。
5	教育モデルとメディア (2)	メディア・リテラシー教育について考える。
6	静止画の利用 (1)	OHP とプレゼンテーション教材の作成について考える。
7	静止画の利用 (2)	OHP を効果的に利用した授業展開について考える。
8	動画の利用 (1)	日本における映画の教育利用についてまとめる。
9	動画の利用 (2)	動画を効果的に利用した授業展開について考える。
10	コンピュータと視聴覚メディア (1)	コンピュータの仕組みについてまとめる。
11	コンピュータと視聴覚メディア (2)	コンピュータの教育利用についてまとめる。
12	CAI と LOGO (1)	プログラム学習についてまとめる。
13	CAI と LOGO (2)	CAI についてまとめる。
14	インターネットと新しい教育 (1)	インターネットを利用した教育の課題について考える。
15	インターネットと新しい教育 (2)	インターネットを効果的に利用した授業展開について考える。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉視聴覚・メディア教育 1章～5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①視聴覚教育における「機器やメディアの使用」に焦点をあてた教育方法についてまとめなさい。
- ②ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、視聴覚メディアを効果的に活用した実践例を学習指導案の形式で記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(「その他の注意点」もあわせて確認すること)

- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に説明すること。
- ・引用と自身の考察の違いを明確にし、引用の場合は引用先(ページなど)を示すこと。
- ・学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ・「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの内容を中心にまとめられているか。
- ・視聴覚メディアを効果的に利用した学習指導案となっているか。
- ・留意事項を守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。
- ・書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・学習指導案を作成する時は、小学校や中学校などの教科書を参照すること。

第2分冊 〈略題〉コンピュータの教育利用 6章～8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①コンピュータの教育利用の歴史についてまとめなさい。
- ②ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、コンピュータを効果的に利用した学習指導案を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(「その他の注意点」もあわせて確認すること)

- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に要約すること。
- ・引用と自身の考察の違いを明確にし、引用の場合は引用先(ページなど)を示すこと。
- ・学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ・「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの内容を中心にまとめられているか。
- ・コンピュータを効果的に利用した学習指導案となっているか。
- ・留意事項を守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。
- ・例えば、「〇〇についてインターネットを利用して調べさせる」「CAIで学習させる」など際にも、児童生徒に任せるのではなく、例えば、「どのように調べればよいか」「調べる時の注意点」などについての指示を具体的に示すこと。
- ・書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・学習指導案を作成する時は、小学校や中学校などの教科書を参照すること。

参考文献

.....
より深く学ぶためには、テキストに載っている参考文献を確認してください。

科目試験等への
アドバイス

.....
科目試験については、テキストの内容をしっかり理解した上で挑むようにしてください。
テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
テキストで示されているキーワードについては適切に使用することが求められます。

教員からの
メッセージ

.....
単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、将来のことを考え、テキストを大切に読み進めてほしいと思っています。

科目概要	本科目は、司書資格取得のために大学において履修すべき「図書館に関する科目」のうちの必修科目である。資料と子ども（乳幼児から10代まで）との出会いを支援するための児童サービスは、これからの図書館においてその充実が求められている。
主な到達目標	子ども（乳幼児から10代まで）における読書の役割、サービスの実際とその企画・立案、児童資料の知識、学校等との連携など総合的な理解を目標とする。
テキスト学修の留意点	本テキストの内容は、従来からの項目に加え、近年の状況等も体系的かつ概要的に配列されている。熟読して児童サービスの全体像を把握すると同時に、参考文献等からの学びも深めていくこと。

	学修テーマ	課 題
1	「児童サービス論」について	司書資格課程における当科目の位置付けとその意義について理解する。
2	子どもとは・読書とは	”子ども”について理解する。読書の意義を学び、発達段階・年齢における子どもの特性を知る。
3	児童サービスの意義	児童サービスの歴史を学び、理念を知る。
4	児童サービスの種類と内容	児童サービスの日常的業務、行事等を知る。
5	児童サービスの管理と運営	児童図書館に関する知識や組織等、児童サービス運営にかかわる基本的な考え方を理解する。
6	絵本の知識	児童資料（絵本）に触れ、その特性を理解する。
7	物語等の知識	児童資料（物語、伝承文学、知識の本等）に触れ、その特性を知る。
8	資料の選択と提供	児童資料の選択とその提供について、基本的な考え方を理解する。
9	児童サービスの実際と技術	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等について、事例を通して理解する。
10	乳幼児サービス	ブックスタートをはじめとする、乳幼児サービスについて理解する。
11	ヤングアダルトサービス	10代を中心とした世代に対するサービスと、その資料を理解する。
12	学習支援・読字／学習困難	学習支援としての児童サービスの機能と役割を理解する。マルチメディア DAISY など支援方法について学ぶ。
13	学校図書館へのサービス	学校、学校図書館の活動（公立図書館との相違点を含む）を知る。
14	地域と公共図書館	学校、家庭、地域との連携・協力（ネットワーク等）について知る。
15	課題と展望	これからの児童サービスのあり方を考えていく。

シラバス執筆：木幡 智子

レポート課題

第1分冊 木幡 智子

第2分冊 木幡 智子

第1分冊 〈略題〉児童サービスの実際と技術 1章～5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①ブックトークとは何か、その定義および意義についてまとめる。
- ②テキスト p.85～86 の「ブックトーク例」を参考にしながら、任意のテーマを設定してオリジナルのブックトーク案を作成する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) ブックトークの中で紹介する資料のページを明記すること（例：p.7の絵を見せる、p.13の「xx」を朗読する・・・等）
- (2) 定義や意義を説明する箇所では引用部分に「」をつけ、もう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- (3) 引用した箇所およびブックトークに使用した資料の書誌情報は、文中あるいは脚注等で正確に記すこと。

〈評価の観点〉

- (1) ブックトークの定義や意義が適切に述べられているか。
- (2) オリジナルのブックトークが作成されているか。
- (3) 対象年齢、テーマのねらいや設定、ブックトークの展開、前後の繋がり等に無理はないか。
- (4) ブックトークの目的に即し、多様な図書を取り上げているか。

〈その他の注意点〉

- ①タイトル名はわかりやすく示される必要があることから、書誌情報のタイトル名を『』で括弧すること。
- ②資料を選ぶためのツールとして、テキスト末尾の参考文献第5章の項に児童資料選定目録等が紹介されている。
- ③ブックトークの実際の例は、児童サービス以外にも学校図書館における実践としての各事例が出版されているので、適宜参照するとよい。（ブックトーク入門書として、たとえば次のブックレットが参考になる。高橋元夫・蔵元和子『はじめてのブックトーク』図書館流通センター、2002.）

第2分冊 〈略題〉対象別児童サービス 6章～10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

6章、7章、8章から任意のサービスを選び、そのサービスが行われている現場を実際に調査してその意義と課題を考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 調査の基本情報（所在地・調査日時など）を明記し、記録した調査内容を的確にまとめてレポートすること。
- (2) レポートの冒頭で、選択したサービスの定義や意義について説明すること。その際、引用部分に「」をつけ、もう一度自分の言葉で説明し直すこと。引用した箇所は、文献の書誌情報とそのページを、文中あるいは脚注等で示すこと。
- (3) 上記2つを踏まえ、批判的に考察すること。
- (4) 内容に応じて、タイトルと小見出しをつけること。

〈評価の観点〉

- (1) 実際に調査や観察を行い、適切にレポートされているかどうか。
- (2) サービスの定義、意義、効果が明確に述べられているか。
- (3) 事実と自身の意見を明確に分けているか。

〈その他の注意点〉

調査方法について明記すること。（例：文献調査、Web ページ調査、アンケート調査、対面 / インタビュー調査、観察等）調査する際は、職員や利用者のプライバシーに配慮し、迷惑にならないように個人の責任で行うこと。実地調査においては、後で十分に考察できるよう、できるかぎり詳細に記録しておくこと。

参考文献

- 秋田喜代美『読書の発達心理学：子どもの発達と読書環境』国土社、1998。
 汐崎順子『児童サービスの歴史：戦後日本の公立図書館における児童サービスの発展』創元社、2007。
 児童図書館研究会編『年報こどもの図書館 2012 年版』日本図書館協会、2012。
 日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編『児童図書館サービス』1・2、日本図書館協会、2011。
 野上暁『子ども学その源流へ：日本人の子ども観はどう変わったか』大月書店、2008。
 堀川照代編著『児童サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 6）』日本図書館協会、2014。

科目試験等への
アドバイス

子どもにかかわるサービスについては、過去の体験や主観的判断で回答しがちです。そのため、①専門用語や事から客観的に説明できているか、②上記を理解したうえで自分自身の考えを述べているか、が問われます。批判的考察を行うために、現代の問題等を新聞やニュースから収集すること、児童資料以外の文献からも学修すること、そして常日頃から公共図書館等を訪れて実際の現場を目にしておくこと等が望まれます。

教員からの
メッセージ

「児童サービス論」とは、公共空間において絵本・児童書と子どもたちとの出会いを支援するための科目です。したがって当科目では、受講生が児童書を味わい楽しむことを目的とするのではなく、児童書を知り、かつ児童サービスの社会的意義、知識、技術等を学修していくことを目指します。
 また、司書資格取得のための科目という性格上、テキストや文献の理解度はもちろん、大学で求められる論述等が問われることになります。体験談、感想文・エッセイ・ビジネス報告書のような書式は評価の対象とならないため、注意してください。

科目概要	市民社会と法は、『民事法入門（第8版補訂版）』と題したテキストを用います。私たちが、普段生活している際に起きる日常的な法律問題を中心に学修します。
主な到達目標	本教科では、身近に生じる法律問題について基本的な知識を獲得した上で、これらの問題に対して自分なりの意見を持つことができることを到達目標にします。
テキスト学修の留意点	テキストには参考条文が掲載されています。学修の際には、必ず「六法」の条文を読んで確認してください。テキストは、ただ読み進めるのではなく、各テーマについて自分なりの言葉で説明できるかどうかを確認しながら、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	民事法・民法	民法の意義とは何か、そして民法の根底にある基本原理とはどのようなものなのか。
2	権利と義務	物権と債権にはどのような違いがあるのであろうか。そして、自己の権利を濫用するとはどのような状況なのか。
3	法律行為	権利能力、意思能力、行為能力という各能力概念は何を意味するのか。そして、意思無能力と制限行為能力とはどのような状況なのか。
4	代理	なぜ代理という制度が必要とされるのであろうか。そして、無権代理と表見代理とはどのような代理なのか。
5	時効	時効制度の存在理由とはなにか。そして、取得時効と消滅時効の要件としてなにが求められているのか。
6	契約	契約を成立させるにはなにが必要なのか。そして、成立した契約が不履行状態となる場合の3つの態様とはどのようなものなのか。
7	所有権	所有権とその他の各物権とはどのようなものなのか。そして、権利者が有する物権的請求権と称される各請求権としてどのようなものがあるのか。
8	不法行為	不法行為の意義とはなにか。また不法行為の成立要件として責任能力が要求されているが、そのような能力が無い者とはどのような者なのか。
9	事務管理・不当利得	事務管理、準事務管理、不当利得、これらの理論はどのような場合に機能するのであろうか。
10	債務の弁済	債務者が債務を弁済できない場合に備える制度である担保制度として、どのようなものが用意されているのであろうか。
11	家族	家族とは誰のことを指すのか。また夫婦が離婚する際に、有責配偶者の側から離婚請求をすることは許されるのであろうか。
12	養子・扶養	実子と呼ばれる子、養子と呼ばれる子とは、それぞれどのような者なのか。また親族間の扶養義務の内容とはどのようなものなのか。
13	相続	法定相続人であるとされる者とはどのような者か。また、各相続人が有する相続分と遺留分の割合はどのようになっているのであろうか。
14	団体	「自然人」とは、どのような者なのか。そして、自然人以外に権利能力の主体になることができる「法人」とはどのような者なのか。
15	権利の実現	法的紛争の解決手段として、どのような制度が設けられているのであろうか。

シラバス執筆：橋本 直樹

レポート課題

第1分冊 橋本 直樹

第2分冊 橋本 直樹

第1分冊 〈略題〉表見代理について 第1分冊 第5章

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

民法109条、110条、112条に言及しながら表見代理の3類型を説明してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

今回のレポート課題は「表見代理」ですが、まずは代理制度の基本と無権代理を勉強し、その上で、レポート課題に関係する部分を集中的に勉強してください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を、根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字、脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉離婚について 第2分冊 第12章

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

有責配偶者からの離婚請求について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

離婚の議論においては有責主義から破綻主義への移り変わりが存在する、という点を意識しながら勉強すると課題に取り組みやすいと思います。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を、根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字、脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

まずテキスト自体の学修を先行してください。そのほか、インターネット上の資料を参照する場合には、サイト名、URL、閲覧年月日を明示してください。

●レポート作成のための参考文献

- ①山本敬三『民法1 総則』有斐閣ストゥディア、2023年、ISBN：978-4-641-15008-9
- ②山本敬三『民法7 家族』有斐閣ストゥディア、2023年、ISBN：978-4-641-15115-4

科目試験等への
アドバイス

レポート課題の作成においては、上述した「レポート作成にあたっての留意点」と「評価の観点」を参考にしてください。

シラバスに提示した各回の「課題」をしっかり勉強した上で、試験に臨んでください。

教員からの
メッセージ

本テキスト1冊に頼るのではなく、同じテーマについて様々な考え方があることを学んでください。また、テーマに関連したニュースや新聞記事等を見かけた際には、ぜひそれも読むよう心掛けてください。

科目概要	社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」とある。そこで、本書では、社会科成立の背景、4年間の構成原理と内容の編成、教科力向上のための学習の展開や実践的な学習方法について学ぶとともに、教材開発力を身に付けることをめざす。
主な到達目標	(1) 社会科の基本的な性格や学習方法を理解し、社会認識を深める事例について考える。 (2) 戦後、社会科が新設された背景と意義を通して、社会科の原理について学ぶ。 (3) 社会科の内容編成についての方法と手順、学習の展開方法について事例とともに学ぶ。 (4) 「地域社会に関する学習」「産業と国土の学習」「環境・情報の学習」「政治や歴史に関する学習」の展開、調べ学習、解説図や写真、統計の教育的活用等について学ぶ。
テキスト学修の留意点	・内容に興味を抱き、社会事象を良く捉えて読み、重要な部分には、アンダーラインを引く。 ・大切な社会科用語をノートに書き出し、意味を調べ、因果関係を書き写す。 ・各章のキーワードを使った要約文を書き、演習問題に取り組み、説明できるようにする。 ・レポート課題は、テキストが説明している文章そのままではなく、自分なりに解釈して自分の言葉で記述する。(そのまま「引用」する時は、明記すること)

	学修テーマ	課 題
1	社会科の内容構成	4年間の社会科の学習内容を構成原理から理解し、学習内容がどのように児童の社会認識を深めていくのかをまとめる。
2	社会科成立史	戦後、社会科が新設された背景や意義を捉え、学習の方法論として引き継がれている問題解決的な学習を基本とした学習活動の意義を考える。
3	地域社会に関する学習 (地理的な環境)	身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子や特色を、地図や写真、統計資料を通して、郷土に関する意識や公民としての資質能力の基礎を醸成する方法を理解する。
4	地域社会に関する学習 (産業や消費生活)	地域の生産物や販売に携わっている人々の働きについて、見学や調査の仕方、学ぶための方法を理解する。
5	地域社会に関する学習 (健康・安全な生活)	飲料水やごみ、警察と消防など、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境・安全を守るための諸活動について、副読本や見学、調査の仕方、学ぶための方法を理解する。
6	地域社会に関する学習 (伝統・文化)	自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している人々の生活の特色を、地域住民へのインタビューや郷土資料館等の公共施設の見学・調査活動の仕方、学ぶための方法を理解する。
7	地域社会に関する学習 (開発に尽くした先人の努力)	地域の人々の生活について、生活の変化や願い、人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を、見学・調査したり、年表にまとめたりして、考える方法を知る。
8	産業と国土の学習 (国土の様子と環境)	日本・世界地図や地球儀を用いて日本の地理的な位置や大陸と異なる我が国の特色などの理解を深め、我が国の国土の様子と国民生活との関連について考える。
9	産業と国土の学習 (農業・水産業・工業)	我が国の食糧生産（農業や水産業）、工業生産（工業の様子）と国民生活との関連などを通して、産業学習に関連する共通点とものづくりにかける人々の思いを理解する。
10	環境・情報の学習	国土と環境、国民生活に関する様々な事例を通して、保全や自然災害の防止に努めることの大切さと、社会の情報化の進展とともに情報化した社会での情報の有効な活用と保護の重要性について理解する。
11	政治に関する学習	身近な暮らしの中で、公共施設がどのようにつくられたか、地方自治体や税金の内容、憲法や政治のしくみなどを日常生活と結びつきが見られる事例を取り上げ考えさせる方法を理解する。
12	歴史学習 (縄文・弥生～平安)	縄文・弥生から古墳時代にかけて変遷する人間の生活、飛鳥時代から奈良・平安時代にかけて中央集権的律令制社会へと移行する国家運営について、先人の業績や優れた文化遺産、遺跡や文化財、各種の資料をもとにした歴史の調べ学習について考える。
13	歴史学習 (平安時代末期～室町時代)	平安時代末期から鎌倉時代を経て室町時代へと至る我が国中世の歴史において、先人の業績や優れた文化遺産、絵画や文化財、各種の資料をもとにした歴史の調べ学習について考える。
14	歴史学習 (戦国時代～江戸時代)	戦国時代から江戸時代の地域に残る史跡や文化財、教科書掲載の歴史絵図や文章資料等、資料の特質に応じて関連させる学習活動を考える。
15	歴史学習 (明治時代～戦後・現代 国際理解学習)	開国から明治維新の諸改革、大日本帝国憲法の制定や国会開設、日清・日露の戦争と第二次世界大戦、戦後の復興と民主国家への歩みを理解し、日本とつながりの深い理解を深め、世界のなかの我が国の役割について考える。

シラバス執筆：三好 浩一

レポート課題

第1分冊 志村 明彦

第2分冊 樋口 雅夫・志村 明彦

第1分冊 〈略題〉地域社会の教材化 第1章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

地域に密着した社会科が求められている現在、地域の教材開発は極めて重要な課題である。そこで、いわゆる「地域学習」と称される小学校3・4学年の社会科単元において教材化される社会事象の意味について、社会科の理念や学習指導要領の変遷に触れながら記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①社会科は、地域社会をどのような切り口から教材化しようとしているのか。3・4年の目標と公民的資質というキーワードを必ず用いること。
- ②単に通信テキストの内容の要約でなく、自分の住んでいる地域から2つの社会事象（消防署や警察署、スーパーマーケット、清掃工場や浄水所。地域の文化財や年中行事、県内で起こった自然災害の事例から防災を学ぶなど）を抽出しその教材化を図り、2100～2400字程度にまとめること。

〈評価の観点〉

- ①社会科の教科としての理念や学習指導要領の変遷に触れているか。
- ②社会事象の意味を正しく捉えているか。
- ③社会事象に見られる、自分の住んでいる地域の教材の事例をきちんと2例取り上げ、論理的に記述しているか。

〈その他の注意点〉

教材化した地域社会の社会事象を学習させるときに、どのような学習をさせたいかで、ねらいや展開が変わります。

1. 社会事象の意味を追究させる体験的な学習活動
2. 社会事象への興味・関心・意欲を高めさせる体験的な学習活動

第2分冊 〈略題〉日本の国土・産業・政治のしくみ・歴史・国際社会の中の日本
第8章から第15章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

小学5・6年の社会科単元において教材化される社会事象や事物の意味や解釈について具体的（2つの教材名をあげて）に述べよ。その教材の単元における配列理由についても触れつつ、教材レベルに考察の視点をおいて記述せよ。注意すべきは、教材の指導法でなく、教材そのものの教育的価値について述べること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①国土や政治、歴史をどのような切り口から社会科は教材化しようとしているのか、日本人としての自覚という言葉を用いること。
- ②通信のテキストに記載されている教材だけでなく、文部科学省検定児童用教科書などに掲載されている具体的な社会科教材（例えば、国土の地形や気候の具体的な内容、政治的な出来事やしくみや歴史上の人物名や文化財名、等）の中から選び、2点教材事例として取り上げ2,100～2,300字程度で記述せよ。教材の持つ価値や意味、資料性などに触れること。

〈評価の観点〉

- ①小学校高学年児童が習得・活用できる知識や思考・判断・表現力が培われる教材内容であると位置付けられているか。
- ②「日本の国土・産業・政治のしくみ・歴史、国際社会の中の日本」をつき通す社会科固有の見方について触れているか。
- ③具体的な教材の事例を2例取り上げ、「である調」で教材の解説・解釈を論理的に記述しているか。

〈その他の注意点〉

『社会科指導法』のレポートと同じ記述が見られます。料理に例えれば、指導法は調理法です。

（教科）社会は、調理で使う材料の吟味に当たります。材料つまり、社会科の教材（社会事象や事物そのもの）の考察に力を入れてください。

なお、文献等からの引用は必ず注記のこと。

参考文献

- ・社会 / （教科）社会（教科力シリーズ改訂第2版） 各章の発展的な学習として挙げている参考文献
- ・小学校指導法『社会』（教科指導法シリーズ改訂第2版）を同時に参考にするものの、指導法のレポートではないので注意のこと。
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成29年7月 日本文教出版
- ・寺本潔編著『言語力が育つ社会科授業 - 対話から討論まで -』教育出版、平成21年4月
- ・寺本潔・吉田和義編著『伝えあう力が育つ社会科授業』教育出版、平成27年2月

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験は、テキスト全範囲が対象ですので、テキスト理解が重要です。全体を学んでから受験することが望ましい。
- ・社会科の基本概念・単元学習・展開方法等についての説明や事例を求める問題もある。
- ・各章毎に演習問題が設定されているので、課題学習後に取り組むことが必要である。
- ・出題に「具体的に説明せよ」とある場合には、できる限り実際の例を示して説明する。そのためにも、教科書や地図帳をもとに学習するとよい。

教員からの
メッセージ

- ・日常生活の中で、国内外のニュースや教養番組を視聴する。
- ・社会的事象に関心をもつために新聞等を読み、社会への鋭敏な感覚をもつようにする。
- ・地域にある博物館や資料館を積極的に訪れ、教材化した場合の学習活動の形態や興味のもとせ方を考える。
- ・テキストや学習指導要領、社会編を読み込み、内容を十分把握する。

科目概要	中学校社会科、高等学校公民科の教師として必要な社会科発足の経緯や変遷、教科の意義、学習指導要領と教材研究、評価等についての理解を深める。
主な到達目標	① 学習指導要領に示された中学校社会科・高等学校公民科の目標や内容について理解し、説明することができる。 ② 中学校社会科・高等学校公民科で育成が求められる資質・能力を踏まえて単元を構想し、その目標・内容・方法及び学習評価について説明できる。 ③ 中学校社会科・高等学校公民科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
テキスト学修の留意点	(1) 学修テーマに示す各課題の解答をまとめ、説明できるようにする。 (2) テキストを精読し、学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科の指導法を探っていく。 (3) 学習指導案の作成に際しては、現在使用されている教科書に準拠して中学生・高校生の発達段階を考慮して行うこと。

	学修テーマ	課 題
1	社会科・公民科教育の意義と課題	なぜ中学校に社会科、高等学校に公民科が必要なのか理解する。
2	社会科・公民科教育の構造	中学校社会科、高等学校公民科はどのような分野・科目から構成され、各々の担う役割、小学校との連携はどうなるか理解する。
3	社会科・公民科教師に必要な力	多様な子供や社会に応える教師はどのような働きが求められ、そのためにどのような資質・能力が必要で、それをどのように獲得するのか理解する。
4	社会科・公民科教育の目標論・学力論	社会科・公民科教育において生徒が何を獲得し、何をできるようになることが求められるのか理解する。
5	社会科・公民科教育のカリキュラムデザイン	教科の目標を達成するためには、何をどのような順で学ぶのが良いのかを構想する。
6	社会科・公民科教育の授業分析・開発・評価	授業はどのように見て、そこから何を学び、どのように授業づくりに活かすのか理解する。その際、教材研究及び授業実践において ICT の活用の在り方について理解を深める。
7	社会科・公民科教育の内容構成論（地理）	中学校社会科地理的分野の授業を単元レベルで構想することができる。
8	社会科・公民科教育の内容構成論（歴史）	中学校社会科歴史的分野の授業を単元レベルで構想することができる。
9	社会科・公民科教育の内容構成論（公民）	中学校社会科公民的分野の授業を単元レベルで構想することができる。
10	社会科・公民科教育の内容構成論（公共）	高等学校公民科の科目「公共」の授業を単元レベルで構想することができる。
11	社会科・公民科教育の内容構成論（倫理）	高等学校公民科の科目「倫理」の授業を単元レベルで構想することができる。
12	社会科・公民科教育の内容構成論（政治・経済）	高等学校公民科の科目「政治・経済」の授業を単元レベルで構想することができる。
13	社会科・公民科教育の学習指導・評価	指導と評価の一体化の観点から、観点別学習状況評価の在り方について理解する。
14	同上	指導と評価の一体化の観点から、観点別学習状況評価の見取り方について理解する。
15	社会科・公民科教育の課題と展望	「社会に開かれた教育課程」、「主体的・対話的で深い学び」が目指される学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科教育の課題と展望について理解し、教師としての自覚を高める。

シラバス執筆：樋口 雅夫

レポート課題

第1分冊 樋口 雅夫

第2分冊 樋口 雅夫

第1分冊 〈略題〉社会科・公民科教育の成立と変遷
テキスト第1章～第5章、第13章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

中学校社会科・高等学校公民科という教科は、昭和20年代には社会科という教科名称で括られていた。中学校社会科及び高等学校社会科・公民科の成立と変遷について、中高及び時代を超えて通底する目標論を踏まえた上で、累次の学習指導要領改訂の背景と関連付けて、分野・科目の構成の変化について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題の視点に沿って論述すること。
- ②高等学校社会科は、現在地理歴史科と公民科へと分離しているが、ここでは地理歴史科については省略する。
- ③年号など2桁以上の数字は半角にすること。

〈評価の観点〉

- ①正確な論述がなされているか。
- ②示された視点に沿って論述されているか。
- ③累次の学習指導要領改訂の背景やねらいが正確に捉えられているか。
- ④現在の学習指導要領に至るまでの変遷について、正しい理解がなされているか。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉中学校社会科・高等学校公民科の学習指導案の作成
テキスト第6章～第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

中学校社会科・高等学校公民科教育の究極の目標は、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な公民としての資質・能力の育成にある。その一環として中学校社会科・高等学校公民科の各分野・科目から任意の分野・科目・内容の一つを選び、2時間で展開する「社会的な事柄に自ら参画しようとする態度」を育む授業を構想し、その学習指導案を作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項は、分野・科目名、単元名、対象学年、使用教科書と該当頁、単元の目標、単元の評価規準、単元の指導計画、本時の目標、本時の評価規準、評価の方法、及び「本時の学習展開」である。「本時」については2時間分とも作成すること。
- ②授業展開部は表形式にすること（1行25文字の制約は不要）。ワークシートなども含めてA4用紙5頁までで提出可。
- ③文字だけの学習になることなく、できるだけICTや視聴覚教材なども援用し、生徒の理解や思考を促すこと。その際出所を明らかにすること。

〈評価の観点〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項が満たされているか。
- ②中学校（高等学校）学習指導要領、及びその解説社会編（公民編）に示す内容や事項に適合しているか。
- ③参考文献『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を熟読し、目標及び評価規準の書きぶりが適切なものになっているか。
- ④中学生（高校生）の発達段階に即した現実的な内容構成や教材活用がされているか。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は必ず出所を明記すること。

参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社、2017年。
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』東京書籍、2018年。
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社、2020年。
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校公民』東洋館出版社、2021年。

科目試験等への
アドバイス

シラバスに示された各「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

中学校社会科・高校公民科の教員になるという初心を忘れずに勉強してください。

科目概要	中学校社会科、高等学校公民科の教師として必要な中学校社会科及び高等学校公民科の目標や特色、内容構成を学習指導要領に依拠して理解し、具体的な学習指導案を作成する。
主な到達目標	① 中学校社会科及び高等学校公民科の構造や履修形態、目標、特色、内容構成について説明できる。 ② 中学校社会科の各分野及び高等学校公民科の各科目について、具体的な学習指導案が作成できる。
テキスト学修の留意点	・ シラバスに示す各「課題」の解答をまとめ説明できるようにする。 ・ テキストに依拠しつつも学習指導要領及び解説を熟読すること。 ・ テキストと学習指導書を参考に、検定済教科書を用いて具体的な授業を構想すること。

	学修テーマ	課 題
1	教育課程における社会科・公民科教育	中学校（高等学校）学習指導要領及び解説社会編（公民編）から、中学校社会科・高等学校公民科の目標と内容構成、履修形態について理解を深める。
2	公民教育と地理教育・歴史教育、他教科・領域の関連	カリキュラム・マネジメントの視点から、小中高の公民教育の系統性や他教科・領域との関連を意識した上で「社会に開かれた教育課程」の実現が目指されていることについて理解を深める。
3	社会科・公民科教育の学習評価、学習指導の工夫	学習指導要領解説社会編（公民編）及び国立教育政策研究所教育課程研究センター発行の資料を参考に、現在行われている観点別学習状況の評価の考え方や具体的な方法について理解を深める。その際、主体的・対話的で深い学びや、ICTを含む情報機器の活用を踏まえた評価の在り方を考察する。
4	中学校社会科公民的分野の年間指導計画の作成	テキスト及び学習指導要領、同解説社会編から、中学校社会科公民的分野の目標と内容構成、履修形態、学習指導の方法等について考察し、年間指導計画を作成できるようにする。
5	中学校社会科公民的分野の学習指導案の作成	中学校社会科公民的分野の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法等についての理解を踏まえ、単元の指導計画を作成し、単元全体の見通しのもとに「問い」を立て、学習指導を展開し、単元及び各時において学習事項の振り返りを行うことの有用性について理解を深める。
6	同上	中学校社会科公民的分野の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法及び単元指導計画等についての理解を踏まえ、具体的な本時の学習指導案を作成する。
7	高等学校公民科「公共」の年間指導計画の作成	テキスト及び学習指導要領、同解説公民編から、高等学校公民科「公共」の目標と内容構成、履修形態、学習指導の方法等について考察し、年間指導計画を作成できるようにする。
8	高等学校公民科「公共」の学習指導案の作成	高等学校公民科「公共」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法等についての理解を踏まえ、単元の指導計画を作成し、単元全体の見通しのもとに「問い」を立て、学習指導を展開し、単元及び各時において学習事項の振り返りを行うことの有用性について理解を深める。
9	同上	高等学校公民科「公共」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法及び単元指導計画等についての理解を踏まえ、具体的な本時の学習指導案を作成する。
10	高等学校公民科「倫理」の年間指導計画の作成	テキスト及び学習指導要領、同解説公民編から、高等学校公民科「倫理」の目標と内容構成、履修形態、学習指導の方法等について考察し、年間指導計画を作成できるようにする。
11	高等学校公民科「倫理」の学習指導案の作成	高等学校公民科「倫理」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法等についての理解を踏まえ、単元の指導計画を作成し、単元全体の見通しのもとに「問い」を立て、学習指導を展開し、単元及び各時において学習事項の振り返りを行うことの有用性について理解を深める。
12	同上	高等学校公民科「倫理」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法及び単元指導計画等についての理解を踏まえ、具体的な本時の学習指導案を作成する。
13	高等学校公民科「政治・経済」の年間指導計画の作成	テキスト及び学習指導要領、同解説公民編から、高等学校公民科「政治・経済」の目標と内容構成、履修形態、学習指導の方法等について考察し、年間指導計画を作成できるようにする。
14	高等学校公民科「政治・経済」の学習指導案の作成	高等学校公民科「政治・経済」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法等についての理解を踏まえ、単元の指導計画を作成し、単元全体の見通しのもとに「問い」を立て、学習指導を展開し、単元及び各時において学習事項の振り返りを行うことの有用性について理解を深める。
15	同上	高等学校公民科「政治・経済」の目標及び内容構成、履修形態、学習指導の方法及び単元指導計画等についての理解を踏まえ、具体的な本時の学習指導案を作成する。

シラバス執筆：樋口 雅夫

レポート課題

第1分冊 樋口 雅夫

第2分冊 樋口 雅夫

第1分冊 〈略題〉経済的内容に関する学習指導案作成
テキスト第1章～第3章及び第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

中学校社会科公民科の分野か、高等学校公民科の2科目（公共・政治・経済）のうちの一つを選び、経済的内容に関する単元を構想し、全3時間を配当した学習指導案の略案を作成せよ。その際、選択した分野・科目を明示し、想定する対象生徒、及び使用教科書と該当頁も明記すること。作成に当たっては、必ず「対立と合意」「効率と公正」「分業と交換」「希少性」「幸福、正義、公正」などの見方・考え方を働かせた内容にすること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項は、単元名、対象学年、使用教科書と該当頁、単元の目標、単元の評価規準、単元の指導計画、本時の目標、本時の評価規準、及び「本時の学習展開」である。「本時」については1単位時間分でよい。
- ②授業展開部は表形式にすること（1行25文字の制約は不要）。ワークシートなども含めてA4用紙5頁まで提出可。
- ③文字だけの学習になることなく、できるだけICTや視聴覚教材なども援用し、生徒の理解や思考を促すこと。その際出所を明らかにすること。

〈評価の観点〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項が満たされているか。
- ②中学校(高等学校)学習指導要領、及びその解説社会編(公民編)に示す内容や事項に適合しているか。
- ③参考文献『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を熟読し、目標及び評価規準の書きぶりが適切なものになっているか。
- ④中学生(高校生)の発達段階に即した現実的な内容構成や教材活用がされているか。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉高等学校公民科「倫理」の学習指導案作成
テキスト第4章及び第6章

横書き指定

Word

〈課題〉

高等学校公民科「倫理」の内容として、学習指導要領の大項目Bの中項目「(2) 社会と文化に関わる諸課題と倫理」に関する単元を構想し、全3時間を配当した学習指導案の略案を作成せよ。その際、想定する対象生徒、及び使用教科書と該当頁も明記すること。作成に当たっては、必ず「人間としての在り方生き方についての見方・考え方」を働かせ、他者対話しながら取り上げた諸課題を探究する活動を取り入れること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項は、単元名、対象学年、使用教科書と該当頁、単元の目標、単元の評価規準、単元の指導計画、本時の目標、本時の評価規準、及び「本時の学習展開」である。「本時」については1単位時間分でよい。
- ②授業展開部は表形式にすること（1行25文字の制約は不要）。ワークシートなども含めてA4用紙5頁まで提出可。
- ③文字だけの学習になることなく、できるだけICTや視聴覚教材なども援用し、生徒の理解や思考を促すこと。その際出所を明らかにすること。

〈評価の観点〉

- ①学習指導案に盛り込むべき事項が満たされているか。
- ②高等学校学習指導要領、及びその解説公民編に示す内容や事項に適合しているか。
- ③参考文献『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を熟読し、目標及び評価規準の書きぶりが適切なものになっているか。
- ④高校生の発達段階に即した現実的な内容構成や教材活用がされているか。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は必ず出所を明記すること。

参考文献

- ①国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』東洋館出版社、2020年。
- ②国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校公民』東洋館出版社、2021年。

科目試験等への
アドバイス

シラバスに示された各「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

中学校社会科・高校公民科の教員になるという初心を忘れずに勉強してください。

科目概要	中学校社会科教育と高等学校地理歴史科教育の理念、意義、課題について考察する。その後、中学校社会科の指導法について、地理的、歴史的、公民的の各分野ごとに学習指導要領の趣旨を生かしながら、内容編成、学習目標、指導計画などを探っていく。
主な到達目標	中学校社会科教育と高等学校地理歴史科教育の理念、意義、課題について考察する。その後、中学校社会科の指導法について、地理的、歴史的、公民的の各分野ごとに学習指導要領の趣旨を生かしながら、内容編成、学習目標、指導計画などを探っていく。
テキスト学修の留意点	・テキストを精読し、学習指導要領の成立趣旨を考え、社会科の取るべき方向性を考える。その際、中学校学習指導要領社会・高等学校学習指導要領地理歴史科をインターネットなどで適宜参照し活用すること。 ・学習指導案の作成に際しては、現在使用されている教科書をもとに中学生の発達段階を考慮して行うこと。 ・教師側からの一方通行になることなく、生徒目線に立ち、生徒の主体性を生かす指導法を常に心がけること。

	学修テーマ	課 題
1	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の意義と課題	なぜ、社会科・地理歴史科は対抗社会化を中心的に担い牽引する教科としてデザインされる必要があるのだろうか。
2	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の構造	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育はどのような分野・科目から構成され、各々が担う役割は何であるのか。
3	中学校社会科・高等学校地理歴史科の教師	なぜ、社会科教育学は、中学校社会科・高等学校地理歴史科教師にとって、必須であるべきと考えられるのだろうか。
4	中学校社会科・高等学校地理歴史科の目標・学力	地理教育・歴史教育の目標・学力は、戦前、戦後において、どのように変化してきたか。新学習指導要領により、どのような改革がなされたのか。
5	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育のカリキュラムデザイン	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育のカリキュラムをマネジメントする際に、着目すべき視点は何か。
6	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の授業分析・開発・評価・改善	中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の授業分析において、「目が輝いているから、良い授業」とならない場合があるのはなぜだろうか。授業分析の変わらない基本とは何であろうか。
7	中学校社会科地理的分野の学習指導・評価（1）	学習指導要領に基づく中学校社会科地理的分野の内容構成はどのような特色があるのか。
8	中学校社会科地理的分野の学習指導・評価（2）	中学校社会科地理的分野の単元計画はどのように作成されるのか。
9	中学校社会科地理的分野の学習指導・評価（3）	中学校社会科地理的分野の授業計画は学習指導案としてどのように示されるのだろうか。また、評価はどのように計画されるのだろうか。
10	中学校社会科歴史的分野の学習指導・評価（1）	学習指導要領に基づく中学校社会科歴史的分野の内容構成はどのような特色があるのか。
11	中学校社会科歴史的分野の学習指導・評価（2）	中学校社会科歴史的分野の学習指導は、学習指導案としてどのように示されるのだろうか。
12	中学校社会科歴史的分野の学習指導・評価（3）	中学校社会科歴史的分野の評価はどのように計画されるのだろうか。
13	中学校社会科公民的分野の学習指導・評価（1）	学習指導要領に基づく中学校社会科公民的分野の内容構成はどのような特色があるのか。また、単元に基づく授業はどのように計画されるのであろうか。
14	中学校社会科公民的分野の学習指導・評価（2）	学習指導要領に基づく中学校社会科公民的分野の学習指導は、学習指導案としてどのように示されるのだろうか。
15	まとめ	あなたが中学校社会科の授業実践を行うと仮定した場合、どのような点を重視し、どのような点に留意するか。

シラバス執筆：宮本 英征

レポート課題

第1分冊 宮本 英征 石上 和宏

第2分冊 宮本 英征 石上 和宏

第1分冊 〈略題〉これからの社会系教師に求められる資質・能力。
『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』1～60

横書き指定

Word添付

〈課題〉

これからの社会系教師（中学校社会科教師・高等学校地理歴史科教師）に求められる資質・能力は何か。テキストを参考にしつつ、「対抗社会化」「カリキュラム・マネジメント」「教師教育」「コンピテンシー」「授業分析」の各語句を必ず用いて考察し、今後の社会系教師の学びの方向性について総括的に結論づけなさい。なお、上記の各語句の使用順序は問わないが、各語句を最初に使用したときアンダーラインで示すこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・学習指導要領を参照しつつも、その内容を単に踏襲するのではなく、対象化・相対化する視点を必ず取り入れること。
- ・引用のみではなく、自身の問題意識から発した論点に基づいて所論を展開すること。
- ・引用文には必ず注を付し、出典を明示すること（書名、著者名、出版社名、出版年）。
- ・安易にウェブサイトには頼らないこと。ウェブサイトから引用した場合もサイト名を明示すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で記すこと。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨や「留意事項」にそった内容になっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・全体がバランスよく構成されているか。

〈その他の注意点〉

中学校社会科の教員になるという意識を忘れずに勉強してください。
(シラバス執筆：宮本英征)

第2分冊 〈略題〉歴史的分野の学習指導案作成
『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』72～83

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト第8章を参考に、歴史的分野の単元「信長・秀吉による全国統一」について、2単位時間で行う学習指導案を作成せよ。1時間ごとに、導入―展開―終結の構成にする。学習指導案はテキスト第7章表7-2（68-69頁）の形式を参考にして、「教師の発問・指示」「資料」「生徒の学習内容・活動」について明記すること。生徒の自主学習の時間を設ける場合は、その活動事例を具体的に示すこと。また、全体をそれに委ねる形にはしないこと。その他、下記留意事項を熟読のこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・各類型についてA4用紙1枚分にまとめるものとするが、別途資料やワークシート、工夫点の説明などが必要な場合はA4用紙5枚まで提出可。また、表形式で記することとし、1行25字の制約は外してよい。
- ・作成に際しては必ず現在使用されている教科書に基づくものとし、その教科書名と該当頁を明記すること。
- ・資料集や地図、ウェブサイトの画像などを使用した場合も出所を明示すること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨や「留意事項」にそった内容になっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の教材研究を基本に作成されているか。

〈その他の注意点〉

机上の構想ではなく、現場での実践を意識した指導案になるよう努めること。

参考文献

.....
・テキスト各章の章末に示されている。

科目試験等への
アドバイス

.....
『学習指導書』の「課題」について学修しておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
中学校社会科の教員になるという意識を忘れずに勉強してください。

TT0192 社会科・地理歴史科指導法 II

2単位

テキスト名

『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』『高校地理 PDCA 授業』『高校歴史 PDCA 授業』

科目概要	高等学校地理歴史科の指導法について、地理総合・探究、歴史総合、日本史探究、世界史探究ごとに学習指導要領の趣旨を生かしながら、内容編成、学習目標、指導計画などを探っていく。
主な到達目標	・ 現行学習指導要領の成立趣旨を理解し、社会科・地理歴史科の教科目標を把握する。 ・ 各分野の学習指導案を構想・作成しながら、生徒の主体性を生かす指導法を探っていく。 ・ 各分野の学習指導案を構想・作成しながら、学習指導の多面的な実践方法を探っていく。
テキスト学修の留意点	・ テキストを精読し、学習指導要領の成立趣旨を考え、社会科・地理歴史科の取るべき方向性を考える。学習指導要領はインターネットなどで適宜参照し活用すること。 ・ 学習指導案の作成に際しては、現在使用されている教科書をもとに高校生の発達段階を考慮して行うこと。 ・ 教師側からの一方通行になることなく、生徒目線に立ち、生徒の主体性を生かす指導法を常に心がけること。

	学修テーマ	課 題
1	地理総合の内容構成と学習指導計画	地理総合の学習方法・内容はどのようなものか。地理総合の指導計画はどのようになされるべきか。またその作成に当たって重要なことは何か。
2	歴史総合の内容構成と学習指導計画	歴史総合の学習方法・内容はどのようなものか。歴史総合の指導計画はどのようになされるべきか。またその作成に当たって重要なことは何か。
3	地理探究の内容構成と学習指導計画	新学習指導要領は地理探究においてどのような学習方法・内容を求めているか。地理探究の指導計画はどのようになされるべきか。
4	日本史探究の内容構成と学習指導計画	新学習指導要領は日本史探究においてどのような学習方法・内容を求めているか。日本史探究の指導計画はどのようになされるべきか。またその作成に当たって重要なことは何か。これまでの日本史教育をどのように活用すればよいのか。
5	世界史探究の内容構成と学習指導計画	新学習指導要領は世界史探究においてどのような学習方法・内容を求めているか。世界史探究の指導計画はどのようになされるべきか。またその作成に当たって重要なことは何か。これまでの世界史教育をどのように活用すればよいのか。
6	地理歴史科における指導と評価の一体化	指導と評価の一体化とは何か。特に、PDCA サイクルと観点別評価と指導と評価の一体化はどのような関係にあるのか。
7	地理歴史科の観点別評価と授業デザイン	「教師の発問・活動」と「生徒の学習内容・活動」を中心としたこれまでの学習指導案と PDCA 授業の授業デザインの違いは何か。
8	PDCA サイクルと授業のつまずき	授業のつまずきを把握し、どのように授業を改善すればよいのか。
9	高校地理 PDCA 授業の分析(1)	高校地理 PDCA 授業 (CASE 1～CASE10) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
10	高校地理 PDCA 授業の分析(2)	高校地理 PDCA 授業 (CASE11～CASE20) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
11	高校地理 PDCA 授業の分析(3)	高校地理 PDCA 授業 (CASE21～CASE30) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
12	高校歴史 PDCA 授業の分析(1)	高校歴史 PDCA 授業 (CASE 1～CASE10) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
13	高校歴史 PDCA 授業の分析(2)	高校歴史 PDCA 授業 (CASE11～CASE20) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
14	高校歴史 PDCA 授業の分析(3)	高校歴史 PDCA 授業 (CASE21～CASE30) におけるつまずきにはどのような傾向性があるだろうか。また、授業を改善するために、どのような対策を行っているだろうか。
15	まとめ	あなたが地理歴史科の授業実践を行うと仮定した場合、どのような点を重視し、どのような点に留意するか。

シラバス執筆：宮本 英征

レポート課題

第1分冊 宮本 英征 石上 和宏

第2分冊 宮本 英征 石上 和宏

第1分冊 〈略題〉地理探究の学習指導案作成 テキスト11章、『高校地理PDCA 授業』

横書き指定

Word添付

〈課題〉

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』の「第2節 地理探究 C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」を対象にした学習指導案を作成せよ。学習指導案は解説に示されている〈学習指導要領の展開例「森林保全による新たな国土像」を扱った事例〉の形式に基づくこと。テーマは、学習指導要領「森林保全による新たな国土像」とテキスト『高校地理PDCA 授業&評価プラン』CASE30の課題「あなたなら（東京の）どこに住むか」以外のものにする。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・A4用紙6枚以内にまとめるものとする。別途資料やワークシート、工夫点の説明などを必ず付け加えること。
- ・表形式で記述する場合は1行25字の制約は外してよい。
- ・資料集や地図、ウェブサイトの画像などを使用した場合も出所を明示すること。
- ・解説に示されている学習指導の展開例「森林保全による新たな国土像」以外のテーマで作成すること。
- ・「地理探究」の教科書・資料集を参考にしつつ、専門書を踏まえ地理学の成果を反映した授業を追求すること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨や「留意事項」にそった内容になっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。

〈その他の注意点〉

- ・地理学専門書だけでなく、社会問題を扱った社会学・政治学・経済学などの専門書からも授業のヒントを探しましょう。

第2分冊 〈略題〉歴史総合の学習指導案作成
テキスト第10章及び『高校歴史PDCA 授業』

横書き指定

Word添付

〈課題〉

『高等学校学習指導要領解説 地理歴史科編』の「第3節 歴史総合 D 近代化と私たち (2) 結びつく世界と日本の開国 ア(イ)、イ(イ)」の学習範囲において、特に、中国の開港と日本の開国を理解させ、工業化と世界市場の形成について思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるような2時間構成の授業を構想せよ。1時間ごとに導入―展開―終結の構成にすること。学習指導案は『高校歴史PDCA 授業』の形式に基づき、「生徒の学習活動」「評価の観点」「評価規準など」で構成すること。「生徒の学習活動」には使用する史資料を明記すること。また、「評価規準など」の評価規準は学習内容に基づく具体的な規準にすること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①一時間A4用紙6枚分にまとめるものとするが、別途資料やワークシート、工夫点の説明などが必要な場合はA4用紙16枚まで提出可。また、表形式で記述することとし、1行25字の制約は外してよい。
- ②資料集や地図、ウェブサイトの画像などを使用した場合も出所を明示すること。
- ③学習指導要領解説に示されている、課題（問い）を設定した学習の例を参考にしつつ、各自の興味関心に基づきながら、授業を構想すること。
- ④作成に際しては必ず現在使用されている「歴史総合」の教科書に基づくものとし、その教科書名と該当頁を明記すること。また、「歴史総合」の教科書を参考にするだけでなく、歴史学専門書を踏まえ歴史学の成果を反映した授業を追求すること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨や「留意事項」にそった内容になっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・全体がバランスよく構成されているか。

〈その他の注意点〉

- 日本史と世界史をどのように融合するかについて留意すること。

参考文献

- ・テキスト各章の章末に示されている。

科目試験等への
アドバイス

- 『学習指導書』の「課題」について学修しておくこと。

教員からの
メッセージ

- 高等学校地理歴史科の教員になるという意識を忘れずに勉強してください。

科目概要	本科目は、地域、メディアと情報化、階級・階層、ジェンダーとセクシャリティ等をテーマとして、社会学の基本的な理論や概念を学ぶ。また、これらの学習を通じて、社会的なもの、社会学的なもの、社会学的想像力を習得するものとする。
主な到達目標	・社会学的な考え方、パーソナリティ、家族、村落と都市、経営と労働における社会学の基本的な理論、概念を説明できるようになること。 ・社会学的なもの、社会学的想像力を習得することによって、さまざまな社会的問題について、自ら主体的に考察できるようになること。
テキスト学修の留意点	・学習指導書を参照しながら、テキストを学習すること。 ・必要であればテキスト以外の文献も調べる。手に入りやすいおすすめ文献は参考文献であげてある。 ・テキストの「コラム1～8（第1章、第8章）」および「研究者紹介（第9章）」および「いろいろな社会学（第10章）」についても読み飛ばさずよく理解すること。紹介されている用語や社会学者や様々な連字符社会学（〇〇社会学）について自分なりのイメージを持って説明できるようにすること。 ・上記も含めてテキスト中にわからない概念や用語が出てきたら積極的に調べる。『社会学辞典』（参考文献）で調べる他、インターネット上の学術情報データベース（CiNiiやJ-STAGE等）で関連する論文を調べてその概念・用語がどのように使われているかを調べることでより理解が深まるだろう。 ・提示された課題に関してはテキストをもとに概念を理解した上でできる限り自身の体験や身近な社会の事象に応用して考えること。

	学修テーマ	課 題
1	第1章第1節・第2節： 社会学の理念、社会学の全体構造	・社会学が生まれた背景について確認する。 ・社会学の様々な方法と立場について整理する。
2	第1章第3節： 社会学理論とは何か	・認識論的客観主義と認識論的主観主義について理解して整理する。
3	第1章第4節・第5節・第6節： 社会の調査とは何か、 社会調査の方法（1）、 社会調査の方法（2）	・量的調査を行う上での調査の流れ（調査設計）を確認して整理する。
4	第2章第1節・第2節： 家族の絆とは何か、結婚の 個人化	・家族とは何なのか、どのような条件を満たすと家族といえるのかという問いについて考察する。 ・近代化に伴う結婚の変化と結婚の意味について考察する。
5	第2章第3節～第8節： 低出生社会、夫婦の関係、 親子の関係、脱近代家族の 動き、家族の発達	・低出生社会、夫婦の関係について考察する。 ・親子の関係、核家族化、脱近代家族の動きについて考察する。
6	第3章第1節～第4節： 地域をめぐる社会学（前半）	・アーバンイズム論の系譜とシカゴ学派について確認し考察する。 ・地域的共同性とコミュニティについて確認し考察する。
7	第3章第5節～第8節： 地域をめぐる社会学（後半）	・都市生活者のパーソナル・ネットワークについて確認し考察する。 ・郊外、アンダークラス、大都市の社会変動について確認し考察する。
8	第4章： メディアと情報化をめぐる 社会学	・活字メディアと近代社会の関係について確認し考察する。 ・情報化社会、電子メディアについて確認し考察する。
9	第5章： 階級・階層をめぐる社会学	・階級・階層の概念を理解してそうした概念を用いて社会を分析する意味について考察する。 ・日本社会の閉鎖性や不平等について社会移動および階層構造の変化の観点から考察する。
10	第6章： インターネットリブとしての 社会学	・自己について社会的に整理し考察する。 ・自己と他者とのコミュニケーション、近代的な自己について整理し考察する。
11	第7章： ジェンダーと セクシャリティ	・ジェンダーの概念を理解し性役割の社会化について教育、労働、政治等の各領域から考察する。 ・セクシャリティの概念を理解しセクシャリティの歴史およびセクシャル・マイノリティについて考察する。
12	第8章、第9章： 国際社会とエスニシティ、 社会運動・NPO・ボランティア	・エスニシティの概念を理解し、国民国家、移民、多文化社会について考察する。 ・社会運動、NPO、市民社会、ボランティアについて理解し考察する。
13	第10章： いろいろな社会学	・各連字符社会学（〇〇社会学）の問題意識や対象について理解し整理する。
14	第11章：社会学の歴史1	・西欧の社会学の歴史について整理しそれぞれの社会学者の議論を理解する。
15	第12章：社会学の歴史2	・日本の社会学の歴史と展開について整理する。

レポート課題

第1分冊 藤村 朝子

第2分冊 藤村 朝子

第1分冊 〈略題〉社会調査の意義と種類 第1章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

社会学における社会調査について説明せよ。その際、質的調査、量的調査の違いについてふれなさい。また、余力があれば、あなた自身が興味を持った社会調査の具体的な例を一つ取り上げその方法とそれによって明らかになることについて議論し説明しなさい（加点要素）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの第1章「社会学とは何か」特に第4節から6節を熟読して理解しておくこと。
- ②社会調査の歴史および社会調査の意義についてよく理解しておくこと。
- ③社会調査における質的調査と量的調査の差異およびそれぞれの長所、短所についてよく理解しておくこと。
- ④質的調査と量的調査には具体的にどのようなものがあるのかよく理解しておくこと。
- ⑤必要に応じて参考文献であげた文献も参照すること。
- ⑥インターネットや新聞の他に社会学の論文を見つけて読み、そこで用いられている具体的な社会に関する調査を紹介し、その方法論とそれによって明らかになったことを具体的に議論できるとさらによいでしょう。

〈評価の観点〉

以下の観点から、総合的に採点を行う。

- ①課題をしっかりと捉えた上で、それに沿って明確に論じられている。
- ②社会学において重視される社会を客観的に分析する姿勢が見られるか。
- ③内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ④自身で調べたオリジナルな視点や議論は評価の対象となる。なお、他の文献、インターネット情報の丸写しは評価の対象外とするが、他の文献、データを「引用」することは評価の対象となる。必ず引用の形式をとり、自身の議論と引用元との区別をはっきりさせることが求められる。

〈その他の注意点〉

- ・テキストを理解し社会学の考え方を身につけたうえで、実践的に社会の事象を分析することができるとさらによいでしょう。
- ・インターネット上の学術情報データベース（CiNii や J-STAGE 等）で関連する論文を見つけ引用を行いながら自身の議論を展開した実践的な論文を作成することも歓迎される。

第2分冊 〈略題〉近代化の中で生じた家族をめぐる問題

第2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

社会学における家族を捉えようとする議論を紹介した上で、近代化の中で生じた家族をめぐる問題について社会学の観点から論ぜよ。また、余力があれば、あなた自身が興味を持った家族に関する具体的な論点を紹介し議論しなさい（加点要素）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの第2章「家族をめぐる社会学」を熟読して理解しておくこと。
- ②社会学が家族を捉えようとする姿勢や議論をよく理解すること（第2章第1節）。
- ③近代化の中で家族に関する種々の議論が生じていることをよく理解すること。
- ④必要に応じて参考文献であげた文献も参照すること。
- ⑤テキストで紹介されている家族に関する様々な論点にくわえて、あなた自身が重要だと感じる家族に関する具体的な論点を社会学の視点で論じることができるとさらによいでしょう。

〈評価の観点〉

以下の観点から、総合的に採点を行う。

- ①課題をしっかりと捉えた上で、それに沿って明確に論じられている。
- ②社会学において重視される社会を客観的に分析する姿勢が見られるか。
- ③内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ④自身で調べたオリジナルな視点や議論は評価の対象となる。なお、他の文献、インターネット情報の丸写しは評価の対象外とするが、他の文献、データを「引用」することは評価の対象となる。必ず引用の形式をとり、自身の議論と引用元との区別をはっきりさせることが求められる。

〈その他の注意点〉

- ・テキストを理解し社会学の考え方を身につけたうえで、実践的に社会の事象を分析することができるとさらによいでしょう。
- ・インターネット上の学術情報データベース（CiNii や J-STAGE 等）で関連する論文を見つけ引用を行いながら自身の議論を展開した実践的な論文を作成することも歓迎される。

参考文献

比較的手に入りやすく、分かりやすい詳細な入門書として、以下をあげておきたい。

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007『社会学』有斐閣

佐藤郁哉、2015『社会調査の考え方 上・下 巻』東京大学出版会

落合恵美子、2004『21世紀家族へー家族の戦後体制の見かた・超えかたー』有斐閣

湯沢雅彦・宮本みち子、2008『新版 データで読む家族問題』日本放送出版協会

日本社会学会社会学事典刊行委員会『社会学事典』丸善

興味を持った用語や概念の実際の論文での使われ方を確認すると学習が深まるだろう。

インターネット上の学術情報データベース（CiNii や J-STAGE 等）を利用するとよいだろう。

{<https://ci.nii.ac.jp/>}

{<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>}

『社会学評論スタイルガイド』

{<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>}

※ウェブ上で全文参照できる。

引用形式については社会科学で一般的に用いられているものならば形式を問わない。

自信がない場合は、社会学で広く用いられている上記のガイドを用いて勉強すると今後他の教科も含めて役に立つだろう。

科目試験等への アドバイス

・出題の意図をよく理解したうえで解答すること。

・テキストに記載された用語の単なる暗記ではなく、その用語や概念がなぜ社会を捉えるうえで必要とされているかについて意識しておくこと。

・自身の身近な体験や社会問題について社会学の観点から分析する習慣を身につけておくこと。

教員からの メッセージ

社会学は、暗記科目ではありません。社会を捉える考え方の枠組みを身につけ社会に対する想像力を鍛える科目です。さまざまな社会的な問題や事象を主体的に考察できるようになることが目標です。

科目概要	学習指導要領（平成29年告示）に示された小学校社会科の目標、内容を理解する。そして、実際に授業を展開するために必要な教材構造図、学習指導計画、学習指導案の作成の仕方を学ぶ。次に、小学校社会科の授業を問題解決学習によって展開するために必要な学習過程、学習形態、学習活動、指導技術、評価について学ぶ。さらに、教材研究の進め方、教材、資料の作成の仕方についても具体的に学ぶ。
主な到達目標	(1) 小学校社会科の目標、内容について理解する。 (2) 問題解決的な学習の進め方（学習過程）を理解し、その展開に必要な教材構造図、学習指導計画、学習指導案が作成できる。 (3) 有効な指導を行うための学習形態、学習活動、指導技術、評価等について理解し、実際に具体化できる。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを丁寧に読み深め、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 学習指導要領や『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（以下『解説』）を参照しながら学修を進める。 (3) 実際に児童が使用している教科書から各学年の任意の小単元を選び、学習指導計画（学習指導案）を作成する。型式はテキスト記載のものを参考にするとよい。また、社会科においては、資料の取扱いが特に重要なので十分に教材研究を重ねたい。 (4) テキスト巻末には、参考文献が掲載してあるのでテキストの記述から興味関心や新たな疑問が生じた時には参考にするとよい。 (5) テキスト各章の演習問題にも挑戦し、レポート作成や科目試験に臨んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	社会科教育の意義と役割	・小学校社会科の原点と改正教育基本法について調べる。 ・授業づくりの視点から見た小学校社会科教育の役割について理解を深める。 ・「公民としての資質・能力の基礎を養う」ことについて、『解説』等を参考にして理解を深める
2	小学校社会科の目標と内容	・小学校社会科の目標について調べる。 ・社会的な見方・考え方について調べ、理解する。 ・小学校社会科の内容構成について、学習指導要領等を調べ、その内容を理解する。
3	学習指導要領に基づいた社会科の指導計画	・指導計画作成の原理を調べ、その内容を理解する。 ・指導計画の作成と内容の取扱いについて理解する。
4	社会科の教材構造図と学習指導案	・社会科における知識の階層性を踏まえた単元構成を調べ、その内容を理解する。 ・教材構造図の作成の手順を知り、教材構造図が作成できるようにする。 ・学習指導案の作成の手順を知り、学習指導案が作成できるようにする。
5	評価の基本的な考え方と社会科の評価観点	・学習評価の基本的な考え方を知る。 ・観点別学習状況の評価に関する考え方について理解する。 ・社会科の評価規準について理解を深める。 ・実際の学習評価について、具体的に理解する
6	第3学年社会科の授業実践	・第3学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第3学年の指導の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
7	第4学年社会科の授業実践	・第4学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第4学年の指導の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
8	第5学年社会科の授業実践	・第5学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第5学年の指導の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
9	第6学年社会科の授業実践1	・第6学年の社会科学習の特色を理解する。 ・歴史学習の指導の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
10	第6学年社会科の授業実践2	・政治の学習の指導の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。 ・国際理解の学習の実践について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
11	社会科の多様な学習活動と指導技術 1	・資料活用による学習について調べる。 ・表現活動について様々な方法を学ぶ。
12	社会科の多様な学習活動と指導技術 2	・主な指導技術（発問、板書、ノート指導など）について調べる。 ・学習環境（教材教具、教室環境、人的環境）について理解を深める。
13	社会科の多様な学習活動と指導技術 3	・具体的な体験を伴う学習について理解する。 ・言語活動に関わる学習について理解する。 ・地図帳、地球儀の活用について理解する。
14	社会科と生活科、総合的な学習の時間との関連	・生活科の成立とその目指すところを調べる。 ・総合的な学習の時間の目指すところについて理解する。 ・社会科と生活科、社会科と総合的な学習の時間の違いを調べるとともに、関連的な指導について理解する。
15	社会の変化とこれからの社会科	・各学年の「内容の取扱い」に示されている事項について調べ、理解する。 ・社会の形成者に求められる資質・能力の育成について理解を深める。

レポート課題

第1分冊 渡辺 昭登

第2分冊 渡辺 昭登

第1分冊 〈略題〉公民としての資質・能力の基礎 主に第1章から第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「公民としての資質・能力の基礎を養う」ために、どのような学習指導を展開したらよいでしょうか。ある学年の1小单元（5から8時間程度）の指導を取り上げ説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 1章に「公民としての資質・能力の基礎とは何か」について調べ、重点としたい学習活動について自分の考えを説明し、問題提起する。その際『解説』を参考にする。
- 2 2章に「取り上げる小单元」の目標、内容、教材等を含め、指導の工夫点について『解説』を丁寧に読み込み、具体的に説明する。
- 3 3章で「なぜ、この小单元で公民としての資質・能力の基礎を養うことができるのか」について、自分の考えを焦点化して、論点を明確にして説明する。（このレポートの山場にする）
- 4 小单元の学習指導計画を作成し資料として添付する。（本文2章と関連付ける）
- 5 上記1から3を章立てし、小見出しを効果的に付け、論理的に筋の通ったレポートにする。
- 6 巻末に参考文献を掲載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から6を満たしているか。
- 2 論理が一貫しているか。
- 3 誤字、脱字がないか。
- 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト（第1章から第9章）及び『解説』を熟読すること。
学習指導要領の目標、内容に沿った学習指導計画を考えること。

第2分冊 〈略題〉教材開発 主に第10章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

自分とかわりの深い地域（生まれ育った、今住んでいる、住んでいたことのある等）を歩きウォッチングし、どこを教材化できるかをわかりやすく論述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 まず1章で、指導者が地域素材を「教材ウォッチング」することについて、意義や効果について自分の考えを説明する。
- 2 2章では、どのように地域素材を探したウォッチングを実践したのかを説明する。その際、いつ、どこで実践したかについてもふれること。
- 3 3章では、何年生のどのような指導に生かせるか、1つの单元を想定して検討する。小見出し等を効果的に付け、論理的に筋道の通ったレポートにする。
- 4 該当の地域教材を取り上げた1時間分（本時）の学習指導案を資料として添付する。その際、学年、小单元名、本時の目標、展開、教材等を記述した汎用的な形式で作成すること。
- 5 巻末に参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしているか。
- 2 論理が一貫しているか。
- 3 誤字、脱字がないか。
- 4 引用と自分の意見・考えの区別がはっきりしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト（第10章から第12章）及び『解説』を熟読すること。
地域素材を「教材ウォッチング」するのは、教師が教材研究・開発のために行うことであることを理解して実践すること。教師が社会の様子に直接触れ、学習指導要領の目標、内容と社会的現象との関連に注目することが大切である。

参考文献

- ・文部科学省編『小学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年7月 日本文教出版）
- ・該当学年、該当小单元の記載のある小学校社会科教科書
- ・学習指導要領の内容を実践的に具体化した文献

科目試験等への
アドバイス

- ①まず、題意をしっかりと読み取り、問題に正対して自分の考えを述べることが大切である。問題を熟読して、何を訊いているのか出題の意図を確かめること。キーワードをメモしておくこと。
- ②文章の内容が明確で、筋道が整理されて一貫性があるか、読み手に分かりやすい説明ができているか、表記にも十分留意をして記述を進める。テキストや学習指導要領解説等の資料を参照することはできるが、そのまま書き写して終わっている答案が散見される。問われていることについて、文脈を考えて再構成する必要がある。
- ③事例については、分量を意識しながら、順序よく具体的に述べると分かりやすくなる。（児童が使用している教科書は、問題解決的な学習の進め方のヒントになる）
- ④答案完成後には必ず読み直しをし、誤脱字、誤変換や記述内容の重複がないか、制限字数を満たしているかを確認することは言うまでもない。（音読すると、読み飛ばしが少ない）

教員からの
メッセージ

「社会科は暗記物である」という考え方がある、そのことに教師がとらわれているうちは、子どもに、問題解決的な学習を指導することはできない。知識基盤社会では知識は必要ではあるが、知識を活用し考え、新たな知を得ることが大切である。
知識は絶えず更新されなければならない。問題解決的な学習により、調べ、考え、表現することを通して、必要な知識を身に付け、考える力を付けていくことが求められている。単なる試験対策としての暗記には意味がない。単に暗記しただけの知識は生涯役立つものにはならない。「暗記は社会科学習のゴールではない。」このことをメッセージとしたい。

科目概要	本授業は、主にレポートの作成と指導を通して、宗教社会学の基礎理論や考え方、視点についての基礎的知識と現代社会の宗教状況を解説していく。この視点を養うことによって、受講者は宗教を取り巻く現代世界や日本社会の諸相を正確に把握できる。
主な到達目標	以下の諸点を到達目標とする。 ・ 宗教社会学の基礎理論とその視点について学修する。 ・ 現代世界の宗教状況を把握することにより、日本の社会や異文化を宗教的観点から学修する。 ・ 宗教が世界や日本の思想や文化形成に多大な影響を与えてきた事実を学修する。
テキスト学修の留意点	学修に際し、以下の点を留意すること。 ・ 各課題の解答をまとめ、論述することができる。 ・ 主な到達目標に関わる課題について、宗教社会学の基礎理論や現代社会と宗教との関係を理解し、説明することができる。 なお、学修を深めるためには教科書はもちろんのこと、そこで紹介される参考文献や本授業の「学習指導書」も参照するとよい。

	学修テーマ	課 題
1	序章	・ 宗教社会学の定義とは何か？ ・ 宗教社会学の学問的性格とテキストの視点（全体構成と目標）とは何か？
2	宗教社会学の源流	・ 現代の宗教社会学につながる源流としてのウェーバー、ジンメル、デュルケムの著作にみられる理論的特徴とは何か？
3	宗教社会学の周辺	・ 宗教社会学に対する人類学の影響は何か？ ・ 宗教社会学に対するフレイザーとプリチャードの呪術論のそれぞれの影響は何か？
4	宗教社会学の周辺	・ 宗教社会学に対する心理学の影響は何か？
5	宗教社会学の展開	・ 米国における宗教社会学と機能主義の展開と何か？ ・ 宗教教団に関する理論の特徴は何か？
6	宗教社会学の展開	・ 認知科学や脳科学（ニューロサイエンス）の研究の宗教社会学への影響とは何か？
7	日本の宗教社会学	・ 日本における宗教社会学の受容、特に日本の民俗学や宗教史研究は日本の宗教社会学の独自の領域を形成する上でどのような寄与をしたのか？
8	日本の宗教社会学	・ 日本におけるスピリチュアリティ研究の概要、分野、研究の動向とは何か？ ・ 「カルト問題」と宗教社会学との関係とは何か？
9	近代化と日本の宗教	・ 社会的存在形態に対する日本の近代化の過程の諸局面とは何か？
10	近代化と日本の宗教	・ 宗教に対する国家体制、都市化、家族、宗教法人法などの社会変動の影響とは何か？
11	現代日本の宗教状況	・ 日本の近代新宗教の展開、区分と活動の特徴とは何か？
12	現代日本の宗教状況	・ 日本の新宗教はどのような社会変動に影響を受けてきたのか？ ・ 「ポスト近代宗教」とは何か？ ・ 現代の日本において宗教が直面する問題は何か？
13	現代世界の宗教理解	・ 現代世界にはどのような宗教文化圏があり、そこにおいて宗教はどのように分布しているのか？
14	現代世界の宗教理解	・ 国際化・グローバル化における宗教の展開とは何か？ ・ 現代世界における宗教問題とは何か？
15	宗教情報リテラシー	・ 宗教情報が氾濫しつつある現代社会において信頼できる情報を得るための具体的方法及び注意点は何か？

シラバス執筆：岡田 直丈

レポート課題

第1分冊 岡田 直丈

第2分冊 岡田 直丈

第1分冊 〈略題〉宗教社会学の古典的理論・周辺領域・展開

I. 宗教社会学の基礎理論(第1章～4章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 人類学が宗教社会学に与えた影響について、研究者たちの学説を要約しながら1,200字以上で具体的に説明しなさい。
- (2) 宗教集団に関する理論について、ウェーバー、トレルチ、ニーバー、ウィルソン、ロバートソン、ベッカー、スタークとベインブリッジ、モバーグ、オディの学説を要約しながら1,200字以上で具体的に説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

留意事項として、下記の点を挙げる。

- ①テキストを精読して内容を十分に理解しているか。
 - ②テキストの要点を自分の言葉で的確に表現できているか。
 - ③その上で、設問に的確かつ論理的に解答できているか。
- このように、設問の把握、テキストの読解力そして文章表現力が作成の条件になる。そのためにテキストを反復して読み、ノートやパソコンに下書きをした上で、レポートを作成することを奨励したい。
- ※教科書を十分参照せずに解答した場合は採点の対象外となるので注意すること。
- ※設問(1)と(2)は別々の問題となる。

〈評価の観点〉

- ①テキストの単なるまとめに終わらず、要点をおさえて論述すること。
- ②答案を作成するときは、全体の構成を考え、適切な形で段落分けをして論理的な連関が明確になるように記述すること。

〈その他の注意点〉

テキスト各章を十分に読解した上で、各分冊の「略題」を体系的に理解すること。専門用語については、宗教学分野の事典(教科書で紹介)を調べるとよい。

※レポートは大学指定の「テキスト履修レポート用 Word 横書き用テンプレート」を使用して提出すること。

第2分冊 〈略題〉現代世界と日本における宗教状況と宗教理解

II. 現代社会と宗教社会学(第5章～8章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 日本の近代新宗教の形成と展開に影響を与えた四つの社会変動と三大ポスト近代新宗教について、1,200字以上で具体的に説明しなさい。
- (2) 世界の四大宗教文化圏の特質について、1,200字以上で具体的に説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

留意事項として、下記の点を挙げる。

- ①テキストを精読して内容を十分に理解しているか。
 - ②テキストの要点を自分の言葉で的確に表現できているか。
 - ③その上で、設問に的確かつ論理的に解答できているか。
- このように、設問の把握、テキストの読解力そして文章表現力が作成の条件になる。そのためにテキストを反復して読み、ノートやパソコンに下書きをした上で、レポートを作成することを奨励したい。
- ※教科書を十分参照せずに解答した場合は採点の対象外となるので注意すること。
- ※設問(1)と(2)は別々の問題となる。

〈評価の観点〉

- ①テキストの単なるまとめに終わらず、「設問」に的確に解答すること。
- ②テキスト理解が十分かどうか、要点をおさえて内容を解答すること。
- ③答案を作成する際、全体の構成を考え、適切な形で段落分けをして、論理的な連関を明確に解答すること。

〈その他の注意点〉

テキスト各章を十分に読解した上で、各分冊の「略題」を体系的に理解すること。専門用語については、宗教学分野の事典(教科書で紹介)を調べるとよい。

※レポートは大学指定の「テキスト履修レポート用 Word 横書き用テンプレート」を使用して提出すること。

参考文献

.....
 さらなる学習のために、テキストの各章末及び「文献解題」(262～267ページ)で紹介された文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験は、テキストのすべての範囲から出題される。その有効な対策として下記の点を挙げておく。

- ①普段からテキストを学修、読解し、各章の論点を整理、要約しておくこと。
 - ②テキストの各章に出てくる重要な人物やキーワードや概念に注目して、その意味を正確に理解すること。
- ※その際、各章末の「注」も読んでおくこと。
- ③答案作成の際、全体構成を考えて、適切に段落分けをし、論理的な文章を作成すること。

教員からの
メッセージ

-
- ・各テーマについて、新しい知識を得るという意欲と関心をもって学びを深めて頂きたい。さらに、宗教が社会に、また社会が宗教に与える影響についても把握できるよう努めて頂きたい。
 - ・また、テキストの学修をさらに深め、発展させていくために、テキスト巻末の「付録」「文献解題」に紹介された豊富な文献・データも是非参照・活用して頂きたい。それは学習者の「宗教情報リテラシー」をいっそうの向上に繋がるであろう。
 - ・テキストを学習する際、またレポートの作成や試験の準備をする際、本科目の「学修指導書」も是非参考するとよい。
- ※ WebTAMA 上で閲覧可

TT0214 生涯学習概論

2単位

テキスト名

笹井宏益・中村香
『生涯学習のイノベーション』
玉川大学出版部

科目概要	本科目は、社会教育関係職員を目指す人を主な対象としているが、教員を目指す人にも、学んでもらいたい。日本の教育政策や実践は、生涯学習の理念の下で展開され、学校・家庭・地域の連携が不可欠になっているからである。本科目では、テキストのタイトルのとおり、生涯学習の革新性に注目をして、生涯学習の理念と現代社会、生涯学習を支える社会教育、地域コミュニティを創る協働、専門性の育成とイノベーションについて考察してゆく。
主な到達目標	・生涯学習論の革新性や現代的意義について、生涯発達論や海外の生涯学習政策などを踏まえた説明ができる。 ・社会教育の本質・学校教育との違い・社会教育行政の役割について、法令などに基づく説明ができる。 ・地域コミュニティを創る協働の意義と課題について、公民館の役割や市民活動等の展開を踏まえた説明ができる。 ・専門性の育成の意義と課題について、リカレント教育や大学開放、また社会的評価の観点から説明できる。
テキスト学修の留意点	生涯学習の意義や課題を机上の理論として学ぶよりも、自らの人生や学習のあり方に引き付けた考察をしてほしい。大学の勉強では、学んだことに基づき、何を考えられるかが問われる。新聞等で報道される社会的課題を踏まえて、自らの人生のみならず、組織や社会のイノベーションについて、自らの考えを論理的に語れる人になってくれることを期待する。

	学修テーマ	課 題
1	生涯学習の理念	ラングランが説く「生涯教育論」の特徴とその先見性は何か。 また、孔子等の古典的生涯学習論と、今日の生涯学習の理念の違いは何か。
2	生涯学習の改革論的視点	生涯教育論／生涯学習論における改革論的視点や課題は何か。 また、ユネスコや日本において、生涯教育論から生涯学習論へと転換したきっかけや理由は何か。
3	生涯発達と生涯学習	ハヴィガーストなどの生涯発達論の特徴と課題は何か。 今日の日本社会で求められている力は何か。また、「発達観の脱構築」とは何か。
4	海外の生涯学習	教育を受ける権利という観点から、生涯学習論の意義を説明できるか。 ヨーロッパやアジアにおける生涯学習の動向から日本の生涯学習への示唆を説明できるか。
5	社会教育の本質	社会教育の特徴について、歴史・法律に基づいて説明できるか。 特に、戦前と戦後の社会教育の理念の違いを、その課題も含めて説明できるか。
6	社会教育の固有性と実践	生涯学習と社会教育の違いや、社会教育と学校教育の違いは何か。 社会教育の主な対象である成人の学習者の特徴は何か。
7	社会教育行政	社会教育行政のコンセプトを、具体例を含めて説明できるか。 社会教育行政の構造、計画、専門職員について、説明できるか。
8	専門施設としての図書館と博物館	社会教育施設の特徴について、設置数の動向も含めて説明できるか。 図書館や博物館の機能と現代的意義は何か。
9	公民館の役割と展開	公民館について、その目的・教育の特徴・運営・禁止事項などに基づいて説明できるか。 また、コミュニティ学習センターとは何か。
10	ボランティア活動と市民活動	ボランティア観の転換とは何か。ボランティア活動や市民活動における学習機会としての意義や課題について説明できるか。
11	学校・家庭・地域の連携協力	学校・家庭・地域の連携協力が唱えられるようになった背景は何か。 また、連携協力を推進する為の3つの政策や、コーディネーターの必要性を説明できるか。
12	協働とネットワーク	「新しい公共」を実現するガバナンス構造について説明できるか。 「現代的課題」とその解決に向けた展望を説明できるか。
13	リカレント教育の理論と実践	「リカレント教育」の意義と課題は何か。 「リカレント教育」が経済格差を生むメカニズムを内包する理由や展望を説明できるか。
14	大学開放と社会人教育	「大学開放に関する書簡」とは何か。 日本と欧米の大学開放の特徴を説明できるか。
15	学習成果の社会的評価	学習成果を適切に評価する社会にならない理由や、ヨーロッパにおける評価制度の意義を説明できるか。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香・高梨 宏子

第2分冊 中村 香

第1分冊 〈略題〉社会教育 第1部、第2部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部と第2部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、社会教育について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭に副題を置き、導入（本稿の目的や構成等）を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、あなたの考えを論述すること。
- ③テキストから3か所以上の引用をすること。
- ④接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりを（文章の構造）を意識して論ずること。
- ⑤本科目のレポート作成にあたっての文献の用い方は、『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

〈評価の観点〉

- ①現代社会における生涯学習や社会教育の意義や課題を理解しているか。
新聞などで現代社会に関する関心を高めたいうえで、現代社会と学びの関係を考えて欲しい。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①レポートを提出する前に、よく確認をすること。
- ②文献の載せ方は学会によって異なるため、唯一の正解があるわけではないが、本科目のレポートの書き方は『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

第2分冊 〈略題〉学習と社会 第3部、第4部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第3部と第4部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、学習と社会について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。
テキストから3か所以上引用することを、忘れないように。

〈評価の観点〉

- ①『生涯学習のイノベーション』のテキストでの学び（特に第3部と第4部）に基づき、学習と社会について自らの考えを論述できているか。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

.....
テキストの各章末に「より深く学習するための参考文献や資料」が載っているので、それらを参考に、学びを深めてほしい。
また、第40回全国公民館研究集会で行われた池上彰氏による「民主主義と公民館運動」というテーマの特別講義（短縮版、約15分）は、現代社会における社会教育の意義についての示唆に富むと思うので、見てみてください。
{<https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=3Qb1QUVMZ74>}

科目試験等への
アドバイス

.....
試験では、テキスト学修に基づく考えを、論理的に記述できているかどうかを評価する。採点していると、テキストの内容を踏まえずに自分の考えのみを述べているものが散見される。試験問題をよく読み、学んだことの羅列にならないように構成も考えて記述すること。
文献を参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からの
メッセージ

.....
通信教育課程には、社会教育関係職員として、実際に地域の社会教育を担っている方が多い。生涯学習について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの経験や実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“仕事に生かせることは無いか”という実践的な視点で、考察を深めてもらいたい。

科目概要	本科目では、教育・保育現場などで PC を利用することを想定し、Word や Excel、PowerPoint などの操作方法について学修します。また、PC を利用する際に求められる情報リテラシーや教育現場で求められるプログラミング (的思考) についても学修します。
主な到達目標	・ Word を利用して、学級通信や園だよりなどのお知らせ文書を作成することができる。 ・ Excel を利用して、成績処理や会計処理、グラフ作成をすることができる。 ・ PowerPoint を利用して、教育場面などで利用できる教材 (資料) を作成することができる。 ・ Scratch を利用して、プログラミングの基礎を理解する。 ・ 情報リテラシーについて説明できる。
テキスト学修の留意点	Word や Excel、PowerPoint などでは、テキストで示されている手順と同じでなくても同様の結果を得ることが可能です。そのような場合は、自身が日頃使っている方法で作成して結構です。 なお、テキスト (やシラバス) では、教育・保育現場での利用を前提に説明している部分も多いですが、学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える (説明する) 時を想定し、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	データサイエンスの動向と情報リテラシー	日常生活や教育・保育現場における情報リテラシーについて学修します。 また、データ分析と教育・保育への利活用について学修します。
2	情報倫理と著作権	教育・保育現場などで著作物を利用する際の注意点などについて学修します。
3	Word ～お知らせ文書の作成～ (1)	Word を利用した学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」の作成方法について、見本を通して学修します。
4	Word ～お知らせ文書の作成～ (2)	Word を利用して、(架空の) 学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成してみましょう。
5	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (1)	ブックやセルの理解、入力の方法など Excel の基礎について、見本を通して学修します。 また、見やすい表の作成方法も学修します。
6	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (2)	棒グラフや円グラフなどの作成方法について、見本を通して学修します。
7	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (3)	Excel で作成したグラフを Word に貼り付け、(架空の) 学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成してみましょう。
8	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (4)	いくつかの関数の利用方法を確認することにより、データ処理の基礎を学修します。
9	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (1)	PowerPoint を利用した教材 (資料) の作成方法について、見本を通して学修します。
10	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (2)	PowerPoint を利用して、教育・保育現場などで利用できる教材 (資料) を作成してみましょう。
11	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (3)	第 10 回と同様です。
12	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (4)	作成した教材 (資料) を動画にしてみましょう。
13	プログラミング (1)	Scratch を利用したプログラミングについて、見本を通して学修します。
14	プログラミング (2)	13 回に学修した基礎をもとに、簡単なオリジナルゲームを作成してみましょう。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容を再確認し、教育場面などでの利用方法について検討します。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉お知らせ文書の作成と情報リテラシー 第1～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「データサイエンスと情報リテラシー」についてテキストの該当部分を要約し、自身の考えを述べなさい。
- (2) 自身のコースに関係する情報（学校教育の方は、例えば「スマートフォンの普及率」）を調べてExcelでグラフを作成し、それをWordに貼り付けて学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成しなさい。

＊学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定した「お知らせ文書」を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありません。文章のポイントをまとめて示すことです。
- ② 課題（1）については、最新のテンプレートを利用して作成すること。
- ③ 課題（1）のファイル名は、「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ④ 課題（2）についてはテンプレートを利用せず、（1）とは別にWordで1枚で作成すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・留意事項などで示されている点を守られているか。
- ・見やすく伝わりやすい「お知らせ文書」になっているか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ 課題（2）は「グラフ」以外に、「グラフの説明」「ワードアートなどを利用したお知らせ文書の題名」「イラスト（画像）」「お知らせ文書全体を囲む罫線（ページ罫線）」を必ず入れること。
- ⑥ お知らせ文書の題名は各自で考えること。
- ⑦ 課題（1）と（2）は、それぞれをわけて提出すること。
- ⑧ 課題（2）のファイル名は「お知らせ文書」にすること。
- ⑨ 課題（2）は「pdf」に変換して提出すること。
- ⑩ 課題（2）の情報元を「お知らせ文書」の中に載せること。

第2分冊 〈略題〉教材（資料）の作成 第4～5章

横書き

Word添付

〈課題〉

誰かに何かを伝える（説明する）時に利用できる教材（資料）をPowerPointで作成しなさい。

- ＊学校教育の方は、興味関心に応じて科目や単元などを設定し、授業の一部で利用できる教材を作成してください。
- ＊幼児教育の方は、デジタル紙芝居や（例えば）「子どもたちに園での約束事を説明するスライド」「保護者向けの資料（スライド）」などでも構いません。
- ＊学芸員や司書などの方は、（例えば）「来館者の方に何か（施設の利用方法や展示物など）を説明するスライド」「図書の調べ方に関する資料（スライド）」などでも構いません。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 作成するスライドは、表紙を含めて6枚以上にすること。
- ② 全てのスライドでアニメーションを一か所以上入れること。
- ③ 利用するイラストなどについては、著作権に注意すること。
- ④ 作成した各スライドを「アニメーションウィンドウ」を表示した状態でキャプチャ（スクリーンショット）し、それぞれをWordに貼り付けて「pdf」に変換して提出すること。

〈評価の観点〉

- ・留意事項などで示されている点を守られているか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ キャプチャしたスライドを貼り付ける時はテンプレートは利用せず、余白を「狭い」にしたWordを利用すること。
- ＊①～⑤について詳しく確認したい場合は、EduTrackの本科目の解説動画（補助動画）を確認すること。
- ⑥ ファイル名は「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ⑦ デジタル紙芝居では、インターネット上にあるフリーのイラストを利用しても構わないが、ストーリーはオリジナルにすること。
- ⑧ デジタル紙芝居のストーリーは、各スライド上にテキストボックスで入れておくこと。
- ⑨ インターネット上の画像などを利用する場合は、必要に応じてスライド上に（テキストボックスなどを利用して）出典を明記すること。

参考文献

テキストに示されていない操作方法などについては、インターネットや書籍などで調べるようにしてください。

科目試験等への
アドバイス

- ・テキストに示されているキーワードをしっかりと理解しておくこと。
- ・コラムで説明している内容についても確認（理解）しておくこと。
- ・科目試験では要約を求められることもありますが、（第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」に示しているように）要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありませんので注意してください。

教員からの
メッセージ

本科目で学修する内容は、将来、PCを利用して誰かに何かを伝えようとする時に役立つものです。（教育場面では特に、ICTの利活用が求められています）
手順をしっかりと確認し、学修を進めるようにしてください。

科目概要	本科目では、教育現場などでPCを利用することを想定し、WordやExcel、PowerPointなどの操作方法などについて学修します。また、PCを利用する際に求められる情報リテラシーや教育現場で求められるプログラミングについても学修します。
主な到達目標	・ Wordを利用して、学級通信や園だよりなどのお知らせ文書を作成することができる。 ・ Excelを利用して、成績処理や会計処理、グラフ作成をすることができる。 ・ PowerPointを利用して、教育場面などで利用できる教材（資料）を作成することができる。 ・ Scratchを利用して、プログラミングの基礎を理解する。 ・ 情報リテラシーについて説明できる。
テキスト学修の留意点	WordやExcel、PowerPointなどでは、テキストで示されている手順と同じでなくても同様の結果を得ることが可能です。そのような場合は、自身が日頃使っている方法で作成して結構です。 なお、テキスト（やシラバス）では、教育現場での利用を前提に説明している部分も多いですが、学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定し、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	インターネットと著作物の利用（1）	インターネットと情報リテラシーについて学修します。
2	インターネットと著作物の利用（2）	著作物の利用について学修します。 教育現場などで利用する際の注意点などについても確認しましょう。
3	Word～学級通信の作成～（1）	Wordを利用した学級通信の作成方法について、例題を通して学修します。
4	Word～学級通信の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をWordで作成します。
5	Excel～成績処理会計処理～（1）	Excelを利用した成績処理の方法について、例題を通して学修します。
6	Excel～成績処理会計処理～（2）	Excelを利用した会計処理の方法について、例題を通して学修します。
7	Excel～成績処理会計処理～（3）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をExcelで作成します。
8	PowerPoint～教材の作成～（1）	PowerPointを利用した教材の作成方法について、例題を通して学修します。
9	PowerPoint～教材の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をPowerPointで作成します。
10	画像編集～視聴覚教材の作成～（1）	ペイントなどを利用した教材の作成方法について、例題を通して学修します。
11	画像編集～視聴覚教材の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題を作成します。
12	プログラミング（1）	Scratchを利用したプログラミングについて、例題を通して学修します。
13	プログラミング（2）	例題で身に付けた方法を応用し、与えられた課題をScratchで作成します。
14	コンピュータ	パソコンの歴史やOS、ハードウェアとソフトウェアなどについて学修します。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容を再確認し、教育場面などでの利用方法について検討します。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉お知らせ文書の作成と情報リテラシー

第1～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「インターネットと情報リテラシー」についてテキストの該当部分を要約し、自身の考えを述べなさい。
 - (2) 自身のコースに関係する情報（学校教育の方は、例えば「スマートフォンの普及率」）を調べてExcelでグラフを作成し、それをWordに貼り付けて学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成しなさい。
- ＊学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定した「お知らせ文書」を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありません。文章のポイントをまとめて示すことです。
- ② 課題（1）については、最新のテンプレートを利用して作成すること。
- ③ 課題（1）のファイル名は、「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ④ 課題（2）についてはテンプレートを利用せず、（1）とは別にWordで1枚で作成すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・留意事項などで示されている点を守られているか。
- ・見やすく伝わりやすい「お知らせ文書」になっているか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ 課題（2）は「グラフ」以外に、「グラフの説明」「ワードアートなどを利用したお知らせ文書の題名」「イラスト（画像）」「お知らせ文書全体を囲む罫線（ページ罫線）」を必ず入れること。
- ⑥ お知らせ文書の題名は各自で考えること。
- ⑦ 課題（1）と（2）は、それぞれをわけて提出すること。
- ⑧ 課題（2）のファイル名は「お知らせ文書」にすること。
- ⑨ 課題（2）は「pdf」に変換して提出すること。
- ⑩ 課題（2）の情報元を「お知らせ文書」の中に載せること。

第2分冊 〈略題〉教材（資料）の作成 第4～6章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 誰かに何かを伝える（説明する）時に利用できる教材（資料）をPowerPointで作成しなさい。
- ＊学校教育の方は、興味関心に応じて科目や単元などを設定し、授業の一部で利用できる教材を作成してください。
- ＊幼児教育の方は、デジタル紙芝居や（例えば）「子どもたちに園での約束事を説明するスライド」「保護者向けの資料（スライド）」などでも構いません。
- ＊学芸員や司書などの方は、（例えば）「来館者の方に何か（施設の利用方法や展示物など）を説明するスライド」「図書の調べ方に関する資料（スライド）」などでも構いません。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 作成するスライドは、表紙を含めて6枚以上にすること。
- ② 全てのスライドでアニメーションを一か所以上入れること。
- ③ 利用するイラストなどについては、著作権に注意すること。
- ④ 作成した各スライドを「アニメーションウィンドウ」を表示した状態でキャプチャ（スクリーンショット）し、それぞれをWordに貼り付けて「pdf」に変換して提出すること。

〈評価の観点〉

- ・留意事項などで示されている点を守られているか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ キャプチャしたスライドを貼り付ける時はテンプレートは利用せず、余白を「狭い」にしたWordを利用すること。
- ＊①～⑤について詳しく確認したい場合は、EduTrackの本科目の解説動画（補助動画）を確認すること。
- ⑥ ファイル名は「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ⑦ デジタル紙芝居では、インターネット上にあるフリーのイラストを利用しても構わないが、ストーリーはオリジナルにすること。
- ⑧ デジタル紙芝居のストーリーは、各スライド上にテキストボックスで入れておくこと。
- ⑨ インターネット上の画像などを利用する場合は、必要に応じてスライド上に（テキストボックスなどを利用して）出典を明記すること。

参考文献

テキストに示されていない操作方法などについては、インターネットや書籍などで調べるようにしてください。

科目試験等への
アドバイス

- ・テキストに示されているキーワードをしっかりと理解しておくこと。
- ・コラムで説明している内容についても確認（理解）をしておくこと。
- ・科目試験では要約を求められることもありますが、（第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」に示しているように）要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありませんので注意してください。

教員からの
メッセージ

本科目で学修する内容は、将来、PCを利用して誰かに何かを伝えようとする時に役立つものです。（教育場面では特に、ICTの利活用が求められています）
手順をしっかりと確認し、学修を進めるようにしてください。

科目概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンス、情報リテラシー教育、発信型情報サービス、情報探索・利用環境の整備、参考図書・データベース等の情報サービスの情報源等について解説する。
主な到達目標	・ 図書館における情報サービスの意義を理解する。 ・ レファレンス、情報リテラシー教育、発信型情報サービス、情報探索・利用環境の整備、参考図書・データベース等の情報サービスの情報源等について理解する。
テキスト学修の留意点	・ 課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・ 特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・ レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館の情報サービス (1)	・ インターネット環境において図書館が情報サービスを行なう意義。 ・ 図書館において行なわれる情報サービスについて。 ・ 利用者の情報探索行動。
2	図書館の情報サービス (2)	・ アメリカにおけるレファレンスサービスの成立と発達について。 ・ 日本におけるレファレンスサービスの成立と発達について。 ・ 情報機器の登場やインターネットの普及について。 ・ 個別支援型サービスと発信型サービスについて。
3	個別支援型サービス (1)	・ レファレンス質問の受付と回答について。 ・ レファレンス質問のタイプ別、受付方法について。 ・ レファレンス質問の傾向・難易度等の分析について。 ・ レファレンスサービスの指針・制限について。
4	個別支援型サービス (2)	・ レファレンスサービスの実践・コミュニケーションについて。 ・ レファレンスインタビューについて。 ・ レファレンスプロセスと探索戦略について。 ・ レファレンス事例集・事例データベースと国立国会図書館のレファレンス協同データベースについて。
5	情報リテラシー教育 (1)	・ 情報リテラシーとは何か。 ・ アメリカおよび国際図書館連盟による指針、文部科学省の「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」、日本図書館協会の「図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版」について。 ・ 情報リテラシー教育の評価、コスト、協働について
6	情報リテラシー教育 (2)	・ オリエンテーション（オンデマンド型）の実践例。 ・ セミナー型の実践例について。 ・ 大学の授業として情報リテラシー教育を担当する業務の実践例について。 ・ ラーニングコモンズと情報リテラシー教育の関係について。
7	情報リテラシー教育 (3)	・ オンラインチュートリアルの実践例について。 ・ オンラインチュートリアルなどのコンテンツ作成に当たって留意すべきこと。 ・ 情報リテラシー教育の冊子体テキストの実践例について。
8	発信型情報サービス (1)	・ なぜ図書館が情報発信しなければならないかについて。 ・ 図書館ウェブサイトで提供されるコンテンツと運営、管理。 ・ ウェブサイトのユーザビリティ、アクセシビリティについて。
9	発信型情報サービス (2)	・ パスファインダーとその実践例、作成について。 ・ 情報サービスにおける電子情報源への移行について。 ・ 情報技術、情報流通、情報環境が変化する現代における図書館サービスについて。
10	発信型情報サービス (3)	・ 図書館が提供する契約電子情報源について。 ・ 電子ジャーナルについて。 ・ リンクリゾルバ、OPAC と電子情報源との関係について。 ・ リモートアクセスについて。
11	情報探索・利用環境の整備	・ 情報探索のためのインターネットなどの利用環境整備について。 ・ レファレンスカウンター、レファレンスルームについて。 ・ 書架、閲覧スペース、パソコンの利用環境について。 ・ インフォメーションコモンズ、ラーニングコモンズについて。
12	情報サービスの管理と運営 (1)	・ 経営戦略としての情報サービスについて。 ・ 図書館業務の機械化・オンライン化・ネットワーク化について。 ・ 主題別部門制、ビジネス支援などの問題解決支援について。

13	情報サービスの管理と運営 (2)	・レファレンスライブラリアンのための人材育成と研修について。 ・資料費の確保について。 ・個人情報の取扱い、著作権法への対応、問題利用者の存在とその対応について。
14	情報サービスの情報源 (1)	・情報源の種類について。 ・レファレンスコレクションとその構築、マネジメントについて。 ・基本的な情報源と探し方の基本 (総合)
15	情報サービスの情報源 (2)	・基本的な情報源と探し方の基本 (分野別)

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉利用教育 第1分冊(第1章・第2章・第3章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

一般成人または大学学部学生に対して、百科事典について、及びその具体的な利用方法を説明するための文章を作成しなさい。利用方法については小学館『日本大百科全書』または平凡社『世界大百科事典』を想定するのが望ましい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・対象は図書館員ではなく、一般の成人や大学生であること。
- ・具体的な利用方法をわかりやすく説明すること。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。凡例・説明文やテキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない

第2分冊 〈略題〉パスファインダー 第2分冊(第4章・第5章・第6章・第7章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

以下の要領で、一般成人または大学学部学生に対して提供することを前提とした、簡易なパスファインダーを作成しなさい。

- ①テーマを決定し、そのテーマについての概要を簡潔に書く。
- ②①のテーマに合うレファレンス資料（電子情報源も可）を3つ選び、その書誌事項を記すとともに、利用する人がわかりやすいように簡潔な解説を書く。
- ③①のテーマを知るのにまず読むべき入門書・概説書を3つ選び、その書誌事項を記すとともに、読む人がわかりやすいように簡潔な解説を書く。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・一般成人または大学学部学生が図書館において調査をおこなうのにふさわしいテーマを選択すること。
- ・②はレファレンス資料であり、③は入門書・概説書である。両者の役割の違いを明確に意識して資料を選ぶこと。
- ・書誌事項や解説の書き方については、テキスト第7章第2節「基本的な情報源と探し方の基本」を参考にするとよい。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない

参考文献

.....
テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への アドバイス

.....
テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの メッセージ

.....
テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

科目概要	図書館が収集した情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源）から、利用者の情報要求を満たす資料を的確に検索できるようにするための理論と技法について論じる。すなわち、情報資源検索の手段となる書誌データの作成を規定した目録法の意義と役割について、また所蔵資料を書架上に組織し、主題からの探索を可能にする分類法の意義と役割について考察する。（司書資格必修科目）
主な到達目標	情報資源の組織化の意義と内容を十分に理解し、実際の作業に役立てることができること。
テキスト学修の留意点	本書の内容のうち、第2・3章はスクーリング科目の情報資源組織演習Aと、また第4章～第6章は同じく情報資源組織演習Bと内容的に密接な関係がある。演習を履修していない状態でテキストだけを学修しても、理解しづらい箇所も多いかもしれない。一方で、両演習を受講する際、本科目を既に学んでいるかどうかによって、演習の内容の理解度・定着度も大きく変わってくるので、演習を受講する者は先に本科目を学修していることが望ましい。したがって、本科目を学ぶに当たっては、演習A・Bの受講とうまく組み合わせた学修計画を立てるのがよい。詳しくは毎回の「課題」欄や指導書を参考にされたい。 本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」といったスタイルの学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいく形になるであろう。以下の「課題」欄でも、学修課題というよりはむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめたので、詳しくは指導書を参考にされたい。

	学修テーマ	課 題
1	情報資源組織： その目的・意義と概要（1）	図書館の情報資源とは何か、組織化とは何か、それはなぜ必要か、といった基本的な事項について学ぶ。テキストでは、重要な事項でありながら（あるゆえに）、抽象的な表現が多いので、ここで分かったつもりとせず、組織論全体（本科目だけでなく、演習のスクーリングも含む）を一通り学び終えた後で再び読み返して考えること。
2	情報資源組織： その目的・意義と概要（2）	間接サービス、直接サービス、既知資料検索、未知資料検索、書架分類法、目録法といった基本的な事項について学ぶ。本科目を学ぶ上で必須のテクニカルタームが次々と登場するので、意味を確認しながらしっかり読み進めたい。
3	目録法（1）	目録の定義と必要性、求められる機能、目録規則といった目録法に関する基礎知識を理解する。また、目録法の基本的な考え方として、既知検索や未知検索においてそれぞれどのような機能が求められるかを整理し、集中機能を果たすためには典拠コントロールが重要であることを理解する。また、目録データを作成する際には、知的生産物を「著作」ととらえ、同一の著作でも異なる「版」であれば別のデータとして記録することを把握する。 なお、このあたりから、本書だけで学修していたのでは抽象的で理解しづらいと思う人も出てくるであろう（特に目録作成の作業経験のない人は）。その場合は、情報資源組織演習Aの受講前に一通り目を通して（分からない箇所があっても構わない）、演習と並行して、あるいはその終了後に、再度本章以降を学ぶと理解しやすいだろう。
4	目録法（2）	目録規則のもとになる概念モデルであるFRBRの概要をつかむ。ついで、FRBRに基づいた目録規則では、実体の属性をどのように記録していくかを学ぶ。
5	目録法（3）	統制形アクセス・ポイントの構築の仕方、実体間の関連の記録の仕方を学ぶ。また、近代以降の目録規則の変遷誌を概観する。
6	書誌データ・メタデータと 情報通信技術（1）	マークアップ言語、HTTP、メタデータ等のインターネット技術のごく基礎的な知識を学ぶ。ついで、インターネットを用いた図書館業務として、共同目録作成と分担目録作成、書誌ユーティリティ、ハーベスティング、OPACについて学ぶ。
7	書誌データ・メタデータと 情報通信技術（2）	コンピュータが「意味を理解して（いるかのように）ふるまう」ようにするための方法として、XML、ダブリンコアについて学ぶ。
8	書誌データ・メタデータと 情報通信技術（3）	引き続き、コンピュータが「意味を理解して（いるかのように）ふるまう」ようにするための方法として、セマンティックウェブ、RDF、LODについて学ぶ。
9	主題組織法	主題組織法の定義、具体的な手法、利便性について学ぶ。なお、本シラバスの9～13（テキストの4～6章）で扱う内容は、具体的には情報資源組織演習Bの授業で実際の作業を行うことになる。したがって、演習Bを履修する前にしっかり学んでおくこと。また演習中も折に触れて参照するとよい。
10	分類法（1）	分類の基本原則、分類法の種類について学ぶ。
11	分類法（2）	NDCの構造、特徴、使い方について学ぶ。
12	語による主題組織法（1）	自然語を用いた主題組織法の具体例、中でもシソーラスの特徴や構造についてより具体的かつ詳細に学ぶ。
13	語による主題組織法（2）	件名標目表、特にBSHについて、その特徴や構造を具体的かつ詳細に学ぶ。
14	語による主題組織法（2）	書誌コントロールについてさまざまな側面から学習する。「書誌コントロールとは何か、どういう意義があるか」という問いに端的に一言で答えるのは難しいので、本章全体をていねいに読み進めていく中で回答を見つけてほしい。
15	索引・抄録	情報資源を組織化する一手法としての索引・抄録について概観する。

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉組織化とは(新) 1, 3, 7, 8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

資料の組織化とは何か、またそれは図書館にとってなぜ必要かを、日頃あまり図書館を利用していない普通の高校生が読んで分かるように説明せよ。
読者に分かりやすくするために、図書館以外の事例(たとえば商店における商品の組織化など)について併せて述べても良い。ただし、本題は「図書館の業務・機能における資料の組織化」であるので、その視点を忘れないこと。
なお、本分冊は利用者向けの説明を想定しているの、敬体(です・ます体)で書くこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

図書館の専門家ではない相手に通じるように、用語や内容、文体などを工夫して書くこと。
そもそも、テキストの文章は一般の利用者向けではなく、司書(およびそれをめざす人々)向けに書かれているので、職員には重要だが利用者にはあまり必要ないような事柄も書かれている。それらの見分けも付かず、テキストをそのまま要約しても相手には通じない。自分はカウンターに入っており、高校生の利用者を相手に説明している、というその立場になったつもりで説明すること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 組織化とは何かという要点が把握できているか。
 4. 一般の利用者向けに説明するという視点で書かれているか。
 5. 分かりやすく説明できているか。
- なお、図書館情報学の専門用語(「資料」「目録」なども立派な専門用語)が何の説明もなく使われているものは、理解不足のために説明できないとみなしD評価とする。専門用語の使用は最小限に留め、かつ、初出時に説明を付けること。

〈その他の注意点〉

科目名は「情報資源」組織論であるが、情報資源全般について述べると煩雑になるので(初心者向けの説明を想定しているため)、ネットワーク情報資源には触れなくてよい。

第2分冊 〈略題〉課題(1) 選択者→NDC
課題(2) 選択者→NCR2018 2, 4～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の(1)～(2)から1つ選択。
(1) NDC(新訂10版)について、その特徴、長所、短所などを、NDC以外の分類法と比較しつつ述べよ。
(2) NCR2018年版について、その特徴、長所、短所などを、従来の目録規則(NCR1987年版及びその改訂諸版)と比較しつつ述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 例えば課題(1)で、NDCの特徴を列挙し、それが済んでから他のある分類法の特徴を列挙しただけでは、比較したとはいえない。NDCの特徴を順次説明していきながら、それぞれの特徴について、その都度他の分類法と比較することで、NDCの特徴が浮き彫りになるように書くこと。(2)においてはその方針を貫くのは難しいかもしれないが、できるだけそのように心がけて書くこと。
2. NDC(あるいはNCR)がもつ、ある短所・弱点について指摘したら、それに対してどのような対応がなされているのか、また他の分類法(あるいは目録規則)ではその点をどう対処しているのかを、できるだけ述べること。
3. 略題の書き方について。「課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR2018」とまるごと略題として書いてくる人がいるが、これでは意味がない。2つの課題のうち1つを選択して書くので、どれを選んだかを示してもらうための略題である。したがって、課題(1)を選んだ人なら「NDC」が略題である。機械的に「略題」の欄の文字列をコピーアンドペーストするのではなく、意味を考えてほしい。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 内容は課題にきちんと答えているか。
- 特に前記の留意事項1.の下線部分が守られていないために不合格となる例が多くみられる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....
テキストの巻末や指導書に記載されているので、それを参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....
本科目に特有の試験対策方法といったものは特になし。テキストをしっかりと読んで学修し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずである。
例えば、学修ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つであろう。

教員からの
メッセージ

.....
ぜひ近くの図書館に足を運び、情報資源の組織化の成果を自分の目で確認し、その意義と必要性を感じてほしい。また、図書館に限らず、さまざまなところで「組織化」は行われている。そういった視点から身近な物事を見直してみると面白い。

科目概要	図書館が収集した情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源）から、利用者の情報要求を満たす資料を的確に検索できるようにするための理論と技法について論じる。すなわち、情報資源検索の手段となる書誌データの作成を規定した目録法の意義と役割について、また所蔵資料を書架上に組織し、主題からの探索を可能にする分類法の意義と役割について考察する。（司書資格必修科目）
主な到達目標	情報資源の組織化の意義と内容を十分に理解し、実際の作業に役立てることができること。
テキスト学修の留意点	本書の内容のうち、第2・3章はスクーリング科目の情報資源組織演習Aと、また第4章～第6章は同じく情報資源組織演習Bと内容的に密接な関係がある。演習を履修していない状態でテキストだけを学修しても、理解しづらい箇所も多いかもしれない。一方で、両演習を受講する際、本科目を既に学んでいるかどうかによって、演習の内容の理解度・定着度も大きく変わってくるので、演習を受講する者は先に本科目を学修していることが望ましい。したがって、本科目を学ぶに当たっては、演習A・Bの受講とうまく組み合わせた学修計画を立てるのがよい。詳しくは毎回の「課題」欄や指導書を参考にされたい。 本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」といったスタイルの学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいく形になるであろう。以下の「課題」欄でも、学修課題というよりはむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめたので、詳しくは指導書を参考にされたい。

	学修テーマ	課 題
1	情報資源組織：その目的・意義と概要（1）	図書館の情報資源とは何か、組織化とは何か、それはなぜ必要か、といった基本的な事項について学ぶ。テキストでは、重要な事項でありながら（あるゆえに）、抽象的な表現が多いので、ここで分かったつもりとせず、組織論全体（本科目だけでなく、演習のスクーリングも含む）を一通り学び終えた後で再び読み返して考えること。
2	情報資源組織：その目的・意義と概要（2）	直接サービス、間接サービス、既知資料検索、未知資料検索、書架分類法、目録法といった基本的な事項について学ぶ。本科目を学ぶ上で必須のテクニカルタームが次々と登場するので、意味を確認しながらしっかり読み進めたい。
3	目録法（1）	目録の定義と必要性、求められる機能、目録規則、記述と標目、基本記入と記述ユニット方式といった目録法に関する基礎知識を理解する。なお、このあたりから、本書だけで学修していたのでは抽象的で理解しづらいと思う人も出てくるであろう（特に目録作成の作業経験のない人は）。その場合は、情報資源組織演習Aの受講前に一通り目を通して（分からない箇所があっても構わない）、演習と並行して、あるいはその終了後に、再度本章以降を学ぶと理解しやすいだろう。
4	目録法（2）	日本目録規則（NCR）に基づき、記述の書き方、標目、排列に関する諸規則を学ぶ。詳しくは演習Aで扱うので、演習Aを履修する前に一通り読んでおくこと。ここでは、書誌階層の定義と利便性、記述とそれに含まれる8つの書誌的事項、標目について学ぶ。
5	目録法（3）	FRBR や RDA といった、目録規則に関わる最近の動向について学ぶ。担当者にもよるが、演習Aでは主として日本目録規則2018年版に基づいた目録の作成を行うため、本節（第2章の最後の節）は演習Aを受講する前に特に丁寧に読んでおくことと良いだろう。
6	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（1）	OPACの概要、索引ファイル、次世代OPAC、MARCフォーマット、書誌ユーティリティについて学ぶ。
7	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（2）	メタデータの概要、ダブリンコア、横断検索、メタデータ・ハーベスティングについて学ぶ。
8	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（3）	RDF、LOD、VIAF、ウェブ・アーカイビング等について学ぶ。
9	主題組織法	主題組織法の定義、具体的な手法、利便性について学ぶ。なお、本シラバスの9～13（テキストの4～6章）で扱う内容は、具体的には情報資源組織演習Bの授業で実際の作業を行うことになる。したがって、演習Bを履修する前にしっかり学んでおくこと。また演習中も折に触れて参照するとよい。
10	分類法（1）	分類の基本原理、分類法の種類について学ぶ。
11	分類法（2）	NDCの構造、特徴、使い方について学ぶ。
12	語による主題組織法（1）	自然語を用いた主題組織法の具体例、中でもシソーラスの特徴や構造についてより具体的かつ詳細に学ぶ。
13	語による主題組織法（2）	件名標目表、特にBSHについて、その特徴や構造を具体的かつ詳細に学ぶ。
14	書誌コントロール	書誌コントロールについてさまざまな側面から学習する。「書誌コントロールとは何か、どういう意義があるか」という問いに端的に一言で答えるのは難しいので、本章全体をていねいに読み進めていく中で回答を見つけていってほしい。
15	索引・抄録	情報資源を組織化する一手法としての索引・抄録について概観する。

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉組織化とは(旧) 1, 3, 7, 8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

資料の組織化とは何か、またそれは図書館にとってなぜ必要かを、日頃あまり図書館を利用していない普通の高校生が読んでも分かるように説明せよ。

読者に分かりやすくするために、図書館以外の事例(たとえば商店における商品の組織化など)について併せて述べても良い。ただし、本題は「図書館の業務・機能における資料の組織化」であるので、その視点を忘れないこと。

なお、本分冊は利用者向けの説明を想定しているので、敬体(です・ます体)で書くこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

図書館の専門家ではない相手に通じるように、用語や内容、文体などを工夫して書くこと。

そもそも、テキストの文章は一般の利用者向けではなく、司書(およびそれをめざす人々)向けに書かれているので、職員には重要だが利用者にはあまり必要ないような事柄も書かれている。それらの見分けも付かずしてテキストをそのまま要約しても相手には通じない。自分はカウンターに入っており、高校生の利用者を相手に説明している、というその立場になったつもりで説明すること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 組織化とは何かという要点が把握できているか。
 4. 一般の利用者向けに説明するという視点で書かれているか。
 5. 分かりやすく説明できているか。
- なお、図書館情報学の専門用語(「資料」「目録」なども立派な専門用語)が何の説明もなく使われているものは、理解不足のために説明できないとみなしD評価とする。専門用語の使用は最小限に留め、かつ、初出時に説明を付けること。

〈その他の注意点〉

科目名は「情報資源」組織論であるが、情報資源全般について述べると煩雑になるので(初心者向けの説明を想定しているため)、ネットワーク情報資源には触れなくてよい。

第2分冊 〈略題〉課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR87
(3) 選択者→NCR2018 2, 4～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の(1)～(3)から1つ選択。

- (1) NDC(新訂10版)について、その特徴、長所、短所などを、NDC以外の分類法と比較しつつ述べよ。
- (2) NCR1987年版(その改訂版以降も含む)について、その特徴、長所、短所などを、他の目録規則(特にNCR1965年版)と比較しつつ述べよ。
- (3) NCR2018年版について、その特徴、長所、短所などを、他の目録規則(特にNCR1987年版及びその改訂諸版)と比較しつつ述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 例えば課題(1)で、NDCの特徴を列挙し、それが済んでから他のある分類法の特徴を列挙しただけでは、比較したとはいえない。NDCの特徴を順次説明していきながら、それぞれの特徴について、その都度他の分類法と比較することで、NDCの特徴が浮き彫りになるように書くこと。(2)も同様。(3)においてはその方針を貫くのは難しいかもしれないが、できるだけそのように心がけて書くこと。
2. NDC(あるいはNCR)がもつ、ある短所・弱点について指摘したら、それに対してどのような対応がなされているのか、また他の分類法(あるいは目録規則)ではその点をどう対処しているのかを、できるだけ述べること。
3. 略題の書き方について。「課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR87 (3) 選択者→NCR2018」とまると略題として書いてくる人がいるが、これでは意味がない。3つの課題のうち1つを選択して書くので、どれを選んだかを示してもらうための略題である。したがって、課題(1)を選んだ人なら「NDC」が略題である。機械的に「略題」の欄の文字列をコピーアンドペーストするのではなく、意味を考えてほしい。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 内容は課題にきちんと答えているか。
- 特に前記の留意事項1.の下線部分が守られていないために不合格となる例が多くみられる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....
テキストの巻末や指導書に記載されているので、それを参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....
本科目に特有の試験対策方法といったものは特になし。テキストをしっかりと読んで学修し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずである。
例えば、学修ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つであろう。

教員からの
メッセージ

.....
ぜひ近くの図書館に足を運び、情報資源の組織化の成果を自分の目で確認し、その意義と必要性を感じてほしい。また、図書館に限らず、さまざまなところで「組織化」は行われている。そういった視点から身近な物事を見直してみると面白い。

科目概要	本科目では、学校図書館における情報資源の有効活用などについて学修します。また、視聴覚メディアを活用した授業設計の方法やインターネットを活用した検索方法、著作権など、学校図書館司書教諭として知っておくべき内容について考えます。
主な到達目標	・学校図書館における情報資源をどのようにすれば有効に活用できるのかについて理解している。 ・どのようにすれば学習活動や読書指導を支援できるのかについて提案できる。
テキスト学修の留意点	・テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。 ・キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。 ・レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているか、それをもとに考察ができているのかを見ます。 ・「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしながら学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	メディア専門職としての司書教諭 (1)	学校図書館の情報化施策の流れについて学びます。具体的には、高度情報通信ネットワーク社会や教育の情報化プロジェクトについて確認します。
2	メディア専門職としての司書教諭 (2)	メディアの専門職として必要なリテラシーについて確認します。
3	高度情報通信社会と学校図書館	学校図書館には、教育・学習活動を支援するにあたり三つの役割が求められているが、ここでは学習情報センターとしての役割について確認します。
4	情報メディアの発達	ここでは「情報」と「メディア」について定義し、メディアの歴史的変遷について確認します。
5	情報メディアの特性と選択 (1)	情報メディアを分類し、それぞれの特性について確認します。
6	情報メディアの特性と選択 (2)	ここでは、教授学習支援という観点から情報メディアの選択について考えます。
7	視聴覚メディアの活用 (1)	視聴覚メディアを効果的に活用するため、その特性について確認します。
8	視聴覚メディアの活用 (2)	メディア教育の目標の一つである、メディアリテラシーの育成について確認します。
9	視聴覚メディアの活用 (3)	視聴覚メディアを活用した授業の設計方法などについて確認します。
10	教育用コンテンツの活用 (1)	ここでは、教材作成支援としてのコンピュータ利用と学習支援としてのコンピュータ利用について確認します。
11	教育用コンテンツの活用 (2)	教育用ソフトウェアの体系と利用について、その収集と管理、評価基準などについて確認します。
12	データベースと情報検索	ここでは、データベースの基本的知識とデータベースを利用した情報検索について確認します。
13	インターネットによる情報活用	ここでは、インターネットを活用した学習情報の検索方法とインターネットのしくみについて確認します。
14	インターネット利用による光と影	情報社会における倫理問題とモラル、ネチケットについて確認します。
15	著作権とメディア	著作権に関する基礎知識について学び、児童生徒の活動における著作権指導について考えます。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 服部 繁彦、田畑 忍

第2分冊 服部 繁彦、田畑 忍

第1分冊 〈略題〉情報メディアの特性と活用 1章～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト第5章～第9章（一部、第2分冊内容を含む）で示されている情報メディアの中から①一つを選び、②その特性を詳しく説明した上で、③その特性を効果的に活用した実践例を学習指導案の形式で記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題②については、テキストで示されている内容を中心に説明すること。
- ②引用と自身の考察の違いを明確にするため、引用の場合は引用先（ページなど）を示すこと。
- ③学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ④「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。
- ⑤書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。

〈評価の観点〉

- ①情報メディアが的確に選択されているか。
- ②選択した情報メディアの特性が、テキストから正しく学ばれているか。
- ③上記の留意事項を守り、選択した情報メディアの特性を効果的に活かした学習指導案となっているか。

〈その他の注意点〉

- ①情報メディアについては、テキストに取り上げられているものの中から選ぶこと。
- ②搭載するソフトウェアや内容によって機能を変えるコンピュータや携帯電話、プロジェクタなどの機器類は、それ自体が情報を含んでいないので情報メディアとは見なさない。
- ③インターネットには多様な機能がある。同様に視聴覚メディアも多種多様なもので、それらを選択する場合は、機能や種類を絞り込んで執筆すること。
(例：インターネットのコミュニケーション機能、視聴覚メディアのうちの写真、など)

第2分冊 〈略題〉著作権 7章～12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

著作権に関する指導をする場合、どのような内容が考えられるか。①著作権教育の意義を述べた上で、②著作権教育の実例を学習指導案の形式で記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題①については、テキストで示されている内容を中心に説明すること。
- ②引用と自身の考察の違いを明確にするため、引用の場合は引用先（ページなど）を示すこと。
- ③学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ④「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。
- ⑤「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。
- ⑥書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。

〈評価の観点〉

- ①著作権教育を行う意義について、著作権法を引用し明確に述べられているか。
- ②上記の留意事項を守り、著作権教育の実例を具体的に設計することができているか。

〈その他の注意点〉

文献などから引用する際は、必ず注記すること。

参考文献

発展的な学習をする時は、テキストに載っている文献を参考にしてください。

科目試験等への
アドバイス

科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。

教員からの
メッセージ

単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、テキストを大切に読み進めてほしいと思っています。

科目概要	長い歴史を持つ地理学という学問の基礎的な学習を通して、地理学の歩みや地理学から見た世界、現代社会にみられる地理的な現象理解や過去からの地域変容、産業や文化の地理学的な把握などを深めることができる。教員免許状を取得し、中学や高等学校などで地理総合や地理探究などを教えようという人々に向けて、地理学の視点や概念を分かりやすく捉え、人類が直面する様々な課題をグローバルな視点から理解することができる。
主な到達目標	地理学の中でも人文地理学という領域を中心に、現代社会がもたらす地理的な現象を事例を通して理解することができる。人文地理学は系統地理学として多岐にわたる研究分野があるが、それらを束ね、生産や流通、生活行動、都市と村落、社会・福祉、知覚などテーマごとに人文地理学の課題を追究することができる。
テキスト学修の留意点	単にテキストを通読し、丸写しするような形でレポートなどを作成するのではなく、常にテキストで書かれている内容を身近な地域社会や現代の世界の諸課題と結び付けて考える習慣を持ちつつ、主体的に学ぶことが大事である。中学時代に使った『地図帳』などを手元におきつつ、地理学の舞台である地表空間に即して考えるように留意することが必要である。

	学修テーマ	課 題
1	地理学の歩み	長い歴史を持つ地理学の見方を理解し、現代地理学史を紐解きつつ、地理学の系譜や概念について考える。
2	地理学からみる世界	地域空間や地域社会を様々な要素がシステムとしてつながりあって成り立っているという地域間関係・地域システムとして捉えることの有効性について事例を通して考える。人文地理学の現象の背景に自然的条件も当然、重視されなくてはならず、風土という概念についても考えを深める。
3	生産の地理	農業と工業を事例に地域構造や立地、地域間分業など、主に日本の地理的現象を事例に学ぶ。人文地理学で基礎的な農業地域の発達を理解するチューネンモデルやウェーバーの工業立地論に関して理解を深める。
4	流通・交通の地理	商業や流通という現象に関して都市地理学や中心地論と接点を持ちつつ、理解を深めることが課題である。身近な地域にあるコンビニの立地展開などに関心を寄せることも大切である。トラックによる輸送コストの問題や店舗周辺の購買層の課題、小売店舗の展開などを理解する。
5	生活行動の地理	ヘーゲルストランドによる時間地理学や観光・レクリエーションなど身近な生活課題を事例に生活行動を理解する。地理学者バトラーによる観光地域発展のモデル図は重要であり、コラムに描かれている海外で暮らす日本人などの事例も現象の理解に大事であることを学ぶ。
6	都市の地理	複数の都市地理学者による都市の発達モデルを通して人文地理学が捉える都市空間と都市システムを理解する。
7	村落の地理	日本の村落をモデルに村落構造や山村に立地する集落、過疎化による集落の小規模化や高齢化などの諸課題を事例を通して理解する。
8	社会・福祉の地理	社会集団や子供の遊び空間、介護や高齢者福祉の問題などを地図上で捉え、社会課題や福祉課題に関して人文地理学的なアプローチの有効性を学ぶ。
9	知覚の地理	メンタルマップ（認知地図）に基づく人間の行動とそれが展開される行動的環境について知覚といったアングルで迫る。場所や景観から人々が何を読み取り、知覚環境の上で生活を成り立たせているのか、事例を通して理解する。
10	生活文化・民俗の地理	アメリカにおける年間のビール消費量やテキサス州の宗教と禁酒・飲酒地域などユニークな視点で人間の生活文化を捉える。日本の民俗に関しても文化圏論などの人文地理的な要素との関連を深める。
11	不平等の地理	経済格差という地域的な差異を事例に地域を診たり、社会的な不平等についてジェンダー問題と地理学の関連を探究する。属性の違いによる地域の分化（セグリゲーション）も扱う。
12	民族・移民の地理	移民やマイノリティなど国際的な労働者の移動に伴う諸課題を理解する。リーマンショックによる世界各地の混乱や宗教間の問題、政治問題などに起因する軍事介入なども含めた地理学的課題を深める。
13	環境の地理	環境問題の切実さに人文地理学から貢献できていることを知り、エネルギー問題の行方やペットボトルのリサイクル問題についても地域課題を考える。コラムのエコタウン事業も地理的な話題であることを理解する。
14	まちづくりの地理	商業集積の再生や歴史的町並みをめぐる諸問題など人文地理学的なテーマは多い。進む市町村合併などを通して日本のまちづくりを再考する。
15	地理学の資料と表現方法	地理学の資料としての地図は古来より重要視されてきた。各種統計地図、GISによる地理空間情報の利用など知見を深める。中学・高校における新しい地理教育に欠かせないICT活用としても認識を深める。

レポート課題

第1分冊 青木 かおり

第2分冊 青木 かおり

第1分冊 〈略題〉新刊 第1章～第7章、テキストP1～P80

横書き指定

Word添付
2000字～2200字

〈課題〉

3章～7章で描かれた各分野の地理から2つを選び、1・2章で学んだ地理学の考え方と関連づけて「人文地理学とは何か」について解説しなさい。テキスト要約に加え、1点だけテキストに書かれていない類似の事例を取り上げ考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに紹介されている事例は多くの地域社会で類似の問題や現象を見つけることができます。身近な地域社会で生じている現象やテレビやネットで知りえた地域事象と結び付けて捉えることが人文地理学を理解するポイントです。

また、教科書で取り上げた事象も、現時点で大きく変容しつつあります。現在の経済の動きや各種の統計データ、土地利用の変遷などに目を配るようにしてください。参考になる統計データのサイトをあげておきます。

{ 政府統計の総合窓口 <https://www.e-stat.go.jp/> }

〈評価の観点〉

地理学で使われている基本的な用語や言葉（地域や空間、立地、構造、システム等）が書かれているか、2つの分野を選んでいるか、1点類似の地域事象を取り上げているかを評価の観点とします。

〈その他の注意点〉

書店に並んでいる地域ガイドブックや地方創生、グローバル社会を扱った本や雑誌などに興味を持って立ち読みでよいので目を通すことをお勧めします。

第2分冊 〈略題〉新刊 第8章～第15章、P81～P162

横書き指定

Word添付
2000字～2200字

〈課題〉

8章～14章で描かれた現代社会の諸課題の人文地理学的解明を通読し、その中から2つの章を絞り、「人文地理学が解明するテーマとは」について要約・論述せよ。さらに15章で紹介されている地図や統計、GISとの関連に触れなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

生活文化や不平等の地理、移民や環境問題などは日常のニュースの中でも登場します。NHKの特集番組や民放の番組などでも取り上げられる地域問題に関心を持つこと。

GISは政府機関や自治体、さらには教育現場でも利活用がすすんでいます。地域経済を分析して地図化するためのwebツールとして公開されているのがRESAS（リーサス）です。参考にしてください。

{ 地域経済分析システム RESAS,
<https://resas.go.jp/#/13/13101> }

〈評価の観点〉

テキストで描かれている人文地理学が解明している諸課題を適切に要約できているか、2つの章を絞り込めているか、15章の内容に触れているかが評価の観点です。

〈その他の注意点〉

多くの地理学的な図表や写真がテキストに挿入されています。また、コラムも有用です。それをきちんと読み取っているかがわかるようにレポートにも触れておくことよいでしょう。

参考文献

テキストよりもやや新しい内容をカバーしている書籍として、以下の本を挙げる。
杉浦芳夫編著、地域環境の地理学、朝倉書店、2012

また、人文地理学の知見を深めたい人は、朝倉書店のシリーズ〈人文地理学〉を参考にすることをおすすめする。
全10巻（2003年～2011年刊行）なので図書館などで探されると良い。

科目試験等への
アドバイス

中学社会科地理的分野の教科書を持っている人は、「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の描き方は人文地理学のエッセンスが入っていますので参考になるでしょう。高校で地理を履修していた人は当時の教科書を参考にしてください。『地図帳』に掲載されている主題図（テーマ毎の地図）も読みとる習慣をつけておくことをお勧めします。

教員からの
メッセージ

地理は現代、歴史か過去と表現されますが、地理空間の変容は時間的な変化も取り入れます。人文地理学は何気ない地域変化の背景がどんな要素で生じているかも示唆してくれます。地域のつながりを読み取る目を養ってください。

電子地図を使った教材コンテンツを、自らの学習と教材研究などで大いに活用されると良いと思います。一例として国土地理院をあげておきます。

{ 国土地理院地理教育支援コンテンツ,
<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUJIKU/shien.html> }
(担当：青木 かおり)

科目概要	心理学とは、人間の心、そして人間そのものを知り、理解する学問である。本科目では、発達、動機づけ、性格、知能、心理病理、知覚、記憶、学習、思考、脳、社会との関わりなど、多様な観点から心理学の考え方について学ぶ。
主な到達目標	- 心理学の各領域における基本的な概念や考え方について説明することができる。 - 具体的な到達目標としては、下記の各課題に対し、基本的な概念や具体的な研究知見を使って説明できること、また、キーワードについて具体的に説明できることである。
テキスト学修の留意点	テキストの青字のキーワードに関する説明をよく読み理解に努めてもらいたい。キーワードの中には日常の言葉とは意味が異なるものもあるため、テキストの中で記された意味をよく理解してほしい。各章の内容を学習するとき、別の章の関連する概念や考え方も参照し、それらと結びつけて学習すると理解が深まるだろう。レポートは、テキストの文章を書き写すのではなく、よく理解した上で、自分の言葉を使って言い換えや要約を行い解答するよう努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 心理学とは	直接目に見えない心的過程をとらえるため、どのような工夫をして研究がなされてきたか。心理学の研究法にはどのようなものがあるか。 (内観法 精神分析学 ゲシュタルト心理学 行動主義 認知心理学)
2	第2章 心の進化	動物と比較して、人間のユニークさはどこにあるのか。 (言語 文化 互恵性 学習)
3	第3章 心の発達	乳児期の認知発達にはどのような特徴があるか。子どもはどのように言語を獲得していくのか。 (愛着 社会的参照 心の理論)
4	第4章 ライフサイクル	生涯発達の視点から人間の一生はどのように説明されるか。青年期にはどのような問題に直面しやすいか。 (エリクソンの発達段階説 自我同一性 同一性拡散)
5	第5章 動機づけと情動	自らの行動を引き起こしている動機にはどのようなものがあるか。情動にはどんな役割があるか。 (生理的動機 内発的動機 社会的動機)
6	第6章 性格	性格の類型論と特性論の違いは何か。性格をはかる方法にはどのようなものがあるか。 (ビッグ5 面接法 投影法 質問紙法 ユング クレッチマー)
7	第7章 知能	頭がよいとはどういうことだろうか。 (結晶性知能 流動性知能 知能検査 創造性)
8	第8章 ストレスとメンタルヘルス	心理病理とは何か。心理病理の原因はどのように説明されてきたか。 (ストレッサー ストレス反応 対処行動 精神分析学 学習理論)
9	第9章 カウンセリングと心理療法	カウンセリングが成功するためにどのような条件が必要か。 (精神分析療法 行動療法 認知療法 ラポール クライアント中心療法)
10	第10章 感覚 第11章 知覚	感覚器官によって刺激が脳に伝えられる際の制約にはどのようなものがあるか。網膜像として得られた情報がそのまま知覚されるわけではないのはなぜか。 (図と地 パターン認識 主観的輪郭 錯視 知覚の恒常性)
11	第12章 記憶	記憶の過程にはどのような段階があるか。 (干渉 短期記憶 リハーサル 長期記憶 再生 再認 忘却曲線 スキーマ)
12	第13章 学習	学習とはどのように説明できるか。 (馴化 古典的条件づけ オペラント条件づけ 洞察学習 観察学習)
13	第14章 思考	人間の思考にはどのような特徴があるか。人間はなぜ誤った推論をしてしまうことがあるのか。 (試行錯誤 アルゴリズム ヒューリスティック 機能的固定性)
14	第15章 脳と心 第16章 脳損傷と心の働き	脳の構造はどのような心の働きと関連しているか。 (ニューロン シナプス) 脳に損傷を受けると心の働きにどのような障害を生じるか。 (高次脳機能障害 失認 健忘症 失語症)
15	第17章 社会の中の人 第18章 心と社会	人の心は社会的文脈からどのような影響を受けるか。社会において個人の利益と全体の利益が合致しない場面としてどのようなものがあるか。 (社会的促進 社会的手抜き 同調行動 先入観と偏見 認知的不協和理論 光背効果 単純提示効果 社会的ジレンマ 囚人のジレンマ)

シラバス執筆：大河内 祐子

レポート課題

第1分冊 大河内 祐子

第2分冊 大河内 祐子

第1分冊 〈略題〉心理学とは 第1章～第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

直接目に見えない心的過程をとらえるため、どのような工夫をして研究がなされてきたか、テキストの内容を踏まえて述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの第1章～第9章（特に第1章）を読み、心理学の研究の流れをまとめる。研究を挙げる時は、わかる限りで良いので研究者名と研究が発表された年を本文中に明記する。研究については、テキストに挙げられたものに限らず参考文献を用いてもよい。

〈評価の観点〉

- ①心理学の研究を具体的かつ正確に説明できているか。テキストの内容をおさえた上で、テキストの記述をそのまま書き写すのではなく、自分の言葉で言い換えたり要約することが大切である。
- ②課題のテーマから外れている場合、説明が不十分・不正確な場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

引用文献がある場合は、本文中と文章の最後で出典を明記すること。

第2分冊 〈略題〉思考 第10章～第18章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

人間の思考にはどのような特徴があるか、具体的な例を挙げて説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの第10章～第18章（特に第14章）を読み、人間の思考の特徴について、具体例を挙げて説明する。具体例は、テキストで挙げられている例に限らず、参考文献を利用したり自分の体験を取り上げてよい。研究を挙げる時は、できるだけ研究者名および研究を発表した年を本文中に明記する。用語の定義はきちんと行うこと。

〈評価の観点〉

- ①人間の思考の特徴について、具体的な例を挙げて正確に説明できているか。テキストの記述をそのまま書き写すことは避け、自分の言葉で言い換えたり要約することが大切である。
- ②課題のテーマから外れている場合、説明が不十分・不正確な場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

引用文献がある場合は、本文中と文章の最後で出典を明記すること。

参考文献

.....
各章の章末に紹介されている参考文献を参考にしてください。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験では、テキストに書かれた内容および重要な心理学用語について理解し、説明できるかを問う。解答に際しては、用語の意味や定義を単に暗記するだけではなく、具体的な研究の内容（研究知見）や実際の例を用いて説明できるようにする。
 - ・科目試験問題は、課題から1題とキーワードから2題を選択して出題するので、テキストの内容をもとに課題への解答を作成したり、キーワードについて説明しながら学習を進めてもらいたい。

教員からの
メッセージ

.....
心理学は私たちの日常生活のあらゆる場面に関わる学問である。したがって、テキストの内容と自らの経験とを結びつけながら学習を進めると、理解しやすくなるだろう。ただ、自らの経験と照らし合わせることは大切だが、レポート課題や科目試験で解答する際、経験・意見を記述するだけでは不十分である。基本的な概念と、心理学の研究知見にもとづき、論理的な文章を作成することが望まれる。

科目概要	高校で必修となっている数学Ⅰ程度までを学習した主に文系コースだった学生を対象に、大学での本格的な学習・教材研究活動等に必要な基本的な数学的知識を修得する。
主な到達目標	1. 高校の数学Ⅰ、数学A程度までの数学を確実に理解する。 2. 高校の数学ⅡおよびⅢ、数学BおよびC程度までの数学の基礎的な知識並びに関連する内容を理解する。 3. 主に小・中の教職を希望する学生にとっての基礎数学力を身につけると共に、小学校算数が中・高での数学にどのように発展していくのかの見通しを持つ事ができる。
テキスト学修の留意点	このテキストの前提は、高等学校における必修科目である数学Ⅰまでの数学的知識があれば理解し、その発展についても取り組んでいくことができる内容である。記述としては、定理と証明、例題と解答からなっている。行間を読み、例題や問題に取り組むことで理解を深めてほしい。 もしそれでも理解に不安がある場合は、一般的な高校数学の参考書・問題集等を参照したり、他の初学者用の書籍にあたったり、積極的に質問したりすることを心掛けてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	数・集合・論証 (1)	テキスト pp.1-17 より、実数、集合、命題と証明、整式について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
2	数・集合・論証 (2)	テキスト pp.17-28 より、複素数、複素数平面、累乗根について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
3	方程式・不等式	テキスト pp.30-41 より、方程式とその解法等について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
4	数列と級数 (1)	テキスト pp.53-61 より、数列やその和について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
5	数列と級数 (2)	テキスト pp.62-76 より、数列の極限や級数について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
6	関数 (1)	テキスト pp.78-93 より、2次関数や三角関数を中心に、関数について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
7	関数 (2)	テキスト pp.94-110 より、指数関数や対数関数、関数の極限等について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
8	微分 (1)	テキスト pp.112-129 より、微分とは、およびその計算方法などについて、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
9	微分 (2)	テキスト pp.132-143 より、微分の応用について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
10	積分 (1)	テキスト pp.158-175 より、積分の考え方、諸定理と性質、不定積分の計算方法などについて、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
11	積分 (2)	テキスト pp.176-193 より、定積分の諸定理と計算方法、その応用について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
12	座標と図形	テキスト pp.222-233 より、座標、曲線、2次曲線について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
13	行列	テキスト pp.236-257 より、行列とその計算、線形写像、行列式、逆行列について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。この内容な高等学校では扱わないが、これまでの学びにつながる概念であることを知ることに努めましょう。
14	確率 (1)	テキスト pp.259-265 より、確率の考え方、基本性質、諸定理について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
15	確率 (2)	テキスト pp.266-274 について、順列、組合せ、期待値についてその性質について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。

シラバス執筆：辻 宏子

レポート課題

第1分冊 辻 宏子

第2分冊 辻 宏子

第1分冊	〈略題〉整式、複素数、2次関数、数列とその極限、三角関数、対数関数、微分とその応用	テキスト第1章～第5章	横書き指定	その他の注意点 参照

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701第1分冊レポート課題.pdf>

※その他の注意点も確認のこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いずれの問題も正解を書くだけではなく、その正解を導く過程の式や考え方を記述すること。解答だけの場合は評価しない。

〈評価の観点〉

正解が求められていること。

正解を導くまでの過程が正しく記述されていること。

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701TT05122021sonota.pdf>

第2分冊	〈略題〉積分、2次曲線、行列と行列式、確率	テキスト第6章～第10章	横書き指定	その他の注意点 参照

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/07.pdf

※その他の注意点も確認のこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いずれの問題も正解を書くだけではなく、その正解を導く過程の式や考え方を記述すること。解答だけの場合は評価しない。

〈評価の観点〉

正解が求められていること。

正解を導くまでの過程が正しく記述されていること。

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701TT05122021sonota.pdf>

参考文献

.....
一般的な高校数学の参考書・問題集等を参照することをお勧めします。その内容を超える部分もありますが、基礎をしっかりと身に付けることで、教科書の行間が読みやすくなると思います。
その他、大学数学における入門書もいくつかありますので、手に取ってみましょう。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストの内容は、かなり多岐にわたっているので、科目試験の出題内容は、レポート課題として出題されている範囲を中心に学習を行ってください。その範囲を中心に受験します。ただし、小学校算数科からの学びの系統を見るためには、大切な内容が教科書には含まれていますので、しっかりと取り組みましょう。
添付の数式は受験時に参照可。{内容はこちらをクリックして下さい、
[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/基礎数学公式集\(数学入門用\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/基礎数学公式集(数学入門用).pdf)}

教員からの
メッセージ

.....
数学を学ぶことの基本は、じっくり考えることです。正解を求めることはもちろん大切なことですが、そのプロセスを生み出すことが、数学を学ぶ楽しみであり、難しさでもあります。
困ったことがあれば、質問をしてください。

科目概要	図画工作科の学修は、感じたことや想像したことを造形的に表す「表現」と、作品などからよさや美しさを感じ取り見方を深める「鑑賞」の二つの領域によって行われる。児童はこれらを通して、知識・技術・思考力などを獲得しながら感性を養っていく。この科目では、学修活動の柱となる「造形遊び」、「絵や立体、工作に表す」活動、「鑑賞する」活動の具体的な内容や学修過程を理解し、その指導にかかわる知識と考え方を学んでいく。
主な到達目標	児童が、図画工作科の諸活動を体験し、思考力・判断力・表現力などを学修することができるよう、教科担当者として必要な指導力を修得する。具体的には、「造形遊び」、「絵や立体、工作に表す」、「鑑賞」の各活動を通じた授業運営に求められる基礎的な知識と技能を学修し、それらを教育現場で実践することが目的となる。そのためにも、図画工作教育に必要とされる諸要素について、しっかりと説明ができるようになってもらいたい。
テキスト学修の留意点	心身の成長発達とともに変化する児童の表現手段や表現方法について、児童の視点から学修することが肝要である。テキストには、図画工作教育の内容と実際が記載されているので、その本質を理解する手がかりとして考察を深めてもらいたい。さらに、記載内容をより深く理解するため、各章ごとに〈演習問題〉が用意されている。図画工作科は、実材を扱う直接的体験を通じた学修活動が教科特性である。受講者はテキストを参考として、「レポート課題」とともに、さらなる具体的な実体験活動を重ね、教科指導者としての資質伸長に努めてもらいたい。

	学修テーマ	課 題
1	「造形遊び」のねらいと その内容	造形的な遊びが図画工作科に取り入れられたのはなぜか。遊びのもつ教育性とは何か。低学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。中学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。高学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。
2	授業展開と指導の要点 材料とスペース	低学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。中学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。高学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。造形材料と児童のかかわり方について考察する。空間の特徴とそれをもとにして展開される児童の活動について理解する。
3	「立体で表す」活動の ねらいとその内容	三次元上に形作られる立体の表現は、児童たちの成長をさまざまな面から推進する。制作しようとするかたちへの考察、素材の持ち味、量感や立体としてのバランス、作品が立体として立つ「すわり（台との安定した関係性）」等今まであまり意識していなかった点に注意を向けさせるような指導を目指す。
4	授業展開と指導の要点 材料の特性	立体とは何かという究極のテーマにつながるが、児童たちには言葉ではなく、各自の表現活動を通して学ばせたい。素材との触れ合いと、素材への働きかけを十分に行わせる。学齢にあわせ、簡単な道具類等を活動に導入することも計画する。
5	「絵で表す」活動の ねらいとその内容	低学年での自己中心的なものの見方、考え方、表し方とはどのようなものか。中学年でものを観察して描く場合、子どもの個性的な見方がある。その指導上のポイントとは何か。高学年では客観性の芽生えとともに写実的な表現への欲求と憧れが見られる学年である。その指導上の留意点は何か。
6	授業展開と指導の要点	ちぎり絵やスクラッチ技法、またパステルコンテなどによる描くだけではない絵の表現方法について試作考察する。水彩絵の具を使ってのさまざまな表現や他の技法との併用表現、版画表現の基本的表現方法などについて試作考察する。
7	材料と用具	描画材（鉛筆、色鉛筆、コンテ、クレヨン、パス類、木炭、水彩絵の具など）や筆、パレットなどの用具について基本的な使い方、表現方法について適切な指導をする為の留意点は何か。
8	「つくりたいものをつくる」 活動のねらいとその内容	デザイン的な内容を志向する活動の教育性とは何か。つくり出す喜びについて考察する。低学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。中学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。高学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。
9	授業展開と指導の要点	低学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。中学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。高学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。
10	材料と用具	造形材料と児童のかかわり方について考察する。用具の機能を理解し、その扱い方に対する知識を修得する。材料や用具を扱うことへの教育的意義を理解する。
11	「工作で表す」活動の ねらいとその内容	児童たちは基本的に図工が好きだと考え、工作の表現活動を通して材料をよく観察し、その良さや特性に気づき、各自の発想を楽しんで発展させるように導く。作品を楽しみながら発展的に制作させ、児童たちが進んで作り方を考え、工夫するような授業を計画する。
12	授業展開と指導の要点 材料と用具	学齢に応じて、正しい使用法をしっかりと説明した上で、工具類、のこぎり、小刀類、接着剤等を授業内容にふさわしいかたちで導入することを計画する。
13	「鑑賞」学修のねらいと その内容	「鑑賞」の本質は何か。鑑賞活動によって児童たちは何を得的のか。学習指導要領における図画工作での〈鑑賞の目的と内容〉は、学年でどのように違うか。また全学年を通して重要なことはどのようなことか。
14	鑑賞活動の場と教材	鑑賞活動の場・教材・方法にはどのようなものがあるか。地域社会と環境、および美術館をはじめとする博物館をどのように活用するのか。
15	授業展開と指導の要点	児童の発達段階にあわせた指導方法はどうか。〈表現活動と鑑賞活動の関連からの展開〉、〈学校・地域・生活・自然の中での展開〉、および〈美術作品を用いた授業〉にはどのようなものが考えられるか。

レポート課題

第1分冊 石川 秀香
第2分冊 羽田 由樹子

第1分冊 〈略題〉船をつくる テキスト全範囲（重点箇所：第4章、第5章）

横書き指定

直接入力と
添付

〈課題〉

略題のテーマに沿った立体作品を制作し、あわせて下記に示すレポートを作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（1）作品制作について

- ①テーマである「船」の解釈および表現方法は、各自の判断によるものとする。
- ②作品のサイズは、縦・横・高さの総和が30～50程度になることを目安とする。
- ③使用する材料や用具類は、学童期の児童が授業で扱うことを想定して適宜選択する。

（2）レポート課題について

- ①完成した作品の写真を添付する。
 - ・制作物を説明するための写真であることを意識して、被写体がはっきりと確認できるように撮影すること。（ピント・露出・大きさなどに注意する）
 - ・写真のサイズは任意とする。
 - ・写真の枚数は、作品の全体・主要部分の状態・構造・使用状況、などがよく分かるように各自が適宜判断する。
 - ・添付した写真には、それぞれにメモ書き程度の説明文をつけること。（下記④に、どの写真に対しての説明文であるのかがわかるようにして、記入すること。）
- ②提出作品についての記述内容
 - a 作品にタイトルをつけたい場合は記入せよ。
 - b 制作意図を述べよ。（制作物の造形表現に対して解説をすること）
 - c 工夫した点、苦心した点について述べよ。
 - d 制作結果について述べよ。（自己評価・感想など）
- ③単元に対する考察についての記述内容（この単元に対して指導者の立場から考える）
 - a あなたならどのような単元名を考えるのか記入せよ。
 - b あなたがこの単元を行うとしたら、どの学年を対象とするのかを想定せよ。
 - c 単元の目標を設定せよ。（1から3程度）
 - d あなたならどのような導入方法を工夫するのかを述べよ。
 - e 授業準備について、できる限り具体的な状況を想定してまとめよ。（教師側・児童側）
 - f その他、指導上の留意点があれば記入せよ。
- ④添付した作品写真の説明

〈評価の観点〉

課題に対する教育活動としての考察度。

図工教材としての研究度。

課題への取り組み姿勢。

設問項目に対して、レポートの内容に不備がある場合には不可評価とする。

〈その他の注意点〉

課題のねらいは、図画工作科における教科指導者として授業実践力を高めるための教材研究である。そのことに留意して、積極的に課題に取り組むことを期待する。

〈課題〉

提出課題は、(1) 実技2点、および(2) レポート1点である。

(1) 実技—————

29cm×21cm にカットした画用紙2枚を用意し、下記の要点に従い

- ①技法の研究
 - ②作例研究
- の2点を制作せよ。

【提出方法】

- ①技法研究は完成した作品おもて面1枚・完成した作品裏面1枚の計2枚の画像を撮影しレポートに添付する。
- ②作成研究は完成した状態でのおもて面1枚、説明書きをした裏面1枚の計2枚の画像を撮影し、レポートに添付する。

色味がわかるように、完成作品は絵の具の赤・青・黄色のチューブを作品左側に置き、チューブと一緒に撮影すること。

①技法の研究

- ・カットした画用紙に水彩絵の具を用いた技法3つ、水彩絵の具以外の描画材料を用いた技法3つの計6つの技法を練習する。様式は自由とするが、技法の説明をするための授業教材として 実際に児童に対し用いることを前提に作成すること。
- ・技法の種類と内容に関してはインターネット、教科書を含めた技法関連の書籍、教科書P77等を参照し各自で調査した上で練習したい技法を各自で選出すること。
- ・画用紙裏面に研究した6つの技法の簡潔な説明と、制作した際に最も苦心した技法の難しかった点を記入すること。

②作例研究

- ・教科書p.81～82の高学年児童を対象にした〔題材(テーマ)と主な内容〕からひとつを選択し、そのテーマに沿った作品を制作する。授業上の作例として用いることを前提とし作成すること。

作品裏面に、

- 制作テーマ
- 最も表現したかったこと
- 表現したかったことを伝えるために用いた技法や工夫の3点を簡条書きで簡潔に記入すること。
- ・版画の場合は、刷った紙を29cm×21cmの画用紙に貼付し、画用紙面に同様に説明を書き込むこと。

(2) レポート—————

作品制作時に選んだテーマでの授業を実践することを想定し、授業指導案を作成せよ。

単元にかかる総時間数は任意とし、書式自由とするが、対象学年を明記し①～⑥までの下記の内容を必ず含めることとする。特に③は補足説明を熟読した上で指導案作成すること。

- ①選んだ題材(テーマ)及びその題材の授業であなたが最も児童に学んで欲しいこと
- ②指導目標
- ③後片付けまでを含めた授業の展開とその時間配分
- ④授業で児童が使用する材料と用具、教師が用意するもの
- ⑤児童が興味を持って取り組めるため具体的な導入の工夫
- ⑥授業展開の各段階での児童の活動
- ⑦授業内で想定される児童のつまづき/つまづきに対する指導の具体的な案構想、アイデアの段階でのつまづきと、技術上のつまづき各1点ずつ以上想定すること。
- ⑧水彩絵の具の基本的な扱いを児童に伝える上での具体的なポイント、留意点を3つ以上記入

⑧に関する補足

水彩絵の具の基本的な扱いの内容については教科書P77の「経験が少ない場合」を参照すること。

提出物「技法の研究」で実制作したみずからの体験を踏まえ、インターネット等で補足調査をして記入のこと。

【注意】【重要】③に関する補足

タイムスケジュールを授業の回数分、毎回作成すること。

全何回で完結する単元授業なのかを明記し、後片付けを含めた、それぞれの授業内の時間配分を各自が設定した授業の回数分書き出して指導案を完成させること。
(例) 5回完結の単元であれば、45分×5回分の、あとかたづけを含めたタイムスケジュールを書き出すということである。
45分内で、その日の説明から後片付けまでが収まるよう、授業を具体的に想像しながら作成すること。
後片付けの時間が入っていない授業案や導入回の時間配分しか書き出していない、等のレポートは再提出とするため留意すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①技法研究は完成した作品おもて面1枚・完成した作品裏面1枚の計2枚の画像を撮影しレポートに添付する。
- ②作成研究は完成した状態でのおもて面1枚、説明書きをした裏面1枚の計2枚の画像を撮影し、レポートに添付する。
- ③色味がわかるように、完成作品は技法研究・作例研究ともに赤・青・黄色の絵の具のチューブを作品左側に置き、チューブと一緒に撮影すること。
- ④画像の添付は上限で5MBまでとする。
- ⑤授業案作成(レポート作成)は全何回で完結する単元授業なのかを対象学年と合わせて明記すること。
後片付けを含めたそれぞれの授業内の時間配分を各自が設定した授業の回数分書き出して指導案を完成させること。
レポート作成に関しては詳しい注意事項を課題説明に記述してあるため必ず熟読の上で取り組むこと。

〈評価の観点〉

- ・学習目標がテキスト第3章「絵で表す」活動及び学習指導要領を参照し設定されていること
- ・各自選んだテーマの授業実践において、あなたが児童に何を学んで欲しいかの明確なビジョンが盛り込まれていること
- ・授業展開/児童の活動/指導の要点等において、授業実践を可能な限り具体的に想定した記入がなされていること
- ・実材を扱う直接的体験を通した学修活動が図画工作の教科特性である。理念を支える具体的指導が実践可能となるように、実習した技法の練習をふまえ、実材に対する児童への具体的なアドバイスをよく検討、試行錯誤していること。
- ・以上の内容(観点)について評価する。研究考察不十分の場合は再提出。

〈その他の注意点〉

課題のねらいは、図画工作科における教科指導者として授業実践力を高めるための教材研究である。そのことに留意して、実践する実際の場面を出来る限り具体的に想定しながら課題に取り組むことを期待する。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』『教育美術』教育美術振興会
(テキストの「文献紹介」を参照する。)

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、テキスト第1章から第6章の内容に対する理解度を確認することを基本としている。
図画工作科は児童が実材を扱い、身体をもって経験することが教科特性であるために、
●児童の心身の成長発達と造形表現上の変化の関係を理解していること
●表現に関わる具体的な実材の扱いに関する指導が出来ることが実践者に求められる。
児童の心身の成長発達と造形表現上の変化の関係の理解に関してはテキストから出題する。科目試験では、テキストを理解した上でそれらの児童の変化に応じた表現および鑑賞の各領域とその具体的な内容が述べられること、図画工作科の本質への考察、教科の授業運営にかかわる諸要素の具体的な場面を想定した考察がなされていることが問われる。また、図画工作の本質—図画工作を通じて児童が学ぶこと・学べること—に対しては、児童の立場に立ち授業を実践する実践者の視点から各自のビジョンを持つことを求める。これに関してはテキストに記されたことをベースとして、各自が独自に学修した事柄も加味して解答することもよしとしたい。

教員からの
メッセージ

公教育の現場において、美術造形的な活動を行う教育的な意義を考えながら、児童の実状や活動と結びつけてテキスト学修を行うことが大切である。

科目概要	・人間と造形表現とのかかわりから美術教育を多面的にとらえ、学校教育の中の図画工作科の意義と役割、教科目標や学習内容を学ぶ。児童の発達段階を理解し、教科目標及び児童の発達段階を踏まえた学年目標、表現と鑑賞の内容、さらに〔共通事項〕について理解する。まとめとして指導計画を作成し、評価方法を理解したうえで指導案が作成できるように実践事例を通して指導法を学ぶ。
主な到達目標	・人間の表現活動の中の造形表現の特徴を把握した上で、学習指導要領を理解する。教科としての意義や役割、教科の歴史、発達段階と表現の関係について説明できる。さらに多様な表現活動を展開する指導法を理解する。
テキスト学修の留意点	・テキストを基盤にしたうえで、文部科学省発行『小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省』も併用しながら学習し、その内容を理解すること。

	学修テーマ	課 題
1	図画工作科教育の意義と役割	人間と造形表現の本質から美術教育に迫り、図画工作科の学習として人格の陶冶を図る意義や役割を先人の思潮などを手掛かりに明らかにする。
2	図画工作科教育の改善の方針と目標	学習指導要領の改訂の背景や教育課程の基本的な考え方、改善の具体的な事項などを基に理解する。改善の要点及び目標について文部科学省発行「小学校学習指導要領解説 図画工作編」を参考にし、明らかにする。
3	図画工作科教育の内容と構成	図画工作科の目標には改訂の趣旨を受けて新たに加えられた文言が示された。その意義を目標の具体的な内容を示して明らかにする。発達段階を踏まえて学年目標内容についても同様に明らかにする。
4	図画工作科教育の変遷	図画工作科の変遷を戦前の図画・手工時代（臨画、自由画、戦時下芸能科図画・工作時代など）第二次大戦後の図工教育を始め工作教育にも触れ、教科としての歴史と背景、教育内容を明らかにする。特に臨画、自由画、戦時下、戦後の表現の変遷に注目すること。
5	子どもの成長と造形活動	子どもの造形表現の発達には子どもの心身、認知機能、運動機能、感情表現などの発達と深い関係があることを十分理解する。その傾向をとらえて、題材、材料や用具、表現内容や制作方法などの「指導法につなげていくことを明らかにする。
6	図画工作科の学習指導計画と評価について	指導計画の基本的な考えを理解し、指導計画作成に向けての配慮事項や指導と評価の一体化を図る評価の基本的な考え及び評価観点や評価基準設定の在り方などを理解し、学習指導の本質を明らかにする。
7	図画工作科の学習指導計画と評価規準の作成の手順	図画工作科の授業の基となる題材の意味や年間指導計画及び評価規準設定、学習過程における評価の方法などについて明らかにする。
8	図画工作科指導案の作成	学習指導に当たり、教材研究する内容や指導案を構成する事項、盛り込むべき内容などについて理解を深め、書式に沿って学年・題材などの具体的な事例をあげて作成し、考察する。
9	A表現 造形遊びをする活動	「造形遊びをする活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含め明らかにする。
10	A表現 絵に表す活動	「絵に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容、表現の方法などの特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
11	A表現 立体に表す活動	「立体に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
12	A表現 工作に表す活動	「工作に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
13	B鑑賞 鑑賞する活動	「鑑賞する活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
14	材料用具にかかわる基礎知識	学習指導要領で示している材料用具に関わる内容を理解し、発達段階を踏まえて「表現」と「材料・用具及び技法」などのかかわりや指導の工夫について具体的な事例を含めて明らかにする。
15	全体のまとめ	テキスト及び学習指導要領をまず確実に学習し、第1章から第12章までの演習問題を行う。（自作ノートを用意し、問題を書き、解答するとよい。）

シラバス執筆：小林 貴史

レポート課題

第1分冊 小林 貴史・直井 崇・飯田 菜津美

第2分冊 小林 貴史・直井 崇・飯田 菜津美

第1分冊 〈略題〉図画工作科教育の目標・内容・配慮事項
指導要領解説1～4章 テキスト1～4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- 1 「美術による教育」の文言の意味を説明したうえで、図画工作科が担うべき役割とその目指すところを教科の目標をもとに具体的に明らかにしなさい。(1,000字)
- 2 図画工作科の学習を通して育成する資質や能力を柱として、学習指導要領において示されている内容の構造を明らかにしなさい。また、自らの図画工作科の授業体験も振り返りながら、指導に当たっての配慮事項について考察しなさい。(1,400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①内容によっては小見出しを付けて述べ、学習指導要領解説を丸写しすることなく、課題の意図や指示に応じて記述する。
- ②課題1では、テキスト「まえがき・第1章～第4章」及び『学習指導要領解説 図画工作編』の「第1章～第2章」を参照する。課題2では、テキスト「まえがき・第1章～第4章」を理解した上で、併せて『学習指導要領解説 図画工作編』の「第1章～第4章」と『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を参照し、自らの図工授業での体験とともに具体的に記述してまとめる。

〈評価の観点〉

- ①課題1では、図画工作科の教科の意義や役割、教科目標について文言に留意して分かりやすく述べているか。
- ②課題2では、図画工作科の内容を整理するとともに、文献などを参考にしながら発達段階に即して指導する方法や配慮事項などについて自らの授業体験をふまえて述べているか。
- ③目標や事項などテキストや参考文献の丸写しで、自分の体験からの記述がない場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

- ・インターネットを研究資料にする場合、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを深めるように活用する。単なる丸写しは慎むこと。

第2分冊 〈略題〉高学年における鑑賞指導の学習過程のポイント
学習指導要領解説2～4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- 1 高学年における「B鑑賞」の学習について、自らの鑑賞授業の体験を述べなさい。その上で、「親しみのある作品」の文言説明や内容、指導に当たっての配慮事項について分かりやすく記述しなさい。(1,000字)
- 2 高学年の「B鑑賞」の学習指導について、授業を構想し簡潔にまとめなさい。その際に、題材名、題材設定の理由、題材目標、評価の観点と規準、指導の工夫などを明確にし、学習過程における指導のポイントをあげて具体的に述べなさい。(1,400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題2の学習過程の指導のポイントは、具体的な授業を計画した上でまとめ、その展開に即して述べる。『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を参考にすること。
- ②取り上げる作品や活動については、美術館やギャラリー、文化施設などにおいて自らが実際に鑑賞した体験や画集などの文献からふさわしい作品を選んで設定する。

〈評価の観点〉

- ①課題1では、「B鑑賞」について「親しみのある作品など」に着目して記述しているか。また、具体的な鑑賞授業をもとにそこに求められる指導における配慮事項について述べているか。
- ②課題2では、高学年の鑑賞についての目標や内容を把握し、具体的な学習過程を想定した上で指導のポイントを検討して述べているか。

〈その他の注意点〉

- ・インターネットや研究資料を参考にする場合、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを深めるように活用する。単なる丸写しはしないこと。
- ・参考文献の書き方はテキストを参考にすること。

参考文献

- ・テキストの各章の後に文献が紹介されているので参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

- ・本科目試験では、テキスト及び学習指導要領の内容を理解し、教育的な用語及び図画工作科の特性や児童の発達段階の関連を示す文言や概念なども含め明らかにすること。
- ・本教科の意義と役割、図画工作科目標や学年目標、「表現」及び「鑑賞」に関わる内容及び（共通事項）について理解し、指導計画と評価、具体的な指導法について重点的に学習すること。
- ・解答する際、課題によっては具体例や指導法の工夫などを含めて説明を求める場合がある。教師の立場で実践例を示して説明すること。

教員からの
メッセージ

- ・本テキストとともに『小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省』ならびに『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を併用しながら、理解を深めることが重要である。
- ・課題では何を求められているのかを的確に把握すること。
- ・レポート及び科目試験ともに解答の全体構成や段落ごとの内容を構想し記述すること。

科目概要	小学校低学年生活科の教科内容の特色を把握し、指導法とリンクしながら教材内容の解釈や自然・社会・自分自身という3つの観点から生活科の内容を理解する。
主な到達目標	低学年に位置している生活科の教科特性を教材内容と絡めつつ理解できること。
テキスト学修の留意点	生活科設立の経緯を学び取り、低学年理科や社会と異なる生活科の理念に基づく内容配列を理解するように留意すること。

	学修テーマ	課 題
1	生活科の内容構成と教材の特色	平成元年に誕生した生活科の内容構成を理解し、その教材の特色を把握する。
2	生活科誕生の経緯とこれまでの30年間	生活科誕生の経緯を詳しく読み取り、これまでの30年間にわたる生活科の教科としての発達過程を理解する。
3	四季を軸に展開する生活科の内容	四季を基調とした内容構成を把握し、発達段階に応じた内容の深まりを考える。
4	栽培活動で扱う教材内容	植物教材の中で栽培に適している対象を選び、その栽培に関する知識を保有する。
5	動物飼育で育む命の学習	動物教材の在り方を調べ、動物飼育に関する知識を保有する。
6	おもちゃづくりで育む科学的見方	風でうごくおもちゃなど、生活科らしい対象を把握し、理科とは異なる科学的な見方の基礎を考える。
7	校内樹木や学校ビオトープで登場する自然物	教材として身近な学校の校内に存在する樹木やビオトープで生きる生き物に関する知識を保有する。
8	地域の探検活動で扱う教材	身近な地域の探検活動の対象や安全指導の内容面の把握を行うとともに、探検で形成される児童の環境認識の内容を考える。
9	通学路の愛着形成と安全指導	通学路は児童の愛着のある場所が点在しているので、その場所をもとに人や自然を気付かせていく。同時に安全な通学を支えてくれる人の存在や設備にも気付きさせる。それらの設備内容について理解する。
10	公園や公共物への気付きを育む内容	公園や駅、ベンチや遊具などの公共物の社会的な意味を把握するとともに、気付きをはぐくむ内容を考える。
11	スタートカリキュラムの必要性と指導内容	スタートカリキュラムと扱う教材内容の関係を理解する。
12	交流を通じた人間関係づくりの指導内容	かかわりに焦点を当てた交流活動の意味を理解する。
13	豊かな言語活動を育てる学習環境の整備と指導内容	生活科における言語活動の意味とその内容を理解する。
14	自己成長に気付かせる内容	「大きくなったわたし」などの単元を活かした成長に気付かせるための教材内容の特性を理解する。
15	家族単元で扱う教材 / 3年以上の理科・社会科と生活科の内容比較	生活科で扱う家族単元と3年以上に発展する理科と社会科との内容を比べて理解する。

シラバス執筆：久保田 善彦

レポート課題

第1分冊 久保田 善彦

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉生活科の特色と自分と自然・社会とのかかわり 第1章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

具体的な生活科の教材内容（モノ、コト、場）と関連する子どもの「気づき」を分析しなさい。その上で、生活科にしかない固有の特色と子ども自身の自然や社会とのかかわり及びその教育的価値について解説をしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 出来る限り生活科の文部省検定教科書を参照し、レポート課題を具体的にとらえる。
- 文字数でいえば2300字程度は書くことが望ましい。生き物や社会事象の写真を2,3点挿入しても可。

〈評価の観点〉

テキストの中身を丁寧に読み取るだけでなく、自分自身の幼いころの記憶と絡ませ、また地域社会でみられる低学年児童の理解力との関連を見いだしているか。指導法と絡めて生活科教材の特性や価値を具体的に把握できているか。

〈その他の注意点〉

自然図鑑や社会図鑑を参照し、具体的な教材の中身をとらえることも大事である。総論でなく、具体的内容を扱うこと。「生活科指導法」のレポートに近いものが提出されることがあり、あくまで教材そのものに重点をおいたレポートにするように注意してほしい。

第2分冊 〈略題〉幼児から児童へとつながる発達とその教材内容の把握を試みる 第11章～16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

スタートカリキュラムによる子どもの心身の発達と学校や学級という小さな社会への適応を促す生活科教材の特色を具体的に解説せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 出来る限り生活科の文部省検定教科書を参照し、レポート課題を具体的にとらえる。
- 文字数でいえば2300字程度は書くことが望ましい。
- 幼稚園のカリキュラムも図書やインターネットで検索し、生活科のスタートカリキュラムとの関連性を調べるとよい。

〈評価の観点〉

発達段階を理解した上で生活科の教材内容が配列されていることをどの程度正確に把握できているか。学校や学級の環境への適応を促すための施設、友達との関係性づくり、情緒の安定につながる教材内容が把握されているか。

〈その他の注意点〉

単に生き物や社会事象を表面的に理解するのではなく、低学年児童にとってどのような成長への意味が隠されているかを教材内容に即して書くこと。指導法について論じるのではなく、あくまで（教科）生活のレポートであるので、教材内容（教材名や体験の中身、活動の場）を具体的に引き上げつつ、解説文を書くように注意すること。

参考文献

寺本潔編『各科指導法 生活』玉川大学出版部。
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活』

科目試験等への
アドバイス

自然と社会、自分自身とのかかわり、スタートカリキュラムの内容と広範囲であり、多岐にわたるため、焦点を絞り、勉強すること。児童書を図書館で見たり、図鑑やできれば実際の検定教科書を検索しつつ、低学年児童が好む対象について具体的に把握すること。

教員からの
メッセージ

書店の教育書の棚には生活科の教育書籍が不足しているが、評価や指導法に関する図書でなく、教材内容の理解に資する図書を探して読むよう努めた方がよい。ミニトマトの特性やカタツムリやチャボの生態、公園や通学路の社会事象としての特色、幼児から児童への心理的発達と教材内容の関係を具体的に観察したり、ネットでも情報検索したり、生活科を出版している教科書会社のHPで教材支援の情報を調べるなど努力すること。

科目概要	生活科指導法では、学習指導要領にある小学校生活科教育の目標やその内容及び指導法について理解する。内容や指導法についての理解にあたっては、基盤となる学習指導要領の理解が必修であり、具体的な授業案を想定して学修することとなる。
主な到達目標	(1) 生活科の意義と役割及び目標を関連させて理解する。 (2) 生活科の内容と他教科・領域との関連を理解する。 (3) 生活科の内容を具体化し、指導計画作成時の留意点を理解する。 (4) 生活科の指導に必要な教材の開発・工夫を指導案を構想することを通して理解する。 (5) 生活科における評価規準、具体的な評価方法を理解する。 (6) 単元指導案の作成方法及び作成上の留意点を理解する。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを複数回まず通読し、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 『小学校学習指導要領 解説「生活」編』を必ず参照する。 (3) 実際に学校で使用されている生活科教科書を参照するとよい。 (4) 評価については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』を参照するとよい。 (5) テキスト各章の課題に取り組み解答の要点をまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	第1章：生活科教育の意義と役割	・生活科教育の今日的な意義について、その要点をまとめ理解する。
2	第2章：生活科の目標と内容	・目標が2学年共通になっている理由等、生活科の特徴を理解する。 具体的な活動や体験、自立の基礎、9項目とその内容、内容構成などについて具体的な活動内容を想定して理解する。
3	第2章—2：指導計画の作成と内容の取り扱い	・指導計画例をもとに、取り扱い上の留意点を理解する。
4	第3章：他教科との関係	・学習指導要領の趣旨、教科目標から他教科との関わりを理解する。 科学的扱い、社会科や理科及び総合的な学習の時間との関連などについて、活動例などを参考にまとめ理解する。
5	第4章：生活科と幼児教育	・幼児教育と生活科の内容の関連を理解する。 幼稚園・保育園と生活科との関連などについて、活動例などを参考にまとめ理解する。
6	第5章：生活科の評価	・生活科の評価の特質と内容を理解する。 評価の意義と機能、評価の観点と評価方法などについて、評価場面を想定して理解する。
7	第6章：自然と自分とのかかわり	・自然と関わる学習から、どのような資質・能力、心情を育むのか理解する。 自然と行事、自然と遊び、飼育や栽培などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
8	第7章：科学的見方の基礎	・科学的見方の基礎について、その内容を実践事例から理解する。 科学的な見方、豊かな心情、生命観の育成、科学的な思考・表現などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
9	第8章：社会と自分とのかかわり	・地域社会についての学習から、どのような資質・能力、心情を育むのか理解する。 社会と自分、学校と生活、社会と関わる意義などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
10	第9章：公共心・社会認識の基礎	・公共心、社会認識の基礎について、その内容を実践事例から理解する。 公共心、社会認識、家庭や地域と生活、公共物と公共施設などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
11	第10章：自分と自分自身とのかかわり	・自分自身や自分の生活にいて考える内容を、実践事例から理解する。 自分自身への気づきとその深化、自立などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
12	第11章：自己認識・他者との関係	・自己認識と他者との関係について、その内容を理解する。 心身の成長への気づきとその深化、自立などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
13	第12章—1・2：指導計画作成の要点と事例	・2年間を見通した指導計画を作成する上で留意する内容を理解する。 作成上の留意点、他教科との関連などについて、2年間の指導内容を想定してまとめ理解する。
14	第12章—3：環境づくり	・豊かな活動を支援する環境づくりについて、その内容を理解する。 人的な環境、施設・設備と環境 などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
15	第12章—4：具体的実践例と教材教具の開発	・生活科の目標に沿った具体的な実践、教材・教具開発について理解する。 生活科における教材・教具開発の内容についてまとめ、その重要性について理解する。

レポート課題

第1分冊 神津 長生

第2分冊 神津 長生

第1分冊 〈略題〉活動体験・幼児教育・単元計画（自然と自分とのかかわり）と評価
第1章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1課題：生活科の目標にある「具体的な活動や体験を通して」とは、どのような意味が込められているかを、(1)意義(2)具体的な事例(3)考察から述べなさい。

第2課題：幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために、どのような連携を図ったらよいかを、(1)連携の意義(2)生活科での具体的な連携の事例(3)考察から述べなさい。

第3課題：自然と自分とのかかわりにの内容における小単元(6～8時間程度)の単元計画を作成し、評価を具体的に示しなさい。評価計画においては、3つの観点と4つの評価法、評価方法を示しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1課題(1)意義について(2)具体的な事例(活動名・児童の活動の様子)(3)考察(児童の活動の様子を一つ一つ分析して、自分の考えを述べる)

第2課題(1)連携の意義(2)生活科での具体的な連携の事例(活動名・児童の活動の様子)(3)考察(児童の活動の様子を一つ一つ分析して、自分の考えを述べる)

第3課題 ※単元計画(通常のレポート幅よりも広くし、文字ポイントも小さくして見やすい表にする。手書きの場合も形式は同様とする)(1)学年(2)「小単元名」(3)単元目標(小単元の目標)(4)単元指導計画案(評価計画を含む)

〈評価の観点〉

- ・(1)意義(2)具体的な事例(3)考察について、項目立てをして3課題に取り組んでいるか。
- ・内容を適切に捉え、簡潔に述べているか。
- ・見て分かる構成になっているか。
- ・(2)では児童の活動の様子について、単元指導計画を想定して一つの活動から順に具体的に設定し、(3)ではそれらの活動一つ一つをしっかりと考察しているか。
- ・テキスト等の引用だけになっていないか。「引用」は、(〇〇テキスト △Pより)と、その都度明記し、自分の考えで記すこと。
- ・引用の箇所が未記載の場合は、減点対象にします。

〈その他の注意点〉

- ・レポートは見やすく、印字のポイントや字数2100字～2400字程度(第1課題から第2課題まで)に注意してください。
- ・単元計画は、実践事例をそのままの使用した場合は、減点します。自分が指導する立場になって、子供たちが実際に活動できるように計画を立ててください。
- ・単元計画は、通常のレポート形式よりも幅を広げ、印字ポイントを9ポイント程度にして、全体を見やすくしてください。

第2分冊 〈略題〉自分自身の気付きについての理解と指導事例
第8章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1課題：低学年の児童の自己認識と他者との関係については、学習指導要領解説生活編では、自分自身の気付きとそれにつながる自立の問題として述べられています。この自分自身の気付きとはどのようなものか説明しなさい。また、自分自身の気付きと自立との関係についても説明しなさい。

第2課題：第1課題で説明した内容をどのように育むのか、単元を想定して単元全時間の指導概要(単元指導計画を含む)と1単位時間を選び具体的な指導事例(本時の展開案)を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①第2課題については、「1 学年・単元名」「2 単元目標」「3 工夫する点」「4 単元指導計画」「5 本時目標・展開」「6 他教科との関連及び発展」など項立てをする。また、「1 学年・単元名」以外については、設定した理由や考えを論述する。
- ②「4 単元指導計画」では全指導時間における児童の活動、教師の指導及び支援、評価の観点・評価法・具体的な評価方法を論述する。
- ③指導事例はテキストを参考として、他の指導事例で論述すること。
- ④見出しを必ず書き、章立てをすること。(例：第1課題「生活科における自分自身の気付きについて」)

〈評価の観点〉

- ①生活科における自分自身の気付きについて理解しているか。
- ②①で述べた理解内容を基に学習指導要領で示す生活科の目標に準拠してテキスト掲載以外の指導事例を具体的に論述しているか。
- ③レポート作成にあたっての留意事項を守っているか。
- ④上記①から③項目について不十分、下記〈その他の注意点〉について守られていない論述は不合格とする。

〈その他の注意点〉

- ・引用文は、かぎカッコで明示してください。
- ・参考文献、インターネット等からの参考資料は、レポート最後に明記してください。
- ・ワープロで作成する場合は、活字12ポイント、明朝体で記述してください。
- ・4単元指導計画と5本時の展開は、通常のレポート形式よりも幅を広げ、印字ポイントを9ポイント程度にして、全体を見やすくしてください。

参考文献

- 『小学校学習指導要領 解説「生活」編』
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』
- テキスト各章末参考文献

科目試験等への
アドバイス

- (1) 出題範囲は、テキスト全体である。
- (2) 学習指導要領の教科目標についてその内容を分析し、説明できるようにする。
- (3) 解答にあたっては、学習指導要領から引用するなど、論述根拠を明確にする。
- (4) 問題をよく理解し、求められる内容についての的確、簡潔に解答する。

教員からの
メッセージ

- (1) 学習の基本はテキストの熟読、内容理解である。各章や節の要点を自らまとめることが学習の近道である。
- (2) レポート作成にあたっては、テキストや学習指導要領の理解に基づき論述することが求められる。文章を論理的に構成し、まとめて欲しい。また、レポート作成にあたっての留意事項・評価の観点・その他の注意点をしっかり確認してほしい。

TT0241 政治学（国際政治を含む。）

2単位

テキスト名

加茂利男他、2012
『現代政治学（第4版）』
有斐閣アルマ

科目概要	政治は、一般に「自分とは無関係なもの」「なにかよく分からないもの」と思われがちです。しかし、政治という活動がなくなれば、国民生活を守るための警察や社会保障などの活動も行われなくなり、社会の安定は失われてしまいます。「政治学（国際政治を含む。）」では、この重要な政治という活動を理解するための基礎知識を学修します。その内容は、理論、制度、歴史など多岐に渡るため、政治を広く、深くとらえることにつながるでしょう。
主な到達目標	(1) 政治学の基礎知識を身につけることで、新聞やテレビで報道されている政治に関するニュースを深く理解できるようになる。 (2) 政治はどうあるべきかについて考え、議論するための土台を作る。
テキスト学修の留意点	『現代政治学（第4版）』は、版を重ねていることから分かる通り、スタンダードな政治学のテキストとして評価されている書籍です。幅広い分野をカバーしており、内容も充実しているので、まずは全体にしっかりと目を通し、分かりにくいところは繰り返し読み、少しずつでも理解を深めていくようにしてください。また、それと並行して日々のニュースにもできるだけ触れ、現実の政治の動きと照らし合わせながら、テキストの理解を深めるようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	①政治学のアイデンティティ	(1) 社会探求の方法について論じなさい。 (2) 政治学が「自己完結しない学問」であると言われる理由について論じなさい。 (3) 政治学を価値や規範の問題から遮断することの是非について論じなさい。(pp.2-17)
2	②政治と権力	(1) 権力に関する諸学説について論じなさい。 (2) 権力とリーダーシップの関係について論じなさい。(pp.20-28)
3	③国家と国際政治	(1) 主権国家について論じなさい。 (2) ガヴァメントとガヴァナンスの違いについて論じなさい。 (3) 国際政治の変容について論じなさい。(pp.28-36)
4	④政治体制と変動	(1) 自由主義と民主主義の関係について論じなさい。 (2) 議院内閣制と大統領制の違いについて論じなさい。 (3) レイブハルトの民主主義論について論じなさい。 (4) 全体主義と権威主義の違いについて論じなさい。 (5) インターナショナル・レジームについて論じなさい。(pp.38-65)
5	⑤政治・経済・福祉	(1) 福祉国家の発展と分類について論じなさい。 (2) 経済危機に対する自由主義型国家と社会民主主義型国家の対応の違いについて論じなさい。 (3) グローバリゼーションとその波紋について論じなさい。(pp.68-94)
6	⑥政治制度と政治過程	(1) 小選挙区制と比例代表制について論じなさい。 (2) 選挙制度が政治過程に与える影響について論じなさい。 (3) マスメディアの役割と機能について論じなさい。(pp.96-114)
7	⑦公共政策と行政	(1) 政策決定の諸理論について論じなさい。 (2) 近代官僚制の特徴について論じなさい。 (3) 日本の官僚制の特徴について論じなさい。 (4) 公共部門の改革について論じなさい。(pp.116-134)
8	⑧政党と政党制	(1) 政党政治の発展について論じなさい。 (2) サルトーリによる政党システムの分類について論じなさい。 (3) 政党制の衰退について論じなさい。(4) ポピュリズムについて論じなさい。(pp.136-150)
9	⑨政治意識と政治文化	(1) リースマンの社会的性格論について論じなさい。 (2) 「新しい政治意識」について論じなさい。 (3) 丸山眞男の日本政治文化批判について論じなさい。 (4) イデオロギー対立と文明の衝突について論じなさい。(pp.152-172)
10	⑩政治空間の再編成	(1) 福祉国家と現代型中央集権の関係について論じなさい。 (2) わが国における地方分権改革の流れについて論じなさい。 (3) ヨーロッパ統合の進展について論じなさい。(pp.174-189)
11	⑪近代の国際政治と現代の国際政治	(1) ウェストファリア・システムについて論じなさい。 (2) 戦争の違法化について論じなさい。 (3) バランス・オブ・パワーと集団安全保障の違いについて論じなさい。 (4) 冷戦の開始とその原因について論じなさい。(pp.192-216)
12	⑫グローバル・プロブレマティク	(1) 核の軍備管理から軍縮への流れについて論じなさい。 (2) 核拡散の動向について論じなさい。 (3) 持続可能な発展を実現するための3つのモデルについて論じなさい。(pp.218-238)

13	⑬政治学の科学化	(1) 社会契約論について論じなさい。 (2) 功利主義について論じなさい。 (3) 行動論政治学について論じなさい。 (4) 多元的民主主義論について論じなさい。 (5) 新制度論について論じなさい。(pp.240-253)
14	⑭現代政治哲学	(1) ロールズの正義論について論じなさい。 (2) ノジックの福祉国家批判について論じなさい。 (3) ラディカル・デモクラシーと熟議デモクラシーについて論じなさい。(pp.253-266)
15	⑮政治学の役割	(1) 「ねじれ国会」の問題について論じなさい。 (2) 「日本近現代史上の三大難局」について論じなさい。 (3) 実証主義政治学と政治哲学の関係について論じなさい。(pp.268-280)

シラバス執筆：近 裕一

レポート課題

第1分冊 近 裕一

第2分冊 近 裕一

第1分冊 〈略題〉政党制 序章および第1章～第6章 (pp.1-150)

横書き

直接入力

〈課題〉

政党制（政党システム）とその類型および政党制の変容について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 『現代政治学（第4版）』（テキスト）をしっかりと読みこんだうえで、内容をまとめてください。ヒントはすべてテキストに示されています。
- (2) 必要に応じて、参考文献を参照してください。引用の際は、引用文献と引用ページを明記してください。

〈評価の観点〉

- (1) 『現代政治学（第4版）』（テキスト）をじゅうぶんに理解しているか。
 - (2) 論理構成が整っているか。
 - (3) レポートとしての形式を満たしているか。
- ※あまりにも誤字、脱字が多いレポートや、論題とは無関係の内容が書かれたレポートについては、再提出とすることがあります。

〈その他の注意点〉

「政党」と「政党制（政党システム）」は異なる概念です。論題では「政党制」についての記述が求められているので、「政党」について詳しく述べても、それだけでは高く評価されません。①政党制の定義、②政党制の類型に関する有名な学説の紹介、③政党制の変容についての端的な説明（「どのようなあり方から、どのようなあり方へ変わってきたのか」という3点を、しっかりとまとめるようにしましょう。

第2分冊 〈略題〉ウェストファリア・システム 第7章～第11章および終章 (pp.151-280)

横書き

直接入力

〈課題〉

ウェストファリア・システムの成立と崩壊について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 『現代政治学（第4版）』（テキスト）をしっかりと読みこんだうえで、内容をまとめてください。ヒントはすべてテキストに示されています。
- (2) 必要に応じて、参考文献を参照してください。引用の際は、引用文献と引用ページを明記してください。

〈評価の観点〉

- (1) 『現代政治学（第4版）』（テキスト）をじゅうぶんに理解しているか。
 - (2) 論理構成が整っているか。
 - (3) レポートとしての形式を満たしているか。
- ※あまりにも誤字、脱字が多いレポートや、論題とは無関係の内容が書かれたレポートについては、再提出とすることがあります。

〈その他の注意点〉

「ウェストファリア・システム」というキーワードについては、その定義（「ウェストファリア・システムとは何か」）を明確に示すようにしてください。また、論題に「成立と崩壊」とあるので、①ウェストファリア・システムの成立過程、②ウェストファリア・システムの特徴、③ウェストファリア・システムの崩壊原因と崩壊過程という3点を、しっかりとまとめるようにしましょう。

参考文献

『現代政治学（第4版）』（テキスト）の各章末尾に付されている参考文献の一覧を参照してください。その他、意味のはっきりしない用語があった場合には、図書館などに置いてある各種の『政治学辞典』にもあたってみましょう。

科目試験等への アドバイス

『現代政治学（第4版）』（テキスト）で述べられていることをしっかりと整理したうえで、明確に解答するようにしてください。テキストの内容を理解していることはもちろんですが、知識を組み立てて主張を展開する文章力も必要となります。解答にあたっては、文章全体の構成も気をつけながら、書き進めるようにしましょう。

教員からの メッセージ

わたしたちは、毎日のニュースを通じて、政治の世界でいま、何が起きているかを知ることができます。しかし、ニュースで伝えられた事件の意味やそれが起こった背景まで、しっかりと理解できていることは少ないのではないのでしょうか。政治学を学ぶことで、わたしたちはより広い視野から、より深く政治を考察し、議論することができるようになります。政治学の世界に足を踏み入れて、そうした「政治を見る眼」や「政治を議論する土台」を培っていきましょう。

科目概要	我が国においては、精神保健福祉法第三条には国民の義務として「精神的健康の保持及び増進に努めること」とある。身体的な健康だけでなく、こころの健康の増進を図ることが社会に暮らす者の役割として求められている。精神保健とは、こころの健康の保持・増進を目標とする学問と実践を指している。子どもの精神的問題に関わる人には、児童精神科の医師、心理士、保健師、教師、保育士、福祉士など多くの職種の人があるが、それらの専門家がチームを組んで取り組むことが重要である。この授業では、特に子どものメンタルヘルスについての基礎的知識を持つと同時に、精神保健活動ができるようになるための知識を獲得する。同時に成人、高齢者の精神保健課題を学ぶ。
主な到達目標	精神保健の概念が説明できるようになり、意義が理解できる。乳幼児期・学童期の子どもに対する精神保健の基礎を習得する。特に障害、虐待などの事例を検討することを通して、他の専門機関や家庭・地域との連携についての知識を得て、他者と協働しながら一市民としても、精神保健活動ができるようになることを目標とする。
テキスト学修の留意点	第1章の基本的理解をまず学修し、その後は2章ライフサイクル別と4章以降の場面別を照らし合わせながら学修してください。3章はそれらの予防と対策となります。 精神保健福祉士の資格取得をしたい方は、細かい定義なども覚える必要がありますが、この科目としては、時事問題を精神保健の視点から考へることが出来るようになることを目的としています

	学修テーマ	課 題
1	精神保健の概要	WHO の健康についての定義をはじめ、精神保健の概念、乳幼児期から老年期までのライフサイクルと精神の健康、精神保健における予防、我が国における精神保健の歴史について学ぶ。
2	乳幼児期における精神保健	乳幼児期の発達課題及び精神保健の課題を学習する。小児の身体的発達、精神的発達、ことばの獲得を中心に、小児の成長について学習する。同時に、子どもの持つレジリエンスの力にも着目する。
3	学童期における精神保健	学童期の発達課題及び精神保健の課題、特に学校現場にみられる課題と発達障害を中心に学習する。それぞれの課題の予防、支援のシステムについて精神保健の視点から考える。
4	思春期における精神保健	思春期の発達課題及び精神保健の課題、特に学校現場にみられる課題とこの時期にみられる精神疾患を中心に学習する。それぞれの課題の予防、支援のシステムについても学習する。
5	家族に関連する精神保健の課題と支援	現代の家族の現状を学び、ドメスティックバイオレンスおよび児童虐待について学習する。これらの問題への精神保健の視点からの予防・支援、社会のシステムについて理解を深める。
6	精神保健の視点からみた学校教育の課題1	いじめ、不登校、学級崩壊、発達障害など学校内の出来事を精神保健という視点から捉え直し、理解を深める。
7	精神保健の視点からみた学校教育の課題2	いじめ、不登校、学級崩壊、発達障害など学校内の出来事を精神保健という視点から捉え直し、理解を深める。子どもにみられるアレルギー、慢性疾患などについて学ぶ。動画を見てエビペンの使用方法を身につける。
8	青年期における精神保健	青年期の発達課題及び精神保健の課題について学習する。青年期に生じやすい社交不安障害を学習し、青年期の精神保健の課題について理解を深める。
9	成人期における精神保健	成人期の発達課題及び精神保健の課題を学習する。この時期を代表するうつ病についても学習し、うつ病が家族に及ぼす影響、精神保健の予防と支援を学ぶ。
10	老年期における精神保健	老年期における精神保健の課題を学習する。この時期の課題の一つである認知症について、その特性を学ぶと同時に、地域包括支援センターなどの相談支援機関の役割・地域の社会資源・支援方法についても学習する。
11	精神保健における個別課題への取り組み 依存症、自殺予防	依存症について精神保健の観点から学習する。特に薬物依存の支援で効果を上げているハームリダクションについて、また、依存症と関連し自殺予防についても学習する。
12	職場における精神保健 復職支援1	うつ病などの精神疾患により公立学校の教員の休職者数の増加が問題となり、現在は精神疾患の予防が重要視されている。この回では復職支援制度について取り上げ、実施機関や利用の流れなどを学ぶ。
13	職場における精神保健 復職支援2	職場におけるケア、ストレスチェック、労働法規についても学習し、精神保健の観点から予防活動への理解を深める。
14	精神保健の相談機関	各都道府県に設置されている精神保健の公的相談機関として精神保健福祉センターがある。そこに寄せられた実際の電話相談を取り上げ、相談を聴く際に気を付けるべきポイントを精神保健の観点から学習する。
15	まとめと時事問題	テキスト全体のまとめをし、総復習をする。さらに、これまで学修したことの総括として、自身で精神保健に関する時事問題を1つ選び、精神保健の視点から検討をする。

レポート課題

第1分冊 原田 眞理

第2分冊 原田 眞理

第1分冊 〈略題〉薬物乱用防止 1章から6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

1. 薬物乱用のうち、依存性薬物の特性と種類を簡潔にまとめなさい
2. 薬物を乱用するようになる原因の一つに家庭の問題があると言われています。家庭の問題と仮定する場合、薬物を使用することを予防するために既に実施されていることを調べ、そのうえで自身で有効と考える方法を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

該当の章だけでなく、テキスト全体を学修すること

1. は簡潔に述べてください。インターネットのコピーアンドペーストは不正行為となります

思春期、家族の章も参照すると予防策が考えやすくなります

〈評価の観点〉

テキスト学修がされているか
メンタルヘルスを理解しているか
ご自身の考えをのべられているかを観点とします

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉精神保健福祉士の役割 7章から10章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

1. メンタルヘルスの諸課題における精神保健福祉士の役割をまとめなさい
2. 日本における精神保健福祉士の役割について、ご自身の考えを簡潔に述べなさい

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

該当の章だけでなく、テキスト全体を学修すること

精神保健福祉士というものが、なぜ必要なのかを考えながら課題を論じること

1. を中心に論じ、2. は 200~300 字程度で良いです

〈評価の観点〉

テキスト学修がされているか
メンタルヘルスを理解しているか
精神保健福祉士の役割を理解しているかを観点とします

〈その他の注意点〉

該当の章だけでなく、テキスト全体を学修すること

精神保健福祉士というものが、なぜ必要なのかを考えながら課題を論じること

1. を中心に論じ、2. は 200~300 字程度で良いです

参考文献

原田眞理著 「子どものころ 大人のころ 先生や保護者が判断を誤らないための手引書」 ナカニシヤ出版
エビペンサイト <https://www.epipen.jp/> この中の教職員・保育士・救命救急士のためのページ

科目試験等への
アドバイス

精神保健の定義をまず学修し、精神保健が何を目指しているかを理解してください。その後テキストすべての章を学修してください。テストはテキスト全体から出題します。

精神保健は時事問題を通して考えることが、よい学修方法となります。学修しながら、また学修が終了したのちも、時事問題について精神保健の視点から自身の考えをまとめてください。

教員からの
メッセージ

精神保健で学んだことを身につけるためには、身近な問題を考えることから始まります。いじめ、虐待など時事問題を読み、それらを未然に防ぐためには社会としてどのような努力が必要か、その問題に欠落していたのはどのようなことか、などを日々考えてみてください。

科目概要	生徒指導の意義や原理を理解し、すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方について学ぶ。児童生徒の発達段階を縦断的・総合的に捉えるため、異なる学校種間の接続体制を整えることと、教職員間の相互連携、チーム学校が必要であることを学ぶ。また進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、児童生徒の社会的自立を目指し、将来や自己実現につながっていることなどを学ぶ。
主な到達目標	生徒指導の意義と原理について理解し、すべての児童生徒を対象に実際の指導場面での活用方法の計画を立てることができる。また個別の課題を抱える個々の児童生徒への指導ができる。進路指導・キャリア教育の意義と原理、教育課程内の位置づけ、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。キャリア形成支援のためにキャリアパスポートやキャリア・カウンセリングについて理解する。
テキスト学修の留意点	生徒指導と密接な児童生徒理解と学級運営、学習指導、道徳教育、進路指導（キャリア教育）、特別活動、特別支援教育、保護者・地域・関係機関との連携に関して、児童生徒の成長を継続的・総合的な視点で学ぶことを求める。小・中・高校の接続・連携と児童生徒と教師、社会とのつながりを踏まえ、2030年代の生徒指導・進路指導（キャリア教育）を視野に入れ、教師としての学びや成長につなげていくことを期待する。

	学修テーマ	課 題
1	「指導と支導」、「つながり・接続・連携」を意図した生徒指導	「指導と支導」の必要性やそのバランスとは？ 異校種間の「つながり・接続・連携」とはなぜ必要なのか？ 生徒指導提要（改訂版）は改訂前とどのように変わったのか？
2	生徒指導・進路指導（キャリア教育）の意義と原理	生徒指導と進路指導の意義とは？ 教育課程における生徒指導と進路指導の位置づけとは？ 発達支援的生徒指導、課題予防的生徒指導、困難課題対応的生徒指導とは？
3	小学校低学年を対象の児童理解と生徒指導	低学年生の発達段階と発達課題とは？ 安心安全な居場所とは？ 児童虐待への対応と関係機関との連携とは？
4	小学校低学年を対象のキャリア教育と関係機関との連携	キャリア教育と特別活動の関係性とは？ チーム学校の意義とは？ キャリアパスポートやキャリア・カウンセリングとは？
5	小学校中学年を対象の児童理解と生徒指導	中学年生の発達段階と発達課題とは？ 自分たちが所属する集団（学級）とは？
6	小学校中学年を対象のキャリア教育と関係機関との連携	クラブ活動とは？ チーム学校の役割とは？ キャリアパスポートの実践方法とは？
7	小学校高学年を対象の児童理解と生徒指導	高学年生の発達段階と発達課題とは？ 自己有用感とは？ 暴力行為・いじめ・不登校への対応とは？
8	小学校高学年を対象のキャリア教育と関係機関との連携	縦割り異年齢集団とは？ 組織的な指導体制とは？ キャリア・カウンセリングの具体的な方法とは？
9	中学生を対象の生徒理解と生徒指導	中学生の発達段階と発達課題とは？ 暴力行為・いじめ・不登校への対応とは？ インターネットや性に関する課題、虐待への対応とは？
10	中学生を対象のキャリア教育と関係機関との連携	特別活動でキャリア教育を実施する際の工夫とは？ 学校・保護者・地域・関係機関との連携とは？ キャリアパスポートやキャリア・カウンセリングの方法とは？
11	高校生を対象の生徒理解と生徒指導	高校生の発達段階と発達課題とは？ 校則・懲戒・体罰などに関する法令の内容とは？ いじめ・不登校・自殺への対応とは？ インターネットや性に関する課題、虐待への対応とは？
12	高校生を対象のキャリア教育と関係機関との連携	職業体験活動・ボランティア活動とは？ 保護者・地域社会との連携強化の方策とは？ 勤労観・職業観とは？
13	「2030年」を取り上げる意味	「2030年」を取り上げる理由とは？ 社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力とは？
14	「2030年」の学校教育	「社会に開かれた教育課程」にはどのような期待が込められているか？ 組織的・計画的なカリキュラムの必要性とは？
15	「2030年」の生徒指導・進路指導（キャリア教育）	正解のない「問いかけ」はなぜ必要なのか？ 子ども自らが、社会とのつながりを意識するためにはどのような働きかけが必要なのか？

レポート課題

第1分冊 工藤 亘

第2分冊 工藤 亘

第1分冊 〈略題〉小学校での生徒指導と進路指導（キャリア教育）の意義と原理
序章・第1章から第4章・終章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

低・中・高学年それぞれの発達段階と発達課題を示したうえで、縦断的・総合的な視点で「生徒指導」・「生徒指導」の必要性と在り方について考察し、2030年代の小学校での生徒指導と進路指導（キャリア教育）の意義を具体的に述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「生徒指導提要（改訂版）」を参照することも重要な視点であり、その関連性をまとめたり、引用や対比することで深まりのあるレポートになる。

〈評価の観点〉

客観的（数的）なデータや文部科学省等で公表されているデータ等を用い、根拠のあるレポート作成を期待する。レポート作成者の主観的な考えだけではなく、根拠に基づき、論理的に論じていることを評価したい。

〈その他の注意点〉

多様なコラムや参考文献等から、さらに自主的・主体的・積極的に学びを深めることを期待する。

第2分冊 〈略題〉中学・高校での生徒指導と進路指導（キャリア教育）の意義と原理
序章・第1章・第5章・第6章・終章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

中学生・高校生の発達段階と発達課題を示したうえで、縦断的・総合的な視点で「生徒指導」・「生徒指導」の必要性と在り方について考察し、2030年代の中学校・高等学校での生徒指導と進路指導（キャリア教育）の意義を具体的に述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「生徒指導提要（改訂版）」を参照することも重要な視点であり、その関連性をまとめたり、引用や対比することで深まりのあるレポートになる。

〈評価の観点〉

客観的（数的）なデータや文部科学省等で公表されているデータ等を用い、根拠のあるレポート作成を期待する。レポート作成者の主観的な考えだけではなく、根拠に基づき、論理的に論じていることを評価したい。

〈その他の注意点〉

多様なコラムや参考文献等から、さらに自主的・主体的・積極的に学びを深めることを期待する。

参考文献

文部科学省『生徒指導提要令和4年12月』（改訂版）pdf
 文部科学省『生徒指導提要平成22年3月』教育図書、2010年
 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター『生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導』ぎょうせい、2009年
 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編平成29年7月』東洋館出版社、2018年
 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編平成29年7月』東洋館出版社、2018年
 文部科学省『高等学校学習指導要領総則編』2018年
 文部科学省『小学校キャリア教育の手引き』＜改訂版＞教育出版、2011年
 文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』教育出版、2011年
 文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版、2012年
 日本生徒指導学会『現代生徒指導論』学事出版、2015年
 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018年
 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018年

科目試験等への
アドバイス

序章・第1章・終章・付記資料を十分に踏まえた上で、各2章から第6章の対象者や修得すべき基礎的な知識を基にした生徒指導や進路指導（キャリア教育）を問いたい。
 また、発達段階を縦断的・総合的な視点で生徒指導や進路指導（キャリア教育）を捉えつつ、自らの経験や見識と客観的な根拠に基づいた視点での考察を試験で問いたい。

教員からの
メッセージ

“進みつつある教師のみ、人に教える権利あり”を胸に学修に励むことを期待します。

科目概要	生物の構造や機能から生態までの生物学の基礎を学び、応用として生活との関連について学習する。生物学の基礎を学問的に学ぶと同時に日常生活のなかにある生物学を理解することが文明社会のなかで健全な生活を過ごすために必要な能力となる。これらを踏まえ、自然環境に関わる諸問題を正しく理解し、適切な判断を行うための素養を身に付けることを目的とする。
主な到達目標	① 生物学の意義を理解し、生物学の研究対象や方法を理解することができる。 ② 生物の起源と進化、遺伝現象について理解することができる。 ③ 自然環境と食糧生産について理解することができる。 ④ 生命と自然について理解し、環境に対する正しい知識と適切な判断ができる素養を身に付けることができるようになること。
テキスト学修の留意点	① テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。 ② 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。 ③ レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。テキスト内容を理解した上で他の資料も引用文献として当たりながら、自分の言葉でまとめて表現すること。 ④ レポート作成はレポート作成にあたっての留意事項と評価の観点を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	生命と自然とは	「生命と自然とは」を読み、要点をまとめ、生物学がライフサイエンスへ発展することを体系的に理解することができるようになること。
2	1. 生物の起源と特性	「1-1. 生命の起源の学説」「1-2. 最初の生命」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の起源と特性を理解することができること。
3	1. 生物の起源と特性	「1-3. 細胞の誕生と進化」「1-4. 生命の単位と特性」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の起源と特性を理解することができるようになること。
4	2. 生物の適応と進化	「2-1. 生物の適応」「2-2. 主に化石からみた進化の証拠」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の適応と進化について理解することができるようになること。
5	2. 生物の適応と進化	「2-3. 進化論の展開」「2-4. 現代の進化論」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の適応と進化について理解することができるようになること。
6	3. 遺伝現象	「3-1. 細胞分裂と染色体」「3-2. メンデルの実験と遺伝の法則」を読み、それぞれ要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
7	3. 遺伝現象	「3-3. 遺伝のしくみ」「3-4. 突然変異」を読み、それぞれ要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
8	3. 遺伝現象	「3-5. 遺伝子工学」を読み、要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
9	4. 人間の生物学	「4-1. ヒトの進化」「4-2. ヒトの特徴とその進化」を読み、それぞれ要点をまとめ、ヒトの進化や特徴を生物学的に理解することができるようになること。
10	4. 人間の生物学	「4-3. ヒトの遺伝」「4-4. からだを守る」を読み、それぞれ要点をまとめ、ヒトの形質や健康について生物学的に理解することができるようになること。
11	5. 生活と自然	「5-1. 太陽エネルギーと物質の循環」「5-2. 陸上植物の変遷と極相」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間と自然との関わり合いについて理解することができるようになること。
12	5. 生活と自然	「5-3. 大気環境とその汚染」「5-4. 水と土の汚染」「5-5. 環境汚染と自然の大切さ」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間と自然との関わり合いについて理解することができるようになること。
13	6. 生活と植物	「6-1. 植物栽培の始まり」「6-2. 人口の増加と食糧」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間が開発した植物栽培の歴史や食料生産の方法を理解することができるようになること。
14	6. 生活と植物	「6-3. 食糧の増産」「6-4. 遺伝資源の重要性」を読み、それぞれ要点をまとめ、食糧増産の有効な手段と遺伝資源の関わりについて理解することができるようになること。
15	6. 生活と植物	「6-5. 自然環境と食糧問題」を読み、要点をまとめ、地球環境の保全の観点から生活と植物との関わりについて理解、考察することができるようになること。

シラバス執筆：山崎 和久

レポート課題

第1分冊 五十嵐 敏文

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉遺伝現象と人間生活との関連 第1章～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

遺伝現象の1つとして、遺伝子の構造と遺伝子がタンパク質を合成する仕組みについて説明しなさい。さらに遺伝子操作する技術が(遺伝子組み換えなど)生活のなかでどのようにに関わり、影響を及ぼしているか考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・科学のレポートであるため、構成は論理的であること。また簡潔に論述すること。まずテキストをよく読み、内容を理解し、さらに他の文献(引用文献)を用いて理解を深めること。
- ・テキストをそのまま写すのではなく、用語を用いながら自分の言葉で理解したことをまとめ、論述すること。
- ・高校の「生物」の教科書をだけでなく、大学の「生物学」など複数の文献なども読み、理解を深める。単なる文献の転記ではなく、図示するなど理解したことを分かりやすくまとめること。

〈評価の観点〉

- ・レポートの課題が十分に理解できていること。
- ・用語を用いながら自分の言葉で述べられていること。遺伝子の操作技術では例を挙げ、現在および今後の問題点がよく考察されていること。
- ・レポートがこれまでの知見(引用文献、参考文献としてそれぞれ表記のこと)を基に構成されていること。
- ・収集した文献の数や種類など文献の質的な評価も観点の一つとする。

〈その他の注意点〉

- ・テキストなど文献を引用しながら論述し、その際、正しい引用文献の表記であること(引用文献と参考文献の違いに注意)。
- ・図表を作成する場合、出典を明記すること。
- ・最終ページには、テキストを含め、必ずすべての引用文献と参考文献(著者・文献名・出版社・出版年)をそれぞれ明記すること。
- ・インターネットからの情報のみを文献としないこと。必ず書物等でその知識の確認をすること。
- ・インターネットのURLを引用する場合、その名称とアドレス、閲覧日を記載すること。

第2分冊 〈略題〉生物多様性と自然の保全 第4章～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

生物多様性の重要性について解説し、さらに自然環境の保全の観点から生物多様性への影響とその対策について自分の考えを論評しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・科学のレポートであるため、構成は論理的であること。また簡潔に論述すること。まずテキストをよく読み、内容を理解し、さらに他の文献(引用文献)を用いて理解を深めること。
- ・テキストをそのまま写すのではなく、用語を用いながら自分の言葉で理解したことをまとめ、論述すること。
- ・高校の「生物」の教科書をだけでなく、大学の「生物学」など複数の文献なども読み、理解を深める。単なる文献の転記ではなく、図示するなど理解したことを分かりやすくまとめること。

〈評価の観点〉

- ・レポート課題が十分に理解できていること。
- ・用語を用いながら自分の言葉で述べられていること。
- ・レポートがこれまでの知見(引用文献、参考文献としてそれぞれ表記のこと)を基に構成されていること。
- ・収集した文献の数や種類など文献の質的な評価も観点の一つとする。

〈その他の注意点〉

- ・テキストなど文献を引用しながら論述し、その際、正しい引用文献の表記であること(引用文献と参考文献の違いに注意)。
- ・図表を作成する場合、出典を明記すること。
- ・最終ページには、テキストを含め、必ずすべての引用文献と参考文献(著者・文献名・出版社・出版年)をそれぞれ明記すること。
- ・インターネットからの情報のみを文献としないこと。必ず書物等でその知識の確認をすること。
- ・インターネットのURLを引用する場合、その名称とアドレス、閲覧日を記載すること。

参考文献

- ・鷲谷いづみ・矢原徹一著『保全生態学入門 遺伝子から景観まで』文一総合出版 1996。
学習には、まずテキスト自体の学習を先行して行い、さらに発展的に学習するために参考文献を参照されたい。

科目試験等への
アドバイス

- ① 科目試験は第一分冊基礎理論編と第二分冊応用論からそれぞれ出題する。
② 出題範囲はテキスト全体からとなるが、主に各章の趣旨を踏まえた内容とする。
③ 本科目試験ではテキスト内容を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。1つの基本概念の学習には、関連する概念・考え方と結びつけた構造的な学習が必要であることを十分に理解すること。
④ 問題に「具体的に説明せよ」とある場合、必ず実際の例を示して説明すること。テキストの例とは異なる例をあげられるとよい。

教員からの
メッセージ

- ① テキスト学習は机上のものになりがちであるが、ここで学んだことを学習活動さらには生物学的な視点に立ち、生活に結びつけ考えることができるようになることが望ましい。
② 新聞やニュース等にも生物学に関連するトピックは頻出するので、それらからも意識して情報を取り入れると良い。一方で、そうした媒体では検証が不十分な情報や科学的に間違った情報が流れることもある。情報を鵜呑みにするのではなく、その正確性を見極める目を養って欲しい。
③ 生物学の関連科目には「生活科」「理科」「社会科」「家庭科」ほか「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」などがあり、連携を図ることが望ましい。

科目概要	人間の「生命と性」の概念について、生物学的、社会・文化的観点からとらえ直した上で、現代社会における生命と性の現状や諸問題について理解するとともに、対応のあり方について考察を深める。それらをふまえ、学校だけでなく家庭・社会において、次世代に生命や性をどのように伝えるか、教育のあり方について、理論と実践の両側面から学ぶ。
主な到達目標	人間の生命と性について、人間として生きるものの価値や意味といった人格的な側面も含め、多面的・全人的視野で捉えることができる。さらに、生命と性の教育について歴史的変遷や文化的な背景、および外国との比較もふまえ、現状や課題を理解した上で、その望ましいあり方について自ら考察できるようになることを目標とする。これらの学修により、教育者として、次世代に対して生命と性について適切に教育できる資質を身につけることができる。
テキスト学修の留意点	本科目は、学際的な視点が要求されることにその特徴がある。学修者はテキストを熟読することによる内容理解が必須となるが、テキスト講読だけでは内容理解が不十分な場合には、参考文献を利用した学修が必要である。

	学修テーマ	課 題
1	生命と性の概念	生命と性の教育を考えるために、生命とは何か、性に関する概念について理解する。性の概念には、生物学的、心理学的、社会・文化的な視点があること、また、人格的な次元から性をとらえるセクシュアリティという概念についても理解を深める。
2	生と死を考える	なぜ人の命は尊いのかという命題について生命観や死生観を通して考えるとともに、科学・医療技術が生命の誕生や死に介入することについて教育のなかでどのように取り扱うべきかについて、生命倫理の観点から考察を深める。
3	性観念の歴史と現在	歴史的な背景とともに現代社会における国内外の諸調査の結果をもとに、日本人の性観念の特徴について考察する。
4	青少年の性意識・性行動	思春期から青年期にかけての性成熟も含めた身体発育や、性意識や性行動の時代的な変化や現状について、全国的な調査結果をもとに理解を深め、その要因を考察する。
5	性感染症と HIV/AIDS	性感染症について主な疾患の特徴や予防法について理解する。さらに HIV 感染症であるエイズについて、感染状況や感染経路などの特性をふまえ、その予防策について考察する。
6	生命の誕生	生命誕生としての妊娠・出産について、その過程を理解するとともに、生命誕生における性の健康の重要性を考察する。
7	性の健康	生殖過程の健康をリプロダクティブ・ヘルスとしてとらえ、医学的側面や法的根拠をもとに、避妊や人工妊娠中絶、不妊について理解を深める。
8	ライフサイクルと性	人間として生まれ、生涯を終えるまで、ライフサイクルの視点から、生命と性のあり方について発達段階や発達課題の視点をふまえながら考える。
9	性の多様性	他の生物も含めた性の成り立ちとともに、人間の性の多様性について理解し、教育における性のとらえ方を考察する。
10	生命の操作	不妊治療や出生前検査などの生殖補助医療技術の現状や実施条件などを確認し、倫理的な課題について考察する。
11	次世代育成	少子化が進む社会の現状や要因を理解し、子育て支援や次世代育成のあり方について考察を深める。
12	生命と性の教育の歴史	明治以降の性教育の歴史や、第二次世界大戦後の文部科学省の性に関する教育のとりえ方の変遷をたどり、学校教育における性教育の位置づけについて考察する。
13	海外における生命と性の教育	国際的な包括的性教育に関する指針や海外の性教育について理解することで、諸外国とわが国との相違点や、それをもたらす社会的・文化的背景について考察する。
14	学校における生命と性の教育	学校における生命と性の教育について、現行の学習指導要領の中で、生命や性に関する事項を教科等の教育課程の中でどのように取り扱うべきか、さらに、教科等横断的な性教育のあり方について理解を深める。
15	生涯を通じた生命と性の教育	学校だけでなく、家庭や地域社会との連携を重視しながら、生涯を通じた生命と性の教育のあり方やその課題について考察する。

シラバス執筆：増田 美恵子

レポート課題

第1分冊 増田 美恵子

第2分冊 増田 美恵子

第1分冊 〈略題〉青少年の性意識・性行動の現状と課題 第1部・第2部・第3部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

わが国の青少年の性意識・性行動の現状を述べた上で、現代の青少年の生と性に関する課題について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト及び参考文献を熟読した上でレポートを作成すること。
- ②引用文献及び参考文献の著者名、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ③インターネットの情報を引用文献・参考文献とする場合は信頼できるサイトのみとし、URL、サイト名、サイト開設者、情報取得日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ①レポート課題を理解してレポートを作成しているか。
 - ②論点を整理してレポートの内容をまとめているか。
 - ③適切な文章表現をしているか。
 - ④主張の根拠を示しているか。
- ※テキストや文献の引き写しや要約、個人的感想だけで、考察がない場合は再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

なし

第2分冊 〈略題〉諸外国とわが国の「生命と性」の教育 第4部・第5部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

諸外国とわが国における生命と性の教育を比較した上で、わが国の学校教育における生命と性の教育の課題を考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト及び参考文献を熟読した上でレポートを作成すること。
- ②引用文献及び参考文献の著者名、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ③インターネットの情報を引用文献・参考文献とする場合は信頼できるサイトのみとし、URL、サイト名、サイト開設者、情報取得日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ①レポート課題を理解してレポートを作成しているか。
 - ②論点を整理してレポートの内容をまとめているか。
 - ③適切な文章表現をしているか。
 - ④主張の根拠を示しているか。
- ※テキストや文献の引き写しや要約、個人的感想だけで、考察がない場合は再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

なし

参考文献

日本性教育協会『「若者の性」白書 第8回 青少年の性行動全国調査報告』小学館、2019
 林 雄亮・石川由香里・加藤秀一『若者の性の現在地：青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える』勁草書房、2022
 橋本紀子『教科書にみる世界の性教育』かもがわ出版、2018
 ユネスコ編著、浅井春夫他訳『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】』明石書店、2020
 荒堀憲二・松浦賢長編、『性教育学』朝倉書店、2012
 厚生労働省 HP 性感染症、{ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/index.html#link01 }
 エイズ予防情報ネット API-Net、{ <https://api-net.jfap.or.jp/index.html> }

科目試験等への
アドバイス

科目試験の対策として、各回に提示した「課題」をしっかり学修するとともに、テキスト各章の「課題」についても取り組んでおくことが望まれる。解答にあたっては、テキスト内容をそのまま記述するのではなく、テキスト以外の参考文献、新聞・雑誌等のマスメディア、web 等における信頼できる関連情報も加えて考察を深めることが望ましい。その際、引用箇所がわかるように引用表記を必ず行い、文献等の出典を明示することが求められる。

教員からの
メッセージ

「テキスト学修の留意点」にも記したように、本科目で取り上げる内容は、考察するにあたって学際性を求められるとともに、時代に即した新しい情報が必要になる場合が多い。従って、学修を進めるにあたり、テキスト講読のみでなく、それを補完する意味で、参考文献、新聞・雑誌等のマスメディア、web 等から信頼できる関連情報を入手することが望ましい。

TT0246 西洋哲学思想史

2単位

テキスト名

岩田靖夫他著
『西洋思想の歩み－ロゴスの諸相－』
有斐閣

科目概要	本科目では、古代ギリシアから中世、近代、現代にわたる西洋哲学思想の歴史を学んでいくことを通じて、西洋近現代の合理的思考や科学的探究、合理的な社会システム等が成立したプロセスを理解する。それに加えて、西洋のさまざまな人間観・世界観・人生観の多様性を学ぶことによって、それを自分の世界観・人生観に取り込むことをねらいとする。
主な到達目標	- 西洋哲学思想の各時代ごとにその展開を辿っていき、それぞれの時代の哲学思想の根本特徴を明確に理解し、わかりやすく説明できるようにする。 - 西洋哲学思想のキーワードは、理性・理法・言葉（論理）を意味するギリシア語の「ロゴス」であるが、西洋思想史がこうした「ロゴス」の展開過程であることを、各時代思想展開に即して具体的に説明できるようにする。
テキスト学修の留意点	- テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、論述すること。 - テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけでは十分ではない。 - 重要なのは、テキストの著者や各々の哲学者たちが結局何を言おうとしているのかを十分に理解することであり、それを踏まえた上で、レポート課題に適切に答えるべく、自分の言葉で再構成して論述することである。

	学修テーマ	課 題
1	ギリシア精神とギリシア神話	古代ギリシア哲学が誕生する背景となるギリシア精神とはどのようなものか。また、ギリシア神話はどのような特徴をもち、のちに生まれたギリシア哲学とはどのように異なるのか。
2	ソクラテス以前の哲学	ソクラテス以前のギリシア哲学は、宇宙万物の根源（アルケー）とは何かを探究することから始まったが、「万物の根源」はどのようなものと考えられてきたのか。また、それはどのような意義をもっているのか。
3	ギリシア古典期の哲学	ソクラテスの思想はソフィストたちとどのような点で異なるのか。ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想では、「善」や「徳」や「正義」などの問題がそれぞれどのように考えられたのか。
4	キリスト教の思想①	西洋哲学の新たな局面は、「理性」に基づくギリシア哲学と「愛」に基づくキリスト教との出会いであるといえる。イエスにおける「愛」の思想とパウロにおける「復活」の思想とは、それぞれどのようなものか。
5	キリスト教の思想②	キリスト教の教義はいかにして確立し、また展開していったのか。この問いをアウグスティヌスらの思想をもとに跡付けるとどのようなことが言えるのか。また、「普遍論争」とはどのようなものか。
6	キリスト教の思想③	「12世紀ルネサンス」によって、いかにして西欧が自己自身を自覚していったのか。またトマス・アクィナスらのスコラ哲学はどのように形成され、展開されていったのか。
7	近代哲学①	中世の「神中心主義」から近代の「人間中心主義」への転換がなされたルネサンスでいわれる「古典復興」とはどのようなことか。また、F・ベーコンの「帰納法」が科学的思考法の出現にどのように寄与したのか。
8	近代哲学②	近代哲学の父と言われるデカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉は何を意味しているのか。また、デカルトと近接する時代のパスカル、ホッブス、スピノザの思想はどのようなものであったのか。
9	近代哲学③	人間の心は元来「白紙（タブラ・ラサ）」であると唱えるジョン・ロックを中心とするイギリス経験論とはどのようなものか。また、ヴォルテールやJ・J・ルソーなどのフランス啓蒙思想とはどのようなものか。
10	近代哲学④	理論理性の限界を指摘し、実践理性の重要性を強調したカントの思想のポイントは何か。また、カントを起点とするフィヒテ、シェリング、ヘーゲルなどのドイツ観念論では、どのような思想が展開されたのか。
11	近代哲学⑤	ヘーゲルがドイツ観念論の体系を完成して以降、それを批判する形で、コントの実証主義、マルクスの共産主義、キルケゴールらの実存思想などがどのように展開されたのか。
12	現代哲学①	現代においては伝統的な「ロゴスの解体」ということが言われるがこれはどういうことか。この問題は、現代における諸科学の危機とどのように関連するのか。
13	現代哲学②	現代の論理実証主義が行った新たな「理性批判」とはどのようなものか。また、ポパーのいう「批判的合理主義」および「反証主義」とはどのようなものであるか。
14	現代哲学③	クワインの「言語論的転回」とはどのようなことか。また、クーンの「パラダイム転換」とは科学の成立にどのように寄与したのか。
15	現代哲学④	フッサールの現象学における「生活世界」とは何か。ヴィトゲンシュタインの「言語ゲーム」とは何か。「歴史の中での理性」とは何か。

シラバス執筆：山口 修二

レポート課題

第1分冊 山口 修二

第2分冊 山口 修二

第1分冊 〈略題〉古代ギリシア哲学の背景としてのギリシア精神
第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

古代ギリシア哲学が誕生する背景となるギリシア精神（ギリシア文化・自由・ギリシア神話など）とはどのようなものであったのか。それを古代ギリシア哲学との関連において具体的に論じること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①ギリシア精神とギリシア神話については、第1章と第2章が参考になるが、その部分の「要約」をするのではなく、第3章・第4章におけるギリシア哲学の展開も視野に入れた上で、ギリシア精神とギリシア哲学との関連に光を当てて考察すること。
- ②テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、説明できるようにすること。
- ③テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけではレポートとして不十分である。

〈評価の観点〉

- ①レポート作成上の基本的なルール（表記、誤字脱字の有無、「引き写し」の厳禁、引用や注など）が守られているかどうか。
- ②課題に対応した的確な論述になっているかどうか。
- ③叙述内容を十分に理解した上で書かれているかどうか。
- ④「問題提起—本論—結論」が明確であり、論の構成・展開が適切であり、説得力のある論述になっているかどうか。
- ⑤その他、自分なりの創意工夫がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

できるだけ、他の参考文献も参照するのが望ましい。

第2分冊 〈略題〉近代・現代における新たな「ロゴス」の展開
第12章～第20章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

古代ギリシア哲学の成立は、いわばロゴス的思考の誕生ともいえるが、その後、近代において「ロゴス」は新たな展開を迎えた。近代・現代において、「ロゴス」はどのように展開されたのかについて、各時代の西洋哲学思想の変遷を踏まえつつ、具体的に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①近代・現代といっても広範にわたるが、叙述が散漫にならないように注意してほしい。もちろん、複数の時代や章にまたがるような広い視野からの論述が必要であるが、必ずしも網羅的である必要はない。むしろ、自分なりに着眼点を絞って、その視点から「ロゴス」や「理性」の展開に光を当てるような首尾一貫した論述が望ましい。
- ②テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、説明できるようにすること。
- ③テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけではレポートとして不十分である。

〈評価の観点〉

- ①レポート作成上の基本的なルール（表記、誤字脱字の有無、「引き写し」の厳禁、引用や注など）が守られているかどうか。
- ②課題に対応した的確な論述になっているかどうか。
- ③叙述内容を十分に理解した上で書かれているかどうか。
- ④「問題提起—本論—結論」が明確であり、論の構成・展開が適切であり、説得力のある論述になっているかどうか。
- ⑤その他、自分なりの創意工夫がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

できるだけ、他の参考文献も参照するのが望ましい。

参考文献

・学習は、まずテキスト自体の学習を中心として進めてほしいが、理解の補助として、下記の参考文献を挙げておくので、必要に応じて参考にしてほしい。
 岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣、1975年
 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書、2003年
 熊野純彦『西洋哲学史——古代から中世へ』岩波新書、2006年
 熊野純彦『西洋哲学史——近代から現代へ』岩波新書、2006年 その他

科目試験等への
アドバイス

・科目試験でも、レポート作成の場合と同じく、設問の意味と意図をよく理解し、自分の言葉で適切に再構成して論述することである。
 ・ここでも、テキストの「引き写し」はルール違反であり、不合格となるので注意してほしい。
 ・単なるテキストの要約や単なる主観的なエッセイではなく、テキストの内容をよく理解した上で、設問に応じて自分の言葉でその問題を再構成して、首尾一貫した形で論理的に説明することができるかどうか重要である。

教員からの
メッセージ

・テキストの各章・各節によってかなり難易度の差はあるが、重要なのは、枝葉末節ではなくて、各時代の哲学者たちが要するに何を考えたのかというその思想のポイントをレポート課題に即しつつ、よく理解することである。
 ・そのためにはとくに大切だと思われる箇所にアンダーラインを引いたり、付箋を付けたりする工夫が必要であり、それをもとに自分の言葉で再構成することが重要である。

科目概要	先史・古代から 20 世紀までの西洋美術の流れを学ぶ。主要な作品例を中心に地域の美術の特徴をその社会的な背景とあわせて理解する。政治・宗教・文化・科学技術などの他分野との関わりまで意識を広げ、視覚史料を扱う学問分野に対して理解を深めてゆく。
主な到達目標	● 作品を丁寧に観察する姿勢を習得し、作品を観る眼を養う。 ● 各時代の様式の特徴と推移を社会的な背景とあわせて理解する。 ● 各分野の作品制作に関わる専門用語・主題・技法の基本的な知識を習得する。 ● 複数作品を比較して観察する技術と習慣を習得する。 ● 作品の文化・社会における機能や役割も意識できるようになる。
テキスト学修の留意点	テキストの文字や図版だけにとどまらず、積極的に展覧会に出かけ、インターネットやテレビ等で美術作品に触れよう。古代から現代まで、美術の様式（スタイル）がどのような特徴をもっているのか、目で見て実感をもって理解してほしい。

	学修テーマ	課 題
1	原始美術と古代オリエント美術	自然主義的な表現と、概念的、抽象的、形式的な表現が取られることを理解する。原始美術、先史美術の動物や人体の造形的本質をとらえ、用途に応じて抽象化、形式的な表現に変化させている様子を見る。古代オリエントとしてメソポタミアとエジプトの美術の造形的な特徴をとらえよう。
2	古代ギリシア・ローマ	古代ギリシアでは抽象的な形から、写実的な表現、理想化された人体表現などが追求されていることを念頭に、アルカイック→クラシック→ヘレニズムの様式の作例を比較し、それぞれの特徴を理解する。古代ローマが古代ギリシアから継承した点、新たに発展させた点に着目する。
3	初期キリスト教美術、ビザンティン美術、初期中世美術（中世Ⅰ）	キリスト教を布教する目的から、抽象化、記号化された表現と、古代ローマの伝統の残る表現が混交する様子を見る。モザイク技法やビザンティン世界のイコノクラスム（聖像破壊運動）に関しても理解する。
4	ロマネスク美術、ゴシック美術（中世Ⅱ）	キリスト教がヨーロッパに浸透し、教会建築を中心とした美術が、農村、そして都市に広まる様子を理解する。ロマネスクやゴシックの建築、美術の特徴を比較しつつ教会の浮彫や壁画、写本装飾などの作例も合わせて見ておく。中世独特の空間表現、記号的な表現に留意し、作品を理解する。
5	イタリアの初期ルネサンス美術	イタリアにおいてルネサンスが起こった諸条件を理解する。人文主義や古典古代への傾倒、三次元的空間表現や遠近法を積極的に取り入れた作品の特徴を確認しよう。美術を支えたパトロンには教会と王侯貴族、メディチ家に代表される裕福な商人や銀行家もいたことも把握する。
6	15 世紀の北方美術	北方ルネサンスと呼ばれる独自の様式の特徴を確認する。空気遠近法による風景表現の発達、油彩画の発明と発展に関わる細密描写と質感描写を作例から理解する。
7	イタリア盛期ルネサンス美術、マニエリスム、北方ルネサンス美術	ローマで活躍した芸術家たちを中心に芸術の流れを理解する。レオナルドやミケランジェロら天才たちやヴェネツィア派の地域様式も比較しよう。北方ルネサンスは油絵による写実的で緻密な表現が非常に高い再現性を獲得していた点に着目する。
8	バロック美術	宗教改革に対抗し、教会の権威を美術を用いて表現するカトリック改革期の美術の展開を把握する。絶対王政の隆盛、新興市民階級の台頭といった背景、イタリア、スペイン、フランス、オランダ・フランドルの地域の違いも比較して作品で確認しよう。
9	ロココ美術	絶対王政の権力の庇護による洗練された美術、とくにフランスでの宮廷を中心とした各国のサロン文化を理解する。華麗さを極める建築や調度品にも着目したい。
10	新古典主義、ロマン主義、写実主義（近代Ⅰ）	フランス革命と新古典主義の隆盛、フランスを中心とした美術アカデミーの変化、サロン（官展）でのアカデミックな絵画やロマン主義など、それぞれに影響を与え合う流れを把握する。写実主義の社会的な視点や印象派の主題中心の視点を理解する。
11	印象主義、象徴主義、（近代Ⅱ）	産業革命以降の近代都市生活において絵画も大きく変化する。新しい視点と技術で自然をとらえる印象主義の試みを理解する。印象主義とは対照的に現実には目に見えない神話の登場人物や概念、幻などを描く象徴主義など、それぞれを代表する画家の作品を詳しく見て、特徴を理解しよう。
12	後期印象主義（近代Ⅱ）	後期印象主義では印象主義の課題をさまざまな形で乗り越え個々の様式を花開かせる画家が登場する。形態の復活、精神世界の表現などを追求していく様式を理解する。後期印象主義の「後期」は主義の特徴というよりも、時系列的な意味合いが強く、画家によってアプローチが様々である。
13	19 世紀末から 20 世紀初頭（現代Ⅰ）	世紀末芸術、アール・ヌーヴォー、ジャポニズムなど経て、第一次世界大戦前後までフォーヴィスム、表現主義、未来派とシュルレアリスム等の美術活動が展開される。機械工業、技術の進歩を積極的に肯定し、新しいものを求めるモダニズムが当時の美術にどのように反映されているかを見よう。
14	第二次世界大戦後の世界のアメリカ（現代Ⅱ）	1950 年代以降、アメリカを中心とした美術の発展とその流れを捉える。抽象表現主義、ネオ・ダダ、ポップアートまでの展開を追う。美術がどのようにマス・メディアや商業主義、資本主義と結びつき、発展していったのかを見る。
15	1950 年代以降の現代美術	既存概念や芸術の定義をあらゆる方向から否定し、最前線、いわゆる前衛において新しい表現を模索し続けるモダニズムとそれを超えたポスト・モダンの非常に多様に分岐した流れが紹介されている。現代美術の作家のそれぞれの試みを追う。

レポート課題

第1分冊 毛塚 実江子

第2分冊 毛塚 実江子

第1分冊

〈略題〉《美術作品と当時の社会との関連性》
第1分冊は18世紀（ロココ美術）まで横書き、番号の
ついた所定の Word
用紙に入力するWord添付、
3000字程度

〈課題〉

1800年以前の作品1点を挙げ、どのように当時の社会と関わりをもっていたのか、作者、注文主（教会やパトロン等）からの視点も交えて考察を行う。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・作品は、図像のコピー（白黒可）を添付し、作者、作品名、制作年代、所蔵場所、サイズ、画像の出典をキャプションとして記し、本文中でも基本データとして明記すること。
- ・レポートの基本的な作成方式に従い剽窃はしない。
- ・調べた情報と自分の考察とをしっかりと分け典拠を必ず明記する。
- ・Wikipedia やまとめサイトなど、著者が不明なインターネットの記事は参考文献としては不可。
- ・註・参考文献は必須。引用箇所はページ数まで詳細に明記すること。
- ・インターネットを使用してもよいが、参考文献として書籍を3冊以上挙げる。

〈評価の観点〉

- ①課題から自分のテーマを選び、レポートにふさわしい問いを形成しているか。
- ②問いにふさわしい作品を選び、その情報を明記しているか。
- ③問いを解決するのにふさわしい書籍や論文を参照しているか。
- ④構成・章立て、参考文献や註などの形式は適切か。
- ⑤作品の観察や分析を丁寧に行ってから自分の主張を導き出しているか。根拠の主張は明確か。
- ⑥結論は無理なく、問いに答え、論旨は一貫しているか。

〈その他の注意点〉

- ・3000字程度とは1割前後の増減を認める。註や文献は文字数に含めない。最後に何文字かカウントして表記する。
- ・インターネットは辞典や教会、自治体などの公式ホームページや研究者のホームページであれば参照可。学修指導書やテキストに載っている参考図書も1冊は挙げるのが望ましい。
- ・無理に難しいことを書く必要はないので、自分の言葉で理解した範囲でまとめるようにしよう。テーマに対して新しい知見を導き出すのは難しいので、読んだ本の中で自分の考えに近いもの、反対のものを参考にしながら自分なりの考察を深め、まとめること。
- ・学修指導書をよく読んでください。
- ・修正のための形式的な評価をつけられ返却されます。その時点での正式な評価ではありませんので、もし成績の提出期限等がある場合は事務所に連絡ください。

第2分冊

〈略題〉《作品主題と表現方法の関連性》

第2分冊は「19世紀以降」

横書き

Word添付、
3000字程度

〈課題〉

19世紀以降の作品を1点挙げ、作者が主題を表現するためにどのような表現を追求し工夫したか、今までの研究をまとめたうえで、自分の視点で分析し、考察を行う。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・作品は、図像のコピー（白黒可）を添付し、作者、作品名、制作年代、所蔵場所、サイズ、画像の出典をキャプションとして記し、本文中でも基本データとして明記すること。
- ・レポートの基本的な作成方式に従い剽窃はしない。
- ・調べた情報と自分の考察とをしっかりと分け典拠を必ず明記する。
- ・Wikipedia やまとめサイトなど、著者が不明なインターネットの記事は参考文献としては不可。
- ・註・参考文献は必須。引用箇所はページ数まで詳細に明記すること。
- ・インターネットを使用してもよいが、参考文献として書籍を3冊以上挙げる。

〈評価の観点〉

- ①課題から自分のテーマを選び、レポートにふさわしい問いを形成しているか。
- ②問いにふさわしい作品を選び、その情報を明記しているか。
- ③問いを解決するのにふさわしい書籍や論文を参照しているか。
- ④構成・章立て、参考文献や註などの形式は適切か。
- ⑤作品の観察や分析を丁寧に行ってから自分の主張を導き出しているか。根拠の主張は明確か。
- ⑥結論は無理なく、問いに答え、論旨は一貫しているか。

〈その他の注意点〉

- ・3000字程度とは1割前後の増減を認める。註や文献は文字数に含めない。最後に何文字かカウントして表記する。
- ・インターネットは辞典や教会、自治体などの公式ホームページや研究者のホームページであれば参照可。学修指導書やテキストに載っている参考図書も1冊は挙げるのが望ましい。
- ・無理に難しいことを書く必要はないので、自分の言葉で理解した範囲でまとめるようにしよう。テーマに対して新しい知見を導き出すのは難しいので、読んだ本の中で自分の考えに近いもの、反対のものを参考にしながら自分なりの考察を深め、まとめること。「学修指導書」にも目を通してほしい。

参考文献

『世界美術大全集』全 28 巻、小学館
上記の全集に関しては、レポート作成の際にも、参考文献の 1 冊にどの巻が入っていることを強く推奨します。
(購入は不必要。全国の公共図書館／大学図書館にて閲覧可能)
他に『西洋美術の歴史 1～4 (ギリシアとローマからルネサンスまで既刊)』中央公論新社、2016～2017、岩波書店の「岩波 世界の美術」シリーズ全 24 冊も充実している。
ジャンソン『西洋美術の歴史』創元社、2012 (2001) も通史が把握しやすい。この他、単独の作家についての個別研究所など専門性の高い先行研究を参照することが望ましい。

科目試験等への アドバイス

以下の回が試験範囲である。テキストの目次を参考に、本文を読み込んで、具体的な作品で美術の流れを理解しておくこと。試験時間が限られているので、十分な準備が望まれる。

- 第 1 回 先史・古代世界・古代ギリシア・ローマ
- 第 2 回 初期キリスト教・ビザンティン・中世初期
- 第 3 回 ロマネスク・ゴシック
- 第 4 回 ルネサンス・マニエリスム
- 第 5 回 バロック・ロココ
- 第 6 回 新古典主義・ロマン主義
- 第 7 回 印象主義
- 第 8 回 写実主義・後期印象主義
- 第 9 回 20 世紀絵画・彫刻・建築・写真

※本文のポイントを 600 字以上で論述する問題を予定しています。
本文中の様式変遷の理解とともに、巻末の参考文献なども合わせて学習して下さい。詳しくは学修指導書をご参照ください。

教員からの メッセージ

西洋美術史のテキストは基本的な知識を簡潔にまとめた名著です。流れを把握するにはとても良いのですが、作品一つ一つの理解にはどうしても各自の掘り下げが必要となります。テストやレポート対策も兼ねて、各章で興味を持った画家や作品を調べておくとういでしょう。巻末の参考文献を多いに活用してください。関連作品や画像を本やインターネットで確認しながら勉強を進められるのは通信教育ならではの利点だと思います。そして、本やデジタル画像ばかりでなく、ぜひ、実物の、本物の芸術作品に数多く触れて、皆さんの作品を観る眼やセンスを磨いてください。

科目概要	西洋世界で展開してきた人間のさまざまな営みが、相互に密接に関連しながら、各時代や地域において固有の時空間を形成していることを、文献資料や現存する作品の事例をもとに精査する。
主な到達目標	西洋の各地域は時代ごとに展開してきた人間の社会的、政治的、芸術的、技術的な営みが、相互に密接に関連することによって、特色ある世界観を形成していることを、具体的な作品や文献資料の例を挙げて説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	テキストで歴史的な背景や時代の特徴を理解してから、それぞれの興味に応じて、美術、文学、音楽、学問、技術といった各分野への具体的な作品に当たってほしい。学修指導書の参考文献を積極的に利用し、視野を広げ、知識を深めてゆく姿勢が期待される。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに 西洋＝ヨーロッパとは	現代の日本とは異なる「文化」を持つ「西洋」の定義に関する地理的、歴史的、宗教的な枠組みを考える。
2	古代から中世へ	古代ギリシアを継承した古代ローマの文化と、ケルト、ゲルマン民族の広がるヨーロッパの文化がキリスト教を中心に融合しはじめた時代をとらえる。
3	封建社会とヨーロッパの拡大	支配階級が勢力を拡大し封建社会を形成していった過程を知る。同時に、十字軍による東西の文化の交流などの変化をとらえる。
4	中世ヨーロッパの農村文化	封建社会の領主たちの生活を支えた農村世界がどのようなものであったかを知る。三圃制などの農業改革、人口の増加、毛織物などの産業の発達をみる。
5	中世ヨーロッパの都市文化	地方の都市が形成され、司教座や大聖堂を中心とした商業や交通の文化の中心地、政治的な共同体となっていた過程を知る。
6	キリスト教の教会と修道院の文化	中世のキリスト教文化を牽引した修道院と教会に焦点を当て、都市に建てられたゴシック建築と各地に残るロマネスク建築の教会を比較する。
7	中世後期の社会と文化	中世末期の政治的な混乱、気候変動や疫病という大きな危機と変化の時代と、それらを反映した美術や思想を知る。
8	ルネサンスの文化 1	イタリアを中心とした美術、建築、人文主義の文学などのルネサンス文化の始まりとその革新性を知る。
9	ルネサンスの文化 2	宗教改革、大航海時代を背景に、イタリアからネーデルラント他、ヨーロッパ各地に広まったルネサンス文化を追う。
10	宗教改革期の政治と文化	宗教改革と当時の社会背景、文化への影響を、活版印刷による書物の普及を中心に考えてゆく。
11	大航海時代の文化	大航海時代の覇権を手にしたスペイン、ポルトガルをはじめとしたヨーロッパの王国の覇権争いと、諸国が異文化を求めてアメリカやアジアに進出していく様子を見る。
12	近代の科学と技術、学問と商業の発展	地動説に代表されるルネサンス以降の科学技術や、物理や天文学、博物誌などの学問、商工業の発展を見る。
13	啓蒙主義時代の文化	絶対王制を批判し、社会と人間、自然との関わりを模索した啓蒙主義の思想家とその著作を知る。
14	帝国主義、自由主義の時代の文化	フランス革命とナポレオン戦争の後のヨーロッパに広まった自由主義思想とナショナリズム、社会主義などの様々な思想の広がりを知る。
15	ヨーロッパの歴史と文化	中世から近世までの歴史を振り返り、現代のヨーロッパの文化の枠組みを再考する。とくにキリスト教社会と現代の民族や宗教の混交問題を再考する。

シラバス執筆：毛塚 実江子

レポート課題

第1分冊 毛塚 実江子

第2分冊 毛塚 実江子

第1分冊 〈略題〉中世のキリスト教文化を反映した特定の作品について
古代末期からルネサンス以前

横書き指定

Word添付
3000字程度

〈課題〉

キリスト教文化が反映された作品を、美術、建築、音楽、文学いずれかから一つ選び、基本情報（作品名、制作年代、所蔵地、わかっている作者名）を明確にしたうえで、その作品にどのようにキリスト教的が反映されているかを当時の時代背景を考慮しながら述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・レポートの基本的な作成方式に従うこと（章立て、タイトル、参考文献、註などの様式を守る）
- ・剽窃はしない。
- ・調べた情報と自分の考察とをしっかりと分ける。
- ・使用した図版の典拠を必ず明記する。
- ・Wikipedia やまとめサイトなど、著者が不明なインターネットの記事は参考文献としては不可なので注意。
- ・註・参考文献は必須。
- ・インターネットを使用してもよいが、参考文献として書籍を3冊以上挙げる。

〈評価の観点〉

- ・問いをしっかりと立て、それにこたえるための情報をあつめ、考察し、結論しているかという形式を見ます。
- ・自分なりに考えた結論が論理的にまとめられているかどうかを評価します。
- ・文献で他の人の考えを参照する場合は必ず註をつけること。引用、要約なども同様です。
- ・3000字程度とは1割前後の文字数の増減を認めます。最後に何文字かカウントして表記してください。文献や註は文字数に入れません。

〈その他の注意点〉

- ・インターネットの利用は注意が必要。辞典や教会、自治体などの公式ホームページや研究者のホームページであれば参照できる。3冊以上の書籍を使い、学修指導書やテキストに載っている参考図書も1冊は挙げるのが望ましい。
- ・無理に難しいことを書く必要はないので、かならず自分の言葉で理解した範囲でまとめるようにしてください。
- ・テーマに対して新しい知見を導き出すのは難しいので、読んだ本の中で自分の考えに近いもの、反対のものを参考にしながら自分なりの考察を深め、まとめてください。

第2分冊 〈略題〉作品と個人、同時代文化の反映
ルネサンスから現代までのヨーロッパの作家

横書き指定

Word添付
3000字程度

〈課題〉

ルネサンス以降から現代までのヨーロッパの作家を対象とし、時代の影響を色濃く受けていると思われる作品の一つを選び、その作品のどのような部分が、どのように影響を受けているかについて、各自の考えを明らかにする。1分冊目と同様、最初に作家の情報（生没年）、制作年代、作品、作品名（サイズや所蔵地も分かっている場合は挙げる）を明らかにし、具体的にその特徴が表れているところを指摘する。時代の影響とは、その時代に盛んであった主義や思想、作品のテーマなどを指す。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・第一分冊と注意点は同様。今回は3000字「以上」とした。3000字を越えていけばよい。文字数の多さによって点数が変わるものではないので、無理に増やす必要はない。

〈評価の観点〉

- ・第一分冊と評価の観点は基本的には同様である。扱う範囲が広いので、自由度が上がるが、もしも迷うようであれば、学修指導書の課題例を参考に考えてほしい。例えば「〇〇主義の代表的な作家」、といわれている人物であれば、その作家のどの作品にその特徴が顕著かなどを調べ、自分で納得した点から特徴を考察し、結論する。

〈その他の注意点〉

第一分冊と同様。第一分冊による講師のコメントを生かし、より良いレポートを仕上げてください。

参考文献

.....
テキストの各章末、および学修指導書に掲載します。

科目試験等への
アドバイス

.....
試験の範囲は以下の通りである。テキストをあらかじめ読んだうえで、各自の関心に沿い「キーワード」の具体的な情報を調べておくこと。

- 第1回ヨーロッパの「文化」（1章）
- 第2回「カロリングルネサンス」
- 第3回11世紀から13世紀頃のヨーロッパの「封建社会」と「文化」
- 第4回ロマネスクの「修道院」と「巡礼」、ゴシックの「修道会」と「都市」
- 第5回ルネサンスの「文化」（8章）
- 第6回「反宗教改革（カトリック改革）」、「大航海時代」
- 第7回ルネサンスの「科学」、「啓蒙時代」の思想（12、13章）
- 第8回今日の「キリスト教文化」（14章）

※基本的な情報だけでなく、そのキーワードが時代をどのように反映しているのか、どのような位置づけにあるのかなど、自分の言葉で詳しく説明できるように調べてください。

教員からの
メッセージ

.....
テキストは高校の世界史から一歩踏み込んだ内容となっています。不明な単語や用語はそれぞれで調べてもらうことになります。「文化」のジャンルは広いですが、自分が選択した作品に興味を持って調査をしてもらいたいと思います。

科目概要	日本と諸外国の教育と文化を「比較する」ことを通じて、これらの相違点と類似点について整理し、理解を深めることを目的とする。
主な到達目標	日本と諸外国の教育と文化について、(1) 知る。(2) 比較する。(3) 類似点を見つける。(4) 相違点を見つける。(5) 類似点と相違点が生まれた意味を考える。(6) 日本及び諸外国の教育と文化の特色とその背景を説明できる。
テキスト学修の留意点	学修指導書に従い、第1分冊と第2分冊の内容を自分なりに整理する。順序は問わない。

	学修テーマ	課 題
1	教育と文化を比較する	教育と文化を比較することの意味を考える。
2	比較の根拠	教育の制度、統計、内容等を比較する意味を考える。
3	比較の方法	世界を比較する際の多様な研究方法に興味を持つ。
4	学校システムの機能	初等中等教育及び高等教育が何を目指しているのかを考える。
5	国際化と教育・文化	国際化における外国語の意味、異なる文化を経験することの意味を考える。
6	多文化社会の現状と課題	異なる文化を持つことの意味、複数の文化が併存することの意味を考える。
7	教育を取り巻く状況	幼児教育と学校教育の関係、学校教育における教員の役割を考える。
8	北米の教育	連邦国家であるアメリカやカナダの教育制度の多様性を考える。
9	ヨーロッパの教育 (1)	イギリスとフランスの分権・集権制の意味を考える。
10	ヨーロッパの教育 (2)	学校システムの選抜機能と統合機能について考える。
11	東アジアの教育	競争圧力が高いとされる中国や韓国の教育について考える。
12	東南・南アジアの教育 (1)	経済発展と教育・文化の関係について考える。
13	東南・南アジアの教育 (2)	文化・宗教の多様性と教育・経済発展について考える。
14	イスラム圏の教育、オセアニア・中南米の教育	欧米型近代化とイスラームの関係について考える。諸国の教育改革を分析するオーストラリアと中南米諸国の教育を考える。
15	まとめ	世界の教育と文化環境を自分なりに意味づける。

シラバス執筆：坂野 慎二

レポート課題

第 1 分冊 坂野 慎二

第 2 分冊 坂野 慎二

第 1 分冊 〈略題〉比較の目的・対象・方法 第 1 章から第 11 章まで

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

教育を比較する場合の、比較の (1) 目的、(2) 対象、(3) 方法をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(1) 目的は主に 1 章、(2) 対象は主に 2 章、(3) 方法は主に 3 章を参考にすること。

〈評価の観点〉

それぞれのポイントが含まれているか。それぞれの関係をとらえているか。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献、参照した web サイトは、「参考文献等」として記載すること。
- ・段落分けを適時行うこと。

第 2 分冊 〈略題〉北アメリカとヨーロッパ 第 12 章から第 18 章まで

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

北アメリカとヨーロッパにおける教育の特徴を、(1) 類似点と、(2) 相違点に分けてまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(1) は対象国の教育改革の全体的傾向を整理すること。(2) は任意の 2 か国を選び相違点をまとめること。

〈評価の観点〉

全体的傾向が把握できているか。選択した 2 か国の相違点がまとめられているか。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献、参照した web サイトは、「参考文献等」として記載すること。
- ・段落分けを適時行うこと。

参考文献

坂野慎二・藤田晃之編著『海外の教育改革』（改訂版）放送大学教育振興会、2021 年
二宮皓編著『世界の学校 : 教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、2023 年

科目試験等への
アドバイス

大きな傾向や流れを把握した上で、それぞれの国や地域の特色を理解するようにしてください。

教員からの
メッセージ

現在の日本における教育改革特色を世界の中で意味づけしてみましょう。

TT0250 世界の宗教と文化

2単位

テキスト名

『教養としての宗教学
ー通過儀礼を中心に』
(日本評論社、2019年)

科目概要	この科目では神道、仏教、キリスト教、イスラム教、その他諸宗教を「通過儀礼」の視点から分析し、これらの宗教の特徴、またそこから生み出された文化を学びます。
主な到達目標	(1) 世界の諸宗教を「通過儀礼」の視点から分析し、その特徴を説明することができる。 (2) 通過儀礼の意義、またそこから生まれた様々な文化を理解し、説明することができる。
テキスト学修の留意点	(1) 下記の各課題について、必ずすべてを自分の言葉で説明できるようにしてください。 (2) 各宗教の基本事項は、事典や参考文献を用いて各自で学習してください。 (3) 個々の事柄を理解するだけでなく、想像力を働かせてその宗教に生きる人々を内面的に理解するように努めてください。

	学修テーマ	課 題
1	宗教は私たちに どういう意味を持つか	(1) なぜ宗教を学ぶ必要があるのですか。 (2) 人間が宗教に関心を持つきっかけとして、何が考えられますか。
2	宗教とは何か ーその定義と現象	(1) 宗教の定義はなぜ難しいのでしょうか。 (2) なぜ宗教を定義する必要があるのでしょうか。
3	通過儀礼の重要性	(1) 通過儀礼とは何ですか。 (2) 人生において通過儀礼はなぜ必要なのですか。
4	通過儀礼の構造	(1) 通過儀礼の構造について説明してください。 (2) 通過儀礼の構造に当てはめれば、現在の日本の成人式は通過儀礼と言えるでしょうか。
5	神女になる ー沖縄久高島のイザイホー	(1) 神女になるプロセスを、通過儀礼の構造に当てはめて分析してください。 (2) ここでの通過儀礼では「洗い髪」がキーワードとなっています。「洗い髪」は何を表しているのでしょうか。
6	僧侶になる ー禅宗の雲水たち	(1) 僧侶になるには、どのようにすればよいのでしょうか。 (2) 旦過寮で特に過酷な修行を課せられるのはなぜでしょうか。
7	大阿闍梨になる ー比叡山の千日回峰行	(1) 酒井雄哉氏と細川晋輔氏とは、それぞれ厳しい修行を経験していますが、それによって何を得たと言っていますか。またそれについてあなたはどのように考えますか。 (2) ここでは、通過儀礼における「分離」の段階が重要だと言います。その理由を述べてください。
8	イエスと釈迦はどうやって 開祖となったのか	(1) イエスと釈迦が経験した通過儀礼について解説してください。 (2) ムハンマドの通過儀礼が重視されないのはなぜでしょうか。
9	信仰を得るための回心	(1) 「一度生まれ」と「二度生まれ」について、それぞれの特徴を解説してください。 (2) アメリカのキリスト教福音派は、なぜ「サマーキャンプ」を行うのでしょうか。
10	通過儀礼としての巡礼	(1) 巡礼はなぜ通過儀礼と言えるのでしょうか。 (2) メッカ巡礼について説明し、それがイスラム教徒に何をもたらすか述べてください。
11	宗教集団の遭遇する試練	(1) 「出エジプト」とは何でしょうか。 (2) ピルグリム・ファーザーズの人々が信仰に熱心な理由について述べてください。
12	神秘家の宗教体験	(1) 神秘体験が隠喩や詩で表現されるのはなぜでしょうか。 (2) どうして神秘家は、しばしば弾圧の対象になるのでしょうか。
13	神の死と再生	(1) 『金枝篇』において、王や祭司が最終的に殺されるのは、なぜでしょうか。またこの考え方の背景にあるものは何でしょうか。 (2) 「死と再生」について、具体例をあげて説明してください。
14	宗教の危機はどのように 訪れるのか	(1) 宗教団体にとって弾圧を受けることは、どのような意味を持っていますか。 (2) 信仰を持つ人間の特徴について述べてください。
15	改めて宗教の意味を問う	(1) 「世俗化」とは何ですか。 (2) 現代社会において宗教が衰退しているなか、イスラム教の信者が増加し続けているのはなぜでしょうか。

シラバス執筆：桐藤 薫

レポート課題

第1分冊 桐藤 薫

第2分冊 桐藤 薫

第1分冊 〈略題〉宗教と通過儀礼について 第1章～第7章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「通過儀礼の構造」について説明し、またそれが人に何をもたらすのか 1,000 字程度で論じてください。
- (2) 宗教における通過儀礼を 1 つ取り上げ、通過儀礼の構造を用いて 1,000 字程度で分析してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 「試練」について必ず触れてください。
- (2) 通過儀礼の構造の諸段階について、それぞれ具体的に論じてください。

〈評価の観点〉

- (1) 文章表現力
- (2) テキストの理解度（テキスト全体を理解しているかどうか）
- (3) 構成力（問いの立て方、論理展開など）
- (4) 思考力、分析力
- (5) その他（引用の仕方など）

〈その他の注意点〉

- (1) テキストを熟読し、内容を理解した上でレポートを作成してください。
- (2) 文献を引用した場合は「」（カギカッコ）を使用し、出典を明示してください。そうでない場合は盗用、剽窃と見なし、評価の対象外とします。また、引用の羅列も認められません。
- (3) 引用文献は学術的に信頼できるものに限り、学術的に信頼できないインターネット上の情報は使用しないでください。

第2分冊 〈略題〉現代社会における宗教の意義について 第8章～第15章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 危機や弾圧は信者や宗教集団にとってどのような意味を持つのか、1,000 字程度で論じてください。
- (2) 宗教の未来について、テキストの議論を踏まえた上であなたの考えを 1,000 字程度で論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 危機や弾圧を経験しなかったケースと対比してください。
- (2) 「通過儀礼」と「世俗化」について必ず触れてください。

〈評価の観点〉

- (1) 文章表現力
- (2) テキストの理解度（テキスト全体を理解しているかどうか）
- (3) 構成力（問いの立て方、論理展開など）
- (4) 思考力、分析力
- (5) その他（引用の仕方など）

〈その他の注意点〉

- (1) テキストを熟読し、内容を理解した上でレポートを作成してください。
- (2) 文献を引用した場合は「」（カギカッコ）を使用し、出典を明示してください。そうでない場合は盗用、剽窃と見なし、評価の対象外とします。また、引用の羅列も認められません。
- (3) 引用文献は学術的に信頼できるものに限り、学術的に信頼できないインターネット上の情報は使用してはいけません。

参考文献

.....
 テキストの「あとがき」に参考文献の紹介があるので、そちらを参照してください。その他の文献を参考にする場合は、学術的に信頼できるものを利用するようにしてください。

科目試験等への
アドバイス

.....
 テキストの内容を深く理解するために、手書きノートで内容を整理することを勧めます。私自身、このテキストを理解するのにノート 1 冊をすべて使い、1 か月ほど時間がかかりました。手書きは時間がかかりますが、その時間が思索をもたらし、多くの気づきを得るきっかけとなります。哲学、宗教の問題は、自分の考えを熟成させる時間が必要です。課題をさっさと済ませてしまおうと思わずに、じっくり課題と向かい合ってください。科目試験の答案については、テキストで書かれている事柄を自分の問題として受け取り、考えている内容を高く評価します。

教員からの
メッセージ

.....
 異なる価値観を持つ他者を内在的に理解するには、知識とともに想像力が不可欠です。「なぜこのように考えるのだろう」、「なぜこのような生活習慣なのだろう」など、ぜひ想像力を働かせてテキストを熟読してください。

科目概要	本科目の目的は、本学のカリキュラム構成の前提となっている全人教育という建学の理念を理解し、今後の大学生活で経験する本学の教育内容の意義を知り、各自の学習／研究活動のパースペクティブを得ることにあります。総論として新教育思想と小原國芳の生涯、全人教育思想の構造とその前提となる人間観・学問観、及び各論として学問、道徳、芸術、宗教と教育の関わりが具体的な学習の対象となります。
主な到達目標	1) 小原國芳が全人教育を提唱し玉川学園を創設した理由を、新教育運動の歴史的経緯と小原の生涯に基づいて説明できる。 2) 全人思想と全人教育思想、及び小原の人間観・学問観・教育観の特徴と相互関係を説明できる。
テキスト学修の留意点	*人によっては難解に感じるテキストです。要点を着実にノートにまとめながら読み進めてください。 *使用されている概念の意味を、文脈に即して正確に理解するよう努めてください。 *本テキストの読解には、哲学及び教育史の基礎知識が必要となる部分が少なくありません。わからない用語に出会った時には、専門の事典・辞典類を図書館等で見つけて参照してください。

	学修テーマ	課 題
1	小原國芳の生涯： 幼少期から鹿児島師範学校時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原が少年時代に両親及び田実源之助先生から受けた感化／b) 電信局時代に示した教育者としての資質／c) 鹿児島師範時代に受けた影響
2	小原國芳の生涯： 広島高師時代から京都帝大時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原が広島高等師範学校時代に受けた思想形成上の影響／b) 香川師範学校教諭時代の教育実践の特色／c) 京都帝国大学時代に受けた思想形成上の影響
3	小原國芳の生涯： 広島高師付属小時代から玉川学園時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の広島高師付属小時代の教育者としての特色／b) 成城学園の教育と経営に示された小原の教育者としての特色／c) 玉川学園時代の小原教育の特色
4	新教育の歴史	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 旧教育と対比した上での新教育の特色 b) 明治期における新教育理論の摂取の経緯／c) 国内外の新教育の実践活動／d) 国内外の新教育の理論
5	全人教育思想と宗教教育思想の形成	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の全人思想及び全人教育思想形成に関して影響を与えた思想／b) 小原の宗教観形成に影響を与えた思想、特に西田幾多郎と波多野精一の根本思想
6	道徳・芸術・労作教育思想の形成	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の道徳教育思想形成に影響を与えた思想／b) 小原の芸術教育思想形成に影響を与えた思想／c) 小原の労作教育思想形成に影響を与えた思想
7	全人教育の方法原理の形成と全人教育思想の構造	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 身体教育が全人教育思想においてもつ位置と役割／b) 塾教育が全人教育思想においてもつ位置と役割／c) 価値体系論からみた全人教育思想の構造
8	第1分冊研究問題	第1分冊全体を通じて学んだ内容を、テキスト120ページ所載の研究問題について考察することを通して確認してみましょう。
9	全人教育の捉え方： 小原國芳の人間観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人という概念の意味／b) 小原が捉える人間存在とは
10	全人教育の捉え方： 小原國芳の学問観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育論における「無主義の主義」の意味／b) 知識と知恵の関係（哲学と教育の関係に基づいて）
11	全人教育の捉え方： 小原國芳の成長観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育における「中庸」の概念の意味と意義／b) 労作教育が全人教育の中核におかれている理由／c) 全人と個性との関係（普遍と特殊の関係に基づいて）
12	全人教育の展開： 学問と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 教育における理論と実践の関係（文化の創造と伝達に基づいて）／b) 教育の大衆化に対応する教育目的のあり方／c) 全人教育における自律性と他律性の関係
13	全人教育の展開： 道徳と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育論における徳育上の調和／b) 「硬教育」論と教育者の指導性／c) 「教育は情実なり」ということの意味／d) 意欲の理性化と理知の実践化の関連
14	全人教育の展開： 芸術・宗教と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 神に対する知的及び道徳的要求から規範意識へと至る論理／b) 芸術教育における多方興味と情操化の関係／c) 芸術教育における個性化と普遍化の過程の一致
15	第2分冊研究問題	第2分冊全体を通じて学んだ内容を、テキスト pp.263-264 所載の研究問題について考察することを通して確認してみましょう。

レポート課題

第1分冊 今尾 佳生

第2分冊 今尾 佳生

第1分冊 〈略題〉小原國芳の思想形成 1～3章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

小原國芳は自らの教育思想をどのように形成したか。その画期となる小原の生涯の時期と体験内容、それによって形成された思想内容を3カ条以上関連づけて説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の主旨を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 教科書や参考文献で使用されている概念の意味を、文脈に即して正確に理解するよう努めること。
- (3) 自分の知性・感性を発揮して読解した内容を主体的に解釈すること。引用は最小限にし、可能なかぎり自分の言葉でまとめること。
- (4) 小原國芳の生涯に関する記述を通読し、その時代ごとの要点をノートによく整理してから執筆構想を立てること。
- (5) 全人思想・全人教育思想の具体的内容を、第1分冊全体を通読しながら把握し、小原の生涯と関連づけること。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨・注意事項を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
 - (2) 課題に関わる教科書の当該力所の要旨を自分の言葉でまとめられているか。
 - (3) レポート全体の構成が序論・結論を含め、全体として論理的に組み立てられているか。
 - (4) 明晰で、しかも教科書や参考文献の記述に依存しすぎることのない文章表現でまとめられているか。
 - (5) 考察の内容が主体的であり、かつ妥当性のある論拠に基づいたものであるか。
- なお教科書やその他参考文献の当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

くれぐれも、課題の趣旨や注意事項などを確認してから執筆するようにしてください。

第2分冊 〈略題〉小原國芳の個性観の現代的意義 4～5章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

小原國芳の個性観の特徴について説明し、それが現代日本の社会・教育においてどのような意義をもつのかを考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 読解した内容を主体的に解釈すること。引用は最小限にし可能なかぎり自分の言葉でまとめること。
- (2) 全人教育と個性尊重との間に矛盾が無いことを論理的に突き詰めて理解すること。
- (3) 小原の個性観がただの相対的な「個人差」のみを意味しているのではないことに留意すること。
- (4) 現代的意義の部分では、抽象論に陥ることなく、現代社会・教育の課題を自分なりによく考えてまとめること。
- (5) 特に小原の思想について述べる部分は、教科書の当該記述の丸写しに近いものにならないよう充分に気をつけること。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨・注意事項を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
 - (2) 課題に関わる教科書の当該力所の要旨を自分の言葉でまとめられているか。
 - (3) レポート全体の構成が序論・結論を含め、全体として論理的に組み立てられているか。
 - (4) 明晰で、しかも教科書や参考文献の記述に依存しすぎることのない文章表現でまとめられているか。
 - (5) 考察の内容が主体的であり、かつ妥当性のある論拠に基づいたものであるか。
- なお教科書やその他参考文献の当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

くれぐれも、課題の趣旨や注意事項などを確認してから執筆するようにしてください。

参考文献

小原國芳（1969）『全人教育論』玉川大学出版部
 小原哲郎編（1985）『全人教育の手がかり』玉川大学出版部
 古沢常雄・米田俊彦編（2009）『教育史（教師教育テキストシリーズ）』学文社

科目試験等への
アドバイス

＊当然のことですが、科目試験はテキスト学習が充分に行われていることを前提としています。テキストに1度目を通した、という程度で合格に漕ぎ着けるのは難しいでしょう。章節ごとに時間をかけて丁寧に読解し、要点を着実にノートにまとめ、演習問題をやっておくことが大切です。「学問に王道なし」です。
 ＊試験を受ける時には、とにかく先ず問題文をじっくり読み取り、何が要求されているのかを適切に判断してから書くべき内容を決めてください。

教員からの
メッセージ

テキスト学習をする際には、読み取った内容を出来る限り自分の言葉でまとめ直すことが大切です。また、レポートを執筆する際には、課題の趣旨を十分に踏まえ、「シラバス・レポートガイド」所載の留意事項や評価の観点の一つ一つ丁寧に確認することを心がけてください。

科目概要	総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を、新設前からの歴史的な経緯で理解し、必要な基礎的能力を身につけて、実際に指導計画作成ができるようにする。総合的な学習の時間の、各教科や特別活動との関わりを考え、21世紀型学力を育成することができる実践上の留意点や評価の考え方を理解する。
主な到達目標	- 総合的な学習の時間の意義や目標、内容を定める際の考え方を理解する。 - 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その際必要な知識的な能力を身につける。 - 総合的な学習の時間の評価と実践上の留意点を理解する。
テキスト学修の留意点	- 漠然とテキストを読み進めるのではなく、重要な語句にアンダーラインを引き、サブノートを作成して、内容の意味をまとめる作業を加えること。 「総合的な学習の時間の理論と方法」を学修する上で、実際の授業風景をイメージすること。 - 参考文献にも目を通し、さらに内容の理解を深めること。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに	総合的な学習の時間について、教科指導とどのように違うのか考える。(主にテキスト 2 頁-4 頁参照)
2	総合的な学習の時間の歴史的背景	総合的な学習の時間の導入の背景と経過について (主にテキスト 11 頁-27 頁)
3	総合的な学習の時間の現在の目標と背景	総合的な学習の時間の現在の教育目標を確認し、そのようになった背景や、現在求められている力について考える。(主にテキスト 27 頁-32 頁)
4	総合的な学習の時間の課題	総合的な学習の時間の現在の問題点や課題について考える。(第 1 回から第 3 回までのまとめと 32 頁-34 頁参照)
5	総合的な学習の時間の教育課程における位置	総合的な学習の時間の現代における位置や役割を考えるために、野村芳兵衛のカリキュラム論について参照する。(主にテキスト 35 頁-53 頁)
6	総合的な学習の時間の実践例Ⅰ	現代の実践例から総合的な学習の時間の指導について考える。(主にテキスト 63 頁-86 頁)
7	総合的な学習の時間の実践例Ⅱ	現代の実践例から総合的な学習の時間の指導について考える。(主にテキスト 87 頁-104 頁)
8	単元づくり、授業づくり	総合的な学習の時間の単元づくり、授業づくりについて考える。(主にテキスト 54 頁-58 頁参照)
9	ICT 活用について	総合的な学習の時間における ICT 活用について考える。
10	総合的な学習の時間の指導計画Ⅰ	指導計画をどのように立てたらよいか考える。(主にテキスト全般と 54 頁-58 頁)
11	総合的な学習の時間の指導計画Ⅱ	課題設定について、考え方を理解し自分の課題を立てる。(主にテキスト全般と 54 頁-58 頁)
12	総合的な学習の時間の指導計画Ⅲ	情報の収集と整理・分析について、考え方を理解し実際に具体的に考える。(主にテキスト全般と 54 頁-58 頁)
13	総合的な学習の時間の指導計画Ⅳ	まとめ・表現について、考え方を理解し実際に考える。(主にテキスト全般と 54 頁-58 頁)
14	総合的な学習の時間の指導計画のまとめ	総合的な学習の時間の指導計画を発表するつもりで、自分の内容についてまとめる。
15	総括	これまでの学修を振り返り、総合的な学習の時間の実際について考える。

シラバス執筆：富澤 美千子

レポート課題

第 1 分冊 富澤 美千子

第 1 分冊 〈略題〉総合的な学習の時間の教育課程における役割と課題
テキスト全般

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

総合的な学習の時間が新設された背景とその後の歴史的変遷について述べ、総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明し、今後の課題について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①レポートの該当箇所を熟読し、キーワードを押さえて記述すること。その際、テキストに記されていることを正確に集約すること。また、自分の意見を述べる時も、テキストの内容を踏まえた上で論じること。
- ②テキストの内容を丸写ししないこと。しかしキーワードや説明等で、引用は必要に応じて行うこと。その際、「」を使い、自分の言葉と正確に分けて記述すること。
- ③文末に文字数と、引用・参考文献が他にあれば明記すること。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を正確に理解しているか。
- ②自分の言葉で（必要に応じて引用し）表現されているか。
- ③文章に整合性があるか。
- ④わかりやすく記述されているか。

〈その他の注意点〉

Web で提出するとき、大学指定のテンプレートを使用すること。基本的に MS 明朝 10.5 ポイント（必要に応じてゴシックを使ってもよい）、2,500 字程度でまとめ、文末に合計字数を明記すること。

参考文献

- ①「小学校あるいは中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編」（平成 29 年告示）
- ② 山住勝広編『子どもの側に立つ教育—生活教育に根ざした主体的・対話的で深い学びの実現』北大路書房，2017 年

科目試験等への
アドバイス

テキストの内容をよく理解し解答することが重要である。漠然と読み進めるのではなく、重要な語句にアンダーラインを引いたり、マーカーで色を付けて、キーワードを把握すること。その上で、実際に具現することを想像することが重要である。

教員からの
メッセージ

科目試験に合格するためには、総合的な学習の時間の役割について理解し、具体的に結び付けて、じっくり考えることが大事です。

科目概要	小学校教員に必要な教科体育の基礎的な理論と知識を理解する。また、学習指導要領の成り立ちや読み方を学び、具体的なそれぞれの学習内容についての知識と技能指導のポイントを理解する。
主な到達目標	・ 小学校の体育の特色・目標について説明できる。 ・ 小学校学習指導要領（体育科）について領域・構成を説明できる。 ・ 児童の健康・体力に関する課題を説明できる。 ・ 学習内容について指導のポイントを説明できる。
テキスト学修の留意点	・ 各章の課題について、解答をまとめ、説明できるようにする。 ・ テキスト学習だけにとらわれず、各章末記載の「引用・参考文献」などを参考に他の資料等でさらに学習を深めることを望む。 ・ レポート作成は、「レポート課題」の評価の観点を参考に作成する。

	学修テーマ	課 題
1	体育の特色	体育の概念と学習指導要領の変遷をまとめる。
2	学習指導要領の概要	改訂の趣旨と課題についてまとめる。 体育科の目標についてまとめる。
3	発育・発達	発育と発達の特徴についてまとめる。
4	小学生の体力	スキャモンの発育曲線についてまとめる。 体力テストの項目ごとに測定される体力要素についてまとめる。
5	子どもの生活	子どもを取り巻く環境変化と体育の課題についてまとめる。 子どもの成長に対する学校体育の役割についてまとめる。
6	小学生に対する運動指導	オープンスキルとクローズドスキルについてまとめる。 全習法と分習法についてまとめる。
7	子どもの安全	体育の授業中の事故やケガの一般的な特徴と指導上の留意点についてまとめる。
8	保健	保健の授業を展開する上での留意点についてまとめる。
9	体づくり運動	体づくり運動の内容構成についてまとめる。 体ほぐし運動についてねらいと具体例をまとめる。
10	器械運動	器械運動の特性についてまとめる。 つまずきと解決のポイントから指導のポイントをまとめる。
11	走・跳・陸上運動	走・跳・陸上運動の特性についてまとめる。 運動指導のポイントをまとめる。
12	水泳	運動の特性についてまとめる。 指導のポイントについてまとめる。
13	ゲーム	鬼遊びとボールゲームの共通技能についてまとめる。
14	ボール運動	運動の特性についてまとめる。 指導のポイントについてまとめる。
15	表現運動	表現運動における評価の観点をまとめる。 各学年における指導者のかわり方についてまとめる。

シラバス執筆：川崎 登志喜

レポート課題

第1分冊 久保 賢太郎

第2分冊 山田 信幸

第1分冊 〈略題〉子ども達の生活環境から導く体育の課題
テキスト第1章、第2章、第3章、第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

現在の子ども達が置かれている生活環境の問題点を整理し、子ども達の健康や体力を向上させるための体育の課題について論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・子ども達の生活環境を数的データを用いて客観的に分析しながら論述すること。

〈評価の観点〉

1. 子ども達の生活環境や現状について客観的データをもとに分析できていること。
2. 上記の2点を踏まえた上で、今後の体育の課題が明記されていること。
3. 1～2の観点がバランスよくまとまっていない場合や文字数・余白などのフォーマットが整っていない場合には再提出評価になります。

〈その他の注意点〉

テキストの理解が重要です。

第2分冊 〈略題〉ゲーム、ボール運動における運動技能の特性 テキスト9章～16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

鬼遊びとボールゲームで共通する運動技能の特性はどのような点にあるか述べなさい。
また、子どもにとって安全で楽しい「ゲーム」とはどのようなものか？例示して指導上の留意点を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

記述する内容を項目立てし、論点を明確にしてください。
他者の論文、レポートの剽窃（コピー・ペースト）は厳禁です。

〈評価の観点〉

鬼遊びとボールゲームで共通する運動技能の特性が明確に示されていること。
「ボールを持たないときの動き」について言及されていること。
誤字、脱字、変換ミスがないこと。
項目立てが明確であること。

〈その他の注意点〉

テキストの理解が重要です。別の表現をする場合や本人の体験等に触れる際には根拠となる資料を示すこと。

参考文献

.....
各章末の参考文献をそれぞれ参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・テキストの内容を理解して説明できるかがポイントである。
 - ・独りよがりな解答ではなく、採点者になったつもりで解答することを心がける。
 - ・科目試験問題はシラバスの課題を中心に出題されるので、課題にしっかり取り組むこと。

教員からの
メッセージ

.....
教科書内に示されている参考文献をもとにさらに学修を深めてほしい。
レポートや試験は提出する前に、もう一度読み返してみることをおすすめする。

科目概要	児童の心身をめぐる諸問題を解決するためには、知、徳、体の調和のとれた発達が大切であり、いわゆる「生きる力」を育むことがますます重要になる。また、毎年実施される子どもたちの体力・運動能力調査においては、一部改善の様子は見られるものの、依然停滞や低下傾向にある。以上のことを念頭におきながら、学習指導要領に基づき、児童の発育・発達の特徴、体育の考え方、学習指導や評価法などについて学ぶ。
主な到達目標	子どもたちの心身の発育・発達の特徴と各運動領域（運動系）の特性や指導の適時性を踏まえながら単元計画を立て、指導案（単位時間計画）を作成した上で模擬授業ができるところまで実践力を身につける。
テキスト学修の留意点	レポート作成に当たっては以下の点に留意すること。 ・テキストの内容をまとめるだけでなく、学校現場や現在の子どもたちの様子について、日頃の情報収集も大切である。 ・レポート課題に記載された留意事項や評価の観点を参考にしてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	小学校学習指導要領の理解	総説を理解する。 体育科改訂の要点を理解する。
2	体育科の目標	体育科の目標と内容構成を知る。
3	年間指導計画と単元計画の理解	体育科の年間指導計画と単元計画を理解し、作成する。
4	体育の指導と評価を理解	体育科指導と評価のあり方を知る。
5	教材づくりの理解	単元教材の作成と教材づくりの方法を知る。
6	体育科の学習指導論	学習指導理論と学習形態を知る。
7	体育における安全とインクルーシブ教育	体育事故の実態を知る。体育科におけるインクルーシブ教育の理解。
8	体育科の ICT 活用の理解	ICT の活用例からその効果を知る。
9	体づくり運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 体づくり運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
10	器械運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 器械運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
11	陸上運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 陸上運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
12	水泳運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 水泳運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
13	ボール運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 ボール運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
14	表現運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 表現運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
15	保健領域の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 保健の学習指導計画作成のポイントは何か。

シラバス執筆：

レポート課題

第1分冊 南島 永衣子

第2分冊 南島 永衣子

第1分冊 〈略題〉指導と評価の計画 1～165頁

横書き

Word添付

〈課題〉

3年ゴール型ゲーム（タグラグビー以外）の単元を1つ選び、8時間単元の「指導と評価の計画」を作成せよ。
その際、2時間目～5時間目のいずれかの時間を選び、本時案も作成すること。

【D評価にならないために】

本時案の作成に関連し、単元計画の作成が必須となる。単元計画の作成について忘れた場合は、主としてp.96-97,108-109を参考にするとよい。

②本時案の作成は、p.169の第4章以降の各領域の事例を参考にするとよい。

③本テキストで作成した単元楕図は、国立教育政策研究所の学習評価に関する参考資料（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_taiku.pdf）を参考にしているため、より詳細に知りたい場合は、国研HPを参考にするとよい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「ねらい」「学習活動」「評価の重点」を記述する。矢印を用いてもよい。

レポート作成にあたって、以下の単元構造図の指導案フォームを使用して作成しても構わない。

{単元構造図の指導案フォーム <https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/単元構造図の指導案フォーム.docx>}

1から6の順番で概ね指導計画を立案すること。

その際、単元構造図（エクセル内）を使用する場合は、以下の「3. 単元の目標」、「4. 単元の評価規準」、「5. 指導と評価の計画」、「6. 指導上の留意点」などは既に組み込まれているため、単元構造図に記載の無い内容の「1. 単元名」、「2. 対象」などを上部に持ってきて、番号と見出しをつけ文章を追記すること。

1. 単元名（領域名）
2. 対象（学年や男女の人数など）
3. 単元の目標
 - (1) 知識及び技能
 - (2) 思考力、判断力、表現力等
 - (3) 学びに向かう力・人間性等
4. 単元の評価規準
 - (1) 知識・技能
 - (2) 思考・判断・表現
 - (3) 主体的に学習に取り組む態度
5. 指導と評価の計画
6. 指導上の留意点など

〈評価の観点〉

「ねらい」「学習活動」「評価の重点」を正しく記述できているか。
客観的に記述できているか。

〈その他の注意点〉

教科書以外の参考文献は積極的に活用し、出典を明記する。

第2分冊 〈略題〉学習指導のポイント 167～304頁

横書き

Word添付

〈課題〉

小学校体育科6運動系領域の1つを選び、発達段階による学習指導のポイントをまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

低学年、中学年、高学年について記述する。

〈評価の観点〉

低、中、高学年の差が明確に記述出来ているか。

〈その他の注意点〉

教科書以外の参考文献は積極的に活用し、出典を明記する。

参考文献

『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省

科目試験等への
アドバイス

体育科は、理論を理解した上で実技指導ができることを重視するため、具体的な指導例や指導場面を上げる問題がある。

教員からの
メッセージ

テキスト学習のため、模擬授業の機会はないが、教育実習や将来に備え、できるだけ実技指導の経験を積んでおくことを望む。

①新版の第3章第4節の単元計画の作成を十分に理解したうえで、第4章の各運動領域の指導と評価の計画例（単元構造図）を参考にし、レポート課題を作成して下さい。

※1. 単元目標は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の順になることとそれぞれの目標が混在しないように留意すること。

※2. 対象の児童（学年、男女の人数など）を追記すると更に良い。

※3. 内容によっては、見出しを付けて指導の留意点などを示してもよい。

単元の目標を踏まえ、単元の評価規準を作成することになりますが、

②小学校学習指導要領解説（体育編）の例示を見ながら評価規準を作成して下さい。

評価規準の作成では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的態度」のそれぞれに記載する内容が、

③他の評価に該当する内容と混在しないように気を付けると共に、文末表現にも留意して作成して下さい。

※場合によっては、国立教育政策研究所から出されている「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（体育）

{<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>} を参照してください。

科目概要	当科目では、太陽系誕生から地球形成および地球内部構造を学修する。また、プレートテクトニクスの理解を通して、地震や火山活動のメカニズムを学修する。さらに、海洋や大気の実態を学修する。
主な到達目標	・太陽系の形成過程・地球内部構造・プレートテクトニクスを関連させながら、地震・火山活動を説明できる。 ・地球の形や磁場について説明できる。 ・地球の大気構造、気象現象、気候について説明できる。 ・大気汚染、酸性雨、オゾンホールなどの環境問題および過去の地球環境を説明できる。 ・海洋の循環や塩分・水温分布などについて説明できる。
テキスト学修の留意点	・学修テーマおよび課題についてテキストをもとに学修し、理解し、説明できるようにすること。 ・{こちらの地球科学の web サイト, https://www.s-yamaga.jp/nanimono/nanimono-hyoushi.htm} も併用しながら学修することで、より理解が深まる。 ・レポート作成については、「レポート課題集」に記載した留意点を参考にしてほしい。また、テキストの文脈をそのまま写すのではなく、できるだけ自分の言葉で表現することを期待する。

	学修テーマ	課 題
1	太陽系の中の地球	pp.1-7 ・太陽系の惑星配置を説明できるか ・地球はいつ、どのようにして誕生したか ・地球の内部構造と地震波速度の関係を説明できるか（地震の学修テーマとも関連） ・熱収支の計算から、地球の温度（-18℃）を計算できるか
2	大気の組成とふるまい	pp.15-22, 25-28 ・気象と気候の違いを説明できるか ・地球大気の温度分布と構造、各圏の特徴を説明できるか ・オーロラの発生過程を調べてみる ・雲の形成過程を説明できるか ・フェーン現象を説明できるか ・身近な気象（雨、雹、雪、雷）の発生過程を調べてみる
3	気候と気象	pp.32-41 ・地球の公転と自転軸の傾きから、四季の発生を説明できるか ・季節変化を支配する気団の特徴を説明できるか ・高気圧と低気圧の違いについて説明できるか ・天気に関する簡単な問題が解けるか {例：天気的全設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
4	地球環境の変化	pp.51-60 ・大気汚染、酸性雨、オゾンホール、地球温暖化から、地球環境について説明できるか ・オゾンホール発生モデルを説明できるか ・過去の地球での気候変動を説明できるか ・過去の地球の CO ₂ ・O ₂ と生物の関係を説明できるか
5	海洋の組成と構造	pp.61-70 ・海洋はどのようにして形成したのか（地球の誕生と関連させること） ・海洋の面積割合、主要大洋の面積割合、地球の凹凸のスケールについて説明できるか ・海水の塩分・水温分布を説明できるか ・海水の密度分布と水圧の関係を説明できるか
6	海洋の循環	pp.72-79 ・海洋大循環は、地球の北側と南側ではどのように回転するか ・水平循環と黒潮の関係を説明できるか ・鉛直循環と表層水・深層水との関係を説明できるか
7	地球の形と重力	pp.97-103 ・地球の形（回転楕円体）と扁平率の定義と計算ができるか ・引力、遠心力、重力の関係を図を用いて説明できるか ・ジオイドと地下の密度の関係を説明できるか
8	地球の磁気	pp.113-119 ・地球内部のどこで地磁気が発生するか説明できるか ・地磁気の偏角、伏角、全磁力を用いて説明できるか ・地磁気の永年変化から、地磁気が消滅する時期を計算できるか ・岩石磁気の形成をキュリー点を踏まえて説明できるか ・地磁気の逆転とチバニアンについて調べてみる
9	大陸移動説と海洋底拡大説	pp.119-126 ・大陸移動説とは何か ・海洋底拡大説とは何か ・磁気異常の縞模様からプレートが動いていることを説明できるか （海嶺においてプレートが誕生すると、その時の地球磁気の方角をプレート（岩石内）に記録する）

10	プレートテクトニクス	pp. 126-136 ・プレートテクトニクスとは何か ・プレートとは、地球の内部のどこ領域か ・プレート境界（発散型、収束型、平行移動型）を説明できるか ・ホットスポットとプレート運動からハワイ諸島の形成を説明できるか
11	地震の観測	pp.141-145, 148-151 ・P波、S波の違いを説明できるか ・震度とマグニチュードの違いを説明できるか (補足：マグニチュードとは断層面がズレた面積に対応する) ・地震に関する簡単な計算や説明ができるか {例：大地の地震の設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
12	地震と断層	pp.154-155,163-173 ・断層の基本的な型を説明できるか ・日本付近の地震分布とプレート境界の関係を説明できるか ・海洋プレートの沈み込みに伴う地震、陸側のプレートで発生する地震のメカニズムを説明できるか
13	日本の大地震	これまでの学修を踏まえて、地球誕生、地球の内部構造、プレートテクトニクス、地震活動を関連させて、なぜ東日本大震災や能登半島地震が起こったのか、なぜ津波が発生したのかを統合的に説明できるようになること。また、南海トラフ地震の危険性についても調べてみる。
14	火山の活動	pp.175-179 ・火山フロントとプレート境界の関係を説明できるか ・プレートテクトニクスと関連させ、マグマ形成・上昇メカニズムを下記の参考文献などから調べる ・マグマの粘性・組成・温度の関係を説明できるか {例：大地の火山の設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
15	火山災害	pp.179-187 ・火山噴火の形式とその特徴を説明できるか ・火山災害にはどのようなものがあるか ・火砕流・岩屑なだれ・火山泥流・火山ガスを説明できるか

シラバス執筆：石山 謙

レポート課題

第1分冊 石山 謙
第2分冊 石山 謙

第1分冊 〈略題〉地球大気と気象・気候 1章～2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

地球の大気構造や気象・気候について、興味のある話題を論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 本課題内容について
 - ・大気構造や気象・気候で興味のある話題を探し、それを集中的に調べ説明する
 - (例：対流圏で発生する気象現象、雲の形成過程、地球の大気形成過程、生命史と地球大気の関係など)
 - ・大気構造を4つの領域にわけ、それらの領域を満遍なく説明する形でも良い
- (2) 図や表は3つ以上入れる
- (3) レポートの最初で何をテーマにしたのかを必ず述べる
- (4) レポートの最後で自分の意見・提案などを必ず述べる
- (5) レポートの文章は「～だ」ではなく、「～である」と書く

〈評価の観点〉

- (1) 題意に適しているか
- (2) 図を使いながら、本文で説明できているか
- (3) 科学分野のレポートとして、文章構成が適切であるか
- (4) 引用だけでなく、自分の言葉で表現されているか
- (5) 誤字、脱字がないか
- (6) テキスト以外に、参考文献等の資料も利用されているか。また、引用についても明示されているか

〈その他の注意点〉

1. 説明が難しい所では図や表を必ず含め、本文中で図を引用しながら、わかりやすく説明を試みること。
(図の引用方法：図①で示されるように…)
2. 図の下には、図番号および図の題名、図の簡単な説明文を含めること。
3. 表の上には、表番号および表の題名を含めること。
4. 単にテキストや参考資料をまとめるだけでなく、自分の意見も表現できるように努力すること。
5. インターネットによる引用は、信頼できるHPを参考にすること。

第2分冊 〈略題〉マグマの形成・噴出過程と火山 5章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

プレートテクトニクスや火山活動に関連した興味のある話題を論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 本課題内容について
 - ・プレートテクトニクスや火山活動で興味ある話題を探し、それを深く集中的に調べ説明する
 - (例：マグマ形成や上昇過程、能登半島地震のメカニズム、地球誕生からのプレートテクトニクスの発達史など)
- (2) 図や表は3つ以上入れる
- (3) レポートの最初で何をテーマにしたのかを必ず述べる
- (4) レポートの最後で自分の意見・提案などを必ず述べる
- (5) レポートの文章は「～だ」ではなく、「～である」と書く

〈評価の観点〉

- (1) 題意に適しているか
- (2) 図を使いながら、本文で説明できているか
- (3) 科学分野のレポートとして、文章構成が適切であるか
- (4) 引用だけでなく、自分の言葉で表現されているか
- (5) 誤字、脱字がないか
- (6) テキスト以外に、参考文献等の資料も利用されているか。また、引用についても明示されているか

〈その他の注意点〉

1. 説明が難しい所では図や表を必ず含め、本文中で図を引用しながら、わかりやすく説明を試みること。
(図の引用方法：図①で示されるように…)
2. 図の下には、図番号および図の題名、図の簡単な説明文を含めること。
3. 表の上には、表番号および表の題名を含めること。
4. 単にテキストや参考資料をまとめるだけでなく、自分の意見も表現できるように努力すること。
5. インターネットによる引用は、信頼できるHPを参考にすること。

参考文献

・マグマの形成と上昇の簡単な説明（次の内容を理解できるとOK）
海洋プレートが沈み込むと、プレート内の鉱物から脱水が起き、マントルに水が供給される。すると、マントル岩石の融点が低下して、加水融解が起き、マグマが形成する。マントルでのマグマ形成後、浮力によりマグマが上昇できるが、マグマと地殻密度が一致する場所で、マグマ上昇が停止する。この場所で、マグマ溜まりが形成する。ここでは、結晶分化作用によりマグマ密度が低下すると、浮力により再上昇でき、噴火に至れる。

参考文献

- ・新しい高校地学の教科書—現代人のための高校理科（ブルーバックス）杵島・松本・左巻
- ・[地球科学のwebサイト, <https://www.s-yamaga.jp/nanimono/nanimono-hyoushi.htm>]

科目試験等へのアドバイス

科目試験問題は、大問が3つ程度ある。各学修テーマに関する基本事項の説明を求める問題や、適切なキーワード使って基本事項の説明を求める問題、それらに関する簡単な計算問題などがある。

教員からのメッセージ

地球科学という分野は、物理学、化学、生物学などの分野の総合的な知識が必要となる。また、自然現象を対象とするため、未解明な部分もまだ残されている。そして、地震や火山、気象など人間生活に密接した分野でもある。身近な自然現象に興味関心を持つと、地球科学を面白く学修できる。なお、テキストでは天文、地質、古生物などの内容がないため、時間があれば、その内容についても学修するとさらに地球科学が面白くなる。

科目概要	地誌学は、系統地理学と並び、地理学における主要な現象のとらえ方のひとつであり、ある地域の地理的事象や要素の関係性を総合的にとらえる学問である。本科目では、日本国内の特色ある地域の地理的な特徴と、地域が抱える問題に対する地誌学的なアプローチを学習する。
主な到達目標	テキストの内容にもとづいて、日本各地の地域の地理的な特徴や構造、地域的な問題を、地誌学的・地理学的な見方・考え方をを用いて考察することができる。
テキスト学修の留意点	①個別具体的な地域の事例を取り上げていく学習となるが、事例地域の理解自体が最終目的ではなく、具体的な地域を通して地誌学的・地理学的な見方・考え方を修得することが、より重要な目的である。従って、事例地域を相対化して捉える視点を持って学習すること。 ②レポート課題は、テキストの記述・文脈をそのまま書き写すのではなく、テキストの内容を理解した上で、自分の言葉で記述すること。

	学修テーマ	課 題
1	地域に対する地理的な見方・考え方の基礎 (まえがき、序章)	テキスト「まえがき」、序章「地域に対する地理的な見方・考え方の基礎」を精読し、その内容を、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①地理学と地誌学の特徴、②地理学・地誌学における地域のとらえ方と、その一つとしての動態地誌
2	東京の外港としての歴史が築いた地域性—横浜 (1章)	テキスト1章「東京の外港としての歴史が築いた地域性—横浜」を精読し、その内容を、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①港町として築かれた横浜の地域的特徴、②東京との関りで築かれた横浜の地域的特徴
3	工場からマンションへ、生産から生活の場へ—川崎 (2章)	テキスト2章「工場からマンションへ、生産から生活の場へ—川崎」を精読し、その内容を、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①工業都市・生産の場としての川崎の地域的特徴、②マンション街・生活の場としての川崎の地域的特徴
4	大型商業施設が集まるまち—立川 (3章)	テキスト3章「大型商業施設が集まるまち—立川」を精読し、その内容を、「大型商業施設が集まった過程と背景」に注目してまとめなさい。
5	江戸・東京との近接性を軸にした地域構造の変化—千葉県 (4章)	テキスト4章「江戸・東京との近接性を軸にした地域構造の変化—千葉県」を精読し、その内容を、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①江戸・東京との近接性がもたらす千葉県の地域的特徴、②コントラストの概念でとらえる千葉県の地域的特徴
6	江戸・東京との関係で築かれた歴史的景観—川越 (5章)	テキスト5章「江戸・東京との関係で築かれた歴史的景観—川越」を精読し、その内容を、「江戸・東京との関係で築かれた川越の地域的特徴」に注目してまとめなさい。
7	地形がもたらす魅力と課題—甲府盆地 (6章)	テキスト6章「地形がもたらす魅力と課題—甲府盆地」を精読し、その内容を、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①地形という自然条件がもたらす課題、②地形という自然条件がもたらす魅力
8	雪国に起きる開発の動き—越後湯沢 (7章)	テキスト7章「雪国に起きる開発の動き—越後湯沢」を精読し、その内容を、「雪国における地域開発の主体と背景」に注目してまとめなさい。
9	首都としての都市の発達—東京①江戸 (8章1～3)	テキスト8章「首都としての都市の発達—東京」の1「城下町江戸の形成」～3「リサイクル社会と盛り場」を精読し、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①城下町江戸としての都市整備、②江戸の空間的拡大とその背景
10	首都としての都市の発達—東京②近代東京 (8章4～6)	テキスト8章「首都としての都市の発達—東京」の4「封建都市から近代都市への変化」～6「土地利用の変化 (近世・近代・現代)」を精読し、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①封建都市江戸と近代都市東京との違い、②交通と土地利用の変化
11	首都としての都市の発達—東京③現代東京 (8章7～10)	テキスト8章「首都としての都市の発達—東京」の7「戦後の都市計画」～10「首都としての東京の発達と役割」を精読し、次の①と②に注目してまとめなさい。 ①都市空間の拡大と郊外化の特徴、②都心回帰の実態と背景
12	世界に注目されるまち—盛岡 (9章)	テキスト9章「世界に注目されるまち—盛岡」を精読し、その内容を、「世界に注目され、地元では当たり前とされている盛岡の魅力と、その魅力がもたらされた背景」に注目してまとめなさい。
13	旧城下町都市の空間構造とまちづくりの関係—犬山 (10章)	テキスト10章「旧城下町都市の空間構造とまちづくりの関係—犬山」を精読し、その内容を、「現在の観光地の実態・まちづくりと犬山城下町の関係」に注目してまとめなさい。
14	港湾機能の変化に伴う市街地の移動—神戸 (11章)	テキスト11章「港湾機能の変化に伴う市街地の移動—神戸」を精読し、その内容を、「コンテナ化に伴う港湾機能の変化と神戸の地域的特徴の変化との関係」に注目してまとめなさい。
15	明石海峡大橋開通に伴う交通と商業の変化—徳島 (12章)	テキスト12章「明石海峡大橋開通に伴う交通と商業の変化—徳島」を精読し、その内容を、「明石海峡大橋開通に伴う徳島の交通と商業の変化」に注目してまとめなさい。

レポート課題

第1分冊 牛垣 雄矢

第2分冊 牛垣 雄矢

第1分冊 〈略題〉動態地誌でとらえる地域の特徴と課題 主に序章、1章、2章、6章

横書き

Word添付

〈課題〉

日本国内の任意の地域を一か所設定し、「動態地誌」の地域の特徴のとらえ方を用いて、その地域的な特徴や課題について論じなさい。

その際、任意に設定する地域内で生じている事象や地域の構成要素を中核とすること(例:1章は港町、2章は工場、6章は地形)。設定する任意の地域は、市区町村から都道府県のスケールとすること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①単なる地域の説明に終始せず、題意に沿って文章をまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か(誤字・脱字、言い回し等)。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉周辺地域との関係でとらえる地域の特徴

主に序章、1章、2章、4章、5章、6章、7章、12章

横書き

Word添付

〈課題〉

日本国内の任意の地域を一か所設定し、特に地理的な見方・考え方のひとつである「空間的相互依存作用」として「周辺地域との関係」に着目し、その設定した地域の特徴や課題について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①単なる地域の説明に終始せず、題意に沿って文章をまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か(誤字・脱字、言い回し等)。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること

参考文献

- ・矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢編著(2020):『地誌学概論(第2版)(地理学基礎シリーズ3)』朝倉書店。
- ・『日本の地誌』朝倉書店(各巻)
- ・『日本地誌』二宮書店(各巻)

科目試験等への
アドバイス

- ・シラバス及びレポートの「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

- ・テキストで扱っている地域の事例を参考に、地理的・地誌的な見方・考え方を用いて、皆さんが普段関わっている地域の特徴や課題をとらえることを意識して下さい。

科目概要	地誌学は系統地理学と並ぶ地理学の一部門で、ある地域の地理的事象を総合的に研究する学問である。本科目では、日本国内および世界の特色ある地域と、その地域の中にある人々の生活を取り上げながら、地域が抱える問題への地誌学的なアプローチを学習する。
主な到達目標	テキストの内容にもとづいて、世界各地の人々の生活様式や開発問題について、具体的かつ比較地誌的な観点を持ち、広い視野で考察することができる。
テキスト学修の留意点	①個別具体的な地域の事例を取り上げていく学習となるが、事例地域の理解自体が最終目的ではなく、地域や人々の暮らしなどの多様性を理解することが、より重要な目的である。従って、事例地域を相対化して捉える視点を持って学習すること。 ②レポート課題は、テキストの記述・文脈をそのまま書き写すのではなく、テキストの内容を理解した上で、自分の言葉で記述すること。

	学修テーマ	課 題
1	ケベック (1 章)	テキスト 1 章「ケベック」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①ケベックの地域形成の歴史的過程、②現在のケベックが抱える問題、③ケベックの今後の展望
2	日本における韓国 (2 章)	テキスト 2 章「日本における韓国」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①日本と朝鮮の交流史、②在日韓国・朝鮮人の生活・文化、③①・②の現在にかけての変化
3	国際観光拠点シンガポール (3 章)	テキスト 3 章「外国人の集まる国際観光拠点シンガポール」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①シンガポールの観光開発の歴史的経緯、②MICEの展開と効果、③統合型リゾート開発の功罪
4	英国のインナーシティ商店街再生と民族多様性 (4 章)	テキスト 4 章「英国のインナーシティ商店街再生と民族多様性」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①英国のインナーシティ商店街の抱える課題、②ノッティンガム市のハイソングリーン・センター設立の経緯と今日に至る変化、③ハイソングリーン・センターの今後の展望
5	多文化共生のために 【1～4 章の小括】	1～4 章で取り上げられた 4 つの事例から、異なる文化的背景を持つ人々が共に暮らす地域の創造のための条件を考察しなさい。
6	東京の都市農業 (5 章)	テキスト 5 章「東京の都市農業」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①東京の都市農業の歴史と現状、②農産物直売所の役割、③レクリエーション農業の役割
7	オーストラリアの食肉産業 (6 章)	テキスト 6 章「オーストラリアの食肉産業」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①フィードロットでの生産の実状と盛んになった背景、②オーギービーフのフードシステムの実態、③オーストラリアの食肉産業を「グローバル」な産業として捉えられる理由
8	グレートプレーンズの資源と人々 (7 章)	テキスト 7 章「グレートプレーンズの資源と人々」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①資源の活用という観点から見たグレートプレーンズの開発の歴史、②多民族化の進展の経緯、③将来の展望
9	フランス中央高地における過疎化と農村再編 (8 章)	テキスト 8 章「フランス中央高地における過疎化と農村再編」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①フランスにおける過疎化の動向、②過疎問題に対する自治体・政策の役割、③過疎地域におけるツーリズムの意義
10	先進国の農業・農村問題 【5～8 章の小括】	5～8 章で取り上げられた 4 つの事例から、とくに先進地域において持続的な農業の発展がもたらされるための条件を考察しなさい。
11	アマゾンの恵みと河畔民の生活 (9 章)	テキスト 9 章「アマゾンの恵みと河畔民の生活」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①マウエスにおける日系社会の盛衰、②現在のファゼンダにおける農場・農業経営の実態、③河畔民の伝統や生活様式が失われつつある理由
12	ルーマニアのカルパチア山村における持続的発展 (10 章)	テキスト 10 章「ルーマニアのカルパチア山村における持続的発展」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①ルーマニアにおけるルーラルツーリズムの盛衰、②東欧革命と EU 加盟がルカル村の生業に与えた影響、③現在のルカル村におけるルーラルツーリズムの意義と課題
13	タイのデルタにおける自然保護とエコツーリズム (11 章)	テキスト 11 章「タイのデルタにおける自然保護とエコツーリズム」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①チャオブラヤデルタ開発の歴史的経緯、②チャオブラヤデルタで発生してきた環境問題とそれに対する対応策、③バンガジャオにおけるエコツーリズムの展開とその意義
14	アフリカ農村における時給生活の崩壊と貧困、テロリズム (12 章)	テキスト 12 章「アフリカ農村における自給生活の崩壊と貧困、テロリズム」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①ボコ・ハラムの実態、②ボコ・ハラムが若者の心をつかむ理由、③著者の言う「2 種類の貧困」が生じる背景と、テロリズムの蔓延との関わり
15	発展途上国の持続可能な発展のために 【9～12 章の小括】	9～12 章で取り上げられた 4 つの事例から、とくに途上国において持続的な発展を遂げるための条件を考察しなさい。

レポート課題

第1分冊 鈴木 允

第2分冊 鈴木 允

第1分冊 〈略題〉グローバル化と地域社会
主に1章、2章、3章、4章、6章

横書き

Word添付

〈課題〉

グローバル化が地域社会に与えた影響に関するテキスト中の事例を取り上げながら、ローカルスケールの地域現象をグローバル化と結び付けて解釈する意義を論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①事例を取り上げることに終始せず、題意に沿って文章をまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉ツーリズムと地域社会 主に3章、8章、10章、11章

横書き

Word添付

〈課題〉

観光開発またはツーリズムに関わるテキスト中の事例を取り上げながら、ツーリズムの発展が地域に与える影響について論じなさい。功罪ともに言及すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①事例を取り上げることに終始せず、題意に沿って文章をまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

参考文献

- ・矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、牛垣雄矢編著（2020）：『地誌学概論（第2版）（地理学基礎シリーズ3）』朝倉書店
- ・辰己 勝、辰己真知子（2016）：『図説 世界の地誌【改訂版】』古今書院
- ・矢ヶ崎典隆、山下清海、加賀美雅弘編著（2018）：『グローバル化と地域社会 ―縮小する世界―（シリーズ地誌トピックス1）』朝倉書店
- ・矢ヶ崎典隆、森島 済、横山 智編著（2018）：『サステナビリティ ―地球と人類の課題―（シリーズ地誌トピックス3）』朝倉書店

科目試験等への
アドバイス

- ・シラバス及びレポートの「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

- ・各事例地域の人々の生活について、想像力を働かせながら学修してください。

科目概要	○地理学が「場所の情報学」であることを理解する。 ○地理的条件の分析科学としての地理学の手法を習得する。 ○教育科学としての視点を取り入れ、教材開発へ貢献できることを目指す。
主な到達目標	○日本の地域に関する洞察力を高める。それは地域の特色の分析に留まるのではなく、社会問題とその解決への方向性を見極める力を向上させることである。 ○世界の特色と動向に関する洞察力を高める。世界と日本との関係性をグローバル化を視点に考察できるように資質を向上させる。
テキスト学修の留意点	○テキストを漫然と学習するのではなく、学修テーマを視点にして、テキストを読み解き、自らの課題を調査・研究する。 ○高等学校地理の教科書、地理資料集などを参考にして、テキストの内容理解を深めるようにする。

	学修テーマ	課 題
1	社会問題と地理学	第1章を通して地理学を視点とした社会問題に対する基本的な見方・考え方を理解する。特に、民族問題、環境問題、南北問題、都市問題などへの地理的アプローチを習得する。
2	日本の大都市圏①首都圏	首都圏と東京圏との関係を、「生産」を視点にして考察する。特に、農業と工業に関する構造と分業体系に着目する。また、首都圏において、東京一極集中問題の構造とその解決の方向性について、探究する。
3	日本の大都市圏②近畿圏	近畿圏を「複核構造」を視点にして考察する。その際には、その歴史的-経済的構造の特色に着目する。近畿圏で課題となっている経済的な域内格差とともに観光問題にも視野を広げて探究すること。
4	日本の大都市圏③中京圏	中京圏を「多核的産業都市」を視点にして考察する。その際に、名古屋市の役割について着目する。また、工業化による公害について調べ、中京圏が環境問題にどのようにアプローチしているか探求する。
5	日本の地方圏①東北地域	東北地域を「首都圏の郊外地域化」を視点にして考察する。特に、東北の工業化について着目する。また、東北の工業化と東北地方が直面した防災問題の関係性について探究する。
6	日本の地方圏②北海道	北海道を「自然」を視点にして考察する。特に、近代から始まる町づくり（開拓）と産業（工業・農業）の形成について着目する。また、北海道が直面する地域経済の停滞とその解決の方向性について探究する。
7	日本の地方圏③中国・四国地域	中国・四国地域について、「流通・交通」を視点にして考察する。特に、中国・四国地域と他地域との結びつきによる様々な影響に着目する。また、山間部や離島が直面する過疎化の問題とその解決の方向性について探究する。
8	日本の地方圏④九州・沖縄地域	九州・沖縄地域を「地域間関係」を視点にして考察する。特に首都圏及びアジアとの位置的関係に着目する。また、九州・沖縄地域が直面する自然災害とその解決の方向性について探究する。
9	世界の諸地域①中国	中国の変容について考察する。日本と中国の関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
10	世界の諸地域②ASEAN諸国	ASEAN諸国（全体・一部）の台頭について考察する。日本とASEAN諸国との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
11	世界の諸地域③オセアニア諸国	オセアニア諸国について考察する。日本とオセアニア諸国との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
12	世界の諸地域④アメリカ合衆国	アメリカ合衆国の多様性について考察する。日本とアメリカ合衆国との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
13	世界の諸地域⑤アフリカ諸国	アフリカ諸国の近代化について考察する。日本とアフリカ諸国との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
14	世界の諸地域⑥ヨーロッパ諸国	ヨーロッパ諸国の新秩序について考察する。日本とヨーロッパ諸国との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。
15	世界の諸地域⑦ロシア連邦	ロシア連邦の変革について考察する。日本とロシア連邦との関係について調査し、今後の課題とその解決の方向性について探究する。

シラバス執筆：宮本 英征

レポート課題

第1分冊 宮本 英征

第2分冊 宮本 英征

第1分冊 〈略題〉日本の社会問題 第1章～第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日本各地が直面する社会問題を地理学を視点にして分析し、解決の方向性を論ずること。「首都圏」「近畿圏」「中京圏」「東北地域」「北海道」「中国・四国地域」「九州・沖縄地域」から一地域を対象として選ぶ。本文部は2,400字程度で納め、根拠となる図表類、写真、補足資料などを必ず提示する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 冒頭に、題目または論題を記す。
2. 序論部（第1章）では、問題意識、目的、方法、対象となる事例・事象、領域などを記す。
3. 本論部（第2章～第X章）では、科学的、客観的な統計資料や図表類を駆使して分析・考察を進めるとともに、社会問題とその解決策について論じる。また、あなたの論理展開を要約する模式図や概念図を提示、例示することも試みる。
4. 結論部では、議論の帰結だけでなく、課題を通してあなたが会得した地理学の有用性、有意性についても明記する。

〈評価の観点〉

文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。

- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

図表類の掲出方法についてはテキスト他、地理学関連書籍を参考にしてタイトルや出典等を必ず明記する。

第2分冊 〈略題〉世界と日本の関係 第1章・第4章～第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

世界の諸地域と日本とのものや人の行き来について、特に注目すべきものに焦点化し、その特色について深く論じること。特に、表面的な説明に留まるのではなく、課題の構造を解明し解決の方向性についても説明する。対象は「中国」「ASEAN 諸国」「オセアニア諸国」「アメリカ合衆国」「アフリカ諸国」「ヨーロッパ諸国」「ロシア連邦」の中から一つの地域を選択する。本文部は2,400字程度で納め、根拠となる図表類、写真、補足資料などを必ず提示する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 冒頭に、題目または論題を記す。
2. 序論部（第1章）では、問題意識、目的、方法、対象となる事例・事象、領域などを記す。
3. 本論部（第2章～第X章）では、科学的、客観的な統計資料や図表類を駆使して分析・考察を進めるとともに、世界と日本との関係性について論じる。また、あなたの論理展開を要約する模式図や概念図を提示、例示することも試みる。
4. 結論部では、議論の帰結だけでなく、課題を通してあなたが会得した地理学の有用性、有意性についても明記する。

〈評価の観点〉

文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。

- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

図表類の掲出方法についてはテキスト他、地理学関連書籍を参考にしてタイトルや出典等を必ず明記する。

参考文献

- ・上野和彦、椿真智子、中村康子編『地理学概論（第2版）』朝倉出版、なども役に立つ。
・高等学校地理教科書、地理資料集で確認しながら、学習すること。

科目試験等への
アドバイス

学修テーマ・レポート課題に対し真摯に向き合い、各テーマに対して自らの考えを構築しておくことが大切です。また、自らの見解を論理的に説明し論述する訓練が科目試験には必要です。暗記的な知識よりも、獲得した地理的な知識を活用し、課題に対する地理的な見方・考え方の成長を評価します。

教員からの
メッセージ

地理学は、多様な空間を認識するためだけではなく、現代世界の諸問題にアプローチする学問です。今日の課題にアンテナを広げ、地理学がどのように応用できるか考えながら学修しましょう。

TT0413 地理情報論（新刊テキスト）

2単位
新刊

テキスト名

牛垣雄矢著

『まちの地理学

—まちの見方・考え方—』古今書院

科目概要	地図をはじめとする地理情報を正しく理解し、そこから現象や問題を分析し、解決に導く上で、地理情報システム (GIS: Geographic Information System) の果たす役割はますます大きくなっており、高等学校における新設科目「地理総合」においても、GIS を積極的に活用することが求められている。本科目では、GIS 技術で扱われる地図や景観写真などの地理空間情報について理解することを通じて、地理学の基礎的な知識や技能の習得を目指す。
主な到達目標	テキストの内容にもとづいて、地図や景観写真などの地理空間情報に関する知識・技能を習得するとともに、これらの地理空間情報を、実社会、また学校教育における社会科や地理などの学習に活用する意義を理解できる。
テキスト学修の留意点	①テキストは、地図や景観写真、主題図や表などの地理空間情報を用いて、まちや地域の地理的特徴をとらえる内容です。テキスト中の図表は全て地理情報といえます。テキスト中の図表から、どのようなまちや地域の地理的特徴や課題をとらえることができるかについて、意識して学修すること。 ②レポート課題は、テキストの記述・文脈をそのまま書き写すのではなく、テキストの内容を理解した上で、自分の言葉で記述すること。 ③地理情報としての図表がない「まえがき」「序章」「1章」は第1回～第15回の授業内には含めていないが、本書において地理情報を用いてまちを読み解く上での基本的な考え方が示されているため、この部分にも目を通しておくことが望ましい。

	学修テーマ	課 題
1	2章「まちの内部の構造をとらえる」1～4	テキスト2章「まちの内部の構造をとらえる」1「まちの内部構造のモデル」～4「構成要素の関係性からまちの構造を模式的にとらえる」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
2	2章「まちの内部の構造をとらえる」5～6	2章「まちの内部の構造をとらえる」1「まちの内部構造のモデル」～4「構成要素の関係性からまちの構造を模式的にとらえる」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
3	3章「まちの中心性をとらえる」1	3章「まちの中心性をとらえる」1「中心地理論からまちの規模と特徴を把握する」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
4	3章「まちの中心性をとらえる」2～3	3章「まちの中心性をとらえる」2「まちの順位・規模法則」～3「中心性の測り方・表し方」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
5	4章「都市内部構造の中でまちをとらえる」1～2	4章「都市内部構造の中でまちをとらえる」1「大都市の内部構造のとらえ方」～2「地方都市の内部構造のとらえ方」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
6	4章「都市内部構造の中でまちをとらえる」3～4	4章「都市内部構造の中でまちをとらえる」3「都市内部における中心地とその移動」～4「都市内部構造とまちとの関係」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
7	5章「社会の中でまちをとらえる」	5章「社会の中でまちをとらえる」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
8	「まえがき」～5章の小括	テキスト「まえがき」～5章「社会の中でまちをとらえる」の全体的なまとめとして、どのような指標・データや情報を、どのように地図等の図表で表現すれば、まちや地域の特徴や構造をとらえることができるか、考察してまとめなさい。
9	6章「東京のまち」1～3	6章「東京のまち」1「神田」～3「原宿」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
10	6章「東京のまち」4～6	6章「東京のまち」4「大久保」～6「秋葉原」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
11	7章「東京周辺のまち」	7章「東京周辺のまち」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
12	8章「大阪のまち」	8章「大阪のまち」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
13	9章「地方都市のまち」1～4	9章「地方都市のまち」1「シャッター街の中からまちの特徴を見出す」～4「三島のまち」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
14	9章「地方都市のまち」5～8	9章「地方都市のまち」5「秩父のまち」～8「長崎のまち」について、特に図表から読み取れる傾向や、その傾向がもたらされる地理的・社会的な背景や意味などに注目してまとめなさい。
15	6章～9章の小括	6章「東京のまち」～9章「地方都市のまち」の全体的なまとめとして、それぞれのまちや地域の特徴・魅力を、どのような指標・データや情報を使ってどのように地図等の図表で表現することができるか、考察してまとめなさい。

シラバス執筆：牛垣 雄矢

レポート課題

第1分冊 牛垣 雄矢

第2分冊 牛垣 雄矢

第1分冊 〈略題〉データや情報を地図で表現することによって分かることとその意義について
主に1章～5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト1章～5章に掲載されている図を参照し、データや情報を地図で表現することによって分かることやその意義について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストで書かれている内容をまとめるだけでなく、できるだけ自分の考えも書くこと。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉まちや地域の特徴をとらえ表現するための地理情報の活用方法
主に6章～9章。

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト6章～9章に掲載されている図表を参照し、データや写真、その他の情報をどのように活用すれば、まちや地域の特徴をとらえることができ、またそれを表現することができるかについて説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストで書かれている内容をまとめるだけでなく、できるだけ自分の考えも書くこと。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があるか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

参考文献

- ・川原靖弘・関本義秀編著（2022）：『地理空間情報の基礎と活用』放送大学教育振興会
- ・若林芳樹・今井 修・瀬戸寿一・西村雄一郎編著（2017）：『参加型 GIS の理論と応用—みんなで作り・使う地理空間情報—』古今書院
- ・加賀美雅弘・荒井正剛編（2018）：『景観写真で読み解く地理』古今書院。

科目試験等への
アドバイス

- ・シラバス及びレポートの「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

- ・テキストの図表でとらえることができる現象が、皆さんの身近なまちや地域の中ではどのように表れているか、想像力を働かせながら学修して下さい。

科目概要	地図をはじめとする地理情報を正しく理解し、問題を分析し、解決に導く上で、地理情報システム (GIS : Geographic Information System) の果たす役割はますます大きくなっており、高等学校における新設科目「地理総合」では、GIS を積極的に活用することが求められている。本科目では、GIS 技術で扱われる地図や地理空間情報などについて理解することを通して、地理学の基礎的な知識の習得を目指す。
主な到達目標	テキストの内容にもとづいて、地図や地理空間情報に関する知識・技能を習得するとともに、GIS を、実社会や高等学校の地理歴史科学習などに活用する意義を理解できる。
テキスト学修の留意点	①テキストの内容は、地図や地理空間情報に関する基礎的な最新の研究成果を分かりやすく叙述したものである。その内容理解が必要であることは言うまでもないが、それが社会でどのように活用され、どのような影響を与えてきたのかという広い視野を持って学修すること。 ②レポート課題は、テキストの記述・文脈をそのまま書き写すのではなく、テキストの内容を理解した上で、自分の言葉で記述すること。

	学修テーマ	課 題
1	序章 いまどこ・いまここ・ここはどこ	テキスト序章を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①携帯電話の普及が与えた影響、②地図と地理空間情報の定義・関係性、③「地図は饒舌」とはどのような意味か
2	第1章 地図の起源を訪ねて	テキスト第1章「地図の起源を訪ねて」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①古代から現在までの地図の進化過程、②デジタル化がもたらす影響、③『「原寸大地図」のパラドックス』の意味
3	第2章 地図の万華鏡	テキスト第2章「地図の万華鏡」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①紙地図とデジタル地図、一般図と主題図の違い、②「地図の力」が示された事例、③メルカトル図法とそこから発展した図法
4	第3章 地図の読み書き	テキスト第3章「地図の読み書き」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①地図読みの基本、②地図の記号論、③地図の「ウソ」とそれに対する「健全な懐疑主義」について
5	第1部 「地図の今昔」のまとめ	第1部「地図の今昔」(第1章～第3章)全体を通したまとめとして、デジタル化が始まってから生じた地図の概念や利用方法の大きな変化を踏まえて、地図が人々の世界像を大きく変える可能性について考察しなさい。
6	第4章 「地図の読めない女」の真相	テキスト第4章『「地図の読めない女」の真相』を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①空間認知の男女差、②①についての分析の視点、③地図が読めれば迷わないか?
7	第5章 頭の中にも地図がある	テキスト第5章「頭の中にも地図がある」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①「脳内 GPS」の仕組み、②認知地図の実際とのズレが示唆するもの、③認知地図の発達に関する知見
8	第6章 空間的思考と地図	テキスト第6章「空間的思考と地図」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①空間スケールと空間認知の関係性、②地図から得られる空間的知識の特質、③空間的思考・空間的能力とはどのようなものか
9	第2部 「地図を通して知る世界」のまとめ	第2部 地図を通して知る世界(第4章～第6章)全体を通したまとめとして、生まれつきのものに加え、社会的な文脈の中で形成される空間的能力を生かした空間的思考が、実社会においてどのように役立てられているか、社会的問題の解決に具体的に役立てられている事例を踏まえて考察しなさい。
10	第7章 デジタル化が変えた地図作り	テキスト第7章「デジタル化が変えた地図作り」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①地図作りの第2の黄金時代の意味、②地理空間情報の構造、③参加型 GIS とはどんなものか
11	第8章 それでも世界の中心は私	テキスト第8章「それでも世界の中心は私」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①デジタル化で変わった地図の表現、②地図の使われ方、③タクシー運転手のカーナビ利用状況が示唆するもの
12	第9章 デジタル地図の未来予想図	テキスト第9章「デジタル地図の未来予想図」を精読し、その内容を、次の①～③に注目してまとめなさい。 ①グーグルマップと空間認知、②「ブラタモリ」と空間的思考、③人工知能と地図
13	第3部 「地理空間情報と人間」のまとめ	第3部 地理空間情報と人間(第7章～第9章)全体を通したまとめとして、デジタル化によってさまざまな地図表現が可能になり、またユーザー自身が自由に地図を編集できる時代において、このような変化が人間の空間認知にどのような影響を与えているか、考察しなさい。
14	終章 進化する地図と人間の未来	テキスト全体を総括する終章を精読し、その内容をまとめなさい。その際、前時(13時間目)までの課題内容について順に振り返りを行うこと。
15	「あとがき」より	テキストの「あとがき」で、筆者がテキスト中に盛り込めなかったと述べる以下の事項から1つを選び、事例等に関連書籍等で調べ、その成果と課題を考察しなさい。 ○ビッグデータの地図化・視覚化／○参加型 GIS の地域振興への活用／○地図と地政学との関わり／○地図が持つアートとしての側面

レポート課題

第1分冊 鈴木 允

第2分冊 鈴木 允

第1分冊 〈略題〉デジタル化時代の地図と人間の関わり

主に第4章～第9章

横書き

Word添付

〈課題〉

テキスト 223 頁 5 行目には「地図の利用については、読図がきわめて複雑なメカニズムを含んでおり、AI で代替するのは容易ではない」、同 11 行目には「そこで展開される高度な空間的思考は、もはや AI で肩代わりするのは困難であろう」との記述がある。これらについて、AI によって代替できる可能性が低いとされる理由を、第 4～6 章および第 7～9 章の内容を踏まえて具体的に説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①事例を取り上げることに終始せず、題意に沿って文章をまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、明確に論じられているか。
- ②内容に一貫性があり、文章としてまとまっているか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

第2分冊 〈略題〉「空間的思考」を育む地理授業の構想
主に第6章。学修指導書も必ず参照のこと。

横書き

Word添付

〈課題〉

テキスト 148 頁に、空間的思考を構成する要素が 3 つに整理されて示されている。この整理も踏まえつつ、空間的思考を育成するための高等学校「地理総合」または「地理探究」の授業（または単元）を構想しなさい。1 時間の授業でも、複数時間分の授業（または複数回の授業で構成される単元構想）でも構わない。学習指導要領を踏まえて単元を設定した上で、使用する教材や授業内容を具体的に本文で記述し（表形式の指導案にする必要はない）、その授業（または単元）を通じてどのように空間的思考が育まれるのかについても説明すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①題意に沿って、また、課題文に書かれた条件をきちんと満たす内容のレポートをまとめること。
- ②できるだけ自分の文章でまとめること。また、引用の文章と自己の文章とを明確に区別すること。
- ③大学指定のテンプレートを使用すること。

〈評価の観点〉

- ①課題に則して、適切な授業が構想され、その意義が明確に説明されているか。
- ②内容に一貫性があるか。
- ③文章表現は正確か（誤字・脱字、言い回し等）。

〈その他の注意点〉

- ・テキスト以外の著作やウェブサイトなどから引用した場合は、必ず出所を明記すること。

参考文献

- ・川原靖弘・関本義秀編著（2016）：『生活における地理空間情報の活用』放送大学教育振興会。
- ・若林芳樹・今井 修・瀬戸寿一・西村雄一郎編著（2017）：『参加型 GIS の理論と応用—みんなで作り・使う地理空間情報—』古今書院。

科目試験等への
アドバイス

- ・シラバス及びレポートの「課題」をしっかりと追究すること。

教員からの
メッセージ

- ・日常生活における地図の役割や影響力について、想像力を働かせながら学修してください。

科目概要	哲学の理論的分野における基本的な問題について学ぶ。まず、哲学という学問の性格と起源についての問題を学ぶ。次に、哲学の最も基礎的な問題である「存在」の問題に取り組み、自然の存在・神の存在・人間の存在、それぞれの問題について学ぶ。
主な到達目標	・哲学とはどのような性格の学問であるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題にはどのような問題があるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題はどのようにして生じるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題に対してどのような解答が可能であるのかを説明できる。
テキスト学修の留意点	・レポート課題は、テキスト理解を深めたいうえで、理解した内容を自分の言葉を使って表現し直すこと。単にテキストの記述を書き写すだけではレポートとは認められない。また、抽象的な概念や一般的な理論については、なるべく具体例を挙げながら、わかりやすく説明すること。

	学修テーマ	課 題
1	哲学知は常識知や科学知などとうちがうのか	・学問は生活の中からどのようにして生じてきたのか。 ・生活知や科学的な知識はどんな特徴をもっているのか。それは哲学の知とどのようなかかわりもつのか。
2	哲学の学問的性格	・哲学の学問的性格は科学といかに異なるか。 ・哲学が真理を求めるとはどういうことか。 ・哲学と時代が不可分の関係にあるとは何を意味するのか。
3	哲学の発生（1）	・「人間は常に課題の中に生きる存在である」と言われる時、この課題とはどのような性格をもつのか。 ・古代ギリシアにおいてはどのような課題に直面し、そこからどのようにして哲学が生じたのか。
4	哲学の発生（2）	・哲学は宗教や神話とどのような関わりをもって生まれてきたのか。 ・素朴な思想が客観性をもつにいたった過程は、どのようなものだったのか。
5	哲学をどのように学習するか	・「哲学することを学ぶ」とはどのようなことを意味しているのか。 ・哲学書を読むにはどのようなことを注意しなければならないか。 ・哲学概論と哲学思想史はどのように関係するのか。
6	哲学の研究の部門	・形而上学（実体論）と認識論の観点の違いは何か。 ・事実判断と価値判断の相違と関連は何か。
7	存在（ある）とは何か	・どのようにして「存在」は私たちの前に現れてくるのか。 ・ヘラクレイトス・プラトン・アリストテレスにおいて「存在」はどのように捉えられたのか。
8	自然の存在（1） ギリシア的自然	・タレスから原子論に至る自然観の変遷はどのようなものか。 ・プラトンとアリストテレスの自然観の違いは何か。
9	自然の存在（2） 中世的自然	・ギリシア的自然観と中世的自然観の違いは何か。 ・汎神論的な自然観とはどのようなものか。
10	自然の存在（3） 近代的自然・現代的自然	・デカルトとベーコンの自然観の特徴は何か。 ・シェリングの自然観の特徴は何か。 ・ハイデッガーの自然観の特徴は何か。
11	神の存在（1）	・神の存在の宇宙論的証明とはどのようなものか。 ・神の存在の目的論的証明とはどのようなものか。 ・神の存在の存在論的証明とはどのようなものか。
12	神の存在（2）	・カントは神の存在証明をどのように批判したか。 ・神の存在の道徳的証明とはどのようなものか。 ・汎神論的立場では神はどのようにとらえられているか。
13	人間の存在（1）	・デカルトは自我をどのようにとらえたか。 ・カントは自我をどのようにとらえたか。 ・フィヒテにおいて自我と非我はどのように関係するか。
14	人間の存在（2）	・フョイエルバッハやニーチェは感性的自我をどのようなものと考えたか。 ・生の哲学の根拠はどこにおかれているか。
15	人間の存在（3）	・キルケゴール以降の実存主義の特徴は何か。 ・サルトルにおいて実存と本質はどのような関係にあるのか。

レポート課題

第1分冊 林 大悟

第2分冊 林 大悟

第1分冊 〈略題〉哲学が問題にする「自我」とは何か？
テキスト中の該当箇所を自分で探すこと。

横書き指定

Word添付

〈課題〉

デカルト及びカント哲学において、自我についてどのように論じられているのか、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所やテキストで挙げられている哲学者の原典等をしっかり読んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符（「」）や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ③最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ④ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑤分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
（具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例をつくってください。）

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。

第2分冊 〈略題〉認識とは何か？ テキスト中の該当箇所を自分で探すこと。

横書き指定

Word添付

〈課題〉

哲学的な認識論における経験論と合理論の違いを、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所やテキストで挙げられている哲学者の原典等をしっかり読んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符（「」）や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ③最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ④ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑤分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
（具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例をつくってください。）

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。

参考文献

.....
 デカルト（三木清訳）『省察』岩波文庫、1949年
 デカルト（落合太郎訳）『方法序説』岩波文庫、1967年
 カント（篠田英雄訳）『純粋理性批判』（上、中、下）、岩波文庫、1961年
 ロック（大槻春彦訳）『人間知性論』（1-4）1972年

科目試験等への
アドバイス

.....
 ・テキストの各節の終わりにある演習問題を解いてみることによって、自分の理解度をはかりながら、勉強を進めること。

教員からの
メッセージ

.....
 哲学の勉強は、難しいテキストを読み解くことが基本です。がんばってください。

TT0415 道徳教育の理論と方法

2単位

テキスト名

『新教科「道徳」の理論と実践』
『学習指導要領』『学習指導要領解説
特別の教科道徳編』

科目概要	教育基本法第1条における人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命である。単に道徳的諸価値を理解するに留まらず、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳教育の在り方について、理論と実践から学修する。
主な到達目標	テキスト、並びに「学習指導要領」「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」を通して、道徳の理論では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。道徳の指導法では、学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。そして、どのような形で道徳の指導を行うことが効果的か、理論と方法を具体的に説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	道徳教育が小・中学校にわたって継続したものである点を重く見て、このテキストは①「小・中学校の共通内容（無印）」、②「小学校の内容（小学校用：）」、③「中学校の内容（中学校用：）」に分けて論じている。原則として、小学校免許希望者は①②を、中学校免許希望者は①③を理解することが必要である。ただ小・中学校の道徳教育の継続性を全体的に理解する意味では①②③すべてを熟読することが望ましい。

	学修テーマ	課 題
1	道徳の教科化	平成 29 年の学習指導要領改訂の趣旨（改訂の経緯、改訂の基本方針、改訂の要点等）について
2	道徳教育の目標（1）	道徳教育と道徳科の関係性について。道徳教育の目標とは何か。道徳科の目標とは何か。（第1章第1節）
3	道徳教育の目標（2）	道徳的実践に繋がる道徳の学習とはどのようなものか。（同第2節）
4	道徳科の内容（1）	道徳の内容を支える道徳理論にはどのようなものがあるか。（第2章第1節）
5	道徳科の内容（2）	小学校用：小学校における内容項目の重点化とは何か。（同第2節） 中学校用：中学校における内容項目の重点化とは何か。（同第4節）
6	道徳科の内容（3）	小学校用：道徳の授業をどのようにつくればよいのか。（同第3節） 中学校用：中学生の生活課題に取り組む道徳の授業とはどのようなものか。（第5節）
7	指導計画の作成（1）	道徳の授業の質的転換とは何を意味するのか。（第3章第1節） 学びがいのある道徳授業を創るには何が必要か。（同第2節）
8	指導計画の作成（2）	小学校用：指導計画はどのように作ればよいのか。（同第3節） 中学校用：中学校における指導計画とはどのようなものか。（同第4節）
9	指導計画に基づく道徳科の指導（1）	ピアジェやコールバークの道徳性発達理論とはどのようなものか。（第4章第1節） 道徳教育におけるアクティブラーニングの具体的手法とはどのようなものか。（同第2節）
10	指導計画に基づく道徳科の指導（2）	考え、議論する道徳とはどのようなものか。（同第3節） 小学校用：道徳科の指導においてどのようなことを「話し」、「書く」ことが必要なのか。（同第4節） 中学校用：生徒指導に役立つ、実効性のある道徳教育とはどのようなものか。（第5節）
11	指導計画に基づく道徳科の指導（3）	道徳教育の全体像とはどのようなものか。（第5章第1節）
12	指導計画に基づく道徳科の指導（4）	道徳教育におけるシティズンシップ教育とはどのようなものか（同第2節）
13	指導計画に基づく道徳科の指導（5）	学校・家庭・地域社会で取り組む道徳教育の実践例にはどのようなものがあるか。（第6章第1節） 小学校用：体験的な活動を生かす道徳授業の実践例にはどのようなものがあるか。（同第2節）
14	道徳科の評価（1）	道徳科における評価の在り方・方向性とはどのようなものか。（第7章第1節）
15	道徳科の評価（2）	小学校用：小学校における評価の実践とは具体的にどのようなものか。（同第2節） 中学校用：中学校における評価の実践とは具体的にどのようなものか。（同第3節）

シラバス執筆：堀内 俊吾

レポート課題

第1分冊 山口 圭介・元 笑予・堀内 俊吾

第2分冊 山口 圭介・元 笑予・堀内 俊吾

第1分冊 〈略題〉道徳教育を可能にするもの 序章-第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学校における道徳教育を可能とする「児童生徒観」とはどのようなものか、テキストならびに学習指導要領の記述を踏まえ、考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①文末には、註及び参考文献を正しい仕方で明記すること。（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）
- ②テキストならびにその他の文献からの引用には、必ず「」を用いること。（引用が明確でない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）

〈評価の観点〉

- ①表記上のルールが守られているか。
- ②1つ1つの文章や段落の儲け方が適切であるか。
- ③全体のまとまりがある文章が書けているか。
- ④課題に対する解答が明確に示されているか。
- ⑤作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

- ①表記上のルールでは、とくに、記述記号の用い方に、十分注意してください。
- ②学習指導要領や学習指導要領解説、近年の道徳に関わる答申等を有効に活用してください。

第2分冊 〈略題〉いじめ問題と道徳教育 第4章-第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

いじめ問題への道徳教育の貢献可能性について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①文末には、註及び参考文献を正しい仕方で明記すること。（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）
- ②テキストならびにその他の文献からの引用には、必ず「」を用いること。（引用が明確でない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）

〈評価の観点〉

- ①表記上のルールが守られているか。
- ②1つ1つの文章や段落の儲け方が適切であるか。
- ③全体のまとまりがある文章が書けているか。
- ④課題に対する解答が明確に示されているか。
- ⑤作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

- ①テキスト以外にも、学習指導要領や学習指導要領解説、近年の道徳に関わる答申等を有効に活用してください。

参考文献

『小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省のHPよりダウンロードすることも可能です。）

科目試験等への アドバイス

「テキスト」「学習指導要領」「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」を熟読しておくこと。

教員からの メッセージ

「学習指導要領」「学習指導要領解説 特別の教科道徳」「テキスト」から基礎的・基本的な内容を出題しますので、熟読しておきましょう。

科目概要	本科目は、歴史的な視点から、東洋の思想を学ぶ科目である。東洋思想形成の史的文脈を踏まえたうえで、諸子百家に代表される東洋思想の蓄積と特質に焦点をあて、学習を進める。本科目では諸子百家の理解を通して、東洋思想の基本的知識を修得し、東洋思想史に関する理解を深めることによって、ものごとを判断する力を養い、教員にふさわしい教養を身につける。
主な到達目標	1. 諸子百家とは何かを学習し、理解する。 2. 諸子百家の学習を通して、東洋思想の基礎知識を得る。 3. 東洋思想理解の視点と方法を獲得する。
テキスト学修の留意点	1. テキストの著者はいかなる意図をもって、なにを説明しようとしているのか、著者が説明と論述を進めるにあたって、どのような順序で組み立てどのような論理に基づいて論じているのか、という問題意識をもって、自らの理解を深めること。 2. 思想・哲学を現す用語は、それぞれの時代、社会の特質を反映するものである。テキストの内容に基づき、諸子百家の思想を生んだ時代背景を深く考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	諸子百家とは	テキストの、「はじめに」と「序章」を読む。新しく発見された中国の古代文献は東洋思想史の学習にとっていかなる意味をもつのか。春秋戦国時代において、どのような社会状況の下、諸子百家が生まれたに注目し、諸子百家を理解する。
2	諸子百家前史（1）	次の点について学習し、理解する。 1. 上博楚簡『莊王既成』にはどのような予言が述べられているのか。 2. 周の景王の故事とはどのようなものか。 3. 『莊王既成』の教訓とはどのようなものか。
3	諸子百家前史（2）	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 太子「木」に関する記述は、どのような意図のもとに書かれたのか。 2. 楚の昭王の宮室落成式の際、どのようなことが発生したのか。
4	孔子の思想（1）	『聖跡図』に記録された孔子の生涯について学ぶ。特に、孔子はどのように政治に関わったかについて理解を深める。
5	孔子の思想（2）	次の点を問題意識に、孔子思想の本質について理解を深める。 1. 孔子はどのような理想の人格像を描き出したのか。 2. 孔子の思想に見る「礼」という考え方は、どのようなものか。 3. 孔子の思想に見る「孝」という考え方は、どのように語られたか。
6	孟子の思想	孟子の思想について、どのように形成されたか、「性善説」は、どのような価値観に基づいて生み出されたのか、「王道」政治はなにを目指したのかを中心に学習する。
7	墨家の思想	「兼愛」「忠」をキーワードに、墨家思想を学習する。
8	小括	諸子百家の前史について復習をし、孔子、孟子の思想を中心に儒家思想の特徴と本質を理解する。ここまでの東洋思想についての学習を確認、復習する。
9	老子の思想	次の点を問題意識に、老子はどのような思想家か、理解を深める。 1. 「持たぬことの幸せ」とはどのようなことか、考えてみよう。 2. 老子にとって、「天」はどのような存在であるのか。 3. 老子思想は、水に関してどのように説いたのか。
10	莊子の思想	次の点を問題意識に、学習を進める。 1. 「朝三暮四」からどのような考えを読み取れるか。 2. 莊子は、なぜ「人間の判断は、決して世界の絶対的な真実ではない」と論じたのか。 3. 「胡蝶の夢」の意味と意義はどのようなものか。
11	法家の思想	次の点を問題意識に、法家はどのような社会背景のもとに生まれ、その思想の本質はなにかを学習する。秦国の法を重んじる考え方は韓非子の思想とどのようなかわりを有するのかをも理解する。 1. 法家思想の代表的思想家である韓非子の思想はどのようなものか。
12	孫子の思想（1）	孫武とはどのような人物かを知り、『孫子』の内容を中心に学習する。
13	孫子の思想（2）	1. 『孫子』十三篇の一つである「計篇」に見られる孫子の思想はどのようなものか。 2. 『孫子』の「作戰篇」「謀攻篇」「虚实篇」「軍争篇」「九变篇」「行軍篇」「地形篇」「九地篇」から3つを取りあげ、孫子の思想の特質を述べてみよう。
14	諸子百家と現代	諸子百家と現代とのかかわりを学び、諸子百家思想の今日的意義を考察する。
15	総括	孔子、孟子、墨子、老子、莊子、韓非子、孫子の思想を中心とした東洋思想史の学習を復習する。各思想の特徴と本質を理解し、その現代的意義を把握する。

レポート課題

第1分冊 朱 浩東

第2分冊 朱 浩東

第1分冊 〈略題〉東洋思想史Ⅰ 第一章から第四章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

孔子の生涯はどのようなものであったかをまとめよ。また、孔子の「礼」と「孝」についてまとめ、考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、孔子の生涯についてまとめる(要約する)。
2. テキストに基づき、「礼」と「孝」はどのような考え方をまとめる(要約する)。
3. テキストに書かれた「礼」と「孝」を理解したうえで、その現代史的意義について、自らの考えをまとめる。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

第2分冊 〈略題〉東洋思想史Ⅱ 第五章から終章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

老子はどのような特徴をもつ思想家であるか、また老子の思想の本質はなにかについて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、老子の思想を、その独自性に焦点をあててまとめる(要約する)。
2. 「道」と老子思想との関係に注目し、老子思想の本質について考察する(まとめ、自らの考えをまとめる)。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

参考文献

以下の6点を参考とし、他は学習指導書を参照。

1. 貝塚茂樹『孔子』岩波書店、1997年。
2. 宮崎市定『論語の新しい読み方』岩波書店、1996年。
3. 貝塚茂樹『孟子』講談社、2004年。
4. 森三樹三郎訳『墨子』筑摩書房、2012年。
5. 小川環樹訳注『老子』中央公論社、1973年。
6. 浅野裕一『孫子』講談社、1997年。

科目試験等への
アドバイス

1. テキストの内容を十分に理解することが重要である。その際には、丸暗記をするのではなく、学習指導書の「各章ごとの学習の留意点」の設問を念頭に置き、テキストの内容を総合的に理解し、自らの思考力を高めることが大切である。
2. 思想家個人の思想、思想的系譜による流派の思想の両者の違いを理解し、それぞれの思想をその思想形成の背景から把握し、各思想の内容と特徴を理解することを念頭に置く。また、東洋思想史の思想家、思想的系譜による流派の両者に見られる、人間の生き方を問うという共通点についても、もう一度、確認することが、学習の到達度を高める手掛かりとなる。
3. 思想に関する自らの考察を、根拠を示して論点を明確にまとめ、客観性・実証性・論理一貫性をもってまとめること。

教員からの
メッセージ

1. 本科目の眼目は、東洋思想を歴史的な視点から学ぶことである。思想を生み出した社会的背景に注目することによって、思想そのものをより深く理解することが可能になる。
2. 現代社会における人間の生き方との関連性を問うところから、東洋思想の今日的意義を探ることが、学習の効果を高める。
3. 人名、地名などの固有名詞に使われる、今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字を正確に確認し、把握すること。

科目概要	本科目は歴史的視点から東洋の文化（本科目においては東アジアの文化と同義とする）を学ぶ科目である。東アジアにおいて代表的な中国の地理的、社会的条件のもとに形成された各時期の文化と関連づけ考察する。あわせて、物事を判断する力を養い、教育者となるための教養を身につける。
主な到達目標	1. 東アジアにおける文化形成の社会的背景を学習し、理解する。 2. 異なる歴史時期の文化のあり方を学び、その時期の文化の特徴を理解する。 3. 東洋文化を理解する視点と方法を獲得する。
テキスト学修の留意点	1. テキストの著者はどのような意図をもって、どのような史的事実に基づき、何を説明しようとしているのか、またそれをどのような順序で論理を組み立てて説明しているのかを意識しつつ、自らの理解を深めること。 2. 文化の特質、特徴を把握するためにはその形成の背景にある社会的、政治的諸条件を理解することが必要である。テキストの記述に基づき、各歴史時期の文化を生み出した社会的要因を整理し、学んでいくこと。

	学修テーマ	課 題
1	東アジアと文明	テキスト第一章一の「原始人類の発見」、二「中国文明の黎明」を読み、中国における文明形成の成り立ちを理解する。
2	文明の誕生	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 殷王朝はどのような王朝であったか。 2. 周王朝はどのような封建制度を作り上げたのか。 3. 春秋戦国時代はいかなる時代であったか。
3	秦漢の統一	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 『史記』はどのような書物であるのか。 2. 秦の統一後のさまざまな政策について。 3. 洪武帝はどのような業績を残したのか。
4	三国と両晋	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 遊牧民族と中国社会との関わりについて。 2. どのようにして三国時代は成立したか。 3. 王羲之の史的価値について。
5	南北朝時代	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 六朝はどのような時代か。 2. 「西域」はどの地域を指すのか。 3. どのような歴史的背景によって敦煌が建設されたか。
6	隋唐の統一	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 隋唐時代の科举制度について。 2. 玄奘の旅について。 3. 長安文化の繁栄を象徴するのはどのようなものか。
7	宋朝の内外	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 科举制度の確立と官僚の任用について。 2. 「清明上河図」について。 3. 宋词の形成と特長について。
8	小括	東アジアの文明形成を理解する手がかりとしての中国の文化形成の成り立ちを学習し、秦漢時代から宋代までの各時代の文化を総合的に理解する。学習の内容を確認し、復習する。
9	元朝の支配	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. モンゴル高原とその周辺を舞台にどのような民族が活躍したか。 2. 駅伝制度の役割について。 3. 元朝の宗教政策について。
10	明朝の興亡	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 朱元璋はどのような業績を残したか。 2. 北京はどのようにして建設されたのか。 3. 蘇州はどのような背景で繁栄したのか。
11	清朝の盛世	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 満州という語の由来について。 2. 康熙帝による治世はどのようなものだったか。 3. 乾隆帝のなした文化発展への貢献について。
12	清末の動揺	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 清朝の貿易政策について。 2. 上海開港はどのような結果をもたらしたか。 3. 光緒帝と変法運動のかかわりについて。

13	中華民国の苦悩	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 中華民国はどのようにして誕生したか。 2. 五四運動とは何か。 3. 北伐とはどのようなことか。
14	人民中国の発展	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 中華人民共和国はどのようにして建国されたか。 2. 「大躍進」とは何か。 3. 文化大革命はどのような時代だったのか。
15	総括	東アジアの文化理解のため、中国の文明形成の過程を把握するため、秦漢時代から 20 世紀に至る各時期の文化を総合的に復習し、学習内容を確認する。

シラバス執筆：朱 浩東

レポート課題

第1分冊 朱 浩東

第2分冊 朱 浩東

第1分冊 〈略題〉東洋文化史Ⅰ 第一章から第七章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

隋唐時代の科举制度および宋詞の形成と特徴についてまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、隋唐時代に至る中国の各時期の歴史について記述する（要約する）。
2. テキストに基づき、隋唐時代の科举制度について記述する（要約する）。
3. テキストに基づき、宋詞の形成と特徴について記述する（要約する）。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

第2分冊 〈略題〉東洋文化史Ⅱ 第八章から第十二章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

康熙帝の治世および乾隆帝の文化への貢献についてまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、康熙帝による治世について記述する（要約する）。
2. テキストに基づき、乾隆帝はどのように文化に貢献したかについて記述する（要約する）。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

参考文献

1. 松丸道雄、永田英正『中国文明の成立』講談社、1985年。
2. 湯浅邦弘『諸子百家—儒家・墨家・道家・法家・兵家』中央公論新社、2009年。
3. 浅野裕一、湯浅邦弘『諸子百家「再発見」—掘り起こされる古代中国思想』岩波書店、2004年。
4. 井波律子『中国文学—読書の快楽』角川書店、1997年。
5. 大西國太郎、朱自煒編『中国の歴史都市—これからの景観保存と町並みの再生へ』鹿島出版会、2001年。
6. 千野明日香『中国のことわざ』大修館書店、2010年。
7. 阿辻哲次『漢字の歴史』大修館書店、1989年。
8. 河田悌一『中国を見つめて』研文出版、1998年。

科目試験等への アドバイス

以下の点が特に重要である。

1. テキストの内容を十分に理解すること。その際は、丸暗記をするのではなく、毎回の授業の「課題」（本シラバスに掲載）の設問を念頭に置き、テキストの内容を総合的に理解し、自ら考察を深めること。
2. 文化史の学習の到達点を高めるため、各時代における社会の発展のあり方の違いに注目し、各時代の社会状況を深く理解すること。
3. 文化に関する自らの考察を、根拠を示して、客観性、実証性、論理一貫性をもって適切にまとめること。

教員からの メッセージ

1. 本科目の眼目は東アジアの文化を歴史的視点から学ぶことである。各文化を生み出した社会的背景に注目することによって、文化そのものをより総合的に理解することが可能になる。
2. 現代社会における人間の社会的営みを問うところから、東アジアの文化の今日的意義を探ることは学習効果を高める。
3. 人名、地名などの固有名詞のもつ意味を深く理解することも重要である。

TT0418 読書と豊かな人間性

2単位

テキスト名

『読書と豊かな人間性』
通信教育課程刊行テキスト

科目概要	本科目は「学校図書館司書教諭講習規定の一部を改正する省令」（平成10年3月）によって設置された講習科目の一つであり、文部科学省初等中等教育局により内容が規定されている。読書の意義や目的、現在の児童や生徒がおかれている読書環境を知り、読書の楽しみとともに読書能力と習慣を身につけさせる方法について学ぶ。
主な到達目標	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。
テキスト学修の留意点	以下の内容の理解に努めること。 1) 読書の意義と目的 2) 読書と心の教育（読書の習慣形成を含む） 3) 発達段階に応じた読書の指導と計画 4) 児童・生徒向け図書の種類と活用（漫画等の利用方法を含む） 5) 読書の指導方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等） 6) 家庭、地域、公共図書館等との連携

	学修テーマ	課 題
1	読書の意義と目的	読書の今日的な意義について考える。
2	読書と心の教育 （読書の習慣形成を含む）	児童・生徒の読書生活の実態を把握し、有効な指導について考える。
3	発達段階に応じた 読書の指導と計画①	読書興味と発達について理解する。
4	発達段階に応じた 読書の指導と計画②	読書能力の発達について理解する。
5	発達段階に応じた 読書の指導と計画③	小学校の読書指導計画の立案を行う。
6	発達段階に応じた 読書の指導と計画④	中学校・高等学校の読書指導計画の立案を行う。
7	児童・生徒向け図書の 種類と活用①	絵本の活用・文学作品の活用事例を知る。
8	児童・生徒向け図書の 種類と活用②	ノンフィクション作品・漫画の活用事例を知る。
9	児童・生徒向け図書の 種類と活用③	図書以外の資料（新聞・雑誌・パンフレット等）の活用事例を知る。
10	読書の指導方法①	読み聞かせの効果について事例を通して知る。
11	読書の指導方法②	ストーリーテリングについて事例を通して知る。
12	読書の指導方法③	ブックトークについて事例を通して知る。
13	読書の指導方法④	様々な読書推進の取り組みについて事例を通して知る。
14	家庭、地域、公共図書館等 との連携	国・自治体など地域や家庭での読書推進について考える。
15	まとめ	全体を振り返り学びを整理する。

シラバス執筆：木幡 智子

レポート課題

第1分冊 木幡 智子

第2分冊 木幡 智子

第1分冊 〈略題〉発達段階と読書 1～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

各発達段階における読書傾向の特徴を説明し、読書指導・読書支援の際の注意点について考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①この課題は特にテキストの丸写しとなるレポートが多い。テキストから学習した部分は正しく引用を行い、自分の考察と区別してください。発達段階を示す「○○期」などの命名にも原著作者の考えが反映されています。著作者の権利を尊重し、正しく引用すること。
- ②読書興味の発達および読書能力の発達を記述するとともに指導・支援の方法として選書や読書案内以外の方法についても考察してください。
- ③引用した事例については出典を示す参考文献リストを文末に付与する等、基本的なレポート作法を習得してください。

〈評価の観点〉

- ①テキストに示されている発達段階を理解し、適切に引用・紹介できているか。
- ②引用と自分の考察が書き分けられ、かつバランスが取れているか。

〈その他の注意点〉

指定テキストの丸写し的なレポートが目立ちます。テキストを学んだ形跡を示すためには、テキスト記載部分については正しく引用を行い、自分の言葉でまとめてください。

第2分冊 〈略題〉読書指導の実践 4～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「読み聞かせ」、「ストーリーテリング」、「ブックトーク」、「読書会」など、読書活動の一つを選び、その実践事例を紹介するとともに、効果と問題点、注意点について批判的に考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに記載のない活動（読書へのアニメーション、朝読書、ディベート、ビブリオバトル、味見読書、読者想定法、リテラチャーサークルなど）の事例を取り上げてもよいが、定義・解説などを参考文献を示し的確に引用すること。また実践事例を実地に取材する場合は、現場に迷惑のかからない常識的な範囲を守り、文献取材と同様に、情報源として取材の背景（取材日・取材相手先等）について詳細かつ正確に述べることを。匿名事例は認めない。

〈評価の観点〉

- ①対象となる活動について適切に項目が選択され、目的や方法について説明されているか。
- ②実践事例の情報が十分かつ的確に表現されているか。
- ③実践事例の効果と問題点について深い考察が行われているか。

〈その他の注意点〉

原稿用紙の間違った使用法や、レポート作成の基本的な技法を踏まえずに執筆している例が目立つ。大学レベルのレポートには、基本的な論文作法の習得が必須である。推薦図書は以下：
 (1) 玉川大学『通信教育学習ナビ』（科目名：通信教育 FYE 科目コード：01112）、2007 年
 (2) 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009 年
 (3) 小笠原喜康『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2003 年

参考文献

- レポートの書き方についても膨大なマニュアル本が出版されていますので、自分にとって読みやすいものを1冊は熟読することを薦めます。参考までに以下を推薦しておきます。
- (1) 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018 年
 - (2) 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員著『学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会、2014 年
 - (3) 秋田喜代美著『読書の発達心理学』国土社、1998 年
 - (4) 笹倉剛『子どもが変わり学級が変わる 感性を磨く「読み聞かせ」』北大路書房、1999 年
 - (5) 蔵元和子ほか著『はじめてのブックトーク』図書館流通センター、2002 年

科目試験等へのアドバイス

「学修の留意点」に記された内容ごとに主要な論点を説明できるようにしておくことが望ましい。

教員からのメッセージ

新学習指導要領では、言語活動の充実がうたわれ、学校図書館の活用についても重点が置かれています。司書教諭には、児童生徒が、図書をはじめとした多様な情報源を用いて学習を深めることを指導するとともに、一般教員の指南役として学校図書館活用のリーダーシップを発揮することも求められています。そのためには、司書教諭自身が、資料からの正しい引用の方法など、情報活用の基本的な素養も身につけていることが重要です。テキスト発行以降、学習指導要領の改訂や子供の読書活動推進計画など新たな情報が発信されていますので、最新の動向について情報収集しながら学習を進めてください。

TT0419 特別活動の理論と方法

1 単位

テキスト名

みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動、
学級・学校文化を創る特別活動

科目概要	多様な集団活動を通じて、全人的な発達を目的としている特別活動は、教育課程において他の領域には見ることができない、独自性を有している。本科目では、そうした特別活動独自の領域概念に対する理解を深めていくだけでなく、学級経営や生徒指導といった機能概念との関連性について学習し、自らの実践に生かしていけるようになる。
主な到達目標	・特別活動という領域の特質を理解することができる ・特別活動の目標と内容について理解することができる ・特別活動の授業計画案を作成することができる ・特別活動の評価について理解することができる
テキスト学修の留意点	まず、テキスト学修の留意点として、「なすことによって学ぶ」ことを特質としている特別活動をテキストで学ぶということは、常に現場での指導イメージを持つことが重要になる。その上で、「特別活動の目標や内容を明確にする」とともに、学級活動・ホームルーム活動等の指導・評価のあり方について考察し、「児童生徒の豊かな人間形成に資する理論と方法を学ぶ」こと。

	学修テーマ	課 題
1	特別活動の特質と内容 ー特別活動とは何かー	「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.4-26、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.6-18を読んだ上で、①特別活動とは何か、②特別活動の特質、について、教育課程における位置付けを踏まえた上で答えられるようにすること。
2	特別活動の目標と学習指導要領改訂のポイント	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.28-40を読んだ上で、特別活動の目標と学習指導要領改訂のポイントについて理解を深めるとともに、明確に述べられるようにすること。
3	学級活動とは何か	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.20を読んだ上で、小学校と中学校における学級活動の内容の相違点に関して理解すること。また、学級活動（1）～（3）の目標と内容についての理解を深めること。
4	学級活動（1）の特質の内容	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.42-70、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.20-31を読んだ上で、小学校と中学校における学級活動（1）の相違点及び、その特質と内容の違いについて理解すること。
5	話し合い活動の指導	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.42-70、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.20-31を読んだ上で、学級活動（1）の話し合い活動（学級会）の方法やその指導関しての理解を深めること。
6	集団決定と合意形成	「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.50-56を読んだ上で、話し合い活動（学級会）における合意形成の方法や多様な集団決定の方法に関して理解を深めること。また、多数決の留意点等に関しても理解しておくこと。 ※インターネットの検索も有効 Keyword:合意形成、集団決定
7	特別活動における振り返り	「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.57-59を読んだ上で、話し合い活動（学級会）の振り返りと実践後の振り返りの方法について理解し、その指導方法に関してイメージできるようにすること。 ※インターネットでの検索も有効 Keyword:振り返り、体験（経験）学習サイクル
8	学級活動（2）の特質と指導	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.72-82、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.44-56を読んだ上で、小学校と中学校における学級活動（2）の相違点及び、その特質と内容について理解を深めること。
9	学級活動（3）の特質と指導	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.84-94、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.58-66を読んだ上で小学校と中学校における学級活動（2）の相違点及び、その特質と内容について理解を深めること。
10	キャリア形成と自己実現	「学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.36、94、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.58-66を読んだ上で、児童生徒一人一人のキャリア形成と自己実現の方法とその指導に関しての理解を深めること。
11	児童会活動とクラブ活動の特質と指導	「学習指導要領解説（小学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.96-106を読んだ上で、児童会活動及びクラブ活動の特質とその指導の方法に関しての理解を深めること。
12	生徒会活動の特質と指導	「学習指導要領解説（中学校編）」、及び「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.70-81を読んだ上で、生徒会の特質を理解するとともに、その指導の方法に関して理解を深めること。
13	学校行事の特質と指導	学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.108-116、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.92-106を読んだ上で、学校行事の特質とその指導に関しての理解を深めること。
14	教室経営の工夫	「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.118-122を読んだ上で、教室経営の工夫に関しての理解を深め、自身の教室経営案の工夫に関してのイメージを持てるようにすること。
15	学級経営の充実と特別活動の評価	学習指導要領解説（小学校編・中学校編）」、及び「よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」p.34-40、「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」p.8-16、p.24を読んだ上で、特別活動と学級経営、生徒指導との関連についてや、特別活動の評価に関しての理解を深める。

レポート課題

第1分冊 川本 和孝

第1分冊 〈略題〉学級会の活性化—合意形成をするためのポイントとその工夫—
小学校編：第2章 (p.42-70)

横書き

Word添付

〈課題〉

- ① 特別活動の意義・目標を踏まえた上で、学級活動（1）の話合い（以降学級会）の意義を述べてください。また、学級会が活性化しなかったり、マンネリ化したりする時の理由とその対処法に関して、自身の経験等を踏まえながら記述してください。
- ② 学級会において、集団決定・合意形成をするためのポイントと注意点を踏まえた上で、「集団決定・合意形成」のための工夫を記述してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・「学習指導要領解説 特別活動編」は、テキストと併用して活用すること（小・中は必ず29年改訂版を活用すること）。
- ・①と②の文字数制限は特にないが、1,000字～1,200字ずつを目安とすること。
- ・自身の小学校や中学校時代の学級会の経験等が思い出せない場合は、過去の「集団決定に至る話合い」の経験を元に記述すること。②に関しては、「どのようにすれば比べ合うことができるのか」という、選択・決定の基準を明確にするための工夫や、その流れを記述すること。

〈評価の観点〉

- ・特別活動や学級活動の目標・特質・意義を明確に理解し、自分なりの言葉でまとめることができるか（目標の引用は不要）
- ・①も②も極力引用文やコピペを使わずに（必要最低限に抑える）、自分の文章にして記述することができるか（引用・コピペが多い課題に関しては評価が下がります）
- ・自身が教師になったときの学級会の指導イメージを持てているかどうか

〈その他の注意点〉

- ・①と②の間は、必ず1行空けること
- ・小学校の内容を基準にしていることが多いが、中・高の場合は校種に合わせて読み替えること。
- ・使用しているテキストは、小学校版は学習指導要領の改訂以降のものだが、中学校版は改訂以前のものであるため、注意が必要。必要であれば、必ず学習指導要領解説を参考にする

参考文献

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」・「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（文部科学省）
 「よりよい人間関係を築く特別活動」（図書文化） 杉田 洋 ※大変読みやすい図書です
 「特別活動と人間形成」（学文社） 山口 満 編 ※特別活動の歴史やより詳細のことを学ぶのに適した図書です
 「学級の社会学」（ナカニシヤ出版） 蓮尾 直美・安藤 知子 編 ※学級経営との関連等を学ぶのに適しています

科目試験等への
アドバイス

- ・特別活動の特質を必ず理解しておくこと
- ・必ず「学級会」関連が中心になるので、学級会の準備、流れ（当日の指導）、事後の活動、振り返り（事後指導）に関する内容は必ず理解しておくようにしてください。

教員からの
メッセージ

現在、特別活動は「日本型教育」の一端として、中東を中心とした海外にも「Tokkatsu」という名称で広がってきています。しかし、その一方で国内での特別活動の指導実態は「できない、分からない」、だから「やらない」という風潮が強まってきます。民主主義の根幹を支えるためにも、また児童生徒が「学校って楽しい」と思えるようにしていくためにも、特別活動は学校教育において本当に必要不可欠なものです。先生を目指す皆さんが、しっかりと「特別活動の指導スキルと知識を持った教員になっていただきたい」と心から願っています！

科目概要	この科目では、特別支援教育について、その理念、制度等について理解を図る。また、発達障害(LD、ADHD、ASD など)や知的障害をはじめ様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援の方法等について学んでいく。
主な到達目標	・インクルーシブ教育システムを含め、特別支援教育に関する制度の理念や概括的な仕組みについて説明することができる。 ・特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性、心身の発達等について、概要を説明することができる。 ・特別支援教育の教育課程の基本的な仕組みについて説明できるとともに、各障害に対応した教育課程や支援の方法について説明することができる。
テキスト学修の留意点	本科目は、特別支援教育の現状や障害のある子どもたちの多様な実態に対応し、広範な内容構成になっている。学習者がいかなる状況においても、子どもたちの多様な教育的ニーズに対して適切な対応を考えていくためには、幅広い内容を学ぶことが求められる。したがって、まずは、テキスト全体を概括的に理解した上で、個々の興味・関心や実際の必要性に応じ、参考文献やインターネットの情報等により更に学修を深めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	特別支援教育の理念と展開	共生社会の形成を目指したインクルーシブ教育システムの構築に向けた考え方、特別支援教育の理念や展開について学ぶ。
2	特別支援教育の歴史と現状	特殊教育から特別支援教育へと移行した経緯、特別支援教育の現状と実際について学ぶ。
3	特別支援教育の仕組みと実際	特別支援教育推進の仕組みとして、交流及び共同学習（意義、内容、実践内容、事例）、特別支援学校のセンター的機能（経緯、具体的内容、実施状況、事例）、自立活動（意義、障害の捉え方、教育課程上の位置づけ）などについて学ぶ。
4	早期からの相談と就学先の決定	乳幼児期における障害の気づき、早期からの相談、就学先の決定の手続き、基礎的環境整備と合理的配慮などについて学ぶ。
5	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画の定義、内容と活用について学ぶ。また、個別の指導計画の作成手順と意義、両計画の関係について学ぶ。
6	小・中学校等における特別支援教育	小・中学校等における特別支援教育として、校内支援体制整備における校内委員会、特別支援教育コーディネーター、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもたち、学校による支援体制としてのチーム学校、校長のリーダーシップ、学級担任の取組などについて学ぶ。
7	通級による指導と特別支援学級	小・中学校等における特別支援教育の中心的な指導の場として、通級による指導と特別支援学級について学ぶ。
8	発達障害等の理解と指導 1（発達障害とは／学習障害）	発達障害全体の定義と特徴、そのうち、学習障害（LD）の特性、通常の学級での配慮等について学ぶ。
9	発達障害等の理解と指導 2（注意欠如・多動症「ADHD」）	発達障害のうち、注意欠如・多動症（ADHD）の定義、特性、通常の学級における配慮等について学ぶ。
10	発達障害等の理解と指導 3（自閉スペクトラム症「ASD」）	発達障害のうち、自閉スペクトラム症（ASD）の定義、特性、通常の学校における配慮等について学ぶ。
11	発達障害等の理解と指導 4（情緒障害・不登校・虐待・貧困）	情緒障害の定義、特性、教育の場や指導上の配慮について学ぶとともに、その背景となる児童虐待や貧困等の問題についてもふれる。
12	発達障害等の理解と指導 5（言語障害）	言語障害の定義、特徴、対象とその特性、指導の実際等について学ぶ。
13	特別支援教育の教育課程と知的障害の理解と指導	特別支援教育の教育課程の基本構造について理解するとともに、知的障害の児童生徒を対象とした各教科等と指導の実際、複数の障害を有する（重複障害）児童生徒を対象とした自立活動を主とした教育課程について学ぶ。また、また、知的障害について、定義、特性、指導の実際について学ぶ。
14	障害児の発達特性と指導（視覚障害・聴覚障害・盲ろう）	視覚障害、聴覚障害、盲ろうについて、それぞれ、定義、特性、指導の実際の概略について学ぶ。
15	障害児の発達特性と指導（肢体不自由、病弱・身体虚弱、重度・重複障害）	肢体不自由、病弱・身体虚弱、重度・重複障害について、定義、特性、指導・支援の実際について学ぶ。

シラバス執筆：齋藤 大地

レポート課題

第1分冊 齋藤 大地

第1分冊 〈略題〉小・中学校等における特別支援教育 第3章～第4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

小・中学校等における特別支援教育の推進のための体制・仕組み及び課題について述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストのうち、範囲として示した「第3章～第4章」は、課題と直接関係する部分を示したものである。

課題作成に当たっては、直接関係する部分だけでなく、特別支援教育全体との関係において課題をとらえ、論述すること。その際、次のキーワードとの関係についても言及すること。

【キーワード】

・インクルーシブ教育システム、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、発達障害

〈評価の観点〉

- ①課題に沿った論述がなされているか。
- ②テキストの内容を正確に理解し、その知識が全体の論述の中で効果的に活用されているか。
- ③留意事項に示されたキーワードについて正しく言及されているか。

〈その他の注意点〉

・課題は「小・中学校等における特別支援教育」としており、小・中学校のほか、幼稚園、高等学校を中心に述べることもできる。

参考文献

参考文献；「特別支援教育の基礎・基本 2020」国立特別支援教育総合研究所編 2020 ジアース出版 ISBN 978-4-86371-548-6

科目試験等への
アドバイス

- ・非常に幅広い内容を含んでいますので、まずは、テキストの内容をしっかりと理解していきましょう。
- ・シラバスの課題に示されているキーワードやテキストで太字になっているキーワードについて、その意味をしっかりと確認しておきましょう。
- ・テキストの各項の末尾の「まとめ」に示されている事項について、自分なりに考えをまとめておきましょう。

教員からの
メッセージ

この特別支援教育の科目の学修を通じて、皆さんの特別支援教育全般への理解が深まり、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室はもちろんのこと、通常の学級においても、障害のある子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じ、適切な教育・支援が行われ、ひいては、インクルーシブ教育システムの構築に寄与することを期待しています。

TT0421 日本の伝統文化と歴史

2単位

テキスト名

野村朋弘編『日本文化の源流を探る』
(芸術教養シリーズ 22、伝統を読み
直す 1) 幻冬舎

科目概要	現代の日本において「伝統文化」とは、明治期を境として、それ以前から継承されてきたさまざまな領域の文化のことを意味しています。本科目では、古代から近代にいたるまでの歴史のなかで、日本文化がどのように形成され、継承されてきたのか、そしてそれらが明治維新を画期として、どのような変容をとげ、「伝統文化」として受け継がれることになったのかを学びます。
主な到達目標	①「伝統文化」の意味と概念を正しく理解し、的確に説明できるようになる。 ②古代から近代にいたるまでの歴史のなかで、日本文化がどのように形成・継承されてきたのかを理解する。 ③明治維新を画期として、日本文化がどのような変容をとげ、「伝統文化」として受け継がれることになったのかを理解する。 ④日本の伝統文化の多様なあり方を理解したうえで、受講者自身が興味をもつ領域・分野について、その特質と形成・継承・変容の過程を考究し、理解を深める。
テキスト学修の留意点	①テキストの「はじめに」をよく読み、日本の伝統文化と歴史について学ぶことの意義を理解すること。 ②テキストの各章にまとめられたそれぞれのテーマにかんする概説的内容についての的確な理解につとめること。 ③関連する文献を幅広く読み、日本の伝統文化と歴史についての総合的、多角的な理解につとめること。 以上の①～③をふまえ、課題についての考察とレポートの作成、科目試験に向けての準備に取り組んでください。

	学修テーマ	課 題
1	日本文化の形成	中国や朝鮮半島などからもたらされた大陸文化の影響のもとで、日本文化がどのように成立し、展開を果たしたのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第1章）。
2	日本文化の基層の成立	中世の武士の社会において「唐物」がどのように受容されたのか、また、「和物」の文化がどのように形成されたのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第2章）。
3	明治維新の廃仏毀釈と西洋化	明治維新を画期として、日本文化の基層がどのように変容していくことになったのか、廃仏毀釈や西洋化がその変容とどのように関連したのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第3章）。
4	日本文化の再評価と博物館の設立	明治維新における西洋化の反動として、日本古来の宝物や文化を再評価しようとする運動が、いつごろ、どのようににはじまったのか、その運動のなかで、万国博覧会への出展、古社寺保存運動、国立博物館の設立、宝物コレクターの誕生がどのような意味をもったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第4章）。
5	今日の日本における「伝統」の成立	そもそも「伝統」とは何なのか、日本の「伝統」が明治期にどのように生み出されたのかについて、詳しく調べ理解を深めること。そのうえで、現代の私たちがその「伝統」を学ぶことの意義を考究すること（第5章）。
6	明治維新後の歌舞伎	近世日本の文化において重要な位置を占めた歌舞伎が、明治期の演劇改良運動において、新時代に適合するために、どのような取り組みをおこなったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第6章）。
7	型の記録-歌舞伎の伝統芸能化	明治30年代における「歌舞伎の危機」を背景として、歌舞伎の「型」の記録がどのようにおこなわれたのか、その「型」を規範とする歌舞伎の伝統芸能化がどのように進展したのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第7章）。
8	歌舞伎座の開場	明治期における新富座や歌舞伎座の開場が、歌舞伎の近代化においてどのような意味をもつことになったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第8章）。
9	雅楽	雅楽がどのような歴史を有するのか、それが明治期以降、どのように解説され、価値や権威を付与されることになったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第9章）。
10	近現代の神社祭礼の芸能	本来、神への奉納物であった神社祭礼の芸能が、近現代において、なぜ、どのように人間の娯楽物としての傾向を強めることになったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第10章）。
11	近代の茶道家元	明治維新により経済的基盤を失った茶道の家元たちが、どのような変革をおこない、近代的な家元組織をつくっていったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第11章）。
12	近代数寄者の茶の湯	「近代数寄者」とはどのような存在であったのか、彼らが伝統文化の再評価においてどのような役割を果たしたのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第12章）。
13	茶道の大衆化	学校教育への導入や茶会の変化により、近代において茶道がどのように大衆化していくことになったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第13章）。
14	茶道書籍の刊行	茶道の文化的な価値が社会的に認知されていく過程において、茶書の公開や茶道書籍の刊行がどのような意味をもったのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第14章）。
15	近代の茶道具	近代において、茶道具を美術作品としてとらえる視点が、どのように形成されたのかについて、詳しく調べ理解を深めること（第15章）。

シラバス執筆：萩原 哉

レポート課題

第1分冊 萩原 哉

第2分冊 萩原 哉

第1分冊 〈略題〉日本文化の特質 はじめに・第1章・第2章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

日本文化には他の諸文化とは異なるどのような特質があると考えられるのか、それが古代から近世にいたるまでの歴史のなかで、どのように形成・継承されてきたのかについて、外来文化の影響に留意し、具体的事例をあげながら論証しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題の趣旨を正しく理解したうえで、学修とレポートの作成に取り組むこと。
- ②テキストとともに、関連する複数の文献をよく読み、それぞれの内容についての正しい理解につとめたうえで、課題についての考察を試みること。
- ③考察の対象を特定の領域・分野に限定してもよい。
- ④長文の引用、引用文の多用は不可。学修・考察の成果にもとづいて、自分自身の言葉で的確に、簡潔に論述するよう心がけること。

〈評価の観点〉

- ①日本文化の形成・継承の過程についての理解をふまえて、その特質についての考察が試みられているか。
- ②関連する他の諸文化との比較や外来文化の影響についての考察をふまえて、日本文化の特質が明確に論証されているか。
- ③レポート作成上の基本的なルールを守り、学修・考察の成果にもとづいて、自分自身の言葉で論述しているか。

〈その他の注意点〉

参考文献の欄に、参照した文献の編著者名『書名』出版社名、刊行年、参照ページを必ず記すこと。参考文献の記載がないレポートは評価の対象としません。なお、WikipediaなどのWebサイトからの引用、抜粋は原則として認めません。

第2分冊 〈略題〉近現代における「伝統の創出」について 第3章～第15章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

古代から近世までの歴史のなかで形成・継承されてきた日本文化が、明治維新を画期として、どのような変容をとげ、「伝統文化」として受け継がれることになったのかについて、具体的事例をあげながら論証しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題の趣旨を正しく理解したうえで、学修とレポートの作成に取り組むこと。
- ②テキストとともに、関連する複数の文献をよく読み、それぞれの内容についての正しい理解につとめたうえで、課題についての考察を試みること。
- ③考察の対象を特定の領域・分野に限定してもよい。
- ④長文の引用、引用文の多用は不可。学修・考察の成果にもとづいて、自分自身の言葉で的確に、簡潔に論述するよう心がけること。

〈評価の観点〉

- ①明治維新を画期として、日本文化がどのような変容をとげたのかについて、多角的な考察が試みられているか。
- ②明治期における日本文化の変容が、明治維新を背景とするどのような要因によって促されたのかについて、明確に論証されているか。
- ③レポート作成上の基本的なルールを守り、学修・考察の成果にもとづいて、自分自身の言葉で論述しているか。

〈その他の注意点〉

参考文献の欄に、参照した文献の編著者名『書名』出版社名、刊行年、参照ページを必ず記すこと。参考文献の記載がないレポートは評価の対象としません。なお、WikipediaなどのWebサイトからの引用、抜粋は原則として認めません。

参考文献

尾藤正英『日本文化史』岩波書店、2000年
大隅和雄『日本文化史講義』吉川弘文館、2017年
五味文彦『伝統文化』（日本の伝統文化シリーズ1）山川出版社、2019年
上記に加え、テキストに記載の参考文献なども参照すること。

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、テキストの内容にもとづいて出題することを原則とします。テキストをよく読み、各章・各節の要点を的確に整理しておくようにしてください。また、テキストに記載された事項の概要や用語の意味などの解説を求める出題をする場合もあります。不明な事項、用語については、関連する文献や事典類を参照し、概要や意味についての正しい理解につとめてください。

教員からの
メッセージ

「伝統文化」には、鑑賞や体験をつうじて自分自身の感覚で理解することが必要なものがあります。受講者は、テキスト、参考文献による学修とともに、積極的に「伝統文化」を鑑賞・体験する機会を設けるよう心がけてください。

科目概要	古代の各国家における図書資料や図書館の発生から、現代の情報メディアと図書館に至る、主に日本と欧米諸国の歴史について学習する。それぞれの時代における図書と図書館のありようとその意義を知る。このことは、図書館の理念の形成と図書館情報学の成立を理解し、その意義を考える上で重要であり、図書や図書館が支えてきた文化や人間の精神的・思想的発展について考えることでもある。(司書資格必修科目)
主な到達目標	図書館が成立した経緯と歴史的展開について理解するとともに、どの時代にいかなる記録メディアが登場したのか、またそのメディアの特性を理解することを目標とする。
テキスト学修の留意点	膨大な固有名詞(人名、地名、作品名など)が登場して圧倒されるかもしれませんが、片っ端から覚える必要はありません。むしろ、こまごまとした事実の羅列の中から、図書館(に相当する施設)の歴史や、メディアの歴史を大づかみにして、その要点を把握していくことを心がけて読むと良いでしょう。そのためには、2度3度とテキストを読むのも一法です。1度目は気づかなくても、2度目になると、大切そうなところが何となく分かってくるものです。 なお、日本史や世界史の基本的な知識がある程度ないと、読んでいても時代背景がピンとこないかもしれませんが、そこは適宜他の本などで補ってください。また、特にメディアの歴史や各種の印刷術などについては、巻末に挙げたさまざまな参考文献や、インターネット上の情報源なども活用し、学びを深めていってください。 また、司書課程においてこの科目を学ぶ意義についてはテキストのUnit 0を参照してください。なお、そこでは「選択科目」と書いてありますが、本学の通信教育課程では必修科目になっています。

	学修テーマ	課 題
1	紙以前の記録メディア (Unit 1)	情報を記録するメディアとして今なおその代表格である紙が発明される前、人類はどのようなメディアを用いていたのだろうか。それぞれの地域で入手しやすい材料を工夫して使っていた様子に留意して学ぶ。
2	紙の発明と図書の形態 (Unit 2-3)	紙はいつごろ、どこで発明され、どのようにして伝播していったかを理解する。仏教圏とその外部とで浸透の速度が異なること、また従来のメディアと比べて紙が持つ特性の違いに留意する。紙が生まれたことで新たに誕生した各種の図書の形態について把握する。
3	印刷術 (Unit 4-6)	手書き→印刷(手作業)→印刷(機械)という技術の発展を理解し、何がどう変わったのかをつかむ。各種の印刷手法について知る。今日につながる大量印刷の技術はどのようにして生まれ発展してきたか理解する。
4	雑誌・新聞・マスメディア (Unit 7-8)	紙の発明と印刷技術の発展により、どのような雑誌や新聞が生まれてきたのかを知る。我が国の幕末から昭和前半期にかけての雑誌や新聞の発展史と、それらに対する権力による統制の歴史を学ぶ。
5	メディアの多様化 (Unit 9-10)	19世紀から今日に至る技術革新の中で生まれたさまざまなメディアについて学ぶ。
6	図書館の源流と中世・近世の図書館 (Unit 11-13)	各地域の古代文明においてどのような図書館(的な機能をもつ施設)が生まれたかを学ぶ。中世の図書館について、特に宗教と権力との関係に留意して学ぶ。近世の図書館にみられるさまざまな変化を、今日の姿につながるさまざまな萌芽が生まれていることに留意しながら学ぶ。
7	公共図書館の成立と近代の図書館 (Unit 14-15)	公共図書館という理念はいつごろ、どこで、どのようにして生まれたのか把握する。近代図書館史における、司書の養成、サービスの深まり、図書館の基本的な理念の形成について学ぶ。
8	前近代日本の図書館 (Unit 16)	ここからは日本の図書館史について学ぶ。古代から江戸時代まで、図書館的な機能をもつ施設にはどのようなものがあつたのか把握する。
9	近代日本の図書館とデモクラシー (Unit 17-18)	幕末から明治期にかけて library という新しい概念が日本に流入する中で、名称も業務内容も含めて官民ともにさまざまな試行錯誤を経て、図書館がどのように定着していったか学ぶ。その過程で国家による管理の色合いが濃くなりつつも、特に大正デモクラシーの流れの中で民間においても活発な図書館活動が行われた点に留意する。
10	戦時体制下の図書館 (Unit 19)	戦時体制の強化とともに、図書館が国民に対する思想善導の機関へと変質していく過程について学ぶ。また、少数ではあるがその流れに抗った図書館人がいたことを知る。
11	戦後改革、戦後民主主義と図書館 (Unit 20、21 前半)	GHQ による占領期、CIE の教育改革の中で、無料公開をはじめとする今日では当たり前の基本理念が導入されていく様子について学ぶ。利用者の知る自由を守るという基本理念を述べた「図書館の自由に関する宣言」がどのようないきさつで生まれて今日に至ったかを学ぶ(詳しくは「図書館概論」で)。戦後の読書運動の歴史について学び、当初はいまでいうアウトリーチサービスとして始まったことを理解する。

12	市町村立図書館の振興と住民 (Unit21 後半、22)	戦後図書館史において大きな転換をもたらしたといえる『中小レポート』と、その実践編といえる『市民の図書館』について、その内容を把握し、その提言のどこがエポックメイキングなものといえるか、またその後の図書館の発展にどのようにつながっていくか、考えてみる。なお、両者は現在も購入可能であるし、多くの図書館に置いてあるので、ぜひ現物を読んでほしい。 図書館の数が増え、利用が活性化するとともに、改めて浮上した利用者のプライバシーの問題について考える（詳しくは「図書館概論」で）。 『市民の図書館』以後のさまざまなサービス拡充について把握する。
13	自治体政策の中の図書館 (Unit 23)	1970年に東京都がまとめた『図書館政策の課題と対策』で指摘された図書館の現状と問題点はどのようなもので、またそれがその後どのように解決されていったか（あるいはされなかったか）を把握する。 委託や指定管理など、多様化する図書館の運営形態について学ぶ。
14	子どもと読書・図書館 (Unit 24)	子どもと関わる図書館サービスとして、学校図書館、子ども文庫、公共図書館の児童サービスの歴史的展開について学び、子どもの読書活動に図書館はどのように関わっていくべきか考える。
15	科学技術の発達と図書館 (Unit 25)	科学技術が図書館業務に取り入れられていった歴史として、図書館業務の機械化について、目録のコンピュータ化とネットワーク化、コピー機の普及を中心に学ぶ。

シラバス執筆：松山 巖

〈課題〉

図書を初めとする情報メディアの変遷の中で、①図書館の機能はどう変わってきたか。②また図書館の機能で変わらない点は何か。③それらをふまえて未来の図書館像はどうなるだろうか(あるいはどうあるべきか)。それぞれ考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートとはテキストで学習した成果を報告 (report) するものである。最近、テキストを全く読まなくとも書けてしまうような、図書館に対する自らの熱い思いを用紙にぶつけただけの文章が時折送られてくるが、レポートは投書欄ではない。また、情報メディアときいて電子メディアしか考察の対象にしない人もいるが、視野が狭すぎる。古代から現代に至る流れの中で、メディアと図書館の歴史がどのようにして今日につながっているのかを把握し、その土台に立ってレポートを書いてほしい。なお、①～③の答えはテキストを読んでも直接には書かれていないので自分なりに考える必要がある。したがって、人によって答え方は違ってくるであろう(特に③)が、それでよい。ただし、テキストで学んだ内容が活かされており、説得力のある文章になっていること。

また、①については図書館の機能は時代とともに絶えず変化し続けているので、歴史上の出来事を並べるだけでも、機能の変遷を述べていると主張する人もいるかもしれない。しかし、それでは単なるテキストの要約に過ぎず、上で述べた報告書とはいえない。単なる出来事の羅列ではなく、古代から現代に至る歴史の中でどのような点が変わったのか(もちろん1つとは限らずいろいろある)を幅広く捉え、その中で自分なりの観点から、図書館の長い歴史を捉え直してほしい。その上で、「変わった点」は端的に言って何なのか、また「変わらない点」は何なのかをまとめること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 日本の図書館についてだけ、あるいは外国の図書館についてだけしか触れられていないものは、テキストを学び終えていないと見なし、当然D評価とする。
3. 論旨が一貫しているか。
4. 内容は課題にきちんと答えているか。
5. ③で書かれていることが、①②で述べた内容をふまえたものになっているか。(せっかく①②でよいことを書いているのに、③の内容がそれと全く関係ないために不合格になる例がしばしばみられる。)

〈その他の注意点〉

上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」をきちんと読み、それに沿ったレポートを書けばほとんどのレポートは合格になるはずなのだが、読みもしないで書いたとしたか思えないレポートが非常に多いのは残念なことである。

参考文献

.....
 佃 一可編『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ 11) 樹村房、2012年 ISBN 978-4-88367-211-0
 モーリー・サワ文、ビル・スレイヴィン絵『本と図書館の歴史：ラクダの移動図書館から電子書籍まで』西村書店、2010年 ISBN 978-4-89013-923-1
 その他、テキストの巻末に多数の文献が載っているので参考にされたい。

科目試験等への
アドバイス

.....
 細かい知識や個々の用語の意味も大切ですが、より大切なのは、歴史の流れを大きくつかむことです。とはいえ、基本的な用語の意味も知らないとなると、この科目を本当に学んだのか?と問われてしまいます。高校までの教科書などでは、重要な語句が太字で書いてあったりしましたが、このテキストでは太字を使わない代わりに欄外に書き出してありますので、ポイントをつかむ上で参考にしてください。

教員からの
メッセージ

.....
 今ある図書館は、昔から今のような姿で、今のような機能を持っていたわけではありません。現在に至る長い道のりの中で、時には試行錯誤、時には苦悩と試練、それらを経て今があります。過去を知り、その上で現在を捉えることで、未来を考える。それがこの科目の意義といえます。

TT0423 図書館概論

2単位

テキスト名

『図書館概論 五訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 1)』
日本図書館協会

科目概要	本科目は、司書課程の導入科目として設けられている。図書館に関する基本的な理解を深め、図書館の現状や今後の図書館のあり方など、図書館業務に必要な内容を幅広く学んでいく。
主な到達目標	本科目では「図書館法施行規則の一部を改正する省令及び博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成21年4月 文部科学省)に述べられている内容から「図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本」を理解することを目標とする。
テキスト学修の留意点	以下の内容理解に努めること。 1) 図書館の定義と意義 2) 図書館の構成要素と機能 3) 図書館の社会的意義 (ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) 4) 知的自由と図書館 (図書館の自由に関する宣言等) 5) 図書館の歴史 6) 公立図書館の成立と展開 7) 館種別図書館と利用者のニーズ 8) 図書館職員の役割と資格 9) 図書館の類縁機関・関係団体 (文書館を含む) 10) 外国の図書館 11) 図書館の課題と展望

	学修テーマ	課 題
1	導入	授業の概要説明。受講の心得・評価方法など。
2	現状と動向	図書館の現状と動向を理解する。
3	要素と機能	図書館の構成要素と機能を理解する。
4	社会的意義	図書館の社会的意義 (ユネスコ公共図書館宣言等)を理解する。
5	知的自由と図書館	知的自由と図書館 (図書館の自由に関する宣言等)を理解する。
6	図書館の歴史	図書館の歴史を理解する。
7	公立図書館	公立図書館の成立と展開を理解する。
8	公共図書館	館種別図書館と利用者のニーズ①公共図書館を理解する。
9	学校図書館・大学図書館	館種別図書館と利用者のニーズ②学校図書館・大学図書館を理解する。
10	専門図書館・国立図書館	館種別図書館と利用者のニーズ③専門図書館・国立図書館を理解する。
11	図書館職員	図書館職員の役割と資格を理解する。
12	類縁機関	図書館の類縁機関・関係団体 (文書館を含む)を理解する。
13	外国の図書館	外国の図書館の制度・特色について理解する。
14	課題と展望	図書館の課題と展望について理解する。
15	まとめと復習	これまでの学修内容を振り返る。

シラバス執筆：宮原 志津子

レポート課題

第1分冊 宮原 志津子

第2分冊 宮原 志津子

第1分冊 〈略題〉今日の公共図書館の現状と課題 テキスト UNIT1～UNIT21

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- (1) 指定テキスト等から「図書館とは何か」を読み取り、引用・参照しながら、自分の意見をまとめなさい。
- (2) 過去5年以内に実施・発表された公共図書館でのサービス事例について、文献やインターネット等から調べ、引用や参照を適宜行いながら、サービスの概要及び特色を説明しなさい。
- (3) (2)についての課題・問題点を指摘し、自分が図書館員であれば解決のためにどのような方策を取るか、論拠を示しながら具体的に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 学校図書館・大学図書館・専門図書館は対象から除く。
- (2) 課題(3)の解決策については、人の配置や予算に制限がある中での、現実的な解決策を示すこと。
- (3) 情報源(書誌情報、インターネットのURL等)が読み手にわかるよう、正しく引用を行うこと。
- (4) レポートの書き方、引用についての理解が不足している場合は、文末「その他の注意点」で推薦されている図書を参考にすること。形式や引用が不十分な場合、内容面での評価に値しないとして不合格とする。
- (5) 「序論」や「結論」が無いレポートが多いので、気を付けること。また章番号と章タイトルをつけ、全体の構成バランスを意識して執筆すること。

〈評価の観点〉

- (1) テキストの内容がきちんと理解できているか
- (2) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (3) 適切な情報源を見つけ、使用することができるか
- (4) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (5) サービスの定義、意義、効果などが明確に述べられているか
- (6) 自分なりの問題意識を持ち、自分の言葉で書かれているか
- (7) 調査したサービスの問題点に対する、現実的な解決策を示しているかどうか

〈その他の注意点〉

レポート作成の基本的な技法を踏まえ、我流で執筆している例が非常に目立ちます。特に引用の仕方についてはほとんどの学生ができておらず、再提出となるケースがあまりにも多くなっています。

大学レベルのレポートには、基本的な論文作法の習得が必須です。レポート本文を書く前に、下記の推薦図書を参照してください。

桑田てるみ『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版: スキルを学ぶ21のワーク』実務出版、2015年

第2分冊 〈略題〉データで語る図書館の実態 テキスト UNIT22～UNIT50

横書き指定

直接入力

〈課題〉

図書館の実態について、

- (1) 市町村立の中央図書館を1館選び、基本的調査項目(「レポート作成にあたっての留意事項」参照)に関連する、各種統計データを収集する。
- (2) (1)で選んだ図書館と類似の奉仕人口の図書館を選び、同じ項目のデータを収集する。(1)の図書館と比較し、違いを明らかにした上で、なぜ違いが生じるのかについて考察を述べる。
- (3) 同規模の中央図書館群の全国平均を算出し、(1)の図書館のサービス水準が、全国的にどのような状況にあるのかについて論じる。
- (4) (1)の図書館がある自治体に関する情報を収集し、地域の特性をまとめる。
- (5) (4)で述べた地域の特性が、どのように図書館サービスに反映されているのかについて考察し、自分の考えをまとめる。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

基本的な調査項目として、以下の7項目は必ず記述すること。さらに他の項目を加えてもよい。レポートではすべて文章でまとめること。文中へのエクセルの表の挿入や、別紙の添付は禁じる。

- ① 奉仕人口数
- ② 運営形態(直営、指定管理者による委託など)
- ③ 登録者数
- ④ 年間開館日数
- ⑤ 蔵書冊数(図書・逐次刊行物など)
- ⑥ 貸出冊数
- ⑦ 職員数

〈評価の観点〉

- (1) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (2) 適切な情報源を見つけ、使用することができるか
- (3) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (4) 課題で求められた要素(1)から(5)をすべて満たしているか
- (5) データから図書館の特徴が読み取れるように記述されているか
- (6) 適切な資料をもとに、地域の特性が明らかにされているか
- (7) 収集したデータ・資料が整理され、分析・考察と結びついているか

〈その他の注意点〉

内容はこちらをクリックして下さい、

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/図書館概論第2分冊.pdf>

参考文献

日本図書館協会編 『日本の図書館 統計と名簿』（日本図書館協会）＊毎年刊行
今 まど子・小山 憲司編著 『図書館情報学基礎資料 第5版』（樹村房、2024年）
日本図書館情報学会編 『図書館情報学用語辞典 第5版』（丸善、2020年）
レイ・オルデンバーグ『サードプレイスー コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』（みずす書房、2013年）

科目試験等への アドバイス

本科目は図書館について非常に幅広い内容を含むので、章ごとの核となる事項と実例などを丁寧に読み込むことが求められます。単に丸暗記をするのではなく、テキストを繰り返し読み、現代の公共図書館が置かれている状況について自分なりの問題意識を持ち、問題に対する自分の意見を確立することが大切です。

教員からの メッセージ

本科目では、レポートとしての形式や引用の仕方が不十分な場合は、内容面の評価は行わず、そのまま不合格としています。初回の提出では半数以上の学生が、上記の理由で不合格となっています。また「序論」「本論」「結論」の基本的構成がなされておらず、我流で書かれたレポートも増えています。レポートの書き方は、専門書だけでなく、インターネット上にも詳しい解説がたくさんあります。きちんと自己学修を行ってから執筆・提出してください。

調査のために最寄りの図書館を訪問する場合は、課題内容について図書館員へそのまま尋ねることはしないでください。入手したデータ内容の確認や、より詳細な資料の所在などを聞く場合は、レファレンスカウンターなどを利用しましょう。くれぐれも図書館業務の妨げにならないよう配慮してください。

TT0424 図書館サービス概論

2単位

テキスト名

『現代図書館情報学シリーズ
改訂図書館サービス概論』

科目概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権等の基本を解説する。
主な到達目標	・ 図書館サービスの考え方と構造を理解する。
テキスト学修の留意点	・ 課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・ 特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・ レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館サービスの意義と方法	・ 公共図書館の持つ社会的機能について読み取る。 ・ 図書館サービスの理念をあらわした宣言等を読み役割と制限について知る。
2	図書館サービスの構成要素	・ 図書館サービスを検討する際の構成要素について概要を知る。 ・ 図書館が資料・情報を提供することの意義と社会的機能について読み取る。 ・ 図書館サービスの今後の方向性について読み取り考える。
3	戦後日本の公共図書館サービス略史 1	・ 現代の日本の公共図書館の役割がどう成立してきたかを戦後の民主化などの経緯から読み取る。 ・ 高度経済成長期の日本の社会の変化と、それに対応するために公共図書館がどのようなサービスを提示していったのかを知る。 ・ 『中小レポート』『市民の図書館』が示した図書館サービスの方向性を読み取る。 ・ 現代社会と比較して、45年から70年代後半までの図書館サービスとの違いを考える。
4	戦後日本の公共図書館サービス略史 2	・ 安定成長期、少子高齢化社会、人口減少社会など80年代から現代までの日本の社会の変化に対して、図書館サービスがどう変わっていったのかを読み取る。 ・ 日本でインターネットが一般化したときに、公共図書館サービスがどう変わっていったのかを読み取り、自分の経験と比較してみる。 ・ これからの図書館サービスについて検討する。
5	図書館サービスとコンプライアンス	・ 図書館サービスを実施する上での前提条件として、法令特に著作権法について知る。 ・ 社会における情報の共有と、無料原則という公共図書館の理念と、著作権者の経済的利益を守る著作権法の理念との中間に現代の図書館サービスがあることを理解する。 ・ インターネットを中心としたオープン化の運動について理解し、今後の情報流通の方向性を考える。
6	資料提供サービス 1	・ 「直接サービス」と「間接サービス」の違いについて読み取る。 ・ 資料提供サービスの概要を知る。 ・ 大量の予約や複写などが、出版に与える影響と、著作権者からの意見を知り、そのバランスを考える。
7	資料提供サービス 2	・ 文献送付サービス、複写サービスについて読み取る。 ・ 利用提供サービスに類するサービスについて知る。
8	情報提供サービス	・ 資料提供サービスと情報提供サービスの違いを読み取る。そのうえで、情報提供サービスの方法の一つとして資料提供サービスがあることを理解する。 ・ レファレンスサービスの概要とその意義について知る。 ・ 間接サービスについて知り、その重要性を考える。 ・ インターネット社会における非来館型サービスやレファレンスサービスの今後について読み取り検討する。
9	図書館サービスの協力と連携	・ 公共図書館間の相互協力体制の概要について読み取る。 ・ 他の館種および他機関との連携の必要性について読み取る。 ・ 現代社会において図書館を含めた生涯学習機関の連携の必要性について考える。
10	課題解決支援サービス	・ 第4回の学習内容を復習し、課題解決支援サービスがなぜ提唱されてきたのかを読み取る。 ・ 課題解決の対象者、課題の範囲などについて読み取る。 ・ 具体的な課題解決サービスの概要について読み取る。
11	図書館利用に障害のある人へのサービス 1	・ 「図書館利用に障害」として考えられることを考えてみる。 ・ 図書館利用に障害がある人の類型を読み取る。特に既存の障害者との関係を考える。 ・ 「障害者サービス」について読み取る。
12	図書館利用に障害のある人へのサービス 2	・ 既存の障害者サービス以外で、図書館利用に障害がある人の類型について考える。 ・ 小さなお子さんを持つ保護者へのサービス、日本語以外が母語の人へのサービス、図書館に行くことができない人へのサービスなどについて読み取ったり、インターネットで調べる。 ・ インターネットなどが果たすことができる役割などについて検討する。

13	利用者とのコミュニケーション	・対人サービスとしての図書館サービスにおいて、担当者が持つべきスキルなどについて読み取る。 ・館内での案内サインなどについて知る。 ・図書館サービスの広報について概要を知る。 ・インターネット時代の広報活動について考える。
14	図書館サービスの課題（1）	・公立図書館数不足の現状とその論点。 ・指定管理者制度の導入についての現状とその論点。 ・著作権が図書館サービスに及ぼす影響。
15	図書館サービスの課題（2）	・インターネットと図書館について。 ・新形状資料の登場が図書館サービスに及ぼす影響について。

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉図書館の社会的役割とサービス 第1分冊(第1章・第2章・第3章・第4章・第5章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

戦後の日本民主化の目的と公共図書館サービスが社会に果たす役割についてテキスト等を読み取りながら説明しなさい。
その際、資料提供サービスや情報提供サービスといったサービスが社会においてどんな役割を果たす必要があるのか具体的にサービスの意義について検討し記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・戦後の日本の民主化、特に教育改革の方向性について、インターネット等で調べること。
- ・図書館で行われているサービスが、民主主義社会においてどんな役割があるのかについて記述すること。
- ・インターネット社会でのサービスの今後について検討し記述すること。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

第2分冊 〈略題〉図書館利用に障害がある人へのサービス 第2分冊(第6章・第7章・第8章・第9章・第10章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

図書館における“図書館利用に障害がある人へのサービス”の意義と内容を、テキストおよび参考文献にもとづいて考察し、説明しなさい。また、特定の公共図書館における“図書館利用に障害がある人へのサービス”の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・どのグループのサービスについても考察すること。
- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

参考文献

テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への アドバイス

テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの メッセージ

テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

TT0425 図書館情報技術論

2単位

テキスト名

『図書館と情報技術：情報検索基礎能力試験の過去問題と解説収録』 樹村房
(登録年度によっては同社の『改訂・図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』の場合があります)

科目概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。(司書資格必修科目)
主な到達目標	図書館業務に必要な情報技術について十分に理解し説明できること。
テキスト学修の留意点	本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」という学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいくスタイルになろう。以下の「課題」欄も、学修課題というよりむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめた。詳しくは指導書を参考にされたい。コンピュータ自体の操作方法は特に扱わないので、各自で実際に情報技術に接する機会を作られたい。 本科目で扱う内容は、持っている知識の個人差が非常に大きいので、どのような読者を想定するかによってテキストの書き方が変わってくる。数種類ある本科目のテキストの中でも、基本的な知識から丁寧に説明しているものを選んだ。その分、説明が一般論や抽象論のみだったり、たとえ話的な説明ですませていることもあるので、情報技術に詳しい人は、いろいろと指摘したくなるかもしれないが、初学者用なのでご了承ください。逆に、本書の内容でも難しいと感じられるところがあれば、おろそかにせずに、疑問が解決するまで調べてみると良いだろう。 なお、登録年度によってはテキストとして『改訂・図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』(樹村房)が送られてくる場合があり、内容や順序がこのシラバスと若干異なっているが、これについては学修指導書の補遺を刊行して対応する予定なのでそちらを参照されたい。また、試験についてはどちらのテキストを使用しても対応できるように出題することとする。

	学修テーマ	課 題
1	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史、基本的な構造、各種ハードウェアの種類について学ぶ。
2	コンピュータの基礎 (2)	文字・画像・音声などがコンピュータ内でどのように表現されているかを学ぶ。また、すべての情報をいったん数値化(デジタル化)することによって「計算機(計算しかできない機械)」が「情報処理機器」になったことを理解する。
3	ネットワークの基礎	コンピュータネットワークの基礎知識、特にインターネット、プロトコル、WWWの概要を学ぶ。
4	情報技術と社会 (1)	社会生活と情報技術がどのように関わってくるかを、身近な例を通して学ぶ。
5	情報技術と社会 (2)	情報技術に関わる知的財産権として、著作権と特許権について学ぶ。
6	データベースのしくみ	データの定義、データベースのしくみと種類について概要を学ぶ。
7	検索エンジンのしくみ	インターネット上の情報を探すために不可欠な検索エンジンのしくみについて概要を学ぶ。
8	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	コンピュータのOSがもつ管理機能を概観し、システムに求められるセキュリティ対策について学ぶ。
9	図書館における情報技術活用の現状	図書館で情報技術が必要である理由と、実際の活用事例について学ぶ。
10	図書館業務システムのしくみ	今日の図書館では業務全体を統合するシステムが走っていることが多いが、その概要やしくみについて学ぶ。
11	電子資料の管理技術	多様化する電子資料の種類や、管理技術について学ぶ。
12	デジタルアーカイブ	情報を電子的に変換・保存し後世に残すしくみについて、歴史・意義・作成技術・実例などを学ぶ。
13	最新の情報技術と図書館 (1)	図書館で用いられるようになった新しい情報技術として、ICタグと自動ロボット機(自動書庫や自動貸出機等)について学ぶ。
14	最新の情報技術と図書館 (2)	新しい情報技術の導入によって図書館がどのように変わっていくか考える。
15	情報検索基礎能力試験	学習のまとめを兼ねて、過去の情報検索基礎能力試験を実際に解いてみる。

シラバス執筆：松山 巖

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉PCのスペック 第1章～第6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日頃よく使っているコンピュータを1台選び、そのスペックを、コンピュータに疎い人にも通じるように分かりやすく説明してください。なお、本分冊は字数制限を2400字～3200字とします。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

【設定】

あなたはある日、コンピュータに非常に疎い知人（家族でも親戚でも隣人でもよいが）から、「初めてパソコンを買うのだが、機能の比較をしようと思ったら、何がなにやらさっぱり分からない。少しカタログの見方とか教えてもらえないか」と相談を受けたので、とりあえず、自分が日頃使っているコンピュータを使って、丁寧に説明することになった。

【レポートの構成】

1. 選んだコンピュータのメーカーや型番を明記する。
2. 主要なスペックを一覧表形式で掲載する。
3. それらの各項目について、分かりやすく説明する。知人に説明しているという設定なので、「です・ます」体で書く。
4. 項目の中には、数字が含まれているものがある（例えば「ストレージ：SSD 256GB」）。この場合、「ストレージ、SSDとは何か」「256GBとはどういう意味か」だけでなく、この数字は大きいのか小さいのか程々なのかといった判断をするための目安、いわば数字の「相場」についても触れること。これが分からないと、カタログを見ても判断のしようがない。

【コンピュータの選定基準】

1. 原則として、通信教育での学びにおいて日常的に使用しているパーソナルコンピュータとする。複数台あるときは、次の優先順位とする。①デスクトップ（その場合はディスプレイについても述べる） ②ノート ③タブレット
2. 次のようなものは、たとえ「自分が日頃使っているコンピュータ」であっても、個人用・業務用・その他を問わず、対象外とする。①フィーチャーフォン（いわゆるガラケー） ②スマートフォン ③汎用機（メインフレーム） ④スーパーコンピュータ ⑤特定の機器（例えばカメラ、洗濯機等）などに内蔵されているマイクロコンピュータ
3. OSの種類は問わない。

【掲載するスペックの種類】

カタログやメーカーのサイトには、非常に多くの項目が挙げられているだろうが、それらを全部載せる必要は無いし、またその字数もないだろう。したがって、選んで載せることになる。コンピュータの性能を比較する上でどれが大事か、よく考えて選ぶこと。

その代わり、載せた項目は全てやさしく解説を付けること。

【説明の要不要について】

以下の用語は特に説明をせずに使って良い。コンピュータ、ディスプレイ、キーボード、マウス。

以下の用語は、**使用する場合は必ず解説を付けること**。スペック、ハードウェア、ソフトウェア、OS、CPU、クロック、ハードディスク、メモリ、USB、USBメモリ、ストレージ、ハードディスク、SSD、Wi-Fi、ポインティングデバイス（およびその具体例。マウスを除く）、など。（これらの用語を全部説明せよという意味ではない）

それ以外の用語については、相手に通じそうか、通じなさそうか、自分で判断すること。

【書かないで良いこと】

価格や品質保証期間等。実際にはこれらも比較の際に重要ではあるが、「コンピュータに非常に疎い知人」であっても理解できるであろう。

【参考文献等】

当然のことであるが、執筆にあたって参照したり参考にしたりした文献、文書、ウェブサイト等は全て明記すること。また、文献リストの書き方が分からなかったら調べること。（何通りかの流儀があるが、どれでも構わない。ただしレポートの中では一つの流儀で通すこと）〈評価の観点〉

1. 上記の課題文や留意事項の求めに対してきちんと答えているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 自分なりのオリジナリティのある観点から説明・考察がなされているか。

〈その他の注意点〉

字数は通常と異なる（第2分冊とも異なる）ので注意すること。なお、スペックの表は字数に含めない。

〈課 題〉

館内 OPAC 端末が稼働している図書館を 1 館選び、OPAC システムについて報告して下さい。なお本分冊は字数制限を 3,000 字～ 4,800 字とします。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①選ぶ図書館は公共図書館が望ましい。ただし、近くに公共図書館がなかったり、あっても館内 OPAC が稼働していない場合は、他の館種でもやむを得ない（その場合はその旨レポートの冒頭で断ること）。
- ②報告の対象とする OPAC のシステムは、次の方針で選んで下さい。
- (1) 館内に設置された全ての端末（パソコン）が、Web OPAC にアクセスできるようになっている場合は、それについて報告する。
 - (2) 一部の端末からは Web OPAC にアクセスし、他の端末からは独自のユーザインタフェースをもつ館内 OPAC にアクセスできるようになっている場合は、後者について報告し、Web OPAC については③の（9）で述べる。
- ③報告はおおむね次のような内容とします。また、（3）～（6）については、「一般向け／子ども向け」「日本語／English」「詳細検索／簡易検索」といった複数のモードがある場合、それぞれ前者について述べ、それ以外のモードについては（7）で述べること。
- (1) 図書館の基本的情報： 館名、規模（蔵書数など）、OPAC の沿革（簡単で良い。ただし OPAC が最初に導入された時期、および現行システムの稼働開始時期は必ず含める）、調査日など。
 - (2) 館内 OPAC システムの基本的情報： 設置箇所、台数など。また、もし情報が得られれば、自館開発かパッケージソフトか、後者の場合はソフトのメーカーや名称など（ソフトの名称などについては非公開の場合もあるので、その場合は無理に聞き出さなくても良い）。また、利用者への配慮（設置箇所の工夫、わかりやすいマニュアルが掲示してある、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど）があればそれも。
 - (3) 使い勝手（ユーザインタフェース）： 入力方法（キーボード／タッチパネル／マウスなど）、漢字変換の有無、ヘルプ機能の有無、どのようなモードがあるか（子ども／大人、初心者／エキスパート…）など。端末によって異なる場合はその違いも分かるように。例えば、漢字変換について、キーボード端末でしか使えないのか、それともタッチパネルでも変換ができるのか（できるとしたらどう操作するのか）分かるように書くこと。
 - (4) 検索方法：
 - a) アクセスポイントの種類（書名、著者名、NDC など。また、単独で指定できないものがあればそのことが分かるように）と入力窓の数。
 - b) アクセスポイントの指定方法（窓ごとに固定されているか、ドロップダウンリストで選ぶかなど。選べる場合初期状態はどう表示されているか）。
 - c) ブール演算（and、or、not など）の可・不可、可の場合はその方法（例えばドロップダウンリストから選ぶとしたら、どのような文言が書かれているかも）、デフォルト（特に指示しなかった場合）ではどう扱われるか。
 - (5) 検索結果の表示方法：
 - a) 一覧表示と詳細表示の 2 段階が多いと思われるが（そうではない場合は適宜説明すること）、それぞれの段階でどのような書誌要素が表示されるか。
 - b) 一覧表示の順序は何順で、件数は何件か。またそれらは変更できるか（可能な場合、検索条件を指定する段階で変えられるか、それとも一度一覧表示に入らないといけないか、またどう変更することが可能か）。
 - c) 書影が表示されるか。また表示される場合、一覧表示の段階で表示されるか、それとも詳細表示に入ってからか。
 - d) リンクリゾルバ等を経由した他の書誌データ（例：NDL、Google ブックス、Amazon）へのリンクがあるか。
 - e) 検索結果の再利用ができるか（たとえば一覧表示や詳細表示で著者名をクリックすると、その著者名で再検索できるなど）。
 - f) その他必要と思われること。

- (6) 検索結果の利用（印字できるか、貸出中の時に予約がかけられるか、など）。
- (7) 上記と異なるユーザインタフェースが選べるか。選べる場合は、
 - a) どのようなモードがあるか（例：こどもモード、英語モードなど）。また、初期設定はどれか。
 - b) モードをどのように選ぶか（例：簡易検索はトップページに検索窓表示、など）。
 - c) そのモードを選ぶことでどこがどのように変わるか（インタフェースの表示、結果の表示のしかた、検索対象とする資料の範囲など）。←これを報告していないものがしばしば見られる。ヘルプ画面等には必ずしも明記していないことも多いので、いろいろ検索してみて推測すること。
 - d) その他必要と思われること。

【(8) 以降は字数の関係で「その他の注意点」欄に続く】

〈評価の観点〉

- ① その図書館に行ったことのない人が読んでも OPAC の概要をつかむことができ、あたかも自分が OPAC を実際に使っているかのように具体的な操作方法や画面表示がわかりやすく書かれているか。
- ② 幅広い視点からの調査・報告が行われ、自分なりの考察がされているか。
- ③ レポートの一般的な決まりに従っているか。特に引用する場合はルールに則って適正に引用されているか、またレポート全体としての趣旨が一貫しているか。
- ④ テクニカルタームを正しく表記しているか。特に「ブール演算（ブール検索）」を誤って書いている例がよく見られる。

★根本的な問題として、レポートの文章は読み手がそのレポートだけを読んで十分に理解できるように書いて下さい。例えば、(5)のeで、「e」できない。」のように書いてくる人がいますが、これでは何ができないのか課題集を引っ張り出してこないと分かりません。レポートはアンケートの回答用紙ではありません。一方で、「e」検索結果の再利用ができるか（たとえば一覧表示や詳細表示で著者名をクリックすると、その著者名で再検索できるなど）。「できない」のように課題文を丸ごと全部コピー＆ペーストしている人がいますが、これも逆にくだすぎてかえって読みにくいです。

また、「その他必要と思われること」が特にないと感じられた際にわざわざ「d) その他必要と思われること 特になし。」などと書く必要はありません。

- d) トランケーション(前方一致、後方一致など)の指定の可・不可、可の場合はその方法、デフォルトの設定。
 - e) コマンド検索(検索条件を、画面上で選ぶのではなく、すべてをユーザが文字列で入力する検索方法)が可能か(今日では少ないと思われるが)。
 - f) その他必要と思われること。
- (5) 検索結果の表示方法：
- a) 一覧表示と詳細表示の2段階が多いと思われるが(そうではない場合は適宜説明すること)、それぞれの段階でどのような書誌要素が表示されるか。
 - b) 一覧表示の順序は何順で、件数は何件か。またそれらは変更できるか(可能な場合、検索条件を指定する段階で変えられるか、それとも一度一覧表示に入らないといけないか、またどう変更することが可能か)。
 - c) 書影が表示されるか。また表示される場合、一覧表示の段階で表示されるか、それとも詳細表示に入ってからか。
 - d) リンクリゾルバ等を経由した他の書誌データ(例：NDL、Google ブックス、Amazon)へのリンクがあるか。
 - e) 検索結果の再利用ができるか(たとえば一覧表示や詳細表示で著者名をクリックすると、その著者名で再検索できるなど)。
 - f) その他必要と思われること。

〈その他の注意点〉

なし。

【以下、「レポート作成にあたっての留意事項」欄の続き】

③報告の内容（続き）

- (8) 使ってみて優れていると感じられる点、改善してほしい点、今後あると便利な機能などの評価。
- (9) もし Web OPAC のサービスも提供していれば、それとの比較（ただし館内 OPAC と異なるユーザインタフェースの場合）。特に、Web OPAC にあって館内 OPAC にない機能や、その逆には、どのようなものがあるか。
- (10) その他報告に必要と思われること、使ってみて気づいたこと、感想など。
- (11) なお、他の図書館の OPAC と比較してみるのもよいでしょう。

④利用者登録、イベントの案内、図書館だよりの表示など、目録機能以外の諸機能については触れる必要はありません（画面のデザインを説明する関係上どうしても触れる必要がある場合も最低限にすること）。「OPAC について報告せよ」という課題です。OPAC の C は何の略か考えて下さい。

参考文献

一般社団法人情報科学技術協会・監修、原田智子・編著『検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト』（樹村房、2018）
 コンピュータ・情報技術関係の用語辞典（一般の書店で売っているものでよい。なるべく新しく、図表が多く、見やすいものを選ぶ）
 1 冊だけ挙げるとしたら、秀和システム第一出版編集部編著『最新基本パソコン用語辞典』第 4 版、秀和システム、2017
 その他、それぞれの章で扱っている内容に関してより詳しく・深く学ぶための図書は、あまりにも種類が多すぎるので、書店や図書館などで各自実際に手にとって、自分に合ったものを探して下さい。

科目試験等へのアドバイス

情報技術にあまり親しみのない人にとっては、さまざまなテクニカルタームが多数出てきて学習しにくいかもしれませんが、自分でノートに要点をまとめたり、テキストに書き込みや色分けなどをしながら学習していくと、おのずと試験対策にもなるでしょう。また、情報検索基礎能力試験の問題（テキストの巻末に解説付きで一部収録。過去の問題は情報科学技術協会のサイトで公開。なお現在では検索技術者検定 3 級という）も参考になると思います。また、本書はあまり索引が充実していないので、自分なりに詳細な索引を作成するというのも一法です。
 なお、テキストとして『改訂・図書館情報の技術』を使用している人は、巻末の問題は省かれているので、参考文献欄に挙げたテキストや上記サイトなどを参照してください。また、旧版に比べ索引は比較的充実していますが、それでも自分で本文を読みながら、索引として拾い上げるべき語句などにマークしていくのは良い読み方でしょう。

教員からのメッセージ

30 年前、多くの図書館において、コンピュータを初めとする情報機器、そしてそれらをつなぐネットワークは、業務上「なくても何とかできるが、あると便利」なものでした。今日、それらは「当然のもの、不可欠なもの」になっています。図書館に勤務していればその変化を実感する場面は多いでしょうが、そうでない人は特に、実際に図書館に足を運び、情報技術が現場にどのように活かされているか、情報技術の導入によって何が変わったかを考えてみましょう。

TT0426 図書館情報資源概論

2単位

テキスト名

『図書館情報資源概論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）』
日本図書館協会

科目概要	この科目では、利用者の要求に応じるために図書館が収集・保存・提供する情報資源について、その特性、選択・収集の考え方・方法論を学習する。
主な到達目標	・図書館が収集・保存・提供する情報資源について、その特性を理解する。 ・図書館における情報資源の選択の考え方・方法について理解する。 ・図書館における情報資源の収集の考え方・方法について理解する。
テキスト学修の留意点	・課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館情報資源の意義	・図書館情報資源の定義、範囲、類型について。また図書館資料との違いについて。 ・図書館員が専門職とされるには何が必要か。
2	印刷資料（1）	・図書の特質について。 ・雑誌の特質について。
3	印刷資料（2）	・新聞の特質について。 ・小冊子の特質について。 ・地図の特質について。
4	非印刷資料	・点字・録音資料の種類と特質について。 ・マイクロ資料の種類と特質について。 ・映像資料の種類と特質について。 ・音声資料の種類と特質について。
5	電子資料（1）	・パッケージ系電子資料の概要と特徴について。 ・ネットワーク情報資源の概要と特徴について。 ・ネットワーク系情報資源と従来の図書館資料との違いについて。
6	電子資料（2）	・図書館資料のデジタル化の意義・課題について。 ・電子コンテンツ・電子出版の現状について。
7	資料特論（1）	・灰色文献の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。 ・政府刊行物の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。 ・地域資料の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。
8	資料特論（2）	・人文科学の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。 ・社会科学の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。 ・自然科学・技術の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。
9	出版流通システム	・書店と図書館の共通する機能と相違点、および両者の関係について。 ・出版流通経路の特徴について。 ・再販制度の意義について。
10	図書館資料と知的自由	・図書館の自由の概要と意義について。 ・「図書館の自由に関する宣言」の内容について。 ・著作権と図書館業務について。
11	蔵書論	・図書館における蔵書の意義について。 ・蔵書構成方針・収集方針と除架について。 ・予約制度について。
12	収集と選択	・選書の意義について。 ・選書論とその歴史的変遷について。 ・選書のプロセスについて。
13	蔵書管理、資料の組織化	・蔵書更新の意義と実際のすすめ方について。 ・蔵書評価法について。 ・資源共有、分担収集・分担保存の意義について。 ・受入業務、資料の装備について。
14	書庫管理	・蔵書点検の概要と意義について。 ・資料保存・修復の概要と意義について。 ・メディア変換の概要と意義について。
15	学修のまとめ	・これまでの学修内容を踏まえて、これからの図書館情報資源はどうあるべきか。

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉電子資料または地域資料 Unit 1～22

横書き指定

直接入力

〈課題〉

電子資料または地域資料のどちらかひとつを選び、図書館情報資源としての意義、特質、取り扱い等について、テキストおよび参考文献にもとづいて説明しなさい。また、特定の公共図書館または大学図書館のいずれかを選び、その図書館における電子資料または地域資料の収集と提供の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

第2分冊 〈略題〉資源共有 Unit 23～50

横書き指定

直接入力

〈課題〉

資源共有・分担収集・共同保存について、その意義と概要を、テキストおよび参考文献にもとづいて説明しなさい。また、実際の図書館における資源共有・分担収集・共同保存の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

参考文献

.....
テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

.....
テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

科目概要	本科目は平成 21 年の「図書館法施行規則の一部を改正する省令」によって、選択科目群の一つに定められた。省令改正前の「専門資料論」の内容を引き継ぐものであり、平成 8 年の前改正以前の「人文科学、社会科学の書誌解題」と「自然科学及び技術の書誌解題」が統合されたものである。
主な到達目標	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学修し、理解を求める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。
テキスト学修の留意点	課題に際し、以下の分野から一つを選び、発展的に学び、理解を深める。 (1) 人文科学分野 (2) 社会科学分野 (3) 自然科学分野 (4) 技術分野 (5) 学術情報コミュニケーションの特性 (6) 今日的な課題

	学修テーマ	課 題
1	導入	授業の概要説明。受講の心得・評価方法など。
2	各分野の知識整理	人文科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
3	各分野の知識整理	社会科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
4	各分野の知識整理	自然科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
5	各分野の知識整理	技術分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
6	資料の選択①	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
7	資料の選択②	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
8	分野の選択①	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
9	分野の選択②	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
10	学修の統合①	資料の選択①②と、分野の選択①②を踏まえ、特定分野の資料活用について、業界やコミュニティについて調べる。
11	学修の統合②	資料の選択①②と、分野の選択①②を踏まえ、特定分野の資料活用について、業界やコミュニティについて調べる。
12	学術コミュニケーション①	専門資料の中核を占める学術情報の発生と流通について学ぶ。
13	学術コミュニケーション②	専門資料の中核を占める学術情報の発生と流通について学ぶ。
14	情報行動プロセス	学術情報を活用するプロセスについて学ぶ。
15	まとめと復習	これまでの学修内容を振り返る。

シラバス執筆：宮原 志津子

レポート課題

第1分冊 宮原 志津子

第1分冊 〈略題〉専門分野の資料の種類と特性 テキストすべて

横書き指定

直接入力

〈課題〉

人文科学・社会科学・自然科学から一つを選び、当該分野の一次資料、二次資料の定義を示すとともに、種類と特性について解説し（前半）、一次資料、二次資料それぞれ実在する3点の資料について、書誌情報と内容解説を作成しなさい（後半）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 書誌情報とは、具体的には、タイトル（書名）、責任表示（著者など）、出版者名、出版年等を指します。
- (2) 後半の課題については、テキストなどに掲載されている資料ではなく、図書館に行き、自分で資料を手に取り選ぶこと。
- (3) 一次資料のうち2点以上は図書とし、3点すべてを雑誌のみとしないこと。また二次資料についても、2点以上は参考図書から選び、3点すべてをオンライン・データベースのみとしないこと。

〈評価の観点〉

- (1) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (2) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (3) 課題で与えられた要素をすべて満たしているか
- (4) 一次資料と二次資料の区別・特性が理解できているか
- (5) 選択した資料の内容や特性が、自分の言葉で適確に述べられているか

〈その他の注意点〉

- (1) 一次資料・二次資料各3点の解説については、テキスト、選択した図書等からの引用や解説、第三者が書いた書評などに頼らず、本を手に取り内容を自分の目で確認して、自分の言葉で書くこと。やむを得ず一部引用を使う場合は、出典元等を明らかにすること。
- (2) レポート形式や引用が不十分な場合、内容面での評価に値しないとして不合格とする。
- (3) 「序論」や「結論」が無いレポートが多いので、気を付けること。また章番号と章タイトルをつけ、全体の構成バランスを意識して執筆すること。

参考文献

桑田てるみ 『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版：スキルを学ぶ21のワーク』実務出版、2015年。

科目試験等への
アドバイス

各分野の資料特性を踏まえた上で、分野ごとに独特な資料や、その利用傾向など、場合によっては関係業界や、情報が流通するコミュニティについても理解を深める必要があります。テキストで取り扱われている概念が、専門用語を用いて明解に説明できるかどうかを前提に、発展的・応用的な記述があることが必要です。

教員からの
メッセージ

レポート学修では、大学生レベルのレポートに求められる、正しい引用ができていないケースが目立ちます。専門資料を適切に扱うためには、図書館員自身が著作権を重んじ、資料についての記述に厳正さを保つ必要があります。形式・内容共に整ったレポートが書けるように努力してください。

TT0428 図書館制度・経営論

2単位

テキスト名

高山正也編『改訂 図書館経営論
(新・図書館学シリーズ2)』樹村房

科目概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、生涯学習社会における図書館という視点に立って、図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について理解を図る。また、行政的、組織運営的な見地から公立図書館の経営にかかわる諸問題に焦点を当て、その理解を目指す。(司書資格必修科目)
主な到達目標	我が国の図書館制度とそれを支える法令、および図書館の経営管理の基本的な知識について、理解し説明できること。
テキスト学修の留意点	本科目の内容は、科目名のとおり「図書館制度論」と「図書館経営論」に大別される。このうち図書館制度論の部分は、旧司書課程では「図書館概論」で扱っていたものだが、同科目で扱う内容が過重だということで新課程では図書館経営論と併せて学修することになった。ただし、新課程に移行した時点ではまだこの新課程の内容に対応したテキストがなかったため、「図書館制度論」の部分に関しては「図書館概論」のテキストを使用して学ぶ。具体的な学修箇所については、本科目の指導書を参照されたい。 次に、図書館経営論に関しては、組織経営に関する一般論として通用する部分と、非営利組織特有の部分、さらにはその中でも図書館ならではの部分があることを意識して学ぶとよい。また、個別のサービス業務については「図書館サービス論」「情報サービス概説」「児童サービス論」などで詳しく学ぶので、それらのテキストを随時参照すると理解が深まる。 なお、両分野とも『図書館雑誌』『みんなの図書館』などの雑誌に、参考になる記事が載ることがあるので、公共図書館などで読んでみると良い。

	学修テーマ	課 題
1	法体系と教育法規制度の基礎	図書館制度を支える我が国の法令が、日本国憲法を頂点としてどのような体系になっているか。また、それぞれの種類の図書館に対応してどのような法令があるか学ぶ。
2	図書館法の逐条解説 (1)	我が国の公共図書館制度を支える根幹である図書館法について詳しく学び、各条文のもつ意義についてまとめてみる。
3	図書館法の逐条解説 (2)	引き続き、我が国の公共図書館制度を支える根幹である図書館法について詳しく学び、各条文のもつ意義についてまとめてみる。
4	図書館法の逐条解説 (3)	図書館法のもつ特徴をどのように評価するか考える。
5	他館種の図書館に関する法律等	学校図書館法、大学設置基準、国立国会図書館法、大学設置基準の概要を学び、まとめてみる。
6	図書館サービス関連法規	子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法等の概要を学び、まとめてみる。
7	図書館経営の意義	図書館経営に関する基本的な概念を学び、経営という側面から捉えた図書館の存在について考える。
8	自治体行政と図書館	公共図書館の運営の法的根拠や、自治体行政との関係について学ぶ。特に最近では「多様化する図書館の財源」についてしばしば論じられることが多いので、雑誌記事等で補っておくと良い。
9	図書館業務の理論と実際	図書館の業務分析とは何か理解し、その上で、業務の4分類、各業務の簡単な内容についてまとめてみる。効率化・合理化とは何か考察する。
10	図書館の組織	組織の一般論について学習する。図書館組織の類型について把握し、いくつかの実例にあてはめる。
11	図書館の職員	図書館の職員にはどのような種類があり、その相互の関係や、求められる資質はどうであるべきか考える。臨時・派遣職員の問題についても考察する。
12	図書館の計画とマーケティング	図書館の経営計画、マーケティング論の基礎、非営利組織へのマーケティングの応用について学ぶ。学習内容が、図書館以外の非営利組織（たとえば趣味のサークルなど）にも類推適用できないかどうか考えてみよう。
13	図書館の施設整備計画	図書館建築に関して、特に空間配置、配慮すべき設備、快適な空間を中心に学び、近隣の図書館に出向いて、これらの視点から実際の施設整備がどのようなになっているかを視察し、考察する。
14	図書館ネットワークの形成	図書館ネットワークの意義・種類・運営・評価、類縁機関について学ぶ。
15	図書館業務・サービスの評価	図書館評価の目的、方法、統計、指標について学び、それに基づいて実際にある特定の公共図書館などの評価を試みる（課題の第1分冊にもつながる）。その上で、良い図書館とは何か、自分なりの考えをまとめる。

シラバス執筆：松山 巖

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉図書館法規 図書館概論の該当箇所(指導書参照)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①日本国憲法から図書館法に至る、わが国の公共図書館制度を支える法体系について、分かりやすく概説せよ。
- ②その上で、こんにち公共図書館に関わる法制度がもつ問題点を一つ取り上げて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストや参考文献からつまみ食い式に寄せ集めてもレポートはできません。

- ①については、図書館に関わる法体系の全体像をしっかり把握した上で、読者がこのレポートだけ読んでも図書館の法体系の姿が理解できるように、特に法令同士のつながりが分かるように書くこと。
- ②で取り上げる問題点は、テキストにあるものでも、それ以外のものでかまいません。また、事実に基づいており、十分な説得力があれば、結論がテキストの著者の意見と異なってもよいでしょう。ただし、図書館業界の問題点なら何でもよいのではなく、法制度の問題点について論じること。

〈評価の観点〉

課題の求めに対する答えとなっているか。
 テキストで学習した内容が活かされているか。
 全体としての論述の筋が通っているか。
 自分なりの観点からの考察が行われているか。
 引用する場合にルールが守られているか。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉利用登録率向上のための公共図書館経営 図書館経営論

横書き指定

Word添付

〈課題〉

公共図書館における利用登録率を向上させるためにはどのように取り組んでいったらよいのか、現状分析し、考察し、まとめること。詳しくは〈レポート作成にあたっての留意事項〉参照。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

【基本的な考え方】

公共図書館は、「いつでも、どこでも、誰でも、自由に、無料で」利用できます。しかしながら、地域住民の誰もが利用登録をして公共図書館を利用しているわけではありません。

こうした状況に対して、公共図書館では、非来館者を含む調査(住民アンケート調査)を行い、その状況を把握し、図書館サービスの改善、実施をしようとしています。

本来ならば、図書館員として、実際に地域住民にアンケート調査し、得られたデータを使って現状分析したいところですが、ほとんどの学生にとってそれは困難と思われます。幸い、今日では多くの公共図書館がすでに住民アンケート調査を行って結果を公表していますので、これらのデータを利用することとします。自分がその図書館員になったつもりで、利用登録率を向上させるにはどのようにしたらよいのかを考え、レポートにまとめてください。

【対象とする図書館の選び方】

(A) 対象とする図書館は、市区町村立の公共図書館で、非利用者を含む住民アンケートを行っているところとします。したがって、公共図書館であっても都道府県立は対象外です。また、昼間人口が夜間の人口の10倍を超える自治体も、条件が違いますが、除きます(例えば東京都千代田区)。

公共図書館以外の館種(大学図書館等)も対象外です。

データの解釈・分析・考察を行う上で、図書館の立地条件や、地域の住民特性や、時間帯・曜日による利用者層の違いなどの情報は、大変重要です。したがって、なるべく自分が居住している(いた)地域にあり、日頃から利用している(いた)図書館を選んで下さい(日頃から利用していない人も実際に一度は足を運んで実際に見て下さい)。行ったことも見たこともない図書館を、数字だけを見てもっともらしく論じようとしても、無理があります。

(B) なお、身近な地域の図書館ではあるが、来館者調査はあるけれども住民アンケートを実施していない場合は、次のいずれかの方法で書いて下さい。

- ①来館者調査のデータのみを用いつつ、非来館者の気持ちを汲んだ考察を行う。その場合は、住民アンケートが行われていない旨を明記すること。また、人口規模や地域特性の似ている他の自治体の調査結果も参考にするとよい。
- ②なるべく近隣の自治体で、両方の調査が行われている図書館を選ぶ。

(C) また、身近な地域に図書館がなかったり、図書館はあっても住民アンケートも来館者調査も実施していない場合(実施していても結果を公表していない場合も含む)は、やむを得ませんので、身近でない地域の図書館で上記の(A)または(B)の条件を満たすところを探して下さい。その場合はその旨本文でことわること。

【レポート作成要領】

1. 公共図書館の住民アンケート調査（非来館者調査ともいう）の結果を入手します。
調査結果は通常、冊子体で配布されています（職員に聞けば在庫がある限り無料でもらえるのが普通です）。また、図書館のウェブサイト上で公表されることも多くなりました。これらを利用して、調査項目の内容、図書館に対する意識、なぜ利用しないのかの理由、それに対する図書館側の対応などを知ることができます。
多くの場合、並行して来館者調査も行っていますので、両者の意識の違いを比べてみるとまた興味深い分析ができます。その図書館の利用登録率、およびその他の評価に必要な指標（データ）を求めます。
これらの指標（データ）は、各図書館が作成する『図書館年報』等の報告書（『〇〇市の図書館』のようなタイトルのことも多く、通常無料で配布している）や、『日本の図書館 統計と名簿』『図書館年鑑』（いずれも日本図書館協会刊）といった情報源から入手できます。
また、サービス対象地域の人口は、上記報告書や、各自治体の広報、ウェブサイトなどで知ることができます。
利用登録率等の、図書館の評価に使用される指標の計算式は、テキストを参照。
他に、考察に必要であれば、蔵書数、貸出冊数、予算、職員数などの基本的な図書館統計のデータも用いて構いません。
3. 上記の各種データを利用して、公共図書館における利用登録率を向上させるためにはどのように図書館を運営すると良いのか考察し、レポートにまとめてください。
感想ではなく、データを用いて、その図書館の図書館員になったつもりで考察・説明してください。

多くの調査では、その図書館が行った分析・考察が書かれているかと思いますが、必ずしもそれにとらわれることなく、自分なりの観点で考えてください。一利用者としての視点からの提言のほうが的を射ていることもあります。〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 必要な情報が的確に選び出され、適切に分析されているか。
4. データを用いて、自分なりの視点に立った考察・提言等が書かれているか。

参考文献

塩見昇編著『図書館概論』6訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-1）日本図書館協会、2024年 ISBN 978-4-8204-2407-9
小田光宏・庭井史絵編著『図書館サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-4）日本図書館協会、2023年 ISBN 978-4-8204-2308-9
ほか、テキストの巻末に掲載されている諸文献

科目試験等へのアドバイス

本科目に特有の方法といったものは特にありません。テキストをしっかりと読んで学習し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずです。
例えば、学習ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つでしょう。
なお、テキストで学習した基礎知識を問う問題だけでなく、それを活用して新たな課題に対して自分なりに考える力を見る問題も出ることがあります。過去の出題問題集も見とくと良いでしょう。

教員からのメッセージ

法令に関する学習においては、なまの条文を読むことも重要です。テキストにもある程度は載っていますが、六法全書や web サイト（総務省の法令データ提供システム「e-Gov 法令検索」<https://elaws.e-gov.go.jp/>）などで実際の条文に当たってください。また、法令はしばしば改正されるので、なるべく新しい情報を得るようご注意ください。

〈その他の注意点〉

1. 利用した調査データは出典を明記すること。特に実施時期、調査対象者の選び方、回収率などが明記されていないアンケート結果は無意味です。
2. 表やグラフなどは本文に入れず、文章で説明すること。どうしても必要なときは本文とは別に付録として添付すること。
3. 調査結果の数字を本文中で延々と列挙しているレポートが時々あるが、そういう生データは本文とは別に付録として（文章ではなく表で）添付すること。本文中では議論を進める上で必要なものに限って挙げればよい。
4. 調査対象館の数字を見ているだけでは、その数字をどう解釈したら良いのか、分かりにくいかもしれません。そのようなときは、他の自治体と比較してみるとよいでしょう。ただし、図書館評価に用いる指標は、自治体の人口規模によって激しく変わりますので、なるべく規模や地域特性が近い自治体と比較しましょう。また、登録率は利用者登録の有効期間の長さによって大きな違いが出てくるので、比較に当たっては注意が必要です。
5. 年の表記について。書誌情報の表示（報告書のタイトル等）や本文からの引用などの場合は原文通りですが、地の文においては元号は使用せず西暦で統一してください。

TT0429 日本国憲法 (新刊テキスト)

2単位
新刊

テキスト名

関畑崇之・林紀行編著
『イントロダクション日本国憲法』
(玉川大学出版部、2025 年)

科目概要	憲法上の権利及び自由は、最大限尊重されるべきである。そこで、実際の判例を題材に、衝突する権利及び自由の調整を図りつつ、具体的妥当性を有する結論を導くまでの思考プロセスを養う。また、近代立憲主義の理念の下で規定された統治機構に関して、その機能や役割、権能に至るまで取り扱う。
主な到達目標	日本国憲法に関する基本概念や制度について説明できる。 具体的な問題に対して、自身の見解を明確に示し、論じられる。
テキスト学修の留意点	・教科書の各章末にある練習問題の解答をまとめ、説明できるようにする。 ・わからない単語については、その都度調べる習慣を身につける。

	学修テーマ	課 題
1	憲法の意義・憲法史	・憲法の意義と分類について整理する。 ・日本国憲法の基本原則について確認する。
2	天皇	・象徴天皇制について理解する。 ・天皇の国事行為と公的行為について説明できるようにする。 ・皇位継承の原則と順序について理解する。
3	平和主義	・憲法 9 条 1 項の解釈について、学説を含めて、理解する。 ・憲法 9 条 2 項の解釈について、学説・政府見解を含めて、理解する。
4	人権総論	・人権の分類について、整理して理解する。 ・人権享有主体性について、天皇・皇族、団体・法人、外国人それぞれ個別に判断基準を確認する。 ・公共の福祉について説明できるようにする。
5	幸福追求権	・新しい人権を導出しうる憲法上の規定とその意味について把握する。 ・プライバシー権の法的性格に関する変遷を事例を通して理解する。 ・自己決定権に関して、どのような社会問題が関連するのかを確認する。
6	法の下での平等	・憲法 14 条 1 項における「法の下にの意旨」、差別禁止事由、「平等」の意味について理解する。 ・アファーマティブ・アクション（積極的差別是正措置）とは、どのようなものか説明できるようにする。
7	精神的自由権	・信教の自由の内容とその限界について確認する。 ・政教分離原則とその判定基準について理解する。 ・表現の自由を支える法理論について確認する。 ・大学の自治について説明できるようにする。
8	経済的自由権・人身の自由	・規制目的二分論について、判例を踏まえて説明できるようにする。 ・財産権における損失補償の可否と正当な補償の意味について、学説を含めて、理解する。
9	社会権	・生存権の法的性格について理解する。 ・教育を受ける権利の内容と現代的課題について確認する。 ・労働基本権の内容について、それぞれ確認する。
10	国務請求権・参政権・国民の義務	・国家賠償法の要件について確認する。 ・選挙の諸原則について、憲法上の条文を確認しながら、説明できるようにする。
11	国会	・憲法 41 条の「国権の最高機関」と「国の唯一の立法機関」の意味について理解する。 ・国会の組織と権能について説明できるようにする。 ・議員特権（歳費受領権、不逮捕特権、免責特権）について確認する。
12	内閣	・議院内閣制について、大統領制と比較して、説明できるようにする。 ・内閣の組織について、理解する。 ・内閣による衆議院の「7 条解散」が認められるかについて理解する。
13	司法	・司法権の独立の内容について確認する。 ・司法権の限界について、統治行為と部分社会論を説明できるようにする。 ・違憲審査制度の分類について、諸外国と比較しながら、日本の違憲審査制について理解する。
14	財政・地方自治	・租税法律主義について理解する。 ・憲法 92 条の「地方自治の本旨」の意味について、例外も含めて確認する。
15	憲法改正・最高法規	・憲法改正手続を説明できるようにする。 ・憲法改正の限界について、「総議員」や「過半数」の意味を明らかにしつつ、理解する。

シラバス執筆：関畑 崇之

レポート課題

第1分冊 関畑 崇之

第2分冊 関畑 崇之

第1分冊 〈略題〉法の下の平等 学修指導書で第一分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

法の下の平等の意味について、説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・「法の下に」の意味
- ・差別禁止事由の意味
- ・「平等」の意味

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

第2分冊 〈略題〉憲法改正手続 学修指導書で第二分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

日本国憲法の憲法改正手続について、整理せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・憲法改正案の提出、審議、議決
- 「総議員」の意味
- ・憲法改正の国民投票
- 「過半数」の意味
- ・天皇の公布

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

参考文献

- ・原則として、テキストを参照すること。
- ・インターネット上の情報のみを引用するのではなく、近くの図書館等へ足を運び、資料収集を行うこと。
- ・参考文献の表記方法については、テキスト巻末の参考文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

- ・試験問題は論述式であるので、各自シラバスの課題をまとめ、それぞれについて要点を説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

憲法を学ぶ上では、まず憲法の条文を参照しなければならない。そして、条文で用いられている言葉の意味やその条文自体の趣旨などの理解に努める必要がある。科目試験やレポートでは、これらを整理・分析して、記述することも求められる。また、問題文をよく読み、過不足のない記述を心がけてください。形式的な面では、誤字・脱字や参考文献の不記載、規定文字数にも注意してください。

憲法は現実社会との関わりも大きく、様々な社会問題に関係するものですが、特定の考えに固執することなく、問題に対して多角的・俯瞰的な分析を意識してください。問題をしっかりと整理し、まとめることができるようになることが学修の第一歩です。

科目概要	日本国憲法は、施行から 70 年をこえた。わが国の憲法学者は、一般に現行憲法を絶対視してきた。これでは、戦後の日本で憲法が果たした役割、また憲法の下で生じた不都合は明確にならない。そこで、日本国憲法とは何であるか、そしてこの憲法を通して現れている近代憲法の理念・原則・特徴とは何なのか、という問題関心により、日本国憲法の特徴と現在を考え、明らかにすることを学ぶ。
主な到達目標	日本国憲法の基本原則や、日本の統治制度の仕組みと特徴について説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	- 教科書の各章末にある練習問題の解答をまとめ、説明できるようにする。 - 基本理念（日本国憲法の基本原則と特徴）理解し、説明できるようにする。 - さらに、練習問題に関連した事例なども分析しながら、あなたの考えをまとめる努力をしてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	憲法の意味	- 憲法とは何なのかを考える。 - 憲法の意味の把握を助けるために憲法の分類を試みる。
2	日本憲法史	- 明治憲法の成立の経緯と特徴を把握する。 - 日本国憲法の成立の経緯を把握する。
3	日本国憲法の基本原則	日本国憲法の基本原則の内容を把握する。
4	天皇制	日本国憲法下の天皇制の特徴を把握する。
5	平和主義	- 日本国憲法の平和主義規定の特徴を把握する。 - 放棄した戦争と保持しない戦力についての代表的解釈を把握する。
6	基本的人権①	- 国民の権利・義務に関する一般原則について把握する。 - 日本国憲法の平等権規定の内容について把握する。
7	基本的人権②	- 自由権とはどのような性格の権利なのか、について把握する。 - 日本国憲法の自由権規定の内容を把握する。
8	基本的人権③	- 社会権とはどのような性格の権利なのか、について把握する。 - 日本国憲法の社会権規定内容を把握する。
9	基本的人権④	- 日本国憲法の参政権規定の内容を把握する。 - 日本国憲法の国務請求権規定の内容を把握する。 - 日本国憲法の義務規定の内容を把握する。
10	国会	- 一院制と二院制それぞれの存在意味について把握する。 - 国会の地位について把握する。 - 国会の組織と権能について把握する。 - 国会議員の特権について把握する。
11	内閣	- 議院内閣制と大統領制それぞれの特徴と違いについて把握する。 - 内閣の組織と権能について把握する。
12	司法	- 司法権とは何か、について把握する。 - 裁判所の組織と権能について把握する。 - 司法権の独立について把握する。
13	地方自治	- 地方自治の本旨について把握する。 - 日本の地方自治制度について把握する。
14	憲法改正	- 日本国憲法の改正手続について把握する。 - 憲法改正の限界について把握する。
15	最高法規	- 憲法の最高法規性について把握する。 - 憲法と条約の効力関係について把握する。

シラバス執筆：関畑 崇之

レポート課題

第1分冊 関畑 崇之

第2分冊 関畑 崇之

第1分冊 〈略題〉法の下の平等

学修指導書で第一分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

法の下の平等の意味について、説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・「法の下に」の意味
- ・差別禁止事由の意味
- ・「平等」の意味

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

第2分冊 〈略題〉憲法改正手続

学修指導書で第二分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

日本国憲法の憲法改正手続について、整理せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・憲法改正案の提出、審議、議決
- ・憲法改正の国民投票
- ・憲法の公布

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

参考文献

- ・原則として、テキストを参照すること。
- ・インターネット上の情報のみを引用するのではなく、近くの図書館等へ足を運び、資料収集を行うこと。
- ・参考文献の表記方法については、テキスト巻末の参考文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

- ・試験問題は論述式であるので、各自シラバスの課題をまとめ、それぞれについて要点を説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

憲法を学ぶ上では、まず憲法の条文を参照しなければならない。そして、条文で用いられている言葉の意味やその条文自体の趣旨などの理解に努める必要がある。科目試験やレポートでは、これらを整理・分析して、記述することも求められる。また、問題文をよく読み、過不足のない記述を心がけてください。形式的な面では、誤字・脱字や参考文献の不記載、規定文字数にも注意してください。

憲法は現実社会との関わりも大きく、様々な社会問題に関係するものですが、特定の考えに固執することなく、問題に対して多角的・俯瞰的な分析を意識してください。問題をしっかりと整理し、まとめることができるようになることが学修の第一歩です。

科目概要	文章表現における論理的な書き方を「主語・述語・修飾語」の関係性や「主張・話題・理由・説明」さらには「定義・解説・要約・吟味・提案」というようなそれぞれの観点から学ぶことで、レポート・研究論文などの基礎的な書き方を身につけていく。第1分冊は「はじめに」から「第四章（「理由を書く」）」まで、第2分冊は「第五章（「説明を書く」）」以後である。
主な到達目標	1. 論理的な文章表現の方法についての知識を広げ、文章表現の意義について考えを深める。 2. 他者の意見を正確に要約し、吟味・提案する能力を高める。 3. データや引用による文章作成の論理的手順についての知識を広げ、実際に文章表現をする能力を高める。
テキスト学修の留意点	テキストを熟読しながら以下の「学修テーマ」「課題」にそった学修を行う。その際、各章ごとに記されている「例題」「練習問題」を必ず解いてみること。（「例題」の解答例はテキスト内に、「練習問題」の解答例は「学修指導書」に記載されている。）

	学修テーマ	課 題
1	意見文とは（はじめに）	「意見文」とはどのようなものか。またどのような「意見文」がよいのかを「正当性」「公共性」という観点から説明せよ。
2	「関係」を考える 1（第一章）	どのような文章が分かりにくいのかを説明せよ。
3	「関係」を考える 2（第一章）	どのような文章が分かりやすいのかを説明せよ。
4	意見文のつくり（第二章）	「意見文」を構成する要素としてどのようなものがあるかを説明せよ。
5	「話題」と「主張」を書く（第三章）	どういう文章で話題を論じればよいか、また適切な主張をするために気をつけることは何かについて説明せよ。
6	「理由」を書く 1（第四章）	「理由」を示す表現としてどのようなものがあるか、「理由」の中身としてどのようなものがあるかを説明せよ。
7	「理由」を書く 2（第四章）	「理由」を書く手順について説明せよ。
8	「説明」を書く（第五章）	「説明」の方法を「定義」と「解説」という観点から説明せよ。
9	意見文をチェックする（第六章）	意見文のチェックポイントについて説明せよ。
10	他者の考えとよりよく関わるために（第七章）	「議論」とは何か、他者の意見にどのような態度で臨むかについて説明せよ。
11	要約から吟味、提案へ 1（第八章）	要約のポイントについて、また要旨のまとめ方について説明せよ。
12	要約から吟味、提案へ 2（第八章）	「吟味」「提案」の仕方について説明せよ。
13	データを使って立論する（第九章）	データを使って立論するための方法について説明せよ。
14	資料や他者の意見を取り込むために（第四部へのブリッジ）	引用のルールと方法について説明せよ。
15	まとめ	第四部「課題集」を読んで、自分であればどのように立論するかを論理的にイメージせよ。

シラバス執筆：山口 意友

レポート課題

第1分冊 山口 意友

第2分冊 山口 意友

第1分冊 〈略題〉わかりやすい文章 はじめに～第四章（「理由」を書く）まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

わかりやすい文章を書くにはどのようなことが必要かを、テキストの内容（はじめに～第四章）にそって説明せよ。（2000字～2400字程度）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書かれている内容を正確に要約すること。特にキーワードに気をつけ、キーワードの説明を行うこと。

〈評価の観点〉

1. テキストの内容（はじめに～第四章）が正確に要約されているかどうか。（テキストの要約がポイントなので、テキスト以外の内容を記しても無意味。）
2. 文章作成の基本が守られているかどうか。（文頭や改行後のマス空けができていないなど、文章表現の基本原則が守られていない場合には、たとえ優れた内容であったとしても、「再提出」となるので注意すること。）
3. 正しい文章表現されているかどうか。
4. 科目の性質上「誤字（変換ミスも含む）」は「再提出」になるので注意すること。

〈その他の注意点〉

文末に【総字数】を記すこと。（総字数が記されていないと、「判定不可」として再提出になる。）

第2分冊 〈略題〉文章のチェックと文章表現の実際 第五章（「説明」を書く）以後

横書き

Word添付

〈課題〉

課題1：文章のチェック項目について説明せよ。（600字～800字）

課題2：「子供のしつけは学校でしてほしい」というテーマについて、自分の立場を明確にして意見文を記せ。（1400字～1600字）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

課題1はテキストをきちんと要約すること。

課題2は自分とは対立する意見も文章の中に取り入れて記すこと。

〈評価の観点〉

1. 課題1は正確にテキストの要約ができていないかどうか。「課題2」は説得力のある文章であるかどうか。（なお、賛成・反対、いずれの立場に立っても評価には関係しない。）なお、「課題2」ができていたとしても、「課題1」の説明が不十分である場合には再提出となる。
2. 科目の性質上「誤字（変換ミスも含む）」は「再提出」になるので注意すること。

〈その他の注意点〉

課題1、課題2それぞれの文末に【総字数】を記すこと。（総字数が記されていないと、「判定不可」として再提出になる。）

参考文献

.....
テキスト巻末の「参考文献一覧」に記載されているのでそちらを参照。

科目試験等への アドバイス

.....
科目試験は、実際に文章作成を行う形での試験であるから、段落構成や句読点の打ち方、誤字脱字等に注意すること。

教員からの メッセージ

.....
文章表現能力はいったん身に付けば、今後の人生においておおいに役立ちますので、テキストを熟読しながらしっかりとその基礎を身につけて下さい。

科目概要	生徒により高度な知識を理解させ、より深く思考してもらうには、まず教員自身の教科に関する高い専門性が問われます。 本講座は、日本史に関する高度な専門性を身につけるため、次の学びのステップを掲げます。知識を理解するだけでもダメ、考えることを重視するだけでもダメです。 ①歴史事実の因果関係や相関関係を整理 ②時代背景を理解して時代像（時代のイメージ）をつかむ ③歴史解釈の違いを追究し、歴史の奥深さを理解する
主な到達目標	1 テキストを読み、時代背景を読み取り、時代像（どのような時代かというイメージ）を理解する 2 対象となる時代から一つの出来事を選択し、その出来事にまつわる学説（論争）の違いを調査する 3 学説の違いを“対比的に”整理した上で、自分の採る学説を根拠に基づき説明する
テキスト学修の留意点	1 歴史事実の因果関係を意識しながらテキストを読む 2 時代背景を捉えて、時代像（どのような時代かというイメージ）について考える 3 その上で、一つの出来事に着目し、学術書や学術論文を活用して学説（論争）の違いを追究する ※参考文献は、学術的な論文・著書に限る 4 学説の違いを自分なりに整理し、自分のとる立場を明らかにする

	学修テーマ	課 題
1	オリエンテーション	「オリエンテーション」を読み、大学で日本史を学ぶことの意義（歴史事項の丸暗記からの解放）について、理解を深める。
2	古代 1	「稲の道」「大王から天皇へ」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
3	古代 2	「律令と大仏」「10世紀の社会変革」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
4	古代 3	「受領と侍」「荘園」「『今昔』の世界」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
5	中世 1	「武門の棟梁」「『みやこ』と『いなか』」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
6	中世 2	「悪党」「念仏と軍記」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
7	中世 3	「起請と逃散」「戦国の世」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
8	近世 1	「幕藩制支配の確立」「鎖国」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
9	近世 2	「『村方』と『町方』」「幕政の展開」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
10	近世 3	「西鶴と京伝」「一揆、打ちこわしの世界」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
11	近代・現代 1	「『御一新』」「民権と国権」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
12	近代・現代 2	「あゝ君死にたまふことなかれ」「米騒動」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
13	近代・現代 3	「護憲運動」「軍部」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
14	近代・現代 4	「戦争と民衆」「占領下の日本」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。
15	近代・現代 5	「安保から高度成長へ」「核危機の時代」を読み、歴史事実の因果関係を整理し、その時代のイメージをつかむ。その時代に関する興味が深まったら、学説（論争）について深く調べる。

シラバス執筆：濱田 英毅

科目概要	本講座では日本の古代・中世（旧石器時代～室町時代）の歴史過程を学ぶ。歴史用語の羅列ではなく、1つ1つの歴史事象がどのように関連しているのかを学ぶことで、それぞれの時代の全体像を把握し、そこからの断絶・連続から現代社会を理解する手がかりとする。
主な到達目標	1. 日本の古代から中世までの歴史の流れとして把握できる。 2. 政治過程・社会構造・文化などの連環として時代像を描ける。 3. 歴史の流れを具体的な史実から説明・記述できる。
テキスト学修の留意点	1. テキストに登場する歴史用語を知識として暗記するだけでなく、原因と結果の連なりとして理解する。 2. 知らない語句に関しては辞典や参考文献を参照して理解を深める。 3. 典拠となる史料を図書館などで確認し、具体的なイメージを深める。

	学修テーマ	課 題
1	オリエンテーション：歴史を学ぶこと	テキストのオリエンテーション部分を読み、中学・高校までの日本史の授業と、大学で日本史を学ぶことの違いを考える。
2	旧石器時代・縄文時代の列島社会（第1章）	旧石器時代・縄文時代における自然環境の変化が日本列島に住む人々の社会生活に及ぼした影響について理解し、具体的な知識を深める。
3	弥生時代・古墳時代の列島社会（第2章）	弥生時代・古墳時代における農耕の定着と、それによる身分社会や権力の発生について理解し、具体的な知識を深める。
4	ヤマト王権の成立（第3章）	3～5世紀の東アジア世界のなかで、日本列島にヤマト王権が成立した過程を理解し、具体的な知識を深める。
5	飛鳥時代の列島社会（第4章）	6～7世紀の東アジア諸国の変動と、推古朝前後の政治過程の連関について理解し、具体的な知識を深める。
6	律令国家の成立（第5章）	7世紀後半の大化改新から大宝律令の制定にいたる律令国家成立過程について理解し、具体的な知識を深める。
7	奈良時代の列島社会（第6章）	律令に基づく官僚制や税制の仕組みと、その実態について理解し、具体的な知識を深める。
8	平安時代初期の列島社会（第7章）	平安遷都から摂関政治の形成にいたる過程と、当該期の社会構造について理解し、具体的な知識を深める。
9	摂関期の列島社会（第8章）	10～11世紀の摂関政治全盛期における都と地域社会の様相について理解し、具体的な知識を深める。
10	院政期の列島社会（第9章）	院政と呼ばれる政治形態の始まりと、荘園公領制の仕組みについて理解し、具体的な知識を深める。
11	鎌倉幕府の成立（第10章）	11～12世紀における武士の成長の過程と、鎌倉幕府の成立について理解し、具体的な知識を深める。
12	鎌倉時代の列島社会（第11章）	鎌倉時代における中世法と社会の関係について理解し、具体的な知識を深める。
13	鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立（第12・13章）	いわゆる蒙古襲来の影響と、鎌倉幕府から室町幕府への転換期について理解し、具体的な知識を深める。
14	室町時代の列島社会（第14・15章）	室町時代の社会構造と、現代につながる「伝統文化」の成立について理解し、具体的な知識を深める。
15	中世の終焉（第16・17章）	戦国の動乱による中世という時代の終焉について理解し、具体的な知識を深める。

シラバス執筆：中 大輔

レポート課題

第1分冊 中 大輔
第2分冊 中 大輔

第1分冊 〈略題〉日本列島の古代社会 第1章～第8章

横書き

Word添付

〈課題〉

第1章～第8章を読んで興味を持った歴史事象を1つ選び、その具体的な内容・歴史的意義について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 歴史事象（事件や制度・法令など）を説明する際には、典拠となる史料を明示し、従来の研究（先行学説）を踏まえて述べること。
2. 歴史的意義は、それまでとの違いや、後の時代への影響などを、具体的な事例をあげて述べること。個人的な感想を求めるものではない。
3. 従来の研究（先行学説）を参考にした場合は、典拠（著者・論文名・書名など）を明示すること。典拠を明示しない引用は「盗用」であり不正となる。

〈評価の観点〉

1. 「レポート作成にあたっての留意点」が守られているか。
2. テキストや参考文献の丸写しではなく、自分なりに論点が整理できているか。
3. 他人が読んで理解を得られる文章が書けているか。

〈その他の注意点〉

インターネットを利用して学習するのは構わないが、その場合はネット記事の典拠となる書物まで直接あたって明記すること。Wikipediaなどは出典としては不適当。

第2分冊 〈略題〉日本列島の中世社会 第9章～第17章

横書き

Word添付

〈課題〉

第9章～第17章を読んで興味を持った歴史事象を1つ選び、その具体的な内容・歴史的意義について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 歴史事象（事件や制度・法令など）を説明する際には、典拠となる史料を明示し、従来の研究（先行学説）を踏まえて述べること。
2. 歴史的意義は、それまでとの違いや、後の時代への影響などを、具体的な事例をあげて述べること。個人的な感想を求めるものではない。
3. 従来の研究（先行学説）を参考にした場合は、典拠（著者・論文名・書名など）を明示すること。典拠を明示しない引用は「盗用」であり不正となる。

〈評価の観点〉

1. 「レポート作成にあたっての留意点」が守られているか。
2. テキストや参考文献の丸写しではなく、自分なりに論点が整理できているか。
3. 他人が読んで理解を得られる文章が書けているか。

〈その他の注意点〉

インターネットを利用して学習するのは構わないが、その場合はネット記事の典拠となる書物まで直接あたって明記すること。Wikipediaなどは出典としては不適当。

参考文献

古代社会を知る上では、平川南『日本の歴史2 新視点古代史 日本の原像』（小学館、2008年、ISBN:978-4-09-622102-0）が有益。その他、小学館『日本の歴史』シリーズ、岩波新書『日本古代史』『日本中世史』シリーズ、講談社学術文庫『日本の歴史』シリーズなどの概説書を手がかりに、その参考文献にあげられている学術論文などにも当たってみること。日本史辞典では、図書館などで吉川弘文館の『国史大辞典』を調べると良い。

科目試験等への
アドバイス

歴史叙述に求められるのは、具体的な歴史事実がどのように結びついて歴史をつくっていったのかを明らかにすることである。単なる知識の羅列にも、筆者の感想文にもならないように、「他人に説明する」ということを意識してレポート作成や試験解答に臨んでほしい。

教員からの
メッセージ

中学・高校での日本史の授業は、一方的に歴史知識を「教わる」という受動的なことが多かったのではないかと。しかし、自分が「教える」側に立つためには、具体的な資料から歴史事実について「考える」こと、そして「理解する」ことが必要になる。本講座では、そのための基礎的な知識を再確認した上で、「考える」「理解する」ための方法を身につけてほしい。

科目概要	本授業は、日本の近代史の大きな流れをつかむことを目標とする。テキストを読み進めて行く中で意味の分からない用語などを調べて歴史を学ぶ上での基礎知識を身にするけるとともに、歴史的なものの見方を深めていくことを目指す。
主な到達目標	(1) 日本の近代に関する歴史的な基礎語句について他者に説明できる。 (2) 日本の近代にかけての歴史の大きな流れを他者に説明できる。 (3) 時事問題について歴史的な観点から一定の見解を述べるができる。
テキスト学修の留意点	まずはテキストの指定箇所をざっと通読することが望ましい。おそらく、意味の分からない言葉だらけであろう。次に分からない言葉を時間の許す限り調べて欲しい。普通の辞書や高校生向けの用語集でも構わないが、本格的な歴史辞典などがあればなお良い。時代の大きな流れをつかむには参考文献にあげた書籍が役に立つが、高校の日本史教科書でも構わない。とにかく「分からない」ことを徹底的に調べてみよう。

	学修テーマ	課 題
1	日本のモデルとしてのヨーロッパ近代	[序章] ウォルター・バジョットの「近代」概念の特徴を理解する。バジョットは「前近代」と「近代」の関係をどのように捉えたのか理解する。
2	政党政治成立をめぐる問い	[第一章 1] 日本の立憲主義をめぐるの二つの問いとは何か理解する。
3	幕藩体制の権力抑制均衡メカニズム	[第一章 2] 明治国家のアンシャン・レジームとしての幕藩体制の特徴は何か理解する。
4	幕末の権力分立論と議会制論	[第一章 3・4] なぜ幕末に権力分立論と議会制論が生まれたのか理解する。
5	明治憲法下の権力分立制と議会制	[第一章 5～8] 体制統合の主体としての藩閥と政党の特徴は何か理解する。
6	自立的資本主義化への道	[第二章 1・2] 自立的資本主義の四つの条件とは何か理解する。
7	自立的資本主義の形成	[第二章 3] 自立的資本主義はどのように形成されたのか理解する。
8	国際的資本主義への転化	[第二章 4～6] 自立的資本主義から国際的資本主義へなぜ転化したのか理解する。
9	国際的資本主義の没落	[第二章 7] 国際的資本主義はなぜ没落したのか理解する。
10	近代日本と植民地	[第三章 1・2] 日本はなぜ植民地帝国となったのか理解する。
11	植民地帝国の形成	[第三章 3] 日本はいかに植民地帝国を形成したのか理解する。
12	「帝国主義」に代わる「地域主義」	[第三章 4] 新しい国際秩序イデオロギーとしての「地域主義」とはどのようなものだったのか理解する。
13	日本の近代と天皇制	[第四章 1～3] 日本の近代にとって天皇制とは何であったのか理解する。
14	大日本帝国憲法と教育勅語	[第四章 4・5] 教育勅語が大日本帝国憲法下の立憲主義とどのような関係にあったのか理解する。
15	近代の歩みから考える日本の将来	[終章] 日本の近代の歩みから我々はどういうことを学ぶべきなのか考察する。

シラバス執筆：奥野 武志

レポート課題

第1分冊 林 英一

第2分冊 林 英一

第1分冊 〈略題〉近代日本の植民地教育 第三章

横書き

Word添付

〈課題〉

近代日本の植民地における「同化」政策の特徴について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの当該範囲を熟読し、分からない言葉や歴史の事実関係について可能な限り調べてもらいたい。その上でなお残る「疑問」を大事にして欲しい。レポートには「著者はこのように述べているが、これこれこういう理由で納得できない」などを書いてもらえればよい。

〈評価の観点〉

- ・課題の問いに対する答えになっているか。
- ・論理的な構成になっているか。
- ・近代史の大きな流れを把握しているか。
- ・叙述している事実関係に誤りがないか。
- ・使用している用語の概念を正確に理解しているか。

〈その他の注意点〉

基本的にテキストの内容を正確にまとめていけば可とするが、その上で著者以外の研究者の見解と対比させたり、きちんとした根拠を示した上で著者の見解を批判できていけばより高く評価する。

第2分冊 〈略題〉近代日本の天皇 第四章

横書き

Word添付

〈課題〉

近代日本の天皇の役割について憲法と教育勅語の観点から論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの当該範囲を熟読し、分からない言葉や歴史の事実関係について可能な限り調べてもらいたい。その上でなお残る「疑問」を大事にして欲しい。レポートには「著者はこのように述べているが、これこれこういう理由で納得できない」などを書いてもらえればよい。

〈評価の観点〉

- ・課題の問いに対する答えになっているか。
- ・論理的な構成になっているか。
- ・近代史の大きな流れを把握しているか。
- ・叙述している事実関係に誤りがないか。
- ・使用している用語の概念を正確に理解しているか。

〈その他の注意点〉

基本的にテキストの内容を正確にまとめていけば可とするが、その上で著者以外の研究者の見解と対比させたり、きちんとした根拠を示した上で著者の見解を批判できていけばより高く評価する。

参考文献

.....
木村茂光他『大学で学ぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016年、ISBN978-4-642-00831-0。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストの内容を「理解」することを目指して欲しい。ただし、このテキストの高度な内容を「理解」するためには高校で学習する日本史の通史の知識に加えて幅広い教養が求められる。「分からない」ことを調べていくうちに科目試験等に対処する実力は自然についていくであろう。

教員からの
メッセージ

.....
テキストの内容はかなり高度かつ難解である。ただし、「分からない」ことをコツコツと調べていけばかなりの力がつくであろう。その上でなお残る「なぜ」「どうして」という疑問を大切にしたい。

科目概要	世界史的な観点、および概念的な観点から日本の近現代史を眺める。直接的な因果関係だけでなく、社会的現象における歴史的沿革や、地理的な広がり、社会的な通念（概念）の展開を意識しながら読み進め、浅く広い日本近現代史の理解から脱し、日本近現代史を探究的に眺めるきっかけとなることを目指す。
主な到達目標	①日本近現代史を、世界との関連や概念との関連から理解する。 ②歴史総合や日本史探究で教えたり学ばせたりする前提として、自分自身が日本近現代史を簡潔・明瞭に説明できるようになる。 ③実際に授業で扱う場面を想定し、どのような歴史資料を活用し、どのような指導上の工夫やプロセスが必要か（「社会的な見方・考え方」をどのように活用するか）、授業デザインを構想しながら読み進めることができる。
テキスト学修の留意点	本書の内容を、歴史総合や日本史探究の授業で扱うことを意識しながら読み進めること。

	学修テーマ	課 題
1	社会的な見方・考え方の整理	新学習指導要領で問われている、「社会的な見方・考え方」について調べる。その上でテキストを読んで、はじめて意味がある学修となるため。
2	第Ⅰ部の理解	以下の章を読み、新しく気付いたこと、疑問に思ったことをまとめる。 1章 開港の不平等条約——欧米外圧の再検討…小風秀雅 2章 交通革命と東アジア——香港・上海・横浜・長崎…小風秀雅 3章 対日外交の担い手たち——英仏外交官と情報収集…吉良芳恵 4章 天皇の外交と国際認識——1868～94年…ジョン・ブリン 5章 アジアの国際秩序と日本——琉球と挑戦をめぐって…小風秀雅
3	第Ⅰ部の追加調査	以下の章を読んだ上で、内容に関連する歴史資料や図表を調べ、レポート作成のために蓄積しておく。 1章 開港の不平等条約——欧米外圧の再検討…小風秀雅 2章 交通革命と東アジア——香港・上海・横浜・長崎…小風秀雅 3章 対日外交の担い手たち——英仏外交官と情報収集…吉良芳恵 4章 天皇の外交と国際認識——1868～94年…ジョン・ブリン 5章 アジアの国際秩序と日本——琉球と挑戦をめぐって…小風秀雅
4	第Ⅱ部の理解	以下の章を読み、新しく気付いたこと、疑問に思ったことをまとめる。 6章 条約改正と万国対峙…小風秀雅 7章 憲法配布と近代国家の確立…小風秀雅 8章 日清戦争と20世紀の世界秩序…小風秀雅 9章 日露戦争前後の日本外交…千葉 功 10章 「帝国」日本の植民地政策…千葉 功
5	第Ⅱ部の追加調査	以下の章を読んだ上で、内容に関連する歴史資料や図表を調べ、レポート作成のために蓄積しておく。 6章 条約改正と万国対峙…小風秀雅 7章 憲法配布と近代国家の確立…小風秀雅 8章 日清戦争と20世紀の世界秩序…小風秀雅 9章 日露戦争前後の日本外交…千葉 功 10章 「帝国」日本の植民地政策…千葉 功
6	第Ⅰ・Ⅱ部の振り返り	「第Ⅰ部 近代化と国際化」「第Ⅱ部 帝国国家の成立」の内容を振り返り、理解の浅い箇所に戻って再度読み込むことで、理解を深める。
7	第Ⅰ・Ⅱ部の研究	「第Ⅰ部 近代化と国際化」「第Ⅱ部 帝国国家の成立」で出てきた話題を歴代首相ごとに整理し、かんたんな年表を作成することで、時系列的な理解を深める。
8	個人研究①	第Ⅰ部・第Ⅱ部の中から関心のあるテーマを選び、「社会的な見方・考え方」に留意しつつ、高校生への授業デザインを構想する。課題作成に当たっては、留意事項等をきちんとふまえること。
9	第Ⅲ部の理解	以下の章を読み、新しく気付いたこと、疑問に思ったことをまとめる。 11章 大正デモクラシーと第一次世界大戦…李武嘉也 12章 対中政策の破綻と国際協調の受容…千葉 功 13章 ワシントン体制と日米対立の予感…李武嘉也 14章 経済外交の展開…本宮一男 15章 昭和初期の経済政策論争…李武嘉也
10	第Ⅲ部の追加調査	以下の章を読んだ上で、内容に関連する歴史資料や図表を調べ、レポート作成のために蓄積しておく。 11章 大正デモクラシーと第一次世界大戦…李武嘉也 12章 対中政策の破綻と国際協調の受容…千葉 功 13章 ワシントン体制と日米対立の予感…李武嘉也 14章 経済外交の展開…本宮一男 15章 昭和初期の経済政策論争…李武嘉也

11	第Ⅳ部の理解	以下の章を読み、新しく気付いたこと、疑問に思ったことをまとめる。 16章 「満州国」…李武嘉也 17章 近衛文麿と昭和の戦争…李武嘉也 18章 戦争と日本経済——国家総動員・復興・朝鮮特需…小風秀雅 19章 転換点としての安保闘争…李武嘉也 20章 高度成長——経済大国への道…小風秀雅
12	第Ⅳ部の追加調査	以下の章を読んだ上で、内容に関連する歴史資料や図表を調べ、レポート作成のために蓄積しておく。 16章 「満州国」…李武嘉也 17章 近衛文麿と昭和の戦争…李武嘉也 18章 戦争と日本経済——国家総動員・復興・朝鮮特需…小風秀雅 19章 転換点としての安保闘争…李武嘉也 20章 高度成長——経済大国への道…小風秀雅
13	第Ⅲ・Ⅳ部の振り返り	「第Ⅲ部 デモクラシーと国際協調」「第Ⅳ部 戦時から戦後へ」の内容を振り返り、理解の浅い箇所に戻って再度読み込むことで、理解を深める。
14	第Ⅲ・Ⅳ部の研究	「第Ⅲ部 デモクラシーと国際協調」「第Ⅳ部 戦時から戦後へ」で出てきた話題を歴代首相ごとに整理し、かんたんな年表を作成することで、時系列的な理解を深める。
15	個人研究②	第Ⅲ部・第Ⅳ部の中から関心のあるテーマを選び、「社会的な見方・考え方」に留意しつつ、高校生への授業デザインを構想する。課題作成に当たっては、留意事項等をきちんとふまえること。

シラバス執筆：濱田 英毅

第1分冊 〈略題〉幕末維新から明治まで テキスト第I・II部

縦書き指定

Word添付
(図表含む)

〈課題〉

テキストの指定範囲の中から任意の時代を取り上げ、その内容を授業で扱う場合の授業デザインを構想し、どのような資料を提示し、どのような「社会的な見方・考え方」を理解してもらうことで、どのように学びが深まっていくのか。そのプロセスを詳しく記載しなさい。

以下の観点に全て答える形でレポートを書くこと。①必要となる最低限の知識は何か、②補足として提示すべき資料は何か、③社会的な見方・考え方をどのように活用しながら教えるか、④以上を総合して、授業の目標は何で、授業の展開はどのような内容か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

授業デザインを記載するのであって、その時代に関する解説を書くわけではない点に注意。

〈評価の観点〉

課題で示した4観点が、すべて意識されているか。授業の意図や展開が、読み手に明確に伝わるか。

〈その他の注意点〉

現代の価値観から当時の人々を断じないこと。当時の人々の有していた価値観を、まず浮き彫りにするような授業展開に努めること。

問題の把握が十分でないままに、課題（どうしたらよかったんだろう、という行動を考えること）を理解することはできない。

第2分冊 〈略題〉大正から昭和まで テキスト第III・IV部

縦書き指定

Word添付
(図表含む)

〈課題〉

テキストの指定範囲の中から任意の時代を取り上げ、その内容を授業で扱う場合の授業デザインを構想し、どのような資料を提示し、どのような「社会的な見方・考え方」を理解してもらうことで、どのように学びが深まっていくのか。そのプロセスを詳しく記載しなさい。

以下の観点に全て答える形でレポートを書くこと。①必要となる最低限の知識は何か、②補足として提示すべき資料は何か、③社会的な見方・考え方をどのように活用しながら教えるか、④以上を総合して、授業の目標は何で、授業の展開はどのような内容か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

授業デザインを記載するのであって、その時代に関する解説を書くわけではない点に注意。

〈評価の観点〉

課題で示した4観点が、すべて意識されているか。授業の意図や展開が、読み手に明確に伝わるか。

〈その他の注意点〉

現代の価値観から当時の人々を断じないこと。当時の人々の有していた価値観を、まず浮き彫りにするような授業展開に努めること。

問題の把握が十分でないままに、課題（どうしたらよかったんだろう、という行動を考えること）を理解することはできない。

参考文献

学術的な本を活用してください。それが難しいならば、中央公論新社の『シリーズ日本の近代』などの一般書を活用してもよい。
なお、高校時代の教科書やインターネット記事は、考える上での参考にしてもいいですが、参考文献としては使わないでください。

科目試験等への アドバイス

日本近現代史を理解するための中軸となる、日本の歴代首相の事績についてまとめておくといよいでしょう。御厨貴『歴代首相物語』は参考になります。

教員からの メッセージ

良くも悪くも日本は、西欧列強という存在や、共産主義という概念と正対しながら、今日まで続いてきました。
今の皆さんが持っている価値観や歴史認識にとらわれず、「当時はどうだったのか」という視点を大事にして、日本の近現代史を学ぶチャンスとと思っていただけると幸いです。

TT0435 日本美術史

2単位

テキスト名

辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』
増補新装版、美術出版社、2002年

科目概要	本科目では、絵画、彫刻、工芸（漆工・木工・金工・陶磁器等）、染織等、様々な分野の日本の造形美術を対象とし、その美質を鑑賞するとともに美術の歴史を学ぶ。日本美術史の基礎的知識の獲得、日本美術の歴史的展開の理解、美術史学の方法論の習得、社会的・文化的背景の考察を目標とする。
主な到達目標	・日本美術を鑑賞・研究するための基礎的知識を身につける。 ・日本美術史の歴史的展開を理解する。 ・美術作品を学問的に追究するための基礎的な方法論を習得する。 ・作品と、それを生み出した社会的・文化的背景との関わりについて考察できるようにする。
テキスト学修の留意点	・テキストで紹介された美術作品を、主題や技法などに留意して丁寧に鑑賞すること。 ・わからない用語や興味をもった作品・事項等については、参考となる文献にあたること。 ・時代ごとの作品の羅列ではなく、日本美術の歴史的展開を把握すること。 ・作品の時代背景や社会との関わりについて考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	日本美術史の基礎知識	日本美術史における基礎的な用語・技法、作品の形式などをおさえる。美術作品を学問として扱う際の方法論を学ぶ。
2	飛鳥時代の美術	仏教伝来を機に、日本には大陸の進んだ技術がもたらされた。飛鳥時代に日本各地で造営された仏教寺院と仏教美術（彫刻・絵画・染織）について学ぶ。
3	白鳳時代の美術	天智元年（662）から平城遷都までの白鳳時代には、国家主導の官寺をはじめとした大寺院の造営が本格化した。この時代の仏教彫刻、絵画、工芸について学ぶ。
4	天平時代の美術	平城遷都から平安遷都までの天平時代には、唐の色濃い影響を受けた美術が展開した。正倉院に伝来する工芸を軸に、国際交流の様相を学ぶ。
5	平安時代の美術①	平安遷都から「安和の変」による藤原氏の摂関体制確立までの平安時代前期には、旧来の仏教に変わり新たに伝えられた密教の美術が展開した。その後、遣唐使廃止により大陸からの影響は限定的となる。この時代の密教美術と国風文化萌芽期の美術について学ぶ。
6	平安時代の美術②	10世紀後半から12世紀末までの平安時代後期には、中国文化の模倣を脱却し、和様の主題や表現が追求された時代であった。この時代の美術の和様化の様相を学ぶ。
7	鎌倉・南北朝時代の美術	この時代には、奈良時代に次いで中国文化が流入した。仏像彫刻と肖像彫刻・肖像画を軸に、この時代の美術とリアリズムについて考察する。
8	室町時代の美術	室町時代は、美術が多様化した時代であった。「北山文化」と「東山文化」、「和」と「漢」、「中央」と「地方」、「上層階級」と「新興の町衆」といった、いくつかの対立項を軸に、この時代の美術の展開を学ぶ。
9	桃山時代の美術	織豊政権期から豊臣家滅亡までの桃山時代における、天下人による豪壮・華麗な造形と、その対極にある数寄の造形について学ぶ。
10	江戸時代の美術①	多数の作例の残る「洛中洛外図」を軸に、都市の庶民の風俗を描いた近世初期風俗画の展開を学ぶ。
11	江戸時代の美術②	江戸幕府の御用絵師となった狩野派の絵画作品を学び、狩野派が江戸時代の画壇に果たした役割について考察する。
12	江戸時代の美術③	琳派・文人画・写生画の表現の特質について、主要な作家の作品を軸に考察する。
13	江戸時代の美術④	浮世絵について、技法の展開、画題、表現の特質を学び、庶民による庶民のための美術について考察する。
14	近代の美術	明治から戦前にかけての激動期の美術の流れを把握し、諸分野の展開をおさえる。
15	現代の美術	表現が多様化した戦後の美術のあり方について、前時代との相違を含め、考察する。

シラバス執筆：藤元 晶子

レポート課題

第1分冊 藤元 晶子

第2分冊 藤元 晶子

第1分冊 〈略題〉古代から中世の日本美術の流れ 古代～中世

横書き指定

Word添付

〈課題〉

飛鳥から室町時代における日本美術の流れを、具体例を挙げて論じなさい。次いで、最も印象に残った1点について自由に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①適切な文献学修と作品鑑賞を心掛けること。
テキスト等の文献学習を通じ、用語の内容や各時代の特徴・流れをつかむこと。
同時に、実際の作品や写真図版などを、積極的かつ丁寧に鑑賞すること。
- ②作品が生み出された時代背景に目を向けること。
どんな政治情勢・世界情勢だったのか、社会・文化とどのように関わりの中で制作されたのかを考察すること。

〈評価の観点〉

- ①日本美術史の基本的な用語・知識を習得している
- ②美術史の基礎的な方法論（作品名等の提示方法やディスクリプション）を習得している
- ③日本美術史の歴史的展開を把握できている
- ④作品の文化的・社会的背景について考察できている

〈その他の注意点〉

- ・具体的な作品を挙げる場合、作品特定のための情報を明記すること。
仏像など、同じ作品名称の美術作品が複数存在する場合も多い。
区別のため、作品名称の他に、（わかる場合）作者名、所蔵機関名、制作年代、技法等も明記すること。

第2分冊 〈略題〉近世から近代の日本美術の流れ 近世～近・現代

横書き指定

Word添付

〈課題〉

桃山から現代における日本美術の流れを、具体例を挙げて論じなさい。次いで、日本美術の特徴について自由に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①適切な文献学修と作品鑑賞を心掛けること。
テキスト等の文献学習を通じ、用語の内容や各時代の特徴・流れをつかむこと。
同時に、実際の作品や写真図版などを、積極的かつ丁寧に鑑賞すること。
- ②作品が生み出された時代背景に目を向けること。
どんな政治情勢・世界情勢だったのか、社会・文化とどのように関わりの中で制作されたのかを考察すること。

〈評価の観点〉

- ①日本美術史の基本的な用語・知識を習得している
- ②美術史の基礎的な方法論（作品名等の提示方法やディスクリプション）を習得している
- ③日本美術史の歴史的展開を把握できている
- ④作品の文化的・社会的背景について考察できている

〈その他の注意点〉

- ・具体的な作品を挙げる場合、作品特定のための情報を明記すること。
同じ作品名称の美術作品が複数存在する場合も多い。
区別のため、作品名称の他に、（わかる場合）作者名、所蔵機関名、制作年代、技法等も明記すること。

参考文献

日高薫『日本美術のことは案内』（小学館、2002年）
辻惟雄監修『日本美術史年表』（美術出版社、2002年）
前川誠郎他編『日本美術全集』（講談社、1990～93年）
『日本の美術』シリーズ（至文堂）ほか

科目試験等への
アドバイス

文献学習による知識の習得と、作品鑑賞体験の双方を重視する。
テキストの内容を理解していること、作品を自らの言葉で語れること、日本美術の特徴を自分なりに把握していること、を求める。

教員からの
メッセージ

美術館や博物館、寺社等に足を運んだり、展覧会カタログや写真集等を見るなど、積極的に美術作品に触れる機会を持つようにして下さい。

科目概要	博物館法施行規則に規定された科目で、「学芸員となる資格」取得のために学修する、博物館学系諸科目の導入・基礎となるものである。博物館学・博物館の定義等を理解し、博物館の歴史・現状、諸制度、社会的位置づけ、博物館の魅力や可能性等、博物館に共通する事項を概括的に学修し、学芸員となるための基礎を学ぶ。また、学芸員としての立脚点を確認し、各専門的な学修・博物館活動に対しての理解の基礎を構築する。
主な到達目標	博物館及び博物館学の目的について説明できる。 博物館の定義、基本的構成要素及び活動内容について説明できる。 博物館の歴史と現状について説明できる。 学芸員の役割について説明できる。 地域・社会、市民・利用者と博物館の関係について説明できる。 博物館法について説明できる。
テキスト学修の留意点	博物館学系の諸科目中、本科目を最初に学んでから他科目の学修に進むことが望ましい。本科目では、テキストと学修指導書は一体のものとして学修することが求められる。テキストの内容で、刊行後に法規等の制度改正や新たな統計値が公表されているものについては、学修指導書・レポート課題の注意点で補訂しているので、必ず目を通すこと。レポート作成は、「レポート課題」に記載した留意事項と、評価の観点を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	博物館学とは何か	・博物館学とはどのような学問か。 ・博物館学の目的・方法・構成とはどのようなものか。 ・博物館学はどのように発展したか。(第1章)
2	博物館とは何か	・博物館の定義・構成要素とはどのようなものか。 ・理想的な、良い博物館とはどのようなものか。(第1章)
3	博物館の種類	・博物館の分類基準にはどのようなものがあるか。 ・博物館にはどのような種類のものが存在するか。(第1・3章)
4	博物館の目的	・博物館の存在理由とは何か。(第1・5章)
5	博物館の機能・活動	・博物館活動の種類・構成・特質とはどのようなものか。(第1・4章)
6	世界の博物館の歴史	・博物館の起源とは何か。 ・博物館の形成過程とはどのようなものか。 ・いかなる要因・過程で近代的博物館への変質・脱皮が行われたか。 ・諸外国の博物館の現状とはどのようなものか。 ・博物館に関する国際組織はどのようなものか。(第2章)
7	わが国の博物館の発達史	・博物館前史はいかなる様相であったか。 ・近代における博物館の導入・定着過程はどのようなものであったか。 ・第2次世界大戦後の時期の博物館の変質とその後の博物館の発展過程はどのようなものか。 ・博物館の現状とはどのようなものか。(第2章)
8	博物館法制	・博物館関係法令にはどのようなものがあり、どのような構造・構成になっているか。 ・博物館とその事業・資料・職員・種別等は法令上どのように規定されているか。 ・博物館法の内容はどのようなものか。 ・ユネスコ及び国際博物館会議関係の規程類はどのようなものか。(第3章・学修指導書)
9	博物館の組織・学芸員とは何か	・博物館の組織構成とはどのようなものか。 ・博物館の職員構成とその役割・職分とはどのようなものか。 ・学芸員の定義・現状・役割・職分とは何か。 ・学芸員に求められる専門性とは何か。(第4章)
10	社会的存在としての博物館	・博物館の社会的位置づけとはどのようなものか。 ・博物館と市民との関係はいかなるものであるべきか。 ・博物館・博物館展示の政治性とは何か。(第5章)
11	地域施設としての博物館	・地域博物館の意義・目的、活動とはどのようなものか。 ・博物館と地域とのかわりとはどのようなものか。 ・地域のために博物館は何ができるか。(第6章)
12	博物館の利用者	・博物館を利用するとはどういうことか。 ・博物館にとって利用者とはどのような存在か。 ・利用者にとって博物館とはどのような存在か。 ・利用者の行動形態・意識とはどのようなものか。(第7章)
13	博物館と生涯学習	・生涯学習とは何か。 ・博物館における生涯学習とはどのようなものか。 ・人々の生涯学習に対し博物館は何ができるか。(第8章)
14	博物館研究	・博物館研究・博物館学研究の目的とは何か。 ・博物館研究・博物館学研究にはどのような方法があるか。(第9章)
15	博物館の公共性・現代的課題	・博物館を公共的存在とする根拠は何か。 ・今日の博物館が抱える課題とは何か。(特論1・2)

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉学芸員の職分 第1章～第4章・指導書別冊の博物館関係法規

横書き指定

直接入力

〈課題〉

学芸員の職分とは何か、また、そのために学芸員に必要とされるものとは何か、考えるところを述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト全体を通読の上、各分冊課題に取り組むことが望ましい。テキストの内容が現状と合致しない部分を指導書及び「その他の注意点」欄で補訂したので、必ず目を通し確認のこと。特定の館種・館園に限定せず、博物館全般を対象に考察すること。テキスト以外の参考文献等の利用は望ましいが、他者の言説を引用する場合はルールに従い、使用した文献等は文末註記で全てを明示し、その際の記載方法（記載事項・記載順・付番等）は、学術的な文章における註記法に準拠すること（インターネット上の情報についても同様）。無断引用等の剽窃行為は厳に慎むこと。

〈評価の観点〉

- ①課題の求める点を十分考察して論述しているかをもとに評価を行い、考察が不十分な場合は再提出を求める。
- ②テキストその他文献の要約・敷き写しを求めている。そのような内容のもの、要約等の記述が過大なものは、再提出とする。テキスト等を踏まえ、博物館人に相応しい意識・見識に根ざしつつ、自己の見解を中心に述べたものであること。
- ③日本語として正しく論説文としての体裁を整えたものであること。2000字に満たないレポートは、無条件に再提出とする。

〈その他の注意点〉

現行法令・最新の統計値、行政情報等は、下記のウェブサイトを確認すること。

社会教育関係法令

https://www.next.go.jp/a_menu/01_l/08052911/005.htm

統計情報（社会教育調査（最新は令和3年度））

https://www.next.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm

ICOMの規約類 <https://icomjapan.org/about/>

博物館の原則・博物館関係者の行動規範

<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/2012.7koudoukihan.pdf>

政策について＞博物館

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html

博物館総合サイト <https://museum.bunka.go.jp/>

第2分冊 〈略題〉学びの場としての博物館 第5章～特論2

横書き指定

直接入力

〈課題〉

学びの場としての博物館ということのために、博物館が果たすべき役割とはいかなるものであるべきか、また、市民はどのように博物館の機能を活用することが望ましいか、考えるところを述べよ。その際、各自が博物館の一利用者（あるいは一関係者）として経験してきた具体的事例に照らし、上記の点で何を期待するかについても、併せて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト全体を通読の上、各分冊課題に取り組むことが望ましい。学修指導書も必ず目を通すこと。テキストの内容が現状と合致しない部分を指導書及び次の「その他の注意点」で補訂しているので、確認のこと。テキスト以外の参考文献等の利用は望ましいが、無断引用等の剽窃行為は厳に慎み、ルールに従った引用法・註記を行うこと。インターネット上の情報についても、同様である。主たる論題は、課題前段にある。課題の後段は具体的な経験とそれに基づく論述を求めるが、この部分で文字数を取り過ぎないように注意すること。

〈評価の観点〉

- ①課題の求める点を十分考察して論述しているかをもとに評価を行い、考察が不十分な場合は再提出を求める。
- ②テキストその他文献の要約・敷き写しを求めている。そのような内容のもの、要約等の記述が過大なものは、再提出とする。テキスト等を踏まえ、博物館人に相応しい意識・見識に根ざしつつ、自己の見解を中心に述べたものであること。
- ③日本語として正しく論説文としての体裁を整えたものであること。2000字に満たないレポートは、無条件に再提出とする。

〈その他の注意点〉

現行法令・最新の統計値、行政情報等は、下記のウェブサイトを確認すること。

社会教育関係法令

https://www.next.go.jp/a_menu/01_l/08052911/005.htm

統計情報（社会教育調査（最新は令和3年度））

https://www.next.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm

ICOMの規約類 <https://icomjapan.org/about/>

博物館の原則・博物館関係者の行動規範

<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/2012.7koudoukihan.pdf>

政策について＞博物館

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html

博物館総合サイト <https://museum.bunka.go.jp/>

参考文献

特定のものを、レポート作成上の参考文献として指定はしない。しかし、テキスト第9章及び巻末の「参考文献」で紹介された文献、並びに学修指導書で紹介した文献等の中から適宜参考にすれば、内容理解の助けになるであろう（ただし取り上げたものの一部には、絶版のものや一般書店では入手できない書籍も含まれている）。

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、「主な到達目標」欄に掲げた項目に照らし、テキストの内容を理解して、説明できるかを問うものとする。博物館法（昭和26年法律第285号）に関する問題を出題することもあり得る。博物館法の条文はテキストに収録されていないため、学修指導書別冊及び上記「その他の注意点」記載のもの等を参照すること。

教員からの
メッセージ

博物館学は、テキスト学修以外に、現場である博物館に足を運び、実例に即して確認・考察することが、重要かつ不可欠である。受講者には、少なくとも利用者の立場で、多様かつ豊富な博物館体験を有することを求めたい。また、博物館・博物館学は極めて学際的な存在である。受講者各自の専攻分野に関連する博物館はもちろん、様々な種類・規模・設置者の博物館を、目的意識をもって自主的・積極的に数多く（学芸員資格を目指すならば、最低でも年間20～30館（これとて月平均にすれば2～3館程度である）は）見学することが望まれる。資格取得のため義務的に履修するのではなく、博物館・博物館学に対する興味と問題意識をもって学修することを求めたい。

TT0437 博物館教育論

2単位

テキスト名

柿崎博孝・宇野慶・高橋愛
『博物館教育論』
玉川大学出版部

科目概要	博物館教育の意義、理念、歴史、環境整備、実践活動などを学んで、博物館教育の現状と課題について考える。
主な到達目標	博物館教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的能力を養う。
テキスト学修の留意点	本テキストは博物館教育の概要をテーマごとに学修出来る構成になっている。テーマごとに要点をしっかりとっておさえ、学修をすすめてもらいたい

	学修テーマ	課 題
1	博物館教育の意義と理念	今日の博物館教育の意義と理念を学ぶ。
2	博物館における学びの特性	人の認知と博物館での体験について学ぶ。
3	博物館教育の歴史的展開 (西洋)	西洋諸国の博物館教育の歴史を学ぶ。
4	博物館教育の歴史的展開 (日本)	日本の博物館教育の歴史を学ぶ。
5	博物館教育の環境整備	予算、ミュージアム・エデュケーター、セキュリティ対策、感染症対策、広報などの面から博物館教育について学修する。
6	博物館教育活動の企画と実施	博物館教育活動の企画と実施
7	学校教育と博物館	博物館と学校の連携した博物館教育のあり方について学ぶ。
8	大学と博物館教育	大学と博物館や博物館教育について学ぶ。
9	館種別博物館活動の特色	館種の違いによる博物館教育活動の特徴について学ぶ。
10	博物館教育と評価	博物館教育活動を中心とした博物館評価について学ぶ。
11	博物館教育と地域社会	生涯学習、エコ・ミュージアム、地域社会と博物館、ミュージアム・ネットワークについて学ぶ。
12	人材育成の場と博物館教育	博物館の人材育成のとりくみについて学ぶ。
13	多文化共生社会と博物館教育 (Ⅰ)	外国人や外国人をサポートする人々に向けた博物館教育のあり方を考える。
14	多文化共生社会と博物館教育 (Ⅱ)	博物館活動における倫理的主題の取り扱いについて考える。
15	ICT と博物館教育活動	情報通信技術 (ICT) を活用した博物館教育活動を考える。

シラバス執筆：宇野 慶

レポート課題

第1分冊 宇野 慶

第2分冊 宇野 慶

第1分冊 〈略題〉博物館教育の特徴

第一分冊

横書き指定

直接入力

〈課 題〉

博物館教育の特徴を博物館教育の理論や歴史等を参考にしながら論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

参考文献を利用した場合は典拠を示すこと。本科目のレポート提出方法は Word 添付ではなく、直接入力である。

〈評価の観点〉

博物館教育の理論的、歴史的背景をふまえたうえでレポートを作成しているか。

〈その他の注意点〉

例年、常体と敬体が混在するなどレポートの書き方が出来ない学生がいる。レポートの書き方が不安な場合は、小論文・レポート等の書き方をテーマとした市販本を参考にすることをすすめる。

第2分冊 〈略題〉これからの博物館教育

第二分冊

横書き指定

直接入力

〈課 題〉

テキストの内容を参考にしながら、これからの社会における博物館教育で重要になる点を具体的な事例を挙げて論ぜよ

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

参考文献を利用した場合は典拠を示すこと。本科目のレポート提出方法は Word 添付ではなく、直接入力である

〈評価の観点〉

今日の社会を分析したうえで、これからの博物館教育で必要になると考える点を論ずること。具体例を挙げるとすると、子どもと博物館教育、生涯学習、地域社会と博物館、外国人への関わり、ICT と博物館教育、新型コロナウイルス感染症の流行が博物館教育活動に及ぼした影響、来館者研究と評価などがあるが具体的なトピックが他にあると考える場合はそのことを論じてもよい。

〈その他の注意点〉

今日の社会の動きをふまえること。

参考文献

.....
指導書に挙げた文献を参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストを良く理解すること。

教員からの
メッセージ

.....
博物館教育の内容や評価は刻々と変化するものである。テキストや指導書の学修に加えて、博物館教育関連文献を読んだり、近くの博物館を実際に訪問するなどして、『博物館教育論』の学修を積極的にすすめていくことを望む。

科目概要	博物館経営論は、大学で学芸員資格を取得するために必要な文部科学省令の定める博物館に関する科目の一つである。この科目では、学芸員に求められる博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養うことを目的とする。
主な到達目標	・博物館経営の目的や有効性について説明できる。 ・博物館の使命書・中長期計画の目的、必要性、内容について説明できる。 ・博物館の経営基盤となる要素について説明できる。 ・博物館を運営するための具体的な方策について説明できる。 ・博物館のネットワーク・地域社会との連携のあり方について説明できる。 ・博物館および学芸員の倫理・行動規範、危機管理を説明できる。
テキスト学修の留意点	・主な到達目標に関わる諸要素について、博物館の機能や役割についての理解をふまえて、管理・運営面の基本概念を説明できるようにする。 ・本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

	学修テーマ	課 題
1	博物館の現状と課題	〈博物館の歴史的発達〉と〈取り巻く状況の変化〉はどのようなものか。博物館経営面の〈問題点〉と〈課題〉は何か。
2	博物館の設立	〈博物館設置〉の〈目的・理念〉とは何か。博物館設置の〈環境〉はどのようにあるべきか。博物館はどのようにして〈つくられる〉か。
3	博物館の施設と組織	博物館はどのように〈設立〉されるのか。博物館の〈施設〉と〈組織〉はどのようにあるべきか。
4	博物館の活動と運営 (1)	〈博物館資料〉〈収集〉〈展示活動〉における〈経営的内容〉とは何か。またその〈実践〉はどうあるべきか。
5	博物館の活動と運営 (2)	博物館の〈調査〉〈研究活動〉における〈経営的内容〉とは何か。〈広報〉や〈教育普及活動〉はどのような〈役割〉を果たすのか。またその〈実践〉はどうあるべきか。
6	博物館事業と予算・経営	博物館の〈予算と経営〉はどのようにになっているのか。〈企画展〉がどのように〈計画・実施〉されているのか。〈事前・事後評価〉はどうあるべきか。
7	付帯事業の展開	〈ミュージアム・ショップ〉と〈オリジナルグッズ〉はどのようにあるべきか。〈レストラン〉や〈関連事業〉はどのようにあるべきか。
8	博物館を支える組織	〈友の会〉〈賛助会員〉〈ボランティア〉などの〈組織〉とは何か。またその〈役割と運営〉はどのようなものか。
9	地域社会と博物館	〈博物館と地域社会〉が〈連携〉する目的とは何か。また人々とどのように〈連携〉すべきか。〈博物館ネットワーク〉の目的と内容はどのようなものか。
10	これからの博物館経営 (1)	〈博物館経営論〉の必要性とは何か。博物館の〈運営と経営〉はどのようにあるべきか。
11	これからの博物館経営 (2)	〈博物館〉および〈学芸員〉の〈目指すべき方向性〉は経営論的にどうあるべきか。
12	博物館の使命書・中長期計画と評価	博物館経営の指針となる〈使命書〉および〈中長期計画〉とは何か。またそれらをどのように〈作成〉するのか。〈評価〉の目的と役割は何か。
13	博物館行財政制度	博物館の〈行財政制度〉はどのようにつくられてきたか。
14	博物館と利用者	博物館における〈利用者〉の〈快適さ〉とは何か。利用者への〈サービス〉はどうあるべきか。〈マーケティング〉〈利用者調査〉の〈目的と内容〉はどのようなものか。
15	博物館倫理・危機管理	博物館の〈法的倫理〉と職員の〈行動規範〉とはどのようなことか。博物館の〈危機管理〉の〈内容と方策〉はどうあるべきか。

シラバス執筆：萩原 哉

レポート課題

第1分冊 萩原 哉

第2分冊 萩原 哉

第1分冊 〈略題〉生涯学習の拠点としての博物館 1章～3章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館が生涯学習の拠点としての役割を果たしていくうえで、現在どのような問題や課題があり、それらをどのように克服していくべきかについて、経営論の視点から多角的に考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 博物館経営論の視点から課題の考察に取り組むこと。
- ② 生涯学習において博物館が果たすべき役割をよく理解したうえで、課題の考察に取り組むこと。
- ③ テキスト全般と学修指導書とともに、関連する複数の文献をよく読み、博物館をとりまく現在の状況についての総合的な理解につとめること。
- ④ 特定の館園、館種に限定せず、博物館全般を対象にして考察すること。
- ⑤ テキストや参考文献等からの引用、抜粋を多用せず、自身の視点と言葉で論述すること。

〈評価の観点〉

- ① 博物館経営論の視点から考察できているか。
- ② 博物館全般のレベルで考察できているか。
- ③ 博物館と生涯学習の関わりを理解したうえで考察がおこなわれているか。
- ④ 現在の博物館がかかえる問題や課題についての総合的な理解につとめ、それらを克服するための方策についての多角的な考察を試みているか。
- ⑤ 以上の観点と留意事項を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

第2分冊 〈略題〉博物館のサービス 4章～6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館には、基本的で変わらないサービスの提供と、博物館資源を利用した新しい内容のサービスの提供・発信が求められている。この2つのサービスの内容を明らかにするとともに、今後どのような展開が必要かについて、具体的な事例をあげながら考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 経営論の視点から課題の考察に取り組むこと。
- ② テキスト全般と学修指導書とともに、関連する複数の文献をよく読み、博物館をとりまく現在の状況についての総合的な理解につとめること。
- ③ 博物館のサービスとは何かを正しく理解したうえで、課題の考察に取り組むこと。
- ④ テキストや参考文献等からの引用、抜粋を多用せず、自身の視点と言葉で論述すること。

〈評価の観点〉

- ① 博物館経営論の視点から考察できているか。
- ② 博物館におけるサービスの意義を理解しているか。
- ③ サービスに関する具体的な内容を示しながら考察できているか。
- ④ 以上の観点と留意事項を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

参考文献

.....
テキストおよび学修指導書に記載の文献のうち、各課題にかんする自身の考察に必要な複数の文献を参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

.....
博物館経営に関わる諸要素や具体的な活動のほか、博物館経営における問題や課題なども含めて、テキストの内容を十分に理解することが重要である。

教員からの
メッセージ

.....
博物館学では、実際に博物館を訪れ、現場を自分の目で確認し、考察することが重要である。さまざまな種類の博物館を、目的意識と問題意識をもって数多く見学することが望まれる。

科目概要	情報、メディアに関する意義、歴史、特性、現状等を学びながら、それらがどのように博物館の諸活動に関わっているかを学ぶ。同時に、博物館活動の基盤とも言える資料や情報、そしてメディア活用について理解し、博物館活動の特性や現状を学ぶ。
主な到達目標	博物館における情報及びメディア活用の意義と特性を学び、博物館活動の諸場面（情報収集、保存管理、公開、活用他）で、どのように、いかに生かしていくかを理解する。また、それらの基本的理解を元に、博物館に特化した諸状況について考察することができる。
テキスト学修の留意点	テキストに書かれた内容（図表を含む）をよく理解し、説明できるようにする。学修指導書ではテキストに記載のない内容も扱っているため、あわせてよく理解しておくこと。上記を読むだけでは実感としてつかみにくい箇所については、身近な視聴覚機器や情報機器、ネットワークを積極的に用い、博物館を訪れ様々な事例に触れてみる。さらに博物館やメディアに関する話題、法律に関しては、日頃から留意し現状に照らして理解に努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	博物館における情報・メディアの意義	博物館活動と情報・メディアの意義、その重要性について理解する。
2	視聴覚教育メディアの理論、歴史	博物館の教育的特性から、視聴覚教育の理論、歴史について理解する。
3	メディアの種類、機能、特性	博物館、あるいは教育現場で用いられるメディア、視聴覚機器の種類、機能及び特性について理解する。
4	メディアの教育、諸相	メディアに関する諸相（概説、歴史、メディア教育等）について理解する。
5	博物館における情報 1	博物館活動の基礎となる資料収集・調査・研究における情報の重要性について理解する。
6	博物館における情報 2	博物館における情報の種別及び管理、扱いについて理解する。
7	博物館における情報 3	デジタルアーカイブの現状と課題について理解する。
8	博物館における情報 4	博物館の情報の公開・活用のひとつである展示の方法について、その種別、特性等について理解する。
9	博物館における情報 5	博物館の情報の公開・活用のひとつである教育・普及・広報について、その活用方法等を理解する。
10	博物館における情報 6	博物館の情報の公開・活用方法のひとつであるネットワークの利用について、現状を理解する。
11	映像理論とメディアの利用	効果的な情報伝達方法、展示方法のひとつである映像について、その理論、認知のしくみについて理解する。
12	情報コミュニケーション技術の活用	コンピューターや情報通信ネットワークに関する構造、歴史、活用について理解する。
13	知的財産権、個人情報の概要	博物館活動において注意を要する知的財産権（特に著作権）、個人情報について、その概要（分類、対象等）を理解する。
14	知的財産権、個人情報の取扱い	博物館活動において注意を要する知的財産権（特に著作権）、個人情報について、その取扱いの留意点について理解する。
15	博物館における情報・メディアの展望	情報・メディア環境における今後の博物館について、博物館の特性から考える。

シラバス執筆：西井 美佐子

レポート課題

第1分冊 西井 美佐子

第2分冊 西井 美佐子

第1分冊 〈略題〉視聴覚機器、メディア経験からの考察
I～III章 (p. 1～90)、学修指導書 1～4

横書き指定

Word 添付

〈課題〉

視聴覚機器や視聴覚教育、メディアの諸相等、テキストで述べられている内容から一つテーマを選び、自身の経験を挙げ、その経験をテキスト内容に照らしつつ理論的に考察、記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・いつ、どこで、どのような内容の機器やメディアに関する経験で、どのような気付きがあったか等、自身の経験をできるだけ具体的に記述し、それを理論、分析につなげること。
- ・具体例は博物館における経験に限らず（その場合も事例報告にならないこと）、教育機関や日常生活に関するものでも可。ただし、何らかの形で博物館と関連づけ、博物館活動に生かすことを意識して記述すること。
- ・各分冊範囲の内容は互いに関連しているため、分冊範囲に留まらず全体をふまえて取り組むことが望ましい。

〈評価の観点〉

- ・丁寧な記述と十分な分析、考察がなされ、一貫した論旨の中で、論理的に構成されているか。
- ・書かれている自身の考えは、根拠となるテキストや指導書の引用や情報を示して述べられているか。
- ・自身の経験と博物館活動とが関連づけられているか。
- ・テキストや指導書の学修をもとに、博物館情報、メディアについて正しく理解し、それを一般論ではなく自らの問題としてとらえているか、またそれらが自身の言葉で書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献（ウェブサイト含む）は末尾に必ず記載し、文中に引用があれば引用箇所と出典を必ず明記すること。
- ・テキスト履修シラバス・レポートガイドを熟読し、提出するレポートに不備がないように努めること。

第2分冊 〈略題〉博物館における視聴覚メディア利用または情報通信利用の事例調査
IV～VI章 (p. 91～179)、学修指導書 5～9

横書き指定

Word添付

〈課題〉

博物館（展覧会）を実際に訪れ、博物館における視聴覚メディア利用、または情報通信利用について調査し、考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・訪れた博物館（展覧会）の基本情報（名称、概要、調査日等）を記載のこと。
- ・調査した視聴覚メディア、情報通信について具体的に触れながら（内容、機器、個体数、構成、設置環境、利用対象、利用状況、工夫点等、できるだけ複数の観点で調査すること）、館（展覧会）全体の中で位置づけ、効果や考えられる改善点等についても考察すること。
- ・情報通信利用の調査の場合も、ウェブ上の調査のみでなく、必ず館を訪れた上で考察すること。
- ・各分冊範囲の内容は互いに関連しているため、分冊範囲に留まらず全体をふまえて取り組むことが望ましい。

〈評価の観点〉

- ・丁寧な調査と、理論的かつ十分な考察がなされているか。
- ・多角的な視点で調査し、分析、考察されているか。
- ・書かれている自身の考えは、根拠となるテキストや指導書の引用や情報を示して述べられているか。
- ・テキストや指導書の学修をもとに、博物館情報、メディアについて正しく理解し、それを自らの問題としてとらえられているか。
- ・単に情報や項目を羅列したもの、文献をまとめただけのもの、自身の言葉や考察によらないものは不可。調査をふまえ、そこから何を導き出し、何を学んだかが、論旨の中できちんと書かれていること。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献（ウェブサイト含む）は末尾に必ず記載し、文中に引用があれば引用箇所と出典を必ず明記すること。
- ・テキスト履修シラバス・レポートガイドを熟読し、提出するレポートに不備がないように努めること。

参考文献

加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司編『新版 博物館学講座 11 博物館情報論』雄山閣出版、1999年、ISBN 9784639016311

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、テキスト（I～VI、資料1,2,3）と学修指導書の双方を理解し、知識として吸収していることを前提とする。そのため用語や博物館における事例等について一定程度詳細な説明ができ、博物館活動の現状の中で考察できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

本科目は同時代的な要素を多く含むため、テキストや指導書のみの学修ではなく、普段から新しい技術やメディアの動向に目を向けておくこと。また、随時信頼に足るウェブ上の情報を活用し、できるだけ多くの博物館へ足を運び自ら体験してみること。そして、テキストや指導書、関連する図書で学んだ内容を、現場の博物館活動に照らして再度確認してみること。さらに、論拠を示しつつ「よりよくするにはどうすればよいか」という問題意識や想像力を働かせながら学修を進めてほしい。

科目概要	資料を良い状態で永く保存することは、博物館の重要な本来的役割である。学芸員には保存と展示という矛盾する活動を、調和的に行う判断力と技術が必要である。資料劣化要因と対策、環境整備等に関する知識を習得し、科学的視点に立ち対応することが求められる。主に歴史・考古・美術等の資料保存について学ぶが、無形の資料、自然科学系の博物館・生き物を扱う博物館における資料保存、地域の文化資源・自然環境の保護等についても考える。
主な到達目標	博物館資料を保存する意義・目的について説明できる。 博物館資料の各劣化要因とそれらの結果、及び各要因間の相関関係について説明できる。 博物館資料を良好な状態で保存するための諸条件を科学的に説明できる。 資料保存に関連する各種用語の意味を説明できる。 災害の防止と対策について説明できる。 文化財とは何か説明できる。
テキスト学修の留意点	テキスト各章の内容（保存上の要因）は、相互に関連しているので、各章ごとの理解だけでなく、相互の関連性についても総合的にとらえて理解することが求められる。そのためには、まずはテキスト及び学修指導書全体を通読し、内容を把握した上で、学修に取り組むことが望ましい。レポート作成にあたっては、「レポート課題」に記載された留意事項と評価の観点を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	資料保存の意義・目的	・博物館資料・文化財を保存する意義・目的とは何か。 ・資料保存のための科学とはどのようなものか。 ・資料の材質・劣化要因にどのようなものがあるか。 ・博物館資料保存のための倫理とはどのようなものか。(テキスト1章・学修指導書「補足(行動規範)」)
2	文化財保護制度とその歴史	・文化財保護法はどのような法律か。 ・文化財保護法上の文化財にはどのような種類があるか。 ・重要文化財を公開する際に注意すべき事項は何か。(テキスト1章、付録)
3	温湿度	・温度が資料に与える影響とは何か。 ・温度と湿度との関係とはどのようなものか。 ・湿度が直接的に資料に与える影響とは何か。また、他の資料劣化要因とどのような関係にあるか。 ・温湿度の計測法・計測機器・調整方法にどのようなものがあるか。(テキスト2章)
4	光	・光とは何か。 ・光に関する各種用語・単位の内容を説明できるか。 ・資料展示の際に光が与える影響にはどのようなものがあるか。 ・資料の種類に応じ光による劣化に対して考慮すべき点にどのようなものがあるか。(テキスト3章)
5	照明	・展示照明の方法と器具にはどのようなものがあるか。 ・照明に関し留意すべき点は何か。(テキスト3章)
6	室内空気汚染	・空気汚染物質にはどのようなものがあるか。 ・空気汚染物質が資料に与える影響とはどのようなものか。 ・汚染物質のモニタリング法及び対策、低減・除去法にはどのようなものがあるか。(テキスト4章)
7	生物的被害と文化財 I PM	・生物被害の原因はどのような生物で、どのような被害が発生するか。 ・生物被害が発生する環境的条件とはどのようなものか。 ・生物被害への対処法にはどのような方法・材料を用いるか。 ・文化財 I PMとはどのような考え方で、それに基づく対処法はどのようなものか。(テキスト5章)
8	屋外環境	・屋外で資料を保存展示する上で留意すべき点は何か。温湿度、光、空気(大気)汚染物質、生物被害等、既修の内容・課題と関連して理解すること。(テキスト6章)
9	災害	・資料に影響が少ない消火方法・設備とはどのようなものか。 ・防火対策・防火設備はどのようなものがあるか。 ・博物館施設の地震対策とはどのようなものか。 ・資料の展示・保管時の地震対策とはどのようなものか。 ・水害・津波対策とはどのようなものか。(テキスト7章)
10	資料輸送・振動衝撃	・振動・衝撃が資料に与える影響とはどのようなものか。 ・資料輸送時に考慮すべき点はどのようなものか。(テキスト7章)
11	盗難・人的破壊	・施設設備面での防犯対策にはどのようなものがあるか。 ・運営・運用面での防犯対策にはどのようなものがあるか。 ・人的破壊とは何か。(テキスト7章)
12	伝統的保存方法・保存修復	・電力や化学物質を用いない伝統的な保存の考え方や方法はどのようなものか、どのような施設や道具を用いるのか。 ・資料保存の上で修理・修復の位置づけとはどのようなものか。 ・資料修復の原則とはどのようなことか。(テキスト2章コラム・学修指導書「補足」)
13	展示施設・収蔵施設の設計	・博物館の施設設備(立地、建築、展示ケース、採光・照明、防災・防犯等)の計画・設計ではどのような点に注意すべきか。(テキスト各章・学修指導書「補足」)
14	理工系資料・生体資料の保存	・理工学的資料の保存で留意すべき点は何か。 ・生きた資料を扱う動物園・水族館・植物園における保存とはどのようなものか。(学修指導書「補足」)
15	エコミュージアム等	・地域資源・無形の資料の保存とは何か。 ・エコミュージアムとは何か。(学修指導書「補足」)

レポート課題

第1分冊 星 恵理子

第2分冊 星 恵理子

第1分冊 〈略題〉博物館資料（文化財）の構成素材とその物性
第1章～第4章、付録

横書き

Word添付

〈課題〉

実際に博物館、美術館等で展示されている資料（文化財）を選び、その主たる構成素材の物性を理解し、展示に適した条件をまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 選択した文化財の展示場所、作品名等を明記すること。
2. 主たる構成素材の特性をよく理解し、劣化要因を挙げ、項目別にその対処法を簡潔に述べる。
3. 文献等で調べた内容をもとに、自身の言葉、考えを述べること。
4. 参考文献を文末に載せること。

〈評価の観点〉

1. レポートの論点がはっきりしているか
2. 構成素材の物性をよく理解できているか
3. 構成素材の劣化要因とその対処法を理解しているか
4. 自らの言葉、考えで考察し、博物館資料（文化財）保存に対して熱意と責務を感じているか

〈その他の注意点〉

一般論で終わらず、文献からの知識をふまえ、自身の体験から自らの考えや言葉で記述されているかを重視する。

第2分冊 〈略題〉博物館資料（文化財）の保存への積極的活動
第5章～第7章、指導書の「補足」

横書き

Word添付

〈課題〉

博物館資料を活用・公開することによって、保存に繋がった実例を挙げ、博物館資料（文化財）の活用と保存について考察せよ（有形文化財に限らない）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 資料（文化財）を公開することで、保存に繋がった具体的な例を挙げよ
2. 公開によるリスクの改善策を述べよ
3. 多くのリスクを負ってまで公開することの、保存におけるメリットを述べよ
4. 民間レベルでの保存活動例がより好ましい
5. 学芸員としての対処法（努力や工夫）を考察する

〈評価の観点〉

1. 活用と保存 そのリスクとメリットを理解しているか
2. リスクの改善策を挙げ、より効果的な保存環境に向かうことができるか
3. 知識をふまえ、自らの言葉や考えで述べているか

〈その他の注意点〉

一般論で終わらず、文献からの知識をふまえて、自らの言葉、考えで記述していることを重視する。

参考文献

石崎武志編『博物館資料保存論（第2版）』講談社 2024 ISBN9784065374795
 日高真吾『[改訂新版] 博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2025 9784595325069
 神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』武蔵野美術大学出版局 2014 9784864630146
 三浦定俊他『文化財保存環境学（第3版）』朝倉書店 2025 9784254103076
 鈴木規夫『日本の美術 451 漆工品の修理』至文堂 2003 4784334513
 根立研介『日本の美術 452 彫刻の保存と修理』至文堂 2004 4784334521
 河上繁樹『日本の美術 453 染織品の修理』至文堂 2004 478433453X
 池田寿『日本の美術 480 書籍・典籍、古文書の修理』至文堂 2006 4784334807
 杉山真紀子『博物館の害虫防除ハンドブック』雄山閣出版 2001 4639016980
 馬淵久夫他編『文化財科学の事典（新装版）』朝倉書店 2018 9784254102833

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、資料保存のために必要な概念・方法・用語等について、テキストの内容を理解しているかを問うような問題を出題する。学修指導書「補足」もテキストの一部とすることから、その内容についても試験で問うことがあり得るので、テキストとあわせて理解しておくようにしてもらいたい。

教員からの
メッセージ

資料の保存は、従来の傷んだら修理修復をするという考え方・手法から、本科目で学ぶ極力傷まないように環境を整える方向に大きく転換した。その手法・材料は、地球環境に直結するというものもある。テキストは「文化財」特に有形文化財の保存について論じるが、「博物館資料」の保存とした場合、その対象はテキストで説かれた範囲からさらに広がりを持つ。本科目で学修する内容は理科的な基礎知識を要するが、テキストの内容をよく理解し、それを基本にしつつ、さらに広く・注意深い視点から、博物館資料の保存について考えてもらいたい。学芸員が資料保存に関し知らなかった、知りながら対策を怠ったということでは、資料の価値を減じ、資料そのものを失うことになりかねない。現在そして次代の学芸員として、そのことを肝に銘じてもらいたい。

TT0443 博物館資料論

2単位

テキスト名

佐々木利和・湯山賢一
『改訂新版博物館資料論』
放送大学教育振興会、2012年

科目概要	博物館資料は、博物館活動の根幹を成すものであり、極めて多様である。博物館資料の概念や意義、収集、整理、研究、還元という一連の流れについて、理論や方法に関する知識・技術とともに理解を深める。また、次代へ受け継がれるために必要な博物館活動についても考察する。
主な到達目標	博物館資料の定義をふまえ、博物館「資料」の収集、保存、展示公開、調査研究等の過程を理解し、博物館活動を様々な角度から捉えられること、多様な資料の特性を把握し、博物館の中核となる「資料（モノ）」と、それに内包された「情報」を引き出して活用するための基礎的能力を養うことを目的とする。
テキスト学修の留意点	まず、テキストを通読してください。その後、言葉の意味を確認しながら各課題をまとめてください。テキスト、学修テーマと各課題、学習指導書に出てくるさまざまな用語やキーワードについて、正確に説明できるようにしてください。 レポート課題は、テキストや参考文献をそのまま写すのではなく、そこから学んだことを、具体例を交えて自身の言葉で正確に伝えるようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	博物館資料の意義	・博物館資料論を学ぶ意義 ・博物館資料の概念
2	博物館資料の定義	・博物館資料の多様性 ・一次資料と二次資料について、言葉の意味するところとそれぞれの特徴
3	博物館資料の収集	・博物館の運営方針と資料収集の理念 ・さまざまな収集方法（購入、寄贈、寄託）と収集プロセス ・博物館における「コレクション」とは
4	博物館資料の整理	・資料の情報収集、資料調査書、資料受入書の作成 ・資料活用のための整理
5	博物館資料の分類・保存	・資料の分類、登録、整理、保管
6	博物館資料の調査・研究	・歴史系博物館、科学系博物館における資料の調査研究 ・専門領域における調査研究
7	博物館資料の公開	・展示の形態と分類、展示室内の設備 ・資料を活かす展示とは
8	研究成果の還元	・研究活動の範囲と実態、地域社会への還元 ・博物館の教育的活用
9	博物館資料の取扱い	・博物館資料の取り扱い ・展示室内、収蔵庫の保管環境
10	資料の修理と修復	・修復についての考え方 ・複製の制作と活用
11	資料劣化の要因と対策	・展示と劣化、温湿度と光、生物被害 ・展示と保存、展示室と収蔵庫の環境
12	画像・デジタル資料の活用	・写真・画像資料の利用 ・資料の電子化、データベース、デジタルアーカイブ
13	博物館資料と展示ケース	・展示ケースの種類、構造と機能
14	博物館資料と災害	・災害と博物館資料 ・資料の危機管理
15	博物館資料の継承	・博物館資料が次代に受け継がれていくために ・資料保存のための手段とは

シラバス執筆：栗林 あかね

レポート課題

第1分冊 栗林 あかね

第2分冊 栗林 あかね

第1分冊 〈略題〉博物館資料の情報と展示 全範囲

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学芸員は、資料に内包された情報をどのように展示に活かしているか、具体例を示しながら述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、執筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設の学芸員に対して質問が可能であった場合は、資料の収集・整理・展示までの過程等について得た情報を、執筆者自身の言葉で整理して、学びを踏まえてまとめること。単なる展示資料の紹介やインタビュー記事にならないこと。第1分冊と第2分冊でレポート対象とする展覧会（展示）は、異なるものであること。

〈評価の観点〉

資料に内包された情報をどのように展示に活かしているか、博物館資料の意義を踏まえたうえで、具体的な事例に即して述べる。具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、執筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設のホームページや解説、関連記事、職員・学芸員等から得た情報をそのまま記すのではなく、執筆者自身の言葉で整理してまとめること。

〈その他の注意点〉

自分の意見と文献からの引用を明確に分けて記すこと。博物館で質問する際には、次の事に十分気をつけること。・施設の運営を妨げる可能性のある全ての行為を行わない。・利用者の質問や問合わせを受け付けている窓口を設けている場合には積極的に活用し、窓口がない場合は、施設及び学芸員、働く方々の仕事を妨げない範囲で問合わせる。どちらの場合も、施設や職員、学芸員等そこで働く方々の様子をよく見て考えて行動する。状況に応じて予め連絡をした上で来館することが望ましい。・質問は明白に、簡潔に尋ねる。・学芸員を目指す者として真摯な姿勢を保つ。

第2分冊 〈略題〉写真・画像資料の活用 全範囲

横書き指定

Word添付

〈課題〉

写真・画像資料の活用について、具体例を示しながら述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

近年では、古写真や個人の写真コレクションなどが博物館資料として各地の博物館で収集・活用されるようになってきた。また最近のコンピューターの飛躍的な発展は、写真・画像資料の活用をますます後押ししている。写真の利用が記憶の再生だけでなく、過去と現在をつなぐ役割を持っていることに留意して、学びを踏まえてまとめること。単なる展示資料の紹介やインタビュー記事にならないこと。見学した博物館名、展覧会名、期間等を正確に明記すること。第1分冊と第2分冊でレポート対象とする展覧会（展示）は、異なるものであること。

〈評価の観点〉

具体的な事例に即して述べる。具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設のホームページや解説、関連記事、職員・学芸員等から得た情報をそのまま記すのではなく、執筆者自身の言葉で整理してまとめること。

〈その他の注意点〉

自分の意見と文献からの引用を明確に分けて記すこと。博物館で質問する際には、次の事に十分気をつけること。・施設の運営を妨げる可能性のある全ての行為を行わない。・利用者の質問や問合わせを受け付けている窓口を設けている場合には積極的に活用し、窓口がない場合は、施設及び学芸員、働く方々の仕事を妨げない範囲で問合わせる。どちらの場合も、施設や職員、学芸員等そこで働く方々の様子をよく見て考えて行動する。状況に応じて予め連絡をした上で来館することが望ましい。・質問は明白に、簡潔に尋ねる。・学芸員を目指す者として真摯な姿勢を保つ。

参考文献

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012年。
八尋克郎・布谷知夫・里口保文編著『博物館でまなぶ 利用と保存の資料論』東海大学出版会、2011年。
そのほか、テキスト及び学習指導書内の参考文献を参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

博物館資料に関係する用語や内容について、一題を記述式で問う。博物館資料について基礎的・基本的な理解ができていて、そしてテキストや学習指導書、参考文献にある用語や定義、事例についても正確に理解して明確な説明ができることが前提であり、それらを踏まえて設問に対して多面的・俯瞰的に述べられているかを評価の対象とする。

教員からの
メッセージ

普段から積極的に博物館（ミュージアム）へ訪れ、さまざまな資料を自身の目で確認しながら理解を深めていくことは、博物館資料を理解するにあたり望ましい姿勢です。自身の専門分野外、興味の対象ではないような展覧会であっても、まずは訪問し、展示資料を観覧することを勧めます。レポート作成にあたっては可能な限り、ただし相手方の迷惑にならないよう最大限配慮して、博物館学芸員へのインタビューに挑戦してみてください（質問行為は必須ではありません）。

科目概要	博物館展示論は、大学で学芸員資格を取得するために必要な文部科学省令の定める博物館に関する科目の一つである。この科目では、博物館の専門職としての学芸員に求められる展示の理論的側面と技術的側面に関する基礎的要素を学修する。学修の目的は、展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等による理論及び方法に関する知識・技術を理解することにより、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことにある。
主な到達目標	・博物館の展示の意義と役割について説明できる。 ・展示のプロセスと基本要素について説明できる。 ・展示の構成要素、製作物、展示方法について説明できる。 ・展示と他の活動の関係、解説計画、展示装置、映像・情報機器の活用、教育活動などについて説明できる。 ・博物館の種類による展示の違いを説明できる。 ・以上の事項を理解したうえで、学芸員に求められる役割を説明できる。
テキスト学修の留意点	・主な到達目標に関わる諸要素について、展示の機能についての理解をふまえて説明できるようにする。 ・レポート課題は、実際に博物館を訪問し、見学・調査をすることとおして、博物館の展示についての理解を深めることを求めている。事前にテキストと学修指導書をよく読み、それぞれの内容を正しく理解したうえで課題に取り組んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	博物館展示の意義	博物館における〈展示の役割・目的〉とは何か。〈博物館の目的〉にはどのようなものがあるか。〈展示という言葉の起源と意味〉は何か。(1章)
2	展示の歴史	展示は現在までにどのように変わってきたのか。〈近代博物館の誕生〉と〈展示の変遷〉、そして〈現代の博物館の展示の特徴〉はどのようなものか。(1章)
3	展示のプロセス	〈展示の発想から完成〉までのプロセスはどのようにになっているのか。展示にはどのような〈人〉が関わっているのか。〈展示と建築〉の関係はどのようにになっているのか。(2章)
4	展示の基本要素	〈展示と保存〉の関係はどのようなものか。〈展示と資金〉はどのようにになっているか。〈展示に関わる法令〉にはどのような種類があるか。またその内容は何か。(2章)
5	展示の事例	展示は〈どのようにつくられている〉か。〈博物館の種類〉でどのように違うのか。(3章)
6	展示の構成要素	〈展示空間〉をどのようにつくるのか。〈展示資料〉〈演示具〉にはどのようなものがあり、展示でどう使うのか。展示のための〈ケース〉〈照明〉〈音響〉の役割と効果はどのようなものなのか。(4章)
7	展示製作物	展示における〈特殊造形〉〈複合演出〉〈景観模型〉〈展示映像〉の役割と効果はどのようなものなのか。また、展示でどのように使うか。(4章)
8	展示方法	〈実験装置〉〈実演〉〈トーク〉の役割と効果はどのようなものか。〈インタラクティブ展示〉と〈ハンズオン展示〉とは何か。(4章)
9	解説計画・サインシステム	〈展示の解説〉にはどのようなものがあるか。またどのようにあるべきか。〈サインシステム〉をどのようにつくるか。〈ワークシート〉とは何か。(4章)
10	展示と情報・メディア	博物館における〈情報とメディア〉の意義とは何か。またどのように活用していけばよいか。〈データベースの役割と効果〉とはどのようなものなのか。(5章)
11	展示と情報機器の活用	〈情報公開〉のために〈情報機器〉をどう使うか。〈情報機器〉を使って何ができるのか。(5章)
12	博物館教育・ユニバーサルデザイン	展示と〈博物館教育〉の関わりはどのようにになっているのか。〈ユニバーサルデザイン〉とは何か。(6章)
13	展示評価と効果	展示をどのように〈評価〉するのか。展示からどのような〈効果〉がもたらされるのか。(6章)
14	館種による展示形態の特色(1)	〈エコミュージアム〉〈野外博物館〉〈動物園〉〈水族館〉〈植物園〉の展示形態の特色はどう違うのか。(7章)
15	館種による展示形態の特色(2)	〈美術館〉〈企業ミュージアム〉〈研究機関のミュージアム〉〈大学博物館〉展示形態の特色はどう違うのか。(7章)

シラバス執筆：萩原 哉

レポート課題

第1分冊 萩原 哉 曽我 俊裕
第2分冊 萩原 哉

第1分冊 〈略題〉展示における配慮・工夫 1章～4章6節

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館の展示が、来館者や展示物に対するどのような配慮・工夫を組み合わせることでつくり上げられているのかについて、実際に博物館の展示を見学・調査して、分析・評価を試みたうえで、展示で重要な要素とは何か、理想的な展示とはどのようなものかを考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 論述の対象をひとつの博物館に限定し、その館の展示にみられる配慮・工夫について、詳細な分析・評価を試みる。
- ② 配慮・工夫があまり認められない展示については、具体的な改善策を検討すること。
- ③ ①・②の成果をふまえ、展示で重要な要素や理想的な展示のあり方についての多角的な考察を試みる。
- ④ レポートの冒頭に、見学・調査の対象とした博物館と展覧会の名称（常設展の場合は常設展と記す）、調査日を明記すること。
- ⑤ 展示解説にかかわる配慮・工夫は（第2分冊）と重複するため除外する。

〈評価の観点〉

- ① 博物館展示論の視点から考察できているか。
- ② 展示を構成する各種の要素を正しく理解しているか。
- ③ 来館者と展示物に対する配慮や工夫を具体的に把握できているか。
- ④ 見学・調査の成果にもとづき、的確に分析・評価できているか。
- ⑤ 展示で重要な要素や理想的な展示についての考察が十分に試みられているか。
- ⑥ 以上の点を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

この課題は、実際に博物館を訪問し、自分で見学・調査をした成果にもとづいて考察することを求めている。電話・メール等による博物館への問い合わせは控えること。
なお、見学・調査の際は、館の規則を順守し、業務や管理などに支障をきたす言動は慎むこと。また、博物館内で使用する筆記具は鉛筆のみとすること（シャープペンシルも不可）。

第2分冊 〈略題〉展示解説 4章7節～7章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館を訪問し、その館の展示でおこなわれている解説の構成や方法などについて見学・調査して、分析・評価を試みたうえで、展示における解説の役割やその理想的なあり方について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①（第1分冊）とは異なるひとつの博物館を対象とし、その館の展示でおこなわれている解説の構成や方法などについて、詳細な分析・評価を試みる。
- ② 解説の構成・方法などに問題がある場合は、具体的な改善策を検討すること。
- ③ ①・②の成果をふまえ、展示における解説の役割やその理想的なあり方についての考察を試みる。
- ④ レポートの冒頭に、見学・調査の対象とした博物館と展覧会の名称（常設展の場合は常設展と記す）、調査日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ① 展示における解説の役割を理解しているか。
- ② 見学・調査の成果にもとづき、的確に分析・評価できているか。
- ③ 解説の役割やその理想的なあり方を博物館全般のレベルで考察できているか。
- ④ 以上の点を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

この課題は、実際に博物館を訪問し、自分で見学・調査をした成果にもとづいて考察することを求めている。電話・メール等による博物館への問い合わせは控えること。
なお、見学・調査の際は、館の規則を順守し、業務や管理などに支障をきたす言動は慎むこと。また、博物館内で使用する筆記具は鉛筆のみとすること（シャープペンシルも不可）。

参考文献

テキストおよび学修指導書に記載の文献のうち、各課題にかんする自身の考察に必要な複数の文献を参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、展示の基本的な機能や展示を構成するさまざまな要素の説明を求める。テキストをよく読み込んだうえで、要点を整理しておくこと。
- ・博物館の展示活動は、その他の博物館活動と有機的に結びついているため、博物館学のテキスト全般を理解しておくことも必要である。

教員からの
メッセージ

博物館学では、実際に博物館を訪れ、現場を自分の目で確認し、考察することが重要である。さまざまな種類の博物館を、目的意識と問題意識をもって数多く見学することが望ましい。

科目概要	ヒトの一生は胎児期から老年期まで身体的・心理的・社会的側面において変化の連続である。こうした量的・質的变化を研究対象とする発達心理学は、増大や獲得、喪失といった人生のあらゆる側面を対象とした研究が行われている。 本科目では身体的・心理的变化の著しい乳児期から学童期を中心とした特徴を学び、保育者・教師として特に必要とされる人間発達の基礎について学修することを目的とする。
主な到達目標	乳児期から学童期までの認知的発達および心理社会的発達について、ピアジェ理論・エリクソン理論を中心に発達段階や発達課題を含む発達心理学の概念を用いて説明することができる 愛着理論について理解し、子どもを取り巻く環境について考察できる 原因帰属の視点から児童の自己効力感について理解し、援助方法を提案することができる 発達心理学の研究手法について理解し、測定方法や定義づけの意図を理解できる
テキスト学修の留意点	各課題をまとめ、子どもの発達に関する概念について適切な用語を用いて説明できるようにすること。 発達の概念を学ぶにあたり、定義を暗記することだけに捉われず、それが子どものどのような姿を示すのか具体的にイメージしながら理解するよう試みること。 発達は連続するものであることを念頭に置き、段階の移行にも目を向けるよう心がけること。

	学修テーマ	課 題
1	ヒトと動物発達の可能性	人間と動物との違いを出生時の状態をもとにまとめよ／生得的制約と育ちについて、アフォードンスの理論を中心にまとめよ／発達段階と発達課題とは何か／遺伝と環境それぞれが発達に与える影響をまとめた4つの理論を示せ
2	人間の発達と環境	インプリンティングとは何か／初期経験が意味するものとは何か、刺激のはく奪実験をもとに考察せよ／発達の可塑性についてまとめよ／発達の最近接領域とは何か／ブロンフェン布伦ナーによる発達の生態学的環境にもとづき、現代の子どもの環境についてまとめよ
3	乳児期の認知発達	乳児の視覚的世界とはどのようなものか。これを理解するための3つの方法に触れて説明しなさい／乳児の概念形成の方法にはどのようなものがあるか／原始反射と随意運動について、違いを説明しなさい／ハンドリガードとプリヘンションによる乳児の環境へのかかわりの質的变化とは何か
4	乳児期における相互交渉	乳児の微笑の発達の变化を説明し、微笑が持つ機能について説明せよ／前言語的コミュニケーションの種類と発達過程についてまとめよ／愛着とは何か、その発達段階についても説明せよ／愛着の質を測る方法を説明せよ／愛着が子どもの発達にもたらす意味とは何か
5	幼児期における認知発達と社会性	幼児の認知および思考の特徴についてまとめよ／幼児期のことばの発達についてまとめよ／幼児のことばと思考との関係について整理せよ／幼児の仲間関係の発達についてまとめよ／幼児にとって“あそび”がもつ意味とは何か考察せよ
6	幼児期における自己と仲間との関わり	子どもの感情の分化と共感の発達についてまとめよ／養育者が子どもに与える影響にはどのようなものがあるか。親・保育者それぞれについてまとめよ／幼児の自己の発達とはどのようなものか／自己制御と自己主張とは何か／子どもの性別意識が形成される要因について述べよ
7	就学前後期における認知発達	直観的思考とは何か／メタ認知・メタ記憶とは何か／概念の獲得について整理し、まとめよ／物語る能力の発達について推論や理解の視点からまとめよ／精密コードと制限コードの違いについて説明せよ／母親の養育態度と知的発達の関連について説明せよ
8	就学前後期に見られる社会性の発達	家庭と学校の機能の違いについて説明せよ／社会的スキルが社会的地位に与える影響について説明せよ／向社会的行動とは何か／道徳性の発達プロセスについてまとめよ／自己認知の過程について親・他者評価・社会的比較の3点から整理せよ
9	学童期における認知発達	学童期に生ずる変化を身体的、社会的、認知的側面からまとめよ／ピアジェの認知発達理論に基づき、具体的操作期と形式的操作期について説明せよ／宣言的知識の発達についてまとめよ／言語の獲得が思考に与える影響とはなにか／認知発達を促進する相互交渉とは何か
10	学童期における自己意識の変容	学童期における対人関係の変化についてまとめよ／子どもにとって集団がもつ力とはどのようなものがあるか／教師との関係の変化について説明せよ／自己意識の発達について説明せよ／自尊心とはなにか／自主性と自己効力感について説明せよ／学童期の態度の形成とはどのようになされるか
11	ピアジェによる認知発達段階説の理解	ピアジェのシエマ・同化・調節それぞれの機能と関係性について説明せよ／ピアジェの認知発達理論をまとめ、各期における特徴を示せ。特に前操作期と具体的操作期については、実験の結果なども用いて説明せよ
12	エリクソンによる心理社会的発達段階理論の理解	エリクソンによる心理社会的発達理論をまとめ、その特徴を示せ／発達における「段階」の概念とはなにか、その特徴を述べなさい
13	発達と教育	教育を支える要因とは何か／プログラム学習とは何か／知的好奇心とは何か／モデリングとは何か／個人差と3つの教授プランについてまとめよ
14	発達心理学の研究法	仮説検証とは何か／心理学の研究法についてまとめよ／横断的研究と縦断的研究の違いを説明せよ／研究を行うときに注意すべき点について2点説明せよ／心理学の限界とは何か
15	総括	乳児期から学童期を通じての発達をふりかえり、保育者・教師として留意すべき点とは何か考察せよ

レポート課題

第1分冊 岡田 啓子

第2分冊 岡田 啓子

第1分冊 〈略題〉幼児期の遊びの変化 1～4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「ごっこ遊び」が「役割取得能力」の獲得にどのような影響を与えるのか、説明しなさい。また、ピアジェ理論における「自己中心性」と「脱中心化」が子どもの遊びの質にどのような変化を与えるのかについても説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

ごっこ遊びについては、スクリプトの獲得やパーテンの分類・スミランスキーの分類それぞれをもとに説明をしましょう。また、自己中心性を脱し、メタ認知的視点を獲得することが子どもの遊びの質的变化にもたらす影響について考えてみましょう。

〈評価の観点〉

- ・テキストからの抜き出しではなく、自分なりに課題を理解してまとめられ、十分な考察がなされていること。
- ・用語について正しい定義づけが示されていること。
- ・誤字・脱字がなく、文意が明確であること。
- ・課題に対する解答となっていること。
- ・インターネットなども含む他者の知見や意見を盗用した場合、評価はDとします。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の書籍を引用した時には、著者名（出版年）「本のタイトル」出版社名をレポート末に示してください。

第2分冊 〈略題〉「勤勉性」と自己効力感 3-6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学童期の発達課題である「勤勉性 対 劣等感」について説明しなさい。また、「自己効力感」についても説明し、これを獲得するために必要な教員の声掛けについて、考察をしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・エリクソン理論における「勤勉性 対 劣等感」はテキストだけではなく、参考資料や教育心理学のテキストなどをもとに学習を深めたうえで説明できるとより良い（理解が深まるため）。
- ・自尊心については、自己の行動の評価の観点から、教員ができることとは何かを考えることができると望ましいと考えます。

〈評価の観点〉

- ・テキストからの抜き出しではなく、自分なりに課題を理解してまとめられており、十分な考察がなされていること。
- ・用語について正しい定義づけがなされていること。
- ・誤字・脱字がなく、文意が明確であること。
- ・課題に対する解答となっていること。
- ・インターネットなども含めた他者の知見や意見を盗用した場合、評価はDとします。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の書籍を引用した時には、著者名（出版年）「本のタイトル」出版社名をレポート末に示してください。

参考文献

内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房、2008
 繁多進編『子育て支援に活かす心理学 実践のための基礎知識』新曜社、2009
 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013
 松井 豊・櫻井 茂男・佐藤 有耕『スタンダード発達心理学（ライブラリスタンダード心理学）』サイエンス社、2013
 桜井茂男・濱口佳和・向井隆代『新版 子どものこころ 児童心理学入門』有斐閣アルマ、2014
 坂上 裕子・山口 智子・林 創・中間 玲子『問いからはじめる発達心理学』有斐閣ストゥディア、2014

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験においては、子どもの発達に関する概念・用語の説明と、発達に関するテーマを概観したり、事例をもとに見方や考え方を問う問題を出題する。
- ・発達に関する概念や用語などの定義をただ写すのではなく、他の類似する概念とのつながりや比較、発達における変化などについてもまとまりをもって説明できることが望ましい。特に、発達理論については各期についての理解はもちろん、それぞれを比較して説明ができるように準備しておくこと。
- ・科目試験の問題はレポート課題の部分から1問は出題するが、それ以外にテキスト全体を範囲とする問題も出題する。学修テーマや課題についても十分な準備をしたうえで臨むこと。
- ・科目試験時、箇条書きでの解答や定義だけを羅列しただけの解答では十分な評価をすることができません。必ず文章で解答すること。

教員からの
メッセージ

- ・用語をバラバラに理解するのではなく、発達の連続性や各事象の関連を意識しながら発達を捉えるようにしましょう。
- ・子どものふるまいの理由についてテキストで学んだことを生かして理解するよう心がけましょう。
- ・自分も子どもであったことを思い出し、“子どもの世界”を考えながら、学習を深めてください。

科目概要	比較文化という言葉の意味は「古今東西のあらゆる文化圏を背景として、文化形態を比較考量し、人間文化の相互理解を目指す一連の試図」（『ブリタニカ国際大百科事典』）を指す。つまり「日本の文化とアメリカの文化」などと単純な比較のみをするのではなく、そこから人間文化の相互理解について考える営みである。本科目では16世紀のカトリック司祭ルイス・フロイスが日本文化をヨーロッパ文化と対比させながら叙述した「日欧文化比較」（『ヨーロッパ文化と日本文化』）を通じ、文化の枠組みや自他をまなざす行為について理解を深めていく。
主な到達目標	(1) 学修指導書で取り上げた「文化」をめぐる各種概念やについて理解する。 (2) 理解した概念を利用し、テキストを自力で考察する力を修得する。
テキスト学修の留意点	(1) テキスト・学修指導書のなかの不明瞭な語彙などは、各自辞書で調べて理解すること。その際はなるべく書籍を使用し、インターネットで閲覧できる辞書・論文等を利用する場合は出版社や発行元の確認ができるもののみとする（ウィキペディア等は不可）。 (2) ノートは課題の回答のみに限らず、テキスト・学修指導書のなかで自身の興味を惹いた事柄を書き留め、後から見直せるようにする。 (3) 学修した概念を身近なことがらに照合し、理解を深めるように努める。

	学修テーマ	課 題
1	比較文化論とは	学修指導書を読み、比較文化についての概要を理解する。
2	「日欧文化比較」を通読する (1)	テキストであるフロイスの「日欧文化比較」第1章～第7章を通読し、興味を惹いた項目をまとめる。
3	「日欧文化比較」を通読する (2)	テキストであるフロイスの「日欧文化比較」第8章～第14章を通読し、興味を惹いた項目をまとめる。
4	「日欧文化比較」のコンテキスト	「日欧文化比較」の持つコンテキストを学修指導書とテキストの解題などから理解する。
5	大文字のC文化・小文字のc文化	「文化」という言葉の持つ基本的な意味や「文化」をめぐる様々な概念について確認する。また、「日欧文化比較」の記述のなかの「小文字のc文化」について考察する。
6	自然と文化	自然環境と文化の関係を、身の回りの文化や「日欧文化比較」の記述から検討する。
7	宗教と文化	「日欧文化比較」の仏教にまつわる記述から、仏教と文化の関係を考察する。
8	構築される文化 (1)	文化が社会的に構築されたものであることを、「日欧文化比較」の記述をジェンダーの視角から検討することで確認する。
9	構築される文化 (2)	「日欧文化比較」の記述から16世紀日本の家族観を、現代日本人の考える「伝統的」な家族観と比較検討を行う。
10	他者に対するまなざし (1)	自民族中心主義について確認し、「日欧文化比較」の記述が自民族中心主義的であることを理解する。
11	他者に対するまなざし (2)	学修指導書より、サイドの「オリエンタリズム」を概観する。また「日欧文化比較」にも「オリエンタリズム」的な表現が存在することを確認する。
12	他者に対するまなざし (3)	学修指導書より、文化相対主義や多元文化主義の意義や問題点を確認し、多文化共生に向けた他者理解について検討する。
13	「日欧文化比較」から現代社会へ (1)	「日欧文化比較」におけるフロイスの日本人像を考察し、学修指導書にてその後の「日本人論」の動向を概観する。
14	「日欧文化比較」から現代社会へ (2)	学修指導書にて「日欧文化比較」が成立した大航海時代におけるヨーロッパ人による他者表象について確認する。またこれらの「言説」と現代社会の諸問題との繋がりについて概観する。
15	「日欧文化比較」を読む	学修した概念を念頭におきつつ再度「日欧文化比較」を通読し、他者をまなざすという行為について考察する。

シラバス執筆：高野 友理香

レポート課題

第1分冊 高野 友理香

第2分冊 高野 友理香

第1分冊 〈略題〉小文字のc文化とは 学修テーマ1～7

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「日欧文化比較」の日本の大文字のC文化についての記述から、小文字のc文化の存在がうかがえる項目を一つあげ、どのような小文字のc文化が読み取れるのか、その理由を説明してください。(約1000字)
- (2) 宗教が小文字のc文化にどのような影響を与えているのか、自らの経験を交え、自身の考えを述べてください。(約1400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を正しく理解したうえで、レポートを作成すること。
- (2) 引用を行う場合は引用元を明記した上で、必ず自身の意見が量的にも質的にも文の中心となるようにすること。長文の引用や引用文の羅列は認められない。
- (3) 参考文献はなるべく書籍を使用し、論文等を利用する場合は学術雑誌に掲載されているか論文集に収録されているもののみとする(要件を満たしていればインターネット上で閲覧したものの引用も可とする)。

〈評価の観点〉

- (1) レポートの提出形式や引用方法が適切であるか
- (2) 論旨が明確かつ、課題に沿ったものであるか
- (3) テキストや学修指導書の内容を理解し、レポートの内容に反映できているか
- (4) 自身の考察に基づいた論述がなされているか、またそれについての確な論拠があげられているか

〈その他の注意点〉

参考文献の欄に、参照した文献の著者・編集者名『書名』出版社名、刊行年、参照ページ、論文の場合は著者名「論文名」『雑誌名』号数、学会名、刊行年、参照ページを必ず記載すること。記載がない場合は盗用、剽窃と見なし、評価の対象外とします。

第2分冊 〈略題〉「日欧文化比較」を読んで—他文化をまなぐす行為とは 学修テーマ8～15

横書き

Word添付

〈課題〉

「日欧文化比較」を読んで、学修指導書の学修テーマ7～15の内容を関連させつつ、他文化をまなぐす行為の意義について自身の考えを述べてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を正しく理解したうえで、レポートを作成すること。
- (2) 引用を行う場合は引用元を明記した上で、必ず自身の意見が量的にも質的にも文の中心となるようにすること。長文の引用や引用文の羅列は認められない。
- (3) 参考文献はなるべく書籍を使用し、論文等を利用する場合は学術雑誌に掲載されているか論文集に収録されているもののみとする(要件を満たしていればインターネット上で閲覧したものの引用も可とする)。

〈評価の観点〉

- (1) レポートの提出形式や引用方法が適切であるか
- (2) 論旨が明確かつ、課題に沿ったものであるか
- (3) テキストや学修指導書の内容を理解し、レポートの内容に反映できているか
- (4) 自身の考察に基づいた論述がなされているか、またそれについての確な論拠があげられているか

〈その他の注意点〉

参考文献の欄に、参照した文献の著者・編集者名『書名』出版社名、刊行年、参照ページ、論文の場合は著者名「論文名」『雑誌名』号数、学会名、刊行年、参照ページを必ず記載すること。記載がない場合は盗用、剽窃と見なし、評価の対象外とします。

参考文献

エドワード・W. サイド著、今沢紀子訳、板垣雄三・杉田英明監修『オリエンタリズム』上下、平凡社、1993年
五野井隆史『ルイス・フロイス』吉川弘文館、2020年
中村隆之『野蛮の言説：差別と排除の精神史』春陽堂、2020年
松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店、2011年
上記に加え、学修指導書にて紹介する文献も適宜参照すること。

科目試験等への
アドバイス

学修指導書に書いてある問いに真摯に向き合い、思考をできるだけ丁寧に言語化してノートにまとめるようにしましょう。また概念や用語などを単に調べるのみではなく、今までの経験や身の回りの事象と照らし合わせ、具体的に説明できるようにしておくと、自身の考えがある程度まとまった状態で試験を受けることができます。

教員からの
メッセージ

文化は民族や社会集団に依拠してただ存在するのではなく、自然環境や言語や他文化の影響を受けながら社会的に政治的に歴史的に……多くの事象が重層的・複合的に関係しあいながら構築されたものです。文化を学ぶことを通じて自分の見えている「世界」を意識的に問い直していきましょう。

TT0446 比較文化論 (旧刊テキスト)

2単位
旧刊

テキスト名

『比較文化論の試み』山本七平著
『「空気」の研究』山本七平著

科目概要	ひとくちに「比較文化」といっても、「文化」とは目に見える事象から、思想や哲学といったものまで内包するものは広く、深い。文化とは何かという問いに答え、さらに「比較する」ことを考える。そして私たちにとって「異文化」とは何かということを理解する。私たちは他者と何を共有し、他者の何を拒絶するのか？『比較文化論の試み』（山本七平著）と『「空気」の研究』を読み進め、日本人の思考パターンに支えられている文化について考察する。さらに、具体的な異文化比較を行い自己の所属する文化への理解を深める。
主な到達目標	グローバル化が進んだ現在、異文化理解は必要不可欠な要因であるが、日常生活の中で、実践していくことは容易なことではない。本授業を通し、まず他者の存在を意識し、「異文化とは何か？」ということを理解する。そして社会生活を行う上で異文化を受容し、お互いがお互いの文化を尊重し合うことの重要性を考察する。授業が進むにつれ、受講者は「異文化」についての偏見をぬぐい、各々が属している文化を理解し、さらに自文化に対し、客観的な分析力の習得を目指す。
テキスト学修の留意点	指導書、およびテキストを丁寧に読み、不明瞭な語彙や事柄は各自調べ、自分のことばでノートなどにまとめておく。できれば参考文献も読み、自らの考察に役立てること。テキストにある具体的事例から、理論的な分析を理解する。それらを各自で身近なことに照らし合わせ、自らのことばで捉え直すことが出来るように努める。

	学修テーマ	課 題
1	比較文化とは何か？	指導書を読み進め、「文化」と「比較する」ことについて考えまとめる。また自らが属している文化について考察する。
2	カルチャーショックについて。	何にカルチャーショックを覚えたか？カルチャーショックを前にした時、私はどうするか？カルチャーショックは私に何かもたらすか？を考えまとめる。また、「自文化中心主義」「文化相対主義」について調べまとめ、「カルチュラル・アウェアネス」を理解する。
3	固定観念、偏見、リエントリーショックについて	指導書を参考にしながらテーマに挙げられた語句を調べ、まとめる。
4	低文化、c文化、高文化、C文化また、トータルカルチャーとサブカルチャーについて	テーマについて調べまとめた上で、個々の文化のダイアグラムを作成する。さらに自らのアイデンティティの形成と構成要素について検討する。
5	日本人の特徴について	同調圧力について調べ、その特徴をまとめ、問題点を列挙、また回避するための方法を考察する。さらに、異文化に対峙した際にどのように対処すべきかについて考える。
6	『比較文化論の試み』①	『比較文化論の試み』山本七平著を読み、文化の普遍性、臨在感、感情移入、民族、歴史感覚、輪廻転生について、山本七平の考察を理解し、まとめる。
7	比較文化論の試み②	『比較文化論の試み』山本七平著を読み、神概念について、言語が表すものの違いについて理解する。
8	日本人の時間と空間について	指導書、および参考書をよみ、日本人の時間や空間の把握について考察する。
9	『「空気」の研究』①	「空気」の研究』1章～3章を読み、要約する。
10	『「空気」の研究』②	4章～8章までを読み、要約する。
11	『「空気」の研究』③	「水＝通常性」の研究の章の1章～5章までを読み、要約する
12	『「空気」の研究』④	「水＝通常性」の研究の章の6章～10章までを読み、要約する
13	『「空気」の研究』⑤	日本的根本主義 1章～6章を読み、要約する。
14	グローバリゼーションと文化の関係について	グローバリゼーションが急速に進む時代における文化への影響を考察する。
15	まとめと振り返り	これまでの学習を振り返り、時代と共に失われる文化、守られる文化について考える。また、異文化を理解する意味とその方法をまとめ、実際の生活の中でどのように役立てていくのかについて考察する。

シラバス執筆：目黒 ゆりえ

レポート課題

第1分冊 高野 友理香

第2分冊 高野 友理香

第1分冊 〈略題〉私たちを取り巻く文化とその比較とは？－『比較文化論の試み』
山本七平著を読んで 学修テーマ1～7

横書き

Word添付

〈課題〉

山本七平著『比較文化論の試み』をまとめながら、1～8回の授業で学んだ事項を盛り込みつつ、比較文化とは何か？について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

習得したキーワードを理解した上で使用すること。
抽象的な事柄にとどまらず、自分の経験などを盛り込み、説得力のあるものにすること。
参考文献に対する自分の意見とその論拠を明確にすること。
著者の意見をそのまま書きうつすのではなく、共感したこと、疑問に思ったこと、反論などを明示しその論拠を自分の言葉で明らかにすること。

〈評価の観点〉

- ・レポート提出形式が守られているか
- ・引用文献・参考文献の表記が正しくなされているか
- ・テキストで学習した内容が反映されているか
- ・論旨が明確であるか
- ・自分の意見が具体的に説得力を持ってまとめられているか

〈その他の注意点〉

文章を書く際に、音読に耐える文であるかを考慮すること

第2分冊 〈略題〉空気を読むとは何か？－『「空気」の研究』山本七平著を読んで
学修テーマ 8～15

横書き

Word添付

〈課題〉

山本七平著『「空気」の研究』を読み、日本人のコミュニケーションについて考え、グローバル社会に向けて私たちは何を考えなければならないか、また何を大切にしていけばいいか、自分の考えを述べてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

習得したキーワードを理解した上で使用すること。
抽象的な事柄にとどまらず、自分の経験などを盛り込み、説得力のあるものにすること。
参考文献に対する自分の意見とその論拠を明確にすること。
著者の意見をそのまま書きうつすのではなく、共感したこと、疑問に思ったこと、反論などを明示しその論拠を自分の言葉で明らかにすること。

〈評価の観点〉

- ・レポート提出形式が守られているか
- ・引用文献・参考文献の表記が正しくなされているか
- ・テキストで学習した内容が反映されているか
- ・論旨が明確であるか
- ・自分の意見が具体的に説得力を持ってまとめられているか

〈その他の注意点〉

文章を書く際に、音読に耐える文であるかを考えること

参考文献

『ヨーロッパ文化と日本文化』ルイス・フロイス著
『人間を幸福にしない日本というシステム』ウォルフレン著
『日本文化における時間と空間』加藤周一著
『タテ社会の人間関係』中根千枝
『甘えの構造』土居健郎

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、学習指導書とテキストで学んだ基本となるキーワードについて出題します。

教員からの
メッセージ

勉強すればするほど世界は広がります。学問とは人間の雑多な行動のうちの上層部分を濾過蒸留濃縮したもの。学びが日々の生活を豊かにすることを実感してください。

科目概要	内容は一般物理学全般である。物理学とは自然科学の中でもっとも基礎的な学問であり、我々の身近な生活にその現象を多く観察することができる。一見偶然のようで突発的のようでもある現象の多くは、物理学でその規則性を明らかにできるとともに、引き続き起こる現象を予測することもできる。つまり、物理学によって自然の成り立ちを学ぶことができる。単に物理学としてとらえるのではなく、論理的・科学的思考展開の訓練でもある、と考えるといい。
主な到達目標	・ 科学の合理的な考え方や新しいものの開発・発想における物理学的な見方を修得し、現象を順序よく捉え、科学的な考え方を組み立てることができる。 ・ 市民として科学的話題に積極的に参加できる程度の基礎知識を身に付ける。 ・ 簡単な物理法則を数式を使って表現することができる。 ・ レポート課題演習では、身近な現象や工業製品の基礎的な原理について、的確な文章と数式を用い、正しい形式に則って説明することができる。
テキスト学修の留意点	・ 言葉と式は相補的であり、双方を使いこなして現象を説明できるようにする。 ・ レポート課題は力学と電磁気学の最も基本的内容であり、これらの正確な説明は学修途中の学修達成度の自己評価として重要である。 ・ レポート課題においてテキストの説明の丸写しでは理解したとは言えない。自分が理解した言葉と式を用いて正確に説明できるようにする。 ・ テキストのみで理解できないときは、参考文献やより易しい文献（高等学校教科書等）も利用する。

	学修テーマ	課 題
1	1 章：運動 pp.8-19	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 速さとは何か？ ・ 速さと速度についてベクトルで説明できるか？ ・ 位置と速さ／速度の関係とはどういうものか？
2	1 章：運動 pp.19-30	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 加速度とは何か？ ・ 重力加速度とは何か？ ・ 位置、速度、加速度の関係とはどういうものか？
3	2 章：力と運動 pp.34-43	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 運動の3法則とは何か？ ・ 運動量と力積とは何か？ ・ 重力、万有引力、垂直抗力とは何か？
4	2 章：力と運動 pp.43-54	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 力の合成や分解をベクトルで説明できるか？ ・ 運動方程式をたてることができるか？ ・ 摩擦力（静止と動）について違いを説明できるか？ ・ 力のモーメントとは何か？
5	3 章：仕事とエネルギー pp.58-69	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 物理学用語の仕事とは何か？ ・ 力学的エネルギーである運動エネルギーと位置エネルギーについて説明できるか？ ・ 力学的エネルギー保存の法則とは何か？
6	4 章：周期運動 pp.72-91	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ ラジアンを単位とする角度と三角関数で等速円運動の速度と加速度について説明できるか？ ・ フックの法則について説明できるか？ ・ 単振動の周期とは何か？
7	5 章：連続体の力学 pp.94-112	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 種々の圧力（静水圧、大気圧、水圧、パスカルの原理）等について説明できるか？ ・ 物体の変形や固体以外の流体について学習する。
8	6 章：波動 pp.114-126	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 縦波と横波の違いは何か？ ・ 波の式を $\sin$ を使って示せるか？ ・ 波の干渉、反射、屈折、回折等の現象について説明できるか？ ・ ドップラー効果とは何か？

9	6 章：波動 pp.126-131 7 章：熱と温度 pp.136-147	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・光の速さ、反射、屈折、全反射、分散を説明できるか？ ・熱はエネルギーで温度は指標であることを理解せよ。 ・熱容量と比熱を理解せよ。 ・理想気体の状態方程式を理解せよ。
10	7 章：熱と温度 pp.147-155	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・熱力学第 1 および第 2 法則を理解せよ。 ・気体の仕事、圧力、体積、エネルギーの関係について説明できるか？
11	8 章：電荷と電流 pp.158-171	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・電荷とは何か？ ・電流とは何か？ ・電荷間にはたらく力とはどのようなものか？ ・電場、電位とは何か？
12	8 章：電荷と電流 pp.171-185	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・キャパシターとはどういうものか？ ・キャパシターの接続を説明できるか？ ・オームの法則とは何か？ ・電気抵抗の直列接続と並列接続を説明できるか？ ・電力とは何か？
13	9 章：電磁気学 pp.190-206	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・電流の作る磁場について理解せよ。 ・磁気力について理解せよ。 ・電磁誘導について理解せよ。
14	9 章：電磁気学 pp.206-216 10 章：原子物理学 pp.220-227	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・直流と交流の違いについて説明できるか？ ・原子の構造について説明せよ。 ・光の二重性とは何か？ ・物質波とは何か？
15	10 章：原子物理学 pp.227-237 11 章：原子核 pp.240-250	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・半導体の応用について理解せよ。 ・原子核の構造について理解せよ。 ・原子核の崩壊と放射線について理解せよ。

シラバス執筆：水野 貴敏

第1分冊 〈略題〉運動の法則・力積 第1分冊：2章：力と運動

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①「ニュートンの運動の法則」第1～3法則のそれぞれについて、詳細に記述せよ。
- ②運動量と力積の関係をj用いて、キャッチャーがピッチャーの投げたボールを受け止めるときや、トランポリンでの着地時、頭部に衝撃を受けたときのヘルメット着用時、高所から飛び降りるときの膝を曲げての着地時、など、衝撃を弱め怪我をしない理由を記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

式は改行し一行表示。物理量は該当する文字をまず定義してから使う。必ず図を用いて説明。

- ①第1・2法則は物体に作用する力、もしくはその合力がゼロであるか否かであることに留意し、力と加速度との関係について記述。文章説明と式・式変形・物理量の単位を必ず記述。ベクトルとスカラーを正確に区別して用いる。
- ②加速度の基本的考え方を発展させ、運動方程式へ移行し、力積の概念へ到達。ボールの捕球・トランポリン・ヘルメットなど、体が受ける衝撃を緩和する時間の長短に注意し、衝撃の始めと終わりの速度変化に留意。式・式変形・図を用いて説明。

〈評価の観点〉

- ・上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と、以下の項目が守られない場合は再提出となる。
 - a. 科学的に正確な説明を行っているか否か。
 - b. 文章のみのレポートではなく、重要な式、図などを用いているか否か。
 - c. 教科書や参考書の丸写しは不可である。自製ノート等に記載した学習の成果をまとめるなど、自分の言葉で記述しなければならない。

〈その他の注意点〉

合格が得られない事例では、式や図を用いていない、式の丸写しでしかも間違っている、式の変形があいまいで正確ではない、などが多く見受けられます。要は表式とその変形、および図を用いた内容の説明をしっかりとする必要があります。

第2分冊 〈略題〉電荷・電流・電気抵抗 第2分冊：8章：電荷と電流

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①「電荷」に関して、その内容を詳細に記述せよ。
- ②「電流」に関して、電荷の動きとの関連からその定義、単位等を、詳細に記述せよ。
- ③電気抵抗を用いた回路におけるオームの法則について、詳細に記述せよ。
- ④電気抵抗の直列接続および並列接続による「合成抵抗」を表す式について、なぜそうなるかを証明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

式は改行し一行表示。式の意味の理解。式中使用する物理量は必ず定義。必ず図を用いて説明。

- ①電荷の種類を明示して、電気素量という値に注意して記述。
- ②電流が“動き”であることに注意して、時間との関係で式を用いて記述。
- ③電気抵抗、電流計、電圧計、電源を用いた回路図は必須。各物理量を定義した後、観察事項と式で説明。④電気抵抗の直列接続および並列接続の回路図は必須。接続してある電源によって各電気抵抗にかかる電圧と、回路および各電気抵抗を流れる電流の関係から証明することが可能。

〈評価の観点〉

- ・上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と、以下の項目が守られない場合は再提出となる。
 - a. 科学的に正確な説明を行っているか否か。
 - b. 文章のみのレポートではなく、重要な式、図などを用いているか否か。
 - c. 教科書や参考書の丸写しは不可である。自製ノート等に記載した学習の成果をまとめるなど、自分の言葉で記述しなければならない。

〈その他の注意点〉

合格が得られない事例では、式や図を用いていない、式の丸写しでしかも間違っている、式の変形があいまいで正確ではない、などが多く見受けられます。要は表式とその変形、および図を用いた内容の説明をしっかりとする必要があります。

参考文献

- ・近角聰信、三浦 登 共編／理解しやすい 物理 [物理基礎収録版] / 文英堂 / 2013 年 / 2486 円 / 978-4-578-24218-5 (高等学校)
- ・曾江久美 他 / Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理 / 実教出版 / 2009 年 / 2420 円 / 978-4-407-31642-1 (大学初級)
- ・廣岡秀明 / 大学新入生のための物理入門 第 2 版 / 共立出版 / 2012 年 / 2310 円 / 978-4-320-03493-8 (大学初級)
- ・澤田 肇 / 基礎固め 物理 第 2 版 / 化学同人 / 2016 年 / 2200 円 / 978-4-759-81824-6 (大学初級)
- ・原 康夫 / 物理学基礎 第 5 版 / 学術図書出版社 / 2016 年 / 2640 円 / 978-4-7806-0525-9 (大学中級)

科目試験等への
アドバイス

- ・基本的な問題が出題される。しかしながら式の暗記や表層的な理解では解答できない。
- ・テキスト各章の少なくとも演習問題 A はこなしたい。解答はテキスト巻末に記載されている。その際、答えだけ求めるのではなく、最終結果までの導出をプロセスを説明する文章とそれを支える図と式を用いて記述する。
- ・高等学校初歩レベルの数学、例えば三角関数やベクトルの概念、簡単な微分等を要求される。
- ・全体として学習すべき範囲は多い。しかしながら物理学は積上げ型の学問であり、1 を知らずして 10 を語ることはできない。したがって地道な学習と理解が重要で必須である。

教員からの
メッセージ

- ・テキストには高等学校で物理学を学んでいなくても対処できると書かれています。しかしながら決して易しすぎるわけではなく、本気で学習する気持ちが必要であると思います。難しいと感じたときは高等学校レベルの文献に当たることをすすめます。またテキストの「まえがき」と「0 章：はじめに」を必ず読んでから学習を始めてください。
- ・各回の学習テーマと課題では、定性的理解ではなく、式をともなった定量的理解、表現ができるようにしてください。テキスト各章の少なくとも演習問題 A はこなしてください。基本的で重要な事項はテキスト内でも太字など区別されるので参考にしてください。

科目概要	学芸員ないし教育者として必要な、「文化」というものの捉え方、「文化」の発展についての知識や考え方を習得することができる。本科目では、日本の「かみ」の発展史についてのテキストを用いて、「文化史」という学問について理解することをめざす。日本文化の基底をなす日本の「かみ」ないし神道についての理解を深めることで、日本に限定されない「文化」や「文化史」についての基本的考え方を学ぶ。
主な到達目標	・「文化史」という学問の方法について、自分なりに定義を説明できる。 ・日本の「かみ」や「まつり」について、基本的な特色を簡潔に説明できる。 ・日本を代表する神社や、そこにまつられている具体的「かみ」など、学習にかかわる諸問題について、基本概念を使って説明できる。
テキスト学修の留意点	・下記の各章ごとの課題をまとめ、説明できるようにする（課題以外にも、キーワード、重要概念はあるので、自分で見つけ整理する）。そのためにも、各章の内容を読み流しにせず、自分の言葉で整理しなおしておく。 ・レポート課題は、テキストのまとめではなく、論じられることを求めている。 ・レポート作成についての細かい注意事項は、「学修指導書」と下記の「レポート課題」に記載している。

	学修テーマ	課 題
1	文化史としての日本の「かみ」史	学習指導書をよく読み、「文化史」の意味を理解する。 「文化史とは何か」を自分のノートに400～600字程度でまとめる。
2	日本の「かみ」とは	「日本の「かみ」とはなにか」ということについて、テキストを参考に論点を整理し、自分のノートに400～600字程度でまとめる。
3	「まつり」とは	・「まつり」とはどのような意味があるか、自分のノートに400～600字程度でまとめる。 ・「祝詞」意味を200字程度でまとめる。 ・「依代」の意味を200字程度でまとめる。
4	変容発展する「かみ」	・自然神信仰がどのように神話体系の中へと組み込まれていくかを理解する。 ・律令制度と出会って「かみ」の発展を400～600字程度でまとめる。 ・「苦しむかみ」とはということか、200字程度でまとめる。
5	八幡神の発展	・八幡神と仏教がどのようにかかわるのかをまとめる（400字）。 ・八幡神を武士がどのように関わるかをまとめる（400字）。 ・八幡神を「発展」という視点から整理してまとめる（400字）。
6	本地垂迹と日枝神	・本地垂迹とは何か、いつ成立したかをまとめる（400字）。 ・日吉社の「かみ」はどのように発展したかをまとめる（400字）。 ・仏教理論との出会いによる「かみ」の発展について整理する（400字）。
7	伊勢神宮の「かみ」	・社寺縁起とはどのようなものかをまとめる（200字）。 ・伊勢神宮にまつられているアマテラスオオミカミ・トヨウケノオオカミがどのような「かみ」かをそれぞれ400字程度でまとめる。
8	伊勢神宮の社寺縁起	・「社寺縁起」とは何かまとめる（200字）。 ・「皇」字論争とは何を問題とした論争か（200字）、「神道五部書」は何のために作られたどのようなテキストか（400字）でまとめる。
9	度会家行と『類聚神祇本源』	・度会家行の『類聚神祇本源』がどのようなテキストであるかをまとめる（200字）。 ・家行のいう「神祇の本源」とは何かを説明する（200字）。 ・家行の理論は「人の道」について何を示したかをまとめる（200字）。
10	『神皇正統記』とであった「かみ」	・古代における「神国」の意味をまとめる（200字）。 ・『神皇正統記』の「神国」とは何か400字でまとめる。 ・『神皇正統記』の「三種の神器」がどういう意味かをまとめる（200字）。
11	御霊信仰	・「御霊会」とは何かまとめる（200字）。 ・「御霊信仰」とは何であるかをまとめる（200字）。 ・人の「たま」を神としてまつるといことがどのような経緯で成立したかをまとめる（400～600字）。
12	吉田神道と「心」になった「かみ」	・吉田兼俱はどういう人物で何をしたかをまとめる（400字）。 ・「我即神」のまつりとはどのようなものかをまとめる（200字）。 ・「心になったかみ」とはどういうことかをまとめる（200字）。
13	「かみ」のこばの伝播	・「かみ」のこばは、どのように人々に伝播されていったかをまとめる（400字）。 ・三社託宣とはどのようなものかをまとめる（400字）。
14	遠隔地の神社への参拝	・遠隔地神社への参拝（「かみもうで」）が始まったのはなぜかをまとめる（400字）。 ・伊勢神宮への参拝（伊勢参り）発展の経緯をまとめる（400字）。
15	日本文化史としての「かみ」史	・2～14を通して読み、日本の「かみ」の発展ということについてまとめる（400字）。 ・今までの学習をふまえて、「文化の発展史」（文化史）について自分の考えをまとめる（400字）。

レポート課題

第1分冊 宮本 郷史

第2分冊 宮本 郷史

第1分冊 〈略題〉八幡神とは何か 第一章から第五章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

八幡神とはどのような神であるか、その特異性について考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①八幡神について、テキストの第四章をよく読んで理解する。
- ②テキストに沿ってまとめても課題に応えたことにならない。
- ③テキストの引き写しは剽窃であり、認められない。また、単にテキストの要約だけでも不十分となる。
- ④テキスト以外の参考文献にも当たる必要がある。
- ⑤レポートの基本的作成ルールに従うこと。特に注釈のないものはレポートとみなされない。
- ⑥注釈は Word の注釈機能を使う。それは上部の「参考資料（参照設定）」のタブにあり、そこの「脚注の挿入」である。
- ⑦全体の終りに必ず参考文献表をつけ、注釈との区別もつける。

〈評価の観点〉

本文字数（注釈など除く）や書式（横書き・注や参考文献をつけるなど）の条件を満たしておらず、課題の要求にこたえられていない場合は再提出評価になる。具体的には次のような点が評価基準になる。

- ①課題の要求を理解し、要求に応じた論点で論じられているかどうか
- ②論文の構成になっているかどうか（序論・本論・結論）
- ③参考文献やテキストの丸写しではなく、自分の言葉で表現し、まとめではなく論じられているかどうか
- ④注釈があり、テキスト以外の参考文献があるかどうか

〈その他の注意点〉

テキストを理解したら、自分なりの観点で論じるようなレポートになるよう、自分の関心を掘り下げて欲しい。上記に再三指摘している通り、テキストをなぞるような内容では、再提出となるので、自分なりの観点・視点から問を立て、論証するようなレポートにする。

第2分冊 〈略題〉北畠親房の「三種の神器」の位置付け

第六章から第十一章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

北畠親房における「三種の神器」の位置づけについて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①「三種の神器」について、テキストの第八章をよく読んで理解する。
- ②テキストに沿ってまとめても課題に応えたことにならない。
- ③テキストの引き写しは剽窃であり、認められない。また、単にテキストの要約だけでも不十分となる。
- ④テキスト以外の参考文献にも当たる必要がある。
- ⑤レポートの基本的作成ルールに従うこと。特に注釈のないものはレポートとみなされない。
- ⑥注釈は Word の注釈機能を使う。それは上部の「参考資料（参照設定）」のタブにあり、そこの「脚注の挿入」である。
- ⑦全体の終りに必ず参考文献表をつけ、注釈との区別もつける。

〈評価の観点〉

本文字数（注釈など除く）や書式（横書き・注や参考文献をつけるなど）の条件を満たしておらず、課題の要求にこたえられていない場合は再提出評価になる。具体的には次のような点が評価基準になる。

- ①課題の要求を理解し、要求に応じた論点で論じられているかどうか
- ②論文の構成になっているかどうか（序論・本論・結論）
- ③参考文献やテキストの丸写しではなく、自分の言葉で表現し、まとめではなく論じられているかどうか
- ④注釈があり、テキスト以外の参考文献があるかどうか

〈その他の注意点〉

テキストを理解したら、自分なりの観点で論じるようなレポートになるよう、自分の関心を掘り下げて欲しい。上記で再三指摘している通り、テキストをなぞるような内容では、再提出となるので、自分なりの観点・視点から問を立て、論証するようなレポートにする。

参考文献

学習は、まずテキスト自体の学習を先行して行い、さらに学習するのに有用な文献は、学習の手引き、およびテキスト末尾の文献目録に記載されているので参考にして理解を深め、レポートにも活用するようにしてください。

- ・飯沼賢司『八幡神とはなにか』角川書店、角川選書、2004年、ISBN-10: 4047033669
ISBN-13: 978-4047033665
- ・達日出典『八幡神と神仏習合』講談社現代新書、2007年、ISBN-10: 4062879042
ISBN-13: 978-4062879040
- ・鍛代敏雄『神国論の系譜』法蔵館、2006年、ISBN-10: 4831874701
ISBN-13: 978-4831874702
- ・佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書、2006年、ISBN-10: 4480062955
ISBN-13: 978-4480062956
- ・岡野友彦『北畠親房一大日本は神国なり』ミネルヴァ書房、2009年、ISBN-10: 4623055647
ISBN-13: 978-4623055647

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験は、「文化史」学修指導書とテキスト学習が十分に行われていることが大前提である。したがって、それらを1度流し読みしたという程度で受験しても、内容的にも、時間的にも合格基準はクリアできない。
- ・問題は「文化史」学修指導書とテキストを前提とした総合的な問題（論述形式）となる。したがって、それらの内容の復習はもちろん、そこから触発された自分なりの問題意識を明確にした上で試験に臨むことが重要となる。

教員からの
メッセージ

- ・「文化史」というのは、「学修指導書」にも説明したように、なかなか捉えにくい学問である。しかし、具体的な例を手掛かりに考えていくと、「文化史」理解の切り口がみえてくる。日本文化の核心にある「かみ」について理解することを通して、「文化史」への展望をつかんでほしい。
- ・本科目では、「文化史」特に「日本文化史」についての基礎的な知識と考え方を学ぶことができる。「日本史」「日本美術史」あるいは「民俗学」などに発展させてもよい。

TT0449 文化人類学

2単位

テキスト名

松村圭一郎、中川理、石井美保編
『文化人類学の思考法』世界思想社、
2019年

科目概要	本科目では、文化人類学の概要について『文化人類学の思考法』（世界思想社、2019年）の内容を通して学び、文化人類学がどのような学問分野なのかを理解できるようになることを目指す。
主な到達目標	文化人類学は、「～人類学」と呼ばれる分野のなかでも、「文化」をその中心的なテーマとしており、文化を通じて人間を理解することを目的としている。本科目では、人類学の基本的な研究視角を理解することで、履修者が「文化」に向き合う際の作法についても習得できるようになることを目指す。
テキスト学習の留意点	本科目のテキストである『文化人類学の思考法』を必ず購入すること。本書は14章に分かれているが、各章を読み終えた段階で内容を要約し、その要約をレポートに反映させる準備を進めておく。

	学修テーマ	課 題
1	世界を考える道具をつくる (pp.1-15)	文化人類学的な思考法とはどのようなものであるのかを考える。
2	自然と知識 (pp.16-28)	現代の文化人類学における「自然」の捉え方について理解を深める。
3	技術と環境 (pp.29-43)	科学技術が、人間の生活する世界をどのように作り出しているのかを理解する。
4	呪術と科学 (pp.44-56)	呪術と科学の違い、あるいは類似性について理解し、人間がこれらを用いてどのように世界を理解し働きかけているのかを理解する。
5	現実と異世界 (pp.57-71)	経験的世界の向こう側に存在する「かもしれない」という異世界と人間文化の関わりについて考える。
6	モノと芸術 (pp.72-84)	人間がモノを「美しい」と感じる際の基準や、その多様性について理解を深める。
7	贈り物と負債 (pp.85-97)	人間の社会において特に重要な「経済」の問題を贈与交換のあり方を通して学ぶ。
8	貨幣と信用 (pp.98-110)	人間の社会における貨幣とは何かという問題を石貨やビットコインなどの幅広い事例を通して考えていく。
9	国家とグローバリゼーション (pp.111-123)	国家とは何かという問題について「国家のない社会」やグローバリゼーションを通して考える。
10	戦争と平和 (pp.124-139)	人類社会において大きなテーマの一つである「戦い」と「平和」の問題を人類学的な観点から理解する。
11	子どもと大人 (pp.140-151)	子供とは何か、大人とは何かという問題を多様な文化の比較を通して理解し、特に働くことと関連づけて考えていく。
12	親族と名前 (pp.152-164)	家と家族、親族という領域をめぐる人類学的な観点を現代社会の諸問題と絡めて理解する。
13	ケアと共同性 (pp.165-178)	人びとが相互に助け合い、弱さを補う文化や社会のあり方を、人類学的な知見を通して考えていく。
14	市民社会と政治 (pp.179-191)	市民社会と呼ばれる現代社会の中で、多様な存在が共に生きることとは何かということを、様々な事例を通して学ぶ。
15	まとめ	本科目で指定したテキストの内容を総括し、自分が関心を持った章の内容を深く掘り下げ、レポートの内容に反映させる。

シラバス執筆：中里 亮平

レポート課題

第1分冊 中里 亮平

第2分冊 中里 亮平

第1分冊 〈略題〉文化人類学的な世界のとらえ方とは何か
『文化人類学の思考法』序論～第6章

横書き

Word添付

〈課題〉

『文化人類学の思考法』の序論から6章までを熟読し、特に関心を持ったテーマの要約を行った上で、文化人類学的な世界のとらえ方とは何かということについて論じる。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①本書には各章の内容について「もっと学びたい人のためのブックガイド」がある(pp.202-209)。ここで紹介されている本を参考にしながら、関心を持ったテーマについてレポートの作成を行う。
- ②参考文献をレポート本文のあとに明記する。

〈評価の観点〉

要約に対する評価を40%、関心を持ったテーマに対する自分なりに掘り下げた議論を60%の割合で評価する。

〈その他の注意点〉

- ①ネット上の情報、本の内容をそのまま写しただけの文章が認められるレポートは評価の対象外とする。
- ②箇条書きのレポートは評価の対象外とする。
- ③参考文献を明示していないレポートは再提出を求める。

第2分冊 〈略題〉現代社会における文化人類学の視点
『文化人類学の思考法』第7章～第13章

横書き

Word添付

〈課題〉

『文化人類学の思考法』の第7章から13章までを熟読し、特に関心を持ったテーマの要約を行った上で、現代社会における文化人類学の視点がどのようなものなのかを論じる。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①本書には各章の内容について「もっと学びたい人のためのブックガイド」がある(pp.202-209)。ここで紹介されている本を参考にしながら、関心を持ったテーマについての理解を深めレポートの作成を行う。
- ②参考文献をレポート本文のあとに明記する。

〈評価の観点〉

要約に対する評価を40%、関心を持ったテーマに対する自分なりに掘り下げた議論を60%の割合で評価する。

〈その他の注意点〉

- ①ネット上の情報、本の内容をそのまま写しただけの文章が認められるレポートは評価の対象外とする。
- ②箇条書きのレポートは評価の対象外とする。
- ③参考文献を明示していないレポートは再提出を求める。

参考文献

日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善株式会社、2009年
綾部恒雄、桑山敬己編『よくわかる文化人類学(第2版)』ミネルヴァ書房、2010年
奥野克巳、石倉敏明編『Lexicon 現代人類学』以文社、2018年

科目試験等への
アドバイス

科目試験は指定したテキストの内容から出題されるので、きちんとテキストの内容や気になった言葉に対する理解を深めておくこと。参考文献に挙げた『文化人類学事典』を活用して欲しい。

教員からの
メッセージ

文化人類学の観点を学ぶことは、今後、社会に出ていく上でもきっと役に立ちます。指定したテキストの帯にあるように、こんなに「使える」本は中々ありません。是非とも「文化人類学の思考法」に触れるエキサイティングな経験をしてみてください。

TT0450 保育内容指導法（環境）

2単位

テキスト名

『保育・幼児教育シリーズ
環境の指導法』
玉川大学出版部

科目概要	保育内容の指導法（環境）は保育内容 5 領域の一つであり「教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）」である。幼児の発達に必要な経験として、環境との関わりとその意義を具体的に学び、保育の中での子どもの育ちを支えるための環境の構成や指導法について学ぶ。
主な到達目標	・環境を通しての教育とはどのような意義があり、幼児にとっての環境が発達にどのような影響があるか理解する。 ・具体的な事例を通して、保育者として必要な環境の構成と指導計画の関係について理解する。 ・上記 2 つの目標を達成することで、保育者としての指導のあり方や援助の方向性について説明できる。
テキスト学修の留意点	・テキストは各章のテーマに応じた内容と、全体を通して幼児教育における重要な位置付けが相互に関連している。この点を常に意識しながら学修する。 ・レポート課題は、引用すべき点は明確に示し、自身の考察と説明とは明確に分けることが必要である。 ・教育課程や指導計画作成については、環境構成と大きく関連している。保育者の専門性として、計画に対する意識が重要であることを理解しながら具体的な事例を学ぶ。

	学修テーマ	課 題
1	保育の基本とは	・学校教育法における幼稚園の位置付を説明できる。適当な環境とはどのような意味を持つか。 ・保育の基本と環境の関係。
2	環境を通して行う教育とは	・なぜ環境を通しての教育が必要であるか。 ・教育環境を創造するとはどのようなことか。
3	環境の領域の位置付け	・幼児の発達と環境の関係とは。 ・人間の発達の原点と環境の関係。
4	環境の領域におけるねらい	・環境の領域におけるねらいとは何か。3 つのねらい各項目の目指すことは何か。 ・ねらいを実現するための配慮とは何か。
5	内容の展開についての実際	・環境の領域における内容の意味とは何か。 ・身の回りにある環境との関わりとはどのようなことか。
6	保育者の指導を考える	・領域環境における指導とは何か。子どもの心身の発達に即応するとは。 ・環境に対する保育者の意図とは何か。
7	指導の実際から学ぶ	・満足感や達成感を味わうことができる指導とは何か。 ・自ら生み出すための指導とは何か。
8	環境の領域における内容①	・自然環境を生かすとはどのようなことか。 ・社会環境を生かした実践とは何か。
9	環境の領域における内容②	・遊びと環境の関係とは何か。 ・物的環境と人的環境の関係とは何か。
10	カリキュラムと計画	・動物の飼育をカリキュラムの中に位置付けるための配慮とは何か。 ・動物飼育に必要なコンセプトとは何か。
11	計画と保育内容環境	・植物栽培の役割とは何か。植物の栽培とカリキュラムの関係とは何か。 ・子どもと数量との出会いはどうあるべきか。環境の領域とカリキュラムの関係を明確に示す。
12	環境をデザインする視点	・環境をデザインするとはどのようなことか。 ・環境の領域を規定する基準とは何か。
13	さまざまな連携	・幼小連携とは何か。小 1 プロブレムとは何か。連携の具体的な方法とは何か。 ・保育の質と環境の関係とは。
14	領域環境の現代的課題	・子ども・子育て支援法に関連した今後の課題とは何か。ドキュメンテーションと環境の関係とは。 ・保育における ICT 活用の課題とは何か。
15	課題を踏まえた総括（まとめ）	・環境の領域の示すねらいを総合的に実現するための課題とは何かを考察する。

シラバス執筆：仁藤 喜久子

レポート課題

第1分冊 仁藤 喜久子

第2分冊 仁藤 喜久子

第1分冊 〈略題〉環境の領域についての意義 テキスト1章～4章

横書き

Word添付

〈課題〉

教科書第1章から第4章を熟読し、環境の領域が幼児にとってなぜ大切であるか。その意義について具体的な幼児の育ちと事例を示して解説し、考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

環境の領域は、幼児の発達と深い関連がある。しかし、その姿は見た目としては捉えにくい部分がある。この領域のレポート作成には幼児の立場と内面の理解、事例を通して幼児の学びなどに目を向ける必要がある。以上のことをしっかりと理解し、幼児にとっての環境の意味を明確に示すことを意識してレポートの作成を実施して欲しい。

〈評価の観点〉

- ①教科書を引用する際は明確にすること。
- ②幼児にとっての環境がなぜ必要であるか、この視点がとても重要になる。
- ③具体的な事例と幼児の育ちの関係を明確にする。

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

第2分冊 〈略題〉環境を総合的にデザインすること テキスト5章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

教科書第5章から7章を熟読し、環境の領域を指導する際に必要な計画の重要性について解説し、環境のあり方や遊びの重要性について具体的に考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

教育課程・カリキュラムの意義や必要性を理解し、環境の領域だけに意識を向けるのではなく、総合的な指導としての意義を忘れてはならない。その際に必要な環境を「デザイン」と言う視点から見ることによって、環境構成との関連が重要となる。その結果として幼児の遊びが大切になるのでこの点に留意して欲しい。

〈評価の観点〉

- ①教科書を引用する際には明確にすること。
- ②総合的な指導の観点が意識されていること。
- ③環境と遊びの関係やその意義について丁寧に考察されていること。

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

参考文献

各章の末に引用文献や参考図書が示されている。学修を幅広く学び深めるために参考にしてほしい。
柴崎正行・若月芳浩編『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験については各章の末に記述してある課題がしっかりと回答できることが必要である。
- ・試験問題は教科書全体からの出題となるので、学修テーマと課題を整理した上でその意義や内容について説明できることが求められる。
- ・具体的な事例について解説する場合は、教科書に掲載されている内容にとどまらず、実際に幼児との関係の中で生まれた実践などに目を向ける必要がある。

教員からの
メッセージ

環境の領域を学ぶことは、教育基本法や学校教育法などに位置付けられている環境に対する理念と共通する部分が多くある。幼児教育全般を巨視的な視点から見ると、日々の生活や遊びを支えるための微視的な環境構成など、具体的な側面とを常に関連させながら学修することを望む。そのことが保育者の専門性につながると考えている。

科目概要	本科目は、幼稚園教育における、心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容を理解することを第一とし、教育を営むために必要な基本的な知識、考え方を修得するものである。「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ためのどのような実践がなされることが望まれるのか、その中での具体的な指導のあり方とはどのようなことか、さまざまな実践のなかに学ぶものとする。
主な到達目標	心身の健康に関する領域「健康」におけるねらいと内容を理解し、その内容を説明できる。・乳幼児期の体の育ち、運動能力の発達についての様相を説明できる。・0歳から5歳までの心身の健康に関する育ちに基づく、遊びを中心とした保育実践を理解する。・食育の実践とその指導のあり方を理解する。・就学前保育・教育実践の中での安全・衛生指導、安全管理のあり方を説明できる。・保護者への健康指導と連携について理解をする。
テキスト学修の留意点	テキストを読み進めることは大前提であるが、新聞記事、インターネットの記事などさまざまな資料を自分で集め、実際の子どもの姿、現状と合わせて学ぶと良い。

	学修テーマ	課 題
1	乳幼児期における「健康」について考える	・「ヒト（人）」にとっての「健康」とは何かを考える。・生涯発達を見通し乳幼児期の「健康」とはどのような状態であるのかを考える。
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」を学ぶ	幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいと内容とは何かを学ぶ。・保育所保育指針における「健康」のねらいと内容とは何かを学ぶ。・保育所保育指針における「養護」のねらいと内容とは何かを学ぶ。
3	乳幼児期の体の育ちを学ぶ	乳児期の体の育ちの特徴を学ぶ。・幼児期の体の育ちの特徴を学ぶ
4	乳幼児期の運動機能の発達を学ぶ	乳児期の運動機能の発達の特徴を学ぶ。・幼児期の運動機能の発達の特徴を学ぶ。
5	乳幼児期の運動機能の発達を促す生活と遊び（1）	0歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・1歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・2歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。
6	乳幼児期の運動機能の発達を促す生活と遊び（2）	3歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・4歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・5歳児の育ちにに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。
7	教育・保育実践の中の食育を学ぶ（1）	・乳幼児期の食育の重要性とはどのようなものかを学ぶ。・教育・保育の中でのさまざまな食育活動のあり方を学ぶ。
8	教育・保育実践の中の食育を学ぶ（2）	乳幼児期の食指導におけるアレルギー対策について学ぶ。
9	乳幼児期の生活習慣・健康教育を学ぶ	乳幼児期に習得することが望ましい生活習慣とはなにか、その自立への指導とはどのようなものかを学ぶ。
10	乳幼児期の安全教育を学ぶ	・乳幼児期の育ちにに応じた教育環境における安全管理のあり方を学ぶ。
11	乳幼児期の安全教育を学ぶ	幼児期の育ちにに応じた安全教育のあり方を学ぶ。
12	けがや病気の対応について学ぶ	・乳幼児期に起こりやすいけがとその対応を学ぶ。・乳幼児期にかかりやすい病気とその予防や対応を学ぶ。
13	子どもの怪我について考える	子どもの育ちを共有する健康指導のあり方を学ぶ。
14	乳幼児期の健康に関する領域の今日的課題を学ぶ（1）	子どもの生活環境の変化にともなう幼稚園・保育園での健康教育のあり方を考える。
15	乳幼児期の健康に関する領域の今日的課題を学ぶ（2）	病気の子どもの保育の実践を考える。・子どもに育ませたい食意識とは何かを考える。

シラバス執筆：宮崎 豊

レポート課題

第1分冊 宮崎 豊

第2分冊 宮崎 豊

第1分冊 〈略題〉子どもの体を育てる運動あそびの指導について
第1回～第6回

横書き

Word添付

〈課題〉

幼稚園等の就学前教育・保育施設で展開される運動あそびのうち、さまざまに体が動くことが楽しいと思えるような活動を取り上げ、なぜ幼児期にそのようは遊びが必要なのかを論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①幼児期の運動あそびを1つ取り上げ、その遊びを分析しながら論じること。
- ②幼児にとっての運動遊びは心身の発育・発達影響を与えることを考慮し、からだの発育・運動機能の発達のみならず、運動あそびを通して培われる心の育ちについても触れること。
- ③具体的な指導にあたっての安全管理、安全指導についても触れること。

〈評価の観点〉

- ①乳幼児期の発育・発達の特徴を説明できる。
- ②乳幼児期の発育・発達に必要な生活経験とはどのようなものかを概念的に捉え、説明できる。
- ③具体的な場面を事例として取り上げている。
- ④生活指導にあたって、幼児期の発育・発達の特徴や集団保育の活動の上での状況をとらえた安全管理、安全指導ができている。

〈その他の注意点〉

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前の保育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

第2分冊 〈略題〉子どもの生活習慣に関する指導の在り方
第7回～第15回

横書き

Word添付

〈課題〉

幼児期の以下に掲げる生活習慣の指導を一つ取り上げ、その内容と展開方法、教育的意義を論じなさい。
なお、展開にあたっては、集団指導ならではの活動（指導）内容と方法を考えて記述しなさい。

〈生活習慣の指導〉

- ・食指導 ・排泄の指導 ・衣服の着脱の指導
- ・清潔や衛生に関する指導 ・睡眠に関する指導

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①今日の子ども達にとって必要な生活習慣指導とはどのようなものかを明確にすること。
- ②具体的な指導場面の事例を記述しながら、教育的意義を分析し、書き出すこと。
- ③子どもの育ちと生活に即した内容であること。

〈評価の観点〉

- ①乳幼児期の発育・発達の特徴を説明できる。
- ②乳幼児期の発育・発達に必要な生活経験とはどのようなものかを概念的に捉え、説明できる。
- ③具体的な場面を事例として取り上げている。
- ④生活指導にあたって、幼児期の発育・発達の特徴や集団保育の活動の上での状況をとらえた安全管理、安全指導ができている。

〈その他の注意点〉

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前の保育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814475 ＊1
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814482 ＊2
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814499 ＊3
＊1～3 は 最新版を使用すること。
幼少年研究所『新版 遊びの指導 乳・幼児編』2009年5月 同文書院 ISBN 97854810300376
杉原隆『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』2014年5月ミネルヴァ書房 ISBN 9784623070220
＜参考サイト＞『幼児運動指針』文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm

科目試験等への
アドバイス

試験問題で問われていること、ポイント内容なども確認して解答すること。

教員からの
メッセージ

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前の保育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

TT0452 保育内容指導法（言葉）

2単位

テキスト名

『保育・幼児教育シリーズ
言葉の指導法 改定第2版』
玉川大学出版部

科目概要	子どもの言葉は、周りの大人や環境によって大きく影響を受けながら乳幼児期に著しく育っていく。そのため本講義では、子どもの言葉の発達や課題、保育内容の領域「言葉」のねらいや内容について必要な事項を学び、それらを踏まえて幼稚園教諭として子どもの言葉を支える役割や配慮、保育の工夫について学ぶ。
主な到達目標	・乳幼児期の発達を具体的に説明することができる。 ・領域「言葉」のねらいや内容を学び、保育の場において子どもの言葉の育ちを支える保育者の役割や援助について記述することができる。 ・様々な絵本や第8章にあるような多様な絵本に触れ、文字や言葉や絵本を遊びや活動に取り入れる保育の工夫について記述できる。 ・幼稚園教諭として自分自身が子どもの言葉の育ちに影響を与える大きな環境の一部であることを意識することができる。
テキスト学修の留意点	・課題について、学修指導書を参考にテキストを熟読してから理解を深めること。 ・レポート作成は、課題について学修してから取り組むこと。 ・「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」に十分注意すること。

	学修テーマ	課 題
1	保育内容「言葉」①	・乳幼児の言葉の発達のおもしろさについて、子どもの事例から考察する。 ・「言葉」が育つとはどういうことなのか、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』における保育内容及び領域「言葉」の考え方を学び「言葉」の発達を学ぶ。
2	保育内容「言葉」②	・領域「言葉」のとらえ方、ねらい、内容について学ぶ。 ・平成29年告示版の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」の部分を読み比べる。（文部科学省、厚生労働省、内閣府 HP からダウンロードして読むことができます）。
3	「言葉」の育ち①	・言葉を発さない時期から赤ちゃんはコミュニケーションをどのようにとるのか学ぶ。 ・言葉の発達段階を理解し、言葉の育ちを支える保育者の役割について学ぶ。
4	「言葉」の育ち②	・テキストの事例を通して、読み取れる子どもの気持ちや言葉の育ちを支える保育者の援助について考えノートに書き出してみる。
5	遊びの中の言葉①	・言葉や心身の発達によって変化する遊びを事例ごとに学ぶ。 ・遊びの中でどのように言葉が使われ、言葉によってどのように遊びが展開されているのか考察する。
6	遊びの中の言葉②	・子どもの遊びを発展させるための保育者の援助や役割、働きかける言葉などについて考える。
7	話す、聞く、伝え合う	・保育の場において、子どもが話すこと、聞くこと、伝え合う経験の意味について、事例を通して学ぶ。 ・子どもたちによるミーティングの意義について考察する。
8	文字の取り扱い①	・「幼児教育」における文字の取り扱いについて確認する。 ・文字環境について理解し、どのように子どもの文字に対する興味関心を広げていくか考える。
9	文字の取り扱い②	・保育の場における文字に親しむ遊びや活動を考える。
10	絵本、物語①	・絵本体験が子どもの発達にもたらすものは何かを学び、その意義について考察する。
11	絵本、物語②	・絵本や物語について、どのように活用していくとよいか事例から学ぶ。
12	言葉の遅れ①	・言葉の遅れや障がい、課題について学ぶ。
13	言葉の遅れ②	・保育の場における、言葉に遅れや障がいがある子どもへの配慮や保育参加について工夫できることについて学び、考える。
14	今日的課題①	・早期英語教育やバイリンガル教育における課題や現状を学び、母語の習得の重要性について理解する。
15	今日的課題②	・多様な絵本の種類があることを学び、教材研究であるテキストの研究課題に取り組む。 ・多文化教育の視点で「言葉」を考える。

シラバス執筆：上田 よう子

レポート課題

第1分冊 上田 よう子

第2分冊 上田 よう子

第1分冊 〈略題〉子どもの遊びと保育者のかかわりや援助 第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

子どもが声を出したい、話したいと思えるようにするために、子どもの遊びの場面で保育者はどのような配慮や工夫が必要なのか、乳児、幼児に分けてテキストから学修したことが分かるように記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキスト及び『幼稚園教育要領』を熟読してから論ずる。
- ② 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。年齢別の発達については、特に活用すること。
- ③ 参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④ 文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。
- ⑤ 学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ① 課題に対して的確に論じられているか。
- ② 参考文献を用いているか。
- ③ 自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ④ 誤字脱字の注意や、段落をつけるなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ⑤ 引用は明示しているか。
- ⑥ 引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

第2分冊 〈略題〉絵本体験が育むもの 第5章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

子どもは、絵本体験によって何を育むのか。保育の場を意識してテキストから学修したことが分かるように具体的に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキスト及び『幼稚園教育要領』を熟読してから論ずる。
- ② 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。年齢別の発達については、特に活用すること。
- ③ 参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④ 文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。
- ⑤ 学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ① 課題に対して的確に論じられているか。
- ② 参考文献を用いているか。
- ③ 自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ④ 誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ⑤ 引用は明示しているか。
- ⑥ 引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

参考文献

『幼稚園教育要領』文部科学省平成29年告示、
『保育所保育指針』厚生労働省 平成29年告示、
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府平成29年告示

科目試験等への
アドバイス

『幼稚園教育要領』を基に、テキストを熟読し学修してほしい。
テキストから何を学んだのか、学修したことが分かるようにすること。

教員からの
メッセージ

自分自身が子どもの言葉の発達や育ちに大きく関わる環境の一つとなることを意識できる保育者を目指して、真摯に取り組んでほしい。

TT0453 保育内容指導法（人間関係）

2単位

テキスト名

『保育・幼児教育シリーズ
人間関係の指導法』
玉川大学出版部

科目概要	「保育内容の指導法（人間関係）」においては、領域「人間関係」にかかわる指導の基盤となる、保育における人とのかかわることに関する専門的事項についての知識を身に付ける。また、領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門知識と関連させて理解を深め、幼児の発達、主体的・対話的で深い学びが実現するような保育を構想し実践する方法を身につける。
主な到達目標	乳幼児期の人間関係の発達について、また、乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる課題について理解する。領域「人間関係」のねらい及び内容、保育のありようを具体的に説明できる。保育の場の子ども、保育者、保護者とのかかわり、それによる学びの広がり深まりの関係を理解し、具体的な保育のありようを構想することができる。
テキスト学修の留意点	少し難しい理論的な概念も紹介されるが、保育と関わることからして、自らが今までどのように考えてきたかを思い浮かべ言葉にし、その考えと比較するかたちで学んでいくことが望ましい。また、テキストは、できるだけ具体的なエピソードをとりいれた構成となっているため、このエピソードを手がかりに理解を深めることを試みる。理論と実践のエピソードを往復しながら、自分の視点を確立していくこと。

	学修テーマ	課 題
1	領域「人間関係」とは（1）	テキスト第1章第1節で「人間関係の領域が生まれた背景」を学ぶ。テキスト第1章第2節「領域「人間関係」が目指すこと」から、領域「人間関係」では、どのような視点から保育、子どもを見ることを学ぶかを捉える。
2	領域「人間関係」とは（2）	テキスト第1章第3節を参考に、幼稚園教育要領、保育所保育指針における、領域「人間関係」の「ねらい」「内容」を理解する。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「人間関係」も調べておくこと。
3	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達（1）	テキスト第2章第1節「人とのかかわりのはじまり」を読み、おとなとのあいだでの人とのかかわりのはじまり、発達の特徴を理解すること。
4	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達（2）	テキスト第2章第2節「仲間とのかかわりの育ち」において、友だちとのかかわりの視点で、保育の場における人とのかかわりの発達を理解すること。また、第2章第3節「人間関係の育ちと共に変わるもの」において、人とのかかわりと関係する心理学的側面を理解すること。
5	遊びの中の人とのかかわりの育ち（1）	テキスト第3章第1節「人とのかかわりの育ちを支える『遊び』」において、本当に自分が納得して保護者にも「遊びが学び」と伝えられるよう、遊びと学びに関する理解を深めること。
6	遊びの中の人とのかかわりの育ち（2）	テキスト第3章第2節「『遊び』を通して生まれる人とのかかわり」においては、つながり合う喜び、仲間意識、イメージの共有、共同する経験、の4つの視点で整理しながら、そこで求められる保育者の援助や配慮について検討すること。
7	人とのかかわりを支える「保育者の役割」（1）	テキスト第4章第1節「人とかわるの意味」においては、人とかわる中で自分を知り、育つ人のありようをもう一度確認しておくこと。第4章第2節「ケアって何だろう？」は難しいかもしれないが、自分が「ケア」をどのように捉えているのかを意識しながら読み、理解を試みること。
8	人とのかかわりを支える「保育者の役割」（2）	テキスト第4章第3節「人とのかかわりが生まれるプロセスを事例から読み解く」を参考に「ケア」に関する理解を深めること。また、第4章第4節「人とのかかわりを支える保育者の役割」において、ケアの視点からみた「保育者の役割」をまとめておくこと。
9	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」（1）	テキスト第5章第1節「『ちょっと気になる子ども』とは」を読みながら、自分は「ちょっと気になる子ども」や「障害」ということについて、どのように考えてきたかを検討しておくこと。さらに、新聞などで、発達障害の当事者や保護者についての記事を探し読んでみる。
10	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」（2）	テキスト第5章第2節「『ちょっと気になる子ども』のいる保育」を読み、保育の場で、「ちょっと気になる子ども」とどのように接するかを考えること。さらに、第5章第3節「保育の場におけるインクルージョンの実現に向けて」を読み、どのような保育を実現していきたいか検討してみる。
11	人とのかかわりを支え広げる実践（1）	テキスト第6章第1節「社会の変化と共に変化している子ども・子育ての状況」から現在の子育て状況を分析しまとめること。第6章第2節「保護者と共に子どもの育ちを支える営みとしての保育」を読み、子育てが保育の場によってどのようなものとなりうるかを検討すること。
12	人とのかかわりを支え広げる実践（2）	テキスト第6章第3節「人とのかかわりの中で育つ保育者」をよみ、保育者もまた人とのかかわりの中でそだつことを理解すること。また、第4節「人とのかかわりを支え広げるために」を読み、保育が、そこに関わる全てのひとに様々な学びが生まれ広がる場であることを検討すること。
13	領域「人間関係」における今日的課題（1）	第7章第1節においては、保育の場における多文化、文化の多様性の現状を学び、保育の場にどのような可能性があるかを検討すること。新聞などの記事で、多文化保育についても調べてみる。
14	領域「人間関係」における今日的課題（2）	テキスト第4章で解説したケアの視点に基づき、第7章第2節の「幼小連携」について学ぶこと。また、「幼保小連携」「幼保連携」などについて、ご自身の地域の実践を具体的に調べてみる。
15	領域「人間関係」における今日的課題（3）	テキスト第7章第3節「人間関係の広がり」を読み、保育の場が、他の場とどのようにつながり、また、それにより、そこにかかわる人々の学びがどのように広がるか検討すること。また、自らの人とのかかわりの発達を、この視点から検討し「人間関係」の視点のまとめとすること。

シラバス執筆：岩田 恵子

レポート課題

第1分冊 岩田 恵子

第2分冊 岩田 恵子

第1分冊 〈略題〉発達と支援 1章～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

乳児期から幼児期にかけての子どもたちの人とのかかわりの発達の特徴をテキストをもとに簡略にまとめて述べた上で、この時期の人とのかかわりの発達を支える保育者の役割について「遊び」をキーワードにしながら考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

乳児期、幼児期それぞれの大人とのかかわり、仲間とのかかわりの観点から、乳幼児期の人とのかかわりの発達の特徴を簡略にまとめること。また、乳幼児期の発達の特徴をふまえた上で、その人とのかかわりの発達を支える保育者の役割について、特に「遊び」の具体例をふまえて考察すること。この課題は、テキスト等にかかれてある事実をもとに記すこと。

〈評価の観点〉

乳児期、幼児期それぞれの大人とのかかわり、仲間とのかかわりの視点から見た乳幼児期の発達の特徴が、教科書の丸写しではなく、教科書に記されたことを利用したかたちで、自分なりにまとめた上で記述されているか。また、乳幼児期の発達の特徴をふまえた上で、保育の場で、その人とのかかわりの発達を支える保育者の役割を「遊び」の具体例を用いて考察できているか。保育者の役割については『幼稚園教育要領』も参照しているか。

〈その他の注意点〉

テキストをそのままひきうつすのではなく、「乳児期の子どもは?」「幼児期の子どもは?」と自分なりに特徴を考えまとめながら、述べましょう。

第2分冊 〈略題〉保育者としてのかかわり 4章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

保育の構想においては、自らの人との関わりも常に意識することが必要である。保育者自らの人間関係を「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」をキーワードとしながら、保育実践においてどのように広げていきたいかを考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

自らの保育者としてのかかわりを検討するためには、単なる反省ではなく、これから自らのかかわりをどのように広げるかを検討することが必要である。その点に留意しながら、「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」のキーワードと対話し、子どもとのかかわり、同僚とのかかわり、保護者や他機関の人とのかかわりについて保育実践、保育の構想を具体的にとりあげながら考察すること。

〈評価の観点〉

自らのこれからの保育の場における人とのかかわり（大人も子どもも含む）の広がりの可能性を検討していること。また、その際テキストを参考にした上で「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」のキーワードを用いながら、人とのかかわりの広がりに言及していること。

〈その他の注意点〉

テキストをそのままひきうつすのではなく、自分はどんな保育者になりたいかを想像しながら、述べましょう。キーワードのうち、とくに「ケア」については丁寧に考えてみましょう。

参考文献

.....
 テキストの参考文献、学修指導書の参考文献を参照すること。『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を積極的に利用すること。

科目試験等への
アドバイス

.....
 『幼稚園教育要領』の人間関係の領域の「ねらい」「内容」について、具体的な子どもたちの姿、保育のありようを検討してみること。テキストのエピソードなど、具体的な子どもたちの姿、保育のありようがもつ意味を考えてみる。

教員からの
メッセージ

.....
 子どもたちの人とのかかわりを中心とする豊かな世界を味わいながら、ご自身の世界もひろげていってください。

科目概要	表現の領域は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」ことが大切であるとされている。幼児期における表現とは日常的なものが多い。保育者はそれに気づき、受容、援助し、子どもの豊かな創造性へと発展させるために必要なものとは何か。本科目では幼児の表現場面を具体的に捉え、理解し、保育者に必要な感性、創造性を考えていく。
主な到達目標	1. 領域「表現」を理解する。 2. 保育者に必要な感性、創造性を育む。 3. 幼児の豊かな表現を保证する教材研究をする。 4. 幼児の表現を理解する。
テキスト学修の留意点	学習指導書を参照して欲しい。またテキストを読み、実際に教材研究をしてみることが大切である。表現はとくに行事や活動中心で捉えられてしまうことも多い。しかし、それだけではなく、日常生活のなかの子どもたちの自分なりの表現がいかに大切かを理解するきっかけとして、テキストを読んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	幼児期における表現とは	テキスト「はじめに」及び1章2節・6節を読み、幼児期における表現を理解すること。また、幼稚園教育要領の領域「表現」の変遷について調べること
2	表現とは	テキスト1章2節～5節を読み、人間の行為としての表現とはどのようなものか、まとめよ
3	生活における表現とは（1）	子どもたちの生活を領域「表現」の内容に照らし合わせて考察せよ
4	生活における表現とは（2）	テキスト2章2～5節の事例を考察せよ
5	音楽表現について（1）	幼稚園でよく歌われる歌について調べ、また3章を参考にし、なぜ幼稚園で歌を歌うのか、まとめよ
6	音楽表現について（2）	テキスト3章の事例を考察せよ
7	造形表現について（1）	幼児期における造形表現とはどのような意味を持つか、テキスト4章を参考にまとめよ
8	造形表現について（2）	テキスト4章2節を参考に、幼児期の造形的な発達についてまとめよ
9	造形表現について（3）	子どもの造形作品を理解するために保育者としての視点として大切なこととは何か。
10	身体表現について（1）	幼児期における身体表現とはなにか、5章を参考にまとめよ
11	身体表現について（2）	テキスト5章2～5節の事例を考察せよ
12	感性をはぐくむ保育者の役割（1）	生活に根ざした表現とは何か。またそのときの保育者の役割についてまとめよ。
13	感性をはぐくむ保育者の役割（2）	子どもの感性をはぐくむ保育者の役割とは何か。テキスト6章を参考にまとめよ
14	領域「表現」の今日的課題	領域「表現」における今日的な課題とは何か、過去と現在を比較し、テキスト7章を参考にまとめよ
15	まとめ	本科目での学びは何か？また「教材研究」や「行事」と領域「表現」との関係性についてまとめよ。

シラバス執筆：田澤 里喜

レポート課題

第1分冊 田澤 里喜・押切 道子

第2分冊 田澤 里喜・押切 道子

第1分冊 〈略題〉「表現する過程を大切」にする保育 1章～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

なぜ「表現をする過程を大切」にしなければならないのか、また、その保育実践とはどのようなものか。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書いてあることだけでなく、自身の意見も合わせて書くこと。ただし、自分の意見のみではレポートにならないので注意すること。なお、最新の幼稚園教育要領他を必ず参照すること。課題の「」の言葉は幼稚園教育要領に書かれている言葉です。まずはこの言葉の意味を考えて下さい。

〈評価の観点〉

課題の意図を理解し、独自の視点から論じているかを中心に評価する。また、文字数過不足、誤字脱字や読み手のことを考えていない文章および字の場合は内容とは関係なく、不可とする。

〈その他の注意点〉

実践事例の羅列だけにならないように注意すること

第2分冊 〈略題〉保育者の役割 4章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ための保育者の役割とは何か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書いてあることだけでなく、自身の意見も合わせて書くこと。ただし、自分の意見のみではレポートにならないので注意すること。なお、最新の幼稚園教育要領他を必ず参照すること。課題の「」の言葉は幼稚園教育要領に書かれている言葉です。まずはこの言葉の意味を考えて下さい。

〈評価の観点〉

課題の意図を理解し、独自の視点から論じているかを中心に評価する。また、文字数過不足、誤字脱字や読み手のことを考えていない文章および字の場合は内容とは関係なく、不可とする。

〈その他の注意点〉

実践事例の羅列だけにならないように注意すること

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年厚生労働省『保育所保育指針解説書』平成30年内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成30年

科目試験等への
アドバイス

問題の意図をしっかりと理解し、文章で自己表現をしてほしい。文章は個性があり、それも一つの表現である。独りよがりではない、自分なりの答えを見つけてほしい。

教員からの
メッセージ

表現とは、日常的なものであることをまずは意識して欲しい。幼稚園での発表会や音楽会などだけで子どもは表現しているわけではなく、日常的な表現、遊びの中の表現を大切にしたい。

科目概要	保育内容総論は教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）である。幼稚園教育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身につける。特に具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているのかについて学び、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。
主な到達目標	・幼稚園教育の基本を踏まえた、幼稚園における指導の考え方を理解する。 ・幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達過程を見通した指導計画作成を理解する。 ・幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。
テキスト学修の留意点	・全ての章を熟読し、幼児教育の基本について理解する。 ・幼児を理解するには、理論を学修するだけではなく日常の実態を知ることも必要である。 ・課題はテキストを丸写しするのではなく、テキストを参考に事例を入れながら自分の言葉でまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	保育内容とは何か（1）	・保育とは何か理解する。 ・保育内容とは何か理解する。
2	保育内容とは何か（2）	・遊びが学びであること—5領域の総合性について理解する。
3	保育内容とは何か（3）	・我が国の保育内容の変遷について理解する。
4	心身の健康に関する領域「健康」	・健康な心と体を育てることを理解する。 ・生活習慣の形成について理解する。 ・安全の習慣と態度について理解する。
5	人との関わりに関する領域「人間関係」	・人との関わりの根源性について理解する。 ・協同的な学びについて理解する。 ・社会生活における望ましい習慣や態度について理解する。
6	身近な環境との関わりに関する領域「環境」	・領域「環境」を考える基本的事項について理解する。 ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「環境」について理解する。 ・保育実践と内容の取扱いについて理解する。
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」	・身近な人との関わりを通して育つ言葉について理解する。 ・絵本や物語を通して育つ言葉を理解する。 ・文字等で伝える経験について理解する。
8	感性と表現に関わる領域「表現」	・子どもの豊かな感性について理解する。 ・事例から領域「表現」を考える。 ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「表現」について理解する。
9	3歳未満児の保育内容（1）	・3歳未満児の保育を支えるものについて理解する。 ・0歳児の保育内容について理解する。
10	3歳未満児の保育内容（2）	・1歳未満児の保育内容について理解する。
11	3歳未満児の保育内容（3）	・2歳未満児の保育内容について理解する。
12	「養護」について	・保育の場における「養護」について理解する。 ・生命の保持について理解する。 ・情緒の安定について理解する。
13	保育内容をめぐる展望と課題（1）	・幼保小の連携、接続と保育内容について理解する。
14	保育内容をめぐる展望と課題（2）	・特別な支援を必要とする子どもとその保育内容について理解する。
15	保育内容をめぐる展望と課題（3）	・家庭連携と保育内容について理解する。

シラバス執筆：仁藤 喜久子

レポート課題

第1分冊 仁藤 喜久子

第2分冊 仁藤 喜久子

第1分冊 〈略題〉幼稚園教育の基本 テキスト p1～p136

横書き

直接入力

〈課題〉

幼稚園教育の基本的な内容について述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 幼稚園とは何かについての的確に示すこと。
- ② 幼稚園の役割とはどのようなものかについても明らかにすること。
- ③ 5領域について説明がされていること。

〈評価の観点〉

- ① レポート作成上の基本的ルールに基づいていること。
- ② 課題の内容が正確に説明されていること。
- ③ テキストの丸写しではなく自分の言葉でまとめていること。
- ④ 事例を入れる等の工夫がされていること。

〈その他の注意点〉

引用文献・参考文献は明記すること。

第2分冊 〈略題〉保育内容をめぐる展望と課題 テキスト p137～p199

横書き

直接入力

〈課題〉

幼児教育をめぐる現状と課題について述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

2017年度（平成29年）告示により改訂された、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針をよく理解し、幼児教育の課題を明確に示すこと。

〈評価の観点〉

- ① レポート作成上の基本的ルールに基づいていること。
- ② 課題の内容が正確に説明されていること。
- ③ テキストの丸写しではなく自分の言葉でまとめていること。
- ④ 事例を入れるなどの工夫がされていること。

〈その他の注意点〉

引用文献・参考文献は明記すること。

参考文献

『保育・幼児教育シリーズ 健康・人間関係・環境・言葉・表現の指導法』玉川大学出版部

科目試験等への
アドバイス

- ・全ての章を熟読して臨むこと。
- ・各章の演習問題を確認しておくこと。

教員からの
メッセージ

・保育内容総論は幼稚園教諭一種免許の資格取得に必要な科目です。保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と深く関連しているため、5領域のテキストも参考にすると理解が深まります。また、2017年度（平成29年）告示により改訂された、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容を理解した上で、レポートやテストに臨みましょう。

TT0456 法律学（国際法を含む。） （新刊テキスト）

**2単位
新刊**

テキスト名
『法学〔第3版〕』（弘文堂）
高橋雅夫編

科目概要	法律学（国際法を含む。）は、『法学』と題したテキストを用います。わが国には、どのような法が存在するのか、法律の全体構成を理解し、法が実社会でどのように使われているのかを学修します。
主な到達目標	本教科では、身近に生じる法律問題について基本的な知識を獲得した上で、学説や裁判例を参考にしながら、法律問題に対して自分なりの意見を持つことができることを到達目標にします。
テキスト学修の留意点	テキストには参考条文が掲載されています。学修の際には、必ず「六法」の条文を読んで確認をしてください。テキストは、ただ読み進めるのではなく、各テーマについて自分なりの言葉で説明できるかどうかを確認しながら、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	法の学び方・法概念	法は私たちの生活において、どのような役割を果たしているのか。法を学ぶ目的は何なのか。
2	法の目的・機能	法とは何か。法は何のためにあるのか（法の機能）について。
3	法の存在形式（法源）	法にはどのような種類があるのか。特に成文法にはどのような法があるのか。
4	法の分類・国際法	法はどのように分類することができるのか。国内法と国際法との関係はどのようなになっているのか。
5	法の解釈と運用	法の解釈が必要なのはなぜか。法の解釈の方法にはどのようなものがあるのか。
6	日本国憲法（人権）	人権とはどのような特質をもった権利なのか。人権にはどのような種類の人権があるのか。
7	日本国憲法（統治）	日本国憲法は、権力分立制（三権分立）を採用しているが、権力分立制（三権分立）は何のためにあるのか。
8	家族と法	家族法とは何なのか。家族法はどのような内容を規定している法なのか。
9	財産と法	財産法とは何なのか。物権と債権にはどのような違いがあるのか。
10	犯罪と刑罰	刑法の目的は何なのか。刑法の基本原則である罪刑法定主義はどのような原理であるのか。
11	企業と法	自然人以外に権利義務の主体となることができる者として法人制度が用意されているが、これはなぜか。法人にはいくつかの種類があるが、各法人はどのような目的から設立されるのか。
12	雇用と法	労働法は民法の原理原則が修正された特別法であるが、これはどのような目的によるものなのか。
13	裁判と法	裁判の種類にはどのようなものがあるのか。日本の司法制度はどのようなものなのか。
14	行政と法	行政法の基本原則として法律による行政の原理があるが、この具体的な内容はどのようなものなのか。またなぜそのような原理があるのか。
15	情報と法	情報公開法や個人情報保護法はそれぞれどのような背景から法制化されたのか。

シラバス執筆：橋本 直樹

レポート課題

第1分冊 橋本 直樹

第2分冊 橋本 直樹

第1分冊 〈略題〉法源について 第1分冊 第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

法源の意義について説明した上で、日本にはどのような法があるのか論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

まずは、法源とは何かについて理解することが大切です。その上で、成文法、不文法にはそれぞれどのような法があるのか、また成文法における法のそれぞれの序列についても説明するようにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を、根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字・脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉法律による行政の原理について 第2分冊 第15章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

法律による行政の原理について説明した上で、3つの原則について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

まずは、法律による行政の原理がなぜ行政法の基本原則になっているのかについて理解することが重要です。その上で、法律による行政の原理の具体的な3つの内容について説明してください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を、根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字・脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

まずテキスト自体の学修を先行してください。そのほか、インターネット上の資料を参照する場合には、サイト名、URL、閲覧年月日を明示してください。

●レポート作成のための参考文献

- ①伊藤正己・加藤一郎編『現在法学入門（第4版）』有斐閣双書、2022年、ISBN：4-641-11256-8
- ②池村正道編『行政法（第5版）』弘文堂、2025年

科目試験等への
アドバイス

レポート課題の作成においては、上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」を参考にしてください。シラバスに提示した各回の「課題」をしっかりと学習した上で、試験に臨んでください。

教員からの
メッセージ

法律学を学ぶにあたり、本テキスト1冊に頼るのではなく、テーマに関連した法律の入門書や新聞記事なども読むよう心掛け、同じテーマについて様々な考え方があることを学んでください。

科目概要	法律学（国際法を含む。）は、『法律学入門』と題したテキストを用います。わが国には、どのような法が存在するのか、法律の全体構成を理解し、法が実社会でどのように使われているのかを学修します。
主な到達目標	本教科では、身近に生じる法律問題について基本的な知識を獲得した上で、学説や裁判例を参考にしながら、法律問題に対して自分なりの意見を持つことができることを到達目標にします。
テキスト学修の留意点	テキストには参考条文が掲載されています。学修の際には、必ず「六法」の条文を読んで確認をしてください。テキストは、ただ読み進めるのではなく、各テーマについて自分なりの言葉で説明できるかどうかを確認しながら、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	法の特質	法とは何か、法は何のためにあるのか（法の機能）まとめておくこと。
2	法源①	法にはどのような種類があるのか、特に成文法についてどのような法があるか、まとめておくこと。
3	法源②	法の種類のうち、不文法にはどのような法があるか、まとめておくこと。
4	法と裁判	裁判の意義について概観したうえで、司法的裁判の特質とは何か、また事実の認定に必要な作業は何か。
5	法の解釈	法解釈と法創造の違い、また法解釈の技法についてまとめておくこと。
6	民法の原則	民法の基本原則である私的自治の原則、所有権絶対の原則、過失責任の原則と、その修正について、まとめておくこと。
7	権利能力 意思能力 行為能力	権利能力、意思能力、行為能力についてまとめておくこと。その上で、意思無能力、制限行為能力制度についてまとめておくこと。
8	契約の種類	民法上の契約にはどのようなものがあるか、まとめておくこと。
9	物権	物権の意義、物権の種類についてまとめておくこと。
10	家族関係	民法上の婚姻の成立要件と離婚の要件についてまとめておくこと。また、実子と養子についてまとめておくこと。さらに、相続につき、遺言と相続分について条文を概観したうえで要件等をまとめておくこと。
11	刑法の意義	刑法の意義と罪刑法定主義についてまとめておくこと。
12	刑罰の種類	刑罰は何のためにあるのか、各学派の見解をまとめておくこと。そのうえで、日本にはどのような刑罰があるのか説明できるようにしておくこと。
13	犯罪の要件	犯罪の成立要件（構成要件該当性、違法性、有責性）についてまとめておくこと。
14	刑事手続	刑事裁判手続の概略と適正手続、自己負罪拒否特権（黙秘権）についてまとめておくこと。
15	国際社会における「共生」	国際法の歴史と国家の意義についてまとめておくこと。

シラバス執筆：橋本 直樹

レポート課題

第1分冊 橋本 直樹

第2分冊 橋本 直樹

第1分冊 〈略題〉法源について 第1分冊 第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

法源の意義について説明した上で、日本にはどのような法があるのか論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

まずは、法源とは何かについて理解することが大切です。その上で、成文法、不文法にはそれぞれどのような法があるのか、また成文法における法のそれぞれの序列についても説明するようにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字・脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉民法上の行為能力及び制限行為能力について 第2分冊 第1章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

民法における行為能力を説明した上で、制限行為能力者とはどのような者であるのか論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

まずは行為能力という概念を勉強し、その後に、制限行為能力の勉強に取り組んでください。また、近接概念として権利能力や意思能力という別の能力概念が存在しますので、これらの能力と行為能力を混同しないように注意しながら勉強してください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解できているかどうか。
- ②テキストの文章をただ写すのではなく、自分の言葉でまとめられているかどうか。
- ③自分の意見を根拠に基づいて論じられているかどうか。
- ④誤字・脱字がないことなど、レポートとしての体裁が整えられているかどうか。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

まずテキスト自体の学修を先行してください。そのほか、インターネット上の資料を参照する場合には、サイト名、URL、閲覧年月日を明示してください。

●レポート作成のための参考文献

- ①高橋雅夫編『法学（第3版）』弘文堂、2020年、ISBN：978-4-335-00243-4
- ②山本敬三『民法1 総則』有斐閣ストゥディア、2023年、ISBN：978-4-641-15008-9

科目試験等への
アドバイス

レポート課題の作成においては、上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」を参考にしてください。シラバスに提示した各回の「課題」をしっかりと勉強した上で、試験に臨んでください。

教員からの
メッセージ

法律学を学ぶにあたり、本テキスト1冊に頼るのではなく、テーマに関連した法律の入門書や新聞記事なども読むよう心掛け、同じテーマについて様々な考え方があることを学んでください。

TT0457 ボランティア概論

2単位

テキスト名

江田恵里香編著
『ボランティア解体新書』木立の文庫
ISBN978-4-909862-01-3

科目概要	社会的な見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、グローバル化する現代社会で主体的に生きるとはどういうことか、現代社会における多様な課題を解決するボランティア活動の実際から考察し、人間と社会のあり方への洞察を深める。
主な到達目標	・ボランティアの定義や理念等を多面的・多角的に考察し、ボランティア活動の意義やあり方について説明できる。 ・ボランティア活動の背景にある現代社会の諸課題を主体的に調べ、人間と社会のあり方について、自らの考えを述べられる。 ・ボランティア・コーディネーションの役割や連携・協働のあり方について、実践的に語る事が出来る。 ・社会との関わりを意識した課題解決的な学習や実践の意義について、学校教育・社会教育の観点から説明できる。
テキスト学修の留意点	まず、テキストのプロローグを読み、テキストの書かれた意図、全体の構成を把握してほしい。 また EduTrack の講義室にある『学習指導書』や「学修テーマと課題」を読み、学修レポートの書き方を確認してほしい。 そしてテキスト学修の際には、各章の「はじめに」書かれていることや小見出しとなっているキーワードを手掛かりにポイントを押さえること。また、重要と思われるところに線をひき、章ごとに要点をまとめてポイントを整理してほしい。さらに章の終わりにある「Let's work together !」にある問いを考え、考察した内容を実際に書いてみることで試験対策となる。

	学修テーマ	課 題
1	ボランティアとは	ボランティアの定義について説明できるか。理論知、体験知の違いは何か。
2	時代と社会のなかで	日本のボランティア活動の歴史において、福祉元年、ボランティア元年といわれる時期を契機にした活動の変容について、説明できるか。 日本のボランティアと海外のボランティアの相違点は何か。
3	シティズンシップを身につけて	なぜ学校教育においてシティズンシップ教育を学ぶ必要があるのか。 教育でおこなわれるボランティア教育とは何か。
4	人間と社会のこころの基盤	幸福とは何か。幸福とボランティアの関係を説明できるか。 利他性としての宗教とボランティアの相違点は何か。
5	保障された自発的な活動	民主主義社会における、市民とは何か。 民主主義における公共と社会貢献活動について説明できるか。市民活動の場としての NPO,NGO とは何か。
6	内的報酬をめぐる	ボランティアの無償性とは何か。ボランティアにおける「やりがい搾取」「ブラックボランティア」はなぜ起こるのか、予防策は何か。
7	スキル・資格・学び	ボランティアに生かされるスキルとは何か。大学の学びを活かすボランティアとは何か。 ボランティアコーディネーターの役割とは何か。
8	顔のみえる関係性のなかで	ボランティア活動になぜ他の組織との連携・協働が必要なのか。災害予防のための連携・協働とは何か。
9	ボランティアと学校	開かれた学校教育について説明できるか。学校で行われる学校支援ボランティアについて説明できるか。総合型地域スポーツクラブとは何か。
10	ボランティアと福祉	子どもの貧困、ジェンダー格差とは何か。子どもの貧困が引き起こす問題について説明できるか。 ボランティアのできる子どもの貧困対策とは何か。
11	ボランティアと地域社会・防犯	地域貢献、社会貢献、ボランティア活動について、互いの相違点、関係性について説明できるか。大学における社会貢献活動とは何か。地域の防犯ボランティアの効果について説明できるか。
12	ボランティアと防災・災害	地域の災害に対する備え、市民の防災力をつける方法とは何か。災害ボランティアが被災者へ対応する際の心得について説明できるか
13	ボランティアと地球環境・国際協力	地球温暖化、プラスチックごみの問題について、世界での取組を説明できるか。 「持続可能な開発目標 (SDG's)」とは何か。地球環境や国際協力におけるボランティア活動についてその内容を説明できるか。
14	ボランティアとスポーツ・文化芸術・観光	スポーツイベントボランティアについて、その心構えも含め説明できるか。 文化芸術をささえるボランティア活動、特技や趣味を活かす文化芸術活動を通してささえる活動とは何か。 観光ボランティアガイド、スポーツを観光資源としたスポーツツーリズムについて説明できるか。
15	ボランティアの事前事後・まとめ	ボランティア活動の事前準備とは何か。ボランティア活動、地域貢献活動をおこなうためのマナー、心得について説明できるか。ボランティア活動の事後にふり振り返りやセルフケアが必要な理由とは何か。

シラバス執筆：吉見 江利

レポート課題

第1分冊 吉見 江利

第2分冊 吉見 江利

第1分冊 〈略題〉ボランティアと公共性 第1章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

はじめにレポートの内容を表す副題をつけ、テキストの内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、ボランティアの教育意義について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、全体の筋を通すために、冒頭に副題をつけ、導入部分でレポートの目的や構成を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、自身の考えを述べること。
- ③テキスト内から3カ所以上の引用をすること。
- ④一文で伝えたい内容は1つとし、句読点で言葉をつなぎ長文にならないように注意すること。
- ⑤なるべく文のはじめに主語を置き、主語に対応した形で述部をまとめること。
- ⑥本科目のレポート作成にあたり文献の掲載方法は『学修指導書』に示しているので、そのように記載すること。

〈評価の観点〉

- ①ボランティアの公共性について、テキストに基づき正しく理解していること。
- ②ボランティアの公共性を伝えるためのシティズンシップ教育についても言及し、説明できること。
- ③レポートの基本的な書き方を修得していること。
- ④テキスト学修で学んだことをまとめた上で、そこから自分の考えを順序だてて論理的に説明していること。

〈その他の注意点〉

- ①レポート作成にあたっては、段落ごとにポイントをまとめ、下書きをして推敲をすること。
- ②レポートを提出する前に段落の構成、内容に矛盾がないか、誤字脱字がないかなどよく確認をして提出すること。
- ③学修レポートと感想文とは異なるので、主観的な文章を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉ボランティアと地域社会 第9章～第20章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

はじめにレポートの内容を示す副題をつけ、テキストの内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、災害とボランティアについて論じなさい。論じる際には、実際の災害の事例を調べるか、自身の災害体験や災害ボランティアとしての活動など、実践的な内容に基づいたレポートになることが望ましい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、全体の筋を通すために、冒頭に副題をつけ、導入部分でレポートの目的や構成を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、自身の考えを述べること。
- ③テキスト内から3カ所以上の引用をすること。
- ④一文で伝えたい内容は1つとし、句読点で言葉をつなぎ長文にならないように注意すること。
- ⑤なるべく文のはじめに主語を置き、主語に対応した形で述部をまとめること。
- ⑥本科目のレポート作成にあたり文献の掲載方法は『学修指導書』に示しているので、そのように記載すること。

〈評価の観点〉

- ①近年希薄になっているといわれている地域社会について、問題意識を持って論じることができること。
- ②テキストで学んだことを踏まえて、地域社会の課題解決に向けたボランティア活動について提案ができること。
- ③レポートの基本的な書き方を修得していること。
- ④テキスト学修で学んだことをまずにまとめた上で、そこから自分の考えを順序だてて論理的に説明していること。

〈その他の注意点〉

- ①レポート作成にあたっては、段落ごとにポイントをまとめ、下書きをして推敲をすること。
- ②レポートを提出する前に段落の構成、内容に矛盾がないか、誤字脱字がないかなどよく確認をして提出すること。
- ③学修レポートと感想文とは異なるので、主観的な文章を多用しないこと。

参考文献

テキストの各章の最後に示されているので、HPや図書館などを利用するなどしてこれらの文献を読みさらに理解を深めてほしい。

科目試験等への
アドバイス

試験では、テキスト学修に基づく内容を説明した上で、自分の考えを論理的に記述できているかどうかを評価する。テキストの内容を踏まえ、自分の経験による考えのみを述べているもの、箇条書きに要点を書かれたものなどは合格点をつけられないので注意してほしい。

教員からの
メッセージ

ボランティアを通信のテキストで学ぶ意味は、ボランティアの意味や効果を学び、具体的な社会の課題とその解決のためのボランティア活動について論理的に説明できるようになることであると考え。是非ボランティア活動をしたことのない方は、テキスト学修後、あるいは学修をしながら、地域で活動をはじめの一歩としてほしい。また、既に活動をしている方は自分の実践を振り返り、活動の意味づけや活動を振り返る際の指針としてほしい。ボランティアについて体系的に学ぶことで社会とのつながりを認識し、公共への理解を深め、学んだことが実践に活かされていくことを願っている。

科目概要	人間の日常生活文化の成り立ちや伝統的な思考方法のあり方を、古くから民間で伝承されてきた様々な有形、無形の資料の採取と検証を通して明らかにし、私たちの「今、ここ」で営まれる生き方を問い直すのが民俗学です。本講では、我が国の様々な生活の基層文化に触れつつ、日本民俗学が積み上げてきた業績を通して、こうした民俗学の学問としての視点と方法を学ぶことを目的とします。
主な到達目標	(1) 日本民俗学が対象とする主要なテーマについて事例に基づきながら説明できる。 (2) 自分の生活圏において伝承された生活文化を採取・記述し分析することできる。 (3) 授業を通して学んだ民俗に関する知識を用いて現代日本人の生活のあり方を考察することができる。
テキスト学修の留意点	*現代人にとっては、馴染みのない用語がたくさん出てくるテキストです。まずは1章ごとにざっと通読し、わからない用語は後述の参考文献内にある辞典／事典類を参照しながら、より深く読み直してみてください。 *テキストに紹介されている民俗事象と、自分自身の生活とのつながりを考えながら読み進めるようにしてください。直接的か間接的かはわかりませんが、どこかに必ず繋がるポイントがあるはずです。

	学修テーマ	課 題
1	身体民俗 (1) : 装われた身体	第1章「身体を包む」、第2章「身体に施す」を通読することによって、日本人がヒトのからだをどのようなものと考え、何のために、どのような装いを工夫してきたのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に対して、簡単に答えてください。
2	身体民俗 (2) : 身体を守る	第3章「身体を守る」、第4章「ヒトの願い」を通読することによって、祖先がどのように身体を養い、また病気や禍いから身を守り、生活の安寧と繁栄を神々に願おうとしたのかを学び、日本人の生命観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に対して、簡単に答えてください。
3	家の民俗 (1) : 住空間	第5章「住まいの空間」を通読することによって、日本の家屋を含めた屋敷空間のあり方と生業との関係について学び、日本人の世界観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
4	家の民俗 (2) : イエ制度	第6章「イエと家族」、第7章「親類と本家・分家」を通読することによって、日本人の家系継承の理念と方法、及び、家族・親族観について学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
5	家の民俗 (3) : 出産と育児	第8章「出産と育児」を通読することによって、出産と乳児期の育児に関する文化のあり方を学び、日本人の生命観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
6	家の民俗 (4) : 婚姻制度	第9章「結婚の祝い」を通読することによって、婚姻に関する文化のあり方について学び、日本人の社会観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
7	家の民俗 (5) : 死と葬送	第10章「死の儀礼」を通読することによって、人の臨終と葬送に関する文化のあり方について学び、日本人の生命観及び社会観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
8	ムラの民俗 (1) : 空間と社会構成	第11章「ムラの空間」、第12章「ムラの社会構成」、及び第13章「ムラの交際」を通読することによって、祖先がどのように村落の生活空間を構築し、人間関係を秩序立てて来たのかについて学び、日本人の世界観・社会観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
9	ムラの民俗 (2) : ムラの人間関係と生業1	第14章「農と生活」、第15章「海と山の生活」を通読することによって、農山漁村といった我が国の生活文化の基層をなす生業について学び、日本人の自然観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
10	ムラの民俗 (3) : ムラの人間関係と生業2	第16章「さまざまな職業」、第17章「ムラとマチ」を通読することによって、手工業の職人や行商人の生活文化について学び、マチがムラからどのように派生し、独自性を獲得して行ったのか、ムラとどのような関係にあるかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
11	カミの民俗 (1) : 靈魂の行方と先祖	第18章「靈魂の行方と先祖」、第19章「イエを訪れるカミ」を通読することによって、死後の靈魂の行方に関する儀礼、及び我が国の来訪神文化の底流をなす様々な行事のあり方を学び、日本人の生命観・靈魂観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
12	カミの民俗 (2) : 神仏との交流	第20章「カミを求めて」、第21章「カミとの交流」を通読することによって、我が国の山岳信仰や巡拝文化のあり方、年中行事や芸能における火に関わる習俗を通して日本人が神々とのように関わろうとして来たのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
13	カミの民俗 (3) : 祭礼行事と祭祀組織	第22章「氏神と氏子」を通読することによって、我が国の村落における祭祀習俗を巡って築かれる社会構造のあり方について学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
14	カミの民俗 (4) : 異界と異人	第23章「他界と結ぶもの」、第24章「ふしぎな世界と空間」を通読することによって、日本人が他界や他界の存在とどのような関わって来たのか、日常のどのような場所・空間に他界との接点を認めて説話化していたのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
15	郷土研究：南島	日本民俗の原態の1つとして考えられる沖縄地方の民俗のあり方について、ここまで学んできた、ヒト・イエ・ムラ・カミといった視点に基づいて考察します。テキスト最終章「特論」を通読して要点をノートにまとめてください。難解な用語等も調べておくことを忘れないようにしてください。

レポート課題

第1分冊 今尾 佳生

第2分冊 今尾 佳生

第1分冊 〈略題〉「ヒト」と「イエ」の過去・現在・未来

第I部「ヒト」、第II部「イエ」

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

次の3つのテーマのうちのどれか1つを選び、それがかつてどのようなものであったか（過去）、今はどのように変わって来ているのか（現在）について調べ（文献調査及び実地調査）、そして今後はどうなっていくだろうか（未来）を考えてまとめてください。

1. 自分の居住地域における衣、食、住の生活のうちどれか一つ。
2. 自分の居住地域における家族・親族関係。
3. 自分の居住地域における出産、育児、結婚、死のうちどれか一つ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 取り上げたテーマの具体的な内容を詳述すること。
- (3) インターネットの記事のコピー＆ペーストや参考文献の記事の丸写しは全面禁止です。要点を自分の言葉でまとめ直してください。
- (4) 過去については文献または経験者からの聞き取り、現在については文献に加え実地調査に基づいた客観的な報告を、そして未来については現代の地域社会・広域社会の動向を考慮し、根拠を挙げながら自分の考えを述べてください。
- (5) 文字表記やレポート全体の論理構成にも充分配慮してください。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) テキスト学習の成果が充分反映されているか。
- (3) レポート全体が論理的で見通しよく構成されているか。
- (4) 明晰で、正確な文章表現でまとめられているか。
- (5) 報告された事例は文献のみに依存せず、実地踏査を踏まえた体験的・具体的で詳細なものであるか。
- (6) 考察は主体的かつ妥当なものか。テキストや、参考文献、インターネット記事等における当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

- (1) くれぐれも、課題の趣旨や留意事項などを確認してから執筆するようにしてください。
- (2) 引用・参考にした文献等がある場合は、必ず出典を明記してください。
- (3) 民俗学という学問にとって、実地踏査は欠かせません。文献のみに依存したレポートは、評価が低くなるか、場合によっては不合格になり得ることをお含みおください。少しでも現地・現物の観察や、聞き取りなどを試みてください。

第2分冊 〈略題〉生活空間・生業・神々

第III部「ムラ」、第IV部「カミ」、特論

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

次のテーマのうちのどれか1つを選び、その調査結果と考察をまとめてください。

1. 自分の居住地域の a) 空間構造（ムラでもマチでも）、そこでの b) 人間関係、c) 生業（農林水産業、手工業、商業など）のうち、どれか一つの過去と現在。そして未来はどうなっていくか。
2. 自分の居住地域で行なわれて年中行事や祭礼。それが現代の地域社会の生活にどのような意味をもっているのか。
3. 自分の居住地域におけるふしぎな場所と、それに関する説話や伝説。何故そこが異界性を帯びるのか、何故そのような説話や伝説が発生するのか。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 取り上げたテーマの具体的な内容を、できるだけ詳しく記述すること。
- (3) インターネットの記事のコピー＆ペーストや参考文献の記事の丸写しは全面禁止です。要点を自分の言葉でまとめなおしてください。
- (4) 文献調査及び実地調査に基づき、テキストやその他参考文献で学んだ知識を用いながら、根拠を挙げて自分の考えを述べてください。
- (5) 文字表記やレポート全体の論理構成にも充分配慮してください。
- (6) テキスト学習の成果を可能な限り活かすこと。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) テキスト学習の成果が充分反映されているか。
- (3) レポート全体が論理的で見通しよく構成されているか。
- (4) 明晰で、正確な文章表現でまとめられているか。
- (5) 報告された事例は文献のみに依存せず、実地踏査を踏まえた体験的・具体的で詳細なものであるか。
- (6) 考察は主体的かつ妥当なものか。テキストや、参考文献、インターネット記事等における当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

- (1) くれぐれも、課題の趣旨や留意事項などを確認してから執筆するようにしてください。
- (2) 引用・参考にした文献等がある場合は、必ず出典を明記してください。
- (3) 民俗学という学問にとって、実地踏査は欠かせません。文献のみに依存したレポートは、評価が低くなるか、場合によっては不合格になり得ることをお含みおください。少しでも現地・現物の観察や、聞き取りなどを試みてください。

参考文献

『日本民俗学概論』（福田アジオ・宮田登編、吉川弘文館）／『図解案内 日本の民俗』（福田アジオ、小林光一郎他編、吉川弘文館）／『民俗学読本―フィールドへのいざない』（高岡弘幸他編著、晃洋書房）／『民俗学の愉楽』（谷川健一、現代書館）／『民俗学の旅』（宮本常一、講談社）／『写真民俗学』（芳賀日出男、角川学芸出版）／『日本民俗大辞典＜上＞＜下＞』（福田アジオ・湯川洋司・中込睦子他編、吉川弘文館）／『民俗学事典』（民俗学事典編集委員会編、丸善出版）／『精選 日本民俗辞典』（福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司他編、吉川弘文館）

科目試験等への
アドバイス

*当然のことですが、科目試験は、テキスト学習が充分に行われていることを前提としています。テキストに1度目を通した、という程度で合格にこぎつけるのは難しいでしょう。章節ごとに時間をかけて丁寧に読解し、要点を着実にノートにまとめておくと同時に、わからない用語は民俗学の辞典類を活用して確実に理解しておくことが大切です。

*試験を受ける時には、とにかくまず最初に問題文をじっくりと読み、何が要求されているのかを適切に判断してから書くべき内容を決めるようにしてください。

教員からの
メッセージ

私たち自身の生活や人生の意味を問い直すのが民俗学という学問の最大の意義です。今現在の自分の生活の中で当たり前のように思っていた物事に対して疑問をもち、その意味や起源について問い直してみることから始まります。一見関係なさそうに思えても、現代のポップカルチャーや、サブカルチャーの中にも古くからの民俗が潜んでいるかもしれません。ぜひ学んだことを応用してみてください。

科目概要	子どもの育ちをとらえ、その特性に応じて「遊び」を通して育ちを助長する営みが幼稚園教育の本質である。その営みは偶然に行われるのではなく、社会の変化や地域の実情などの影響を受けつつ刻々とかわりゆく子どもの育ちに焦点をあて、専門性をもった援助・指導のもと子どもと保育者が織り成されるものである。時代を経ても変わることなく育てていくもの、時代の変化に応じて育てるものを精選しながら、理想とする子ども像、人間像を目指してより適切な内容と方法に応じて展開されていくものである。本講義では、保育の営みを支える基盤となる幼児教育の特性の理解、幼稚園入園から終了までの生活と体験を組織化した教育課程の編成の意義、および指導計画の作成に必要な基本的な知識を習得することを目的としている。
主な到達目標	・ 幼児期の発達特性に応じた幼児教育の在り方について説明ができる。 ・ 幼稚園教育における教育課程、指導計画の意義について説明ができる。 ・ 社会や地域のニーズ、各幼稚園の理念を踏まえたうえで、教育課程の編成を比較したり、それにも基づく指導計画を分析・評価したりすることができる。 ・ 年齢（育ち）に応じた指導計画の作成のポイントを説明することができる。 ・ 幼稚園教育要領に基づき、目前の子どもを適切にとらえた指導法を思考することができる。 ・ 幼稚園教育の特徴と意義を教育課程の中に見出し、総括することができる。
テキスト学修の留意点	学術的とも、実践的とも言える内容の広がりがあるテキストで読み応えのあるものである。世界的な視点と歴史的な視点から、カリキュラムの根本について学びが進められると考える。学び終えた時に感じられる知識の豊富さ、実践的な感性が磨かれることを期待してほしい。

	学修テーマ	課 題
1	保育現場を知る	働くだろう者として保育現場の理解を深め、そのなかで専門性をもって職務にあたるということとはどのようなことか、また、その証としての保育計画立案の重要性を理解する。（はじめに、第1章）
2	保育の専門性としての子ども観と保育の計画・評価	今日の幼児教育の理念がどのように成立したかを概観する。そのうえで、計画の必要性とはなにか、子どもの育ちと保育内容や方法の評価の在り方とはどのようなものかを学ぶ機会とする。（第1章2、3）
3	保育方法と保育内容の変遷（1）	日本における幼児教育のカリキュラムがどのように生まれてきたか、カリキュラムとは何かを探る。そして、社会の要求と共にどのように変化してきたかを学ぶ。（第2章1-1）
4	保育方法を保育内容の変遷（2）	保育の方法とその内容の成り立ちの時期（1900年前後）から1955年頃までの保育を振り返る。（第2章1-1～4）
5	保育の方法と保育内容の変遷（3）	保育の方法とその内容について、1956年から今日までの保育理念と実践から振り返る。（第2章1-5～7）
6	保育における計画の重要性	幼稚園教育要領・保育所保育指針の中に見られる計画に関する考え方を理解する。（第2章2～5）
7	保育におけるカリキュラム観	なぜカリキュラムという概念が生まれたのかという発祥論から、今日のカリキュラム論に至るまでの歴史的なカリキュラム観の変遷をたどる。（第3章）
8	保育カリキュラムの実際（1）	教育課程・保育課程とは何か、指導計画との関係はどのようなことかを知る。（第4章1～2）
9	保育カリキュラムの実際（2）	幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と保育課程との関係と、課程編成における基本的な手順を学ぶ。
10	保育カリキュラムの実際（3）	さまざまな時代、さまざまな地域で展開された代表的な保育実践を振り返り、その中に見られるカリキュラム観を知り、今日の保育に求められるカリキュラム観を学ぶ。（第5章）
11	教育課程・保育課程と指導計画（1）	教育課程・保育課程と指導計画の違いとその関係性を学ぶとともに、指導計画の作成の意義を知る。（第6章1-2）
12	教育課程・保育課程と指導計画（2）	指導計画のさまざまな様式と指導計画の作成の手順を学ぶ。（第6章3-4）
13	保育の質の評価と記録	保育をどのような視点から評価するか、保育を高めるためにどのような工夫が必要なのかを学ぶ。また、評価のための記録とはどうあるべきかを学ぶ。（第7章1-3）
14	保育の質の向上を目指して	保育の質の向上を目指した保育研修・研究の在り方を学ぶ（第7章4）
15	子どもの育ちの評価と小学校との連携	子どもの育ちをいかに評価し、いかに残していくのかを考える。また、法的位置づけとして義務付けられる要録とは何か、その内容の理解を深めるとともに具体的な扱い方、記載の方法などのかを学ぶ。（第8章）

シラバス執筆：宮崎 豊

レポート課題

第1分冊 宮崎 豊

第2分冊 宮崎 豊

第1分冊 〈略題〉幼稚園教育の基礎と教育課程 第1回～第10回

横書き指定

Word添付

〈課題〉

幼稚園教育は「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的指導」という理念に基づき行われるものとされる。なぜそのような理念に基づくのかその理由を論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストのみならず、『幼稚園教育要領解説』をていねいに読みレポートを作成すること。

〈評価の観点〉

- ①環境を通して行う教育とはどのようなことを説明できる。
- ②遊びを通しての総合的指導とはどのようなことを説明できる。
- ③なぜ、①②の理念に基づく教育を行うのかを説明できる。

〈その他の注意点〉

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針は最新のものに目をとおすこと。インターネットから最新の情報をダウンロードできるので自己学習を進めること。

第2分冊 〈略題〉幼児の育ちの把握と教育課程・指導計画 第11回～第15回

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教育課程と指導計画とはなにか、また、その関係性とはどのようなものかを説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①幼稚園教育を行うために位置づけられている法律とそれぞれの関係性を理解してレポートを作成すること。
- ②日々の保育の営みを立案する際の、子どもの実態把握、計画、実践、評価というキーワードを使いながら論じること。
- ③保育の記録の重要性についても、教育課程、指導計画との関係で考慮してレポートを作成すること。

〈評価の観点〉

- ①幼稚園で日々の保育が組み立てられる理論的手順を説明できる。
- ②教育課程、指導計画（短期と中・長期）についてそれぞれの定義を説明するとともに、それらの関係性を明らかにすることができる。
- ③日々の保育の評価とはなにかを説明することができる。

〈その他の注意点〉

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針は最新のものに目をとおすこと。インターネットから最新の情報をダウンロードできるので自己学習を進めること。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814475 ＊1
 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814482 ＊2
 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814499 ＊3
 河邊貴子『遊びを中心とした保育—保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林、2005年5月、ISBN 9784893470874
 文部科学省『指導と評価に生かす記録（幼稚園教育指導資料）』チャイルド本社、令和3年10月、ISBN 9784805403099 ＊4
 ＊1～4 は 最新版を使用すること。

科目試験等への
アドバイス

教育課程・指導計画を編成するための基本的な理論とその具体的な手順をしっかりと習得しておくこと。また、その裏付けとなる幼児教育の歴史についても学んでおくこと。時代の流れとともに社会で求められる教育の在り方は、実践の積み重ねのなかで探求されるものである。よって、歴史的変遷をおろそかにしないこと。

教員からの
メッセージ

教育課程は各幼稚園によりその構成内容と形式が異なることが前提である。普遍的な基本的事項をしっかりと学ぶことにより、多くの実践に対応する視点を培うことになる。「発達心理学」「教育心理学」「教育原理」「保育内容総論」などが関連科目であるので相互的に補い理解を深めてほしい。

科目概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示される、子ども主体の保育とはどのようなものなのか。子どもの発達特性を踏まえて、指導のあり方について学ぶ。
主な到達目標	・乳幼児期の発達特性を踏まえ、子どもの立場に立った指導のあり方を理解する。 ・多くのエピソードをとらえて、集団の中の「個」と内面理解を大切にしていける視点を養う。
テキスト学修の留意点	・課題について、学修指導書を参考にテキストを熟読してから理解を深めること。 ・レポート作成は、課題について学修してから取り組むこと。 ・「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」に十分注意すること。

	学修テーマ	課 題
1	保育方法とは何か	第1章 ・保育方法と保育方法のポイントを理解する。 ・『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示される保育方法について学ぶ。(平成29年告示の最新版を参考にしてください。文部科学省、厚生労働省HPからダウンロードできます)。
2	子ども理解にもとづいた保育方法と評価	第2章 ・なぜ子ども理解が必要なのか。その意味を考える。 ・子どもの内面理解を支え発達を促せる視点を考える。 ・子ども主体の学びへの評価について学ぶ。
3	子どもにふさわしい園生活と保育形態	第3章 ・乳幼児期にふさわしい遊びを学ぶ。 ・様々な保育形態を学び、子どもにふさわしい園生活とは何か考える。
4	養護と教育が一体となった保育の方法	第4章 ・「養護」とは何か理解する。 ・「世話をする」という行為について考える。 ・心のケアと「養護と教育が一体となった教育」について学ぶ。
5	環境を通した保育の方法	第5章 ・保育の場における環境について学ぶ。 ・なぜ環境を通しての保育が大切なのか理解、環境構成の工夫について考える。
6	遊びを通した保育の方法	第6章 ・子どもにとっての遊び、保育における遊びとは何か学ぶ。 ・乳幼児期の遊びはなぜ大切なのか考える。 ・遊びが豊かになるための援助について学ぶ。
7	個と集団を活かした保育の方法	第7章 ・保育における「個」と「集団」を考える。 ・集団の中で「個」を大切にする保育の視点について学ぶ。 ・個と集団を活かした保育について学ぶ。
8	0・1・2歳児の発達に応じた保育方法	第8章 ・乳児がはじめて保育を経験するということを考える。 ・乳児の主体的な遊びと生活について学ぶ。 ・乳児期の発達と遊びについて理解する。
9	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法	第9章 ・幼児期の安心して自己発揮できるように成長していく時期について学ぶ。 ・友だちとの関わりの中で育つものについて理解する。 ・友だちとの関わりが深まった時期の保育について学ぶ。
10	保育の計画・実践・評価	第10章 ・簡単な指導案を書いてみる。 ・保育の「計画」は必要と、計画に大切な視点について理解する。 ・保育の「計画」と「実践」の関係と「評価」へのつながりを考える。
11	家庭・地域との連携した保育	第11章 ・子育ての現状について理解する。 ・保護者との連携の方法を学ぶ。 ・地域との連携が活かされる保育について考える。
12	小学校との接続のデザイン	第12章 ・学ぶ場所としての小学校について学ぶ。 ・小学校教育の背景の変化について学ぶ。 ・「遊び」と「学び」、「勉強」と「学び」の違いとは何か考える。

13	配慮を要する子どもへの保育方法	第 13 章 ・発達障がいを理解する。 ・障がいのある子どもを含む保育について学ぶ。 ・外国とかかわりのある子どもへの保育について学ぶ。
14	教材や情報機器を活かした保育方法	題 14 章 ・保護者に向けた情報発信のツールを考える。 ・保育環境への活用を考える。 ・アナログとデジタルの活用を考える。
15	まとめ	幼児指導が目指すものを子どもの発達と合わせて考察する。

シラバス執筆：上田 よう子

第1分冊 〈略題〉環境を通した保育 第1章～第6章

横書き指定

Word添付のみ

〈課題〉

環境を通した保育とはいかなることか。幼児の特性、保育者の役割に触れてテキストから学修したことが分かるように述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第1章～第6章を熟読してから論ずる。
- ②『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。
- ③参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。ホームページについては、タイトルおよびURL、閲覧日を記載すること。テキストも参考文献として記載する。
- ⑤学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ①課題に対して、第1章から第6章までを熟読してテキストから学修したことを的確に論じられているか。
- ②自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ③誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ④引用は明示しているか。
- ⑤引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

第2分冊 〈略題〉発達理解と保育の計画 第7章～第14章

横書き指定

Word添付のみ

〈課題〉

「個」と「集団」が活かされる保育とはどのようなものか。保育計画を考える際の留意点、保護者への連携と関連付けながら、テキストから学修したことが分かるように述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第7章～第14章を熟読してから論ずる。
- ②『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。発達理解については、特に活用すること。
- ③参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。ホームページについては、タイトルおよびURL、閲覧日を記載すること。テキストも参考文献として記載する。
- ⑤学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ①課題に対して、第7章から第14章までを熟読してテキストから学修したことを的確に論じられているか。
- ②自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ③誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ④引用は明示しているか。
- ⑤引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

参考文献

『幼稚園教育要領(平成29年告示)』『保育所保育指針(平成29年告示)』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』

科目試験等への アドバイス

『幼稚園教育要領』を基とし、テキスト学修を進めてほしい。
テキストから学んだことが分かる内容で書くこと。
テキストを熟読してから臨むこと。

教員からの メッセージ

学びは自分のためであると同時に、教師となって出会う子どもたちのためであることを自覚して、真摯に取り組んでほしい。

TT0461 幼児理解と教育相談

2単位

テキスト名

小田豊・秋田喜代美編
『子どもの理解と保育・教育相談』
(株) みらい

科目概要	昨今幼稚園・小学校などにおけるかかわりの難しい子どもや保護者の対応の困難性が取り沙汰されることが増加している。そのような社会的状況を踏まえ、本科目では幼児教育に焦点を当て、幼児の理解の方法と実践における活用、保護者の思いを受け止めることの重要性などについて、教科書を中心に学び、教育相談のあり方を検討することを中心に進め、保育者の専門性を高めることを目的とする。
主な到達目標	・ 幼稚園・保育所などにおける現代的課題の理解とその対応。 ・ 幼児を理解することの重要性とその手法について事例を通して学ぶ。 ・ 保育者として保護者と相談するために必要な姿勢や態度を学ぶ。
テキスト学修の留意点	テキストには幅広い内容が保育者の専門性向上を目的として記述されている。教科書は記憶するものではなく、現実的な幼稚園などにおける課題に常に目を向ける必要がある。そのため、第二部の事例を常に参照しながら、理論的な側面や方法論のみに注目するのではなく、実際に保護者に対応することを想定して学習を進めて欲しい。

	学修テーマ	課 題
1	カウンセリングマインドとは何か	・ 保育・教育相談のあり方と今日的課題を知る ・ 保育に求められるカウンセリングマインドが理解できる ・ 幼稚園における教育相談とは何か
2	子どもの発達的理解	・ 幼児期の発達的理解とは何か ・ 発達的理解と相談・支援の関係を学ぶ
3	保護者への対応①	・ 親子関係の支援とは何か ・ 具体的な支援の方法論を知る
4	保護者への対応②	・ 保護者からの要望をどのように捉え、対応することが必要か ・ 受け止めることと伝えること、その具体的な対応について知る
5	保護者への対応③	・ 親が育つための発達支援とは何か ・ 親が育つために必要なことについて知る
6	発達障害について①	・ 発達障害とは何か ・ 発達障害や気になる子どもへの具体的支援について知る
7	発達障害について②	・ 発達障害や気になる子どもの保護者へのかかわりについての考え方を知る ・ 保護者へのかかわりについて保育者が留意すべきことは何か
8	子ども理解のための発達理論①	・ 子どもを理解することとはどういうことか ・ アセスメントとは何か
9	子ども理解のための発達理論②	・ カウンセリングとは何か ・ カウンセリングに必要な基本的考えとは何か
10	カウンセリング①	・ カウンセリングの基本を学ぶ ・ 保育におけるカウンセリングの基本とは何か
11	カウンセリング②	・ カウンセリング技法について学ぶ ・ ワークを通してカウンセリング技法を具体的に学ぶ
12	連携による相談支援	・ コンサルテーションとは何か ・ 専門家と社会支援を具体的に学ぶ ・ 連携とは何か
13	保育者の専門性	・ 保育者の専門性と相談活動の具体的な場面を事例から学ぶ ・ 倫理綱領とは何か ・ 園内、園外の連携とは何か
14	基礎的対人関係の実践	・ エクササイズから対処法を具体的に学ぶ ・ 事例を通して学習者自身の課題を探る
15	事例研究	事例の1～10までを丁寧に読み、具体的な事例の中にあるポイントを解釈し演習課題を実施する ・ 積み重ねを通して自身の課題と今後の学習の方向性を定める

シラバス執筆：若月 芳浩

レポート課題

第1分冊 若月 芳浩

第2分冊 若月 芳浩

第1分冊 〈略題〉教育相談と専門性 第1部 第1章～第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

保育者として必要な教育相談に関する理論と実践について整理する。その中で、保育者の専門性として身に付けるべきことを具体的に上げた上で、第二部の事例から二つを取り上げ、その対応のあり方について具体的に考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

教科書全体を熟読し、理論と実践の関連をしっかりと整理する。その上で、保育者の専門性として、幼児の理解などの重要性をしっかりと理解した上で、事例を読み、考察する。この課題を実施するためにはシラバスを有効に活用した上で、順序よく学ぶ必要がある。事例を取り上げなかった場合は評価の対象としないので注意すること。

〈評価の観点〉

- ・理論と実践が整理されていること
- ・専門性について触れていること
- ・事例を丁寧に考察していること

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

第2分冊 〈略題〉幼児理解と保育・教育相談 第2部 事例編

横書き指定

Word添付

〈課題〉

幼児の理解はなぜ必要であるか、第二部の事例から三つを取り上げ、一つずつの事例から、幼児の理解と保育・教育相談の関係について導き出すこと。なお、第一分冊の事例と重ならないように注意すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・幼児理解がなぜ必要であるか、この点は明確にすることが必要である。特に理解と相談の関係を事例から導き出すことが必要である。その際第一分冊と同じ事例を使わないこと。

〈評価の観点〉

- ・幼児理解が必要である理由が明確化されていること
- ・事例が三つ、必ず取り上げられていること
- ・幼児理解と相談の関係が導き出されていること

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

参考文献

『幼稚園教育要領解説』

科目試験等への
アドバイス

この科目は、保育の現場や子どもにかかわる仕事において重要な位置づけとなっている。特に保護者の対応は今後益々重視される。よって、教科書に書かれている内容に対して、理論的理解は必須である。更に、得た知識を実際の場面で活用出来る力が求められる。そのためには、実際に起きている相談事例に注目することが必要である。事例の中からケースに出会い、幅広い対応と知識を身に付けることが科目試験のために必要な課題である。

教員からの
メッセージ

保護者への対応は具体的なレベルで実践出来る力が保育の現場では求められている。この科目をしっかりと受講し、家族支援や子育て支援に役立つ知識を身に付けて欲しい。

科目概要	科学の進歩はめざましく、科学知識の量も加速的に増え、学校における理科教育の重要性についてもますます大きくなっている。これまで学んできた小学校・中学校及び高等学校理科の基本的事項について、小学校理科の内容理解を深めることを目的に、学校の教師としてぜひ理解しておきたい事項について理解を深める。
主な到達目標	・科学一般の基本的な概念を自分の言葉で話したり書いたり、計算したりできること。 ・科学のおもしろさに興味をもつようになること。 ・身近な現象を見直して、現象を科学的に見ることが出来る楽しみをもつこと。 ・小中学校における理科学習指導が円滑にできるように知識や科学的な見方・考え方を身につけること。
テキスト学修の留意点	・テキストを読むだけでなく、実験や観察を行い、現象と結びつけて理解するよう努めること。 ・テキストは必ず全文をよく読み、理解すること。また、参考図書や中学校の教科書等を用いて理解を深めること。 ・原理、法則、用語等は、必要に応じて図や絵で示したり、具体例などを示したりして、わかりやすく説明できるようにすること。 ・各課題に取り組む際は、課題の内容を十分理解し、わかりやすく説明できるようにすること。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 重さと質量	科学を学ぶ上で、最も基本となる、質量や体積などものの量の単位について学ぶ。 重さ、質量、重力、体積、フックの法則、容積、密度、浮力
2	第2章 力とてこ、ふりこ	力の基本的な概念の理解を図り、原理について学ぶ。 てこ、支点、力点、作用点、力のモーメント、輪軸、ふりこ、周期、摩擦力、運動の第一法則、慣性の法則、等速直線運動、放物線
3	第3章 電気回路	物理の基本となる電気に関する法則、原理を学ぶ。 回路、端子、導体、電流、電気抵抗、直列つなぎ、合成抵抗、電圧、並列つなぎ、電流の磁気作用
4	第4章 熱の移動と熱膨張	物理の基本となる、熱現象についての原理を学ぶ。 温度、熱平衡状態、熱量、カロリー、比熱、熱伝導、放射、熱膨張、対流、摩擦熱、電子レンジ
5	第5章 物質の構成と原子・分子	化学の現象を理解するうえで基本となる、物質の構成、原子や分子について学ぶ。 金属、合金、物体、物質、原子、元素、周期表、放射性元素、質量保存の法則、定比例の法則、原子、分子、原子核、電子、モル (mol)、同素体
6	第6章 物質の状態変化	化学の基本である、状態変化について学ぶ。 状態変化、気体、液体、個体、状態、水蒸気、蒸発、沸騰、融解、凝固、昇華、液化、気化、気化熱、湯気、沸点、融点
7	第7章 溶解・水溶液	化学の基本である、溶解と水溶液について学ぶ。 溶解、均一、溶媒、洋室、水溶液、拡散、ろ過、抽出、コロイド、飽和、溶解度、濃度、質量パーセント濃度、モル (mol) 濃度、酸性、アルカリ性、塩基、水素イオン、中性、中和
8	第8章 燃焼・酸化・還元・化学変化	化学の基本である、燃焼・酸化・還元・化学変化について学ぶ。 燃焼、酸化、化学変化、炎、還元
9	第9章 生物の分類	生物学の基本である、分類について学ぶ。 進化、共通性、系統、階層、ドメイン、植物、動物、菌、原生生物、分類、五界説、三ドメイン説、裸子植物、被子植物、単子葉植物、双子葉植物、真核生物、原核生物
10	第10章 植物	生物学の基本である、植物について学ぶ。 植物、双子葉植物、単子葉植物、シュート、維管束、葉腋、光合成、呼吸
11	第11章 動物	生物学の基本である、動物について学ぶ。 動物、消化、吸収、消化酵素、排出、血液循環、体循環、肺循環、糸球体
12	第12章 地球と宇宙	地学の基本である、地球と宇宙の構成について学ぶ。 満月、新月、月齢、天動説、地動説、南中、日周運動、月食、日食、黄道、恒星、惑星、天の川
13	第13章 地殻	地学の基本である、地球とその変動について学ぶ。 堆積岩、火成岩、変成岩、鉱物、侵食、運搬、堆積、化石、地殻、プレート、プレートテクトニクス、活断層
14	第14章 天気と気象	地学の基本である、天気と気象について学ぶ。 気象、対流圏、成層圏、露点、飽和水蒸気量、偏西風、台風
15	全体のまとめ	これまでの学習を振り返り、環境問題やこれからの科学の進歩と社会のかかわりについて学ぶ。 各章で学んだことと、現在の環境問題や科学の社会的な問題について課題を持ち、自分なりに調べる。

シラバス執筆：石井 恭子

レポート課題

第1分冊 酒井 浩明

第2分冊 鈴木 明子

第1分冊 〈略題〉物理・化学 第1章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の4つの課題から2つ選び、必ず実験を行い、方法、結果、考察を写真、図や表、グラフなど適した方法で表し説明しなさい。

1. アルキメデスの原理を使って10円玉と1円玉の体積と質量を量って密度を求め、理論値と比較し考察しなさい。
2. 水を熱して沸騰するまでの時間と温度の関係を二つの条件(水の量や火加減、蓋の有無など)で比較し考察しなさい。
3. 紫(赤)キャベツ試験液等を使い身の回りの水溶液の性質(酸性アルカリ性等)を調べ考察しなさい。
4. 豆電球及び電池の直列、並列つなぎについて、豆電球の明るさや回路の各点における電流の大きさを調べ考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・レポートに取りかかる前に、各章の内容を良く理解し、EduTrackの講義室に掲載している「(教科)理科」学修指導書や「レポート作成 参考資料」に目を通してから、レポート全体の作成構想を立て、必ず自分で実験や調査を行うこと。
- ・レポートは、項目立てを行い、必要に応じて図や表、グラフなども用いて読み手に分かり易く作成し、実施した実験状況や結果などがわかる写真を必ず添付すること。

〈評価の観点〉

- ・問題に対して、深く調べるなどして、適切な実験等を行い、自力で解決して解答を導いているか。
- ・解答を導くための過程が丁寧に示され、図示するなど適した方法を活用し、読み手に分かりやすい記述がされているか。
- ・解答が不十分なもの、未回答、留意事項が遵守されていない場合は、減点あるいはD評価とする。

〈その他の注意点〉

レポート課題集で示されている字数、形式にこだわらなくても良いが、EduTrackの講義室に掲載している「レポート作成参考資料」に示した項目立てを参考にすること。

第2分冊 〈略題〉生物・地学 第9章～第14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 1 身近な生活圏に生育している昆虫などから3種選んで継続して観察し、全体と部分の写真、スケッチ等を添付し、それぞれの観察記録とともに、分類及び生態の視点から分かり易くまとめなさい。(観察できた月日・時間、天気(気温)、場所等を明記した単一ではない何枚かの観察記録)
- 2 私たちが生活する日本には、四季があります。なぜでしょうか、また四季にはどのような特徴があるのでしょうか。季節変化が起きる理由とそれぞれの特徴について、地球の公転と関連づけ図などを用い論ずるとともに証明する気象データ、実験を加え分かり易く説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・レポートに取りかかる前に、各章の内容をよく理解するとともに、参考文献等からも積極的に学び、必要であれば実験や調査も行う。
- ・レポートは、できるだけ図や表なども用いて分かり易く作成する。
- ・課題1については、実際に野外に出て対象物を見つけ、必要に応じた観察や採集などを通してまとめる。

〈評価の観点〉

- ・課題を正しく理解するとともに、深く調べるなどして、自力で解決して解答を導いているか。
- ・解答を導くための過程が丁寧に示され、図示するなど適した方法で記述されているか。
- ・解答が不十分だったり、留意事項及び評価の観点が遵守されたりしていない場合は、再提出となる。

〈その他の注意点〉

- ・レポート提出要領で示されている既定の字数や形式にはこだわらなくて良い。必要に応じて、文章だけでなく、図や表、グラフなど適した表現方法を心がけること。

参考文献

- ・中学校・高等学校の理科の教科書
- ・「大人のやりなおし中学物理」「大人のやりなおし中学化学」「大人のやりなおし中学生物」「大人のやりなおし中学地学」講談社ブルーバックス

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験の出題範囲は、テキスト全体となる。本シラバスに示された用語について、説明できるようにしておく。
- ・テキスト内のゴシック体で示されている原理、法則、用語等を200字～300字程度で説明できるようにしておく。
- ・章末の演習問題にしっかりと取り組んでおく。
- ・第一分冊(物理・化学)と第二分冊(生物・地学)の分野からそれぞれ1題は出題するので、テキストを全部学修してから受験すること。

教員からの
メッセージ

- ・科学を学ぶには、本を読むだけでなく、現実世界の事物現象を観察することが大切です。テキストを読みながら、身の回りの自然を観察し、実験を行い理解を深めてください。
- ・大人の学び直し用の図書が書店に並んでいます。読みやすい本を手にとって、楽しく学んでください。『発展コラム式中学理科の教科書』講談社ブルーバックスなど。

科目概要	理科指導法では、学習指導要領にある小学校理科教育の目標やその内容及び指導法について理解する。内容や指導法についての理解にあたっては、基盤となる科学的な概念についての理解が必修であり、具体的な授業案を想定して学修することとなる。
主な到達目標	(1) 理科教育の今日的な課題、教科としての目標及び指導内容を理解する。 (2) 想定単元についての指導案作成を通して具体的な学習活動、教材を理解する。 (3) 指導法と評価について考え、教師としての指導や助言、支援の在り方を理解する。 (4) 事故防止とともに理科室・準備室の運営について理解する。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを複数回まず通読し、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 『小学校学習指導要領 解説「理科」編』を必ず参照する。 (3) 実際に学校で使用されている理科教科書を参照するとよい。 (4) テキスト各章の課題に取り組み解答の要点をまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	1 章： 理科教育の意義と役割	・教育の目的と理科教育の今日的な意義を理解する。 ・日本の児童・生徒の現状とこれからの理科教育について要点をまとめ理解する。
2	2 章： 理科教育の目標と内容	・小学校理科教育が目指す目標内容を理解する。 ・自然の事物・現象についての理解、観察実験などの技能、問題解決能力、自然を愛する心情などの理解。
3	3 章： 理科教育の変遷	・近代公教育開始時からの理科教育の変遷を調べ「系統性」、「現代化」、「ゆとり教育」、「生きる力」などの教育理念と理科教育、指導方法の変化をまとめ理解する。
4	4 章： 現代の理科の教授学習法	・現代の学習論の基本的な考え方について理解する。 ・現代の学習論を踏まえた学習指導法の基本的な考え方を理解する。
5	5 章： 子どもの考えに基づく理科教育の方法	・子どもの考えに基づく理科指導法の視点、具体化、課題などについて理解する。
6	6 章： 理科学習評価の視点とその方法	・理科学習評価の基本的な視点と理科学習指導に生かす評価
7	7 章： 理科教育の指導法	・理科における「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「見方・考え方」を働かせる理科授業
8	8 章： 学習指導計画の作成	・カリキュラム・マネジメントと理科の学習指導計画 ・各学年の年間指導計画
9	9 章： 学習指導案の作成	・学習指導案作成の意義とその役割、作成のポイント
10	10 章： ICTの活用とプログラミング教育	・ICTの活用とプログラミング教育
11	11 章： 「エネルギー」を柱とする領域の授業づくり	・学習のねらいと内容 ・「エネルギー」の学習教材の研究と開発、学習指導法と実践
12	12 章： 「粒子」を柱とする領域の授業づくり	・「粒子」の学習教材の研究と開発 ・「粒子」の学習の指導法と実践
13	13 章： 「生命」を柱とする領域の授業づくり	・「生命」の学習のねらいと内容 ・「生命」の学習教材の研究と開発、指導法と実践
14	14 章： 「地球」を柱とする領域の授業づくり	・「地球」の学習内容、学習教材の研究と開発 ・「地球」の学習指導法と実践
15	15・16 章： 理科室経営と安全指導、飼育・栽培活動の指導	・理科室経営、事故事例、実験器具の安全な取り扱い、薬品の管理 ・飼育・栽培・採集の意義と役割、その指導

レポート課題

第1分冊 八嶋 真理子

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉・対話的な授業の原理と理科指導 第1章から第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

・「対話的な授業の原理」を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るには、どのように理科の授業を行うのか、問題解決の過程で、どのような具体的方策が有効であるのか、考えを述べなさい。前述した考えに基づいてどのように理科指導を行うのか、単元を構想して、単元全体時間の指導計画と1単位時間を選び具体的な指導案を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト全部を参考にして考えをまとめてください。
- ②テキストや学習指導要領解説理科編などの文章の引用は極力まとめ「 」でくり、引用の部分について考察を加えてください。
- ③指導事例は、テキストの実践事例を参考として、他の指導事例で論述してください。
- ④見出しを必ず書き章立てをしてください。(例：1「〇〇を育成する理科指導事例」)
- ⑤具体的な単元指導概要(案)はテキストの様式を参考としてください。

〈評価の観点〉

- ①理科教育を自ら推進しようという立場から論述しているのか。
- ②設問についての的確に理解し「対話的な授業の原理」「理科における主体的・対話的で深い学び」「問題解決の過程」等について求められる課題を理解しているか。
- ③②で述べた理解内容を基に学習指導要領で示す理科の目標に準拠してテキスト掲載以外の指導事例を具体的に論述しているか。
- ④留意事項を守っているか。
- ⑤上記①から④項目について不十分、下記〈その他の注意点〉について守られていない論述は不合格とする。

〈その他の注意点〉

- ・引用文は、かぎカッコで明示ください。
- ・参考文献、インターネット等からの参考資料は、レポート最後に明記ください。
- ・ワープロで作成する場合は、活字12ポイント、明朝体で記述ください。

第2分冊 〈略題〉「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」を育てる指導 第11章から第16章

横書き

ワード添付

〈課題〉

2020年度より、小学校理科を通して育成を目指す3つの資質・能力が明確になりました。この3つの資質・能力について説明しなさい。また、指導領域「生命」の中の「第6学年(3)生物と環境」について、この「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」を育てるためにはどのような指導を行うことが良いのかについて、具体的な例を挙げながら述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」について説明しながら論じてください。
- ②本課題に対しての自分の考えや考察したことを述べてください。
- ③レポート作成のために参考にした本や文献は明記してください。

〈評価の観点〉

- ①3つの資質・能力について詳しく説明しているか。
- ②「生命の多様性と共通性の見方」について述べられているか。
- ③「第6学年(3)生物と環境」における具体的な例を挙げながら述べているか。

〈その他の注意点〉

- ①「理科指導法」テキストをよく読み、自分の考えをまとめておくこと。
- ②小学校学習指導要領理科解説、教科書、市販されている理科実践集などを参考にして、より理解を深めてください。

参考文献

- 『小学校学習指導要領 解説 「理科」 編』
- テキスト各章末参考文献

科目試験等への
アドバイス

- (1) 出題範囲は、テキスト全体である。
- (2) 学習指導要領の教科目標についてその内容を分析し説明できるようにする。
- (3) 解答にあたっては、学習指導要領から引用するなど論述根拠を明確にする。
- (4) 問題をよく理解し求められる内容についての的確、簡潔に解答する。

教員からの
メッセージ

- (1) 学習の基本はテキストの熟読、内容理解である。各章や節の要点を自らまとめることが学習の近道である。
- (2) レポート作成にあたっては、テキストや学習指導要領の理解に基づき論述することが求められる。文章を論理的に構成しまとめて欲しい。

科目概要	気候変動や感染症の問題を抱え、そして多様化する社会において、心の健康は全ての人にとって大切なテーマである。臨床心理学は、心の悩みを理解し、心理学的な視点からの援助のための心理学の方法の一つであり、他と異なる特徴として、研究と実践のある学問である。心を理解し支援するための基礎的な方法を概観し、応用に進むことができるよう知識を身に付ける。
主な到達目標	臨床心理学の応用は、医療・教育・福祉・司法・産業の5領域となり、実践にはさまざまな知識や技能が必要とされる。本科目では、そのための基礎を学ぶ。具体的には、心理学の中での臨床心理学の位置付けを知り、臨床心理学を概観し、臨床心理学の視点から社会を見ることができるよう学修をする。さらには、心理的問題の解決をするための知識と技能を身に付ける。
テキスト学修の留意点	臨床心理学の成り立ちを学び、心理療法を一つずつ学ぶことにより、心へのさまざまなアプローチを学ぶ。さまざまなアプローチを知ることにより、心理的問題への理解を深める。

	学修テーマ	課 題
1	第1部 第1章	臨床心理学の簡単な説明を読むと同時に、公認心理師という専門資格について学修する。公認心理師資格は国家資格として2017年に開始した資格であり、臨床心理学の専門職である。
2	第2章	臨床心理学がどのように役立つかということ、実践、アセスメント、ケースフォーミュレーション、介入などの側面から学修する。
3	第3章	臨床心理学を学ぶことと、公認心理師を目指すことは別次元のことである。本講座では、公認心理師を目指す学生は少ないと考えるが、そのような資格があることを知るために本章を学修する。
4	第II部 第4章	臨床心理学の成り立ちを学修する。臨床心理学の歴史、日本における臨床心理学の混乱と発展を学ぶ。
5	第5章	臨床心理学には実践と研究がある（臨床心理士資格のなかには、研究が位置付けられている）。臨床心理学における研究について学ぶ。
6	第6章	臨床心理学は心だけを対象としているわけではない。生物～心理～社会モデルというように、身体や社会からの視点も大切であり、それらの視点からのチームアプローチを学ぶ。
7	第7章	心理療法のうち、クライアント中心療法について学修する。クライアント中心療法はカール・ロジャースが提唱した心理療法である。その理論と実践などを学ぶ。
8	第8章	心理療法のうち、精神分析について学修する。精神分析は無意識という概念を発見した力動的な心理療法である。心の奥底までを探る学問であり、心理療法である。
9	第9章	心理療法のうち、行動療法について学修する。行動療法は文字通り行動にアプローチする方法である。学修の原理と行動療法の関連などを学ぶことを通して、行動療法が心にどのように作用するのかを学修する。
10	第10章	心理療法のうち、認知行動療法について学修する。認知行動療法は、文字通り、認知と行動にアプローチをする心理療法である。認知モデルなどを学び、認知にアプローチすることで、変容を生じさせる過程などを学修する。
11	第11章	ここからは、心理社会的アプローチを学ぶ。その一つ目として、システム論の中でも、家族療法・カップルセラピーを学ぶ。
12	第12章	コミュニティアプローチとして、コミュニティ心理学を学ぶ。コミュニティ、すなわち地域の中で生活を支えるための臨床心理学のアプローチを学ぶ。
13	第13章	社会構成主義のなかでもナラティブ・アプローチを学ぶ。心の問題のなかには、社会問題かするものがある。それらを物語として理解していく臨床心理学を学ぶ。
14	復習（1～7章） 考えてみよう	各章の章末に「考えてみよう」という項目があります。各章の復習となりますので、確認してください。 p169から回答のためのヒントが書かれていますので参考にしてください。
15	復習（8～13章） 考えてみよう	各章の章末に「考えてみよう」という項目があります。各章の復習となりますので、確認してください。 p169から回答のためのヒントが書かれていますので参考にしてください。

シラバス執筆：原田 眞理

レポート課題

第1分冊 原田 眞理

第2分冊 原田 眞理

第1分冊 〈略題〉臨床心理学 テキスト第1章から6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

精神医学と臨床心理学の相違点を述べなさい。さらに、臨床心理学の実践における、アセスメント、ケース・フォーミュレーション、介入を心太くんの例を持って説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

心太君の事例はテキスト第2章に書かれている。しかしテキストの丸写しをした場合はF評価となる。実践活動についての課題のため、自分なりに考えて論じること。

〈評価の観点〉

1. 精神医学と臨床心理学の相違点が理解できているかどうか。
2. 臨床心理学の実践活動に必要な、アセスメント、ケース・フォーミュレーション。介入の意味が理解できているかどうか。
3. 事例に対する自分の考えを臨床心理学の実践活動として述べることができるかどうか。

〈その他の注意点〉

臨床心理学の定義を確認しておくこと。公認心理師に興味のある学生は公認心理師資格についても厚労省のページをインターネットで調べたり、公認心理師の本を読むと理解が深まるであろう。

第2分冊 〈略題〉心理療法 テキスト第7章から13章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

1. クライアント中心療法、精神分析、認知行動療法について、それぞれを簡単にまとめなさい。
2. テキスト 77 ページの事例を読み、クライアント中心療法の立場から、相談への応答例（3行以上）を書いてください。
3. その際、どのような点に気をつけて相談にのった（話を聴いた）のか、ポイントを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- テキストを学修し、心理療法について学修したうえで、3つの心理療法をまとめること。
2. について、79 ページを参考にして良いですが、写しただけでは解答になりません。

〈評価の観点〉

1. それぞれの心理療法の特徴を理解しているかどうか。
2. クライアント中心療法を理解して、応答ができているかどうか。
3. 漠然と応答したのではなく、ポイントを考えながら応答しているかどうか。

〈その他の注意点〉

クライアント中心療法は、学校場面でもっとも多く用いられている方法である。実践することができるようになるためには、テキストの課題も解答すると理解が深まる。

参考文献

このテキストは概論のため、それぞれの心理療法についての本を読むと、その心理療法について学修することができる。

科目試験等への
アドバイス

科目試験はテキスト全範囲から出題します。テキスト1冊をきちんと学修すること。
本科目試験では、テキスト学習がきちんと成されてるか、すなわちテキストの内容を理解し、説明できるかを重視する。そのため、解答において、テキストに書かれたキーワードなどを用いて、テキストで学習したことを解答すること。その後自分の考えを論じることが望ましい。自分の考えのみを論述されても、基本的な概念が学習されているかが測れないため、減点の対象となる。
特に臨床心理学は、心を対象とするため、経験や主観的な考えで課題について答えることも可能となる。しかしそれでは経験則であり、客観的根拠のない感想文になってしまう。試験やレポートは、テキストを学び、それを基に事例を考え、学びと実践が結びつくことが大切である。

教員からの
メッセージ

臨床心理学は心を対象として、さまざまなアプローチ方法がありますが、科学と実践の双方からの理解が必要です。このテキストは概論のため、非常に基礎の部分しか書いてありませんが、臨床心理学を大まかに学び、興味のあることが見つかった場合は、それぞれの本を学修するのが良いと思います。たとえば精神分析に興味があるならば、古くはフロイトからの本がたくさん出版されています。トラウマ治療などにも使われる認知行動療法に興味がある場合も、たくさん本が出版されています。ぜひ勉強してみてください。

科目概要	近代以降の倫理学の歴史について理解するとともに、倫理学の基本的なテーマとして何が問われ、どのようにこたえられてきたかを整理する。個々の倫理学者の思想を学び、それが現代においてどのような意義をもつか考える。
主な到達目標	・ 倫理学における基本的な論点や主張について、基本的な概念を理解すると同時に、我々の生き方や社会におけるリアルな問題として自分の言葉で具体的に説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・ 基本的な概念に留意し、その意味や内容が分からないときは、テキストの該当箇所に加え、参考文献もしっかりと読み込むことで、十分に理解するよう努める。 ・ テキストは「倫理学／倫理学概論Ⅰ」と「Ⅱ」の合本になっています。「倫理学／倫理学概論Ⅰ」はテキストの「1章～7章」と「15章から17章」です。「Ⅱ」はテキストの「8章から14章まで」です。）該当箇所を間違わないようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	決定論の思想	行為に関する決定論とはいかなる主張か。明らかにする。
2	意志の自由と決定論	決定論に対して、意志の自由の存在がどのような根拠で主張されてきたか。明らかにする。
3	消極的自由と積極的自由	カントが主張する積極的自由とはいかなる意味か。明らかにする。
4	仮言命法と定言命法	カントが主張する定言命法とはいかなるものか。またその現代的意味は何か。明らかにする。
5	カントの義務論	カントの義務論において、義務はどのように分類されているか。明らかにする。
6	個人的快楽主義と社会的快楽主義	個人的快楽主義と社会的快楽主義（功利主義）の内容とその批判とはどのようなものか。具体的に明らかにする。
7	禁欲主義の系譜	古代ギリシャにおける禁欲主義とはいかなる主張か。具体的に明らかにする。
8	ニーチェ思想の特色	ニーチェ思想においては、「生」の概念が重要な意味をもっているが、それはどのように理解したらいいか、考える。
9	ニーチェとペシミズム	ニーチェがペシミズムに対していかなる態度をとっているのか。明らかにする。
10	ニーチェの道德観	ニーチェが旧来の道德や価値に対していかなる主張をしているか。明らかにする。
11	文学作品と時代批判	ヘミングウェイ・スタインベック・ローレンスの作品において、時代批判の意味を考える。
12	現代日本の家族主義	日本の家族主義的道德を、批判的に考察する。
13	世代間の対立	世代間の対立はどのように解決したらいいか、具体的に考えてみる。
14	現代社会における政治・経済	現代社会における政治・経済にみられる道德的問題とは何か、明確にする。
15	科学技術と倫理	科学技術の進歩によって生じた人間疎外の問題を考える。

シラバス執筆：林 大悟

レポート課題

第1分冊 林 大悟

第2分冊 林 大悟

第1分冊 〈略題〉カント倫理学における義務と自由 第1章～第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

カント倫理学における「定言命法」「義務」「自由」の内容、及びそれぞれの関係について、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1章～第7章の中から該当箇所を自分で探すこと。テキストの該当箇所のみならず、参考文献として挙げられている文献などもしっかり読み込んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符(「」)や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。内容を咀嚼した上で分かりやすく自分の言葉で具体的に論述し、自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②参考文献もふまえた上での論述がなされているかどうか。
- ③内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ④最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ⑤ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑥分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
(具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例を作成してください。)

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。参考文献も熟読し、理解した上で記述しないと合格が難しい課題となっています。

第2分冊 〈略題〉ニーチェの道德に関する思想 第15章～第17章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ニーチェが旧来の道德に対して行った批判と、それに代わって主張した新たな道德について、分かりやすく自分の言葉で説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第15章～第17章の中から該当箇所を自分で探すこと。テキストの該当箇所のみならず、参考文献として挙げられている文献などもしっかり読み込んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符(「」)や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。内容を咀嚼した上で分かりやすく自分の言葉で具体的に論述し、自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②参考文献もふまえた上での論述がなされているかどうか。
- ③内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ④最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ⑤ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑥分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
(具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例を作成してください。)

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。参考文献も熟読し、理解した上で記述しないと合格が難しい課題となっています。

参考文献

カント著『道德形而上学原論』岩波文庫
カント著『実践理性批判』岩波文庫
ニーチェ著『善悪の彼岸／道德の系譜』ちくま学芸文庫、特に『道德の系譜』を参照すること。
ニーチェ著『ツァラトゥストラ』上、下ちくま学芸文庫

科目試験等への
アドバイス

・シラバスの内容の中でも、特にレポート課題の内容が重要となります。自分の言葉で説明できるようにしておきましょう。

教員からの
メッセージ

倫理学は、難しいテキストを読み解き、それを自分の言葉で具体的に説明できることが重要です。がんばってください。

科目概要	現代世界の形成にきわめて大きな役割を果たしている西洋の近現代史を、大局的な歴史の流れを捉えるとともに、各時代の特徴を押さえながら学んでいく。
主な到達目標	・ 西洋の近現代の歴史を大局的に捉える ・ 各章で述べられている各時代の特徴を押さえながら、その特徴を生み出している背景を知る。 ・ この学習を契機に西洋の歴史に興味を覚え、現代世界が向かっている方向について考察する。
テキスト学修の留意点	・ 難解な語句は辞書、事典などで調べてからきちんと読みこなす。 ・ 各時代がどのような特徴を持っているか、社会の仕組みはどうであったか確認する。 ・ 各時代がその前後とどのようにつながるか、確認する。

	学修テーマ	課 題
1	近代ヨーロッパの胎動 1	ルネサンス、宗教改革、大航海時代がそれぞれ西洋の近代の始まりを意味する重要な出来事とされる理由を考え、またそれらの歴史的意義、およびそれらが特定の地域で開始された理由を考察する。
2	近代ヨーロッパの胎動 2	上記の三つの出来事はそれぞれ後世に重大な影響を与えたが、それは具体的にどのようなものであったかを、それぞれについて考察する。
3	絶対主義の時代 1	「絶対主義」とは何かを、この体制が盛んだったころの各国の軍事、経済、内政などに注意しながら捉えてみよう。また、西欧と東欧の絶対主義を比較対照し、各々の特徴を明らかにしよう。
4	絶対主義の時代 2	スペイン、イギリス、フランス、プロイセン、ロシアのそれぞれの絶対主義時代について、各国の特徴を押さえながらその概要を述べてみよう。
5	ブルジョワ革命とその余波 1	ブルジョワ革命とは何か。また、アメリカとフランスの革命について、開始に至った経緯、革命の経過とその集結までの一連の流れを大まかに捉えよう。
6	ブルジョワ革命とその余波 2	ナポレオン戦争からウィーン体制までの時代の流れを、当時の国際関係に注意しながら大局的に述べ、その時代が「動」と「反動」の両極対決の構図にあると言われる理由について考察しよう。
7	産業革命とナショナリズム 1	「産業革命」とは何か。またそれがイギリスで最初に起こった理由について調べ、さらにそれによって経済、社会、政治の仕組みがどのように変化していったかを考察し、人類史における大きな転換点となったと言われる理由について考えよう。
8	産業革命とナショナリズム 2	「1848年の革命」とは何か。その発端となったフランスの事件の概要を述べ、それがドイツ、イタリアに与えた影響を、具体的な国民運動に即して明らかにすること。
9	帝国主義の時代 1	19世紀後半のドイツ、イギリス、フランス、ロシア各国の国内情勢についてまとめ、この時代にそれぞれの国が取り組んでいた政治課題について明らかにし、さらに各国の国情の特徴についても考察すること。
10	帝国主義の時代 2	帝国主義とは何か。経済、政治、国際関係の各側面からその概要をまとめ、さらに帝国主義国の内部で社会主義運動が興隆した理由についても考察すること。
11	帝国主義の時代 3	第一次世界大戦はなぜ起こったのかを、帝国主義国同士の対立から考える。三国同盟と三国協商、パン・スラヴ主義とパン・ゲルマン主義、3B政策と3C政策の三つの対立を軸に、当時のバルカン情勢との絡みでまとめること。
12	ファシズムと第二次世界大戦 1	ヴェルサイユ体制と第一次世界大戦後の国際関係、および1920年代の欧米各国の情勢について、特にアメリカの役割に注意しながらまとめること。
13	ファシズムと第二次世界大戦 2	世界恐慌の始まりから、ナチス・ドイツの台頭とそれを取り巻くヨーロッパの国際関係、さらに第二次世界大戦の開始までの歴史的流れを、ドイツの動向に注意しながらまとめること。
14	ファシズムと第二次世界大戦 3	第二次世界大戦の開始からドイツの降伏までの歴史的流れを、ドイツが攻勢から守勢に転じる1942年に注意しながらまとめること。特に、ドイツとソ連との関係に注目すること。
15	総括	冷戦時代の国際関係について概要を述べ、またソ連の消滅と冷戦の終結について史実に即してまとめること。さらに、冷戦終結後の世界が向かう方向性について、あなたはどうか考えるかを示すこと。

シラバス執筆：平山 洋

レポート課題

第1分冊 平山 洋

第2分冊 平山 洋

第1分冊 〈略題〉イスラム世界 第4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

アラブ人・トルコ人・イラン人を題材に宗教・言語の観点から自分なりにイスラム世界について論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、できるだけ自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

第2分冊 〈略題〉フロンティア学説 第4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

「フロンティア学説」を理解した上で、その視点を踏まえて自分なりにアメリカ史を論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、できるだけ自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

参考文献

- ・教科書だけ参照しても評価されない
- ・参考文献が分からなければ教科書に記載されている参考文献に当たるのも一つの方法である
- ・大学や地域の図書館などを利用するなりして可能な限り様々な文献にあたること
- ・必ずしも学説などに深く当たる必要はないが、論文も参考に出来ると尚良い

科目試験等への
アドバイス

- ・重要語句を説明できる
- ・重要語句を用いて歴史的因果関係を説明できる
- ・各時代の特徴をつかむ

教員からの
メッセージ

テキストをもとにいろいろ調べながら、新しい発見をしたり、疑問を解いたりして歴史のおもしろさを味わってください。

科目概要	日本史の基本的な考え方を身につけます。そのためには、次の順番で実践をしてください。①テキスト学修を通して時代背景を理解する、②レポート課題を通して当時の人々の価値観や感覚を自分なりに追究する、③当時の人々の価値観や感覚を理解した上で、当時の時代像（時代のイメージ）を自分なりに持つ。この積み重ねで、自分なりの歴史認識が深まっていきます。
主な到達目標	・近世から現代までの大きな歴史の流れを把握する。 ・それぞれの時代について、自分で課題をもって調べ、追究する学問的姿勢を身につける。 ・追究したことをレポート等に表現する。
テキスト学修の留意点	テキストを見る時に、一つ一つの出来事を覚えようとしないうこと。そうではなく、一つ一つの出来事が、お互いどのように繋がっているのかを意識して読むことです。

	学修テーマ	課 題
1	歴史の学び方	大学で歴史を学ぶ楽しさを知る。そのために以下のことを実践する。 1 歴史の流れを把握し、それぞれの事実と因果の関係を追究する。 2 歴史を学ぶことは自ら課題を発見し、調べる。 3 身近にある史跡を訪ね、その場所で何があったか思い描いてみる。
2	なぜ、近現代史か	学習指導書の冒頭の部分に記述された近現代史に焦点を学ぶことの意義を把握し、そのことについての自分の考えをまとめる。
3	近世社会の動揺と近づく近代 1	「飢饉・一揆と寛政改革」『揺らぐ「鎖国」秩序』を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
4	近世社会の動揺と近づく近代 2	「花開く庶民文化と学問」「市場構造の変容と天保改革」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
5	天皇制国家の成立 1	「維新変革」「参加と統合」「幕末維新期の社会と文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
6	天皇制国家の成立 2	「帝国憲法システムと日清戦争」「国民文化の可能性と現実」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
7	個人研究 1 (第 1 分冊)	第 8 章から 9 章までの中からテーマを見つけ研究する。そして、なぜ、そのテーマか。調べて分かったこと。現時点での自分の考えを表現する。
8	大日本帝国と東アジア 1	「帝国主義強国への道」「帝国日本の経済と文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
9	大日本帝国と東アジア 2	「民主主義対国家主義」「十五年戦争」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
10	大日本帝国と東アジア 3	「文化の大衆化とファシズム」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
11	敗戦から経済大国へ 1	「占領下の日本」「五五年体制の成立」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
12	敗戦から経済大国へ 2	「経済大国への道」「大衆社会とその文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
13	敗戦から経済大国へ 3	「米ソ対立後の日本と東アジア」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
14	二十一世紀の日本の課題	「ヨーロッパ共同体」「地域世界的自立」「日本の大衆社会的矛盾」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
15	個人研究 2 (第 2 分冊)	第 10 章から終章までの中からテーマを見つけ研究する。なぜ、そのテーマか。調べて分かったこと。現時点での自分の考えを表現する。

シラバス執筆：濱田 英毅

レポート課題

第1分冊 濱田 英毅

第2分冊 濱田 英毅

第1分冊 〈略題〉近世の歴史の追究 第8章・第9章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストで学んだ時代背景をベースにして、該当する時期に関する歴史資料（歴史上の登場人物が残した記録）を探して読み、「歴史資料から理解」できる当時の人々の価値観や感覚を明らかにしなさい。

なお、現代の価値観で当時の価値観を考えないこと。あくまでも当時の人々の価値観や感覚を明らかにすることに専念すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 なぜ、この課題を発見したか。
- 2 何をどのように調べたか。
- 3 どのような結論を得たか。
- 4 この課題を追究して、初めて分かったこと、考えが変わったことなど自分の追究を振り返り、今の自分の考えを書く。
- 5 引用文、参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしているか。
 - 2 論理が一貫しているか。
 - 3 誤字・脱字がないか。
 - 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。
 - 5 縦書きで作成しているか。
- ※前提として、自分の考えを中心にレポートが書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・テキストや中高の教科書は参考文献としない
- ・参考文献は、次の要件をすべて満たすこと。
 - ①追究したいテーマに関する学術的な専門書（新書可）
 - ②複数冊とりあげる
 - ③インターネット記事は、公的機関のもの以外認めない
 - ④引用した箇所の頁数を本文中に記す
- ・引用文と自分の考えを明確に区別して記述する
- ・歴史資料は次のように引用する

例——安倍元総理の国葬儀において菅首相は山縣有朋の「かたりあひて 尽しゝ人は先立ちぬ 今より後の世をいかにせむ」を引用し・・・

第2分冊 〈略題〉近代・現代の歴史の追究 第10章から終章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストで学んだ時代背景をベースにして、該当する時期に関する歴史資料（歴史上の登場人物が残した記録）を探して読み、「歴史資料から理解」できる当時の人々の価値観や感覚を明らかにしなさい。

なお、現代の価値観で当時の価値観を考えないこと。あくまでも当時の人々の価値観や感覚を明らかにすることに専念すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 なぜ、この課題を発見したか。
- 2 何をどのように調べたか。
- 3 どのような結論を得たか。
- 4 この課題を追究して、初めて分かったこと、考えが変わったことなど自分の追究を振り返り、今の自分の考えを書く。
- 5 引用文、参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしているか。
 - 2 論理が一貫しているか。
 - 3 誤字・脱字がないか。
 - 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。
 - 5 縦書きで作成してあるか。
- ※評価の前提として、自分の考えを中心にレポートが書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・テキストや中高の教科書は参考文献としない
- ・参考文献は、次の要件をすべて満たすこと。
 - ①追究したいテーマに関する学術的な専門書（新書可）
 - ②複数冊とりあげる
 - ③インターネット記事は、公的機関のもの以外認めない
 - ④引用した箇所の頁数を本文中に記す
- ・引用文と自分の考えを明確に区別して記述する
- ・歴史資料は次のように引用する

例——安倍元総理の国葬儀において菅首相は山縣有朋の「かたりあひて 尽しゝ人は先立ちぬ 今より後の世をいかにせむ」を引用し・・・

参考文献

岩波文庫、岩波新書、中公新書、PHP 新書等でより深く追究したいテーマに関するもの。複数冊、用いること。（レポート作成の際、必要になる）

科目試験等への
アドバイス

テキストの学習を通して時代背景を理解し、そしてレポート課題を通して時代背景の理解を前提とした歴史の追究を実践します。その結果、みなさんは自分なりの時代像（時代のイメージ）を持つことが出来ます。そうした学習を、日本史全般に適用して、中学高校の教科書を見直しましょう。教科書の各単元ごとに、どのような主要な出来事があったか、そしてその時代はどのような時代だったか（時代像）を確認してください。そのように、学びの範囲を自分で広げていくことが、科目試験への対策となります。

教員からの
メッセージ

いまから歴史を見る前に、当時の人がどのように考えていたのか、当時の人々の価値観はどのようなものであったのか、そうした事実を探ることを優先してください。可否の基準は「その他の注意点」にも記載しています。

科目概要	歴史総合や日本史探究・世界史探究の授業を成功させるには、①知識の習熟、②「社会的な見方・考え方」という視点、③正確に情報を読み取る力の三点について、教授者と生徒の両方が一定レベルに達している必要がある。その結果、教え合いや探究活動が機能し、より奥行きのある歴史の授業が可能となる。本科目は、社会科資料集等の史資料や各種データを活用した探究授業を構想できるようになるため、教授者の②・③の力に焦点を当てた学修を行う。
主な到達目標	①史資料やデータの情報を、正確に読み取ることができる ②史資料やデータの情報を、正確に読み取らせるための工夫を考えることができる ③史資料やデータをICT等で提示しつつ、社会的な見方・考え方をふまえた「日本史探究」の授業を構想することができる
テキスト学修の留意点	まずは史資料を正確に読み取ること努めてください。その上で、史資料の裏側にある歴史的背景の情報や、同時代の社会的現象との関連を探究しましょう。この丹念な学修に尽きます

	学修テーマ	課 題
1	社会的な見方・考え方の確認	新学習指導要領の内容を見直し、「社会的な見方・考え方」とは何か確認する。
2	古代①	第1部の1～4の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
3	古代②	第1部の5～8の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
4	中世①	第2部の9～12の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
5	中世②	第2部の13～17の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
6	第1分冊の研究	第1部、第2部の内容から、興味のある一節を選び、レポート作成のための探求を行う。
7	近世①	第3部の18～20の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
8	近世②	第3部の21～24の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
9	近世③	第3部の25～27の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
10	近世④	第3部の28～31の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
11	近代・現代①	第4部の32～35の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
12	近代・現代②	第4部の36～39の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
13	近代・現代③	第4部の40～44の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
14	近代・現代④	第4部の45～48の項目を学び、当時の時代状況を整理する。その上で、当時の時代構造と変化について考察する。
15	第2分冊の研究	第3部、第4部の内容から、興味のある一節を選び、レポート作成のための探求を行う。

シラバス執筆：濱田英毅

レポート課題

第1分冊 濱田 英毅

第2分冊 濱田 英毅

第1分冊 〈略題〉古代・中世 第1部～第2部

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの一節を取り上げ、その内容を授業で扱う場合の工夫について考えなさい。以下の観点に全て答える形でレポートを書くこと。①必要となる最低限の知識は何か、②補足として提示すべき資料は何か、③社会的な見方・考え方をどのように活用しながら教えるか、④以上を総合して、授業の目標は何で、授業の展開はどのような内容か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

歴史資料をいかにかみ砕き、興味を持ってもらえるよう教えることができるかがポイントとなる。その際、ただ史資料を提示するのではなく、ICTの活用についても意識して、面白い、分かりやすい、発想の広がる授業の工夫を考えてください。

〈評価の観点〉

課題の4観点が、すべて意識されているか。授業の意図や展開が、読み手に明確に伝わるか。

〈その他の注意点〉

言語活動の充実と、情報の深いレベルでの読み取りに焦点を当てた授業を構想してください

第2分冊 〈略題〉近世・近現代 第3部～第4部

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの一節を取り上げ、その内容を授業で扱う場合の工夫について考えなさい。以下の観点に全て答える形でレポートを書くこと。①必要となる最低限の知識は何か、②補足として提示すべき資料は何か、③社会的な見方・考え方をどのように活用しながら教えるか、④以上を総合して、授業の目標は何で、授業の展開はどのような内容か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

歴史資料をいかにかみ砕き、興味を持ってもらえるよう教えることができるかがポイントとなる。その際、ただ史資料を提示するのではなく、ICTの活用についても意識して、面白い、分かりやすい、発想の広がる授業の工夫を考えてください。

〈評価の観点〉

課題の4観点が、すべて意識されているか。授業の意図や展開が、読み手に明確に伝わるか。

〈その他の注意点〉

言語活動の充実と、情報の深いレベルでの読み取りに焦点を当てた授業を構想してください

参考文献

.....
テキスト内に書かれている「もっと知りたい人のための参考文献」を調べる

科目試験等への
アドバイス

.....
史資料の深いレベルでの読み取りをもとに、その時代の時代像を自分なりに描き出してください。テキスト内の複数の項目を組み合わせ、当時の時代像（イメージ）を語る試験を出します

教員からの
メッセージ

.....
一つ一つの史資料を、着実にクリアしていきましょう
また、自分の調べたことのみ書いてレポートを提出する人が稀にありますが、そういう場合は採点対象になりません。
課題の内容を正確に理解し、答えてください。

TT0469 図書館施設論

1 単位

テキスト名

植松貞夫著『図書館施設論
(現代図書館情報学シリーズ12)』
樹村房、2014年

科目概要	図書館はいわゆる「ハコモノ」ですが、ハコの中には様々な工夫や配慮が詰まっています。本科目では、利用者が使いやすい図書館になるよう、建物の設計や館内の配置、備品の選定に留意し、利用環境を向上させるための知見を身につけていきます。
主な到達目標	(1) 利用者・図書館員・設計者の視点から、図書館の施設や設備の意義について理解し、第三者に説明できるようになること。 (2) 現代社会の要請に合う図書館の施設づくりや設備の選定ができるようになること。
テキスト学修の留意点	テキストを読むだけでは十分ではありません。新聞や雑誌、web 記事など、様々な媒体から学び取るようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	図書館建築の歴史	図書館建築の歴史を理解する。
2	地域計画	地域における図書館の配置などについて理解する。
3	建築プロセス	建築計画書について理解する。
4	建築プロセス	関連する法律や基準について理解する。
5	建築計画	部屋やスペースの構成について理解する。
6	部門別計画	図書館の出入口周辺のありかたについて理解する。
7	部門別計画	各種閲覧室のありかたについて理解する。
8	部門別計画	集会室・研修室のありかたについて理解する。
9	部門別計画	資料保存室のあり方について理解する。
10	部門別計画	事務室などのあり方について理解する。
11	館内環境計画	家具や機器について理解する。
12	館内環境計画	光、温湿度、サインについて理解する。
13	館内環境計画	施設の維持管理について理解する。
14	災害と図書館	災害対策などについて理解する。
15	各種事例	様々な事例について学ぶ。

シラバス執筆：宮原 志津子

レポート課題

第1分冊 宮原 志津子

第1分冊 〈略題〉災害に負けない図書館 テキストすべて

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- ①テキストで該当する箇所を一通り読む。
 - ②図書・雑誌新聞、web サイトなどから、災害被害にあった図書館の事例について調査する。
 - ③災害に負けない図書館にするために、どのような対策が必要になるのか。テキストをもとに基本的な考え方をまとめた上で、関連資料等から適切に引用・参照しながら、自分の考えをまとめなさい。
- ＊テキストでの学修を必ず行うこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・災害は、過去 10 年以内の事例を対象とする。国内、海外は問わない。
- ・本科目は特に、エッセイや感想文のようなレポートが目立ちます。指定テキストや関連する文献・資料からの引用・参照を踏まえて、客観的な文章表現を心がけてください。

〈評価の観点〉

- (1) 指定テキストから学んだ内容について正しく引用を行い、学修した内容をまとめているか
- (2) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (3) 適切な情報源を見つけ、使用することができているか
- (4) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (5) 災害対策の意義や効果などが明確に述べられているか
- (6) 自分なりの問題意識を持ち、自分の言葉で書かれているか
- (7) 現実的な対策を示しているかどうか

〈その他の注意点〉

レポート作成の基本的な技法を踏まえずに、我流で執筆している例が非常に目立ちます。特に引用の仕方についてはほとんどの学生ができておらず、再提出となるケースがあまりにも多くなっています。

大学レベルのレポートには、基本的な論文作法の習得が必須です。レポート本文を書く前に、下記の推薦図書を参照してください。

桑田てるみ 『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版：スキルを学ぶ 21 のワーク』 実務出版、2015 年。

参考文献

植松貞夫『よい図書館施設をつくる (JLA 図書館実践シリーズ 13)』日本図書館協会、2010 年
 岡本正『図書館のための災害復興法入門：新しい防災教育と生活再建への知識』樹村房、2019 年
 今村文彦（監修）、鈴木親彦（編集）『災害記録を未来に活かす（デジタルアーカイブ・ベーシックス 2）』勉誠出版、2019 年

科目試験等への
アドバイス

テキストを繰り返し読むだけでなく、普段から図書館の建物や家具などに関心をもち、様々な問題に対する自分の意見を出せるようにしておきましょう。

教員からの
メッセージ

旅行が趣味の私ですが、国内外どこに行っても必ず図書館に立ち寄ります。それぞれお国柄、地域性に富んだ建物や家具などがあってとても面白いです。この授業を通して、ステレオタイプな図書館イメージからぜひ脱却してください。

科目概要	本講は文部科学省が目的としている「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」を基にしながら社会教育経営論の概要を学修します。また、社会教育全般を網羅しながら、「地域」、「コミュニティ」を多面的に捉え、「課題解決」、「連携・協働」していくために必要な情報を習得し、その方法などについて考察します。
主な到達目標	本講を受講した学生は、終了時に社会教育経営についての概要を理解し、様々な状況における「地域」、「コミュニティ」の課題解決や連携・協働するための知識を学修します。それに必要な方法や取り組みについて他に説明できるようになります。
テキスト学修の留意点	学修者はテキストの内容を全体的に網羅しながら、地域における「地域づくり」や「課題解決」、「連携・協働」と言ったキーワードとなる言葉の意味を捉え、事例などから方法や取り組みを学んでください。さらに、学修者自身の意見を踏まえながら具体的な方法や取り組みについて考察してみてください。

	学修テーマ	課 題
1	社会教育の変化と社会教育への期待	社会の変化に伴い生じてきた地域の課題について理解し、改めて社会教育が見直されている意義について論じてください。
2	地域づくりマネジメントを担う社会教育行政	課題を持った地域社会において、社会教育行政が推進している「マルチステークホルダー・プロセス」について理解し、連携・協働を行いながら社会教育としてどのように展開していけるか論じてください。
3	社会教育の役割の展開	社会教育の役割の変化について理解した上で、「地域学校協働活動」の意義や期待されていることについて論じてください。
4	社会教育の本質を捉えた展開	なぜ社会教育主事養成課程が見直された経緯を理解し、これからインキュベーターとして社会教育が期待されている意義や役割について論じてください。
5	社会教育行政の仕組み	社会教育の振興において、社会教育行政について役割、計画の策定及び評価の理解を深め、まとめてください。また、学習課題における把握の方法、社会教育行政の広報について、事業につなげていく方策について論じてください。
6	社会教育施設の運営	社会教育施設の経営について、社会教育施設の経営とは何か、及び経営戦略を理解しまとめてください。また、様々な社会教育施設に当てはまるような自己点検・評価の方法についても論じてください。
7	社会教育施設における新しい運営手法	変化する社会における社会教育施設を運営していくにあたり、どのようなリーダーシップが必要であるか意義や役割について考察してください。また、新しい運営手法とネットワークの方法について、海外の導入されている理論や事例などを調べながら論じてください。
8	地域づくりと学習	地域づくりの意味を理解し、その活動例から社会教育としての学習活動の重要性について論じてください。
9	地域づくりの担い手	地域人材における学校教育の意義を理解し、社会教育の「主体形成」された地域人材について比較しながら論じてください。また、事例から地域づくりの担い手育成の視点について、まとめてください。
10	社会教育におけるコーディネート機能	社会教育における「コーディネート」の意義、特性について、答申や報告書が捉えている機能について論じてください。
11	地域学校協働活動におけるコーディネート	地域学校協働活動における意義及びねらいをまとめ、「学校を核とした地域づくり」として学校の教育課程である「特別活動」の可能性について論じてください。
12	学びに基づく地域づくり	地域づくりからみる社会教育の多様性と変遷について理解し、「地域づくりと学習の循環構造」に伴う学習の発展について論じてください。
13	社会教育行政と地域づくり	地域づくりを担う部門として公民館及び他の事例を踏まえながら、学習評価を理解してください。また、社会教育行政と民間機関との可能性について論じてください。
14	学びからみたネットワーク	社会教育におけるネットワークの定義、意義について理解し、公民館や地域づくりといったキーワードから見えてくるネットワークについて事例を基にし、可能性について論じてください。
15	ネットワークからみた社会教育行政の課題	「ネットワーク型行政のイメージ例」を理解し、社会教育における様々な分野に対する「社会教育士」の役割、期待について論じてください。

シラバス執筆：村井 伸二

レポート課題

第1分冊 村井 伸二

第2分冊 村井 伸二

第1分冊 〈略題〉現代社会と社会教育 第1部～第2部 p.1～p.76
テキスト(主として1分冊)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部～第2部の内容をしっかりと理解し、各章と事例に基づき「現代社会と社会教育」について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの内容を基盤として、幅広い視野を持って現代社会と社会教育について論じることを意識してください。また、事例からの情報を基にして学修者なりの事例を検索し、独自の論点を持ってまとめることを心がけてください。
- ②文章においては分かりやすく簡潔に、学修者自身だけの文にならないように論じてください。
- ③レポート内容はテキストは中心となりますが、学修者が検索した資料、文献を活用し、深みのあるレポートにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解した上で、学修者が設けたレポートの論点、課題とに整合性がありますか。
- ②段階を用いて分かりやすくまとめていますか。
- ③専門用語も含めて的確な語彙、文章を用いていますか。
- ④根拠のある情報を基に自分の意見が述べられていますか。
- ⑤参考文献などを積極的に用いていますか。

〈その他の注意点〉

文章をベタ打ちし、作成するのではなく、論点の内容を整理してからしっかりと文章構成を考え、レポート作りに励んでください。

第2分冊 〈略題〉地域人材が育つ社会教育 第3部～第4部 p.77～p.156
テキスト(主として2分冊)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第3部～第4部の内容をしっかりと理解し、各章と事例に基づき「地域人材が育つ社会教育」について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの内容を基盤として、幅広い視野を持って地域人材が育つ社会教育について論じることを意識してください。また、事例からの情報を基にして学修者なりの事例を検索し、独自の論点を持ってまとめることを心がけてください。
- ②文章においては分かりやすく簡潔に、学修者自身だけの文にならないように論じてください。
- ③レポート内容はテキストは中心となりますが、学修者が検索した資料、文献を活用し、深みのあるレポートにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解した上で、学修者が設けたレポートの論点、課題とに整合性がありますか。
- ②段階を用いて分かりやすくまとめていますか。
- ③専門用語も含めて的確な語彙、文章を用いていますか。
- ④根拠のある情報を基に自分の意見が述べられていますか。
- ⑤参考文献などを積極的に用いていますか。

〈その他の注意点〉

文章をベタ打ちし、作成するのではなく、論点の内容を整理してからしっかりと文章構成を考え、レポート作りに励んでください。

参考文献

基本的にテキストを熟読し、理解することでのレポート作成で問題はないかと思います。しかし、テキストに掲載されてる事例にとどまらず、学修者自身の事例を探索することをお勧めします。

科目試験等への アドバイス

テキストの内容をしっかりと理解できているが大前提ですが、そこから論点と課題意識を持ち、様々な情報を得ることによって、学修者独自の社会教育経営論が身につくはず。終わらせようとするレポートではなく、レポート学修自体が学修者の学びのプロセスになるよう期待しています。

教員からの メッセージ

現代社会における社会教育の意味とはどういったものなのでしょう。多様な価値観を持つ社会とともに、伝統を重んじつつも変化、発展していかなければならない地域づくりについて理解を深めてください。そのことがローカルだけでなくグローバル、を考えていくことにつながると思います。学修者の社会教育における、マネジメント力が深まることを期待しています。

科目概要	農村型社会から都市型社会への変貌のもとで、また市民や企業によるボランティアな活動が進展する中で、社会教育や社会教育行政はどのように変わるべきか、また地域を豊かにするガバナンスとは何か、について多角的に考えるとともに、地域での社会教育実践や学習者支援に際して求められる基礎的な知識等を身につける。
主な到達目標	1. 人間が豊かに生きていく上での関わりのある現代社会のトレンドや特徴を適切に認識する。 2. 現代社会における社会教育や社会教育行政の意義や必要性等について理解する。 3. 現代社会における社会教育実践の意義や役割、その方法等について、必要な知識を身につける。 4. 地域コミュニティにおける教育ガバナンスについて、多角的な視点から考察する。
テキスト学修の留意点	まず全体を一読して、その後、テキストの関係する部分や指導書を熟読するようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	社会教育の概念	社会教育の概念について、制度上の定義や学校教育との相違を踏まえて、説明してください。
2	地域づくりにおける地域教育の役割	社会教育と地域づくりとの関係について、特に「地域教育」に着目して説明してください。
3	社会教育における専門職員制度の意義	戦後社会教育行政が取り組んできた社会教育計画の策定や専門職員による学習者支援について、それぞれ意義や内容を説明してください。
4	戦後の社会教育行政	戦後社会教育行政が取り組んだ、(1) 拠点づくり（施設の整備）、(2) 組織づくり（団体の育成）、(3) 機会づくり（社会教育事業の実施）について、それぞれ意義と当時の状況を説明してください。
5	社会教育行政の固有性と専門性	生涯学習理念のもとでの社会教育行政の固有性と専門性について、説明してください。
6	社会教育行政の意義と限界	社会教育行政の意義・役割を説明し、近年それが衰退してきた背景を考察してください。
7	地域ガバナンスとは何か	NPOをはじめとする中間組織が地域ガバナンス（地域経営）に果たす役割について、経営的視点を中心に説明してください。
8	ボランティア活動の社会改革性	ボランティア活動について、①個人のキャリア形成にとっての意義、②より良い社会を創る上での意義、の両面から論じてください。
9	地域ガバナンスにおける協働・ネットワークの意味	協働・ネットワークの形成とコミュニティのガバナンス機能とは、どのような関係にあるのでしょうか。
10	地域づくりと生涯学習推進計画	計画行政による地域づくりに関して、生涯学習推進計画の事例を一つ挙げて、その概要を説明してください。
11	ソーシャルデザインによる地域づくり	ソーシャルデザインによる地域づくりの具体例を一つ挙げて、その概要を説明してください。
12	地域学校協働の現状と課題	特定の市町村の地域学校協働の状況について調べ、その現状と課題を明らかにしてください。
13	居場所と社会参加	社会参加を促すために、行政や市民にはどのようなことが求められていますか。
14	学習課題としての現代的課題	SDGs に掲げられている課題を解決するために、私たち一人ひとりはどういう学びをすれば良いのでしょうか。SDGs として掲げられている課題を一つ取り上げ、自分なりの学びのあり方を論じてください。
15	多文化共生を進める社会教育事業	多文化共生を推進するための社会教育事業の具体例について、あなたのアイデアを2つ挙げてください。

シラバス執筆：笹井 宏益

レポート課題

第1分冊 笹井 宏益

第2分冊 笹井 宏益

第1分冊 〈略題〉地域ガバナンス（地域経営）の背景、理由及び特徴
上記1から9まで

横書き

Word添付

〈課題〉

地域ガバナンス（地域経営）が求められるようになった背景、理由について論じるとともに、従来の古典的な行政との相違について、説明してしてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストをよく読み、自分なりに整理して記述すること
レポートの文字数は3000字以上で記述すること

〈評価の観点〉

- 1) 概念の理解は正しいか
- 2) 論理的に組み立てているか
- 3) 自分なりの考察を加えているか

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉社会教育の再構築と地域教育ガバナンス（地域教育経営）
上記10から15まで

横書き

Word添付

〈課題〉

社会教育の再構築によって、地域教育ガバナンス（地域教育経営）はどのような影響を受けますか。様々な観点から考察してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストをよく読み、自分なりに整理して記述すること
レポートの文字数は3000字以上で記述すること

〈評価の観点〉

- 1) 概念の理解は正しいか
- 2) 論理的に組み立てているか
- 3) 自分なりの考察を加えているか

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

その都度、Web上の参考となるサイトを紹介するので、必ず調べること

科目試験等への
アドバイス

様々な基礎概念は正しく理解した上で、それをもとに自分なりに考察してください。

教員からの
メッセージ

この科目は、新しくできた学際的な科目ですので、興味を持っていると調べてみてください。きっと新しい発見があるものと思います。

TT0472 生涯学習支援論 A

2単位

テキスト名

高井正・中村香編著
『生涯学習支援のデザイン』
玉川大学出版部、2019

科目概要	本科目は、学習者の多様な特性を尊重し生かす学習支援に関する知識及び技能の習得を目的としている。具体的には、現代社会における生涯学習支援の考え方、教育理論（ペダゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジーなど）を踏まえた効果的な学習支援、参加型学習プログラムや支援者の在り方について、理論と実践を往還しながら学ぶ。
主な到達目標	・生涯学習支援者の役割について、現代的課題や学習者の多様性を踏まえた説明ができる。 ・効果的な学習支援の方法について、学習支援に関する理論や事例から具体的に説明できる。 ・学習プログラムの企画・展開・評価について、学習支援の観点から説明できる。 ・学習支援者としての力量を形成する学びの在り方を理解し、学び続けることができる。
テキスト学修の留意点	テキストの「はじめに」に本科目の意図や学び方が記されているので、「はじめに」を読み飛ばさず、理論と実践を往還的に学ぶ意味を捉えたうえで学び始めると、学びが深まるであろう。 また、学修指導書にはレポートの書き方がまとめられているので、テキストと学修指導書に基づき、自らの考え方を論述する力を培って欲しい。

	学修テーマ	課 題
1	生涯学習支援の理念と構造	・社会的背景などを踏まえて生涯学習支援の必要性を説明できるか。 ・学習者の多様性を踏まえた学習支援の必要性について、具体的に説明できるか。
2	事例考察（1・2）	・事例1に基づき、学校教育とは異なる社会教育の学びの特徴や学習支援の在り方を考察する。 ・事例2に基づき、現代の若者の状況を踏まえたユースワークの意義について考察をする。
3	生涯学習者を育む学習支援	・主体性が育つ学習支援の在り方について、子どもの権利を踏まえた説明ができるか。 ・社会生活が困難な子ども・若者の学習支援の在り方について、社会的包摂やカウンセリングマインドの考え方を踏まえた説明ができるか。
4	事例考察（3・4）	事例3に基づき、社会教育の意義と課題を考察する。 事例4に基づき、地域社会における多様性の尊重の在り方を考察する。
5	成人の学習を支える考え方	・成人の学習特性や学習支援の在り方を説明できるか。 ・学びが社会構造を変革する可能性があるのはなぜか。
6	事例考察（5・6）	事例5に基づき、成人の学習者や学習支援の特徴を考察する。 事例6に基づき、運動と学習、また社会をつくる学びについて考察をする。
7	生涯学習社会を志向した学び	・人生100年時代の学びの在り方や学習支援の在り方を説明できるか。
8	事例考察（7・8）	・事例7に基づき、地域に学ぶ場があることの意味について考察をする。 ・事例8に基づき、障害者が地域で共に学ぶ意味を考察する。
9	学習プログラムの企画と事例考察（9・10）	・社会教育における学習プログラムの考え方や在り方を事例に基づき説明できるか。
10	学習プログラムの展開と事例考察（11・12）	・学習プログラムを展開する際の学習支援者の役割について、事例を踏まえた説明ができるか。
11	学習プログラムの評価と事例考察（13・14）	・学習プログラムにおける評価の在り方について、事例を踏まえた説明ができるか。
12	学習支援者の役割と求められる能力	・地域にいる学習支援者の種類と役割、また、学習支援者に求められる能力はなにか。
13	事例考察（15・16）	・事例15と16に基づき、学習支援者の力量形成の在り方を考える。
14	学習支援者の力量形成を支えるコミュニティとネットワーク	・学習支援者の力量形成の在り方について、養成・研修の在り方を踏まえた説明ができるか。
15	事例考察（17・18）	・事例17と18に基づき、生涯学習支援者としての力量形成を支える仕組みを考える。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香

第2分冊 中村 香・吉見 江利

第1分冊 〈略題〉学習支援 第1部と第2部

横書き

Word添付

〈課題〉

冒頭に副題（レポートの内容を端的に表すタイトル）を置き、テキストの第1部と第2部の内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、学習支援について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭に副題を置き、導入（本稿の目的や構成等）を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストの内容を踏まえた考えを論述すること。
- ③テキストから3カ所以上の引用をすること。
- ④接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりを（文章の構造）を意識して論ずること。
- ⑤本科目のレポート作成にあたっての文献の用い方は、『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

〈評価の観点〉

- ①生涯学習支援の意義や大事な点を理解しているか。
第1部と第2部を網羅しようとする書ききれなくなるので、特に大事だと思った点に焦点を当てて論ずること。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①レポートを提出する前に、よく確認をすること。
- ②読書感想文のようなになるので、主観的表現を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉学習支援者の力量 第3部と第4部

横書き

Word添付

〈課題〉

冒頭に副題（レポートの内容を端的に表すタイトル）を置き、テキストの第3部と第4部の内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、学習支援者の力量について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。

〈評価の観点〉

- ①学習プログラムをデザインする学習支援者としての力量や力量形成の在り方を理解しているか。
第3部と第4部を網羅しようとする書ききれなくなるので、特に大事だと思った点に焦点を当てて論ずること。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

テキストの各章末に「より深く学習するための参考文献や資料」が載っているので、それらを参考に、学びを深めてほしい。

科目試験等への
アドバイス

試験では、テキスト学修に基づく考えを、論理的に記述できているかどうかを評価する。
採点していると、テキストの内容を全く踏まえずに自分の経験に基づく考えを述べているもの、あるいは、テキストに書かれたキーワードを羅列しただけのもの、レジュメのように要点を箇条書きしたものがある。そのような答案は不合格になるので、気を付けてほしい。
また、文献を参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からの
メッセージ

通信教育課程で学ぶ学生には、社会教育関係の職員として、実際に地域社会における学習支援を担っている人が多い。
生涯学習支援の在り方について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“職務に生かせることや見直すべきことは無いか”というような実践的な視点で考えを深めてもらいたい。

TT0474 生涯学習と生涯教育

2単位

テキスト名

中村香・三輪建二編著
『生涯学習社会の展開』
玉川大学出版部

科目概要	本科目は、「生涯学習概論」で、生涯学習や社会教育の基本的なことを学修しているものと想定している。本科目では、一人ひとりの生涯にわたる学習を出発点に位置づけ、組織や社会の持続可能な発展を展望する「学習社会」を志向する意義や課題について学ぶ。具体的には、個人の学びと組織や社会の発展、おとなの学習者理解と学習支援の方法、学びあうコミュニティの意義や社会とつながる学びの在り方、学習社会の課題と展望について、考察をする。
主な到達目標	・「学習社会」を実現する意義や課題について、個人・組織・社会の関係性をふまえた複眼的な観点から、専門的な概念や用語も用いて、他者に説明することができる。 ・学びあうコミュニティを構築する意義とコーディネーターの役割について、成人学習者の学習特性やアンドラゴジーに基づく説明ができる。 ・教育構造の転換について、生涯学習の理念や「学習社会」の課題と展望をふまえた自分の考えを、論理的に説明できる。
テキスト学修の留意点	テキストの「はじめに」や『学修指導書』を読み、学習計画を立て、計画的に学ぶことが大事である。また、生涯学習や「学習社会」の意義を机上の理論として学ぶというよりも、自らの人生や学習のあり方に引き付けた考察をしてほしい。大学では、学んだことに基づき、何を考えられるかが問われている。自らの人生を生涯にわたって切り拓く態度（生涯学習力）を養うとともに、自らの考えを論理的に語れる人になってほしい。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに	テキストの「はじめに」や、『学修指導書』の「1. 学習・研究の方法」を読み、学習計画を立てる。
2	生涯学習理念の展開	・生涯学習と生涯教育の意義や課題について説明できるか。 ・「学習社会」が「不可欠なユートピア」と言われる理由を、生涯学習理念の展開をふまえて論述できるか。
3	学習社会の構築	・生涯学習を支える教育の構造を説明できるか。 ・学校・家庭・地域の連携の意義や社会教育の役割について論述できるか。
4	生涯学習と職業	・キャリア教育や職業教育の展開について、現代的課題をふまえた説明をできるか。 ・学習と就業との関係について、現代的課題や学習する組織論をふまえて論述できるか。
5	成人学習者と生涯発達	・成人学習者の発達について、発達に関する理論を織り交ぜて、自らの考えを論述できるか。
6	成人学習者の特性をふまえた学習理論	・アンドラゴジーとは何か、「自己決定性」「意識変容の学習」という言葉を用いて論述できるか。
7	学習支援者の役割	・様々なワークショップの意義と課題を説明できるか。 ・学習支援者は、なぜ省察的实践者を志向する必要があるのか。
8	地域における学びあい	・「学習の主体化」とはどのようなことか、具体的な事例から説明できるか。 ・松川町の実践における特徴を、アンドラゴジーの観点から論述できるか。
9	学びあう実践の理論	・実践コミュニティとネットワークについて、説明できるか。 ・成人学習論について、「省察的实践論」と「実践コミュニティ」という言葉を用いて論述できるか。
10	学びあうコミュニティを支える支援者	・学び合うコミュニティを支える学習支援者の役割と課題は何か。 ・大学と地域の連携の在り方の意義や課題について、論述できるか。
11	かわる社会、学ぶ市民	・個人と社会の関係の転換に基づき、「新しい公共」について説明できるか。 ・NPOにおける学びの展開や学びのネットワークについて論述できるか。
12	ボランティア活動と学び	・ボランティア活動と学習活動の循環的発展について、構造的に論述できるか。
13	学習社会における子ども・若者の学び	・学校教育と社会教育の関係について、「自己形成空間」という観点から論述できるか。 ・教育の構造転換について、まちづくりと社会教育の観点から論述できるか。
14	格差是正と評価	・学習と評価の関係を、「格差是正」という観点から論述できるか。
15	生涯学習の公共性と今後の展望	・学習社会の実現に向け、行政や教育機関の役割について論述できるか。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香

第2分冊 中村 香

第1分冊 〈略題〉成人学習 第1部～第3部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部～第3部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、おとなの学習について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭にタイトル（略題ではない）を置き、導入（本稿の目的や構成を示す）を書くこと。
- ②テキストの第1～第3部の内容に基づく説明をしたうえで、自らの経験も踏まえた考えを論述すること。
- ③テキストから3か所以上の引用をすること。
- ④引用や文献の載せ方は、テキストの書き方に倣うか、「生涯学習概論」や「生涯学習支援論」の学修指導書を参照すること。
- ⑤接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりを（文章の構造）を意識して論ずること。

〈評価の観点〉

- ①第1部～第3部の内容を理解したうえで、アンドラゴジーなどのキーワードなどを織り交ぜて、自らの考えを論述できているか。
 - ・レポートはテキスト学修の成果を見るものなので、テキストの内容を織り交ぜることが大事です。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
 - ・引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
 - ・専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
 - ・自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①生涯学習や成人教育に関する課題では、ご自分のライフヒストリーのようなものを書いてく人が多いが、課題に答えているかどうか、何が求められているのか、よく考えてから書き始めること。
- ②レポートを提出する前に、よく見直すこと。
- ③読書感想文のようになるので、主観的表現を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉学習と社会 第4部～第5部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第4部～第5部に基づき、レポートの冒頭にタイトルを置き、テキストから3か所以上引用をして、学習と社会について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。

〈評価の観点〉

- ①第4部～第5部の内容を理解したうえで、キーワードなどを織り交ぜて、自らの考えを論述できているか。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
 - ・引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
 - ・専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
 - ・自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

各章末に、「より深く学習するための参考文献や資料」を載せてあるので、それらを参考に、学びを深めてほしい。

科目試験等へのアドバイス

試験では、テキスト学習に基づく自分の考えを、論理的に述べられているかどうかを評価する。詳細については、学修指導書の「Ⅲ. レポート作成や科目試験について」を参照すること。
採点していると、テキストに書かれたキーワードを羅列したもの、レジュメのように要点を箇条書きしたもの、また、数行しか書かれていない答案用紙がある。そのような答案は不合格になるので、気を付けてほしい。
また、テキストなどを参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からのメッセージ

通信教育課程には、社会教育関係の職員として、実際に地域の社会教育を担っている方が多い。生涯学習や社会教育について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“職務に生かせることは無いか”というような実践的な視点で考えを深めてもらいたい。まずは、自らの学習を楽しむことが、学習者の主体的な学習を促すことにつながるのではないだろうか。

科目概要	本科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法と技術について学びます。具体的には、教授理論や授業設計の方法、学習指導案の作成方法や個人差に応じるための授業、評価の方法などについて学びます。
主な到達目標	・テキストに示されているキーワードについて説明できる。 ・教育方法の基礎的な理論と実践について理解している。 ・授業設計にもとづく学習指導案を作成できる。
テキスト学修の留意点	テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。 各章の最後に載っている演習問題に取り組んでみましょう。 レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているかを見ます。「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに	テキストの「まえがき」や「学習を始める前に」（の第1章～第7章）を確認し、まずは本分冊の学修内容の全体像を把握しましょう。
2	授業と方法・技術	教育の方法と技術を学ぶにあたり、「学習とは何か」「授業で指導するとはどういうことなのか」を考えてみましょう。
3	授業と教授理論（1）	効率的・効果的な授業を展開するためには適切な教授理論が必要です。ここではまず、2つの教授理論について学修しましょう。
4	授業と教授理論（2）	教授理論をどのように生かすのか。ここでは、「累積学習モデル」などについて学修しましょう。
5	授業の設計（1）	児童生徒の学力を保证するためには、授業を適切に設計する必要があります。ここではまず、「授業設計」の基本的な考え方について学修しましょう。
6	授業の設計（2）	授業設計には、「単元全体についての授業設計」と「本時の学習指導についての授業設計」があります。ここでは、授業設計の手順について学修しましょう。
7	授業の組織と展開（1）	「何を」「どのように」教えるのか？ここではまず、指導形態や指導方法、指導過程などについて学修しましょう。
8	授業の組織と展開（2）	評価は児童生徒の成績評価のためだけでなく、「自身の指導の結果を（客観的に）確認するため」「次の指導に活かすため」のものでもあります。ここでは、授業と評価について学修しましょう。
9	授業と学習指導案（1）	学習指導案には、教師の児童観や授業観、教育観が表れます。ここでは、授業の構成要素について学修しましょう。
10	授業と学習指導案（2）	学習指導案を作成する時に必要な項目とその表記方法について（その一例を）学修しましょう。
11	学習指導案の実例（1）	テキストには、学習指導案の2つの形式について例が示されています。具体例を参考に、どのように記述すれば良いのかを学修しましょう。
12	学習指導案の実例（2）	興味関心のある教科の学習指導案をインターネットや（図書館などにある）本などで探してみましょう。また、「参考になると思った点」や「より良くするために追加した方が良いと思う点」について考えてみましょう。
13	授業と個人差（1）	教師が考慮すべき個人差にはさまざまなものがあります。ここでは、児童生徒の個人的要因に注目して分類したものを学修しましょう。
14	授業と個人差（2）	児童生徒の個人差に応ずる授業展開について考えてみましょう。
15	まとめ	これまでに学修したことを再確認し、学年、科目、単元を決めて学習指導案を作成しましょう。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉授業設計と指導目標の明確化 1章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 授業設計の手順および指導目標の明確化について説明せよ。
- ② 1回分（1単位時間分）の授業を想定し、授業目標（本時の指導目標）と授業展開及び評価方法を説明せよ。科目名、単元名、対象学年も記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・課題①、②の両方に回答すること。
- ・課題①、②ともに、表形式や箇条書きは用いず、文章で説明すること。
- ・課題①は、テキストを良く読み、要約すること。
- ・課題②の授業例は、テキストや書籍、インターネット上に記載されているものを流用せず、自身で具体的に想定すること。本時の指導目標、授業展開、評価方法（どのようなデータを用いてどのような基準で評価するのか）をわかりやすく説明すること。
- ・「評価の観点」を良く読み、必要な事柄全てについて記述すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・授業設計の手順、「明確な指導目標」の定義、指導目標を明確化する方法、明確化することの利点についてわかりやすく説明されているか。

課題②

- ・本時の指導目標は明確化されているか。
- ・授業展開は、学習者が行う活動内容及び、評価に用いるデータの収集方法がわかるように書かれているか。
- ・評価方法は、本時の指導目標を学習者が達成したか否かを客観的に判断できるものか。学習者全員を個々に評価できるように考慮されているか。評価基準が具体的かつ明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

- ・課題②においてワークシート等の利用を想定した場合、その内容を本文中で説明するか、別紙としてワークシートを添付すること（別紙として添付した場合、制限文字数には含まれない）。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園での指導場面を想定し、作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

.....
より深く学修するためにはテキストの本文中、各章末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
 - ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。

教員からの
メッセージ

.....
教員になって実際に教壇に立った時、「本当にこのやり方でいいのだろうか」と悩む時がくると思います。そんな時、戻ってくることができる場所のひとつにこのテキストがなってくれる筈です。そのような意味からも、単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、理論や言葉などをしっかり学ぶために、このテキストでの学修を大切にしてほしいと思っています。

科目概要	教師にはコンピュータなどの情報機器を利用して、わかりやすい授業を進めるための技術の習得が求められています。そのため、本科目では、ICT を授業実践の中で活用する意義とその方法などについて学修します。
主な到達目標	・ テキストに示されているキーワードについて説明できる。 ・ 授業で効果的に ICT を活用する方法を提案することができる。 ・ 児童生徒の情報活用能力を育むための指導方法について理解している。
テキスト学修の留意点	テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。 各章の最後に載っている演習問題に取り組んでみましょう。 レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているかを見ます。「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに	テキストの「まえがき」や「学習を始める前に」（第 8 章～第 14 章）を確認し、まずは本分冊の学修内容の全体像を把握しましょう。
2	教育の情報化	学校教育における情報化の経緯について学修しましょう。また、テキストの参考文献に挙げられている『学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果』などについてはインターネットで検索し、最新の情報も確認しましょう。
3	教育メディアの活用（1）	「視覚用教育メディア」について、授業での利用方法も含めて学修しましょう。また、どのような場面で視覚用教育メディアを利用したらよいのかを考えてみましょう。
4	教育メディアの活用（2）	「聴覚用教育メディア」について、授業での利用方法も含めて学修しましょう。また、どのような場面で聴覚用教育メディアを利用したらよいのかを考えてみましょう。
5	コンピュータ・ネットワークの基礎知識（1）	教育で利用するためのコンピュータの基礎知識（歴史や仕組み）などについて学修しましょう。
6	コンピュータ・ネットワークの基礎知識（2）	セキュリティや情報モラルの基礎について学修しましょう。
7	授業における ICT 利用（1）	授業における ICT 利用について、ここでは「計画」段階での利用について学修しましょう。（表中の科目の具体例を大切に確認しましょう）
8	授業における ICT 利用（2）	授業における ICT 利用について、ここでは「実施」段階での利用について学修しましょう。（表中の科目の具体例を大切に確認しましょう）
9	授業における ICT 利用（3）	授業における ICT 利用について、ここでは「評価」段階での利用について学修しましょう。（表中の科目の具体例を大切に確認しましょう）
10	インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインによる教材作成について学修しましょう。また、オンライン教育についても学修しましょう。
11	情報モラル教育（1）	情報モラル教育の必要性などについて学修しましょう。
12	情報モラル教育（2）	情報モラル教育のモデルカリキュラムについて学修しましょう。また、テキストの参考サイトに挙げられているように、「文部科学省」「情報モラル」などで検索をしてみましょう。
13	校務情報化（1）	校務の情報化のあり方や情報化の進め方について学修しましょう。
14	校務情報化（2）	学校における情報セキュリティについて学修しましょう。また、テキストの参考文献に挙げられている「情報処理推進機構（IPA）」の「情報セキュリティ」などを確認し、最新の情報も確認しましょう。
15	まとめ	これまでに学修したことを再確認し、学年、科目、単元を決めて、ICT を効果的に活用した学習指導案を作成しましょう。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍・山田 徹志

第1分冊 〈略題〉ICTを活用した授業の設計 8章～14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①授業におけるICT利用の概要（計画・実施・評価）を詳しく説明せよ。
- ②ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、ICTを効果的に活用した授業を学習指導案の形式で設計しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に要約（説明）すること。
- ・①の要約では、表中の科目の具体例も利用すること。
- ・課題②で作成する学習指導案は、テキストp.81～83で示されているような表を利用した形式にすること。
- ・ICTを必ず利用すること。
- ・学習指導案は、本時の指導計画（「本時の目標」「準備・資料」「本時の展開」「本時の評価」は必須。「板書計画」は出来る限り記入）のみで構わない。

〈評価の観点〉

- ・授業におけるICT利用の概要について、テキストを参考に明確に要約（説明）できているか。
- ・上記の留意事項を守り、ICTを効果的に活用した学習指導案が適切に作成されているか。
- ・作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。

〈その他の注意点〉

- ・学習指導案の「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。
- ・ワークシートを利用する場合は、その内容を具体的に記述すること。
- ・書籍などにある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園での指導場面を想定し、ICTを効果的に活用したものを作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

- ・学習指導案を作成する時は、教科書などを参照すること。
- ・より深く学修するためにはテキストの本文中、各章末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
- ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。

教員からの
メッセージ

教員になって実際に教壇に立った時、「本当にこのやり方でいいのだろうか」と悩む時がくると思います。そんな時、戻ってくることができる場所のひとつにこのテキストがなってくれる筈です。そのような意味からも、単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、理論や言葉などをしっかり学ぶために、このテキストでの学修を大切にしてほしいと思っています。

科目概要	領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境やそれを基盤とした教育の方法について理解を深める。また、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養うための知識（動植物への理解、科学的思考の捉え方、地域環境や公共施設の理解等）、技能（動植物への飼育・栽培、様々な遊びの方法、遊具の製作等）を身に付ける。
主な到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達についての意義を理解する。 1) 幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 2) 幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）を用いて説明できる。 3) 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。 (2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 1) 乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道を説明できる。 2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 3) 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 (3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わり方の発達を理解する。 1) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。 2) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。
テキスト学修の留意点	・テキストは各章のテーマに応じた内容と、幼児教育全体における重要な位置付けが相互に関連している。この点を常に意識しながら学修する。 ・テキストだけでなく関連する書籍や資料、事例を読むとともに、自身が出会う子どもの実際の姿をもとに学修を深めることが必要である。特に「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型子ども園教育・保育要領」は常に手元におき、「領域『環境』」の項目を参照しながら学修を進めること。 ・レポート課題は、引用すべき点を明確に示し、自身の考察と明確に分けること。 ・教育課程や指導計画作成は、環境構成と大きく関連していることを理解し、テキストから読み取ったことは具体的な事例との関連を意識して理解を深め、保育者の専門性を身につけ実際の指導計画・保育計画の作成に生かすことを見通して学修を進めること。

	学修テーマ	課 題
1	保育と環境（第1章） 子どもにとっての環境	保育における環境の意味を知り、発達にふさわしい環境の構成のあり方を理解する。1章「保育と環境」を読み、それぞれの項目について、キーワードを挙げながらノートに概要をまとめておく。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる「環境を通しての教育」「構造の質と過程の質」「発達にふさわしい環境」
2	領域「環境」のとりえ方と 考え方（第2章） 子どもが豊かに育つ環境	領域「環境」のとりえ方と、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」の考え方について理解する。「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型子ども園教育・保育要領」の「領域『環境』」を参照しながら2章「領域環境のとりえ方と考え方」を読み、それぞれの項目について、キーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる「子どもにとって魅力ある環境」「子どもの主体的自発的な遊び」「子どもの主体性と保育者の意図」
3	保育環境の構成（第3章） 子どもの発達と環境との 関わり	子どもが豊かに育つ保育環境とはどのようなものか、子どもの発達の視点と環境を構成する保育者の役割の視点から理解する。3章「保育環境の構成」を読み、それぞれの項目についてキーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる「子どもの活動を引き出し持続させる環境構成」「遊びのきっかけになる環境構成」「興味関心を踏まえた環境構成」「遊びが安定・持続・展開する環境構成」「試行錯誤や工夫が生まれる環境構成」
4	人的環境（第4章） 友だちや保育者とともに 育つ	子どもにとっての保育者の意味、保育者にとっての子どもの意味を考え、良き人的環境としての保育者のあり方を理解する。子どもが育つ上での周りの人との関わり合いの意味を事例とともに理解する。4章「友だちや保育者とともに育つ－人的環境－」を読み、それぞれの項目についてキーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる「子どもとの信頼関係」「心をひきつける保育者」「思いをつなぐ保育者」「保育者にとっての子どもの意味」「子どもにとっての友だちの意味」「異年齢の人との関わり」
5	物的環境（第5章） 豊かな生活を育む環境の デザイン	生活や遊びを豊かにするための環境のデザインの意味と考え方を知り、乳幼児にとって魅力ある環境とその構成のあり方を事例とともに理解する。5章「豊かな生活を育む環境をデザインする－物的環境－」を読み、それぞれの項目についてキーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる「保育環境のデザイン」「園における物的環境」「魅力ある環境」屋内環境と子どもの生活や遊び」「屋外環境と園庭の意味」「ものとの関わり」
6	自然環境（第6章） 生き物や植物、自然事象へ の関心と環境教育	乳幼児が自分の生きる自然環境の存在や変化に気づき心が動くことの意味とそのための環境構成のあり方について具体的な事例とともに理解する。第6章「生き物や植物、自然の事象に関心をもつ」を読み、それぞれの項目についてキーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。持続可能な社会における教育（ESD）やSDGsなど現在の地球を取り巻く課題の意味を理解する。

7	社会的環境と安全（第7章） 家庭・園・地域の文化や 社会と触れる	園や地域の行事への参加や、異年齢の人との関わりによる文化との触れ合いの意味と子どもの安全について、事例とともに理解する。第7章「自分を取り巻く社会の文化にふれる - 社会的環境 -」と第8章「子どもを守る安全な環境」を読み、それぞれの項目についてキーワードを挙げながらノートに概要をまとめる。実際の事例などをもとに以下の用語が解説できるようにまとめる。「行事の意味」「幼児にとって身近な社会とは何か」「地域との関わり」「小学校との関わり」「異年齢の人との関わり」の意味
8	幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿 10の姿と領域「環境」	幼稚園教育要領や保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を読み、その内容と趣旨を領域「環境」と関連づけてまとめ、各年齢の乳幼児の具体的な姿をもとに保育者が環境を構成する意味を理解する。幼稚園教育要領や保育所保育指針にある領域「環境」に関わる事項を抜き出し、「10の姿」の各項目における記述について「領域環境」が「10の姿」の中のどの姿とどのように関わるかまとめる。
9	乳幼児の発達と環境 環境にかかわる子どもの 姿、子どもを守る安全な 環境（第8章） （第2部1、2）	子どもを守る安全な環境について、事故事例やリスクの考え方を理解する。発達にふさわしい環境を構成するとはどういうことか、乳児（0歳児・3歳未満児）の事例をもとに、環境と子どもの育ちの実際を理解する。
10	身近な環境と遊び① 友だちとの遊びを広げなが ら育つ、魅力ある屋外・屋 外の環境 （第2部3、5、第1部第5章）	友だちとの遊びを広げながら育つ事例、及び魅力ある屋外環境と屋内環境の事例を読み、幼児が遊びを思いついたり継続したりする時の友だちや物的な環境について、具体的な事例とともに理解する。物や遊具、用具などを使って工夫して遊んだり、遊びを作り出したりすることと科学的な思考の芽生えについて考え、主体的な遊びの連続性を支えるための保育者の援助と物的環境の意味をまとめる。
11	身近な環境と遊び② 子どもと保育者、異年齢と のかかわりの中で育つ （第2部4、第1部第4章）	子どもと保育者、異年齢とのかかわりの中で育つ事例を読み、保育者が子どもの命と心身の健康を守るために信頼関係を構築することの重要性について、また異年齢の子どもとの関わりについて具体的な事例とともに理解する。また、保育者自身が子どもとの関わりの中で自身のあり方を見つめ、成長していくことの意味を考える。保育者自身が人的環境として子どもの育ちに関わるとはどういうことかまとめる。
12	身近な環境と遊び③ 動植物や自然現象とかわ る事例身近な植物 （第2部2、6、第1部第6章）	生き物、自然現象とかわる事例を読み、虫や小動物等との関わり、草花遊びや植物栽培、また季節や自然現象との関わりによって、子どもの遊びがどのように豊かに展開していくかを読み取り、子どもにとっての自然の意味について理解を深める。
13	身近な環境と遊び④ 文字や数量への興味・関心 を育てる事例 （第2部7、第1部第5章 第5節）	文字への興味・関心を育てる事例、数量への興味・関心を育てる事例を読み、幼児の遊びや生活における文字や数量への興味や関心、遊びの中に取り入れて親しむことの意味について、具体的な事例とともに理解する。幼児期において文字や数量への関心を広げることとは、読み書きや計算などを教え込み訓練することとどう違うのか、説明できるようにする。
14	身近な環境と遊び⑤ 園行事や地域との交流の事例 （第2部8、第1部第7章）	幼児の遊びや生活における地域や園の行事、文化との関わりについて、具体的な事例とともに理解する。また情報化社会における適切なIT利用のあり方と直接体験の重要性を理解する。
15	「環境を通した教育」と 領域「環境」	これまでの学びを通して、幼児教育の基本である「環境を通した教育」と領域「環境」の意味について総合的に理解を深める。15回の学修の成果として、今後保育者として子どもと接する時に、どのような場面でのどのような環境を構成したいか考え、記述する。

シラバス執筆：

〈課題〉

以下(1)(2)(3)について、それぞれ800～1000文字程度で記述しなさい。テキストを全て読み学修を修了してから提出すること。

- (1) 本講義で学んだことをもとに、幼児教育の基本である「環境を通した教育」という理念と、領域「環境」の関連、幼児の発達にとっての環境の重要性について新たに学んだことをまとめなさい。
- (2) 子どもが主体的な活動としての遊びを継続している事例をあげ、その際の保育者の関わりの意味について、記述しなさい。実際に保育に携わっている場合は、自身の事例を記述し、テキストに書かれたことと関連させて意味付けること。子どもと関わっていない場合は、本書を含め公表されている事例を取り上げ、その内容を簡単に意味付けてから自身の実践の展望を述べること。
- (3) 子どもが主体的な活動としての遊びを継続しなかった事例をあげ、その際の保育者の関わりと、自分だったらどのような意図を持ってどう関わることができるか、記述しなさい。実際に保育に携わっている場合は、自身の事例を記述し、テキストに書かれたことと関連させて意味付けること。子どもと関わっていない場合は、本書を含め公表されている事例を取り上げ、その内容を簡単に意味付けてから自身の実践の展望を述べること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートは、テキスト全体を読み、自身の言葉でノートなどにまとめ、15回分の学修を終えてから作成すること。特に後半8回目以降の事例編を読み解いていく際には、前半の理論編や理論編の中で示された事例もあわせて読み、理解を深めること。15回分の学修はそれぞれが深く関連している。目の前の子どもは、物的環境、自然環境、人的環境が複雑に絡み合った環境の中で過ごしている。その中で、子どもの姿や育ちを捉える視点を豊かに持って、子どもが環境を保育者の資質向上の上で最も大切なことである。じっくりと領域「環境」の理解を深めた上でレポートを作成してほしい。

〈評価の観点〉

- ①テキスト及び関連する文書等を熟読し、理解したことを記述できているか。
 - ②テキストにある事例を理解し、さらに自分が経験した具体的な事例とその意味付けを記述できているか。
 - ③テキストや関連文書を適切に引用した上で、さらに自分で意味づけたことが記述できているか。
 - ④子どもの成長における環境の意味や遊びとの関係について、熟慮し考察されているか。
 - ⑤引用文献の記述と、自分の考え等の論述を明確に区別し、引用部分が読者にわかるように明記されているか。
- 引用文献の示し方： 著者名、書名(論文誌等の場合は文献名、巻・号、論文タイトル名)、発行年、引用した箇所のページ

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートをそのまま引用したレポートは、不合格とする。

参考文献

テキスト
秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・箕輪潤子編 「保育内容 環境 第3版」みらい 2018年
ISBN9784860154479

参考文献
文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館 ISBN9784577814475
厚生労働省「保育所保育指針解説」(平成30年3月)フレーベル館 ISBN9784577814482
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月)フレーベル館
ISBN 9784577814499
無藤隆「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」東洋館出版社 2018年 ISBN9784491035147
ソニー幼児教育支援プログラム「保育のヒント」保育実践事例
(<https://www.sony-ef.or.jp/preschool/index.html>)

科目試験等への アドバイス

- ・各章の章末に記述されている課題がしっかりと回答できていることが必要である。
- ・試験問題は、テキスト履修全体からの出題となる。学修テーマと課題を整理した上でその意義や内容について説明できることが求められる。
- ・具体的な事例については、テキストに掲載されている内容にとどまらず、実際に乳幼児との関係の中で生まれた実践にも目を向ける必要がある。

教員からの メッセージ

幼児教育では、子どもとの保育の事例が記述された書籍やホームページなどたくさんあります。さまざまな事例を読み、テキスト履修の理解を深めてください。(シラバス執筆：井村 礼恵)

科目概要	乳幼児期の心身の発達について知り、乳幼児期の健康に関する基本的な生活習慣、安全習慣、運動についての基本的な理解とその実践について学ぶ。
主な到達目標	乳幼児期の体の発達の特徴を説明できる。 乳児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
テキスト学修の留意点	指定のテキストだけでなく、他の文献を積極的にかつようする。あわせて最新の情報を雑誌、新聞等から収集し保育、教育に関する理解を深めることが重要である。

	学修テーマ	課 題
1	「健康」とは	「健康」の定義を知り、生きる上での健康の重要性について理解する。
2	領域「健康」とは	幼児教育における「領域」の意味を理解し、領域「健康」の内容と他の領域との関係について理解する。
3	現代の子どもの健康	現代の子どもの健康における課題について理解する。
4	乳幼児期の体の発達	乳児～幼児期までの体の発達について理解する。
5	子どもの運動発達 (乳児～幼児期初期)	乳児期～幼児期初期（3歳児）までの運動発達について理解する。
6	子どもの運動発達 (幼児期初期～学童)	幼児期初期（3歳児）～学童（1,2年）までの運動発達について理解する。
7	基本的な生活習慣 (排泄・清潔)	基本的な生活習慣の排泄・清潔について指導と保護者との連携などについて理解する。
8	基本的な生活習慣 (睡眠・衣服)	基本的な生活習慣の睡眠・衣服について指導と保護者との連携などについて理解する。
9	基本的な生活習慣（食事）	基本的な生活習慣の食事について、乳幼児期の発達と指導、保護者との連携などについて理解する。
10	領域「健康」と食育	友だちと一緒に食べることを楽しみ、食物への興味関心をもつために保護者の役割について理解する。
11	安全習慣（ケガ）	リスクとハザードの違いと安全管理について理解する。 子どものケガの特徴やその対応について理解する。
12	安全習慣（病気・感染症）	園における感染症予防について理解する。 乳児期に多い病気の特徴や病気の予防について理解する。
13	運動遊びの実践	幼児期の体力・運動能力の向上におけるあそびの役割について理解する。
14	運動遊びの実践	幼児期が多様な動きが体験できる環境構成やあそびについてテキスト等から理解する。
15	ふりかえり まとめ	今までの内容をふりかえり、保育者の役割や実践についてテキスト等から理解する。

シラバス執筆：仁藤 喜久子

レポート課題

第1分冊 仁藤喜久子

第1分冊 〈略題〉基本的生活習慣 教科書全頁

横書き

Word添付

〈課題〉

乳幼児の発育、発達を考慮した基本的生活習慣の指導を考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 睡眠、衣服、排泄、清潔、食事のうち2つについて記述する。
- 参考にした教科書のページを明記すること。

〈評価の観点〉

- 留意事項を満たしているか。
- 客観的に考察できているか。

〈その他の注意点〉

教科書以外の参考文献を使用してもよい。

参考文献

.....

文部科学省「幼稚園教育要領解説」「幼児期運動指針ガイドブック」
 厚生労働省「保育所保育指針解説」
 内閣府他「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

科目試験等への
アドバイス

.....

教科書を中心に出题する。内容をしっかり理解すること。

教員からの
メッセージ

.....

保育・教育の現場を思い浮かべ学習を進めること。

科目概要	子どものことばを受け入れるために、ことば以前のコミュニケーションに着目し、子どものことばがどのように生まれ発達していくのかについて学びと理解を深める。
主な到達目標	・子どもがことばを話し始める時点に至るまでに子どものなかで起こっていることについて理解した上で、そのような子どもたちとのコミュニケーションについて自分の考えを持つことができる。 ・ことばは、子どもの全体的な発達から生まれてくることを理解し、「ことばの発達」という視座から「ことばと発達」という視座を獲得することができる。 ・ことばと心の乖離の問題に教育者としてどのように関わるかについて、自身の教育観を模索することができる。
テキスト学修の留意点	(1) 学修指導書を参考に、テキストを素直な目線（①レポートを書くために読むことよりも、自分自身に問いかけながら読む、②繰り返し読み、解釈を深める）で読むこと。 (2) 課題について、テキストの言葉や文を正確に引用し（引用表記も確実に行う）つつ、引用部分について分析・解釈を記すこと。そのためには、気になる言葉や文をマークしながら読み、その部分についての自分の考えを自分の言葉で書き出す（ノートテイク）ことから始めること。 (3) レポート作成は、課題についてのノートテイクをもとに取り組むこと。 (4) 「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」に十分注意すること。

	学修テーマ	課 題
1	「はじめに」を読もう	岡本が、子どもとことばの関係性において、問題としている内容を整理しながら読むこと。 【学び方】 岡本が挙げた問題点を箇条書きで整理する。
2	「第1章：ことば以前」を読む	p.15~p.82 までを読む。 【学び方】 第1回で列記した問題に関連する部分に○色マーカー、強く同意する部分に○線、分からない部分に○線を引くなどして、色別に区別すると第3・4・5回の課題に取り組みやすくなる。
3	「第1章：1：新生児のコミュニケーション」について学ぶ	p.17~p.31 について学ぶ。 【学び方】 まず、岡本が「コミュニケーション」「人間」をどのようなものと考えているかを捉える。その上で「新生児のコミュニケーション」の特徴を整理する。
4	「第1章：2：発達の場合における「人」の機能」について学ぶ	p.32~p.47 について学ぶ。 【学び方】 発達の初期において「人」が子どもに対してはたしている機能的役割の5つを整理する。
5	「第1章：3：共有関係のなりたち」について学ぶ	p.48~p.64 について学ぶ。 【学び方】 ことば以前のコミュニケーションにおいて特徴的な『協約性』成立の基礎となる「共有」の種類について整理する。
6	「第1章：4：行動による対話」について学ぶ	p.65~p.82 について学ぶ。 【学び方】 ことばによる対話の機能が成立するための条件について、ブルーナーの行動の構造やT児の事例と関係づけながら考察する。
7	「第2章：シンボルの形成」を読む	p.83~p.126 までを読む。 【学び方】 第1回で列記した問題に関連する部分に○色マーカー、強く同意する部分に○線、分からない部分に○線を引くなどして、色別に区別すると第8・9・10回の課題に取り組みやすくなる。
8	「第2章：1：記号の世界」について学ぶ	p.85~p.99 について学ぶ。 【学び方】 「シンボル」の性質について、岡本が述べていることをトピック毎に整理する。
9	「第2章：2：音声の機能」について学ぶ	p.100~p.112 について学ぶ。 【学び方】 子どもの発する音声の機能について整理する。
10	「第2章：3：人間におけるシンボル」について学ぶ	p.113~p.126 について学ぶ。 【学び方】 シンボルやことば記号の特徴とされる「恣意性」をめぐる問題について、岡本の考え方を整理する。
11	「第3章：ことばの獲得」を読む	p.127~p.190 までを読む。 【学び方】 第1回で列記した問題に関連する部分に○色マーカー、強く同意する部分に○線、分からない部分に○線を引くなどして、色別に区別すると第12・13・14回の課題に取り組みやすくなる。
12	「第3章：1：ことばの機能と子どもの発達」について学ぶ	p.129~p.159 について学ぶ。 【学び方】 子どものことば獲得の過程をN児の例をもとに理解し、ことばの機能について考察する。
13	「第3章：2：自我形成のことば」について学ぶ	p.160~p.179 について学ぶ。 【学び方】 対象となる部分をよく読み内容を理解した上で、①自我の発達にことばがどのように関係しているか、②ことばの発達によって失われるもの、この二つについて自分の考えをまとめる。
14	「第3章：3：発達の障害とことば」について学ぶ	p.180~p.190 について学ぶ。 【学び方】 ことばの障害への取組について、岡本が挙げた三つの点について整理する。
15	「おわりに」を読み、学修のまとめをする	岡本が挙げた三つのエピソードが、第1章～第3章のどの部分と強く関連しているのかを考察する。 【学び方】 三つのエピソードを要約し、キーとなる言葉を明らかにする。その上で、それらのキーワードが第何章の内容と関わりが深いのかを考察し、本文の要旨を400字程度でまとめる。

レポート課題

第1分冊 山田 深雪

第1分冊 〈略題〉自我の形成とことば 全て

横書き

Word添付

〈課題〉

子どもの「ことば」と「心」が乖離しないために、教育者として為すことを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

【下記の「評価の観点」をよく読んだ上でレポートを書くこと】

【引用の仕方については、下記を踏まえて記述すること】

- ① テキスト(『子どもとことば』)も含めて引用した文献は全て、レポートの最後に「著者五十音順」にて【引用・参考文献】一覧として示すこと。

このシラバスの「参考文献」の書き方に習って書くようにしてください。

(例) 著者名(発行西暦)『本のタイトル』出版社

- ② 直接引用部分は「」で括弧、直後に、ページ数を示すこと。
(例) 山田(2021)は、「コミュニケーションに纏わるベシズムは・・・である」(p.98)と述べている。

- ② 文献の一部を要約して引用するときは、句点の前にページ数を示すこと。

(例) 山田(2022)は、国語教育における〈寛容〉について、A・B・C・Dの四つの視点を示した(p.334)。

〈評価の観点〉

【主として内容について】

- ① 課題に対して、自分の考えを根拠を基に述べられているか。
- ② テキストの言葉や文を根拠として挙げ、その解釈を深めるために、自分の経験だけではなく、別途参考文献(書籍・論文等)を引用して論じていくとよい。
- ③ 「自分の考え」と「引用した言葉や文」を確実な引用表記をもって区別しているか。
- ④ 引用部分がレポート全体の3分の1を超えた場合は、評価の対象としない。

【主として形式について】

- ① 意味段落として、序論・本論・結論(はじめ・なか・おわり)が構成されているか。
- ② 形式段落を意図的に構成し、文脈を意識して自分の考えを述べているか。
- ③ レポート内に(脚注)を極力用いないこと。

〈その他の注意点〉

- ・テキストを熟読せずに、自分の経験や考えのみを羅列しないこと。
- ・剽窃をしないこと。
- ・提出レポートとして、読み手のことを考えて記すこと。

参考文献

今井むつみ(2013)『ことばの発達の謎を解く』ちくまプリマー新書
河合隼雄(1987)『子どもの宇宙』岩波新書
厚生労働省(2017)『保育所保育指針』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
ロイス・ホルツマン(2009) 茂呂雄二訳(2014)『遊ぶヴィゴツキー』新曜社

科目試験等への
アドバイス

【試験に限らず、学修するときは・・・】

- ・本を読むときに、線を引ながら読むとよいです。自分がどのような言葉に惹かれたのか、または疑問に思ったのかがわかります。また、もう一度読み返したい所には付箋を貼りましょう。
- ・本を読んで頭だけで考えることは非常に難しいです。テキストを開いて、考えたことを図化したり、思いついた言葉や経験を言語化してノートに書き並べたりするノートテイクがとても大切です。読書ノートをつくるのが学修です。特に、わからない部分こそ、最も学修対象となる部分です。わからない部分を諦めずに読みましょう。
- ・同じ文を読んでも、今日と明日で違うことを考えることもよくあります。正解を見出すために「読む」のではなく、多様な見方や新しい考えを得るために「読む」という気持ちで、構えずに心を柔らかくして読みましょう。そして、ノートに書き出す。その上で、学術的なレポートへとブラッシュアップしていくことが大切です。

教員からの
メッセージ

私も含め、みなさん「子ども」でした。自分自身が「ことば・言葉」を獲得してきた道のりを俯瞰しながら考えてもらいたいです。

また、シラバスを読んで「ことば」と「言葉」のどちらを使うか疑問に思った方もいらっしゃるでしょう。私は、辞書に書いてある、テキストに書いてあるなど、社会的に意味がある程度規定されているものを「言葉(漢字)」と表記しています。一方「ことば(ひらがな)」は、太鼓のことを幼児が「タンタン」と声に出したときの「タンタン」や明確な表現はないもののその人・場から受け取る「思い」などを言語化したものを対象とするときに「ことば(ひらがな)」で表記しています。ざっくり言うと、人間性に寄り添った生々しい言葉を敢えて「ことば(ひらがな)」と表記しています。岡本(1982)では、どのような意図で「ことば」と表記されているのかを探究するとおもしろいですね。

TT0499 子どもと人間関係

1 単位

テキスト名

保育内容「人間関係」ミネルヴァ書房
大豆生田啓友・岩田恵子・久保健太
(編著) 2022.4.30 出版

科目概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。特に、領域「人間関係」の育ちの基盤として重要な関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
主な到達目標	○幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 1) 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。 2) 人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。 ○幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。 1) 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 2) 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 3) 自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 4) 協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 5) 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 6) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
テキスト学修の留意点	テキストの中にはテーマに沿った事例が多く記述されている。この事例は、保育における実践の課題や人間関係に関連する内容を具体的に理解出来るように示されている。理論的な背景には必ず実践の子どもの姿や保育者のかかわりが含まれているので、事例を大切に読み取り、深い理解を目指して欲しい。

	学修テーマ	課 題
1	幼稚園教育要領における人間関係の位置付けを理解する	①幼稚園教育要領解説を確認し、人間関係の位置付けについて理解する。 ②人間関係における「ねらい」と「人間関係」内容を概観し、幼児がどのような姿になることが望ましいか整理する。 ③遊びを通じての総合的指導とはどのような指導方法であるか、解説を概観し指導の意味を理解する。
2	第1章 保育内容人間関係をめぐる視点	①人間関係とは何かについて教科書から学ぶ。 ②かかわり合いの中で学ぶとはどのような事であるか。ドーナツ論と二人称的アプローチから検討する。 ③「保育内容「人間関係」とは何か。何を目指して保育実践を意識する事が重要であるか学びを深める。
3	第2章 人とかかわりの育ちの意味	①乳幼児期の人とかかわる力の育ちが、その後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解する。 ②人間関係を育むために必要な保育者の役割を事例から理解する。 ③人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
4	第3章 人とかかわりの原点	①赤ちゃんの発達の姿を具体的に学ぶ。 ②世界が広がることの具体的なプロセスを学ぶ ③「協働性」とは何か。具体的な姿を意識し、その基礎を学ぶ。
5	第4章 人とかかわりの発達	①「道徳性・規範意識の芽生え」を子どもの姿から考える。 ②ケアリング関係の中で道徳を具体的に考える。 ③ルール（規範）の取り扱いについて考える。
6	第5章 家族や地域とのかかわりと育ち	①子育て環境や子育ての実態について学ぶ。 ②保育機関で行う子育て支援、場づくりと発信方法について学ぶ。 ③地域の人や場をととした支援、資源の活用について学ぶ。
7	第6章 領域「人間関係」のねらいと内容	①幼稚園教育要領のキーワードとして「身近な人と関わる心地よさ」「周囲の子ども等への興味や関心」について理解を深める。 ②3歳以上の領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。 ③子ども同士のかかわり、保育者とかかわりについて幼稚園教育要領ではどのように表記されているかを理解する。
8	第7章 領域「人間関係」と小学校とのつながり	①幼児期の教育と小学校との教育のつながりとは何か。連携をキーワードにして理解する。 ②幼児期と小学校以降において、人間関係についてどのように接続していくのか理解する。 ③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は小学校の人間関係にどのようにつながるか理解する。
9	第8章 それぞれの願いを大切に 過ごす3歳未満児の生活	①子どもと保育者かかわりの中で重要な点について整理し、理解する。 ②子ども同士のかかわりの中で大切な事を事例を通して理解する。 ③かかわりを育てる保育の計画について学ぶ。
10	第9章 安心感からひろがる 3歳児の姿	①新しい環境に向き合う3歳児が安心するために必要に配慮について学ぶ ②関係性の育ちと園におけるルールやきまりなどが育まれるために必要な事について理解する。 ③子どもの姿から学びを考える。

11	第10章 遊び込み伝え合おうとする 4歳児の姿	①4歳児の発達の特徴の理解と人とのかかわりを育てる保育実践の関係を学ぶ。 ②気になる子どもの理解と保育者の役割について学ぶ。 ③保護者との関係を形成するために必要な事について理解を深める。
12	第11章 目標を共にし協働する 5歳児の姿	①5歳児の特徴的姿と信頼関係による育ちの関係を学ぶ。 ②自己主張する事の意義と目標を共有するこのによる人間関係の育ち。 ③5歳児ならではの育ちとして顕著な順番や役割について学ぶ。
13	第12章 子ども理解から保育をつくる	①保育・幼児教育における日評価とは何か。 ②幼稚園教育要領における評価を考える。 ③保育をつくる営みについて理解する。
14	領域「人間関係」の 現代的課題を考える	①自立心を育むために必要な保育とは何かを学ぶ。 ②地域社会との連携を深める意味と価値について学ぶ。 ③人間関係に難しさのある子へのかかわりと異年齢保育の関係を理解する。
15	領域「人間関係」の 重要性を理解する	①幼児期に人間関係を育むことの重要性を理解し、語る事が出来るようになる。 ②幼児期と小学校における人間関係のつながりと課題を明確にする。 ③人間関係を育むために必要な保育者の役割を明確にする。

シラバス執筆：若月 芳浩

〈課題〉

幼児の人間関係を育むために必要な事について、以下用語を活用して具体的に考察する。

保育者の役割・環境構成・日常の子どもにとっての学び・遊びの継続と遊びの深まり・いざこざやトラブル・

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

例示した用語は出来るだけ全てを活用してほしい。その際、ひとつの用語説明にとどまることなく、主たる課題についてしっかりと考察するために用語を活用し、出来るだけ具体的に示す事が必要。

〈評価の観点〉

- ・課題に対する観点が明確に示されている事。
- ・具体的に説明するために、事例の活用を推奨する。事例を活用した場合は、必ず出典を明記する。
- ・用語を全て活用して考察出来ているかが重要な観点になる。

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用、または剽窃などがあった場合、成績評価はDとする。

参考文献

.....
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説

科目試験等へのアドバイス

.....
試験は主に理論的な背景についての設問が多くなっている。そのため、事例の表面的な理解だけでは回答する事が難しいため、教科書の背景に流れている理論をしっかりと学ぶ必要がある。

教員からのメッセージ

.....
混沌とした難しい時代に入り、乳幼児や児童生徒を取り巻く人間関係は年々難しさを増している傾向がある。その課題の原点は幼児期の人間関係に起因している事がかなり明確になっている。この領域を学ぶ事は、時代の流れの中で脈々と続くであろう課題の解決に少しでも寄与する事が出来る事を切に願っている。受講生の学びが結果的には社会の課題に立ち向かう事につながることを期待している。

科目概要	中学校と高等学校の代数学の内容とそのつづき
主な到達目標	中学校と高等学校の代数学とその続きを深いところまで理解すること
テキスト学修の留意点	テキストはそんなに読みやすく書かれていませんが、そういう本を読んで数学を理解するのも大事な勉強です。下記の学修テーマ、課題は学び方の一例に過ぎません。どのような順序で何を学ぶかはテキストをもとに自分で考えてください。

	学修テーマ	課 題
1	整域 / 整列集合、 数学的帰納法	テキスト 1 章 1、2 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
2	整除と合同式 / 公約数、公倍数	テキスト 1 章 3、4 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
3	素数、素因数分解の一意性 / 有理数	テキスト 1 章 5 節、2 章 1 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
4	有理数の順序 / p 進法、 小数	テキスト 2 章 2、3 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
5	無理数 / 複素数	テキスト 2 章 4 節、3 章 1 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
6	複素平面、極形式 / 複素数の n 乗根	テキスト 3 章 2、3 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
7	順列と組合せ	テキスト 4 章 1 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
8	二項定理	テキスト 4 章 2 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
9	1 変数多項式 / 1 変数多項式の整除	テキスト 5 章 1、2 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
10	1 変数有理式と部分分数	テキスト 5 章 3 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
11	多変数多項式	テキスト 6 章 1 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
12	対称式と交代式	テキスト 6 章 2 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
13	根と係数	テキスト 6 章 3 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
14	3 次および 4 次方程式	テキスト 7 章 1 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。
15	特殊な方程式	テキスト 7 章 2 節を読み、問題を解け。生徒に説明することを想定して、ノートにまとめよ。

シラバス執筆：朝山 芳弘

レポート課題

第1分冊 朝山 芳弘

第2分冊 朝山 芳弘

第1分冊 〈略題〉特になし テキスト第1,2,3,4章

横書き指定

PDF添付

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0500_第1分冊レポート課題.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する。

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0500_その他の注意点.pdf

第2分冊 〈略題〉特になし テキスト第5,6,7章

横書き指定

PDF添付

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0500_第2分冊レポート課題.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0500_その他の注意点.pdf

参考文献

.....
特になし科目試験等への
アドバイス.....
試験範囲はテキスト全てです。解答のみではダメで、計算、理由を必ず書いてください。教員からの
メッセージ.....
問題に答えることに意味があるのではなく、問題を解こうと努力する過程で数学の能力が身につくことに意味があります。
正解にたどり着く試行錯誤が大事です。頑張ってください。

科目概要	線形代数学と呼ばれる分野の基礎的内容、特に行列、ベクトル、行列式、固有値に関する基本的な性質を学ぶ。
主な到達目標	連立一次方程式、行列の演算、ベクトルの 1 次独立性と行列の階数、行列式、幾何ベクトル、数ベクトル空間と線形変換、行列の標準化と 2 次形式について、基本的な計算や論証および基本的な定理の導出が出来ること。
テキスト学修の留意点	例題、問いなどは全て自力で出来るまで練習すること。 証明は自分で理解できるまで考えながら読むこと。 自分の中で分からない点、曖昧な点がある場合は、自主的に他の文献を読み勉強すること。

	学修テーマ	課 題
1	連立 1 次方程式と行列 / 行列の定義と名称 / 掃出し法	テキスト 1 章 1、2、3 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
2	行列の階数 / 解の存在と一意性 / 和とスカラー倍	テキスト 1 章 4、5 節、2 章 1 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
3	行列の積 / いくつかの注意、特に正則行列と逆行列	テキスト 2 章 2、3 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
4	転置行列 / 行列のブロック分割 / ベクトルの 1 次独立と 1 次従属	テキスト 2 章 4、5 節、3 章 1 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
5	基本行列 / ベクトルの 1 次独立性と行列の階数	テキスト 3 章 2、3 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
6	階数の一意性 / 正則行列 / 掃出し法	テキスト 3 章 4、5、6 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
7	連立 1 次方程式 / 連立 1 次方程式と行列式 / 行列式の定義と列に関する性質	テキスト 3 章 7 節、4 章 1、2 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
8	行列式の具体的な形と一意性 / 積公式 / 行に関する性質	テキスト 4 章 3、4、5 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
9	余因数展開と行列式の存在 / 行列式の計算	テキスト 4 章 6、7 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
10	行列の階数、逆行列 / クラームルの公式	テキスト 4 章 8、9 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
11	幾何ベクトル / 基底と座標	テキスト 5 章 1、2 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
12	内積と外積 / 平面と直線	テキスト 5 章 3、4 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
13	数ベクトル空間 / 内積 / 線形変換	テキスト 6 章 1、2、3 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
14	基底の変換と相似行列 / 固有値と固有ベクトル	テキスト 6 章 4 節、7 章 1 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。
15	3 角行列への変換と実対称行列の対角化 / 2 次形式	テキスト 7 章 2、3 節を読み、問題を解け。他者に説明することを想定し十分理解すること。

シラバス執筆：日下 芳朗

レポート課題

第1分冊 日下 芳朗

第2分冊 日下 芳朗

第1分冊 〈略題〉連立一次方程式 ベクトル 行列式 テキスト1,2,3,4章

横書き指定

pdf添付

〈課題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/08.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①高校で学ぶ内容を充分身につけたうえで、本科目の学習に取り組むこと。
- ②答案作成の際、テキストあるいは他の文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。

〈評価の観点〉

- ①計算及び証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①、②が満たされていないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

再提出の際は、単に指摘された箇所を直すだけでなく、全体を見直して、より質の高いレポートにすることを心掛けること。提出の際は、手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から提出すること。ただし写真画像をPDFにしたものは文字が不鮮明なので認めない。

第2分冊 〈略題〉幾何ベクトル 行列の固有値・固有ベクトル テキスト第5,6,7章

横書き指定

pdf添付

〈課題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/09.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①高校で学ぶ内容を充分身につけたうえで、本科目の学習に取り組むこと。
- ②答案作成の際、テキストあるいは他の文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。

〈評価の観点〉

- ①計算及び証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①、②が満たされていないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

再提出の際は、単に指摘された箇所を直すだけでなく、全体を見直して、より質の高いレポートにすることを心掛けること。提出の際は、手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から提出すること。ただし写真画像をPDFにしたものは文字が不鮮明なので認めない。

参考文献

.....
 高等学校の数学の教科書や参考書
 草場公邦「線形代数」朝倉書店

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験問題は、計算力と論証力を問う。テキストの内容を充分理解した上で臨むことが何よりの対策となる。試験範囲はテキスト全範囲である。Wordなどの文書作成ソフトを使った答案が時たま見られるが、記号などが正しく出力されていない場合は零点である。手書きでの答案作成を勧める。

教員からの
メッセージ

.....
 数学は知識の積み重ねが必要な学問である。少なくとも高校で学ぶ内容については充分習熟した上で本科目の学習に取り組むこと。学習者の学力によっては、テキスト以外に多くの自習が必要になる場合もあることはいうまでもない。また、レポートは「自分がこの分野を充分理解していることをこちらに示す場である」と考えて作成すること。

TT0502 幾何学Ⅰ

2単位

テキスト名

『幾何学Ⅰ・Ⅱ』または『幾何学Ⅰ』通信教育課程刊行テキスト

科目概要	中学校の幾何学の内容
主な到達目標	中学校の幾何学を深いところまで理解すること
テキスト学修の留意点	テキストはそんなに読みやすく書かれてはいませんが、そういう本を読んで数学を理解するのも大事な勉強です。下記の学修テーマ、課題は学び方の一例に過ぎません。どのような順序で何を学ぶかはテキストをもとに自分で考えてください。

	学修テーマ	課 題
1	合同	三角形の合同条件を知る
2	合同	合同の応用問題を解く
3	相似	三角形の相似条件を知る
4	相似	相似の応用問題を解く
5	三平方	三平方の定理を知る
6	三平方	三平方の定理の応用問題を解く
7	円周角	円周角を知る
8	円周角	円に内接する四角形の性質と接弦定理を知る
9	五心	五心とは何かを知る
10	五心	五心の関係を知る
11	曲線	直線の方程式を知る
12	曲線	円の方程式を知る
13	曲線	放物線の方程式を知る
14	曲線	楕円の方程式を知る
15	曲線	双曲線の方程式を知る

シラバス執筆：佐藤 健治

レポート課題

第1分冊 佐藤 健治

第2分冊 佐藤 健治

第1分冊 〈略題〉なし

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/03.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する。

〈その他の注意点〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/02.pdf

第2分冊 〈略題〉なし

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/04.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する。

〈その他の注意点〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/02.pdf

参考文献

.....
中高の内容であるため特になし。科目試験等への
アドバイス.....
試験範囲はテキスト1編・2編です。解答のみではダメで、計算、理由を必ず書いてください。教員からの
メッセージ.....
問題に答えることに意味があるのではなく、問題を解こうと努力する過程で数学の能力が身につくことに意味があります。
正解にたどり着く試行錯誤が大事です。頑張ってください。

TT0503 幾何学 II

2単位

テキスト名
『幾何学 III・IV』または『幾何学 II』
通信教育課程刊行テキスト

科目概要	高等学校の幾何学の内容。
主な到達目標	高等学校の幾何学を深いところまで理解すること。
テキスト学修の留意点	テキストはそんなに読みやすく書かれてはいませんが、そういう本を読んで数学を理解するのも大事な勉強です。下記の学修テーマ、課題は学び方の一例に過ぎません。どのような順序で何を学ぶかはテキストをもとに自分で考えてください。

	学修テーマ	課 題
1	三角比	余弦・正弦・正接などを知る
2	三角比	三角関数の応用問題を解く
3	三角比	逆三角関数を知る
4	二次曲線	楕円の性質を知る
5	二次曲線	双曲線の性質を知る
6	二次曲線	放物線の性質を知る
7	空間	ベクトルを知る
8	空間	ベクトルの応用問題を解く
9	空間	二直線の関係を知る
10	空間	直線と平面の関係を知る
11	空間	二平面の関係を知る
12	空間	空間内の直線と平面の応用問題を解く
13	二次曲面	楕円面を知る
14	二次曲面	一葉双曲面を知る
15	二次曲面	二次曲面の応用問題を解く

シラバス執筆：佐藤 健治

レポート課題

第1分冊 佐藤 健治

第2分冊 佐藤 健治

第1分冊 〈略題〉なし

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/12.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する。

〈その他の注意点〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/05.pdf

第2分冊 〈略題〉なし

横書き指定

Word添付

〈課 題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/06.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

問題を解くための試行錯誤により実力が身につくのでヒントは与えない。

〈評価の観点〉

数学を本質的に理解しているかどうかを評価する。

〈その他の注意点〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/05.pdf

参考文献

.....
中高の内容であるため特になし。科目試験等への
アドバイス.....
試験範囲はテキスト全てです。解答のみではダメで、計算、理由を必ず書いてください。教員からの
メッセージ.....
問題に答えることに意味があるのではなく、問題を解こうと努力する過程で数学の能力が身に付くことに意味があります。
正解にたどり着く試行錯誤が大事です。頑張ってください。

科目概要	多くの現象（自然現象、社会現象を問わず）は微分や積分を含む式で表される。その意味で、解析学は数学のみならず様々な分野の基礎となる科目である。ここでは解析学において最も基本となる一変数関数の微分積分法を学ぶ。この分野は高校でその内容のある程度学ぶが、感覚的な理解で済ませてしまう基礎的事柄も多い。本科目ではそれら基礎についても厳密な論証を通じて学ぶ。
主な到達目標	一変数関数の微分積分に関する諸概念を理解すること。 それに基づいて、基本的な計算や論証および基本的な定理の導出が出来ること。
テキスト学修の留意点	例題、問いなどは全て自力で出来るまで練習すること。 証明は自分で理解できるまで考えながら読むこと。 自分の中で分からない点、曖昧な点がある場合は、自主的に他の文献を読み勉強すること。

	学修テーマ	課 題
1	集合と論理記号	集合の記法を学ぶ。論理記号を用いた命題の記法を学ぶ。
2	極限 1	上限・下限の概念、実数の部分集合に関する性質を学ぶ。
3	極限 2	厳密な極限の定義に基づいて、数列の極限および関数の極限の基本性質を導く。具体的な極限を求める。数列が収束するための条件を学ぶ。
4	関数	関数、逆関数、合成関数の定義を理解する。関数の連続性の定義を理解し、具体的な関数の連続性を判定する。連続関数の基本性質を調べる。初等関数の連続性を調べる。
5	微分法 1	微分係数、導関数の定義を理解し、具体的な関数の微分可能性を調べる。合成関数や逆関数を求める公式を導出する。
6	微分法 2	初等関数の微分可能性を調べる。高階導関数を求める。
7	微分法 3	平均値の定理を導出する。テイラーの定理を導出する。関数の増減、極大・極小を調べる。凸関数の定義を学びその性質を調べる。
8	積分法 1	原始関数の定義を学ぶ。置換積分法・部分積分法を学ぶ。
9	積分法 2	原始関数のさまざまな計算法を学ぶ。
10	積分法 3	定積分の定義を理解し、定積分の基本性質を導く。関数の一様連続性の定義を学び、具体的な関数の一様連続性を判定する。微分積分学の基本公式を導く。
11	積分法 4	定積分の計算法を学ぶ。広義積分の定義を学び、具体的に広義積分可能性を判定する。具体的な広義積分を求める。
12	積分法 5	面積の定義を学び、定積分を用いて求める。
13	積分法 6	曲線の長さ・回転体の体積・側面積の定義を学び、定積分を用いてそれらを求める。
14	級数 1	無限級数の性質を導出する。具体的な無限級数の収束・発散を判定する。 関数列が一様収束することの定義を理解する。具体的な関数列の一様収束性を判定する。
15	級数 2	関数項級数を項別積分・項別微分出来るための条件を学ぶ。ベキ級数の収束半径を求める。具体的な関数のベキ級数展開式を求める。

シラバス執筆：日下 芳朗

レポート課題

第1分冊 日下 芳朗

第2分冊 日下 芳朗

第1分冊 〈略題〉一変数の微分 1章～4章

横書き指定

pdf添付

〈課題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい }

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/10.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①高校で学ぶ微積分の内容を充分身につけたうえで、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、テキストあるいは他の文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。

〈評価の観点〉

- ①計算及び証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①、②が満たされていないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

再提出の際は、単に指摘された箇所を直すだけでなく、全体を見直して、より質の高いレポートにすることを心掛けること。提出の際は、手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から提出すること。ただし写真画像をPDFにしたものは文字が不鮮明なので認めない。

第2分冊 〈略題〉一変数の積分 5章～8章

横書き指定

pdf添付

〈課題〉

{ 内容はこちらをクリックして下さい }

https://www.tamagawa.ac.jp/info/correspondence_syllabus/file_2026/11.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①高校で学ぶ微積分の内容を充分身につけたうえで、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、テキストあるいは他の文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。

〈評価の観点〉

- ①計算及び証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①、②が満たされていないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

再提出の際は、単に指摘された箇所を直すだけでなく、全体を見直して、より質の高いレポートにすることを心掛けること。提出の際は、手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から提出すること。ただし写真画像をPDFにしたものは文字が不鮮明なので認めない。

参考文献

.....
 高等学校の数学の教科書や参考書
 加古孝『自然科学の基礎としての微積分』朝倉書店

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験問題は、計算力と論証力を問う。テキストの内容を充分理解した上で臨むことが何よりの対策となる。試験範囲はテキスト全範囲である。Wordなどの文書作成ソフトを使った答案が時たま見られるが、記号などが正しく出力されていない場合は零点である。手書きでの答案作成を勧める。

教員からの
メッセージ

.....
 数学は知識の積み重ねが必要な学問である。少なくとも高校で学ぶ内容については充分習熟した上で本科目の学習に取り組むこと。学習者の学力によっては、テキスト以外に多くの自習が必要になる場合もあることはいうまでもない。また、レポートは「自分がこの分野を充分理解していることをこちらに示す場である」と考えて作成すること。

科目概要	多変数関数の微分積分および微分方程式について学ぶ。1変数関数における諸概念を多変数関数に拡張し、多変数関数の性質について考察する。微分方程式に関しては、主に常微分方程式の求積法を学ぶ。また、微分方程式の応用性についても触れる。
主な到達目標	多変数関数の微分積分に関する諸概念を理解する。 微分方程式に関する諸概念を理解する。 多変数関数および常微分方程式の基本的な計算や定理の導出ができること。
テキスト学修の留意点	教科書にある例題、問いなどの問題を繰り返し解き、人に説明ができるくらい理解を深めること。 定理の意味をよく考えること。 他の文献等を利用し、積極的に自分の疑問点について考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	多変数関数の微分法 1	多変数関数の定義を理解する。多変数関数の極限および連続性について考察する。
2	同 2	偏微分可能であることの定義を理解する。偏微分係数、偏導関数を求める。
3	同 3	全微分可能であることの定義を理解する。全微分可能性を判定する。接平面の定義を理解し、それを求める。
4	同 4	多変数関数の合成微分法、および関数行列式の定義を理解し、それを求める。 テイラーの定理を導出し、具体的な関数をテイラー展開する。多変数関数および陰関数の極値問題について考察する。
5	同 5	曲面の接平面と法線を求める。包絡線を求める。曲線の曲率を求め、平面曲線について考察する。
6	多変数関数の積分法 1	重積分の定義を理解し、基本的性質を導出する。
7	同 2	重積分を累次積分に帰着し計算する。
8	同 3	重積分の変数変換を行う。適当な変数変換をして重積分を上手に求める。
9	同 4	3重積分の定義を理解し、それを計算する。
10	同 5	面積、体積、曲面積の定義を理解しそれらを求める。重心と慣性能率の定義を理解しそれらを求める。
11	微分方程式 1	変数分離形の微分方程式を解く。
12	同 2	1階微分方程式を解く。
13	同 3	高階微分方程式を解く。
14	同 4	定数係数高階線形微分方程式を解く。
15	同 5	幾何学、物理学への応用を考える。

シラバス執筆：成川 康男

レポート課題

第 1 分冊 成川 康男

第 2 分冊 成川 康男

第 1 分冊 〈略題〉多変数関数の微積分に関する問題に答えよ。 テキスト「解析学Ⅲ・Ⅳ」

横書き

PDF添付

〈課 題〉

{内容はこちらをクリックして下さい}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0505_第1分冊レポート課題.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①解析学Ⅰの内容を充分身につけた上で、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。
- ③十分に濃い丁寧な文字で書くこと。

〈評価の観点〉

- ①計算および証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①②が満たされないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

「手書きしたものを PDF にして「Web TAMA」上から添付して提出することも認めます。」

第 2 分冊 〈略題〉微分方程式に関する問題に答えよ。 テキスト「解析学Ⅲ・Ⅳ」

横書き

PDF添付

〈課 題〉

{内容はこちらをクリックして下さい}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0505_第2分冊レポート課題.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①解析学Ⅰの内容を充分身につけた上で、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。
- ③十分に濃い丁寧な文字で書くこと。

〈評価の観点〉

- ①計算および証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①②が満たされないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

「手書きしたものを PDF にして「Web TAMA」上から添付して提出することも認めます。」

参考文献

特になし

科目試験等への
アドバイス

テキストの内容を充分理解する。また、教科書や課題の演習問題に取り組み、計算力と論証力を養うことが試験対策となる。試験範囲は、テキスト全範囲である。

教員からの
メッセージ

解析学Ⅰまでの内容を十分に理解している必要がある。その上で、自分で実際に手を動かし教科書などの問題に取り組むことで、解析学への理解を深めることができる。

科目概要	複素関数論の基本的な概念を学ぶ。特に複素関数の正則性、線積分、留数等の複素関数に関する基本的な計算方法を理解する。
主な到達目標	複素関数論の基礎概念を理解する。 基本的な計算ができ、基本的な定理を理解すること。
テキスト学修の留意点	教科書にある例題、問いなどの問題を繰り返し解き、人に説明ができるくらい理解を深めること。 定理の意味をよく考えること。 他の文献等を利用し、積極的に自分の疑問点について考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	複素関数 1	実数の性質を理解する。複素数の定義を理解し、複素数演算を行う。複素平面および複素数の演算の幾何学的意味を理解する。複素平面上の点集合に関する諸概念を学び、基本性質を導出する。
2	同 2	複素関数の定義を理解する。 複素関数の極限の定義を理解し基本性質を導出する。 連続性の判定をする。
3	同 3	初等超越関数の定義を理解し、基本性質を導出する。 多価関数のリーマン面を求める。
4	複素関数の微分積分 1	導関数の定義を理解し、基本性質を導出する。導関数を求める。
5	同 2	正則性の定義を理解する。正則性を判定する。
6	同 3	複素積分の定義を理解し、それを求める。
7	同 4	コーシーの定理を導出し、複素積分に応用する。 コーシーの積分表示および、それより導かれる諸定理を証明する。
8	同 5	留数の定義を理解し、それを求める。留数計算を複素積分に応用する。
9	同 6	複素積分を応用して実積分を求める。
10	複素級数 1	関数項級数の収束・発散を判定する。 べき級数の収束・発散を判定する。 収束半径を求める。
11	同 2	テイラー展開式を導出する。 具体的な関数のテイラー展開を求める。
12	同 3	一致の定理および、それより導かれる諸定理を証明する。 解析接続を理解する。
13	特異点	ローラン展開式を導出する。 具体的な関数のローラン展開を求める。 特異点の定義を理解し分類する。
14	等角関数 1	具体的な 1 次関数による写像を調べる。
15	同 2	具体的な 2 次の有理関数や初等超越関数による写像を調べる。

シラバス執筆：成川 康男

レポート課題

第1分冊 成川 康男

第2分冊 成川 康男

第1分冊 〈略題〉複素関数論に関する問題に答えよ。 テキスト解析学Ⅴ・Ⅵ

横書き指定

PDF添付

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0506_第1分冊レポート課題_2022.pdf

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①解析学Ⅰ、Ⅱの内容を充分身につけた上で、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。
- ③十分に濃い丁寧な文字で書くこと。

〈評価の観点〉

- ①計算および証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①②が満たされないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

「手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から添付して提出することも認めます。」

第2分冊 〈略題〉複素関数論に関する問題に答えよ。 テキスト解析学Ⅴ・Ⅵ

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0506_解析学Ⅲ第2分冊\(2023年度\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0506_解析学Ⅲ第2分冊(2023年度).pdf)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①解析学Ⅰ、Ⅱの内容を充分身につけた上で、本科目の学習に取り組むこと。
- ②解答の際、文献を参考にすることはかまわないが、内容を理解した上で自分の言葉で説明すること。
- ③十分に濃い丁寧な文字で書くこと。

〈評価の観点〉

- ①計算および証明が正しくなされているか。
- ②本分野に関する理解が充分であるとみなせるような適切な説明がなされているか。
- ③①②が満たされないものは不可評価となる。

〈その他の注意点〉

「手書きしたものをPDFにして「Web TAMA」上から添付して提出することも認めます。」

参考文献

特になし

科目試験等への
アドバイス

テキストの内容を充分理解する。また、教科書や課題の演習問題に取り組み、計算力と論証力を養うことが試験対策となる。試験範囲は、テキスト全範囲である。

教員からの
メッセージ

解析学Ⅰまでの内容を十分に理解している必要がある。その上で、自分で実際に手を動かし教科書などの問題に取り組むことで、解析学への理解を深めることができる。

TT0507 確率統計学 I

2単位

テキスト名

『確率統計学 I』

2015 年 4 月初版発行

科目概要	所与のデータの全てを用いて処理・解析し、統計調査の対象となる集団の特徴を調べる「記述統計」と考察対象のある事柄に対し、その起こり得る全て（の総数）を求める「場合の数」、および確率統計（推測統計）を学ぶ上で基礎となる「確率」、更に確率統計の手法を用いて統計解析を行う際、その原理・土台となる「確率分布」と「標本調査」の基礎について学ぶ。
主な到達目標	●度数分布表の作成方法や特性値（平均、分散、標準偏差）の求め方とその意味・特長を理解し説明できる。 ●確率変数や関連する基本概念（確率分布、密度関数、分布関数、平均・分散・標準偏差）について理解し、状況に応じて適宜これらが求められる。 ●二項分布、ポアソン分布、正規分布に対して理解し、関連する事象の確率が求められる。 ●標本調査について、基本事項（無作為抽出標本、標本平均・不偏分散、正規母集団等）を理解する。
テキスト学修の留意点	別途配付される「学習指導書」を熟読のうえ、テキストに記載の例題・および演習問題は最低限完全に解けるようにしておくこと。

	学修テーマ	課 題
1	記述統計 (1)	データの整理（いくつかの数値からなる「生のデータ」の全てを整理してその特徴を調べる（「全数調査」という）方法として基本的かつ有力な「度数分布表」とその作成法を学ぶ。）
2	記述統計 (2)	平均と分散・標準偏差（前回学んだ「度数分布表」をもとに、「生のデータ」が得られた調査対象の集団（集合）の傾向を表わす指標となる「平均」と「分散」を扱う。）
3	記述統計 (3)	チェビシェフの不等式（前回学んだ「分散・標準偏差」の意味を理解し利用する方法の 1 つとして有力な「チェビシェフの不等式」について議論する。）
4	記述統計 (4)	相関関係と相関係数（「生のデータ」（数値からなる集合）が 2 つ得られているとき、これらを整理しその関連を調べる方法について議論する。）
5	場合の数と確率 (1)	場合の数と計算法則、順列・組合せ（場合の数について、基本的な計算法則である和・積の法則や順列・組合せ（重複・非重複）について議論する。）
6	場合の数と確率 (2)	確率の基礎と確率の公理（確率について、定義と加法定理と乗法定理、および確率の公理に関して議論する。）
7	場合の数と確率 (3)	条件つき確率と試行の独立性（ある状況（条件）下での確率である「条件つき確率」と試行の「独立性」について議論する。これは後に学ぶ「二項分布」と関連する概念である。）
8	確率分布 (1)	確率と離散型確率変数・確率分布表・代表値（以降主役となる「確率変数」を扱う。今回学ぶのは、とり得る値（「実現値」という）がとびとびである「離散型」の確率変数とこれの特徴づける「確率分布表」、およびその「代表値」（「平均」・「分散」・「標準偏差」）である。）
9	確率分布 (2)	連続型確率変数と確率密度関数・分布関数（実現値が離散型のようにとびとびでなく、ある値の範囲のように連続的である「連続型」の確率変数とこれの特徴づける「確率密度関数」と「分布関数」について議論する。）
10	確率分布 (3)	連続型確率変数の平均・分散・標準偏差（離散型の場合と同様、連続型確率変数の「代表値」（「平均」・「分散」・「標準偏差」）について議論する。）
11	確率分布 (4)	二項分布（今回から複数回に分けて、代表的な確率分布について学ぶ。初回の今回は、離散型確率変数の表す分布として最も典型的なものの 1 つである「二項分布」とその具体例を扱う。）
12	確率分布 (5)	ポアソン分布（前回までと同様、離散型確率変数の表す分布として最も典型的 なものの 1 つである「ポアソン分布」とその具体例を扱う。）
13	確率分布 (6)	正規分布（連続型確率変数の表す分布として重要かつ最も本質的な「正規分布」について議論する。）
14	確率分布 (7)	その他の主要な分布（離散型確率変数の表す分布として最も典型的なものの 1 つである「幾何分布」、連続型確率変数の表す分布として重要な「一様分布」と「指数分布」とその具体例について議論する。）
15	標本調査と近似定理	近似定理（「大数の法則」と「中心極限定理」について学ぶ。）

シラバス執筆：雨宮 将人

レポート課題

第1分冊 雨宮 将人

第2分冊 雨宮 将人

第1分冊 〈略題〉2 変量のデータの相関
第1章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{ 別ウインドウにて出題します。

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0507_確率統計学Iレポート課題\(第1分冊\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0507_確率統計学Iレポート課題(第1分冊).pdf)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ②用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。

〈評価の観点〉

- ① (i) と (ii) いずれにおいても、決定係数は2変量 (i) では x と y 、(ii) では u と y の相関係数 r を求め、これを2乗したもので計算して下さい。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。
- ③結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ④用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。

〈その他の注意点〉

原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。

提出様式は「Word 添付」ですが pdf ファイルに変換したものを添付してください。※1

可能ならば Word は使わず手書きの答案の画像を pdf ファイルに変換したものを添付しても構いません。※2

返却される答案は全て pdf ファイルで添付されます。

※1. Word ファイルを pdf に変換するサイト。

https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf

※2. 画像ファイル (jpeg 以外の形式にも対応) を pdf に変換するサイト。

https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

第2分冊 〈略題〉チェビシェフの不等式と大数の法則 第2章、第3章、第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{ 別ウインドウにて出題します。

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0507_確率統計学Iレポート課題\(第2分冊\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0507_確率統計学Iレポート課題(第2分冊).pdf)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① (1) では結果のみ答えて下さい。
 - ② (3) では $p(1-p)(0 < p < 1)$ のとり得る値の範囲に注意して確率の単調性を利用して下さい。(単調性を用いない方針では別の課題が出題されます。)
 - ③結果だけのものは不可。(ただし、答案が冗長にならないよう細かな式変形は書かないこと。)
- ※指定テキストの定理 3.2.2 (チェビシェフの不等式) の誤り (3.2.4) の右辺が $1/k^2$ が訂正されてないことがあります。下記 (訂正済み) 参照。
https://drive.google.com/file/d/1cDuHxG8kTXDfkMd_kXZUxEx3Zl-IDTo4/view?usp=share_link

〈評価の観点〉

- ①結果のみや上記「留意事項」の指示を守っていない報告は再提出。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。

〈その他の注意点〉

原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。

提出様式は「Word 添付」ですが pdf ファイルに変換したものを添付してください。※1

Word は使わず手書きの答案の画像を pdf ファイルに変換したものを添付しても構いません。※2

返却される答案は全て pdf ファイルで添付されます。

※1. Word ファイルを pdf に変換するサイト。

https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf

※2. 画像ファイル (jpeg 以外の形式にも対応) を pdf に変換するサイト。

https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

参考文献

.....
テキスト末尾の「参考文献」に記載のものを参考にしてください。科目試験等への
アドバイス.....
上記「留意事項」を念頭に、テキスト記載の問題等で徹底的に問題演習をしておいてください。教員からの
メッセージ.....
科目試験では、「学修テーマと課題」の全てが出題範囲となります。

科目概要	確率（推測）統計学に関して、その基本的な議論の仕方を議論する。具体的には、母集団分布とその母集団から無作為抽出された標本をもとに適宜定められる統計量の分布を利用して、母平均、母比率、母分散、母平均差、母比率差などいわゆる母数の推定と、その母数に関する仮説の妥当性を確率概念を用いて系統的に判定するいわゆる仮説の検定とについて学ぶ。
主な到達目標	●正規母集団よりの無作為抽出標本から主要確率分布の正規分布、t-分布、χ^2-分布および F-分布に従う確率変数の作り方の修得。 ●推定に関する基本事項（不偏・一致推定量、信頼度、パーセント点、信頼区間の意味等）を理解し、種々の母数ごとの確にこれを行うことができる。 ●検定に関する基本事項（有意水準、危険率、検定の誤り、仮説の棄却・採択とその意味、棄却域）を理解し、種々の仮説ごとの確にこれを行うことができる。
テキスト学修の留意点	別途配付される「学習指導書」を熟読のうえ、テキストに記載の例題・および演習問題は最低限完全に解けるようにしておくこと。

	学修テーマ	課 題
1	多次元分布 (1)	多次元離散分布と連続分布（同時確率や周辺分布（関数）、周辺確率（密度関数）、特性値（平均・分散・標準偏差）など、多次元分布の基本概念を学ぶ。）
2	多次元分布 (2)	多次元分布の独立（多次元分布を通して、確率変数の独立性と相関などについて議論する。）
3	多次元分布 (3)	確率変数の関数の分布と平均（確率変数の連続関数による変換を用いた解析手法（積率、母関数）の基礎を学ぶ。）
4	多次元分布 (4)	χ^2 分布、 t 分布、 F 分布 (1)。(正規母集団より得られる標本に関連して導出される確率分布として、重要な分布の 1 つである χ^2 分布について、定義や分布表など基本事項を学ぶ。)
5	多次元分布 (5)	χ^2 分布、 t 分布、 F 分布 (2)。(前回に引き続き、正規母集団より得られる標本に関連して導出される確率分布として、重要な分布の 1 つである t 分布について定義や分布表など基本事項を学ぶ。)
6	多次元分布 (6)	χ^2 分布、 t 分布、 F 分布 (3)。(前回に引き続き、正規母集団より得られる標本に関連して導出される確率分布として、重要な分布の 1 つである F 分布について定義や分布表など基本事項を学ぶ。)
7	推定 (1)	区間推定の基本概念の整理。(推定の方法、信頼度、信頼区間など基本事項について学ぶ。)
8	推定 (2)	母平均、母比率の推定。(正規母集団よりの任意の大きさの標本、または任意の（無限）母集団よりの大標本を用いた母平均の区間推定と、任意の無限母集団よりの大標本または小標本を用いた母比率の区間推定を学ぶ。)
9	推定 (3)	母平均差、母比率差の推定。(2 つの正規母集団よりの任意の大きさの 2 標本、または 2 つの（無限）母集団よりの 2 つの大標本を用いた母平均差の区間推定と、2 つの無限母集団よりの 2 つの大標本を用いた母比率差の区間推定を学ぶ。)
10	推定 (4)	母分散の推定。(母分散 σ^2 が未知の正規母集団よりの任意の大きさの標本の場合の母分散の区間推定を学ぶ。)
11	検定 (1)	検定の基本概念の整理（検定の方法、仮説と対立仮説、有意水準、危険率、棄却域、仮説の採択・棄却など基本事項について学ぶ。)
12	検定 (2)	母平均、母比率の検定。(正規母集団よりの任意の大きさの標本を用いた母平均の検定と、任意の無限母集団よりの大標本を用いた母比率の検定を学ぶ。)
13	検定 (3)	母平均差、母比率差の検定。(2 つの無限母集団よりの 2 つの大標本、または母分散が等しい 2 つの独立な正規母集団よりの 2 つの小標本を用いた母平均差の検定と、2 つの無限母集団よりの 2 つの大標本を用いた母比率差の検定を学ぶ。)
14	検定 (4)	母分散の検定、等分散の検定。(1 つの正規母集団よりの任意の大きさの標本を用いた母分散の検定と、2 つの独立な正規母集団よりの 2 つの任意の大きさの標本を用いた等分散の検定を学ぶ。)
15	検定 (5)	適合度の検定、独立性の検定。(適合度の検定と、分割表を用いた独立性の検定とを学ぶ。)

シラバス執筆：雨宮 将人

レポート課題

第1分冊 雨宮 将人

第2分冊 雨宮 将人

第1分冊 〈略題〉多次元確率分布と母数の推定 第1章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{ 別ウィンドウにて出題します。

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0508_確率統計学IIレポート課題\(第1分冊\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0508_確率統計学IIレポート課題(第1分冊).pdf)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ②用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。
- ③「ワープロ使用可」ですが、返却された報告の批評欄に「次回以降は手書きで」のような指示が書かれ、評価が「D(再提出)」となっている場合は、以降の(再)報告はこの指示に従って下さい。この場合は、ワープロの使用を以降認めません。

〈評価の観点〉

- ①結果のみや上記「留意事項」の指示を守っていない報告は再提出。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。

〈その他の注意点〉

- 原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。
- 提出様式は「Word 添付」ですが pdf ファイルに変換したものを添付してください。※1
- 可能ならば Word は使わず手書きの答案の画像を pdf ファイルに変換したものを添付しても構いません。※2
- 返却される答案は全て pdf ファイルで添付されます。
- ※1. Word ファイルを pdf に変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf
- ※2. 画像ファイル (jpeg 以外の形式にも対応) を pdf に変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

第2分冊 〈略題〉仮説(母比率、等分散、等平均、適合度)の検定 第2章、第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{ 別ウィンドウにて出題します。

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0508_確率統計学IIレポート課題\(第2分冊\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0508_確率統計学IIレポート課題(第2分冊).pdf)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①(3) ではポアソン分布表を用いて下さい。
- ②結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ③用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。
- ④「ワープロ使用可」ですが、返却された報告の批評欄に「次回以降は手書きで」のような指示が書かれ、評価が「D(再提出)」となっている場合は、以降の(再)報告はこの指示に従って下さい。この場合は、ワープロの使用を以降認めません。

〈評価の観点〉

- ①結果のみや上記「留意事項」の指示を守っていない報告は再提出。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。

〈その他の注意点〉

- 原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。
- 提出様式は「Word 添付」ですが pdf ファイルに変換したものを添付してください。※1
- 可能ならば Word は使わず手書きの答案の画像を pdf ファイルに変換したものを添付しても構いません。※2
- 返却される答案は全て pdf ファイルで添付されます。
- ※1. Word ファイルを pdf に変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf
- ※2. 画像ファイル (jpeg 以外の形式にも対応) を pdf に変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

参考文献

.....
テキスト末尾の「参考文献」に記載のものを参考にしてください。科目試験等への
アドバイス.....
上記「留意事項」を念頭に、テキスト記載の問題等で徹底的に問題演習をしておいてください。教員からの
メッセージ.....
科目試験では、「学修テーマと課題」の全てが出題範囲となります。

科目概要	コンピュータの概要、コンピュータ内部で情報の表現の仕方を知り道具としてコンピュータを使いこなす基礎を作る。また、数学教育に役立つソフトウェアについて学び、数学教育で用いられる基本アルゴリズムをプログラムできるようにする。
主な到達目標	2進数、16進数がコンピュータ内部での情報表現でどのように利用されてるのかを知り、簡単な情報を自分で内部表現に変換できる。コンピュータの動作原理を知り、それを他者に説明でき、さらにプログラムの流れを読むことができる。また、数学教育ソフトを利用して、関数や幾何図形を描くことができるようになるとともに、数学的基本アルゴリズムを実際にプログラムできるようになる。
テキスト学修の留意点	コンピュータ内部で情報がどのように表現されているか注意すること。特に、文字と数値の表現には注意すること。数学ソフトとして取り上げられている GeoGebra は実際にインストールし自ら積極的に利用してみる。また、SmallBasic をインストールし、テキストのプログラムを実際に動かしてみる。特に、プログラムの流れを正確に把握すること。

	学修テーマ	課 題
1	コンピュータの構成と OS	手元にあるコンピュータの内部構造を確認する。オペレーティングシステムとは何かを知り、使用している OS を確認する。
2	プログラムの制御基礎	コンピュータに仕事をさせるための種々の言語の特徴を調べる。種々の言語に共通する命令の制御構造を知り、人間に命令を出すときとの違いを確認する。
3	情報の単位	ビット、バイトの意味を知りなぜコンピュータで内部情報が2進数を基本としていることの意味を考える。
4	数値情報の表現	整数型データ、実数型データの内部表現を確認する。
5	文字情報の表現	コンピュータ内部での文字の取り扱いを確認する。
6	制御情報の表現	ブール代数の基礎演算を修得する。
7	GeoGebra の導入	手元のコンピュータに GeoGebra をインストールし、起動してテキストの内容を自ら実行する。
8	GeoGebra の利用	数学の教科書から関数、初等幾何の作図問題を選び GeoGebra で描いてみる。
9	プログラムの基本要素	プログラムの基本要素を確認する。特に、代入文での同じ変数で左辺と右辺の意味が違うことに注意する。
10	基本データ型と制御の基本	データ型を確認する。プログラムの中の変数にデータ型があることを理解する。
11	サブプログラム	プログラムの分割統治を理解し、プログラム同士の変数の値のやりとりを理解する。
12	SmallBasic の導入	まず、実際のプログラミングを行える環境を整える。具体的には、SmallBasic をインストールする。
13	プログラミング 1	総和を求めるプログラムを理解する。
14	プログラミング 2	GCD, LCM の求め方を数学的に理解しプログラムを書く。
15	プログラミング 3	行列計算、乱数の利用によるプログラムを理解する。

シラバス執筆：大崎 正雄

レポート課題

第1分冊 大崎 正雄

第1分冊 〈略題〉コンピュータの基礎と、動的数学ソフトウェア 第1章から第3章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 次の問いの中の n は数 30655 を表す。次に答えよ。
 - (a) 何ビットあれば n 個の状態を区別できるか。
 - (b) n を 2 バイト長の 2 進数に変換し、さらに 16 進表記せよ。
 - (c) 整数の表現単位を 2 バイト、負の数は 2 の補数で表現すると定める。このとき、 $-n$ の表現を 16 進表記せよ。
- (2) $a_1 = 1, a_2 = 1$, と漸化式 $a_{n+2} = a_{n+1} + a_n (n = 1, 2, 3, \dots)$ で定まる数列 $\{a_n\}$ を初項から第 20 項まで出力印刷するプログラムを「繰り返し」も用いて作成せよ。次に、隣り合った 2 項の比の値 $\frac{a_{n+1}}{a_n}$ が n を限りなく大きくするとどのような数値に近づいていくか検証せよ。 n を無限大にはできないので当然あるところで止めなくてはならないことに留意すること。ただし、配列は用いないこと。どうしてもプログラム言語を使用できないときは、日本語で詳細に手順を書いてもよい。
- (3) 2 つの円 $x^2 + y^2 = 36, x^2 + y^2 = 25$ と原点を始点とする半直線の交点を P, Q とする。点 P を通って x 軸に平行な直線と、点 Q を通って y 軸に平行な直線の交点を R とするとき、半直線を動かしたときの点 R の軌跡を GeoGebra で調べよ。GeoGebra の最終画面を印刷し、印刷面に手書き等で説明をつけどのような原理でその作図が行われたか解説すること。

〈評価の観点〉

すべてにおいて論理的な説明がつけられていることと、計算がある場合はその思考過程が採点者にわかるように書かれていないてはならない。満たされていない場合は、再提出もある。

〈その他の注意点〉

- (1) Microsoft SmallBasic は、<http://smallbasic.com/> で公開・配布されている。
- (2) GeoGebra は、<http://www.geogebra.org/> で公開・配布されている。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

プログラムは参考で示した SmallBasic を使用し、実際の実行例の結果を必ず添付すること。プログラム中に使用する変数の型、属性、意味内容を必ず明示しておくこと。

参考文献

.....
 コンピュータに関しては特に参考文献はあげません。テキストの文献をみてください。
 大事なことは、実際に自ら触ることです。
 後半のプログラミングでマイクロソフトの
<http://smallbasic.com/>
 から辿っていくとテキストとはおもむきが異なる Small Basic のチュートリアル（入門書）がダウンロードできます。
 テキストでは取り上げなかったグラフィック系の話もありますので参考にしてください。

科目試験等への
アドバイス

.....
 とにかく、論理的に答えてください。思考過程が不明瞭な解答は評価が低くなります。

教員からの
メッセージ

.....
 実際にコンピュータを使ってみることが肝心です。
 人間に指示を出すのとコンピュータに指示を出すことの違いを理解すれば、コンピュータはうまく利用できるようになります。
 また、コンピュータの中で情報がどのように表されているかを理解することもコンピュータを使いこなす上で必要になります。
 プログラミングは楽しみましょう。

科目概要	中学校・高等学校の学習指導要領の内容を含みつつ、数学教育学の研究成果を基にしながら本来あるべき中等数学の内容と指導法について学ぶ。具体的には数学教育史、代数、解析分野などで、実習をとおして実際に数学的活動を体験する。
主な到達目標	① 数学教育学とはどのような学問かを知る。 ② 数学教育の歴史を概観でき、現在の課題のルーツを知る。 ③ 教材研究の方法を体得する。 ④ 授業設計の方法がわかる。
テキスト学習の留意点	① 「なぜ数学を教えなければならないのか」、「なぜその内容を教えるのか」を常に考えながらテキストを読む。 ② 明治期からの数学教育の歴史を、当時の社会状況との関連を考えながらまとめる。 ③ 現在の指導上の課題は、どこにあるのか、歴史的、認識論的にまとめる。 ④ 指導内容の背景にある数学を理解する。 ⑤ 指導上の課題とその解決策について、自分なりのアイデアを出して考察する。

	学修テーマ	課 題
1	数学教育学とは	数学教育学とは何か、その専門分野とそこでの具体的な研究内容例をテキスト全ページから見つけて、まとめる。
2	数学教育の方法	数学を教える目的、及び、目標をまとめる。
3	数学教育史 (1)	学修指導書も参考にして、和算と戦前・戦中までの歴史を、原因、内容、課題に分けてまとめる。
4	数学教育史 (2)	戦後の歴史を、原因、具体的内容と実際の指導の様子、課題に分けてまとめる。新教育、系統学習、現代化がキーワードである。
5	数学教育史 (3)	1980 年以降の歴史を、原因、具体的内容と実際の指導の様子、課題に分けてまとめる。さらに、今後の数学驚異の重点についてまとめる。ゆとり、新学力観、PISA、数理資本主義がキーワードである。
6	評価と学力調査 (1)	単元と授業目標を設定して、そこでの使う評価内容と評価方法を具体的に考える。
7	評価と学力調査 (2)	全国学力・状況調査を、TIMSS と PISA との違いを明らかにしながら説明する。
8	代数 (1)	代数の教育内容を系統的にまとめる。また、文字の意味について小学校からのつながりを考えて考察する。
9	代数 (2)	濃度について理解する。「数と式、方程式、不等式」の関連を整理する。
10	代数 (3)	方程式・不等式における文字の意味の指導の留意点をまとめる。
11	代数 (4)	指導困難点を考え、より良い教育内容と方法を提案する。
12	解析 (1)	解析の教育内容を系統的にまとめる。また、小学校からのつながりを考えて考察する。
13	解析 (2)	関数とは何か？を整理し、解析学の基本概念を理解する。
14	解析 (3)	指導困難点を考え、より良い教育内容と方法を提案する。特に、量の抽出の意味を考える。
15	学習指導	代数又は解析分野の単元を設定して、学習指導案細案（「単元について」から書く）を作成する。

シラバス執筆：成川 康男

レポート課題

第1分冊 成川 康男

第2分冊 成川 康男

第1分冊 〈略題〉数学教育学と数学教育史、評価 第1章、第2章、第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 数学教育における「新教育（単元学習）」と「現代化」とは何であったか、それぞれが起きた要因とその実際の教育内容や教育実践例をまとめよ。また、現在の視点から単元学習と現代化を再評価せよ。
- (2) (1)を踏まえて、最新の中学校、及び、高等学校学習指導要領における数学科の特徴と問題点について、これからの数学教育を射程に入れて内容とカリキュラムの視点から考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①「その実際」を記述するときは、学修指導書を参考にして補足すること。
- ②数学科にしばって学習指導要領が作られた意図、特徴をまとめよう。一歩引いて批判的に考察してみる。
- ③(2)は(1)との関連の上で考察すること。
- ④(2)では、「時間が無く…」、「教師により負担がかかるので…」といった教師側の原因からの問題点ではなく、積極的に指導することを前提にした上での問題点を考察すること。

〈評価の観点〉

- ①歴史的事実を正しく把握しているか。
- ②歴史を踏まえて学習指導要領の特徴が考察されているか。
- ③考察部分の分量が少ないと不可評定になる。

〈その他の注意点〉

- ①内容とカリキュラムは、最新の中学校・高等学校学習指導要領・その解説を参考にすること。
- ②テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

第2分冊 〈略題〉代数と解析、評価 第3章、第7章、第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 新学習指導要領における小学校から高等学校までの解析教育の内容と系統性について記すとともに、解析教育の指導困難点、及び、内容・カリキュラム上の課題と改善案について述べよ。
- (2) (1)を踏まえた上で、関数を含む実在の現象について、実際に実験を行い、その測定値を基に、その関数について考察せよ。さらに、授業でその現象を扱おうとする先生のために、教育的意義と指導方法、評価内容・方法を説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①系統性ではフローチャートなど、繋がりが分かるように図化すると良い。
- ②実験については、実験日時、準備物、実験方法（手順）、実験結果を必ず記し、これらの説明を補足・補充するために、写真を撮り（最低1枚）、レポートに添付すること。

〈評価の観点〉

- ①解析教育の内容が正確にまとめられているか。
- ②指導困難な理由と改善案が記されているか。
- ③追実験が可能なほどに実験方法と結果が記されているか。
- ④考察や教育的意義・指導方法がしっかり書かれているか。
- ⑤自分で実験していないと思われる場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

- ①内容とカリキュラムは、最新の学習指導要領・解説を参考にすること。
- ②テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

参考文献

.....
 テキストや学修指導書、及び、それらに記載してある文献を参考にすること。さらに、中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領の解説数学編も参考になる。

科目試験等への
アドバイス

-
 ①歴史、数学的背景、指導上の課題、解決方法について問う。
 ②章末の研究課題を解いておくとう良い。
 ③学修指導書の内容も試験範囲に含まれる。

教員からの
メッセージ

.....
 数学的な内容をまず理解すること。さらに、近年、「数学的活動」がキーワードになっている。必ずしも体験的活動を指すのではないが、テキストを単に読むだけでなく、そこに掲載された製作活動や作業を実際に行いながら、学習して欲しい。

科目概要	中学校・高等学校の学習指導要領の内容を含みつつ、数学教育学の研究成果を基にしながら本来あるべき中等数学の内容と指導法について学ぶ。具体的には評価、ICT を用いた数学教育、集合・論理、幾何、確率・統計分野などで、実習をととして実際に数学的活動を体験する。
主な到達目標	① 数学教育における STEAM 教育を知る。 ② 現在の課題のルーツを史的に考察できる。 ③ 教材研究の方法を体得する。 ④ 授業設計の方法がわかる。
テキスト学修の留意点	① 「なぜ数学を教えなければならないのか」、「なぜその内容を教えるのか」を常に考えながらテキストを読む。 ② 現在の指導上の課題は、どこにあるのか、歴史的、認識論的にまとめる。 ③ 指導内容の背景にある数学を理解する。 ④ 指導上の課題とその解決策について、自分なりのアイデアを出して考察する。 ⑤ PC を使って、テキスト上の例を参考に、ICT の利用方法を考える。

	学修テーマ	課 題
1	STEAM 教育 (1)	STEAM 教育とは何か、歴史的にまとめる。また、STEAM 教育における数学教育の特徴をまとめる。
2	STEAM 教育 (2)	実践例を読み解き、自分なりの STEM 教育の例を具体的に提案してみる。
3	集合・論理 (1)	集合と論理の数学的背景を理解する。さらに、帰納推論、演繹推論、類推、アブダクションの違いを具体例で説明できるようにする。
4	集合・論理 (2)	現代化時代の数学の教科書等から、集合や論理の指導の様子を調べ、現在の視点から考察する。
5	集合・論理 (3)	数学的論理と素朴的論理の違いと生徒の実態を理解し、具体的な指導を考案してみる。
6	幾何 (1)	幾何教育の今日的課題、内容と系統性についてまとめる。
7	幾何 (2)	ユークリッド原論と幾何学基礎論（ヒルベルト）を調べて、その違いを理解する。また、三垂線の定理の証明を試みる。さらに、3つの平面角 a, b, c から作られる図 8.17 の三面角 $OABC$ において、二面角 α の値を求める公式を導き出し、問題 10 を解く。
8	幾何 (3)	指導の具体例を問いに従って解く。
9	確率・統計 (1)	確率・統計教育の今日的課題、内容と系統性についてまとめる。
10	確率・統計 (2)	確率と統計の数学的背景を理解する。
11	確率・統計 (3)	自身で課題を見つけて標本調査を行い、考察する。
12	ICT の利用 (1)	学修指導書も参考に、ICT を利用した数学教育のメリットとデメリットについて具体例を挙げながら考察する。ICT は、万能かを問うてみる。
13	ICT の利用 (2)	GeoGebra を Web 上から入手して、ICT のメリットを生かす授業で使える教材を作成する。
14	ICT の利用 (3)	エクセルやプログラミングを利用した数学教育の事例を考えてみる。
15	学習指導案	上記で作った教材を使う数学学習の学習指導案を書く。指導案は細案として、単元について、指導計画、板書計画も書き、学習プリント等も用意して、直ちに実施できるまでに仕上げる。

シラバス執筆：成川 康男

レポート課題

第1分冊 成川 康男

第2分冊 成川 康男

第1分冊 〈略題〉STEAM、集合・論理、幾何、確率・統計
第4章、第5章、第6章、第8章、第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 最新学習指導要領における小学校から高等学校までの統計・確率教育の内容と系統性について記すとともに、統計・確率教育の指導困難点、及び、内容・カリキュラム上の課題と改善案について述べよ。
- 次の論理式が恒真命題であることを、証明図と真理値表を使って証明せよ。
 - $((A \rightarrow B) \wedge (B \rightarrow C)) \rightarrow (A \rightarrow C)$
 - $(\neg A \rightarrow B) \rightarrow (\neg B \rightarrow A)$
 - $(A \vee (B \wedge C)) \rightarrow ((A \vee B) \wedge (A \vee C))$

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 代数や解析内容の学習が確率・統計教育にも関わっている。このことが分かる系統性をチャート図で表すとよい。
- 証明図の説明は、前原昭二（1967）に詳しいので参考にするとよい。

〈評価の観点〉

- 統計・確率教育の内容が正確にまとめられているか。
- 指導困難な理由と改善案が記されているか。
- 証明図、真理値表が正しいか。

〈その他の注意点〉

- 内容とカリキュラムは、最新の学習指導要領を参考にすること。
- テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

第2分冊 〈略題〉STEAM、集合・論理、幾何、確率・統計
第4章、第5章、第6章、第8章、第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 数学教育におけるSTEAM教育の具体例を自分で開発し、指導プランを作成せよ。
- GeoGebra、または、GRAPES、プログラム言語を入手して論証幾何の指導のための教材を作り、その教材の作り方、特徴、使い方について解説し、それを利用する学習指導案細案を作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 他教科との合科的内容を観望げるとよい。
- ICTが有効と思われる授業を想定してから教材作りに入るとよい。
- 単なるソフトウェアやプログラムの解説ではなく、何が有効であるかを中心に解説すること。
- パソコン画面のコピーなどを添付して、教材の内容が分かるようにすること。
- 学習指導案は本時の展開のみではなく、単元の目標、単元について（教材観・生徒観・指導観）、指導計画等も記述する形式である。次のHPでの標準形式（中学・高校版）に従うこと、また、指導案集が参考になる。
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/kyoumu/jicci/shidouan.html>
(2025.1.10 確認)

〈評価の観点〉

- 独創的な教材が作られているか。
- 有効である理由が妥当であるか。
- 実施可能な学習指導案であるか。
- 解説は丁寧か。
- 既成の教材をコピーしただけと判断される場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

参考文献

テキスト、及び、学修指導書に記載してある文献を参考にすること。さらに、中学校学習指導要領と高等学校学習指導要領の解説数学編も参考になる。

科目試験等へのアドバイス

- ①数学的背景、指導上の課題、解決方法について問う。
- ②章末の研究課題を解いておくとうい。
- ③学修指導書の内容も試験範囲に含まれる

教員からのメッセージ

数学的な内容をまず理解すること。さらに、近年、「数学的活動」がキーワードになっている。必ずしも体験的活動を指すのではないが、テキストを単に読むだけではなく、そこに掲載された製作活動や作業を実際に行いながら、学習して欲しい。

科目概要	数学科指導法Ⅰ、Ⅱで学んだ中等教育全般における数学教育の概要についての基礎の上に、この科目では、代数と解析分野の内容とそれらの指導法について実践的な側面から学習事項の考察や教材研究、具体的な指導法と指導上の留意点の検討を行う。特に数学における学習指導案の作成と実践的な数学の教材とその展開について理解を深める。
主な到達目標	①中学から高校までの数学の学習指導要領の内容について、学習項目とその指導上の留意点を理解する。 ②上記の各学習内容について学習指導計画を立案し、様々な生徒に対しての指導の方法について理解し実践できるようになる。
テキスト学修の留意点	指導法の科目であるので、テキストは比較的实际の授業実例、実際の授業での展開例が示されている本を選定した。第1章が数学教育の実践の概要、授業構成の考え方そして学習指導案の立案の仕方などの概論的内容、第2章以後は数学の分野ごとに分かれたその分野の学習内容の概観と具体的な実践内容である。ただし、ここで述べられている学習内容は、概要だけなのでより深く内容を理解するには、併せて学習指導要領とその解説については、必ず参照しながら理解しておくことである。また、実際に中学校3年間ならびに高校3年間の学習の構成や学習順序の手がかりになるのが教科書会社のWEBページ等に掲載されている年間学習指導計画を参照すると良い。特に大切なのは、各分野において任意の単元で学習指導案を作成することができる事である。また、それぞれの分野で応用問題が解けるだけの實力が必要である。教科書を読む他に市販の数学の問題集等でも関連する問題をよく練習をしておくこと。

	学修テーマ	課題
1	第1章 数学教育における実践とは(1)	学習指導要領における数学科の目標と内容については、現行学習指導要領解説を精読し理解する。なお、数学教育研究の立場からの目標を精読し、特に中学校段階では小学校算数からその教育目標をどのように継続発展し、かつより数学的な論理性を高めるための概念転換を検討しておく。
2	第1章 数学教育における実践とは(2)	数学教育の評価(pp.13-22)について精読し理解する。目標と評価は一体であることを踏まえ、行為動詞を使った目標の記述と評価内容の記述がなぜ大切かをまとめ、具体的にいくつかの単元の目標と評価内容・方法を記述してみる。
3	第1章 数学教育における実践とは(3)	授業の構成と学習指導案作成の基礎を学ぶ。
4	第2章 代数教育における実践(1)	生徒は何のために代数学を学ぶのか、自分なりの考えをまとめる。また、代数指導の背景となる数学内容を復習する。
5	第2章 代数教育における実践(2)	一次方程式の指導における困難点と解決方法を考慮した上で、p.63～69の学習指導案略案から1時間を選び、学習指導案細案(単元についてから記述する)を作成する。
6	第2章 代数教育における実践(3)	p.70-85について概要を理解する。ここではプログラマブル電卓やiPadの活用を述べているが、これにこだわらず広く情報機器の活用と考え、Excel等を用いても同様な事ができる。Excelを利用して、「数学が实际的なものになる」代数指導の教材を開発する。
7	第2章 代数教育における実践(4)	前時で開発した教材を使った学習指導案細案を作成する。
8	第2章 代数教育における実践(5)	小学校からの文字(式)の指導カリキュラムの論文を参考にして、小学校と中学校の一貫の代襲指導カリキュラムを提案する。
9	第4章 関数・解析教育における実践(1)	生徒は何のために解析学を学ぶのか、自分なりの考えをまとめる。また、関数。解析指導の背景となる数学内容を復習する。
10	第4章 関数・解析(2)	中学校での実践例を精読し、授業展開の実際を理解する。
11	第4章 関数・解析(3)	関数指導では2変量の抽出が重要である理由をまとめよ。また、2変量の抽出を狙いとした実験を提案し、実験結果を生かした中学校の学習指導案細案を作成せよ。このとき、実験の様子を写真やビデオで撮っておくと実際の指導の際に役に立つ。
12	第4章 関数・解析(4)	現実場面から2次関数を探し、動画教材を作成する。その動画を生かした高等学校の学習指導案細案を作成せよ。
13	第4章 関数・解析(5)	微分係数の意味を伝えるための指導で、Geogebraや関数ソフトを利用した授業展開の例を提案する。
14	第4章 関数・解析教育における実践(6)	多変数関数の事例を探し教材化する。さらに、現在の関数指導の中でどの様に位置づけて教育したら良いかを提案する。
15	まとめ	これまで学習した内容をもとに、課題のレポートを作成し、試験のための準備を行う。

レポート課題

第1分冊 成川 康男

第2分冊 成川 康男

第1分冊 〈略題〉学習指導案の作成(代数) テキスト第1章、第2章、第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

次の目標を持つ授業の学習指導案細案を作成せよ。
指導計画：平方根の考えを使った2次方程式の解き方 3時間目
目標： $x^2+px+q=0$ の形をした2次方程式を、平方の形 $(x+m)^2=n$ に変形し、解を求められる。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 学習指導案は、テキスト p.30～39 の書式に従うこと。
- ② 単元の目標は、観点を知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度で分類する。
- ③ 生徒観は、自分で生徒の学力、興味関心等を想定して良い。
- ④ ICTを必ず利用する授業展開とすること。
- ⑤ 8. 本時の展開には、教師は授業で使う予定である、さらに、生徒が考え・発表すると予想される、表・グラフ・図等をかき入れること。
- ⑥ 学習指導案作成で参考、引用した文献、Web サイト等を最後に参考・引用文献としてまとめること。

〈評価の観点〉

- ① 課題に正対した内容であるか。
- ② 学習指導案の形式に則っているか。
- ③ 実践可能なレベルの学習指導案となっているか。
- ④ ICTが有効に利用されているか。
- ⑤ オリジナルな内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ① 学習指導案は通信テンプレートを使わないで、A4版全体を使って作成する(行番号はつけないで良い)。
- ② Word文書をPDFファイルに変換して提出する。
- ③ 文中の数式は、Wordの「数式」や何らかの数式エディタ、TeXで作成した数式とする。

第2分冊 〈略題〉学習指導案の作成(解析) テキスト第1章、第2章、第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 課題1 関数指導では2変量の抽出が重要である理由をまとめよ。また、2変量の抽出を狙いとした実験を行い結果を考察せよ。
- 課題2 課題1の実験結果を生かした中学校の学習指導案細案を作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 実験は再現できるように丁寧に記述する。また、実験時の写真を1枚以上入れたレポートにすること。
- ② 学習指導案は、テキスト p.30～39 の書式に従うこと。
- ③ 単元の目標は、観点を知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度で分類する。
- ④ 生徒観は、自分で生徒の学力、興味関心等を想定して良い。
- ⑤ ICTを必ず利用する授業展開とすること。
- ⑥ 8. 本時の展開には、教師は授業で使う予定である、さらに、生徒が考え・発表すると予想される、表・グラフ・図等をかき入れること。
- ⑦ 学習指導案作成で参考、引用した文献、Web サイト等を最後に参考・引用文献としてまとめること。

〈評価の観点〉

- ① 課題に正対した内容であるか。
- ② 学習指導案の形式に則っているか。
- ③ 実践可能なレベルの学習指導案となっているか。
- ④ ICTが有効に利用されているか。
- ⑤ オリジナルな内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ① 課題1は通信のテンプレートを使用すること。学習指導案はテンプレートを使わないで、A4版全体を使って作成する(行番号はつけないで良い)。
- ② Word文書をPDFファイルに変換して提出する。
- ③ 文中の数式は、Wordの「数式」や何らかの数式エディタ、TeXで作成した数式とする。

参考文献

中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説(書籍版、WEB版共に可)
その他に中学数学ならびに高校入試の参考書・問題集

科目試験等へのアドバイス

テキスト内容をきちんと学修しているかを確認する。
記述式で説明を求める問題が中心になる。

教員からのメッセージ

科目概要に述べたように指導法の科目で特に実践的活動を主目的とする科目であり、本来は模擬授業を含む実際の演習を行いたいところだが、通信教育で実施するための工夫が必要である。そのためにまず学習指導案の立案が出来る事を重視したい。学習指導案は日々の授業の場合は略案で良いのだが、ここでは上記のような目的であるので、受講者が行おうとする授業が再現できるように細案でかつ具体的な指導内容(使う問題や予想される誤答例などを網羅することが必要である。

科目概要	数学科指導法Ⅰ、Ⅱで学んだ中等教育全般における数学教育の概要についての基礎の上に、この科目では、幾何と確率・統計分野の内容とそれらの指導法について実践的な側面から学習事項の考察や教材研究、具体的な指導法と指導上の留意点の検討を行う。特に数学における学習指導案の作成と実践的な数学の教材とその展開について理解を深める。
主な到達目標	①中学から高校までの数学の学習指導要領の内容について、学習項目とその指導上の留意点を理解する。 ②上記の各学習内容について学習指導計画を立案し、様々な生徒に対しての指導の方法について理解し実践できるようになる。
テキスト学修の留意点	指導法の科目であるので、テキストは比較的实际の授業実例、実際の授業での展開例が示されている本を選定した。第1章が数学教育の実践の概要、授業構成の考え方そして学習指導案の立案の仕方などの概論的内容、第2章以後は数学の分野ごとに分かれたその分野の学習内容の概観と具体的な実践内容である。ただし、ここで述べられている学習内容は、概要だけなのでより深く内容を理解するには、併せて学習指導要領とその解説については、必ず参照しながら理解しておくことである。また、実際に中学校3年間ならびに高校3年間の学習の構成や学習順序の手がかりになるのが教科書会社のWEBページ等に掲載されている年間学習指導計画を参照すると良い。特に大切なのは、各分野において任意の単元で学習指導案を作成することができる事である。 また、それぞれの分野で応用問題が解けるだけの実力が必要である。教科書を読む他に市販の数学の問題集等でも関連する問題をよく練習をしておくこと。

	学修テーマ	課 題
1	第3章 幾何教育における実践 (1)	p. 92-107 で示された幾何の体系を理解する。
2	第3章 幾何教育における実践 (2)	ユークリッド原論の命題 (定理) 1 から 10、47 (ピタゴラスの定理)、48 (ピタゴラスの定理の逆) を読み、論理的証明とは何かをまとめる。また、数学基礎論(ヒルベルト)との公理の違いを確認して、ユークリッド原論での公理系では不十分である例を示す。
3	第3章 幾何教育における実践 (3)	前時、前々時の上で、生徒は何のために幾何学を学ぶのか、自分なりの考えをまとめる。また、幾何教育の今日的課題について先行研究を調べてまとめ、そのうえでそれらの解決方法を提案してみる。
4	第3章 幾何教育における実践 (4)	オリガミクスの実践を理解する。この際に、実際に折り紙を折りながら読むこと。
5	第3章 幾何教育における実践 (5)	GeoGebra をダウンロードし、使い方に慣れる。さらに、GeoGebra を有効に利用する幾何の教材を作成する。
6	第3章 幾何教育における実践 (6)	前時で開発した教材を使った授業の学習指導案細案を作成する。
7	第5章 確率・統計教育における実践 (1)	確率・統計教育の今日的課題について先行研究を調べてまとめ、そのうえでそれらの解決方法を提案してみる。
8	第5章 確率・統計教育における実践 (2)	生徒は何のために確率を学ぶのか、自分なりの考えをまとめる。また、確率指導の背景となる数学内容を復習する。特に、最近注目されているベイズの定理について具体例を調べて理解する。
9	第5章 確率・統計教育における実践 (3)	生徒は何のために統計・統計学を学ぶのか、自分なりの考えをまとめる。また、記述統計指導の背景となる数学内容を復習する。
10	第5章 確率・統計教育における実践 (4)	推測統計指導の背景となる数学内容を復習する。
11	第5章 確率・統計教育における実践 (5)	大数の法則を確かめる実験を行い、大数の法則を指導する時の資料になるように Excel 等を利用して実験結果をまとめる。
12	第5章 確率・統計教育における実践 (6)	記述統計を指導するためのデータを集め、そのデータを使った授業をする時の資料になるように Excel 等を利用してまとめる。
13	第5章 確率・統計教育における実践 (7)	二項分布を応用した割合の推定を指導するためのデータを集め、そのデータを使った授業をする時の資料になるように Excel 等を利用してまとめる。
14	第5章 確率・統計教育における実践 (8)	前時まで作成した資料をもとにした確率又は統計授業の学習指導案細案を作成する。
15	まとめ	これまで学修した内容をもとに、課題のレポートを作成し、試験のための準備を行う。

シラバス執筆：成川 康男

レポート課題

第1分冊 成川 康男

第2分冊 成川 康男

第1分冊 〈略題〉学習指導案の作成(幾何) 第1章、第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

課題1 幾何教育で利用できる「日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決する」ための事象を探して、教材化せよ。

課題2 GeoGebra を効果的に使って課題1で教材化した内容を指導するための学習指導案細案を作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 事象は先行研究を参考にしても良いが、それをコピーするのではなく、自分で新たに素材を探し、それを証明する写真や資料を含んだレポートにすること。
- ② 学習指導案は、テキスト p.30～39 の書式に従うこと。
- ③ 単元の目標は、観点を「知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度」で分類する。
- ④ 生徒観は、自分で生徒の学力、興味関心等を想定して良い。
- ⑤ ICT を必ず利用する授業展開とすること。
- ⑥ 8. 本時の展開には、教師は授業で使う予定である、さらに、生徒が考え・発表すると予想される、表・グラフ・図等をかき入れること。
- ⑦ 学習指導案作成で参考、引用した文献、Web サイト等を最後に参考・引用文献としてまとめること。

〈評価の観点〉

- ① 課題に正対した内容であるか。
- ② 学習指導案の形式に則っているか。
- ③ 実践可能なレベルの学習指導案となっているか。
- ④ ICT が有効に利用されているか。
- ⑤ オリジナルな内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ① 課題1は通信のテンプレートを使用すること。課題2の学習指導案はテンプレートを使わないで、A4版全体を使って作成する(行番号はつけないで良い)。
- ② Word 文書を PDF ファイルに変換して提出する。
- ③ 文中の数式は、Word の「数式」や何らかの数式エディタ、TeX で作成した数式とする。

第2分冊 〈略題〉学習指導案の作成(確率・統計) 第1章、第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

課題1 確率・統計教育で利用できる「日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決する」ための事象を探して、教材化せよ。

課題2 Excel や GeoGebra を効果的に使って課題1で教材化した内容を指導するための学習指導案細案を作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 事象は先行研究を参考にしても良いが、それをコピーするのではなく、自分で新たに素材を探し、それを証明する写真や資料を含んだレポートにすること。
- ② 学習指導案は、テキスト p.30～39 の書式に従うこと。
- ③ 単元の目標は、観点を「知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度」で分類する。
- ④ 生徒観は、自分で生徒の学力、興味関心等を想定して良い。
- ⑤ ICT を必ず利用する授業展開とすること。
- ⑥ 8. 本時の展開には、教師は授業で使う予定である、さらに、生徒が考え・発表すると予想される、表・グラフ・図等をかき入れること。
- ⑦ 学習指導案作成で参考、引用した文献、Web サイト等を最後に参考・引用文献としてまとめること。

〈評価の観点〉

- ① 課題に正対した内容であるか。
- ② 学習指導案の形式に則っているか。
- ③ 実践可能なレベルの学習指導案となっているか。
- ④ ICT が有効に利用されているか。
- ⑤ オリジナルな内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ① 課題1は通信のテンプレートを使用すること。課題2の学習指導案はテンプレートを使わないで、A4版全体を使って作成する(行番号はつけないで良い)。
- ② Word 文書を PDF ファイルに変換して提出する。
- ③ 文中の数式は、Word の「数式」や何らかの数式エディタ、TeX で作成した数式とする。

参考文献

中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説(書籍版、WEB版共に可)
その他に中学数学ならびに高校入試の参考書・問題集

科目試験等への
アドバイス

テキスト内容をきちんと学修しているかを確認する。
記述式で説明を求める問題が中心になる。

教員からの
メッセージ

科目概要に述べたように指導法の科目で特に実践的活動を主目的とする科目であり、本来は模擬授業を含む実際の演習を行いたいところだが、通信教育で実施するための工夫が必要である。そのためにまず学習指導案の立案が出来る事を重視したい。学習指導案は日々の授業の場合は略案で良いのだが、ここでは上記のような目的であるので、受講者が行おうとする授業が再現できるように細案でかつ具体的な指導内容(使う問題や予想される誤答例などを網羅することが必要である。

科目概要	幼児期の様々な表現に関する基礎的な知識や技能を学ぶ 幼児期の表現の実際を知り、自ら表現することの大切さを学ぶ 様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、幼児の表現活動に展開させることができるよう工夫する
主な到達目標	・ 幼児の表現の姿やその発達を理解する 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる 2) 幼児の素朴な表現を見だし、受け止め、共感することができる ・ 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことができる 2) 感性を豊かに育む素材の特性を活かした環境構成ができる 3) 表現することの楽しさを実感するとともに楽しさを生み出す要因について分析することができる
テキスト学修の留意点	授業計画にあわせて課題で指定されたページの学修を進めていくが、ページ順ではないため、前後のページも合わせて確認するようにすること。 なお、テキストには「Episode」とした実践事例が多く掲載されているので、それを参考に具体的にイメージしながら学習を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	子どもの遊びや生活における表現	テキスト p.5~18 Episode1~3 (p. 10~13) の事例を通して、「子どもにとって表現は、遊びや生活の中で「よく」生きようとする子どもの営み」(p.11) の意味をまとめてください。
2	領域「表現」について (1)	テキスト p.185~189 Episode3 (p.188) の事例を 5 領域それぞれの視点から検討してください。 ※これらのページは「造形表現とねらい」となっていますが、ここでは幼稚園教育要領等における領域の意味を理解することを目的とします。
3	領域「表現」について (2)	テキスト p.100~106 表 6-4 (p.105) を読み、自身の保育における「表現」の考えをまとめてください。
4	乳幼児期の発達と表現 (1)	テキスト p.21~23 乳児期及び幼児期初期 (3 歳児ぐらいまで) の子どもたちが出会う素材は Episode1、2 の他にどのようなものがあるか調べてみましょう。
5	乳幼児期の発達と表現 (2)	テキスト p.23~33 Episode3~7 (p.23~32) の保育者の役割はなんでしょうか。Episode の子どもの姿、発達を考えてまとめてみましょう。
6	身体的な感性と表現	テキスト p.35~52 Exercise (p.52) の 1 について取り組みましょう。
7	造形的な感性と表現	テキスト p.53~69 Exercise (p.69) の 2 について取り組みましょう。
8	音楽的な感性と表現	テキスト p.71~87 テキストの指定範囲を読み、幼児期の発達や興味関心に応じた歌 (曲名) を多数挙げてみましょう。
9	領域「表現」と環境構成	テキスト p.123~144 テキスト範囲を読み子どもが「没頭できる環境」とは具体的にどのような環境か考えてみましょう
10	遊びや生活における「表現」	テキスト p.167~181 テキスト範囲を読んだ上で、p.168 のユウキちゃんに保育者としてどのように関わりますか？環境構成も含み考えてみてください。
11	表現における教材研究 (1)	テキスト p.189~193 および p.208~212 または学修指導書を参考に「教材研究」とはなにか、まとめましょう。
12	表現における教材研究 (2)	学修指導書を参考にごっこ遊びがより充実するような環境構成を考えてみましょう。
13	表現における教材研究 (3)	前回同様、学修指導書を参考にごっこ遊びがより充実するような環境構成を考えてみましょう。
14	乳幼児期の表現に関わる現代的な課題	テキスト p.218~232 テキスト範囲を読み、子どもたちの豊かな表現を育む保育者になるために何をどう学ぶべきかまとめましょう。
15	ふりかえり・まとめ	学修内容をふりかえり、レポート作成の準備をしてください。

レポート課題

第1分冊 田澤 里喜

第1分冊 〈略題〉素朴な表現を受容する保育者の役割と環境構成
テキスト p.1～232 (特に「課題」で示したページ)

横書き

Word添付

〈課題〉

テキスト p.105 表 6-4 に幼稚園教育要領における領域「表現」のねらい及び内容がある。
その中の、内容の取り扱い (2) に幼児の自己表現は素朴な形で…とあるが、
その素朴な形の自己表現を大切にし、広げる保育者の役割と環境構成とはどのようなことが考えられるか、述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書いてあることだけでなく、自身の意見も合わせて書くこと。ただし、自分の意見のみではレポートにならないので注意すること。なお、最新の幼稚園教育要領他を必ず参照してください。

〈評価の観点〉

課題の意図を理解し、独自の視点から論じているかを中心に評価する。
また、日本語表現、文字数過不足、誤字脱字などには十分に注意すること。

〈その他の注意点〉

実践事例の羅列だけにならないように注意すること

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館、2018
厚生労働省『保育所保育指針解説書＜平成30年3月＞』フレーベル館、2018
内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』フレーベル館、2018

科目試験等への
アドバイス

まずは問題をよく読み、その意図をしっかりと理解してから回答をしてください。

教員からの
メッセージ

表現とは、日常的なものであることをまずは意識して欲しい。幼稚園での発表会や音楽会などだけで子どもは表現しているわけではなく、日常的な表現、遊びの中の表現を大切にして欲しい。

科目概要	統計調査の対象となる集団の特徴を調べる方法として、データの全てを用いて処理・解析する「記述統計」と確率概念を用いて分析する「推測統計」について学修する。いずれも基本的な概念から始めて、やや発展的なものを扱っていく。
主な到達目標	●度数分布表の作成方法や代表値（平均、中央値）と散布度（分散、標準偏差、四分位数）の求め方とその意味・特長を理解し説明できる。 ●確率変数や関連する基本概念（確率分布表、確率密度関数、分布関数、確率変数の平均・分散・標準偏差）について理解し、問題ごと正しく立式してこれらが求められる。 ●正規分布、二項分布について理解し、関連する事象の確率が求められる。 ●標本調査について、基本事項（無作為抽出標本、標本平均、標本平均の平均と分散と母平均と母分散の関係、正規母集団等）を理解する。 ●区間推定について、基本事項（信頼度、信頼係数、信頼区間）を理解する。 ●区間推定において、母平均や母分散、母比率の推定ができる。 ●仮説検定について、基本事項（帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、仮説の採択と棄却、検定の誤り）を理解する。 ●仮説検定において、母平均、母分散、母比率、有意差、適合度、独立性、無相関検定が適切に実行できる。
テキスト学修の留意点	別途配付される「学習指導書」を熟読のうえ、テキストに記載の例題・および演習問題は最低限完全に解けるようにしておくこと。

	学修テーマ	課 題
1	記述統計 (1)	度数分布（いくつかの数値からなる「生のデータ」について、その全てを整理して調査対象の特徴や傾向を調べる「全数調査」において、基本的かつ有力な「度数分布表」とその作成法を学ぶ。）
2	記述統計 (2)	代表値（前回学んだ「度数分布表」をもとに、「生のデータ」が得られた調査対象の集団（集合）の位置を表わす指標となる「平均」、「中央値（メディアン）」、「最頻値（モード）」（この3つをまとめて「代表値」という）について学修する。）
3	記述統計 (3)	散布度（前回学んだ「度数分布表」をもとに、「生のデータ」が得られた調査対象の集団（集合）のバラツキ具合を表わす指標となる「分散」、「標準偏差」、「四分偏差」（この3つをまとめて「散布度」という）について学修する。）
4	記述統計 (4)	相関関係と相関係数（「生のデータ」（数値からなる集合）が2つ得られているとき、これらを整理しその関連を調べる方法について議論する。修得すべき主な概念は、「散布図」、「正・負・無の相関」、「共分散・相関係数」である。）
5	確率分布 (1)	確率変数と確率分布（まず「確率変数」の基礎として、「離散型確率変数」とその「確率分布表」および「連続型確率変数」とその「確率密度関数」、「分布関数」を学修する。次に、これら2種の確率変数について、それぞれ「平均（期待値）」、「分散」、「標準偏差」（まとめて「代表値」という）の定義とその求め方について議論する。）
6	確率分布 (2)	正規分布（連続型確率分布として、最も基本的かつ重要な正規分布について学修する。また、ある連続型確率変数 X が正規分布に従う際、これを標準正規分布に変換し、かつ正規分布表を用いて X の定める事象の生起確率を求める方法について理解する。）
7	確率分布 (3)	二項分布（離散型確率分布として、最も基本的かつ重要な二項分布について学修する。また、ある連続型確率変数 X が二項分布に従う際、 X の平均や分散の求め方、および試行回数が增大すると X が漸近的に正規分布に近づくこと（「ド・モアブル - ラプラスの定理」という）、さらにこの性質を利用した、 X がある値をとる確率を求める方法について議論する。）
8	推測統計序説 (1)	母集団と標本（統計調査の基礎として、調査対象から得たデータのすべてを調べる「全数調査」と、データから無作為に一部を抽出して確率概念を利用して分析する「標本調査」を扱う。ここでは、主として「標本調査」を学修し、特にデータから「標本平均」が定められること、およびこの「標本平均」が確率変数であることを理解する。さらに「標本平均」の「平均（期待値）」や「分散」の求め方と調査対象の集団（「母集団」という）の平均や分散（順に「母平均」、「母分散」という）との関係について学修する。）
9	推測統計序説 (2)	区間推定 (1)（まず区間推定の基礎として、「推定の方法」、「信頼度」、「（上・下）信頼限界」、「信頼区間」なる概念を扱う。次に、ここでは調査対象の母平均を推測する方法として、母平均に対する信頼区間の定め方を母分散が既知の場合と未知の場合について学修する。特に、後者では正規分布に類似の t 分布を利用するので、その扱いや「自由度」などの関連概念を理解することが重要となる。）
10	推測統計序説 (3)	区間推定 (2)（前回から引き続き、区間推定を扱う。ここでは調査対象の母分散を推測する方法として、母分散と母比率に対する信頼区間の定め方について学修する。特に、前者では χ^2 分布を利用するので、その扱いや「自由度」などの関連概念を理解することが重要となる。）
11	推測統計序説 (4)	母平均の検定（母平均を推測するもう1つの方法として、「仮説検定」（または単に「検定」）について学ぶ。まず、基礎概念（「帰無仮説」、「対立仮説」、「有意水準」およびこれらを用いた検定のフォーム、「棄却域」や「仮説の採択と棄却」）を整理する。次に、これらを踏まえて母平均の検定を母分散が既知の場合と未知の場合（区間推定のときと同様である）について議論する。）

12	推測統計序説 (5)	母分散・母比率の検定（前回の基礎概念をもとに、引き続き「仮説検定」を扱い、特に母分散と母比率の検定について学修する。）
13	推測統計序説 (6)	有意差検定（2つの母集団について、「母平均や母比率に差があるか」を分析する「有意差検定」を学修する。）
14	推測統計序説 (7)	適合度・独立性の検定（あるデータが「理論値に合っているか」を調べる「適合度の検定」とクロス集計されたデータについて、項目間の関連の有無を調べる「独立性の検定」について学修する。）
15	推測統計序説 (8)	無相関検定（2つの母集団について、相関の有無検定する「無相関検定」について学修する。）

シラバス執筆：雨宮 将人

レポート課題

第1分冊 雨宮 将人

第2分冊 雨宮 将人

第1分冊 〈略題〉離散型確率変数の確率分布と正規分布 指定テキスト第1章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{別ウインドウにて出題します。

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0601>
統計学入門第1分冊(2023年度).pdf}

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ②用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。

〈評価の観点〉

- ①結果のみや上記「留意事項」の指示を守っていない報告は再提出。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。

〈その他の注意点〉

原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。
提出様式は「Word添付」ですがpdfファイルに変換したものを添付してください。※1
Wordは使わず手書きの答案の画像をpdfファイルに変換したものを添付しても構いません。※2
返却される答案は全てpdfファイルで添付されます。
※1. Wordファイルをpdfに変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf
※2. 画像ファイル(jpeg以外の形式にも対応)をpdfに変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

第2分冊 〈略題〉二項分布の正規近似、母比率の区間推定と標本サイズの決定、母比率の仮説検定 指定テキスト第2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{別ウインドウにて出題します。

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT0601>
統計学入門第2分冊(2023年度).pdf}

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①結果だけではなく、途中経過を詳しく報告して下さい。(ただし、答案が冗長にならないようにするため、細かな式変形を記すことはなるべく避けること。)
- ②用語・記号等はテキストのものにそろえて下さい。

〈評価の観点〉

- ①結果のみや上記「留意事項」の指示を守っていない報告は再提出。
- ②文字が判読し難い等説明が粗略なもの、または冗長なものは、批評欄に「説明粗略」または「説明冗長」のみを記し、報告を返却することがあります。

〈その他の注意点〉

原則として課題についての質問は受け付けませんが、「どうしても」という場合はレポートで示して下さい。
提出様式は「Word添付」ですがpdfファイルに変換したものを添付してください。※1
Wordは使わず手書きの答案の画像をpdfファイルに変換したものを添付しても構いません。※2
返却される答案は全てpdfファイルで添付されます。
※1. Wordファイルをpdfに変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/word_to_pdf
※2. 画像ファイル(jpeg以外の形式にも対応)をpdfに変換するサイト。
https://www.ilovepdf.com/ja/jpg_to_pdf

参考文献

.....
テキスト末尾の「参考文献」に記載のものを参考にしてください。

科目試験等への アドバイス

.....
上記「留意事項」を念頭に、テキスト記載の問題等で徹底的に問題演習をしておいてください。

教員からの メッセージ

.....
科目試験では、「学修テーマと課題」の全てが出題範囲となります。

科目概要	小学校教員に必要な教科体育の基礎的な理論と知識を理解する。また、学習指導要領の成り立ちや読み方を学び、具体的なそれぞれの学習内容についての知識と技能指導のポイントを理解する。
主な到達目標	・ 小学校の体育の特色・目標について説明できる。 ・ 小学校学習指導要領（体育科）について領域・構成を説明できる。 ・ 児童の健康・体力に関する課題を説明できる。 ・ 学習内容について指導のポイントを説明できる。
テキスト学修の留意点	・ 各章の課題について説明できるようにする。 ・ テキスト学習だけにとらわれず、各章末記載の「引用・参考文献」などを参考に他の資料等でさらに学習を深めることを望む。 ・ レポート作成は、「レポート課題」の評価の観点を参考に作成する。

	学修テーマ	課 題
1	体育授業の目標	体育概念の歴史的変遷及び体育の目標構造について理解し、まとめる。（テキスト第1章）
2	体育の運動領域と年間・単元計画	小学校体育における運動領域構成と年間計画の立案及び各単元構想と教材づくりについて理解し、まとめる。（テキスト第2章1節・2節）
3	体育の単元展開と評価	小学校体育における単元展開および評価について理解し、まとめる。（テキスト第2章3節・4節）
4	よい体育授業	学習者の立場からみたよい体育授業の在り方について理解し、まとめる。（第3章1節）
5	よい体育授業の条件	体育授業の基礎的・内容的条件をはじめとした良い体育授業の条件について理解し、まとめる。（テキスト第3章2節）
6	体づくり運動領域	体づくり運動の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章1節）
7	器械運動系領域	器械運動系領域の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章2節）
8	陸上運動系領域	陸上運動系領域の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章3節）
9	水泳運動系領域	水泳運動系領域の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章4節）
10	ボール運動系領域	ボール運動系領域の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章5節）
11	表現運動系領域	表現運動系領域の内容構成及び授業づくりのポイントについて理解し、まとめる。（テキスト第4章6節）
12	体育の現代的な教育課題①	ICT 機器活用・体育と学級経営といった現代的な教育課題と体育の関係について理解し、まとめる。（テキスト第5章①、②）
13	体育の現代的な教育課題②	インクルーシブ教育・オリパラ教育といった現代的な教育課題と体育の関係について理解し、まとめる。（テキスト第5章③、④）
14	子どもの体力とスポーツ基本計画	子どもの体育力の現状及びその向上に資する取り組みや実施時の視点について理解し、まとめる（テキスト第5章⑥、⑦）
15	教育改革と体育	資質能力の育成やその実現に向けた「主体的・対話的で深い学び」と体育の関係について理解し、まとめる（テキスト第5章⑧、⑨）

シラバス執筆：久保 賢太郎

レポート課題

第1分冊 久保 賢太郎

第2分冊 久保 賢太郎

第1分冊 〈略題〉よい体育授業の条件 テキスト第1章～第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト第1章～3章までを精読し、現代における体育の目標・内容・方法の構造を整理しつつ、学習者にとっての良質な体育授業を実現するための課題について「教材」「基礎的・内容的条件」「授業改善」の各視点から論じなさい。また、これらを踏まえた上で、あなたが実現したい体育授業の在り方について、自分の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

すでに、本課題にて満たすべき条件を3点、明示しております。少なくとも大きく3段落構成のレポートになることが想定されます。段落構成や主客の一致、敬体と文体の混同など、論述の体裁として著しく不適切だったり、読解が困難な文章表現にならないよう留意して作成してください。

〈評価の観点〉

- ・本課題に提示された条件を全て満たすことが評価の最低条件となります。換言すれば、これらを満たさないものは再提出評価となります。
- ・上記を前提とした上で、3点目の課題については、テキストの内容はもちろん、ご自身の経験やお考えを通してオリジナリティのある論述になっているか否かを重視します。
- ・またレポートの体裁として相応しい文章表現、段落構成になっているかも重視します。

〈その他の注意点〉

ご自身が受けてきた体育授業を想起しながらテキストを読み進めると、ご自身の主張が浮かび上がってくるかと思います。

第2分冊 〈略題〉実践構想の立案 テキスト全体(おもに第4章・5章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストを読み、学習者にとってのよい体育授業の実現のために重要であるとあなたが考える事柄・その実現のための具体的な方策を論じた上で、今後どのような授業を展開していきたいかについて論じなさい。その際、ご自身が重視する事柄や構想した実践の良さが読み手にわかるように明示しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・「論・例・策」の枠組みで論述すると良いかと思います。具体的には「良い体育授業の実現のために重視すべきこと＝論」「そのために、例えば～や～といった方策を取ることが有効であると考えられる。なぜならば・・・＝例」「そこで私は～な授業を展開していく＝策」といったフォーマットです。
- ・子どもから見た体育授業や基礎的、内容的条件、ICT機器活用やインクルーシブ教育など、良い体育授業実現のための視点がテキストのなかに散りばめられています。それらを読みながら、「何が重要なのか」はご自身のお考え、オリジナリティに委ねられます。

〈評価の観点〉

- ・本課題にて示された条件を満たさないものは再提出評価となります。
- ・テキストに正対しつつも、ご自身の経験やお考えを生かして、オリジナリティのある論述を期待します。
- ・論述した構想の「何が素晴らしいのか」「どこがよいところなのか」「そうするとどんなよいことが期待されるのか」についても、ぜひ明示的に論述してください。

〈その他の注意点〉

学生のお立場であっても、実践への意欲やビジョンをもつことは重要です。そしてそれが、未来の学校をよりよいものに変革する原動力になります。遠慮することなく、ご自身のビジョンを論じてみてください。ただし、考えるための原理原則はテキストに散りばめられています。それらを踏まえつつ、論じてください。

参考文献

.....
各章末尾に記載された参考文献を適宜活用されたい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・テキストの内容を理解して説明できるかがポイントである。
 - ・独りよがりな解答ではなく、採点者になったつもりで解答することを心がける。
 - ・科目試験問題はシラバスの課題を中心に出题されるので、課題にしっかり取り組むこと。

教員からの
メッセージ

.....
授業を構想する主体者は教員自身です。子どもたちがよりよく学ぶことのできる学習をデザインするおもしろさをぜひ感じながら、学び進めていってください。

科目概要	本科目の目的は、本学のカリキュラム構成の前提となっている全人教育という建学の理念を理解し、今後の大学生活で経験する本学の教育内容の意義を知り、各自の学習／研究活動のパースペクティブを得ることにあります。総論として新教育思想と小原國芳の生涯、全人教育思想の構造とその前提となる人間観・学問観、及び各論として学問、道德、芸術、宗教と教育の関わりが具体的な学習の対象となります。
主な到達目標	1) 小原國芳が全人教育を提唱し玉川学園を創設した理由を、新教育運動の歴史的経緯と小原の生涯に基づいて説明できる。 2) 全人思想と全人教育思想、及び小原の人間観・学問観・教育観の特徴と相互関係を説明できる。
テキスト学修の留意点	*人によっては難解に感じるテキストです。要点を着実にノートにまとめながら読み進めてください。 *使用されている概念の意味を、文脈に即して正確に理解するよう努めてください。 *本テキストの読解には、哲学及び教育史の基礎知識が必要となる部分が少なくありません。わからない用語に出会った時には、専門の事典・辞典類を図書館等で見つけて参照してください。

	学修テーマ	課 題
1	小原國芳の生涯： 幼少期から鹿児島師範学校時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原が少年時代に両親及び田実源之助先生から受けた感化／b) 電信局時代に示した教育者としての資質／c) 鹿児島師範時代に受けた影響
2	小原國芳の生涯： 広島高師時代から 京都帝大時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原が広島高等師範学校時代に受けた思想形成上の影響／b) 香川師範学校教諭時代の教育実践の特色／c) 京都帝国大学時代に受けた思想形成上の影響
3	小原國芳の生涯： 広島高師付属小時代から 玉川学園時代まで	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の広島高師付属小時代の教育者としての特色／b) 成城学園の教育と経営に示された小原の教育者としての特色／c) 玉川学園時代の小原教育の特色
4	新教育の歴史	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 旧教育と対比した上での新教育の特色 b) 明治期における新教育理論の摂取の経緯／c) 国内外の新教育の実践活動／d) 国内外の新教育の理論
5	全人教育思想と宗教教育思想の形成	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の全人思想及び全人教育思想形成に関して影響を与えた思想／b) 小原の宗教観形成に影響を与えた思想、特に西田幾多郎と波多野精一の根本思想
6	道德・芸術・労作教育思想の形成	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 小原の道德教育思想形成に影響を与えた思想／b) 小原の芸術教育思想形成に影響を与えた思想／c) 小原の労作教育思想形成に影響を与えた思想
7	全人教育の方法原理の形成と全人教育思想の構造	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 身体教育が全人教育思想においてもつ位置と役割／b) 塾教育が全人教育思想においてもつ位置と役割／c) 価値体系論からみた全人教育思想の構造
8	第1分冊研究問題	第1分冊全体を通じて学んだ内容を、テキスト120ページ所載の研究問題について考察することを通して確認してみましょう。
9	全人教育の捉え方： 小原國芳の人間観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人という概念の意味／b) 小原が捉える人間存在とは
10	全人教育の捉え方： 小原國芳の学問観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育論における「無主義の主義」の意味／b) 知識と知恵の関係（哲学と教育の関係に基づいて）
11	全人教育の捉え方： 小原國芳の成長観	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育における「中庸」の概念の意味と意義／b) 労作教育が全人教育の中核におかれている理由／c) 全人と個性との関係（普遍と特殊の関係に基づいて）
12	全人教育の展開： 学問と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 教育における理論と実践の関係（文化の創造と伝達に基づいて）／b) 教育の大衆化に対応する教育目的のあり方／c) 全人教育における自律性と他律性の関係
13	全人教育の展開： 道德と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 全人教育論における徳育上の調和／b) 「硬教育」論と教育者の指導性／c) 「教育は情実なり」ということの意味／d) 意欲の理性化と理知の実践化の関連
14	全人教育の展開： 芸術・宗教と教育	次のトピックについてノートに要点をまとめましょう。a) 神に対する知的及び道徳的要求から規範意識へと至る論理／b) 芸術教育における多方興味と情操化の関係／c) 芸術教育における個性化と普遍化の過程の一致
15	第2分冊研究問題	第2分冊全体を通じて学んだ内容を、テキスト pp.263-264 所載の研究問題について考察することを通して確認してみましょう。

レポート課題

第1分冊 今尾 佳生

第2分冊 今尾 佳生

第1分冊 〈略題〉小原國芳の思想形成 1～3章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

小原國芳は自らの教育思想をどのように形成したか。その画期となる小原の生涯の時期と体験内容、それによって形成された思想内容を3カ条以上関連づけて説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の主旨・注意事項を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 教科書や参考文献で使用されている概念の意味を、文脈に即して正確に理解するよう努めること。
- (3) 自分の知性・感性を発揮して読解した内容を主体的に解釈すること。引用は最小限にし、可能なかぎり自分の言葉でまとめること。
- (4) 小原國芳の生涯に関する記述を通読し、その時代ごとの要点をノートによく整理してから執筆構想を立てること。
- (5) 全人思想・全人教育思想の具体的内容を、第1分冊全体を通読しながら把握し、小原の生涯と関連づけること。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) 課題に関わる教科書の当該力所の要旨を自分の言葉でまとめられているか。
- (3) レポート全体の構成が序論・結論を含め、全体として論理的に組み立てられているか。
- (4) 明晰で、しかも教科書や参考文献の記述に依存しすぎることのない文章表現でまとめられているか。
- (5) 考察の内容が主体的であり、かつ妥当性のある論拠に基づいたものであるか。

なお教科書やその他参考文献の当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

くれぐれも、課題の趣旨や注意事項などを確認してから執筆するようにしてください。

第2分冊 〈略題〉小原國芳の個性観の現代的意義 4～5章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

小原國芳の個性観の特徴について説明し、それが現代日本の社会・教育においてどのような意義をもつのかを考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 読解した内容を主体的に解釈すること。引用は最小限にし可能なかぎり自分の言葉でまとめること。
- (2) 全人教育と個性尊重との間に矛盾が無いことを論理的に突き詰めて理解すること。
- (3) 小原の個性観がただの相対的な「個人差」のみを意味しているのではないことに留意すること。
- (4) 現代的意義の部分では、抽象論に陥ることなく、現代社会・教育の課題を自分なりによく考えてまとめること。
- (5) 特に小原の人間観・成長観について述べる部分は、教科書の当該記述の丸写しに近いものにならないよう十分に気を付けること。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨・注意事項を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) 課題に関わる教科書の当該力所の要旨を自分の言葉でまとめられているか。
- (3) レポート全体の構成が序論・結論を含め、全体として論理的に組み立てられているか。
- (4) 明晰で、しかも教科書や参考文献の記述に依存しすぎることのない文章表現でまとめられているか。
- (5) 考察の内容が主体的であり、かつ妥当性のある論拠に基づいたものであるか。

なお教科書やその他参考文献の当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

くれぐれも、課題の趣旨や注意事項などを確認してから執筆するようにしてください。

参考文献

小原國芳（1969）『全人教育論』玉川大学出版部
 小原哲郎編（1985）『全人教育の手がかり』玉川大学出版部
 古沢常雄・米田俊彦編（2009）『教育史（教師教育テキストシリーズ）』学文社

科目試験等への
アドバイス

＊当然のことですが、科目試験はテキスト学習が充分に行われていることを前提としています。テキストに1度目を通した、という程度で合格に漕ぎ着けるのは難しいでしょう。章節ごとに時間をかけて丁寧に読解し、要点を着実にノートにまとめ、演習問題をやっておくことが大切です。「学問に王道なし」です。
 ＊試験を受ける時には、とにかく先ず問題文をじっくり読み取り、何が要求されているのかを適切に判断してから書くべき内容を決めてください。

教員からの
メッセージ

テキスト学習をする際には、読み取った内容を出来る限り自分の言葉でまとめ直すことが大切です。また、レポートを執筆する際には、課題の趣旨を十分に踏まえ、「シラバス・レポートガイド」所載の留意事項や評価の観点の一つ一つ丁寧に確認することを心がけてください。

01105 健康教育 / 体育理論 / 全人教育 (体育理論)

1 単位

テキスト名
『健康とスポーツ』

科目概要	大学における体育は、教育課程における最終段階の健康に関わる科目である。今までは、必修として行政的に決められた教育活動であったが、これからの青年期は男女差、過去の運動経歴の違いにより、健康に対する取り組み方が多様化される。言い換えれば、真に自己の健康と体力を生涯にわたり考え、健康的で豊かな生活を営む基礎知識を得るための科目となる。
主な到達目標	WHO の積極的な健康観、人間の発育発達・老化、安全で効果的な体力づくりの方法等、幅広い健康に関する知識を獲得する。さらに、人生を豊かにしてくれるスポーツとの関わりやスポーツの楽しみ方を学び、生涯を通して健康的な生活を営むことができる実践力を身に付ける。
テキスト学修の留意点	・シラバスをよく読んで、それぞれの学修テーマ、課題に対して説明できるようにする。 ・レポート課題に関して、テキストの記述を写すのではなく、自分の言葉で適切に述べるようにする。 ・レポート作成には、指導書や「レポート課題」にある留意事項や評価の観点を参考にする。

	学修テーマ	課 題
1	健康観について	WHO の健康観で積極的な概念と思われるところを考察する。
2	生活習慣と健康について	QOL とは何か。生活の質を向上させるには、どのような考え方があるか考察する。
3	女性と健康について	リプロダクティブヘルスについて理解し、女性の健康観について考える。
4	老化と健康について	超高齢化社会を前に、精神と心の健康の大切さについて理解する。
5	発育・発達について	発育・発達の観点から、自分自身や周囲の友人の様々な能力発揮時期の違いを考察する。
6	トレーナビリティ（運動効果）について	体力の内容から、各運動要素を高めるための留意点を考える。
7	身体運動の科学的分析	心臓の機能的余裕とは、どのようなことか。ジャンプ力とは何か考察する。
8	スポーツ栄養について	トレーニング効果を高めるために、栄養素と摂食タイミングの重要性を考察する。
9	体力について	体力の内容を理解し、生涯を通して健康に過ごすために大切な体力要素を考える。
10	スポーツと文化について（1）	スポーツ文化の果たす役割について、グローバルな視点から考察する。
11	スポーツと文化について（2）	現在、多くのニュースポーツが生まれている。ニュースポーツの果たす役割について、例を挙げながら考察する。
12	スポーツ傷害と救急法	RICE 処置を理解するとともに、アイシングの手順と留意点について学習する。
13	健康と運動について	水泳・水中運動の運動効果を科学的に理解し、その具体的な運動方法を学習する。
14	教育と体操（1）	古代ギリシャの身体観から、身体運動の必要性を考える。
15	教育と体操（2）	小原國芳が、デンマーク体操を通して日本の青年達に何を期待していたか。また、学校行事としての体育祭（運動会）の意義を考察する。

シラバス執筆：鈴木 淳也

レポート課題

第1分冊 鈴木 淳也

第1分冊 〈略題〉健康観について テキスト p.14～p.16、p.19～p.22

横書き指定

直接入力

〈課題〉

WHO の健康の定義で、積極的な健康観と思われるところをグローバルな視点から述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートの「はじめに」と「おわりに」を付けること。
「はじめに」の内容は、今回の課題に関する社会問題など、「おわりに」は本レポートのまとめとして各 100 字から 200 字程度で簡単に触れる。改行については、文章の内容が変わるときに使い、不必要に多くの改行は慎むなど、レポート作成の基本的なルールを守り、述べること。

〈評価の観点〉

- ・ WHO 憲章の前文が述べてあり、それぞれの健康の内容について考察されているかどうか。
- ・ WHO 憲章の積極的な健康観について、述べられているかどうか。
- ・ 精神と心の健康について、述べられているか。
- ・ テキスト以外の参考文献からも学習しているか。
- ・ レポートの「はじめに」と「おわりに」が適切に書けているか。

〈その他の注意点〉

- ・ 全体の字数が 2000 字以上であること。

参考文献

.....
テキストの章の後に文献が紹介されており、そちらを参照のこと。
また、現代における健康問題について、新聞やインターネットなどから情報を収集し、より深く幅広い学習をしてもらいたい。

科目試験等への
アドバイス

.....
テキストを熟読しておくこと。
・ 学修テーマと課題の内容について、テキスト中心に学習し理解を深め、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
健康・体育・スポーツ学は、総合学問である。生理学・解剖学・衛生学・病理学や社会学、歴史など様々な領域の学問が基礎となっているので、興味のある分野を深く学習し、生涯を通して健康管理できる幅広い知識や実践力を身に付けてほしい。

01112 一年次セミナー 101/ 通信教育 F Y E

2単位

テキスト名

『通信教育学修ナビ改訂第2版』
玉川大学通信教育課程

科目概要	通信教育の一年次生のための科目である。通信教育での学修は、主体的な学修が求められている。自学自習の学修方法を学び取ってほしい。具体的には、通信教育で学ぶことの意義、学び方、学ぶための情報収集とまとめ方、学びの活かし方について学修する。
主な到達目標	・通信教育で学ぶことの意義を知る。 ・学ぶための理論と技法を知る。 ・学ぶための情報収集とまとめ方を知る。 ・学びを活かす方法を知る。
テキスト学修の留意点	・レポート作成に当たっては、「レポート課題」に掲載されている留意事項や評価の観点を参考にしてほしい。 ・スクーリングの授業時間や実施形態といった制度的な部分については、テキスト刊行後に変更になっているところがある。「学生要覧」や WebTAMA 等で最新情報を確認すること。

	学修テーマ	課 題
1	大学で学ぶこと	・大学で学ぶことの意義について考える。 ・充実した生活をどう送るか考える。 ・卒業後の生活とのつながりを考える。
2	全人教育とは何か	・全人教育とは何か知る。
3	通信教育で学ぶ	・通信教育で学ぶことの目的を明確にする。 ・自立的な学修の方法を理解する。
4	考えること・わかること	・覚えることと考えることの相違について理解する。 ・論理的に思考するとはどのようなことか知る。
5	自己管理と学び	・学修のための時間管理について考える。 ・レポートやスクーリングの計画を立てる。
6	テキストで学ぶ	・テキストでの学び方を知る。 ・レポート・科目試験にどう対応するか考える。
7	スクーリングで学ぶ	・テキスト学修とスクーリング学修の違いを知る。 ・仲間との学びあいの機会としてとらえる。
8	学びのための情報収集	・情報収集の仕方を知る。 ・情報の活用を知る。
9	学修成果の整理・発信 (1) レポートの書き方	・レポートの書き方を理解する。
10	学修成果の整理・発信 (2) グループ学修・発表	・グループ学修・発表の仕方を知る。
11	人とのつながりで 学ぶ (1) 批判的思考とは何か	・批判的思考とはどのようなことかを理解する。
12	人とのつながりで 学ぶ (2) 仲間との学びあい	・仲間と学びあうことの意義を理解する。
13	学びと職業	・教師・司書・学芸員などの仕事を知る。 ・資質を磨くために心がけるべきことをおさえる。
14	生き方への学び	・人とともに生きることの意義を理解する。 ・一所懸命生きることの意味を理解する。
15	まとめ	・これまでに分かったことをまとめてみよう。 ・航海の旅に出かけよう。

シラバス執筆：魚崎 祐子・湯藤 定宗

レポート課題

第1分冊 魚崎 祐子

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉学びの自立 テキスト1章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの1章から7章を読み、通信教育で学んでいく際に大切なことはどのようなことか、テキストの内容を要約する形で述べなさい。その上で、自身の通信教育における課題について、具体例を挙げながら述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストを熟読し、テキストの内容にそって考えていくこと。なお、要約とはテキストの情報をつなぎ合わせるのではない。
- ・自分自身の学修への取り組みなどを振り返り、課題を述べること。
- ・テキストや文献、インターネットなどからの引用は、必ず出典を明示すること。

〈評価の観点〉

- ・レポート作成の基本的なルールを守って記されているかどうか。
- ・テキストの内容が理解されているかどうか。
- ・単文を箇条書きにするような形ではなく、段落毎にまとまりのある文章の形で記しているかどうか。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

第2分冊 〈略題〉学びを深めて活かす テキスト8章～12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの8章から12章までを読み、大学での学びをまとめたり活用するために大切なことは何かについて、テキストを要約する形で述べなさい。そのうえで、自らの学びのあり方をふり振り返り、考えたことを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・必ずテキスト学修に基づく考察をすること。
- ・引用する場合は、引用と自分の意見を明確に分けて記入すること。引用の作法（文献表記も含む）については、本テキスト第9章を参考にすること。
- ・テキストは読んでいることから、少なくともテキストは引用文献、もしくは参考文献としてレポート最後に表記すること。その際、文献表記についてはテキスト第9章を参考にすること。
- ・導入を書き、導入から結論まで1本の筋を通して構造的に述べること。

〈評価の観点〉

- ・上記の留意事項を踏まえているか。
- ・レポートの基本的な書き方を修得しているか。
- ・論旨が明確な文章になっているか。

〈その他の注意点〉

自分の文章になるように練り上げること。「自分はテキストでこれだけのことを学んだ」という成果を担当教員に報告（report）するのがレポートであることを忘れずに。そのためには、テキストの内容をしっかりと踏まえること、必要に応じてテキストを適切に引用することが求められる。

参考文献

- ・テキストの各章末に掲載されている参考文献。
- ・レポートや論文の書き方に関する文献（どのような文献が出ているか調べ、図書館や書店などで実際に読んでみて、自分にあった本を探すこと。テキストに書かれていたように、必要な文献を探す力も大学生に求められる情報リテラシーの一つである。）。

科目試験等への
アドバイス

基本的な知識や考え方を問う問題を出題する。全範囲について学修しておく必要がある。

教員からの
メッセージ

読み手を意識して書くことが、良いレポートへの一歩である。

科目概要	中学校・高等学校ですでに学修した文法事項を振り返りながら、さらなる文法事項への深い理解に加え、英語の会話文と文章読解を通して、文法事項の実際の使用方法を学修する。さらに、英語を自律的に学修することができるようになるために必要なスキルである、「辞書を効果的に使いこなす方法」「接頭辞・接尾辞・語根などの語形成」「英語の文章における段落構成の仕組み」「発音と強勢」も学修する。
主な到達目標	辞書を利用しながら、実際に英語で書かれた書物やニュース記事などを読むことに挑戦することができるような基礎力を身につける。
テキスト学修の留意点	学修を行う際は必ず辞書を準備する習慣を身につけること。辞書は紙の辞書・電子辞書どちらでも構わない。インターネットやスマートフォンの辞書を利用することも場合によっては有効であるが、基本的には辞書専用のものを一つ準備できる方が効率良く学修が進むだろう。 付属のCDを必ず利用すること。テキストには対話・文章・発音など文字情報のみならず音声情報も収録されているため、CD利用の記載がある際は必ずテキストと併用すること。

	学修テーマ	課 題
1	Unit 1 Verbs 1	述語動詞-五文型と述語動詞- 動詞の種類、文型とそれが決める述語動詞
2	Unit 2 Verbs 2 Unit 3 Verbs 3	準動詞-不定詞・動名詞- 準動詞-現在分詞・過去分詞-
3	Unit 4 Nouns 1 Unit 5 Nouns 2	名詞-普通名詞・物質名詞など- 数えられる名詞（普通名詞・集合名詞）、数えられない名詞（固有名詞・物質名詞・抽象名詞）、 名詞の所有格、名詞の性 人や物を指すことば-一人称代名詞・指示代名詞など- 代名詞の種類、人称代名詞、itの用法
4	Extra 1 Using a Dictionary Unit 6 Adjectives	辞書の引き方-辞書を使いこなすコツ- 品詞、語法、文脈、連語、イディオム、慣用表現、発音、語源、文化的情報 形容詞-名詞を修飾するもの・主語を叙述するもの- 基本的な働き、限定用法、叙述用法、位置、順序（一般的な場合）、後から名詞を修飾する場合、 文構造の例
5	Unit 7 Articles Unit 8 Adverbs	冠詞-知っているもの、知らないもの- 2種類の冠詞、基本、冠詞が使われている名詞（句）の例、冠詞が使われない名詞（句）、 a / an（不定冠詞）の例、the（定冠詞）の例、その他の用法 副詞-動詞・形容詞・副詞を修飾- 原則、動詞・形容詞・副詞を修飾する副詞（句）、位置、その他
6	Unit 9 Prepositions 1 Unit 10 Prepositions 2	前置詞-英語は名詞の前におき、日本語は名詞の後に- 前置詞（preposition）の代表的なもの、かたち、副詞句・形容詞句として、 時と場所の表現としての at, in, on 前置詞の発展的用法-慣用的用法の群前置詞- 慣用的用法、決まったかたちで使われる例（群前置詞・特定の語とともに）
7	Extra 2 Word Formation	語形成-接頭辞、接尾辞、語根- 接頭辞（prefix）「否定、反対、逆、無」「共同、関係」「方向、場所、位置」「数字」などの意味、 その他の接頭辞、接尾辞（suffix）「名詞」「ある意味を持った名詞」「形容詞」「動詞」を表す、 その他の接尾辞、語幹（stem）「語の主要な意味をなす部分」
8	Unit 11 Auxiliary Verbs Unit 12 Phrasal Verbs	助動詞-動詞を助けて、気持ちを伝える- 法の助動詞、be, have, do が助動詞として働く場合 句動詞-give up のように動詞の働きをする語句- 他動詞として用いる場合の2つのタイプ（密着型・分離型）、3語から成り立つもの、 「動詞+名詞+前置詞」の型
9	Unit 13 Conjunctions 1 Unit 14 Conjunctions 2	接続詞 1-つなぎとなることば（単語）- 等位接続詞、従位接続詞（副詞節を導くもの・名詞節を導くもの） 接続詞 2-つなぎとなることば（語句）- 2語以上から成り立つ接続詞、接続詞を含んだ熟語表現（相関接続詞）

10	Unit 15 Comparisons Extra 3 Paragraphs	比較の用法-二つの比較, 三つ以上の比較- 規則変化, 不規則変化 パラグラフ-段落構成のしくみ- パラグラフとは, パラグラフの決まり, パラグラフの必要性, パラグラフの展開, Paragraph Reading, Paragraph Writing
11	Unit 16 Tenses 1 Unit 17 Present Perfect & Future	時制 1-時の表現: 現在と過去- 現在時制の用法, 過去時制の用法 完了形と未来-過去と現在をつなぐ完了と未来の表現- 完了時制の用法, 未来を表すいくつかの方法
12	Unit 18 Active Voice & Passive Voice	能動態と受動態-教えられたり, 教えたり- 受動態の用法
13	Unit 19 Tenses 2	時制 2 現在形と進行形, 完了形-さまざまな時の表現- 単純現在形と現在進行形, 現在の状態を表すさまざまな形式, 現在完了形と現在完了進行形, 過去完了形
14	Unit 20 Conditions & Subjunctives	条件と仮定-単なる仮定(条件)とありえないことの仮定- 現在や未来に関する単なる条件を述べる時, 現在の事実に反したり, 未来に起こりそうにないことを仮定して述べる時, 過去の事実の反対の仮定を述べる時
15	Extra Pronunciation and Stress	発音と強勢 まぎらわしい母音の聞き取り, まぎらわしい子音の聞き取り

シラバス執筆: 飯田 美耶

第1分冊 〈略題〉言語を学ぶ上で大切なこと pp.7-78

横書き指定

Word添付

〈課題〉

言語を学ぶ上で大切なことを英語で書いて下さい。語彙数は250～300語程度とし、次の内容を必ず入れましょう。

(1) タイトル (2) 言語を学ぶ上で大切なこと (3) 大切だと思う理由 (4) 大切だと思う理由2 (5) 大切だと思う理由3 (6) 結論

Unit 3 Reading を参考にしてください。

※第1分冊、第2分冊をまとめて提出するのではなく、第1分冊のコメントを参考に第2分冊の課題に取り組みましょう。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

ヘッダーに、科目名・科目コード・学籍番号・氏名を記載すること。

(1)、タイトル は、太文字を使い、中央揃えにすると共に、1行の空白を設けること。

(2)～(6)、段落初めは半角5文字空けて書き始めること。

必ずスペルチェック機能を利用し、スペルミスに注意すること。

〈評価の観点〉

1分冊範囲であるUnit 1-Extra 2 (pp.7-78) で学修する、動詞・名詞・形容詞・冠詞・副詞・前置詞を正確に使用できているかを評価します。学修した知識を使用することができるよう、日々心がけてください。また、読み手に分かりやすい英語の文になるよう、英文の構成も意識しましょう。「課題」「レポート作成にあたっての留意事項」「その他の注意点」に沿って書かれているかも評価の対象となりますので、必ず提出前に確認してください。

〈その他の注意点〉

下記の文字フォント、文字の大きさ、用紙一枚の文字数と行数に従って書いてください。

文字フォント：Times New Roman

文字の大きさ：12ポイント

文字数と行数：45字×38行

大学指定のテンプレートを使用せず、自分でWord設定を行いテンプレートを作成してください。

※完成した文章を声に出して読んでみて、読みにくいところがあれば変更し、文章だけでなく口頭でも発表ができる位を目標にしてください。

第2分冊 〈略題〉あなたが好きな有名人について pp.79-150

横書き指定

Word添付

〈課題〉

あなたが好きな有名人についてを英語で書いて下さい。

語彙数は250～300語程度とし、次の内容を必ず入れること。

(1) タイトル、(2) あなたが好きな有名人について、(3) その人の外見・性格・気質など (4) その人の外見・性格・気質など (5) その人の外見・性格・気質など (6) 結論

Unit 11 Reading を参考にしてください。

※第1分冊、第2分冊をまとめて提出するのではなく、第1分冊のコメントを参考に第2分冊の課題に取り組みましょう。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

ヘッダーに、科目名・科目コード・学籍番号・氏名を記載すること。

(1)、タイトル は、太文字を使い、中央揃えにすると共に、1行の空白を設けること。

(2)～(6)、段落初めは半角5文字空けて書き始めること。

必ずスペルチェック機能を利用し、スペルミスに注意すること。

〈評価の観点〉

1分冊範囲に加え、2分冊範囲であるUnit 11-Extra 4 (pp.79-150) で学修する、助動詞・句動詞・接続詞・比較・時制・能動態・受動態・条件と仮定を正確に使用できているかを評価します。学修した知識を使用することができるよう、日々心がけてください。また、読み手に分かりやすい英語の文になるよう、英文の構成も意識しましょう。「課題」「レポート作成にあたっての留意事項」「その他の注意点」に沿って書かれているかも評価の対象となりますので、必ず提出前に確認してください。

〈その他の注意点〉

下記の文字フォント、文字の大きさ、用紙一枚の文字数と行数に従って書いてください。

文字フォント：Times New Roman

文字の大きさ：12ポイント

文字数と行数：45字×38行

大学指定のテンプレートを使用せず、自分でWord設定を行ってください。

完成した文章を声に出して読んでみて、読みにくいところがあれば変更し、文章だけでなく口頭でも発表できるように意識してください。

参考文献

インターネットサイト (The Japan Times, CNN, NHK WORLD)
Graded Readers (アマゾンなどから購入可、大学図書館にも所蔵)

科目試験等への
アドバイス

レポート作成の際と同様、テキスト学修から学んだ知識を使用することを意識しながら取り組んでください。

教員からの
メッセージ

皆さんは既に中学校・高等学校でたくさんの文法事項を学修してきました。それらの知識を振り返りながら、英語の文法事項を確実に習得していきましょう。
テキスト学修では、テキストの英文を「読む」、また付属のCDを利用して「聴く」「話す」練習を行います。
課題では、少しまとまった文章を「書く」ことに挑戦してみましょう。テキスト学修でインプットした英語の力を確認することと、文章のまとまりを作るルールや英文の構成を学修します。そのため、第1分冊と第2分冊をまとめて提出するのではなく、学修範囲毎に提出し教員からのフィードバックをもらうことをおすすめします。

科目概要	文章表現における論理的な書き方を「主語・述語・修飾語」の関係性や「主張・話題・理由・説明」さらには「定義・解説・要約・吟味・提案」というようなそれぞれの観点から学ぶことで、レポート・研究論文などの基礎的な書き方を身につけていく。第1分冊は「はじめに」から「第四章（「理由を書く」）」まで、第2分冊は「第五章（「説明を書く」）」以後である。
主な到達目標	1. 論理的な文章表現の方法についての知識を広げ、文章表現の意義について考えを深める。 2. 他者の意見を正確に要約し、吟味・提案する能力を高める。 3. データや引用による文章作成の論理的手順についての知識を広げ、実際に文章表現をする能力を高める。
テキスト学修の留意点	テキストを熟読しながら以下の「学修テーマ」「課題」にそった学修を行う。その際、各章ごとに記されている「例題」「練習問題」を必ず解いてみること。（「例題」の解答例はテキスト内に、「練習問題」の解答例は「学修指導書」に記載されている。）

	学修テーマ	課 題
1	意見文とは（はじめに）	「意見文」とはどのようなものか。またどのような「意見文」がよいのかを「正当性」「公共性」という観点から説明せよ。
2	「関係」を考える 1（第一章）	どのような文章が分かりにくいのかを説明せよ。
3	「関係」を考える 2（第一章）	どのような文章が分かりやすいのかを説明せよ。
4	意見文のつくり（第二章）	「意見文」を構成する要素としてどのようなものがあるかを説明せよ。
5	「話題」と「主張」を書く（第三章）	どういう文章で話題を論じればよいか、また適切な主張をするために気をつけることは何かについて説明せよ。
6	「理由」を書く 1（第四章）	「理由」を示す表現としてどのようなものがあるか、「理由」の中身としてどのようなものがあるかを説明せよ。
7	「理由」を書く 2（第四章）	「理由」を書く手順について説明せよ。
8	「説明」を書く（第五章）	「説明」の方法を「定義」と「解説」という観点から説明せよ。
9	意見文をチェックする（第六章）	意見文のチェックポイントについて説明せよ。
10	他者の考えとよりよく関わるために（第七章）	「議論」とは何か、他者の意見にどのような態度で臨むかについて説明せよ。
11	要約から吟味、提案へ 1（第八章）	要約のポイントについて、また要旨のまとめ方について説明せよ。
12	要約から吟味、提案へ 2（第八章）	「吟味」「提案」の仕方について説明せよ。
13	データを使って立論する（第九章）	データを使って立論するための方法について説明せよ。
14	資料や他者の意見を取り込むために（第四部へのブリッジ）	引用のルールと方法について説明せよ。
15	まとめ	第四部「課題集」を読んで、自分であればどのように立論するかを論理的にイメージせよ。

シラバス執筆：山口 意友

レポート課題

第1分冊 山口 意友

第2分冊 山口 意友

第1分冊 〈略題〉わかりやすい文章 はじめに～第四章（「理由」を書く）まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

わかりやすい文章を書くにはどのようなことが必要かを、テキストの内容（はじめに～第四章）にそって説明せよ。（2000字～2400字程度）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書かれている内容を正確に要約すること。特にキーワードに気をつけ、キーワードの説明を行うこと。

〈評価の観点〉

1. テキストの内容（はじめに～第四章）が正確に要約されているかどうか。（テキストの要約がポイントなので、テキスト以外の内容を記しても無意味。）
2. 文章作成の基本が守られているかどうか。（文頭や改行後のマスの空けができていないなど、文章表現の基本原則が守られていない場合には、たとえ優れた内容であったとしても、「再提出」となるので注意すること。）
3. 正しい文章表現されているかどうか。
4. 科目の性質上「誤字（変換ミスも含む）」は「再提出」になるので注意すること。

〈その他の注意点〉

文末に【総字数】を記すこと。（総字数が記されていないと、「判定不可」として再提出になる。）

第2分冊 〈略題〉文章のチェックと文章表現の実際 第五章（「説明」を書く）以後

横書き

Word添付

〈課題〉

課題1：文章のチェック項目について説明せよ。（600字～800字）

課題2：「子供のしつけは学校でしてほしい」というテーマについて、自分の立場を明確にして意見文を記せ。（1400字～1600字）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

課題1はテキストをきちんと要約すること。

課題2は自分とは対立する意見も文章の中に取り入れて記すこと。

〈評価の観点〉

1. 「課題1」は正確にテキストの要約ができているかどうか。「課題2」は説得力のある文章であるかどうか。（なお、賛成・反対、いずれの立場に立っても評価には関係しない。）なお、「課題2」ができたとしても、「課題1」の説明が不十分である場合には再提出となる。
2. 科目の性質上「誤字（変換ミスも含む）」は「再提出」になるので注意すること。

〈その他の注意点〉

課題1、課題2それぞれの文末に【総字数】を記すこと。（総字数が記されていないと、「判定不可」として再提出になる。）

参考文献

.....
テキスト巻末の「参考文献一覧」に記載されているのでそちらを参照。

科目試験等への
アドバイス

.....
科目試験は、実際に文章作成を行う形での試験であるから、段落構成や句読点の打ち方、誤字脱字等に注意すること。

教員からの
メッセージ

.....
文章表現能力はいったん身に付けば、今後の人生においておおいに役立ちますので、テキストを熟読しながらしっかりとその基礎を身につけて下さい。

科目概要	グローバル化により、ますます英語化現象が強まっている中、日常的に英語に触れる機会が増えている。実践的な場面における英語表現を学修していく。また、それぞれの場面で特徴的に用いられる語彙も習得していく。
主な到達目標	基本的な文法を理解しながら、日常会話の場面に応じた言い回しを書いて伝えることが出来、繰り返し音読を通して口頭でもメッセージを伝える表現を習得することを目標とする。
テキスト学修の留意点	テキストは4部から構成されており、1-3部は状況別に Basic Sentences で対話式の文例を学修する。Words and phrases ではそれぞれの Lesson に関連する語句を理解し、Substitution Practice では語句を言い換えて Basic Sentences を応用する。Oral Composition では基本表現を復習する作文演習ではあるが、すべての Exercise において繰り返し音読とできれば友人や家族と練習してもらいたい。

	学修テーマ	課 題
1	[Asking questions for information] Lesson 1	Yes / No Question とその応答 ・ WH 疑問文・付加疑問文
2	[Asking questions for information] Lesson 2	What とその応答 ・ What ... like? は必ずしも「何」を応答に求めている。
3	[Asking questions for information] Lesson 3, 4	「場所」を訪ねる Where / 「時」をたずねる When ・ 前置詞を用いて場所を説明する ・ 前置詞及び副詞を用いて時を答える
4	[Asking questions for information] Lesson 5	「理由」をたずねる Why とその応答 ・ because 以外で答える方法 ・ Why don't you ...? の用法
5	[Asking questions for information] Lesson 6, 7	疑問詞 (How, Which, Who, Whose, Whom) を用いた質問と応答 ・ 疑問詞と名詞の組み合わせ Lesson 7 の演習問題で Lesson1-6 までの疑問文の総括
6	[Expressing Yourself] Lesson 8	許可・提案・誘い - Permission, Suggestions and Invitation ・ 助動詞 (may, can, could, will, would, shall, let's 等) の用法確認
7	[Expressing Yourself] Lesson 9	出会いと様々な挨拶 (Meeting people, saying Hello and Good-bye) ・ 「よろしくお願いします」は Nice to meet you とは限らない。日本語と英語の表現の違い。
8	[Expressing Yourself] Lesson10-11	自己紹介と日常生活や趣味 (Introducing Yourself / Daily Life and Hobbies) ・ 自己紹介は名前と出身だけではない。専攻、職業、趣味を適切な英語で表現する。
9	[Expressing Yourself] Lesson 12, 13	自分の性格や特徴 (Your Personality and Physical Features) 家族と家庭生活 (Your Family Life) ・ 「スマート」は英語では身体的特徴ではないように、和製英語の誤用が多い。例文と辞書を活用し正しい語句を用いて自分や身近な人の性格や特徴を説明する ・ 形容詞の用法を確認 ・ 家族構成を適切に表現する
10	[Expressing Yourself] Lesson 14	教室内で意味や発音などについて質問する (Classroom English) ・ 授業で典型的に使われる質問、指示を覚える ・ 助言や指示を求めるために必要な語句を学修
11	[Expressing Yourself] Lesson 15	学校の授業や活動 (Classes and Extracurricular Activities) ・ 試験の形式、「さぼる」、「レポート」を正しく英語で伝える ・ 一般的な分野を英語で理解する
12	[Traveling] Lesson 16	空港、機内で (At an Airport and In a Cabin) ・ 決まり文句や語句を理解する。空港などの状況ではキャッチボールの様に聞き手と答える側が端的に質問・情報を英語で表現する必要があるので会話文と例文を声を出して練習をする。
13	[Traveling] Lesson 17	ホテル・レストラン・買い物 (At a Hotel, Restaurant, and Going Shopping) ・ 短い文で要求を表現する
14	[Traveling] Lesson 18	電話で (Speaking on the Phone) ・ 顔も見えず、文字でも表現できない電話における会話は正しい文章を用いるのみならず発音も明確にできるようにすること。
15	Lesson 19-21	記号と数字 (Signs and Numbers) / 手紙と E メール (Letters and E-mails) / 書式の書き方 (Filling out forms) ・ 黙読では理解できる数字もその読み方や表現方法は用法に応じ異なる。それぞれを学修し、体得する。 ・ 書面もコミュニケーションの方法の1つ。的確に英語で表現、回答する語彙を身に付ける。

レポート課題

第1分冊 常岡 亜希子

第2分冊 常岡 亜希子

第1分冊 〈略題〉Getting information / Expressing yourself Lesson 1-11

横書き指定

Word添付

〈課題〉

1. () の指示に従い次の会話が成立するよう英語で答えなさい。
 A: Hi! So, what's your campus life like?
 B: (3文以上5文以内で busy / interesting / test の3語を用いること)
 A: No, not yet. When are you going to study for it?
 B: (2文以上3文以内で question / professor)
 A: Really? Can I come with you? I have some things I don't understand.
 B: Sure. (2文以上3文以内 class)
 A: That's fine with me. I will see you then.
 2. 次の和文を英語に書き換え、それに対し文章の形で5語以上の英語で答えなさい。2文以上になっても構わない。
 例: 「最近、どうですか。」
 解答: How are you these days? I am fine, and my job is going well, too.
 (1) 日ごろ何か健康の為にしていることはありますか。
 (2) 私は将来海外に留学をしたいのです。あなたはどうかしたいのですか。
 (3) あなたは1か月にどのくらいコンビニに買い物をしに行きますか。
 (4) とても疲れているようだけれども、どうしたのですか。
 (5) 英語以外に習得したい言語はありますか。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・A4縦位置に横書き(フォント11、25文字×40行添削をするスペースを確保するためこのフォーマットを守ること)
- ・テキストの文章を復習し、状況に適した英語表現を用いること。
- ・辞書は大いに参考にしたいが、丸写しや翻訳機能を使うことを禁じる。複雑な英語構文を求めているのではなく意思疎通を図ることが出来るご自身の英語でレポートを完成させること。

〈評価の観点〉

英語が自然な流れとなり、文法的・語法的にミスがないこと。提出前に必ずスペルチェックをすること。テキストを学修したうえ、日常英会話で生かせる表現になっているかどうかを評価の観点とする。

〈その他の注意点〉

インターネットなどで提供されている翻訳ソフトの使用は不可。繰り返しですが、難しい表現を求めているのではなく、テキストの表現を理解し、応用できるかをレポートでは確認する。

第2分冊 〈略題〉Writing Letters Lesson 12-21

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- Lesson 20 の手紙 business letter の形式を模範に英文手紙を以下の指示に従って書いてください。
 1) 差出人と住所はご自身
 2) 受取人は Mr. Daniel McSweeney
 3) 受取人住所は 115 Hendrix Ave. Apt 2 Thousand Oaks, CA. 91360, U.S.A.
 4) 次の状況を前提に本文150—180語で書くこと。「かつてアメリカ滞時ホストファミリーだった McSweeney さんに大学生活や私生活など近況報告をします。」
 5) 手紙本文の中で必ず1つは相手から情報を求める疑問文を含めること。(単に Yes, No で答えるものではなくある程度具体的な回答を予想できる質問をすること)
 6) 極力スラングなど砕けた表現を避け、文章の形で手紙の本文を書くこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・A4縦位置に横書き(フォント11、25文字×40行添削をするスペースを確保するためこのフォーマットを守ること)
- ・テキストの文章を復習し、状況に適した英語表現を用いること。
- ・辞書は大いに参考にしたいが、丸写しや翻訳機能を使うことを禁じる。複雑な英語構文を求めているのではなく意思疎通を図ることが出来るご自身の英語でレポートを完成させること。

〈評価の観点〉

英語が自然な流れとなり、文法的・語法的にミスがないこと。提出前に必ずスペルチェックをすること。テキストを学修したうえ、日常英会話で生かせる表現になっているかどうかを評価の観点とする。

〈その他の注意点〉

インターネットなどで提供されている翻訳ソフトの使用は不可。但し、固有名詞、専門用語などは例外とし、必要な引用があれば出典文献などを必ず明記すること。繰り返しですが、難しい表現を求めているのではなく、テキストの表現を理解し、応用できるかをレポートでは確認する。

参考文献

.....
 特に指定しない。基礎英語に自信がない受講生は文法書などを入手するといでしょう。

科目試験等へのアドバイス

.....
 試験範囲はシラバスに準じますが、既習 Lesson も必ず復習して臨むようにしてください。Basic Sentences, Substitution Practice, Oral Composition は1文で覚えるようにしてください。

教員からのメッセージ

.....
 本来この科目は対面で会話練習をするのが理想ではあるが、自学でも書くことから基本表現を覚え、声を出して練習すること。会話は暗記ではないが、正しい表現を『真似』することにより自分の言葉となるので繰り返し学修はご自身が十分と思った回数よりもプラス1回やってみよう。
 英和・和英辞書: テキストにはCDが付属されていないため発音記号を確認、もしくは電子辞書の発音機能を活用し、音読演習に役立ててほしい。

科目概要	国際関係論（入門）を履修する学生に「国際視点」を身に付き、さらに「問題解決力」を高める。国際関係論は入門の科目でもあるが、本テキストは、国際関係論においてかなり多い知識を提供しているため、多量の情報を整理する力も必要である。現代の国際問題を理解するうえで「何が起こっているのか」だけではなく「なぜそのような事が起こっているか」を理解することにより国際関係の複雑な仕組みを理解する。
主な到達目標	世界で起こっている国際関係上の問題、例えば「ウクライナへの侵攻」、「米国とロシアの対立」、「米国と中国の対立」、「北朝鮮の核兵器開発」、「石油の相互依存」などの問題の背景を理解し、自分の考えを持つことができるようになる。このことにより学生諸君がどのように世界の平和と安定の実現に貢献できるかを考えられるようになる。
テキスト学修の留意点	国際問題には『国際紛争 理論と歴史』が本科目のテキストである。テキストには10章がある。第1と第2章は、国際関係論の入門として、国際政治学の分野紹介、国際関係論の主要な概念と理論、それに分析方法とパラダイムと理論の学派の紹介になる。第3章から第10章までは、17世紀に調印された一連のウェストファリア条約から現在に至るまでおよそ年代順に主な国際関係上の出来事とその解釈を網羅している。テキストの強みとして、第2次世界大戦後の情勢について豊富に論じているところがある。各章に関連文献の紹介があり、過去と現代の結びつきが非常に良くできていると思う。学修にあたっては『国際紛争 理論と歴史』を基にテキスト履修（レポート・試験）を行うこと。

	学修テーマ	課 題
1	国際政治理論	国際社会における正義と平和の問題について考える。古代ギリシャのツキュディデスは、ある国が急速に大国化する場合、不確実性と不安定化が伴うと考えたが、この考えが第一次大戦後の日本とドイツの急速な台頭、今日の中国の台頭に当てはまるかどうかについて考える。「聖書の左のほほを打たれば右のほほを出せ」という教えは、個人の信条としては成り立つが、日本の首相が政府の政策として採用すれば泥棒、暴力団が支配する無法地帯になってしまう事実を認識する。同様に世界の平和と安定を保つためには、秩序が必要であり場合によっては武力を使う行動が求められる実情を考える。武力の行使の有無は中世期の欧州においては、キリスト教会が正戦論として発達させ、それが現在は、国連安全保障理事会の判断にゆだねられていることを学ぶ。安全保障理事会が機能しない場合、自衛の戦争が許されていることを理解する。
2	国際政治における主要な概念、分析レベル、パラダイム	国際政治学の主要概念として、国家、国民、国民国家、主体、パワーなどがある。分析レベルは、個人、国家、システムのレベルがあり、分析レベルを意識して購読しないといけない。パラダイムとして、リベラリズム、リアリズム、マルクス主義、コンストラクティヴィズムといった4つのパラダイムがある。日本語ではリベラリズムを「理想主義」、リアリズムを「現実主義」と訳される。リアリズムは、国際社会は、自国の利益とパワーバランスによって動かされるとするがリベラリズムは、諸国民の強調と話し合い、人類の発展と平和という概念によって動かされると説く。現実の各国の行動は、厳密にその二つに分けられわけではなく両方の考えに動かされていることを理解する。
3	ナショナリズムと植民地	ナポレオン戦争を経て19世紀にヨーロッパにおいて「国民国家」といわれるナショナリズムが台頭したことを学ぶ。ヨーロッパにおけるナショナリズムが産業革命と相まってヨーロッパの帝国主義、植民地主義につながったことを学ぶ。長い歴史と高度な文化を持つアジアの多くの国が簡単にヨーロッパの植民地となった理由を考える。日本がヨーロッパの植民とならなかったのはなぜかについても考える。欧州におけるバランスオブパワーによる安全保障がなぜ崩壊し、第一次世界大戦となったかを検証する。
4	第一次大戦の原因と国際連盟の設立	一連のウェストファリア講和で成立した主権国家システムの重要性を説明している。ウェストファリア講和の調印でヨーロッパでの戦争は無くなったわけではなかったが、戦争の頻度と強度は緩和されたと言えるかと著者が説明している。その鍵は大国間のバランス・オブ・パワーと関連する。バランス・オブ・パワー・システムは理論上説明力があることを考察して、第一次世界大戦の起源を追跡する。
5	第2次世界大戦の原因 大西洋戦争	第1次大戦後設立された国際連盟があるにもかかわらず第二次大戦となった原因を考える。ベルサイユ条約がドイツに課した賠償が1929年の世界恐慌と重なりヒトラーという人物を生んだことを考える。個人の役割とシステムレベルの原因で分析する。特にヒトラー、スターリン、ロースヴェルトの役割を考える。第2次大戦の原因であった、米国の国際連盟不参加、1929年の恐慌、ドイツに対する過酷な賠償を繰り返さないために米国はどのような考えで国際連合を設立したかを考える。
6	第2次世界大戦の原因 太平洋戦争	第2次世界は二つの大戦と分けられる。太平洋戦争の起源はヨーロッパでの戦争と異なる。太平洋戦争に関して、個人的役割、国内とシステムの要因の3つの分析レベルによって分析が変わってくる。日本が満州から中国になぜ侵攻していったかを考える。太平洋戦争は不可避だったでしょうか。また、日本がアメリカを攻撃したことは合理的であったかについて考える。
7	冷戦と核軍縮	第2次大戦後、世界の平和は、米、ソ連、英、仏、中国という主要戦勝国とされた5大国が中心となって維持するとの考えで国際連合が設立された。現実には、米国とソ連の対立、中国における共産党政権の成立により冷戦という状況が始まり国連は当初の機能を果たせなくなった。冷戦の過程を勉強するとともに米国がソ連の影響を抑えるために取った封じ込め政策は、欧州においては一定の目的を果たしたがアジアにおいては、朝鮮戦争、ベトナム戦争を生んだ。この違いを検証するとともに米国がなぜベトナムで失敗したかを勉強する。

8	キューバ危機と核軍縮	冷戦後米国とソ連は核抑止政策をとり、核競争を行ってきた。1962年のキューバ危機は、そのような核抑止政策が破綻し、米ソが核戦争の一手手前まで行った深刻な事態であった。世界は、その反省から核拡散防止条約（NPT）をはじめとする核兵器の削減に取り組んだが、いまだに核は廃絶されていない。日本は広島、長崎の核被害国として核廃絶の先頭に立つべき立場にある。他方、日本は、北朝鮮、中国、ロシアの核の脅威にさらされていることも事実であり、米国の核抑止に頼っていることも事実である。ここに外交の難しさがある。日本が核抑止のためにどのような立場をとるかについてテキスト「国際紛争」を読むとともに、外務省ホームページの「軍縮不拡散と我が国の取り組み」を併せ読んで政府の立場を理解したうえで皆さんの考えを持つことを目的とする。
9	ソ連崩壊後の紛争	1990年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終了としたとの認識が広まった。ところがそれまで米ソの冷戦のタガが緩んだとたんユーゴスラビア内戦、ルワンダ内戦、ソマリア内戦といった民族紛争が各地で浮き出してきた。これに対し国連を中心とする国際社会はどのように対応してきたかを検証する。国際社会においては、「保護する責任」という考えからこのような民族紛争に積極的に介入すべきであるとする考えが生まれてきた。他方、中国、ロシア、一部の途上国は「保護する責任」の名のもとに他国が国内問題に介入することに懸念を表明してきた。又このような内戦が終了した国が、紛争後どのように国を再建するかという平和構築も大きな課題となってきた。国際社会がこうした状況にどのように対処すべきかについて苦闘していることを勉強する。
10	現在の引火点東ヨーロッパ	ソ連の崩壊後、ソ連の影響下にあった東欧諸国が次々とEU、NATOに加入していったことにロシアは脅威と大国の威信を傷つけられたと感じた。これが今日のウクライナ問題の一因である。ウクライナは、これまで親欧州勢力と親ロシア勢力の間で揺れ動く外交をとってきた。ところが2014年のマイダン革命とそれに引き続くロシアによるクリミアの不法併合、ドンバス地域の軍事介入、そして2022年の侵攻により完全にロシアに見切りをつけEU加盟、NATO加盟に舵を切った。これを認めないプーチン大統領がウクライナに脅しをかけているのが現在の構図であり、ウクライナの主権と国民の総意を無視するものである。国際社会は断固ロシアの要求を拒否すべきである。他方でロシアが抱えている安全保障以上の懸念については欧州ひいては世界の安全保障上の問題として考え対処しなくてはウクライナ問題が解決しない事も事実である。この問題についてテキスト「国際紛争」と最近のニュースを参考に考えてみたい。
11	中東における紛争	中東においては、イスラエルの建国に伴うイスラエル・パレスチナ紛争（中東和平問題）、1991年に発生したイラクのクウェイト侵攻に伴う第一次湾岸紛争、その後の2003年に起こった第2次湾岸戦争、イランの核開発、アフガニスタンの混乱が続いているがいずれの問題にも米国が深くかかわってきた。米国の中東における権益、国益は何かを考え米国がどのようにかかわってきたかを検証する。
12	中国の台頭	中国は、第二次大戦後、大躍進、文化大革命の混乱を経て鄧小平による近代化が成功し、世界第2位の経済大国となった。他方、近年の中国の海洋進出は、日本のみならずフィリピン、ベトナム、米国といった国々と摩擦を引き起こしている。又、台湾に武力侵攻するのではないかと懸念もある。さらに新疆ウイグル、香港においては、人権問題を引き起こしている。こうした日本にとって、中国は、安全保障上の脅威であるとともに最大の貿易相手国であるという国である。こうした中国と向き合うべきかについて勉強する。
13	グローバリゼーションと相互依存	グローバリゼーションは多次元の現象であり、ここで軍事的グローバリゼーションと社会的ローバリゼーションに着目してほしい。相互依存の概念と源泉について理解する。特に石油をめぐる政治のセクションはとても重要である。1973年の石油危機と外国への依存について書かれていることを考察してほしい。また、主要国際経済制度の概観がこの章にあるので、諸組織の担うグローバリゼーションへの役割を考える。
14	エネルギーと環境問題	環境問題に関しては、二酸化炭素の削減のため、1992年にリオ環境開発会議が開かれ、その後、京都議定書、パリ協定が結ばれている。二酸化炭素の削減の必要性については、各国間で合意があるが具体的な削減数値目標になると先進国と途上国の間で意見が分かれる。途上国の立場からすればそもそも先進国が19世紀以来、石炭、石油といった化石燃料を使ったことが温暖化の原因であるとして先進国がより大きな責任を果たすべきとしている。今後の二酸化炭素削減に関する国際協力、日本が果たすべき役割について勉強する。
15	グローバリゼーションの未来	今後国際社会が直面する問題として大量破壊兵器の拡散、脱国家的テロリズム、サイバー戦争、コロナにみられる世界的感染症、気候変動、中国、ロシアによる既存の秩序に対する挑戦、民族、部族闘争を原因とする破綻国家の出現といった問題が存在することを理解する。日本は世界の主要国としてこれら全ての問題に主体的役割を果たす必要があることを理解する。

シラバス執筆：トレルファ ダグラス

レポート課題

第1分冊 トレルファ・ダグラス

第2分冊 トレルファ・ダグラス

第1分冊 〈略題〉(1) 第二次世界大戦 (2) 冷戦 テキスト『国際紛争』
第1章～第5章(1～235ページ)

横書き

直接入力

〈課題〉

議題選択(以下の問から一つ選択して答えよ)。(1) 1941年に日本がアメリカを攻撃した背景と攻撃の不合理性、合理性について論じなさい。(2) 冷戦の終結にはハードパワーとソフトパワーはそれぞれどのように役割を果たしかについて論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』をよく読んでください。レポートは自分の文書でまとめてください。他人の文書をコピーしたものは不合格とします。
- (2) 引用をする場合には、無断で引用せず「」をつけて、引用文献と引用ページを明記してください。
- (3) 利用した参考文献については、著者名・書名・出版社名・出版年をレポートの最後に明示してください。

〈評価の観点〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』及び指定された参考文献を充分理解しているか。
- (2) 論理構成が整っているか。
- (3) レポートとしての形式を満たしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト『国際紛争 理論と歴史』は良質なテキストであるがアジアの部分と国連の部分が弱いので参考文献を参照してください。

第2分冊 〈略題〉(1) 中国の台頭
(2) 石油をめぐる政治 第6章～第10章(235～453ページ)

横書き

直接入力

〈課題〉

1 議題選択(以下の問いから、一つ選択して答えよ)。(1) 台頭する中国と日本はどう向き合うのか。(2) 教科書の366ページに『1973年以降、石油に関する国際レジームは大きな転換をとげた。』と書いてある。その転換を説明するために取り上げたりアリズムの修正版の説得力について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』をよく読んでください。レポートは自分の文書でまとめてください。他人の文書をコピーしたものは不合格とします。
- (2) 引用をする場合には、無断で引用せず「」をつけて、引用文献と引用ページを明記してください。
- (3) 利用した参考文献については、著者名・書名・出版社名・出版年をレポートの最後に明示してください。

〈評価の観点〉

- (1) テキスト『国際紛争 理論と歴史』及び指定された参考文献を充分理解しているか。
- (2) 論理構成が整っているか。
- (3) レポートとしての形式を満たしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト『国際紛争 理論と歴史』は良質なテキストであるが著者は米国人であることとナイ博士は1970年代より米政府の政策に貢献した人物であり、カーター米大統領政権で国務副次官、クリントン米大統領政権では国家情報会議議長、国防次官補として任務された人物である。

参考文献

学習指導書を参照

科目試験等への アドバイス

テキスト『国際紛争 理論と歴史』に述べられていることを整理して、自分の考えで明確に解答するようにしてください。

教員からの メッセージ

国際関係学を学ぶことで、新聞や、インターネット、テレビのニュース、解説を見聞きした際に、その問題の原因を理解するとともに今後の展望について自分の考えを持つことを理解してください。そしてアジアのみならず世界の指導的立場にある日本が世界の平和と安定の維持にどのような貢献ができるかを考えてください。

科目概要	心理学とは、人間の心、そして人間そのものを知り、理解する学問である。本科目では、発達、動機づけ、性格、知能、心理病理、知覚、記憶、学習、思考、脳、社会との関わりなど、多様な観点から心理学の考え方について学ぶ。
主な到達目標	- 心理学の各領域における基本的な概念や考え方について説明することができる。 - 具体的な到達目標としては、下記の各課題に対し、基本的な概念や具体的な研究知見を使って説明できること、また、キーワードについて具体的に説明できることである。
テキスト学修の留意点	テキストの青字のキーワードに関する説明をよく読み理解に努めてもらいたい。キーワードの中には日常の言葉とは意味が異なるものもあるため、テキストの中で記された意味をよく理解してほしい。各章の内容を学習するとき、別の章の関連する概念や考え方も参照し、それらと結びつけて学習すると理解が深まるだろう。レポートにおいては、テキストの文章を書き写すのではなく、よく理解した上で、自分の言葉を使って言い換えや要約を行い解答するように努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 心理学とは	直接目に見えない心的過程をとらえるため、どのような工夫をして研究がなされてきたか。心理学の研究法にはどのようなものがあるか。 (内観法 精神分析学 ゲシュタルト心理学 行動主義 認知心理学)
2	第2章 心の進化	動物と比較して、人間のユニークさはどこにあるのか。 (言語 文化 互恵性 学習)
3	第3章 心の発達	乳児期の認知発達にはどのような特徴があるか。子どもはどのように言語を獲得していくのか。 (愛着 社会的参照 心の理論)
4	第4章 ライフサイクル	生涯発達の視点から人間の一生はどのように説明されるか。青年期にはどのような問題に直面しやすいか。 (エリクソンの発達段階説 自我同一性 同一性拡散)
5	第5章 動機づけと情動	自らの行動を引き起こしている動機にはどのようなものがあるか。情動にはどんな役割があるか。 (生理的動機 内発的動機 社会的動機)
6	第6章 性格	性格の類型論と特性論の違いは何か。性格をはかる方法にはどのようなものがあるか。 (ビッグ5 面接法 投影法 質問紙法 ユング クレッチマー)
7	第7章 知能	頭がよいとはどういうことだろうか。 (結晶性知能 流動性知能 知能検査 創造性)
8	第8章 ストレスとメンタルヘルス	心理病理とは何か。心理病理の原因はどのように説明されてきたか。 (ストレッサー ストレス反応 対処行動 精神分析学 学習理論)
9	第9章 カウンセリングと心理療法	カウンセリングが成功するためにどのような条件が必要か。 (精神分析療法 行動療法 認知療法 ラポール クライアント中心療法)
10	第10章 感覚 第11章 知覚	感覚器官によって刺激が脳に伝えられる際の制約にはどのようなものがあるか。網膜像として得られた情報がそのまま知覚されるわけではないのはなぜか。 (図と地 パターン認識 主観的輪郭 錯視 知覚の恒常性)
11	第12章 記憶	記憶の過程にはどのような段階があるか。 (干渉 短期記憶 リハーサル 長期記憶 再生 再認 忘却曲線 スキーマ)
12	第13章 学習	学習とはどのように説明できるか。 (馴化 古典的条件づけ オペラント条件づけ 洞察学習 観察学習)
13	第14章 思考	人間の思考にはどのような特徴があるか。人間はなぜ誤った推論をしてしまうことがあるのか。 (試行錯誤 アルゴリズム ヒューリスティック 機能的固定性)
14	第15章 脳と心 第16章 脳損傷と心の働き	脳の構造はどのような心の働きと関連しているか。 (ニューロン シナプス) 脳に損傷を受けると心の働きにどのような障害を生じるか。 (高次脳機能障害 失認 健忘症 失語症)
15	第17章 社会の中の人 第18章 心と社会	人の心は社会的文脈からどのような影響を受けるか。社会において個人の利益と全体の利益が合致しない場面としてどのようなものがあるか。 (社会的促進 社会的手抜き 同調行動 先入観と偏見 認知的不協和理論 光背効果 単純提示効果 社会的ジレンマ 囚人のジレンマ)

シラバス執筆：大河内 祐子

レポート課題

第1分冊 大河内 祐子

第2分冊 大河内 祐子

第1分冊 〈略題〉心理学とは 第1章～第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

直接目に見えない心的過程をとらえるため、どのような工夫をして研究がなされてきたか、テキストの内容を踏まえて述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの第1章～第9章（特に第1章）を読み、心理学の研究の流れをまとめる。研究を挙げる時は、わかる限りで良いので研究者名と研究が発表された年を本文中に明記する。研究については、テキストに挙げられたものに限らず参考文献を用いてもよい。

〈評価の観点〉

- ①心理学の研究を具体的かつ正確に説明できているか。テキストの内容をおさえた上で、テキストの記述をそのまま書き写すのではなく、自分の言葉で言い換えたり要約することが大切である。
- ②課題のテーマから外れている場合、説明が不十分・不正確な場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

引用文献がある場合は、本文中と文章の最後で出典を明記すること。

第2分冊 〈略題〉思考 第10章～第18章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

人間の思考にはどのような特徴があるか、具体的な例を挙げて説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの第10章～第18章（特に第14章）を読み、人間の思考の特徴について、具体例を挙げて説明する。具体例は、テキストで挙げられている例に限らず、参考文献を利用したり自分の体験を取り上げてよい。研究を挙げる時は、できるだけ研究者名および研究を発表した年を本文中に明記する。用語の定義はきちんと行うこと。

〈評価の観点〉

- ①人間の思考の特徴について、具体的な例を挙げて正確に説明できているか。テキストの記述をそのまま書き写すことは避け、自分の言葉で言い換えたり要約することが大切である。
- ②課題のテーマから外れている場合、説明が不十分・不正確な場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

引用文献がある場合は、本文中と文章の最後で出典を明記すること。

参考文献

.....
各章の章末に紹介されている参考文献を参考にしてください。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・科目試験では、テキストに書かれた内容および重要な心理学用語について理解し、説明できるかを問う。解答に際しては、用語の意味や定義を単に暗記するだけではなく、具体的な研究の内容（研究知見）や実際の例を用いて説明できるようにする。
 - ・科目試験問題は、課題から1題とキーワードから2題を選択して出題するので、テキストの内容をもとに課題への解答を作成したり、キーワードについて説明しながら学習を進めてもらいたい。

教員からの
メッセージ

.....
心理学は私たちの日常生活のあらゆる場面に関わる学問である。したがって、テキストの内容と自らの経験とを結びつけながら学習を進めると、理解しやすくなるだろう。ただ、自らの経験と照らし合わせることは大切だが、レポート課題や科目試験で解答する際、経験・意見を記述するだけでは不十分である。基本的な概念と、心理学の研究知見にもとづき、論理的な文章を作成することが望まれる。

02615 歴史（日本） / （コア / 一般）日本史

2単位

テキスト名

宮地正人編

『新版 世界各国史／日本史』

科目概要	日本史の基本的な考え方を身につけます。そのためには、次の順番で実践をしてください。①テキスト学修を通して時代背景を理解する、②レポート課題を通して当時の人々の価値観や感覚を自分なりに追究する、③当時の人々の価値観や感覚を理解した上で、当時の時代像（時代のイメージ）を自分なりに持つ。この積み重ねで、自分なりの歴史認識が深まっていきます。
主な到達目標	・近世から現代までの大きな歴史の流れを把握する。 ・それぞれの時代について、自分で課題をもって調べ、追究する学問的姿勢を身につける。 ・追究したことをレポート等に表現する。
テキスト学修の留意点	テキストを見る時に、一つ一つの出来事を覚えようとしないうこと。そうではなく、一つ一つの出来事が、お互いどのように繋がっているのかを意識して読むことです。

	学修テーマ	課 題
1	歴史の学び方	大学で歴史を学ぶ楽しさを知る。そのために以下のことを実践する。 1 歴史の流れを把握し、それぞれの事実と因果の関係を追究する。 2 歴史を学ぶことは自ら課題を発見し、調べる。 3 身近にある史跡を訪ね、その場所で何があったか思い描いてみる。
2	なぜ、近現代史か	学習指導書の冒頭の部分に記述された近現代史に焦点を学ぶことの意義を把握し、そのことについての自分の考えをまとめる。
3	近世社会の動揺と近づく近代 1	「飢饉・一揆と寛政改革」「揺らぐ「鎖国」秩序」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
4	近世社会の動揺と近づく近代 2	「花開く庶民文化と学問」「市場構造の変容と天保改革」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
5	天皇制国家の成立 1	「維新変革」「参加と統合」「幕末維新期の社会と文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
6	天皇制国家の成立 2	「帝国憲法システムと日清戦争」「国民文化の可能性と現実」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
7	個人研究 1 （第 1 分冊）	第 8 章から 9 章までの中からテーマを見つけ研究する。そして、なぜ、そのテーマか。調べて分かったこと。現時点での自分の考えを表現する。
8	大日本帝国と東アジア 1	「帝国主義強国への道」「帝国日本の経済と文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
9	大日本帝国と東アジア 2	「民主主義対国家主義」「十五年戦争」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
10	大日本帝国と東アジア 3	「文化の大衆化とファシズム」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
11	敗戦から経済大国へ 1	「占領下の日本」「五五年体制の成立」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
12	敗戦から経済大国へ 2	「経済大国への道」「大衆社会とその文化」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
13	敗戦から経済大国へ 3	「米ソ対立後の日本と東アジア」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
14	二十一世紀の日本の課題	「ヨーロッパ共同体」「地域世界的自立」「日本の大衆社会的矛盾」を読み、新しい知識を得ると共に、疑問に思ったことやより深く調べたいと思うことを探る。
15	個人研究 2 （第 2 分冊）	第 10 章から終章までの中からテーマを見つけ研究する。なぜ、そのテーマか。調べて分かったこと。現時点での自分の考えを表現する。

シラバス執筆：濱田 英毅

レポート課題

第1分冊 濱田 英毅

第2分冊 濱田 英毅

第1分冊 〈略題〉近世の歴史の追究 第8章・第9章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストで学んだ時代背景をベースにして、該当する時期に関する歴史資料（歴史上の登場人物が残した記録）を探して読み、「歴史資料から理解」できる当時の人々の価値観や感覚を明らかにしなさい。

なお、現代の価値観で当時の価値観を考えないこと。あくまでも当時の人々の価値観や感覚を明らかにすることに専念すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

◎・歴史資料の引用が内容の主軸であること。その時代の解説は求めているない。

- 1 なぜ、この課題を発見したか。
- 2 何をどのように調べたか。
- 3 どのような結論を得たか。
- 4 この課題を追究して、初めて分かったこと、考えが変わったことなど自分の追究を振り返り、今の自分の考えを書く。
- 5 引用文、参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしているか。
 - 2 論理が一貫しているか。
 - 3 誤字・脱字がないか。
 - 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。
 - 5 縦書きで作成しているか。
- ※前提として、自分の考えを中心にレポートが書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・歴史資料の引用が内容の主軸であること。
- ・テキストや中高の教科書は参考文献としない
- ・参考文献は、次の要件をすべて満たすこと。
 - ①追究したいテーマに関する学術的な専門書（新書可）
 - ②複数冊とりあげる
 - ③インターネット記事は、公的機関のもの以外認めない
 - ④引用した箇所の頁数を本文中に記す
- ・引用文と自分の考えを明確に区別して記述する
- ・歴史資料は次のように引用する
例——安倍元総理の国葬儀において菅首相は山縣有朋の「かたりあひて 尽しゝ人は先立ちぬ 今より後の世をいかにせむ」を引用し・・・

第2分冊 〈略題〉近代・現代の歴史の追究 第10章から終章

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストで学んだ時代背景をベースにして、該当する時期に関する歴史資料（歴史上の登場人物が残した記録）を探して読み、「歴史資料から理解」できる当時の人々の価値観や感覚を明らかにしなさい。

なお、現代の価値観で当時の価値観を考えないこと。あくまでも当時の人々の価値観や感覚を明らかにすることに専念すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

◎・歴史資料の引用が内容の主軸であること。その時代の解説は求めているない。

- 1 なぜ、この課題を発見したか。
- 2 何をどのように調べたか。
- 3 どのような結論を得たか。
- 4 この課題を追究して、初めて分かったこと、考えが変わったことなど自分の追究を振り返り、今の自分の考えを書く。
- 5 引用文、参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしているか。
 - 2 論理が一貫しているか。
 - 3 誤字・脱字がないか。
 - 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。
 - 5 縦書きで作成してあるか。
- ※評価の前提として、自分の考えを中心にレポートが書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・歴史資料の引用が内容の主軸であること。
- ・テキストや中高の教科書は参考文献としない
- ・参考文献は、次の要件をすべて満たすこと。
 - ①追究したいテーマに関する学術的な専門書（新書可）
 - ②複数冊とりあげる
 - ③インターネット記事は、公的機関のもの以外認めない
 - ④引用した箇所の頁数を本文中に記す
- ・引用文と自分の考えを明確に区別して記述する
- ・歴史資料は次のように引用する
例——安倍元総理の国葬儀において菅首相は山縣有朋の「かたりあひて 尽しゝ人は先立ちぬ 今より後の世をいかにせむ」を引用し・・・

参考文献

岩波文庫、岩波新書、中公新書、PHP 新書等でより深く追究したいテーマに関するもの。複数冊、用いること。（レポート作成の際、必要になる）

科目試験等へのアドバイス

テキストの学習を通して時代背景を理解し、そしてレポート課題を通して時代背景の理解を前提とした歴史の追究を実践します。その結果、みなさんは自分なりの時代像（時代のイメージ）を持つことが出来ます。そうした学習を、日本史全般に適用して、中学高校の教科書を見直しましょう。教科書の各単元ごとに、どのような主要な出来事があったか、そしてその時代はどのような時代だったか（時代像）を確認してください。そのように、学びの範囲を自分で広げていくことが、科目試験への対策となります。

教員からのメッセージ

いまから歴史を見る前に、当時の人がどのように考えていたのか、当時の人々の価値観はどのようなものであったのか、そうした事実を探ることを優先してください。可否の基準は「その他の注意点」にも記載しています。

02617 歴史（世界） / （コア）外国史 / （一般）西洋史

2単位

テキスト名

『西洋の歴史（近現代編）増補版』

科目概要	現代世界の形成にきわめて大きな役割を果たしている西洋の近現代史を、大局的な歴史の流れを捉えるとともに、各時代の特徴を押さえながら学んでいく。
主な到達目標	・ 西洋の近現代の歴史を大局的に捉える ・ 各章で述べられている各時代の特徴を押さえながら、その特徴を生み出している背景を知る。 ・ この学習を契機に西洋の歴史に興味を覚え、現代世界が向かっている方向について考察する。
テキスト学修の留意点	・ 難解な語句は辞書、事典などで調べてからきちんと読みこなす。 ・ 各時代がどのような特徴を持っているか、社会の仕組みはどうであったか確認する。 ・ 各時代がその前後とどのようにつながるか、確認する。

	学修テーマ	課 題
1	近代ヨーロッパの胎動 1	ルネサンス、宗教改革、大航海時代がそれぞれ西洋の近代の始まりを意味する重要な出来事とされる理由を考え、またそれらの歴史的意義、およびそれらが特定の地域で開始された理由を考察する。
2	近代ヨーロッパの胎動 2	上記の三つの出来事はそれぞれ後世に重大な影響を与えたが、それは具体的にどのようなものであったかを、それぞれについて考察する。
3	絶対主義の時代 1	「絶対主義」とは何かを、この体制が盛んだったころの各国の軍事、経済、内政などに注意しながら捉えてみよう。また、西欧と東欧の絶対主義を比較対照し、各々の特徴を明らかにしよう。
4	絶対主義の時代 2	スペイン、イギリス、フランス、プロイセン、ロシアのそれぞれの絶対主義時代について、各国の特徴を押さえながらその概要を述べてみよう。
5	ブルジョワ革命とその余波 1	ブルジョワ革命とは何か。また、アメリカとフランスの革命について、開始に至った経緯、革命の経過とその集結までの一連の流れを大まかに捉えよう。
6	ブルジョワ革命とその余波 2	ナポレオン戦争からウィーン体制までの時代の流れを、当時の国際関係に注意しながら大局的に述べ、その時代が「動」と「反動」の両極対決の構図にあると言われる理由について考察しよう。
7	産業革命とナショナリズム 1	「産業革命」とは何か。またそれがイギリスで最初に起こった理由について調べ、さらにそれによって経済、社会、政治の仕組みがどのように変化していったかを考察し、人類史における大きな転換点となったと言われる理由について考えよう。
8	産業革命とナショナリズム 2	「1848年の革命」とは何か。その発端となったフランスの事件の概要を述べ、それがドイツ、イタリアに与えた影響を、具体的な国民運動に即して明らかにすること。
9	帝国主義の時代 1	19世紀後半のドイツ、イギリス、フランス、ロシア各国の国内情勢についてまとめ、この時代にそれぞれの国が取り組んでいた政治課題について明らかにし、さらに各国の国情の特徴についても考察すること。
10	帝国主義の時代 2	帝国主義とは何か。経済、政治、国際関係の各側面からその概要をまとめ、さらに帝国主義国の内部で社会主義運動が興隆した理由についても考察すること。
11	帝国主義の時代 3	第一次世界大戦はなぜ起こったのかを、帝国主義国同士の対立から考える。三国同盟と三国協商、パン・スラヴ主義とパン・ゲルマン主義、3B政策と3C政策の三つの対立を軸に、当時のバルカン情勢との絡みでまとめること。
12	ファシズムと第二次世界大戦 1	ヴェルサイユ体制と第一次世界大戦後の国際関係、および1920年代の欧米各国の情勢について、特にアメリカの役割に注意しながらまとめること。
13	ファシズムと第二次世界大戦 2	世界恐慌の始まりから、ナチス・ドイツの台頭とそれを取り巻くヨーロッパの国際関係、さらに第二次世界大戦の開始までの歴史的流れを、ドイツの動向に注意しながらまとめること。
14	ファシズムと第二次世界大戦 3	第二次世界大戦の開始からドイツの降伏までの歴史的流れを、ドイツが攻勢から守勢に転じる1942年に注意しながらまとめること。特に、ドイツとソ連との関係に注目すること。
15	総括	冷戦時代の国際関係について概要を述べ、またソ連の消滅と冷戦の終結について史実に即してまとめること。さらに、冷戦終結後の世界が向かう方向性について、あなたはどうか考えるかを示すこと。

シラバス執筆：平山 洋

レポート課題

第1分冊 平山 洋

第2分冊 平山 洋

第1分冊 〈略題〉旧世界と新世界 第1章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

旧世界と新世界とは何かを理解した上で、新世界の金属問題に関連し新世界が旧世界に与えた経済的インパクトについて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、できるだけ自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

第2分冊 〈略題〉ユーゴ内戦 第6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

1990年代に勃発したユーゴスラヴィアの内戦について知るところを述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・自己の文章と引用文とを明確に区別し、引用文には必ず「注」を付して文末に出典を明記すること。
- ・参考文献についても、著者、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ・年号など2桁以上の数字は半角で表記すること。
- ・参考書などを引き写しにせず、できるだけ自己の文章でまとめること。

〈評価の観点〉

- ・文字数、提出スタイル、作文上の初歩的きまりごとなど、レポート作成上の基本ルールに則しているか。
- ・「課題」の趣旨にそっているか。
- ・参考書などの引き写しではなく、自己の文章を基本に作成されているか。
- ・重要ポイントが確実に押さえられ、全体がバランスよく構成されているか。
- ・どれだけ参考文献や資料にあたり、自身の考えを導き出す試行錯誤したか、その足跡がみられるか。

〈その他の注意点〉

自分なりの筋道を立ててからレポートを作成すること

参考文献

- ・教科書だけ参照しても評価されない
- ・参考文献が分からなければ教科書に記載されている参考文献に当たるのも一つの方法（巻末もっと知りたい・文献案内等）。
- ・大学や地域の図書館などを利用するなりして可能な限り様々な文献にあたること
- ・必ずしも学説などに深く当たる必要はないが、論文も参考に出来ると尚良い

科目試験等への
アドバイス

- ・重要語句を説明できる
- ・重要語句を用いて歴史的因果関係を説明できる
- ・各時代の特徴をつかむ

教員からの
メッセージ

テキストをもとにいろいろ調べながら、新しい発見をしたり、疑問を解いたりして歴史のおもしろさを味わってください。

科目概要	社会的なかで人はコミュニケーション無くして日々の生活を送ることは不可能である。仕事や学校という組織の中はもちろんのこと家族、友人との関係を維持するのはコミュニケーションを通してである。「コミュニケーション論」では総合的なコミュニケーション力を向上させるため、対人コミュニケーションの基本理論とメカニズムを理解していく。
主な到達目標	コミュニケーションの基本概念と理論を理解し、テキスト内のエピソード例を元に対人関係に関わるコミュニケーション論の知見を学び、広げる。自己の対人コミュニケーションの重要性を再認識し、日常の場においても相互理解を深めるための考察力を身に着ける。
テキスト学修の留意点	テキストはエピソードから展開していくが、概念と理念またコミュニケーション論で用いられる用語を自分なりにまとめるようにするとよいでしょう。エピソードを参照し、普段から自身の体験などを記録しておくことを勧める。それらを考察し、自分の言葉で客観的に分析することでよりテキスト理解につながる。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 科学としてのコミュニケーション	コミュニケーションを学ぶ意義とその目的を考える。
2	第2章 人間コミュニケーションの基本的な考え方①	「コミュニケーション」とは何を示すのか。コミュニケーション論におけるコミュニケーション・モデルを理解する。
3	第2章 人間コミュニケーションの基本的な考え方②	コミュニケーションのプロセスの要素の理解。
4	第3章 ことばとコミュニケーション①	コミュニケーションにおける「ことば」とその役割を整理、理解する。恣意性、あいまい性、抽象性の違いを説明する。
5	第3章 ことばとコミュニケーション②	「ことば」のコンピテンスのレベルを理解する。
6	第4章 ノンバーバル・コミュニケーション①	ノンバーバル・コミュニケーションとは何か理解し、バーバル・コミュニケーションとの違いを比較する。
7	第4章 ノンバーバル・コミュニケーション②	ノンバーバル・コミュニケーションの種類と機能の理解。ノンバーバル・コミュニケーションの認識法を考える。
8	第5章 認識コンピテンス①	総体的にコミュニケーションにおける認識をするための要素と行程を理解する。
9	第5章 認識コンピテンス②	コミュニケーション向上のためのリスニングの種類と向上法を理解する。Hear と listen の区別をする。
10	第6章 人を動かすコミュニケーション・コンピテンス	コミュニケーションにおける「説得」の理論（認知的一貫性理論・接種理論・精査可能性理論）を理解し、コミュニケーションを円滑にするためのスキルを学修する。
11	第7章 対人コミュニケーション・コンピテンス	マズローの欲求断層理論とシュッツの対人欲求理論を理解し、コミュニケーション・コンピテンスの最小単位ともなる対人コンピテンスの要素、発展のプロセスを考察する。
12	第8章 小集団コミュニケーション・コンピテンス	「小集団」グループの特徴と小集団におけるリーダーシップの役割と機能を理解する。
13	第9章 組織内コミュニケーション・コンピテンス	「組織」の特徴と組織内コミュニケーションでの対立処理の種類とコンピテンスを理解する。第8章の小集団との違いを考察する。
14	第10章 異文化間コミュニケーション・コンピテンス①	文化の定義と異文化適応の4パターン（多元的適応型・極端な異文化嗜好型・異文化回避型・文化拒絶型）の理解。図：異文化適応パターンを用いて自身や知人に当てはめ、その根拠を分析・説明する。
15	第10章 異文化間コミュニケーション・コンピテンス②	異文化適応（カルチャーショックの克服）のプロセス、特徴、対処法と効果を理解する。日本国内においてのカルチャーショックを分析、理解をする。

シラバス執筆：常岡 亜希子

レポート課題

第1分冊 常岡 亜希子

第2分冊 常岡 亜希子

第1分冊 〈略題〉ノンバーバル・コミュニケーション 第1章～第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ノンバーバル・コミュニケーションの特徴と役割をバーバル・コミュニケーションと比較し説明しなさい。また、自身の体験などノンバーバル・コミュニケーションによって効果的なコミュニケーションを図れた例をあげ、分析しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

大学指定のテンプレートを使用すること。
自分の文章と引用を明確に区別し、引用部は必ず「」で括り、出典を明示すること。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。参考文献を使用した場合、著者、書名、出版社を明記すること。WEB情報も参考文献として用いることは禁止しないが、ただし個人のサイトなどは正確性に欠け、変更や削除の可能性のあるものなどは検証して利用すること。

〈評価の観点〉

レポート課題に沿った内容であるか、留意事項の指示に従っていること。
自分の言葉でまとめられていること。
引用と自身の考察が区別されていないものは再提出とする。

〈その他の注意点〉

自分の言葉で表現するためには予めテキストを学修し、キーワードなど箇条書きでノートにまとめるとよいでしょう。

第2分冊 〈略題〉コミュニケーション・コンピテンス 第6章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

小集団コミュニケーションと組織内コミュニケーションの特徴を述べ、それぞれの共通点と相違点を論述し、自身もしくは身近な例を描写し、本論の理解をもとに分析しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

大学指定のテンプレートを使用すること。
自分の文章と引用を明確に区別し、引用部は必ず「」で括り、出典を明示すること。生成型 AI からの出力をそのままレポートに利用は禁止。
参考文献を使用した場合、著者、書名、出版社を明記すること。
WEB情報も参考文献として用いることは禁止しないが、ただし個人のサイトなどは正確性に欠け、変更や削除の可能性のあるものなどは検証して利用すること。

〈評価の観点〉

レポート課題に沿った内容であるか、留意事項の指示に従っていること。
自分の言葉でまとめられていること。
引用と自身の考察が区別されていないものは再提出とする。

〈その他の注意点〉

自分の言葉で表現するためには予めテキストを学修し、キーワードなど箇条書きでノートにまとめるとよいでしょう。

参考文献

1. 末田清子・福田浩子『コミュニケーション学 その展望と視点 増補版』松柏社 2011年
2. 石井敏編著『コミュニケーション論入門』1993年 桐原書店
3. 石井敏・岡部朗一・久米昭元（古田暁監修）『異文化間コミュニケーション』1987年 有斐閣

科目試験等への
アドバイス

科目試験は用語もしくは概念の説明と具体例を示す形式と用語を自分の言葉で説明する2つの形式で出題される。テキストの暗記ではなく理解の証明を重視する。

教員からの
メッセージ

テキスト学習を通してコミュニケーション論という学問を理解し、自身の日常の人間関係を円滑にする鍵を見出していくことを志向する。普段から気づいたことを記録しておくといよいでしょう。

*第11回 学修テーマの「課題」（テキスト訳「マズローの要求階層理論」は著者宮原の意図的な和訳ですが、本科目ではMaslow's hierarchy of needs 原文の解釈から一般的に用いられている「マズローの欲求階層理論」で学修していきます）

02701 数学入門 / (コア) 数学入門 / (一般) 数学 1-2

2単位

テキスト名

『数学入門 (大学生のための基礎シリーズ 1)』(株) 東京化学同人

科目概要	高校で必修となっている数学Ⅰ程度までを学習した主に文系コースだった学生を対象に、大学での本格的な学習・教材研究活動等に必要な基本的な数学的知識を修得する。
主な到達目標	1. 高校の数学Ⅰ、数学A程度までの数学を確実に理解する。 2. 高校の数学ⅡおよびⅢ、数学BおよびC程度までの数学の基礎的な知識並びに関連する内容を理解する。 3. 主に小・中の教職を希望する学生にとっての基礎数学力を身につけると共に、小学校算数が中・高での数学にどのように発展していくのかの見通しを持つ事ができる。
テキスト学修の留意点	このテキストの前提は、高等学校における必修科目である数学Ⅰまでの数学的知識があれば理解し、その発展についても取り組んでいくことができる内容である。記述としては、定理と証明、例題と解答からなっている。行間を読み、例題や問題に取り組むことで理解を深めてほしい。 もしそれでも理解に不安がある場合は、一般的な高校数学の参考書・問題集等を参照したり、他の初学者用の書籍にあたったり、積極的に質問したりすることを心掛けてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	数・集合・論証 (1)	テキスト pp.1-17 より、実数、集合、命題と証明、整式について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
2	数・集合・論証 (2)	テキスト pp.17-28 より、複素数、複素数平面、累乗根について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
3	方程式・不等式	テキスト pp.30-41 より、方程式とその解法等について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
4	数列と級数 (1)	テキスト pp.53-61 より、数列やその和について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
5	数列と級数 (2)	テキスト pp.62-76 より、数列の極限や級数について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
6	関数 (1)	テキスト pp.78-93 より、2次関数や三角関数を中心に、関数について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
7	関数 (2)	テキスト pp.94-110 より、指数関数や対数関数、関数の極限等について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
8	微分 (1)	テキスト pp.112-129 より、微分とは、およびその計算方法などについて、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
9	微分 (2)	テキスト pp.132-143 より、微分の応用について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
10	積分 (1)	テキスト pp.158-175 より、積分の考え方、諸定理と性質、不定積分の計算方法などについて、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
11	積分 (2)	テキスト pp.176-193 より、定積分の諸定理と計算方法、その応用について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
12	座標と図形	テキスト pp.222-233 より、座標、曲線、2次曲線について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
13	行列	テキスト pp.236-257 より、行列とその計算、線形写像、行列式、逆行列について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。この内容な高等学校では扱わないが、これまでの学びにつながる概念であることを知ること努めましょう。
14	確率 (1)	テキスト pp.259-265 より、確率の考え方、基本性質、諸定理について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。
15	確率 (2)	テキスト pp.266-274 について、順列、組合せ、期待値についてその性質について、例題や章末問題に取り組み、理解に努めましょう。

シラバス執筆：辻 宏子

レポート課題

第1分冊 辻 宏子

第2分冊 辻 宏子

第1分冊 〈略題〉整式、複素数、2次関数、数列とその極限、三角関数、対数関数、微分とその応用 テキスト第1章～第5章

横書き指定

その他の注意点参照

〈課 題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701第1分冊レポート課題.pdf>

※その他の注意点も確認のこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いずれの問題も正解を書くだけではなく、その正解を導く過程の式や考え方を記述すること。解答だけの場合は評価しない。

〈評価の観点〉

正解が求められていること。

正解を導くまでの過程が正しく記述されていること。

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701TT05122021sonota.pdf>第2分冊 〈略題〉積分、2次曲線、ベクトル、行列と行列式、確率
テキスト第6章～第10章

横書き指定

その他の注意点参照

〈課 題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701第2分冊レポート課題.pdf>

※その他の注意点も確認のこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いずれの問題も正解を書くだけではなく、その正解を導く過程の式や考え方を記述すること。解答だけの場合は評価しない。

〈評価の観点〉

正解が求められていること。

正解を導くまでの過程が正しく記述されていること。

〈その他の注意点〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT023602701TT05122021sonota.pdf>

参考文献

.....

テキストの内容の理解に不安がある場合やさらに練習問題をドリルしたい場合は、一般的な高校数学の数学ⅠA、ⅡBの参考書・問題集等を参照すると良い。

科目試験等への
アドバイス

.....

テキストの内容は、かなり多岐にわたっているので、科目試験の出題内容は、レポート課題として出題されている範囲を中心に学習を行うこと。その範囲を中心に出题される。添付の数式は受験時に参照可。{内容はこちらをクリックして下さい。}

[https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/基礎数学公式集\(数学入門用\).pdf](https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/基礎数学公式集(数学入門用).pdf)教員からの
メッセージ

.....

数学の学習において、内容を確実に理解するためには問題演習を行う事が必要である。教科書中には厳選された例題のみが掲載されているので、必要であれば上記の参考文献を参考にせよ。

科目概要	内容は一般物理学全般である。物理学とは自然科学の中でもっとも基礎的な学問であり、我々の身近な生活にその現象を多く観察することができる。一見偶然のようで突発的のようでもある現象の多くは、物理学でその規則性を明らかにできるとともに、引き続き起こる現象を予測することもできる。つまり、物理学によって自然の成り立ちを学ぶことができる。単に物理学としてとらえるのではなく、論理的・科学的思考展開の訓練でもある、と考えるといい。
主な到達目標	・ 科学の合理的な考え方や新しいものの開発・発想における物理学的な見方を修得し、現象を順序よく捉え、科学的な考え方を組み立てることができる。 ・ 市民として科学的話題に積極的に参加できる程度の基礎知識を身に付ける。 ・ 簡単な物理法則を数式を使って表現することができる。 ・ レポート課題演習では、身近な現象や工業製品の基礎的な原理について、的確な文章と数式を用い、正しい形式に則って説明することができる。
テキスト学修の留意点	・ 言葉と式は相補的であり、双方を使いこなして現象を説明できるようにする。 ・ レポート課題は力学と電磁気学の最も基本的な内容であり、これらの正確な説明は学修途中の学修達成度の自己評価として重要である。 ・ レポート課題においてテキストの説明の丸写しでは理解したとは言えない。自分が理解した言葉と式を用いて正確に説明できるようにする。 ・ テキストのみで理解できないときは、参考文献やより易しい文献（高等学校教科書等）も利用する。

	学修テーマ	課 題
1	1 章：運動 pp.8-19	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 速さとは何か？ ・ 速さと速度についてベクトルで説明できるか？ ・ 位置と速さ／速度の関係とはどういうものか？
2	1 章：運動 pp.19-30	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 加速度とは何か？ ・ 重力加速度とは何か？ ・ 位置、速度、加速度の関係とはどういうものか？
3	2 章：力と運動 pp.34-43	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 運動の3法則とは何か？ ・ 運動量と力積とは何か？ ・ 重力、万有引力、垂直抗力とは何か？
4	2 章：力と運動 pp.43-54	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 力の合成や分解をベクトルで説明できるか？ ・ 運動方程式をたてることができるか？ ・ 摩擦力（静止と動）について違いを説明できるか？ ・ 力のモーメントとは何か？
5	3 章：仕事とエネルギー pp.58-69	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 物理学用語の仕事とは何か？ ・ 力学的エネルギーである運動エネルギーと位置エネルギーについて説明できるか？ ・ 力学的エネルギー保存の法則とは何か？
6	4 章：周期運動 pp.72-91	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ ラジアンを単位とする角度と三角関数で等速円運動の速度と加速度について説明できるか？ ・ フックの法則について説明できるか？ ・ 単振動の周期とは何か？
7	5 章：連続体の力学 pp.94-112	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 種々の圧力（静水圧、大気圧、水圧、パスカルの原理）等について説明できるか？ ・ 物体の変形や固体以外の流体について学習する。
8	6 章：波動 pp.114-126	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・ 縦波と横波の違いは何か？ ・ 波の式を $\sin$ を使って示せるか？ ・ 波の干渉、反射、屈折、回折等の現象について説明できるか？ ・ ドップラー効果とは何か？

9	6 章：波動 pp.126-131 7 章：熱と温度 pp.136-147	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・光の速さ、反射、屈折、全反射、分散を説明できるか？ ・熱はエネルギーで温度は指標であることを理解せよ。 ・熱容量と比熱を理解せよ。 ・理想気体の状態方程式を理解せよ。
10	7 章：熱と温度 pp.147-155	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・熱力学第 1 および第 2 法則を理解せよ。 ・気体の仕事、圧力、体積、エネルギーの関係について説明できるか？
11	8 章：電荷と電流 pp.158-171	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・電荷とは何か？ ・電流とは何か？ ・電荷間にはたらく力とはどのようなものか？ ・電場、電位とは何か？
12	8 章：電荷と電流 pp.171-185	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・キャパシターとはどういうものか？ ・キャパシターの接続を説明できるか？ ・オームの法則とは何か？ ・電気抵抗の直列接続と並列接続を説明できるか？ ・電力とは何か？
13	9 章：電磁気学 pp.190-206	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・電流の作る磁場について理解せよ。 ・磁気力について理解せよ。 ・電磁誘導について理解せよ。
14	9 章：電磁気学 pp.206-216 10 章：原子物理学 pp.220-227	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・直流と交流の違いについて説明できるか？ ・原子の構造について説明せよ。 ・光の二重性とは何か？ ・物質波とは何か？
15	10 章：原子物理学 pp.227-237 11 章：原子核 pp.240-250	以下の項目を中心に学修し、文章を必ず自分の言葉に置き換えて、図や式を多く用いて、ノートを作成してください。 ・半導体の応用について理解せよ。 ・原子核の構造について理解せよ。 ・原子核の崩壊と放射線について理解せよ。

シラバス執筆：水野 貴敏

第1分冊 〈略題〉運動の法則・力積 第1分冊：2章：力と運動

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①「ニュートンの運動の法則」第1～3法則のそれぞれについて、詳細に記述せよ。
- ②運動量と力積の関係をj用いて、キャッチャーがピッチャーの投げたボールを受け止めるときや、トランポリンでの着地時、頭部に衝撃を受けたときのヘルメット着用時、高所から飛び降りるときの膝を曲げての着地時、など、衝撃を弱め怪我をしない理由を記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

式は改行し一行表示。物理量は該当する文字をまず定義してから使う。必ず図を用いて説明。

- ①第1・2法則は物体に作用する力、もしくはその合力がゼロであるか否かであることに留意し、力と加速度との関係について記述。文章説明と式・式変形・物理量の単位を必ず記述。ベクトルとスカラーを正確に区別して用いる。
- ②加速度の基本的考え方を発展させ、運動方程式へ移行し、力積の概念へ到達。ボールの捕球・トランポリン・ヘルメットなど、体が受ける衝撃を緩和する時間の長短に注意し、衝撃の始めと終わりの速度変化に留意。式・式変形・図を用いて説明。

〈評価の観点〉

- ・上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と、以下の項目が守られない場合は再提出となる。
 - a. 科学的に正確な説明を行っているか否か。
 - b. 文章のみのレポートではなく、重要な式、図などを用いているか否か。
 - c. 教科書や参考書の丸写しは不可である。自製ノート等に記載した学習の成果をまとめるなど、自分の言葉で記述しなければならない。

〈その他の注意点〉

合格が得られない事例では、式や図を用いていない、式の丸写しでしかも間違っている、式の変形があいまいで正確ではない、などが多く見受けられます。要は表式とその変形、および図を用いた内容の説明をしっかりとする必要があります。

第2分冊 〈略題〉電荷・電流・電気抵抗 第2分冊：8章：電荷と電流

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①「電荷」に関して、その内容を詳細に記述せよ。
- ②「電流」に関して、電荷の動きとの関連からその定義、単位等を、詳細に記述せよ。
- ③電気抵抗を用いた回路におけるオームの法則について、詳細に記述せよ。
- ④電気抵抗の直列接続および並列接続による「合成抵抗」を表す式について、なぜそうなるかを証明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

式は改行し一行表示。式の意味の理解。式中で使用する物理量は必ず定義。必ず図を用いて説明。

- ①電荷の種類を明示して、電気素量という値に注意して記述。
- ②電流が“動き”であることに注意して、時間との関係で式を用いて記述。
- ③電気抵抗、電流計、電圧計、電源を用いた回路図は必須。各物理量を定義した後、観察事項と式で説明。
- ④電気抵抗の直列接続および並列接続の回路図は必須。接続してある電源によって各電気抵抗にかかる電圧と、回路および各電気抵抗を流れる電流の関係から証明することが可能。

〈評価の観点〉

- ・上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と、以下の項目が守られない場合は再提出となる。
 - a. 科学的に正確な説明を行っているか否か。
 - b. 文章のみのレポートではなく、重要な式、図などを用いているか否か。
 - c. 教科書や参考書の丸写しは不可である。自製ノート等に記載した学習の成果をまとめるなど、自分の言葉で記述しなければならない。

〈その他の注意点〉

合格が得られない事例では、式や図を用いていない、式の丸写しでしかも間違っている、式の変形があいまいで正確ではない、などが多く見受けられます。要は表式とその変形、および図を用いた内容の説明をしっかりとする必要があります。

参考文献

- ・近角聰信、三浦 登 共編／理解しやすい 物理 [物理基礎収録版] / 文英堂 / 2013 年 / 2486 円 / 978-4-578-24218-5 (高等学校)
- ・曾江久美 他 / Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理 / 実教出版 / 2009 年 / 2420 円 / 978-4-407-31642-1 (大学初級)
- ・廣岡秀明 / 大学新入生のための物理入門 第 2 版 / 共立出版 / 2012 年 / 2310 円 / 978-4-320-03493-8 (大学初級)
- ・澤田 肇 / 基礎固め 物理 第 2 版 / 化学同人 / 2016 年 / 2200 円 / 978-4-759-81824-6 (大学初級)
- ・原 康夫 / 物理学基礎 第 5 版 / 学術図書出版社 / 2016 年 / 2640 円 / 978-4-7806-0525-9 (大学中級)

科目試験等への
アドバイス

- ・基本的な問題が出題される。しかしながら式の暗記や表層的な理解では解答できない。
- ・テキスト各章の少なくとも演習問題 A はこなしたい。解答はテキスト巻末に記載されている。その際、答えだけ求めるのではなく、最終結果までの導出をプロセスを説明する文章とそれを支える図と式を用いて記述する。
- ・高等学校初歩レベルの数学、例えば三角関数やベクトルの概念、簡単な微分等を要求される。
- ・全体として学習すべき範囲は多い。しかしながら物理学は積上げ型の学問であり、1 を知らずして 10 を語ることはできない。したがって地道な学習と理解が重要で必須である。

教員からの
メッセージ

- ・テキストには高等学校で物理学を学んでいなくても対処できると書かれています。しかしながら決して易しすぎるわけではなく、本気で学習する気持ちが必要であると思います。難しいと感じたときは高等学校レベルの文献に当たることをすすめます。またテキストの「まえがき」と「0 章：はじめに」を必ず読んでから学習を始めてください。
- ・各回の学習テーマと課題では、定性的理解ではなく、式をともなった定量的理解、表現ができるようにしてください。テキスト各章の少なくとも演習問題 A はこなしてください。基本的で重要な事項はテキスト内でも太字など区別されるので参考にしてください。

科目概要	大学卒業生としては最低限 身につけておいてほしいと言う程度の「化学」である。習得した知識を幅広く多方面に広げて活用できる知恵を得る。
主な到達目標	化学は、物質の性質、反応、構造、特徴等を理解し、原理・法則の知識を生かし、利用する事に有る。同じ物質が示す有益と有害の二面性、有限な資源と地球規模で循環する物質をどう利用するか、また廃棄物と環境の問題、現代社会における化学の果たすべき役割などについて、総合かつ広い視野に立った見方ができ、正確な知識に基づいて的確な判断が下せる。
テキスト学修の留意点	出来る限り順番に進む事が望ましいが、あえて8章から先に読み進むのも方法で有る。化学の導入でつまづくのは見かけの物質の概念と原子の概念との相違で混乱する事が多い。また、原子や分子と言う物は、直接的・間接的に捉えと言う両方の概念が必要であるので、単純に暗記を繰り返そうと努力する事はナンセンスである。化学の勉強は語学の勉強と同じく、有る程度の知識が溜まった時点で大きく物事が見えて来るようになる。章末問題を必ず学修すること。

	学修テーマ	課 題
1	化学の世界	化学は広い意味で生活の全般に関わっている。自分自身の身の回りと化学の関わりを観察し、身近な化学～地球規模の化学に至る世界を考える。
2	化学の基本	物質の最小単位、純物質、混合物、物質の分離、有効数字と誤差、次元と単位についての理解を進め、化学の基本を理解する。
3	原子と元素 1	原子記号と元素と原子の関係、元素の周期律について理解し周期表の意味を理解する。
4	元素の周期表	ボーアの原子模型、水素原子のスペクトルから量子論へ、原子と電子配置、軌道の形と電子雲、イオン化エネルギーと電子親和力について理解する。
5	分子とその形	分子の構成、分子軌道、軌道の混成、異性体、分子の極性についての理解を進め、分子の結合と反応を理解する。
6	電子の仕事	分子間引力、溶媒和とイオン、電子の自由度、これらにより物の性質が大きく異なる。同じ原子でも事なる性質が現れる事などを理解する。
7	物質の量を量る単位モル	アボガドロ数と物質質量、濃度について物質が数で表される概念を掴み、その量について理解する。
8	物質の三態 1	熱運動と物質の性質、気体についての理解を進め、熱と物質の性格や圧力を理解し、地球環境や住環境でのその役割を考える。
9	物質の三態 2	液体、コロイドについての理解を行い、その性質について理解する。
10	物質の三態 3	固体、各種の結合の長さについての理解を行い、様々な物質の性質と化学結合の関係について考える。
11	化学平衡と反応速度 1	化学反応と熱の出入り、化学平衡溶解度積と共通イオン効果と、生命における化学物質の役割を理解する。
12	化学平衡と反応速度 2	気体の溶解、反応速度、触媒、アンモニア合成について理解する。
13	酸と塩基	ブレンステッド酸・塩基とその強さ、水溶液の酸性度、緩衝溶液、中和、指示薬、ルイス酸・塩基とその硬さ柔らかさと言う概念を理解する。
14	酸化と還元	酸化反応と還元反応、酸化数、酸化還元滴定について理解を進め、製鉄等一見化学と無関係の様に見える産業などを見直す。
15	電気と化学	イオン化傾向とダニエル電池、電極電位と標準電極、酸化還元電位とネルンスト式、濃淡電池、各種の電池、電気分解、電界製錬・精錬についての理解を進め、人類の未来におけるエネルギー貯蔵と利用の化学を考える。

シラバス執筆：池田 佑美

レポート課題

第1分冊 池田 佑美

第2分冊 池田 佑美

第1分冊 〈略題〉第1分冊課題 第1分冊(テキスト第I編)

横書き

Word添付

〈課題〉

分子間(引)力は分子の立体構造、物理的性質(融点・沸点等)などに影響を及ぼす。

分子間力の種類と性質、また分子に与える影響について具体的な例を挙げて詳しく述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

内容には以下のことを含めることを要求する。調べたことの羅列・箇条書きにならぬように構成を十分工夫すること

- ・分子の極性
- ・分極

〈評価の観点〉

- ・留意事項に従っていること。
- ・読み手が理解できるよう配慮がなされていること(化学式や反応式の教科書に準じた正しい表記)。
- ・情報の単なる書き写しでないこと。

〈その他の注意点〉

・テキストの丸写しは不可。理解していることを、自分の言葉を使って表現すること。

第2分冊 〈略題〉第2分冊課題 第2分冊(テキスト第II編)

横書き

Word添付

〈課題〉

溶液の酸性度の指標としてpHが用いられるが、生体内では「緩衝能」によりpHが一定の範囲に維持されている。この機構について詳しく説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

内容には以下のことを含めることを要求する。調べたことの羅列・箇条書きにならぬように構成を十分工夫すること

- ・酸と塩基の定義と緩衝作用の説明
- ・緩衝液に酸や塩基を加えた時に各々どのような変化をするか
- ・緩衝液の調製方法

〈評価の観点〉

- ・留意事項に従っていること。
- ・読み手が理解できるよう配慮がなされていること(化学式や反応式の教科書に準じた正しい表記)。
- ・情報の単なる書き写しでないこと。

〈その他の注意点〉

テキストの丸写しは不可。理解していることを、自分の言葉を使って表現すること。

参考文献

特に必要としないが、インターネット情報を利用するときは、書籍による情報も参考にしながら、真偽をよく見極めて利用して頂きたい。

科目試験等への
アドバイス

章末問題を十分に読みこなす事。章末問題解答は解答のエッセンス=最低限のポイントが示されているに過ぎないので、本文を良く読み補強して十分に必要最大限の解答ができる様に準備をすすめて頂きたい。

教員からの
メッセージ

化学は暗記項目が多いと感じている人は多いだろう。しかしながら、「ある分子やその集団がどのように振る舞うか」ということに注目し、多くの化学現象を理解しようとすると、様々な専門用語も実にシンプルなものであると理解することができる。

日常生活に密接に関連した「化学」の世界に関心をもち、理解を深めて欲しい。

科目概要	生物の構造や機能から生態までの生物学の基礎を学び、応用として生活との関連について学習する。生物学の基礎を学問的に学ぶと同時に日常生活のなかにある生物学を理解することが文明社会のなかで健全な生活を過ごすために必要な能力となる。これらを踏まえ、自然環境に関わる諸問題を正しく理解し、適切な判断を行うための素養を身に付けることを目的とする。
主な到達目標	① 生物学の意義を理解し、生物学の研究対象や方法を理解することができる。 ② 生物の起源と進化、遺伝現象について理解することができる。 ③ 自然環境と食糧生産について理解することができる。 ④ 生命と自然について理解し、環境に対する正しい知識と適切な判断ができる素養を身に付けることができるようになること。
テキスト学修の留意点	① テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。 ② 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。 ③ レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。テキスト内容を理解した上で他の資料も引用文献として当たりながら、自分の言葉でまとめて表現すること。 ④ レポート作成はレポート作成にあたっての留意事項と評価の観点を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	生命と自然とは	「生命と自然とは」を読み、要点をまとめ、生物学がライフサイエンスへ発展することを体系的に理解することができるようになること。
2	1. 生物の起源と特性	「1-1. 生命の起源の学説」「1-2. 最初の生命」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の起源と特性を理解することができること。
3	1. 生物の起源と特性	「1-3. 細胞の誕生と進化」「1-4. 生命の単位と特性」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の起源と特性を理解することができるようになること。
4	2. 生物の適応と進化	「2-1. 生物の適応」「2-2. 主に化石からみた進化の証拠」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の適応と進化について理解することができるようになること。
5	2. 生物の適応と進化	「2-3. 進化論の展開」「2-4. 現代の進化論」を読み、それぞれ要点をまとめ、生命の適応と進化について理解することができるようになること。
6	3. 遺伝現象	「3-1. 細胞分裂と染色体」「3-2. メンデルの実験と遺伝の法則」を読み、それぞれ要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
7	3. 遺伝現象	「3-3. 遺伝のしくみ」「3-4. 突然変異」を読み、それぞれ要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
8	3. 遺伝現象	「3-5. 遺伝子工学」を読み、要点をまとめ、遺伝現象のしくみを理解することができるようになること。
9	4. 人間の生物学	「4-1. ヒトの進化」「4-2. ヒトの特徴とその進化」を読み、それぞれ要点をまとめ、ヒトの進化や特徴を生物学的に理解することができるようになること。
10	4. 人間の生物学	「4-3. ヒトの遺伝」「4-4. からだを守る」を読み、それぞれ要点をまとめ、ヒトの形質や健康について生物学的に理解することができるようになること。
11	5. 生活と自然	「5-1. 太陽エネルギーと物質の循環」「5-2. 陸上植物の変遷と極相」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間と自然との関わり合いについて理解することができるようになること。
12	5. 生活と自然	「5-3. 大気環境とその汚染」「5-4. 水と土の汚染」「5-5. 環境汚染と自然の大切さ」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間と自然との関わり合いについて理解することができるようになること。
13	6. 生活と植物	「6-1. 植物栽培の始まり」「6-2. 人口の増加と食糧」を読み、それぞれ要点をまとめ、人間が開発した植物栽培の歴史や食料生産の方法を理解することができるようになること。
14	6. 生活と植物	「6-3. 食糧の増産」「6-4. 遺伝資源の重要性」を読み、それぞれ要点をまとめ、食糧増産の有効な手段と遺伝資源の関わりについて理解することができるようになること。
15	6. 生活と植物	「6-5. 自然環境と食糧問題」を読み、要点をまとめ、地球環境の保全の観点から生活と植物との関わりについて理解、考察することができるようになること。

シラバス執筆：山崎 和久

レポート課題

第1分冊 五十嵐 敏文

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉遺伝現象と人間生活との関連 第1章～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

遺伝現象の1つとして、遺伝子の構造と遺伝子がタンパク質を合成する仕組みについて説明しなさい。さらに遺伝子操作する技術が(遺伝子組み換えなど)生活のなかでどのようにに関わり、影響を及ぼしているか考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・科学のレポートであるため、構成は論理的であること。また簡潔に論述すること。まずテキストをよく読み、内容を理解し、さらに他の文献(引用文献)を用いて理解を深めること。
- ・テキストをそのまま写すのではなく、用語を用いながら自分の言葉で理解したことをまとめ、論述すること。
- ・高校の「生物」の教科書をだけでなく、大学の「生物学」など複数の文献なども読み、理解を深める。単なる文献の転記ではなく、図示するなど理解したことを分かりやすくまとめること。

〈評価の観点〉

- ・レポートの課題が十分に理解できていること。
- ・用語を用いながら自分の言葉で述べられていること。遺伝子の操作技術では例を挙げ、現在および今後の問題点がよく考察されていること。
- ・レポートがこれまでの知見(引用文献、参考文献としてそれぞれ表記のこと)を基に構成されていること。
- ・収集した文献の数や種類など文献の質的な評価も観点の一つとする。

〈その他の注意点〉

- ・テキストなど文献を引用しながら論述し、その際、正しい引用文献の表記であること(引用文献と参考文献の違いに注意)。
- ・図表を作成する場合、出典を明記すること。
- ・最終ページには、テキストを含め、必ずすべての引用文献と参考文献(著者・文献名・出版社・出版年)をそれぞれ明記すること。
- ・インターネットからの情報のみを文献としないこと。必ず書物等でその知識の確認をすること。
- ・インターネットのURLを引用する場合、その名称とアドレス、閲覧日を記載すること。

第2分冊 〈略題〉生物多様性と自然の保全 第4章～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

生物多様性の重要性について解説し、さらに自然環境の保全の観点から生物多様性への影響とその対策について自分の考えを論評しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・科学のレポートであるため、構成は論理的であること。また簡潔に論述すること。まずテキストをよく読み、内容を理解し、さらに他の文献(引用文献)を用いて理解を深めること。
- ・テキストをそのまま写すのではなく、用語を用いながら自分の言葉で理解したことをまとめ、論述すること。
- ・高校の「生物」の教科書をだけでなく、大学の「生物学」など複数の文献なども読み、理解を深める。単なる文献の転記ではなく、図示するなど理解したことを分かりやすくまとめること。

〈評価の観点〉

- ・レポート課題が十分に理解できていること。
- ・用語を用いながら自分の言葉で述べられていること。
- ・レポートがこれまでの知見(引用文献、参考文献としてそれぞれ表記のこと)を基に構成されていること。
- ・収集した文献の数や種類など文献の質的な評価も観点の一つとする。

〈その他の注意点〉

- ・テキストなど文献を引用しながら論述し、その際、正しい引用文献の表記であること(引用文献と参考文献の違いに注意)。
- ・図表を作成する場合、出典を明記すること。
- ・最終ページには、テキストを含め、必ずすべての引用文献と参考文献(著者・文献名・出版社・出版年)をそれぞれ明記すること。
- ・インターネットからの情報のみを文献としないこと。必ず書物等でその知識の確認をすること。
- ・インターネットのURLを引用する場合、その名称とアドレス、閲覧日を記載すること。

参考文献

・鷲谷いづみ・矢原徹一著『保全生態学入門 遺伝子から景観まで』文一総合出版 1996。
学習には、まずテキスト自体の学習を先行して行い、さらに発展的に学習するために参考文献を参照されたい。

科目試験等への
アドバイス

- ① 科目試験は第一分冊基礎理論編と第二分冊応用論からそれぞれ出題する。
- ② 出題範囲はテキスト全体からとなるが、主に各章の趣旨を踏まえた内容とする。
- ③ 本科目試験ではテキスト内容を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。1つの基本概念の学習には、関連する概念・考え方と結びつけた構造的な学習が必要であることを十分に理解すること。
- ④ 問題に「具体的に説明せよ」とある場合、必ず実際の例を示して説明すること。テキストの例とは異なる例をあげられるとよい。

教員からの
メッセージ

- ① テキスト学習は机上のものになりがちであるが、ここで学んだことを学習活動さらには生物学的な視点に立ち、生活に結びつけ考えることができるようになることが望ましい。
- ② 新聞やニュース等にも生物学に関連するトピックは頻出するので、それらからも意識して情報を取り入れると良い。一方で、そうした媒体では検証が不十分な情報や科学的に間違った情報が流れることもある。情報を鵜呑みにするのではなく、その正確性を見極める目を養って欲しい。
- ③ 生物学の関連科目には「生活科」「理科」「社会科」「家庭科」ほか「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」などがあり、連携を図ることが望ましい。

科目概要	当科目では、太陽系誕生から地球形成および地球内部構造を学修する。また、プレートテクトニクスの理解を通して、地震や火山活動のメカニズムを学修する。さらに、海洋や大気の実態を学修する。
主な到達目標	・ 太陽系の形成過程・地球内部構造・プレートテクトニクスに関連させながら、地震・火山活動を説明できる。 ・ 地球の形や磁場について説明できる。 ・ 地球の大気構造、気象現象、気候について説明できる。 ・ 大気汚染、酸性雨、オゾンホールなどの環境問題および過去の地球環境を説明できる。 ・ 海洋の循環や塩分・水温分布などについて説明できる。
テキスト学修の留意点	・ 学修テーマおよび課題についてテキストをもとに学修し、理解し、説明できるようにすること。 ・ {こちらの地球科学の web サイト, https://www.s-yamaga.jp/nanimono/nanimono-hyoushi.htm} も併用しながら学修することで、より理解が深まる。 ・ レポート作成については、「レポート課題集」に記載した留意点を参考にしてほしい。また、テキストの文脈をそのまま写すのではなく、できるだけ自分の言葉で表現することを期待する。

	学修テーマ	課 題
1	太陽系の中の地球	pp.1-7 ・ 太陽系の惑星配置を説明できるか ・ 地球はいつ、どのようにして誕生したか ・ 地球の内部構造と地震波速度の関係を説明できるか（地震の学修テーマとも関連） ・ 熱収支の計算から、地球の温度（-18℃）を計算できるか
2	大気の組成とふるまい	pp.15-22, 25-28 ・ 気象と気候の違いを説明できるか ・ 地球大気の温度分布と構造、各圏の特徴を説明できるか ・ オーロラの発生過程を調べてみる ・ 雲の形成過程を説明できるか ・ フェーン現象を説明できるか ・ 身近な気象（雨、雹、雪、雷）の発生過程を調べてみる
3	気候と気象	pp.32-41 ・ 地球の公転と自転軸の傾きから、四季の発生を説明できるか ・ 季節変化を支配する気団の特徴を説明できるか ・ 高気圧と低気圧の違いについて説明できるか ・ 天気に関する簡単な問題が解けるか {例：天気的全設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
4	地球環境の変化	pp.51-60 ・ 大気汚染、酸性雨、オゾンホール、地球温暖化から、地球環境について説明できるか ・ オゾンホール発生モデルを説明できるか ・ 過去の地球での気候変動を説明できるか ・ 過去の地球の CO ₂ ・O ₂ と生物の関係を説明できるか
5	海洋の組成と構造	pp.61-70 ・ 海洋はどのようにして形成したのか（地球の誕生と関連させること） ・ 海洋の面積割合、主な大洋の面積割合、地球の凹凸のスケールについて説明できるか ・ 海水の塩分・水温分布を説明できるか ・ 海水の密度分布と水圧の関係を説明できるか
6	海洋の循環	pp.72-79 ・ 海洋大循環は、地球の北側と南側ではどのように回転するか ・ 水平循環と黒潮の関係を説明できるか ・ 鉛直循環と表層水・深層水との関係を説明できるか
7	地球の形と重力	pp.97-103 ・ 地球の形（回転楕円体）と扁平率の定義と計算ができるか ・ 引力、遠心力、重力の関係を図を用いて説明できるか ・ ジオイドと地下の密度の関係を説明できるか
8	地球の磁気	pp.113-119 ・ 地球内部のどこで地磁気が発生するか説明できるか ・ 地磁気の偏角、伏角、全磁力を用いて説明できるか ・ 地磁気の永年変化から、地磁気が消失する時期を計算できるか ・ 岩石磁気の形成をキュリー点を踏まえて説明できるか ・ 地磁気の逆転とチバニアンについて調べてみる

9	大陸移動説と海洋底拡大説	pp.119-126 ・大陸移動説とは何か ・海洋底拡大説とは何か ・磁気異常の縞模様からプレートが動いていることを説明できるか (海嶺においてプレートが誕生すると、その時の地球磁気の方角をプレート（岩石内）に記録する)
10	プレートテクトニクス	pp. 126-136 ・プレートテクトニクスとは何か ・プレートとは、地球の内部のどこの領域か ・プレート境界（発散型、収束型、平行移動型）を説明できるか ・ホットスポットとプレート運動からハワイ諸島の形成を説明できるか
11	地震の観測	pp.141-145, 148-151 ・P 波、S 波の違いを説明できるか ・震度とマグニチュードの違いを説明できるか (補足：マグニチュードとは断層面がズレた面積に対応する) ・地震に関する簡単な計算や説明ができるか { 例：大地の地震の設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
12	地震と断層	pp.154-155,163-173 ・断層の基本的な型を説明できるか ・日本付近の地震分布とプレート境界の関係を説明できるか ・海洋プレートの沈み込みに伴う地震、陸側のプレートで発生する地震のメカニズムを説明できるか
13	日本の大地震	これまでの学修を踏まえて、地球誕生、地球の内部構造、プレートテクトニクス、地震活動を関連させて、なぜ東日本大震災や能登半島地震が起こったのか、なぜ津波が発生したのかを統合的に説明できるようになること。また、南海トラフ地震の危険性についても調べてみる。
14	火山の活動	pp.175-179 ・火山フロントとプレート境界の関係を説明できるか ・プレートテクトニクスと関連させ、マグマ形成・上昇メカニズムを下記の参考文献などから調べる ・マグマの粘性・組成・温度の関係を説明できるか { 例：大地の火山の設問, https://study.005net.com/science/m-sci.php }
15	火山災害	pp.179-187 ・火山噴火の形式とその特徴を説明できるか ・火山災害にはどのようなものがあるか ・火砕流・岩屑なだれ・火山泥流・火山ガスを説明できるか

シラバス執筆：石山 謙

第1分冊 〈略題〉地球大気と気象・気候 1章～2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

地球の大気構造や気象・気候について、興味のある話題を論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 本課題内容について
 - ・大気構造や気象・気候で興味のある話題を探し、それを集中的に調べ説明する
 - (例：対流圏で発生する気象現象、雲の形成過程、地球の大気形成過程、生命史と地球大気の関係など)
 - ・大気構造を4つの領域にわけ、それらの領域を満遍なく説明する形でも良い
- (2) 図や表は3つ以上入れる
- (3) レポートの最初で何をテーマにしたのかを必ず述べる
- (4) レポートの最後で自分の意見・提案などを必ず述べる
- (5) レポートの文章は「～だ」ではなく、「～である」と書く

〈評価の観点〉

- (1) 題意に適しているか
- (2) 図を使いながら、本文で説明できているか
- (3) 科学分野のレポートとして、文章構成が適切であるか
- (4) 引用だけでなく、自分の言葉で表現されているか
- (5) 誤字、脱字がないか
- (6) テキスト以外に、参考文献等の資料も利用されているか。また、引用についても明示されているか

〈その他の注意点〉

1. 説明が難しい所では図や表を必ず含め、本文中で図を引用しながら、わかりやすく説明を試みること。
(図の引用方法：図@で示されるように...)
2. 図の下には、図番号および図の題名、図の簡単な説明文を含めること。
3. 表の上には、表番号および表の題名を含めること。
4. 単にテキストや参考資料をまとめるだけでなく、自分の意見も表現できるように努力すること。
5. インターネットによる引用は、信頼できるHPを参考にすること。

第2分冊 〈略題〉マグマの形成・噴出過程と火山 5章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

プレートテクトニクスや火山活動に関連した興味のある話題を論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 本課題内容について
 - ・プレートテクトニクスや火山活動で興味ある話題を探し、それを深く集中的に調べ説明する
 - (例：マグマ形成や上昇過程、能登半島地震のメカニズム、地球誕生からのプレートテクトニクスの発達史など)
- (2) 図や表は3つ以上入れる
- (3) レポートの最初で何をテーマにしたのかを必ず述べる
- (4) レポートの最後で自分の意見・提案などを必ず述べる
- (5) レポートの文章は「～だ」ではなく、「～である」と書く

〈評価の観点〉

- (1) 題意に適しているか
- (2) 図を使いながら、本文で説明できているか
- (3) 科学分野のレポートとして、文章構成が適切であるか
- (4) 引用だけでなく、自分の言葉で表現されているか
- (5) 誤字、脱字がないか
- (6) テキスト以外に、参考文献等の資料も利用されているか。また、引用についても明示されているか

〈その他の注意点〉

1. 説明が難しい所では図や表を必ず含め、本文中で図を引用しながら、わかりやすく説明を試みること。
(図の引用方法：図@で示されるように...)
2. 図の下には、図番号および図の題名、図の簡単な説明文を含めること。
3. 表の上には、表番号および表の題名を含めること。
4. 単にテキストや参考資料をまとめるだけでなく、自分の意見も表現できるように努力すること。
5. インターネットによる引用は、信頼できるHPを参考にすること。

参考文献

・マグマの形成と上昇の簡単な説明（次の内容を理解できるとOK）
海洋プレートが沈み込むと、プレート内の鉱物から脱水が起き、マントルに水が供給される。すると、マントル岩石の融点が低下して、加水融解が起き、マグマが形成する。マントルでのマグマ形成後、浮力によりマグマが上昇できるが、マグマと地殻密度が一致する場所で、マグマ上昇が停止する。この場所で、マグマ溜まりが形成する。ここでは、結晶分化作用によりマグマ密度が低下すると、浮力により再上昇でき、噴火に至れる。

参考文献
・新しい高校地学の教科書—現代人のための高校理科（ブルーバックス） 杵島・松本・左巻
・{ 地球科学の web サイト, <https://www.s-yamaga.jp/nanimono/nanimono-hyoushi.htm> }

科目試験等へのアドバイス

科目試験問題は、大問が3つ程度ある。各学修テーマに関する基本事項の説明を求める問題や、適切なキーワード使って基本事項の説明を求める問題、それらに関する簡単な計算問題などがある。

教員からのメッセージ

地球科学という分野は、物理学、化学、生物学などの分野の総合的な知識が必要となる。また、自然現象を対象とするため、未解明な部分もまだ残されている。そして、地震や火山、気象など人間生活に密接した分野でもある。身近な自然現象に興味関心を持つと、地球科学を面白く学修できる。なお、テキストでは天文、地質、古生物などの内容がないため、時間があれば、その内容についても学修するとさらに地球科学が面白くなる。

科目概要	本科目では、教育・保育現場などで PC を利用することを想定し、Word や Excel、PowerPoint などの操作方法について学修します。また、PC を利用する際に求められる情報リテラシーや教育現場で求められるプログラミング (的思考) についても学修します。
主な到達目標	・ Word を利用して、学級通信や園だよりなどのお知らせ文書を作成することができる。 ・ Excel を利用して、成績処理や会計処理、グラフ作成をすることができる。 ・ PowerPoint を利用して、教育場面などで利用できる教材 (資料) を作成することができる。 ・ Scratch を利用して、プログラミングの基礎を理解する。 ・ 情報リテラシーについて説明できる。
テキスト学修の留意点	Word や Excel、PowerPoint などでは、テキストで示されている手順と同じでなくても同様の結果を得ることが可能です。そのような場合は、自身が日頃使っている方法で作成して結構です。 なお、テキスト (やシラバス) では、教育・保育現場での利用を前提に説明している部分も多いですが、学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える (説明する) 時を想定し、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	データサイエンスの動向と情報リテラシー	日常生活や教育・保育現場における情報リテラシーについて学修します。 また、データ分析と教育・保育への利活用について学修します。
2	情報倫理と著作権	教育・保育現場などで著作物を利用する際の注意点などについて学修します。
3	Word ～お知らせ文書の作成～ (1)	Word を利用した学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」の作成方法について、見本を通して学修します。
4	Word ～お知らせ文書の作成～ (2)	Word を利用して、(架空の) 学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成してみましょう。
5	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (1)	ブックやセルの理解、入力の方法など Excel の基礎について、見本を通して学修します。 また、見やすい表の作成方法も学修します。
6	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (2)	棒グラフや円グラフなどの作成方法について、見本を通して学修します。
7	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (3)	Excel で作成したグラフを Word に貼り付け、(架空の) 学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成してみましょう。
8	Excel ～グラフ作成と関数の理解～ (4)	いくつかの関数の利用方法を確認することにより、データ処理の基礎を学修します。
9	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (1)	PowerPoint を利用した教材 (資料) の作成方法について、見本を通して学修します。
10	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (2)	PowerPoint を利用して、教育・保育現場などで利用できる教材 (資料) を作成してみましょう。
11	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (3)	第 10 回と同様です。
12	PowerPoint ～教材 (資料) の作成～ (4)	作成した教材 (資料) を動画にしてみましょう。
13	プログラミング (1)	Scratch を利用したプログラミングについて、見本を通して学修します。
14	プログラミング (2)	13 回に学修した基礎をもとに、簡単なオリジナルゲームを作成してみましょう。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容を再確認し、教育場面などでの利用方法について検討します。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉お知らせ文書の作成と情報リテラシー 第1～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「データサイエンスと情報リテラシー」についてテキストの該当部分を要約し、自身の考えを述べなさい。
 - (2) 自身のコースに関係する情報（学校教育の方は、例えば「スマートフォンの普及率」）を調べてExcelでグラフを作成し、それをWordに貼り付けて学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成しなさい。
- ＊学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定した「お知らせ文書」を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありません。文章のポイントをまとめて示すことです。
- ② 課題（1）については、最新のテンプレートを利用して作成すること。
- ③ 課題（1）のファイル名は、「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ④ 課題（2）についてはテンプレートを利用せず、（1）とは別にWordで1枚で作成すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・留意事項などで示されている点を守られているか。
- ・見やすく伝わりやすくなるための工夫（例えば、フォントやフォントサイズ、図形や図の利用など）が見られるか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ 課題（2）は「グラフ」以外に、「グラフの説明」「ワードアートなどを利用したお知らせ文書の題名」「イラスト（画像）」「お知らせ文書全体を囲む野線（ページ野線）」を必ず入れること。
- ⑥ お知らせ文書の題名は各自で考えること。
- ⑦ 課題（1）と（2）は、それぞれをわけて提出すること。
- ⑧ 課題（2）のファイル名は「お知らせ文書」にすること。
- ⑨ 課題（2）は「pdf」に変換して提出すること。
- ⑩ 課題（2）の情報元を「お知らせ文書」の中に載せること。

第2分冊 〈略題〉教材（資料）の作成 第4～5章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 誰かに何かを伝える（説明する）時に利用できる教材（資料）をPowerPointで作成しなさい。
- ＊学校教育の方は、興味関心に応じて科目や単元などを設定し、授業の一部で利用できる教材を作成してください。
- ＊幼児教育の方は、デジタル紙芝居や（例えば）「子どもたちに園での約束事を説明するスライド」「保護者向けの資料（スライド）」などでも構いません。
- ＊学芸員や司書などの方は、（例えば）「来館者の方に何か（施設の利用方法や展示物など）を説明するスライド」「図書の調べ方に関する資料（スライド）」などでも構いません。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 作成するスライドは、表紙を含めて6枚以上にすること。
- ② 全てのスライドでアニメーションを一か所以上入れること。
- ③ 利用するイラストなどについては、著作権に注意すること。
- ④ 作成した各スライドを「アニメーションウィンドウ」を表示した状態でキャプチャ（スクリーンショット）し、それぞれをWordに貼り付けて「pdf」に変換して提出すること。

〈評価の観点〉

- ・留意事項などで示されている点を守られているか。
- ・伝える（説明する）ための工夫（例えば、フォントやフォントサイズ、フォントの色や文字数、アニメーション、図形や図の利用など）が見られるか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ キャプチャしたスライドを貼り付ける時はテンプレートは利用せず、余白を「狭い」にしたWordを利用すること。
- ＊①～⑤について詳しく確認したい場合は、EduTrackの本科目の解説動画（補助動画）を確認すること。
- ⑥ ファイル名は「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ⑦ デジタル紙芝居では、インターネット上にあるフリーのイラストを利用して構わないが、ストーリーはオリジナルにすること。
- ⑧ デジタル紙芝居のストーリーは、各スライド上にテキストボックスで入れておくこと。
- ⑨ インターネット上の画像などを利用する場合は、必要に応じてスライド上に（テキストボックスなどを利用して）出典を明記すること。

参考文献

テキストに示されていない操作方法などについては、インターネットや書籍などで調べるようにしてください。

科目試験等へのアドバイス

- ・テキストに示されているキーワードをしっかりと理解しておくこと。
- ・コラムで説明している内容についても確認（理解）をしておくこと。
- ・科目試験では要約を求められることもありますが、（第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」に示しているように）要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありませんので注意してください。

教員からのメッセージ

本科目で学修する内容は、将来、PCを利用して誰かに何かを伝えようとする時に役立つものです。（教育場面では特に、ICTの利活用が求められています）
手順をしっかりと確認し、学修を進めるようにしてください。

科目概要	本科目では、教育現場などでPCを利用することを想定し、WordやExcel、PowerPointなどの操作方法などについて学修します。また、PCを利用する際に求められる情報リテラシーや教育現場で求められるプログラミングについても学修します。
主な到達目標	・ Wordを利用して、学級通信や園だよりなどのお知らせ文書を作成することができる。 ・ Excelを利用して、成績処理や会計処理、グラフ作成をすることができる。 ・ PowerPointを利用して、教育場面などで利用できる教材（資料）を作成することができる。 ・ Scratchを利用して、プログラミングの基礎を理解する。 ・ 情報リテラシーについて説明できる。
テキスト学修の留意点	WordやExcel、PowerPointなどでは、テキストで示されている手順と同じでなくても同様の結果を得ることが可能です。そのような場合は、自身が日頃使っている方法で作成して結構です。 なお、テキスト（やシラバス）では、教育現場での利用を前提に説明している部分も多いですが、学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定し、学修を進めてください。

	学修テーマ	課 題
1	インターネットと著作物の利用（1）	インターネットと情報リテラシーについて学修します。
2	インターネットと著作物の利用（2）	著作物の利用について学修します。 教育現場などで利用する際の注意点などについても確認しましょう。
3	Word ～学級通信の作成～（1）	Wordを利用した学級通信の作成方法について、例題を通して学修します。
4	Word ～学級通信の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をWordで作成します。
5	Excel ～成績処理会計処理～（1）	Excelを利用した成績処理の方法について、例題を通して学修します。
6	Excel ～成績処理会計処理～（2）	Excelを利用した会計処理の方法について、例題を通して学修します。
7	Excel ～成績処理会計処理～（3）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をExcelで作成します。
8	PowerPoint ～教材の作成～（1）	PowerPointを利用した教材の作成方法について、例題を通して学修します。
9	PowerPoint ～教材の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題をPowerPointで作成します。
10	画像編集 ～視聴覚教材の作成～（1）	ペイントなどを利用した教材の作成方法について、例題を通して学修します。
11	画像編集 ～視聴覚教材の作成～（2）	例題で身に付けた作成方法を応用し、与えられた課題を作成します。
12	プログラミング（1）	Scratchを利用したプログラミングについて、例題を通して学修します。
13	プログラミング（2）	例題で身に付けた方法を応用し、与えられた課題をScratchで作成します。
14	コンピュータ	パソコンの歴史やOS、ハードウェアとソフトウェアなどについて学修します。
15	学修のまとめ	これまでの学修内容を再確認し、教育場面などでの利用方法について検討します。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉お知らせ文書の作成と情報リテラシー

第1～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

- (1) 「インターネットと情報リテラシー」についてテキストの該当部分を要約し、自身の考えを述べなさい。
 - (2) 自身のコースに関係する情報（学校教育の方は、例えば「スマートフォンの普及率」）を調べてExcelでグラフを作成し、それをWordに貼り付けて学級通信や園だよりなどの「お知らせ文書」を作成しなさい。
- ＊学芸員や司書などの方は、それぞれの現場で誰かに何かを伝える（説明する）時を想定した「お知らせ文書」を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありません。文章のポイントをまとめて示すことです。
- ② 課題（1）については、最新のテンプレートを利用して作成すること。
- ③ 課題（1）のファイル名は、「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ④ 課題（2）についてはテンプレートを利用せず、（1）とは別にWordで1枚で作成すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・留意事項などで示されている点が守られているか。
- ・見やすく伝わりやすくなるための工夫（例えば、フォントやフォントサイズ、図形や図の利用など）が見られるか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ 課題（2）は「グラフ」以外に、「グラフの説明」「ワードアートなどを利用したお知らせ文書の題名」「イラスト（画像）」「お知らせ文書全体を囲む野線（ページ野線）」を必ず入れること。
- ⑥ お知らせ文書の題名は各自で考えること。
- ⑦ 課題（1）と（2）は、それぞれをわけて提出すること。
- ⑧ 課題（2）のファイル名は「お知らせ文書」にすること。
- ⑨ 課題（2）は「pdf」に変換して提出すること。
- ⑩ 課題（2）の情報元を「お知らせ文書」の中に載せること。

第2分冊 〈略題〉教材（資料）の作成 第4～6章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 誰かに何かを伝える（説明する）時に利用できる教材（資料）をPowerPointで作成しなさい。
- ＊学校教育の方は、興味関心に応じて科目や単元などを設定し、授業の一部で利用できる教材を作成してください。
- ＊幼児教育の方は、デジタル紙芝居や（例えば）「子どもたちに園での約束事を説明するスライド」「保護者向けの資料（スライド）」などでも構いません。
- ＊学芸員や司書などの方は、（例えば）「来館者の方に何か（施設の利用方法や展示物など）を説明するスライド」「図書の調べ方に関する資料（スライド）」などでも構いません。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

（「その他の注意点」もあわせて確認すること）

- ① 作成するスライドは、表紙を含めて6枚以上にすること。
- ② 全てのスライドでアニメーションを一か所以上入れること。
- ③ 利用するイラストなどについては、著作権に注意すること。
- ④ 作成した各スライドを「アニメーションウィンドウ」を表示した状態でキャプチャ（スクリーンショット）し、それぞれをWordに貼り付けて「pdf」に変換して提出すること。

〈評価の観点〉

- ・留意事項などで示されている点を守られているか。
- ・伝える（説明する）ための工夫（例えば、フォントやフォントサイズ、フォントの色や文字数、アニメーション、図形や図の利用など）が見られるか。

〈その他の注意点〉

- ⑤ キャプチャしたスライドを貼り付ける時はテンプレートは利用せず、余白を「狭い」にしたWordを利用すること。
- ＊①～⑤について詳しく確認したい場合は、EduTrackの本科目の解説動画（補助動画）を確認すること。
- ⑥ ファイル名は「科目コード・科目名・分冊・学籍番号・氏名」にすること。
- ⑦ デジタル紙芝居では、インターネット上にあるフリーのイラストを利用して構わないが、ストーリーはオリジナルにすること。
- ⑧ デジタル紙芝居のストーリーは、各スライド上にテキストボックスで入れておくこと。
- ⑨ インターネット上の画像などを利用する場合は、必要に応じてスライド上に（テキストボックスなどを利用して）出典を明記すること。

参考文献

.....

テキストに示されていない操作方法などについては、インターネットや書籍などで調べるようにしてください。

科目試験等へのアドバイス

-
- ・テキストに示されているキーワードをしっかりと理解しておくこと。
 - ・コラムで説明している内容についても確認（理解）をしておくこと。
 - ・科目試験では要約を求められることもあります。（第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」に示しているように）要約とは、テキストの部分をそのまま書き出したり、語尾を少し変えてつなぎ合わせるものではありませんので注意してください。

教員からのメッセージ

.....

本科目で学修する内容は、将来、PCを利用して誰かに何かを伝えようとする時に役立つものです。（教育場面では特に、ICTの利活用が求められています）

手順をしっかり確認し、学修を進めるようにしてください。

02803 健康スポーツ理論 / (コア) 健康スポーツ

2単位

テキスト名

『心と体の健康・スポーツ』
大修館書店、
茨城大学心と体の健康研究会編

科目概要	「健康スポーツ」は健康とスポーツがお互い個々に展開されるものではなく、生涯健康という同じ目的への手段であるとの前提で展開される。学校での体育は生涯スポーツへの能力、態度等を培うという側面を持ち、活動主体である人体の心身について正しい知識を得ることで効果的で安全な活動ができる。健康、運動、スポーツに関する理論や実践を個別のものとせず、相互に補完していくものと捉え、自他ともにより健康的な生活を送るための科目である。
主な到達目標	・健康と運動スポーツとの関係を具体例に基づき説明でき、かつ実践できる資質を養う。 ・身体運動を科学的に分析でき、安全に実施できる学術的根拠と実践的能力を身につける。 ・文化としてのスポーツを正しく理解し、生涯スポーツを実践できる能力を身につける。 ・「健康」「運動」「スポーツ」の関係を正しく理解し、学校教育や地域活動に指導者として活かせる資質および実践力を身につける。
テキスト学修の留意点	・各課題の解答をまとめ、説明できるようにする。また学修指導書の設問の回答をかんがえておく。 ・章をまたいで関連する項目がある場合は、それぞれを補強するよう学習すること。

	学修テーマ	課 題
1	基本的生活習慣と健康Ⅰ	①日本における「健康づくりのための身体活動基準 2013」を実践している人はどれくらいなのか調べてみよう。 ②1週間の食事内容と摂取時刻等についてまとめ、問題があれば改善点を指摘してみよう。
2	基本的生活習慣と健康Ⅱ	①日本版 AUDIT で質問に回答し、判定してみよう。 ②諸外国の喫煙率を調べ、日本と比較してみよう。 ③「肥満」と「やせ」のリスクをまとめ、自分の BMI を計算してみよう。
3	学生生活の充実と健康Ⅰ	①「かぜ」「インフルエンザ」とは何か比較しながらまとめてみよう。 ②一年間に日本における食中毒の事例はどれくらい発生しているのか調べてみよう。 ③頭痛の種類を整理してまとめてみよう。
4	学生生活の充実と健康Ⅱ	①住んでいる自治体のメンタルヘルスへの取り組みを調べてみよう。 ②自転車の交通ルールを調べてみよう。
5	運動スポーツの理論Ⅰ	①経験のあるスポーツの局面構造をまとめてみよう。 ②実践したことのあるトレーニングを原則に従いまとめてみよう。
6	運動スポーツの理論Ⅱ	①実践したことのあるトレーニングを原則に従いまとめてみよう。 ②実践したことのある有酸素トレーニングと筋肉のトレーニングをまとめてみよう。
7	運動スポーツの準備Ⅰ	①ウォーミングアップとクーリングダウンについてその必要性をまとめてみよう。 ②これからスポーツをするときのストレッチを組み合わせで作ってみよう。そして実践してみよう。 ③心身調節法を実践してみよう。
8	運動スポーツの準備Ⅱ	①運動時傷害の応急処置をまとめてみよう。 ②心肺蘇生に関する資格にはどのようなものがあるか、調べてみよう。 ③運動中の水分補給の必要性についてまとめてみよう。
9	運動スポーツの実践Ⅰ	プロジェクトアドベンチャーについて調べてみよう。
10	運動スポーツの実践Ⅱ	経験したことのあるスポーツの歴史、ルール、用具、技術・戦略等についてまとめてみよう。
11	スポーツのひろがりⅠ	スポーツの起源と歴史を海外と日本についてまとめてみよう。
12	スポーツのひろがりⅡ	①経験したことのあるニュースポーツがあれば紹介文を作成しよう。 ②テキスト以外の日本生まれのニュースポーツを調べてみよう。
13	現代社会とスポーツⅠ	①生涯スポーツのライフサイクルについて事例をあげてまとめてみよう。
14	現代社会とスポーツⅡ	①「スポーツ基本計画」について調べ、まとめてみよう。 ②総合型地域スポーツクラブについて調べてみよう。
15	健康・運動・スポーツ	・健康、運動、スポーツの関係を子どもたちに説明する際の要点をまとめてみよう。

シラバス執筆：川崎 登志喜

レポート課題

第1分冊 川崎 登志喜

第2分冊 川崎 登志喜

第1分冊 〈略題〉健康 1章「健康」～2章2節「運動と身体」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ある1日（あるいは数日）の摂取食物と行動の記録を表し、それを元により健康的に過ごすための条件（改善点など）を自身に対して提案しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・表中には食事内容や行動を具体的に示し、レポート内に組み入れること。
- ・必ず教科書を参考にし、その箇所（ページ）を明記すること。
- ・教科書以外の参考文献を使用した場合には、必ず明記すること。

〈評価の観点〉

- ・現在の生活を客観的に評価しているか。
- ・具体的な提案（改善点）を提示できているか。

〈その他の注意点〉

教科書内に示されている参考文献あるいは健康に関する新聞記事などでさらに学修が深まる。

第2分冊 〈略題〉スポーツ 2章3節～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

あなたの身近なスポーツ環境についてまとめ、より良くするための改善策を具体的に記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・一般的なスポーツ環境ではなく、あなたの住んでいる町のスポーツ環境（ハード面・ソフト面）を対象とすること。
- ・必ず教科書を参考にし、その箇所（ページ）を明記すること。

〈評価の観点〉

- ・スポーツ環境について具体的な長所・短所が記述されていること。
- ・改善策に具体性があること。

〈その他の注意点〉

教科書内に示されている参考文献あるいは健康に関する新聞記事、身近なスポーツ施設をみることでさらに学修が深まる。

参考文献

学習は、まず、テキスト自体の学習を先行して行い、さらに発展的に学習するのに有用な参考文献がテキストの項目ごとに記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、「健康」「運動」「スポーツ」に関する設問と、それぞれの関連に関する設問を用意する予定である。
- ・説明形式の回答様式である場合は、具体例をあげるとよい。科目試験の学習は実生活でどのように活用するのかを考えながら行うとよい。

教員からの
メッセージ

健康スポーツは実生活で活用できる要素を多く含んでいる。運動、スポーツをうまく生活に取り入れ、リズムを作り、健康的な人生を送れるようにしていただきたい。

科目概要	小原國芳が『全人教育論』の冒頭で「教育は人間文化の全部を盛らねばなりません」と述べているように、「教育学」の内容は広範囲に及ぶ。哲学的視点、心理学的視点、歴史的視点のみならず理論的視点、実践的視点などさまざまな視点から「教育」を概観するのが本科目である。それによって教育の今日的課題を学ぶことができる。
主な到達目標	・教育哲学の意義について説明できる。 ・「教」と「育」の調和的関係について説明できる。 ・教育の歴史を学ぶことの意義について説明できる。 ・教育の理論と実践について説明できる。
テキスト学修の留意点	「学修テーマ」と「課題」を念頭に置き、テキストに赤字で記されている問いに対してどのように答えるかをイメージしながらテキストを読むこと。また一つの章を精読し終えたら、章末の〈演習問題〉を解いてみることも重要である。

	学修テーマ	課 題
1	教育目標への視点	「自律化」とはどのようなことか。「教育目標の性格」とはどのようなものか。「特殊性と普遍性」をどのようにとらえるか。(序)
2	教育の理論と教育の歴史	教育理論の内容にはどのようなものがあるか。教育の歴史を学ぶことの意義とは何か。(序)
3	教育哲学の立場	教育哲学を「理想主義的」「人文主義的」「自然主義的」に分けた場合、それぞれの特色は何か。(1)
4	人間観	人間を、「自然的人間」「社会的人間」「形而上的人間」に分けた場合、それぞれの特色は何か。(1)
5	教育の目的と教育作用 (1)	人間にとって「(人間に) なる」とはどのようなことか。目的と手段とはどのような関係にあるのか。教育の目的についての三つの考え方とはどのようなものか。(1)
6	教育の目的と教育作用 (2)	普遍的な教育の目的を設定する立場とそれを否定する立場、それぞれの特徴は何か。(1)
7	教育関係	「教」と「育」の調和的関係とはどのようなものか。望ましい教育関係を成り立たせるための「教育者の態度」とはどのようなものか。(1)
8	教育思想史	教育思想史研究の意義とは何か。教育思想史研究において注意すべき点は何か。(2)
9	教育思想史研究	教育思想史研究の立場(方法)を「列伝的」「文化史的」「問題史的」「類型的」の四つに分けた場合、それぞれの特徴は何か。(2)
10	西洋教育史	(古代・中世) スパルタとアテナイの教育の特色は何か。ソクラテス、プラトン、アリストテレス、それぞれの教育思想の特色は何か。古代ローマの教育にはどのようなものがあったか。中世の教育の特色は何か。(2)
11	西洋教育史	(近世・現代) ルネッサンスや宗教改革の教育上の意味とは何か。啓蒙主義とは何か。日本の庶民教育の特色とは何か。(2)
12	教育の理論と実践	教育の理論は教育実践についてどのような性格を有するか。教育の理論と実践はどのような関係を有するか。(3)
13	科学としての教育学	ヘルバルトの教育思想の特徴とは何か。科学としての教育学とはどのようなものか。演繹的方法と帰納的方法の違いはどのようなものか。(3)
14	技術としての教育学	教育が技術であるとはどのようなことか。技術論にはどのような理論が要求されるのか。(3)
15	教育理論の役割	バルノーの考える教育理論の意義とはどのようなものか。(3)

シラバス執筆：杉山 倫也

レポート課題

第1分冊 杉山 倫也

第2分冊 杉山 倫也

第1分冊 〈略題〉教育哲学について「序」「1」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「教育哲学」とはいかなるものかについて説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「テキストに赤字で記されている問い」に留意しつつ、テキストの該当箇所を特によく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。自分の「解釈」を示すのではなく、テキストで何が記されているかを正確にまとめること。

〈評価の観点〉

正確な説明（要約）がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明できるようになることがポイントです。

第2分冊 〈略題〉教育思想史について「2」「3」

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教育思想史研究の意義について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「テキストに赤字で記されている問い」に留意しつつ、テキストの該当箇所を特によく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。自分の「解釈」を示すのではなく、テキストで何が記されているかを正確にまとめること。

〈評価の観点〉

正確な説明（要約）がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明できるようになることがポイントです。

参考文献

第1分冊

カント著 加藤泰史訳『教育学』岩波書店 2001年（カント全集 17巻に収録）ISBN 978-4000923576
（その他の参考文献としては、p85～86を参照）

第2分冊

村井実『教育思想（上）』東洋館出版社 ISBN 978-4491010830

村井実『教育思想（下）』東洋館出版社 ISBN 978-4491010847

（その他の参考文献としては、テキスト p173～174を参照）

科目試験等への
アドバイス

このテキストは内容的に難しいので、まずは、「学修テーマ」と「課題」に記された問いを説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

試験合格への近道は、上記の課題にきちんと答えることができるかどうかです。

科目概要	視聴覚メディアを教育場面で利用する際の理論と方法について学びます。 また、視聴覚教育の歴史についても学びます。
主な到達目標	「学修テーマと課題」に示したキーワードについて説明できる。
テキスト学修の留意点	・「主な到達目標」にも書いていますが、テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。 ・キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切にして学修を進めてください。 ・レポート作成については、「レポート課題」に示している留意事項や評価の観点等を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	メディアとメッセージ	・メディアの教育利用について考える。 ・教育のシステム化とはどのようなものか。
2	代理経験とメディア (1)	カテゴリーに関する2つの理論についてまとめる。
3	代理経験とメディア (2)	ことばとメディアについて考える。
4	教育モデルとメディア (1)	教育についての3つのモデルについてまとめる。
5	教育モデルとメディア (2)	メディア・リテラシー教育について考える。
6	静止画の利用 (1)	OHP とプレゼンテーション教材の作成について考える。
7	静止画の利用 (2)	OHC を効果的に利用した授業展開について考える。
8	動画の利用 (1)	日本における映画の教育利用についてまとめる。
9	動画の利用 (2)	動画を効果的に利用した授業展開について考える。
10	コンピュータと視聴覚メディア (1)	コンピュータの仕組みについてまとめる。
11	コンピュータと視聴覚メディア (2)	コンピュータの教育利用についてまとめる。
12	CAI と LOGO (1)	プログラム学習についてまとめる。
13	CAI と LOGO (2)	CAI についてまとめる。
14	インターネットと新しい教育 (1)	インターネットを利用した教育の課題について考える。
15	インターネットと新しい教育 (2)	インターネットを効果的に利用した授業展開について考える。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉視聴覚・メディア教育 1章～5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 視聴覚教育における「機器やメディアの使用」に焦点をあてた教育方法についてまとめなさい。
- ② ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、視聴覚メディアを効果的に活用した実践例を学習指導案の形式で記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(「その他の注意点」もあわせて確認すること)

- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に説明すること。
- ・引用と自身の考察の違いを明確にし、引用の場合は引用先(ページなど)を示すこと。
- ・学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ・「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの内容を中心にまとめられているか。
- ・視聴覚メディアを効果的に利用した学習指導案となっているか。
- ・留意事項を守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。
- ・書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・学習指導案を作成する時は、小学校や中学校などの教科書を参照すること。

第2分冊 〈略題〉コンピュータの教育利用 6章～8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① コンピュータの教育利用の歴史についてまとめなさい。
- ② ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、コンピュータを効果的に利用した学習指導案を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(「その他の注意点」もあわせて確認すること)

- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に要約すること。
- ・引用と自身の考察の違いを明確にし、引用の場合は引用先(ページなど)を示すこと。
- ・学習指導案は、「本時の目標」「本時の展開」「本時の評価」は必須。
- ・「本時の展開」は「導入-展開-まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの内容を中心にまとめられているか。
- ・コンピュータを効果的に利用した学習指導案となっているか。
- ・留意事項を守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。
- ・例えば、「〇〇についてインターネットを利用して調べさせる」「CAIで学習させる」など際にも、児童生徒に任せるのではなく、例えば、「どのように調べればよいか」「調べる時の注意点」などについての指示を具体的に示すこと。
- ・書籍やインターネット上にある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・学習指導案を作成する時は、小学校や中学校などの教科書を参照すること。

参考文献

.....
より深く学ぶためには、テキストに載っている参考文献を確認してください。

科目試験等への
アドバイス

.....
科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。
テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
テキストで示されているキーワードについては適切に使用することが求められます。

教員からの
メッセージ

.....
単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、将来のことを考え、テキストを大切に読み進めてほしいと思っています。

04201 日本国憲法（新刊テキスト）

2単位
新刊

テキスト名

関畑崇之・林紀行編著
『イントロダクション日本国憲法』
(玉川大学出版部、2025 年)

科目概要	憲法上の権利及び自由は、最大限尊重されるべきである。そこで、実際の判例を題材に、衝突する権利及び自由の調整を図りつつ、具体的妥当性を有する結論を導くまでの思考プロセスを養う。また、近代立憲主義の理念の下で規定された統治機構に関して、その機能や役割、権能に至るまで取り扱う。
主な到達目標	日本国憲法に関する基本概念や制度について説明できる。 具体的な問題に対して、自身の見解を明確に示し、論じられる。
テキスト学修の留意点	・教科書の各章末にある練習問題の解答をまとめ、説明できるようにする。 ・わからない単語については、その都度調べる習慣を身につける。

	学修テーマ	課 題
1	憲法の意義・憲法史	・憲法の意義と分類について整理する。 ・日本国憲法の基本原則について確認する。
2	天皇	・象徴天皇制について理解する。 ・天皇の国事行為と公的行為について説明できるようにする。 ・皇位継承の原則と順序について理解する。
3	平和主義	・憲法 9 条 1 項の解釈について、学説を含めて、理解する。 ・憲法 9 条 2 項の解釈について、学説・政府見解を含めて、理解する。
4	人権総論	・人権の分類について、整理して理解する。 ・人権享有主体性について、天皇・皇族、団体・法人、外国人それぞれ個別に判断基準を確認する。 ・公共の福祉について説明できるようにする。
5	幸福追求権	・新しい人権を導出しようする憲法上の規定とその意味について把握する。 ・プライバシー権の法的性格に関する変遷を事例を通して理解する。 ・自己決定権に関して、どのような社会問題が関連するのかを確認する。
6	法の下での平等	・憲法 14 条 1 項における「法の下にの意図」、差別禁止事由、「平等」の意味について理解する。 ・アファーマティブ・アクション（積極的差別是正措置）とは、どのようなものか説明できるようにする。
7	精神的自由権	・信教の自由の内容とその限界について確認する。 ・政教分離原則とその判定基準について理解する。 ・表現の自由を支える法理論について確認する。 ・大学の自治について説明できるようにする。
8	経済的自由権・人身の自由	・規制目的二分論について、判例を踏まえて説明できるようにする。 ・財産権における損失補償の可否と正当な補償の意味について、学説を含めて、理解する。
9	社会権	・生存権の法的性格について理解する。 ・教育を受ける権利の内容と現代的課題について確認する。 ・労働基本権の内容について、それぞれ確認する。
10	国務請求権・参政権・国民の義務	・国家賠償法の要件について確認する。 ・選挙の諸原則について、憲法上の条文を確認しながら、説明できるようにする。
11	国会	・憲法 41 条の「国権の最高機関」と「国の唯一の立法機関」の意味について理解する。 ・国会の組織と権能について説明できるようにする。 ・議員特権（歳費受領権、不逮捕特権、免責特権）について確認する。
12	内閣	・議院内閣制について、大統領制と比較して、説明できるようにする。 ・内閣の組織について、理解する。 ・内閣による衆議院の「7 条解散」が認められるかについて理解する。
13	司法	・司法権の独立の内容について確認する。 ・司法権の限界について、統治行為と部分社会論を説明できるようにする。 ・違憲審査制度の分類について、諸外国と比較しながら、日本の違憲審査制について理解する。
14	財政・地方自治	・租税法律主義について理解する。 ・憲法 92 条の「地方自治の本旨」の意味について、例外も含めて確認する。
15	憲法改正・最高法規	・憲法改正手続を説明できるようにする。 ・憲法改正の限界について、「総議員」や「過半数」の意味を明らかにしつつ、理解する。

シラバス執筆：関畑 崇之

レポート課題

第1分冊 関畑 崇之

第2分冊 関畑 崇之

第1分冊 〈略題〉法の下の平等 学修指導書で第一分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

法の下の平等の意味について、説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・「法の下に」の意味
- ・差別禁止事由の意味
- ・「平等」の意味

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

第2分冊 〈略題〉憲法改正手続 学修指導書で第二分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

日本国憲法の憲法改正手続について、整理せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・憲法改正案の提出、審議、議決
- 「総議員」の意味
- ・憲法改正の国民投票
- 「過半数」の意味
- ・天皇の公布

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

参考文献

- ・原則として、テキストを参照すること。
- ・インターネット上の情報のみを引用するのではなく、近くの図書館等へ足を運び、資料収集を行うこと。
- ・参考文献の表記方法については、テキスト巻末の参考文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

- ・試験問題は論述式であるので、各自シラバスの課題をまとめ、それぞれについて要点を説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

憲法を学ぶ上では、まず憲法の条文を参照しなければならない。そして、条文で用いられている言葉の意味やその条文自体の趣旨などの理解に努める必要がある。科目試験やレポートでは、これらを整理・分析して、記述することも求められる。また、問題文をよく読み、過不足のない記述を心がけてください。形式的な面では、誤字・脱字や参考文献の不記載、規定文字数にも注意してください。

憲法は現実社会との関わりも大きく、様々な社会問題に関係するものですが、特定の考えに固執することなく、問題に対して多角的・俯瞰的な分析を意識してください。問題をしっかりと整理し、まとめることができるようになることが学修の第一歩です。

科目概要	日本国憲法は、施行から70年をこえた。わが国の憲法学者は、一般に現行憲法を絶対視してきた。これでは、戦後の日本で憲法が果たした役割、また憲法の下で生じた不都合は明確にならない。そこで、日本国憲法とは何であるか、そしてこの憲法を通して現れている近代憲法の理念・原則・特徴とは何なのか、という問題関心により、日本国憲法の特徴と現在を考え、明らかにすることを学ぶ。
主な到達目標	日本国憲法の基本原則や、日本の統治制度の仕組みと特徴について説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	- 教科書の各章末にある練習問題の解答をまとめ、説明できるようにする。 - 基本理念（日本国憲法の基本原則と特徴）理解し、説明できるようにする。 - さらに、練習問題に関連した事例なども分析しながら、あなたの考えをまとめる努力をしてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	憲法の意味	- 憲法とは何なのかを考える。 - 憲法の意味の把握を助けるために憲法の分類を試みる。
2	日本憲法史	- 明治憲法の成立の経緯と特徴を把握する。 - 日本国憲法の成立の経緯を把握する。
3	日本国憲法の基本原則	日本国憲法の基本原則の内容を把握する。
4	天皇制	日本国憲法下の天皇制の特徴を把握する。
5	平和主義	- 日本国憲法の平和主義規定の特徴を把握する。 - 放棄した戦争と保持しない戦力についての代表的解釈を把握する。
6	基本的人権①	- 国民の権利・義務に関する一般原則について把握する。 - 日本国憲法の平等権規定の内容について把握する。
7	基本的人権②	- 自由権とはどのような性格の権利なのか、について把握する。 - 日本国憲法の自由権規定の内容を把握する。
8	基本的人権③	- 社会権とはどのような性格の権利なのか、について把握する。 - 日本国憲法の社会権規定内容を把握する。
9	基本的人権④	- 日本国憲法の参政権規定の内容を把握する。 - 日本国憲法の国務請求権規定の内容を把握する。 - 日本国憲法の義務規定の内容を把握する。
10	国会	- 一院制と二院制それぞれの存在意味について把握する。 - 国会の地位について把握する。 - 国会の組織と権能について把握する。 - 国会議員の特権について把握する。
11	内閣	- 議院内閣制と大統領制それぞれの特徴と違いについて把握する。 - 内閣の組織と権能について把握する。
12	司法	- 司法権とは何か、について把握する。 - 裁判所の組織と権能について把握する。 - 司法権の独立について把握する。
13	地方自治	- 地方自治の本旨について把握する。 - 日本の地方自治制度について把握する。
14	憲法改正	- 日本国憲法の改正手続について把握する。 - 憲法改正の限界について把握する。
15	最高法規	- 憲法の最高法規性について把握する。 - 憲法と条約の効力関係について把握する。

シラバス執筆：関畑 崇之

レポート課題

第1分冊 関畑 崇之

第2分冊 関畑 崇之

第1分冊 〈略題〉法の下の平等

学修指導書で第一分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

法の下の平等の意味について、説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・「法の下に」の意味
- ・差別禁止事由の意味
- ・「平等」の意味

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

第2分冊 〈略題〉憲法改正手続

学修指導書で第二分冊の範囲とされる箇所

横書き

直接入力

〈課題〉

日本国憲法の憲法改正手続について、整理せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

以下の論点に触れること。

- ・憲法改正案の提出、審議、議決
- ・憲法改正の国民投票
- ・憲法の公布

〈評価の観点〉

- ・課題を理解しているか。
- ・文章の構成・論旨は明確であるか。
- ・用語の理解は正確か。
- ・誤字・脱字はないか。
- ・参考文献・資料の出典は明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

参考文献を引用する場合は、出典を明記すること（出典を明示しないで、文献・資料を丸写しすることは禁止）。

参考文献

- ・原則として、テキストを参照すること。
- ・インターネット上の情報のみを引用するのではなく、近くの図書館等へ足を運び、資料収集を行うこと。
- ・参考文献の表記方法については、テキスト巻末の参考文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

- ・試験問題は論述式であるので、各自シラバスの課題をまとめ、それぞれについて要点を説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

憲法を学ぶ上では、まず憲法の条文を参照しなければならない。そして、条文で用いられている言葉の意味やその条文自体の趣旨などの理解に努める必要がある。科目試験やレポートでは、これらを整理・分析して、記述することも求められる。また、問題文をよく読み、過不足のない記述を心がけてください。形式的な面では、誤字・脱字や参考文献の不記載、規定文字数にも注意してください。

憲法は現実社会との関わりも大きく、様々な社会問題に関係するものですが、特定の考えに固執することなく、問題に対して多角的・俯瞰的な分析を意識してください。問題をしっかりと整理し、まとめることができるようになることが学修の第一歩です。

07125 ボランティア概論

2単位

テキスト名

江田恵里香編著
『ボランティア解体新書』木立の文庫
ISBN978-4-909862-01-3

科目概要	社会的な見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、グローバル化する現代社会で主体的に生きるとはどういうことか、現代社会における多様な課題を解決するボランティア活動の実際から考察し、人間と社会のあり方への洞察を深める。
主な到達目標	・ボランティアの定義や理念等を多面的・多角的に考察し、ボランティア活動の意義やあり方について説明できる。 ・ボランティア活動の背景にある現代社会の諸課題を主体的に調べ、人間と社会のあり方について、自らの考えを述べられる。 ・ボランティア・コーディネーションの役割や連携・協働のあり方について、実践的に語る事が出来る。 ・社会との関わりを意識した課題解決的な学習や実践の意義について、学校教育・社会教育の観点から説明できる。
テキスト学修の留意点	まず、テキストのプロローグを読み、テキストの書かれた意図、全体の構成を把握してほしい。 また EduTrack の講義室にある『学習指導書』や「学修テーマと課題」を読み、学修レポートの書き方を確認してほしい。 そしてテキスト学修の際には、各章の「はじめに」書かれていることや小見出しとなっているキーワードを手掛かりにポイントを押さえること。また、重要と思われるところに線をひき、章ごとに要点をまとめてポイントを整理してほしい。さらに章の終わりにある「Let's work together !」にある問いを考え、考察した内容を実際に書いてみることで試験対策となる。

	学修テーマ	課 題
1	ボランティアとは	ボランティアの定義について説明できるか。理論知、体験知の違いは何か。
2	時代と社会のなかで	日本のボランティア活動の歴史において、福祉元年、ボランティア元年といわれる時期を契機にした活動の変容について、説明できるか。 日本のボランティアと海外のボランティアの相違点は何か。
3	シティズンシップを身につけて	なぜ学校教育においてシティズンシップ教育を学ぶ必要があるのか。 教育でおこなわれるボランティア教育とは何か。
4	人間と社会のこころの基盤	幸福とは何か。幸福とボランティアの関係を説明できるか。 利他性としての宗教とボランティアの相違点は何か。
5	保障された自発的な活動	民主主義社会における、市民とは何か。 民主主義における公共と社会貢献活動について説明できるか。市民活動の場としての NPO,NGO とは何か。
6	内的報酬をめぐる	ボランティアの無償性とは何か。ボランティアにおける「やりがい搾取」「ブラックボランティア」はなぜ起こるのか、予防策は何か。
7	スキル・資格・学び	ボランティアに生かされるスキルとは何か。大学の学びを活かすボランティアとは何か。 ボランティアコーディネーターの役割とは何か。
8	顔のみえる関係性のなかで	ボランティア活動になぜ他の組織との連携・協働が必要なのか。災害予防のための連携・協働とは何か。
9	ボランティアと学校	開かれた学校教育について説明できるか。学校で行われる学校支援ボランティアについて説明できるか。総合型地域スポーツクラブとは何か。
10	ボランティアと福祉	子どもの貧困、ジェンダー格差とは何か。子どもの貧困が引き起こす問題について説明できるか。 ボランティアのできる子どもの貧困対策とは何か。
11	ボランティアと地域社会・防犯	地域貢献、社会貢献、ボランティア活動について、互いの相違点、関係性について説明できるか。大学における社会貢献活動とは何か。地域の防犯ボランティアの効果について説明できるか。
12	ボランティアと防災・災害	地域の災害に対する備え、市民の防災力をつける方法とは何か。災害ボランティアが被災者へ対応する際の心得について説明できるか
13	ボランティアと地球環境・国際協力	地球温暖化、プラスチックごみの問題について、世界での取組を説明できるか。 「持続可能な開発目標 (SDG's)」とは何か。地球環境や国際協力におけるボランティア活動についてその内容を説明できるか。
14	ボランティアとスポーツ・文化芸術・観光	スポーツイベントボランティアについて、その心構えも含め説明できるか。 文化芸術をささえるボランティア活動、特技や趣味を活かす文化芸術活動を通してささえる活動とは何か。 観光ボランティアガイド、スポーツを観光資源としたスポーツツーリズムについて説明できるか。
15	ボランティアの事前事後・まとめ	ボランティア活動の事前準備とは何か。ボランティア活動、地域貢献活動をおこなうためのマナー、心得について説明できるか。ボランティア活動の事後にふり振り返りやセルフケアが必要な理由とは何か。

シラバス執筆：吉見 江利

レポート課題

第1分冊 吉見 江利

第2分冊 吉見 江利

第1分冊 〈略題〉ボランティアと公共性 第1章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

はじめにレポートの内容を表す副題をつけ、テキストの内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、ボランティアの教育意義について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、全体の筋を通すために、冒頭に副題をつけ、導入部分でレポートの目的や構成を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、自身の考えを述べること。
- ③テキスト内から3カ所以上の引用をすること。
- ④一文で伝えたい内容は1つとし、句読点で言葉をつなぎ長文にならないように注意すること。
- ⑤なるべく文のはじめに主語を置き、主語に対応した形で述部をまとめること。
- ⑥本科目のレポート作成にあたり文献の掲載方法は『学修指導書』に示しているので、そのように記載すること。

〈評価の観点〉

- ①ボランティアの公共性について、テキストに基づき正しく理解していること。
- ②ボランティアの公共性を伝えるためのシティズンシップ教育についても言及し、説明できること。
- ③レポートの基本的な書き方を修得していること。
- ④テキスト学修で学んだことをまとめた上で、そこから自分の考えを順序だてて論理的に説明していること。

〈その他の注意点〉

- ①レポート作成にあたっては、段落ごとにポイントをまとめ、下書きをして推敲をすること。
- ②レポートを提出する前に段落の構成、内容に矛盾がないか、誤字脱字がないかなどよく確認をして提出すること。
- ③学修レポートと感想文とは異なるので、主観的な文章を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉ボランティアと地域社会 第9章～第20章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

はじめにレポートの内容を示す副題をつけ、テキストの内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、災害とボランティアについて論じなさい。論じる際には、実際の災害の事例を調べるか、自身の災害体験や災害ボランティアとしての活動など、実践的な内容に基づいたレポートになることが望ましい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、全体の筋を通すために、冒頭に副題をつけ、導入部分でレポートの目的や構成を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、自身の考えを述べること。
- ③テキスト内から3カ所以上の引用をすること。
- ④一文で伝えたい内容は1つとし、句読点で言葉をつなぎ長文にならないように注意すること。
- ⑤なるべく文のはじめに主語を置き、主語に対応した形で述部をまとめること。
- ⑥本科目のレポート作成にあたり文献の掲載方法は『学修指導書』に示しているので、そのように記載すること。

〈評価の観点〉

- ①近年希薄になっているといわれている地域社会について、問題意識を持って論じることができること。
- ②テキストで学んだことを踏まえて、地域社会の課題解決に向けたボランティア活動について提案ができること。
- ③レポートの基本的な書き方を修得していること。
- ④テキスト学修で学んだことをまずにまとめた上で、そこから自分の考えを順序だてて論理的に説明していること。

〈その他の注意点〉

- ①レポート作成にあたっては、段落ごとにポイントをまとめ、下書きをして推敲をすること。
- ②レポートを提出する前に段落の構成、内容に矛盾がないか、誤字脱字がないかなどよく確認をして提出すること。
- ③学修レポートと感想文とは異なるので、主観的な文章を多用しないこと。

参考文献

テキストの各章の最後に示されているので、HPや図書館などを利用するなどしてこれらの文献を読みさらに理解を深めてほしい。

科目試験等への
アドバイス

試験では、テキスト学修に基づく内容を説明した上で、自分の考えを論理的に記述できているかどうかを評価する。テキストの内容を踏まえ、自分の経験による考えのみを述べているもの、箇条書きに要点を書かれたものなどは合格点をつけられないので注意してほしい。

教員からの
メッセージ

ボランティアを通信のテキストで学ぶ意味は、ボランティアの意味や効果を学び、具体的な社会の課題とその解決のためのボランティア活動について論理的に説明できるようになることであると考え。是非ボランティア活動をしたことのない方は、テキスト学修後、あるいは学修をしながら、地域で活動をはじめの一歩としてほしい。また、既に活動をしている方は自分の実践を振り返り、活動の意味づけや活動を振り返る際の指針としてほしい。ボランティアについて体系的に学ぶことで社会とのつながりを認識し、公共への理解を深め、学んだことが実践に活かされていくことを願っている。

科目概要	本講は文部科学省が目的としている「多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る」を基にしながら社会教育経営論の概要を学修します。また、社会教育全般を網羅しながら、「地域」、「コミュニティ」を多面的に捉え、「課題解決」、「連携・協働」していくために必要な情報を習得し、その方法などについて考察します。
主な到達目標	本講を受講した学生は、終了時に社会教育経営についての概要を理解し、様々な状況における「地域」、「コミュニティ」の課題解決や連携・協働するための知識を学修します。それに必要な方法や取り組みについて他に説明できるようになります。
テキスト学修の留意点	学修者はテキストの内容を全体的に網羅しながら、地域における「地域づくり」や「課題解決」、「連携・協働」と言ったキーワードとなる言葉の意味を捉え、事例などから方法や取り組みを学んでください。さらに、学修者自身の意見を踏まえながら具体的な方法や取り組みについて考察してみてください。

	学修テーマ	課 題
1	社会教育の変化と社会教育への期待	社会の変化に伴い生じてきた地域の課題について理解し、改めて社会教育が見直されている意義について論じてください。
2	地域づくりマネジメントを担う社会教育行政	課題を持った地域社会において、社会教育行政が推進している「マルチステークホルダー・プロセス」について理解し、連携・協働を行いながら社会教育としてどのように展開していけるか論じてください。
3	社会教育の役割の展開	社会教育の役割の変化について理解した上で、「地域学校協働活動」の意義や期待されていることについて論じてください。
4	社会教育の本質を捉えた展開	なぜ社会教育主事養成課程が見直された経緯を理解し、これからインキュベーターとして社会教育が期待されている意義や役割について論じてください。
5	社会教育行政の仕組み	社会教育の振興において、社会教育行政について役割、計画の策定及び評価の理解を深め、まとめてください。また、学習課題における把握の方法、社会教育行政の広報について、事業につなげていく方策について論じてください。
6	社会教育施設の運営	社会教育施設の経営について、社会教育施設の経営とは何か、及び経営戦略を理解しまとめてください。また、様々な社会教育施設に当てはまるような自己点検・評価の方法についても論じてください。
7	社会教育施設における新しい運営手法	変化する社会における社会教育施設を運営していくにあたり、どのようなリーダーシップが必要であるか意義や役割について考察してください。また、新しい運営手法とネットワークの方法について、海外の導入されている理論や事例などを調べながら論じてください。
8	地域づくりと学習	地域づくりの意味を理解し、その活動例から社会教育としての学習活動の重要性について論じてください。
9	地域づくりの担い手	地域人材における学校教育の意義を理解し、社会教育の「主体形成」された地域人材について比較しながら論じてください。また、事例から地域づくりの担い手育成の視点について、まとめてください。
10	社会教育におけるコーディネート機能	社会教育における「コーディネート」の意義、特性について、答申や報告書が捉えている機能について論じてください。
11	地域学校協働活動におけるコーディネート	地域学校協働活動における意義及びねらいをまとめ、「学校を核とした地域づくり」として学校の教育課程である「特別活動」の可能性について論じてください。
12	学びに基づく地域づくり	地域づくりからみる社会教育の多様性と変遷について理解し、「地域づくりと学習の循環構造」に伴う学習の発展について論じてください。
13	社会教育行政と地域づくり	地域づくりを担う部門として公民館及び他の事例を踏まえながら、学習評価を理解してください。また、社会教育行政と民間機関との可能性について論じてください。
14	学びからみたネットワーク	社会教育におけるネットワークの定義、意義について理解し、公民館や地域づくりといったキーワードから見えてくるネットワークについて事例を基にし、可能性について論じてください。
15	ネットワークからみた社会教育行政の課題	「ネットワーク型行政のイメージ例」を理解し、社会教育における様々な分野に対する「社会教育士」の役割、期待について論じてください。

シラバス執筆：村井 伸二

レポート課題

第1分冊 村井 伸二

第2分冊 村井 伸二

第1分冊 〈略題〉現代社会と社会教育 第1部～第2部 p.1～p.76
テキスト(主として1分冊)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部～第2部の内容をしっかりと理解し、各章と事例に基づき「現代社会と社会教育」について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの内容を基盤として、幅広い視野を持って現代社会と社会教育について論じることを意識してください。また、事例からの情報を基にして学修者なりの事例を検索し、独自の論点を持ってまとめることを心がけてください。
- ②文章においては分かりやすく簡潔に、学修者自身だけの文にならないように論じてください。
- ③レポート内容はテキストは中心となりますが、学修者が検索した資料、文献を活用し、深みのあるレポートにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解した上で、学修者が設けたレポートの論点、課題とに整合性がありますか。
- ②段階を用いて分かりやすくまとめていますか。
- ③専門用語も含めて的確な語彙、文章を用いていますか。
- ④根拠のある情報を基に自分の意見が述べられていますか。
- ⑤参考文献などを積極的に用いていますか。

〈その他の注意点〉

文章をベタ打ちし、作成するのではなく、論点の内容を整理してからしっかりと文章構成を考え、レポート作りに励んでください。

第2分冊 〈略題〉地域人材が育つ社会教育 第3部～第4部 p.77～p.156
テキスト(主として2分冊)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第3部～第4部の内容をしっかりと理解し、各章と事例に基づき「地域人材が育つ社会教育」について論じてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストの内容を基盤として、幅広い視野を持って地域人材が育つ社会教育について論じることを意識してください。また、事例からの情報を基にして学修者なりの事例を検索し、独自の論点を持ってまとめることを心がけてください。
- ②文章においては分かりやすく簡潔に、学修者自身だけの文にならないように論じてください。
- ③レポート内容はテキストは中心となりますが、学修者が検索した資料、文献を活用し、深みのあるレポートにしてください。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容を理解した上で、学修者が設けたレポートの論点、課題とに整合性がありますか。
- ②段階を用いて分かりやすくまとめていますか。
- ③専門用語も含めて的確な語彙、文章を用いていますか。
- ④根拠のある情報を基に自分の意見が述べられていますか。
- ⑤参考文献などを積極的に用いていますか。

〈その他の注意点〉

文章をベタ打ちし、作成するのではなく、論点の内容を整理してからしっかりと文章構成を考え、レポート作りに励んでください。

参考文献

基本的にテキストを熟読し、理解することでのレポート作成で問題はないかと思います。しかし、テキストに掲載されてる事例にとどまらず、学修者自身の事例を探索することをお勧めします。

科目試験等への
アドバイス

テキストの内容をしっかりと理解できているが大前提ですが、そこから論点と課題意識を持ち、様々な情報を得ることによって、学修者独自の社会教育経営論が身につくはずで、終わらせようとするレポートではなく、レポート学修自体が学修者の学びのプロセスになるよう期待しています。

教員からの
メッセージ

現代社会における社会教育の意味とはどういったものなのでしょう。多様な価値観を持つ社会とともに、伝統を重んじつつも変化、発展していかなければならない地域づくりについて理解を深めてください。そのことがローカルだけでなくグローバル、を考えていくことにつながると思います。学修者の社会教育における、マネジメント力が深まることを期待しています。

科目概要	農村型社会から都市型社会への変貌のもとで、また市民や企業によるボランティアな活動が進展する中で、社会教育や社会教育行政はどのように変わるべきか、また地域を豊かにするガバナンスとは何か、について多角的に考えるとともに、地域での社会教育実践や学習者支援に際して求められる基礎的な知識等を身につける。
主な到達目標	1. 人間が豊かに生きていく上での関わりのある現代社会のトレンドや特徴を適切に認識する。 2. 現代社会における社会教育や社会教育行政の意義や必要性等について理解する。 3. 現代社会における社会教育実践の意義や役割、その方法等について、必要な知識を身につける。 4. 地域コミュニティにおける教育ガバナンスについて、多角的な視点から考察する。
テキスト学修の留意点	まず全体を一読して、その後、テキストの関係する部分や指導書を熟読するようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	社会教育の概念	社会教育の概念について、制度上の定義や学校教育との相違を踏まえて、説明してください。
2	地域づくりにおける地域教育の役割	社会教育と地域づくりとの関係について、特に「地域教育」に着目して説明してください。
3	社会教育における専門職員制度の意義	戦後社会教育行政が取り組んできた社会教育計画の策定や専門職員による学習者支援について、それぞれ意義や内容を説明してください。
4	戦後の社会教育行政	戦後社会教育行政が取り組んだ、(1) 拠点づくり（施設の整備）、(2) 組織づくり（団体の育成）、(3) 機会づくり（社会教育事業の実施）について、それぞれ意義と当時の状況を説明してください。
5	社会教育行政の固有性と専門性	生涯学習理念のもとでの社会教育行政の固有性と専門性について、説明してください。
6	社会教育行政の意義と限界	社会教育行政の意義・役割を説明し、近年それが衰退してきた背景を考察してください。
7	地域ガバナンスとは何か	NPOをはじめとする中間組織が地域ガバナンス（地域経営）に果たす役割について、経営的視点を中心に説明してください。
8	ボランティア活動の社会改革性	ボランティア活動について、①個人のキャリア形成にとっての意義、②より良い社会を創る上での意義、の両面から論じてください。
9	地域ガバナンスにおける協働・ネットワークの意味	協働・ネットワークの形成とコミュニティのガバナンス機能とは、どのような関係にあるのでしょうか。
10	地域づくりと生涯学習推進計画	計画行政による地域づくりに関して、生涯学習推進計画の事例を一つ挙げて、その概要を説明してください。
11	ソーシャルデザインによる地域づくり	ソーシャルデザインによる地域づくりの具体例を一つ挙げて、その概要を説明してください。
12	地域学校協働の現状と課題	特定の市町村の地域学校協働の状況について調べ、その現状と課題を明らかにしてください。
13	居場所と社会参加	社会参加を促すために、行政や市民にはどのようなことが求められていますか。
14	学習課題としての現代的課題	SDGs に掲げられている課題を解決するために、私たち一人ひとりはどういう学びをすれば良いのでしょうか。SDGs として掲げられている課題を一つ取り上げ、自分なりの学びのあり方を論じてください。
15	多文化共生を進める社会教育事業	多文化共生を推進するための社会教育事業の具体例について、あなたのアイデアを2つ挙げてください。

シラバス執筆：笹井 宏益

レポート課題

第1分冊 笹井 宏益

第2分冊 笹井 宏益

第1分冊 〈略題〉地域ガバナンス（地域経営）の背景、理由及び特徴
上記1から9まで

横書き

Word添付

〈課題〉

地域ガバナンス（地域経営）が求められるようになった背景、理由について論じるとともに、従来の古典的な行政との相違について、説明してしてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストをよく読み、自分なりに整理して記述すること
レポートの文字数は3000字以上で記述すること

〈評価の観点〉

- 1) 概念の理解は正しいか
- 2) 論理的に組み立てているか
- 3) 自分なりの考察を加えているか

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉社会教育の再構築と地域教育ガバナンス（地域教育経営）
上記10から15まで

横書き

Word添付

〈課題〉

社会教育の再構築によって、地域教育ガバナンス（地域教育経営）はどのような影響を受けますか。様々な観点から考察してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストをよく読み、自分なりに整理して記述すること
レポートの文字数は3000字以上で記述すること

〈評価の観点〉

- 1) 概念の理解は正しいか
- 2) 論理的に組み立てているか
- 3) 自分なりの考察を加えているか

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

その都度、Web上の参考となるサイトを紹介するので、必ず調べること

科目試験等への
アドバイス

様々な基礎概念は正しく理解した上で、それをもとに自分なりに考察してください。

教員からの
メッセージ

この科目は、新しくできた学際的な科目ですので、興味を持っていると調べてみてください。きっと新しい発見があるものと思います。

07135 生涯学習支援論 A

2単位

テキスト名

高井正・中村香編著
『生涯学習支援のデザイン』
玉川大学出版部、2019

科目概要	本科目は、学習者の多様な特性を尊重し生かす学習支援に関する知識及び技能の習得を目的としている。具体的には、現代社会における生涯学習支援の考え方、教育理論（ペダゴジー・アンドラゴジー・ジェロゴジーなど）を踏まえた効果的な学習支援、参加型学習プログラムや支援者の在り方について、理論と実践を往還しながら学ぶ。
主な到達目標	・生涯学習支援者の役割について、現代的課題や学習者の多様性を踏まえた説明ができる。 ・効果的な学習支援の方法について、学習支援に関する理論や事例から具体的に説明できる。 ・学習プログラムの企画・展開・評価について、学習支援の観点から説明できる。 ・学習支援者としての力量を形成する学びの在り方を理解し、学び続けることができる。
テキスト学修の留意点	テキストの「はじめに」に本科目の意図や学び方が記されているので、「はじめに」を読み飛ばさず、理論と実践を往還的に学ぶ意味を捉えたうえで学び始めると、学びが深まるであろう。 また、学修指導書にはレポートの書き方がまとめられているので、テキストと学修指導書に基づき、自らの考え方を論述する力を培って欲しい。

	学修テーマ	課 題
1	生涯学習支援の理念と構造	・社会的背景などを踏まえて生涯学習支援の必要性を説明できるか。 ・学習者の多様性を踏まえた学習支援の必要性について、具体的に説明できるか。
2	事例考察（1・2）	・事例1に基づき、学校教育とは異なる社会教育の学びの特徴や学習支援の在り方を考察する。 ・事例2に基づき、現代の若者の状況を踏まえたユースワークの意義について考察をする。
3	生涯学習者を育む学習支援	・主体性が育つ学習支援の在り方について、子どもの権利を踏まえた説明ができるか。 ・社会生活が困難な子ども・若者の学習支援の在り方について、社会的包摂やカウンセリングマインドの考え方を踏まえた説明ができるか。
4	事例考察（3・4）	事例3に基づき、社会教育の意義と課題を考察する。 事例4に基づき、地域社会における多様性の尊重の在り方を考察する。
5	成人の学習を支える考え方	・成人の学習特性や学習支援の在り方を説明できるか。 ・学びが社会構造を変革する可能性があるのはなぜか。
6	事例考察（5・6）	事例5に基づき、成人の学習者や学習支援の特徴を考察する。 事例6に基づき、運動と学習、また社会をつくる学びについて考察をする。
7	生涯学習社会を志向した学び	・人生100年時代の学びの在り方や学習支援の在り方を説明できるか。
8	事例考察（7・8）	・事例7に基づき、地域に学ぶ場があることの意味について考察をする。 ・事例8に基づき、障害者が地域で共に学ぶ意味を考察する。
9	学習プログラムの企画と事例考察（9・10）	・社会教育における学習プログラムの考え方や在り方を事例に基づき説明できるか。
10	学習プログラムの展開と事例考察（11・12）	・学習プログラムを展開する際の学習支援者の役割について、事例を踏まえた説明ができるか。
11	学習プログラムの評価と事例考察（13・14）	・学習プログラムにおける評価の在り方について、事例を踏まえた説明ができるか。
12	学習支援者の役割と求められる能力	・地域にいる学習支援者の種類と役割、また、学習支援者に求められる能力はなにか。
13	事例考察（15・16）	・事例15と16に基づき、学習支援者の力量形成の在り方を考える。
14	学習支援者の力量形成を支えるコミュニティとネットワーク	・学習支援者の力量形成の在り方について、養成・研修の在り方を踏まえた説明ができるか。
15	事例考察（17・18）	・事例17と18に基づき、生涯学習支援者としての力量形成を支える仕組みを考える。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香

第2分冊 中村 香・吉見 江利

第1分冊 〈略題〉学習支援 第1部と第2部

横書き

Word添付

〈課題〉

冒頭に副題（レポートの内容を端的に表すタイトル）を置き、テキストの第1部と第2部の内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、学習支援について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭に副題を置き、導入（本稿の目的や構成等）を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストの内容を踏まえた考えを論述すること。
- ③テキストから3カ所以上の引用をすること。
- ④接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりを（文章の構造）を意識して論ずること。
- ⑤本科目のレポート作成にあたっての文献の用い方は、『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

〈評価の観点〉

- ①生涯学習支援の意義や大事な点を理解しているか。
第1部と第2部を網羅しようとする書ききれなくなるので、特に大事だと思った点に焦点を当てて論ずること。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①レポートを提出する前に、よく確認をすること。
- ②読書感想文のようなになるので、主観的表現を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉学習支援者の力量 第3部と第4部

横書き

Word添付

〈課題〉

冒頭に副題（レポートの内容を端的に表すタイトル）を置き、テキストの第3部と第4部の内容を踏まえ、テキストから3カ所以上の引用をして、学習支援者の力量について論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。

〈評価の観点〉

- ①学習プログラムをデザインする学習支援者としての力量や力量形成の在り方を理解しているか。
第3部と第4部を網羅しようとする書ききれなくなるので、特に大事だと思った点に焦点を当てて論ずること。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

テキストの各章末に「より深く学習するための参考文献や資料」が載っているので、それらを参考に、学びを深めてほしい。

科目試験等への
アドバイス

試験では、テキスト学修に基づく考えを、論理的に記述できているかどうかを評価する。
採点していると、テキストの内容を全く踏まえずに自分の経験に基づく考えを述べているもの、あるいは、テキストに書かれたキーワードを羅列しただけのもの、レジュメのように要点を箇条書きしたものがある。そのような答案は不合格になるので、気を付けてほしい。
また、文献を参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からの
メッセージ

通信教育課程で学ぶ学生には、社会教育関係の職員として、実際に地域社会における学習支援を担っている人が多い。生涯学習支援の在り方について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“職務に生かせることや見直すべきことは無いか”というような実践的な視点で考えを深めてもらいたい。

科目概要	本科目は、「生涯学習概論」で、生涯学習や社会教育の基本的なことを学修しているものと想定している。本科目では、一人ひとりの生涯にわたる学習を出発点に位置づけ、組織や社会の持続可能な発展を展望する「学習社会」を志向する意義や課題について学ぶ。具体的には、個人の学びと組織や社会の発展、おとなの学習者理解と学習支援の方法、学びあうコミュニティの意義や社会とつながる学びの在り方、学習社会の課題と展望について、考察をする。
主な到達目標	・「学習社会」を実現する意義や課題について、個人・組織・社会の関係性をふまえた複眼的な観点から、専門的な概念や用語も用いて、他者に説明することができる。 ・学びあうコミュニティを構築する意義とコーディネーターの役割について、成人学習者の学習特性やアンドラゴジーに基づく説明ができる。 ・教育構造の転換について、生涯学習の理念や「学習社会」の課題と展望をふまえた自分の考えを、論理的に説明できる。
テキスト学修の留意点	テキストの「はじめに」や『学修指導書』を読み、学習計画を立て、計画的に学ぶことが大事である。また、生涯学習や「学習社会」の意義を机上の理論として学ぶというよりも、自らの人生や学習のあり方に引き付けた考察をしてほしい。大学では、学んだことに基づき、何を考えられるかが問われている。自らの人生を生涯にわたって切り拓く態度（生涯学習力）を養うとともに、自らの考えを論理的に語れる人になってほしい。

	学修テーマ	課 題
1	はじめに	テキストの「はじめに」や、『学修指導書』の「1. 学習・研究の方法」を読み、学習計画を立てる。
2	生涯学習理念の展開	・生涯学習と生涯教育の意義や課題について説明できるか。 ・「学習社会」が「不可欠なユートピア」と言われる理由を、生涯学習理念の展開をふまえて論述できるか。
3	学習社会の構築	・生涯学習を支える教育の構造を説明できるか。 ・学校・家庭・地域の連携の意義や社会教育の役割について論述できるか。
4	生涯学習と職業	・キャリア教育や職業教育の展開について、現代的課題をふまえた説明をできるか。 ・学習と就業との関係について、現代的課題や学習する組織論をふまえて論述できるか。
5	成人学習者と生涯発達	・成人学習者の発達について、発達に関する理論を織り交ぜて、自らの考えを論述できるか。
6	成人学習者の特性をふまえた学習理論	・アンドラゴジーとは何か、「自己決定性」「意識変容の学習」という言葉を用いて論述できるか。
7	学習支援者の役割	・様々なワークショップの意義と課題を説明できるか。 ・学習支援者は、なぜ省察的实践者を志向する必要があるのか。
8	地域における学びあい	・「学習の主体化」とはどのようなことか、具体的な事例から説明できるか。 ・松川町の実践における特徴を、アンドラゴジーの観点から論述できるか。
9	学びあう実践の理論	・実践コミュニティとネットワークについて、説明できるか。 ・成人学習論について、「省察的实践論」と「実践コミュニティ」という言葉を用いて論述できるか。
10	学びあうコミュニティを支える支援者	・学び合うコミュニティを支える学習支援者の役割と課題は何か。 ・大学と地域の連携の在り方の意義や課題について、論述できるか。
11	かわる社会、学ぶ市民	・個人と社会の関係の転換に基づき、「新しい公共」について説明できるか。 ・NPOにおける学びの展開や学びのネットワークについて論述できるか。
12	ボランティア活動と学び	・ボランティア活動と学習活動の循環的発展について、構造的に論述できるか。
13	学習社会における子ども・若者の学び	・学校教育と社会教育の関係について、「自己形成空間」という観点から論述できるか。 ・教育の構造転換について、まちづくりと社会教育の観点から論述できるか。
14	格差是正と評価	・学習と評価の関係を、「格差是正」という観点から論述できるか。
15	生涯学習の公共性と今後の展望	・学習社会の実現に向け、行政や教育機関の役割について論述できるか。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香

第2分冊 中村 香

第1分冊 〈略題〉成人学習 第1部～第3部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部～第3部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、おとなの学習について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭にタイトル（略題ではない）を置き、導入（本稿の目的や構成を示す）を書くこと。
- ②テキストの第1～第3部の内容に基づく説明をしたうえで、自らの経験も踏まえた考えを論述すること。
- ③テキストから3か所以上の引用をすること。
- ④引用や文献の載せ方は、テキストの書き方に倣うか、「生涯学習概論」や「生涯学習支援論」の学修指導書を参照すること。
- ⑤接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりを（文章の構造）を意識して論ずること。

〈評価の観点〉

- ①第1部～第3部の内容を理解したうえで、アンドラゴジーなどのキーワードなどを織り交ぜて、自らの考えを論述できているか。
 - ・レポートはテキスト学修の成果を見るものなので、テキストの内容を織り交ぜることが大事です。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
 - ・引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
 - ・専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
 - ・自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①生涯学習や成人教育に関する課題では、ご自分のライフヒストリーのようなものを書いてく人が多いが、課題に答えているかどうか、何が求められているのか、よく考えてから書き始めること。
- ②レポートを提出する前に、よく見直すこと。
- ③読書感想文のようになるので、主観的表現を多用しないこと。

第2分冊 〈略題〉学習と社会 第4部～第5部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第4部～第5部に基づき、レポートの冒頭にタイトルを置き、テキストから3か所以上引用をして、学習と社会について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。

〈評価の観点〉

- ①第4部～第5部の内容を理解したうえで、キーワードなどを織り交ぜて、自らの考えを論述できているか。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
 - ・引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
 - ・専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
 - ・自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

各章末に、「より深く学習するための参考文献や資料」を載せてあるので、それらを参考に、学びを深めてほしい。

科目試験等への
アドバイス

試験では、テキスト学習に基づく自分の考えを、論理的に述べられているかどうかを評価する。詳細については、学修指導書の「Ⅲ. レポート作成や科目試験について」を参照すること。
採点していると、テキストに書かれたキーワードを羅列したもの、レジュメのように要点を箇条書きしたもの、また、数行しか書かれていない答案用紙がある。そのような答案は不合格になるので、気を付けてほしい。
また、テキストなどを参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からの
メッセージ

通信教育課程には、社会教育関係の職員として、実際に地域の社会教育を担っている方が多い。生涯学習や社会教育について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“職務に生かせることは無いかな”というような実践的な視点で考えを深めてもらいたい。まずは、自らの学習を楽しむことが、学習者の主体的な学習を促すことにつながるのではないだろうか。

07401 図書館概論

2単位

テキスト名

『図書館概論 五訂版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 1)』
日本図書館協会

科目概要	本科目は、司書課程の導入科目として設けられている。図書館に関する基本的な理解を深め、図書館の現状や今後の図書館のあり方など、図書館業務に必要な内容を幅広く学んでいく。
主な到達目標	本科目では「図書館法施行規則の一部を改正する省令及び博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成21年4月 文部科学省)に述べられている内容から「図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本」を理解することを目標とする。
テキスト学修の留意点	以下の内容理解に努めること。 1) 図書館の定義と意義 2) 図書館の構成要素と機能 3) 図書館の社会的意義 (ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) 4) 知的自由と図書館 (図書館の自由に関する宣言等) 5) 図書館の歴史 6) 公立図書館の成立と展開 7) 館種別図書館と利用者のニーズ 8) 図書館職員の役割と資格 9) 図書館の類縁機関・関係団体 (文書館を含む) 10) 外国の図書館 11) 図書館の課題と展望

	学修テーマ	課 題
1	導入	授業の概要説明。受講の心得・評価方法など。
2	現状と動向	図書館の現状と動向を理解する。
3	要素と機能	図書館の構成要素と機能を理解する。
4	社会的意義	図書館の社会的意義 (ユネスコ公共図書館宣言等)を理解する。
5	知的自由と図書館	知的自由と図書館 (図書館の自由に関する宣言等)を理解する。
6	図書館の歴史	図書館の歴史を理解する。
7	公立図書館	公立図書館の成立と展開を理解する。
8	公共図書館	館種別図書館と利用者のニーズ①公共図書館を理解する。
9	学校図書館・大学図書館	館種別図書館と利用者のニーズ②学校図書館・大学図書館を理解する。
10	専門図書館・国立図書館	館種別図書館と利用者のニーズ③専門図書館・国立図書館を理解する。
11	図書館職員	図書館職員の役割と資格を理解する。
12	類縁機関	図書館の類縁機関・関係団体 (文書館を含む)を理解する。
13	外国の図書館	外国の図書館の制度・特色について理解する。
14	課題と展望	図書館の課題と展望について理解する。
15	まとめと復習	これまでの学修内容を振り返る。

シラバス執筆：宮原 志津子

レポート課題

第1分冊 宮原 志津子

第2分冊 宮原 志津子

第1分冊 〈略題〉今日の公共図書館の現状と課題 テキスト UNIT1～UNIT21

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- (1) 指定テキスト等から「図書館とは何か」を読み取り、引用・参照しながら、自分の意見をまとめなさい。
- (2) 過去5年以内に実施・発表された公共図書館でのサービス事例について、文献やインターネット等から調べ、引用や参照を適宜行いながら、サービスの概要及び特色を説明しなさい。
- (3) (2) についての課題・問題点を指摘し、自分が図書館員であれば解決のためにどのような方策を取るか、論拠を示しながら具体的に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 学校図書館・大学図書館・専門図書館は対象から除く。
- (2) 課題(3)の解決策については、人の配置や予算に制限がある中での、現実的な解決策を示すこと。
- (3) 情報源(書誌情報、インターネットのURL等)が読み手にわかるよう、正しく引用を行うこと。
- (4) レポートの書き方、引用についての理解が不足している場合は、文末「その他の注意点」で推薦されている図書を参考にすること。形式や引用が不十分な場合、内容面での評価に値しないとして不合格とする。
- (5) 「序論」や「結論」が無いレポートが多いので、気を付けること。また章番号と章タイトルをつけ、全体の構成バランスを意識して執筆すること。

〈評価の観点〉

- (1) テキストの内容がきちんと理解できているか
- (2) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (3) 適切な情報源を見つけ、使用することができているか
- (4) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (5) サービスの定義、意義、効果などが明確に述べられているか
- (6) 自分なりの問題意識を持ち、自分の言葉で書かれているか
- (7) 調査したサービスの問題点に対する、現実的な解決策を示しているかどうか

〈その他の注意点〉

レポート作成の基本的な技法を踏まえずに、我流で執筆している例が非常に目立ちます。特に引用の仕方についてはほとんどの学生ができておらず、再提出となるケースがあまりにも多くなっています。

大学レベルのレポートには、基本的な論文作法の習得が必須です。レポート本文を書く前に、下記の推薦図書を参照してください。

桑田てるみ 『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版：スキルを学ぶ21のワーク』実務出版、2015年

第2分冊 〈略題〉データで語る図書館の実際 テキスト UNIT22～UNIT50

横書き指定

直接入力

〈課題〉

図書館の実際について、

- (1) 市町村立の中央図書館を1館選び、基本的調査項目(「レポート作成にあたっての留意事項」参照)に関連する、各種統計データを収集する。
- (2) (1) で選んだ図書館と類似の奉仕人口の図書館を選び、同じ項目のデータを収集する。(1) の図書館と比較し、違いを明らかにした上で、なぜ違いが生じるのかについて考察を述べる。
- (3) 同規模の中央図書館群の全国平均を算出し、(1) の図書館のサービス水準が、全国的にどのような状況にあるのかについて論じる。
- (4) (1) の図書館がある自治体に関する情報を収集し、地域の特性をまとめる。
- (5) (4) で述べた地域の特性が、どのように図書館サービスに反映されているのかについて考察し、自分の考えをまとめる。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

基本的な調査項目として、以下の7項目は必ず記述すること。さらに他の項目を加えてもよい。レポートではすべて文章でまとめること。文中へのエクセルの表の挿入や、別紙の添付は禁じる。

- ① 奉仕人口数
- ② 運営形態(直営、指定管理者による委託など)
- ③ 登録者数
- ④ 年間開館日数
- ⑤ 蔵書冊数(図書・逐次刊行物など)
- ⑥ 貸出冊数
- ⑦ 職員数

〈評価の観点〉

- (1) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (2) 適切な情報源を見つけ、使用することができているか
- (3) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (4) 課題で求められた要素(1)から(5)をすべて満たしているか
- (5) データから図書館の特徴が読み取れるように記述されているか
- (6) 適切な資料をもとに、地域の特性が明らかにされているか
- (7) 収集したデータ・資料が整理され、分析・考察と結びついているか

〈その他の注意点〉

内容はこちらをクリックして下さい、

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/図書館概論第2分冊.pdf>

参考文献

日本図書館協会編 『日本の図書館 統計と名簿』（日本図書館協会）＊毎年刊行
今 まど子・小山 憲司編著 『図書館情報学基礎資料 第5版』（樹村房、2024年）
日本図書館情報学会編 『図書館情報学用語辞典 第5版』（丸善、2020年）
レイ・オルデンバーグ『サードプレイスー コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』（みずす書房、2013年）

科目試験等への アドバイス

本科目は図書館について非常に幅広い内容を含むので、章ごとの核となる事項と実例などを丁寧に読み込むことが求められます。単に丸暗記をするのではなく、テキストを繰り返し読み、現代の公共図書館が置かれている状況について自分なりの問題意識を持ち、問題に対する自分の意見を確立することが大切です。

教員からの メッセージ

本科目では、レポートとしての形式や引用の仕方が不十分な場合は、内容面の評価は行わず、そのまま不合格としています。初回の提出では半数以上の学生が、上記の理由で不合格となっています。また「序論」「本論」「結論」の基本的構成がなされておらず、我流で書かれたレポートも増えています。レポートの書き方は、専門書だけでなく、インターネット上にも詳しい解説がたくさんあります。きちんと自己学修を行ってから執筆・提出してください。

調査のために最寄りの図書館を訪問する場合は、課題内容について図書館員へそのまま尋ねることはしないでください。入手したデータ内容の確認や、より詳細な資料の所在などを聞く場合は、レファレンスカウンターなどを利用しましょう。くれぐれも図書館業務の妨げにならないよう配慮してください。

07425 児童サービス論

2単位

テキスト名

植松貞夫・鈴木佳苗編
『児童サービス論
(現代図書館情報学シリーズ)』樹村房

科目概要	本科目は、司書資格取得のために大学において履修すべき「図書館に関する科目」のうちの必修科目である。資料と子ども（乳幼児から10代まで）との出会いを支援するための児童サービスは、これからの図書館においてその充実が求められている。
主な到達目標	子ども（乳幼児から10代まで）における読書の役割、サービスの実際とその企画・立案、児童資料の知識、学校等との連携など総合的な理解を目標とする。
テキスト学修の留意点	本テキストの内容は、従来からの項目に加え、近年の状況等も体系的かつ概要的に配列されている。熟読して児童サービスの全体像を把握すると同時に、参考文献等からの学びも深めていくこと。

	学修テーマ	課 題
1	「児童サービス論」について	司書資格課程における当科目の位置付けとその意義について理解する。
2	子どもとは・読書とは	”子ども”について理解する。読書の意義を学び、発達段階・年齢における子どもの特性を知る。
3	児童サービスの意義	児童サービスの歴史を学び、理念を知る。
4	児童サービスの種類と内容	児童サービスの日常的業務、行事等を知る。
5	児童サービスの管理と運営	児童図書館に関する知識や組織等、児童サービス運営にかかわる基本的な考え方を理解する。
6	絵本の知識	児童資料（絵本）に触れ、その特性を理解する。
7	物語等の知識	児童資料（物語、伝承文学、知識の本等）に触れ、その特性を知る。
8	資料の選択と提供	児童資料の選択とその提供について、基本的な考え方を理解する。
9	児童サービスの実際と技術	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等について、事例を通して理解する。
10	乳幼児サービス	ブックスタートをはじめとする、乳幼児サービスについて理解する。
11	ヤングアダルトサービス	10代を中心とした世代に対するサービスと、その資料を理解する。
12	学習支援・読字／学習困難	学習支援としての児童サービスの機能と役割を理解する。マルチメディア DAISY など支援方法について学ぶ。
13	学校図書館へのサービス	学校、学校図書館の活動（公立図書館との相違点を含む）を知る。
14	地域と公共図書館	学校、家庭、地域との連携・協力（ネットワーク等）について知る。
15	課題と展望	これからの児童サービスのあり方を考えていく。

シラバス執筆：木幡 智子

レポート課題

第1分冊 木幡 智子

第2分冊 木幡 智子

第1分冊 〈略題〉児童サービスの実際と技術 1章～5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①ブックトークとは何か、その定義および意義についてまとめる。
- ②テキスト p.85～86 の「ブックトーク例」を参考にしながら、任意のテーマを設定してオリジナルのブックトーク案を作成する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) ブックトークの中で紹介する資料のページを明記すること(例：p.7の絵を見せる、p.13の「xx」を朗読する・・・等)。
- (2) 定義や意義を説明する箇所では引用部分に「」をつけ、もう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- (3) 引用した箇所およびブックトークに使用した資料の書誌情報は、文中あるいは脚注等で正確に記すこと。

〈評価の観点〉

- (1) ブックトークの定義や意義が適切に述べられているか。
- (2) オリジナルのブックトークが作成されているか。
- (3) 対象年齢、テーマのねらいや設定、ブックトークの展開、前後の繋がり等に無理はないか。
- (4) ブックトークの目的に即し、多様な図書を取り上げているか。

〈その他の注意点〉

- ①タイトル名はわかりやすく示される必要があることから、書誌情報のタイトル名を『』で括弧すること。
- ②資料を選ぶためのツールとして、テキスト末尾の参考文献第5章の項に児童資料選定目録等が紹介されている。
- ③ブックトークの実際の例は、児童サービス以外にも学校図書館における実践としての各事例が出版されているので、適宜参照するとよい。(ブックトーク入門書として、たとえば次のブックレットが参考になる。高橋元夫・蔵元和子『はじめてのブックトーク』図書館流通センター、2002。)

第2分冊 〈略題〉対象別児童サービス 6章～10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

6章、7章、8章から任意のサービスを選び、そのサービスが行われている現場を実際に調査してその意義と課題を考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 調査の基本情報(所在地・調査日時など)を明記し、記録した調査内容を的確にまとめてレポートすること。
- (2) レポートの冒頭で、選択したサービスの定義や意義について説明すること。その際、引用部分に「」をつけ、もう一度自分の言葉で説明し直すこと。引用した箇所は、文献の書誌情報とそのページを、文中あるいは脚注等で示すこと。
- (3) 上記2つを踏まえ、批判的に考察すること。
- (4) 内容に応じて、タイトルと小見出しをつけること。

〈評価の観点〉

- (1) 実際に調査や観察を行い、適切にレポートされているかどうか。
- (2) サービスの定義、意義、効果が明確に述べられているか。
- (3) 事実と自身の意見を明確に分けているか。

〈その他の注意点〉

調査方法について明記すること。(例：文献調査、Web ページ調査、アンケート調査、対面 / インタビュー調査、観察等) 調査する際は、職員や利用者のプライバシーに配慮し、迷惑にならないように個人の責任で行うこと。実地調査においては、後で十分に考察できるよう、できるかぎり詳細に記録しておくこと。

参考文献

- 秋田喜代美『読書の発達心理学：子どもの発達と読書環境』国土社、1998。
 汐崎順子『児童サービスの歴史：戦後日本の公立図書館における児童サービスの発展』創元社、2007。
 児童図書館研究会編『年報こどもの図書館 2012 年版』日本図書館協会、2012。
 日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編『児童図書館サービス』1・2、日本図書館協会、2011。
 野上暁『子ども学その源流へ：日本人の子ども観はどう変わったか』大月書店、2008。
 堀川照代編著『児童サービス論 (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 6)』日本図書館協会、2014。

科目試験等への
アドバイス

子どもにかかわるサービスについては、過去の体験や主観的判断で回答しがちです。そのため、①専門用語や事柄を客観的に説明できているか、②上記を理解したうえで自分自身の考えを述べているか、が問われます。批判的考察を行うために、現代の問題等を新聞やニュースから収集すること、児童資料以外の文献からも学修すること、そして常日頃から公共図書館等を訪れて実際の現場を目にしておくこと等が望まれます。

教員からの
メッセージ

「児童サービス論」とは、公共空間において絵本・児童書と子どもたちとの出会いを支援するための科目です。したがって当科目では、受講生が児童書を味わい楽しむことを目的とするのではなく、児童書を知り、かつ児童サービスの社会的意義、知識、技術等を学修していくことを目指します。
 また、司書資格取得のための科目という性格上、テキストや文献の理解度はもちろん、大学で求められる論述等が問われることになります。体験談、感想文・エッセイ・ビジネス報告書のような書式は評価の対象とならないため、注意してください。

07431 図書館情報技術論

2単位

テキスト名

『図書館と情報技術：情報検索基礎能力試験の過去問題と解説収録』 樹村房
(登録年度によっては同社の『図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』の場合があります)

科目概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。(司書資格必修科目)
主な到達目標	図書館業務に必要な情報技術について十分に理解し説明できること。
テキスト学修の留意点	本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」という学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいくスタイルになろう。以下の「課題」欄も、学修課題というよりむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめた。詳しくは指導書を参考にされたい。コンピュータ自体の操作方法は特に扱わないので、各自で実際に情報技術に接する機会を作られたい。 本科目で扱う内容は、持っている知識の個人差が非常に大きいので、どのような読者を想定するかによってテキストの書き方が変わってくる。数種類ある本科目のテキストの中でも、基本的な知識から丁寧に説明しているものを選んだ。その分、説明が一般論や抽象論のみだったり、たとえ話的な説明ですませていることもあるので、情報技術に詳しい人は、いろいろと指摘したくなるかもしれないが、初学者用なのでご了承ください。逆に、本書の内容でも難しいと感じられるところがあれば、おろそかにせずに、疑問が解決するまで調べてみると良いだろう。 なお、登録年度によってはテキストとして『改訂・図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』(樹村房)が送られてくる場合があり、内容や順序がこのシラバスと若干異なっているが、これについては学修指導書の補遺を刊行して対応する予定なのでそちらを参照されたい。また、試験についてはどちらのテキストを使用しても対応できるように出題することとする。

	学修テーマ	課 題
1	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史、基本的な構造、各種ハードウェアの種類について学ぶ。
2	コンピュータの基礎 (2)	文字・画像・音声などがコンピュータ内でどのように表現されているかを学ぶ。また、すべての情報をいったん数値化(デジタル化)することによって「計算機(計算しかできない機械)」が「情報処理機器」になったことを理解する。
3	ネットワークの基礎	コンピュータネットワークの基礎知識、特にインターネット、プロトコル、WWWの概要を学ぶ。
4	情報技術と社会 (1)	社会生活と情報技術がどのように関わってくるかを、身近な例を通して学ぶ。
5	情報技術と社会 (2)	情報技術に関わる知的財産権として、著作権と特許権について学ぶ。
6	データベースのしくみ	データの定義、データベースのしくみと種類について概要を学ぶ。
7	検索エンジンのしくみ	インターネット上の情報を探すために不可欠な検索エンジンのしくみについて概要を学ぶ。
8	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	コンピュータのOSがもつ管理機能を概観し、システムに求められるセキュリティ対策について学ぶ。
9	図書館における情報技術活用の現状	図書館で情報技術が必要である理由と、実際の活用事例について学ぶ。
10	図書館業務システムのしくみ	今日の図書館では業務全体を統合するシステムが走っていることが多いが、その概要やしくみについて学ぶ。
11	電子資料の管理技術	多様化する電子資料の種類や、管理技術について学ぶ。
12	デジタルアーカイブ	情報を電子的に変換・保存し後世に残すしくみについて、歴史・意義・作成技術・実例などを学ぶ。
13	最新の情報技術と図書館 (1)	図書館で用いられるようになった新しい情報技術として、ICタグと自動ロボット機(自動書庫や自動貸出機等)について学ぶ。
14	最新の情報技術と図書館 (2)	新しい情報技術の導入によって図書館がどのように変わっていくか考える。
15	情報検索基礎能力試験	学習のまとめを兼ねて、過去の情報検索基礎能力試験を実際に解いてみる。

シラバス執筆：松山 巖

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉PCのスペック 第1章～第6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日頃よく使っているコンピュータを1台選び、そのスペックを、コンピュータに疎い人にも通じるように分かりやすく説明してください。なお、本分冊は字数制限を2400字～3200字とします。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

【設定】

あなたはある日、コンピュータに非常に疎い知人（家族でも親戚でも隣人でもよいが）から、「初めてパソコンを買うのだが、機能の比較をしようと思ったら、何がなにやらさっぱり分からない。少しカタログの見方とか教えてもらえないか」と相談を受けたので、とりあえず、自分が日頃使っているコンピュータを使って、丁寧に説明することになった。

【レポートの構成】

1. 選んだコンピュータのメーカーや型番を明記する。
2. 主要なスペックを一覧表形式で掲載する。
3. それらの各項目について、分かりやすく説明する。知人に説明しているという設定なので、「です・ます」体で書く。
4. 項目の中には、数字が含まれているものがある（例えば「ストレージ：SSD 256GB」）。この場合、「ストレージ、SSDとは何か」「256GBとはどういう意味か」だけでなく、この数字は大きいのか小さいのか程々なのかといった判断をするための目安、いわば数字の「相場」についても触れること。これが分からないと、カタログを見ても判断のしようがない。

【コンピュータの選定基準】

1. 原則として、通信教育での学びにおいて日常的に使用しているパーソナルコンピュータとする。複数台あるときは、次の優先順位とする。①デスクトップ（その場合はディスプレイについても述べる） ②ノート ③タブレット
2. 次のようなものは、たとえ「自分が日頃使っているコンピュータ」であっても、個人用・業務用・その他を問わず、対象外とする。①フィーチャーフォン（いわゆるガラケー） ②スマートフォン ③汎用機（メインフレーム） ④スーパーコンピュータ ⑤特定の機器（例えばカメラ、洗濯機等）などに内蔵されているマイクロコンピュータ
3. OSの種類は問わない。

【掲載するスペックの種類】

カタログやメーカーのサイトには、非常に多くの項目が挙げられているだろうが、それらを全部載せる必要は無いし、またその字数もないだろう。したがって、選んで載せることになる。コンピュータの性能を比較する上でどれが大事か、よく考えて選ぶこと。

その代わり、載せた項目は全てやさしく解説を付けること。

【説明の要不要について】

以下の用語は特に説明をせずに使って良い。コンピュータ、ディスプレイ、キーボード、マウス。

以下の用語は、**使用する場合は必ず解説を付けること**。スペック、ハードウェア、ソフトウェア、OS、CPU、クロック、ハードディスク、メモリ、USB、USBメモリ、ストレージ、ハードディスク、SSD、Wi-Fi、ポインティングデバイス（およびその具体例。マウスを除く）、など。（これらの用語を全部説明せよという意味ではない）

それ以外の用語については、相手に通じそうか、通じなさそうか、自分で判断すること。

【書かないで良いこと】

価格や品質保証期間等。実際にはこれらも比較の際に重要ではあるが、「コンピュータに非常に疎い知人」であっても理解できるであろう。

【参考文献等】

当然のことであるが、執筆にあたって参照したり参考にしたりした文献、文書、ウェブサイト等は全て明記すること。また、文献リストの書き方が分からなかったら調べること。（何通りかの流儀があるが、どれでも構わない。ただしレポートの中では一つの流儀で通すこと）

〈評価の観点〉

1. 上記の課題文や留意事項の求めに対してきちんと答えているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 自分なりのオリジナリティのある観点から説明・考察がなされているか。

〈その他の注意点〉

字数は通常と異なる（第2分冊とも異なる）ので注意すること。なお、スペックの表は字数に含めない。

〈課題〉

館内 OPAC 端末が稼働している図書館を1館選び、OPAC システムについて報告して下さい。なお本分冊は字数制限を3,000字～4,800字とします。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①選ぶ図書館は公共図書館が望ましい。ただし、近くに公共図書館がなかったり、あっても館内 OPAC が稼働していない場合は、他の館種でもやむを得ない（その場合はその旨レポートの冒頭で断ること）。
- ②報告の対象とする OPAC のシステムは、次の方針で選んで下さい。
- (1) 館内に設置された全ての端末（パソコン）が、Web OPAC にアクセスできるようになっている場合は、それについて報告する。
- (2) 一部の端末からは Web OPAC にアクセスし、他の端末からは独自のユーザインタフェースをもつ館内 OPAC にアクセスできるようになっている場合は、後者について報告し、Web OPAC については③の(9)で述べる。
- ③報告はおおむね次のような内容とします。また、(3)～(6)については、「一般向け／子ども向け」「日本語／English」「詳細検索／簡易検索」といった複数のモードがある場合、それぞれ前者について述べ、それ以外のモードについては(7)で述べること。
- (1) 図書館の基本的情報：館名、規模（蔵書数など）、OPAC の沿革（簡単に良い。ただし OPAC が最初に導入された時期、および現行システムの稼働開始時期は必ず含める）、調査日など。
- (2) 館内 OPAC システムの基本的情報：設置箇所、台数など。また、もし情報が得られれば、自館開発かパッケージソフトか、後者の場合はソフトのメーカーや名称など（ソフトの名称などについては非公開の場合もあるので、その場合は無理に聞き出さなくても良い）。また、利用者への配慮（設置箇所の工夫、わかりやすいマニュアルが掲示してある、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど）があればそれも。
- (3) 使い勝手（ユーザインタフェース）：入力方法（キーボード／タッチパネル／マウスなど）、漢字変換の有無、ヘルプ機能の有無、どのようなモードがあるか（子ども／大人、初心者／エキスパート…）など。端末によって異なる場合はその違いも分かるように。例えば、漢字変換について、キーボード端末でしか使えないのか、それともタッチパネルでも変換ができるのか（できるとしたらどう操作するのか）分かるように書くこと。
- (4) 検索方法：
 - a) アクセスポイントの種類（書名、著者名、NDC など。また、単独で指定できないものがあればそのことが分かるように）と入力窓の数。
 - b) アクセスポイントの指定方法（窓ごとに固定されているか、ドロップダウンリストで選ぶかなど。選べる場合、初期状態はどう表示されているか）。
 - c) ブール演算（and、or、not など）の可・不可、可の場合はその方法（例えばドロップダウンリストから選ぶとしたら、どのような文言が書かれているかも）、デフォルト（特に指示しなかった場合）ではどう扱われるか。
 - d) トランケーション（前方一致、後方一致など）の指定の可・不可、可の場合はその方法、デフォルトの設定。
 - e) コマンド検索（検索条件を、画面上で選ぶのではなく、すべてをユーザが文字列で入力する検索方法）が可能か（今日では少ないと思われるが）。
 - f) その他必要と思われること。
- (5) 検索結果の表示方法：
 - a) 一覧表示と詳細表示の2段階が多いと思われるが（そうではない場合は適宜説明すること）、それぞれの段階でどのような書誌要素が表示されるか。
 - b) 一覧表示の順序は何順で、件数は何件か。またそれらは変更できるか（可能な場合、検索条件を指定する段階で変えられるか、それとも一度一覧表示に入らないといけないか、またどう変更することが可能か）。
 - c) 書影が表示されるか。また表示される場合、一覧表示の段階で表示されるか、それとも詳細表示に入ってからか。

- d) リンクリゾルバ等を経由した他の書誌データ（例：NDL、Google ブックス、Amazon）へのリンクがあるか。
- e) 検索結果の再利用ができるか（たとえば一覧表示や詳細表示で著者名をクリックすると、その著者名で再検索できるなど）。
- f) その他必要と思われること。
- (6) 検索結果の利用（印字できるか、貸出中の時に予約がかけられるか、など）。
- (7) 上記と異なるユーザインタフェースが選べるか。選べる場合は、
 - a) どのようなモードがあるか（例：こどもモード、英語モードなど）。また、初期設定はどれか。
 - b) モードをどのように選ぶか（例：簡易検索はトップページに検索窓表示、など）。
 - c) そのモードを選ぶことでどこがどのように変わるか（インタフェースの表示、結果の表示のしかた、検索対象とする資料の範囲など）。←これを報告していないものが見えれば見られる。ヘルプ画面等には必ずしも明記してないことも多いので、いろいろ検索してみて推測すること。
 - d) その他必要と思われること。

【(8) 以降は字数の関係で「その他の注意点」欄に続く】

〈評価の観点〉

- ①その図書館に行ったことのない人が読んでも OPAC の概要をつかむことができ、あたかも自分が OPAC を実際に使っているかのように具体的な操作方法や画面表示がわかりやすく書かれているか。
- ②幅広い視点からの調査・報告が行われ、自分なりの考察がされているか。
- ③レポートの一般的な決まりに従っているか。特に引用する場合はルールに則って適正に引用されているか、またレポート全体としての趣旨が一貫しているか。
- ④テクニカルタームを正しく表記しているか。特に「ブール演算（ブール検索）」を誤って書いている例がよく見られる。

★根本的な問題として、レポートの文章は読み手がそのレポートだけを読んで十分に理解できるように書いて下さい。例えば、(5) の e) で、「e) できない。」のように書いてくる人がいますが、これでは何ができないのか課題集を引っ張り出してこないと分かりません。レポートはアンケートの回答用紙ではありません。一方で、「e) 検索結果の再利用ができるか（たとえば一覧表示や詳細表示で著者名をクリックすると、その著者名で再検索できるなど）。」で「できない」のように課題文を丸ごと全部コピー＆ペーストしている人がいますが、これも逆にくだらなくて読んで読みにくいです。また、「その他必要と思われること」が特にないと感じられた際にわざわざ「d) その他必要と思われること 特になし。」などと書く必要はありません。

〈その他の注意点〉

なし。

【以下、「レポート作成にあたっての留意事項」欄の続き】

③報告の内容（続き）

- (8) 使ってみて優れていると感じられる点、改善してほしい点、今後あると便利な機能などの評価。
- (9) もし Web OPAC のサービスも提供していれば、それとの比較（ただし館内 OPAC と異なるユーザインタフェースの場合）。特に、Web OPAC にあって館内 OPAC にない機能や、その逆に、どのようなものがあるか。
- (10) その他報告に必要と思われること、使ってみて気づいたこと、感想など。
- (11) なお、他の図書館の OPAC と比較してみるのもよいでしょう。

④利用者登録、イベントの案内、図書館だよりの表示など、目録機能以外の諸機能については触れる必要はありません（画面のデザインを説明する関係上どうしても触れる必要がある場合も最低限にすること）。「OPAC について報告せよ」という課題です。OPAC の C は何の略か考えて下さい。

参考文献

.....
 一般社団法人情報科学技術協会・監修、原田智子・編著『検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト』（樹村房、2018）
 コンピュータ・情報技術関係の用語辞典（一般の書店で売っているものでよい。なるべく新しく、図表が多く、見やすいものを選ぼう）
 1 冊だけ挙げるとしたら、秀和システム第一出版編集部編著『最新基本パソコン用語辞典』第 4 版、秀和システム、2017
 その他、それぞれの章で扱っている内容に関してより詳しく・深く学ぶための図書は、あまりにも種類が多すぎるので、書店や図書館などで各自実際に手にとって、自分に合ったものを探して下さい。

科目試験等への
アドバイス

.....
 情報技術にあまり親しみのない人にとっては、さまざまなテクニカルタームが多数出てきて学習しにくいかもしれませんが、自分でノートに要点をまとめたり、テキストに書き込みや色分けなどをしながら学習していくと、おのずと試験対策にもなるでしょう。また、情報検索基礎能力試験の問題（テキストの巻末に解説付きで一部収録。過去の問題は情報科学技術協会のサイトで公開。なお現在では検索技術者検定 3 級という）も参考になると思います。また、本書はあまり索引が充実していないので、自分なりに詳細な索引を作成するというのも一法です。
 なお、テキストとして『改訂・図書館情報の技術』を使用している人は、巻末の問題は省かれているので、参考文献欄に挙げたテキストや上記サイトなどを参照してください。また、旧版に比べ索引は比較的充実していますが、それでも自分で本文を読みながら、索引として拾い上げるべき語句などにマークしていくのは良い読み方でしょう。

教員からの
メッセージ

.....
 30 年前、多くの図書館において、コンピュータを初めとする情報機器、そしてそれらをつなぐネットワークは、業務上「なくても何とかなるが、あると便利」なものでした。今日、それらは「当然のもの、不可欠なもの」になっています。図書館に勤務していればその変化を実感する場面は多いでしょうが、そうでない人は特に、実際に図書館に足を運び、情報技術が現場にどのように活かされているか、情報技術の導入によって何が変わったかを考えてみましょう。

07432 図書館制度・経営論

2単位

テキスト名

高山正也編『改訂 図書館経営論
(新・図書館学シリーズ2)』樹村房

科目概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、生涯学習社会における図書館という視点に立って、図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について理解を図る。また、行政的、組織運営的な見地から公立図書館の経営にかかわる諸問題に焦点を当て、その理解を目指す。(司書資格必修科目)
主な到達目標	我が国の図書館制度とそれを支える法令、および図書館の経営管理の基本的な知識について、理解し説明できること。
テキスト学修の留意点	本科目の内容は、科目名のとおり「図書館制度論」と「図書館経営論」に大別される。このうち図書館制度論の部分は、旧司書課程では「図書館概論」で扱っていたものだが、同科目で扱う内容が過重だということで新課程では図書館経営論と併せて学修することになった。ただし、新課程に移行した時点ではまだこの新課程の内容に対応したテキストがなかったため、「図書館制度論」の部分に関しては「図書館概論」のテキストを使用して学ぶ。具体的な学修箇所については、本科目の指導書を参照されたい。 次に、図書館経営論に関しては、組織経営に関する一般論として通用する部分と、非営利組織特有の部分、さらにはその中でも図書館ならではの部分があることを意識して学ぶとよい。また、個別のサービス業務については「図書館サービス論」「情報サービス概説」「児童サービス論」などで詳しく学ぶので、それらのテキストを随時参照すると理解が深まる。 なお、両分野とも『図書館雑誌』『みんなの図書館』などの雑誌に、参考になる記事が載ることがあるので、公共図書館などで読んでみると良い。

	学修テーマ	課 題
1	法体系と教育法規制度の基礎	図書館制度を支える我が国の法令が、日本国憲法を頂点としてどのような体系になっているか。また、それぞれの種類の図書館に対応してどのような法令があるか学ぶ。
2	図書館法の逐条解説 (1)	我が国の公共図書館制度を支える根幹である図書館法について詳しく学び、各条文のもつ意義についてまとめてみる。
3	図書館法の逐条解説 (2)	引き続き、我が国の公共図書館制度を支える根幹である図書館法について詳しく学び、各条文のもつ意義についてまとめてみる。
4	図書館法の逐条解説 (3)	図書館法のもつ特徴をどのように評価するか考える。
5	他館種の図書館に関する法律等	学校図書館法、大学設置基準、国立国会図書館法、大学設置基準の概要を学び、まとめてみる。
6	図書館サービス関連法規	子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法等の概要を学び、まとめてみる。
7	図書館経営の意義	図書館経営に関する基本的な概念を学び、経営という側面から捉えた図書館の存在について考える。
8	自治体行政と図書館	公共図書館の運営の法的根拠や、自治体行政との関係について学ぶ。特に最近では「多様化する図書館の財源」についてしばしば論じられることが多いので、雑誌記事等で補っておくと良い。
9	図書館業務の理論と実際	図書館の業務分析とは何か理解し、その上で、業務の4分類、各業務の簡単な内容についてまとめてみる。効率化・合理化とは何か考察する。
10	図書館の組織	組織の一般論について学習する。図書館組織の類型について把握し、いくつかの実例にあてはめる。
11	図書館の職員	図書館の職員にはどのような種類があり、その相互の関係や、求められる資質はどうであるべきか考える。臨時・派遣職員の問題についても考察する。
12	図書館の計画とマーケティング	図書館の経営計画、マーケティング論の基礎、非営利組織へのマーケティングの応用について学ぶ。学習内容が、図書館以外の非営利組織（たとえば趣味のサークルなど）にも類推適用できないかどうか考えてみよう。
13	図書館の施設整備計画	図書館建築に関して、特に空間配置、配慮すべき設備、快適な空間を中心に学び、近隣の図書館に出向いて、これらの視点から実際の施設整備がどのようになっているかを視察し、考察する。
14	図書館ネットワークの形成	図書館ネットワークの意義・種類・運営・評価、類縁機関について学ぶ。
15	図書館業務・サービスの評価	図書館評価の目的、方法、統計、指標について学び、それに基づいて実際にある特定の公共図書館などの評価を試みる（課題の第1分冊にもつながる）。その上で、良い図書館とは何か、自分なりの考えをまとめる。

シラバス執筆：松山 巖

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉図書館法規 図書館概論の該当箇所(指導書参照)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ①日本国憲法から図書館法に至る、わが国の公共図書館制度を支える法体系について、分かりやすく概説せよ。
- ②その上で、こんにち公共図書館に関わる法制度がもつ問題点を一つ取り上げて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストや参考文献からつまみ食い式に寄せ集めてもレポートはできません。

- ①については、図書館に関わる法体系の全体像をしっかりと把握した上で、読者がこのレポートだけ読んでも図書館の法体系の姿が理解できるように、特に法令同士のつながりが分かるように書くこと。
- ②で取り上げる問題点は、テキストにあるものでも、それ以外のものでかまいません。また、事実に基づいており、十分な説得力があれば、結論がテキストの著者の意見と異なってもよいでしょう。ただし、図書館業界の問題点なら何でもよいのではなく、法制度の問題点について論じること。

〈評価の観点〉

課題の求めに対する答えとなっているか。
 テキストで学習した内容が活かされているか。
 全体としての論述の筋が通っているか。
 自分なりの観点からの考察が行われているか。
 引用する場合にルールが守られているか。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉利用登録率向上のための公共図書館経営 図書館経営論

横書き指定

Word添付

〈課題〉

公共図書館における利用登録率を向上させるためにはどのように取り組んでいったらよいのか、現状分析し、考察し、まとめること。詳しくは〈レポート作成にあたっての留意事項〉参照。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

【基本的な考え方】

公共図書館は、「いつでも、どこでも、誰でも、自由に、無料で」利用できます。しかしながら、地域住民の誰もが利用登録をして公共図書館を利用しているわけではありません。

こうした状況に対して、公共図書館では、非来館者を含む調査(住民アンケート調査)を行い、その状況を把握し、図書館サービスの改善、実施をしようとしています。

本来ならば、図書館員として、実際に地域住民にアンケート調査し、得られたデータを使って現状分析したいところですが、ほとんどの学生にとってそれは困難と思われます。幸い、今日では多くの公共図書館がすでに住民アンケート調査を行って結果を公表していますので、これらのデータを利用することとします。自分がその図書館員になったつもりで、利用登録率を向上させるにはどのようにしたらよいのかを考え、レポートにまとめてください。

【対象とする図書館の選び方】

(A) 対象とする図書館は、市区町村立の公共図書館で、非利用者を含む住民アンケートを行っているところとします。したがって、公共図書館であっても都道府県立は対象外です。また、昼間人口が夜間の人口の10倍を超える自治体も、条件が違いますが除外します(例えば東京都千代田区)。

公共図書館以外の館種(大学図書館等)も対象外です。データの解釈・分析・考察を行う上で、図書館の立地条件や、地域の住民特性や、時間帯・曜日による利用者層の違いなどの情報は、大変重要です。したがって、なるべく自分が居住している(いた)地域にあり、日頃から利用している(いた)図書館を選んで下さい(日頃から利用していない人も実際に一度は足を運んで実際に見て下さい)。行ったことも見たこともない図書館を、数字だけを見てもっともらしく論じようとしても、無理があります。

(B) なお、身近な地域の図書館ではあるが、来館者調査はあるけれども住民アンケートを実施していない場合は、次のいずれかの方法で書いて下さい。

- ①来館者調査のデータのみを用いつつ、非来館者の気持ちを汲んだ考察を行う。その場合は、住民アンケートが行われていない旨を明記すること。また、人口規模や地域特性の似ている他の自治体の調査結果も参考にするとよい。
- ②なるべく近隣の自治体で、両方の調査が行われている図書館を選ぶ。

(C) また、身近な地域に図書館がなかったり、図書館はあっても住民アンケートも来館者調査も実施していない場合(実施していても結果を公表していない場合も含む)は、やむを得ませんので、身近でない地域の図書館で上記の(A)または(B)の条件を満たすところを探して下さい。その場合はその旨本文でことわること。

【レポート作成要領】

1. 公共図書館の住民アンケート調査(非来館者調査ともいう)の結果を入手します。

調査結果は通常、冊子体で配布されています(職員に聞けば在庫がある限り無料でもらえるのが普通です)。また、図書館のウェブサイト上で公表されることも多くなりました。これらを利用して、調査項目の内容、図書館に対する意識、なぜ利用しないのかの理由、それに対する図書館側の対応などを知ることができます。

多くの場合、並行して来館者調査も行っていますので、両者の意識の違いを比べてみるとまた興味深い分析ができます。

2. その図書館の利用登録率、およびその他の評価に必要な指標(データ)を求めます。

これらの指標(データ)は、各図書館が作成する『図書館年報』等の報告書(『〇〇市の図書館』のようなタイトルのことも多く、通常無料で配布している)や、『日本の図書館 統計と名簿』『図書館年鑑』(いずれも日本図書館協会刊)といった情報源から入手できます。

また、サービス対象地域の人口は、上記報告書や、各自治体の広報、ウェブサイトなどで知ることができます。

利用登録率等の、図書館の評価に使用される指標の計算式は、テキストを参照。

他に、考察に必要であれば、蔵書数、貸出冊数、予算、職員数などの基本的な図書館統計のデータも用いて構いません。

3. 上記の各種データを利用して、公共図書館における利用登録率を向上させるためにはどのように図書館を運営すると良いのか考察し、レポートにまとめてください。

感想ではなく、データを用いて、その図書館の図書館員になったつもりで考察・説明してください。

多くの調査では、その図書館が行った分析・考察が書かれているかと思いますが、必ずしもそれにとらわれることなく、自分なりの観点で考えてください。一利用者としての視点からの提言のほうを射ていることもあります。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 論旨が一貫しているか。
3. 必要な情報が的確に選び出され、適切に分析されているか。
4. データを用いて、自分なりの視点に立った考察・提言等が書かれているか。

〈その他の注意点〉

1. 利用した調査データは出典を明記すること。特に実施時期、調査対象者の選び方、回収率などが明記されていないアンケート結果は無意味です。
2. 表やグラフなどは本文に入れず、文章で説明すること。どうしても必要なときは本文とは別に付録として添付すること。
3. 調査結果の数字を本文中で延々と列挙しているレポートが時々あるが、そういう生データは本文とは別に付録として（文章ではなく表で）添付すること。本文中では議論を進める上で必要なものに限って挙げればよい。
4. 調査対象館の数字を見ているだけでは、その数字をどう解釈したら良いのか、分りにくいかもしれません。そのようなときは、他の自治体と比較してみるとよいでしょう。ただし、図書館評価に用いる指標は、自治体の人口規模によって激しく変わりますので、なるべく規模や地域特性が近い自治体と比較しましょう。また、登録率は利用者登録の有効期間の長さによって大きな違いが出てくるので、比較に当たっては注意が必要です。
5. 年の表記について。書誌情報の表示（報告書のタイトル等）や本文からの引用などの場合は原文通りですが、地の文においては元号は使用せず西暦で統一してください。

参考文献

塩見昇編著『図書館概論』6訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-1）日本図書館協会、2024年 ISBN 978-4-8204-2407-9
小田光宏・庭井史絵編著『図書館サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III-4）日本図書館協会、2023年 ISBN 978-4-8204-2308-9
ほか、テキストの巻末に掲載されている諸文献

科目試験等への アドバイス

本科目に特有の方法といったものは特にありません。テキストをしっかりと読んで学習し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずです。
例えば、学習ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つでしょう。
なお、テキストで学習した基礎知識を問う問題だけでなく、それを活用して新たな課題に対して自分なりに考える力を見る問題も出ることがあります。過去の出題問題集も見とくと良いでしょう。

教員からの メッセージ

法令に関する学習においては、なまの条文を読むことも重要です。テキストにもある程度は載っていますが、六法全書や web サイト（総務省の法令データ提供システム「e-Gov 法令検索」<https://elaws.e-gov.go.jp/>）などで実際の条文に当たってください。また、法令はしばしば改正されるので、なるべく新しい情報を得るようご注意ください。

07433 図書館サービス概論

2単位

テキスト名

『現代図書館情報学シリーズ
改訂図書館サービス概論』

科目概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権等の基本を解説する。
主な到達目標	・図書館サービスの考えと構造を理解する。
テキスト学修の留意点	・課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館サービスの意義と方法	・公共図書館の持つ社会的機能について読み取る。 ・図書館サービスの理念をあらわした宣言等を読み役割と制限について知る。
2	図書館サービスの構成要素	・図書館サービスを検討する際の構成要素について概要を知る。 ・図書館が資料・情報を提供することの意義と社会的機能について読み取る。 ・図書館サービスの今後の方向性について読み取り考える。
3	戦後日本の公共図書館サービス略史 1	・現代の日本の公共図書館の役割がどう成立してきたかを戦後の民主化などの経緯から読み取る。 ・高度経済成長期の日本の社会の変化と、それに対応するために公共図書館がどのようなサービスを提示していったのかを知る。 ・『中小レポート』『市民の図書館』が示した図書館サービスの方向性を読み取る。 ・現代社会と比較して、45年から70年代後半までの図書館サービスとの違いを考える。
4	戦後日本の公共図書館サービス略史 2	・安定成長期、少子高齢化社会、人口減少社会など80年代から現代までの日本の社会の変化に対して、図書館サービスがどう変わっていったのかを読み取る。 ・日本でインターネットが一般化したときに、公共図書館サービスがどう変わっていったのかを読み取り、自分の経験と比較してみる。 ・これからの図書館サービスについて検討する。
5	図書館サービスとコンプライアンス	・図書館サービスを実施する上での前提条件として、法令特に著作権法について知る。 ・社会における情報の共有と、無料原則という公共図書館の理念と、著作権者の経済的利益を守る著作権法の理念との中間に現代の図書館サービスがあることを理解する。 ・インターネットを中心としたオープン化の運動について理解し、今後の情報流通の方向性を考える。
6	資料提供サービス 1	・「直接サービス」と「間接サービス」の違いについて読み取る。 ・資料提供サービスの概要を知る。 ・大量の予約や複写などが、出版に与える影響と、著作権者からの意見を知り、そのバランスを考える。
7	資料提供サービス 2	・文献送付サービス、複写サービスについて読み取る。 ・利用提供サービスに類するサービスについて知る。
8	情報提供サービス	・資料提供サービスと情報提供サービスの違いを読み取る。そのうえで、情報提供サービスの方法の一つとして資料提供サービスがあることを理解する。 ・レファレンスサービスの概要とその意義について知る。 ・間接サービスについて知り、その重要性を考える。 ・インターネット社会における非来館型サービスやレファレンスサービスの今後について読み取り検討する。
9	図書館サービスの協力と連携	・公共図書館間の相互協力体制の概要について読み取る。 ・他の館種および他機関との連携の必要性について読み取る。 ・現代社会において図書館を含めた生涯学習機関の連携の必要性について考える。
10	課題解決支援サービス	・第4回の学習内容を復習し、課題解決支援サービスがなぜ提唱されてきたのかを読み取る。 ・課題解決の対象者、課題の範囲などについて読み取る。 ・具体的な課題解決サービスの概要について読み取る。
11	図書館利用に障害のある人へのサービス 1	・「図書館利用に障害」として考えられることを考えてみる。 ・図書館利用に障害がある人の類型を読み取る。特に既存の障害者との関係を考える。 ・「障害者サービス」について読み取る。
12	図書館利用に障害のある人へのサービス 2	・既存の障害者サービス以外で、図書館利用に障害がある人の類型について考える。 ・小さなお子さんを持つ保護者へのサービス、日本語以外が母語の人へのサービス、図書館に行くことができない人へのサービスなどについて読み取ったり、インターネットで調べる。 ・インターネットなどが果たすことができる役割などについて検討する。

13	利用者との コミュニケーション	・対人サービスとしての図書館サービスにおいて、担当者が持つべきスキルなどについて読み取る。 ・館内での案内サインなどについて知る。 ・図書館サービスの広報について概要を知る。 ・インターネット時代の広報活動について考える。
14	図書館サービスの 課題（1）	・公立図書館数不足の現状とその論点。 ・指定管理者制度の導入についての現状とその論点。 ・著作権が図書館サービスに及ぼす影響。
15	図書館サービスの 課題（2）	・インターネットと図書館について。 ・新形状資料の登場が図書館サービスに及ぼす影響について。

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉図書館の社会的役割とサービス 第1分冊(第1章・第2章・第3章・第4章・第5章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

戦後の日本民主化の目的と公共図書館サービスが社会に果たす役割についてテキスト等を読み取りながら説明しなさい。
その際、資料提供サービスや情報提供サービスといったサービスが社会においてどんな役割を果たす必要があるのか具体的にサービスの意義について検討し記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・戦後の日本の民主化、特に教育改革の方向性について、インターネット等で調べること。
- ・図書館で行われているサービスが、民主主義社会においてどんな役割があるのかについて記述すること。
- ・インターネット社会でのサービスの今後について検討し記述すること。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

第2分冊 〈略題〉図書館利用に障害がある人へのサービス 第2分冊(第6章・第7章・第8章・第9章・第10章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

図書館における“図書館利用に障害がある人へのサービス”の意義と内容を、テキストおよび参考文献にもとづいて考察し、説明しなさい。また、特定の公共図書館における“図書館利用に障害がある人へのサービス”の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・どのグループのサービスについても考察すること。
- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

参考文献

.....
テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への アドバイス

.....
テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの メッセージ

.....
テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

07434 情報サービス論

2単位

テキスト名

『新訂 情報サービス論
(新 現代図書館学講座 5)』

科目概要	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンス、情報リテラシー教育、発信型情報サービス、情報探索・利用環境の整備、参考図書・データベース等の情報サービスの情報源等について解説する。
主な到達目標	・ 図書館における情報サービスの意義を理解する。 ・ レファレンス、情報リテラシー教育、発信型情報サービス、情報探索・利用環境の整備、参考図書・データベース等の情報サービスの情報源等について理解する。
テキスト学修の留意点	・ 課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・ 特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・ レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館の情報サービス (1)	・ インターネット環境において図書館が情報サービスを行なう意義。 ・ 図書館において行なわれる情報サービスについて。 ・ 利用者の情報探索行動。
2	図書館の情報サービス (2)	・ アメリカにおけるレファレンスサービスの成立と発達について。 ・ 日本におけるレファレンスサービスの成立と発達について。 ・ 情報機器の登場やインターネットの普及について。 ・ 個別支援型サービスと発信型サービスについて。
3	個別支援型サービス (1)	・ レファレンス質問の受付と回答について。 ・ レファレンス質問のタイプ別、受付方法について。 ・ レファレンス質問の傾向・難易度等の分析について。 ・ レファレンスサービスの指針・制限について。
4	個別支援型サービス (2)	・ レファレンスサービスの実践・コミュニケーションについて。 ・ レファレンスインタビューについて。 ・ レファレンスプロセスと探索戦略について。 ・ レファレンス事例集・事例データベースと国立国会図書館のレファレンス協同データベースについて。
5	情報リテラシー教育 (1)	・ 情報リテラシーとは何か。 ・ アメリカおよび国際図書館連盟による指針、文部科学省の「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」、日本図書館協会の「図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版」について。 ・ 情報リテラシー教育の評価、コスト、協働について
6	情報リテラシー教育 (2)	・ オリエンテーション（オンデマンド型）の実践例。 ・ セミナー型の実践例について。 ・ 大学の授業として情報リテラシー教育を担当する業務の実践例について。 ・ ラーニングコモンズと情報リテラシー教育の関係について。
7	情報リテラシー教育 (3)	・ オンラインチュートリアルの実践例について。 ・ オンラインチュートリアルなどのコンテンツ作成に当たって留意すべきこと。 ・ 情報リテラシー教育の冊子体テキストの実践例について。
8	発信型情報サービス (1)	・ なぜ図書館が情報発信しなければならないかについて。 ・ 図書館ウェブサイトで提供されるコンテンツと運営、管理。 ・ ウェブサイトのユーザビリティ、アクセシビリティについて。
9	発信型情報サービス (2)	・ パスファインダーとその実践例、作成について。 ・ 情報サービスにおける電子情報源への移行について。 ・ 情報技術、情報流通、情報環境が変化する現代における図書館サービスについて。
10	発信型情報サービス (3)	・ 図書館が提供する契約電子情報源について。 ・ 電子ジャーナルについて。 ・ リンクリゾルバ、OPAC と電子情報源との関係について。 ・ リモートアクセスについて。
11	情報探索・利用環境の整備	・ 情報探索のためのインターネットなどの利用環境整備について。 ・ レファレンスカウンター、レファレンスルームについて。 ・ 書架、閲覧スペース、パソコンの利用環境について。 ・ インフォメーションコモンズ、ラーニングコモンズについて。
12	情報サービスの管理と運営 (1)	・ 経営戦略としての情報サービスについて。 ・ 図書館業務の機械化・オンライン化・ネットワーク化について。 ・ 主題別部門制、ビジネス支援などの問題解決支援について。

13	情報サービスの管理と運営 (2)	・レファレンスライブラリアンのための人材育成と研修について。 ・資料費の確保について。 ・個人情報の取扱い、著作権法への対応、問題利用者の存在とその対応について。
14	情報サービスの情報源 (1)	・情報源の種類について。 ・レファレンスコレクションとその構築、マネジメントについて。 ・基本的な情報源と探し方の基本 (総合)
15	情報サービスの情報源 (2)	・基本的な情報源と探し方の基本 (分野別)

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉利用教育 第1分冊(第1章・第2章・第3章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

一般成人または大学学部学生に対して、百科事典について、及びその具体的な利用方法を説明するための文章を作成しなさい。利用方法については小学館『日本大百科全書』または平凡社『世界大百科事典』を想定するのが望ましい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・対象は図書館員ではなく、一般の成人や大学生であること。
- ・具体的な利用方法をわかりやすく説明すること。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。凡例・説明文やテキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない

第2分冊 〈略題〉パスファインダー 第2分冊(第4章・第5章・第6章・第7章)

横書き指定

直接入力

〈課題〉

以下の要領で、一般成人または大学学部学生に対して提供することを前提とした、簡易なパスファインダーを作成しなさい。

- ①テーマを決定し、そのテーマについての概要を簡潔に書く。
- ②①のテーマに合うレファレンス資料（電子情報源も可）を3つ選び、その書誌事項を記すとともに、利用する人がわかりやすいように簡潔な解説を書く。
- ③①のテーマを知るのにまず読むべき入門書・概説書を3つ選び、その書誌事項を記すとともに、読む人がわかりやすいように簡潔な解説を書く。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・一般成人または大学学部学生が図書館において調査をおこなうのにふさわしいテーマを選択すること。
- ・②はレファレンス資料であり、③は入門書・概説書である。両者の役割の違いを明確に意識して資料を選ぶこと。
- ・書誌事項や解説の書き方については、テキスト第7章第2節「基本的な情報源と探し方の基本」を参考にするとよい。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキストやWebの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない

参考文献

.....
テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への アドバイス

.....
テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの メッセージ

.....
テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

07437 図書館情報資源概論

2単位

テキスト名

『図書館情報資源概論三訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）』
日本図書館協会

科目概要	この科目では、利用者の要求に応じるために図書館が収集・保存・提供する情報資源について、その特性、選択・収集の考え方・方法論を学習する。
主な到達目標	・図書館が収集・保存・提供する情報資源について、その特性を理解する。 ・図書館における情報資源の選択の考え方・方法について理解する。 ・図書館における情報資源の収集の考え方・方法について理解する。
テキスト学修の留意点	・課題に挙げられたテーマについて、自分の言葉で説明できるようにすること。 ・特に上記の主な到達目標に関わる課題については、自分なりの問題意識を持って説明ができるようにすること。 ・レポート課題は、テキストが説明している内容を理解していることを前提とした上で、その理解を設定された課題に応じて適用し、説明することを求めている。テキストの内容を十分に、かつ問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。

	学修テーマ	課 題
1	図書館情報資源の意義	・図書館情報資源の定義、範囲、類型について。また図書館資料との違いについて。 ・図書館員が専門職とされるには何が必要か。
2	印刷資料（1）	・図書の特質について。 ・雑誌の特質について。
3	印刷資料（2）	・新聞の特質について。 ・小冊子の特質について。 ・地図の特質について。
4	非印刷資料	・点字・録音資料の種類と特質について。 ・マイクロ資料の種類と特質について。 ・映像資料の種類と特質について。 ・音声資料の種類と特質について。
5	電子資料（1）	・パッケージ系電子資料の概要と特徴について。 ・ネットワーク情報資源の概要と特徴について。 ・ネットワーク系情報資源と従来の図書館資料との違いについて。
6	電子資料（2）	・図書館資料のデジタル化の意義・課題について。 ・電子コンテンツ・電子出版の現状について。
7	資料特論（1）	・灰色文献の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。 ・政府刊行物の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。 ・地域資料の概要およびそれらを図書館が収集・提供することの意義について。
8	資料特論（2）	・人文科学の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。 ・社会科学の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。 ・自然科学・技術の学問分野としての性格と研究活動の特徴について。
9	出版流通システム	・書店と図書館の共通する機能と相違点、および両者の関係について。 ・出版流通経路の特徴について。 ・再販制度の意義について。
10	図書館資料と知的自由	・図書館の自由の概要と意義について。 ・「図書館の自由に関する宣言」の内容について。 ・著作権と図書館業務について。
11	蔵書論	・図書館における蔵書の意義について。 ・蔵書構成方針・収集方針と除架について。 ・予約制度について。
12	収集と選択	・選書の意義について。 ・選書論とその歴史的変遷について。 ・選書のプロセスについて。
13	蔵書管理、資料の組織化	・蔵書更新の意義と実際のすすめ方について。 ・蔵書評価法について。 ・資源共有、分担収集・分担保存の意義について。 ・受入業務、資料の装備について。
14	書庫管理	・蔵書点検の概要と意義について。 ・資料保存・修復の概要と意義について。 ・メディア変換の概要と意義について。
15	学修のまとめ	・これまでの学修内容を踏まえて、これからの図書館情報資源はどうあるべきか。

シラバス執筆：日向 良和

レポート課題

第1分冊 日向 良和

第2分冊 日向 良和

第1分冊 〈略題〉電子資料または地域資料 Unit 1～22

横書き指定

直接入力

〈課題〉

電子資料または地域資料のどちらかひとつを選び、図書館情報資源としての意義、特質、取り扱い等について、テキストおよび参考文献にもとづいて説明しなさい。また、特定の公共図書館または大学図書館のいずれかを選び、その図書館における電子資料または地域資料の収集と提供の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

第2分冊 〈略題〉資源共有 Unit 23～50

横書き指定

直接入力

〈課題〉

資源共有・分担収集・共同保存について、その意義と概要を、テキストおよび参考文献にもとづいて説明しなさい。また、実際の図書館における資源共有・分担収集・共同保存の実態を調査し、報告・考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・実態調査は、事項の羅列等に終始せず、自らの分析・批評を加えること。
- ・実態調査は、実際に来館するか、紙媒体の文献で調査するか、web上のサイト・文献で調査するかのいずれの方法をとってもよい。また必要であれば複数の図書館を対象にしてもよい。
- ・実態調査は、利用者として把握できる範囲でよいが、問題意識を持つてのぞむこと。

〈評価の観点〉

- ・記述内容が課題の求める内容に合致していること。
- ・記述内容が論理的に展開されていること。
- ・章立てをするなど、レポートの構成が明瞭であること。
- ・適宜、関連文献（教科書以外の文献）が参照され、その書誌事項が明示されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストの内容を十分に、かつ自分なりの問題意識を持って学習し、レポートに反映させること。テキスト・Webの書き写し、引用や事項の羅列は、評価の対象とならない。

参考文献

.....

テキストに掲載の参考文献を適宜参照すること。

科目試験等への
アドバイス

.....

テキスト全体の内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

.....

テキストの語句や事項を覚えようとするのではなく、なぜそうなっているのか、なぜそのようなことを理解する必要があるのかを常に念頭に置いて学習にのぞんでください。

科目概要	図書館が収集した情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源）から、利用者の情報要求を満たす資料を的確に検索できるようにするための理論と技法について論じる。すなわち、情報資源検索の手段となる書誌データの作成を規定した目録法の意義と役割について、また所蔵資料を書架上に組織し、主題からの探索を可能にする分類法の意義と役割について考察する。（司書資格必修科目）
主な到達目標	情報資源の組織化の意義と内容を十分に理解し、実際の作業に役立てることができること。
テキスト学修の留意点	本書の内容のうち、第2・3章はスクーリング科目の情報資源組織演習Aと、また第4章～第6章は同じく情報資源組織演習Bと内容的に密接な関係がある。演習を履修していない状態でテキストだけを学修しても、理解しづらい箇所も多いかもしれない。一方で、両演習を受講する際、本科目を既に学んでいるかどうかによって、演習の内容の理解度・定着度も大きく変わってくるので、演習を受講する者は先に本科目を学修していることが望ましい。したがって、本科目を学ぶに当たっては、演習A・Bの受講とうまく組み合わせた学修計画を立てるのがよい。詳しくは毎回の「課題」欄や指導書を参考にされたい。 本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」といったスタイルの学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいく形になるであろう。以下の「課題」欄でも、学修課題というよりはむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめたので、詳しくは指導書を参考にされたい。

	学修テーマ	課 題
1	情報資源組織：その目的・意義と概要（1）	図書館の情報資源とは何か、組織化とは何か、それはなぜ必要か、といった基本的な事項について学ぶ。テキストでは、重要な事項でありながら（あるゆえに）、抽象的な表現が多いので、ここで分かったつもりとせず、組織論全体（本科目だけでなく、演習のスクーリングも含む）を一通り学び終えた後で再び読み返して考えること。
2	情報資源組織：その目的・意義と概要（2）	間接サービス、直接サービス、既知資料検索、未知資料検索、書架分類法、目録法といった基本的な事項について学ぶ。本科目を学ぶ上で必須のテクニカルタームが次々と登場するので、意味を確認しながらしっかり読み進めたい。
3	目録法（1）	目録の定義と必要性、求められる機能、目録規則といった目録法に関する基礎知識を理解する。また、目録法の基本的な考え方として、既知検索や未知検索においてそれぞれどのような機能が求められるかを整理し、集中機能を果たすためには典拠コントロールが重要であることを理解する。また、目録データを作成する際には、知的生産物を「著作」ととらえ、同一の著作でも異なる「版」であれば別のデータとして記録することを把握する。 なお、このあたりから、本書だけで学修していたのでは抽象的で理解しづらいと思う人も出てくるであろう（特に目録作成の作業経験のない人は）。その場合は、情報資源組織演習Aの受講前に一通り目を通して（分からない箇所があっても構わない）、演習と並行して、あるいはその終了後に、再度本章以降を学ぶと理解しやすいだろう。
4	目録法（2）	目録規則のもとになる概念モデルであるFRBRの概要をつかむ。ついで、FRBRに基づいた目録規則では、実体の属性をどのように記録していくかを学ぶ。
5	目録法（3）	統制形アクセス・ポイントの構築の仕方、実体間の関連の記録の仕方を学ぶ。また、近代以降の目録規則の変遷誌を概観する。
6	書誌データ・メタデータと情報通信技術（1）	マークアップ言語、HTTP、メタデータ等のインターネット技術のごく基礎的な知識を学ぶ。ついで、インターネットを用いた図書館業務として、共同目録作成と分担目録作成、書誌ユーティリティ、ハーベスティング、OPACについて学ぶ。
7	書誌データ・メタデータと情報通信技術（2）	コンピュータが「意味を理解して（いるかのように）ふるまう」ようにするための方法として、XML、ダブリンコアについて学ぶ。
8	書誌データ・メタデータと情報通信技術（3）	引き続き、コンピュータが「意味を理解して（いるかのように）ふるまう」ようにするための方法として、セマンティックウェブ、RDF、LODについて学ぶ。
9	主題組織法	主題組織法の定義、具体的な手法、利便性について学ぶ。なお、本シラバスの9～13（テキストの4～6章）で扱う内容は、具体的には情報資源組織演習Bの授業で実際の作業を行うことになる。したがって、演習Bを履修する前にしっかり学んでおくこと。また演習中も折に触れて参照するとよい。
10	分類法（1）	分類の基本原則、分類法の種類について学ぶ。
11	分類法（2）	NDCの構造、特徴、使い方について学ぶ。
12	語による主題組織法（1）	自然語を用いた主題組織法の具体例、中でもシソーラスの特徴や構造についてより具体的かつ詳細に学ぶ。
13	語による主題組織法（2）	件名標目表、特にBSHについて、その特徴や構造を具体的かつ詳細に学ぶ。
14	語による主題組織法（2）	書誌コントロールについてさまざまな側面から学習する。「書誌コントロールとは何か、どういう意義があるか」という問いに端的に一言で答えるのは難しいので、本章全体をていねいに読み進めていく中で回答を見つけていってほしい。
15	索引・抄録	情報資源を組織化する一手法としての索引・抄録について概観する。

レポート課題

第1分冊 松山 巖

第2分冊 松山 巖

第1分冊 〈略題〉組織化とは(新) 1, 3, 7, 8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

資料の組織化とは何か、またそれは図書館にとってなぜ必要かを、日頃あまり図書館を利用していない普通の高校生が読んでも分かるように説明せよ。

読者に分かりやすくするために、図書館以外の事例(たとえば商店における商品の組織化など)について併せて述べても良い。ただし、本題は「図書館の業務・機能における資料の組織化」であるので、その視点を忘れないこと。

なお、本分冊は利用者向けの説明を想定しているの、敬体(です・ます体)で書くこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

図書館の専門家ではない相手に通じるように、用語や内容、文体などを工夫して書くこと。

そもそも、テキストの文章は一般の利用者向けではなく、司書(およびそれをめざす人々)向けに書かれているので、職員には重要だが利用者にはあまり必要ないような事柄も書かれている。それらの見分けも付かず、テキストをそのまま要約しても相手には通じない。自分はカウンターに入っており、高校生の利用者を相手に説明している、というその立場になったつもりで説明すること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 組織化とは何かという要点が把握できているか。
 4. 一般の利用者向けに説明するという視点で書かれているか。
 5. 分かりやすく説明できているか。
- なお、図書館情報学の専門用語(「資料」「目録」なども立派な専門用語)が何の説明もなく使われているものは、理解不足のために説明できないとみなしD評価とする。専門用語の使用は最小限に留め、かつ、初出時に説明を付けること。

〈その他の注意点〉

科目名は「情報資源」組織論であるが、情報資源全般について述べると煩雑になるので(初心者向けの説明を想定しているため)、ネットワーク情報資源には触れなくてよい。

第2分冊 〈略題〉課題(1) 選択者→NDC 課題(2) 選択者→NCR2018
2, 4～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 以下の(1)～(2)から1つ選択。
- (1) NDC(新訂10版)について、その特徴、長所、短所などを、NDC以外の分類法と比較しつつ述べよ。
- (3) NCR2018年版について、その特徴、長所、短所などを、従来の目録規則(NCR1987年版及びその改訂諸版)と比較しつつ述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 例えば課題(1)で、NDCの特徴を列挙し、それが済んでから他のある分類法の特徴を列挙しただけでは、比較したとはいえない。NDCの特徴を順次説明していきながら、それぞれの特徴について、その都度他の分類法と比較することで、NDCの特徴が浮き彫りになるように書くこと。(2)においてはその方針を貫くのは難しいかもしれないが、できるだけそのように心がけて書くこと。
2. NDC(あるいはNCR)がもつ、ある短所・弱点について指摘したら、それに対してどのような対応がなされているのか、また他の分類法(あるいは目録規則)ではその点をどう対処しているのかを、できるだけ述べること。
3. 略題の書き方について。「課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR2018」とまるごと略題として書いてくる人がいるが、これでは意味がない。2つの課題のうち1つを選択して書くので、どれを選んだかを示してもらうための略題である。したがって、課題(1)を選んだ人なら「NDC」が略題である。機械的に「略題」の欄の文字列をコピーアンドペーストするのではなく、意味を考えてほしい。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 内容は課題にきちんと答えているか。
- 特に前記の留意事項1.の下線部分が守られていないために不合格となる例が多くみられる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....

テキストの巻末や指導書に記載されているので、それを参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....

本科目に特有の試験対策方法といったものは特になし。テキストをしっかりと読んで学修し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずである。

例えば、学修ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つであろう。

教員からの
メッセージ

.....

ぜひ近くの図書館に足を運び、情報資源の組織化の成果を自分の目で確認し、その意義と必要性を感じてほしい。また、図書館に限らず、さまざまなところで「組織化」は行われている。そういった視点から身近な物事を見直してみると面白い。

科目概要	図書館が収集した情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源）から、利用者の情報要求を満たす資料を的確に検索できるようにするための理論と技法について論じる。すなわち、情報資源検索の手段となる書誌データの作成を規定した目録法の意義と役割について、また所蔵資料を書架上に組織し、主題からの探索を可能にする分類法の意義と役割について考察する。（司書資格必修科目）
主な到達目標	情報資源の組織化の意義と内容を十分に理解し、実際の作業に役立てることができること。
テキスト学修の留意点	本書の内容のうち、第2・3章はスクーリング科目の情報資源組織演習Aと、また第4章～第6章は同じく情報資源組織演習Bと内容的に密接な関係がある。演習を履修していない状態でテキストだけを学修しても、理解しづらい箇所も多いかもしれない。一方で、両演習を受講する際、本科目を既に学んでいるかどうかによって、演習の内容の理解度・定着度も大きく変わってくるので、演習を受講する者は先に本科目を学修していることが望ましい。したがって、本科目を学ぶに当たっては、演習A・Bの受講とうまく組み合わせた学修計画を立てるのがよい。詳しくは毎回の「課題」欄や指導書を参考にされたい。 本科目は人文系よりはむしろ自然科学系に近い性格を持つため、人文系に多い「各章・節ごとに著者の主張に耳を傾けつつ、自己の経験を内省して自分なりの考えを深める」といったスタイルの学び方は必ずしもなじまない。むしろ、各章・節に書かれていることを一つ一つ理解して先に進んでいく形になるであろう。以下の「課題」欄でも、学修課題というよりはむしろ学ぶ内容や学修上の留意点を大まかに示すにとどめたので、詳しくは指導書を参考にされたい。

	学修テーマ	課 題
1	情報資源組織：その目的・意義と概要（1）	図書館の情報資源とは何か、組織化とは何か、それはなぜ必要か、といった基本的な事項について学ぶ。テキストでは、重要な事項でありながら（あるゆえに）、抽象的な表現が多いので、ここで分かったつもりとせず、組織論全体（本科目だけでなく、演習のスクーリングも含む）を一通り学び終えた後で再び読み返して考えること。
2	情報資源組織：その目的・意義と概要（2）	直接サービス、間接サービス、既知資料検索、未知資料検索、書架分類法、目録法といった基本的な事項について学ぶ。本科目を学ぶ上で必須のテクニカルタームが次々と登場するので、意味を確認しながらしっかり読み進めたい。
3	目録法（1）	目録の定義と必要性、求められる機能、目録規則、記述と標目、基本記入と記述ユニット方式といった目録法に関する基礎知識を理解する。なお、このあたりから、本書だけで学修していたのでは抽象的で理解しづらいと思う人も出てくるであろう（特に目録作成の作業経験のない人は）。その場合は、情報資源組織演習Aの受講前に一通り目を通して（分からない箇所があっても構わない）、演習と並行して、あるいはその終了後に、再度本章以降を学ぶと理解しやすいだろう。
4	目録法（2）	日本目録規則（NCR）に基づき、記述の書き方、標目、排列に関する諸規則を学ぶ。詳しくは演習Aで扱うので、演習Aを履修する前に一通り読んでおくこと。ここでは、書誌階層の定義と利便性、記述とそれに含まれる8つの書誌的事項、標目について学ぶ。
5	目録法（3）	FRBR や RDA といった、目録規則に関わる最近の動向について学ぶ。担当者にもよるが、演習Aでは主として日本目録規則2018年版に基づいた目録の作成を行うため、本節（第2章の最後の節）は演習Aを受講する前に特に丁寧に読んでおくことと良いだろう。
6	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（1）	OPACの概要、索引ファイル、次世代OPAC、MARCフォーマット、書誌ユーティリティについて学ぶ。
7	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（2）	メタデータの概要、ダブリンコア、横断検索、メタデータ・ハーベスティングについて学ぶ。
8	情報通信技術を活用した書誌情報とメタデータの作成・提供（3）	RDF、LOD、VIAF、ウェブ・アーカイビング等について学ぶ。
9	主題組織法	主題組織法の定義、具体的な手法、利便性について学ぶ。なお、本シラバスの9～13（テキストの4～6章）で扱う内容は、具体的には情報資源組織演習Bの授業で実際の作業を行うことになる。したがって、演習Bを履修する前にしっかり学んでおくこと。また演習中も折に触れて参照するとよい。
10	分類法（1）	分類の基本原理、分類法の種類について学ぶ。
11	分類法（2）	NDCの構造、特徴、使い方について学ぶ。
12	語による主題組織法（1）	自然語を用いた主題組織法の具体例、中でもシソーラスの特徴や構造についてより具体的かつ詳細に学ぶ。

13	語による主題組織法（2）	件名標目表、特に BSH について、その特徴や構造を具体的かつ詳細に学ぶ。
14	書誌コントロール	書誌コントロールについてさまざまな側面から学習する。「書誌コントロールとは何か、どういう意義があるか」という問いに端的に一言で答えるのは難しいので、本章全体をていねいに読み進めていく中で回答を見つけてほしい。
15	索引・抄録	情報資源を組織化する一手法としての索引・抄録について概観する。

シラバス執筆：松山 巖

第1分冊 〈略題〉組織化とは(旧) 1, 3, 7, 8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

資料の組織化とは何か、またそれは図書館にとってなぜ必要かを、日頃あまり図書館を利用していない普通の高校生が読んでも分かるように説明せよ。
読者に分かりやすくするために、図書館以外の事例(たとえば商店における商品の組織化など)について併せて述べても良い。ただし、本題は「図書館の業務・機能における資料の組織化」であるので、その視点を忘れないこと。
なお、本分冊は利用者向けの説明を想定しているの、敬体(です・ます体)で書くこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

図書館の専門家ではない相手に通じるように、用語や内容、文体などを工夫して書くこと。
そもそも、テキストの文章は一般の利用者向けではなく、司書(およびそれをめざす人々)向けに書かれているので、職員には重要だが利用者にはあまり必要ないような事柄も書かれている。それらの見分けも付かず、テキストをそのまま要約しても相手には通じない。自分はカウンターに入っており、高校生の利用者を相手に説明している、というその立場になったつもりで説明すること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 組織化とは何かという要点が把握できているか。
 4. 一般の利用者向けに説明するという視点で書かれているか。
 5. 分かりやすく説明できているか。
- なお、図書館情報学の専門用語(「資料」「目録」なども立派な専門用語)が何の説明もなく使われているものは、理解不足のために説明できないとみなしD評価とする。専門用語の使用は最小限に留め、かつ、初出時に説明を付けること。

〈その他の注意点〉

科目名は「情報資源」組織論であるが、情報資源全般について述べると煩雑になるので(初心者向けの説明を想定しているため)、ネットワーク情報資源には触れなくてよい。

第2分冊 〈略題〉課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR87 (3) 選択者→NCR2018 2, 4～6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 以下の(1)～(3)から1つ選択。
- (1) NDC(新訂10版)について、その特徴、長所、短所などを、NDC以外の分類法と比較しつつ述べよ。
 - (2) NCR1987年版(その改訂版以降も含む)について、その特徴、長所、短所などを、他の目録規則(特にNCR1965年版)と比較しつつ述べよ。
 - (3) NCR2018年版について、その特徴、長所、短所などを、他の目録規則(特にNCR1987年版及びその改訂諸版)と比較しつつ述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 例えば課題(1)で、NDCの特徴を列挙し、それが済んでから他のある分類法の特徴を列挙しただけでは、比較したとはいえない。NDCの特徴を順次説明していきながら、それぞれの特徴について、その都度他の分類法と比較することで、NDCの特徴が浮き彫りになるように書くこと。(2)も同様。(3)においてはその方針を貫くのは難しいかもしれないが、できるだけそのように心がけて書くこと。
2. NDC(あるいはNCR)がもつ、ある短所・弱点について指摘したら、それに対してどのような対応がなされているのか、また他の分類法(あるいは目録規則)ではその点をどう対処しているのかを、できるだけ述べること。
3. 略題の書き方について。「課題(1) 選択者→NDC (2) 選択者→NCR87 (3) 選択者→NCR2018」とまるごと略題として書いてくる人がいるが、これでは意味がない。3つの課題のうち1つを選択して書くので、どれを選んだかを示してもらうための略題である。したがって、課題(1)を選んだ人なら「NDC」が略題である。機械的に「略題」の欄の文字列をコピーアンドペーストするのではなく、意味を考えてほしい。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
 2. 論旨が一貫しているか。
 3. 内容は課題にきちんと答えているか。
- 特に前記の留意事項1.の下線部分が守られていないために不合格となる例が多くみられる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

.....
テキストの巻末や指導書に記載されているので、それを参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....
本科目に特有の試験対策方法といったものは特になし。テキストをしっかりと読んで学修し、レポートを書けば、それが試験対策にもなるはずである。
例えば、学修ノートを作成し、テキストの内容を要約しつつ、必要に応じてテキストに書かれていない内容も補足していけば、自分だけの良い参考書ができ上がり、試験前の復習にも役立つであろう。

教員からの
メッセージ

.....
ぜひ近くの図書館に足を運び、情報資源の組織化の成果を自分の目で確認し、その意義と必要性を感じてほしい。また、図書館に限らず、さまざまなところで「組織化」は行われている。そういった視点から身近な物事を見直してみると面白い。

科目概要	本科目は平成 21 年の「図書館法施行規則の一部を改正する省令」によって、選択科目群の一つに定められた。省令改正前の「専門資料論」の内容を引き継ぐものであり、平成 8 年の前改正以前の「人文科学、社会科学の書誌解題」と「自然科学及び技術の書誌解題」が統合されたものである。
主な到達目標	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学修し、理解を求める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。
テキスト学修の留意点	課題に際し、以下の分野から一つを選び、発展的に学び、理解を深める。 (1) 人文科学分野 (2) 社会科学分野 (3) 自然科学分野 (4) 技術分野 (5) 学術情報コミュニケーションの特性 (6) 今日的な課題

	学修テーマ	課 題
1	導入	授業の概要説明。受講の心得・評価方法など。
2	各分野の知識整理	人文科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
3	各分野の知識整理	社会科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
4	各分野の知識整理	自然科学分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
5	各分野の知識整理	技術分野の資料についての基礎知識の確認と整理。
6	資料の選択①	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
7	資料の選択②	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
8	分野の選択①	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
9	分野の選択②	前回までに整理した中から特定の資料を選び、現物に触れる。
10	学修の統合①	資料の選択①②と、分野の選択①②を踏まえ、特定分野の資料活用について、業界やコミュニティについて調べる。
11	学修の統合②	資料の選択①②と、分野の選択①②を踏まえ、特定分野の資料活用について、業界やコミュニティについて調べる。
12	学術コミュニケーション①	専門資料の中核を占める学術情報の発生と流通について学ぶ。
13	学術コミュニケーション②	専門資料の中核を占める学術情報の発生と流通について学ぶ。
14	情報行動プロセス	学術情報を活用するプロセスについて学ぶ。
15	まとめと復習	これまでの学修内容を振り返る。

シラバス執筆：宮原 志津子

レポート課題

第1分冊 宮原 志津子

第1分冊 〈略題〉専門分野の資料の種類と特性 テキストすべて

横書き指定

直接入力

〈課題〉

人文科学・社会科学・自然科学から一つを選び、当該分野の一次資料、二次資料の定義を示すとともに、種類と特性について解説し（前半）、一次資料、二次資料それぞれ実在する3点の資料について、書誌情報と内容解説を作成しなさい（後半）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 書誌情報とは、具体的には、タイトル（書名）、責任表示（著者など）、出版者名、出版年等を指します。
- (2) 後半の課題については、テキストなどに掲載されている資料ではなく、図書館に行き、自分で資料を手に取り選ぶこと。
- (3) 一次資料のうち2点以上は図書とし、3点すべてを雑誌のみとしないこと。また二次資料についても、2点以上は参考図書から選び、3点すべてをオンライン・データベースのみとしないこと。

〈評価の観点〉

- (1) 全体の構成、章立ても含めて、大学生が提出するレポートとしてふさわしい形式となっているか
- (2) 引用が正確かつ適切に行えているか
- (3) 課題で与えられた要素をすべて満たしているか
- (4) 一次資料と二次資料の区別・特性が理解できているか
- (5) 選択した資料の内容や特性が、自分の言葉で適確に述べられているか

〈その他の注意点〉

- (1) 一次資料・二次資料各3点の解説については、テキスト、選択した図書等からの引用や解説、第三者が書いた書評などに頼らず、本を手に取り内容を自分の目で確認して、自分の言葉で書くこと。やむを得ず一部引用を使う場合は、出典元等を明らかにすること。
- (2) レポート形式や引用が不十分な場合、内容面での評価に値しないとして不合格とする。
- (3) 「序論」や「結論」が無いレポートが多いので、気を付けること。また章番号と章タイトルをつけ、全体の構成バランスを意識して執筆すること。

参考文献

桑田てるみ 『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版：スキルを学ぶ21のワーク』実務出版、2015年

科目試験等への
アドバイス

各分野の資料特性を踏まえた上で、分野ごとに独特な資料や、その利用傾向など、場合によっては関係業界や、情報が流通するコミュニティについても理解を深める必要があります。テキストで取り扱われている概念が、専門用語を用いて明解に説明できるかどうかを前提に、発展的・応用的な記述があることが必要です。

教員からの
メッセージ

レポート学修では、大学生レベルのレポートに求められる、正しい引用ができていないケースが目立ちます。専門資料を適切に扱うためには、図書館員自身が著作権を重んじ、資料についての記述に厳正さを保つ必要があります。形式・内容共に整ったレポートが書けるように努力してください。

07442 図書・図書館史

1 単位

テキスト名

小黒浩司編著『図書・図書館史』
(JLA 図書館情報学テキストシリーズ
III-11) 日本図書館協会

科目概要	古代の各国家における図書資料や図書館の発生から、現代の情報メディアと図書館に至る、主に日本と欧米諸国の歴史について学習する。それぞれの時代における図書と図書館のありようとその意義を知る。このことは、図書館の理念の形成と図書館情報学の成立を理解し、その意義を考える上で重要であり、図書や図書館が支えてきた文化や人間の精神的・思想的発展について考えることでもある。(司書資格必修科目)
主な到達目標	図書館が成立した経緯と歴史的展開について理解するとともに、どの時代にいかなる記録メディアが登場したのか、またそのメディアの特性を理解することを目標とする。
テキスト学習の留意点	膨大な固有名詞（人名、地名、作品名など）が登場して圧倒されるかもしれませんが、片っ端から覚える必要はありません。むしろ、こまごまとした事実の羅列の中から、図書館（に相当する施設）の歴史や、メディアの歴史を大づかみにして、その要点を把握していくことを心がけて読むと良いでしょう。そのためには、2度3度とテキストを読むのも一法です。1度目は気づかなくても、2度目になると、大切そうなところが何となく分かってくるものです。 なお、日本史や世界史の基本的な知識がある程度ないと、読んでいても時代背景がピンとこないかもしれませんが、そこは適宜他の本などで補ってください。また、特にメディアの歴史や各種の印刷術などについては、巻末に挙げたさまざまな参考文献や、インターネット上の情報源なども活用し、学びを深めていってください。 また、司書課程においてこの科目を学ぶ意義についてはテキストの Unit 0 を参照してください。なお、そこでは「選択科目」と書いてありますが、本学の通信教育課程では必修科目になっています。

学修テーマ	課 題
1 紙以前の記録メディア (Unit 1)	情報を記録するメディアとして今なおその代表格である紙が発明される前、人類はどのようなメディアを用いていたのだろうか。それぞれの地域で入手しやすい材料を工夫して使っていた様子に留意して学ぶ。
2 紙の発明と図書の形態 (Unit 2-3)	紙はいつごろ、どこで発明され、どのようにして伝播していったかを理解する。仏教圏とその外部とで浸透の速度が異なること、また従来のメディアと比べて紙が持つ特性の違いに留意する。紙が生まれたことで新たに誕生した各種の図書の形態について把握する。
3 印刷術 (Unit 4-6)	手書き→印刷（手作業）→印刷（機械）という技術の発展を理解し、何がどう変わったのかをつかむ。各種の印刷手法について知る。今日につながる大量印刷の技術はどのようにして生まれ発展してきたか理解する。
4 雑誌・新聞・マスメディア (Unit 7-8)	紙の発明と印刷技術の発展により、どのような雑誌や新聞が生まれてきたのかを知る。我が国の幕末から昭和前半期にかけての雑誌や新聞の発展史と、それらに対する権力による統制の歴史を学ぶ。
5 メディアの多様化 (Unit 9-10)	19世紀から今日に至る技術革新の中で生まれたさまざまなメディアについて学ぶ。
6 図書館の源流と中世・近世の図書館 (Unit 11-13)	各地域の古代文明においてどのような図書館（的な機能をもつ施設）が生まれたかを学ぶ。中世の図書館について、特に宗教と権力との関係に留意して学ぶ。近世の図書館にみられるさまざまな変化を、今日の姿につながるさまざまな萌芽が生まれていることに留意しながら学ぶ。
7 公共図書館の成立と近代の図書館 (Unit 14-15)	公共図書館という理念はいつごろ、どこで、どのようにして生まれたのか把握する。近代図書館史における、司書の養成、サービスの深まり、図書館の基本的な理念の形成について学ぶ。
8 前近代日本の図書館 (Unit 16)	ここからは日本の図書館史について学ぶ。古代から江戸時代まで、図書館的な機能をもつ施設にはどのようなものがあつたのか把握する。
9 近代日本の図書館とデモクラシー (Unit 17-18)	幕末から明治期にかけて library という新しい概念が日本に流入する中で、名称も業務内容も含めて官民ともにさまざまな試行錯誤を経て、図書館がどのように定着していったか学ぶ。その過程で国家による管理の色合いが濃くなりつつも、特に大正デモクラシーの流れの中で民間においても活発な図書館活動が行われた点に留意する。
10 戦時体制下の図書館 (Unit 19)	戦時体制の強化とともに、図書館が国民に対する思想善導の機関へと変質していく過程について学ぶ。また、少数ではあるがその流れに抗った図書館人がいたことを知る。
11 戦後改革、戦後民主主義と図書館 (Unit 20、21 前半)	GHQ による占領期、CIE の教育改革の中で、無料公開をはじめとする今日では当たり前の基本理念が導入されていく様子について学ぶ。利用者の知る自由を守るという基本理念を述べた「図書館の自由に関する宣言」がどのようないきさつで生まれて今日に至ったかを学ぶ（詳しくは「図書館概論」で）。戦後の読書運動の歴史について学び、当初はいまでいうアウトリーチサービスとして始まったことを理解する。

12	市町村立図書館の振興と住民 (Unit21 後半、22)	戦後図書館史において大きな転換をもたらしたといえる『中小レポート』と、その実践編といえる『市民の図書館』について、その内容を把握し、その提言のどこがエポックメイキングなものといえるか、またその後の図書館の発展にどのようにつながっていくか、考えてみる。なお、両者は現在も購入可能であるし、多くの図書館に置いてあるので、ぜひ現物を読んでほしい。 図書館の数が増え、利用が活性化するとともに、改めて浮上した利用者のプライバシーの問題について考える（詳しくは「図書館概論」で）。 『市民の図書館』以後のさまざまなサービス拡充について把握する。
13	自治体政策の中の図書館 (Unit 23)	1970年に東京都がまとめた『図書館政策の課題と対策』で指摘された図書館の現状と問題点はどのようなもので、またそれがその後どのように解決されていったか（あるいはされなかったか）を把握する。 委託や指定管理など、多様化する図書館の運営形態について学ぶ。
14	子どもと読書・図書館 (Unit 24)	子どもと関わる図書館サービスとして、学校図書館、子ども文庫、公共図書館の児童サービスの歴史的展開について学び、子どもの読書活動に図書館はどのように関わっていくべきか考える。
15	科学技術の発達と図書館 (Unit 25)	科学技術が図書館業務に取り入れられていった歴史として、図書館業務の機械化について、目録のコンピュータ化とネットワーク化、コピー機の普及を中心に学ぶ。

シラバス執筆：松山 巖

〈課題〉

図書を初めとする情報メディアの変遷の中で、①図書館の機能はどう変わってきたか。②また図書館の機能で変わらない点は何か。③それらをふまえて未来の図書館像はどうなるだろうか(あるいはどうあるべきか)。それぞれ考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

レポートとはテキストで学習した成果を報告 (report) するものである。最近、テキストを全く読まなくとも書けてしまうような、図書館に対する自らの熱い思いを用紙にぶつけただけの文章が時折送られてくるが、レポートは投書欄ではない。また、情報メディアときいて電子メディアしか考察の対象にしない人もいるが、視野が狭すぎる。古代から現代に至る流れの中で、メディアと図書館の歴史がどのようにして今日につながっているのかを把握し、その土台に立ってレポートを書いてほしい。なお、①～③の答えはテキストを読んでも直接には書かれていないので自分なりに考える必要がある。したがって、人によって答え方は違ってくるであろう(特に③)が、それでよい。ただし、テキストで学んだ内容が活かされており、説得力のある文章になっていること。

また、①については図書館の機能は時代とともに絶えず変化し続けているので、歴史上の出来事を並べるだけでも、機能の変遷を述べていると主張する人もいるかもしれない。しかし、それでは単なるテキストの要約に過ぎず、上で述べた報告書とはいえない。単なる出来事の羅列ではなく、古代から現代に至る歴史の中でどのような点が変わったのか(もちろん1つとは限らずいろいろある)を幅広く捉え、その中で自分なりの観点から、図書館の長い歴史を捉え直してほしい。その上で、「変わった点」は端的に言って何なのか、また「変わらない点」は何なのかをまとめること。

〈評価の観点〉

1. テキストで学習した内容が活かされているか。
2. 日本の図書館についてだけ、あるいは外国の図書館についてだけしか触れられていないものは、テキストを学び終えていないと見なし、当然D評価とする。
3. 論旨が一貫しているか。
4. 内容は課題にきちんと答えているか。
5. ③で書かれていることが、①②で述べた内容をふまえたものになっているか。(せっかく①②でよいことを書いているのに、③の内容がそれと全く関係ないために不合格になる例がしばしばみられる。)

〈その他の注意点〉

上記の「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」をきちんと読み、それに沿ったレポートを書けばほとんどのレポートは合格になるはずなのだが、読みもしないで書いたとしたか思えないレポートが非常に多いのは残念なことである。

参考文献

.....
 佃 一可編『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ 11) 樹村房、2012年 ISBN 978-4-88367-211-0
 モーリー・サワ文、ビル・スレイヴィン絵『本と図書館の歴史：ラクダの移動図書館から電子書籍まで』西村書店、2010年 ISBN 978-4-89013-923-1
 その他、テキストの巻末に多数の文献が載っているので参考にされたい。

科目試験等への
アドバイス

.....
 細かい知識や個々の用語の意味も大切ですが、より大切なのは、歴史の流れを大きくつかむことです。とはいえ、基本的な用語の意味も知らないとなると、この科目を本当に学んだのか?と問われてしまいます。高校までの教科書などでは、重要な語句が太字で書いてあったりしましたが、このテキストでは太字を使わない代わりに欄外に書き出してありますので、ポイントをつかむ上で参考にしてください。

教員からの
メッセージ

.....
 今ある図書館は、昔から今のような姿で、今のような機能を持っていたわけではありません。現在に至る長い道のりの中で、時には試行錯誤、時には苦悩と試練、それらを経て今があります。過去を知り、その上で現在を捉えることで、未来を考える。それがこの科目の意義といえます。

07715 日本美術史

2単位

テキスト名

辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』
増補新装版、美術出版社、2002年

科目概要	本科目では、絵画、彫刻、工芸（漆工・木工・金工・陶磁器等）、染織等、様々な分野の日本の造形美術を対象とし、その美質を鑑賞するとともに美術の歴史を学ぶ。日本美術史の基礎的知識の獲得、日本美術の歴史的展開の理解、美術史学の方法論の習得、社会的・文化的背景の考察を目標とする。
主な到達目標	・日本美術を鑑賞・研究するための基礎的知識を身につける。 ・日本美術史の歴史的展開を理解する。 ・美術作品を学問的に追究するための基礎的な方法論を習得する。 ・作品と、それを生み出した社会的・文化的背景との関わりについて考察できるようにする。
テキスト学修の留意点	・テキストで紹介された美術作品を、主題や技法などに留意して丁寧に鑑賞すること。 ・わからない用語や興味をもった作品・事項等については、参考となる文献にあたること。 ・時代ごとの作品の羅列ではなく、日本美術の歴史的展開を把握すること。 ・作品の時代背景や社会との関わりについて考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	日本美術史の基礎知識	日本美術史における基礎的な用語・技法、作品の形式などをおさえる。美術作品を学問として扱う際の方法論を学ぶ。
2	飛鳥時代の美術	仏教伝来を機に、日本には大陸の進んだ技術がもたらされた。飛鳥時代に日本各地で造営された仏教寺院と仏教美術（彫刻・絵画・染織）について学ぶ。
3	白鳳時代の美術	天智元年（662）から平城遷都までの白鳳時代には、国家主導の官寺をはじめとした大寺院の造営が本格化した。この時代の仏教彫刻、絵画、工芸について学ぶ。
4	天平時代の美術	平城遷都から平安遷都までの天平時代には、唐の色濃い影響を受けた美術が展開した。正倉院に伝来する工芸を軸に、国際交流の様相を学ぶ。
5	平安時代の美術①	平安遷都から「安和の変」による藤原氏の摂関体制確立までの平安時代前期には、旧来の仏教に変わり新たに伝えられた密教の美術が展開した。その後、遣唐使廃止により大陸からの影響は限定的となる。この時代の密教美術と国風文化萌芽期の美術について学ぶ。
6	平安時代の美術②	10世紀後半から12世紀末までの平安時代後期には、中国文化の模倣を脱却し、和様の主題や表現が追求された時代であった。この時代の美術の和様化の様相を学ぶ。
7	鎌倉・南北朝時代の美術	この時代には、奈良時代に次いで中国文化が流入した。仏像彫刻と肖像彫刻・肖像画を軸に、この時代の美術とリアリズムについて考察する。
8	室町時代の美術	室町時代は、美術が多様化した時代であった。「北山文化」と「東山文化」、「和」と「漢」、「中央」と「地方」、「上層階級」と「新興の町衆」といった、いくつかの対立項を軸に、この時代の美術の展開を学ぶ。
9	桃山時代の美術	織豊政権期から豊臣家滅亡までの桃山時代における、天下人による豪壮・華麗な造形と、その対極にある数寄の造形について学ぶ。
10	江戸時代の美術①	多数の作例の残る「洛中洛外図」を軸に、都市の庶民の風俗を描いた近世初期風俗画の展開を学ぶ。
11	江戸時代の美術②	江戸幕府の御用絵師となった狩野派の絵画作品を学び、狩野派が江戸時代の画壇に果たした役割について考察する。
12	江戸時代の美術③	琳派・文人画・写生画の表現の特質について、主要な作家の作品を軸に考察する。
13	江戸時代の美術④	浮世絵について、技法の展開、画題、表現の特質を学び、庶民による庶民のための美術について考察する。
14	近代の美術	明治から戦前にかけての激動期の美術の流れを把握し、諸分野の展開をおさえる。
15	現代の美術	表現が多様化した戦後の美術のあり方について、前時代との相違を含め、考察する。

シラバス執筆：藤元 晶子

レポート課題

第1分冊 藤元 晶子

第2分冊 藤元 晶子

第1分冊 〈略題〉古代から中世の日本美術の流れ 古代～中世

横書き指定

Word添付

〈課題〉

飛鳥から室町時代における日本美術の流れを、具体例を挙げて論じなさい。次いで、最も印象に残った1点について自由に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①適切な文献学修と作品鑑賞を心掛けること。
テキスト等の文献学習を通じ、用語の内容や各時代の特徴・流れをつかむこと。
同時に、実際の作品や写真図版などを、積極的かつ丁寧に鑑賞すること。
- ②作品が生み出された時代背景に目を向けること。
どんな政治情勢・世界情勢だったのか、社会・文化とどのように関わりの中で制作されたのかを考察すること。

〈評価の観点〉

- ①日本美術史の基本的な用語・知識を習得している
- ②美術史の基礎的な方法論（作品名等の提示方法やディスクリプション）を習得している
- ③日本美術史の歴史的展開を把握できている
- ④作品の文化的・社会的背景について考察できている

〈その他の注意点〉

- ・具体的な作品を挙げる場合、作品特定のための情報を明記すること。
仏像など、同じ作品名称の美術作品が複数存在する場合も多い。
区別のため、作品名称の他に、（わかる場合）作者名、所蔵機関名、制作年代、技法等も明記すること。

第2分冊 〈略題〉近世から近代の日本美術の流れ 近世～近・現代

横書き指定

Word添付

〈課題〉

桃山から現代における日本美術の流れを、具体例を挙げて論じなさい。次いで、日本美術の特徴について自由に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①適切な文献学修と作品鑑賞を心掛けること。
テキスト等の文献学習を通じ、用語の内容や各時代の特徴・流れをつかむこと。
同時に、実際の作品や写真図版などを、積極的かつ丁寧に鑑賞すること。
- ②作品が生み出された時代背景に目を向けること。
どんな政治情勢・世界情勢だったのか、社会・文化とどのように関わりの中で制作されたのかを考察すること。

〈評価の観点〉

- ①日本美術史の基本的な用語・知識を習得している
- ②美術史の基礎的な方法論（作品名等の提示方法やディスクリプション）を習得している
- ③日本美術史の歴史的展開を把握できている
- ④作品の文化的・社会的背景について考察できている

〈その他の注意点〉

- ・具体的な作品を挙げる場合、作品特定のための情報を明記すること。
同じ作品名称の美術作品が複数存在する場合も多い。
区別のため、作品名称の他に、（わかる場合）作者名、所蔵機関名、制作年代、技法等も明記すること。

参考文献

日高薫『日本美術のことは案内』（小学館、2002年）
辻惟雄監修『日本美術史年表』（美術出版社、2002年）
前川誠郎他編『日本美術全集』（講談社、1990～93年）
『日本の美術』シリーズ（至文堂）ほか

科目試験等への
アドバイス

文献学習による知識の習得と、作品鑑賞体験の双方を重視する。
テキストの内容を理解していること、作品を自らの言葉で語れること、日本美術の特徴を自分なりに把握していること、を求める。

教員からの
メッセージ

美術館や博物館、寺社等に足を運んだり、展覧会カタログや写真集等を見るなど、積極的に美術作品に触れる機会を持つようにして下さい。

科目概要	先史・古代から 20 世紀までの西洋美術の流れを学ぶ。主要な作品例を中心に地域の美術の特徴をその社会的な背景とあわせて理解する。政治・宗教・文化・科学技術などの他分野との関わりまで意識を広げ、視覚史料を扱う学問分野に対して理解を深めてゆく。
主な到達目標	● 作品を丁寧に観察する姿勢を習得し、作品を観る眼を養う。 ● 各時代の様式の特徴と推移を社会的な背景とあわせて理解する。 ● 各分野の作品制作に関わる専門用語・主題・技法の基本的な知識を習得する。 ● 複数作品を比較して観察する技術と習慣を習得する。 ● 作品の文化・社会における機能や役割も意識できるようになる。
テキスト学修の留意点	テキストの文字や図版だけにとどまらず、積極的に展覧会に出かけ、インターネットやテレビ等で美術作品に触れよう。古代から現代まで、美術の様式（スタイル）がどのような特徴をもっているのか、目で見て実感をもって理解してほしい。

	学修テーマ	課 題
1	原始美術と古代オリエント美術	自然主義的な表現と、概念的、抽象的、形式的な表現が取られることを理解する。原始美術、先史美術の動物や人体の造形的本質をとらえ、用途に応じて抽象化、形式的な表現に変化させている様子を見る。古代オリエントとしてメソポタミアとエジプトの美術の造形的な特徴をとらえよう。
2	古代ギリシア・ローマ	古代ギリシアでは抽象的な形から、写実的な表現、理想化された人体表現などが追求されていることを念頭に、アルカイック→クラシック→ヘレニズムの様式の作例を比較し、それぞれの特徴を理解する。古代ローマが古代ギリシアから継承した点、新たに発展させた点に着目する。
3	初期キリスト教美術、ビザンティン美術、初期中世美術（中世Ⅰ）	キリスト教を布教する目的から、抽象化、記号化された表現と、古代ローマの伝統の残る表現が混交する様子を見る。モザイク技法やビザンティン世界のイコノクラスム（聖像破壊運動）に関しても理解する。
4	ロマネスク美術、ゴシック美術（中世Ⅱ）	キリスト教がヨーロッパに浸透し、教会建築を中心とした美術が、農村、そして都市に広まる様子を理解する。ロマネスクやゴシックの建築、美術の特徴を比較しつつ教会の浮彫や壁画、写本装飾などの作例も合わせて見ておく。中世独特の空間表現、記号的な表現に留意し、作品を理解する。
5	イタリアの初期ルネサンス美術	イタリアにおいてルネサンスが起こった諸条件を理解する。人文主義や古典古代への傾倒、三次元的空間表現や遠近法を積極的に取り入れた作品の特徴を確認しよう。美術を支えたパトロンには教会と王侯貴族、メディチ家に代表される裕福な商人や銀行家もいたことも把握する。
6	15 世紀の北方美術	北方ルネサンスと呼ばれる独自の様式の特徴を確認する。空気遠近法による風景表現の発達、油彩画の発明と発展に関わる細密描写と質感描写を作例から理解する。
7	イタリア盛期ルネサンス美術、マニエリスム、北方ルネサンス美術	ローマで活躍した芸術家たちを中心に芸術の流れを理解する。レオナルドやミケランジェロら天才たちやヴェネツィア派の地域様式も比較しよう。北方ルネサンスは油絵による写実的で緻密な表現が非常に高い再現性を獲得していた点に着目する。
8	バロック美術	宗教改革に対抗し、教会の権威を美術を用いて表現するカトリック改革期の美術の展開を把握する。絶対王政の隆盛、新興市民階級の台頭といった背景、イタリア、スペイン、フランス、オランダ・フランドルの地域の違いも比較して作品で確認しよう。
9	ロココ美術	絶対王政の権力の庇護による洗練された美術、とくにフランスでの宮廷を中心とした各国のサロン文化を理解する。華麗さを極める建築や調度品にも着目したい。
10	新古典主義、ロマン主義、写実主義（近代Ⅰ）	フランス革命と新古典主義の隆盛、フランスを中心とした美術アカデミーの変化、サロン（官展）でのアカデミックな絵画やロマン主義など、それぞれに影響を与え合う流れを把握する。写実主義の社会的な視点や印象派の主題中心の視点を理解する。
11	印象主義、象徴主義、（近代Ⅱ）	産業革命以降の近代都市生活において絵画も大きく変化する。新しい視点と技術で自然をとらえる印象主義の試みを理解する。印象主義とは対照的に現実には目に見えない神話の登場人物や概念、幻などを描く象徴主義など、それぞれを代表する画家の作品を詳しく見て、特徴を理解しよう。
12	後期印象主義（近代Ⅱ）	後期印象主義では印象主義の課題をさまざまな形で乗り越え個々の様式を花開かせる画家が登場する。形態の復活、精神世界の表現などを追求していく様式を理解する。後期印象主義の「後期」は主義の特徴というよりも、時系列的な意味合いが強く、画家によってアプローチが様々である。
13	19 世紀末から 20 世紀初頭（現代Ⅰ）	世紀末芸術、アール・ヌーヴォー、ジャポニズムなど経て、第一次世界大戦前後までフォーヴィスム、表現主義、未来派とシュルレアリスム等の美術活動が展開される。機械工業、技術の進歩を積極的に肯定し、新しいものを求めるモダニズムが当時の美術にどのように反映されているかを見よう。

14	第二次世界大戦後の世界のアメリカ（現代Ⅱ）	1950年代以降、アメリカを中心とした美術の発展とその流れを捉える。抽象表現主義、ネオ・ダダ、ポップーアートまでの展開を追う。美術がどのようにマス・メディアや商業主義、資本主義と結びつき、発展していったのかを見る。
15	1950年代以降の現代美術	既成概念や芸術の定義をあらゆる方向から否定し、最前線、いわゆる前衛において新しい表現を模索し続けるモダニズムとそれを越えたポスト・モダンの非常に多様に分岐した流れが紹介されている。現代美術の作家のそれぞれの試みを追う。

シラバス執筆：毛塚 実江子

レポート課題

第1分冊 毛塚 実江子

第2分冊 毛塚 実江子

第1分冊

〈略題〉《美術作品と当時の社会との関連性》
第1分冊は18世紀（ロココ美術）まで

横書き指定

Word添付
3000字程度

〈課題〉

1800年以前の作品1点を挙げ、どのように当時の社会と関わりをもっていたのか、作者、注文主（教会やパトロン等）からの視点も交えて考察を行う。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・作品は、図像のコピー（白黒可）を添付し、作者、作品名、制作年代、所蔵場所、サイズ、画像の出典をキャプションとして記し、本文中でも基本データとして明記すること。
- ・レポートの基本的な作成方式に従い剽窃はしない。
- ・調べた情報と自分の考察とをしっかりと分け典拠を必ず明記する。
- ・Wikipedia やまとめサイトなど、著者が不明なインターネットの記事は参考文献としては不可。
- ・註・参考文献は必須。引用箇所はページ数まで詳細に明記すること。
- ・インターネットを使用してもよいが、参考文献として書籍を3冊以上挙げる。

〈評価の観点〉

- ①課題から自分のテーマを選び、レポートにふさわしい問いを形成しているか。
- ②問いにふさわしい作品を選び、その情報を明記しているか。
- ③問いを解決するのにふさわしい書籍や論文を参照しているか。
- ④構成・章立て、参考文献や註などの形式は適切か。
- ⑤作品の観察や分析を丁寧に行ってから自分の主張を導き出しているか。根拠の主張は明確か。
- ⑥結論は無理なく、問いに答え、論旨は一貫しているか。

〈その他の注意点〉

- ・3000字程度とは1割前後の増減を認める。註や文献は文字数に含めない。最後に何文字かカウントして表記する。
- ・インターネットは辞典や教会、自治体などの公式ホームページや研究者のホームページであれば参照可。学修指導書やテキストに載っている参考図書も1冊は挙げるのが望ましい。
- ・無理に難しいことを書く必要はないので、自分の言葉で理解した範囲でまとめるようにしよう。テーマに対して新しい知見を導き出すのは難しいので、読んだ本の中で自分の考えに近いもの、反対のものを参考にしながら自分なりの考察を深め、まとめること。
- ・学修指導書をよく読んでください。
- ・修正のための形式的な評価をつけられ返却されます。その時点での正式な評価ではありませんので、もし成績の提出期限等がある場合は事務所に連絡ください。

第2分冊

〈略題〉《作品主題と表現方法の関連性》 第2分冊は「19世紀以降」

横書き指定

Word添付
3000字程度

〈課題〉

19世紀以降の作品を1点挙げ、作者が主題を表現するためにどのような表現を追求し工夫したか、今までの研究をまとめたうえで、自分の視点で分析し、考察を行う。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・作品は、図像のコピー（白黒可）を添付し、作者、作品名、制作年代、所蔵場所、サイズ、画像の出典をキャプションとして記し、本文中でも基本データとして明記すること。
- ・レポートの基本的な作成方式に従い剽窃はしない。
- ・調べた情報と自分の考察とをしっかりと分け典拠を必ず明記する。
- ・Wikipedia やまとめサイトなど、著者が不明なインターネットの記事は参考文献としては不可。
- ・註・参考文献は必須。引用箇所はページ数まで詳細に明記すること。
- ・インターネットを使用してもよいが、参考文献として書籍を3冊以上挙げる。

〈評価の観点〉

- ①課題から自分のテーマを選び、レポートにふさわしい問いを形成しているか。
- ②問いにふさわしい作品を選び、その情報を明記しているか。
- ③問いを解決するのにふさわしい書籍や論文を参照しているか。
- ④構成・章立て、参考文献や註などの形式は適切か。
- ⑤作品の観察や分析を丁寧に行ってから自分の主張を導き出しているか。根拠の主張は明確か。
- ⑥結論は無理なく、問いに答え、論旨は一貫しているか。

〈その他の注意点〉

- ・3000字程度とは1割前後の増減を認める。註や文献は文字数に含めない。最後に何文字かカウントして表記する。
- ・インターネットは辞典や教会、自治体などの公式ホームページや研究者のホームページであれば参照可。学修指導書やテキストに載っている参考図書も1冊は挙げるのが望ましい。
- ・無理に難しいことを書く必要はないので、自分の言葉で理解した範囲でまとめるようにしよう。テーマに対して新しい知見を導き出すのは難しいので、読んだ本の中で自分の考えに近いもの、反対のものを参考にしながら自分なりの考察を深め、まとめること。「学修指導書」にも目を通してほしい。

参考文献

『世界美術大全集』全28巻 小学館
上記の全集に関しては、レポート作成の際にも、参考文献の1冊にどの巻かが入っていることを強く推奨します。（購入は不必要。全国の公共図書館／大学図書館にて閲覧可能）
他に『西洋美術の歴史1～4（ギリシアとローマからルネサンスまで既刊）』中央公論新社、2016～2017、岩波書店の「岩波 世界の美術」シリーズ全24冊も充実している。
ジャンソン『西洋美術の歴史』創元社、2012（2001）も通史が把握しやすい。その他、単独の作家についての個別研究所など専門性の高い先行研究を参照することが望ましい。

科目試験等への アドバイス

以下の回が試験範囲である。テキストの目次を参考に、本文を読み込んで、具体的な作品で美術の流れを理解しておくこと。試験時間が限られているので、十分な準備が望まれる。

- 第1回 先史・古代世界・古代ギリシア・ローマ
- 第2回 初期キリスト教・ビザンティン・中世初期
- 第3回 ロマネスク・ゴシック
- 第4回 ルネサンス・マニエリスム
- 第5回 バロック・ロココ
- 第6回 新古典主義・ロマン主義
- 第7回 印象主義
- 第8回 写実主義・後期印象主義
- 第9回 20世紀絵画・彫刻・建築・写真

※本文のポイントを600字以上で論述する問題を予定しています。
本文中の様式変遷の理解とともに、巻末の参考文献なども合わせて学習して下さい。詳しくは学修指導書をご参照ください。

教員からの メッセージ

西洋美術史のテキストは基本的な知識を簡潔にまとめた名著です。流れを把握するにはとても良いのですが、作品一つ一つの理解にはどうしても各自の掘り下げが必要となります。テストやレポート対策も兼ねて、各章で興味を持った画家や作品を調べておくとういでしょう。巻末の参考文献を多めに活用してください。関連作品や画像を本やインターネットで確認しながら勉強を進められるのは通信教育ならではの利点だと思います。そして、本やデジタル画像ばかりでなく、ぜひ、実物の、本物の芸術作品に数多く触れて、皆さんの作品を観る眼やセンスを磨いてください。

07719 考古学（新刊テキスト）

**2単位
新刊**

テキスト名

『はじめて学ぶ考古学（改訂版）』
有斐閣

科目概要	考古学とは、過去の人類が残した物質的な資料を通して、その当時の生活・技術・文化・集団等を復元しようとするものであり、そのための各種方法論と、それらを通して明らかになった各時代の様相について学ぶ。
主な到達目標	考古学の基本的な方法論について説明できる。 考古学上の基本的な用語について説明できる。 各時代の様相とその変遷について概説できる。 考古資料を通してわかる、当時の人類の活動について説明できる。
テキスト学修の留意点	考古学は土地に密着した学問であり、その調査成果には、地域的な特徴が強くあらわれる。テキストに述べられている内容も、例えば当時の政権の中心地と、現に各自が居住している地域とでは、微視的には相違することも多分にあり得る。通史的に語られているテキストの内容を理解することが必要なのは言うまでもないが、地域ごとの特徴も併せて理解することが、考古学を学ぶ上では重要である。

	学修テーマ	課 題
1	考古学とはどのような学問か	考古学の学問としての位置づけ、目的、調査研究の流れを理解する。
2	考古資料とは何か	考古学が扱うところの資料とはどのようなものから構成され、どのような特色を持っているかを理解する。
3	資料の観察	遺跡から出土した素資料・ナマの資料を、考古学の学術的資料とするための手順、方法、見方を理解する。
4	資料の解釈	資料を解釈し、そこから人間の活動を読み取る方法、モノからコト・コトガラを考える方法を理解する。
5	型式学・層位学・編年・年代決定法	考古資料を研究する上での時間的・空間的な物差しのかかり方について、考古学的手法、理化学的方法、両者のすり合わせ方について理解する。
6	分布論	資料の空間的な広がりのとらえ方と、そのことから分かる意味について理解する。
7	古代社会	考古資料を基にした社会・集団のとらえ方について理解する。
8	考古学と現代社会	考古学をめぐる今日的な課題、考古学と現代社会との接点について考察する。
9	旧石器文化	日本列島に人が住み始めたころの様相、人類の生活について理解する。
10	縄文文化	日本列島で長期にわたり営まれた狩猟採集を主とする時代はどのように始まり、どのような人々によって担われてきたのかについて理解する。
11	弥生・古墳文化	新しい生業や技術の導入により、生活や社会がどのように変化し、古代国家の誕生へとつながっていったかを理解する。
12	古代から中世前半の考古学	文字で書き残されてきた歴史と、物質資料から分かる歴史をすり合わせて研究する時代の様相と、それぞれの資料の特性について理解する。
13	中世後半から近現代の考古学	最近になって考古学的調査研究の対象とされるようになった、比較的近い時代の考古学の成果と課題について理解する。
14	列島北東部の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の北の文化について、考古学の視点から理解する。
15	南西諸島の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の南の文化について、考古学の視点から理解する。

シラバス執筆：菅野 和郎

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉考古学的年代決定法 第I部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

考古学的手法による年代の決定方法とは、どのようなものか。それはどのような調査及び資料操作によって導き出されるものであるか説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト等の単なる敷き写しにならないように注意すること。テキスト等の内容を理解した上で、適切な用語を使用し自分の文章で説明するようにすること。理化学的手法による年代測定法との関連性も考察すること。ただし課題が問うのはあくまでも『『考古学的手法』による『年代（時代ではない）』の決定方法』であり、そちらを主にまとめること。具体的な事例に即すと、考察しやすいであろう。

〈評価の観点〉

作業仮説、検討する手順、遺跡調査における具体的手法、各種方法による成果の総合化についての考え方を正しく理解し、鍵となる術語（専門用語）等を適切に用いた上で論じられているかを基に評価を行う。

〈その他の注意点〉

考古学の方法論を論じたり、考古資料によって日本の歴史を語る上で、年代を決定することがどのような意味を持つのか、という視点を常に意識して考察することは、本レポート課題のみならず、考古学を学ぶ上で重要である。

第2分冊 〈略題〉地域と遺跡 第II部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

自分の居住する地域における考古学的知見について、博物館・資料館等を見学した上でまとめよ。なおその際、展示方法についても気付いた点があれば簡明に付記せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

求めているのは博物館等の見学記・体験記や展示評ではない。見学した内容をもとに調べ、考古学に主軸を置いた視点で記載するように注意すること。見学した博物館等の名称と所在地を明示すること。居住する市（区）、町、村に考古資料を扱う博物館等がない場合は、近隣の市町村あるいは県レベルの博物館等を見学すること。なお、本来は市町村及び都道府県という設置者レベル・対象範囲が異なる、両者の博物館等を見学して比較考察することが望ましい。可能であれば、とり上げる遺跡についても実地踏査することが望ましい。

〈評価の観点〉

- ①地域の考古学的な文化の変遷や特徴が分かるように大まかに述べた上で、
- ②特定の（興味を持った）時代・遺跡について深掘りする形で述べることで、考古学的調査で分かった「遺構」や「遺物」等の状況の詳細が記述されていること。
- ③記載内容が博物館の見学記や体験記の要素が強いと判断される場合は、再提出を求めることになる。

〈その他の注意点〉

展示解説や文献等の単なる敷き写しにならないように注意すること。遺跡踏査の際、民有地・耕作地である場合もあるので、立ち入りの際は十分な配慮を行うこと。居住地周辺で遺跡の発掘調査が行われている場合、現場を見学をさせてもらうことができれば、知見が大いに広がるであろう。

参考文献

特にテキスト第II部（第2分冊）の内容については、テキストに紹介されているものをはじめ、理解の助けとなる多くの参考書が出版されているので、図書館等を利用して適切にまとめること。地域の考古学的状況の理解には、各自治体・教育委員会・博物館等で発行している自治体史・郷土誌・発掘調査報告書・展示図録等が参考になる。また、公共図書館の郷土資料コーナーにも、関連文献があると思われる。参考文献を使用した場合は、レポート末尾に明示すること。

科目試験等への
アドバイス

方法論及び考古資料に基づく歴史の双方共に、テキストの内容をよく理解しておくこと。具体的な事例を踏まえて解答できるようにしておく方が良いであろう。

教員からの
メッセージ

考古学を英語で archaeology というが、これは古代の学問という意味の古典ギリシア語に由来する語である。考古学の世界では、この語呂合わせで「歩けオロジー」とも言ってきた。実際に自分の足で踏査することの重要性を表すためである。考古学を学ぶ上で、テキスト、学修指導書を読むだけでなく、そこから得た知識をもって、各地の遺跡や考古・歴史系博物館等を訪ねて、遺跡、遺物から直接学ぶことが、ぜひ望まれる。

科目概要	考古学とは、過去の人類が残した物質的な資料を通して、その当時の生活・技術・文化・集団等を復元しようとするものであり、そのための各種方法論と、それらを通して明らかになった各時代の様相について学ぶ。
主な到達目標	考古学の基本的な方法論について説明できる。 考古学上の基本的な用語について説明できる。 各時代の様相とその変遷について概説できる。 考古資料を通してわかる、当時の人類の活動について説明できる。
テキスト学修の留意点	考古学は土地に密着した学問であり、その調査成果には、地域的な特徴が強くあらわれる。テキストに述べられている内容も、例えば当時の政権の中心地と、現に各自が居住している地域とでは、微視的には相違することも多分にあり得る。通史的に語られているテキストの内容を理解することが必要なのは言うまでもないが、地域ごとの特徴も併せて理解することが、考古学を学ぶ上では重要である。

	学修テーマ	課 題
1	考古学とはどのような学問か	考古学の学問としての位置づけ、目的、調査研究の流れを理解する。
2	考古資料とは何か	考古学が扱うところの資料とはどのようなものから構成され、どのような特色を持っているかを理解する。
3	資料の観察	遺跡から出土した素資料・ナマの資料を、考古学の学術的資料とするための手順、方法、見方を理解する。
4	資料の解釈	資料を解釈し、そこから人間の活動を読み取る方法、モノからコト・コトガラを考える方法を理解する。
5	型式学・層位学・編年・年代決定法	考古資料を研究する上での時間的・空間的な物差しのつくり方について、考古学的手法、理化学的方法、両者のすり合わせ方について理解する。
6	分布論	資料の空間的な広がりのとらえ方と、そのことから分かる意味について理解する。
7	古代社会	考古資料を基にした社会・集団のとらえ方について理解する。
8	考古学と現代社会	考古学をめぐる今日的な課題、考古学と現代社会との接点について考察する。
9	旧石器文化	日本列島に人が住み始めたころの様相、人類の生活について理解する。
10	縄文文化	日本列島で長期にわたり営まれた狩猟採集を主とする時代はどのように始まり、どのような人々によって担われてきたのかについて理解する。
11	弥生・古墳文化	新しい生業や技術の導入により、生活や社会がどのように変化し、古代国家の誕生へとつながっていったかを理解する。
12	古代から中世前半の考古学	文字で書き残されてきた歴史と、物質資料から分かる歴史をすり合わせて研究する時代の様相と、それぞれの資料の特性について理解する。
13	中世後半から近現代の考古学	最近になって考古学的調査研究の対象とされるようになった、比較的近い時代の考古学の成果と課題について理解する。
14	列島北東部の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の北の文化について、考古学の視点から理解する。
15	南西諸島の考古学	いわゆる「日本史」の中では取り上げられることが少ないが、独自の特徴をもって営まれてきた日本列島の南の文化について、考古学の視点から理解する。

シラバス執筆：菅野 和郎

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉考古学的年代決定法 第I部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

考古学的手法による年代の決定方法とは、どのようなものか。それはどのような調査及び資料操作によって導き出されるものであるか説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト等の単なる敷き写しにならないように注意すること。テキスト等の内容を理解した上で、適切な用語を使用し自分の文章で説明するようにすること。理化学的手法による年代測定法との関連性も考察すること。ただし課題が問うのはあくまでも『『考古学的手法』による『年代（時代ではない）』の決定方法』であり、そちらを主にまとめること。具体的な事例に即すと、考察しやすいであろう。

〈評価の観点〉

作業仮説、検討する手順、遺跡調査における具体的手法、各種方法による成果の総合化についての考え方を正しく理解し、鍵となる術語（専門用語）等を適切に用いた上で論じられているかを基に評価を行う。

〈その他の注意点〉

考古学の方法論を論じたり、考古資料によって日本の歴史を語る上で、年代を決定することがどのような意味を持つのか、という視点を常に意識して考察することは、本レポート課題のみならず、考古学を学ぶ上で重要である。

第2分冊 〈略題〉地域と遺跡 第II部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

自分の居住する地域における考古学的知見について、博物館・資料館等を見学した上でまとめよ。なおその際、展示方法についても気付いた点があれば簡明に付記せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

求めているのは博物館等の見学記・体験記や展示評ではない。見学した内容をもとに調べ、考古学に主軸を置いた視点で記載するように注意すること。見学した博物館等の名称と所在地を明示すること。居住する市（区）、町、村に考古資料を扱う博物館等がない場合は、近隣の市町村あるいは県レベルの博物館等を見学すること。なお、本来は市町村及び都道府県という設置者レベル・対象範囲が異なる、両者の博物館等を見学して比較考察することが望ましい。可能であれば、とり上げる遺跡についても実地踏査することが望ましい。

〈評価の観点〉

- ①地域の考古学的な文化の変遷や特徴が分かるように大まかに述べた上で、
- ②特定の（興味を持った）時代・遺跡について深掘りする形で述べることで、考古学的調査で分かった「遺構」や「遺物」等の状況の詳細が記述されていること。
- ③記載内容が博物館の見学記や体験記の要素が強いと判断される場合は、再提出を求めることになる。

〈その他の注意点〉

展示解説や文献等の単なる敷き写しにならないように注意すること。遺跡踏査の際、民有地・耕作地である場合もあるので、立ち入りの際は十分な配慮を行うこと。居住地周辺で遺跡の発掘調査が行われている場合、現場を見学をさせてもらうことができれば、知見が大いに広がるであろう。

参考文献

特にテキスト第II部（第2分冊）の内容については、テキストに紹介されているものをはじめ、理解の助けとなる多くの参考書が出版されているので、図書館等を利用して適切にまとめること。地域の考古学的状況の理解には、各自治体・教育委員会・博物館等で発行している自治体史・郷土誌・発掘調査報告書・展示図録等が参考になる。また、公共図書館の郷土資料コーナーにも、関連文献があると思われる。参考文献を使用した場合は、レポート末尾に明示すること。

科目試験等への
アドバイス

方法論及び考古資料に基づく歴史の双方共に、テキストの内容をよく理解しておくこと。具体的な事例を踏まえて解答できるようにしておくとい良いであろう。

教員からの
メッセージ

考古学を英語で archaeology というが、これは古代の学問という意味の古典ギリシア語に由来する語である。考古学の世界では、この語呂合わせで「歩けオロジー」とも言ってきた。実際に自分の足で踏査することの重要性を表すためである。考古学を学ぶ上で、テキスト、学修指導書を読むだけでなく、そこから得た知識をもって、各地の遺跡や考古・歴史系博物館等を訪ねて、遺跡、遺物から直接学ぶことが、ぜひ望まれる。

科目概要	人間の日常生活文化の成り立ちや伝統的な思考方法のあり方を、古くから民間で伝承されてきた様々な有形、無形の資料の採取と検証を通して明らかにし、私たちの「今、ここ」で営まれる生き方を問い直すのが民俗学です。本講では、我が国の様々な生活の基層文化に触れつつ、日本民俗学が積み上げてきた業績を通して、こうした民俗学の学問としての視点と方法を学ぶことを目的とします。
主な到達目標	(1) 日本民俗学が対象とする主要なテーマについて事例に基づきながら説明できる。 (2) 自分の生活圏において伝承された生活文化を採取・記述し分析することできる。 (3) 授業を通して学んだ民俗に関する知識を用いて現代日本人の生活のあり方を考察することができる。
テキスト学修の留意点	*現代人にとっては、馴染みのない用語がたくさん出てくるテキストです。まずは1章ごとにざっと通読し、わからない用語は後述の参考文献内にある辞典／事典類を参照しながら、より深く読み直してみてください。 *テキストに紹介されている民俗事象と、自分自身の生活とのつながりを考えながら読み進めるようにしてください。直接的か間接的かはわかりませんが、どこかに必ず繋がるポイントがあるはずです。

	学修テーマ	課 題
1	身体民俗 (1) : 装われた身体	第1章「身体を包む」、第2章「身体に施す」を通読することによって、日本人がヒトのからだをどのようなものと考え、何のために、どのような装いを工夫してきたのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に対して、簡単に答えてください。
2	身体民俗 (2) : 身体を守る	第3章「身体を守る」、第4章「ヒトの願い」を通読することによって、祖先がどのように身体を養い、また病気や禍いから身を守り、生活の安寧と繁栄を神々に願おうとしたのかを学び、日本人の生命観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に対して、簡単に答えてください。
3	家の民俗 (1) : 住空間	第5章「住まいの空間」を通読することによって、日本の家屋を含めた屋敷空間のあり方と生業との関係について学び、日本人の世界観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
4	家の民俗 (2) : イエ制度	第6章「イエと家族」、第7章「親類と本家・分家」を通読することによって、日本人の家系継承の理念と方法、及び、家族・親族観について学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
5	家の民俗 (1) : 出産と育児	第8章「出産と育児」を通読することによって、出産と乳児期の育児に関する文化のあり方を学び、日本人の生命観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
6	家の民俗 (2) : 婚姻制度	第9章「結婚の祝い」を通読することによって、婚姻に関する文化のあり方について学び、日本人の社会観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
7	家の民俗 (3) : 死と葬送	第10章「死の儀礼」を通読することによって、人の臨終と葬送に関する文化のあり方について学び、日本人の生命観及び社会観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
8	ムラの民俗 (1) : 空間と社会構成	第11章「ムラの空間」、第12章「ムラの社会構成」、及び第13章「ムラの交際」を通読することによって、祖先がどのように村落の生活空間を構築し、人間関係を秩序立てて来たのかについて学び、日本人の世界観・社会観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
9	ムラの民俗 (2) : ムラの人間関係と生業1	第14章「農と生活」、第15章「海と山の生活」を通読することによって、農山漁村といった我が国の生活文化の基層をなす生業について学び、日本人の自然観の一端に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
10	ムラの民俗 (3) : ムラの人間関係と生業2	第16章「さまざまな職業」、第17章「ムラとマチ」を通読することによって、手工業の職人や行商人の生活文化について学び、マチがムラからどのように派生し、独自性を獲得して行ったのか、ムラとどのような関係にあるかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
11	カミの民俗 (1) : 靈魂の行方と先祖	第18章「靈魂の行方と先祖」、第19章「イエを訪れるカミ」を通読することによって、死後の靈魂の行方に関する儀礼、及び我が国の来訪神文化の底流をなす様々な行事のあり方を学び、日本人の生命観・靈魂観に触れます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
12	カミの民俗 (2) : 神仏との交流	第20章「カミを求めて」、第21章「カミとの交流」を通読することによって、我が国の山岳信仰や巡拝文化のあり方、年中行事や芸能における火に関わる習俗を通して日本人が神々とのように関わろうとして来たのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
13	カミの民俗 (3) : 祭礼行事と祭祀組織	第22章「氏神と氏子」を通読することによって、我が国の村落における祭祀習俗を巡って築かれる社会構造のあり方について学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書に記されている問いに対して、簡単に答えてください。
14	カミの民俗 (4) : 異界と異人	第23章「他界と結ぶもの」、第24章「ふしぎな世界と空間」を通読することによって、日本人が他界や他界の存在とどのような関わって来たのか、日常のどのような場所・空間に他界との接点を認めて説話化していたのかを学びます。ノートに要点をまとめ、学修指導書の設問に答えてください。
15	郷土研究：南島	日本民俗の原態の1つとして考えられる沖縄地方の民俗のあり方について、ここまで学んできた、ヒト・イエ・ムラ・カミといった視点に基づいて考察します。テキスト最終章「特論」を通読して要点をノートにまとめてください。難解な用語等も調べておくことを忘れないようにしてください。

レポート課題

第1分冊 今尾 佳生

第2分冊 今尾 佳生

第1分冊 〈略題〉「ヒト」と「イエ」の過去・現在・未来 第I部「ヒト」、第II部「イエ」

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

次の3つのテーマのうちのどれか1つを選び、それがかつてどのようなものであったか（過去）、今はどのように変わって来ているのか（現在）について調べ（文献調査及び実地調査）、そして今後はどうなっていくだろうか（未来）を考えてまとめてください。

1. 自分の居住地域における衣、食、住の生活のうちどれか一つ。
2. 自分の居住地域における家族・親族関係。
3. 自分の居住地域における出産、育児、結婚、死のうちどれか一つ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 取り上げたテーマの具体的な内容を詳述すること。
- (3) インターネットの記事のコピー＆ペーストや参考文献の記事の丸写しは全面禁止です。要点を自分の言葉でまとめ直してください。
- (4) 過去については文献または経験者からの聞き取り、現在については文献に加え実地調査に基づいた客観的な報告を、そして未来については現代の地域社会・広域社会の動向を考慮し、根拠を挙げながら自分の考えを述べてください。
- (5) 文字表記やレポート全体の論理構成にも充分配慮してください。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) テキスト学習の成果が充分反映されているか。
- (3) レポート全体が論理的で見通しよく構成されているか。
- (4) 明晰で、正確な文章表現でまとめられているか。
- (5) 報告された事例は文献のみに依存せず、実地踏査を踏まえた体験的・具体的で詳細なものであるか。
- (6) 考察は主体的かつ妥当なものか。テキストや、参考文献、インターネット記事等における当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

- (1) くれぐれも、課題の趣旨や留意事項などを確認してから執筆するようにしてください。
- (2) 引用・参考にした文献等がある場合は、必ず出典を明記してください。
- (3) 民俗学という学問にとって、実地踏査は欠かせません。文献のみに依存したレポートは、評価が低くなるか、場合によっては不合格になり得ることをお含みおきください。少しでも現地・現物の観察や、聞き取りなどを試みてください。

第2分冊 〈略題〉生活空間・生業・神々 第III部「ムラ」、第IV部「カミ」、特論

縦書き指定

Word添付

〈課題〉

次の5つのテーマのうちのどれか1つを選び、その調査結果と考察をまとめてください。

1. 自分の居住地域の a) 空間構造（ムラでもマチでも）、そこでの b) 人間関係、c) 生業（農林水産業、手工業、商業など）のうち、どれか一つの過去と現在。そして未来はどうなっていくか。
2. 自分の居住地域で行なわれて年中行事や祭礼。それが現代の地域社会の生活にどのような意味をもっているのか。
3. 自分の居住地域におけるふしぎな場所と、それに関する説話や伝説。何故そこが異界性を帯びるのか、何故そのような説話や伝説が発生するのか。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) 課題の趣旨を十分に把握し、要求されていることに的確に答えること。
- (2) 取り上げたテーマの具体的な内容を、できるだけ詳しく記述すること。
- (3) インターネットの記事のコピー＆ペーストや参考文献の記事の丸写しは全面禁止です。要点を自分の言葉でまとめなおしてください。
- (4) 文献調査及び実地調査に基づき、テキストやその他参考文献で学んだ知識を用いながら、根拠を挙げて自分の考えを述べてください。
- (5) 文字表記やレポート全体の論理構成にも充分配慮してください。

〈評価の観点〉

- (1) 課題の趣旨を正確に理解した上でその要求を満たしているか。
- (2) テキスト学習の成果が充分反映されているか。
- (3) レポート全体が論理的で見通しよく構成されているか。
- (4) 明晰で、正確な文章表現でまとめられているか。
- (5) 報告された事例は文献のみに依存せず、実地踏査を踏まえた体験的・具体的で詳細なものであるか。
- (6) 考察は主体的かつ妥当なものか。テキストや、参考文献、インターネット記事等における当該記述の丸写し、及びそれに準ずるレポートは無条件に不可評価とします。

〈その他の注意点〉

- (1) くれぐれも、課題の趣旨や留意事項などを確認してから執筆するようにしてください。
- (2) 引用・参考にした文献等がある場合は、必ず出典を明記してください。
- (3) 民俗学という学問にとって、実地踏査は欠かせません。文献のみに依存したレポートは、評価が低くなるか、場合によっては不合格になり得ることをお含みおきください。少しでも現地・現物の観察や、聞き取りなどを試みてください。

参考文献	 『日本民俗学概論』（福田アジオ・宮田登編、吉川弘文館）／『図解案内 日本の民俗』（福田アジオ、小林光一郎他編、吉川弘文館）／『民俗学読本—フィールドへのいざない—』（高岡弘幸他編著、晃洋書房）／『民俗学の愉楽』（谷川健一、現代書館）／『民俗学の旅』（宮本常一、講談社）／『写真民俗学』（芳賀日出男、角川学芸出版）／『日本民俗大辞典く上く下』（福田アジオ・湯川洋司・中込睦子他編、吉川弘文館）／『民俗学事典』（民俗学事典編集委員会編、丸善出版）／『精選 日本民俗辞典』（福田アジオ・新谷尚紀・湯川洋司他編、吉川弘文館）
科目試験等への アドバイス	 *当然のことですが、科目試験は、テキスト学習が充分に行われていることを前提としています。テキストに1度目を通した、という程度で合格にこぎつけるのは難しいでしょう。章節ごとに時間をかけて丁寧に読解し、要点を着実にノートにまとめておくと同時に、わからない用語は民俗学の辞典類を活用して確実に理解しておくことが大切です。 *試験を受ける時には、とにかくまず最初に問題文じっくりと読み、何が要求されているのかを適切に判断してから書くべき内容を決めるようにしてください。
教員からの メッセージ	 私たち自身の生活や人生の意味を問い直すのが民俗学という学問の最大の意義です。今現在の自分の生活の中で当たり前のように思っていた物事に対して疑問をもち、その意味や起源について問い直してみることから始まります。一見関係なさそうに思えても、現代のポップカルチャーや、サブカルチャーの中にも古くからの民俗が潜んでいるかもしれません。ぜひ学んだことを応用してみてください。

科目概要	この科目は、自然科学の歴史を概観することによって、自然哲学・自然科学が人間の創り上げた文化の一つであることを知る。人類の歴史において、とくに近代以降の自然哲学と技術が社会と深く関係性をもつようになった。その結果として、自然哲学は文化としてのみならず、むしろ近代以降の人類にとって必要不可欠な知的体系へと変容する。その変化を理解すること、そして現代の人類が科学・技術とどのように向き合うのが妥当であるかを各自が考える。
主な到達目標	自然についての知見がどのように体系化されていくのかを知る。その過程においてそれぞれの時代における思想・文化との関連を理解する。また、近代以降、技術と自然哲学・自然科学との関係性が増してくることを知る。自然についての学問の研究態度が定量的手法に基づいているか否か、が近代とそれ以前とを分ける重要な目安であることを理解する。
テキスト学修の留意点	各章ごとにまとめを作成してみる。そして、そのまとめを基に、以下の学修テーマに取り組むとよいであろう。必要に応じて、テキストにある参考文献あるいは学修指導書に記載された参考文献などを用いて学修を深めることを推奨する。テキストや参考文献に書かれていることを無批判に正しいと見なすのではなく、事実を確認しながら、事実に基づき自分自身の意見を構築する。事実と意見の区別は極めて重要である。

	学修テーマ	課 題
1	科学と技術の定義および相関性	テキストの第1章をまとめる。科学、技術の定義を認識し、それらの関係性を考えてみる。また、余力があれば、古代バビロニアの数学について調べてみることもお勧める。
2	古代ギリシアの科学（自然哲学）	第2章をまとめる。古代ギリシアにおいて自然についての知識が学問として体系化していくこと、それがさらに時代が進むにつれて変容していくことを知る。
3	古代ローマの技術と自然哲学	第3章をまとめる。古代ギリシア人と古代ローマ人の関心の持ち方の違い、気質の違いがもたらす技術や自然哲学の特徴を理解する。
4	中世の科学・技術	第4章をまとめる。中世の特徴をキリスト教、大学、印刷術という観点から見てみる。
5	アラビアの科学	第5章をまとめる。アラビア語圏（イスラム圏）における8～11世紀の自然哲学（科学）を学ぶ。これらが後世に与えた影響を想像してみる。
6	ルネサンス期の科学	第6章をまとめる。それまでの時代とは異なる新しい自然の探求方法への道が開かれたことを学ぶ。
7	近代科学の誕生	第7章をまとめる。それまでの自然哲学研究との手法の違いを意識しまとめること。
8	産業革命期の科学・技術	第8章をまとめる。科学と技術との関係がこれまでと異なってきたことに注意してまとめること。
9	中国・インドにおける自然哲学と技術	第9章をまとめる。東洋における自然探求の在り方が、西洋と異なることを知る。
10	日本における科学と技術の流れ	第10章をまとめる。日本における科学の探求、および西洋からの学問の流入を見る。日本固有の学問と外来の学問との違いを認識するとよい。どちらが優れているか、という観点での考察は、それぞれの文化の違いを考慮しないことになるので、慎重である必要がある。
11	20世紀前半の科学・技術	第11章をまとめる。各分野ごとに簡潔にまとめるとよい。
12	20世紀後半の科学・技術	第12章をまとめる。科学・技術が現代の社会にもたらす影響を多角的に捉えることが重要である。
13	12世紀ルネサンス	テキストでは触れられていないが、イスラム圏の自然哲学や数学が流入するのは12世紀のことである。それを12世紀ルネサンスという。これについて、参考文献などで調べる。
14	自然哲学・自然科学の定量的研究	定量的研究手法、という観点からガリレオ以降の自然哲学（自然科学）の研究を、それ以前（中世までの研究）と比較してみる。
15	まとめ	ここまでの内容を整理してみよう。テキストにおいては、現代的視点に基づく価値観に従って古代や中世の自然哲学や技術が批判される傾向がある。これは正当な理解なのか各自で考察する。

シラバス執筆：庄司 高太

レポート課題

第1分冊 庄司 高太

第2分冊 庄司 高太

第1分冊 〈略題〉自然哲学が近代化されるまでの歴史 テキスト9ページから53ページ

横書き

直接入力

〈課 題〉

古代の自然哲学から近代の自然哲学に至る流れをまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当する各章を要約したうえで、それらの関連を意識してまとめること。文章中にある事実に関する記述を重視してまとめること。

〈評価の観点〉

全体のバランス、表現の明確さ、参考文献の引用、の3点が主な観点である。レポートに含まれる情報量が極端に少ない場合や、誤字脱字が目立つ場合には再提出の対象となる。

〈その他の注意点〉

特になし。

第2分冊 〈略題〉近代科学の発展と技術 テキスト55ページから117ページ

横書き

直接入力

〈課 題〉

近代から現代までの科学・技術の流れを、相互の関係に注意してまとめよ。アジアおよび日本についての記述は適宜利用してもよいし、無理に含めなくてもよい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当する各章を要約したうえで、それらの関連を意識してまとめること。文章中にある事実に関する記述を重視してまとめること。

〈評価の観点〉

全体のバランス、表現の明確さ、参考文献の引用、の3点が主な観点である。レポートに含まれる情報量が極端に少ない場合や、誤字脱字が目立つ場合には再提出の対象となる。

〈その他の注意点〉

特になし。

参考文献

.....
学修指導書に挙げた参考書科目試験等への
アドバイス.....
テキストの章立ての順に沿う形で出題します。各章を自分の言葉でまとめ、参考文献などで理解を深めましょう。教員からの
メッセージ.....
現代社会において、科学・技術とどのように向き合うのが妥当であるのかを考察することは大切です。自然科学史を学ぶことは、向き合い方を考えるうえで大切かつ有用であると考えます。歴史を見ると、時代ごとに科学や技術と社会との関係が変化しているのが分かります。専門化が進むと、多くの人にとっては何が妥当なのか、なかなか判断がつかなくなります。その状況が社会や人類にとって好ましいものなのか、考える必要があるでしょう。そのためにも、科学の教育の在り方も考えられるべきで、そのための材料が歴史の中に見いだされることもあるのではないのでしょうか。

科目概要	博物館法施行規則に規定された科目で、「学芸員となる資格」取得のために学修する、博物館学系諸科目の導入・基礎となるものである。博物館学・博物館の定義等を理解し、博物館の歴史・現状、諸制度、社会的位置づけ、博物館の魅力や可能性等、博物館に共通する事項を概括的に学修し、学芸員となるための基礎を学ぶ。また、学芸員としての立脚点を確認し、各専門的な学修・博物館活動に対しての理解の基礎を構築する。
主な到達目標	博物館及び博物館学の目的について説明できる。 博物館の定義、基本的構成要素及び活動内容について説明できる。 博物館の歴史と現状について説明できる。 学芸員の役割について説明できる。 地域・社会、市民・利用者と博物館の関係について説明できる。 博物館法について説明できる。
テキスト学修の留意点	博物館学系の諸科目中、本科目を最初に学んでから他科目の学修に進むことが望ましい。本科目では、テキストと学修指導書は一体のものとして学修することが求められる。テキストの内容で、刊行後に法規等の制度改正や新たな統計値が公表されているものについては、学修指導書・レポート課題の注意点で補訂しているので、必ず目を通すこと。レポート作成は、「レポート課題」に記載した留意事項と、評価の観点を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	博物館学とは何か	・博物館学とはどのような学問か。 ・博物館学の目的・方法・構成とはどのようなものか。 ・博物館学はどのように発展したか。(第1章)
2	博物館とは何か	・博物館の定義・構成要素とはどのようなものか。 ・理想的な、良い博物館とはどのようなものか。(第1章)
3	博物館の種類	・博物館の分類基準にはどのようなものがあるか。 ・博物館にはどのような種類のものが存在するか。(第1・3章)
4	博物館の目的	・博物館の存在理由とは何か。(第1・5章)
5	博物館の機能・活動	・博物館活動の種類・構成・特質とはどのようなものか。(第1・4章)
6	世界の博物館の歴史	・博物館の起源とは何か。 ・博物館の形成過程とはどのようなものか。 ・いかなる要因・過程で近代的博物館への変質・脱皮が行われたか。 ・諸外国の博物館の現状とはどのようなものか。 ・博物館に関する国際組織はどのようなものか。(第2章)
7	わが国の博物館の発達史	・博物館前史はいかなる様相であったか。 ・近代における博物館の導入・定着過程はどのようなものであったか。 ・第2次世界大戦後の時期の博物館の変質とその後の博物館の発展過程はどのようなものか。 ・博物館の現状とはどのようなものか。(第2章)
8	博物館法制	・博物館関係法令にはどのようなものがあり、どのような構造・構成になっているか。 ・博物館とその事業・資料・職員・種別等は法令上どのように規定されているか。 ・博物館法の内容はどのようなものか。 ・ユネスコ及び国際博物館会議関係の規程類はどのようなものか。(第3章・学修指導書)
9	博物館の組織・学芸員とは何か	・博物館の組織構成とはどのようなものか。 ・博物館の職員構成とその役割・職分とはどのようなものか。 ・学芸員の定義・現状・役割・職分とは何か。 ・学芸員に求められる専門性とは何か。(第4章)
10	社会的存在としての博物館	・博物館の社会的位置づけとはどのようなものか。 ・博物館と市民との関係はいかなるものであるべきか。 ・博物館・博物館展示の政治性とは何か。(第5章)
11	地域施設としての博物館	・地域博物館の意義・目的、活動とはどのようなものか。 ・博物館と地域とのかわりとはどのようなものか。 ・地域のために博物館は何ができるか。(第6章)
12	博物館の利用者	・博物館を利用するとはどういうことか。 ・博物館にとって利用者とはどのような存在か。 ・利用者にとって博物館とはどのような存在か。 ・利用者の行動形態・意識とはどのようなものか。(第7章)
13	博物館と生涯学習	・生涯学習とは何か。 ・博物館における生涯学習とはどのようなものか。 ・人々の生涯学習に対し博物館は何ができるか。(第8章)
14	博物館研究	・博物館研究・博物館学研究の目的とは何か。 ・博物館研究・博物館学研究にはどのような方法があるか。(第9章)
15	博物館の公共性・現代的課題	・博物館を公共的存在とする根拠は何か。 ・今日の博物館が抱える課題とは何か。(特論1・2)

レポート課題

第1分冊 加藤 里美・菅野 和郎

第2分冊 加藤 里美

第1分冊 〈略題〉学芸員の職分 第1章～第4章・指導書別冊の博物館関係法規

横書き指定

直接入力

〈課題〉

学芸員の職分とは何か、また、そのために学芸員に必要とされるものとは何か、考えるところを述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト全体を通読の上、各分冊課題に取り組むことが望ましい。テキストの内容が現状と合致しない部分を指導書及び「その他の注意点」欄で補訂したので、必ず目を通し確認のこと。特定の館種・館園に限定せず、博物館全般を対象に考察すること。テキスト以外の参考文献等の利用は望ましいが、他者の言説を引用する場合はルールに従い、使用した文献等は文末註記で全てを明示し、その際の記載方法（記載事項・記載順・付番等）は、学術的な文章における註記法に準拠すること（インターネット上の情報についても同様）。無断引用等の剽窃行為は厳に慎むこと。

〈評価の観点〉

- ①課題の求める点を十分考察して論述しているかをもとに評価を行い、考察が不十分な場合は再提出を求める。
- ②テキストその他文献の要約・敷き写しを求めている。そのような内容のもの、要約等の記述が過大なものは、再提出とする。テキスト等を踏まえ、博物館人に相応しい意識・見識に根ざしつつ、自己の見解を中心に述べたものであること。
- ③日本語として正しく論説文としての体裁を整えたものであること。2000字に満たないレポートは、無条件に再提出とする。

〈その他の注意点〉

現行法令・最新の統計値、行政情報等は、下記のウェブサイトを確認すること。
 社会教育関係法令
https://www.next.go.jp/a_menu/01_l/08052911/005.htm
 統計情報（社会教育調査（最新は令和3年度））
https://www.next.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm
 ICOMの規約類 <https://icomjapan.org/about/>
 博物館の原則・博物館関係者の行動規範
<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/2012.7koudoukikan.pdf>
 政策について＞博物館
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html
 博物館総合サイト <https://museum.bunka.go.jp/>

第2分冊 〈略題〉学びの場としての博物館 第5章～特論2

横書き指定

直接入力

〈課題〉

学びの場としての博物館ということのために、博物館が果たすべき役割とはいかなるものであるべきか、また、市民はどのように博物館の機能を活用することが望ましいか、考えるところを述べよ。その際、各自が博物館の一利用者（あるいは一関係者）として経験してきた具体的事例に照らし、上記の点で何を期待するかについても、併せて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキスト全体を通読の上、各分冊課題に取り組むことが望ましい。学修指導書も必ず目を通すこと。テキストの内容が現状と合致しない部分を指導書及び次の「その他の注意点」で補訂しているので、確認のこと。
 テキスト以外の参考文献等の利用は望ましいが、無断引用等の剽窃行為は厳に慎み、ルールに従った引用法・註記を行うこと。インターネット上の情報についても、同様である。
 主たる論題は、課題前段にある。課題の後段は具体的な経験とそれに基づく論述を求めるが、この部分で文字数を取り過ぎないように注意すること。

〈評価の観点〉

- ①課題の求める点を十分考察して論述しているかをもとに評価を行い、考察が不十分な場合は再提出を求める。
- ②テキストその他文献の要約・敷き写しを求めている。そのような内容のもの、要約等の記述が過大なものは、再提出とする。テキスト等を踏まえ、博物館人に相応しい意識・見識に根ざしつつ、自己の見解を中心に述べたものであること。
- ③日本語として正しく論説文としての体裁を整えたものであること。2000字に満たないレポートは、無条件に再提出とする。

〈その他の注意点〉

現行法令・最新の統計値、行政情報等は、下記のウェブサイトを確認すること。
 社会教育関係法令
https://www.next.go.jp/a_menu/01_l/08052911/005.htm
 統計情報（社会教育調査（最新は令和3年度））
https://www.next.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm
 ICOMの規約類 <https://icomjapan.org/about/>
 博物館の原則・博物館関係者の行動規範
<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/2012.7koudoukikan.pdf>
 政策について＞博物館
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html
 博物館総合サイト <https://museum.bunka.go.jp/>

参考文献

特定のものを、レポート作成上の参考文献として指定はしない。しかし、テキスト第9章及び巻末の「参考文献」で紹介された文献、並びに学修指導書で紹介した文献等の中から適宜参考にすれば、内容理解の助けになるであろう（ただし取り上げたものの一部には、絶版のものや一般書店では入手できない書籍も含まれている）。

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、「主な到達目標」欄に掲げた項目に照らし、テキストの内容を理解して、説明できるかを問うものとする。博物館法（昭和26年法律第285号）に関する問題を出題することもあり得る。博物館法の条文はテキストに収録されていないため、学修指導書別冊及び上記「その他の注意点」記載のもの等を参照すること。

教員からの
メッセージ

博物館学は、テキスト学修以外に、現場である博物館に足を運び、実例に即して確認・考察することが、重要かつ不可欠である。受講者には、少なくとも利用者の立場で、多様かつ豊富な博物館体験を有することを求めたい。また、博物館・博物館学は極めて学際的な存在である。受講者各自の専攻分野に関連する博物館はもちろん、様々な種類・規模・設置者の博物館を、目的意識をもって自主的・積極的に数多く（学芸員資格を目指すならば、最低でも年間20～30館（これとて月平均にすれば2～3館程度である）は）見学することが望まれる。資格取得のため義務的に履修するのではなく、博物館・博物館学に対する興味と問題意識をもって学修することを求めたい。

科目概要	博物館経営論は、大学で学芸員資格を取得するために必要な文部科学省令の定める博物館に関する科目の一つである。この科目では、学芸員に求められる博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養うことを目的とする。
主な到達目標	・博物館経営の目的や有効性について説明できる。 ・博物館の使命書・中長期計画の目的、必要性、内容について説明できる。 ・博物館の経営基盤となる要素について説明できる。 ・博物館を運営するための具体的な方策について説明できる。 ・博物館のネットワーク・地域社会との連携のあり方について説明できる。 ・博物館および学芸員の倫理・行動規範、危機管理を説明できる。
テキスト学修の留意点	・主な到達目標に関わる諸要素について、博物館の機能や役割についての理解をふまえて、管理・運営面の基本概念を説明できるようにする。 ・本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

	学修テーマ	課 題
1	博物館の現状と課題	〈博物館の歴史的発達〉と〈取り巻く状況の変化〉はどのようなものか。博物館経営面の〈問題点〉と〈課題〉は何か。
2	博物館の設立	〈博物館設置〉の〈目的・理念〉とは何か。博物館設置の〈環境〉はどのようにあるべきか。博物館はどのようにして〈つくられる〉か。
3	博物館の施設と組織	博物館はどのように〈設立〉されるのか。博物館の〈施設〉と〈組織〉はどのようにあるべきか。
4	博物館の活動と運営 (1)	〈博物館資料〉〈収集〉〈展示活動〉における〈経営的内容〉とは何か。またその〈実践〉はどうあるべきか。
5	博物館の活動と運営 (2)	博物館の〈調査〉〈研究活動〉における〈経営的内容〉とは何か。〈広報〉や〈教育普及活動〉はどのような〈役割〉を果たすのか。またその〈実践〉はどうあるべきか。
6	博物館事業と予算・経営	博物館の〈予算と経営〉はどのようになっているのか。〈企画展〉がどのように〈計画・実施〉されているのか。〈事前・事後評価〉はどうあるべきか。
7	付帯事業の展開	〈ミュージアム・ショップ〉と〈オリジナルグッズ〉はどのようにあるべきか。〈レストラン〉や〈関連事業〉はどのようにあるべきか。
8	博物館を支える組織	〈友の会〉〈賛助会員〉〈ボランティア〉などの〈組織〉とは何か。またその〈役割と運営〉はどのようなものか。
9	地域社会と博物館	〈博物館と地域社会〉が〈連携〉する目的とは何か。また人々とどのように〈連携〉すべきか。〈博物館ネットワーク〉の目的と内容はどのようなものか。
10	これからの博物館経営 (1)	〈博物館経営論〉の必要性とは何か。博物館の〈運営と経営〉はどのようにあるべきか。
11	これからの博物館経営 (2)	〈博物館〉および〈学芸員〉の〈目指すべき方向性〉は経営論的にどうあるべきか。
12	博物館の使命書・中長期計画と評価	博物館経営の指針となる〈使命書〉および〈中長期計画〉とは何か。またそれらをどのように〈作成〉するのか。〈評価〉の目的と役割は何か。
13	博物館行財政制度	博物館の〈行財政制度〉はどのようにつくられてきたか。
14	博物館と利用者	博物館における〈利用者〉の〈快適さ〉とは何か。利用者への〈サービス〉はどうあるべきか。〈マーケティング〉〈利用者調査〉の〈目的と内容〉はどのようなものか。
15	博物館倫理・危機管理	博物館の〈法的倫理〉と職員の〈行動規範〉とはどのようなことか。博物館の〈危機管理〉の〈内容と方策〉はどうあるべきか。

シラバス執筆：萩原 哉

レポート課題

第1分冊 萩原 哉

第2分冊 萩原 哉

第1分冊 〈略題〉生涯学習の拠点としての博物館 1章～3章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館が生涯学習の拠点としての役割を果たしていくうえで、現在どのような問題や課題があり、それらをどのように克服していくべきかについて、経営論の視点から多角的に考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 博物館経営論の視点から課題の考察に取り組むこと。
- ② 生涯学習において博物館が果たすべき役割をよく理解したうえで、課題の考察に取り組むこと。
- ③ テキスト全般と学修指導書とともに、関連する複数の文献をよく読み、博物館をとりまく現在の状況についての総合的な理解につとめること。
- ④ 特定の館園、館種に限定せず、博物館全般を対象にして考察すること。
- ⑤ テキストや参考文献等からの引用、抜粋を多用せず、自身の視点と言葉で論述すること。

〈評価の観点〉

- ① 博物館経営論の視点から考察できているか。
- ② 博物館全般のレベルで考察できているか。
- ③ 博物館と生涯学習の関わりを理解したうえで考察がおこなわれているか。
- ④ 現在の博物館がかかえる問題や課題についての総合的な理解につとめ、それらを克服するための方策についての多角的な考察を試みているか。
- ⑤ 以上の観点と留意事項を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

第2分冊 〈略題〉博物館のサービス 4章～6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館には、基本的で変わらないサービスの提供と、博物館資源を利用した新しい内容のサービスの提供・発信が求められている。この2つのサービスの内容を明らかにするとともに、今後どのような展開が必要かについて、具体的な事例をあげながら考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 経営論の視点から課題の考察に取り組むこと。
- ② テキスト全般と学修指導書とともに、関連する複数の文献をよく読み、博物館をとりまく現在の状況についての総合的な理解につとめること。
- ③ 博物館のサービスとは何かを正しく理解したうえで、課題の考察に取り組むこと。
- ④ テキストや参考文献等からの引用、抜粋を多用せず、自身の視点と言葉で論述すること。

〈評価の観点〉

- ① 博物館経営論の視点から考察できているか。
- ② 博物館におけるサービスの意義を理解しているか。
- ③ サービスに関する具体的な内容を示しながら考察できているか。
- ④ 以上の観点と留意事項を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

本科目の学修とレポートの作成にあたっては、博物館をとりまく現在の状況についての理解につとめることが重要である。そのため、テキスト、学修指導書や参考文献等を読み込むだけでなく、自分自身の目で博物館をとらえ、博物館が社会に対して果たすべき役割を探究する必要がある。

参考文献

テキストおよび学修指導書に記載の文献のうち、各課題にかんする自身の考察に必要な複数の文献を参考にする。

科目試験等への
アドバイス

博物館経営に関わる諸要素や具体的な活動のほか、博物館経営における問題や課題なども含めて、テキストの内容を十分に理解することが重要である。

教員からの
メッセージ

博物館学では、実際に博物館を訪れ、現場を自分の目で確認し、考察することが重要である。さまざまな種類の博物館を、目的意識と問題意識をもって数多く見学することが望まれる。

科目概要	博物館資料は、博物館活動の根幹を成すものであり、極めて多様である。博物館資料の概念や意義、収集、整理、研究、還元という一連の流れについて、理論や方法に関する知識・技術とともに理解を深める。また、次代へ受け継がれるために必要な博物館活動についても考察する。
主な到達目標	博物館資料の定義をふまえ、博物館「資料」の収集、保存、展示公開、調査研究等の過程を理解し、博物館活動を様々な角度から捉えられること、多様な資料の特性を把握し、博物館の中核となる「資料（モノ）」と、それに内包された「情報」を引き出して活用するための基礎的能力を養うことを目的とする。
テキスト学修の留意点	まず、テキストを通読してください。その後、言葉の意味を確認しながら各課題をまとめてください。テキスト、学修テーマと各課題、学習指導書に出てくるさまざまな用語やキーワードについて、正確に説明できるようにしてください。 レポート課題は、テキストや参考文献をそのまま写すのではなく、そこから学んだことを、具体例を交えて自身の言葉で正確に伝えるようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	博物館資料の意義	・博物館資料論を学ぶ意義 ・博物館資料の概念
2	博物館資料の定義	・博物館資料の多様性 ・一次資料と二次資料について、言葉の意味するところとそれぞれの特徴
3	博物館資料の収集	・博物館の運営方針と資料収集の理念 ・さまざまな収集方法（購入、寄贈、寄託）と収集プロセス ・博物館における「コレクション」とは
4	博物館資料の整理	・資料の情報収集、資料調査書、資料受入書の作成 ・資料活用のための整理
5	博物館資料の分類・保存	・資料の分類、登録、整理、保管
6	博物館資料の調査・研究	・歴史系博物館、科学系博物館における資料の調査研究 ・専門領域における調査研究
7	博物館資料の公開	・展示の形態と分類、展示室内の設備 ・資料を活かす展示とは
8	研究成果の還元	・研究活動の範囲と実態、地域社会への還元 ・博物館の教育的活用
9	博物館資料の取扱い	・博物館資料の取り扱い ・展示室内、収蔵庫の保管環境
10	資料の修理と修復	・修復についての考え方 ・複製の制作と活用
11	資料劣化の要因と対策	・展示と劣化、温湿度と光、生物被害 ・展示と保存、展示室と収蔵庫の環境
12	画像・デジタル資料の活用	・写真・画像資料の利用 ・資料の電子化、データベース、デジタルアーカイブ
13	博物館資料と展示ケース	・展示ケースの種類、構造と機能
14	博物館資料と災害	・災害と博物館資料 ・資料の危機管理
15	博物館資料の継承	・博物館資料が次代に受け継がれていくために ・資料保存のための手段とは

シラバス執筆：栗林 あかね

レポート課題

第1分冊 栗林 あかね

第2分冊 栗林 あかね

第1分冊 〈略題〉博物館資料の情報と展示 全範囲

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学芸員は、資料に内包された情報をどのように展示に活かしているか、具体例を示しながら述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、執筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設の学芸員に対して質問が可能であった場合は、資料の収集・整理・展示までの過程等について得た情報を、執筆者自身の言葉で整理して、学びを踏まえてまとめること。単なる展示資料の紹介やインタビュー記事にならないこと。第1分冊と第2分冊でレポート対象とする展覧会（展示）は、異なるものであること。

〈評価の観点〉

資料に内包された情報をどのように展示に活かしているか、博物館資料の意義を踏まえたうえで、具体的な事例に即して述べる。具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、執筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設のホームページや解説、関連記事、職員・学芸員等から得た情報をそのまま記すのではなく、執筆者自身の言葉で整理してまとめること。

〈その他の注意点〉

自分の意見と文献からの引用を明確に分けて記すこと。博物館で質問する際には、次の事に十分気をつけること。・施設の運営を妨げる可能性のある全ての行為を行わない。・利用者の質問や問合わせを受け付けている窓口を設けている場合には積極的に活用し、窓口がない場合は、施設及び学芸員、働く方々の仕事を妨げない範囲で問合わせる。どちらの場合も、施設や職員、学芸員等そこで働く方々の様子をよく見て考えて行動する。状況に応じて予め連絡をした上で来館することが望ましい。・質問は明白に、簡潔に尋ねる。・学芸員を目指す者として真摯な姿勢を保つ。

第2分冊 〈略題〉写真・画像資料の活用 全範囲

横書き指定

Word添付

〈課題〉

写真・画像資料の活用について、具体例を示しながら述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

近年では、古写真や個人の写真コレクションなどが博物館資料として各地の博物館で収集・活用されるようになってきた。また最近のコンピューターの飛躍的な発展は、写真・画像資料の活用をますます後押ししている。写真の利用が記憶の再生だけでなく、過去と現在をつなぐ役割を持っていることに留意して、学びを踏まえてまとめること。単なる展示資料の紹介やインタビュー記事にならないこと。見学した博物館名、展覧会名、期間等を正確に明記すること。第1分冊と第2分冊でレポート対象とする展覧会（展示）は、異なるものであること。

〈評価の観点〉

具体的な事例に即して述べる。具体例はテキストや参考書、雑誌記事、ホームページ等からではなく、筆者自身が実際に博物館を見学し、興味をもった展示とすること。見学した施設のホームページや解説、関連記事、職員・学芸員等から得た情報をそのまま記すのではなく、執筆者自身の言葉で整理してまとめること。

〈その他の注意点〉

自分の意見と文献からの引用を明確に分けて記すこと。博物館で質問する際には、次の事に十分気をつけること。・施設の運営を妨げる可能性のある全ての行為を行わない。・利用者の質問や問合わせを受け付けている窓口を設けている場合には積極的に活用し、窓口がない場合は、施設及び学芸員、働く方々の仕事を妨げない範囲で問合わせる。どちらの場合も、施設や職員、学芸員等そこで働く方々の様子をよく見て考えて行動する。状況に応じて予め連絡をした上で来館することが望ましい。・質問は明白に、簡潔に尋ねる。・学芸員を目指す者として真摯な姿勢を保つ。

参考文献

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012年。
八尋克郎・布谷知夫・里口保文編著『博物館でまなぶ 利用と保存の資料論』東海大学出版会、2011年。
そのほか、テキスト及び学習指導書内の参考文献を参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

博物館資料に関係する用語や内容について、一題を記述式で問う。博物館資料について基礎的・基本的な理解ができていて、そしてテキストや学習指導書、参考文献にある用語や定義、事例についても正確に理解して明確な説明ができることが前提であり、それらを踏まえて設問に対して多面的・俯瞰的に述べられているかを評価の対象とする。

教員からの
メッセージ

普段から積極的に博物館（ミュージアム）へ訪れ、さまざまな資料を自身の目で確認しながら理解を深めていくことは、博物館資料を理解するにあたり望ましい姿勢です。自身の専門分野外、興味の対象ではないような展覧会であっても、まずは訪問し、展示資料を観覧することを勧めます。レポート作成にあたっては可能な限り、ただし相手方の迷惑にならないよう最大限配慮して、博物館学芸員へのインタビューに挑戦してみてください（質問行為は必須ではありません）。

科目概要	情報、メディアに関する意義、歴史、特性、現状等を学びながら、それらがどのように博物館の諸活動に関わっているかを学ぶ。同時に、博物館活動の基盤とも言える資料や情報、そしてメディア活用について理解し、博物館活動の特性や現状を学ぶ。
主な到達目標	博物館における情報及びメディア活用の意義と特性を学び、博物館活動の諸場面（情報収集、保存管理、公開、活用他）で、どのように、いかに生かしていくかを理解する。また、それらの基本的理解を元に、博物館に特化した諸状況について考察することができる。
テキスト学修の留意点	テキストに書かれた内容（図表を含む）をよく理解し説明できるようにする。学修指導書ではテキストに記載のない内容も扱っているため、あわせてよく理解しておくこと。上記を読むだけでは実感としてつかみにくい箇所については、身近な視聴覚機器や情報機器、ネットワークを積極的に用い、博物館を訪れ様々な事例に触れてみる。さらに博物館やメディアに関する話題、法律に関しては、日頃から留意し現状に照らして理解に努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	博物館における情報・メディアの意義	博物館活動と情報・メディアの意義、その重要性について理解する。
2	視聴覚教育メディアの理論、歴史	博物館の教育的特性から、視聴覚教育の理論、歴史について理解する。
3	メディアの種類、機能、特性	博物館、あるいは教育現場で用いられるメディア、視聴覚機器の種類、機能及び特性について理解する。
4	メディアの教育、諸相	メディアに関する諸相（概説、歴史、メディア教育等）について理解する。
5	博物館における情報 1	博物館活動の基礎となる資料収集・調査・研究における情報の重要性について理解する。
6	博物館における情報 2	博物館における情報の種別及び管理、扱いについて理解する。
7	博物館における情報 3	デジタルアーカイブの現状と課題について理解する。
8	博物館における情報 4	博物館の情報の公開・活用のひとつである展示の方法について、その種別、特性等について理解する。
9	博物館における情報 5	博物館の情報の公開・活用のひとつである教育・普及・広報について、その活用方法等を理解する。
10	博物館における情報 6	博物館の情報の公開・活用方法のひとつであるネットワークの利用について、現状を理解する。
11	映像理論とメディアの利用	効果的な情報伝達方法、展示方法のひとつである映像について、その理論、認知のしくみについて理解する。
12	情報コミュニケーション技術の活用	コンピューターや情報通信ネットワークに関する構造、歴史、活用について理解する。
13	知的財産権、個人情報の概要	博物館活動において注意を要する知的財産権（特に著作権）、個人情報について、その概要（分類、対象等）を理解する。
14	知的財産権、個人情報の取扱い	博物館活動において注意を要する知的財産権（特に著作権）、個人情報について、その取扱いの留意点について理解する。
15	博物館における情報・メディアの展望	情報・メディア環境における今後の博物館について、博物館の特性から考える。

シラバス執筆：西井 美佐子

レポート課題

第1分冊 西井 美佐子

第2分冊 西井 美佐子

第1分冊 〈略題〉視聴覚機器、メディア経験からの考察
I～III章 (p. 1～90)、学修指導書 1～4

横書き指定

Word 添付

〈課題〉

視聴覚機器や視聴覚教育、メディアの諸相等、テキストで述べられている内容から一つテーマを選び、自身の経験を挙げ、その経験をテキスト内容に照らしつつ理論的に考察、記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・いつ、どこで、どのような内容の機器やメディアに関する経験で、どのような気づきがあったか等、自身の経験をできるだけ具体的に記述し、それを理論、分析につなげること。
- ・具体例は博物館における経験に限らず（その場合も事例報告にならないこと）、教育機関や日常生活に関するものでも可。ただし、何らかの形で博物館と関連づけ、博物館活動に生かすことを意識して記述すること。
- ・各分冊範囲の内容は互いに関連しているため、分冊範囲に留まらず全体をふまえて取り組むことが望ましい。

〈評価の観点〉

- ・丁寧な記述と十分な分析、考察がなされ、一貫した論旨の中で、論理的に構成されているか。
- ・自身の経験と博物館活動とが関連づけられているか。
- ・書かれている自身の考えは、根拠となるテキストや指導書の引用や情報を示して述べられているか。
- ・テキストや指導書の学修をもとに、博物館情報、メディアについて正しく理解し、それを一般論ではなく自らの問題としてとらえているか、またそれらが自身の言葉で書かれているか。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献（ウェブサイト含む）は末尾に記載し、文中に引用があれば引用箇所と出典を必ず明記すること。
- ・テキスト履修シラバス・レポートガイドを熟読し、提出するレポートに不備がないように努めること。

第2分冊 〈略題〉博物館における視聴覚メディア利用または情報通信利用の事例調査
IV～VI章 (p. 91～179)、学修指導書 5～9

横書き指定

Word添付

〈課題〉

博物館（展覧会）を実際に訪れ、博物館における視聴覚メディア利用、または情報通信利用について調査し、考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・訪れた博物館（展覧会）の基本情報（名称、概要、調査日等）を記載のこと。
- ・調査した視聴覚メディア、情報通信について具体的に触れながら（内容、機器、個体数、構成、設置環境、利用対象、利用状況、工夫点等、できるだけ複数の観点で調査すること）、館（展覧会）全体の中で位置づけ、効果や考えられる改善点等についても考察すること。
- ・情報通信利用の調査の場合も、ウェブ上の調査のみでなく、必ず館を訪れた上で考察すること。
- ・各分冊範囲の内容は互いに関連しているため、分冊範囲に留まらず全体をふまえて取り組むことが望ましい。

〈評価の観点〉

- ・丁寧な調査と、理論的かつ十分な考察がなされているか。
- ・多角的な視点で調査し、分析、考察されているか。
- ・書かれている自身の考えは、根拠となるテキストや指導書の引用や情報を示して述べられているか。
- ・テキストや指導書の学修をもとに、博物館情報、メディアについて正しく理解し、それを自らの問題としてとらえられているか。
- ・単に情報や項目を羅列したもの、文献をまとめただけのもの、自身の言葉や考察によらないものは不可。調査をふまえ、そこから何を導き出し、何を学んだかが、論旨の中できちんと書かれていること。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献（ウェブサイト含む）は末尾に記載し、文中に引用があれば引用箇所と出典を必ず明記すること。

参考文献

加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司編『新版 博物館学講座 11 博物館情報論』雄山閣出版、1999年、ISBN 9784639016311

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、テキストと学修指導書の双方を理解し、知識として吸収していることを前提とする。そのため用語や博物館における事例等について一定程度詳細な説明ができ、博物館活動の現状の中で考察できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

本科目は同時代的な要素を多く含むため、テキストや指導書のみの学修ではなく、普段から新しい技術やメディアの動向に目を向けておくこと。また、随時信頼に足るウェブ上の情報を活用し、できるだけ多くの博物館へ足を運び自ら体験してみる。そして、テキストや指導書、関連する図書で学んだ内容を、現場の博物館活動に照らして再度確認してみる。さらに、論拠を示しつつ「よりよくするにはどうすればよいか」という問題意識や想像力を働かせながら学修を進めてほしい。

07734 博物館資料保存論

2単位

テキスト名
『文化財の保存環境』
中央公論美術出版

科目概要	資料を良い状態で末永く保存することは、博物館の重要な本来的役割である。学芸員には保存と展示という矛盾する活動を、調和的に行う判断力と技術が必要である。資料劣化要因と対策、環境整備等に関する知識を習得し、科学的視点に立ち対応することが求められる。主に歴史・考古・美術等の資料保存について学ぶが、無形の資料、自然科学系の博物館・生き物を扱う博物館における資料保存、地域の文化資源・自然環境の保護等についても考える。
主な到達目標	博物館資料を保存する意義・目的について説明できる。 博物館資料の劣化要因とそれらの結果、及び各要因間の相関関係について説明できる。 博物館資料を良好な状態で保存するための諸条件を科学的に説明できる。 資料保存に関連する各種用語の意味を説明できる。 災害の防止と対策について説明できる。 文化財とは何か説明できる。
テキスト学修の留意点	テキスト各章の内容（保存上の要因）は、相互に関連しているので、各章ごとの理解だけでなく、相互の関連性についても総合的にとらえて理解することが求められる。そのためには、まずはテキスト及び学修指導書全体を通読し、内容を把握した上で、学修に取り組むことが望ましい。レポート作成にあたっては、「レポート課題」に記載された留意事項と評価の観点を参考にすること。

学修テーマ	課 題
1 資料保存の意義・目的	・博物館資料・文化財を保存する意義・目的とは何か。 ・資料保存のための科学とはどのようなものか。 ・資料の材質・劣化要因にどのようなものがあるか。 ・博物館資料保存のための倫理とはどのようなものか。(テキスト1章・学修指導書「補足(行動規範)」)
2 文化財保護制度とその歴史	・文化財保護法はどのような法律か。 ・文化財保護法上の文化財にはどのような種類があるか。 ・重要文化財を公開する際に注意すべき事項は何か。(テキスト1章、付録)
3 温湿度	・温度が資料に与える影響とは何か。 ・温度と湿度との関係とはどのようなものか。 ・湿度が直接的に資料に与える影響とは何か。また、他の資料劣化要因とどのような関係にあるか。 ・温湿度の計測法・計測機器・調整方法にどのようなものがあるか。(テキスト2章)
4 光	・光とは何か。 ・光に関する各種用語・単位の内容を説明できるか。 ・資料展示の際に光が与える影響にはどのようなものがあるか。 ・資料の種類に応じ光による劣化に対して考慮すべき点にどのようなものがあるか。(テキスト3章)
5 照明	・展示照明の方法と器具にはどのようなものがあるか。 ・照明に関し留意すべき点は何か。(テキスト3章)
6 室内空気汚染	・空気汚染物質にはどのようなものがあるか。 ・空気汚染物質が資料に与える影響とはどのようなものか。 ・汚染物質のモニタリング法及び対策、低減・除去法にはどのようなものがあるか。(テキスト4章)
7 生物的被害と文化財 I PM	・生物被害の原因はどのような生物で、どのような被害が発生するか。 ・生物被害が発生する環境的条件とはどのようなものか。 ・生物被害への対処法にはどのような方法・材料を用いるか。 ・文化財 I PMとはどのような考え方、それに基づく対処法はどのようなものか。(テキスト5章)
8 屋外環境	・屋外で資料を保存展示する上で留意すべき点は何か。温湿度、光、空気(大気)汚染物質、生物被害等、既修の内容・課題と関連して理解すること。(テキスト6章)
9 災害	・資料に影響が少ない消火方法・設備とはどのようなものか。 ・防火対策・防火設備はどのようなものがあるか。 ・博物館施設の地震対策とはどのようなものか。 ・資料の展示・保管時の地震対策とはどのようなものか。 ・水害・津波対策とはどのようなものか。(テキスト7章)
10 資料輸送・振動衝撃	・振動・衝撃が資料に与える影響とはどのようなものか。 ・資料輸送時に考慮すべき点はどのようなものか。(テキスト7章)
11 盗難・人的破壊	・施設設備面での防犯対策にはどのようなものがあるか。 ・運営・運用面での防犯対策にはどのようなものがあるか。 ・人的破壊とは何か。(テキスト7章)
12 伝統的保存方法・保存修復	・電力や化学物質を用いない伝統的な保存の考え方や方法はどのようなものか、どのような施設や道具を用いるのか。 ・資料保存の上で修理・修復の位置づけとはどのようなものか。 ・資料修復の原則とはどのようなことか。(テキスト2章コラム・学修指導書「補足」)
13 展示施設・収蔵施設の設計	・博物館の施設設備(立地、建築、展示ケース、採光・照明、防災・防犯等)の計画・設計ではどのような点に注意すべきか。(テキスト各章・学修指導書「補足」)
14 理工系資料・生体資料の保存	・理工学的資料の保存で留意すべき点は何か。 ・生きた資料を扱う動物園・水族館・植物園における保存とはどのようなものか。(学修指導書「補足」)
15 エコミュージアム等	・地域資源・無形の資料の保存とは何か。 ・エコミュージアムとは何か。(学修指導書「補足」)

シラバス執筆：菅野 和郎

レポート課題

第1分冊 星 恵理子

第2分冊 星 恵理子

第1分冊 〈略題〉博物館資料（文化財）の構成素材とその物性
第1章～第4章、付録

横書き

Word添付

〈課題〉

実際に博物館、美術館等で展示されている資料（文化財）を選び、その主たる構成素材の物性を理解し、展示に適した条件をまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 選択した文化財の展示場所、作品名等を明記すること。
2. 主たる構成素材の特性をよく理解し、劣化要因を挙げ、項目別にその対処法を簡潔に述べる。
3. 文献等で調べた内容をもとに、自身の言葉、考えを述べること。
4. 参考文献を文末に載せること。

〈評価の観点〉

1. レポートの論点がはっきりしているか
2. 構成素材の物性をよく理解できているか
3. 構成素材の劣化要因とその対処法を理解しているか
4. 自らの言葉、考えで考察し、博物館資料（文化財）保存に対して熱意と責務を感じているか

〈その他の注意点〉

一般論で終わらず、文献からの知識をふまえ、自身の体験から自らの考えや言葉で記述されているかを重視する。

第2分冊 〈略題〉博物館資料（文化財）の保存への積極的活動
第5章～第7章、指導書の「補足」

横書き

Word添付

〈課題〉

博物館資料を活用・公開することによって、保存に繋がった実例を挙げ、博物館資料（文化財）の活用と保存について考察せよ（有形文化財に限らない）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. 資料（文化財）を公開することで、保存に繋がった具体的な例を挙げよ
2. 公開によるリスクの改善策を述べよ
3. 多くのリスクを負ってまで公開することの、保存におけるメリットを述べよ
4. 民間レベルでの保存活動例がより好ましい
5. 学芸員としての対処法（努力や工夫）を考察する

〈評価の観点〉

1. 活用と保存 そのリスクとメリットを理解しているか
2. リスクの改善策を挙げ、より効果的な保存環境に向かうことができるか
3. 知識をふまえ、自らの言葉や考えで述べているか

〈その他の注意点〉

一般論で終わらず、文献からの知識をふまえて、自らの言葉、考えで記述していることを重視する。

参考文献

石崎武志編『博物館資料保存論（第2版）』講談社 2024 ISBN9784065374795
 日高真吾『[改訂新版] 博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2025 9784595325069
 神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』武蔵野美術大学出版局 2014 9784864630146
 三浦定俊他『文化財保存環境学（第3版）』朝倉書店 2025 9784254103076
 鈴木規夫『日本の美術 451 漆工品の修理』至文堂 2003 4784334513
 根立研介『日本の美術 452 彫刻の保存と修理』至文堂 2004 4784334521
 河上繁樹『日本の美術 453 染織品の修理』至文堂 2004 478433453X
 池田寿『日本の美術 480 書籍・典籍、古文書の修理』至文堂 2006 4784334807
 杉山真紀子『博物館の害虫防除ハンドブック』雄山閣出版 2001 4639016980
 馬淵久夫他編『文化財科学の事典（新装版）』朝倉書店 2018 9784254102833

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、資料保存のために必要な概念・方法・用語等について、テキストの内容を理解しているかを問うような問題を出題する。学修指導書「補足」もテキストの一部とすることから、その内容についても試験で問うことがあり得るので、テキストとあわせて理解しておくようにしてもらいたい。

教員からの
メッセージ

資料の保存は、従来の傷んだら修理修復をするという考え方・手法から、本科目で学ぶ極力傷まないように環境を整える方向に大きく転換した。その手法・材料は、地球環境に直結するというものもある。テキストは「文化財」特に有形文化財の保存について論じるが、「博物館資料」の保存とした場合、その対象はテキストで説かれた範囲からさらに広がりを持つ。本科目で学修する内容は理科的な基礎知識を要するが、テキストの内容をよく理解し、それを基本にしつつ、さらに広く・注意深い視点から、博物館資料の保存について考えてもらいたい。学芸員が資料保存に関し知らなかった、知りながら対策を怠ったということでは、資料の価値を減じ、資料そのものを失うことになりかねない。現在そして次代の学芸員として、そのことを肝に銘じてもらいたい。

科目概要	博物館展示論は、大学で学芸員資格を取得するために必要な文部科学省令の定める博物館に関する科目の一つである。この科目では、博物館の専門職としての学芸員に求められる展示の理論的側面と技術的側面に関する基礎的要素を学修する。学修の目的は、展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等による理論及び方法に関する知識・技術を理解することにより、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養うことにある。
主な到達目標	・博物館の展示の意義と役割について説明できる。 ・展示のプロセスと基本要素について説明できる。 ・展示の構成要素、製作物、展示方法について説明できる。 ・展示と他の活動の関係、解説計画、展示装置、映像・情報機器の活用、教育活動などについて説明できる。 ・博物館の種類による展示の違いを説明できる。 ・以上の事項を理解したうえで、学芸員に求められる役割を説明できる。
テキスト学修の留意点	・主な到達目標に関わる諸要素について、展示の機能についての理解をふまえて説明できるようにする。 ・レポート課題は、実際に博物館を訪問し、見学・調査をすることとおして、博物館の展示についての理解を深めることを求めている。事前にテキストと学修指導書をよく読み、それぞれの内容を正しく理解したうえで課題に取り組んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	博物館展示の意義	博物館における〈展示の役割・目的〉とは何か。〈博物館の目的〉にはどのようなものがあるか。〈展示という言葉の起源と意味〉は何か。(1章)
2	展示の歴史	展示は現在までにどのように変わってきたのか。〈近代博物館の誕生〉と〈展示の変遷〉、そして〈現代の博物館の展示の特徴〉はどのようなものか。(1章)
3	展示のプロセス	〈展示の発想から完成〉までのプロセスはどのようにになっているのか。展示にはどのような〈人〉が関わっているのか。〈展示と建築〉の関係はどのようにになっているのか。(2章)
4	展示の基本要素	〈展示と保存〉の関係はどのようなものか。〈展示と資金〉はどのようにになっているか。〈展示に関わる法令〉にはどのような種類があるか。またその内容は何か。(2章)
5	展示の事例	展示は〈どのようにつくられている〉か。〈博物館の種類〉でどのように違うのか。(3章)
6	展示の構成要素	〈展示空間〉をどのようにつくるのか。〈展示資料〉〈演示具〉にはどのようなものがあり、展示でどう使うのか。展示のための〈ケース〉〈照明〉〈音響〉の役割と効果はどのようなものなのか。(4章)
7	展示製作物	展示における〈特殊造形〉〈複合演出〉〈景観模型〉〈展示映像〉の役割と効果はどのようなものなのか。また、展示でどのように使うか。(4章)
8	展示方法	〈実験装置〉〈実演〉〈トーク〉の役割と効果はどのようなものか。〈インタラクティブ展示〉と〈ハンズオン展示〉とは何か。(4章)
9	解説計画・サインシステム	〈展示の解説〉にはどのようなものがあるか。またどのようにあるべきか。〈サインシステム〉をどのようにつくるか。〈ワークシート〉とは何か。(4章)
10	展示と情報・メディア	博物館における〈情報とメディア〉の意義とは何か。またどのように活用していけばよいか。〈データベースの役割と効果〉とはどのようなものなのか。(5章)
11	展示と情報機器の活用	〈情報公開〉のために〈情報機器〉をどう使うか。〈情報機器〉を使って何ができるのか。(5章)
12	博物館教育・ユニバーサルデザイン	展示と〈博物館教育〉の関わりはどのようにになっているのか。〈ユニバーサルデザイン〉とは何か。(6章)
13	展示評価と効果	展示をどのように〈評価〉するのか。展示からどのような〈効果〉がもたらされるのか。(6章)
14	館種による展示形態の特色(1)	〈エコミュージアム〉〈野外博物館〉〈動物園〉〈水族館〉〈植物園〉の展示形態の特色はどう違うのか。(7章)
15	館種による展示形態の特色(2)	〈美術館〉〈企業ミュージアム〉〈研究機関のミュージアム〉〈大学博物館〉展示形態の特色はどう違うのか。(7章)

シラバス執筆：萩原 哉

レポート課題

第1分冊 萩原 哉 曽我 俊裕

第2分冊 萩原 哉

第1分冊 〈略題〉展示における配慮・工夫 1章～4章6節

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館の展示が、来館者や展示物に対するどのような配慮・工夫を組み合わせることによってつくり上げられているのかについて、実際に博物館の展示を見学・調査して、分析・評価を試みたうえで、展示で重要な要素とは何か、理想的な展示とはどのようなものかを考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 論述の対象をひとつの博物館に限定し、その館の展示にみられる配慮・工夫について、詳細な分析・評価を試みる。
- ② 配慮・工夫があまり認められない展示については、具体的な改善策を検討すること。
- ③ ①・②の成果をふまえ、展示で重要な要素や理想的な展示のあり方についての多角的な考察を試みる。
- ④ レポートの冒頭に、見学・調査の対象とした博物館と展覧会の名称（常設展の場合は常設展と記す）、調査日を明記すること。
- ⑤ 展示解説にかかわる配慮・工夫は（第2分冊）と重複するため除外する。

〈評価の観点〉

- ① 博物館展示論の視点から考察できているか。
- ② 展示を構成する各種の要素を正しく理解しているか。
- ③ 来館者と展示物に対する配慮や工夫を具体的に把握できているか。
- ④ 見学・調査の成果にもとづき、的確に分析・評価できているか。
- ⑤ 展示で重要な要素や理想的な展示についての考察が十分に試みられているか。
- ⑥ 以上の点を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

この課題は、実際に博物館を訪問し、自分で見学・調査した成果にもとづいて考察することを求めている。電話・メール等による博物館への問い合わせは控えること。
なお、見学・調査の際は、館の規則を順守し、業務や管理などに支障をきたす言動は慎むこと。また、博物館内で使用する筆記具は鉛筆のみとすること（シャープペンシルも不可）。

第2分冊 〈略題〉展示解説 4章7節～7章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

博物館を訪問し、その館の展示でおこなわれている解説の構成や方法などについて見学・調査して、分析・評価を試みたうえで、展示における解説の役割やその理想的なあり方について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①（第1分冊）とは異なるひとつの博物館を対象とし、その館の展示でおこなわれている解説の構成や方法などについて、詳細な分析・評価を試みる。
- ② 解説の構成・方法などに問題がある場合は、具体的な改善策を検討すること。
- ③ ①・②の成果をふまえ、展示における解説の役割やその理想的なあり方についての考察を試みる。
- ④ レポートの冒頭に、見学・調査の対象とした博物館と展覧会の名称（常設展の場合は常設展と記す）、調査日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ① 展示における解説の役割を理解しているか。
- ② 見学・調査の成果にもとづき、的確に分析・評価できているか。
- ③ 解説の役割やその理想的なあり方を博物館全般のレベルで考察できているか。
- ④ 以上の点を満たしていない場合、再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

この課題は、実際に博物館を訪問し、自分で見学・調査した成果にもとづいて考察することを求めている。電話・メール等による博物館への問い合わせは控えること。
なお、見学・調査の際は、館の規則を順守し、業務や管理などに支障をきたす言動は慎むこと。また、博物館内で使用する筆記具は鉛筆のみとすること（シャープペンシルも不可）。

参考文献

テキストおよび学修指導書に記載の文献のうち、各課題にかんする自身の考察に必要な複数の文献を参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、展示の基本的な機能や展示を構成するさまざまな要素の説明を求める。テキストをよく読み込んだうえで、要点を整理しておくこと。
- ・博物館の展示活動は、その他の博物館活動と有機的に結びついているため、博物館学のテキスト全般を理解しておくことも必要である。

教員からの
メッセージ

博物館学では、実際に博物館を訪れ、現場を自分の目で確認し、考察することが重要である。さまざまな種類の博物館を、目的意識と問題意識をもって数多く見学することが望ましい。

科目概要	学芸員ないし教育者として必要な、「文化」というものの捉え方、「文化」の発展についての知識や考え方を習得することができる。本科目では、日本の「かみ」の発展史についてのテキストを用いて、「文化史」という学問について理解することをめざす。日本文化の基底をなす日本の「かみ」ないし神道についての理解を深めることで、日本に限定されない「文化」や「文化史」についての基本的考え方を学ぶ。
主な到達目標	・「文化史」という学問の方法について、自分なりに定義を説明できる。 ・日本の「かみ」や「まつり」について、基本的な特色を簡潔に説明できる。 ・日本を代表する神社や、そこにまつられている具体的「かみ」など、学習にかかわる諸問題について、基本概念を使って説明できる。
テキスト学修の留意点	・下記の各章ごとの課題をまとめ、説明できるようにする（課題以外にも、キーワード、重要概念はあるので、自分で見つけ整理する）。そのためにも、各章の内容を読み流しにせず、自分の言葉で整理しなおしておく。 ・レポート課題は、テキストのまとめではなく、論じられることを求めている。 ・レポート作成についての細かい注意事項は、「学修指導書」と下記の「レポート課題」に記載している。

	学修テーマ	課 題
1	文化史としての日本の「かみ」史	学習指導書をよく読み、「文化史」の意味を理解する。 「文化史とは何か」を自分のノートに400～600字程度でまとめる。
2	日本の「かみ」とは	「日本の「かみ」とはなにか」ということについて、テキストを参考に論点を整理し、自分のノートに400～600字程度でまとめる。
3	「まつり」とは	・「まつり」とはどのような意味があるか、自分のノートに400～600字程度でまとめる。 ・「祝詞」意味を200字程度でまとめる。 ・「依代」の意味を200字程度でまとめる。
4	変容発展する「かみ」	・自然神信仰がどのように神話体系の中へと組み込まれていくかを理解する。 ・律令制度と出会って「かみ」の発展を400～600字程度でまとめる。 ・「苦しむかみ」とはどういうことか、200字程度でまとめる。
5	八幡神の発展	・八幡神と仏教がどのようにかかわるのかをまとめる（400字）。 ・八幡神を武士がどのように関わるかをまとめる（400字）。 ・八幡神を「発展」という視点から整理してまとめる（400字）。
6	本地垂迹と日枝神	・本地垂迹とは何か、いつ成立したかをまとめる（400字）。 ・日吉社の「かみ」はどのように発展したかをまとめる（400字）。 ・仏教理論との出会いによる「かみ」の発展について整理する（400字）。
7	伊勢神宮の「かみ」	・社寺縁起とはどのようなものかをまとめる（200字）。 ・伊勢神宮にまつられているアマテラスオオミカミ・トヨウケノオオカミがどのような「かみ」かをそれぞれ400字程度でまとめる。
8	伊勢神宮の社寺縁起	・「社寺縁起」とは何かまとめる（200字）。 ・「皇」字論争とは何を問題とした論争か（200字）、「神道五部書」は何のために作られたどのようなテキストか（400字）でまとめる。
9	度会家行と『類聚神祇本源』	・度会家行の『類聚神祇本源』がどのようなテキストであるかをまとめる（200字）。 ・家行のいう「神祇の本源」とは何かを説明する（200字）。 ・家行の理論は「人の道」について何を示したかをまとめる（200字）。
10	『神皇正統記』とであった「かみ」	・古代における「神国」の意味をまとめる（200字）。 ・『神皇正統記』の「神国」とは何か400字でまとめる。 ・『神皇正統記』の「三種の神器」がどういう意味かをまとめる（200字）。
11	御霊信仰	・「御霊会」とは何かまとめる（200字）。 ・「御霊信仰」とは何であるかをまとめる（200字）。 ・人の「たま」を神としてまつることがどのような経緯で成立したかをまとめる（400～600字）。
12	吉田神道と「心」になった「かみ」	・吉田兼俱はどういう人物で何をしたかをまとめる（400字）。 ・「我即神」のまつりとはどのようなものかをまとめる（200字）。 ・「心になったかみ」とはどういうことかをまとめる（200字）。
13	「かみ」のこぼの伝播	・「かみ」のこぼは、どのように人々に伝播されていったかをまとめる（400字）。 ・三社託宣とはどのようなものかをまとめる（400字）。
14	遠隔地の神社への参拝	・遠隔地神社への参拝（「かみもうで」）が始まったのはなぜかをまとめる（400字）。 ・伊勢神宮への参拝（伊勢参り）発展の経緯をまとめる（400字）。
15	日本文化史としての「かみ」史	・2～14を通して読み、日本の「かみ」の発展ということについてまとめる（400字）。 ・今までの学習をふまえて、「文化の発展史」（文化史）について自分の考えをまとめる（400字）。

レポート課題

第1分冊 宮本 郷史

第2分冊 宮本 郷史

第1分冊 〈略題〉八幡神とは何か 第一章から第五章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

八幡神とはどのような神であるか、その特異性について考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①八幡神について、テキストの第四章をよく読んで理解する。
- ②テキストに沿ってまとめても課題に応えたことにならない。
- ③テキストの引き写しは剽窃であり、認められない。また、単にテキストの要約だけでも不十分となる。
- ④テキスト以外の参考文献にも当たる必要がある。
- ⑤レポートの基本的作成ルールに従うこと。特に注釈のないものはレポートとみなされない。
- ⑥注釈はWordの注釈機能を使う。それは上部の「参考資料（参照設定）」のタブにあり、そこの「脚注の挿入」である。
- ⑦全体の終りに必ず参考文献表をつけ、注釈との区別もつける。

〈評価の観点〉

本文字数（注釈など除く）や書式（横書き・注や参考文献をつけるなど）の条件を満たしておらず、課題の要求にこたえられていない場合は再提出評価になる。具体的には次のような点が評価基準になる。

- ①課題の要求を理解し、要求に応じた論点で論じられているかどうか
- ②論文の構成になっているかどうか（序論・本論・結論）
- ③参考文献やテキストの丸写しではなく、自分の言葉で表現し、まとめではなく論じられているかどうか
- ④注釈があり、テキスト以外の参考文献があるかどうか

〈その他の注意点〉

テキストを理解したら、自分なりの観点で論じるようなレポートになるよう、自分の関心を掘り下げて欲しい。上記に再三指摘している通り、テキストをなぞるような内容では、再提出となるので、自分なりの観点・視点から問を立て、論証するようなレポートにする。

第2分冊 〈略題〉北畠親房の「三種の神器」の位置付け

第六章から第十一章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

北畠親房における「三種の神器」の位置づけについて論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①「三種の神器」について、テキストの第八章をよく読んで理解する。
- ②テキストに沿ってまとめても課題に応えたことにならない。
- ③テキストの引き写しは剽窃であり、認められない。また、単にテキストの要約だけでも不十分となる。
- ④テキスト以外の参考文献にも当たる必要がある。
- ⑤レポートの基本的作成ルールに従うこと。特に注釈のないものはレポートとみなされない。
- ⑥注釈はWordの注釈機能を使う。それは上部の「参考資料（参照設定）」のタブにあり、そこの「脚注の挿入」である。
- ⑦全体の終りに必ず参考文献表をつけ、注釈との区別もつける。

〈評価の観点〉

本文字数（注釈など除く）や書式（横書き・注や参考文献をつけるなど）の条件を満たしておらず、課題の要求にこたえられていない場合は再提出評価になる。具体的には次のような点が評価基準になる。

- ①課題の要求を理解し、要求に応じた論点で論じられているかどうか
- ②論文の構成になっているかどうか（序論・本論・結論）
- ③参考文献やテキストの丸写しではなく、自分の言葉で表現し、まとめではなく論じられているかどうか
- ④注釈があり、テキスト以外の参考文献があるかどうか

〈その他の注意点〉

テキストを理解したら、自分なりの観点で論じるようなレポートになるよう、自分の関心を掘り下げて欲しい。上記で再三指摘している通り、テキストをなぞるような内容では、再提出となるので、自分なりの観点・視点から問を立て、論証するようなレポートにする。

参考文献

学習は、まずテキスト自体の学習を先行して行い、さらに学習するのに有用な文献は、学習の手引き、およびテキスト末尾の文献目録に記載されているので参考にして理解を深め、レポートにも活用するようにしてください。

- ・飯沼賢司『八幡神とはなにか』角川書店、角川選書、2004年、ISBN-10: 4047033669
ISBN-13: 978-4047033665
- ・達日出典『八幡神と神仏習合』講談社現代新書、2007年、ISBN-10: 4062879042
ISBN-13: 978-4062879040
- ・鍛代敏雄『神国論の系譜』法蔵館、2006年、ISBN-10: 4831874701
ISBN-13: 978-4831874702
- ・佐藤弘夫『神国日本』ちくま新書、2006年、ISBN-10: 4480062955
ISBN-13: 978-4480062956
- ・岡野友彦『北畠親房一大日本は神国なり』ミネルヴァ書房、2009年、ISBN-10: 4623055647
ISBN-13: 978-4623055647

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験は、「文化史」学修指導書とテキスト学習が十分に行われていることが大前提である。したがって、それらを1度流し読みしたという程度で受験しても、内容的にも、時間的にも合格基準はクリアできない。
- ・問題は「文化史」学修指導書とテキストを前提とした総合的な問題（論述形式）となる。したがって、それらの内容の復習はもちろん、そこから触発された自分なりの問題意識を明確にした上で試験に臨むことが重要となる。

教員からの
メッセージ

- ・「文化史」というのは、「学修指導書」にも説明したように、なかなか捉えにくい学問である。しかし、具体的な例を手掛かりに考えていくと、「文化史」理解の切り口がみえてくる。日本文化の核心にある「かみ」について理解することを通して、「文化史」への展望をつかんでほしい。
- ・本科目では、「文化史」特に「日本文化史」についての基礎的な知識と考え方を学ぶことができる。「日本史」「日本美術史」あるいは「民俗学」などに発展させてもよい。

科目概要	テキストは『教職概論 改訂第2版』（佐久間裕之編著 2024年）を用い、第1章から第4章までを第1分冊、第5章から第8章までを第2分冊とする。テキストを通して、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 一般目標として主に下記の内容を学ぶ。 ①教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義。 ②教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力。 ③教員の職務内容：教員の職務内容の全体像・教員の服務上・身分上の義務。 ④チーム学校運営への対応：学校が担う役割の拡大・多様化と「チーム学校」の必要性。
主な到達目標	①・公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ②・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ③・幼児児童生徒への指導及び指導以外の公務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。 ④・校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。
テキスト学修の留意点	・「学修指導書」と下記の「学修テーマ」と「課題」を参考にしつつ、キーワードを確認しながらテキストを読んでいくこと。各章を読み終わる毎に、章末の「学修課題」を文章化して確認すること。

	学修テーマ	課題
1	教職の意義（1）	教育の目的・目標とはいかなるものか。教師聖職者論から見出される教職の意義とはいかなるものか。（第1章）
2	教職の意義（2）	教師労働者論、教師専門職論から見出される教職の意義とはいかなるものか。教員として適格性を持つためには、どのような努力が必要か。（第1章）
3	教員の職務（1）	いわゆる「教員」の名称にはどのようなものがあるか。教員の身分とは法令上どのように規程されているか。（第2章）
4	教員の職務（2）	教員の職務としてどのようなものがあるか。教員の服務において、職務上の義務と身分上の義務はどのような内容であるか。（第2章）
5	教員の資質能力（1）	資質能力の語義、実践的指導力、いつの時代にも求められる資質能力、今後特に求められる資質能力、これらの具体的内容とはいかなるものか。（第3章）
6	教員の資質能力（2）	教員の適格性、問題ある教師への対処、教員養成・免許制度の改革動向とはどのようなものか。現在の教員に求められている学び続ける教員像とチーム学校、ならびに教職課程コアカリキュラムとはどのようなものか。（第3章）
7	教員養成（1）	戦前の教員養成の歴史とはどのようなものであったか。また当時の教員はどのような教育観を持たねばならなかったのか。（第4章）
8	教員養成（2）	戦前に比べ戦後の教員養成はどのように変化したか。「開放性の教員養成」「相当免許主義」とはどのような意味か。（第4章）
9	教員資格と教員の採用（1）	教員免許状を有することの意味とは何か。教員免許制度における「総合化」「弾力化」とは何か。（第5章）
10	教員資格と教員の採用（2）	教員免許状の取得要件とは何か、また欠格事項とは何か。教員採用の具体的な方法とはどのようなものか。（第5章）
11	教員の研修と評価（1）	教員研修の意義とはどのようなものか。教員研修の種類にはどのようなものがあるか。（第6章）
12	教員の研修と評価（2）	教員評価とはどのようなものか。教員研修と教員評価をめぐる課題としてどのようなものがあるか。（第6章）
13	教員と学校経営（1）	学校経営の意義とはどのようなものか。学校組織の3つの特質とは何か。（第7章）
14	教員と学校経営（2）	「学校における意思決定組織」とは何を意味するのか。学校評価を生かした学校づくりとはどのようなものか。（第7章）
15	教職をめぐる新たな諸課題とまとめ	特別支援教育の理念とは何か。インクルーシブ教育の構築には何が必要か。（第8章）さらに今までの学修を振り返り、自分が教員になることの是非を自ら判断してみる。

レポート課題

第1分冊 山口 意友
第2分冊 佐久間 裕之

第1分冊 〈略題〉教育の基本構造と3つの教職観 第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

(1) 日本における教育の基本構造を正確に示した上で、(2) 3つの教職観（教師聖職者論、教師労働者論、教師専門職論）について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキストの該当箇所をよく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明（要約）すること。WebTamaのEdu Track（＝webtama右上のピンクの「学修する」アイコン）に補助動画があります。
- ② 自分の「解釈」を示すのではなく、テキストに何が記されているかを正確に説明（要約）すること。（それゆえ、他の参考文献から引いてきても無意味となる。）
- ③ 術語の誤記（変換ミスも含む）については、「再提出」になるので注意すること。

〈評価の観点〉

- ① 課題(1)については、「教育の目的」「教育の目標」「生きる力」の説明が正確になされているかどうか。
- ② 課題(2)については、3つの教職観の説明が正確になされているかどうか。

〈その他の注意点〉

- ① 2000～2400字位でまとめ、文章末に「総字数」を記載すること。総字数の記載が無い場合は、判定不可（再提出）となるので注意すること。また、2000字に満たない場合も再提出となる。
- ② 文章作成の基本事項（ex. 段落は最初の1マス空けがなされていない、段落が全く無いなど）が守られていないようなレポートは再提出となる。
- ③ 指定の様式で提出されていない場合には再提出となる。
- ④ 科目試験の受験資格を得るためだけの形式的提出（ex. 字数が異常に少ない、レポート内容が他の科目内容になっている等）は絶対にしないこと。（不正レポートとして処分されることもあります。）

第2分冊 〈略題〉教員資格と教員研修 5章～8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教員資格としての教員免許状を有することの意味と教員研修の意義について、テキストに基づいてまとめなさい。（2000～2400字）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① レポート作成にあたっては指定の様式を必ず守ること。
- ② レポート作成の前提条件はテキスト学習である。このレポートでは必ずテキスト第5章から第8章の全体を通読した上で、さらに第5章「教員資格と教員の採用」及び第6章「教員の研修と評価」の精読結果をレポートに反映させること。
- ③ レポート作成にあたっては、テキストの文章を丸写ししてはならない。テキストを精読し、理解したうえで、自分の表現でテキストの内容をまとめること。

〈評価の観点〉

次の観点からみて不適切・不十分な場合、再提出となる。

- ① 指定の様式・分量が守られているか。
- ② テキストの当該箇所がレポートに反映されているか。
- ③ まとめが自分の表現でなされているか（テキストの丸写しやそれに準じる箇所がないか、長すぎる引用文がないか）。

〈その他の注意点〉

- ・ 分量として規定の「2000～2400字」を守ること。規定の分量に満たない場合は再提出となる。
- ・ 引用はできるだけ避けること。文字数を埋める為だけの引用は不可とする。やむを得ず引用する場合は、必ず「」を付けて行うこと（引用箇所の途中省略などする場合は〔中略〕等の表示を入れて、省略したことがわかるようにすること）。

参考文献

.....
テキスト各章末に記載しているので、それを参照。

科目試験等への
アドバイス

.....
上記の「学修テーマ」と「課題」に記されたことを説明できるようにしておくこと。

教員からの
メッセージ

.....
試験合格の近道は、上記の課題にきちんと答えることができるかどうかです。

科目概要	教育原理は、特定の研究分野を背景とする科目ではないが、教職の必修科目として重要な科目である。そこで本科目では西洋及び日本の教育思想並びに教育理念の変遷を概観するものである。教育の思想は、偉大な教育家の“教育に関する信念・経験”を自己および他者が叙述した思想史である。例えば、古代ギリシャのソクラテスの産婆術（助産術）、近世のルソーの著作である『エミール』、ペスタロッチーの著作である『隠者の夕暮』などである。
主な到達目標	教育の歴史や思想を考察する際には、その時代における社会状況、とりわけ政治・経済・文化と比較関連させながらその教育を捉えることが重要である。それは、人間の文化が、その時代における人々の思いや願いを実現したものの積み重ねであると同様に、教育とは人間の歴史的発展段階の現象だからである。この点をよく理解していただきたい。
テキスト学修の留意点	学修は常に丁寧におこなうものであり、手を抜けば抜けただけ真理から遠ざかることを忘れないで欲しい。故に、専門用語を正しく理解することは学修上極めて重要なことである。必ず調べて正しく理解することを心掛けてもらいたい。不明な点を担当者に尋ねることを躊躇わないでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	教育理念の意味 (1分冊1章)	教育理念の意味及びその変遷を理解すること。また、教育理念としての人格の完成、さらに今日道徳の教科化が叫ばれているが、その人格の完成に不可避である道徳的自由（意志の自由）について正しく理解することが必要である。
2	西洋教育史（1） 古代・中世 (1分冊2章1・2節)	西洋教育史の出発点である古代ギリシャのスパルタとアテネの教育の相違を捉えると共に、古典時代を代表するソクラテス、プラトン、アリストテレスの教育思想について理解すること。中世における教育の特徴と共に大学の創設とスコラ学について理解すること。
3	西洋教育史（2） ルネサンス・近代 (1分冊2章3・4節)	ルネサンスの教育、エラスムスの教育思想、さらに、宗教改革者として著名なルターの教育改革の功績と、近代教育に多大な影響を与えたコメニウスの教育思想を理解すること。
4	西洋教育史（3） 啓蒙主義と新人文主義 (1分冊3章1・2節)	ルソー、ペスタロッチー、カントは教育学においては勿論、近代教育に影響を与えた教育者として極めて重要な人物である。ペスタロッチー、カントはルソーの影響を受けており、その様な視座からも彼らの教育思想の特徴を理解すること。
5	西洋教育史（4） 19世紀 (1分冊3章3節)	ペスタロッチーの下で学んだ世界で最初に幼稚園を創始した幼児教育のフレーベル、同じくペスタロッチーの下で学んだ世界で最初に科学としての教育学を確立したヘルバルトの功績は重要である。この点の理解に際しては必要に応じて他著も参考にしてほしい。
6	西洋教育史（5） 20世紀 (1分冊3章4節)	19世紀末から展開する新教育運動に多大の影響を与えたアメリカを代表する教育学者デューイは戦前戦後の日本教育にも大きな影響を与えており、アメリカの教育を語る上で欠くことのできない人物である。これらの点の理解に際しては必要に応じて他著も参考にしてほしい。
7	日本教育史（1） 古代・中世 (1分冊4章1・2節)	日本教育史は日本書紀に記載されている厩戸皇子を始まりとして、その後歴史に残る最澄の一乗止観院、さらに空海の綜芸種智院、さらに室町時代の足利学校が教育機関として挙げられる。これらの教育機関としての役割について考察せよ。
8	日本教育史（2） 近世 (1分冊4章3節)	近世の教育機関としては藩校、私塾、寺子屋、郷学が発達しており、諸外国と比しても幕末期における書字文化の普及率は高い水準に到達していた。私塾からは幕末期に活躍する多くの人物を輩出している。これらの教育機関の特徴について理解すること。
9	日本教育史（3） 明治・大正 (1分冊5章1・2節)	近代的教育制度の原点である個人主義的傾向を有する学制及び学制序文の意味について理解すること。さらに国家主義的な教育施策を推し進める原動力となる教育勅語の発布は戦前までの日本の教育の中核をなすものである。教育勅語の歴史的な意味について理解すること。
10	日本教育史（4） 昭和・現在 (1分冊5章3・4節)	戦後の日本の教育は軍国主義的・国家主義的教育への猛省を原点として、日本国憲法に基づき教育基本法の制定からスタートしたが、1980年代以降の学校教育における閉塞感と種々の危機的状況が噴出してきている現状を考えてもらいたい。
11	西洋の教育思想（1） プラトンからペスタロッチーまで (2分冊6章1～5節)	教育史上重要なプラトン、コメニウス、ルソー、カント、ペスタロッチーの著作における名言の抜粋とその解説を読んで、彼らが今日なお高く評価される所以を理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
12	西洋の教育思想（2） ヘルバルトからボルノーまで (2分冊6章6～11節)	教育史上重要なヘルバルト、フレーベル、デューイ、エレン・ケイ、ペーターゼン、ボルノーの著作における名言の抜粋とその解説を読んで、彼らが今日なお高く評価される所以を理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
13	日本の教育思想（1） 憲法十七条から和俗童子訓まで (2分冊7章1～3節)	日本の教育思想史を概観して資料的にも重要である聖徳太子、北条早雲、貝原益軒、福沢諭吉に関する文献資料の解説と抜粋を読んで、その教育的意義について理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
14	日本の教育思想（2） 福沢諭吉から橋田邦彦まで (2分冊7章4～8節)	日本の教育思想史を概観して資料的にも重要である東京師範学校、澤柳政太郎、志垣寛、橋田邦彦に関する文献資料の解説と抜粋を読んで、その教育的意義について理解してもらいたい。なお、余裕があるならば是非彼らの原典を繙いてもらいたい。
15	総括	総括として本テキストを通して、教育がその時代時代の人々の思いや願いを実現したものを積み重ねたものであることを読み取ると共に、営みとしての教育とは人間にとって何なのかについて理解してもらいたい。

レポート課題

第1分冊 大沢 裕

第2分冊 佐久間 裕之

第1分冊 〈略題〉西洋の教育 第1章から第5章まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

西洋教育史の出発点である古代ギリシャのスパルタとアテネの教育の特徴について説明すると共に、西洋中世における教育の特徴、エラスムスの教育論、さらにコメニウスの教育論についても述べよ。(2400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストにおける重要な点や人物についてテキストの内容から説明すること。
- ②項目別にまとめたり、箇条書きにまとめたりしたものは不可とする。
- ③テキストを読み込み理解したうえで、自分なりの表現でまとめること。なお引用する場合も、当該箇所を「」で括り、引用のルールを守って必要最小限の範囲とすること。

〈評価の観点〉

- ①上記のレポート作成にあたっての留意事項が守られていない場合、テキストの内容が正確に説明(要約)されていない場合、テキストにおける重要な教育事項や人物名が正しく用いられていない場合は、その程度に応じて不可とする。
- ②課題が求めている点が理解されていない場合、読み手を意識して丁寧に書かれていない場合、その程度に応じて不可とする。

〈その他の注意点〉

行間を意味もなくあけないこと。
テキストを熟読した上でレポート課題に取り組むこと。
基礎的専門用語の記入ミスがよく見られるので、意味も含めて正しく理解すること。

第2分冊 〈略題〉ペスタロッチーとペーターゼンの人間観・教育観
第6章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

課題

- ①第6章第5節に登場するペスタロッチーの『隠者の夕暮』における人間観および教育観の特徴と、第6章第10節に登場するペーターゼンの『自由で一般的な国民学校のイエナ・プラン』における人間観および教育観の特徴について、テキストに掲載されたペスタロッチー並びにペーターゼンによる原文(邦訳)に基づいて、それぞれまとめた上で、両者を比較しなさい。(1600字)
- ②①の記述を踏まえて、ペスタロッチー並びにペーターゼンの人間観および教育観について、あなたの意見を述べなさい。(800字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第6章は、各節の前半が思想家及び著作の解説で、後半が著作の原文(邦訳、抜粋)となっている。レポート作成にあたっては、必ずこの原文(邦訳、抜粋)を精読したうえで、レポート作成を行うこと。
- ②レポート作成にあたっては、テキストの文章をそのまま写してはならない。テキストを精読し、理解したうえで、自分の表現でまとめること。なお、引用する場合は、引用箇所を「」で括るなど、引用のルールを踏まえた上で、必要最小限の範囲にとどめること。

〈評価の観点〉

- 次の観点からみて不適切・不十分な場合、再提出となる。
- ①指定の書式、分量が守られているか。
 - ②テキスト後半の邦訳原文を読まず、前半の解説部分をまとめたようなレポートになっていないか。
 - ③引用がなされる場合、引用のルールが踏まえられ、かつ必要最小限の範囲にとどめられているか。
 - ④レポートの記述が自分の表現でなされているか(テキストの丸写しやそれに準じる箇所がないか)。
 - ⑤レポート課題で求められている教育観の特徴のまとめと比較、さらに自分の意見の提示が上記の観点を踏まえて、適切になされているか。

〈その他の注意点〉

通信教育課程における学修の基本は、テキストの自学である。テキストを精読し、その要点をつかみ、各回の学修課題および各章末の課題への取り組みが求められる。さらには、レポートと科目試験に合格しなければならない。自学をすすめていく上で、多くの困難が待ち構えていることと思う。しかし、「千里の道も一歩から」と言われるように、あわてず、たゆまず学修を続けてほしい。「継続は力なり」である。

参考文献

レポート課題に取り組むためには、配付テキストそのものを精読すること。今後さらに、より深く学習するためには、テキストで取り上げた著作を図書館で借りるなどして、全体を通読したり、関連する専門書をひも解くことをおすすめする。

科目試験等への
アドバイス

科目試験で問われることも、レポートと同様にテキスト学修の成果である。テキストを精読し、その内容を理解して自分の表現でまとめるなど、学修をきちんとすすめていけば突破できる程度の問題が用意されている。試験は、Web試験という形式で実施しているためWordでの作成となる。日頃からテキスト学修を行い、学修内容の要点をまとめておくのも良い。

教員からの
メッセージ

通信教育ではテキスト学修が中心となる。テキストには歴史的な記述や古典からの引用も見られ、平易とはいえない箇所もある。辞典や事典を調べるなどして精読してほしい。その努力は学修の成果となって実を結ぶであろう。

科目概要	人間の発達と学習は、社会的・能動的存在である人間が社会的文化的な環境と出会う中でもたらされるものである。本科目では、人間の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけることを目的とする。また、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解していく。
主な到達目標	・乳幼児期から青年期の各段階における発達の特徴について、説明ができる。 ・人間の心身の発達に関する理論を理解しており、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する理論の基礎を理解している。 ・人間の心身の発達を踏まえた学習活動ならびに指導が提案できる。
テキスト学修の留意点	・「課題」内容は事前に確認し、テキストを読みながら取り組むこと。 ・各章のテーマを理解する上で重要だと考えられる用語を抽出し（Ex 線を引く、ノートにまとめる等）、説明できるようにしておくこと。その際、具体例も関連づけて学習することを勧める。 ・各章の最後に掲載されている演習問題を最後に解くこと。問題を解くことで、学習した内容を用いて考える力を養う。

	学修テーマ	課 題
1	発達とは何かを考える	・発達の捉え方について、これまでの自分が捉えていたことと比較する。 ・テキストで挙げられた視点から見た発達の捉え方の特徴を説明する。
2	身体の発育と運動の発達	・乳児期から青年期にかけての身体の発育の過程について説明する。 ・乳児期から学童期にかけての運動発達の過程について説明する。 ・心身の健康づくりにふさわしい遊びや運動の事例を挙げる。
3	ことばとコミュニケーションの発達	・ことばの獲得を説明する複数の理論を挙げ、それぞれの特徴を説明する。 ・ことばの学びにおける環境の影響について説明する。
4	認知の発達	・ピアジェの発達理論におけるそれぞれの段階の特徴について説明する。 ・ピアジェの理論に対応した子どもの姿の具体例をあげる。
5	人とのかかわりにみる遊びの発達	・ヴィゴツキーの発達観について説明する。 ・遊びの特質や役割について説明する。 ・年齢によって遊びにどのような違いがあるのかを説明する。
6	自己と自我の発達	・エリクソンの心理社会的発達理論について説明する。 ・心理社会的発達理論をどのように教育に生かせるのかについて説明する。
7	学習とは何かを考える	・行動からみた学習、「わかる」ということからみた学習、状況的な学びというそれぞれの考え方について特徴を説明する。 ・「教える」とはどのようなことなのか、テキストに挙げられた考え方を使って説明する。 ・複数の子ども観と教育観を比較し、特徴を説明する。
8	行動からみた学習	・古典的条件づけの仕組みについて説明する。 ・道具的条件づけの仕組みについて説明する。 ・自身の経験の中からそれぞれの条件づけの考え方で説明できる事例を挙げる。
9	認知からみた学習	・記憶のメカニズムについて説明する。 ・「深い学び」につながる要因について説明する。
10	参加からみた学習	・正統的周辺参加論について説明する。 ・コミュニティへの参加による学びにおける他者の存在の意義について説明する。
11	知能とは何かを考える	・テキストで挙げられた知能の理論について説明する。 ・知能検査の構成と得られる結果について説明する。
12	主体的な学びを考える	・外発的動機づけについて説明し、具体例を挙げる。 ・内発的動機づけについて説明し、具体例を挙げる。 ・子どもたちの主体的な学習を支えるための教師の工夫の事例を挙げる。
13	対話的な学びを考える	・教室でのやりとりに含まれる機能について説明する。 ・教室での対話について「足場かけ」という考え方をを用いて説明する。 ・対話における「傾聴」の必要性について説明する。
14	多様な学びを考える	・教室における特別な教育的ニーズの事例を挙げる。 ・インクルーシブ教育の特徴について説明する。
15	学びと育ちをみる視点	・教育場面における評価の例を挙げる。 ・「できる」と「わかる」の相違点を説明する。 ・ポートフォリオやドキュメンテーションを用いた評価の意義について説明する。

レポート課題

第1分冊 小野田 聡子

第2分冊 魚崎 祐子

第1分冊 〈略題〉発達段階を考慮した工夫 第1章～第6章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ① 小学校の学習指導には、子どもの発達段階を考慮した工夫が様々な形で含まれている。自身の経験を振り返り、(a) どの教科の、(b) どの内容に（何年生頃の内容に）、(c) どのような工夫がなされていたか、(d) またその工夫はピアジェの発達段階のうち、どの段階のどの特徴を考慮したものといえるか、(e) その工夫によりどのように学習が支援されたかについて、具体例を挙げながら説明せよ。
- ② ①で挙げた具体例に対して、さらに発達段階を考慮した工夫を取り入れるとしたら、どのようなものが可能か。具体的に考え、予想される効果も含めて説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

課題①について

- ・(a)～(e)の内容を必ず含めること（レポート内で(a)～(e)の記号付けや項目分けは不要）。

課題②について

- ・発達段階の特徴を踏まえた工夫を考えること。課題2についてはピアジェ以外の理論（Ex. エリクソン）も可とする。

課題全体について

- ・箇条書きのような形は避けること。
- ・テキストをそのまま写しただけのレポートにならないように注意すること。
- ・各課題には課題番号をつけ、別の課題だとわかるようにスペースを空けること。
- ・「課題」内容と「評価の観点」をよく確認すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・学年・教科・内容等の授業の概要を説明しているか。
- ・工夫点について説明しているか。
- ・ピアジェの発達段階の、どの段階の、どのような特徴を考慮した工夫だったのか、考察しているか。
- ・その工夫によっていかに学習が支援されたのか（何が促されたのか）、考察しているか。

課題②

- ・提案された工夫は具体的で実践可能であるか。
- ・子どもの発達段階を踏まえた提案になっているか。
- ・その工夫がいかに子どもの学習を支援するのか、プロセスを説明しているか。
- ・テキストに載っている発達の理論や知見を根拠として用いているか。

〈その他の注意点〉

文献（テキストも含む）やインターネット情報から引用をする場合は、引用箇所を明らかにし、最後に引用文献を示すこと。

第2分冊 〈略題〉「できる」と「わかる」 第7章～第15章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ① 日常生活での経験で培われる知識と学校教育で培われる知識とが結びつく過程について、自身の経験を挙げながら説明しなさい。
- ② 「できる」と「わかる」との関係性について、自身が「できた」「わかった」経験を挙げ、それぞれをどのように評価するのかについて言及しながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・関連する情報は複数の章に含まれているので、特定の章だけを参照して作成するのではなく、テキスト全体を学修した上で取り組むこと。
- ・各課題は1000～1200字で作成すること。
- ・各課題には課題番号をつけ、課題の間にはスペースを空けること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・それぞれの知識の特徴について述べる能够做到ているか。
- ・両者が結びつく過程について述べる能够做到ているか。

課題②

- ・両者の違いを含めた関係性について述べる能够做到ているか。
- ・それぞれの評価について述べる能够做到ているか。

両課題共通

- ・説明に対応する自身の具体的な経験例を挙げる能够做到ているか。
- ・制限字数が守られているか。
- ・テキストの内容をふまえて、自身の言葉で説明できているか（テキストを写したものやつなぎ合わせただけのものは不可）。

〈その他の注意点〉

テキストを含む文献、インターネットなど、他者の書いたものを引用する場合には引用のマナーを守ること。
示し方についてはテキスト内で他の文献を引用した際にどのように表記されているのかを確認し、その書き方に倣うこと。

参考文献

.....
テキストの各章末に掲載された参考文献を参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

.....
「発達」と「学習・学び」に関する問題をそれぞれ出題する。双方のテーマに関する重要な用語や概念について積極的に学習してほしい。また、用語の定義のみ暗記するのではなく、それと関連する具体的な場面と関連づけられるようにしてほしい。

教員からの
メッセージ

.....
科目内容と日頃の生活とのつながりを意識しながら学習してほしい。

科目概要	各教育段階における制度的・歴史的理解、そして諸外国との比較を通して、日本の教育の実態を理解しつつ、学校が有する課題を把握し、教育の制度と経営のあるべき姿について考察する。
主な到達目標	現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的知識を身に付けるとともにそれらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。
テキスト学修の留意点	本科目の学習では、教育基本法等の教育法令が多く登場する。テキスト巻末に収録されている法令、及び収録されていない法令等については、『教育小6法』等を参照しながら、各条文をその都度確認しながら理解を深めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	公教育の基本原則	公教育の基本原則について整理してみよう。
2	就学前教育制度	3つの就学前教育（幼稚園・保育所・認定こども園）の制度的特徴をまとめよう。
3	義務教育制度	義務教育の現状と課題についてまとめよう。
4	後期中等教育制度	高等学校の概要を理解した上で、後期中等教育の多様化についてまとめよう。
5	高等教育・生涯教育制度	高等教育機関の種類ごとに特徴をまとめよう。
6	教育行政制度 1（国と地方）	第一に、教育行政の3つの原則をまとめよう。 第二に、文部科学省の所掌事務について調べてみよう。
7	教育行政制度 2（地方・財政）	第一に、教育委員会の特徴と組織をまとめよう。 第二に、教育財政についてまとめよう。
8	学校の組織・経営・評価	第一に、自律的学校経営が求められるようになった歴史的流れをまとめよう。 第二に、学校評価の目的と方法を整理してみよう。
9	学校と地域との連携	学校と地域との連携のための制度の概要・意義・課題について整理してみよう。
10	学校・学級の諸課題	第一に、教育振興基本計画と中教審答申「令和の日本型学校教育」が共通して示す諸課題についてまとめよう。 第二に、効果的な学級経営についてまとめよう。
11	海外の学校制度と教育の国際化	第一に、諸外国の学校制度についてまとめてみよう。 第二に、近年の日本の成績順位と教育政策についてまとめてみよう。
12	学校教育制度の成立と発展	第一に、日本における近代学校制度の成立過程についてまとめてみよう。 第二に、戦後の教育改革としての単線型学校制度の成立についてまとめてみよう。
13	今日的学校教育制度の展開	第一に、戦後教育改革からの転換及び高度経済成長以降の教育改革の流れをまとめてみよう。 第二に、臨時教育審議会以降の教育改革をまとめてみよう。 第三に、教育基本法改正（2006年）以降の教育改革をまとめてみよう。
14	学校教育制度の行方	第一に、新自由主義における教育政策についてまとめてみよう。 第二に、公教育の成果と課題についてまとめてみよう。
15	教育の制度と経営に関するまとめ	これまでの学修のまとめとして、日本の学校教育の実態、及び制度的課題を踏まえつつ、歴史的観点や諸外国との比較の観点から、日本の学校教育制度のより良い在り方についてまとめてみよう。

シラバス執筆：湯藤 定宗

レポート課題

第1分冊 湯藤 定宗

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉公教育の基本原則と教育委員会制度 第1章から第7章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 課題1. 公教育の基本原則を端的にまとめよ。
 課題2. 日本の教育委員会制度についてまとめた上で、2014年以降の現行教育委員会制度の問題点とその理由を指摘せよ。その際、課題1と2の関連についても言及すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題1と課題2の関連については必ず言及すること。
 ②文献の引用については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号を付けて、文末に引用文献として、著者名、文献名（著書の場合は『』、論文の場合は「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。参考にした場合についてもテキストも含めて文献を文末に参考文献として、明記すること。要約の場合は、頁数の表記は不要である。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
 ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
 ②文献などからの引用は、上記のルール（レポート作成にあたっての留意事項に記載）に則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、例えば、テキスト第8、9、10章を参考のこと。

第2分冊 〈略題〉学校と地域との連携 第8章から第14章

横書き

Word添付

〈課題〉

- 課題1. 第8章以降を読んだ上で学校と地域の連携のための制度の5つを列挙し、それぞれを説明しなさい。なお、地域学校協働本部と地域学校協働活動は1つとします。
 課題2. それら5つの制度の中で、学校と地域との連携に関して有効だと思う制度を取り上げ、テキスト及びその他の文献等に依拠しながら、有効だと思う根拠を示しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題2は根拠を示すことが求められており、あくまで文献等を根拠にして論じることが求められています。
 ②本課題は、文献（テキストも含む）を引用もしくは参考にすることを求めていることから、1つ以上の文献（テキストを含む）をレポート文章末に示すことを必須の条件とする。
 ③文献の引用については、第一分冊と同様である。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
 ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
 ②文献などからの引用は、上記のルール（レポート作成にあたっての留意事項に記載）に則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、例えば、テキスト第8、9、10章を参考のこと。

参考文献

.....
 諏訪英広・福本昌之『新版 教育制度と教育の経営』あいり出版、2021年。ISBN 9784865550900

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出题する。

教員からの
メッセージ

.....
 学校教育制度については、常に改革が繰り返されている。日本の教育の実態を理解しつつ、学校が有する課題を把握し、教育の制度と経営のあるべき姿についてじっくりと考えてみてほしい。

07808 幼児理解と教育相談

2単位

テキスト名

小田豊・秋田喜代美編
『子どもの理解と保育・教育相談』
(株) みらい

科目概要	昨今幼稚園・小学校などにおけるかかわりの難しい子どもや保護者の対応の困難性が取り沙汰されることが増加している。そのような社会的状況を踏まえ、本科目では幼児教育に焦点を当て、幼児の理解の方法と実践における活用、保護者の思いを受け止めることの重要性などについて、教科書を中心に学び、教育相談のあり方を検討することを中心に進め、保育者の専門性を高めることを目的とする。
主な到達目標	・ 幼稚園・保育所などにおける現代的課題の理解とその対応。 ・ 幼児を理解することの重要性とその手法について事例を通して学ぶ。 ・ 保育者として保護者と相談するために必要な姿勢や態度を学ぶ。
テキスト学修の留意点	テキストには幅広い内容が保育者の専門性向上を目的として記述されている。教科書は記憶するものではなく、現実的な幼稚園などにおける課題に常に目を向ける必要がある。そのため、第二部の事例を常に参照しながら、理論的な側面や方法論のみに注目するのではなく、実際に保護者に対応することを想定して学習を進めて欲しい。

	学修テーマ	課 題
1	カウンセリングマインドとは何か	・ 保育・教育相談のあり方と今日的課題を知る ・ 保育に求められるカウンセリングマインドが理解できる ・ 幼稚園における教育相談とは何か
2	子どもの発達的理解	・ 幼児期の発達的理解とは何か ・ 発達的理解と相談・支援の関係を学ぶ
3	保護者への対応①	・ 親子関係の支援とは何か ・ 具体的な支援の方法論を知る
4	保護者への対応②	・ 保護者からの要望をどのように捉え、対応することが必要か ・ 受け止めることと伝えること、その具体的な対応について知る
5	保護者への対応③	・ 親が育つための発達支援とは何か ・ 親が育つために必要なことについて知る
6	発達障害について①	・ 発達障害とは何か ・ 発達障害や気になる子どもへの具体的支援について知る
7	発達障害について②	・ 発達障害や気になる子どもの保護者へのかかわりについての考え方を知る ・ 保護者へのかかわりについて保育者が留意すべきことは何か
8	子ども理解のための発達理論①	・ 子どもを理解することとはどういうことか ・ アセスメントとは何か
9	子ども理解のための発達理論②	・ カウンセリングとは何か ・ カウンセリングに必要な基本的考えとは何か
10	カウンセリング①	・ カウンセリングの基本を学ぶ ・ 保育におけるカウンセリングの基本とは何か
11	カウンセリング②	・ カウンセリング技法について学ぶ ・ ワークを通してカウンセリング技法を具体的に学ぶ
12	連携による相談支援	・ コンサルテーションとは何か ・ 専門家と社会支援を具体的に学ぶ ・ 連携とは何か
13	保育者の専門性	・ 保育者の専門性と相談活動の具体的な場面を事例から学ぶ ・ 倫理綱領とは何か ・ 園内、園外の連携とは何か
14	基礎的対人関係の実践	・ エクササイズから対処法を具体的に学ぶ ・ 事例を通して学習者自身の課題を探る
15	事例研究	事例の1～10までを丁寧に読み、具体的な事例の中にあるポイントを解釈し演習課題を実施する ・ 積み重ねを通して自身の課題と今後の学習の方向性を定める

シラバス執筆：若月 芳浩

レポート課題

第1分冊 若月 芳浩

第2分冊 若月 芳浩

第1分冊 〈略題〉教育相談と専門性 第1部 第1章～第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

保育者として必要な教育相談に関する理論と実践について整理する。その中で、保育者の専門性として身に付けるべきことを具体的に上げた上で、第二部の事例から二つを取り上げ、その対応のあり方について具体的に考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

教科書全体を熟読し、理論と実践の関連をしっかりと整理する。その上で、保育者の専門性として、幼児の理解などの重要性をしっかりと理解した上で、事例を読み、考察する。この課題を実施するためにはシラバスを有効に活用した上で、順序よく学ぶ必要がある。事例を取り上げなかった場合は評価の対象としないので注意すること。

〈評価の観点〉

- ・理論と実践が整理されていること
- ・専門性について触れていること
- ・事例を丁寧に考察していること

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

第2分冊 〈略題〉幼児理解と保育・教育相談 第2部 事例編

横書き指定

Word添付

〈課題〉

幼児の理解はなぜ必要であるか、第二部の事例から三つを取り上げ、一つずつの事例から、幼児の理解と保育・教育相談の関係について導き出すこと。なお、第一分冊の事例と重ならないように注意すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・幼児理解がなぜ必要であるか、この点は明確にすることが必要である。特に理解と相談の関係を事例から導き出すことが必要である。その際第一分冊と同じ事例を使わないこと。

〈評価の観点〉

- ・幼児理解が必要である理由が明確化されていること
- ・事例が三つ、必ず取り上げられていること
- ・幼児理解と相談の関係が導き出されていること

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

参考文献

『幼稚園教育要領解説』

科目試験等への
アドバイス

この科目は、保育の現場や子どもにかかわる仕事において重要な位置づけとなっている。特に保護者の対応は今後益々重視される。よって、教科書に書かれている内容に対して、理論的理解は必須である。更に、得た知識を実際の場面で活用出来る力が求められる。そのためには、実際に起きている相談事例に注目することが必要である。事例の中からケースに出会い、幅広い対応と知識を身に付けることが科目試験のために必要な課題である。

教員からの
メッセージ

保護者への対応は具体的なレベルで実践出来る力が保育の現場では求められている。この科目をしっかりと受講し、家族支援や子育て支援に役立つ知識を身に付けて欲しい。

科目概要	教育哲学とは何かについて、教育学の構造的な理解を踏まえて考えていく。その後、教育哲学の諸問題について論じていく。特に本科目では教育に関係の深い用語としての「愛」の諸相について理解を深めていく。
主な到達目標	・メタ理論の立場から教育哲学について説明することができる。 ・教育理論と教育思想とそれらの関係について説明することができる。 ・「人間が人間となる」ということを問題にする際、その考察の根拠について、教育哲学的観点から述べることができる。
テキスト学修の留意点	・以下の各課題についてテキストをもとに解答をまとめ、説明できるようにしてください。 ・レポート課題は、テキストの関連する箇所を抜き書きすることを求めているわけではありません。テキストの内容を客観的にまとめていくレポート執筆者の立ち位置をしっかりと定めた記述を期待しています。 ・レポート作成にあたっては、留意事項および評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	教育哲学とは何か 1	・「過程としての哲学」と「体系としての哲学」について説明しなさい。 ・哲学が「終わりのない探求」と言われるのはなぜか述べなさい。 ・哲学の基本的性格について説明しなさい。
2	教育哲学とは何か 2	・哲学と教育の関係を整理しなさい。 ・なぜ「哲学は人間の形成を問題にしている」と言えるのか。
3	教育哲学とは何か 3	・教育学の構造について「教育理論」と「教育思想」の関係をまとめなさい。 ・教育哲学が「メタ教育理論」と言われる理由を説明しなさい。 ・「教育問題」「常識」「教育理論」「教育思想」「メタ教育理論」：左記の語句をすべて用い教育学の構造を説明し、教育哲学の課題を述べなさい。
4	教育理論とは何か：『メノン』を読む 1	・教育問題の基本的構成要素が「教えること」と「学ぶこと」と言われるのはなぜか。 ・ソクラテスはその方法として問答法を採用したのはなぜか。
5	教育理論とは何か：『メノン』を読む 2	・想起説とはどういう考えか。 ・ソクラテスの実験的授業について、ステップごとにソクラテスの（教授）活動とそれに対する少年の（学習）活動を書き出しまとめなさい。
6	教育理論とは何か：『メノン』を読む 3	・ソクラテスの実験的授業は教育の問題としてどんな意義があったか。 ・可謬主義を説明しなさい。
7	教育思想とは何か：『エミール』を読む 1	・ルソーは彼の生きていた時代の社会制度や文化をどのように考えていたか、ルソーが生きた時代の社会的状況をふまえ、説明しなさい。
8	教育思想とは何か：『エミール』を読む 2	・ルソーの時代の教育状況を説明しなさい。 ・子どもを「植物」モデルと「鉱物」モデルで考えるとでは、どのような違いがあるか。 ・「子どもの発見」とはどのようなことか。 ・ルソーの三つの「教育」概念を説明しなさい。
9	教育思想とは何か：『エミール』を読む 3	・ルソーの考えた人の発達段階についてまとめ、それらはどのような特色を持っているか説明しなさい。 ・「人間と人間の間柄」に関する教育とはどのようなものか説明しなさい。
10	「愛」への問い 1	・ルソー『エミール』からの引用文を読み、「自愛」についての彼の考えをまとめなさい。 ・「愛は命ぜられるか」という問いに対するカントの答えをまとめなさい。
11	「愛」への問い 2	・「汝の隣人を愛せよ」についてカントの意見とヘーゲルの意見を比較しなさい。
12	自愛と他愛 1	・ルソーの「自愛」、ナルキッススの「自愛」、ピグマリオンの「自愛」はそれぞれどのように類似しているか、また異なるか考えなさい。
13	自愛と他愛 2	・自己認識における媒介となっているものをあなた自身の日常生活の中から三つ取り出し、そのそれぞれについてどのような自己認識が得られるか述べなさい。 ・ルソーは自己愛がどのようにして他におよぶと考えていたか述べなさい。
14	愛と成長	・変わらぬものへの愛と変わるものへの愛のそれぞれの特長を明らかにしなさい。
15	課題としての愛	・人が一般に意識の上で他者になりかわってみたいことができるという事例をあげ、そうした意識作用と愛との関連を示すように本節を要約しなさい。

レポート課題

第1分冊 山口 意友

第2分冊 山口 圭介

第1分冊 〈略題〉ソクラテスの教育「Ⅰ教育とは何か」の1から3 (p1～113)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ソクラテスの『メノン』に基づき、教育（教える）と学習（学ぶ）の関係性について説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

評価の観点すべてに目を通してレポート作成にとりかかってください。

〈評価の観点〉

1. テキストの正確な説明（要約）が出来ているかどうか。（それゆえ、他の参考文献を引いてきても無意味となる。）
2. 引用箇所はきちんと「」でくられ、ページが明記されているかどうか。
3. 主語と述語の関係が不明確であったり、文章表現の基本（例えば各段落冒頭のーマス空けなど）が出来ていない場合には「再提出」になりますので注意して下さい。

〈その他の注意点〉

キーワードをきちんと説明することがポイントです。

第2分冊 〈略題〉人間の課題と愛「Ⅱ愛と成長」の1から4 (p115～252)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

人間にとって「愛」が課題であるということの意味を「個」と「類」という2つの観点から明らかにしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

○次の2点について対応できていない場合には、内容にかかわらず、再提出となります。

1. 文末には、註及び参考文献を正しい仕方（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、再提出となります。）
2. 誤字・脱字、段落の構成など、書き方が乱雑にならないようにすること。

〈評価の観点〉

1. 表記上のルールが守られているか。
2. 一つひとつの文章や段落の設け方が適切であるか。
3. 全体のまとまりがある文章が書けているか。
4. 課題に対する解答が明確に示されているか。
5. 作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

○テキストをはじめとする文献等（事実）と自己の「意見」とを明確に区別できる書き方を心がけてください。

参考文献

テキスト学習をしっかりと行うこと。その後今日的な話題を発展的に学習される方には、テキストに掲載された参考文献の他、さし当り以下の文献を挙げておきます。

- ・山崎英則編『教育哲学へのいざない』学術図書出版、2007年
- ・皇紀夫編『「人間と教育」を語り直す—教育研究へのいざない』ミネルヴァ書房、2012年

科目試験等への
アドバイス

科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視します。それゆえ上記の「学修テーマ／課題」を中心に試験します。

教員からの
メッセージ

教育哲学の学習や研究はわたくしたちの生活や経験と関連させることによって深められるものであり、またそうした研究や学習が、生活や経験の中でいかされるべきものです。単なるテキスト学習に終わらせるのではなく、自分の身近な経験と結びつけながらじっくり考えながら学習を深められることを願っています。

科目概要	教育心理学は教育に関わる問題について心理学的に捉え、教育に役立てようとする学問である。そこで、本科目では人間の発達、教授と学習、適応、教育における評価などといった内容について心理学の理論と方法を用いて学んでいく。
主な到達目標	・人間の発達について説明することができる。 ・教授・学習の仕組みや関わる要因について説明することができる。 ・教室における個人差や対応について説明することができる。 ・教室における人間関係について説明することができる。 ・教育における評価について説明することができる。 具体的な到達目標としてはシラバスの課題欄に書かれた問いに答えられること、キーワードの説明ができることである。
テキスト学修の留意点	テキストに書かれた内容をまとめるだけでなく、自分の身のまわりの具体的事例と結びつけながら学んでほしい。また、章末に示された課題やシラバスに示された課題について考え、解答を書いてみてほしい。それにより、より深い理解となり、レポート作成や科目試験にも役立つだろう。

	学修テーマ	課 題
1	発達と教育	獲得と喪失という面から捉えると、発達とはどのように説明できるのか。 エリクソンによると発達はどのように進んでいくとされるのか。 発達において遺伝の影響をとらえる説とはどのような考え方なのか。 【キーワード】 遺伝、環境、輻輳説、促進的教育、最近接領域、足場かけ
2	認知の発達	ピアジェによる認知発達理論とはどのようなものなのか。 ピアジェによる認知発達段階はそれぞれどのような特徴を持つのか。 ピアジェ理論への指摘にはどのようなものがあるのか。 【キーワード】 シェマ、象徴的思考、直観的思考、自己中心性、領域固有性
3	学習の理論	行動論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 認知論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 状況論に基づく学習はどのように捉えることができるのか。 【キーワード】 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、認知構造、正統的周辺参加、高次精神機能
4	知識の獲得と問題解決	情報処理モデルに基づく、記憶の過程はどのように説明されるのか。 入力された情報を長期記憶にするためにはどのような方法があるとされるのか。 試行錯誤による問題解決と洞察による問題解決とはどのように異なるのか。 【キーワード】 符号化、リハーサル、体制化、精緻化、試行錯誤、洞察
5	学習への意欲と動機づけ	マズローによる欲求階層説とはどのような考え方なのか。 内発的動機づけと外発的動機づけとはどのようなものなのか。 動機づけにおける効力期待と結果期待とはどのようなものなのか。 【キーワード】 アンダーマイニング現象、学習性無力感、自己効力感、原因帰属
6	協働学習	協働学習のメリット、デメリットにはどのようなことが挙げられるのか。 グループ学習を行う際、グループ編成においてどのようなことに留意すべきなのか。 【キーワード】 バズ学習、ジグソー学習
7	授業のタイプ	発見学習のメリット、デメリットはどのようなものなのか。 先行オーガナイザーとはどのようなものなのか。 プログラム学習にはどのような原理があるのか。 反転授業における教師の役割はどのようなものがあるのか。 【キーワード】 発見学習、有意味受容学習、プログラム学習、反転授業
8	個に応じた学びと指導	教室における個人差の要因にはどのようなものが挙げられるのか。 適性処遇交互作用が見られる時、教師はどのようなことを考慮する必要があるのか。 ガードナーは知能の個人差についてどのように説明しているのか。 【キーワード】 適性処遇交互作用、多重知能理論、認知カウンセリング
9	学習観と学習方略	正統派の学習とごまかし勉強とはどのように異なるのか。 教え込み型と学び込み型の教育とはそれぞれどのようなものなのか。 自己調整学習のサイクルにはどのようなものがあるのか。 【キーワード】 学習観、学習方略、リハーサル方略、精緻化方略、体制化方略、自己調整学習
10	教室の中の人間関係	教師のリーダーシップにはどのような側面があるのか。 教師の認知が子どもに及ぼす影響にはどのようなものがあるのか。 学級集団を測定する道具にはどのようなものがあるのか。 【キーワード】 学級風土、PM 理論、ピグマリオン効果、ソシオメトリック・テスト

11	不応へへの理解と指導	不登校への考え方は時代によってどのように変化してきたのか。 いじめの四層構造とはどのような考え方なのか。 非行への対応をする上でどのようなことが大切なのか。 【キーワード】 不登校、いじめ、校内暴力
12	発達障がいと特別支援教育	発達障がいにはどのようなものがあるのか。 特別支援教育とはどのようなものなのか。 【キーワード】 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害
13	心理アセスメントと心理療法	心理アセスメントではどのような方法が用いられるのか。 学校で心理検査を実施する場合にはどのようなことに注意すべきなのか。 心理療法にはどのような手法があるのか。 【キーワード】 面接法、観察法、知能検査、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法
14	学び合うコミュニティ	教師が学校内のコミュニティで学び合う際にはどのような形があるのか。 教師が学校外のコミュニティで学び合う際にはどのような形があるのか。 【キーワード】 教師の力量形成、省察、校内研修
15	教育における評価	評価のタイミングにはどのようなものがあり、それぞれの目的はどのように異なるのか。 パフォーマンス評価とはどのような評価なのか。 「評価が人を育てる」とはどのようなことなのか。 【キーワード】 集団準拠評価、目標準拠評価、個人内評価、ループリック、ポートフォリオ評価

シラバス執筆：魚崎 祐子

レポート課題

第1分冊 魚崎祐子

第2分冊 魚崎祐子

第1分冊 〈略題〉観察学習 第1章―第9章

横書き

直接入力

〈課題〉

- ①観察学習のメカニズムについて、自身の経験例を複数挙げながら説明しなさい。
- ②適性処遇交互作用とはどのようなものなのか、具体例を挙げながらその特徴を説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・各課題について1000～1200字で述べること。
- ・課題番号をつけ、スペースを分けた上で作成すること。
- ・テキストや文献、インターネットなどから引用する場合には、出典を明記すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・観察学習の流れをおさえられているか。
- ・適切な経験例を挙げることができているか。
- ・良いモデルを見た時と良くないモデルを見た時に言及できているか。

課題②

- ・適性処遇交互作用の特徴をおさえられているか。
- ・テキストで挙げられたもの以外の適切な具体例を挙げることができているか。

両課題共通

- ・制限字数を守っているか。
- ・自分の言葉で説明することができているか（テキストの丸写しやつなぎ合わせただけのものは不可）。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

第2分冊 〈略題〉不登校 第10章―第15章

横書き

直接入力

〈課題〉

課題①

不登校の歴史もふまえた現状について、テキストを要約する形で説明しなさい。

課題②

集団準拠評価と目標準拠評価の特徴について、それぞれに関する自身の具体的な経験を挙げながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・各課題について1000～1200字で述べること。
- ・課題番号をつけ、スペースを分けた上で作成すること。
- ・テキストや文献、インターネットなどから引用する場合には、出典を明記すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・不登校への捉え方の歴史について説明できているか。
- ・不登校の現状や背景について説明できているか。
- ・テキストの内容を適切に要約できているか（要約とは一部の情報を抜き出して繋ぐことではない）。

課題②

- ・それぞれの評価の特徴について説明することができているか。
- ・適切な具体的な経験の例を挙げることができているか。
- ・自分の言葉で説明することができているか（テキストの丸写しやつなぎ合わせただけのものは不可）。

両課題共通

- ・制限字数を守っているか。

〈その他の注意点〉

書き終わったレポートを読み直し、表記や表現などにおかしな所がないか確認した上で提出すること。

参考文献

まずはテキストの内容を十分に理解することを優先させて行い、さらに発展的に学びたい場合にはテキスト章末の参考図書を参照のこと。

科目試験等への アドバイス

科目試験では、テキストに書かれた内容について理解し、説明することができるかどうか問われる。また、シラバスに示されたキーワードについて説明できるかどうか問われる。シラバスの課題欄に示された問いおよびキーワードについて、テキスト内容をもとに自分の言葉で説明できるかどうかを確認しながら学修を進めてもらいたい。なお、テキスト等の文言をそのままつなぎ合わせたような答えは「説明できている」とはみなさない。また、テキスト等の文献やインターネットなどの情報を用いた場合には、その旨を明記すること。

教員からの メッセージ

教育心理学で学ぶ内容と教育現場でおこることとの間にはかい離があると言われることも多い。たしかに教育現場でおこる様々な問題はより複雑であり、即効性のある明確な解答を提供することは難しい。しかし、教育心理学で学んだ理論的な内容は、現場でおこることを捉える上で有効な枠組みになると考えられる。

科目概要	学校教育における環境教育の意義を学び、それを実践する上で必要となる環境教育の基礎論および応用論を扱う。基礎論では主に環境問題とは何かを理解し、環境問題を解決していく上での環境教育の役割について学ぶ。応用論では、環境教育において有効性が確認されたさまざまな学習方法について学んでいく。主に小学校で環境教育を指導するための知識・理解を深め、学習活動における実践的な指導力を高めることを目標とする。
主な到達目標	1. 学校教育における環境教育の意義を理解する。 2. 社会の変化や私たちの暮らしと環境について理解する。 3. 学習指導要領の内容を理解・分析し、単元構成、指導案を作成することができる。 4. 児童が興味・関心を高めるような教材開発や指導法を身に付けることができる。
テキスト学修の留意点	1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。 2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。 3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。 テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。 4. レポート作成は「レポート作成にあたっての留意事項と評価の観点」を参考にすること。

	学修テーマ	課 題
1	環境問題と環境教育の目的	「序章：なぜ環境教育を学ぶのか」「1章：人類の発展と環境問題」を読み、それぞれ要点をまとめ、環境問題と環境教育の役割を理解することができるようになること。
2	世界が抱える環境問題 1	「2章：世界が抱える環境問題 1～地球温暖化問題～」を読み、要点をまとめ、地球温暖化とは何か、地球温暖化の基礎を理解することができるようになること。
3	世界が抱える環境問題 2	「3章：世界が抱える環境問題 2～生態系と生物多様性～」を読み、要点をまとめ、生態系・生物多様性とその価値を理解することができるようになること。また生態系・生物多様性の危機やその現状を知り、その保全のためにどのようにすればよいかを考えることができるようになること。
4	世界が抱える環境問題 3	「4章：世界が抱える環境問題 3～資源制約とゴミ問題から循環型社会形成へ～」を読み、要点をまとめ、国や地球規模で物資収支・資源の枯渇性と再生可能性・廃棄物対策の原則・化学物質や有機廃棄物管理の原則の考え方を理解することができるようになること。
5	世界が抱える環境問題 4	「5章：世界が抱える環境問題 4～食料・水・人口～」を読み、要点をまとめ、食料生産および食料と水の国際的な移動に関する動向を理解し、その環境への負荷を人口問題を交えて STS の視点から考えることができるようになること。
6	持続可能性を脅かす諸問題	「6章：持続可能性を脅かす諸問題～ミレニアム開発目標（MDG）をめぐる～」を読み、要点をまとめ、MDG に挙げられた課題から国際社会がどのような課題に直面し、解決しようとしたのか。またそれらを解決するための国際協力や参加型学習の手法を理解できるようになること。
7	環境教育の進め方とその理論的背景	「7章：環境教育の進め方とその理論的背景」を読み、要点をまとめ、環境教育の目的・目標を理解し、持続可能な社会への参加の方法と環境教育の進め方について考えることができるようになること。
8	環境教育における環境倫理の使命と役割	「8章：環境教育における環境倫理の使命と役割」を読み、要点をまとめ、環境教育の基盤となる3つの環境倫理的な情操および環境倫理の思想の変遷について学び、その意義・役割について理解することができるようになること。
9	環境教育の目的と方法 1	「9章：環境教育の目的と方法 1～環境保全意識向上につながる自然観察・自然体験」を読み、要点をまとめ、自然観察・自然体験の内容・方法について学び、環境保全意識向上につながる自然観察の進め方について理解を深めることができるようになること。
10	環境教育の目的と方法 2	「10章：環境教育の目的と方法 2～参加型学習と市民学習～」を読み、要点をまとめ、環境教育における参加と参加型学習の意味、市民の視点が重視されるようになった背景を理解するとともに、参加型市民教育のあり方について理解を深めることができるようになること。
11	環境教育の目的と方法 3	「11章：環境教育の目的と方法 3～科学的アプローチ～」を読み、要点をまとめ、科学的な観点に立った環境教育には、どのようなものがあるのか、それぞれの観点について理解することができるようになること。
12	環境教育の目的と方法 4	「12章：環境教育の目的と方法 4～学校と地域の連携～」を読み、要点をまとめ、学校と地域が連携して進める環境教育のあり方について、自然環境学習や食農学習を例に理解することができるようになること。
13	環境教育の目的と方法 5	「13章：環境教育の目的と方法 5～多様なステークホルダーとの連携～」を読み、要点をまとめ、学校・NGO・メディア・企業など多様なステークホルダーの特徴を学び、その連携について地域社会・行政を中心に実践事例を通してその理解を深めることができるようになること。
14	学校における環境教育の計画・プログラムづくりに向けた視点	「14章：学校における環境教育の計画・プログラムづくりに向けた視点」を読み、要点をまとめ、学校の環境教育を充実させるための教育計画や学習プログラムの企画・立案における基本的視点を理解することができるようになること。
15	循環型社会の実現と人類の未来	「終章：循環型社会の実現と人類の未来のために」を読み、要点をまとめ、日本における持続可能性を脅かすさまざまな課題やこれまでの取り組みについて学び、循環型社会を実現するために日本が果たすべき役割について考えを持つことができるようになること。

レポート課題

第1分冊 市川 直子

第2分冊 市川 直子

第1分冊 〈略題〉環境教育と環境教育の目的 1～6章

横書き

Word添付

〈課題〉

はじめに、環境教育および環境教育の目的についてまとめなさい。次に、それを踏まえた上で、「持続可能な社会」に向けて、子供たちに身に付けてもらいたい意識や資質・能力、何を学ぶべきかについて、自分の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。
2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。
3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。
テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。
4. テキスト以外の文献を参考または引用し、論述すること。

〈評価の観点〉

1. 課題に対する理解：テキストやその他文献についての内容をよく理解していること。
2. 論理的構成：単なる思い出や感想文でなく、論理的な構成かつ的確にして簡潔に論述されていること。
3. 書式：正しい文章であることはもちろんのこと、記号をつけるなど、分かりやすい文脈の工夫がなされていること。
4. 文献：参考・引用文献数や内容。本文中およびレポート末尾の引用・参考文献の一覧が正しく表記されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストやその他文献を引用する場合、引用符「」を用いて、その出典（著者名、出版年）を明記すること。
- ・テキスト含め、参考文献（著者・文献名・出版社・出版年）を明記すること。
インターネットのURLを引用する場合は、開設ホーム先の名称とアドレス、閲覧日、主な内容を記載すること。
- ・参考・引用文献は重要であり、テキストを含めて文末に正しく記載すること。

第2分冊 〈略題〉理科における環境教育と学習指導案の作成 7章～14章

横書き

Word添付

〈課題〉

はじめに、理科における環境教育の目標および内容を具体的に解説しなさい。次に、それを踏まえた上で、小学校理科の単元のなかで実践可能な理科における環境教育の学習指導案を立案し、まとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキスト内容をよく読み、理解できるようにすること。
2. 各章の要点をまとめ、説明できるようにすること。
3. レポート課題は、テキストが解説する文脈をそのまま書き写すことがないようにすること。テキスト内容を理解した上で、自分の言葉で書き換え、表現すること。
4. テキスト以外の文献を参考または引用し、論述すること。

〈評価の観点〉

1. 課題に対する理解：テキストやその他文献についての内容をよく理解していること。
2. 論理的構成：単なる思い出や感想文でなく、論理的な構成かつ的確にして簡潔に論述されていること。
3. 書式：正しい文章であることはもちろんのこと、記号をつけるなど、分かりやすい文脈の工夫がなされていること。
4. 文献：参考・引用文献数や内容（種類）、本文中およびレポート末尾の引用・参考文献が正しく表記されていること。

〈その他の注意点〉

- ・テキストやその他文献を引用する場合、引用符「」を用いて、その出典（著者名、出版年）を明記すること。
- ・テキスト含め、参考文献（著者・文献名・出版社・出版年）を明記すること。
インターネットのURLを引用する場合は、開設ホーム先の名称とアドレス、閲覧日、主な内容を記載すること。
- ・参考・引用文献は重要であり、テキストを含めて文末に正しく記載すること。

参考文献

- ・文部科学省 各教科の『学習指導要領（平成29年告知）解説』文部科学省、2018
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『環境教育指導資料（幼稚園・小学校編）』東洋館出版社、2014
- ・多田満『レーチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011
- ・嘉田由紀子ほか『レーチェル・カーソンに学ぶ現代環境論 アクティブラーニングによる環境教育の試み』法律文化社、2017
- ・北野日出夫ほか『自然との共生をめざす環境学習』玉川大学出版部、2002
- ・佐藤定久ほか『SDGsと環境教育』学文社、2017
- ・国立教育政策研究所『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕』
[https://www.nier.go.jp/kaihatu/pdf/esd_saishuu.pdf]（2021年3月29日最終閲覧）

科目試験等への
アドバイス

- ・出題範囲はテキスト全体からとなるが、主に各章の要点から出題する。
- ・本科目試験ではテキスト内容を理解し、自分の言葉で説明できているかを重視する。
- ・問題に「具体的に説明せよ」とある場合、必ず実際の例を示して説明すること。
- ・一つの基本概念の学習には、関連する概念・考え方と結びつけた構造的な学習が必要である。そのためテキストだけでなく、いくつかの文献を引用・参考にしながら論を展開するとよい。

教員からの
メッセージ

- ・テキスト学習は机上のものになりがちだが、ここで学んだことを実際の児童の実態に合わせ、学習活動に結びつけて考えることができるようになることがねらいである。
- ・小学校における環境教育の関連する学習は「生活科」「理科」「社会科」「家庭科」ほか「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」等があり、これらの連携を図ることが望ましく、それを視野に入れて、環境教育の実践の向上に努めて欲しい。

科目概要	学習心理学は学習の過程について研究する学問である。本科目では、学習が成立していく上で、より効果を高めていくための方法について、日常の教授・学習過程と結びつけながら考えていく。
主な到達目標	・学習論の間違いにどのようなものがあるか説明することができる。 ・有意義学習と理解の違いについて説明することができる。 ・理解と応用の関係について説明することができる。 ・知識と教育の関わりについて説明することができる。 具体的な到達目標としてはシラバスの課題欄に書かれた問いに答えられることである。
テキスト学修の留意点	本テキストは学習や教育についてこれまで当たり前だと思ってきたこと、一般的に正しいと考えられていることへの疑問を呈し、考え直すきっかけとなるであろう。テキストの記述と自身の経験を結びつけながら内容理解に努めてほしい。レポート課題に取り組む際は、部分的に目を通すのではなく、前後との関係も含めて読み込む必要がある。

	学修テーマ	課 題
1	学習論に、まちがいはないか？	間違った学習論としてどのようなものがあるのか。 なぜ間違った学習論を持ってしまうのか。
2	学習対象の量は少ないほどやさしいか？	エビングハウスの記憶の研究はどのようなものなのか。 有意義化による記憶とはどのようなものなのか。 なぜ学習量が多いとおぼえにくいというのは間違いなのか。
3	経験すれば学習できるか？	認知構造の機能とはどのようなものなのか。 練習が単なる繰り返しではないとなぜいえるのか。
4	詰め込むとあふれるか？	機械的暗記と有意義学習はどのように違うのか。 有意義受容学習とはどのようなものなのか。
5	見れば、見えるか？	認知構造の違いによって学習にはどのように影響するのか。 仮説の生成による知識の形成とはどのようなものなのか。
6	学習すればどんどん伸びるか？	経験や学習時間の量に比例して伸びていかない学習にはどのようなものがあるのか。
7	賞罰は学習を進めるか？ 学習すれば知らないことが減るか？	賞罰によって学習を促進するとはいえないのはどのような場合なのか。 学習すれば知らないことが減ると言えないのはどのような場合なのか。
8	理解の構造	理解の層構造とはどのようなものなのか。
9	有意義化と理解と確信	法則的知識による個別的なことから理解とはどういうことなのか。 有意義化と理解とはどのように違うのか。 理解と確信はどのように区別されるのか。
10	理解と応用	知識は応用できないというのはなぜなのか。 どのような理解をしていれば応用が可能なのか。
11	構造化された知識	対比的知識や階層的知識は構造化されているといえるのか。またそれはなぜなのか。
12	知識のありようとできること 内容と方法と教材解釈	「知識はあるが使えない」「できるけれど理解していない」といった表現が不正確なのはなぜなのか。 教育内容の「何」と「なに」とはそれぞれどのようなものなのか。
13	教師の役割	なぜ「学習者は白紙ではない」といえるのか。 「教師による道具の提案」とはどのようなことなのか。
14	詰め込み教育の問題点 月の半分は昼間に見える	「詰め込み教育」は「詰め込めていない」とはどのようなことなのか。 問題解決学習をすれば学習は成功するといえるのか。またそれはなぜなのか。 「できる人」と「できない人」の違いはどこにあるのか。
15	教科書は厚い方がいいという正論	教科書は厚い方がいいというのはなぜなのか。またそれはいつでも言えることなのか。

シラバス執筆：魚崎 祐子

レポート課題

第1分冊 魚崎 祐子

第2分冊 魚崎 祐子

第1分冊 〈略題〉認知 第1章～第2章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

課題①

認知構造の違いは学習にどのような影響を与えるのか、テキストの事例と自身の経験例を挙げながら説明しなさい。

課題②

仮説の生成とその適用とはどのようなことなのか、自身の具体的な経験例を挙げながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストの内容をふまえて作成すること。
- ・各課題 1000～1200 字で説明すること。
- ・それぞれの課題には番号をつけ、スペースを区切ること。
- ・テキストや文献（インターネットを含む）などから引用する場合には出典を明記すること。

〈評価の観点〉

- ・テキストの内容に合った説明をすることができているか。
- ・ふさわしい事例を挙げることができているか。
- ・各課題の字数制限を守っているか。
- ・テキストの内容をふまえて、自分の言葉で説明することができているか（テキストを丸写ししたものやつなぎ合わせたどけのものは不可）。

〈その他の注意点〉

課題に関する内容は、テキスト内複数の箇所でも説明されている。特定の箇所のみを参照するのではなく、テキスト全体を読んだ上でレポートを作成すること。

第2分冊 〈略題〉教師と学習者 第3章～第5章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

課題①筆者の考えに基づく理解の層構造とはどのような考え方のなか、自身の経験から具体例を挙げながら説明しなさい。

課題②テキスト 150 頁に示された3つの図の考え方について、自身の経験から具体例を挙げながら説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストの内容をふまえて作成すること。
- ・各課題 1000～1200 字で説明すること。
- ・それぞれの課題には番号をつけ、スペースを区切ること。
- ・テキストや文献（インターネットを含む）などから引用する場合には出典を明記すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・筆者の考えに沿って説明することができているか。

課題②

- ・それぞれの考え方の違いがわかるように説明することができているか。

両課題共通

- ・各課題の字数制限を守っているか。
- ・テキストの内容をふまえて、自分の言葉で説明することができているか（テキストの丸写しは不可）。
- ・自身の経験の中から、説明に対応する適切な具体例を挙げることができているか。

〈その他の注意点〉

テキスト内の各章の内容はお互いに関係している。特定の章のみを参照するのではなく、テキスト全体を読んだ上でレポートを作成すること。

参考文献

まずはテキストの内容を十分に理解することを優先させて行い、さらに発展的に学びたい場合にはテキスト巻末の文献案内や学修指導書に挙げられた文献を参照のこと。

科目試験等への
アドバイス

科目試験では、テキストに書かれた内容について理解し、説明することができるかどうかを問う。シラバスに示された課題について、テキスト内容をもとに自分の言葉で解答しながら学修を進めてもらいたい。なお、テキスト等の文言をつなぎ合わせたような答えは「説明できている」とはみなさない。

教員からの
メッセージ

本テキストは一般的な学習心理学のテキストとは趣の異なる点もあるだろう。しかし、一見奇異に感じられる点も内容をよく読み込んでいくにつれ納得できるところが増えてくると考えられる。自分の周りにも同様に学習に対する間違った考え方がないかを考えながら学修を進めてほしい。

科目概要	本講では、国際関係のみならず、身近な異文化としての帰国児童生徒、在日外国人、国際結婚の子ども達など、多様化している日本人と日本で共生している異文化を背景に持つ子どもの教育についての理解を深め、そのような子ども達が学校で直面する問題に対して、教員として支援していく力を養っていくことを目的とする。
主な到達目標	・多文化共生や異文化理解に関わる基礎的な知識を実践に活かしていくことができる。 ・机上の学習で終わらず、自分の地域／勤務地の情報を調べ、その情報を活用したレポート作成ができる。 ・多様な児童生徒や保護者に対して、多文化共生に向けた適切な支援ができる。
テキスト学修の留意点	レポートなどには、テキストの統計データをそのまま使わず、文科省ホームページの「統計情報」などから最新のデータを使ってください。統計データを使う場合は、必ず何年度のデータなのか明記してください。また、多文化共生・異文化理解の取り組みについて書かれた新聞や雑誌を読んでいくと、より深い学習になります（記事をじっくり読むのは、第6回目と第11回目の学習で結構です）。 *なお、テキストの第1章、第14章、第15章は研究者向けに書かれているので、軽く目を通す程度で結構です。

	学修テーマ	課 題
1	異文化理解とは何か	テキスト第2章を読み、異文化理解の教育についてのポイントをまとめなさい。
2	日本の異文化間教育とその視点	テキスト第3章を読み、ニューカマーの子どもについてポイントをまとめなさい。
3	異文化背景を持つ子ども達	文科省の統計情報を活用し、「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」を読み、そのデータからどんなことがわかるか簡単に整理しまとめなさい。
4	異文化体験と教育	テキスト第4章を読み、文化体験と適応などに関するポイントをまとめなさい。
5	学校における多文化共生	テキスト第5章を読み、異文化背景を持つ子ども達が直面している学校のハードルや外国人学校などの処遇についてポイントをまとめなさい。テキストの統計データは古いので、文科省の「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」の結果などで新しいデータを確認してください。
6	中間のまとめ	ここまででまとめてきたポイントを整理しなさい。また、異文化理解の事例について書かれている新聞記事などを使って、現状を読み取り、まとめておくこと。
7	具体的な実践	あなたの地域の学校／あるいは勤務されている学校での多文化共生を目指した取り組みについて調べなさい（教育委員会などのホームページなどに、統計データを含め、全体像が見える情報があれば参考にしてください）。
8	教育における国際交流	テキスト第6章を読み、国際交流にどのようなものがあるかポイントをまとめなさい。
9	地域における国際化	テキスト第7章を読み、地域が異文化背景を持った人々をどのように支援できるのかポイントをまとめなさい。
10	地域のデータ	皆さんの地域／勤務先の課題を見つける。地域に異文化背景を持った人はどのくらいの割合でいるのか、そのような人々への支援はどのようにになっているのか調べなさい。
11	中間のまとめ	ここまででまとめてきたポイントを整理しなさい。また、異文化理解の事例について書かれている新聞記事などを使って、根拠をしめしながら、課題をまとめておくこと。
12	多文化共生の教育	テキスト第8章を読み、国際理解教育と多文化共生の教育の違いについてまとめなさい。
13	異文化間教育とアイデンティティ	テキスト第10章を読み、どのようなアイデンティティがあるか分類しなさい。
14	異文化間教育と第二言語	テキスト第12章を読み、第二言語としての日本語と母語教育の課題についてまとめなさい。
15	実践に向けて	ここまでの学習を総合し、勤務校（勤務されていない人は想定可）で担当する児童生徒向けの授業計画を立てなさい。地域や児童生徒の特徴をよく分析した上で、授業目的、到達目標、具体的な授業計画を作成しなさい。

シラバス執筆：星野 あゆみ

レポート課題

第1分冊 星野 あゆみ

第2分冊 星野 あゆみ

第1分冊 〈略題〉多様な子ども達を教育する学校の現状と今後の課題
第2章、第3章、第4章、第5章、第7章、第8章、第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の言葉を使って、多様な子ども達を教育する学校の現状と今後の課題について論じなさい。学校の制度上の問題などにも必ず触れること。なお、レポートでは、下記の言葉には下線を引いてください。

(在日外国人の子ども、帰国児童生徒、外国人学校の処遇の問題、総合的な学習の時間／総合的な探究の時間における国際理解教育、多文化共生)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・ 抽象的な説明で終らず、具体的な例や自分の経験などを盛り込み、説得力のある論述を期待します。
- ・ データを用いる際は、文部科学省や統計局などの最新のデータに更新してください。(テキストのデータをそのまま使わずに更新するということです)
- ・ 統計データには、必ず、何年のデータかわかるように()内に年を入れてください。
- ・ 参考文献の書き方は、以下のような一般的な参考文献の書き方ルールに従って書いてください。
新聞記事やインターネット上の資料なども、一般的な書き方ルールに従ってください。
よくわからない方は、ネットなどにも情報があります(ただし、信頼できるサイトを参考にしてください)。
例：著者名(出版年)『本のタイトル』出版社名 所在ページ

〈評価の観点〉

- ・ テキストの要約だけに終わらずに、自分の言葉で具体的に書けているか。
- ・ データなどは、新しいものを使っているか。
- ・ キーワードと自分との関わりについて触れられ、自分自身の問題として書かれているか。
- ・ 自分の住む地域、あるいは勤務校や先進校などの取り組みなどを具体的な例としてあげてあるか。
- ・ 参考文献の書き方など体裁が整っているか。

〈その他の注意点〉

テキスト「国際化と教育」は、改訂新版のものをお使いください。少し古い文献になりますが、多文化共生や異文化理解についてバランス良くまとめられたテキストです。ただし、統計データなどは自分で文科省の統計データで新しいものを確認していくことが、現在の状況を読み取っていく上で必要です。

〈課 題〉

自分の教えている子ども達を対象（教えていない場合は想定可）に異文化理解や多文化共生を目的とした単元計画を作成しなさい。せっかく作るので、ぜひ自分の授業／保育で使えるもの（将来使いたいもの）を作ってください。なお、幼稚園児などを対象にする場合は、「授業案」ではなく、「活動案」で構いません。幼稚園児の成長や発達段階に合わせ、無理のない活動を計画してください。（大人の自己満足に終わらない内容）。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

書き方は、以下の項目ごとに小見出しを付け、わかりやすく書いてください。レポートでも、各項目の小見出しをつけて、書いてください。なお、「その他の注意点」もしっかり読んだ上で作成してください。

1. この単元の対象となる子ども達の背景：想定する場合でも、教えるつもり児童生徒の背景を書く（地域の特徴なども入れ、どのような子ども達なのかイメージできるように書いてください）。どれだけ自分の児童生徒を理解しているのか、見ているのか、ここの記述で見えてきます。
2. この単元を設定する問題意識：あなたが、実際に直面している問題／課題、または一般的な問題／課題で授業やホームルームなどを通して取り組んでいくべきと思われるもの。第一分冊のテキストを参考に、対象となる子ども達の実態などを分析しながら、問題／課題を具体的に書いてください。
3. 単元を設定する・授業をする目的：教師の問題意識を反映させ、何のために授業をするのかかわかるように書いてください。目的は、その授業の方向性を示すものなので、シンプルに2行くらいで書いてください。
4. この単元の学習者の到達目標（達成目標）：その単元の授業が終わった時に、子どもは何を達成しますか？「知る」「学ぶ」「気づく」「理解する」といった抽象的な言葉がよく書かれますが、これらは子どもの内面で起こる変化で、他者が外から確認する事はできません。しかし、そのような内面の変化が起きた子どもはそれまでとは違う言動を取るはず。内面の変化が起こったことを、どのような言動で（この授業後に）確認できるのか？と考えて、具体的な「目に見える」到達目標を書きます。人によって、判断が変わってしまう主観的な到達目標でなく、客観的に確認できるものを書きます。授業後の子どもに対する評価の目安になりますので、「子ども達は、～ができるようになる。」といったような、具体的な書き方をしてください。1つ1つの達成目標が、評価ポイントとなるので、わかりやすい箇条書きにします。
5. 単元計画：どの学校種の、どの学年の、どの教科の科目（時間）か明記してください。1コマ何分（時間）を何回で1つのセット、つまり単元になるか、授業回数と各授業の目的、簡単に授業概要がわかるように、表にしてください。年間計画ではありませんので、授業目的を達成するのに必要な回数（1つの単元）でいいです。

6. 単元の中での教師の役割：教師は、その授業の中で、どのような役割をしますか？どのようなことに配慮や工夫をしますか？授業目的にあった役割を果たしていることがわかるように書いてください。

7. 授業案：単元計画の中から1回の授業を選んで授業案を作成します。全体の中の何回目の授業かわかるようにしてください。見やすいように、表にし、「導入→展開→まとめ」の流れに分けて、時間配分も入れてください。教師の指示や支援などがイメージできるように、具体的な指示の内容を書いてください。また、授業でワークシートなどを使用する場合は、ワークシートの見本を添付してください。

授業案の表の見本
http://www.tamagawa.ac.jp/teachers/edu/ohtani/lesson_plan.pdf

8. 評価：単元および授業をどのように評価するか、何をもって、子ども達が目標を達成したと判断できるのか書きます。「知る」「理解する」「興味・関心を持つ」などの抽象的な言葉で終わらせないでください。何をもって「知った」「理解した」「興味・関心を持った」と判断できるか、具体的に評価の観点を書いてください。

〈評価の観点〉

- ・課題の通りに授業計画（上述したポイントを全て押さえている）が作成されているか。
- ・対象となる学習者の実態と教師の問題意識が交差する接点に、授業目的が立っているか。
- ・学習者の到達目標が、抽象的な目標で終わっていないか。授業後／活動後に、評価できるものになっているか（他者が確認できる）。
- ・学習者の到達目標にあった授業計画になっているか。
- ・授業目的や学習者の到達目標にあった授業方法や授業内容となっているか。

〈その他の注意点〉

- ・共通書式でタイプすると、授業案の表などが見にくくなる場合は、表の部分だけ、通大の書式形式外になっても構いません。
- ・この授業案は、略案ではありません。他の先生が、この授業案で皆さんが意図した通り、授業を再現できるように書いてください。（どのように子ども達に呼びかけるのか、どのような資料をいつ提示するのか、どのように説明するのか）
- ・児童／生徒による発表の回を選ばれる方がいますが、発表会は避けてください。
- ・ゲストスピーカーをお招きする場合は、その話の内容もわかるように書いてください。
- ・提示する写真やビデオがある場合は、どんなものか、添付資料に見本をつけるか、具体的に説明してください。

参考文献

.....
 レポート課題2では、具体的な授業計画を作成していただきます。その際に、以下の文献はアクティビティのアイディアに役立つかもしれません。

デイビット・セルビー&グラハム・パイク（2007）『グローバル・クラスルーム』明石書店

また、本学大谷先生の授業ページの“Guest Speakers”のメニューを選ぶと、授業「異文化理解と教育」などでお迎えしたゲストの講話の内容を閲覧できます。ご興味あれば見てください。

大谷先生の授業ページ <http://www.tamagawa.ac.jp/teachers/edu/ohtani/>

科目試験等への
アドバイス

.....
 科目試験では、テキストなどで学ばれたことを踏まえて具体的に論述してください。したがって、テキストだけの学習だけでなく、皆さんの地域や勤務先などの異文化背景を持つ子ども達についてのデータや具体的な取り組みなどについても情報収集しておかれると説得力のある論述ができると思います。

教員からの
メッセージ

.....
 国内・国外の多様化は進み、もはや「国際理解」という言葉では表現しきれなくなっています。日本国内の多言語・多文化化によっていろいろな問題が顕在化し、「異文化理解」の必要性がますます高まっていると言えます。したがって、「国際理解」というよりも、今は「異文化理解」「多文化共生」と考えていくことが大切です。どうぞ、机上の学習で終わらず、皆さんの身近なところで1つ1つの小さな行動（アクション）を起こしていただきたいと思います。

科目概要	ヒトの一生は胎児期から老年期まで身体的・心理的・社会的側面において変化の連続である。こうした量的・質的变化を研究対象とする発達心理学は、増大や獲得、喪失といった人生のあらゆる側面を対象とした研究が行われている。 本科目では身体的・心理的变化の著しい乳児期から学童期を中心とした特徴を学び、保育者・教師として特に必要とされる人間発達の基礎について学修することを目的とする。
主な到達目標	乳児期から学童期までの認知的発達および心理社会的発達について、ピアジェ理論・エリクソン理論を中心に発達段階や発達課題を含む発達心理学の概念を用いて説明することができる 愛着理論について理解し、子どもを取り巻く環境について考察できる 原因帰属の視点から児童の自己効力感について理解し、援助方法を提案することができる 発達心理学の研究手法について理解し、測定方法や定義づけの意図を理解できる
テキスト学修の留意点	各課題をまとめ、子どもの発達に関する概念について適切な用語を用いて説明できるようにすること。 発達の概念を学ぶにあたり、定義を暗記することだけに捉われず、それが子どものどのような姿を示すのか具体的にイメージしながら理解するよう試みること。 発達は連続するものであることを念頭に置き、段階の移行にも目を向けるよう心がけること。

	学修テーマ	課 題
1	ヒトと動物 発達の可能性	人間と動物との違いを出生時の状態をもとにまとめよ／生得的制約と育ちについて、アフォードンスの理論を中心にまとめよ／発達段階と発達課題とは何か／遺伝と環境それぞれが発達に与える影響をまとめた4つの理論を示せ
2	人間の発達と環境	インプリンティングとは何か／初期経験が意味するものとは何か、刺激のはく奪実験をもとに考察せよ／発達の可塑性についてまとめよ／発達の最近接領域とは何か／ブロンフェン布伦ナーによる発達の生態学的環境にもとづき、現代の子どもの環境についてまとめよ
3	乳児期の認知発達	乳児の視覚的世界とはどのようなものか。これを理解するための3つの方法に触れて説明しなさい／乳児の概念形成の方法にはどのようなものがあるか／原始反射と随意運動について、違いを説明しなさい／ハンドリガードとプリヘンションによる乳児の環境へのかかわりの質的变化とは何か
4	乳児期における相互交渉	乳児の微笑の発達の变化を説明し、微笑が持つ機能について説明せよ／前言語的コミュニケーションの種類と発達過程についてまとめよ／愛着とは何か、その発達段階についても説明せよ／愛着の質を測る方法を説明せよ／愛着が子どもの発達にもたらす意味とは何か
5	幼児期における認知発達と社会性	幼児の認知および思考の特徴についてまとめよ／幼児期のことばの発達についてまとめよ／幼児のことばと思考との関係について整理せよ／幼児の仲間関係の発達についてまとめよ／幼児にとって“あそび”がもつ意味とは何か考察せよ
6	幼児期における自己と仲間との関わり	子どもの感情の分化と共感の発達についてまとめよ／養育者が子どもに与える影響にはどのようなものがあるか。親・保育者それぞれについてまとめよ／幼児の自己の発達とはどのようなものか／自己制御と自己主張とは何か／子どもの性別意識が形成される要因について述べよ
7	就学前後期における認知発達	直観的思考とは何か／メタ認知・メタ記憶とは何か／概念の獲得について整理し、まとめよ／物語る能力の発達について推論や理解の視点からまとめよ／精密コードと制限コードの違いについて説明せよ／母親の養育態度と知的発達の関連について説明せよ
8	就学前後期に見られる社会性の発達	家庭と学校の機能の違いについて説明せよ／社会的スキルが社会的地位に与える影響について説明せよ／向社会的行動とは何か／道徳性の発達プロセスについてまとめよ／自己認知の過程について親・他者評価・社会的比較の3点から整理せよ
9	学童期における認知発達	学童期に生ずる変化を身体的、社会的、認知的側面からまとめよ／ピアジェの認知発達理論に基づき、具体的操作期と形式的操作期について説明せよ／宣言的知識の発達についてまとめよ／言語の獲得が思考に与える影響とはなにか／認知発達を促進する相互交渉とは何か
10	学童期における自己意識の変容	学童期における対人関係の変化についてまとめよ／子どもにとって集団がもつ力とはどのようなものがあるか／教師との関係の変化について説明せよ／自己意識の発達について説明せよ／自尊心とはなにか／自主性と自己効力感について説明せよ／学童期の態度の形成とはどのようになされるか
11	ピアジェによる認知発達段階説の理解	ピアジェのシエマ・同化・調節それぞれの機能と関係性について説明せよ／ピアジェの認知発達理論をまとめ、各期における特徴を示せ。特に前操作期と具体的操作期については、実験の結果なども用いて説明せよ
12	エリクソンによる心理社会的発達段階理論の理解	エリクソンによる心理社会的発達理論をまとめ、その特徴を示せ／発達における「段階」の概念とはなにか、その特徴を述べなさい
13	発達と教育	教育を支える要因とは何か／プログラム学習とは何か／知的好奇心とは何か／モデリングとは何か／個人差と3つの教授プランについてまとめよ
14	発達心理学の研究法	仮説検証とは何か／心理学の研究法についてまとめよ／横断的研究と縦断的研究の違いを説明せよ／研究を行うときに注意すべき点について2点説明せよ／心理学の限界とは何か
15	総括	乳児期から学童期を通じての発達をふりかえり、保育者・教師として留意すべき点とは何か考察せよ

レポート課題

第1分冊 岡田 啓子

第2分冊 岡田 啓子

第1分冊 〈略題〉幼児期の遊びの変化 1～4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「ごっこ遊び」が「役割取得能力」の獲得にどのような影響を与えるのか、説明しなさい。また、ピアジェ理論における「自己中心性」と「脱中心化」が子どもの遊びの質にどのような変化を与えるのかについても説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

ごっこ遊びについては、スクリプトの獲得やパーテンの分類・スミランスキーの分類それぞれをもとに説明をしましょう。また、自己中心性を脱し、メタ認知的視点を獲得することが子どもの遊びの質的变化にもたらす影響について考えてみましょう。

〈評価の観点〉

- ・テキストからの抜き出しではなく、自分なりに課題を理解してまとめられ、十分な考察がなされていること。
- ・用語について正しい定義づけが示されていること。
- ・誤字・脱字がなく、文意が明確であること。
- ・課題に対する解答となっていること。
- ・インターネットなども含む他者の知見や意見を盗用した場合、評価はDとします。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の書籍を引用した時には、著者名（出版年）「本のタイトル」出版社名をレポート末に示してください。

第2分冊 〈略題〉「勤勉性」と自己効力感 3-6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学童期の発達課題である「勤勉性 対 劣等感」について説明しなさい。また、「自己効力感」についても説明し、これを獲得するために必要な教員の声掛けについて、考察をしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・エリクソン理論における「勤勉性 対 劣等感」はテキストだけではなく、参考資料や教育心理学のテキストなどをもとに学習を深めたうえで説明できるとより良い（理解が深まるため）。
- ・自尊心については、自己の行動の評価の観点から、教員ができることとは何かを考えることができると望ましいと考えます。

〈評価の観点〉

- ・テキストからの抜き出しではなく、自分なりに課題を理解してまとめられており、十分な考察がなされていること。
- ・用語について正しい定義づけがなされていること。
- ・誤字・脱字がなく、文意が明確であること。
- ・課題に対する解答となっていること。
- ・インターネットなども含めた他者の知見や意見を盗用した場合、評価はDとします。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の書籍を引用した時には、著者名（出版年）「本のタイトル」出版社名をレポート末に示してください。

参考文献

内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房、2008
 繁多進編『子育て支援に活かす心理学 実践のための基礎知識』新曜社、2009
 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013
 松井 豊・櫻井 茂男・佐藤 有耕『スタンダード発達心理学（ライブラリスタンダード心理学）』サイエンス社、2013
 桜井茂男・濱口佳和・向井隆代『新版 子どものこころ 児童心理学入門』有斐閣アルマ、2014
 坂上 裕子・山口 智子・林 創・中間 玲子『問いからはじめる発達心理学』有斐閣ストゥディア、2014

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験においては、子どもの発達に関する概念・用語の説明と、発達に関するテーマを概観したり、事例をもとに見方や考え方を問う問題を出題する。
- ・発達に関する概念や用語などの定義をただ写すのではなく、他の類似する概念とのつながりや比較、発達における変化などについてもまとまりをもって説明できることが望ましい。特に、発達理論については各期についての理解はもちろん、それぞれを比較して説明ができるように準備しておくこと。
- ・科目試験の問題はレポート課題の部分から1問は出題するが、それ以外にテキスト全体を範囲とする問題も出題する。学修テーマや課題についても十分な準備をしたうえで臨むこと。
- ・科目試験時、箇条書きでの解答や定義だけを羅列しただけの解答では十分な評価をすることができません。必ず文章で解答すること。

教員からの
メッセージ

- ・用語をバラバラに理解するのではなく、発達の連続性や各事象の関連を意識しながら発達を捉えるようにしましょう。
- ・子どものふるまいの理由についてテキストで学んだことを生かして理解するよう心がけましょう。
- ・自分も子どもであったことを思い出し、“子どもの世界”を考えながら、学習を深めてください。

科目概要	本科目は、社会教育関係職員を目指す人を主な対象としているが、教員を目指す人にも、学んでもらいたい。日本の教育政策や実践は、生涯学習の理念の下で展開され、学校・家庭・地域の連携が不可欠になっているからである。本科目では、テキストのタイトルのとおり、生涯学習の革新性に注目をして、生涯学習の理念と現代社会、生涯学習を支える社会教育、地域コミュニティを創る協働、専門性の育成とイノベーションについて考察してゆく。
主な到達目標	・生涯学習論の革新性や現代的意義について、生涯発達論や海外の生涯学習政策などを踏まえた説明ができる。 ・社会教育の本質・学校教育との違い・社会教育行政の役割について、法令などに基づく説明ができる。 ・地域コミュニティを創る協働の意義と課題について、公民館の役割や市民活動等の展開を踏まえた説明ができる。 ・専門性の育成の意義と課題について、リカレント教育や大学開放、また社会的評価の観点から説明できる。
テキスト学修の留意点	生涯学習の意義や課題を机上の理論として学ぶよりも、自らの人生や学習のあり方に引き付けた考察をしてほしい。大学の勉強では、学んだことに基づき、何を考えられるかが問われる。新聞等で報道される社会的課題を踏まえて、自らの人生のみならず、組織や社会のイノベーションについて、自らの考えを論理的に語れる人になってくれることを期待する。

	学修テーマ	課 題
1	生涯学習の理念	ラングランが説く「生涯教育論」の特徴とその先見性は何か。 また、孔子等の古典的生涯学習論と、今日の生涯学習の理念の違いは何か。
2	生涯学習の改革論的視点	生涯教育論／生涯学習論における改革論的視点や課題は何か。 また、ユネスコや日本において、生涯教育論から生涯学習論へと転換したきっかけや理由は何か。
3	生涯発達と生涯学習	ハヴィガーストなどの生涯発達論の特徴と課題は何か。 今日の日本社会で求められている力は何か。また、「発達観の脱構築」とは何か。
4	海外の生涯学習	教育を受ける権利という観点から、生涯学習論の意義を説明できるか。 ヨーロッパやアジアにおける生涯学習の動向から日本の生涯学習への示唆を説明できるか。
5	社会教育の本質	社会教育の特徴について、歴史・法律に基づいて説明できるか。 特に、戦前と戦後の社会教育の理念の違いを、その課題も含めて説明できるか。
6	社会教育の固有性と実践	生涯学習と社会教育の違いや、社会教育と学校教育の違いは何か。 社会教育の主な対象である成人の学習者の特徴は何か。
7	社会教育行政	社会教育行政のコンセプトを、具体例を含めて説明できるか。 社会教育行政の構造、計画、専門職員について、説明できるか。
8	専門施設としての図書館と博物館	社会教育施設の特徴について、設置数の動向も含めて説明できるか。 図書館や博物館の機能と現代的意義は何か。
9	公民館の役割と展開	公民館について、その目的・教育の特徴・運営・禁止事項などに基づいて説明できるか。 また、コミュニティ学習センターとは何か。
10	ボランティア活動と市民活動	ボランティア観の転換とは何か。ボランティア活動や市民活動における学習機会としての意義や課題について説明できるか。
11	学校・家庭・地域の連携協力	学校・家庭・地域の連携協力が唱えられるようになった背景は何か。 また、連携協力を推進する為の3つの政策や、コーディネーターの必要性を説明できるか。
12	協働とネットワーク	「新しい公共」を実現するガバナンス構造について説明できるか。 「現代的課題」とその解決に向けた展望を説明できるか。
13	リカレント教育の理論と実践	「リカレント教育」の意義と課題は何か。 「リカレント教育」が経済格差を生むメカニズムを内包する理由や展望を説明できるか。
14	大学開放と社会人教育	「大学開放に関する書簡」とは何か。 日本と欧米の大学開放の特徴を説明できるか。
15	学習成果の社会的評価	学習成果を適切に評価する社会にならない理由や、ヨーロッパにおける評価制度の意義を説明できるか。

シラバス執筆：中村 香

レポート課題

第1分冊 中村 香・高梨 宏子

第2分冊 中村 香

第1分冊 〈略題〉社会教育 第1部、第2部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第1部と第2部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、社会教育について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①論点を絞り、筋を通すために、冒頭に副題を置き、導入（本稿の目的や構成等）を書くこと。
- ②主観的な文章にならないように、テキストに基づく説明をしたうえで、あなたの考えを論述すること。
- ③テキストから3か所以上の引用をすること。
- ④接続詞のみで文章を繋げることがないように、段落間の繋がりが（文章の構造）を意識して論ずること。
- ⑤本科目のレポート作成にあたっての文献の用い方は、『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

〈評価の観点〉

- ①現代社会における生涯学習や社会教育の意義や課題を理解しているか。
新聞などで現代社会に関する関心を高めたいと、現代社会と学びの関係を考えて欲しい。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

- ①レポートを提出する前に、よく確認をすること。
- ②文献の載せ方は学会によって異なるため、唯一の正解があるわけではないが、本科目のレポートの書き方は『学修指導書』に載せてあるので、その通りに書くこと。

第2分冊 〈略題〉学習と社会 第3部、第4部

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキストの第3部と第4部に基づき、レポートの冒頭にレポートの内容を端的に示すタイトルを置き、テキストから3か所以上の引用をして、学習と社会について、現代社会の状況や自らの経験も織り交ぜながら論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1分冊の「レポート作成にあたっての留意事項」を参照すること。
テキストから3か所以上引用することを、忘れないように。

〈評価の観点〉

- ①『生涯学習のイノベーション』のテキストでの学び（特に第3部と第4部）に基づき、学習と社会について自らの考えを論述できているか。
- ②レポートの基本的な書き方を修得しているか。
引用と要約の違いを理解し、上手に使い分けているか。
専門用語や著者の考えを引用した後に、地の文章を繋げているか。
- ③1本のレポートとしての筋が通っているか。
テキストの内容を踏まえた自分の考えを、論拠を示しながら構造的に論述できているか。

〈その他の注意点〉

第1分冊の「その他の注意点」を参照すること。

参考文献

.....
 テキストの各章末に「より深く学習するための参考文献や資料」が載っているので、それらを参考に、学びを深めてほしい。
 また、第40回全国公民館研究集会で行われた池上彰氏による「民主主義と公民館運動」というテーマの特別講義（短縮版、約15分）は、現代社会における社会教育の意義についての示唆に富むと思うので、見てみてください。
<https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=3Qb1QUVMZ74> }

科目試験等への
アドバイス

.....
 試験では、テキスト学修に基づく考えを、論理的に記述できているかどうかを評価する。採点していると、テキストの内容を踏まえずに自分の考えのみを述べているものが散見される。試験問題をよく読み、学んだことの羅列にならないように構成も考えて記述すること。
 文献を参照した場合には、剽窃にならないように必要事項を書かないと合格点には至らない。

教員からの
メッセージ

.....
 通信教育課程には、社会教育関係職員として、実際に地域の社会教育を担っている方が多い。生涯学習について、机上の理論として学ぶのではなく、自らの経験や実践に引き付けた考察をし、“自分にとって大事なことは何か”、“仕事に生かせることは無いのか”という実践的な視点で、考察を深めてもらいたい。

科目概要	本科目では、古代から近代までの日本教育史について学ぶことで、過去の人々の教育観や人間形成の特色を理解し、教師として今後の学校教育について考えるための基礎的な知見を得る。
主な到達目標	・各時代の教育機関や教育思想の概略を理解する。 ・各時代の文化や社会生活について、その特色を特に日本人の精神性と関連付けて理解する。 ・各時代の文化や社会生活について教育的観点から分析し、その根底に窺える教育観や、これらが当時の人々の人間形成に果たした役割を理解し、自分の言葉で説明することができる。
テキスト学修の留意点	・各回の課題について、テキストの該当箇所を熟読する。 ・テキストの本文を読み終えたら、学習指導書の要旨と解説を参考に、研究問題について自分の意見をまとめる。 ・最後に、テキストの内容を振り返りながら、下記の各回の課題について自分の意見をまとめ、他者に説明できるようにする。

	学修テーマ	課 題
1	古代の教育 (1)	神に祀られた人々や言霊信仰の特質、日本人の外来文化摂取の姿勢、「聖徳太子」の人間観、万葉の心と人の真心との関係を説明できるようにする。
2	古代の教育 (2)	最澄と空海の仏教改革の特質、平安時代の日記文学、説話文学、「かるた」、「うたあわせ」等、空也や源信の事績や年中行事について、教育的観点から説明できるようにする。
3	中世の教育 (1)	法然、親鸞の思想、室町時代の民衆生活や庶民文化、中世仏教、末法思想について説明できるようにする。
4	中世の教育 (2)	武士の「稽古」の意義と「型」の重要性、金沢文庫、足利学校、曹洞宗の寺院や一休宗純について説明できるようにする。
5	近世の教育 (1)	徳川幕府の文治政策と儒教文化について説明できるようにする。
6	近世の教育 (2)	寺小屋、私塾、幕藩の官学・藩校、郷学について説明できるようにする。
7	近代の教育 (1)	文明開化の意味、フルベッキの業績について説明できるようにする。
8	近代の教育 (2)	学制の理念について説明できるようにする。
9	近代の教育 (3)	教育令、教学大旨について説明できるようにする。
10	近代の教育 (4)	ヘルバルトの教育思想、教育勅語について説明できるようにする。
11	近代の教育 (5)	学校令時代の教育の特徴について説明できるようにする。
12	近代の教育 (6)	クラーク博士、ミッション・スクール、新島襄について説明できるようにする。
13	近代の教育 (7)	岡倉天心、内村鑑三について説明できるようにする。
14	近代の教育 (8)	エレン・ケイ、ジョン・デューイ、社会教育について説明できるようにする。
15	戦後の教育	戦後の教育改革の特徴について説明できるようにする。

シラバス執筆：奥野 武志

レポート課題

第1分冊 林 英一

第2分冊 林 英一

第1分冊 〈略題〉日本教育史上の重要人物 テキスト第1～4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日本の教育の発展に影響を与えた人物をひとり取り上げて、その功績を論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

・テキストを熟読し、その内容をよく理解すること。

〈評価の観点〉

- ①具体的な事例を取り上げ、その概要を分かりやすくまとめているか。
- ②①で取り上げた事例について、その特色と意義を自分なりに分析しているか。
- ③論理構成が整っているか。
- ④レポートとしての形式を満たしているか。
- ⑤テキストの内容を要約したのみのレポートは再提出とする。必ず、②の考察の部分を丹念に記述すること。テキストの要約が主で考察が少ない場合も、低い評価を付けるので注意。

〈その他の注意点〉

・レポートの作成にあたっては、「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」をよく確認すること。特にテキストを要約しただけのレポートは低い評価となるので注意。

第2分冊 〈略題〉日本教育史上の画期的事件 テキスト第1～4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日本教育史を転換させる契機となった出来事をひとつ取り上げて、その意義を論ぜよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

・テキストを熟読し、その内容をよく理解すること。

〈評価の観点〉

- ①具体的な事例を取り上げ、その概要を分かりやすくまとめているか。
- ②①で取り上げた事例について、その特色と意義を自分なりに分析しているか。
- ③論理構成が整っているか。
- ④レポートとしての形式を満たしているか。
- ⑤テキストの内容を要約したのみのレポートは再提出とする。必ず、②の考察の部分を丹念に記述すること。テキストの要約が主で考察が少ない場合も、低い評価を付けるので注意。

〈その他の注意点〉

・レポートの作成にあたっては、「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」をよく確認すること。特にテキストを要約しただけのレポートは低い評価となるので注意。

参考文献

- ・石川松太郎編『日本教育史』玉川大学出版部、1987、ISBN 978-4472069710
- ・その他、テキスト内で紹介されている参考文献を参照。

科目試験等への
アドバイス

- ・本科目では、古代から近代の人々の生活に顕れた教育観や人間形成の特色を取り上げている。これらの点について、特に重点的に学習を深めておくこと。

教員からの
メッセージ

- ・教育史を学ぶためには、単に教育の歴史のみを考えるのではなく、それらの教育が求められた社会的な背景を考えることが大切である。テキストに書かれた内容のみではなく、古代から近代の日本の歴史について幅広く自主学習を進めると、理解が深まる。
- ・テキストの内容を理解するのみではなく、現代の教育と比較したり、現代との連続性や非連続性を考えたりすると学習がより深まる。過去の事績を学ぶだけでなく、過去の教育から現代の教育や未来の教育を考えることが教育史を学ぶひとつの意義であることを念頭に置きながら学んでほしい。

科目概要	○西洋における古代から中世に至る教育の歴史について、その時代を特徴づけることがらやその時代における代表的な人物などに注目しながら通観する。また、そのことを通して、現代における教育のさまざまなことがらについての興味・関心を深め、教育の歴史を学ぶことの意義を明らかにする。
主な到達目標	○古代の教育について、その特徴と思想、主な人物について、自分のことばで説明することができる。 ○中世の教育について、その特徴と思想、主な人物について、自分のことばで説明することができる。 ○古代から中世における教育の歴史について、現代の教育との関連において、考察することができる。
テキスト学修の留意点	○ただ単にテキストを読むだけではなく、このシラバスに示された課題を意識し、ノートを取りながら学習を進めることは、自らの理解を助けることはもちろん、レポートならびに科目試験においても、十分に役立つものとなるでしょう。

	学修テーマ	課 題
1	ギリシアの教育 (1)	・ギリシア精神とはどのようなものかを簡潔にまとめなさい。 ・古代ギリシアの時代区分にはどのようなものがあるか示しなさい。 ・ホメロス時代の特徴と思想、主な人物について、まとめなさい。
2	ギリシアの教育 (2)	・ポリス時代の特徴と思想について、下記の観点から明らかにしなさい。 ①スパルタの思想とその特徴 ②イオニアの思想とその特徴
3	ギリシアの教育 (3)	・ポリス時代の特徴と思想について、下記の観点から明らかにしなさい。 ①古アテナイの思想とその特徴 ②新アテナイの思想とその特徴
4	ギリシアの教育 (4)	・ポリス時代の教育思想について、下記の人物を中心にまとめなさい。 ①プロタゴラス ②ゴルギアス ③ソクラテス ④プラトン ⑤イソクラテス ⑥アリストテレス
5	ギリシアの教育 (5)	・ヘレニズム時代の特徴と思想、主な人物について、まとめなさい。
6	ローマの教育	・ローマの教育の性格をギリシアの教育との関連から考察しなさい。 ・ローマの教育思想について、下記の人物を中心にまとめなさい。 ①カトー ②キケロ ③ワルロ ④セネカ ⑤クインティリアヌス ⑥ブルタルコス
7	中世の時代性格	・中世の時代性格を古代ならびに近代との関連から明らかにしなさい。 ・中世の起点ならびに中世教育史の起点について、論じなさい。
8	中世の黎明 (1)	・旧約聖書にあらわれたイスラエルの思想について、まとめなさい。 ・イスラエルの教育について、明らかにしなさい。 ・イスラエルの学校制度について、簡潔にまとめなさい。
9	中世の黎明 (2)	・キリスト教が誕生した背景を明らかにしなさい。 ・イエス・キリストの生涯と思想について、まとめなさい。
10	中世前期の教育 (1)	・代表的なキリスト教文書について指摘し、その概要を説明しなさい。 ・信徒一般に対するキリスト教教育について、入信者学校の発達と衰退との関連において、明らかにしなさい。
11	中世前期の教育 (2)	・キリスト教信仰と異教文化の関係について、考察しなさい。 ・カテケティカル・スクールにおける教育について、明らかにしなさい。 ・修道院と教育との関連について、明らかにしなさい。
12	中世後期の教育 (1)	・中世の「世界」について、古代ローマの西洋との関連において、明らかにしなさい。 ・中世後期を特徴づける「言から象徴へ」の変化について、具体的に示しなさい。
13	中世後期の教育 (2)	・中世後期の世俗生活への教育について、下記の観点からまとめなさい。 ①世俗の意味 ②騎士の教育 ③女子の教育
14	中世後期の教育 (3)	・中世における4つの学芸復興について、まとめなさい。 ・信仰と理性の関係について、明らかにしなさい。
15	まとめ	・古代の教育について、簡潔に説明しなさい。 ・中世の教育について、簡潔に説明しなさい。 ・これまでの学習を振り返り、教育の歴史を学ぶことの意義について、考察しなさい。

シラバス執筆：山口 圭介

レポート課題

第1分冊 山口 圭介

第2分冊 山口 圭介

第1分冊 〈略題〉ギリシアとローマの家庭教育 テキスト第1章-第2章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ギリシアの教育とローマの教育とを、家庭教育という視点から比較し、各々の特徴を明らかにしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

○次の2点について対応できていない場合には、内容にかかわらず、再提出となります。

1. 文末には、註及び参考文献を正しい仕方では明記すること。(註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、F評価となります。)
2. 誤字・脱字、段落の構成など、書き方が乱雑にならないようにすること。

〈評価の観点〉

1. 表記上のルールが守られているか。
2. 一つひとつの文章や段落の設け方が適切であるか。
3. 全体のまとまりがある文章が書けているか。
4. 課題に対する解答が明確に示されているか。
5. 作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

○テキストをはじめとする文献等に表示された「事実」と自己の「意見」とを明確に区別できる書き方を心がけてください。

第2分冊 〈略題〉入信者学校の歴史 テキスト第3章-第6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

入信者学校の起源・発達・消滅の歴史について、具体的にまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

○次の2点について対応できていない場合には、内容にかかわらず、再提出となります。

1. 文末には、註及び参考文献を正しい仕方では明記すること。(註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、F評価となります。)
2. 誤字・脱字、段落の構成など、書き方が乱雑にならないようにすること。

〈評価の観点〉

1. 表記上のルールが守られているか。
2. 一つひとつの文章や段落の設け方が適切であるか。
3. 全体のまとまりがある文章が書けているか。
4. 課題に対する解答が明確に示されているか。
5. 作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

○テキストをはじめとする文献等に表示された「事実」と自己の「意見」とを明確に区別できる書き方を心がけてください。

参考文献

○テキスト巻末に記載された参考文献を参照してください。

科目試験等への
アドバイス

○科目試験では、次の3つのことがらが求められます。

1. シラバスに示された課題への取り組みの成果
2. それぞれの時代における教育を語るために不可欠となることがらの理解
3. 教育史における主要な人物についての理解

○なお、科目試験の配点の目安は、1. が60%、2. が20%、3. が20%です。したがって、1. については、相応の記述の分量が求められます。

○それゆえにまず、テキストの節や項目として示されている事項、さらにはテキストに太字で示されていることがらや人物などについて、自分のことばで体系的に説明することができるよう学習を進めてください。

○また、テキストの巻末に索引として示されていることがらや人物などについて、これらをいわゆる5W1Hの観点から、簡潔に説明できるようにしておくといでしょう。

教員からの
メッセージ

○上述した「テキスト学修の留意点」ならびに「科目試験等へのアドバイス」にしたがい、このシラバスに沿った学修をていねいに行うことが重要です。

○一度ですべてを頭に入れようとするのではなく、何度も繰り返しテキストを読み込むことが、効果的な学習方法です。頑張ってください。

科目概要	教育現象を社会学の視点から読み解くのが教育社会学である。「～すべき」「～であるべき」という規範的な考え方をいったん捨てて、実際はどうなっているのかという事実に着目することで、教育に関する問題をより幅広い視野から考え直す力を身につけることができる。この科目では、学歴社会、いじめ、教育格差、地域の教育力、ジェンダーといったテーマを取り扱う。
主な到達目標	・「～すべき」「～であるべき」という規範的な視点ではなく、実際はどうなっているのかという事実に着目するという立場から教育現象を観察し、論じることができるようになる。 ・教育社会学の基本概念について習熟し、説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・テキストの内容をまずは理解して欲しい。 ・参考文献も積極的に参照すること。 ・教育社会学は、教育学の中でも独特の視点や方法論を有しているので、教育学の他の科目のテキストの内容を参考にしても、レポートや試験における解答にはならないことが多い。注意されたい。 ・教育社会学も含めて社会学は「近代社会」という用語をよく利用する。その意味を考えながらテキストを読むと、見通しがよくなることがある。

	学修テーマ	課 題
1	学歴社会の基本理念	・急速な高学歴化の背景について ・学歴社会を支える理念について ・日本はどのようにして〈学歴社会＝能力（業績）社会〉へと転換したのか
2	エリートの近代化	・学歴社会の経済的側面 ・日本社会におけるエリートの構成 ・学歴社会は能力（業績）社会なのか
3	学力論の展開	・ゆとり教育と「学力低下」論の構造 ・日本の学歴社会に変化は起きるか
4	「いじめ」を捉える視点	・ネットいじめの実態 ・いじめを捉える視点 ・「ぼっち」化する若者と「つながる力」
5	子どもの貧困と教育支援	・子どもの貧困の実態 ・貧困とは何か ・子どもの貧困対策と教育支援
6	少年非行と学校教育	・少年非行の現状 ・少年非行に対する社会的アプローチ ・少年非行と教育支援
7	リスク社会における教育格差	・リスク社会とは ・教育をめぐる格差問題 ・教育政策における教育投資の捉え方
8	マイノリティと多文化教育	・マイノリティの学力問題 ・学力問題を捉える視点 ・頑張る学校のジレンマ
9	学校危機管理	・学校におけるリスクと危機管理 ・学校安全の実現に向けた包括的な取り組み ・学校危機管理の取り組み事例とその問題点
10	学校における多職種協働の理念と教員の役割	・「チーム」としての学校 ・専門職の職業的境界に関わる議論 ・多職種協働のための制度づくり
11	地域社会と教育	・地域の教育力の低下 ・子どもの社会化と地域 ・地域におけるソーシャル・キャピタル
12	「地域の教育力」とは	・子どもの成長を支える地域社会 ・「地域の教育力」とは ・子どもの自己肯定感と地域の力
13	ジェンダーと教育	・教育分野のジェンダー・ギャップ指数 ・各分野におけるジェンダー・ギャップ ・学校文化とジェンダーの再生産機能
14	カリキュラム改革の社会学	・新学習指導要領と授業・入試 ・カリキュラム・マネジメントと学校責任論 ・カリキュラム改革と教育格差
15	学修のまとめ	・各章のまとめ ・各章の「学習の課題」の解決

レポート課題

第1分冊 藤村 朝子

第2分冊 藤村 朝子

第1分冊 〈略題〉「不登校」と教育社会学 第1分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

①「不登校」の定義と現状について、様々な文献やデータを調べてまとめ、②「不登校」に関する教育社会的な見方を複数示した上で、現時点での問題点や支援策について整理し自身の考えを論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にすることも必ず注を付記すること。
無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

第2分冊 〈略題〉学校教育と地域連携 第2分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト p.193 「学習の課題」(3) の「子どもの自己肯定感やレジリエンスを高めしていくために、学校と地域がどのように連携・協働していけばよいのか考えてみよう」という課題について、テキストや参考文献の内容をふまえた上で自身の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にすることも必ず注を付記すること。
無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

参考文献

耳塚宏明他『平等の教育社会学』勁草書房、2019年
 岩永雅也『教育社会学概論』放送大学教育振興会、2019年
 高橋均編『想像力を拓く教育社会学』東洋館出版社、2019年
 油布佐和子編『教育と社会』学文社、2021年
 中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房、2021年

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、論述が1-2問、用語説明が1問（いくつかの用語から2-3つの用語を選択して説明）である。
- ・テキスト中の「学習の課題」に書かれている問いに対して答えられるよう、自学自習を済ませておくこと。

教員からの
メッセージ

- ・「～するべき」「～であるべき」という考えばかりをしていると、そうした規範どおりに行動しない人たちの理解が十分にできなくなるおそれがある。この科目の学習を通じて、幅広い視野を身につけ、規範や常識にとらわれないより洗練されたものの見方・議論の仕方を身につけて欲しい。
- ・関連科目として、(コア)社会学や社会学Ⅰ・Ⅱがある。それらの科目の理解があると、この科目の理解も容易になるであろう。

科目概要	教育現象を社会学の視点から読み解くのが教育社会学である。「～すべき」「～であるべき」という規範的な考え方をいったん捨てて、実際はどうなっているのかという事実に着目することで、教育に関する問題をより幅広い視野から考え直す力を身につけることができる。この科目では、不登校、家庭教育、幼児教育といったテーマを取り扱う。
主な到達目標	・「～すべき」「～であるべき」という規範的な視点ではなく、実際はどうなっているのかという事実に着目するという立場から教育現象を観察し、論じることができるようになる。 ・教育社会学の基本概念について習熟し、説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・テキストの内容をまずは理解して欲しい。 ・参考文献も積極的に参照すること。 ・教育社会学は、教育学の中でも独特の視点や方法論を有しているので、教育学の他の科目のテキストの内容を参考にしても、レポートや試験における解答にはならないことが多い。注意されたい。 ・教育社会学も含めて社会学は「近代社会」という用語をよく利用する。その意味を考えながらテキストを読むと、見通しがよくなることがある。

	学修テーマ	課 題
1	「不登校」の社会学	・「不登校」とは何か ・「不登校」「長期欠席」「学校に行かない子ども」
2	「不登校」の歴史と国際比較	・構築主義という視点 ・日本では「不登校」がどのように捉えられてきたのか ・米英の長期欠席問題と児童労働
3	「不登校」問題へのアプローチ	・教育臨床の社会学 ・ナラティブ・アプローチ ・カウンセリング・マインド
4	「不登校」に対する支援策	・日本における現状 ・米英の支援策
5	少年非行問題	・少年非行の推移 ・少年非行のメカニズム ・暗数
6	いじめ問題	・いじめ集団の四層構造論 ・いじめの定義と構築主義 ・小1プロブレムと中1ギャップ
7	携帯電話・インターネットと教育問題	・生徒の問題行動と携帯電話・インターネット ・仲間集団
8	教育問題の社会学的考察	・不登校数ばかりが報じられ長期欠席数が報じられないのはなぜか ・昭和28(1953)年度教育白書を読み、当時の状況や問題意識を考える ・身近にある教育相談所や教育支援センター(適応指導教室)について調べる
9	社会化・しつけ・家庭教育	・社会化としつけ ・家庭の教育力
10	家庭教育の社会学的考察	・人間はなぜ家族の中で育つことが必要なのだろうか ・家族や親が子ども育てることは、社会化とどう関係するのか ・家庭の教育力が低下しているという説が頻繁に言われるのはなぜか
11	幼児教育と早期教育	・幼稚園と保育園 ・早期教育が生み出す問題
12	早期教育の社会学的考察	・義務教育開始年齢を1年早めるとどうなるか ・早期教育は親と子にどのような問題をもたらすか ・子どもの地位達成が親の財を背景とする願望に影響されているか
13	子育て支援と児童虐待	・子育て支援と育児産業 ・育児不安と児童虐待
14	幼児教育の産業化	・子育てが産業化する背景は何か ・自分の市区町村ではどのような子育て支援が行われているか ・教育家族とは何か、今後どうなっていくか
15	幼児教育の社会学	・家族と社会化／社会階級と言語コード／みえない教育方法 ・社会階層と家庭教育／ペアレントクラシー／解釈的アプローチ

レポート課題

第1分冊 藤村 朝子

第2分冊 藤村 朝子

第1分冊 〈略題〉構築主義の理解 第1分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ニートという社会問題を、構築主義の立場から説明せよ。なお、説明する際には、①ニートは一般的にはどのような問題だと論じられているか、②一般的な論じ方だとどのような点が見落とされてしまっているのか、の2点について必ず言及せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にする際も必ず注を付記すること。無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

第2分冊 〈略題〉家庭教育・幼児教育の理解 第2分冊

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- テキスト 119 頁 Think Yourself の 2 つめに関連して、以下の 2 点について述べよ。
- (1) あなたが住んでいる市区町村ではどのような子育て支援が行われているのかを調べ、まとめよ。
 - (2) 今後どのような支援が必要であるかについて、その理由とともに述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教育社会学の特徴をきちんと理解した上で、設問に答えること。
- ②使用テキスト以外の他文献を積極的に活用すること。
- ③文献を引用する際も参考にする際も必ず注を付記すること。無断引用、参考は採点しない。
- ④テキストの内容を丸写しにせず、テキスト内の該当すると思われる部分を、問題に沿って自分の言葉で言い換えて述べること。
- ⑤難解な専門用語は自分なりに積極的に言い換えること。
- ⑥「」で括った引用は、必ずもう一度自分の言葉で説明し直すこと。
- ⑦誤字、脱字のないように。

〈評価の観点〉

採点の際に内容面で見ているのは問に対する適切な答えになっているかどうか、です。問と関係のないことを書き並べても合格にはなりません。何を聞かれているのか、よく考えてから解答して下さい。形式面では、参考文献・引用文献の取り扱いルールを厳守して下さい。

〈その他の注意点〉

Web TAMA でダウンロードできる Word のテンプレートを使用すること。

参考文献

新堀通也・加野芳正『教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
 森岡清美他編『新社会学辞典』有斐閣
 新堀通也・加野芳正『教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
 森岡清美他編『新社会学辞典』有斐閣
 加野芳正ほか編著『新説教育社会学』玉川大学教職専門シリーズ、玉川大学出版部
 志水宏吉『公立学校の底力』ちくま新書
 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、論述が 1-2 問、用語説明が 1 問（いくつかの用語から 2-3 つの用語を選択して説明）である。
- ・テキスト中の Think Yourself に書かれている問いに対して答えられるよう、自学自習を済ませておくこと。
- ・pp.293-299 のキーワード解説については、よく理解をしておくこと。

教員からの
メッセージ

- ・「～すべき」「～であるべき」という考えばかりをしていると、そうした規範どおりに行動しない人たちの理解が十分にできなくなるおそれがある。この科目の学習を通じて、幅広い視野を身につけ、規範や常識にとらわれないより洗練されたものの見方・議論の仕方を身につけて欲しい。
- ・関連科目として、(コア) 社会学や社会学Ⅰ・Ⅱがある。それらの科目の理解があると、この科目の理解も容易になるであろう。

科目概要	本科目では、学校教育にかかわる制度的・行政的側面を中心に、教育行政の理念・組織・機能・仕組み、また学校・家庭・地域の教育連携やグローバル化時代の教育改革について学習する。
主な到達目標	主として、①日本の教育制度の原理・教育行政、学校制度と学校の管理運営・現代日本の学校制度の仕組み、②学校・家庭・地域の教育連携、③グローバル化時代の教育改革に関する知識を修得し、それをもとに学校現場で見られる諸問題の解決の糸口について自分の考えをもつ。
テキスト学修の留意点	本科目の学習は、「学校制度と社会 / 教育の制度と経営」で学習する「戦後教育改革」といった内容とも大きく関連する。これらについての学習は、本科目の理解を深めることに大いに役立つので、是非しっかり学習してほしい（テキスト『学校教育制度概論』（通大テキスト））。また、本科目の学習では、教育基本法等の教育法令が多く登場する。下記の参考文献を参照しながら、各条文をその都度確認しながら理解を深めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	日本の教育制度の原理	【「公」の教育】すべての人々に対して国家による公的な関与がなされる三つの理由とは何か。【教育の義務性・無償性・機会均等】教育の義務性と無償性とは何を意味し、その法的根拠は何か。
2	教育行政と教育経営	【日本の教育行政のしくみ】国の教育行政組織と地方の教育行政組織とは何か、及び教育行政の三つの作用とは何か。【教育の経営】教育における経営的発想の導入の必要性和重要性とは何か。
3	学校制度と学校の管理運営(1)	【学校の種類】いわゆる1条校とそれ以外の学校を法的根拠を示し説明せよ。
4	学校制度と学校の管理運営(2)	【学校の設置と管理運営】学校の設置者管理の原則、及び設置者負担の原則を法的根拠を示し、説明せよ。【社会変化と学校制度の改革】学校統廃合と学校の多様化を説明し、かつそれらが進行する理由を述べよ。
5	児童生徒の就学と管理	【就学校決定のしくみ】市町村による就学校指定と障害のある子どもの就学を説明せよ。【児童生徒の在学管理】児童生徒への懲戒について法的根拠を示し、説明せよ。
6	教職員の人事管理	【教員の資格と採用】教員の採用が「競争試験」によってではなく「選考」によって行うことになっている理由を説明せよ。【教員の服務規程】教員の服務の内容を職業上と身分上に分けて説明せよ。【教員の人事管理の今日的課題】教員の人事管理をめぐる今日的課題を説明せよ。
7	教育内容・教育課程	【教育課程行政の制度】学習指導要領が如何にして学校のエデュケーション活動に定着していくのかを説明せよ。【学校における教育課程の編成・実施】各学校ではどのように教育課程が編成・展開・改善されるのかについて説明せよ。
8	学校組織論	【学校組織システム】離散モデル、統制モデル、分散モデルを説明せよ。【分散モデルに適したリーダーシップ】サーバント・リーダーシップを説明せよ。
9	学級・学年組織論	【学級の組織特性】学級の組織特性を説明せよ。【授業と学級 / 学年経営】子どもを「学修する主体」へと変容させるために教師がすべきことは何か。
10	教師の成長と研修	【教師に求められる資質能力】教師に求められる資質能力について、答申に基づき、説明せよ。【教師の成長プロセスと研修】教員の研修にはどんなものがあるか、説明せよ。
11	学校評価と学校改善	【学校評価の仕組みを理解する】学校評価の評価主体と目的を説明せよ。【学校評価の実施形態を理解する】自己評価、学校関係者評価、第三者評価をそれぞれ説明せよ。
12	学校・家庭・地域の教育連携	【教育の場（分野）は学校（教育）だけではない】社会教育とは何かについて説明せよ。【学校教育と社会教育の連携・協力】学社連から学社融合とはどのようなことを指すのかを説明せよ。また、地域教育経営とは何で、それは何を指そうとしているのかを説明せよ。
13	学校と家庭、地域との連携	【学校と家庭、地域との連携の歴史的変遷とその目的】学校と家庭、地域との連携はなぜ必要なのか。【連携に関する諸制度】連携に関する諸制度にはどのような制度があるのかについて説明せよ。
14	グローバル化時代の教育問題	【子どもたちの「学力」】グローバル化時代において必要とされる子どもたちの「学力」とはどのような「学力」なのかを説明せよ。【学校や教師ができること】グローバル化時代において学校や教師ができることは何かについて、説明せよ。
15	現代教育改革の動向と展望	【「教育立国」の実現に向けて】「教育振興基本計画」とは何で、その計画には重点的に取り組む事項として何が挙げられているかを説明せよ。

シラバス執筆：湯藤 定宗

レポート課題

第 1 分冊 湯藤 定宗

第 2 分冊 湯藤 定宗

第 1 分冊 〈略題〉日本の教育行政のしくみ 第 1 章から第 7 章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

日本の教育行政のしくみを説明せよ。その際、以下のキーワードを必ず入れること。「国の教育行政組織」、「地方的教育行政組織」、「教育委員会」、「教育課程」、「指導主事」

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストを丁寧に読んだうえで、できるだけ自分の言葉でまとめること。
- ②文献の引用については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。
- ③参考文献も文末に明記すること。
- ④各キーワードには下線を引くこと。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
- ②必要なポイントが網羅されているかどうか。

〈その他の注意点〉

指定されたレポート形式を遵守すること。文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。

第 2 分冊 〈略題〉学校評価と学校改善 第 8 章から第 13 章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学校評価の三つの形態を端的に説明したうえで、学校改善に資する学校評価の意義と課題について言及し、最後に学校評価に関する自身の見解を根拠を示しながら述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストを丁寧に読んだうえで、できるだけ自分の言葉でまとめること。
- ②文献の引用については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。
- ③参考文献も文末に明記すること。
- ④課題内の「根拠」とは、テキストや引用文献・参考文献を用いて示すこと。その際②③に記したように、文献の表記方法についても留意すること。

〈評価の観点〉

- ①自分の言葉で説明（要約）されているかどうか（テキストの丸写しは認めない）。
- ②必要なポイントが網羅されているかどうか。

〈その他の注意点〉

指定されたレポート形式を遵守すること。文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。

参考文献

勝野正章他編『教育小六法』学陽書房、2025 年、

科目試験等への
アドバイス

科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出题する。

教員からの
メッセージ

言葉だけ見ると難解に感じられるかもしれないが、実は学校の日常生活はすべて教育行政につながっている。この科目を通じて、学校のしくみについての理解を深めてほしい。

科目概要	学校を構成する最小単位は学級であり、学級は担任等の指導のもと、児童・生徒相互が切磋琢磨して、社会性や人間性の基礎・基本を身に付けていく場である。しかし、時代の変化とともに、学級をめぐる様々な問題は後を絶たない。それゆえ、学級経営の重要な問題を理解し、それを克服するための考え方や具体的な解決策を学び、教師としての資質・能力を高める。
主な到達目標	○学校現場で、今起きている学級内の様々な問題と問題が起きる要因や背景を関連付けるとともに、問題解決の必要性に結び付けて考えることができる。 ○個々の児童・生徒や学級集団がより高い理想に向かって努力するためには、どのような指導や配慮が必要か、学級担任等指導者としての考えや実践策を具体的に示して、説明できる。 ○学級経営力を培う必要性を理解し、その経営力を高める方法を的確に、効率よく考えることができる。
テキスト学修の留意点	○各章の内容をまとめ、学級担任としての視点で考察を加えて整理する。 ○テキスト中の「学習課題」に示してある問題については、自身の言葉で説明できるように、簡潔にまとめておく。 ○立場を常に学級担任と仮定して、評論ではなく、問題を解決する具体的方策を考える。 ○レポートの作成に際しては、「レポート作成にあたっての留意事項」や「評価の観点」等を遵守する。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 新たな時代の確かな学級経営力	新たな時代における学校教育・学級経営の課題を把握し、その要因の分析や解決のための機能・役割を学ぶ。また、求められる教師像について理解する。
2	第2章 学級経営（1）基本的な考え方	教育活動を円滑に進めるための基本的な考え方と主な内容について理解する。また、児童・生徒の発達段階を踏まえた取り組み方法を学ぶ。
3	（2）教科指導等との関連	生きる力を定着させるために求められている、児童・生徒理解に裏付けされた教師の指導力について学ぶ。また、学級経営上で留意すべき基本的な事項を理解する。
4	（3）保護者との連携・協力	学級経営上欠くことのできない保護者との望ましい連携・協力の必要性について理解する。その理解をもとに、保護者や児童・生徒の願い等を踏まえた効果的な連携の方法と手順を学ぶ。
5	（4）教室環境づくり	児童・生徒に生きる力を定着させるために、学びの核となる学級経営の中で大きなウェイトを占めると言われる教育環境の在り方について理解する。
6	第3章 教員の資質向上（1）教師力の育成	教員に求められる資質やその資質・能力を向上させるための基本事項について考える。また、教員の服務等や玉川大学における教員養成システム等について理解する。
7	（2）研修体系と人事考課制度	児童・生徒が安定した自己開示・相互理解することができる場としての学級が提供できるような教員を育成するための研修制度や人事考課制度について理解する。
8	第4章 経営の進め方（1）児童・生徒理解と学級集団	発達段階に応じた特徴的な発達課題を理解する。また、児童・生徒一人一人の願いを実現し、主体性を育む学級経営の在り方について学ぶ。
9	（2）学習指導等やキャリア教育	玉川教師訓にあるような「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられる」教師に近づくための教師の生き方・あり方と具体的な教育の進め方について考える。
10	（3）学級活動の指導	学級等における諸問題を直接的・具体的に解決するための学級活動を充実する、学級経営の在り方について学ぶ。その理解をもとに、自主的・実践的な児童・生徒の育て方を考える。
11	（4）法に関する教育	裁判員制度の実施等、司法制度の変化を踏まえ、学習指導要領に示された「法に関する教育」について理解する。その上で、法的素養や資質の基礎づくりを進める学級経営の在り方について考える。
12	第5章 指導の工夫（1）特別活動の活用	教師と児童・生徒や児童・生徒同士の好ましい人間関係を醸成するための学級経営の在り方を、特別活動や規範意識等の視点から考える。
13	（2）地域等との連携・協力	信頼関係が築かれた地域等の協力があって、児童・生徒を中心に据えた学級経営ができる。そのための連携の必要性とその実践の在り方を考える。
14	第6章 教師が知っておく教育法規	教師として、知っておかなければならない教育法規について理解を深める。また、日々の学級経営を実践する上で、留意すべきことを教育法規の視点から学ぶ。
15	第7章 教師の問題行動とメンタルヘルス	教師という職としてのモラルについての認識を深めるとともに、服務や問題行動について考え、予防策を学ぶ。また、自分自身を守るためのメンタルヘルスについても理解する。

シラバス執筆：小川 俊哉

レポート課題

第1分冊 小川 俊哉

第2分冊 小川 俊哉

第1分冊 〈略題〉教員の服務と不祥事

理論・法規編—学級経営及び教師の基礎知識

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教員の身分と服務について法令上の位置付けを踏まえ教員のあ
るべき姿をまとめ、教員の不祥事がなぜ起こってしまうのか、
評論でないあなた（論者）の考えを述べなさい。
また、その考えに基づき、あなた（論者）自身が不祥事を起こ
さないために自己研鑽をどのように図るか。特に、児童・生徒
への影響力が大きい学級担任の立場で、学級経営に関わる事例
をいくつか挙げ、方策を具体的に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①教員の身分と服務についてのまとめを基に、論者の主張とそ
の根拠を明確に示すとともに、論者の資質向上に関連付けて、
具体的に論ずる。
- ②教員の不祥事が起こる原因・背景を明らかにするとともに、
児童・生徒への悪影響を考慮した具体的な防止策として、論
者の教育理念に基づき記述する。
- ③テキスト・文献等からの抜粋としての単なる引用にならない
ように、重要度や優先度も考慮し、課題に正対したレポート
として論者の考えを表現する。
- ④課題からぶれないよう、段落分けや小見出し等の工夫により、
読み手を意識して論者の主張を分かり易くまとめる。

〈評価の観点〉

- ①評論ではなく、実践者としての学級担任の立場でまとめられ
ているか。
- ②教員の不祥事を防止することの重要性をおさえ、教育活動を
円滑に進めるための基本的な手法を理解した上での論述に
なっているか。
- ③信頼関係によって築かれる児童・生徒や保護者との連携の重
要性の理解の基に、不祥事を起こさないための自己研鑽の在
り方等を、論者の主体性を生かして表現できているか。
- ④規定の書式及び課題への正対や評価の観点が満たされていな
い場合は、再提出になる。

〈その他の注意点〉

- ①引用文献等は、最後にまとめて必ず明記する。
- ②字数は単なる文字の数ではなく、『1行の文字数（25字）×
行数＋最後の行の文字数』とする。

第2分冊 〈略題〉学習指導・生徒指導と学級経営

実践編—学級づくりの基礎・基本

横書き指定

Word添付

〈課題〉

授業が思うように展開できない、規律が保てない、指導した内
容が定着しない、などの悩みを抱える教員の増加が危惧されて
いる。あなた（論者）は、この現状をどのように捉えているか。
また、その捉えを踏まえ、学習指導・生徒指導と学級経営の関
係を簡潔に示し、指導を充実させるための学級経営の在り方
について、あなた（論者）の考えを視点を明確にして述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①学習指導・生徒指導と学級経営の関係を適切に押さえた、論
者の指導とその根拠を明確に示して、具体的に論ずる。
- ②悩みを抱えた教員増加の原因を明らかにし、その解消のため
の策として、論者の主体性や意欲を生かした具体的な学級経
営に繋げる。
- ③テキスト・文献等からの抜粋としての単なる引用にならない
ように、重要度や優先度も考慮し、課題に正対したレポート
として、論者の考えを表現する。
- ④課題からぶれないよう、段落分けや小見出し等の工夫により、
読み手を意識して、論者の主張をまとめる。

〈評価の観点〉

- ①評論ではなく、実践者としての学級担任の立場で、まとめら
れているか。
- ②教員の悩みを解消するための学級づくりの重要性を認識し、
担任として必要な指導や配慮を、実践者としての論者の考え
で表現できているか。
- ③新学習指導要領の内容等も踏まえ、今日的な学校教育課題の
解決に向けた論者の学級経営力を高めるという視点での論述
になっているか。
- ④規定の書式及び課題への正対や評価の観点が満たされていな
い場合は、再提出になる。

〈その他の注意点〉

- ①引用文献等は、最後にまとめて必ず明記する。
- ②字数は単なる文字の数ではなく、『1行の文字数（25字）×
行数＋最後の行の文字数』とする。

参考文献

テキスト自体の学習が最優先であるが、それだけでなく、新学習指導要領、教育専門書、新聞、雑誌、インターネット等から最新の教育に関する情報を積極的に集め、レポート作成に有効に活用することが重要である。

科目試験等への
アドバイス

- テキストのどの章から出題されるか分からないので、「テキスト学修の留意点」も参考にして、計画的に学習する。
- 解答に必要な文献等の引用文は、必ず、引用した理由や自分なりの考えを加味しつつ、主体性を生かして論述する。
- テキストからの学びは勿論であるが、学級経営に関する「実践事例集」や最新の参考図書を積極的に読むことも大切にする。

教員からの
メッセージ

学級担任としての教師には、児童・生徒の学びの核になる学級を児童・生徒とともに、その主体性を育てつつ創り上げていくことが求められている。学級とは、全ての児童・生徒にとって安全で安心して自己を発揮できる場ではなくてはならない。

それゆえ、理想とする学級の姿や学級を構成する児童・生徒個々の理想像を明確にもつことが大切である。教育の基本となる法例や学習指導要領、実践事例集等から謙虚に学び、自身が目指す学級像を構築するための確かな学級経営力を身に付けていくことを期待している。

科目概要	人間の「生命と性」の概念について、生物学的、社会・文化的観点からとらえ直した上で、現代社会における生命と性の現状や諸問題について理解するとともに、対応のあり方について考察を深める。それらをふまえ、学校だけでなく家庭・社会において、次世代に生命や性をどのように伝えるか、教育のあり方について、理論と実践の両側面から学ぶ。
主な到達目標	人間の生命と性について、人間として生きることの価値や意味といった人格的な側面も含め、多面的・全人的視野で捉えることができる。さらに、生命と性の教育について歴史的変遷や文化的な背景、および外国との比較もふまえ、現状や課題を理解した上で、その望ましいあり方について自ら考察できるようになることを目標とする。これらの学修により、教育者として、次世代に対して生命と性について適切に教育できる資質を身につけることができる。
テキスト学修の留意点	本科目は、学際的な視点が要求されることにその特徴がある。学修者はテキストを熟読することによる内容理解が必須となるが、テキスト講読だけでは内容理解が不十分な場合には、参考文献を利用した学修が必要である。

	学修テーマ	課 題
1	生命と性の概念	生命と性の教育を考えるために、生命とは何か、性に関する概念について理解する。性の概念には、生物学的、心理学的、社会・文化的な視点があること、また、人格的な次元から性をとらえるセクシュアリティという概念についても理解を深める。
2	生と死を考える	なぜ人の命は尊いのかという命題について生命観や死生観を通して考えるとともに、科学・医療技術が生命の誕生や死に介入することについて教育のなかでどのように取り扱うべきかについて、生命倫理の観点から考察を深める。
3	性観念の歴史と現在	歴史的な背景とともに現代社会における国内外の諸調査の結果をもとに、日本人の性観念の特徴について考察する。
4	青少年の性意識・性行動	思春期から青年期にかけての性成熟も含めた身体発育や、性意識や性行動の時代的な変化や現状について、全国的な調査結果をもとに理解を深め、その要因を考察する。
5	性感染症と HIV/AIDS	性感染症について主な疾患の特徴や予防法について理解する。さらに HIV 感染症であるエイズについて、感染状況や感染経路などの特性をふまえ、その予防策について考察する。
6	生命の誕生	生命誕生としての妊娠・出産について、その過程を理解するとともに、生命誕生における性の健康の重要性を考察する。
7	性の健康	生殖過程の健康をリプロダクティブ・ヘルスとしてとらえ、医学的側面や法的根拠をもとに、避妊や人工妊娠中絶、不妊について理解を深める。
8	ライフサイクルと性	人間として生まれ、生涯を終えるまで、ライフサイクルの視点から、生命と性のあり方について発達段階や発達課題の視点をふまえながら考える。
9	性の多様性	他の生物も含めた性の成り立ちとともに、人間の性の多様性について理解し、教育における性のとらえ方を考察する。
10	生命の操作	不妊治療や出生前検査などの生殖補助医療技術の現状や実施条件などを確認し、倫理的な課題について考察する。
11	次世代育成	少子化が進む社会の現状や要因を理解し、子育て支援や次世代育成のあり方について考察を深める。
12	生命と性の教育の歴史	明治以降の性教育の歴史や、第二次世界大戦後の文部科学省の性に関する教育のとりえ方の変遷をたどり、学校教育における性教育の位置づけについて考察する。
13	海外における生命と性の教育	国際的な包括的性教育に関する指針や海外の性教育について理解することで、諸外国とわが国との相違点や、それをもたらす社会的・文化的背景について考察する。
14	学校における生命と性の教育	学校における生命と性の教育について、現行の学習指導要領の中で、生命や性に関する事項を教科等の教育課程の中でどのように取り扱うべきか、さらに、教科等横断的な性教育のあり方について理解を深める。
15	生涯を通じた生命と性の教育	学校だけでなく、家庭や地域社会との連携を重視しながら、生涯を通じた生命と性の教育のあり方やその課題について考察する。

シラバス執筆：増田 美恵子

レポート課題

第1分冊 増田 美恵子

第2分冊 増田 美恵子

第1分冊 〈略題〉青少年の性意識・性行動の現状と課題 第1部・第2部・第3部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

わが国の青少年の性意識・性行動の現状を述べた上で、現代の青少年の生と性に関する課題について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト及び参考文献を熟読した上でレポートを作成すること。
- ②引用文献及び参考文献の著者名、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ③インターネットの情報を引用文献・参考文献とする場合は信頼できるサイトのみとし、URL、サイト名、サイト開設者、情報取得日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ①レポート課題を理解してレポートを作成しているか。
 - ②論点を整理してレポートの内容をまとめているか。
 - ③適切な文章表現をしているか。
 - ④主張の根拠を示しているか。
- ※テキストや文献の引き写しや要約、個人的感想だけで、考察がない場合は再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

なし

第2分冊 〈略題〉諸外国とわが国の「生命と性」の教育 第4部・第5部

横書き指定

直接入力

〈課題〉

諸外国とわが国における生命と性の教育を比較した上で、わが国の学校教育における生命と性の教育の課題を考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト及び参考文献を熟読した上でレポートを作成すること。
- ②引用文献及び参考文献の著者名、書名、出版社名、発行年を明記すること。
- ③インターネットの情報を引用文献・参考文献とする場合は信頼できるサイトのみとし、URL、サイト名、サイト開設者、情報取得日を明記すること。

〈評価の観点〉

- ①レポート課題を理解してレポートを作成しているか。
 - ②論点を整理してレポートの内容をまとめているか。
 - ③適切な文章表現をしているか。
 - ④主張の根拠を示しているか。
- ※テキストや文献の引き写しや要約、個人的感想だけで、考察がない場合は再提出評価とする。

〈その他の注意点〉

なし

参考文献

日本性教育協会『「若者の性」白書 第8回 青少年の性行動全国調査報告』小学館、2019
 林 雄亮・石川由香里・加藤秀一『若者の性の現在地：青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える』勁草書房、2022
 橋本紀子『教科書にみる世界の性教育』かもがわ出版、2018
 ユネスコ編著、浅井春夫他訳『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】』明石書店、2020
 荒堀憲二・松浦賢長編、『性教育学』朝倉書店、2012
 厚生労働省 HP 性感染症、{ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/index.html#link01 }
 エイズ予防情報ネット API-Net、{ <https://api-net.jfap.or.jp/index.html> }

科目試験等への
アドバイス

科目試験の対策として、各回に提示した「課題」をしっかり学修するとともに、テキスト各章の「課題」についても取り組んでおくことが望まれる。解答にあたっては、テキスト内容をそのまま記述するのではなく、テキスト以外の参考文献、新聞・雑誌等のマスメディア、web 等における信頼できる関連情報も加えて考察を深めることが望ましい。その際、引用箇所がわかるように引用表記を必ず行い、文献等の出典を明示することが求められる。

教員からの
メッセージ

「テキスト学修の留意点」にも記したように、本科目で取り上げる内容は、考察するにあたって学際性を求められるとともに、時代に即した新しい情報が必要になる場合が多い。従って、学修を進めるにあたり、テキスト講読のみでなく、それを補完する意味で、参考文献、新聞・雑誌等のマスメディア、web 等から信頼できる関連情報を入手することが望ましい。

07834 教育課程編成論（小）

2単位

テキスト名

奈須正裕・坂野慎二編著
『教育課程編成論新訂版』
玉川大学出版部

科目概要	現在の学校教育内容がどのような状況に置かれているのか、その教育内容はどのような原理で決まるのか、どのような枠組みで定められているのか、教えられた内容はどのように評価されるのか等、現在の教育内容の概略をおさえた上で、学校教育内容を歴史的にも概観し、最終的には次世代を担う子どもたちにとってどのような教育内容が必要なのかを考察する。
主な到達目標	学習指導要領を中心とした教育課程の枠組みを理解し、学校での教育活動の質を高めることができる素地を養う。
テキスト学修の留意点	学習指導要領等の教育内容に関する基本的な事項を理解し、学校における仕事をイメージできるようにすること。小学校以外の学校種についても、児童生徒の発達を考慮し、テキストの内容について学ぶようにすること。

	学修テーマ	課 題
1	教育課程とは何か（第1章）	教育内容の計画、カリキュラムの2つの水準、教育内容の選択を支える論理を理解する。
2	教育課程編成の基本原則（第2章）	文化遺産の継承・発展、社会現実への対応、子どもの求めの実現、3つの編成原理から見た学習指導要領の現状を理解する。
3	資質・能力の育成と教育課程（第3章）	非認知能力の重要性と育成可能性、世界のトレンドとしての資質・能力の育成、2017年版学習指導要領の学力論、「見方・考え方」の角度から見た各教科等と教育課程を理解する。
4	就学前教育と幼稚園教育要領等（第4章）	就学前教育の概要、幼稚園教育要領等の改訂、教育課程及び全体的な計画の編成の考え方を理解する。
5	小学校と学習指導要領（第5章）	小学校教育課程編成の法的枠組み、小学校学習指導要領の構成とポイント、小学校教育課程の運用を理解する。
6	中学校と学習指導要領（第6章）	中学校の教育課程と今次改訂の経緯、2017年版学習指導要領の特色、主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントを理解する。
7	高等学校と学習指導要領（第7章）	高等学校の教育課程と学習指導要領改訂の経緯、2018年版高等学校学習指導要領の特色、主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントを理解する。
8	特別支援教育と学習指導要領（第8章）	特別支援教育の概要、小学校学習指導要領等における特別支援教育、特別支援学校学習指導要領、教育課程編成と個別の指導計画を理解する。
9	単元計画と授業づくり（1）（第9章）	授業の構成要素としての活動と内容、単元計画を理解する。
10	単元計画と授業づくり（2）（第9章）	教材単元の計画と教科書との付き合い方、経験単元における単元計画の実践を理解する。
11	年間指導計画とカリキュラム・マネジメント（1）（第10章）	年間指導計画、カリキュラム・マネジメントを理解する。
12	年間指導計画とカリキュラム・マネジメント（2）（第10章）	カリキュラム・デザインの側面、PDCAサイクルの側面、内外リソースの活用の側面を理解する。
13	学習指導要領の変遷（1）（第11章）	明治時代から昭和前半の教育課程の変遷を理解する。
14	学習指導要領の変遷（2）（第11章）	1947年の学習指導要領から2017年の学習指導要領までの変遷を理解する。
15	社会における学校の役割とカリキュラム（第12章）	学校は何のために、何を教えるのか、という根本的な、そして重要な課題として、学校の役割とカリキュラムを理解することを通して、現代日本における教育課程編成の特質について自分の考えを持つ。

シラバス執筆：湯藤 定宗

レポート課題

第1分冊 湯藤 定宗

第2分冊 湯藤 定宗

第1分冊 〈略題〉カリキュラム及び3つの視点と資質能力の3つの柱
テキスト第1章から第6章

横書き指定

Word指定

〈課題〉

課題①教育課程をテキストに基づき、定義した上で、カリキュラムの2つの水準について、以下の用語をすべて用いて、説明せよ。学習指導要領、学校カリキュラム、地域カリキュラム、指導計画

課題②「3つの視点」と「資質能力の3つの柱」の関係構造について説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

①指定した用語それぞれについてもテキストに基づき、説明をすること。②引用する場合は、テキストであっても引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号（（1）等）を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、テキスト学修をしたうえでのレポート課題作成であることから、最低限テキストを参考文献として示すことは必要である。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容が端的にまとめられているか。
- ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
- ②文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、テキスト第6章を参考のこと。

第2分冊 〈略題〉よい授業と本質的な問い
テキスト第7章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

課題①良い授業についてテキストに基づきまとめた上で、あなたにとっての良い授業についてテキスト以外の文献等を必ず参考・引用して、自分の意見を述べなさい。

課題②「各教科等には、その教科等における多様な学びを貫く『本質的な問い』が存在する」（テキスト180頁）が、小学校等の授業の本質的な問いを二つ挙げ、本質的な問いはどのような資質・能力を身に付けさせることを意図しているかについても説明すること。また対象学年を示した上で、それぞれ異なる教科等から本質的な問いを提示することと、テキストの本質的な問い以外を挙げること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

引用する場合は、テキストであっても引用の作法を守ること。文献の引用作法については、当該箇所を一重括弧（「」）で区切り、注番号（（1）等）を付けて、文末に著者名、文献名（著書の場合は二重括弧『』、論文は一重括弧「」）、発行所名、発行年（西暦）、引用頁も明記すること。ただし、要約の場合は、引用の作法に基づく必要はないが、テキスト学修をしたうえでのレポート課題作成であることから、最低限テキストを参考文献として示すことは必要である。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容が端的にまとめられているか。
- ②引用文献、参考文献の表記が正しくなされているか。

〈その他の注意点〉

- ①指定されたレポート形式を遵守すること。
- ②文献などからの引用は、上記のルールに則り、必ず注記すること。注の付け方、及び文献等の表記の具体例は、テキスト第6章を参考のこと。

参考文献

- ①田中耕治他『新しい時代の教育課程（第4版）』有斐閣、2018年、ISBN978-4-641-22107-9

科目試験等への
アドバイス

科目試験については、シラバスの「課題」に示した内容を中心に出題する。

教員からの
メッセージ

各学校段階の学習指導要領等をしっかりと読んで、テキストの内容をより深く理解すること。

科目概要	子どもの育ちをとらえ、その特性に応じて「遊び」を通して育ちを助長する営みが幼稚園教育の本質である。その営みは偶然に行われるのではなく、社会の変化や地域の実情などの影響を受けつつ刻々とかわりゆく子どもの育ちに焦点をあて、専門性をもった援助・指導のもと子どもと保育者が織り成されものである。時代を経ても変わることなく育てていくもの、時代の変化に応じて育てるものを精選しながら、理想とする子ども像、人間像を目指してより適切な内容と方法に応じて展開されていくものである。本講義では、保育の営みを支える基盤となる幼児教育の特性の理解、幼稚園入園から終了までの生活と体験を組織化した教育課程の編成の意義、および指導計画の作成に必要な基本的な知識を習得することを目的としている。
主な到達目標	・ 幼児期の発達特性に応じた幼児教育の在り方について説明ができる。 ・ 幼稚園教育における教育課程、指導計画の意義について説明ができる。 ・ 社会や地域のニーズ、各幼稚園の理念を踏まえたうえで、教育課程の編成を比較したり、それにも基づく指導計画を分析・評価したりすることができる。 ・ 年齢（育ち）に応じた指導計画の作成のポイントを説明することができる。 ・ 幼稚園教育要領に基づき、目前の子どもを適切にとらえた指導法を思考することができる。 ・ 幼稚園教育の特徴と意義を教育課程の中に見出し、総括することができる。
テキスト学修の留意点	学術的とも、実践的とも言える内容の広がりがあるテキストで読み応えのあるものである。世界的な視点と歴史的な視点から、カリキュラムの根本について学びが進められると考える。学び終えた時に感じられる知識の豊富さ、実践的な感性が磨かれることを期待してほしい。

	学修テーマ	課 題
1	保育現場を知る	働くだろう者として保育現場の理解を深め、そのなかで専門性をもって職務にあたるということとはどのようなことか、また、その証としての保育計画立案の重要性を理解する。（はじめに、第1章）
2	保育の専門性としての子ども観と保育の計画・評価	今日の幼児教育の理念がどのように成立したかを概観する。そのうえで、計画の必要性とはなにか、子どもの育ちと保育内容や方法の評価の在り方とはどのようなものかを学ぶ機会とする。（第1章2、3）
3	保育方法と保育内容の変遷（1）	日本における幼児教育のカリキュラムがどのように生まれてきたか、カリキュラムとは何かを探る。そして、社会の要求と共にどのように変化してきたかを学ぶ。（第2章1-1）
4	保育方法を保育内容の変遷（2）	保育の方法とその内容の成り立ちの時期（1900年前後）から1955年頃までの保育を振り返る。（第2章1-1～4）
5	保育の方法と保育内容の変遷（3）	保育の方法とその内容について、1956年から今日までの保育理念と実践から振り返る。（第2章1-5～7）
6	保育における計画の重要性	幼稚園教育要領・保育所保育指針の中に見られる計画に関する考え方を理解する。（第2章2～5）
7	保育におけるカリキュラム観	なぜカリキュラムという概念が生まれたのかという発祥論から、今日のカリキュラム論に至るまでの歴史的なカリキュラム観の変遷をたどる。（第3章）
8	保育カリキュラムの実践（1）	教育課程・保育課程とは何か、指導計画との関係はどのようなことかを知る。（第4章1～2）
9	保育カリキュラムの実践（2）	幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と保育課程との関係と、課程編成における基本的な手順を学ぶ。
10	保育カリキュラムの実践（3）	さまざまな時代、さまざまな地域で展開された代表的な保育実践を振り返り、その中に見られるカリキュラム観を知り、今日の保育に求められるカリキュラム観を学ぶ。（第5章）
11	教育課程・保育課程と指導計画（1）	教育課程・保育課程と指導計画の違いとその関係性を学ぶとともに、指導計画の作成の意義を知る。（第6章1-2）
12	教育課程・保育課程と指導計画（2）	指導計画のさまざまな様式と指導計画の作成の手順を学ぶ。（第6章3-4）
13	保育の質の評価と記録	保育をどのような視点から評価するか、保育を高めるためにどのような工夫が必要なのかを学ぶ。また、評価のための記録とはどうあるべきかを学ぶ。（第7章1-3）
14	保育の質の向上を目指して	保育の質の向上を目指した保育研修・研究の在り方を学ぶ（第7章4）
15	子どもの育ちの評価と小学校との連携	子どもの育ちをいかに評価し、いかに残していくのかを考える。また、法的位置づけとして義務付けられる要録とは何か、その内容の理解を深めるとともに具体的な扱い方、記載の方法などのかを学ぶ。（第8章）

シラバス執筆：宮崎 豊

レポート課題

第1分冊 宮崎 豊

第2分冊 宮崎 豊

第1分冊 〈略題〉幼稚園教育の基礎と教育課程 第1回～第10回

横書き指定

Word添付

〈課題〉

幼稚園教育は「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的指導」という理念に基づき行われるものとされる。なぜそのような理念に基づくのかその理由を論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストのみならず、『幼稚園教育要領解説』をていねいに読みレポートを作成すること。

〈評価の観点〉

- ①環境を通して行う教育とはどのようなことを説明できる。
- ②遊びを通しての総合的指導とはどのようなことを説明できる。
- ③なぜ、①②の理念に基づく教育を行うのかを説明できる。

〈その他の注意点〉

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針は最新のものに目をとおすこと。インターネットから最新の情報をダウンロードできるので自己学習を進めること。

第2分冊 〈略題〉幼児の育ちの把握と教育課程・指導計画 第11回～第15回

横書き指定

Word添付

〈課題〉

教育課程と指導計画とはなにか、また、その関係性とはどのようなものかを説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①幼稚園教育を行うために位置づけられている法律とそれぞれの関係性を理解してレポートを作成すること。
- ②日々の保育の営みを立案する際の、子どもの実態把握、計画、実践、評価というキーワードを使いながら論じること。
- ③保育の記録の重要性についても、教育課程、指導計画との関係で考慮してレポートを作成すること。

〈評価の観点〉

- ①幼稚園で日々の保育が組み立てられる理論の手順を説明できる。
- ②教育課程、指導計画（短期と中・長期）についてそれぞれの定義を説明するとともに、それらの関係性を明らかにすることができる。
- ③日々の保育の評価とはなにかを説明することができる

〈その他の注意点〉

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針は最新のものに目をとおすこと。インターネットから最新の情報をダウンロードできるので自己学習を進めること。

参考文献

.....
 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814475 *1
 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814482 *2
 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814499 *3
 河邊貴子『遊びを中心とした保育—保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林、2005年5月、ISBN 9784893470874
 文部科学省『指導と評価に生かす記録（幼稚園教育指導資料）』チャイルド本社、令和3年10月、ISBN 9784805403099 *4
 *1～4 は 最新版を使用すること。

科目試験等への
アドバイス

.....
 教育課程・指導計画を編成するための基本的な理論とその具体的な手順をしっかりと習得しておくこと。また、その裏付けとなる幼児教育の歴史についても学んでおくこと。時代の流れとともに社会で求められる教育の在り方は、実践の積み重ねのなかで探求されるものである。よって、歴史的変遷をおろそかにしないこと。

教員からの
メッセージ

.....
 教育課程は各幼稚園によりその構成内容と形式が異なることが前提である。普遍的な基本的事項をしっかりと学ぶことにより、多くの実践に対応する視点を培うことになる。「発達心理学」「教育心理学」「教育原理」「保育内容総論」などが関連科目であるので相互的に補い理解を深めてほしい。

科目概要	保育内容総論は教職に関する科目（領域及び保育内容の指導法に関する科目）である。幼稚園教育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身につける。特に具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。
主な到達目標	・幼稚園教育の基本を踏まえた、幼稚園における指導の考え方を理解する。 ・幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達過程を見通した指導計画作成を理解する。 ・幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。
テキスト学修の留意点	・全ての章を熟読し、幼児教育の基本について理解する。 ・幼児を理解するには、理論を学修するだけではなく日常の実態を知ることも必要である。 ・課題はテキストを丸写しするのではなく、テキストを参考に事例を入れながら自分の言葉でまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	保育内容とは何か（1）	・保育とは何か理解する。 ・保育内容とは何か理解する。
2	保育内容とは何か（2）	・遊びが学びであること—5領域の総合性について理解する。
3	保育内容とは何か（3）	・我が国の保育内容の変遷について理解する。
4	心身の健康に関する領域「健康」	・健康な心と体を育てることを理解する。 ・生活習慣の形成について理解する。 ・安全の習慣と態度について理解する。
5	人との関わりに関する領域「人間関係」	・人との関わりの根源性について理解する。 ・協同的な学びについて理解する。 ・社会生活における望ましい習慣や態度について理解する。
6	身近な環境との関わりに関する領域「環境」	・領域「環境」を考える基本的事項について理解する。 ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「環境」について理解する。 ・保育実践と内容の取扱いについて理解する。
7	言葉の獲得に関する領域「言葉」	・身近な人との関わりを通して育つ言葉について理解する。 ・絵本や物語を通して育つ言葉を理解する。 ・文字等で伝える経験について理解する。
8	感性と表現に関わる領域「表現」	・子どもの豊かな感性について理解する。 ・事例から領域「表現」を考える。 ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「表現」について理解する。
9	3歳未満児の保育内容（1）	・3歳未満児の保育を支えるものについて理解する。 ・0歳児の保育内容について理解する。
10	3歳未満児の保育内容（2）	・1歳未満児の保育内容について理解する。
11	3歳未満児の保育内容（3）	・2歳未満児の保育内容について理解する。
12	「養護」について	・保育の場における「養護」について理解する。 ・生命の保持について理解する。 ・情緒の安定について理解する。
13	保育内容をめぐる展望と課題（1）	・幼保小の連携、接続と保育内容について理解する。
14	保育内容をめぐる展望と課題（2）	・特別な支援を必要とする子どもとその保育内容について理解する。
15	保育内容をめぐる展望と課題（3）	・家庭連携と保育内容について理解する。

シラバス執筆：仁藤 喜久子

レポート課題

第1分冊 仁藤 喜久子

第2分冊 仁藤 喜久子

第1分冊 〈略題〉幼稚園教育の基本 テキスト p1～p136

横書き

直接入力

〈課題〉

幼稚園教育の基本的な内容について述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① 幼稚園とは何かについての的確に示すこと。
- ② 幼稚園の役割とはどのようなものかについても明らかにすること。
- ③ 5領域について説明がされていること。

〈評価の観点〉

- ① レポート作成上の基本的ルールに基づいていること。
- ② 課題の内容が正確に説明されていること。
- ③ テキストの丸写しではなく自分の言葉でまとめていること。
- ④ 事例を入れる等の工夫がされていること。

〈その他の注意点〉

引用文献・参考文献は明記すること。

第2分冊 〈略題〉保育内容をめぐる展望と課題 テキスト p137～p199

横書き

直接入力

〈課題〉

幼児教育をめぐる現状と課題について述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

2017年度（平成29年）告示により改訂された、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針をよく理解し、幼児教育の課題を明確に示すこと。

〈評価の観点〉

- ① レポート作成上の基本的ルールに基づいていること。
- ② 課題の内容が正確に説明されていること。
- ③ テキストの丸写しではなく自分の言葉でまとめていること。
- ④ 事例を入れるなどの工夫がされていること。

〈その他の注意点〉

引用文献・参考文献は明記すること。

参考文献

『保育・幼児教育シリーズ 健康・人間関係・環境・言葉・表現の指導法』玉川大学出版部

科目試験等への
アドバイス

- ・ 全ての章を熟読して臨むこと。
- ・ 各章の演習問題を確認しておくこと。

教員からの
メッセージ

・ 保育内容総論は幼稚園教諭一種免許の資格取得に必要な科目です。保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）と深く関連しているため、5領域のテキストも参考にすると理解が深まります。また、2017年度（平成29年）告示により改訂された、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容を理解した上で、レポートやテストに臨みましょう。

科目概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示される、子ども主体の保育とはどのようなものなのか。子どもの発達特性を踏まえて、指導のあり方について学ぶ。
主な到達目標	・乳幼児期の発達特性を踏まえ、子どもの立場に立った指導のあり方を理解する。 ・多くのエピソードをとおして、集団の中の「個」と内面理解を大切にしていける視点を養う。
テキスト学修の留意点	・課題について、学修指導書を参考にテキストを熟読してから理解を深めること。 ・レポート作成は、課題について学修してから取り組むこと。 ・「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」に十分注意すること。

	学修テーマ	課 題
1	保育方法とは何か	第1章 ・保育方法と保育方法のポイントを理解する。 ・『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示される保育方法について学ぶ。(平成29年告示の最新版を参考にしてください。文部科学省、厚生労働省HPからダウンロードできます)。
2	子ども理解にもとづいた保育方法と評価	第2章 ・なぜ子ども理解が必要なのか。その意味を考える。 ・子どもの内面理解を支え発達を促せる視点を考える。 ・子ども主体の学びへの評価について学ぶ。
3	子どもにふさわしい園生活と保育形態	第3章 ・乳幼児期にふさわしい遊びを学ぶ。 ・様々な保育形態を学び、子どもにふさわしい園生活とは何か考える。
4	養護と教育が一体となった保育の方法	第4章 ・「養護」とは何か理解する。 ・「世話をする」という行為について考える。 ・心のケアと「養護と教育が一体となった教育」について学ぶ。
5	環境を通した保育の方法	第5章 ・保育の場における環境について学ぶ。 ・なぜ環境を通しての保育が大切なのか理解、環境構成の工夫について考える。
6	遊びを通した保育の方法	第6章 ・子どもにとっての遊び、保育における遊びとは何か学ぶ。 ・乳幼児期の遊びはなぜ大切なのか考える。 ・遊びが豊かになるための援助について学ぶ。
7	個と集団を活かした保育の方法	第7章 ・保育における「個」と「集団」を考える。 ・集団の中で「個」を大切にする保育の視点について学ぶ。 ・個と集団を活かした保育について学ぶ。
8	0・1・2歳児の発達に応じた保育方法	第8章 ・乳児がはじめて保育を経験するということを考える。 ・乳児の主体的な遊びと生活について学ぶ。 ・乳児期の発達と遊びについて理解する。
9	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法	第9章 ・幼児期の安心して自己発揮できるように成長していく時期について学ぶ。 ・友だちとの関わりの中で育つものについて理解する。 ・友だちとの関わりが深まった時期の保育について学ぶ。
10	保育の計画・実践・評価	第10章 ・簡単な指導案を書いてみる。 ・保育の「計画」は必要と、計画に大切な視点について理解する。 ・保育の「計画」と「実践」の関係と「評価」へのつながりを考える。
11	家庭・地域との連携した保育	第11章 ・子育ての現状について理解する。 ・保護者との連携の方法を学ぶ。 ・地域との連携が活かされる保育について考える。
12	小学校との接続のデザイン	第12章 ・学ぶ場所としての小学校について学ぶ。 ・小学校教育の背景の変化について学ぶ。 ・「遊び」と「学び」、「勉強」と「学び」の違いとは何か考える。

13	配慮を要する子どもへの 保育方法	第 13 章 ・発達障がいを理解する。 ・障がいのある子どもを含む保育について学ぶ。 ・外国とかかわりのある子どもへの保育について学ぶ。
14	教材や情報機器を活かした 保育方法	題 14 章 ・保護者に向けた情報発信のツールを考える。 ・保育環境への活用を考える。 ・アナログとデジタルの活用を考える。
15	まとめ	幼児指導が目指すものを子どもの発達と合わせて考察する。

シラバス執筆：上田 よう子

第1分冊 〈略題〉環境を通した保育 第1章～第6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

環境を通した保育とはいかなることか。幼児の特性、保育者の役割に触れてテキストから学修したことが分かるように述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第1章～第6章を熟読してから論ずる。
- ②『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。
- ③参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。ホームページについては、タイトルおよびURL、閲覧日を記載すること。テキストも参考文献として記載する。
- ⑤学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ①課題に対して、第1章から第6章までを熟読してテキストから学修したことを的確に論じられているか。
- ②自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ③誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ④引用は明示しているか。
- ⑤引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

第2分冊 〈略題〉発達理解と保育の計画 第7章～第14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「個」と「集団」が活かされる保育とはどのようなものか。保育計画を考える際の留意点、保護者への連携と関連付けながら、テキストから学修したことが分かるように述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト第7章～第14章を熟読してから論ずる。
- ②『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。発達理解については、特に活用すること。
- ③参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。ホームページについては、タイトルおよびURL、閲覧日を記載すること。テキストも参考文献として記載する。
- ⑤学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ①課題に対して、第7章から第14章までを熟読してテキストから学修したことを的確に論じられているか。
- ②自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ③誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ④引用は明示しているか。
- ⑤引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

参考文献

『幼稚園教育要領(平成29年告示)』『保育所保育指針(平成29年告示)』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』

科目試験等への
アドバイス

『幼稚園教育要領』を基とし、テキスト学修を進めてほしい。
テキストから学んだことが分かる内容で書くこと。
テキストを熟読してから臨むこと。

教員からの
メッセージ

学びは自分のためであると同時に、教師となって出会う子どもたちのためであることを自覚して、真摯に取り組んでほしい。

07870 道徳教育の理論と方法（小）

2単位

テキスト名

『新教科「道徳」の理論と実践』
『学習指導要領』
『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』

科目概要	教育基本法第1条における人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を育てることが学校教育における道徳教育の使命である。単に道徳的諸価値を理解するに留まらず、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳教育の在り方について、理論と実践から学修する。
主な到達目標	テキスト、並びに『小・中学校学習指導要領』『小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』を通して、道徳の理論では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。道徳の指導法では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。そして、どのような形で道徳の指導を行うことが効果的か、理論と方法を具体的に説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	道徳教育が小・中学校にわたって継続したものである点を重く見て、このテキストは①「小・中学校の共通内容（無印）」、②「小学校の内容（小学校用：）」、③「中学校の内容（中学校用：）」に分けて論じている。原則として、小学校免許希望者は①②を、中学校免許希望者は①③を理解することが必要である。ただ小・中学校の道徳教育の継続性を全体的に理解する意味では①②③すべてを熟読することが望ましい。

	学修テーマ	課 題
1	道徳の教科化	平成 29 年の学習指導要領改訂の趣旨（改訂の経緯、改訂の基本方針、改訂の要点等）について（序章）
2	道徳教育の目標（1）	道徳教育と道徳科の関係性について。道徳教育の目標とは何か。道徳科の目標とは何か。（第1章第1節）
3	道徳教育の目標（2）	道徳的实践に繋がる道徳の学習とはどのようなものか。（同第2節）
4	道徳科の内容（1）	道徳の内容を支える道徳理論にはどのようなものがあるか。（第2章第1節）
5	道徳科の内容（2）	小学校用：小学校における内容項目の重点化とは何か。（同第2節） 中学校用：中学校における内容項目の重点化とは何か。（同第4節）
6	道徳科の内容（3）	小学校用：道徳の授業をどのようにつくればよいのか。（同第3節） 中学校用：中学生の生活課題に取り組む道徳の授業とはどのようなものか。（第5節）
7	指導計画の作成（1）	道徳の授業の質的転換とは何を意味するのか。（第3章第1節） 学びがいのある道徳授業を創るには何が必要か。（同第2節）
8	指導計画の作成（2）	小学校用：指導計画はどのように作ればよいのか。（同第3節） 中学校用：中学校における指導計画とはどのようなものか。（同第4節）
9	指導計画に基づく道徳科の指導（1）	ピアジェやコールバークの道徳性発達理論とはどのようなものか。（第4章第1節） 道徳教育におけるアクティブラーニングの具体的手法とはどのようなものか。（同第2節）
10	指導計画に基づく道徳科の指導（2）	考え、議論する道徳とはどのようなものか。（同第3節） 小学校用：道徳科の指導においてどのようなことを「話し」、「書く」ことが必要なのか。（同第4節） 中学校用：生徒指導に役立つ、実効性のある道徳教育とはどのようなものか。（第5節）
11	指導計画に基づく道徳科の指導（3）	道徳教育の全体像とはどのようなものか。（第5章第1節）
12	指導計画に基づく道徳科の指導（4）	道徳教育におけるシティズンシップ教育とはどのようなものか（同第2節）
13	指導計画に基づく道徳科の指導（5）	学校・家庭・地域社会で取り組む道徳教育の実践例にはどのようなものがあるか。（第6章第1節） 小学校用：体験的な活動を生かす道徳授業の実践例にはどのようなものがあるか。（同第2節）
14	道徳科の評価（1）	道徳科における評価の在り方・方向性とはどのようなものか。（第7章第1節）
15	道徳科の評価（2）	小学校用：小学校における評価の実践とは具体的にどのようなものか。（同第2節） 中学校用：中学校における評価の実践とは具体的にどのようなものか。（同第3節）

シラバス執筆：堀内 俊吾

レポート課題

第1分冊 山口 圭介・元 笑予・堀内 俊吾

第2分冊 山口 圭介・元 笑予・堀内 俊吾

第1分冊 〈略題〉道徳教育を可能にするもの 序章-第3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

学校における道徳教育を可能とする「児童生徒観」とはどのようなものか、テキストならびに学習指導要領の記述を踏まえ、考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①文末には、註及び参考文献を正しい仕方で明記すること。（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）
- ②テキストならびにその他の文献からの引用には、必ず「」を用いること。（引用が明確でない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）

〈評価の観点〉

- ①表記上のルールが守られているか。
- ②1つ1つの文章や段落の儲け方が適切であるか。
- ③全体のまとまりがある文章が書けているか。
- ④課題に対する解答が明確に示されているか。
- ⑤作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

- ①表記上のルールでは、とくに、記述記号の用い方に、十分注意してください。
- ②学習指導要領や学習指導要領解説、近年の道徳に関わる答申等を有効に活用してください。

第2分冊 〈略題〉いじめ問題と道徳教育 第4章-第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

いじめ問題への道徳教育の貢献可能性について考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①文末には、註及び参考文献を正しい仕方で明記すること。（註が1つも記されていない場合、参考文献が1冊も記されていない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）
- ②テキストならびにその他の文献からの引用には、必ず「」を用いること。（引用が明確でない場合には、内容にかかわらず、「再提出」となります。）

〈評価の観点〉

- ①表記上のルールが守られているか。
- ②1つ1つの文章や段落の儲け方が適切であるか。
- ③全体のまとまりがある文章が書けているか。
- ④課題に対する解答が明確に示されているか。
- ⑤作成者のオリジナリティーが見られるか。

〈その他の注意点〉

- ①テキスト以外にも、学習指導要領や学習指導要領解説、近年の道徳に関わる答申等を有効に活用してください。

参考文献

『小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省のHPよりダウンロードすることも可能です。）

科目試験等への
アドバイス

「テキスト」「学習指導要領」「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」を熟読しておくこと。

教員からの
メッセージ

「学習指導要領」「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」「テキスト」から基礎的・基本的な内容を出題しますので、熟読をしておくとういでしょう。

07872 特別活動の理論と方法（小）

2単位

テキスト名

『教科指導法シリーズ 指導法
特別活動』
玉川大学出版部

科目概要	学校教育における特別活動の位置付けや人間形成に果たす役割・教育的意義などについて学修する。また、変化の激しい社会の中でたくましく生きる児童生徒に欠かせない資質・能力、つまり「生きる力」の育成に重要な役割を果たす「特別活動の目標」などを学ぶようにする。さらに、小学校における「各活動・学校行事」の目標や内容、指導方法、配慮事項などについて、事例を踏まえて学ぶものとする。
主な到達目標	レポート作成や演習等を通して、以下の①～③について事例等を踏まえて説明することができる。 ① 特別活動の目標や内容、特質の理解・・・全体計画と各活動・学校行事の指導計画の作成 ② 学級活動の運営に必用な事柄・・・「学級活動」の年間指導計画の作成、実施計画と留意点、各教科等との関連 ③ 特別活動の評価の在り方・・・基本的な考え方、評価の観点、評価の方法
テキスト学修の留意点	テキストと『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』を中心にまとめ、端的に説明する。 ① 特別活動の全体の目標や「各活動・学校行事」の内容などについての考え方を明確にし、具体的に説明できる。 ② 課題に関する内容を項目ごとに整理した後、自己の考察を加える。 ③ レポート作成に当たっては、＜留意事項＞を確認し＜評価の観点＞に従って記述する。文字数などの記述条件に注意する。

学修テーマ	課 題
1 【理論編】 特別活動の役割と変遷	・学校教育における「特別活動」の役割・・・社会的背景から理解する。 ・我が国における特別活動の変遷・・・戦前の教科外活動、戦後の特別活動の流れ ・『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』の要点の理解
2 特別活動の目標と内容①※	○特別活動の目標を理解・・・特別活動で育てる資質・能力 ・目標の構成・・・「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点から ・内容及び特質（集団活動、自主的・実戦的な活動、自発的・自治的な活動）の意味と意義
3 特別活動の目標と内容②※	○特別活動の内容について理解する。・・・具体的に分析し、考察する。 ・「学級活動」、「児童会活動」、「クラブ活動」、「学校行事」の目標と内容 ・内容相互の関連と教育的意義
4 特別活動の目標と内容③※	○特別活動の内容について理解する。 ・「学級活動」、「児童会活動」、「クラブ活動」、「学校行事」の集団の単位と内容の理解 ・部活動（中・高）の教育的意義と教育課程上の位置付けについての理解
5 特別活動と各教科等との 関連※	○各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間、生徒指導などとの相互関連について考察する。 ・具体的な関わりと、取り組み方 ・発達段階に応じた指導と指導上留意すべき事柄
6 特別活動の評価※	○特別活動の特質を生かした評価について理解する。 ・基本的な考え方 ・評価の観点（特別活動で育成を目指す資質・能力） ・評価の方法・・・観察法、作品法、自己・相互評価法についての具体的な内容と留意点
7 全体計画と年間指導計画の 作成※	○全体計画を基にした「各活動・学校行事」の年間指導計画を作成するための方法や手順を理解する。 ・全体計画と「各活動・学校行事」の年間指導計画 ・学級活動の年間指導計画の作成の仕方 ※第 1 分冊の学修を基にして「豊かな人間形成に果たす特別活動の目標及び内容」について考察せよ。
8 【実践編】 学級活動①※	○学級活動について理解する。 ・学級活動の目標、内容、指導計画、活動形態の理解 ・内容（1）、（2）・（3）の活動項目とそれぞれの特質を基にした 1 単位時間の「学習過程」（事前→本時→事後）
9 学級活動②※	○学級活動の進め方を理解する。 ・年間指導計画の作成と 1 単位時間の実施計画の作成（内容（1）の場合、（2）・（3）の場合） ・学習指導案の作成（学級活動の目標と内容、実態と発達段階に応じた指導）
10 学級活動③※	○学級活動の進め方を理解する。 ・授業展開と教師の助言 ・役割についての理解と実践 ・学級経営との関連、配当時間、環境設定
11 児童会活動の進め方①※	○児童会活動の目標や内容を理解する。 ・異年齢集団活動における自発的、自治的な活動の在り方・・・活動形態と運営の仕方 ・委員会の経営の在り方と年間指導計画 ・指導者間の連携の在り方と評価の仕方
12 児童会活動の進め方②※	○児童会活動の指導の在り方について考察する。 ・年間指導計画と「学習過程」 ・指導者間の連携の在り方と評価の仕方 ・指導上の留意点
13 クラブ活動の進め方※	○小学校におけるクラブ活動の目標と内容、特質について理解する。 ・クラブ活動の活動内容の理解と運営の仕方 ・年間計画と「学習過程」 ・クラブの経営の在り方と年間指導計画 ・指導者間の連携の在り方と評価の仕方

14	学校行事の目標と 種類別内容※	○学校行事の目標と構成内容について理解する。 ・5つの内容とそれぞれの特質についての理解 ・指導計画の作成と「学習過程」 ・学校行事の実際と指導に当たっての留意点
15	「特別活動の指導法」の まとめ	※第2分冊全体の学習を基にして、「特別活動」の実践にとって必要なことは何か、事例を挙げて考察せよ。（例）学級活動の目標や内容、進め方、指導上の配慮事項、学級経営との関連他

シラバス執筆：山口 祐一

レポート課題

第1分冊 山口 祐一

第2分冊 山口 祐一

第1分冊 〈略題〉特別活動の目標・内容、各教科等との関連 第1章～第4章

横書き指定

Word 添付

〈課題〉

- 1 特別活動の目標、「各活動・学校行事」の目標と内容について明らかにしなさい。
- 2 特別活動と各教科等との相互関連について具体的に述べなさい。

※以下に示してある〈評価の観点〉に従って記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 特別活動の目標と内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）について端的にまとめる。（1200字程度）
- 2 特別活動の内容と各教科等との相互関連について具体的な事例を挙げてまとめる。（1200字程度）

◎テキストは平成20年改訂の目標や内容を基にしているが、学習指導要領の改訂（平成29年告示）で特別活動の目標や内容は新たになっている。必ず『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』と『新学習指導要領の理解のために（小学校）』を熟読し、改訂された目標や内容を基に記述すること。以下の〈評価の観点〉に従うこと。

〈評価の観点〉

- 1 （1）特別活動の役割を社会的背景と今日的な教育課題から述べる。（2）特別活動の特質を示す。（3）「特別活動の目標」と「各活動・学校行事の目標」との関連を示す。（4）4つの目標（各活動と学校行事）を比較し、共通性と独自性を示す。（5）「各活動と学校行事」のそれぞれについて、集団の単位と内容とを簡潔に示す。（6）教育的意義から、学校教育における部活動（中・高）の位置付けについて理解し説明する。
- 2 特別活動と各教科、道徳科、総合的な学習の時間、生徒指導との相互関連について、具体的な事例を挙げてまとめる。

〈その他の注意点〉

- ・最初に柱立てをし、段落ごとに見出しを付けてまとめていくこと。
- ・第1分冊の添削内容を押さえてから、第2分冊の学修に入った方がよい。

第2分冊 〈略題〉学級活動の目標・内容・指導計画と特別活動の評価の在り方 第5章～第8章

横書き指定

Word 添付

〈課題〉

- 1 学級活動の目標・内容・指導計画について、学習指導要領（平成29年告示）の改善点を踏まえながら明らかにしなさい。
 - 2 特別活動の評価の在り方について具体的に述べなさい。
- ※以下に示してある〈評価の観点〉に従って記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 学級活動の（1）目標、（2）内容、（3）指導計画の順に、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』を踏まえて要約すること。（1600字程度）
- 2 特別活動の評価について、（1）基本的な考え方（2）観点（特別活動で育成を目指す資質・能力）（3）方法の順にまとめること。（800字程度）

◎学習指導要領の改訂（平成29年告示）実施に伴い、必ず『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』を熟読して改訂された目標や内容を基に記述すること。

〈評価の観点〉

- 1 目標、内容を踏まえて指導計画へと結びつけ、授業イメージがもてる。
（1）目標と内容について解説書を要約して説明する。（2）学校の全体計画、学級活動の年間指導計画、1単位時間の指導計画までの関連とそれぞれの内容と意義について説明する。
（3）学級活動（1）と（2）・（3）の特質の違いを基に、それぞれの「学習過程」を事前・本時・事後の活動の順に説明する。
（4）学級活動の3つの活動形態について具体的に説明する。
- 2 特別活動の特質を踏まえて、評価の考え方、観点（特別活動で育成を目指す資質・能力）、具体的な方法を述べる。

〈その他の注意点〉

- ・学級担任として、毎週1時間当たりの「学級活動」の授業を想定し、どのように指導案を作成していくのか、と考えていくこと。
- ・最初に柱立てをし、段落ごとに見出しをつけてまとめていくこと。

参考文献

- 1 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』（東洋館出版社、文部科学省 HP）
・本解説書は実務に就いてからも活用し続けることになる。ハンドブック並みに活用することを薦める。
- 2 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』国立教育政策研究所教育課程研究センター HP
- 3 『特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活を創る特別活動 小学校編』文部科学省 HP、文溪堂 26 年
- 4 EduTrack の講義室で「本課題の読み方と書き方」について、動画で確かめることができる。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、①特別活動に関する内容の基本概念の説明と②各内容項目に関する考え方について一定程度詳細な説明を求める問題が考えられる。その際、例えば、①の出題については、基本的にはテキストと『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編』全範囲からの出題となるが、②についての説明問題は「学修テーマ」に※をつけたところから出題する。
- ・本科目試験では、テキストと『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編』の内容を理解し、説明できるかどうか大きなポイントになる。また、問題に「具体的に説明せよ」とある場合には、事例を示して説明することが求められる。
- ・第 1 分冊と第 2 分冊の学修を通して習得した内容が基になる。レポートは試験までに合格することが望ましい。

教員からの
メッセージ

教員は、学級担任として学級経営をするだけでなく、「〇〇委員会」と「〇〇クラブ」の経営もします。そこでは、「集団活動、自主的・実践的な活動、自発的・自治的な活動」という特別活動の特質を生かして、社会人の育成（キャリア形成）が行われます。単なる知識ではなく、実際の生活の場での生き方をも視野に入れた学修にすることが重要です。小中高での特別活動体験と本学修で身に付けた内容とを重ねながら、特別活動の指導の在り方を追究しましょう。

07874 教育の方法と技術（幼・小）

2単位

テキスト名

『教育の方法と技術（第三版）』
通信教育課程刊行テキスト

科目概要	本科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むため、教授理論や授業設計の方法、学習指導案の作成方法や個人差に応じるための指導方法などについて学びます。また、教師にはコンピュータなどの情報機器を利用して、わかりやすい授業を展開するための技術の習得も求められています。そのため、ICT を実践の中で効果的に活用する方法についても学びます。
主な到達目標	・テキストに示されているキーワードについて説明できる。 ・教育方法の基礎的な理論と実践について理解している。 ・情報機器を効果的に活用した授業の方法について提案することができる。
テキスト学修の留意点	「主な到達目標」にも書いていますが、テキストに出てくるキーワードについて、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。各章の最後に載っている演習問題に取り組んでみましょう。レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているかを見ます。「レポート課題」に書いてある留意事項や評価の観点を参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	授業の方法・技術	教育の方法と技術を学ぶにあたり、学習とは何か、また授業で指導するとはどういうことなのかを考えてみましょう。
2	授業と教授理論	効率的な授業を展開するためには適切な教授理論が必要です。ここでは、2つの教授理論とその具体例を確認します。
3	授業の設計	児童の学力を保障するためには、授業を適切に設計する必要があります。授業設計とは何か、どのように授業を設計するのかについて確認します。
4	授業の組織と展開	「何を」教えるのか？「どのように」教え、評価するのか？ここでは、指導過程や評価の方法などについて確認します。
5	授業と学習指導案	学習指導案には、その教師の児童観や授業観、教育観が表れます。ここでは、学習指導案の構成要素などについて確認します。
6	学習指導案の実例	学習指導案の書式について2つの例が示されています。具体例を参考に、どのように記述すれば良いのかを確認します。また、板書計画などについても考えます。
7	授業と個人差	教師が考慮すべき個人差にはさまざまなものがあります。ここでは、生徒自身の個人的要因に注目して分類されたものをベースに、個人差に応じる授業について考えてみましょう。
8	教育の情報化	学校教育における情報化の経緯について確認し、情報化の現状、情報活用能力などについて確認します。
9	教育メディアの活用	視覚用教育メディア、聴覚用教育メディアについて、授業での利用方法も含めて確認します。また、メディアリテラシーについても考えてみましょう。
10	コンピュータ・ネットワークの基礎知識	教育で利用するためのコンピュータの基礎知識について確認します。また、情報セキュリティなどについても確認します。
11	授業における ICT の活用	ICT を利用した授業の設計や実施手順について、具体例から考えてみましょう。
12	インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインのアイデアをもとにした教材設計などについて考えてみましょう。
13	情報モラル教育	具体例をもとに情報モラル教育の必要性について確認します。また、情報モラル教育のモデルカリキュラムについて確認します。
14	校務情報化	校務の情報化のあり方や情報化の進め方、セキュリティの課題などについて確認します。
15	まとめ	14回までに学習した内容を再確認し、適当な学年、科目、単元を決めて学習指導案を作成します。その際、ICT の活用についても考えます。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉授業設計と指導目標の明確化 1章～7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 授業設計の手順および指導目標の明確化について説明せよ。
- ② 1回分（1単位時間分）の授業を想定し、授業目標（本時の指導目標）と授業展開及び評価方法を説明せよ。科目名、単元名、対象学年も記述すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・課題①、②の両方に回答すること。
- ・課題①、②ともに、表形式や箇条書きは用いず、文章で説明すること。
- ・課題①は、テキストを良く読み、要約すること。
- ・課題②の授業例は、テキストや書籍、インターネット上に記載されているものを流用せず、自身で具体的に想定すること。本時の指導目標、授業展開、評価方法（どのようなデータを用いてどのような基準で評価するのか）をわかりやすく説明すること。
- ・「評価の観点」を良く読み、必要な事柄全てについて記述すること。

〈評価の観点〉

課題①

- ・授業設計の手順、「明確な指導目標」の定義、指導目標を明確化する方法、明確化することの利点についてわかりやすく説明されているか。

課題②

- ・本時の指導目標は明確化されているか。
- ・授業展開は、学習者が行う活動内容及び、評価に用いるデータの収集方法がわかるように書かれているか。
- ・評価方法は、本時の指導目標を学習者が達成したか否かを客観的に判断できるものか。学習者全員を個々に評価できるように考慮されているか。評価基準が具体的かつ明確に示されているか。

〈その他の注意点〉

- ・課題②においてワークシート等の利用を想定した場合、その内容を本文中で説明するか、別紙としてワークシートを添付すること（別紙として添付した場合、制限文字数には含まれない）。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園などでの指導場面を想定し、作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

第2分冊 〈略題〉ICTを活用した授業の設計 8章～14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 授業におけるICT利用の概要（計画・実施・評価）を詳しく説明せよ。
- ② ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、ICTを効果的に活用した授業を学習指導案の形式で設計しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- （「その他の注意点」もあわせて確認すること）
- ・課題①については、テキストで示されている内容を中心に要約（説明）すること。
- ・①の要約では、表中の科目の具体例も利用すること。
- ・課題②で作成する学習指導案は、テキストp.81～83で示されているような表を利用した形式にすること。
- ・ICTを必ず利用すること。
- ・学習指導案は、本時の指導計画（「本時の目標」「準備・資料」「本時の展開」「本時の評価」は必須。「板書計画」は出来る限り記入）のみで構わない。

〈評価の観点〉

- ・授業におけるICT利用の概要について、テキストを参考に明確に要約（説明）できているか。
- ・上記の留意事項を守り、ICTを効果的に活用した学習指導案が適切に作成されているか。
- ・作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。

〈その他の注意点〉

- ・学習指導案の「本時の展開」は「導入－展開－まとめ」に分けて記入し、「予想される児童生徒の反応」も記入すること。
- ・ワークシートを利用する場合は、その内容を具体的に記述すること。
- ・書籍などにある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題②については幼稚園などでの指導場面を想定し、ICTを効果的に活用したものを作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開（流れ）」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

- ・学習指導案を作成する時は、教科書などを参照すること。
- ・より深く学修するためにはテキストの本文中、各章末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
- ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。

教員からの
メッセージ

教員になって実際に教壇に立った時、「本当にこのやり方でいいのだろうか」と悩む時がくると思います。そんな時、戻ってこれることができる場所のひとつにこのテキストがなってくれる筈です。そのような意味からも、単に「レポート課題のため」「単位のため」という理由からではなく、理論や言葉などをしっかりと学ぶために、このテキストでの学修を大切にしてほしいと思っています。

07876 生徒・進路指導の理論と方法（小）

2単位

テキスト名

『子どもの危機と学校組織 一苦悩する学校を救う鍵は教師の生徒指導力向上とチーム力―』『小学校キャリア教育の手引き 改訂版』文部科学省及び学習指導書

科目概要	本科目では、現代社会に生きる子どもたちの発達課題など、成長の実情をふまえて生徒指導や進路指導の諸課題を把握し、その指導理論を学ぶとともに、教師としての基本的な実践力を養うことを目標にしています。児童生徒の変容は何によってもたらされるのか。テキストは「人の取り結んでいる人間関係の質を変化させることによって」人のより良き変容や自己実現がもたらされるという視点から、生徒指導を定義しています。児童生徒が教師を含む周囲との「関係性」を深め、自らより良き変容を図っていけるように支援・援助すること、それが教師に求められる実践力であり、それらを学ぶことが本科目の目標です。 「取り結んできた人間関係の質」つまり「関係性」の視点から、自分自身の変容や自己形成の過程を振り返りましょう。本講座の学びを通して、児童生徒との「関係性」を深め得る自分であるのか、自己のあり方を常に問い続けることが自己変革につながり、基本的な実践力を学ぶことになります。
主な到達目標	本講座の到達目標は、受講生が、①いじめ・暴力等生徒指導上の諸問題やキャリア教育の課題等を理解し、②生徒指導や進路指導の目的や学校教育における意義や機能、③生徒理解や教育相談の在り方等にかかる指導理論を学ぶとともに、④児童生徒を自己実現に導く基礎的な実践力を培うことにあります。その実践力を身につけるには、受講生が⑤自らの「関係性」を振り返って、自己実現の状況を客観的にとらえ返して自己変革への視座を明確にしたうえで、教師としての自己開発への道筋を学ぶことを到達目標に加えておく必要もあります。
テキスト学修の留意点	- 以下に示した学修テーマと課題について十分に考察し、「解説できる」「考察を深める」などの指示を受けて、確実に課題を克服するとともに、自己評価を積み重ねましょう。 - テキストや学習指導書（資料編）を熟読し、関係資料を活用して、データ等の根拠を明確することを心がけて学習を進めましょう。学習指導書の資料に示された出典先や関係サイト、参考文献等を積極的に活用し、また、独自に資料を収集して、根拠に基づく考察を進め、見識を高めましょう。 「関係性」を深めるなど、教師としての実践力を学ぶためには、自分自身のありようを振り返り、常に自己変革を志向する必要があります。そのための演習課題も設定してありますので、積極的に活用してください。

	学修テーマ	課 題
1	1 生徒指導・進路指導の理念と到達目標 テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.51-57、pp.69-72 学習指導書「1 生徒指導・進路指導の理念と学校教育」 「教育の目的と生徒指導・進路指導の定義（1）生徒指導～（7）心の教育」	学習指導書とシラバスを概観し、到達目標について理解する。教育基本法の「教育の目的」をふまえ、生徒指導と進路指導の意義や位置づけを理解しましょう。児童生徒の変容は何によってもたらされるのか。テキストは「人の取り結んでいる人間関係の質を変化させることによって」人のより良き変容や自己実現がもたらされるという視点（以後「関係性」の視点と呼ぶ）から、生徒指導を定義（p.53）しています。 自分が「取り結んできた人間関係の質」つまり「関係性」の視点から、自分自身の変容や自己形成過程の振り返りを行ってください。そして、自分自身が児童生徒と十分に「関係性」を深め得る存在であるのかを見つめ直した上で、児童生徒の自己実現を支える教師としてどのようにあるべきか、そのあり方について考察を深めましょう。 また、教育基本法の「教育の目的」をふまえ、学習指導書や指導要領にある各教科、特別活動、道徳、進路指導、キャリア教育、生きる力、心の教育などの意義や定義を読み、それら教科・領域等の目指すものと生徒指導の関連性について整理し、相互のかかり合いと生徒指導の特質について解説できるようになりましょう。
2	2 「関係性」と実存的生徒理解 テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.53-57、pp.69-72 学習指導書「1 生徒指導・進路指導の理念と学校教育」 「教育の目的と生徒指導・進路指導の定義（1）生徒指導～（7）心の教育」	「関係性」の視点から生徒理解のあり方について考察を深めましょう。生徒指導や進路指導だけでなく、あらゆる教育活動の基本である生徒理解について、「関係性」の視点からとらえ直してみましょう。 テキストに「『生徒理解の質』を考える」とありますが、そこで説かれている事例（Y男の事例）などを元に「実存的生徒理解」とはどのような関係性を言うのか、「生徒理解の質を変える」とはどのようなことかについて、考察を深めてください。また、これまでの自分の生徒理解や人に対する理解の仕方について、自分の経験や取組をふまえて振り返ってみましょう。
3	3 児童生徒の成長上の課題と生徒指導・進路指導 テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.2-19、pp.19-34 学習指導書「2 児童生徒の人間関係と成長上の課題」 「児童生徒の自己像・将来像・人間関係（1）内閣府調査 低年齢層の生活と意識～（7）文献・答申等に見る児童生徒の行動傾向と人間関係」	学校が直面する生徒指導・進路指導の課題は、現代の児童生徒が成長上どのような課題を抱え、それをどのように克服して自立を確立していけるのかという命題に収斂されます。 テキストでは、児童生徒の成長上の課題として「発達課題の未消化」「青年期の自立遅滞」を提示しています。こうした成長上の課題について児童生徒の実態を直視することを通して確認し、その実情への理解を深めましょう。 テキストや学習指導書・参考文献、さらには独自にデータ収集を行い、現代の児童生徒の人間関係や自己像の特徴、行動傾向などを把握した上で、児童生徒の抱える成長上の課題について、解説できるようになりましょう。

4	4 児童生徒の発達課題と社会背景—家庭・地域の教育力の低下— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.2-19、pp.34-42 学習指導書「3 社会背景—家庭・地域の教育力の低下—」 「児童生徒の発達課題と社会背景 (1) 希薄化がもたらすもの—地域社会における協働と役割の喪失—」	児童生徒の「発達課題の未消化」や「青年期の自立遅滞」の背景として、社会の変動に伴う地域コミュニティの崩壊や家庭地域の教育力の低下、人間関係の希薄化など、大人社会のありように関連する問題があります。この社会的背景について理解するとともに、今後どのように生徒指導・進路指導を進める必要があるか、そのあり方について考察を深めましょう。 テキストや学習指導書・参考文献をもとに、さらには独自にデータ収集を行い、児童生徒の成長において「発達課題の未消化」「青年期の自立遅滞」が顕在化している問題について、その社会背景をデータに基づいて解説できるようになりましょう。
5	5 社会の変化と生徒指導の深化—行動規制の生活指導からの転換 テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.19-34、pp.34-53 学習指導書「4 社会の変化と生徒指導の深化—行動規制の生活指導からの転換—」	ここでは戦後の約 70 年間の社会変動と生徒指導の変化を概観します。 国民全体が貧しかった戦後初期に国民的な支持を受けた生活綴り方運動などに見られる「生活改善と集団生活重視の生活指導」から、商品経済の発展に伴い「行動規制中心の生活指導」に変化していく経過をまとめ、解説できるようになりましょう。 また、テキスト p.38 に示された細かく生活や行動を規制する校則等による生活指導は、どのような教育観に基づき、どのようなねらいで行われたのか、テキストや学習指導書等の記述内容を根拠に考察を深めましょう。
6	6 社会の変化と生徒指導の深化—関係性の生徒指導の意義— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.19-34、pp.34-53 学習指導書「4 社会の変化と生徒指導の深化—行動規制の生活指導からの転換—」	ここでは戦後の約 70 年間の社会変動と生徒指導の変化を概観します。 「行動規制中心の生活指導」が行き詰まる経過を「校内暴力」「管理主義」「体罰」「いじめ」「不登校」などのキーワードを使って解説できるようになりましょう。 そして、今日求められる「関係性の生徒指導」について、児童生徒の成長上の課題（「発達課題の未消化」「青年期の自立遅滞」）と関連づけながら解説できるようになりましょう。
7	7 社会の変化と生徒指導の深化—重大少年事件と関係性の生徒指導 テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.19-34、pp.34-53 学習指導書「4 社会の変化と生徒指導の深化—行動規制の生活指導からの転換—」	テキストの「屋外生活者殺傷事件」「重大少年事件の実証的研究」に関する記載内容（pp.42-53）をもとに、行動規制中心の生活指導に限界が生じた経過について、根拠を挙げて解説できるようになりましょう。 そして、今日求められる「関係性の生徒指導」の重要性について、重大少年事件を視点に根拠を挙げてながら解説できるようになりましょう。
8	8 生徒理解と教育相談・進路相談 (1) —関係性を深めるために— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.53-61 学習指導書「5 生徒理解と教育相談—関係性を深めるために—」 「(1) 教師達の不適切な言動と生徒理解」	教師に求められる「関係性を深める資質や能力」（コミュニケーション能力など）について、自分自身のありようを振り返ります。その振り返りから課題をつかみ、今後の自己変革に役立て、教育相談・進路相談の実践力につなげる契機としましょう。 学習指導書の「5 生徒理解と教育相談—関係性を深めるために—」「(1) 教師達の不適切な言動と生徒理解」「大学生への調査結果 自分が経験した教師達の不適切な言動」を読み、自分の経験や自らの言動を振り返りましょう。その上で、時に同様の傾向の言動をすることはないかなど、自分のコミュニケーションの特色や人への言動の課題について分析してください。
9	9 生徒理解と教育相談・進路相談 (2) —関係性を深めるために— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.53-61 学習指導書「5 生徒理解と教育相談—関係性を深めるために—」 「関係性を深めるコミュニケーション能力」「(1) 教師達の不適切な言動と生徒理解」「(2) 関係性を深める教師の聴き方・話し方」	教師に求められる「関係性を深める資質や能力」（コミュニケーション能力など）について、自分自身のありようを振り返ります。現在の自分のコミュニケーションや言動の特徴やくせを知ることは、新たな自己認知となり、児童生徒との関係性を深めることのできる教師に近づくための自己変革の方法でもあります。 教師が子どもと話すときの言葉と話の聴き方について考えます。子どもが教師に話そうという意思をもつのは、どんな状況でしょうか。この点を考察するために演習課題を学習指導書に用意しましたので、実施してください。 学習指導書の「5 生徒理解と教育相談—関係性を深めるために—」の「(2) 関係性を深める教師の聴き方・話し方」の演習 1～演習 2 の指示に従いシミュレーションをやってみてください。
10	10 生徒指導上の諸問題 (1) —いじめ問題への理解と指導— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.25-30、pp.111-135 学習指導書「2 児童生徒の人間関係と成長上の課題」「児童生徒の自己像・将来像・人間関係」(1)～(7)、特に(6) いじめと子どもの人間関係など参照 「5 いじめへの理解と指導」	児童生徒の人間関係で生じるいじめは年間 18 万件を上回る状況であるとともに、自殺にも至るケースがあるなど、その深刻さは重大な社会問題となっています。 いじめとは何か、その定義について考察し、それを生み出す児童生徒の人間関係のありようにかかる本質的問題を理解して、解説できるようになりましょう。 児童生徒の人間関係のありようにかかる本質的問題とは、すでに学んだ「3 児童生徒の成長上の課題と生徒指導・進路指導」の児童生徒の成長上の課題に深く関係しています。また、その本質的問題は「いじめの四層構造」となって現われ、深刻化を招いています。 いじめが児童生徒の人間関係のありようにかかる本質的問題に起因する現象であることを理解し、いじめの定義について解説できるようになりましょう。さらに、「いじめの四層構造」を用いて、いじめが深刻化する過程を解説できるようになりましょう。
11	11 生徒指導上の諸問題 (2) —暴力行為への理解と指導— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.2-6、pp.19-25、pp.27-30 学習指導書「2 児童生徒の人間関係と成長上の課題」「平成 25 年度暴力行為発生数」「児童生徒の自己像・将来像・人間関係(1)～(7)」特に「(5) 暴力行為 1 件当たりの加害生徒数の推移」①②参照	児童生徒による暴力行為は年間 55,000 件余に上り、近年小学校に顕著な増加傾向が認められます。小学校での対教師暴力も平成 26 年度 2,151 件と急増傾向にあります。 こうした暴力行為の状況を詳細に調査すると、昭和 50 年代の暴力行為のありようとはその傾向や質に大きな変化が見られることがわかります。この変化については、テキストは「“番長”と“キレる”の違い」と題して論評しています。 テキストや学習指導書の資料、また自ら資料を収集したデータを根拠にして、暴力行為の近年の傾向や質の変化について、現代の児童生徒の成長上の課題（「発達課題の未消化」「青年期の自立遅滞」）の視点から解説できるようになりましょう。

12	12 生徒指導の具体的な進め方—自律的アプローチと他律的アプローチ— テキスト「子どもの危機と学校組織」pp.53-66	児童生徒をたくましい自立に導くためには、その指導において「自律的アプローチ」と「他律的アプローチ」が必要であることがテキストに述べられています。テキストの中の「Y男の事例」(pp.54-57、p.58)や「(4) 横浜市で効果をあげている取り組み—『他律的なアプローチ』の具体例」(pp.61-66)を読み、「厳しい指導とは何か」「自律的アプローチ」「他律的アプローチ」、それぞれの内容と関連性について解説できるようになりましょう。
13	13 キャリア教育の必要性と意義 テキスト「小学校キャリア教育の手引き」PP.1-29	キャリア教育の定義を明確にし、キャリア教育の必要性が叫ばれるようになった背景と課題、キャリア教育で育成すべき力、キャリア教育における勤労観、職業観の位置付けについて解説できるようになりましょう。
14	14 キャリア教育の推進 テキスト「小学校キャリア教育の手引き」PP.33-73	キャリア教育を推進するための校内組織の整備、児童に対する指導体制、全体計画、年間指導計画の作成の手順や留意点、学校間の連携について理解すると共に、キャリア教育の評価について、基本的な考え方や評価の視点と方法、改善の視点と方法について理解する。また、指導計画の評価と改善に解説できるようになりましょう。
15	15 小学校におけるキャリア教育 テキスト「小学校キャリア教育の手引き」PP.77-177	小学校におけるキャリア発達、各教科・道徳、総合的な学習の時間、特別活動におけるキャリア教育の進め方について学ぶと共に、各学年ごとの発達段階と実践のポイントを理解しましょう。

シラバス執筆：芹澤成司

レポート課題

第1分冊 芹澤 成司

第2分冊 芹澤 成司

第1分冊 〈略題〉生徒指導上の諸問題と生徒理解
テキスト「子どもの危機と学校組織」, 学習指導書

横書き指定

直接入力

〈課題〉

○児童生徒の人間関係で生じるいじめは、年間68万件を上回り、自殺にも至るケースがあるなど、深刻化が指摘されています。なぜこれほど多くのいじめが発生し、しかも深刻化してしまうのか。その要因には、現代の児童生徒の人間関係のありようにかかる本質的問題があります。いじめが深刻化する背景・要因について、児童生徒の人間関係のありようにかかる本質的問題を指摘しながら、根拠を挙げて考えを述べてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①根拠の明示
テキスト「子どもの危機と学校組織」及び学習指導書の資料等を十分に読み込み、あるいは必要に応じて独自に資料収集して、それらから根拠を抽出して、根拠を明示する記述をすること。
- ②自分らしい実践的な記述
テキストや学習指導書等の内容をつなぎ合わせるようなものではなく、例えば自分自身の経験やエピソードを取り入れるなど、現実感のある自分らしい記述となることが望ましい。

〈評価の観点〉

評価基準 出題の意図を正しく捉えて論理的に考えを述べているか、論じている視点・論点・根拠の確かさ、記述内容の理解度の深さや具体性、教職を目指す者としての意識の確かさ、自らの経験や自己認識に基づくものであるか等により総合的に評価します。
文章の拙劣さ、余計な表現・表記や誤字・脱字等は適宜減点の対象となります。
※評価基準に示した論理性や論点、根拠や具体性などが不十分で評価できない場合は、再提出評価になります。

〈その他の注意点〉

文献等からの引用は必ず出典を明記すること。参考文献がある場合は明記すること。

第2分冊 〈略題〉キャリア教育と自己形成
テキスト「小学校キャリア教育の手引き 改訂版」

横書き指定

直接入力

〈課題〉

テキスト p.13～p.15 にあるキャリア教育で育成すべき4つの基礎的・汎用的能力のうちの1つを選び、現在あなた自身が仕事をしたり、社会で生活したりする中で、自分のキャリア形成に選んだ能力がどのように生かされているか、具体的な事例をあげながら説明しなさい。また、あなた自身の小学校高学年の教育を振り返る時、選んだ能力が身につについていたり、高まっていたりしていった具体的な教育内容や言葉かけなどの指導について、またその経験を教師になったときにどのように生かしていくのかについて、テキスト p.147～p.149 の高学年のキャリア発達課題を基に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①あなた自身が選んだ基礎的・汎用的能力についてその定義も含み説明した後に、自分の体験や考えを踏まえて、具体的に述べなさい。
- ②シラバス 13～15 の学習課題についての理解を深め、「キャリア教育」の今日的な意義を理解した上で記述することが望まれます。
- ③高学年のキャリア発達課題については、すべてについて網羅的に答える必要はありません。自らのキャリア形成の過程について取り上げる中で、今後のあなた自身の実践につながるようなレポートになることを期待しています。
- ④課題内容の一部しか記述していないレポートは不合格になります。

〈評価の観点〉

評価基準 出題の意図を正しく捉えて論理的に考えを述べているか、論じている視点・論点・根拠の確かさ、記述内容の理解度の深さや具体性、教職を目指す者としての意識の確かさ、自らの経験や自己認識に基づくものであるか等により総合的に評価します。
文章の拙劣さ、余計な表現・表記や誤字・脱字等は適宜減点の対象となります。
※評価基準に示した論理性や論点、根拠や具体性などが不十分で評価できない場合は、再提出評価になります。

〈その他の注意点〉

文献等からの引用は必ず出典を明記すること。参考文献がある場合は明記すること。

参考文献

『生徒指導提要（令和4年12月）』ISBN978-4-491-05175-8 文部科学省 発行所：東洋館出版社
『中学校キャリア教育の手引き』ISBN978-4-31630-026-9 文部科学省 発行所：教育図書株式会社
そのほか、学習指導書等で紹介した出典元や関係サイトを閲覧して、学習を深めることを勧めます。

科目試験等への
アドバイス

科目試験やレポート課題に向けては、各学修テーマと課題について、テキストの熟読や学習指導書の資料活用を通して根拠を明らかにしながら、「解説できる」「考察を深める」などの課題克服を確実にしておくことが、科目試験等への最も有効な準備活動になります。
科目試験やレポートの評価基準は、出題の意図を正しく捉えて論理的に考えを述べているかを基本として、以下、論じている視点・論点・根拠の確かさ、記述内容の理解度の深さや具体性、教職を目指す者としての意識の確かさ、自らの経験や自己認識に基づくものであるか等により総合的に評価します。文章の拙劣さ、余計な表現・表記や誤字・脱字等は適宜減点の対象とします。

教員からの
メッセージ

あらゆる教育活動の「機能」として位置づけられる生徒指導を学ぶ場合には、理論や方法論に先んじて、自らの「関係性」を材料として、自己認識や自己適応の状況、他者理解や環境適応について考察を深めていくことが重要になります。言葉を換えれば、自分自身の関係性を振り返り自己実現の状況を客観的にとらえ返していくことを通して自己認識を深め、自己変革への視座を明確にもつことが生徒指導を学ぶ意義であり目的なのです。なぜなら、児童生徒がその同様の過程を踏んで自己変革を図り、自己を実現していこうとする道筋にあり、それを導き、支援する立場に教師が立っているからです。本講座で提示される資料や課題をもとに、自己認識を深めることを通して、児童生徒の自己実現を的確に支援できる教師としての実践力を学んでいきましょう。

科目概要	教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即して、個々の心の理解をし、適切な支援をするために必要な基礎的知識を身に付ける。組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、進め方が例示できるような学習をする。いじめ・不登校・学級崩壊、虐待、発達の問題などを早期発見し、的確な支援のための学習をする。
主な到達目標	児童生徒の心理的・身体的発達の知識を得て、心の理解を深める。教育相談の基礎的知識（意義、理論と方法）およびカウンセリングの基礎的事柄を学び、早期発見に繋がる力をつけ、教育相談に役立てることができる。学校内（教員及び養護教員、校医、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど）及び学校外（家庭・地域社会など）との連携の在り方を学び、学校内の問題に組織的な取り組みができる基礎を作る。
テキスト学修の留意点	1. 児童生徒を理解する。2. カウンセリング・教育相談の基礎知識を学ぶ。3. 教育相談の実際を学ぶ 4. 組織的な取り組みやさまざまな連携について学ぶ、ことを学習目標とする。個性的な児童生徒や発達の差を理解し、保護者と連携しながら、児童生徒の適応を支援することを幾つかの視点から学び、教育現場で実践できるようになるための学習をする。

	学修テーマ	課 題
1	教育相談とは	教育相談とは何をすればよいのかを学習する。さらに、学校における教育相談の特徴を学修する。
2	学校における教育相談活動の在り方	学校における教育相談が実際にはどのように行われているかを学修する。
3	教師におけるカウンセリング理論	教師が教育相談を行う際に必要なカウンセリングの基礎用語を学び、代表的なカウンセリング技法を学修する。
4	児童生徒理解	児童生徒を理解するために必要な理論と方法を学習する。小学生、中学生、高校生のこころの発達について学修する。これらの知識をもとに、自分の意見を考え、実際に児童生徒理解ができるように学修を進める。
5	いじめ	いじめについて、定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての対応方法を学修する。実際に教員になったときに、いじめはいけないという啓発活動、いじめの早期発見およびアプローチなどをどのようにしていくか、具体的にイメージしながら学修すること。
6	不登校、学級崩壊	不登校、学級崩壊についてそれぞれ定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての対応方法を学修する。
7	虐待、非行、問題行動	虐待、非行、問題行動についてそれぞれ定義や現代の特徴を学修する。さらに教員としての、児童生徒理解をしたうえでの対応方法を学修する。
8	インターネット関係のトラブル、性的な問題	インターネット関連の問題や、性的な問題を学修する。
9	障害のある児童生徒とその保護者の理解と対応	障害のある児童生徒についての理解を深めるために、正しい障害の理解を身につける。さらに教員としてどのように援助すべきかを学習する。
10	通常学級に在籍するグレーゾーンの児童生徒の理解と対応	通常学級におけるいわゆるグレーゾーンといわれる児童生徒の理解と対応を学修する。
11	保護者との協力体制の作り方	保護者との協力体制（連携）は教育相談を行う際に必須である。児童生徒のために保護者と教員が信頼関係に基づく協力体制を作るにはどうしたらよいかを学修する。
12	教員によるこころのケア	人は生きていけば必ずこころが傷つくような体験をする。こころの傷（トラウマ）の理解と支援の方法を学修する。
13	教員のメンタルヘルス	教員特有のストレスを学習し、対処方法を学ぶ。休職率、離職率が高まる中で、自らのメンタルヘルスを考える。また、休職・離職・復職などの対応への知識を身に付ける。
14	事例の復習 1	1 章から 6 章までに出ている事例を読み、自分自身で教育相談を行い、解決していくためにどのように教育相談の体制を作っていくかなどを考え、まとめること（必ず文字にして書くこと）。
15	事例の復習 2	7 章から 12 章までに出ている事例を読み、自分自身で教育相談を行い、解決していくためにどのように教育相談の体制を作っていくかなどを考え、まとめること（必ず文字にして書くこと）。

シラバス執筆：原田 眞理

レポート課題

第1分冊 原田 眞理

第2分冊 原田 眞理

第1分冊 〈略題〉いじめ 1章から6章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

いじめは被害者・加害者のみではなく、傍観者、観衆も含めて構成されているとテキストに書いてあります。では、いじめは卑劣であるという指導をする際に、どのように児童生徒に説明をしたらよいか、学年別に述べなさい。

1. 小学校3,4年生
2. 中学1年生

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

いじめをはじめ、不登校、学級崩壊など、学校内の問題が多発している。早期発見早期解決はもとより、予防も大切である。いじめはいけな、いじめが卑劣であるという指導を、発達といじめ理論をふまえて、自分自身で考えるための課題である。とはいえ、感想文や自身の体験談を述べるだけでは学修とならず、テキスト学修を踏まえ、客観的根拠を伴い論じること。テキスト該当部分のみでなく、範囲全体を読むこと。

〈評価の観点〉

いじめの構造を理解しているか
児童生徒の発達を理解しているか
自分自身の意見が、客観的根拠を基に述べられているか

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉加害者理解 7章から12章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

小学校入学時から独特のこだわりがあり、人の気持ちを思いやるのが苦手な小5の女兒。掃除の時間に、その女兒が他の女兒から「キモい」「さっさと掃除しろ」といじめられているところを発見。加害児童は成績が良く、中学受験をするために塾に通い始めている。家庭も勉強に熱心で兄も有名高校に通学している。

1. その場で女兒および加害児童にどのように介入するか、具体的な言葉で述べなさい
2. 加害者についても理解が必要です。上記の情報のみから、いじめ加害をする理由を考えなさい
- 3.2. の理解に伴い、加害児童への対応方法を述べなさい

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

あなたが担任という設定で論じなさい
児童生徒理解の章、グレーゾーンの章を中心に、テキスト全体を学修すること
1. はそれぞれに対する具体的な会話の言葉で書きなさい
また、課題はいじめの場面の設定です。片方が加害児童ならば、「キモい」と言われている女兒は被害児童です。
被害児童と捉えずに、発達障害は迷惑をかけている児童だと論じているレポートがありますので、明確にしておきます

〈評価の観点〉

テキストにおける心の理解を学修しているか
教育相談における、言葉によるやりとりが実践できているか
加害者理解に基づく対応ができているか
経験談ではなく、テキスト学修に沿って論じられているか

〈その他の注意点〉

加害児童を理解せずに短絡的に指導するだけでは不合格となる
レポート課題以外のテキスト、すなわちテキスト全体を学修したうえで取り組むこと

参考文献

学修はテキスト学修を基本とする。さらに発展した学修をしたい場合には、テキストにある参考文献を探してみるとよい。また、文部科学省のHPには教育相談にかかわる新しい情報も提供されるので参考になる。
文部科学省、生徒指導提要（改訂版）令和4年12月に新しくなりましたので、目を通してください
原田眞理著『子どものこころ——教室や子育てに役立つカウンセリングの考え方』ナカニシヤ出版 2011
原田眞理著『子どものこころ、大人のこころ——先生や保護者が判断を誤らないための手引書』ナカニシヤ出版 2018

科目試験等への
アドバイス

本科目試験では、テキスト学修がきちんと成されてるか、すなわちテキストの内容を理解し、説明できるかを重視する。そのため、解答において、概念の説明の際は、テキストに書かれたキーワードなどを用いて、テキストで学修したことを解答することが望ましい。その後自分の考えを論じることが望ましい。自分の考えのみを論述されても、基本的な概念が学修されているかが測れないため、減点の対象となる。

教員からの
メッセージ

教育相談はテキスト学修だけでは、現場で実践的に使用しようとしてもなかなかうまくいかないものである。そのため、ただ受身的にテキストを読むだけではなくこのテキストに出ている具体例について自分ならどうするか、自分の対処方法（生徒指導も含む）を考えてみるのが大切である。また、的確な対処（指導）ができるかどうかは児童生徒を理解できているかにかかっている。健康な児童生徒の発達を理解し、何か起きたときになぜこの児童生徒がこの状況に陥っているのかを理解していく姿勢が非常に大切である。すべての事象について、問題が起きる前の解決、早期発見早期対応が大切となるので、理解ができていると、小さな変化に気づくことが可能となる。学修指導書もあわせて学修すること。

科目概要	本科目では、子どもたちの視点に立った、より好ましい教育方法について学びます。具体的には、西洋や日本の教育方法の歴史を学ぶことから始め、学習理論や授業設計の方法、評価の方法などについて学びます。この教科は、これからの教育実践の現場で働こうとするみなさんにとって、最も必要とされる学問のひとつであり、他の多くの科目の基礎となるものです。
主な到達目標	・テキスト本文に太字で示されているキーワードについて説明できる。 ・教育方法に関する歴史的な経緯や課題等を踏まえ、より良い授業を展開するための授業設計ができる。
テキスト学修の留意点	・テキスト本文中で太字になっているキーワードについては、しっかりと説明できるようにしてください。キーワードはテキストを読み進めると繰り返し出てきます。言葉を大切に学修を進めてください。 ・レポート課題では、テキストの内容がしっかりと理解できているか、それをもとに考察ができているのかを見ます。学修指導書の「2 研究と学習の方法」に書いてある方法や「レポート課題」に書いてある留意事項などを参考にしてください。

	学修テーマ	課 題
1	西洋における教育思想と教育方法の歴史	西洋における教育思想と教育方法の歴史について学びます。例えば、「コメニウスの教授学」など、近代教育思想と教授学の成立について学び、「タイラーの原理」と呼ばれるカリキュラムモデルなどについても学びます。
2	日本における教育改革と教育方法の歴史	ここでは、日本における教育思想と教育方法の歴史について学びます。1 回目と同じく、多くのキーワードが出てきますので、確実に理解するようにしてください。
3	現代教育方法学の論点と課題	教育方法に関する 4 つの論争について取り上げます。ここで大切なのはどちらが勝ったのかではなく、これらの論争で何が提起されたのかを知ることです。
4	子どもは何を学ぶか	4 回目では「教育目標」について学びます。つまり、何を対象に、どのような力を子どもたちにつけることを目標とするのかについてです。どのように教育目標を設定すべきかについて考えてください。
5	学習とは何か（1）	学習について考える時、行動主義的学習理論、認知主義的学習理論、状況主義的学習理論を知る必要があります。5、6 回目に学習する中には、例えばピアジェによる発達段階論など、とても大切な言葉がたくさん出てきます。それぞれの用語をしっかりと理解していくようにしてください。
6	学習とは何か（2）	5 回目と同じです。
7	学力をどう高めるか	テキストでは、学力を「できる学力」と「わかる学力」にわけて考えます。また、その一例を示していますので、授業をイメージしながら読み進めてみてください。
8	授業をどうデザインするか（1）	8、9 回では、授業をデザインすることとはどのような意味なのかを考えてみましょう。また、「学び」と「勉強」の違いについて示されていますが、それについて皆さんはどう考えますか。
9	授業をどうデザインするか（2）	8 回目と同じです。
10	教育の道具・素材・環境を考える	子どもたちの興味・関心・意欲などを引き出す教材づくりについて考えてみましょう。また、メディア教育や学習空間などについても考えてください。
11	何をどう評価するか（1）	評価は子どもたちの成績をつけるためだけのものではなく、自分（教師）の設計した授業がうまく展開できたのかを確認するための手段です。11、12 回目では、評価に関する用語の意味だけではなく、その背景も理解してほしいと思います。
12	何をどう評価するか（2）	11 回目と同じです。
13	教科外教育活動を構想する	ここでは、教科外教育の役割を確認するとともに、「集団づくり・自治活動」「文化活動」「相談活動」の役割と特徴について確認します。
14	どのような教師を目指すべきか	教師を志すみなさんが、これからどのようなものを身に付けてゆくべきか、どのように身に付ければ良いのかをここでは考えてみましょう。
15	まとめ	教える専門職である教師にとって何が大切なのか。もう一度考えてみましょう。

シラバス執筆：田畑 忍

レポート課題

第1分冊 田畑 忍

第2分冊 田畑 忍

第1分冊 〈略題〉教育方法における論点 序章+第1～3章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 「問題解決学習」論争についてテキストの該当部分を要約しなさい。また、自身の考えを述べなさい。
- (2) 「たのしい授業」論争についてテキストの該当部分を要約しなさい。また、自身の考えを述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・課題(1)、課題(2)と表記してレポートを作成すること。
- ・要約とは「文章のポイントを短くまとめて示すこと」です。テキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について説明すること。
- ・要約については、自分の解釈を示すのではなく、テキストに何が記されているのかを正確に説明すること(要約すること)。

〈評価の観点〉

- ・テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・自分自身の考えを論理的に説明できているか。

〈その他の注意点〉

文献などから引用する際は、必ず注記すること。

第2分冊 〈略題〉対話的・協同的な学び合い 第4章～11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 対話的・協同的な学び合いについて、テキストの該当部分を要約しなさい。
- (2) ある科目のある単元についての授業のうち1回分を想定し、対話的・協同的な学び合いを実現する学習指導案を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (「その他の注意点」もあわせて確認すること)
- ・課題(1)についてはテキストの該当部分をよく読み、キーワードを押さえ、そのキーワードを中心に課題について要約すること。
 - ・学習指導案は、本時の指導計画(「本時の目標」「準備・資料」「本時の展開」「本時の評価」は必須。「板書計画」は出来る限り記入)のみで構わない。
 - ・「本時の展開」は「導入ー展開ーまとめ」の流れに分けて表を利用して記入し、「予想される児童の反応」も記入すること。
 - ・「ワークシート」を利用する場合は、内容を具体的に記述すること。

〈評価の観点〉

- ・課題(1)については、テキストの該当箇所が適切に要約されているか。
- ・作成した学習指導案が、想定した学習内容の授業を具体的にイメージできるものになっているか。
- ・上記の留意事項をきちんと守っているか。

〈その他の注意点〉

- ・「班で〇〇について考えさせる」等、児童にグループ学習の成果を任せるような指導案を時々見かけるがそれは不可とする。グループ学習をさせる時は、教師の指示などを記入すること。
- ・書籍などにある学習指導案を引用・加筆しているレポートが見られるが、それは認めない。
- ・幼稚園コースの方の場合、課題(2)については幼稚園での指導場面を想定し、対話的・協同的な学び合いを実現するものを作成しても構わない。その場合、科目名や単元名、評価などは必要ないが、「展開(流れ)」については活動の様子がイメージできるように詳しく記述すること。

参考文献

- ・学習指導案を作成する時は、教科書を参照すること。
- ・より深く学修するためにはテキストの巻末にある参考文献を参照するとよい。

科目試験等へのアドバイス

- ・科目試験については、テキストの内容をしっかりと理解した上で挑むようにしてください。テキストの内容を理解して、説明できているかどうかを重視します。
- ・科目試験についても、テキストで示されているキーワードについては適切かつ正確に使用することが求められます。
- ・学修指導書の「科目試験の準備」も必ず読んでおいてください。

教員からのメッセージ

- ・ただテキストを読み進めるだけでは、教育実践の現場で役立つ学びにはなりません。
- ・教師にとって必要なもののひとつに想像力があります。
- ・テキストを読む時、レポートを作成する時、学習指導案を作成する時など、いつも子どもたちの前で授業をしている自分自身をイメージしてみてください。目の前にいる子どもたちの反応をイメージしてください。
- ・そうする日々の取り組みが、将来、教育実践の現場に立った時には必ず役立つ筈です。

科目概要	「特別支援教育」のテキストは佐藤浩一著『学習支援のツボ』（北大路書房 2014 年）を用い、第 1 章から第 6 章までを第一分冊、第 7 章から 12 章を第二分冊とする。第一分冊では、認知心理学の基礎的理論について学び、第二分冊では、基礎的指導スキルや思考ツール、グループワーク等について学ぶ。
主な到達目標	①子どもたちはどのように外界の情報（見たり、聞いたり）をキャッチし、どのように考え（整理し）、どのように覚えたり、思い出したり、行動しているのか、児童生徒の頭の働き方や使い方について理解を深める。 ②子ども一人ひとりの特性に応じた学び方や行動の仕方、コミュニケーションの取り方を提供する（沢山の引き出しの中から、二人で相談しながら決める）ことができる。
テキスト学修の留意点	テキスト学習において示された理論と支援方法を丁寧に学習した上で、さらに、別の支援内容や支援方法の工夫、開発に挑戦します。全く別の分野の知識や経験から、発想を展開していくことも有効な手段です。理論と実践を結びつけ、引き出しを増やすには自ら挑戦し、考えるほかにはありません。そして、これは特別な能力ではありません。考えれば考えるほど磨かれていくものです。

	学修テーマ	課 題
1	頭の働きについて	「処理資源」「知識のネットワーク」「文章題を解く 4 つのステップ」等について学びます。
2	頭の使い方について	勉強方法について学びます。「集中学習と分散学習」「生成効果」「学習方略」等について学びます。
3	メタ認知について	「モニタリングとコントロール」等について学びます。発達障害の子どもたちには「メタ認知の代行」ということが特に必要になります。
4	学習は経験に基づく長期的な変化	発達障害の子どもには、「反復方略」だけでは効果がありません。「分散学習」「変化のある繰り返し」が必要になります。
5	学習を生かすということ	「知識のネットワーク」について学びます。「転移」「教訓帰納」「思い出す」等について学びます。
6	指示・発問・説明について	発達障害の子どもたちへの効果的な指示、発問について学びます。「マスター（マスタリー）モデルとコーピングモデル」について学びます。
7	言語活動について	子ども同士の説明活動の効果について学びます。発達障害の子どもたちには「思考ツール」等を活用した思考の可視化が効果的です。
8	グループ学習について	「グループ学習」の理論を学びます。発達障害のある子どもたちには、教師の支援と生活を基盤としたグループの営みが重要です。
9	道具について	「勉強道具」について学びます。発達障害の子どもたちには、情報機器等の活用が合理的配慮の観点から必要不可欠です。いろいろな活用を考えてください。
10	やる気について	「6 つの動機づけ」「基本は安全、安心」「プロジェクト学習」「計画力」等について学習します。
11	テストや評価について	「ループリック」「ピグマリオン効果」等について学びます。
12	ツボについて	まとめの章です。「万能薬はない。その子にあった方法」「すべてはつながっている」
13	第一分冊の復習と具体的支援策の開発	第一分冊の学習を振り返り、自分なりの工夫で、一つでも多くの具体的支援策を考えてください。
14	第二分冊の復習と具体的支援策の開発	第二分冊の学習を振り返り、自分なりの工夫で、一つでも多くの具体的支援策を考えてください。
15	まとめ	すべてを振り返り、理論と具体的支援策を整理してください。

シラバス執筆：齋藤 大地

レポート課題

第1分冊 齋藤 大地

第2分冊 齋藤 大地

第1分冊 〈略題〉頭の働きと使い方 第1章～第6章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「知識のネットワーク」「学習方略」「メタ認知の代行」についてそれぞれ説明しなさい。

2400字～3000字でまとめ、字数を表記すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所をよく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に説明すること。自分の解釈を示すのではなくテキストの内容を正確に要約説明すること。そのうえで、自分の意見をのべること。

〈評価の観点〉

テキストの正確な説明がなされているかどうか。キーワード、説明が不十分であれば再提出となる。

〈その他の注意点〉

2400字～3000字でまとめ、字数を表記すること。

第2分冊 〈略題〉基礎的な指導スキルと発展的な学習 第7章～第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「第9章の道具」「思考ツール」「プロジェクト学習」についてそれぞれ説明しなさい。

2400字～3000字でまとめ、字数を表記すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所をよく読んでキーワードをきちんと押さえ、そのキーワードを中心に説明すること。自分の解釈を示すのではなくテキストの内容を正確に要約説明すること。そのうえで、自分の意見をのべること。

〈評価の観点〉

テキストの正確な説明がなされているかどうか。キーワード、説明が不十分であれば再提出となる。

〈その他の注意点〉

2400字～3000字でまとめ、字数を表記すること。

参考文献

.....
本科目を学習するにあたって、参考になる文献を以下に紹介します。

①発達障害児の理解のために

小野次朗他編『よくわかる発達障害第2版』ミネルヴァ書房 2012年

②本テキストからさらに理解を深めるために

佐藤浩一編著『学習の支援と教育評価』北大路書房 2013年

科目試験等への
アドバイス

.....
テキスト全体を丁寧に学習してください。理論の説明は、テキストに書かれたキーワードを使って、テキストに書かれたことを解答してください。その上で、自分の考えを論じてください。そして、発達障害児への具体的支援策を述べてください。

教員からの
メッセージ

.....
レポート課題をしっかりと学修し、理論と実践、発達障害の子どもへの具体的支援が説明できることです。

07885 外国語活動の指導法

2単位

テキスト名

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・
衣笠知子編著
『小学校英語教育入門』研究社

科目概要	この科目では、2011 年度より第 5 学年・第 6 学年を対象に必修化された、「小学校外国語活動」についての理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養うための効果的な授業を設計し、実際に運営するために必要な基礎的な知識・スキルを養います。
主な到達目標	・「小学校外国語活動」の必修化の経緯と目的、目標を理解する ・言語習得の知識・児童の発達段階に関する知識を得る ・教材・シラバス・言語活動に関する知識を習得し授業案の作成や評価方法について理解する ・旧・現学習指導要領の違いを知り、小学校外国語教育の変遷や今日的な課題を理解する
テキスト学修の留意点	この科目は、背景⇒理論⇒授業計画⇒授業実践とつながるように設計されています。最終的なゴールを念頭に、それぞれのつながりを考えながら、またはイメージしながら学修を進めてください。なお、現在、学習指導要領も変わり、2020 年度から、高学年では「外国語科」、中学年では「外国語活動」となりました。指導方法や評価方法も変わっていますので、それらを念頭に置いて学修していきましょう。

	学修テーマ	課 題
1	外国語活動の目的と目標	<テキスト第 1 章>日本の小学校英語教育の歴史を概観し、どのような経緯で「外国語活動」の形になったのかを知った上で、旧学習指導要領で示されている目標を理解しましょう。その際、テキストだけでなく、『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(2008)にもしっかりと目を通してください。
2	外国語活動の意義と方向性	<テキスト第 2 章>言語習得の知識や児童の発達段階に関する知識を得ながら、小学校で外国語活動を行う意義を理解してください。また、言語面以外の外国語教育の側面である、国際理解教育や異文化間コミュニケーションについての理解も深めましょう。
3	指導者の役割と必要な資質	<テキスト第 3 章>外国語活動の指導者に求められる資質や能力はどのようなものかを理解し、外国語活動は誰が指導すべきかについて考えてみましょう。担任、専科教員、ALT、地域の中学校英語教員などそれぞれの利点・欠点を整理してみてください。
4	外国語活動の教材・テキスト	<テキスト第 4 章>文部科学省が作成した共通教材『Hi, friends! 1, 2』の内容と構成について概観します。ここでは、韓国と台湾の小学校で使用されている教科書と比較することで、『Hi, friends! 1, 2』の特徴を考えてみましょう。
5	指導目標、年間計画の立て方	<テキスト第 5 章>文部科学省は、外国語活動の目標を示し、共通教材を使った年間指導計画を公開しています。しかし、大切なことは、地域・学校・児童の実態に合わせ、各校独自の指導目標を設定し直し、それに則した年間指導計画を作成できることです。ここではその方法の理解を深めましょう。
6	言語材料と 4 技能の指導	<テキスト第 6 章>外国語活動で扱う、音声・文字・語彙および表現にはどのようなものがあるのでしょうか。中学校英語と共通する内容・違う内容は何かにも目を向けながら、小学校段階での 4 技能（聞く・話す・読む・書く）をどのように指導すれば良いかを考えましょう。
7	教材研究①	<テキスト第 7 章>外国語活動の目標を実現するための具体的な言語活動に関する知識を深めましょう。特に、ここでは英語を楽しむことに焦点を当てた活動を概観し、それらのねらいをしっかりと理解しましょう。
8	教材研究②	<テキスト第 8 章>7 回目の課題に加え、今度は児童が自分の考えや思いを伝えたり、興味を持って情報のやりとりをする発展的な言語活動について理解を深めます。
9	指導法と指導技術	<テキスト第 9 章>外国語活動における様々な指導方法に関する知識を得ます。発問や指名、活動形態などそれぞれの狙いを理解することで、より円滑な授業実践につながります。
10	教材・教具の活用法	<テキスト第 10 章>外国語活動で使用される教材・教具の選定の視点について理解します。民間の英語教室で使われたり、一般に市販されている教材などたくさんありますが、小学校の教室環境や教育目標と合っているのでしょうか。教材・教具の選定や活用法に必要な視点を身につけましょう。
11	評価のあり方、進め方	<テキスト第 11 章>外国語活動は領域扱いのため、数値による評価はなじまないとされていました。ここでは、外国語活動において評価をどのように行い活用すべきか、また評価にあたっての留意点について考えましょう。
12	授業過程と学習指導案の作り方	<テキスト第 12 章>授業の設計図である授業案の作成方法について勉強します。教材を媒介にして、教師と児童の相互作用によってダイナミックに展開される授業を設計するには、どのような手順を踏めば良いかを知しましょう。
13	授業づくり	<テキスト第 13 章>よりよい授業づくりのコツを、「授業前の準備」、「授業中の留意点」、「授業後の振り返り」それぞれの段階にわけて、どのようなことに留意し、どのようなことをすべきかを概観しましょう。
14	外国語活動の成果、課題と今後の展望	<テキスト第 14 章>2011 年から実施の外国語活動はその成果と課題が明らかになっています。ここでは、成果と課題を整理した上で、それらを踏まえていくつかの課題について検討してみましょう。
15	新しい外国語活動と外国語科	学修テーマ 14 を受け、2020 年度より教科となった外国語科について理解を深めましょう。『学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』を熟読し、中学年に導入された外国語活動とのつながり、高学年の外国語科と今までの外国語活動とは何がどのように違うのか比較しましょう。

レポート課題

第1分冊 鈴木 さおり

第2分冊 鈴木 さおり

第1分冊 〈略題〉学習指導案の作成 テキスト第7章～第14章 (p76-188)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第12章の「学習指導案の構成と作り方」を参考に、「行きたい国（とその理由）」をテーマにした単元において、小学校5年生（2学期）を対象とした1時間分の学習指導案（本時の展開部分のみ）を作成せよ。

- ・単なるゲームやパタンプラクティスにならないよう、言語材料を用いる場面をしっかりと設定すること
- ・最初に、1. 本時の目標（現学習指導要領における主な評価の観点をもつ） 2. ○／○時（単元における何時間目にあたるのか） 3. 言語材料および使用が予想される語彙を示したのち、本時の展開部分の指導案（表）を作成すること

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・テキストp161-162にある「本時の展開」の表を参考にし、授業課程の項目はそのままの文言を使用すること。
- ・ウォームアップや復習における活動は、授業の流れを意識し各自で考えること。
- ・日本語で活動の説明ばかりを書くのではなく、適宜教師の英語による指示や児童同士の英語による対話文などを表に記入すること。T: S1: S2: などの記号を使用すること。
- ・指導上の留意点（※）と評価（☆）の欄は、スペースの確保が難しければ指導者の活動の中に入れてもよい。

〈評価の観点〉

- ・1時間の流れを意識し、それぞれの活動がつながりをもったものになっているか。
- ・児童の自分の思いを伝える活動が指導案のメインアクティビティになっているか。
- ・教師や児童が実際にどのような英語を用いてやりとりをするのか、指導案から読み取れるか。

〈その他の注意点〉

- ・参考文献、教科書（指導書も含む）および補助教材、インターネット等から入手した学習指導案や活動例をそのまま丸写ししたり、部分的に加筆・修正したものを提出することは認めない。必ず独自の学習指導案を考察すること。
- ・参考文献、教科書、インターネット上で検索したもの等がある場合は、必ず文末に明記すること。

第2分冊 〈略題〉小学校英語教育の変遷と望ましい指導法 テキスト全範囲

横書き指定

Word添付

〈課題〉

テキスト学修を終え、旧学習指導要領での外国語活動と現学習指導要領で指導されている外国語科および外国語活動との違いを説明せよ。中でも、特に自身が気になった項目や新しい指導内容については詳しく示すこと。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・違いを羅列していくレポートではなく、なぜそのような経緯をたどっているのか、どんな課題からの改善点かなど、具体的に根拠を示しながら論じること。
- ・旧、現学習指導要領ともに熟読し、レポート作成に活かすこと。

〈評価の観点〉

- ・根拠を示しながら、旧、現学習指導要領の違いについて示すことができているか。
- ・特に気になった項目や新しい指導内容については、事実のみを説明するだけでなく、具体的な望ましい指導法などについてもふれられているか。

〈その他の注意点〉

学習指導要領に書いてあることをそのまま書き写すのではなく、書いてあることを自身がどう理解しどのように自分なりの言葉で表現するのが大切である。

参考文献

- ・学修指導書の該当箇所を参照
- ・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』
- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』

科目試験等へのアドバイス

科目試験は、基本的にはその科目の学修を終えたかどうか、単位認定できるだけの知識が身についているかを確認するものです。そのため、範囲はテキスト全体となります。テキスト各章末にある学習課題を中心に出題します。外国語活動におけるキーワードを説明できるようにするだけでなく、具体的な指導法についても考えておきましょう。すでに学習指導要領も改訂されていますので、変遷や変更点、指導内容や評価についてもまとめておきましょう。

教員からのメッセージ

この科目では、旧学習指導要領における「小学校外国語活動」について概観し、実際に授業を設計・運営するために必要な基礎的な知識・スキルを養うことを目標としています。残念なことに、テキストではカバーできない部分があります。それはあなた自身の英語力強化です。教師が指示などで用いる「クラスルーム・イングリッシュ（教室英語）」は別途練習する機会を持ってください。現在は、高学年では教科になっていますので、教師の英語運用力も高める必要があります。

科目概要	総合学習の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、必要な基礎的能力を身につけ、実際に指導計画作成ができるようになる。各教科や特別活動との関わりを考え、21世紀型学力を育成することのできる授業のための、実践上の留意点や評価の考え方を理解する。
主な到達目標	・総合学習の意義や目標、内容を定める際の考え方を理解する。 ・総合学習の指導計画作成の考え方を理解し、その際必要な知識的な能力を身につける。 ・総合学習の評価と実践上の留意点を理解する。
テキスト学修の留意点	・漠然とテキストを読み進めるのではなく、重要な語句にアンダーラインを引き、サブノートを作成して、その意味をまとめる作業を加えること。 ・「総合学習の指導法」を学修する上では、実際の授業風景をイメージすること。 ・参考文献にも目を通し、さらに内容の理解を深めること。 ・自分で参考となる文献を探し、調べてみる。 自らの学修のあり方を常に見つめ、問い直すことが、本科目で学ぶ学修において求められる。

	学修テーマ	課 題
1	21世紀の社会に求められる人材	21世紀の社会に求められる人材とはいかなる人材か。また、21世紀の社会に求められる能力とはいかなるものか。
2	汎用的能力を育成する探究的な学習	汎用的能力を育成する探究的な学習とはいかなるものか。
3	汎用的能力を育成する協同的な学習	汎用的な学習を育成する協同的な学習とはいかなるものか。
4	ファシリテーターとしての教師の役割	ファシリテーターとしての教師の役割とはいかなるものか。
5	求められる教師の意識変革	「授業を変える」とは、どのようなことをいうのか。
6	教師力はイメージする力	教師に求められる「イメージする力」とはいかなるものか。
7	イメージ力豊かな教師が行う単元づくりと授業づくりのポイント	子どもの関心や疑問をどのようにとらえ、いかに単元づくり、授業づくりにつなげていくか。
8	教師力とは	教師力の専門性はいかなるものか。
9	授業の質的転換に向けたアクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングを授業に取り入れるには、どのようにしたらよいのか。
10	自発的・能動的に学び始める課題設定について	「真性の学び」になるための、課題を設定する学修活動とはいかなるものか。
11	思考ツールで探究的・協同的に学び合う学習活動	思考ツールとは何か。
12	思考ツールで探究的・協同的に学び合う学習活動	思考ツールを使った学習活動にはどのようなものがあるか。
13	自ら学び共に学ぶ探究・協同型の授業について	教師が自ら学び、子どもたちと学びあえる授業について考える。
14	授業を通じた子供の成長	総合学習の授業における子どもの成長と評価について考える。
15	まとめ	これまでの学修を振り返り、総合学習の実践について考えてみる。

シラバス執筆：元 笑予

レポート課題

第1分冊 元 笑予

第2分冊 元 笑予

第1分冊 〈略題〉21世紀型学力を育成する授業 CHAPTER 1～CHAPTER 2

横書き指定

Word添付

〈課題〉

21世紀型学力を育成する授業とはいかなるものか。また、その実践者である教師とはどのようなものか。説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所を熟読し、そのキーワードとなるものをきちんと押さえて記述すること。その際、テキストに記されていることを正確に集約すること。また、自分の考えを述べるにあたっては、テキストの内容をふまえた上で、自らの考えを論ずること。

ただし、レポートの作成にあたっては、テキストの文章を丸写ししてはならない。自分の言葉で表現すること。

〈評価の観点〉

- ①テキストの内容が正確に理解されているか。
- ②自分の言葉で表現されているか。（一般論で論じない）
- ③文章に整合性があるか。
- ④わかりやすく表現されているか。
（書いたものをよく読んでみる）

〈その他の注意点〉

Webで提出するときは、大学指定のテンプレートを使用すること。10.5ポイントMS明朝を基本的を使用すること（特徴づける言葉や節に題をつけるときはゴシックでも構わない）字数は2,500字程度でまとめ、文章末に合計字数を記載すること。

第2分冊 〈略題〉総合学習の授業 CHAPTER 2～CHAPTER 3

横書き指定

Word添付

〈課題〉

総合学習の単元計画としての学習指導案を作成しなさい。また、そのうちの1時間の学習指導案も作成すること。（単元名や学年・実施時期・対象の人数等は各自で設定する。）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

アクティブラーニングについてよく理解し、それを適切に取り入れた単元計画を作成すること。また、評価の方法についても記載すること。

〈評価の観点〉

- ①テキストに記載されている内容をもとに、学習指導案が作成されているか。
- ②「ねらい」にそった学習計画がなされているか。
- ③「ねらい」と「評価」に整合性があるか。
- ④実施可能な学習計画になっているか。

〈その他の注意点〉

学習指導案の形式・字数については特に指定はしない。ただし、ワープロを使用し、10.5ポイントMS明朝（部分的にゴシックを使ってよい）で作成すること。
テキストの内容をふまえて作成することはもちろんであるが、テキストに紹介されている学習活動案をそのまま用いるのではなく、オリジナリティのあるものを作成すること。

参考文献

- ①「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（平成29年告示）
- ② 山住勝広編『子どもの側に立つ教育—生活教育に根ざした主体的・対話的で深い学びの実現』北大路書房、2017年。
- ③ 富澤美千子『子どもの創造力を育む総合的な学習の時間』大学教育出版、2021年4月刊行予定。

科目試験等への
アドバイス

テキストの内容を理解することが重要である。そのために、漠然とテキストを読み進めるのではなく、重要な語句にアンダーラインを引き、サブノートを作成して、その意味をまとめる作業を加えることが重要となる。どこかの範囲だけを重点的に学修するのではなく、学修計画を立て、テキストの内容をすべて、十分に理解することが望まれる。

教員からの
メッセージ

レポートや科目試験はテキスト学修が基本となるが、さらに知識を広げ、理解を深めるためには参考文献も熟読することが望ましい。

科目概要	国語を適切に表現し、正確に理解する能力と確実に指導できる実践力を養う 1 国語科教育の理論と方法（国語科教育の意義と役割、学習指導要領国語を読み解く） 2 国語科教育の内容（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） 3 国語科教育の実践（指導案作成、教材研究と学習指導計画、言語環境の整備と日常指導の実践）
主な到達目標	1 国語科教育についての正しい理解とその方法の確実な修得 2 学習指導要領における目標と指導内容の理解 3 言語力育成の観点から、児童の発達段階に応じた指導の理解 4 指導計画の立案、指導案の作成、評価といった一連の指導の在り方についての実践力育成 5 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の具体的な教材研究の方法、言語環境の整備についての実践力育成
テキスト学修の留意点	1 目次を参考に学修計画を立てる 2 各章のリード文を熟読して理解し、節ごとの要約をまとめる 3 各章末の「課題」を解決する ○ テキスト内容の基本は、学習指導要領にある 「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」と対応して学ぶ ○ テキストの「Ⅱ 国語科教育の内容」及び、テキストの「Ⅲ 国語科指導の実践」については、必ず現行の教科書を実際にあたり、テキストの内容理解を補う

	学修テーマ	課 題
1	国語教育の意義と役割	言語教育と国語科教育について理解を深める。 国語科教育の重要性から、その役割を考える。
2	国語科教育の目標と内容の変遷	戦後教育における国語科教育の位置づけや、その変遷の理由や背景を理解する。学習指導要領の目標を比較するなどし、求められている国語の力について考察する。
3	学習指導要領国語の内容①	今回の改訂で「各学年の目標及び内容」「内容の構成」がどのように変わったのかを理解し、「言葉による見方・考え方」とはどのようなことなのか具体的イメージを持つ。「知識及び技能」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を一覧表等にまとめ理解する。
4	学習指導要領国語の内容②	「思考力・判断力・表現力等」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を一覧表等にまとめ理解する。さらに「指導計画の作成と内容の取扱い」を確認し、学習指導案作成の際の配慮事項を理解する。
5	「知識及び技能」の指導①	学習指導要領に示された「知識及び技能」の内容について熟読し、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について、低・中・高学年の発達に応じた指導内容を理解し要点をまとめる。
6	「知識及び技能」の指導②	学習指導要領に示された「知識及び技能」の内容について熟読し、「読書に関する事項」について、新旧を比較して指導内容の特徴をつかみ、意義や効用等を理解し要点をまとめる。
7	A領域「話すこと・聞くこと」の指導	学習指導要領に示された A 領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「話すこと・聞くこと」の指導の意義とねらい、指導内容、指導の方法について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「話すこと・聞くこと」の教材があるかを確認する。
8	B領域「書くこと」の指導	学習指導要領に示された B 領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「書くこと」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「書くこと」の教材があるかを確認する。
9	C領域「読むこと」 説明的な文章の指導	学習指導要領に示された C 領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「読むことー説明的文章」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「読むこと」説明的な文章の教材があるかを確認する。
10	C領域「読むこと」 文学的な文章の指導	学習指導要領に示された C 領域の指導事項について熟読し、さらにテキストの「読むことー文学的文章」の意義、指導内容について熟読し、要点をまとめ考察する。 実際の現行の教科書では、どのような「読むこと」文学的な文章の教材があるかを確認する。
11	国語科指導の実践 ー指導案作成	国語科学習指導案の基本として構成要素を理解する。指導案の立案にはどのようなことに配慮すればよいか考察する。 具体的な教材文を使って学習指導案を作成してみる。
12	教材研究と学習指導計画①	「知識及び技能」の具体的な指導展開例をテキストで確認し、教材研究と指導の実施について理解を深める。 「書写（毛筆）の学習」もしくは「漢字の学習」について、学年を想定し、実際の現行の教科書を利用して教材研究を行い、単元の目標を明確にして学習指導案を作成してみる。
13	教材研究と学習指導計画②	「思考力・判断力・表現力等」の指導の実践をテキストで確認し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「説明的な文章を読むこと」「文学的な文章を読むこと」の指導法の留意点をまとめる。 また、学年を想定し、実際の現行の教科書を利用して教材研究を行い、学習指導案を作成してみる。
14	言語環境の整備と、 日常指導の実践	言語能力を伸ばすための言語環境や日常指導にはどのようなものがあるか確認し、言語環境を整備する重要性について考察する。
15	国語科指導法の総括	国語科で育てなければならない言語の能力について概括し、そのための効果的な指導法について具体的な実践力を付ける。

レポート課題

第1分冊 天達 新一

第2分冊 天達 新一

第1分冊 〈略題〉「話すこと・聞くこと」の指導事項の理解と指導案の作成
第1章から第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 国語科学習指導要領を熟読し、A領域「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確にし、発達段階に応じた指導事項の内容についてまとめ、考察せよ。
- ② 現行の小学校の教科書から、A領域を指導する教材を取り上げ、教材研究をした上で、単元の学習指導案を作成せよ。
- ③ 課題②の学習指導案作成に関して工夫したところを具体的に示す。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- テキストの「話すこと・聞くこと」の指導並びに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」を熟読し、「話すこと・聞くこと」に関する指導事項の内容を理解してから取り掛かること
- 設定する教材は、必ず「現行」の教科書教材を用いること。また教科書では目次や各単元冒頭等に「話す・聞く」と領域が明示されているので、適切な教材を選択すること
- 学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章をよく確認すること
- 学習指導案の「児童観」については、発達段階を考慮した一般的な状況を記述すること

〈評価の観点〉

- 学習指導要領やテキストの内容が、正しく理解されていること（課題①）
- 指導案には、以下1～7までの項目を記述していること（課題②）
 - 1 単元名
 - 2 教材名
 - 3 単元の目標
 - 4 評価規準（3観点に沿って表記する）
 - 5 単元について（1）単元観（2）児童観（3）教材観
 - 6 指導上の工夫・ポイント
 - 7 単元指導計画（全何時間扱いかを明記し、表組で示す）
- （8本時の指導計画と9板書計画は割愛する）
- 指導案作成にあたって工夫した自分なりの創意を具体的に示すこと（課題③）

〈その他の注意点〉

- 表記は、正しく整っていること（変換ミスやタイピングミスに気をつける）
- 参考にした資料・文献等は、必ず明記すること（記載がない場合は再提出となる）
- 課題②については、実際の指導を想定して作成すること。実践事例などを参考にすることは有効な学びであるが、そのままコピーしたのでは実力は身につかない。実際にモデルを作るなど、自分の授業アイデアや創意工夫を取り入れて考えること。また、表組などの関係から、字数は自由。レポートの規定字数外で考えること。

第2分冊 〈略題〉「書くこと」の指導事項の理解と指導案の作成 第5章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- ① 国語科学習指導要領を熟読し、B領域「書くこと」の学習過程を明確にし、発達段階に応じた指導事項の内容についてまとめ、考察せよ。
- ② 第2学年・第4学年・第6学年のいずれかで、現行の小学校の教科書から、B領域を指導する教材を取り上げ、教材研究をした上で、単元の学習指導案を作成せよ。
- ③ 課題②の学習指導案作成に関して工夫したところを具体的に示す。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- テキストの「書くこと」の指導並びに、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」を熟読し、「書くこと」に関する指導事項の内容を理解してから取り掛かること
- 設定する教材は、必ず「現行」の教科書教材を用いること。また教科書では目次や各単元冒頭等に「書く」と領域が明示されているので、適切な教材を選択すること
- 学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章をよく確認すること
- 学習指導案の「児童観」については、発達段階を考慮した一般的な状況を記述すること

〈評価の観点〉

- 学習指導要領やテキストの内容が、正しく理解されていること（課題①）
- 指導案には、以下1～7までの項目を記述していること（課題②）
 - 1 単元名
 - 2 教材名
 - 3 単元の目標
 - 4 評価規準（3観点に沿って表記する）
 - 5 単元について（1）単元観（2）児童観（3）教材観
 - 6 指導上の工夫・ポイント
 - 7 単元指導計画（全何時間扱いかを明記し、表組で示す）
- （8本時の指導計画と9板書計画は割愛する）
- 指導案作成にあたって工夫した自分なりの創意を具体的に示すこと（課題③）

〈その他の注意点〉

- 表記は、正しく整っていること（変換ミスやタイピングミスに気をつける）
- 参考にした資料・文献等は、必ず明記すること（記載がない場合は再提出となる）
- 課題②については、実際の指導を想定して作成すること。実践事例などを参考にすることは有効な学びであるが、そのままコピーしたのでは実力は身につかない。実際にモデルを作るなど、自分の授業アイデアや創意工夫を取り入れて考えること。また、表組などの関係から、字数は自由。レポートの規定字数外で考えること。

参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省）
- 現行の児童用教科書（教材配列など、当該学年だけでなく系統的に理解すること）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

科目試験等への
アドバイス

シラバスは15テーマに分かれているが、試験は全範囲からの出題となっている。学修テーマに沿って学修計画をしっかり立て、各テーマの内容を整理して理解するとともに、テキスト各章の最後にある「課題」に取り組むことで、理解を深めておくことを勧める。

教員からの
メッセージ

シラバスに沿って、計画的に学修すること。
レポート課題は、シラバスでいうと学修テーマ4・7・8・11・13にあたるが、1から15までの総括的な学びの深さが、レポートにも反映するはずである。学習指導案の作成にあたっては、テキスト第5章で理解をした上で、テキスト第6章の実践事例等を参考に学べばよいことを勧める。
質問等には適宜応じることが可能である。

科目概要	学習指導要領（平成29年告示）に示された小学校社会科の目標、内容を理解する。そして、実際に授業を展開するために必要な教材構造図、学習指導計画、学習指導案の作成の仕方を学ぶ。次に、小学校社会科の授業を問題解決学習によって展開するために必要な学習過程、学習形態、学習活動、指導技術、評価について学ぶ。さらに、教材研究の進め方、教材、資料の作成の仕方についても具体的に学ぶ。
主な到達目標	(1) 小学校社会科の目標、内容について理解する。 (2) 問題解決的な学習の進め方（学習過程）を理解し、その展開に必要な教材構造図、学習指導計画、学習指導案が作成できる。 (3) 有効な指導を行うための学習形態、学習活動、指導技術、評価等について理解し、実際に具体化できる。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを丁寧に読み深め、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 学習指導要領や『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（以下『解説』）を参照しながら学修を進める。 (3) 実際に児童が使用している教科書から各学年の任意の小単元を選び、学習指導計画（学習指導案）を作成する。型式はテキスト記載のものを参考にするとよい。また、社会科においては、資料の取扱いが特に重要なので十分に教材研究を重ねたい。 (4) テキスト巻末には、参考文献が掲載してあるのでテキストの記述から興味関心や新たな疑問が生じた時には参考にするとよい。 (5) テキスト各章の演習問題にも挑戦し、レポート作成や科目試験に臨んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	社会科教育の意義と役割	・小学校社会科の原点と改正教育基本法について調べる。 ・授業づくりの視点から見た小学校社会科教育の役割について理解を深める。 ・「公民としての資質・能力の基礎を養う」ことについて、『解説』等を参考にして理解を深める
2	小学校社会科の目標と内容	・小学校社会科の目標について調べる。 ・社会的な見方・考え方について調べ、理解する。 ・小学校社会科の内容構成について、学習指導要領等を調べ、その内容を理解する。
3	学習指導要領に基づいた社会科の指導計画	・指導計画作成の原理を調べ、その内容を理解する。 ・指導計画の作成と内容の取扱いについて理解する。
4	社会科の教材構造図と学習指導案	・社会科における知識の階層性を踏まえた単元構成を調べ、その内容を理解する。 ・教材構造図の作成の手順を知り、教材構造図が作成できるようにする。 ・学習指導案の作成の手順を知り、学習指導案が作成できるようにする。
5	評価の基本的な考え方と社会科の評価観点	・学習評価の基本的な考え方を知る。 ・観点別学習状況の評価に関する考え方について理解する。 ・社会科の評価規準について理解を深める。 ・実際の学習評価について、具体的に理解する
6	第3学年社会科の授業実践	・第3学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第3学年の指導の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
7	第4学年社会科の授業実践	・第4学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第4学年の指導の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
8	第5学年社会科の授業実践	・第5学年の社会科学習の特色を理解する。 ・第5学年の指導の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
9	第6学年社会科の授業実践1	・第6学年の社会科学習の特色を理解する。 ・歴史学習の指導の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
10	第6学年社会科の授業実践2	・政治の学習の指導の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。 ・国際理解の学習の実際について、学習指導案をもとに実践事例から学習過程を学ぶ。
11	社会科の多様な学習活動と指導技術 1	・資料活用による学習について調べる。 ・表現活動について様々な方法を学ぶ。
12	社会科の多様な学習活動と指導技術 2	・主な指導技術（発問、板書、ノート指導など）について調べる。 ・学習環境（教材教具、教室環境、人的環境）について理解を深める。
13	社会科の多様な学習活動と指導技術 3	・具体的な体験を伴う学習について理解する。 ・言語活動に関わる学習について理解する。 ・地図帳、地球儀の活用について理解する。
14	社会科と生活科、総合的な学習の時間との関連	・生活科の成立とその目指すところを調べる。 ・総合的な学習の時間の目指すところについて理解する。 ・社会科と生活科、社会科と総合的な学習の時間の違いを調べるとともに、関連的な指導について理解する。
15	社会の変化とこれからの社会科	・各学年の「内容の取扱い」に示されている事項について調べ、理解する。 ・社会の形成者に求められる資質・能力の育成について理解を深める。

レポート課題

第1分冊 渡辺 昭登

第2分冊 渡辺 昭登

第1分冊 〈略題〉公民としての資質・能力の基礎 主に第1章から第9章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「公民としての資質・能力の基礎を養う」ために、どのような学習指導を展開したらよいでしょうか。ある学年の1小単元（5から8時間程度）の指導を取り上げ説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 1章に「公民としての資質・能力の基礎とは何か」について調べ、重点としたい学習活動について自分の考えを説明し、問題提起する。その際『解説』を参考にする。
- 2 2章に「取り上げる小単元」の目標、内容、教材等を含め、指導の工夫点について『解説』を丁寧に読み込み、具体的に説明する。
- 3 3章で「なぜ、この小単元で公民としての資質・能力の基礎を養うことができるのか」について、自分の考えを焦点化して、論点を明確にして説明する。（このレポートの山場にする）
- 4 小単元の学習指導計画を作成し資料として添付する。（本文2章と関連付ける）
- 5 上記1から3を章立てし、小見出しを効果的に付け、論理的に筋の通ったレポートにする。
- 6 巻末に参考文献を掲載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から6を満たしているか。
- 2 論理が一貫しているか。
- 3 誤字、脱字がないか。
- 4 引用と自分の意見、考えの区別がはっきりしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト（第1章から第9章）及び『解説』を熟読すること。学習指導要領の目標、内容に沿った学習指導計画を考えること。

第2分冊 〈略題〉教材開発 主に第10章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

自分とかわりの深い地域（生まれ育った、今住んでいる、住んでいたことのある等）を歩きウォッチングし、どこを教材化できるかをわかりやすく論述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 1 まず1章で、指導者が地域素材を「教材ウォッチング」することについて、意義や効果について自分の考えを説明する。
- 2 2章では、どのように地域素材を探したウォッチングを実践したのかを説明する。その際、いつ、どこで実践したかについてもふれること。
- 3 3章では、何年生のどのような指導に生かせるか、1つの単元を想定して検討する。小見出し等を効果的に付け、論理的に筋道の通ったレポートにする。
- 4 該当の地域教材を取り上げた1時間分（本時）の学習指導案を資料として添付する。その際、学年、小単元名、本時の目標、展開、教材等を記述した汎用的な形式で作成すること。
- 5 巻末に参考文献を記載する。

〈評価の観点〉

- 1 上記の1から5を満たしている。
- 2 論理が一貫しているか。
- 3 誤字、脱字がないか。
- 4 引用と自分の意見・考えの区別がはっきりしているか。

〈その他の注意点〉

テキスト（第10章から第12章）及び『解説』を熟読すること。地域素材を「教材ウォッチング」するのは、教師が教材研究・開発のために行うことであることを理解して実践すること。教師が社会の様子に直接触れ、学習指導要領の目標、内容と社会的現象との関連に注目することが大切である。

参考文献

- ・文部科学省編『小学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年7月 日本文教出版）
- ・該当学年、該当小単元の記載のある小学校社会科教科書
- ・学習指導要領の内容を実践的に具体化した文献

科目試験等への
アドバイス

- ①まず、題意をしっかりと読み取り、問題に正対して自分の考えを述べることが大切である。問題を熟読して、何を訊いているのか出題の意図を確かめること。キーワードをメモしておくこと。
- ②文章の内容が明確で、筋道が整理されて一貫性があるか、読み手に分かりやすい説明ができているか、表記にも十分留意をして記述を進める。テキストや学習指導要領解説等の資料を参照することはできるが、そのまま書き写して終わっている答案が散見される。問われていることについて、文脈を考えて再構成する必要がある。
- ③事例については、分量を意識しながら、順序よく具体的に述べると分かりやすくなる。（児童が使用している教科書は、問題解決的な学習の進め方のヒントになる）
- ④答案完成後には必ず読み直しをし、誤脱字、誤変換や記述内容の重複がないか、制限字数を満たしているかを確認することは言うまでもない。（音読すると、読み飛ばしが無い）

教員からの
メッセージ

「社会科は暗記物である」という考え方がある、そのことに教師がとらわれているうちは、子どもに、問題解決的な学習を指導することはできない。知識基盤社会では知識は必要ではあるが、知識を活用し考え、新たな知を得ることが大切である。知識は絶えず更新されなければならない。問題解決的な学習により、調べ、考え、表現することを通して、必要な知識を身に付け、考える力を付けていくことが求められている。単なる試験対策としての暗記には意味がない。単に暗記しただけの知識は生涯役立つものにはならない。「暗記は社会科学習のゴールではない。」このことをメッセージとしたい。

08804 算数科指導法

2単位

テキスト名

守屋誠司編著
「小学校指導法 算数」改訂第2版、
玉川大学出版部、2019

科目概要	算数・数学教育の意義や歴史、諸外国の算数・数学教育、中学校以降の数学科との関連など、算数の指導上有用な知見について学習する。その上で「児童が自ら考え、学び合う」「発見があり、知識が整理・統合され、思考力・表現力が身につく」「考える楽しさ・分かる・できる喜びが味わえる」といったよりよい算数の授業をするための教材観、児童観、指導観などについて学習する。
主な到達目標	広く数学教育も含めた算数・数学教育の意義、歴史や諸外国の算数・数学教育等について知見を得て、小・中・高にわたる算数・数学教育の在り方や内容について理解する。さらに、よりよい算数の授業を行うのに必要な教材の見方、児童の反応の捉え方、指導計画づくり、指導方法・技術などについて理解する。
テキスト学修の留意点	テキストによる学習では、テキストやその他の必要な資料や文献を読んで内容を理解し、レポートの課題に答える小論文をまとめることになる。そこでは、目的をもって資料を読み調べ、それらを根拠として自分の考えを文章化するという知的に労の多い学習をする。これらは、講義を聴くという受動的になりがちな学習方法と比べると、極めて能動的であり、そこに大きな価値がある。こうした学習過程を通して得たものは、確実に自分の力となっていく

	学修テーマ	課 題
1	数学教育学、目標、研究方法	算数・数学教育の意義と役割、及び目標と内容、研究方法について、あなたが初めて知ったことにも触れながらまとめなさい。(第1章)
2	数学教育史	和算、算術教育、算数教育は何が重点となっていたかを年代を追って調べた上で、現在の算数教育の特徴をまとめなさい。(第2章)
3	世界の数学教育と幼児教育と特別支援教育における数学教育	世界的に重要視されている数学教育とな何か、STEM教育とは何かについてまとめなさい。また、幼児教育や特別支援教育ではどのような数学教育を必要とするかをまとめなさい。(第3章、第4章)
4	算数の指導内容① 数の概念と整数の四則演算	数概念や十進位取り記数法の意味、整数の四則計算の意味と計算の仕方について、内容の系統に沿って、何をどのように理解させることが大切であるかをまとめなさい。(第5章)
5	算数の指導内容② 小数と分数の導入と四則演算、文字の導入	小数・分数、及びその四則計算の意味と計算の仕方、文字の指導について、内容の系統に沿って、何をどのように理解させることが大切であるかをまとめなさい。(第6章)
6	算数の指導内容③ 図形と論理	図形についての素地的な学習とそれを踏まえた図形の内容について、指導学年を追って整理しなさい。また、ケント紙で立体を作り、指導上の留意点をまとめなさい。さらに、帰納的推論と演繹推論、類推の違いを整理して、算数のどの学習場面ですれらが使われるかを整理しなさい。(第7章)
7	算数の指導内容④ 測定(量)と面積・体積	身の回りにある様々な量を見つけて計測し、データを収集しなさい。また、テキストに掲載された方法で面積や体積を求め、指導するさいの留意点についてまとめなさい。(第7章、第8章)
8	算数の指導内容⑤ 変化と対応	割合につまずく原因を分析して考察しなさい。また、実際に昆虫や動物の速度を測ってみたり、実験をして変量を抽出し、それらをグラフに表してみたりしなさい。(第9章、第11章)
9	算数の指導内容⑥ データの活用	データの活用の内容にはどのようなものがあるか、指導学年を追って整理しなさい。また、何かテーマを決めて自分で資料を収集・分析して、PPDACサイクルを体験してみなさい。(第10章)
10	数学的活動とは	数学的活動について、複数の観点から述べなさい。また、数学的な見方・考え方と数学的活動との関係をまとめなさい。(新学習指導要領解説算数編を参照すること)(第11章)
11	授業づくりと指導方法① 授業設計と学習指導案	授業を設計する前に行う教材研究の意義と、何に注意して行うかをまとめなさい。(第12章)
12	授業づくりと指導方法② 授業方法と技術	課題提示の仕方、個々の子どもへの手立て、学び合いのさせ方、授業のまとめにおける観点と留意点をまとめなさい。また、発問・指示、机間巡視、板書の要点と留意点をまとめなさい。(第12章)
13	授業づくりと指導方法③ ICTの活用とプログラミング教育	ICTの効果的な活用場面と方法についてまとめなさい。また、小学生用のプログラミングを体験しなさい。(第12章)
14	学習指導案の作成①	第12章の学習指導案例を参考にし、研究授業で使う形式の学習指導案細案(単元の目標、単元について、指導計画等を含む)を作成しなさい。(第12章)
15	学習指導案の作成②	ICTを効果的に使った授業の学習指導案を作成しなさい。(第12章)

シラバス執筆：藤谷 哲

レポート課題

第1分冊 藤谷 哲、長沢 剛

第2分冊 藤谷 哲

第1分冊 〈略題〉算数教育の歴史、数学的活動

第1章から第4章、第11章、第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 日本の算術・算数教育の歴史を振り返り、掛け算の指導がどのように変化してきたかをまとめよ。また、これからの数学教育に求められる点について、第3章と第4章を基に、多くの視点から述べよ。
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説算数編』（2017）の第2章第1節の1（2）（pp.21-29）及び第4章の1（1）（pp.322-323）を読みなさい。この内容を受け、数学的な見方・考え方を働かせながら数学的活動を通して児童の「主体的・対話的で深い学び」が行われるために、あなたならどのように指導を行っていくか、1時間（45分）の授業を想定し、具体的な方策を挙げて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 課題1では、テキストに掲載されている図版の中も読みレポートに生かす。また、これからの数学教育について第3章と第4章を基に多くの視点から述べる。
- 課題2では、「数学的な見方・考え方」と「数学的活動」とは何か、『小学校学習指導要領解説算数編』の記述を基に明示する。それとともに、「主体的・対話的で深い学び」をあなたはどのように捉えているかを明示する。その上で、1時間（45分）の授業のどの部分で、どのように指導を行うのか、時系列に沿って述べる。
- 字数は、2000字～2400字でまとめる。

〈評価の観点〉

- 課題1では、掛け算の指導における歴史的事実が正しく書かれているか。また、これからの数学教育に求められる点について、第3章と第4章を基に、多くの視点から述べているか。
- 課題2では、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して行う「主体的・対話的で深い学び」について、適切に捉えているか。なおかつ、その捉えに立って、自分が行う具体的な指導の方策を述べているか。
- 課題1、2のいずれか一方でも課題に正対していなかったり、規定字数を守らなかったりしたレポートは不可評価になる。

〈その他の注意点〉

- 参考文献は最後にまとめて明記する。
- テキストを学修することはもとより、『小学校学習指導要領解説算数編』（2017）での「数学的な見方・考え方」「数学的活動」もしっかりと勉強することが大切である。

第2分冊 〈略題〉面積、ICT、学習指導案 第5章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 平行四辺形の求積公式は学習済だが三角形の求積公式は未習である小学5年生が考え出すであろう三角形の面積の求め方を違ったアイデアで4種類、図を入れて説明せよ。2. テキストと学習指導書を学修し、台形の求積公式を5年生に指導する教育的意義を3つ以上示せ。3. 3～6年生の内容から1時間（45分）の学習指導案を作成せよ。まずテキストと学習指導書を学修し、算数科におけるICT（プログラミングも含む）の効果的な利用について考察し論ぜよ。更にそれを生かした学習指導案を書け。項目は第12章に準拠し、学年、単元名、本時の目標、本時の展開、板書計画とする。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 課題1では、既習のいくつかの求積公式に帰着させる方法を考えると良い。また課題1・2では、算数／（教科）算数の通大テキストが参考になる。
- 課題3学習指導案はA4版全体を使ってテキストに掲載の形式で書き、中に問題や図、表、PCの画面コピーなどを書き入れ、学習指導案だけから授業の様子がイメージできるくらい詳しく書くこと。予想される児童の反応と指導上の留意点を対応させながら書くとよい。授業者が「ICTを活用したからこそ、していないときは困難だった、こんな成果が出せる授業ができそうです」と考察することを含むように記述すること。

〈評価の観点〉

- 課題1では、4種類の違った方法が書かれているか。
- 課題2では、テキストを参考にして教育的意義を十分考え、3つ以上あげているか。
- 課題3「学習指導案」では、単に「デジタル教科書を電子黒板で表示する」「児童のノートを書画カメラで映す」というレベルではなく、プリントや板書だけの授業を上回る成果が期待できる授業で、さらに実施できるレベルの学習指導案になっているか。
- 課題1・2・3のいずれか一方でも課題に正対していないレポートは不可評価になる。

〈その他の注意点〉

- 参考文献は最後にまとめて明記する。

参考文献

- 通信の教科（算数）・算数のテキスト『小学校算数』とその学習指導書（一部抜粋しました『小学校算数』とその学修指導書を、EduTrack に転載しています。）
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』（2017）（なお、同書は市販されているほか、文部科学省 Web サイトに掲出されている。）
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校算数』（2020）
- 児童用の算数の教科書（具体的な授業の内容、進め方の参考になる。）
- 『小学校指導法算数』改訂第 2 版で引用文献、参考文献として挙げられているもの

科目試験等への アドバイス

科目試験を受けるにあたっては、テキストと学習指導書全部をしっかりと読み込んでおくことが重要である。十分読まずにあいまいな理解のままだと解答として不十分になるので、しっかりと学習しておきたい。また、算数教育では重要専門用語・語句があるので、それらも調べておくことが必要である。さらにこれらまとめの成果としての、本時の展開（45 分）の学習指導案を書けるようにしておく。

教員からの メッセージ

算数科指導法であるから、レポート課題も児童に考えさせる指導をどのように進めるかを具体的に考察し、まとめることを問う内容が多い。テキスト以外に児童の使う教科書を参考にしたり、できれば、小学校の授業公開日や研究発表会に学生証を示して参加したりして、具体的に授業のイメージをもつようにすることが大切である。こうした学校の情報は、各学校のホームページなどから開催日時等を調べることができる（学校への直接の問い合わせは、極力さけること）。

科目概要	理科指導法では、学習指導要領にある小学校理科教育の目標やその内容及び指導法について理解する。内容や指導法についての理解にあたっては、基盤となる科学的な概念についての理解が必修であり、具体的な授業案を想定して学修することとなる。
主な到達目標	(1) 理科教育の今日的な課題、教科としての目標及び指導内容を理解する。 (2) 想定単元についての指導案作成を通して具体的な学習活動、教材を理解する。 (3) 指導法と評価について考え、教師としての指導や助言、支援の在り方を理解する。 (4) 事故防止とともに理科室・準備室の運営について理解する。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを複数回まず通読し、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 『小学校学習指導要領 解説「理科」編』を必ず参照する。 (3) 実際に学校で使用されている理科教科書を参照するとよい。 (4) テキスト各章の課題に取り組み解答の要点をまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	1章：理科教育の意義と役割	・教育の目的と理科教育の今日的な意義を理解する。 ・日本の児童・生徒の現状とこれからの理科教育について要点をまとめ理解する。
2	2章：理科教育の目標と内容	・小学校理科教育が目指す目標内容を理解する。 ・自然の事物・現象についての理解、観察実験などの技能、問題解決能力、自然を愛する心情などの理解。
3	3章：理科教育の変遷	・近代公教育開始時からの理科教育の変遷を調べ「系統性」、「現代化」、「ゆとり教育」、「生きる力」などの教育理念と理科教育、指導方法の変化をまとめ理解する。
4	4章：現代の理科の教授学習法	・現代の学習論の基本的な考え方について理解する。 ・現代の学習論を踏まえた学習指導法の基本的な考え方を理解する。
5	5章：子どもの考えに基づく理科教育の方法	・子どもの考えに基づく理科指導法の視点、具体化、課題などについて理解する。
6	6章：理科学習評価の視点とその方法	・理科学習評価の基本的な視点と理科学習指導に生かす評価
7	7章：理科教育の指導法	・理科における「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「見方・考え方」を働かせる理科授業
8	8章：学習指導計画の作成	・カリキュラム・マネジメントと理科の学習指導計画 ・各学年の年間指導計画
9	9章：学習指導案の作成	・学習指導案作成の意義とその役割、作成のポイント
10	10章：ICTの活用とプログラミング教育	・ICTの活用とプログラミング教育
11	11章：「エネルギー」を柱とする領域の授業づくり	・学習のねらいと内容 ・「エネルギー」の学習教材の研究と開発、学習指導法と実践
12	12章：「粒子」を柱とする領域の授業づくり	・「粒子」の学習教材の研究と開発 ・「粒子」の学習の指導法と実践
13	13章：「生命」を柱とする領域の授業づくり	・「生命」の学習のねらいと内容 ・「生命」の学習教材の研究と開発、指導法と実践
14	14章：「地球」を柱とする領域の授業づくり	・「地球」の学習内容、学習教材の研究と開発 ・「地球」の学習指導法と実践
15	15・16章：理科室経営と安全指導、飼育・栽培活動の指導	・理科室経営、事故事例、実験器具の安全な取り扱い、薬品の管理 ・飼育・栽培・採集の意義と役割、その指導

シラバス執筆：八嶋 真理子

レポート課題

第1分冊 八嶋 真理子

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉・対話的な授業の原理と理科指導 第1章から第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

・「対話的な授業の原理」を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るには、どのように理科の授業を行うのか、問題解決の過程で、どのような具体的方策が有効であるのか、考えを述べなさい。前述した考えに基づいてどのように理科指導を行うのか、単元を構想して、単元全体時間の指導計画と1単位時間を選び具体的な指導案を作成してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキスト全部を参考にして考えをまとめてください。
- ②テキストや学習指導要領解説理科編などの文章の引用は極力まとめ「 」でくり、引用の部分について考察を加えてください。
- ③指導事例は、テキストの実践事例を参考として、他の指導事例で論述してください。
- ④見出しを必ず書き章立てをしてください。(例：1「〇〇を育成する理科指導事例」)
- ⑤具体的な単元指導概要(案)はテキストの様式を参考としてください。

〈評価の観点〉

- ①理科教育を自ら推進しようという立場から論述しているのか。
- ②設問についての的確に理解し「対話的な授業の原理」「理科における主体的・対話的で深い学び」「問題解決の過程」等について求められる課題を理解しているか。
- ③②で述べた理解内容を基に学習指導要領で示す理科の目標に準拠してテキスト掲載以外の指導事例を具体的に論述しているか。
- ④留意事項を守っているか。
- ⑤上記①から④項目について不十分、下記〈その他の注意点〉について守られていない論述は不合格とする。

〈その他の注意点〉

- ・引用文は、かぎカッコで明示ください。
- ・参考文献、インターネット等からの参考資料は、レポート最後に明記ください。
- ・ワープロで作成する場合は、活字12ポイント、明朝体で記述ください。

第2分冊 〈略題〉「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」を育てる指導 第11章から第16章

横書き

ワード添付

〈課題〉

2020年度より、小学校理科を通して育成を目指す3つの資質・能力が明確になりました。この3つの資質・能力について説明しなさい。また、指導領域「生命」の中の「第6学年(3)生物と環境」について、この「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」を育てるためにはどのような指導を行うことが良いのかについて、具体的な例を挙げながら述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①「3つの資質・能力」と「生命の多様性と共通性の見方」について説明しながら論じてください。
- ②本課題に対しての自分の考えや考察したことを述べてください。
- ③レポート作成のために参考にされた本や文献は明記してください。

〈評価の観点〉

- ①3つの資質・能力について詳しく説明しているか。
- ②「生命の多様性と共通性の見方」について述べられているか。
- ③「第6学年(3)生物と環境」における具体的な例を挙げながら述べているか。

〈その他の注意点〉

- ①「理科指導法」テキストをよく読み、自分の考えをまとめておくこと。
- ②小学校学習指導要領理科解説、教科書、市販されている理科実践集などを参考にして、より理解を深めてください。

参考文献

- 『小学校学習指導要領 解説 「理科」編』
- テキスト各章末参考文献

科目試験等への
アドバイス

- (1) 出題範囲は、テキスト全体である。
- (2) 学習指導要領の教科目標についてその内容を分析し説明できるようにする。
- (3) 解答にあたっては、学習指導要領から引用するなど論述根拠を明確にする。
- (4) 問題をよく理解し求められる内容についての的確、簡潔に解答する。

教員からの
メッセージ

- (1) 学習の基本はテキストの熟読、内容理解である。各章や節の要点を自らまとめることが学習の近道である。
- (2) レポート作成にあたっては、テキストや学習指導要領の理解に基づき論述することが求められる。文章を論理的に構成しまとめて欲しい。

科目概要	生活科指導法では、学習指導要領にある小学校生活科教育の目標やその内容及び指導法について理解する。内容や指導法についての理解にあたっては、基盤となる学習指導要領の理解が必修であり、具体的な授業案を想定して学修することとなる。
主な到達目標	(1) 生活科の意義と役割及び目標を関連させて理解する。 (2) 生活科の内容及他教科・領域との関連を理解する。 (3) 生活科の内容を具体化し、指導計画作成時の留意点を理解する。 (4) 生活科の指導に必要な教材の開発・工夫を指導案を構想することを通して理解する。 (5) 生活科における評価規準、具体的な評価方法を理解する。 (6) 単元指導案の作成方法及び作成上の留意点を理解する。
テキスト学修の留意点	(1) テキストを複数回まず通読し、最終的に要点をノートにまとめる。 (2) 『小学校学習指導要領 解説「生活」編』を必ず参照する。 (3) 実際に学校で使用されている生活科教科書を参照するとよい。 (4) 評価については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』を参照するとよい。 (5) テキスト各章の課題に取り組み解答の要点をまとめる。

	学修テーマ	課 題
1	第1章：生活科教育の意義と役割	・生活科教育の今日的な意義について、その要点をまとめ理解する。
2	第2章：生活科の目標と内容	・目標が2学年共通になっている理由等、生活科の特徴を理解する。 具体的な活動や体験、自立の基礎、9項目とその内容、内容構成などについて具体的な活動内容を想定して理解する。
3	第2章—2：指導計画の作成と内容の取り扱い	・指導計画例をもとに、取り扱い上の留意点を理解する。
4	第3章：他教科との関係	・学習指導要領の趣旨、教科目標から他教科との関わりを理解する。 統合的扱い、社会科や理科及び総合的な学習の時間との関連などについて、活動例などを参考にまとめ理解する。
5	第4章：生活科と幼児教育	・幼児教育と生活科の内容及その関連を理解する。 幼稚園・保育園と生活科との関連などについて、活動例などを参考にまとめ理解する。
6	第5章：生活科の評価	・生活科の評価の特質と内容を理解する。 評価の意義と機能、評価の観点と評価方法などについて、評価場面を想定して理解する。
7	第6章：自然と自分とのかわり	・自然と関わる学習から、どのような資質・能力、心情を育むのか理解する。 自然と行事、自然と遊び、飼育や栽培などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
8	第7章：科学的見方の基礎	・科学的見方の基礎について、その内容を実践事例から理解する。 科学的な見方、豊かな心情、生命観の育成、科学的な思考・表現などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
9	第8章：社会と自分とのかわり	・地域社会についての学習から、どのような資質・能力、心情を育むのか理解する。 社会と自分、学校と生活、社会と関わる意義などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
10	第9章：公共心・社会認識の基礎	・公共心、社会認識の基礎について、その内容を実践事例から理解する。 公共心、社会認識、家庭や地域と生活、公共物と公共施設などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
11	第10章：自分と自分自身とのかわり	・自分自身や自分の生活について考える内容を、実践事例から理解する。 自分自身への気づきとその深化、自立などについて、具体的な実践内容を想定して理解する。
12	第11章：自己認識・他者との関係	・自己認識と他者との関係について、その内容を理解する。 心身の成長への気づきとその深化、自立などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
13	第12章—1・2：指導計画作成の要点と事例	・2年間を見通した指導計画を作成する上で留意する内容を理解する。 作成上の留意点、他教科との関連などについて、2年間の指導内容を想定してまとめ理解する。
14	第12章—3：環境づくり	・豊かな活動を支援する環境づくりについて、その内容を理解する。 人的な環境、施設・設備と環境 などについて、具体的な活動内容を想定して理解する。
15	第12章—4：具体的実践例と教材教具の開発	・生活科の目標に沿った具体的な実践、教材・教具開発について理解する。 生活科における教材・教具開発の内容についてまとめ、その重要性について理解する。

レポート課題

第1分冊 神津 長生

第2分冊 神津 長生

第1分冊 〈略題〉活動体験・幼児教育・単元計画（自然と自分とのかかわり）と評価
第1章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1課題：生活科の目標にある「具体的な活動や体験を通して」とは、どのような意味が込められているかを、(1) 意義 (2) 具体的な事例 (3) 考察から述べなさい。

第2課題：幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために、どのような連携を図ったらよいかを、(1) 連携の意義 (2) 生活科での具体的な連携の事例 (3) 考察から述べなさい。

第3課題：自然と自分とのかかわりにの内容における小単元（6～8時間程度）の単元計画を作成し、評価を具体的に示しなさい。評価計画においては、3つの観点と4つの評価法、評価方法を示しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1課題：(1) 意義について (2) 具体的な事例（活動名・児童の活動の様子）(3) 考察（児童の活動の様子を一つ一つ分析して、自分の考えを述べる）

第2課題：(1) 連携の意義 (2) 生活科での具体的な連携の事例（活動名・児童の活動の様子）(3) 考察（児童の活動の様子を一つ一つ分析して、自分の考えを述べる）

第3課題：※単元計画（通常のレポート幅よりも広くし、文字ポイントも小さくして見やすい表にする。手書きの場合も形式は同様とする）(1) 学年 (2) 「小単元名」(3) 単元目標（小単元の目標）(4) 単元指導計画案（評価計画を含む）

〈評価の観点〉

- ・(1) 意義 (2) 具体的な事例 (3) 考察について、項目立てをして3課題に取り組んでいるか。
- ・内容を適切に捉え、簡潔に述べているか。
- ・見て分かる構成になっているか。
- ・(2) では児童の活動の様子について、単元指導計画を想定して一つの活動から順に具体的に設定し、(3) ではそれらの活動一つ一つをしっかりと考察しているか。
- ・テキスト等の引用だけになっていないか。（「引用」は、(〇〇テキスト △Pより）と、その都度明記し、自分の考えで記すこと。
- ・引用の箇所が未記載の場合は、減点対象にします。

〈その他の注意点〉

- ・レポートは見やすく、印字のポイントや字数2100字～2400字程度（第1課題から第2課題まで）に注意してください。
- ・単元計画は、実践事例をそのままの使用した場合は、減点します。自分が指導する立場になって、子供たちが実際に活動できるように計画を立ててください。
- ・単元計画は、通常のレポート形式よりも幅を広げ、印字ポイントを9ポイント程度にして全体を見やすくすること。

第2分冊 〈略題〉自分自身の気付きについての理解と指導事例 第8章から第12章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1課題：低学年の児童の自己認識と他者との関係については、学習指導要領解説生活編では、自分自身の気付きとそれにつながる自立の問題として述べられています。この自分自身の気付きとはどのようなものか説明しなさい。また、自分自身の気付きと自立との関係についても説明しなさい。

第2課題：第1課題で説明した内容をどのように育むのか、単元を想定して単元全時間の指導概要（単元指導計画を含む）と1単位時間を選び具体的な指導事例（本時の展開案）を作成しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①第2課題については、「1 学年・単元名」「2 単元目標」「3 工夫する点」「4 単元指導計画」「5 本時目標・展開」「6 他教科との関連及び発展」など項立てをする。また、「1 学年・単元名」以外については、設定した理由や考えを論述する。
- ②「4 単元指導計画」では全指導時間における児童の活動、教師の指導及び支援、評価の観点・評価法・具体的な評価方法を論述する。
- ③指導事例はテキストを参考として、他の指導事例で論述すること。
- ④見出しを必ず書き、章立てをすること。（例：第1課題「生活科における自分自身の気付きについて」）

〈評価の観点〉

- ①生活科における自分自身の気付きについて理解しているか。
- ②①で述べた理解内容を基に学習指導要領で示す生活科の目標に準拠してテキスト掲載以外の指導事例を具体的に論述しているか。
- ③レポート作成にあたっての留意事項を守っているか。
- ④上記①から③項目について不十分、下記〈その他の注意点〉について守られていない論述は不合格とする。

〈その他の注意点〉

- ・引用文は、かぎカッコで明示してください。
- ・参考文献、インターネット等からの参考資料は、レポート最後に明記してください。
- ・ワープロで作成する場合は、活字12ポイント、明朝体で記述してください。
- ・4 単元指導計画及び5 本時の展開案は、通常のレポート形式よりも幅を広げ、印字ポイントを9ポイント程度にして全体を見やすくすること。

参考文献

- 『小学校学習指導要領 解説「生活」編』
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活』
- テキスト各章末参考文献

科目試験等への
アドバイス

- (1) 出題範囲は、テキスト全体である。
- (2) 学習指導要領の教科目標についてその内容を分析し、説明できるようにする。
- (3) 解答にあたっては、学習指導要領から引用するなど、論述根拠を明確にする。
- (4) 問題をよく理解し、求められる内容についての的確、簡潔に解答する。

教員からの
メッセージ

- (1) 学習の基本はテキストの熟読、内容理解である。各章や節の要点を自らまとめることが学習の近道である。
- (2) レポート作成にあたっては、テキストや学習指導要領の理解に基づき論述することが求められる。文章を論理的に構成し、まとめて欲しい。また、レポート作成にあたっての留意事項・評価の観点・その他の注意点をしっかりと確認してほしい。

科目概要	小学校教育における音楽の役割を理解し、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」及び共通事項の実践的指導法を学ぶ。指導上必要である知識や考え方を身につけ、指導力を養う。
主な到達目標	学習指導要領の各学年の目標を理解し子どもの発達に即した指導ができる。 教材研究を深めることによって指導の実践に活かせる知識を身につける。 また、題材を用いた学習指導案の作成方法を理解する。
テキスト学修の留意点	音楽科の目標を知り、各学年で扱う題材と指導法について確認する。レポートはそれらを踏まえて、自身の指導理念を追求してほしい。また、文部科学省のホームページなどから【小学校学習指導要領】を参照しテキストの内容と統合させながら学修すること。

	学修テーマ	課 題
1	音楽と指導	小学校教育における、音楽科の意義について研究する。 特に教材研究に必要な以下の基礎的知識を理解する。 ①音楽の三要素 ②音楽の諸要素
2	音楽科の目標	小学校学習指導要領音楽を読みテキスト1章と関連づけながら統合的に理解する。 また、わからない語彙などを調べ理解する。
3	音楽科の内容1	音楽科で児童に何を身につけさせれば良いのか、指導法の研究に関係する（共通事項）について、『学習指導要領』を用いて整理する。
4	音楽科の内容2	『学習指導要領』を用いて、音楽科の領域を理解する。 A 表現（歌唱／器楽／音楽づくり）・B 鑑賞・共通事項のそれぞれについて具体的にどのような取り組みであるか理解する。
5	第1学年・第2学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領低学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
6	第3学年・第4学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領中学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
7	第5学年・第6学年の題材	文科省の示す目標はどうなっているか、『学習指導要領』で確認する。 テキスト内に示された指導案を指導要領高学年の目標や内容に照らし合わせ、どのような指導が求められているか理解する。また各学年4曲ずつ設定されている歌唱の共通教材を歌ってみる。
8	「表現」分野の題材研究1	低学年向き題材 小学校第1学年・第2学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
9	「表現」分野の題材研究2	中学年向き題材 小学校第3学年・第4学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
10	「表現」分野の題材研究3	高学年向き題材 小学校第5学年・第6学年の各種題材を研究し、学習指導案の「指導計画」「本時の展開例」の作成をする。
11	「鑑賞」分野の題材研究	鑑賞題材の選択方法について確認する。各学年の目標に照らし合わせながらそれに相応しい題材について研究する。
12	特別活動における音楽	特別活動における音楽の取り組みについて考察する。
13	指揮法	2、3、4拍子の指揮の図形を確認する。様々な題材を歌いながら指揮の練習をする。
14	まとめ1	自身の音楽科の指導理念・指導方法論についてまとめる。 特に10章を熟読し、児童の主体的な学びが実現できる音楽教育の理想像を考察する。
15	まとめ2	自身で選択した題材を用いて、学習指導案を完成させる。

シラバス執筆：朝日 公哉

レポート課題

第1分冊 小口 浩司

第2分冊 朝日 公哉

第1分冊 〈略題〉表現（歌唱、器楽、音楽づくり）、鑑賞
第1章から第6章まで

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第1学年に相応しい歌唱題材について、「音楽を形づくっている要素」や「歌詞」の面から分析して述べなさい。
共通教材は除く。2000字程度。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「音楽を特徴付けている要素」「音楽の仕組み」について確認する。
指導方法の考察ではなく、楽曲そのものを分析すること。楽曲を分析したうえでの指導方法の考察は認める。

〈評価の観点〉

- 1) 適切な題材が選ばれているか。
- 2) 題材選択の理由が、客観的かつ具体的に述べられているか。
楽曲そのものが分析されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

教科書の要約、引用が多すぎるものは認められない。
必要に応じて、文部科学省の『小学校学習指導要領解説（平成29告示）音楽編』も参照のこと。

第2分冊 〈略題〉特別活動における音楽 第7章から第11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

特別活動における音楽の取り組みについて、あなたならどのような取り組みをするか、具体的に特別活動の場面を想定しその目的意義を述べなさい。また、その上でテキストに示された曲以外を選曲し、以下の項目について説明しなさい。

- ① その曲を選んだ理由（教材の歌詞や音楽的側面から分析を行い、その教材の特質がどのように目標の達成に寄与するか）
 - ② 指導上の留意点（教育目標を達成するために必要な留意点）
- 2000字以上（必ず文末に文字数を入れること）

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第8章を中心に読んで上で考察し、特別活動のどのような場面で扱い、どのような教育目標を達成させたいのか、扱う学年なども具体的に示すこと。

〈評価の観点〉

特別活動における音楽の関わりについてその目的意義を十分理解しているか。音楽の持つ特質を考慮し、より教育的効果を望める取り組みが考えられているか。テキストの要約に留まらず、特別活動の目標とも関連付けながら考察すること。

〈その他の注意点〉

音楽教育全体から考察し他章の内容とも統合的に捉えてほしい。

参考文献

文部科学省ホームページより小学校学習指導要領第2章6節音楽及び第6章特別活動
教科音楽シリーズ 玉川大学出版部、梅沢一彦編
教科指導法シリーズ 特別活動、玉川大学出版部、北村文夫編著
※必ず参考文献明示すること。

科目試験等への
アドバイス

実践で使えることを目的として書かれているテキストを、臨場感を持って読み取ってほしい。机上のことだけで音楽の授業は進まない。どんな場合も実践で活かせることを念頭に置いて解答してほしい。

教員からの
メッセージ

- ・ レポートの提出方法を最初に必ず確認すること。
- ・ レポートのテーマをよく読み、内容がテーマに即しているかよく見直すこと。
- ・ できるだけ実際の指導をイメージし、指導への想い、具体的な指導法について言及すること。

科目概要	・人間と造形表現とのかかわりから美術教育を多面的にとらえ、学校教育の中の図画工作科の意義と役割、教科目標や学習内容を学ぶ。児童の発達段階を理解し、教科目標及び児童の発達段階を踏まえた学年目標、表現と鑑賞の内容、さらに〔共通事項〕について理解する。まとめとして指導計画を作成し、評価方法を理解したうえで指導案が作成できるように実践事例を通して指導法を学ぶ。
主な到達目標	・人間の表現活動の中の造形表現の特徴を把握した上で、学習指導要領を理解する。教科としての意義や役割、教科の歴史、発達段階と表現の関係について説明できる。さらに多様な表現活動を展開する指導法を理解する。
テキスト学修の留意点	・テキストを基盤にしたうえで、文部科学省発行『小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省』も併用しながら学習し、その内容を理解すること。

	学修テーマ	課 題
1	図画工作科教育の意義と役割	人間と造形表現の本質から美術教育に迫り、図画工作科の学習として人格の陶冶を図る意義や役割を先人の思潮などを手掛かりに明らかにする。
2	図画工作科教育の改善の方針と目標	学習指導要領の改訂の背景や教育課程の基本的な考え方、改善の具体的な事項などを基に理解する。改善の要点及び目標について文部科学省発行「小学校学習指導要領解説 図画工作編」を参考にし、明らかにする。
3	図画工作科教育の内容と構成	図画工作科の目標には改訂の趣旨を受けて新たに加えられた文言が示された。その意義を目標の具体的な内容を示して明らかにする。発達段階を踏まえて学年目標内容についても同様に明らかにする。
4	図画工作科教育の変遷	図画工作科の変遷を戦前の図画・手工時代（臨画、自由画、戦時下芸能科図画・工作時代など）第二次大戦後の図工教育を始め工作教育にも触れ、教科としての歴史と背景、教育内容を明らかにする。特に臨画、自由画、戦時下、戦後の表現の変遷に注目すること。
5	子どもの成長と造形活動	子どもの造形表現の発達とは子どもの心身、認知機能、運動機能、感情表現などの発達と深い関係があることを十分理解する。その傾向をとらえて、題材、材料や用具、表現内容や制作方法などの「指導法につなげていくことを明らかにする。
6	図画工作科の学習指導計画と評価について	指導計画の基本的な考えを理解し、指導計画作成に向けての配慮事項や指導と評価の一体化を図る評価の基本的な考え及び評価観点や評価基準設定の在り方などを理解し、学習指導の本質を明らかにする。
7	図画工作科の学習指導計画と評価基準の作成の手順	図画工作科の授業の基となる題材の意味や年間指導計画及び評価基準設定、学習過程における評価の方法などについて明らかにする。
8	図画工作科指導案の作成	学習指導に当たり、教材研究する内容や指導案を構成する事項、盛り込むべき内容などについて理解を深め、書式に沿って学年・題材などの具体的な事例をあげて作成し、考察する。
9	A表現 造形遊びをする活動	「造形遊びをする活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含め明らかにする。
10	A表現 絵に表す活動	「絵に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容、表現の方法などの特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
11	A表現 立体に表す活動	「立体に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
12	A表現 工作に表す活動	「工作に表す活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
13	B鑑賞 鑑賞する活動	「鑑賞する活動」のねらいや発達段階による学習内容の特性をとらえて理解し、その指導法について実践事例も含めて明らかにする。
14	材料用具にかかわる基礎知識	学習指導要領で示している材料用具に関わる内容を理解し、発達段階を踏まえて「表現」と「材料・用具及び技法」などのかかわりや指導の工夫について具体的な事例を含めて明らかにする。
15	全体のまとめ	テキスト及び学習指導要領をまず確実に学習し、第1章から第12章までの演習問題を行う。（自作ノートを用意し、問題を書き、解答するとよい。）

シラバス執筆：小林 貴史

レポート課題

第1分冊 小林 貴史・直井 崇・飯田 菜津美

第2分冊 小林 貴史・直井 崇・飯田 菜津美

第1分冊 〈略題〉図画工作科教育の目標・内容・配慮事項
指導要領解説1～4章 テキスト1～4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- 1 「美術による教育」の文言の意味を説明したうえで、図画工作科が担うべき役割とその目指すところを教科の目標をもとに具体的に明らかにしなさい。(1,000字)
- 2 図画工作科の学習を通して育成する資質や能力を柱として、学習指導要領において示されている内容の構造を明らかにしなさい。また、自らの図画工作科の授業体験も振り返りながら、指導に当たっての配慮事項について考察しなさい。(1,400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①内容によっては小見出しを付けて述べ、学習指導要領解説を丸写しすることなく、課題の意図や指示に応じて記述する。
- ②課題1では、テキスト「まえがき・第1章～第4章」及び『学習指導要領解説 図画工作編』の「第1章～第2章」を参照する。課題2では、テキスト「まえがき・第1章～第4章」を理解した上で、併せて『学習指導要領解説 図画工作編』の「第1章～第4章」と『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を参照し、自らの図工授業での体験とともに具体的に記述してまとめる。

〈評価の観点〉

- ①課題1では、図画工作科の教科の意義や役割、教科目標について文言に留意して分かりやすく述べているか。
- ②課題2では、図画工作科の内容を整理するとともに、文献などを参考にしながら発達段階に即して指導する方法や配慮事項などについて自らの授業体験をふまえて述べているか。
- ③目標や事項などテキストや参考文献の丸写しで、自分の体験からの記述がない場合は再提出となる。

〈その他の注意点〉

- ・インターネットを研究資料にする場合、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを深めるように活用する。単なる丸写しは慎むこと。

第2分冊 〈略題〉高学年における鑑賞指導の学習過程のポイント
学習指導要領解説2～4章

横書き指定

直接入力

〈課題〉

- 1 高学年における「B鑑賞」の学習について、自らの鑑賞授業の体験を述べなさい。その上で、「親しみのある作品」の文言説明や内容、指導に当たっての配慮事項について分かりやすく記述しなさい。(1,000字)
- 2 高学年の「B鑑賞」の学習指導について、授業を構想し簡潔にまとめなさい。その際に、題材名、題材設定の理由、題材目標、評価の観点と規準、指導の工夫などを明確にし、学習過程における指導のポイントをあげて具体的に述べなさい。(1,400字)

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①課題2の学習過程の指導のポイントは、具体的な授業を計画した上でまとめ、その展開に即して述べる。『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を参考にすること。
- ②取り上げる作品や活動については、美術館やギャラリー、文化施設などにおいて自らが実際に鑑賞した体験や画集などの文献からふさわしい作品を選んで設定する。

〈評価の観点〉

- ①課題1では、「B鑑賞」について「親しみのある作品など」に着目して記述しているか。また、具体的な鑑賞授業をもとにそこに求められる指導における配慮事項について述べているか。
- ②課題2では、高学年の鑑賞についての目標や内容を把握し、具体的な学習過程を想定した上で指導のポイントを検討して述べているか。

〈その他の注意点〉

- ・インターネットや研究資料を参考にする場合、必要な情報を取捨選択し、自分の考えを深めるように活用する。単なる丸写しはしないこと。
- ・参考文献の書き方はテキストを参考にすること。

参考文献

- ・テキストの各章の後に文献が紹介されているので参考にすること。

科目試験等への
アドバイス

- ・本科目試験では、テキスト及び学習指導要領の内容を理解し、教育的な用語及び図画工作科の特性や児童の発達段階の関連を示す文言や概念なども含め明らかにすること。
- ・本教科の意義と役割、図画工作科目標や学年目標、「表現」及び「鑑賞」に関わる内容及び（共通事項）について理解し、指導計画と評価、具体的な指導法について重点的に学習すること。
- ・解答する際、課題によっては具体例や指導法の工夫などを含めて説明を求める場合がある。教師の立場で実践例を示して説明すること。

教員からの
メッセージ

- ・本テキストとともに『小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省』ならびに『よくわかる図画工作科 なっとく新学習指導要領 授業への生かし方』を併用しながら、理解を深めることが重要である。
- ・課題では何を求められているのかを的確に把握すること。
- ・レポート及び科目試験ともに解答の全体構成や段落ごとの内容を構想し記述すること。

08809 家庭科指導法

2単位

テキスト名

『教科指導法シリーズ
小学校指導法家庭 改訂第2版』
玉川大学出版部

科目概要	小学校家庭科は家庭生活を営むために必要な衣・食・住生活や家族、消費、環境等に関わる知識や技能を実践的・体験的な学習を通して習得し、家族の一員として望ましい人間を形成することを目的としている。本科目は、家庭科の目標、内容、学習指導法、指導計画、評価、家庭科の歴史について理論的に学び、家庭科を指導する際、指導上理解しておくべき事項を習得する。そして、家庭科を担当する教師として望ましい資質や力量を養うことをめざす。
主な到達目標	- 家庭科教育の本質が理解でき、目標、内容など家庭科の教科論について説明できる。 - 家庭科を指導するための学習指導法や評価について、基本概念を使用して説明できる。 - 家庭科に対して興味・関心をもち、家庭科の指導を工夫し、指導しようとする意欲的な指導観を獲得できる。
テキスト学修の留意点	- 下記の各課題の解答をまとめ、説明できるようにする。 - 家庭科を指導するためには、テキストに要約された知識だけでなく技能も必要であるので、技能を習得するために日常生活の中で理論と実践の連携を図ってほしい。 - 主な到達目標にかかわる課題について、基本概念を理解して説明できるようにする。 - レポート課題は、テキストの内容をそのまま写すのではなく、内容を十分咀嚼して自己の言葉で解答するよう努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	家庭科教育の意義と役割	- 家庭科教育と家庭教育の類似点や相違点をまとめよ。 - 家庭科の教育的特質を述べよ。 - 教育課程における家庭科の位置づけを説明せよ。 - 児童の生活実態や心身の発達を考慮した家庭科の指導はどうあるべきか。
2	家庭科教育の目標・内容	- 家庭科の目標をまとめよ。 - 家庭科の学習内容にはどのような事項があるか。 - 他教科と家庭科との関連をどう考えるか。
3	家庭科教育の歴史	- 戦前の家庭科教育は何を主眼として指導されていたか。 - 戦後の家庭科教育と戦前の家庭科教育との類似点や相違点をまとめよ。
4	家庭科の指導法	- 学習指導の原理と家庭科指導の実際を具体的に関連づけて説明せよ。 - 家庭科の特徴的な学習指導法を例示せよ。
5	家庭科の評価	- 教師や学習者にとって評価はなぜ必要か。 - 家庭科の評価の4観点についてまとめよ。 - それぞれの評価の観点に基づいて評価するには、具体的にどのような方法を用いるとよいか。
6	家族・家庭生活	- 自分の成長と家族について、どのように指導するか。 - 家庭生活と仕事について、具体的にどのように工夫して指導するか。 - 家族・家庭生活についての課題と実践について、具体的に考えてみよう。
7	食生活	- 食事の大切さを実感をもって学習させるにはどうすべきか。 - 食品の体内での主な働きと含まれる食品についてまとめよ。 - 栄養を考えた食事計画の指導をどうしたらよいか。
8	調理の基礎	- 基本的な調理操作とは何か、例示せよ。 - 調理の基礎について指導するには、どのようなことを留意すべきか。 - 米飯とみそ汁の調理方法と指導上の留意点を整理せよ。
9	衣生活	- 衣服の着用目的をあげ、児童にどのように指導するか。 - 被服の手入れについてどのように指導するか。 - 洗剤の働きと汚れの落ちる様子を説明せよ。
10	生活を豊かにするための布を用いたものの製作	- 被服製作用具の種類と安全な取り扱い方をまとめよ。 - 手縫いの基礎とは何か。指導の留意点をあげよ。 - 生活を豊かにするための布を用いた物の製作をどのように指導すると効果的か。 - ミシンを扱う場合の指導の留意点をまとめよ。
11	住生活	- 住居の機能とは何か。 - 安全・快適な住まい方とはどのようなことに配慮して住むことか。 - 住居の管理とこれからの住生活についてどのようなことが指摘できるか。
12	消費と環境	- 今日の子どもをめぐる消費者問題について例示せよ。 - 購入したいと思う物を決め、購買の意思決定のプロセスを考えてみよう。 - 持続可能な社会と消費生活との関係を考察せよ。
13	家庭科の指導計画	- 指導計画作成の意義とは何か。 - 指導計画作成における留意点をあげよ。 - 題材の構成と配列を考える際に留意することをあげよ。
14	家庭科の施設・設備と家庭科教師	- 家庭科の施設・設備の管理・充足のために留意することを述べよ。 - 家庭科を指導する教師の資質・力量について例示せよ。
15	家庭科教育の課題と展望	- 家庭科教育の課題を整理し、どのようにとらえ、解決を図っていくか考察せよ。 - 今後の家庭科教育に望むことは何か。具体的に述べよ。

シラバス執筆：真田 知恵子

レポート課題

第1分冊 真田 知恵子

第2分冊 真田 知恵子

第1分冊 〈略題〉家庭科の指導内容 第1分冊(第1章～第5章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

児童の家庭生活の実態をふまえて、家庭科で指導したい事項をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①平成29年告示の学習指導要領の記述をふまえて論じること。
- ②児童の家庭生活等の変化から特に指導すべき事項を論じること。

〈評価の観点〉

- ①テーマに沿って内容が整理されているか。
- ②平成29年告示の学習指導要領をもとに言及しているか。
- ③文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ④テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉米飯とみそ汁 第2分冊(第6章～第13章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

「米飯とみそ汁」の調理の指導の要点と指導上の留意点をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①具体的な対象者や授業の設定を明確にすること。
- ②小学校学習指導要領(平成29年告示)の記述内容についても参考にすること。
- ③図、表、写真等の資料を活用して具体的に述べること。

〈評価の観点〉

- ①課題に沿って内容が整理・要約されているか。
- ②文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ③授業の展開については、指導学年や指導内容を具体的に例示しているか。
- ④テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

学習はテキストの学習を先行して行い、さらに発展的学習をするために、有用な参考文献がテキストの各章末に記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、家庭科や家庭科指導に関する基本概念の説明を求める問題と、家庭科を指導する上で理解しておくべき事項を出題する。基本概念の出題は、テキスト全範囲からとなるが、基礎的な指導事項は実践編の中から出題する。
- ・本科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

- ・テキスト学習は机上のものになりがちなので、テキストにより学んだことを実際の日常生活で確かめてみる必要がある。特に、実習や製作などについて学んだことを、自己の家庭生活に役立てていくことが望まれる。そのことによって、指導の力量が養われるからである。

科目概要	児童の心身をめぐる諸問題を解決するためには、知、徳、体の調和のとれた発達が大切であり、いわゆる「生きる力」を育むことがますます重要になる。また、毎年実施される子どもたちの体力・運動能力調査においては、一部改善の様子は見られるものの、依然停滞や低下傾向にある。以上のことを念頭におきながら、学習指導要領に基づき、児童の発育・発達の特徴、体育の考え方、学習指導や評価法などについて学ぶ。
主な到達目標	子どもたちの心身の発育・発達の特徴と各運動領域（運動系）の特性や指導の適時性を踏まえながら単元計画を立て、指導案（単位時間計画）を作成した上で模擬授業ができるところまで実践力を身につける。
テキスト学修の留意点	レポート作成に当たっては以下の点に留意すること。 ・テキストの内容をまとめるだけでなく、学校現場や現在の子どもの様子について、日頃の情報収集も大切である。 ・レポート課題に記載された留意事項や評価の観点を参考にしてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	小学校学習指導要領の理解	総説を理解する。 体育科改訂の要点を理解する。
2	体育科の目標	体育科の目標と内容構成を知る。
3	年間指導計画と単元計画の理解	体育科の年間指導計画と単元計画を理解し、作成する。
4	体育の指導と評価を理解	体育科指導と評価のあり方を知る。
5	教材づくりの理解	単元教材の作成と教材づくりの方法を知る。
6	体育科の学習指導論	学習指導理論と学習形態を知る。
7	体育における安全とインクルーシブ教育	体育事故の実態を知る。体育科におけるインクルーシブ教育の理解。
8	体育科の ICT 活用の理解	ICT の活用例からその効果を知る。
9	体づくり運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 体づくり運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
10	器械運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 器械運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
11	陸上運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 陸上運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
12	水泳運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 水泳運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
13	ボール運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 ボール運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
14	表現運動系の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 表現運動の学習指導計画作成のポイントは何か。
15	保健領域の指導	発達段階による学習指導のポイントは何か。 保健の学習指導計画作成のポイントは何か。

シラバス執筆：高島 二郎

レポート課題

第1分冊 南島 永衣子

第2分冊 南島 永衣子

第1分冊 〈略題〉指導と評価の計画 1～165頁

横書き

Word添付

〈課題〉

3年ゴール型ゲーム（タグラグビー以外）の単元を1つ選び、8時間単元の「指導と評価の計画」を作成せよ。
その際、2時間目～5時間目のいずれかの時間を選び、本時案も作成すること。

【D評価にならないために】

本時案の作成に関連し、単元計画の作成が必須となる。単元計画の作成について忘れた場合は、主としてp.96-97,108-109を参考にするとよい。②本時案の作成は、p.169の第4章以降の各領域の事例を参考にするとよい。③本テキストで作成した単元構図は、国立教育政策研究所の学習評価に関する参考資料（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_taiiku.pdf）を参考にしているため、より詳細に知りたい場合は、国研HPを参考にするとよい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

「ねらい」「学習活動」「評価の重点」を記述する。矢印を用いてもよい。

レポート作成にあたって、以下の単元構図の指導案フォームを使用して作成しても構わない。

{単元構図の指導案フォーム <https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/> 単元構図の指導案フォーム.docx}

1から6の順番で概ね指導計画を立案すること。

その際、単元構図（エクセル内）を使用する場合は、以下の「3. 単元の目標」、「4. 単元の評価規準」、「5. 指導と評価の計画」、「6. 指導上の留意点」などは既に組み込まれているため、単元構図に記載の無い内容の「1. 単元名」、「2. 対象」などを上部に持ってきて、番号と見出しをつけ文章を追記すること。

1. 単元名（領域名）
2. 対象（学年や男女の人数など）
3. 単元の目標
 - (1) 知識及び技能
 - (2) 思考力、判断力、表現力等
 - (3) 学びに向かう力・人間性等
4. 単元の評価規準
 - (1) 知識・技能
 - (2) 思考・判断・表現
 - (3) 主体的に学習に取り組む態度
5. 指導と評価の計画
6. 指導上の留意点など

〈評価の観点〉

「ねらい」「学習活動」「評価の重点」を正しく記述できているか。
客観的に記述できているか。

〈その他の注意点〉

教科書以外の参考文献は積極的に活用し、出典を明記する。

〈課 題〉

小学校体育科6運動系領域の1つを選び、発達段階による学習指導のポイントをまとめよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

低学年、中学年、高学年について記述する。

〈評価の観点〉

低、中、高学年の差が明確に記述出来ているか。

〈その他の注意点〉

教科書以外の参考文献は積極的に活用し、出典を明記する。

参考文献

『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省

科目試験等への
アドバイス

体育科は、理論を理解した上で実技指導ができることを重視するため、具体的な指導例や指導場面を上げる問題がある。

教員からの
メッセージ

テキスト学習のため、模擬授業の機会はないが、教育実習や将来に備え、できるだけ実技指導の経験を積んでおくことを望む。

①新版の第3章第4節の単元計画の作成を十分に理解したうえで、第4章の各運動領域の指導と評価の計画例（**単元構造図**）を参考にし、レポート課題を作成して下さい。

※1. 単元目標は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の順になることとそれぞれの目標が混在しないように留意すること。

※2. 対象の児童（学年、男女の人数など）を追記すると更に良い。

※3. 内容によっては、見出しを付けて指導の留意点などを示してもよい。

単元の目標を踏まえ、単元の評価規準を作成することになりますが、

②小学校学習指導要領解説（体育編）の例示を見ながら評価規準を作成して下さい。

評価規準の作成では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的態度」のそれぞれに記載する内容が、

③他の評価に該当する内容と混在しないように気を付けると共に、文末表現にも留意して作成して下さい。

※場合によっては、国立教育政策研究所から出されている「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（体育）

[<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryoku.html>] を参照してください。

科目概要	我が国の「教科国語」(国語科)は、日本語に関するすべての学習内容が含まれているという特徴をもつ。小学校の学習で、日本語の基礎基本のほとんどを習得することが求められ、その成果は、その後の言語生活に大きな影響を及ぼす。小学校での総授業時数の4分の1強が、国語科に充てられている理由がここにある。言語の働きと意義についての見識を深め、言語の教育としての教科の特徴を確実に理解することが必要である。
主な到達目標	小学校学習指導要領に示された「国語」の目標や内容を十分認識し、具体的な指導事項について理解する。(平成29年告示の学習指導要領に読み替えて考察すること) 児童の指導に役立つ基本的な言語知識を理解し、授業場面における教材研究の手順や方法を身に付ける。 音声・文字言語等、日本語についての認識を深め、その起源や変遷を理解し、今後の日本語の在り方等について考察することで、自分自身の言語生活の向上改善を図る。
テキスト学修の留意点	1. テキストの各章ごとに要約していく。 2. 各章末の確認問題を解く。 3. 学習指導要領(最新版・平成29年告示)や参考図書に当たり、テキストの背景理解を深める。 4. 実際の児童用教科書(レポート作成時点で手に入る最新版の教科書)の当該単元と照応させるなどして、実践的に学ぶ。

	学修テーマ	課題
1	小学校学習指導要領『国語』の内容構成の特色	学習指導要領の改訂理由やその背景について理解を深める。 (知識及び技能の3事項、(思考力、判断力、表現力等)の3領域の内容を2学年ごとのくくりで整理し、縦・横の関連性と特徴を理解する。 (学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること)
2	話すこと・聞くこと	小学校学習指導要領解説国語編 A 領域「話すこと・聞くこと」の指導内容を理解し、具体的な言語活動を開発する。(学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること)
3	書くこと(1)	小学校学習指導要領解説国語編 B 領域「書くこと」の指導内容を、児童用教科書と対応させ、具体的な指導過程を理解する。(学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること)
4	書くこと(2)	実作を通じて「書くこと」の文種の特徴を理解する。 (俳句・短歌・自由詩・意見文・説明文・紹介文・感想文など)
5	読むこと 説明文(1)	小学校学習指導要領解説国語 C 領域「読むこと」の指導内容の該当箇所を読み、実際の児童用教科書と対応させながら、具体的な指導過程を理解する。(学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること)
6	読むこと 説明文(2)	接続語の種類と機能を分類し、理解する。 段落の意味、段落相互の関係について実際の文章に当たって検証する。説明的な文章を読み、要旨をまとめる。
7	読むこと 文 学(1)	小学校学習指導要領解説国語 C 領域「読むこと」の指導内容の該当箇所を読み、実際の児童用教科書と対応させながら、具体的な指導過程を理解する。(学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は現行版である令和2年度版を使用すること)
8	読むこと 文 学(2)	教科書に収録されている文学教材をできるだけ集めて読み、その内容価値や表現上の特徴をつかみ、まとめてみる。その際、学習指導要領の指導内容との関連を明記すること。(学習指導要領は最新の平成29年告示のものに読み替えて考察すること。児童用教科書は令和2年度版を中心とすること)
9	読むこと 文 学(3)	テキストを参考に、自分の選んだ文学教材の教材分析をし、言語活動例を考える。
10	伝統的な言語文化	学習指導要領における「伝統的な言語文化」の内容について学習し、教材研究の方法について考える。
11	日本語の特質(文字)	漢字の構造を分析的にとらえ、系統化する。小学校で学習する教育漢字についてその成り立ちや構造をまとめる。 表意文字(漢字)・表音文字(仮名・ローマ字)について理解する。
12	日本語の特質(書写)	書写の学習要素10項目や基本点画について、理解を深める。 硬筆書写と毛筆書写、書道との関係について理解する
13	日本語の特質(文法)	小学校学習指導要領解説国語の該【知識及び技能】を読み、児童用教科書と対応させながら、学習の展開を理解する。
14	日本語の特質(語彙)	自分の言語体験や言語生活を見直し、語彙を豊かにするための環境整備や日常の取り組みについてまとめる。
15	思考力 まとめ	今、最も求められている「思考力」を育成することと、言語能力の育成、言語活動の充実との関連性について考え、生きる力で育成を目指す「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう人間性」についてまとめる。

レポート課題

第1分冊 鈴木 隆之

第2分冊 松本 修・鈴木 隆之

第1分冊 〈略題〉説明的文章教材の教材研究 第1分冊(第1章から第8章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第5章・第6章を読んで、次の内容についてまとめなさい。

①レポート作成時点で手に入る最新版の教科書に掲載されている小学校中・高学年の説明文教材の中から教材の一つを取り上げ、自分なりの教材分析をし、獲得させたい能力を明確にしたうえで、具体的な学習課題と学習活動（言語活動を含む）について説明する。

②①の学習と関連させて、①の学習で獲得した「説明的文章を読み解く能力」を活用して読み進めることのできる児童に紹介したい説明文の掲載されている「本」の題名・著者を挙げ、その本を選んだ理由を説明する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

最新版（平成29年告示）の学習指導要領の目標・指導内容や言語活動について触れながら説明する。

〈評価の観点〉

自分が教師として授業を行う場面を想定し、的確な教材分析に基づき、具体的に記述してあること。

課題の①、②、留意事項に配慮がなされていること。

〈その他の注意点〉

独自に参考にした文献を含め、引用はきちんと注を示して出典を明らかにすること。

（参考にした資料等の記載がない場合は再提出）

第2分冊 〈略題〉「ら」抜き「さ」入れ言葉についての学習 第2分冊(第9章から第15章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

第13章を読んで、文法の学習のあり方について理解した上で、次の内容についてまとめなさい。

①「ら」抜き「さ」入れ言葉とはなにか。

②文法を学習するために「ら」抜き「さ」入れ言葉をどのように取りあげるか、具体的な学習内容について自分なりのプランを提示し、解説する。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

指導案の形は取らなくて良いが、具体的な学習が理解できるように述べる。

テキストでは、違うトピックについて「考える文法」の考え方に基づく学習デザインについて説明している。その趣旨をふまえて、レポート作成にあたること。

〈評価の観点〉

自分が教師として授業を行う場面を想定し、具体的に記述してあること。

課題の①、②、留意事項に配慮がなされていること。

〈その他の注意点〉

独自に参考にした文献を含め、引用はきちんと注を示して引用すること。

参考文献

.....
テキストにあげられている参考文献。

科目試験等への
アドバイス

.....
特になし

教員からの
メッセージ

.....
固定観念にとらわれないこと。学習者の立場にたって、興味の持てる学習を想定すること。

科目概要	社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」とある。そこで、本書では、社会科成立の背景、4年間の構成原理と内容の編成、教科力向上のための学習の展開や実践的な学習方法について学ぶとともに、教材開発力を身に付けることをめざす。
主な到達目標	(1) 社会科の基本的な性格や学習方法を理解し、社会認識を深める事例について考える。 (2) 戦後、社会科が新設された背景と意義を通して、社会科の原理について学ぶ。 (3) 社会科の内容編成についての方法と手順、学習の展開方法について事例とともに学ぶ。 (4) 「地域社会に関する学習」「産業と国土の学習」「環境・情報の学習」「政治や歴史に関する学習」の展開、調べ学習、解説図や写真、統計の教育的活用等について学ぶ。
テキスト学修の留意点	・ 内容に興味を抱き、社会事象を良く捉えて読み、重要な部分には、アンダーラインを引く。 ・ 大切な社会科用語をノートに書き出し、意味を調べ、因果関係を書き写す。 ・ 各章のキーワードを使った要約文を書き、演習問題に取り組み、説明できるようにする。 ・ レポート課題は、テキストが説明している文章そのままではなく、自分なりに解釈して自分の言葉で記述する。(そのまま「引用」する時は、明記すること)

	学修テーマ	課 題
1	社会科の内容構成	4年間の社会科の学習内容を構成原理から理解し、学習内容がどのように児童の社会認識を深めていくのかをまとめる。
2	社会科成立史	戦後、社会科が新設された背景や意義を捉え、学習の方法論として引き継がれている問題解決的な学習を基本とした学習活動の意義を考える。
3	地域社会に関する学習 (地理的な環境)	身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子や特色を、地図や写真、統計資料を通して、郷土に関する意識や公民としての資質能力の基礎を醸成する方法を理解する。
4	地域社会に関する学習 (産業や消費生活)	地域の生産物や販売に携わっている人々の働きについて、見学や調査の仕方、学ぶための方法を理解する。
5	地域社会に関する学習 (健康・安全な生活)	飲料水やごみ、警察と消防など、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境・安全を守るための諸活動について、副読本や見学、調査の仕方、学ぶための方法を理解する。
6	地域社会に関する学習 (伝統・文化)	自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している人々の生活の特色を、地域住民へのインタビューや郷土資料館等の公共施設の見学・調査活動の仕方、学ぶための方法を理解する。
7	地域社会に関する学習 (開発に尽くした先人の努力)	地域の人々の生活について、生活の変化や願い、人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を、見学・調査したり、年表にまとめたりして、考える方法を知る。
8	産業と国土の学習 (国土の様子と環境)	日本・世界地図や地球儀を用いて日本の地理的な位置や大陸と異なる我が国の特色などの理解を深め、我が国の国土の様子と国民生活との関連について考える。
9	産業と国土の学習 (農業・水産業・工業)	我が国の食糧生産(農業や水産業)、工業生産(工業の様子)と国民生活との関連などを通して、産業学習に関連する共通点とものづくりにかける人々の思いを理解する。
10	環境・情報の学習	国土と環境、国民生活に関する様々な事例を通して、保全や自然災害の防止に努めることの大切さと、社会の情報化の進展とともに情報化した社会での情報の有効な活用と保護の重要性について理解する。
11	政治に関する学習	身近な暮らしの中で、公共施設がどのようにつくられたか、地方自治体や税金の内容、憲法や政治のしくみなどを日常生活と結びつきが見られる事例を取り上げ考えさせる方法を理解する。
12	歴史学習 (縄文・弥生～平安)	縄文・弥生から古墳時代にかけて変遷する人間の生活、飛鳥時代から奈良・平安時代にかけて中央集権的律令制社会へと移行する国家運営について、先人の業績や優れた文化遺産、遺跡や文化財、各種の資料をもとにした歴史の調べ学習について考える。
13	歴史学習 (平安時代末期～室町時代)	平安時代末期から鎌倉時代を経て室町時代へと至る我が国中世の歴史において、先人の業績や優れた文化遺産、絵画や文化財、各種の資料をもとにした歴史の調べ学習について考える。
14	歴史学習 (戦国時代～江戸時代)	戦国時代から江戸時代の地域に残る史跡や文化財、教科書掲載の歴史絵図や文章資料等、資料の特質に応じて関連させる学習活動を考える。
15	歴史学習 (明治時代～戦後・現代 国際理解学習)	開国から明治維新の諸改革、大日本帝国憲法の制定や国会開設、日清・日露の戦争と第二次世界大戦、戦後の復興と民主国家への歩みを理解し、日本とつながりの深い理解を深め、世界のなかの我が国の役割について考える。

シラバス執筆：三好 浩一

レポート課題

第1分冊 志村 明彦

第2分冊 樋口 雅夫・志村 明彦

第1分冊 〈略題〉地域社会の教材化 第1章から第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

地域に密着した社会科が求められている現在、地域の教材開発は極めて重要な課題である。そこで、いわゆる「地域学習」と称される小学校3・4学年の社会科単元において教材化される社会事象の意味について、社会科の理念や学習指導要領の変遷に触れながら記述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①社会科は、地域社会をどのような切り口から教材化しようとしているのか。3・4年の目標と公民的資質というキーワードを必ず用いること。
- ②単に通信テキストの内容の要約でなく、自分の住んでいる地域から2つの社会事象（消防署や警察署、スーパーマーケット、清掃工場や浄水所。地域の文化財や年中行事、県内で起こった自然災害の事例から防災を学ぶなど）を抽出しその教材化を図り、2100～2400字程度にまとめること。

〈評価の観点〉

- ①社会科の教科としての理念や学習指導要領の変遷に触れているか。
- ②社会事象の意味を正しく捉えているか。
- ③社会事象に見られる、自分の住んでいる地域の教材の事例をきちんと2例取り上げ、論理的に記述しているか。

〈その他の注意点〉

教材化した地域社会の社会事象を学習させるときに、どのような学習をさせたいかで、ねらいや展開が変わります。

1. 社会事象の意味を追及させる体験的な学習活動
2. 社会事象への興味・関心・意欲を高めさせる体験的な学習活動

第2分冊 〈略題〉日本の国土・産業・政治のしくみ・歴史・国際社会の中の日本
第8章から第15章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

小学5・6年の社会科単元において教材化される社会事象や事物の意味や解釈について具体的（2つの教材名をあげて）に述べよ。その教材の単元における配列理由についても触れつつ、教材レベルに考察の視点をおいて記述せよ。注意すべきは、教材の指導法でなく、教材そのものの教育的価値について述べること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①国土や政治、歴史をどのような切り口から社会科は教材化しようとしているのか、日本人としての自覚という言葉を用いること。
- ②通信のテキストに記載されている教材だけでなく、文部科学省検定児童用教科書などに掲載されている具体的な社会科教材（例えば、国土の地形や気候の具体的な内容、政治的な出来事やしくみや歴史上の人物名や文化財名、等）の中から選び、2点教材事例として取り上げ2100～2300字程度で記述せよ。教材の持つ価値や意味、資料性などに触れること。

〈評価の観点〉

- ①小学校高学年児童が習得・活用できる知識や思考・判断・表現力が培われる教材内容であると位置付けられているか。
- ②「日本の国土・産業・政治のしくみ・歴史、国際社会の中の日本」をつき通す社会科固有の見方について触れているか。
- ③具体的な教材の事例を2例取り上げ、「である調」で教材の解説・解釈を論理的に記述しているか。

〈その他の注意点〉

『社会科指導法』のレポートと同じ記述が見られます。料理に例えれば、指導法は調理法です。

（教科）社会は、調理で使う材料の吟味に当たります。材料つまり、社会科の教材（社会事象や事物そのもの）の考察に力を入れてください。

なお、文献等からの引用は必ず注記のこと。

参考文献

- ・社会 / （教科）社会（教科力シリーズ改訂第2版） 各章の発展的な学習として挙げている参考文献
- ・小学校指導法『社会』（教科指導法シリーズ改訂第2版）を同時に参考にするものの、指導法のレポートではないので要注意のこと。
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成29年7月 日本文教出版
- ・寺本潔編著『言語力が育つ社会科授業 - 対話から討論まで -』教育出版、平成21年4月
- ・寺本潔・吉田和義編著『伝えあう力が育つ社会科授業』教育出版、平成27年2月

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験は、テキスト全範囲が対象ですので、テキスト理解が重要です。全体を学んでから受験することが望ましい。
- ・社会科の基本概念・単元学習・展開方法等についての説明や事例を求める問題もある。
- ・各章毎に演習問題が設定されているので、課題学習後に取り組むことが必要である。
- ・出題に「具体的に説明せよ」とある場合には、できる限り実際の例を示して説明する。そのためにも、教科書や地図帳をもとに学習するとよい。

教員からの
メッセージ

- ・日常生活の中で、国内外のニュースや教養番組を視聴する。
- ・社会的事象に関心をもつために新聞等を読み、社会への鋭敏な感覚をもつようにする。
- ・地域にある博物館や資料館を積極的に訪れ、教材化した場合の学習活動の形態や興味のもとせ方を考える。
- ・テキストや学習指導要領、社会編を読み込み、内容を十分把握する。

科目概要	小学校で教えている算数科教育内容だけに留まらず、その教育内容の背景や関連する内容の知識を修得することを中心とする。そのため、現行の小学校の教育内容レベルを越えている内容、高等学校までの数学では扱わない内容の学修を含む。
主な到達目標	(1) 小学校算数科教育内容の教材の背景となる、数学の内容を理解する。 (2) 小学校算数科の教材研究の方法を体験する。
テキスト学修の留意点	(1) 各章の数学的内容をまず理解し、履修者自ら説明できるようにする。 (2) 現行の指導内容との関連を考え、説明できるようにする。 (3) 各章にある、製作や活動を実際に行う。そして、指導上の留意点をまとめる。 (4) 各章末にある、課題を解いてみる。 (5) レポート作成では、「レポート課題」に記載した留意事項と評価の観点に留意してほしい。 (6) 学習指導書にヒントやより詳しい内容が書かれている。また、EduTrack に資料を掲出しているので、テキストとあわせて学修に活用すること。

	学修テーマ	課 題
1	学習内容の概要	算数科の領域と中学校数学科の領域を比較して、算数の個々の内容が数学のどの内容につながっていくか、その系統性を調べる。
2	数と計算 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
3	数と計算 2	1. 現行の筆算形式とバラ数による筆算形式とで加減乗除の筆算を行い、どのような違いがあるかをまとめよ。2. 「分数×分数」、及び、「分数÷分数」の計算方法を、図や数直線、代数的方法のそれぞれで説明してみよ。さらに、それぞれの方法でのメリットと指導の際の注意点をまとめよ。
4	数と計算 3	1. 等号・不等号の意味の理解についての子どものつまづきを考え、それを打開するための指導方法を考えよ。2. 子どもの学習意欲喚起を目的として、次に述べる数学者をもとに、方程式の発展に関する数学史を調べ教材化せよ。(ヴィエト、カルダーノ、ガロア)
5	量と測定 1	1. 台形の積み上げで近似する方法で死海の面積を求めよ。2. カバリエリの原理を導入した三角形の求積方法の指導過程を記述せよ。
6	量と測定 2	1. 「自分物差し」を作って、自分の体の様々な部位のサイズを測ってみよ。2. 身近にいる動物や昆虫の速さを実際に計測せよ。
7	図形と論理 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
8	図形と論理 2	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
9	図形と論理 3	1. 帰納推論と演繹推論の違いを、算数科での例をあげて説明せよ。2. 命題論理の演算についての性質のド・モルガンの法則 (右) (p113) が成り立つことを、真理表を書いて確かめよ。
10	数量関係 1	{ 内容はこちらをクリックして下さい、 https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813 シラバス .pdf
11	数量関係 2	1. 宝くじの期待値を実際に調べてみよ。2. 自分で課題を設定し標本調査を行って、その結果を分析せよ。例として、『A「裸眼視力」と B「ゲームやテレビ等を見続けている時間」についてデータ調査を行い、ゲームやテレビを見続けることが視力低下へと結びついているのか。』がある。
12	問題解決と数学的モデリング	1. 作図によって九十九里浜の実長を求めよ。5年生へ指導することを想定した指導計画を立てよ。2. ジャガイモから車の形を切り出してケント紙で各辺が2倍の車を作れ。6年生へ指導することを想定した指導計画を立てよ。自分で作業した経験を生かして、指導の上で注意しておくこともまとめよ。
13	他教科との連携 1	1. 正三角形の基本の運動は、360°回転 (e)、120°回転 (r120)、240°回転 (r240)、縦線対称 (v)、右上斜め線対称 (d1)、右下斜め線対称 (d2) の各運動である。正三角形の台紙には何種類の模様が描けるか。3. 自分で目の高さや画面までの距離を決めて、トリックアートを描いてみよ。
14	他教科との連携 2	1. 自分の地域にあった赤道型日時計を作って、時刻を調べてみよ。その際に、製作上で気をつけたことなどをまとめてみよ。 2. 南半球で使う日時計の作成方法と設置方法は、北半球で使う日時計とどう違うかを考えてみよ。
15	いろいろな問題	1. 本文にある問題を解いてみよ。また、中学校入試問題等を解いてみよ。 2. いろいろな数学パズルを探して、解いてみよ。 3. パズルなどを算数科で指導する場合の学習指導案を書いてみよ。

レポート課題

第1分冊 藤谷 哲

第2分冊 藤谷 哲

第1分冊 〈略題〉数と計算、量と測定、数量関係 第1章～第6章、第10章、第11章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

{内容はこちらをクリックして下さい。}

<https://webtama.tamagawa.ac.jp/up/faces/tis/TT014508813第1分冊レポート課題.pdf>

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) では小学生が納得できる内容で、丁寧に説明する。ただし、文体は小学生風でなくてよい。
- (2) では、計測のための準備、方法を記述したうえで、確かに計測を行ったという証拠になる写真を添付すること。何回か計測して平均値を出すこと。
- (3) では、計算式とExcel等への入力式を記すこと。
- (3) では、PC上の画面コピーか写真を添付すること。
- (4) では計算の過程を示すこと。
- ワープロで数式を入力する場合は、必ず数式エディタを使って入力すること。

〈評価の観点〉

- ① シラバスに従ってテキストと学習指導書を学習し、その成果が表れているか。
- ② 指示どおりに書かれているか。
- ③ 他人に分かるように丁寧な説明がされているか。
- ④ 全課題が正しく行われているか。
- ⑤ 自分で作業していないと思われる場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

第2分冊 〈略題〉図形と論理、問題解決 第7章～第9章、第12章～第15章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) ジャガイモから、天井とそれに接する側面との二面角の大きさが90度より大きい車を切り出し、ジャガイモの車と対応する辺の長さの相似比が1:2となる紙の車の展開図を作成した上で、紙製の車の模型を製作せよ。さらにこの製作活動を子どもに指導する場合の留意点をまとめよ。
- (2) 一直線上にない3点を通る円をコンパスを使って作図する手順を示し、なぜその手順で3点を通る円の中心が求められるのかを小学生が理解できるように円が線対称図形であることから説明せよ。さらに、千葉県九十九里浜の地図を入手し、作図によりその海岸線の実長を求めよ。
- (3) 台形の積み上げで近似する方法と、もう一つ別の方法で岩手県の面積を求めよ。
- (4) 第12章は、2は『死海はどのくらい小さくなっているのか』、3は『刺繍画に使う糸の、曲がり具合と長さはどう定めるか』という現実世界の問題に対して数学を用いその解決を目指している。同章を読み、小学校高学年から高校までの学年を決め「数学的モデリング」の取り組みができる事例を作れ。(A)『』で上述したような「タイトル」、(B)172ページ1～4行目のような「場面設定の説明文」、(C)決めた学年で出そうな「問題場面に作用する条件を整理した結果(現実モデル)」、(D)「数学的な処理の例(数学モデル)」と(E)「その結果」を書け。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- (1) では、作図過程が残っている車の展開図、及びジャガイモの車と完成した紙の車のツーショットの2枚の写真を添付すること。色鉛筆や色サインペン等で綺麗に彩色し、作品としても美しくなるよう製作すること。組み立ての際セロハンテープは使わず、適切な大きさの糊しろを作ってから切り抜き、組み立てること。
- (2)、(3) では、作図や作業過程が残っている地図等を添付すること。
- (3) では、小学校で学習する範囲の知識を使って解くこと。
- (4) は、(A) (B) をふまえ (C) (D) を「児童生徒自身で作る」ことが学習活動にあたる。(A) (B) を、現実の問題場面にどのような条件が作用しているか、条件整理を行い数学モデルを作るのに繋げられる説明にしよう。
- 数式を入力する場合は必ず数式エディタを使い入力すること。

〈評価の観点〉

- ① シラバスに従ってテキストと学修指導書での学修を進め、その成果があらわれているか。
- ② 指示どおりに書かれているか。
- ③ 他人に分かるように丁寧な説明がされているか。
- ④ 全課題が正しく行われているか。
- ⑤ 自分で作業していないと思われる場合は不可評価になる。

〈その他の注意点〉

テキスト以外の文献を参考にしたり、引用したりした場合は、その文献名を最後に記述すること。また、インターネット上の情報を利用した場合は、そのアドレス等を明記し、出所を明らかにすること。

参考文献

.....
 テキスト、及び、学修指導書に掲載している。

科目試験等への
アドバイス

.....
 テキストに書かれている数学的内容を理解しているか、また、その内容と現行の学習指導要領における指導内容との関連を理解しているかを問う。

教員からの
メッセージ

.....
 近年、「数学的活動」がキーワードになっている。必ずしも体験的活動を指すのではないが、テキストを単に読むだけでなく、そこに掲載された製作活動や作業を実際に行いながら、学習して欲しい。

科目概要	科学の進歩はめざましく、科学知識の量も加速的に増え、学校における理科教育の重要性についてもますます大きくなっている。これまで学んできた小学校・中学校及び高等学校理科の基本的事項について、小学校理科の内容理解を深めることを目的に、学校の教師としてぜひ理解しておきたい事項について理解を深める。
主な到達目標	・科学一般の基本的な概念を自分の言葉で話したり書いたり、計算したりできること。 ・科学のおもしろさに興味をもつようになること。 ・身近な現象を見直して、現象を科学的に見ることが出来る楽しみをもつこと。 ・小中学校における理科学習指導が円滑にできるように知識や科学的な見方・考え方を身につけること。
テキスト学修の留意点	・テキストを読むだけでなく、実験や観察を行い、現象と結びつけて理解するよう努めること。 ・テキストは必ず全文をよく読み、理解すること。また、参考図書や中学校の教科書等を用いて理解を深めること。 ・原理、法則、用語等は、必要に応じて図や絵で示したり、具体例などを示したりして、わかりやすく説明できるようにすること。 ・各課題に取り組む際は、課題の内容を十分理解し、わかりやすく説明できるようにすること。

	学修テーマ	課 題
1	第1章 重さと質量	科学を学ぶ上で、最も基本となる、質量や体積などものの量の単位について学ぶ。 重さ、質量、重力、体積、フックの法則、容積、密度、浮力
2	第2章 力とてこ、ふりこ	力の基本的な概念の理解を図り、原理について学ぶ。 てこ、支点、力点、作用点、力のモーメント、輪軸、ふりこ、周期、摩擦力、運動の第一法則、慣性の法則、等速直線運動、放物線
3	第3章 電気回路	物理の基本となる電気に関する法則、原理を学ぶ。 回路、端子、導体、電流、電気抵抗、直列つなぎ、合成抵抗、電圧、並列つなぎ、電流の磁気作用
4	第4章 熱の移動と熱膨張	物理の基本となる、熱現象についての原理を学ぶ。 温度、熱平衡状態、熱量、カロリー、比熱、熱伝導、放射、熱膨張、対流、摩擦熱、電子レンジ
5	第5章 物質の構成と原子・分子	化学の現象を理解するうえで基本となる、物質の構成、原子や分子について学ぶ。 金属、合金、物体、物質、原子、元素、周期表、放射性元素、質量保存の法則、定比例の法則、原子、分子、原子核、電子、モル (mol)、同素体
6	第6章 物質の状態変化	化学の基本である、状態変化について学ぶ。 状態変化、気体、液体、個体、状態、水蒸気、蒸発、沸騰、融解、凝固、昇華、液化、気化、気化熱、湯気、沸点、融点
7	第7章 溶解・水溶液	化学の基本である、溶解と水溶液について学ぶ。 溶解、均一、溶媒、洋室、水溶液、拡散、ろ過、抽出、コロイド、飽和、溶解度、濃度、質量パーセント濃度、モル (mol) 濃度、酸性、アルカリ性、塩基、水素イオン、中性、中和
8	第8章 燃焼・酸化・還元・化学変化	化学の基本である、燃焼・酸化・還元・化学変化について学ぶ。 燃焼、酸化、化学変化、炎、還元
9	第9章 生物の分類	生物学の基本である、分類について学ぶ。 進化、共通性、系統、階層、ドメイン、植物、動物、菌、原生生物、分類、五界説、三ドメイン説、裸子植物、被子植物、単子葉植物、双子葉植物、真核生物、原核生物
10	第10章 植物	生物学の基本である、植物について学ぶ。 植物、双子葉植物、単子葉植物、シュート、維管束、葉腋、光合成、呼吸
11	第11章 動物	生物学の基本である、動物について学ぶ。 動物、消化、吸収、消化酵素、排出、血液循環、体循環、肺循環、糸球体
12	第12章 地球と宇宙	地学の基本である、地球と宇宙の構成について学ぶ。 満月、新月、月齢、天動説、地動説、南中、日周運動、月食、日食、黄道、恒星、惑星、天の川
13	第13章 地殻	地学の基本である、地球とその変動について学ぶ。 堆積岩、火成岩、変成岩、鉱物、侵食、運搬、堆積、化石、地殻、プレート、プレートテクトニクス、活断層
14	第14章 天気と気象	地学の基本である、天気と気象について学ぶ。 気象、対流圏、成層圏、露点、飽和水蒸気量、偏西風、台風
15	全体のまとめ	これまでの学習を振り返り、環境問題やこれからの科学の進歩と社会のかかわりについて学ぶ。 各章で学んだことと、現在の環境問題や科学の社会的な問題について課題を持ち、自分なりに調べる。

シラバス執筆：石井 恭子

レポート課題

第1分冊 酒井 浩明

第2分冊 鈴木 明子

第1分冊 〈略題〉物理・化学 第1章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

以下の4つの課題から2つ選び、必ず実験を行い、方法、結果、考察を写真、図や表、グラフなど適した方法で表し説明しなさい。

1. アルキメデスの原理を使って10円玉と1円玉の体積と質量を量って密度を求め、理論値と比較し考察しなさい。
2. 水を熱して沸騰するまでの時間と温度の関係を二つの条件(水の量や火加減、蓋の有無など)で比較し考察しなさい。
3. 紫(赤)キャベツ試験液等を使って身の回りの水溶液の性質(酸性アルカリ性等)を調べ考察しなさい。
4. 豆電球及び電池の直列、並列つなぎについて、豆電球の明るさや回路の各点における電流の大きさを調べ考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・レポートに取りかかる前に、各章の内容を良く理解し、EduTrackの講義室に掲載している「(教科)理科」学修指導書や「レポート作成 参考資料」に目を通してから、レポート全体の作成構想を立て、必ず自分で実験や調査を行うこと。
- ・レポートは、項目立てを行い、必要に応じて図や表、グラフなども用いて読み手に分かり易く作成し、実施した実験状況や結果などがわかる写真を必ず添付すること。

〈評価の観点〉

- ・問題に対して、深く調べるなどして、適切な実験等を行い、自力で解決して解答を導いているか。
- ・解答を導くための過程が丁寧に示され、図示するなど適した方法を活用し、読み手に分かりやすい記述がされているか。
- ・解答が不十分なもの、未回答、留意事項が遵守されていない場合は、減点あるいはD評価とする。

〈その他の注意点〉

レポート課題集で示されている字数、形式にこだわらなくても良いが、EduTrackの講義室に掲載している「レポート作成参考資料」に示した項目立てを参考にすること。

第2分冊 〈略題〉生物・地学 第9章～第14章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- 1 身近な生活圏に生育している昆虫などから3種選び、全体と部分の写真、スケッチ等を添付した1種につき複数の観察記録を作成しなさい。また、分類及び生態を資料から調べ、観察記録と関連づけて分かり易くまとめなさい。(観察した月日・時間、天気(気温)、場所等を明記 固有の特徴や成長、変態の様子が記録できるとよい)
- 2 私たちが生活する日本には四季があります。季節変化が起きる理由とそれぞれの特徴について、地球の公転と関連づけて図などを用いて論ずるとともに、証明する気象データ、実験を加えて分かり易く説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・レポートに取りかかる前に、各章の内容をよく理解するとともに、参考文献等からも積極的に学ぶこと。
- ・レポートは、項目立て、できるだけ図や表、グラフなどを用いて分かり易く作成する。
- ・課題1 実際に野外に出て対象物を見つけ、必要に応じた観察や採集などを通してまとめる。
- ・課題2 実験は問題解決のレポートの形(目的、仮説、実験計画、実験の記録写真、実験結果、考察・結論)で示すこと)

〈評価の観点〉

- ・課題に正対するとともに、興味・関心に応じて深く調べるなどして、自力で解決して解答を導いているか。
- ・解答を導くための過程が丁寧に示され、図示するなど適した方法で記述されているか。
- ・解答が不十分だったり、留意事項及び評価の観点が遵守されたりしていない場合は、再提出となる。

〈その他の注意点〉

- ・レポート提出要領で示されている既定の字数や形式にはこだわらなくて良い。必要に応じて、文章だけでなく、図や表、グラフなど適した表現方法を心がけること。

参考文献

- ・中学校・高等学校の理科の教科書
- ・「大人のやりなおし中学物理」「大人のやりなおし中学化学」「大人のやりなおし中学生物」「大人のやりなおし中学地学」講談社ブルーバックス

科目試験等へのアドバイス

- ・科目試験の出題範囲は、テキスト全体となる。本シラバスに示された用語について、説明できるようにしておく。
- ・テキスト内のゴシック体で示されている原理、法則、用語等を200字～300字程度で説明できるようにしておく。
- ・章末の演習問題にしっかりと取り組んでおく。
- ・第一分冊(物理・化学)と第二分冊(生物・地学)の分野からそれぞれ1題は出題するので、テキストを全部学修してから受験すること。

教員からのメッセージ

- ・科学を学ぶには、本を読むだけでなく、現実世界の事物現象を観察することが大切です。テキストを読みながら、身の回りの自然を観察し、実験を行い理解を深めてください。
- ・大人の学び直し用の図書が書店に並んでいます。読みやすい本を手にとって、楽しく学んでください。『発展コラム式中学理科の教科書』講談社ブルーバックスなど。

科目概要	小学校低学年生活科の教科内容の特色を把握し、指導法とリンクしながら教材内容の解釈や自然・社会・自分自身という3つの観点から生活科の内容を理解する。
主な到達目標	低学年に位置している生活科の教科特性を教材内容と絡めつつ理解できること。
テキスト学修の留意点	生活科設立の経緯を学び取り、低学年理科や社会と異なる生活科の理念に基づく内容配列を理解するように留意すること。

	学修テーマ	課 題
1	生活科の内容構成と教材の特色	平成元年に誕生した生活科の内容構成を理解し、その教材の特色を把握する。
2	生活科誕生の経緯とこれまでの30年間	生活科誕生の経緯を詳しく読み取り、これまでの30年間にわたる生活科の教科としての発達過程を理解する。
3	四季を軸に展開する生活科の内容	四季を基調とした内容構成を把握し、発達段階に応じた内容の深まりを考える。
4	栽培活動で扱う教材内容	植物教材の中で栽培に適している対象を選び、その栽培に関する知識を保有する。
5	動物飼育で育む命の学習	動物教材の在り方を調べ、動物飼育に関する知識を保有する。
6	おもちゃづくりで育む科学的見方	風でうごくおもちゃなど、生活科らしい対象を把握し、理科とは異なる科学的な見方の基礎を考える。
7	校内樹木や学校ビオトープで登場する自然物	教材として身近な学校の校内に存在する樹木やビオトープで生きる生き物に関する知識を保有する。
8	地域の探検活動で扱う教材	身近な地域の探検活動の対象や安全指導の内容面の把握を行うとともに、探検で形成される児童の環境認識の内容を考える。
9	通学路の愛着形成と安全指導	通学路は児童の愛着のある場所が点在しているので、その場所をもとに人や自然を気付かせていく。同時に安全な通学を支えてくれる人の存在や設備にも気付かせる。それらの設備内容について理解する。
10	公園や公共物への気付きを育む内容	公園や駅、ベンチや遊具などの公共物の社会的な意味を把握するとともに、気付きをはぐくむ内容を考える。
11	スタートカリキュラムの必要性と指導内容	スタートカリキュラムと扱う教材内容の関係を理解する。
12	交流を通じた人間関係づくりの指導内容	かかわりに焦点を当てた交流活動の意味を理解する。
13	豊かな言語活動を育てる学習環境の整備と指導内容	生活科における言語活動の意味とその内容を理解する。
14	自己成長に気付かせる内容	「大きくなったわたし」などの単元を活かした成長に気付かせるための教材内容の特性を理解する。
15	家族単元で扱う教材 / 3年以上の理科・社会科と生活科の内容比較	生活科で扱う家族単元と3年以上に発展する理科と社会科との内容を比べて理解する。

シラバス執筆：久保田 善彦

レポート課題

第1分冊 久保田 善彦

第2分冊 五十嵐 敏文

第1分冊 〈略題〉生活科の特色と自分と自然・社会とのかかわり 第1章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

具体的な生活科の教材内容（モノ、コト、場）と関連する子どもの「気づき」を分析しなさい。その上で、生活科にしかない固有の特色と子ども自身の自然や社会とのかかわり及びその教育的価値について解説をしなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 出来る限り生活科の文部省検定教科書を参照し、レポート課題を具体的にとらえる。
- 文字数でいえば2300字程度は書くことが望ましい。生き物や社会事象の写真を2,3点挿入しても可。

〈評価の観点〉

テキストの中身を丁寧に読み取るだけでなく、自分自身の幼いころの記憶と絡ませ、また地域社会でみられる低学年児童の理解力との関連を見いだせているか。指導法と絡めて生活科教材の特性や価値を具体的に把握できているか。

〈その他の注意点〉

自然図鑑や社会図鑑を参照し、具体的な教材の中身をとらえることも大事である。総論でなく、具体的内容を扱うこと。「生活科指導法」のレポートに近いものが提出されることがあり、あくまで教材そのものに重点をおいたレポートにするように注意してほしい。

第2分冊 〈略題〉幼児から児童へとつながる発達とその教材内容の把握を試みる 第11章～16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

スタートカリキュラムによる子どもの心身の発達と学校や学級という小さな社会への適応を促す生活科教材の特色を具体的に解説せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- 出来る限り生活科の文部省検定教科書を参照し、レポート課題を具体的にとらえる。
- 文字数でいえば2300字程度は書くことが望ましい。
- 幼稚園のカリキュラムも図書やインターネットで検索し、生活科のスタートカリキュラムとの関連性を調べるとよい。

〈評価の観点〉

発達段階を理解した上で生活科の教材内容が配列されていることをどの程度正確に把握できているか。学校や学級の環境への適応を促すための施設、友達との関係性づくり、情緒の安定につながる教材内容が把握されているか。

〈その他の注意点〉

単に生き物や社会事象を表面的に理解するのではなく、低学年児童にとってどのような成長への意味が隠されているかを教材内容に即して書くこと。指導法について論じるのではなく、あくまで（教科）生活のレポートであるので、教材内容（教材名や体験の中身、活動の場）を具体的に引き上げつつ、解説文を書くように注意すること。

参考文献

寺本潔編『各科指導法 生活』玉川大学出版部。
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活』

科目試験等への
アドバイス

自然と社会、自分自身とのかかわり、スタートカリキュラムの内容と広範囲であり、多岐にわたるため、焦点を絞り、勉強すること。児童書を図書館で見たり、図鑑やできれば実際の検定教科書を検索しつつ、低学年児童が好む対象について具体的に把握すること。

教員からの
メッセージ

書店の教育書の棚には生活科の教育書籍が不足しているが、評価や指導法に関する図書でなく、教材内容の理解に資する図書を探して読むよう努めた方がよい。ミニトマトの特性やカタツムリやチャボの生態、公園や通学路の社会事象としての特色、幼児から児童への心理的発達と教材内容の関係を具体的に観察したり、ネットでも情報検索したり、生活科を出版している教科書会社のHPで教材支援の情報を調べるなど努力すること。

科目概要	小学校教科「音楽」、及び幼稚園において「音楽」を実践するにあたり必要な音楽の基礎知識と基礎技能を修得する。
主な到達目標	実践を踏まえ知識として知っておくべき事柄を認識し、且つどのように運用されるかを見極める。そういった目標を理解、習得しさらに応用力をつける。教材を実践する。
テキスト学修の留意点	常に実践にどのように生かされるべきかを考えたい。机上での学習のほか、ピアノ伴奏の学習の仕方、子どもの歌唱に適した伴奏については通信の特色上自学が求められる。

	学修テーマ	課 題
1	授業内容の確認	自身に不足している知識、技能についてテキスト全体を読み確認する。
2	音楽とは	基礎的事項Ⅰ・Ⅱを学修し、基礎的事項を理解する。第1・2章の確認問題に取り組む
3	歌唱	共通教材を知る。学修指導書を参考に24曲すべてを歌唱出来るようにする。第3・4章の確認問題に取り組む。
4	歌唱	就学前～小学校低学年の歌唱指導について学修する。第5章確認問題に取り組む。
5	歌唱	中学年～高学年の歌唱指導について学修する。第6・7章の確認問題に取り組む。
6	器楽	器楽を伴う歌唱を学修する。第8章確認問題に取り組む。
7	器楽	リコーダー・鍵盤ハーモニカの指導を学修する。リコーダー・鍵盤ハーモニカを演奏できるようにする。第9章確認問題に取り組む。
8	器楽	リコーダー・鍵盤ハーモニカ以外の楽器を用いた器楽曲の指導を学修する。第10章確認問題に取り組む。
9	音楽づくり	低学年の音楽づくりの指導を学修する。第11章確認問題に取り組む。
10	音楽づくり	中学年～高学年の音楽づくりの指導を学修する。第12・13章の確認問題に取り組む。
11	鑑賞	鑑賞の指導法の概要を知る。第14章確認問題に取り組む。
12	鑑賞	具体的な楽曲の鑑賞指導方法を学修する。第15章確認問題に取り組む。
13	リトミック	リトミックの実践例を知り、小学校音楽の活動について考える。第16章確認問題に取り組む。
14	伴奏	学修指導書を使用して共通教材をピアノで演奏出来るようにする。またピアノでの弾き歌い、ギターでの弾き歌いのいずれかを出来るようにする。
15	まとめ	総復習

シラバス執筆：

レポート課題

第1分冊 久保 紘子・小口 浩司

第2分冊 久保 紘子・小口 浩司

第1分冊 〈略題〉表現の方法 第1章～第10章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

表現「歌唱」「器楽」の二つについて、それぞれ①適切な学年と②曲目を具体的に示し、音楽的根拠を示しながら適切な理由を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

具体的に示された曲目が適切といえるか？選曲の根拠は何か？自身の考えがまとまっているか？
必ず本文の内容を2,000～2,400字にすること。
内容は最低でも2,000字以上として、参考文献を含まないように作成すること。

〈評価の観点〉

- 1) 選択された楽曲が相当学年に適切か。
- 2) 具体的な根拠が示されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

自身の考えを具体的な音楽的な根拠をあげ述べること。
引用が多すぎるものは認められない。
参考文献、参照楽譜を明記すること。

第2分冊 〈略題〉鑑賞教材 第11章～第16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

鑑賞教材を選ぶのにあたりどんな配慮が必要か。具体的な曲名を示し、学年・時間・音楽の構成要素など考慮して述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

リズム・メロディー・ハーモニーなどの音楽構成要素や、曲想また、曲の長さなど考慮する。
必ず本文の内容を2,000～2,400字にすること。
内容は最低でも2,000字以上として、参考文献を含まないように作成すること。

〈評価の観点〉

- 1) 選択された楽曲が相当学年に適切か。
- 2) 具体的な留意点が示されているか。
- 3) 自身の言葉で述べられているか。

〈その他の注意点〉

自身の考えを述べること。
引用が多すぎるものは認められない。
参考文献、視聴音源を明記すること。

参考文献

音楽書全般
「ニューグローブ音楽辞典」講談社 柴田南雄、遠山一行編
「音楽大事典」平凡社 下中邦彦編
改訂「音楽通論」教育芸術社
教科指導法シリーズ「音楽」玉川大学出版部 梅沢一彦編
学習指導要領 小学校音楽科
※必ず参考文献明示すること。

科目試験等への
アドバイス

各章の確認問題に取り組み、学修を深めておきましょう。テキストを読むだけでなく、学修指導書や音源資料を使用して実際に音を出して音楽を実践しましょう。

教員からの
メッセージ

児童に指導する以上、理論の理解は必須です。まずは音楽の基礎知識をしっかりと学修してください。そのうえで「音楽を楽しむ心」を大切に実際にたくさんの音楽に触れてください。音楽科の目標は「豊かな情操を培う」ことです。まずは自身が音楽のある豊かな生活を送ってください。

08817 (教科) 図画工作

2単位

テキスト名

『(教科) 図画工作』または
『図工』通信教育課程刊行テキスト

科目概要	図画工作科の学修は、感じたことや想像したことを造形的に表す「表現」と、作品などからよさや美しさを感じ取り見方を深める「鑑賞」の二つの領域によって行われる。児童はこれらを通して、知識・技術・思考力などを獲得しながら感性を養っていく。この科目では、学修活動の柱となる「造形遊び」、「絵や立体、工作に表す」活動、「鑑賞する」活動の具体的な内容や学修過程を理解し、その指導にかかわる知識と考え方を学んでいく。
主な到達目標	児童が、図画工作科の諸活動を体験し、思考力・判断力・表現力などを学修することができるよう、教科担当者として必要な指導力を修得する。具体的には、「造形遊び」、「絵や立体、工作に表す」、「鑑賞」の各活動を通じた授業運営に求められる基礎的な知識と技能を学修し、それらを教育現場で実践することが目的となる。そのためにも、図画工作教育に必要とされる諸要素について、しっかりと説明ができるようになってもらいたい。
テキスト学修の留意点	心身の成長発達とともに変化する児童の表現手段や表現方法について、児童の視点から学修することが肝要である。テキストには、図画工作教育の内容と実際が記載されているので、その本質を理解する手がかりとして考察を深めてもらいたい。さらに、記載内容をより深く理解するため、各章ごとに〈演習問題〉が用意されている。図画工作科は、実材を扱う直接的体験を通じた学修活動が教科特性である。受講者はテキストを参考として、「レポート課題」とともに、さらなる具体的な実体験活動を重ね、教科指導者としての資質伸長に努めてもらいたい。

	学修テーマ	課 題
1	「造形遊び」のねらいと その内容	造形的な遊びが図画工作科に取り入れられたのはなぜか。遊びのもつ教育性とは何か。低学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。中学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。高学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。
2	授業展開と指導の要点 材料とスペース	低学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。中学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。高学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。造形材料と児童のかかわり方について考察する。空間の特徴とそれをもとにして展開される児童の活動について理解する。
3	「立体で表す」活動の ねらいとその内容	三次元上に形作られる立体の表現は、児童たちの成長をさまざまな面から推進する。制作しようとするかたちへの考察、素材の持ち味、量感や立体としてのバランス、作品が立体として立つ「すわり（台との安定した関係性）」等今まであまり意識していなかった点に注意を向けさせるような指導を目指す。
4	授業展開と指導の要点 材料の特性	立体とは何かという究極のテーマにつながるが、児童たちには言葉ではなく、各自の表現活動を通して学ばせたい。素材との触れ合いと、素材への働きかけを十分に行わせる。学齢にあわせ、簡単な道具類等を活動に導入することも計画する。
5	「絵で表す」活動のねらい とその内容	低学年での自己中心的なものの見方、考え方、表し方とはどのようなものか。中学年でものを観察して描く場合、子どもの個性的な見方がある。その指導上のポイントとは何か。高学年では客観性の芽生えとともに写実的な表現への欲求と憧れが見られる学年である。その指導上の留意点は何か。
6	授業展開と指導の要点	ちぎり絵やスクラッチ技法、またパステルコンテなどによる描くだけではない絵の表現方法について試作考察する。水彩絵の具を使ってのさまざまな表現や他の技法との併用表現、版画表現の基本的表現方法などについて試作考察する。
7	材料と用具	描画材（鉛筆、色鉛筆、コンテ、クレヨン、パス類、木炭、水彩絵の具など）や筆、パレットなどの用具について基本的な使い方、表現方法について適切な指導をする為の留意点は何か。
8	「つくりたいものをつくる」 活動のねらいとその内容	デザイン的な内容を志向する活動の教育性とは何か。つくり出す喜びについて考察する。低学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。中学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。高学年の発達特性と指導上の留意事項を把握する。
9	授業展開と指導の要点	低学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。中学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。高学年に対する授業運営上の留意事項を把握する。
10	材料と用具	造形材料と児童のかかわり方について考察する。用具の機能を理解し、その扱い方に対する知識を修得する。材料や用具を扱うことへの教育的意義を理解する。
11	「工作で表す」活動の ねらいとその内容	児童たちは基本的に図工が好きだと考え、工作の表現活動を通して材料をよく観察し、その良さや特性に気付き、各自の発想を楽しんで発展させるように導く。作品を楽しみながら発展的に制作させ、児童たちが進んで作り方を考え、工夫するような授業を計画する。
12	授業展開と指導の要点 材 料と用具	学齢に応じて、正しい使用法をしっかりと説明した上で、工具類、のこぎり、小刀類、接着剤等を授業内容にふさわしいかたちで導入することを計画する。
13	「鑑賞」学修のねらいと その内容	「鑑賞」の本質は何か。鑑賞活動によって児童たちは何を得的のか。学習指導要領における図画工作での〈鑑賞の目的と内容〉は、学年でどのように違うか。また全学年を通して重要なことはどのようなことか。
14	鑑賞活動の場と教材	鑑賞活動の場・教材・方法にはどのようなものがあるか。地域社会と環境、および美術館をはじめとする博物館をどのように活用するのか。
15	授業展開と指導の要点	児童の発達段階にあわせた指導方法はどうか。〈表現活動と鑑賞活動の関連からの展開〉、〈学校・地域・生活・自然の中での展開〉、および〈美術作品を用いた授業〉にはどのようなものが考えられるか。

シラバス執筆：石川 秀香・羽田 由樹子

レポート課題

第 1 分冊 石川 秀香
第 2 分冊 羽田 由樹子

第 1 分冊 〈略題〉船をつくる テキスト全範囲（重点箇所：第 4 章、第 5 章）

横書き指定

直接入力と添付

〈課 題〉

略題のテーマに沿った立体作品を制作し、あわせて下記に示すレポートを作成せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

(1) 作品制作について

- ①テーマである「船」の解釈および表現方法は、各自の判断によるものとする。
- ②作品のサイズは、縦・横・高さの総和が 30 ～ 50 程度になることを目安とする。
- ③使用する材料や用具類は、学童期の児童が授業で扱うことを想定して適宜選択する。

(2) レポート課題について

①完成した作品の写真を添付する。

- ・制作物を説明するための写真であることを意識して、被写体をはっきりと確認できるように撮影すること。（ピント・露出・大きさなどに注意する）
- ・写真のサイズは任意とする。
- ・写真の枚数は、作品の全体・主要部分の状態・構造・使用状況、などがよく分かるように各自が適宜判断する。
- ・添付した写真には、それぞれにメモ書き程度の説明文をつけること。（下記④に、どの写真に対しての説明文であるのかがわかるようにして、記入すること。）

②提出作品についての記述内容

- a 作品にタイトルをつけたい場合は記入せよ。
- b 制作意図を述べよ。（制作物の造形表現に対して解説をすること）
- c 工夫した点、苦心した点について述べよ。
- d 制作結果について述べよ。（自己評価・感想など）
- ③単元に対する考察についての記述内容（この単元に対して指導者の立場から考える）
 - a あなたならどのような単元名を考えるのか記入せよ。
 - b あなたがこの単元を行うとしたら、どの学年を対象とするのかを想定せよ。
 - c 単元の目標を設定せよ。（1 から 3 程度）
 - d あなたならどのような導入方法を工夫するのかを述べよ。
 - e 授業準備について、できる限り具体的な状況を想定してまとめよ。（教師側・児童側）
 - f その他、指導上の留意点があれば記入せよ。
- ④添付した作品写真の説明

〈評価の観点〉

課題に対する教育活動としての考察度。

図工教材としての研究度。

課題への取り組み姿勢。

設問項目に対して、レポートの内容に不備がある場合には不可評価とする。

〈その他の注意点〉

課題のねらいは、図画工作科における教科指導者として授業実践力を高めるための教材研究である。そのことに留意して、積極的に課題に取り組むことを期待する。

〈課題〉

提出課題は、(1) 実技2点、および(2) レポート1点である。

(1) 実技—————

29cm×21cm にカットした画用紙2枚を用意し、下記の要点に従い

- ①技法の研究
 - ②作例研究
- の2点を制作せよ。

【提出方法】

- ①技法研究は完成した作品おもて面1枚・完成した作品裏面1枚の計2枚の画像を撮影しレポートに添付する。
- ②作成研究は完成した状態でのおもて面1枚、説明書きをした裏面1枚の計2枚の画像を撮影し、レポートに添付する。

色味がわかるように、完成作品は絵の具の赤・青・黄色のチューブを作品左側に置き、チューブと一緒に撮影すること。

①技法の研究

- ・カットした画用紙に水彩絵の具を用いた技法3つ、水彩絵の具以外の描画材料を用いた技法3つの計6つの技法を練習する。様式は自由とするが、技法の説明をするための授業教材として実際に児童に對し用いることを前提に作成すること。
- ・技法の種類と内容に関してはインターネット、教科書を含めた技法関連の書籍、教科書P77等を参照し各自で調査した上で練習したい技法を各自で選出すること。
- ・画用紙裏面に研究した6つの技法の簡潔な説明と、制作した際に最も苦心した技法の難しかった点を記入すること。

②作例研究

- ・教科書p.81～82の高学年児童を対象にした〔題材(テーマ)と主な内容〕からひとつを選択し、そのテーマに沿った作品を制作する。授業上の作例として用いることを前提とし作成すること。

作品裏面に、

- 制作テーマ
- 最も表現したかったこと
- 表現したかったことを伝えるために用いた技法や工夫の3点を簡条書きで簡潔に記入すること。
- ・版画の場合は、刷った紙を29cm×21cmの画用紙に貼付し、画用紙面に同様に説明を書き込むこと。

(2) レポート—————

作品制作時に選んだテーマでの授業を実践することを想定し、授業指導案を作成せよ。

単元にかかる総時間数は任意とし、書式自由とするが、対象学年を明記し

- ①～⑥までの下記の内容を必ず含めることとする。
- 特に③は補足説明を熟読した上で指導案作成すること。

- ①選んだ題材(テーマ)及びその題材の授業であなたが最も児童に学んで欲しいこと
- ②指導目標
- ③後片付けまでを含めた授業の展開とその時間配分
- ④授業で児童が使用する材料と用具、教師が用意するもの
- ⑤児童が興味を持って取り組めるため具体的な導入の工夫
- ⑥授業展開の各段階での児童の活動
- ⑦授業内で想定される児童のつまづき/つまづきに対する指導の具体的な案構想、アイデアの段階でのつまづきと、技術上のつまづき各1点ずつ以上想定すること。
- ⑧水彩絵の具の基本的な扱いを児童に伝える上での具体的なポイント、留意点を3つ以上記入

⑧に関する補足

水彩絵の具の基本的な扱いの内容については教科書P77の「経験が少ない場合」を参照すること。

提出物「技法の研究」で実制作したみずからの体験を踏まえ、インターネット等で補足調査をして記入のこと。

【注意】【重要】③に関する補足

タイムスケジュールを授業の回数分、毎回作成すること。

全何回で完結する単元授業なのかを明記し、後片付けを含めた、それぞれの授業内の時間配分を各自が設定した授業の回数分書き出して指導案を完成させること。

(例) 5回完結の単元であれば、45分×5回分の、あとかたづけを含めたタイムスケジュールを書き出すということである。

45分内で、その日の説明から後片付けまでが収まるよう、授業を具体的に想像しながら作成すること。

後片付けの時間が入っていない授業案や導入回の時間配分しか書き出していない、等のレポートは再提出とするため留意すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①技法研究は完成した作品おもて面 1 枚・完成した作品裏面 1 枚の計 2 枚の画像を撮影しレポートに添付する。
- ②作成研究は完成した状態でのおもて面 1 枚、説明書きをした裏面 1 枚の計 2 枚の画像を撮影し、レポートに添付する。
- ③色味がわかるように、完成作品は技法研究・作例研究ともに赤・青・黄色の絵の具のチューブを作品左側に置き、チューブと一緒に撮影すること。
- ④画像の添付は上限で 5 MB までとする。
- ⑤授業案作成（レポート作成）は全何回で完結する単元授業なのかを対象学年と合わせて明記すること。
後片付けを含めたそれぞれの授業内の時間配分を各自が設定した授業の回数分書き出して指導案を完成させること。
レポート作成に関しては詳しい注意事項を課題説明に記述してあるため必ず熟読の上で取り組むこと。

〈評価の観点〉

- ・学習目標がテキスト第 3 章「絵で表す」活動及び学習指導要領を参照し設定されていること
- ・各自選んだテーマの授業実践において、あなたが児童に何を学んで欲しいかの明確なビジョンが盛り込まれていること
- ・授業展開／児童の活動／指導の要点等において、授業実践を可能な限り具体的に想定した記入がなされていること
- ・実材を扱う直接的体験を通した学修活動が図画工作の教科特性である。理念を支える具体的指導が実践可能となるように、実習した技法の練習をふまえ、実材に対する児童への具体的なアドバイスをよく検討、試行錯誤していること。
- ・以上の内容（観点）について評価する。研究考察不十分の場合は再提出。

〈その他の注意点〉

課題のねらいは、図画工作科における教科指導者として授業実践力を高めるための教材研究である。そのことに留意して、実践する実際の場面を出来る限り具体的に想定しながら課題に取り組むことを期待する。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』『教育美術』教育美術振興会
(テキストの「文献紹介」を参照する。)

科目試験等への アドバイス

科目試験は、テキスト第 1 章から第 6 章の内容に対する理解度を確認することを基本としている。
図画工作科は児童が実材を扱い、身体をもって経験することが教科特性であるために、
●児童の心身の成長発達と造形表現上の変化の関係を理解していること
●表現に関わる具体的な実材の扱いに関する指導が出来ること
が実践者に求められる。
児童の心身の成長発達と造形表現上の変化の理解に関してはテキストから出題する。科目試験では、テキストを理解した上で
それらの児童の変化に応じた表現および鑑賞の各領域とその具体的な内容が述べられること、図画工作科の本質への考察、教科の授業運営にかかわる諸要素の具体的な場면을想定した考察がなされていることが問われる。また、図画工作の本質—図画工作を通じて児童が学ぶこと・学べること—に対しては、児童の立場に立ち授業を実践する実践者の視点から各自のビジョンを持つことを求める。これに関してはテキストに記されたことをベースとして、各自が独自に学修した事柄も加味して解答することもよしとしたい。

教員からの メッセージ

公教育の現場において、美術造形的な活動を行う教育的な意義を考えながら、児童の実状や活動と結びつけてテキスト学修を行うことが大切である。

科目概要	本科目では教科に関する科目として、小学校家庭科の学修内容を指導する上で必要となる基礎的知識を学ぶ。まず、第1分冊では家族や生活時間、家事労働、さらに食生活における栄養、食品、調理について学ぶ。第2分冊では衣服の着装、被服材料や被服衛生、被服製作について、さらに住居の役割や室内環境などの住生活や、家庭経済及び消費者問題、環境問題について理解を深め、家庭生活を営む上での基本的な知識や考え方を理解する。
主な到達目標	・家庭生活を学修対象とする家庭科を指導する上で、家庭生活に関する基本概念や基礎的な知識を理解できること。 ・衣食住生活や消費・環境に関する基本概念を使用して、主体的に生活を創造する意識を高めることができること。 ・家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境等にかかわる諸問題を的確に把握し、現状をふまえた家庭の創造、豊かな家庭生活を旨とすることができること。
テキスト学修の留意点	・家庭生活を営むことはテキストに要約された知識だけでなく技能も必要であるので、技能を習得するために日常生活の中で理論と実践の連携を図ってほしい。 ・主な到達目標にかかわる課題について、基本概念を理解して説明できるようにする。 ・レポート課題は、テキストの内容をそのまま写すのではなく、内容を十分咀嚼して自己の言葉で解答しようとするよう努めてほしい。

	学修テーマ	課 題
1	家族	・家族の機能とは何か。 ・わが国の家族構成はどのように変遷してきたか。 ・ファミリーライフサイクルの特徴についてまとめよ。 ・現代家族の多様な形態をあげよ。
2	生活時間と家事労働	・日本人の生活時間はどのように変遷してきたか。 ・労働と生活時間のかかわりをどうとらえるか。 ・アンペイドワークの特徴と貨幣評価について考察せよ。 ・M字型カーブと女性の就労との関係を考察せよ。
3	栄養	・栄養と栄養素の違いは何か。 ・栄養素の種類とその働きをまとめよ。
4	食品	・食品群とは何か。 ・食品の特性を具体的に例示せよ。 ・食品添加物の種類や役割について説明せよ。
5	調理	・調理の基本操作を具体的に述べよ。 ・米の栄養価、みその栄養価についてまとめよ。 ・米飯とみそ汁の調理法を整理せよ。
6	食生活	・食育とはなにか。 ・食事マナーについてどのように考えるか。 ・今日の食生活上の問題点は何か。
7	衣服の着装と機能	・衣服の着用目的をどうとらえるか。 ・ライフスタイルの変化と衣服の着装とはどうかかわっているか。
8	衣服材料と手入れ	・繊維の種類とその特徴を説明せよ。 ・織物と編み物の特徴を比較せよ。 ・汚れの種類にはどんなものがあるか。 ・洗剤の働きと汚れが落ちるメカニズムとの関係をどうとらえるか。
9	被服製作	・被服製作用具の種類をあげ、安全な取扱いについて説明せよ。 ・手縫いの基礎をあげ、練習してみよう。
10	住居の機能と設計	・住居の役割とはどのようなことか。 ・生活行為と住空間の構成とのかかわりをどのように考えるべきか。
11	住環境	・住環境（熱環境、空気環境、光環境、音環境）をどうとらえるか。 ・給・排水についてどのように生活上配慮をすべきか。
12	住居の管理	・住居の汚れにはどのようなものがあるか。 ・住居の手入れ、清掃について配慮すべきことをまとめよ。 ・安全に住まうために配慮することは何か。
13	家庭経済	・家計構造（収入と支出）はどのように分類され、どのように考えればよいか。 ・消費支出の特徴を指摘せよ。
14	消費者問題	・消費者問題の変遷をたどり、今日の消費者問題の特徴を考察せよ。 ・消費者問題を誘発する事柄をあげよ（悪質商法、カード、多重債務 etc.）。
15	環境問題	・今日の環境問題をあげよ。 ・持続可能な社会を目指すにはどのようなことに配慮すべきかまとめよ。

レポート課題

第1分冊 若月 温美

第2分冊 藤田 昌子・若月 温美

第1分冊 〈略題〉家族 第1分冊(第1章～第5章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

今日の家族形態の特徴をあげなさい。また、「家族・家庭生活」の指導において配慮する事項をまとめなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①現代の子どもたちを取り巻く家族や家庭の変容をまとめること。
- ②家庭科で指導する時、どのような配慮を心がけたらよいか述べる。

〈評価の観点〉

- ①課題に沿って内容が整理・要約されているか。
- ②文献等を参考にしながら自己の考えを述べているか。
- ③テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。

〈その他の注意点〉

特になし

第2分冊 〈略題〉住まい 第2分冊(第6章～第14章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

快適な住まいの条件をまとめ、自己の住まいを点検し、良い点や改善点を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①良い住まい環境を多方面から明らかにすること。
- ②自己の住まいを見直し、自己点検すること。

〈評価の観点〉

- ①快適な住まいの条件が例示されてるか。
- ②自己の住まいを点検できているか。
- ③テキストや参考文献等の丸写しや具体的な事例が述べられていない場合は、再提出の評価となる。
- ④趣旨が曖昧で、誤字脱字が多いと再提出になる。

〈その他の注意点〉

特になし

参考文献

学修はテキストを先行して行い、さらに発展的学修をするために有用な参考文献がテキストの各章末に記載されているので参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験問題は、家族・家庭生活、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境に関する基礎的概念の説明を求める問題を出題する。テキスト全範囲から基礎的な知識を問う問題を出題する。
- ・本科目試験では、テキストの内容を理解して説明できるかどうかを重視する。

教員からの
メッセージ

- ・テキスト学修は、机上のものになりがちであるが、テキストにより学んだことを実際の日常生活で確かめて実践することも必要である。
- ・学んだことを自己の家庭生活で検証し、役立てていくことが望ましい。

科目概要	小学校教員に必要な教科体育の基礎的な理論と知識を理解する。また、学習指導要領の成り立ちや読み方を学び、具体的なそれぞれの学習内容についての知識と技能指導のポイントを理解する。
主な到達目標	・ 小学校の体育の特色・目標について説明できる。 ・ 小学校学習指導要領（体育科）について領域・構成を説明できる。 ・ 児童の健康・体力に関する課題を説明できる。 ・ 学習内容について指導のポイントを説明できる。
テキスト学修の留意点	・ 各章の課題について、解答をまとめ、説明できるようにする。 ・ テキスト学習だけにとらわれず、各章末記載の「引用・参考文献」などを参考に他の資料等でさらに学習を深めることを望む。 ・ レポート作成は、「レポート課題」の評価の観点を参考に作成する。

	学修テーマ	課 題
1	体育の特色	体育の概念と学習指導要領の変遷をまとめる。
2	学習指導要領の概要	改訂の趣旨と課題についてまとめる。 体育科の目標についてまとめる。
3	発育・発達	発育と発達の特徴についてまとめる。
4	小学生の体力	スキャモンの発育曲線についてまとめる。 体力テストの項目ごとに測定される体力要素についてまとめる。
5	子どもの生活	子どもを取り巻く環境変化と体育の課題についてまとめる。 子どもの成長に対する学校体育の役割についてまとめる。
6	小学生に対する運動指導	オープンスキルとクローズドスキルについてまとめる。 全習法と分習法についてまとめる。
7	子どもの安全	体育の授業中の事故やケガの一般的な特徴と指導上の留意点についてまとめる。
8	保健	保健の授業を展開する上での留意点についてまとめる。
9	体づくり運動	体づくり運動の内容構成についてまとめる。 体ほぐし運動についてねらいと具体例をまとめる。
10	器械運動	器械運動の特性についてまとめる。 つまずきと解決のポイントから指導のポイントをまとめる。
11	走・跳・陸上運動	走・跳・陸上運動の特性についてまとめる。 運動指導のポイントをまとめる。
12	水泳	運動の特性についてまとめる。 指導のポイントについてまとめる。
13	ゲーム	鬼遊びとボールゲームの共通技能についてまとめる。
14	ボール運動	運動の特性についてまとめる。 指導のポイントについてまとめる。
15	表現運動	表現運動における評価の観点をまとめる。 各学年における指導者のかかわり方についてまとめる。

シラバス執筆：川崎 登志喜

レポート課題

第1分冊 久保 賢太郎

第2分冊 山田 信幸

第1分冊 〈略題〉子ども達の生活環境から導く体育の課題
テキスト第1章、第2章、第3章、第5章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

現在の子ども達が置かれている生活環境の問題点を整理し、子ども達の健康や体力を向上させるための体育の課題について論述せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ・子ども達の生活環境を数的データを用いて客観的に分析しながら論述すること。

〈評価の観点〉

1. 子ども達の生活環境や現状について客観的データをもとに分析できていること。
2. 上記の2点を踏まえた上で、今後の体育の課題が明記されていること。
3. 1～2の観点がバランスよくまとまっていない場合や文字数・余白などのフォーマットが整っていない場合には再提出評価になります。

〈その他の注意点〉

テキストの理解が重要です。

第2分冊 〈略題〉ゲーム、ボール運動における運動技能の特性 テキスト9章～16章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

鬼遊びとボールゲームで共通する運動技能の特性はどのような点にあるか述べなさい。
また、子どもにとって安全で楽しい「ゲーム」とはどのようなものか？例示して指導上の留意点を述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

記述する内容を項目立てし、論点を明確にしてください。
他者の論文、レポートの剽窃（コピー・ペースト）は厳禁です。

〈評価の観点〉

鬼遊びとボールゲームで共通する運動技能の特性が明確に示されていること。
「ボールを持たないときの動き」について言及されていること。
誤字、脱字、変換ミスがないこと。
項目立てが明確であること。

〈その他の注意点〉

テキストの理解が重要です。別の表現をする場合や本人の体験等に触れる際には根拠となる資料を示すこと。

参考文献

.....
各章末の参考文献をそれぞれ参考にしてほしい。

科目試験等への
アドバイス

-
- ・テキストの内容を理解して説明できるかがポイントである。
 - ・独りよがりな解答ではなく、採点者になったつもりで解答することを心がける。
 - ・科目試験問題はシラバスの課題を中心に出題されるので、課題にしっかり取り組むこと。

教員からの
メッセージ

.....
教科書内に示されている参考文献をもとにさらに学修を深めてほしい。
レポートや試験は提出する前に、もう一度読み返してみることをおすすめする。

科目概要	本科目は、幼稚園教育における、心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容を理解することを第一とし、教育を営むために必要な基本的な知識、考え方を修得するものである。「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ためのどのような実践がなされることが望まれるのか、その中での具体的な指導のあり方とはどのようなことか、さまざまな実践のなかに学ぶものとする。
主な到達目標	心身の健康に関する領域「健康」におけるねらいと内容を理解し、その内容を説明できる。・乳幼児期の体の育ち、運動能力の発達についての様相を説明できる。・0歳から5歳までの心身の健康に関する育ちに基づく、遊びを中心とした保育実践を理解する。・食育の実践とその指導のあり方を理解する。・就学前保育・教育実践の中での安全・衛生指導、安全管理のあり方を説明できる。・保護者への健康指導と連携について理解をする。
テキスト学修の留意点	テキストを読み進めることは大前提であるが、新聞記事、インターネットの記事などさまざまな資料を自分で集め、実際の子どもの姿、現状と合わせて学ぶと良い。

	学修テーマ	課 題
1	乳幼児期における「健康」について考える	・「ヒト（人）」にとつての「健康」とは何かを考える。・生涯発達を見通し乳幼児期の「健康」とはどのような状態であるのかを考える。
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「健康」を学ぶ	幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいと内容とは何かを学ぶ。・保育所保育指針における「健康」のねらいと内容とは何かを学ぶ。・保育所保育指針における「養護」のねらいと内容とは何かを学ぶ。
3	乳幼児期の体の育ちを学ぶ	乳児期の体の育ちの特徴を学ぶ。・幼児期の体の育ちの特徴を学ぶ
4	乳幼児期の運動機能の発達を学ぶ	乳児期の運動機能の発達の特徴を学ぶ。・幼児期の運動機能の発達の特徴を学ぶ。
5	乳幼児期の運動機能の発達を促す生活と遊び（1）	0歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・1歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・2歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。
6	乳幼児期の運動機能の発達を促す生活と遊び（2）	3歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・4歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。・5歳児の育ちに応じた生活の営み方、遊びの指導を学ぶ。
7	教育・保育実践の中の食育を学ぶ（1）	・乳幼児期の食育の重要性とはどのようなものかを学ぶ。・教育・保育の中でのさまざまな食育活動のあり方を学ぶ。
8	教育・保育実践の中の食育を学ぶ（2）	乳幼児期の食指導におけるアレルギー対策について学ぶ。
9	乳幼児期の生活習慣・健康教育を学ぶ	乳幼児期に習得することが望ましい生活習慣とはなにか、その自立への指導とはどのようなものかを学ぶ。
10	乳幼児期の安全教育を学ぶ	・乳幼児期の育ちに応じた教育環境における安全管理のあり方を学ぶ。
11	乳幼児期の安全教育を学ぶ	幼児期の育ちに応じた安全教育のあり方を学ぶ。
12	けがや病気の対応について学ぶ	・乳幼児期に起こりやすいけがとその対応を学ぶ。・乳幼児期にかかりやすい病気とその予防や対応を学ぶ。
13	子どもの怪我について考える	子どもの育ちを共有する健康指導のあり方を学ぶ。
14	乳幼児期の健康に関する領域の今日的課題を学ぶ（1）	子どもの生活環境の変化にともなう幼稚園・保育園での健康教育のあり方を考える。
15	乳幼児期の健康に関する領域の今日的課題を学ぶ（2）	病気の子どもの保育の実践を考える。・子どもに育ませたい食意識とは何かを考える。

シラバス執筆：宮崎 豊

レポート課題

第1分冊 宮崎 豊
第2分冊 宮崎 豊

第1分冊 〈略題〉子どもの体を育てる運動あそびの指導について 第1回～第6回

横書き

Word添付

〈課題〉

幼稚園等の就学前教育・保育施設で展開される運動あそびのうち、さまざまに体が動くことが楽しいと思えるような活動を取り上げ、なぜ幼児期にそのようは遊びが必要なのかを論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①幼児期の運動あそびを1つ取り上げ、その遊びを分析しながら論じること。
- ②幼児にとっての運動遊びは心身の発育・発達影響を与えることを考慮し、からだの発育・運動機能の発達のみならず、運動あそびを通して培われる心の育ちについても触れること。
- ③具体的な指導にあたっての安全管理、安全指導についても触れること。

〈評価の観点〉

- ①乳幼児期の発育・発達の特徴を説明できる。
- ②乳幼児期の発育・発達に必要な生活経験とはどのようなものかを概念的に捉え、説明できる。
- ③具体的な場面を事例として取り上げている。
- ④生活指導にあたって、幼児期の発育・発達の特徴や集団保育の活動の上での状況をとらえた安全管理、安全指導ができている。

〈その他の注意点〉

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前教育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

第2分冊 〈略題〉子どもの生活習慣に関する指導の在り方 第7回～第15回

横書き

Word添付

〈課題〉

幼児期の以下に掲げる生活習慣の指導を一つ取り上げ、その内容と展開方法、教育的意義を論じなさい。
なお、展開にあたっては、集団指導ならではの活動（指導）内容と方法を考えて記述しなさい。

〈生活習慣の指導〉

- ・食指導 ・排泄の指導 ・衣服の着脱の指導
- ・清潔や衛生に関する指導 ・睡眠に関する指導

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①今日の子ども達にとって必要な生活習慣指導とはどのようなものかを明確にすること。
- ②具体的な指導場面の事例を記述しながら、教育的意義を分析し、書き出すこと。
- ③子どもの育ちと生活に即した内容であること。

〈評価の観点〉

- ①乳幼児期の発育・発達の特徴を説明できる。
- ②乳幼児期の発育・発達に必要な生活経験とはどのようなものかを概念的に捉え、説明できる。
- ③具体的な場面を事例として取り上げている。
- ④生活指導にあたって、幼児期の発育・発達の特徴や集団保育の活動の上での状況をとらえた安全管理、安全指導ができている。

〈その他の注意点〉

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前教育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814475 *1
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814482 *2
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、平成30年3月、ISBN 9784577814499 *3
*1～*3 は 最新版を使用すること。
幼少年研究所『新版 遊びの指導 乳・幼児編』2009年5月 同文書院 ISBN 97854810300376
杉原隆『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』2014年5月ミネルヴァ書房 ISBN 9784623070220
＜参考サイト＞『幼児運動指針』文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm

科目試験等への
アドバイス

試験問題で問われていること、ポイント内容なども確認して解答すること。

教員からの
メッセージ

本科目は、科目の性質上、子どもの発育・発達の連続性、今後の就学前教育・教育の動向を見据えて、0歳から2歳までのいわゆる『乳児保育』の領域、保育所保育における内容も学ぶこととする。

科目概要	「保育内容の指導法（人間関係）」においては、領域「人間関係」にかかわる指導の基盤となる、保育における人とのかかわることに関する専門的事項についての知識を身に付ける。また、領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門知識と関連させて理解を深め、幼児の発達、主体的・対話的で深い学びが実現するような保育を構想し実践する方法を身に付ける。
主な到達目標	乳幼児期の人間関係の発達について、また、乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる課題について理解する。領域「人間関係」のねらい及び内容、保育のありようを具体的に説明できる。保育の場の子ども、保育者、保護者とのかかわり、それによる学びの広がり深まりの関係を理解し、具体的な保育のありようを構想することができる。
テキスト学修の留意点	少し難しい理論的な概念も紹介されるが、保育と関わることからして、自らが今までどのように考えてきたかを思い浮かべ言葉にし、その考えと比較するかたちで学んでいくことが望ましい。また、テキストは、できるだけ具体的なエピソードをとりいれた構成となっているため、このエピソードを手がかりに理解を深めることを試みることも。理論と実践のエピソードを往復しながら、自分の視点を確立していくこと。

	学修テーマ	課 題
1	領域「人間関係」とは（1）	テキスト第1章第1節で「人間関係の領域が生まれた背景」を学ぶ。テキスト第1章第2節「領域「人間関係」が目指すこと」から、領域「人間関係」では、どのような視点から保育、子どもを見ることを学ぶかを捉える。
2	領域「人間関係」とは（2）	テキスト第1章第3節を参考に、幼稚園教育要領、保育所保育指針における、領域「人間関係」の「ねらい」「内容」を理解する。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「人間関係」も調べておくこと。
3	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達（1）	テキスト第2章第1節「人とのかかわりのはじまり」を読み、おとなとのあいだでの人とのかかわりのはじまり、発達の特徴を理解すること。
4	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達（2）	テキスト第2章第2節「仲間とのかかわりの育ち」において、友だちとのかかわりの視点で、保育の場における人とのかかわりの発達を理解すること。また、第2章第3節「人間関係の育ちと共に変わるもの」において、人とのかかわりと関係する心理学的側面を理解すること。
5	遊びの中の人とのかかわりの育ち（1）	テキスト第3章第1節「人とのかかわりの育ちを支える『遊び』」において、本当に自分が納得して保護者にも「遊びが学び」と伝えられるよう、遊びと学びに関する理解を深めること。
6	遊びの中の人とのかかわりの育ち（2）	テキスト第3章第2節「『遊び』を通して生まれる人とのかかわり」においては、つながり合う喜び、仲間意識、イメージの共有、共同する経験、の4つの視点で整理しながら、そこで求められる保育者の援助や配慮について検討すること。
7	人とのかかわりを支える「保育者の役割」（1）	テキスト第4章第1節「人とかかわることの意味」においては、人とかかわる中で自分を知り、育つ人のありようをもう一度確認しておくこと。第4章第2節「ケアって何だろう？」は難しいかもしれないが、自分が「ケア」をどのように捉えているのかを意識しながら読み、理解を試みること。
8	人とのかかわりを支える「保育者の役割」（2）	テキスト第4章第3節「人とのかかわりが生まれるプロセスを事例から読み解く」を参考に「ケア」に関する理解を深めること。また、第4章第4節「人とのかかわりを支える保育者の役割」において、ケアの視点からみた「保育者の役割」をまとめておくこと。
9	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」（1）	テキスト第5章第1節「『ちょっと気になる子ども』とは」を読みながら、自分は「ちょっと気になる子ども」や「障害」ということについて、どのように考えてきたかを検討しておくこと。さらに、新聞などで、発達障害の当事者や保護者についての記事を探し読んでみる。
10	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」（2）	テキスト第5章第2節「『ちょっと気になる子ども』のいる保育」を読み、保育の場で、「ちょっと気になる子ども」とどのように接するかを考えること。さらに、第5章第3節「保育の場におけるインクルージョンの実現に向けて」を読み、どのような保育を実現していきたいか検討してみる。
11	人とのかかわりを支え広げる実践（1）	テキスト第6章第1節「社会の変化と共に変化している子ども・子育ての状況」から現在の子育て状況を分析しまとめること。第6章第2節「保護者と共に子どもの育ちを支える営みとしての保育」を読み、子育てが保育の場によってどのようなものとなりうるかを検討すること。
12	人とのかかわりを支え広げる実践（2）	テキスト第6章第3節「人とのかかわりの中で育つ保育者」をよみ、保育者もまた人とのかかわりの中でそだつことを理解すること。また、第4節「人とのかかわりを支え広げるために」を読み、保育が、そこに関わる全てのひとに様々な学びが生まれ広がる場であることを検討すること。
13	領域「人間関係」における今日的課題（1）	第7章第1節においては、保育の場における多文化、文化の多様性の現状を学び、保育の場にどのような可能性があるかを検討すること。新聞などの記事で、多文化保育についても調べてみる。
14	領域「人間関係」における今日的課題（2）	テキスト第4章で解説したケアの視点に基づき、第7章第2節の「幼小連携」について学ぶこと。また、「幼保小連携」「幼保連携」などについて、ご自身の地域の実践を具体的に調べてみる。
15	領域「人間関係」における今日的課題（3）	テキスト第7章第3節「人間関係の広がり」を読み、保育の場が、他の場とどのようにつながり、また、それにより、そこにかかわる人々の学びがどのように広がるか検討すること。また、自らの人とのかかわりの発達を、この視点から検討し「人間関係」の視点のまとめとすること。

レポート課題

第1分冊 岩田 恵子

第2分冊 岩田 恵子

第1分冊 〈略題〉発達と支援 1章～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

乳児期から幼児期にかけての子どもたちの人とのかかわりの発達の特徴をテキストをもとに簡略にまとめて述べた上で、この時期の人とのかかわりの発達を支える保育者の役割について「遊び」をキーワードにしながら考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

乳児期、幼児期それぞれの大人とのかかわり、仲間とのかかわりの観点から、乳幼児期の人とのかかわりの発達の特徴を簡略にまとめること。また、乳幼児期の発達の特徴をふまえた上で、その人とのかかわりの発達を支える保育者の役割について、特に「遊び」の具体例をふまえて考察すること。この課題は、テキスト等にかかれてある事実をもとに記すこと。

〈評価の観点〉

乳児期、幼児期それぞれの大人とのかかわり、仲間とのかかわりの視点から見た乳幼児期の発達の特徴が、教科書の丸写しではなく、教科書に記されたことを利用したかたちで、自分なりにまとめた上で記述されているか。また、乳幼児期の発達の特徴をふまえた上で、保育の場で、その人とのかかわりの発達を支える保育者の役割を「遊び」の具体例を用いて考察できているか。保育者の役割については『幼稚園教育要領』も参照しているか。

〈その他の注意点〉

テキストをそのままひきうつすのではなく、「乳児期の子どもは?」「幼児期の子どもは?」と自分なりに特徴を考えまとめながら、述べましょう。

第2分冊 〈略題〉保育者としてのかかわり 4章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

保育の構想においては、自らの人との関わりも常に意識することが必要である。保育者自らの人間関係を「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」をキーワードとしながら、保育実践においてどのように広げていきたいかを考察しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

自らの保育者としてのかかわりを検討するためには、単なる反省ではなく、これから自らのかかわりをどのように広げるかを検討することが必要である。その点に留意しながら、「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」のキーワードと対話し、子どもとのかかわり、同僚とのかかわり、保護者や他機関の人とのかかわりについて保育実践、保育の構想を具体的にとりあげながら考察すること。

〈評価の観点〉

自らのこれからの保育の場における人とのかかわり（大人も子どもも含む）の広がりの可能性を検討していること。また、その際テキストを参考にした上で「ケア」「同僚性」「他の機関との連携」のキーワードを用いながら、人とのかかわりの広がり言及していること。

〈その他の注意点〉

テキストをそのままひきうつすのではなく、自分はどんな保育者になりたいかを想像しながら、述べましょう。キーワードのうち、とくに「ケア」については丁寧に考えてみましょう。

参考文献

.....
 テキストの参考文献、学修指導書の参考文献を参照すること。『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を積極的に利用すること。

科目試験等への
アドバイス

.....
 『幼稚園教育要領』の人間関係の領域の「ねらい」「内容」について、具体的な子どもたちの姿、保育のありようを検討してみること。テキストのエピソードなど、具体的な子どもたちの姿、保育のありようがもつ意味を考えてみること。

教員からの
メッセージ

.....
 子どもたちの人とのかかわりを中心とする豊かな世界を味わいながら、ご自身の世界もひろげていってください。

科目概要	保育内容の指導法（環境）は保育内容 5 領域の一つであり「教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）」である。幼児の発達に必要な経験として、環境との関わりとその意義を具体的に学び、保育の中での子どもの育ちを支えるための環境の構成や指導法について学ぶ。
主な到達目標	・環境を通しての教育とはどのような意義があり、幼児にとっての環境が発達にどのような影響があるか理解する。 ・具体的な事例を通して、保育者として必要な環境の構成と指導計画の関係について理解する。 ・上記 2 つの目標を達成することで、保育者としての指導のあり方や援助の方向性について説明できる。
テキスト学修の留意点	・テキストは各章のテーマに応じた内容と、全体を通して幼児教育における重要な位置付けが相互に関連している。この点を常に意識しながら学修する。 ・レポート課題は、引用すべき点は明確に示し、自身の考察と説明とは明確に分ける必要がある。 ・教育課程や指導計画作成については、環境構成と大きく関連している。保育者の専門性として、計画に対する意識が重要であることを理解しながら具体的な事例を学ぶ。

	学修テーマ	課 題
1	保育の基本とは	・学校教育法における幼稚園の位置付を説明できる。適当な環境とはどのような意味を持つか。 ・保育の基本と環境の関係。
2	環境を通して行う教育とは	・なぜ環境を通しての教育が必要であるか。 ・教育環境を創造するとはどのようなことか。
3	環境の領域の位置付け	・幼児の発達と環境の関係とは。 ・人間の発達の原点と環境の関係。
4	環境の領域におけるねらい	・環境の領域におけるねらいとは何か。3 つのねらい各項目の目指すことは何か。 ・ねらいを実現するための配慮とは何か。
5	内容の展開についての実際	・環境の領域における内容の意味とは何か。 ・身の回りにある環境との関わりとはどのようなことか。
6	保育者の指導を考える	・領域環境における指導とは何か。子どもの心身の発達に即応するとは。 ・環境に対する保育者の意図とは何か。
7	指導の実際から学ぶ	・満足感や達成感を味わうことができる指導とは何か。 ・自ら生み出すための指導とは何か。
8	環境の領域における内容①	・自然環境を生かすとはどのようなことか。 ・社会環境を生かした実践とは何か。
9	環境の領域における内容②	・遊びと環境の関係とは何か。 ・物的環境と人的環境の関係とは何か。
10	カリキュラムと計画	・動物の飼育をカリキュラムの中に位置付けるための配慮とは何か。 ・動物飼育に必要なコンセプトとは何か。
11	計画と保育内容環境	・植物栽培の役割とは何か。植物の栽培とカリキュラムの関係とは何か。 ・子どもと数量との出会いはどうあるべきか。環境の領域とカリキュラムの関係を明確に示す。
12	環境をデザインする視点	・環境をデザインするとはどのようなことか。 ・環境の領域を規定する基準とは何か。
13	さまざまな連携	・幼小連携とは何か。小 1 プロブレムとは何か。連携の具体的な方法とは何か。 ・保育の質と環境の関係とは。
14	領域環境の現代的課題	・子ども・子育て支援法に関連した今後の課題とは何か。ドキュメンテーションと環境の関係とは。 ・保育における ICT 活用の課題とは何か。
15	課題を踏まえた総括（まとめ）	・環境の領域の示すねらいを総合的に実現するための課題とは何かを考察する。

シラバス執筆：仁藤 喜久子

レポート課題

第1分冊 仁藤 喜久子

第2分冊 仁藤 喜久子

第1分冊 〈略題〉環境の領域についての意義 テキスト1章～4章

横書き

Word添付

〈課題〉

教科書第1章から第4章を熟読し、環境の領域が幼児にとってなぜ大切であるか。その意義について具体的な幼児の育ちと事例を示して解説し、考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

環境の領域は、幼児の発達と深い関連がある。しかし、その姿は見た目としては捉えにくい部分がある。この領域のレポート作成には幼児の立場と内面の理解、事例を通して幼児の学びなどに目を向ける必要がある。以上のことをしっかりと理解し、幼児にとっての環境の意味を明確に示すことを意識してレポートの作成を実施して欲しい。

〈評価の観点〉

- ①教科書を引用する際は明確にすること。
- ②幼児にとっての環境がなぜ必要であるか、この視点がとても重要になる。
- ③具体的な事例と幼児の育ちの関係を明確にする。

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

第2分冊 〈略題〉環境を総合的にデザインすること テキスト5章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

教科書第5章から7章を熟読し、環境の領域を指導する際に必要な計画の重要性について解説し、環境のあり方や遊びの重要性について具体的に考察すること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

教育課程・カリキュラムの意義や必要性を理解し、環境の領域だけに意識を向けるのではなく、総合的な指導としての意義を忘れてはならない。その際に必要な環境を「デザイン」と言う視点から見ることによって、環境構成との関連が重要となる。その結果として幼児の遊びが大切になるのでこの点に留意して欲しい。

〈評価の観点〉

- ①教科書を引用する際には明確にすること。
- ②総合的な指導の観点が意識されていること。
- ③環境と遊びの関係やその意義について丁寧に考察されていること。

〈その他の注意点〉

インターネットサイトなどのレポートを活用した場合、成績評価はDとする。

参考文献

各章の末に引用文献や参考図書が示されている。学修を幅広く学び深めるために参考にしてほしい。
柴崎正行・若月芳浩編『保育内容「環境」』ミネルヴァ書房

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験については各章の末に記述してある課題がしっかりと回答できることが必要である。
- ・試験問題は教科書全体からの出題となるので、学修テーマと課題を整理した上でその意義や内容について説明できることが求められる。
- ・具体的な事例について解説する場合は、教科書に掲載されている内容にとどまらず、実際に幼児との関係の中で生まれた実践などに目を向ける必要がある。

教員からの
メッセージ

環境の領域を学ぶことは、教育基本法や学校教育法などに位置付けられている環境に対する理念と共通する部分が多くある。幼児教育全般を巨視的な視点から見ると、日々の生活や遊びを支えるための微視的な環境構成など、具体的な側面とを常に関連させながら学修することを望む。そのことが保育者の専門性につながると考えている。

08823 保育内容の指導法（言葉）

2単位

テキスト名

『保育・幼児教育シリーズ
言葉の指導法 改定第2版』
玉川大学出版部

科目概要	子どもの言葉は、周りの大人や環境によって大きく影響を受けながら乳幼児期に著しく育っていく。そのため本講義では、子どもの言葉の発達や課題、保育内容の領域「言葉」のねらいや内容について必要な事項を学び、それらを踏まえて幼稚園教諭として子どもの言葉を支える役割や配慮、保育の工夫について学ぶ。
主な到達目標	・乳幼児期の発達を具体的に説明することができる。 ・領域「言葉」のねらいや内容を学び、保育の場において子どもの言葉の育ちを支える保育者の役割や援助について記述することができる。 ・様々な絵本や第8章にあるような多様な絵本に触れ、文字や言葉や絵本を遊びや活動に取り入れる保育の工夫について記述できる。 ・幼稚園教諭として自分自身が子どもの言葉の育ちに影響を与える大きな環境の一部であることを意識することができる。
テキスト学修の留意点	・課題について、学修指導書を参考にテキストを熟読してから理解を深めること。 ・レポート作成は、課題について学修してから取り組むこと。 ・「レポート作成にあたっての留意事項」と「評価の観点」に十分注意すること。

	学修テーマ	課 題
1	保育内容「言葉」①	・乳幼児の言葉の発達のおもしろさについて、子どもの事例から考察する。 ・「言葉」が育つとはどういうことなのか、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』における保育内容及び領域「言葉」の考え方を学び「言葉」の発達を学ぶ。
2	保育内容「言葉」②	・領域「言葉」のとらえ方、ねらい、内容について学ぶ。 ・平成29年告示版の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「言葉」の部分を読み比べる。（文部科学省、厚生労働省、内閣府 HP からダウンロードして読むことができます）。
3	「言葉」の育ち①	・言葉を発さない時期から赤ちゃんはコミュニケーションをどのようにとるのか学ぶ。 ・言葉の発達段階を理解し、言葉の育ちを支える保育者の役割について学ぶ。
4	「言葉」の育ち②	・テキストの事例を通して、読み取れる子どもの気持ちや言葉の育ちを支える保育者の援助について考えノートに書き出してみる。
5	遊びの中の言葉①	・言葉や心身の発達によって変化する遊びを事例ごとに学ぶ。 ・遊びの中でどのように言葉が使われ、言葉によってどのように遊びが展開されているのか考察する。
6	遊びの中の言葉②	・子どもの遊びを発展させるための保育者の援助や役割、働きかける言葉などについて考える。
7	話す、聞く、伝え合う	・保育の場において、子どもが話すこと、聞くこと、伝え合う経験の意味について、事例を通して学ぶ。 ・子どもたちによるミーティングの意義について考察する。
8	文字の取り扱い①	・「幼児教育」における文字の取り扱いについて確認する。 ・文字環境について理解し、どのように子どもの文字に対する興味関心を広げていくか考える。
9	文字の取り扱い②	・保育の場における文字に親しむ遊びや活動を考える。
10	絵本、物語①	・絵本体験が子どもの発達にもたらすものは何かを学び、その意義について考察する。
11	絵本、物語②	・絵本や物語について、どのように活用していくとよいか事例から学ぶ。
12	言葉の遅れ①	・言葉の遅れや障がい、課題について学ぶ。
13	言葉の遅れ②	・保育の場における、言葉に遅れや障がいがある子どもへの配慮や保育参加について工夫できることについて学び、考える。
14	今日的課題①	・早期英語教育やバイリンガル教育における課題や現状を学び、母語の習得の重要性について理解する。
15	今日的課題②	・多様な絵本の種類があることを学び、教材研究であるテキストの研究課題に取り組む。 ・多文化教育の視点で「言葉」を考える。

シラバス執筆：上田 よう子

レポート課題

第1分冊 上田 よう子

第2分冊 上田 よう子

第1分冊 〈略題〉子どもの遊びと保育者のかかわりや援助 第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

子どもが声を出したい、話したいと思えるようにするために、子どもの遊びの場面で保育者はどのような配慮や工夫が必要なのか、乳児、幼児に分けてテキストから学修したことが分かるように記述しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキスト及び『幼稚園教育要領』を熟読してから論ずる。
- ② 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。年齢別の発達については、特に活用すること。
- ③ 参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④ 文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。
- ⑤ 学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ① 課題に対して的確に論じられているか。
- ② 参考文献を用いているか。
- ③ 自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ④ 誤字脱字の注意や、段落をつけるなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ⑤ 引用は明示しているか。
- ⑥ 引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

第2分冊 〈略題〉絵本体験が育むもの 第5章～第8章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

子どもは、絵本体験によって何を育むのか。保育の場を意識してテキストから学修したことが分かるように具体的に述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ① テキスト及び『幼稚園教育要領』を熟読してから論ずる。
- ② 『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を補助資料とする。年齢別の発達については、特に活用すること。
- ③ 参考文献を用いて、自分の言葉でまとめる。自分の考えと他者の考えは区別する。
- ④ 文末の引用、参考文献には、著者、『題名』、出版社、出版年を記載する。
- ⑤ 学修指導書を活用する。

〈評価の観点〉

- ① 課題に対して的確に論じられているか。
- ② 参考文献を用いているか。
- ③ 自分の考えと他者の考えを区別しているか。
- ④ 誤字脱字の注意や、段落をつけることなど、レポートとしての体裁が整っているか。
- ⑤ 引用は明示しているか。
- ⑥ 引き写しが3分の1を超える場合には、評価の対象としない。

〈その他の注意点〉

提出レポートとして丁寧に扱うこと。様式はWord添付のみとする。

参考文献

『幼稚園教育要領』文部科学省平成29年告示、
『保育所保育指針』厚生労働省 平成29年告示、
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府平成29年告示

科目試験等への
アドバイス

『幼稚園教育要領』を基に、テキストを熟読し学修してほしい。
テキストから何を学んだのか、学修したことが分かるようにすること。

教員からの
メッセージ

自分自身が子どもの言葉の発達や育ちに大きく関わる環境の一つとなることを意識できる保育者を目指して、真摯に取り組んでほしい。

科目概要	表現の領域は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」ことが大切であるとされている。幼児期における表現とは日常的なものが多い。保育者はそれに気づき、受容、援助し、子どもの豊かな創造性へと発展させるために必要なものとは何か。本科目では幼児の表現場面を具体的に捉え、理解し、保育者に必要な感性、創造性を考えていく。
主な到達目標	1. 領域「表現」を理解する。2. 保育者に必要な感性、創造性を育む。3. 幼児の豊かな表現を保证する教材研究をする。4. 幼児の表現を理解する。
テキスト学修の留意点	学習指導書を参照して欲しい。またテキストを読み、実際に教材研究をしてみることが大切である。表現はとくく行事や活動中心で捉えられてしまうことも多い。しかし、それだけではなく、日常生活のなかの子どもたちの自分なりの表現がいかに大切かを理解するきっかけとして、テキストを読んでほしい。

	学修テーマ	課 題
1	幼児期における表現とは	テキスト「はじめに」及び1章2節・6節を読み、幼児期における表現を理解すること。また、幼稚園教育要領の領域「表現」の変遷について調べる
2	表現とは	テキスト1章2節～5節を読み、人間の行為としての表現とはどのようなものか、まとめよ
3	生活における表現とは（1）	子どもたちの生活を領域「表現」の内容に照らし合わせて考察せよ
4	生活における表現とは（2）	テキスト2章2～5節の事例を考察せよ
5	音楽表現について（1）	幼稚園でよく歌われる歌について調べ、また3章を参考にし、なぜ幼稚園で歌を歌うのか、まとめよ
6	音楽表現について（2）	テキスト3章の事例を考察せよ
7	造形表現について（1）	幼児期における造形表現とはどのような意味を持つか、テキスト4章を参考にまとめよ
8	造形表現について（2）	テキスト4章2節を参考に、幼児期の造形的な発達についてまとめよ
9	造形表現について（3）	子どもの造形作品を理解するために保育者としての視点として大切なこととは何か。
10	身体表現について（1）	幼児期における身体表現とはなにか、5章を参考にまとめよ
11	身体表現について（2）	テキスト5章2～5節の事例を考察せよ
12	感性をはぐくむ保育者の役割（1）	生活に根ざした表現とは何か。またそのときの保育者の役割についてまとめよ。
13	感性をはぐくむ保育者の役割（2）	子どもの感性をはぐくむ保育者の役割とは何か。テキスト6章を参考にまとめよ
14	領域「表現」の今日的課題	領域「表現」における今日的な課題とは何か、過去と現在を比較し、テキスト7章を参考にまとめよ
15	まとめ	本科目での学びは何か？また「教材研究」や「行事」と領域「表現」との関係性についてまとめよ。

シラバス執筆：田澤 里喜

レポート課題

第1分冊 田澤 里喜・押切 道子

第2分冊 田澤 里喜・押切 道子

第1分冊 〈略題〉「表現する過程を大切」にする保育 1章～3章

横書き

Word添付

〈課題〉

なぜ「表現をする過程を大切」にしなければならないのか、また、その保育実践とはどのようなものか。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書いてあることだけでなく、自身の意見も合わせて書くこと。ただし、自分の意見のみではレポートにならないので注意すること。なお、最新の幼稚園教育要領他を必ず参照すること。課題の「」の言葉は幼稚園教育要領に書かれている言葉です。まずはこの言葉の意味を考えて下さい。

〈評価の観点〉

課題の意図を理解し、独自の視点から論じているかを中心に評価する。また、文字数過不足、誤字脱字や読み手のことを考えていない文章および字の場合は内容とは関係なく、不可とする。

〈その他の注意点〉

実践事例の羅列だけにならないように注意すること

第2分冊 〈略題〉保育者の役割 4章～7章

横書き

Word添付

〈課題〉

「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ための保育者の役割とは何か。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストに書いてあることだけでなく、自身の意見も合わせて書くこと。ただし、自分の意見のみではレポートにならないので注意すること。なお、最新の幼稚園教育要領他を必ず参照すること。課題の「」の言葉は幼稚園教育要領に書かれている言葉です。まずはこの言葉の意味を考えて下さい。

〈評価の観点〉

課題の意図を理解し、独自の視点から論じているかを中心に評価する。また、文字数過不足、誤字脱字や読み手のことを考えていない文章および字の場合は内容とは関係なく、不可とする。

〈その他の注意点〉

実践事例の羅列だけにならないように注意すること

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年厚生労働省『保育所保育指針解説書』平成30年内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成30年

科目試験等への
アドバイス

問題の意図をしっかりと理解し、文章で自己表現をしてほしい。文章は個性があり、それも一つの表現である。独りよがりではない、自分なりの答えを見つけてほしい。

教員からの
メッセージ

表現とは、日常的なものであることをまずは意識して欲しい。幼稚園での発表会や音楽会などだけで子どもは表現しているわけではなく、日常的な表現、遊びの中の表現を大切にしたい。

科目概要	世界史は、東西の「面の世界」に遊牧民・オアシス民・海洋民が住む「点と線の世界」を結びつけることによって成立する。本科目は、世界史の一端を形成する東洋の歴史を学ぶ。
主な到達目標	中国の主要部分である華北・華中・華南以外の地域も併せて自律的に扱い、アジアにおける東洋の古代から近世に至る歴史の流れを把握し、その歴史性を踏まえて各々の出来事や事柄について説明することができる。
テキスト学修の留意点	テキスト本文の上部に記載するキーワードを手がかりに各章を整理し、論点を明確にする。章の最後に掲載する「研究問題」に取り組む。

	学修テーマ	課 題
1	世界史上の東洋（1章）	・アジアの3風土帯説と6つの歴史的世界とは何か。 ・アジアにおいて東洋はどのように位置づけられるか。
2	原始の漢人（2章）	・殷の文化、周の文化とはどのような文化か。 ・甲骨文字から何がわかるか。 ・大人、君子、小人の正体とその関係はどのようなものか。 ・周の封建制度はどのように理解できるか。
3	春秋・戦国（3章）	・春秋時代、戦国時代はどのような時代か。 ・秦の政策はどのようなものであり、秦はなぜ発展を遂げることができたのか。 ・諸子百家と地域との関係はどのようなものか。
4	中国の統一—秦と漢（4章）	・秦朝の中国統一はどのようなものか。 ・漢朝における儒学はどのようなものか。 ・漢代の社会はどのような社会か。 ・三国時代はどのような時代か。
5	絹馬交易（5章）	・遊牧民とはどのような人々であり、遊牧社会とはどのような社会か。 ・匈奴、鮮卑、突厥はどのような国か。 ・遊牧国家の発展の要因は何か。
6	西域経営（6章）	・河西通廊とはどのような地域か。 ・漢朝の西域経営はどのようなものか。 ・西域における商業経済はどのようなものか。
7	総括Ⅰ	1 から 6 の内容を再検討し、東洋の古代の歴史を総括する。
8	流民そして南北朝（7章）	・流民とは何か、その影響はどのようなものか。 ・南北朝時代において「秦嶺—淮河線」はどのように理解できるか。 ・河北と江南の社会や文化における差異はどのようなものか。
9	中国辺境の動き（8章）	・粟特人とはどのような人々であり、どのような活動をしたか。 ・河西地方における辺境貿易はどのようなものか。 ・吐谷渾という国はどのように理解できるか。
10	隋唐の統一帝国（9章）	・隋朝の政策はどのようなものか。 ・唐朝の河北的要素、江南的要素とはどのようなものか。 ・安史の乱はどのように理解できるか。
11	南海貿易と西域貿易（10章）	・秦漢から唐の南海貿易はどのようなものか。 ・海のシルクロードはどのように理解できるか。 ・唐朝の西域経営はどのようなものか。
12	宋朝と征服王朝（11章）	・五代十国とはどのような時代か。 ・宋朝の政治の特徴は何か。 ・南宋の発展はどのように理解できるか。 ・征服王朝とは何か。 ・元朝の政策はどのようなものか。
13	満鮮と日本（12章）	・満州とはどのような地域か。 ・朝鮮半島の歴史はどのようにとらえられるか。 ・日本の体制はどのように理解できるか。
14	総括Ⅱ	8 から 13 の内容を再検討し、東洋の中世から近世の歴史を総括する。
15	東洋史とは何か（発展問題）	東洋史は世界史の中でどのように位置づけられるか。

レポート課題

第1分冊 菊地 大

第2分冊 菊地 大

第1分冊 〈略題〉東洋の古代 1章～6章

横書き

Word添付

〈課題〉

春秋・戦国から漢（前漢・後漢）における政治・経済・社会・文化について、中国の北方や西方との関係を交えて述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストを精読し、内容を正しく理解する。
- ②課題内容に合致した参考文献を参照する。
- ③利用した参考文献をレポート本文の後に明記する（テキストは参考文献には含まれない）。
- ④テキストや参考文献から引用する場合は「 」で表し、引用元のタイトルとページを明記する。
- ⑤一文は適切な長さにし、段落や小見出しを適宜設定するなど、読みやすい文章を心がける。

〈評価の観点〉

- ①課題内容を理解し、自らの言葉で述べているか。
- ②自身の見解や感想が盛り込まれているか。
- ③著しい誤字・脱字、文意が通じない箇所は減点。
- ④箇条書きのレポート、書籍やウェブサイトの内容を盗用・剽窃したと判断されるレポート、参考文献（ウェブサイトを含む）を明示していないレポートは再提出。

〈その他の注意点〉

レポートの字数は本文のみを数えるものとする。

第2分冊 〈略題〉東洋の中世・近世 7章～12章

横書き

Word添付

〈課題〉

唐の後半期から宋（北宋・南宋）における政治・経済・社会・文化について、中国の辺境や周辺地域の状況を交えて述べなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①テキストを精読し、内容を正しく理解する。
- ②課題内容に合致した参考文献を参照する。
- ③利用した参考文献をレポート本文の後に明記する（テキストは参考文献には含まれない）。
- ④テキストや参考文献から引用する場合は「 」で表し、引用元のタイトルとページを明記する。
- ⑤一文は適切な長さにし、段落や小見出しを適宜設定するなど、読みやすい文章を心がける。

〈評価の観点〉

- ①課題内容を理解し、自らの言葉で述べているか。
- ②自身の見解や感想が盛り込まれているか。
- ③著しい誤字・脱字、文意が通じない箇所は減点。
- ④箇条書きのレポート、書籍やウェブサイトの内容を盗用・剽窃したと判断されるレポート、参考文献（ウェブサイトを含む）を明示していないレポートは再提出。

〈その他の注意点〉

レポートの字数は本文のみを数えるものとする。

参考文献

貝塚茂樹著『中国の歴史』上、中、下、岩波新書（青版）、岩波書店、1964、1969、1970年、ISBN4-00-413040-9、4-00-413041-7、4-00-413042-5
 西嶋定生著『秦漢帝国—中国古代帝国の興亡』、講談社学術文庫、講談社、1997年、ISBN4-06-159273-4
 布目潮風・栗原益男著『隋唐帝国』、講談社学術文庫、講談社、1997年、ISBN4-06-159300-5
 貝塚茂樹・伊藤道治著『古代中国—原始・殷周・春秋戦国』、講談社学術文庫、講談社、2000年、ISBN4-06-159419-2
 周藤吉之・中島敏著『五代と宋の興亡』、講談社学術文庫、講談社、2004年、ISBN4-06-159679-9
 宮崎市定著『アジア史概説』、改版、中公文庫、中央公論新社、2018年、ISBN978-4-12-206603-8

科目試験等への
アドバイス

科目試験問題は、制度や政策の内容とその特徴、時代や事件の歴史的意義などを論述させる問題がある。テキストの内容を的確に理解したうえで、自分の言葉で説明できるようにしておくことが重要である。

教員からの
メッセージ

われわれはアジアそして東洋の一員である。本科目を通じて、アジア・東洋は世界においてどのような位置を占めてきたのか、またそれは現在の状況といかなる関係にあるのかを考えてほしい。

科目概要	哲学の理論的分野における基本的な問題について学ぶ。まず、哲学という学問の性格と起源についての問題を学ぶ。次に、哲学の最も基礎的な問題である「存在」の問題に取り組み、自然の存在・神の存在・人間の存在、それぞれの問題について学ぶ。
主な到達目標	・哲学とはどのような性格の学問であるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題にはどのような問題があるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題はどのようにして生じるのかを説明できる。 ・哲学における存在の問題に対してどのような解答が可能であるのかを説明できる。
テキスト学修の留意点	・レポート課題は、テキスト理解を深めたいうえで、理解した内容を自分の言葉を使って表現し直すこと。単にテキストの記述を書き写すだけではレポートとは認められない。また、抽象的な概念や一般的な理論については、なるべく具体例を挙げながら、わかりやすく説明すること。

	学修テーマ	課 題
1	哲学知は常識知や科学知などとうちがうのか	・学問は生活の中からどのようにして生じてきたのか。 ・生活知や科学的な知識はどんな特徴をもっているのか。それは哲学の知とどのようなかかわりもつのか。
2	哲学の学問的性格	・哲学の学問的性格は科学といかに異なるか。 ・哲学が真理を求めるとはどういうことか。 ・哲学と時代が不可分の関係にあるとは何を意味するのか。
3	哲学の発生（1）	・「人間は常に課題の中に生きる存在である」と言われる時、この課題とはどのような性格をもつのか。 ・古代ギリシアにおいてはどのような課題に直面し、そこからどのようにして哲学が生じたのか。
4	哲学の発生（2）	・哲学は宗教や神話とどのような関わりをもって生まれてきたのか。 ・素朴な思想が客観性をもつにいたった過程は、どのようなものだったのか。
5	哲学をどのように学習するか	・「哲学することを学ぶ」とはどのようなことを意味しているのか。 ・哲学書を読むにはどのようなことを注意しなければならないか。 ・哲学概論と哲学思想史はどのように関係するのか。
6	哲学の研究の部門	・形而上学（実体論）と認識論の観点の違いは何か。 ・事実判断と価値判断の相違と関連は何か。
7	存在（ある）とは何か	・どのようにして「存在」は私たちの前に現れてくるのか。 ・ヘラクレイトス・プラトン・アリストテレスにおいて「存在」はどのように捉えられたのか。
8	自然の存在（1） ギリシア的自然	・タレスから原子論に至る自然観の変遷はどのようなものか。 ・プラトンとアリストテレスの自然観の違いは何か。
9	自然の存在（2） 中世的自然	・ギリシア的自然観と中世的自然観の違いは何か。 ・汎神論的な自然観とはどのようなものか。
10	自然の存在（3） 近代的自然・現代的自然	・デカルトとベーコンの自然観の特徴は何か。 ・シェリングの自然観の特徴は何か。 ・ハイデッガーの自然観の特徴は何か。
11	神の存在（1）	・神の存在の宇宙論的証明とはどのようなものか。 ・神の存在の目的論的証明とはどのようなものか。 ・神の存在の存在論的証明とはどのようなものか。
12	神の存在（2）	・カントは神の存在証明をどのように批判したか。 ・神の存在の道徳的証明とはどのようなものか。 ・汎神論的立場では神はどのようにとらえられているか。
13	人間の存在（1）	・デカルトは自我をどのようにとらえたか。 ・カントは自我をどのようにとらえたか。 ・フィヒテにおいて自我と非我はどのように関係するか。
14	人間の存在（2）	・フォイエルバッハやニーチェは感性的自我をどのようなものと考えたか。 ・生の哲学の根拠はどこにおかれているか。
15	人間の存在（3）	・キルケゴール以降の実存主義の特徴は何か。 ・サルトルにおいて実存と本質はどのような関係にあるのか。

レポート課題

第1分冊 林 大悟

第2分冊 林 大悟

第1分冊 〈略題〉哲学が問題にする「自我」とは何か？
テキスト中の該当箇所を自分で探すこと。

横書き指定

Word添付

〈課題〉

デカルト及びカント哲学において、自我についてどのように論じられているのか、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所やテキストで挙げられている哲学者の原典等をしっかり読んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符（「」）や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ③最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ④ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑤分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例をつくってください。

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。

第2分冊 〈略題〉認識とは何か？ テキスト中の該当箇所を自分で探すこと。

横書き指定

Word添付

〈課題〉

哲学的な認識論における経験論と合理論の違いを、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

テキストの該当箇所やテキストで挙げられている哲学者の原典等をしっかり読んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符（「」）や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ③最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ④ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑤分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
（具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例をつくってください。）

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。

参考文献

.....
 デカルト（三木清訳）『省察』岩波文庫、1949年
 デカルト（落合太郎訳）『方法序説』岩波文庫、1967年
 カント（篠田英雄訳）『純粹理性批判』（上、中、下）、岩波文庫、1961年
 ロック（大槻春彦訳）『人間知性論』（1-4）1972年

科目試験等への
アドバイス

.....
 ・テキストの各節の終わりにある演習問題を解いてみることによって、自分の理解度をはかりながら、勉強を進めること。

教員からの
メッセージ

.....
 哲学の勉強は、難しいテキストを読み解くことが基本です。がんばってください。

科目概要	近代以降の倫理学の歴史について理解するとともに、倫理学の基本的なテーマとして何が問われ、どのようにこたえられてきたかを整理する。個々の倫理学者の思想を学び、それが現代においてどのような意義をもつか考える。
主な到達目標	・ 倫理学における基本的な論点や主張について、基本的な概念を理解すると同時に、我々の生き方や社会におけるリアルな問題として自分の言葉で具体的に説明できるようになる。
テキスト学修の留意点	・ 基本的な概念に留意し、その意味や内容が分からないときは、テキストの該当箇所に加え、参考文献もしっかりと読み込むことで、十分に理解するよう努める。 ・ テキストは「倫理学／倫理学概論Ⅰ」と「Ⅱ」の合本になっています。「倫理学／倫理学概論Ⅰ」はテキストの「1章～7章」と「15章から17章」です。「Ⅱ」はテキストの「8章から14章まで」です。該当箇所を間違わないようにしてください。

	学修テーマ	課 題
1	決定論の思想	行為に関する決定論とはいかなる主張か。明らかにする。
2	意志の自由と決定論	決定論に対して、意志の自由の存在がどのような根拠で主張されてきたか。明らかにする。
3	消極的自由と積極的自由	カントが主張する積極的な自由とはいかなる意味か。明らかにする。
4	仮言命法と定言命法	カントが主張する定言命法とはいかなるものか。またその現代的意味は何か。明らかにする。
5	カントの義務論	カントの義務論において、義務はどのように分類されているか。明らかにする。
6	個人的快楽主義と社会的快楽主義	個人的快楽主義と社会的快楽主義（功利主義）の内容とその批判とはどのようなものか。具体的に明らかにする。
7	禁欲主義の系譜	古代ギリシャにおける禁欲主義とはいかなる主張か。具体的に明らかにする。
8	ニーチェ思想の特色	ニーチェ思想においては、「生」の概念が重要な意味をもっているが、それはどのように理解したらいいか、考える。
9	ニーチェとペシミズム	ニーチェがペシミズムに対していかなる態度をとっているのか。明らかにする。
10	ニーチェの道德観	ニーチェが旧来の道德や価値に対していかなる主張をしているか。明らかにする。
11	文学作品と時代批判	ヘミングウェイ・スタインベック・ローレンスの作品において、時代批判の意味を考える。
12	現代日本の家族主義	日本の家族主義的道德を、批判的に考察する。
13	世代間の対立	世代間の対立はどのように解決したらいいか、具体的に考えてみる。
14	現代社会における政治・経済	現代社会における政治・経済にみられる道德的問題とは何か、明確にする。
15	科学技術と倫理	科学技術の進歩によって生じた人間疎外の問題を考える。

シラバス執筆：林 大悟

レポート課題

第1分冊 林 大悟

第2分冊 林 大悟

第1分冊 〈略題〉カント倫理学における義務と自由 第1章～第7章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

カント倫理学における「定言命法」「義務」「自由」の内容、及びそれぞれの関係について、具体例を挙げつつ分かりやすく説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第1章～第7章の中から該当箇所を自分で探すこと。テキストの該当箇所のみならず、参考文献として挙げられている文献などもしっかり読み込んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符(「」)や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。内容を咀嚼した上で分かりやすく自分の言葉で具体的に論述し、自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②参考文献もふまえた上での論述がなされているかどうか。
- ③内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ④最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ⑤ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑥分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
(具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例を作成してください。)

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。参考文献も熟読し、理解した上で記述しないと合格が難しい課題となっています。

第2分冊 〈略題〉ニーチェの道德に関する思想 第15章～第17章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

ニーチェが旧来の道德に対して行った批判と、それに代わって主張した新たな道德について、分かりやすく自分の言葉で説明せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

第15章～第17章の中から該当箇所を自分で探すこと。テキストの該当箇所のみならず、参考文献として挙げられている文献などもしっかり読み込んで、内容を把握し、レポート課題に対応するかたちで論述すること。

引用符(「」)や出典の明記なしに、文献の丸写し・インターネットの情報のコピー＆ペーストを行った場合は単位修得不可とします。内容を咀嚼した上で分かりやすく自分の言葉で具体的に論述し、自分の文章と引用の区別は明確に付けてください。

〈評価の観点〉

- ①正確な理解に基づいた説明がなされているかどうか。
- ②参考文献もふまえた上での論述がなされているかどうか。
- ③内容が咀嚼された上で自分の言葉で表現されているか。
- ④最初から最後まで一貫した論述がなされているか。
- ⑤ポイントとなる論点について具体例を挙げつつ説明がなされているか。
- ⑥分かりやすく適切な具体例が挙げられているか。
(具体例は、必ずしもテキスト・参考文献中に挙げられているとは限りません。その場合、自分で適切な例を作成してください。)

〈その他の注意点〉

テキストだけでなく、下記の参考文献も是非熟読してください。参考文献も熟読し、理解した上で記述しないと合格が難しい課題となっています。

参考文献

カント著『道德形而上学原論』岩波文庫
カント著『実践理性批判』岩波文庫
ニーチェ著『善悪の彼岸／道德の系譜』ちくま学芸文庫、特に『道德の系譜』を参照すること。
ニーチェ著『ツァラトゥストラ』上、下ちくま学芸文庫

科目試験等への
アドバイス

・シラバスの内容の中でも、特にレポート課題の内容が重要となります。自分の言葉で説明できるようにしておきましょう。

教員からの
メッセージ

倫理学は、難しいテキストを読み解き、それを自分の言葉で具体的に説明できることが重要です。がんばってください。

科目概要	生き方や価値観が多様化する現代社会において新しい人間関係のあり方は如何にあるべきかを探る科目である。対人魅力の問題をはじめとして人間関係の基礎理論を学ぶと同時に、親子、夫婦、師弟、職場など人間関係の諸相とそこで生じる諸問題について考察する。また人間関係改善のためのスキルトレーニングの技法も紹介する。
主な到達目標	①人間関係についての基礎的な諸理論を知り、人間関係においていかに多様で複雑なメカニズムが働いているかを理解する。 ②人間関係の諸類型を学び、それらが日常生活の人間関係において具体的にどのように現われているか、人間行動にどのような影響を与えているかを理解する。 ③グローバル化、価値多元化、地域コミュニティの変質による孤立化といった現代社会の動向を受けて、新たな時代状況に適応した人間関係のあり方を提言できる。
テキスト学修の留意点	テキストは基本的に、基礎理論から各論へという展開になっており、それぞれの章がひとつのまとまったテーマを構成しています。自分に興味のあるテーマの章から学び始めるのもいいですが、できればテキストの最初から順番に学んでゆかれることをお奨めします。その際、各章ごとに、自分の言葉で短い要約を作成し、かつ各章で取り上げられている理論の具体例を自分の日常生活の中から探して挙げてみるようにすると、学習効果が非常に上がるでしょう。

	学修テーマ	課 題
1	現代の人間関係	現代社会における人間関係の特徴と問題点を指摘してください。
2	人間関係論の基本的視点	人の「生きざま」の基本条件として人間関係がもつ意義と課題、さらに人間関係の病理と対人援助の諸相について基礎知識を身につけ、自分なりの視点を獲得してください。
3	自分と他者の関係性	自己（私）と「重要な他者」、そしてその両者の出会いと関係性について基礎概念を学習し、自分の生活状況に引き寄せて理解してください。
4	自分と他者のコミュニケーション	人間関係を支える最も重要な要件としてのコミュニケーションの意味を理解し、バーバル（言語）およびノンバーバル（非言語）の両方について、コミュニケーション・スキルを発達させる諸要因について整理してください。
5	人間関係の生涯発達	誕生から死に至る生涯発達の各時期における人間関係の特徴とそこでの課題や問題について、一貫性と変化の両側面から考察し、まとめてみてください。
6	人間関係の国際比較	国や民族による人間関係のあり方の違いを、主に親子の対話を中心に学修し、人間関係に文化的意味空間や人間観が与える影響について国際比較の観点から考察してください。
7	家族関係	現代社会における家族の意義と機能、そして家族が抱える病理について考察し、今後の世界における家族のあり方について自分なりのビジョンをまとめてみてください。
8	夫婦関係	晩婚化、非婚化が進む現代社会において夫婦関係はどのような意味と問題性を持っているのかを考察し、今後の社会において求められる夫婦関係とはどのようなものなのかを構想してみてください。
9	親子関係	現代社会における親子関係の現状と課題をまとめ、「里親」をはじめとする新たな親子関係の可能性について、「父性」や「母性」の意味検証も含めて検討してみてください。
10	教師・学生関係	各発達段階および学校種における教育者と被教育者（学習者）の関係性がもつ特徴をまとめ、多様化した現代社会における教師の役割について人間関係の視点から考察してください。
11	職場の人間関係	職場の人間関係がもつ特色と問題性を理解し、職場での適応を促進するための精神健康支援の課題やストレス・マネジメントの基礎について学修を進めてください。
12	病者と援助専門職者の人間関係	「病者」とは誰なのかを現代的視点から捉えなおし、医療や看護の現場における対人援助のあり方について、できるだけ具体的事例に基づいて考察してください。
13	高齢者と援助専門職者の人間関係	超高齢化社会の現代における高齢者支援の現状と課題について、生涯発達の視点をもちながら学修し、高齢者のニーズをふまえたソーシャル・サポートのあり方についての理解を深めてください。
14	障害者と援助専門職者の人間関係	障害とは何かについて、障害概念の見直しが求められています。現代社会における障害者の人権と現状、その支援の成果と課題について、とくに発達障害児に対する特別支援教育を視野に入れながら考察してください。
15	心理学と援助専門職者	新たにできた国家資格「公認心理師」をめぐる、学校教育相談（スクールカウンセリング）をはじめとして、現代社会における心理学的援助のニーズと課題について考察してください。

シラバス執筆：小林 亮

レポート課題

第1分冊 小林 亮

第2分冊 小林 亮

第1分冊 〈略題〉現代のコミュニケーション・スキル 第I部および第II部

横書き

Word添付

〈課題〉

現代社会において求められるコミュニケーション・スキルとはどのようなものなのでしょうか。一方で孤立化、他方で多様化とボーダーレス化が進む現代社会において、より満たされた人間関係を構築していくために必要なスキルとはどのようなものかについて、具体的事例を挙げながら記述してください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

一方で、地域コミュニティの崩壊や、晩婚化・非婚化、一人世帯の増加などにより現代人は孤立化していると言われますが、他方で、社会のグローバル化やインターネットおよびSNSの普及によって以前よりもはるかに広範な広がりを持ったコミュニケーションが可能になっているのも現代人の特徴です、この一見矛盾した現代社会のあり方の中で、より適応的で自分を活かせる人間関係を構築していくためにはどのようなコミュニケーション・スキルが必要でしょうか。

〈評価の観点〉

- ①コミュニケーションの基本的機能が理解されているか
- ②現代社会の人間関係の（一見矛盾した）特徴が捉えられているか
- ③コミュニケーションを促進するための基本的スキルが理解されているか
- ④現代人のニーズを満たす人間関係のあり方が的確に理解され、コミュニケーション形成の能力がその現代的ニーズに対応して把握されているか

〈その他の注意点〉

人間関係を支える基本要件としてのコミュニケーションへの欲求自体は人間に普遍的なものです。孤立化とボーダーレス化という矛盾したベクトルに特徴づけられる現代社会のコミュニケーションには特殊な側面が多々見られます。現代社会の矛盾に飲み込まれることなく、孤立化とボーダーレス化のはざままで自己実現を達成していくために、具体的にどのようなコミュニケーション・スキルが求められているのかを、ご自身の生活状況も参照しながら探索してみてください。

第2分冊 〈略題〉援助専門職者の役割 第III部

横書き

Word添付

〈課題〉

人間関係が希薄化していると言われる現代社会で、援助専門職者へのニーズはますます高まっています。医師、看護職、心理職、ソーシャルワーカー、介護職を含め、現代人のニーズを満たすために援助専門職者に求められる最も重要な資質とは何でしょうか。またその資質を高めるためには何が有効と考えられますか。現代社会における援助専門職者に求められる関係性へのスキルについて、あなたの考えをまとめてください。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

伝統的な地域コミュニティが崩壊したと言われる現代社会において、援助専門職者との関わりは、人間関係のかなり重要な部分を占めています。援助専門職者の職業的スキルとして、専門領域における理論的、技術的知識やスキルと並んで、対人関係にかかわるスキルがかなり本質的な意味を持ってくるようになりました。現代社会において受益者のニーズを満たせる援助専門職者のスキルとはどのようなものなのか、領域特殊的側面と一般的側面の両方をふまえながら考察してください。

〈評価の観点〉

- ①援助専門職者に求められる基本的資質が理解されているか
- ②現代社会の人間関係の特徴との関連で、援助専門職者の役割が捉えられているか
- ③援助専門職者と受益者とのコミュニケーションの特徴が理解されているか
- ④現代人のニーズを満たす援助専門職者のあり方が的確に理解され、それに向けた能力形成への視点が獲得されているか

〈その他の注意点〉

人間関係を支える専門家として、援助専門職者の提供するサービスはある意味で最も現代的な職業活動であると言えます。孤立化とボーダーレス化が進み、SNSなどの新しいコミュニケーション形態が普及した現代社会の人間関係の特徴やその病理をふまえながら、これからの社会に求められる援助専門職者のあり方について、できれば何か特定の領域の援助専門職者を例に挙げながら、あなた自身のビジョンを論述してみてください。

参考文献

川野雅資『臨床教育に活用する人間関係論』関西看護出版、2007年
 ダニエル・ゴールマン（土屋京子 訳）『EQ－こころの知能指数』講談社、1996年
 岡田努・榎本博明（編）『パーソナリティ心理学へのアプローチ』（『自己心理学』5）金子書房、2008年
 大藪泰・林もも子・小塩真司・福川康之（編）『人間関係の生涯発達心理学』丸善出版、2014年
 その他、テキストの各章に紹介されているテーマごとの参考文献をぜひ積極的に読んでください。

科目試験等への
アドバイス

テキストで紹介されている理論と人名が結びつくようにしてください。またそれぞれの理論におけるキーワード（概念）を使って、理論の概要を説明できるようにしておいてください。さらに、各理論が日常生活において具体的にどのような状況をさしているのか、具体例を挙げられるようにしておくといと思います。

教員からの
メッセージ

人間関係論は私たち一人一人の人生や日常生活と深く関わる学問領域です。理論や概念を学ぶと同時に、それらを常に自分自身の問題として日常生活と関連付けて理解してゆかれることをお奨めします。また時代の変化の影響を受けやすい問題も多くありますので、現代社会がむかう方向性を見定めて、新たな人間関係のあり方を模索していただけたらと希望しています。

科目概要	本授業は、主にレポートの作成と指導を通して、宗教社会学の基礎理論や考え方、視点についての基礎的知識と現代社会の宗教状況を解説していく。この視点を養うことによって、受講者は宗教を取り巻く現代世界や日本社会の諸相を正確に把握できる。
主な到達目標	以下の諸点を到達目標とする。 ・宗教社会学の基礎理論とその視点について学修する。 ・現代世界の宗教状況を把握することにより、日本の社会や異文化を宗教的観点から学修する。 ・宗教が世界や日本の思想や文化形成に多大な影響を与えてきた事実を学修する。
テキスト学修の留意点	学修に際し、以下の点を留意すること。 ・各課題の解答をまとめ、論述することができる。 ・主な到達目標に関わる課題について、宗教社会学の基礎理論や現代社会と宗教との関係を理解し、説明することができる。 なお、学修を深めるためには教科書はもちろんのこと、そこで紹介される参考文献や本授業の「学習指導書」も参照するとよい。

	学修テーマ	課 題
1	序章	・宗教社会学の定義とは何か？ ・宗教社会学の学問的性格とテキストの視点（全体構成と目標）とは何か？
2	宗教社会学の源流	・現代の宗教社会学につながる源流としてのウェーバー、ジンメル、デュルケムの著作にみられる理論的特徴とは何か？
3	宗教社会学の周辺	・宗教社会学に対する人類学の影響は何か？ ・宗教社会学に対するフレイザーとプリチャードの呪術論のそれぞれの影響は何か？
4	宗教社会学の周辺	・宗教社会学に対する心理学の影響は何か？
5	宗教社会学の展開	・米国における宗教社会学と機能主義の展開と何か？ ・宗教教団に関する理論の特徴は何か？
6	宗教社会学の展開	・認知科学や脳科学（ニューロサイエンス）の研究の宗教社会学への影響とは何か？
7	日本の宗教社会学	・日本における宗教社会学の受容、特に日本の民俗学や宗教史研究は日本の宗教社会学の独自の領域を形成する上でどのような寄与をしたのか？
8	日本の宗教社会学	・日本におけるスピリチュアリティ研究の概要、分野、研究の動向とは何か？ ・「カルト問題」と宗教社会学との関係とは何か？
9	近代化と日本の宗教	・社会的存在形態に対する日本の近代化の過程の諸局面とは何か？
10	近代化と日本の宗教	・宗教に対する国家体制、都市化、家族、宗教法人法などの社会変動の影響とは何か？
11	現代日本の宗教状況	・日本の近代新宗教の展開、区分と活動の特徴とは何か？
12	現代日本の宗教状況	・日本の新宗教はどのような社会変動に影響を受けてきたのか？ ・「ポスト近代宗教」とは何か？ ・現代の日本において宗教が直面する問題は何か？
13	現代世界の宗教理解	・現代世界にはどのような宗教文化圏があり、そこにおいて宗教はどのように分布しているのか？
14	現代世界の宗教理解	・国際化・グローバル化における宗教の展開とは何か？ ・現代世界における宗教問題とは何か？
15	宗教情報リテラシー	・宗教情報が氾濫しつつある現代社会において信頼できる情報を得るための具体的方法及び注意点とは何か？

シラバス執筆：岡田 直丈

レポート課題

第1分冊 岡田 直丈

第2分冊 岡田 直丈

第1分冊 〈略題〉宗教社会学の古典的理論・周辺領域・展開
Ⅰ. 宗教社会学の基礎理論(第1章～4章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 人類学が宗教社会学に与えた影響について、研究者たちの学説を要約しながら1,200字以上で具体的に説明しなさい。
- (2) 宗教集団に関する理論について、ウェーバー、トレルチ、ニーバー、ウィルソン、ロバートソン、ベッカー、スタークとベインブリッジ、モバーグ、オディの学説を要約しながら1,200字以上で具体的に説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

留意事項として、下記の点を挙げる。

- ①テキストを精読して内容を十分に理解しているか。
 - ②テキストの要点を自分の言葉で的確に表現できているか。
 - ③その上で、設問に的確かつ論理的に解答できているか。
- このように、設問の把握、テキストの読解力そして文章表現力が作成の条件になる。そのためにテキストを反復して読み、ノートやパソコンに下書きをした上で、レポートを作成することを奨励したい。
- ※教科書を十分参照せずに解答した場合は採点の対象外となるので注意すること。
- ※設問(1)と(2)は別々の問題となる。

〈評価の観点〉

- ①テキストの単なるまとめに終わらず、要点をおさえて論述すること。
- ②答案を作成するときは、全体の構成を考え、適切な形で段落分けをして論理的な連関が明確になるように記述すること。

〈その他の注意点〉

テキスト各章を十分に読解した上で、各分冊の「略題」を体系的に理解すること。専門用語については、宗教学分野の事典(教科書で紹介)を調べるとよい。

※レポートは大学指定の「テキスト履修レポート用 Word 横書き用テンプレート」を使用して提出すること。

第2分冊 〈略題〉現代世界と日本における宗教状況と宗教理解
Ⅱ. 現代社会と宗教社会学(第5章～8章)

横書き指定

Word添付

〈課題〉

- (1) 日本の近代新宗教の形成と展開に影響を与えた四つの社会変動と三大ポスト近代新宗教について、1,200字以上で具体的に説明しなさい。
- (2) 世界の四大宗教文化圏の特質について、1,200字以上で具体的に説明しなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

留意事項として、下記の点を挙げる。

- ①テキストを精読して内容を十分に理解しているか。
 - ②テキストの要点を自分の言葉で的確に表現できているか。
 - ③その上で、設問に的確かつ論理的に解答できているか。
- このように、設問の把握、テキストの読解力そして文章表現力が作成の条件になる。そのためにテキストを反復して読み、ノートやパソコンに下書きをした上で、レポートを作成することを奨励したい。
- ※教科書を十分参照せずに解答した場合は採点の対象外となるので注意すること。
- ※設問(1)と(2)は別々の問題となる。

〈評価の観点〉

- ①テキストの単なるまとめに終わらず、「設問」に的確に解答すること。
- ②テキスト理解が十分かどうか、要点をおさえて内容を解答すること。
- ③答案を作成する際、全体の構成を考え、適切な形で段落分けをして、論理的な連関を明確に解答すること。

〈その他の注意点〉

テキスト各章を十分に読解した上で、各分冊の「略題」を体系的に理解すること。専門用語については、宗教学分野の事典(教科書で紹介)を調べるとよい。

※レポートは大学指定の「テキスト履修レポート用 Word 横書き用テンプレート」を使用して提出すること。

参考文献

さらなる学習のために、テキストの各章末及び「文献解題」(262～267ページ)で紹介された文献を参照すること。

科目試験等への
アドバイス

科目試験は、テキストのすべての範囲から出題される。その有効な対策として下記の点を挙げておく。

- ①普段からテキストを学修、読解し、各章の論点を整理、要約しておくこと。
- ②テキストの各章に出てくる重要な人物やキーワードや概念に注目して、その意味を正確に理解すること。
- ※その際、各章末の「注」も読んでおくこと。
- ③答案作成の際、全体構成を考えて、適切に段落分けをし、論理的な文章を作成すること。

教員からの
メッセージ

- ・各テーマについて、新しい知識を得るという意欲と関心をもって学びを深めて頂きたい。さらに、宗教が社会に、また社会が宗教に与える影響についても把握するよう努めて頂きたい。
 - ・また、テキストの学修をさらに深め、発展させていくために、テキスト巻末の「付録」「文献解題」で紹介された豊富な文献・データも是非参照・活用して頂きたい。それは学習者の「宗教情報リテラシー」をいっそうの向上に繋がるであろう。
 - ・テキストを学習する際、またレポートの作成や試験の準備をする際、本科目の「学修指導書」も是非参考するとよい。
- ※ WebTAMA 上で閲覧可

08853 西洋思想史

2単位

テキスト名

岩田靖夫他著
『西洋思想の歩み－ロゴスの諸相－』
有斐閣

科目概要	本科目では、古代ギリシアから中世、近代、現代にわたる西洋思想の歴史を学んでいくことを通じて、西洋近現代の合理的思考や科学的探究、合理的な社会システム等が成立したプロセスを理解する。それに加えて、西洋のさまざまな人間観・世界観・人生観の多様性を学ぶことによって、それを自分の世界観・人生観に取り込むことをねらいとする。
主な到達目標	- 西洋哲学思想の各時代ごとにその展開を辿っていき、それぞれの時代の哲学思想の根本特徴を明確に理解し、わかりやすく説明できるようにする。 - 西洋哲学思想のキーワードは、理性・理法・言葉（論理）を意味するギリシア語の「ロゴス」であるが、西洋思想史がこうした「ロゴス」の展開過程であることを、各時代思想展開に即して具体的に説明できるようにする。
テキスト学修の留意点	- テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、論述すること。 - テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけでは十分ではない。 - 重要なのは、テキストの著者や各々の哲学者たちが結局何を言おうとしているのかを十分に理解することであり、それを踏まえた上で、レポート課題に適切に答えるべく、自分の言葉で再構成して論述することである。

	学修テーマ	課 題
1	ギリシア精神とギリシア神話	古代ギリシア哲学が誕生する背景となるギリシア精神とはどのようなものか。また、ギリシア神話はどのような特徴をもち、のちに生まれたギリシア哲学とはどのように異なるのか。
2	ソクラテス以前の哲学	ソクラテス以前のギリシア哲学は、宇宙万物の根源（アルケー）とは何かを探究することから始まったが、「万物の根源」はどのようなものと考えられてきたのか。また、それはどのような意義をもっているのか。
3	ギリシア古典期の哲学	ソクラテスの思想はソフィストたちとどのような点で異なるのか。ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想では、「善」や「徳」や「正義」などの問題がそれぞれどのように考えられたのか。
4	キリスト教の思想①	西洋哲学の新たな局面は、「理性」に基づくギリシア哲学と「愛」に基づくキリスト教との出会いであるという。イエスにおける「愛」の思想とパウロにおける「復活」の思想とは、それぞれどのようなものか。
5	キリスト教の思想②	キリスト教の教義はいかにして確立し、また展開していったのか。この問いをアウグスティヌスらの思想をもとに跡付けるとどのようなことが言えるのか。また、「普遍論争」とはどのようなものか。
6	キリスト教の思想③	「12世紀ルネサンス」によって、いかにして西欧が自己自身を自覚していったのか。またトマス・アクィナスらのスコラ哲学はどのように形成され、展開されていったのか。
7	近代哲学①	中世の「神中心主義」から近代の「人間中心主義」への転換がなされたルネサンスでいわれる「古典復興」とはどのようなことか。また、F・ベーコンの「帰納法」が科学的思考法の出現にどのように寄与したのか。
8	近代哲学②	近代哲学の父と言われるデカルトの「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉は何を意味しているのか。また、デカルトと近接する時代のパスカル、ホッブス、スピノザの思想はどのようなものであったのか。
9	近代哲学③	人間の心は元来「白紙（タブラ・ラサ）」であると唱えるジョン・ロックを中心とするイギリス経験論とはどのようなものか。また、ヴォルテールやJ・J・ルソーなどのフランス啓蒙思想とはどのようなものか。
10	近代哲学④	理論理性の限界を指摘し、実践理性の重要性を強調したカントの思想のポイントは何か。また、カントを起点とするフィヒテ、シェリング、ヘーゲルなどのドイツ観念論では、どのような思想が展開されたのか。
11	近代哲学⑤	ヘーゲルがドイツ観念論の体系を完成して以降、それを批判する形で、コントの実証主義、マルクスの共産主義、キルケゴールらの実存思想などがどのように展開されたのか。
12	現代哲学①	現代においては伝統的な「ロゴスの解体」ということが言われるがこれはどういうことか。この問題は、現代における諸科学の危機とどのように関連するのか。
13	現代哲学②	現代の論理実証主義が行った新たな「理性批判」とはどのようなものか。また、ポパーのいう「批判的合理主義」および「反証主義」とはどのようなものであるか。
14	現代哲学③	クワインの「言語論的転回」とはどのようなことか。また、クーンの「パラダイム転換」とは科学の成立にどのように寄与したのか。
15	現代哲学④	フッサールの現象学における「生活世界」とは何か。ヴィトゲンシュタインの「言語ゲーム」とは何か。「歴史の中での理性」とは何か。

シラバス執筆：中山 剛史

レポート課題

第1分冊 中山 剛史

第2分冊 中山 剛史

第1分冊 〈略題〉古代ギリシア哲学の背景としてのギリシア精神
第1章～第4章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

古代ギリシア哲学が誕生する背景となるギリシア精神（ギリシア文化・自由・ギリシア神話など）とはどのようなものであったのか。それを古代ギリシア哲学との関連において具体的に論じること。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①ギリシア精神とギリシア神話については、第1章と第2章が参考になるが、その部分の「要約」をするのではなく、第3章・第4章におけるギリシア哲学の展開も視野に入れた上で、ギリシア精神とギリシア哲学との関連に光を当てて考察すること。
- ②テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、説明できるようにすること。
- ③テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけではレポートとして不十分である。

〈評価の観点〉

- ①レポート作成上の基本的なルール（表記、誤字脱字の有無、「引き写し」の厳禁、引用や注など）が守られているかどうか。
- ②課題に対応した的確な論述になっているかどうか。
- ③叙述内容を十分に理解した上で書かれているかどうか。
- ④「問題提起—本論—結論」が明確であり、論の構成・展開が適切であり、説得力のある論述になっているかどうか。
- ⑤その他、自分なりの創意工夫がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

できるだけ、他の参考文献も参照するのが望ましい。

第2分冊 〈略題〉近代・現代における新たな「ロゴス」の展開
第12章～第20章

横書き指定

Word添付

〈課題〉

古代ギリシア哲学の成立は、いわばロゴス的思考の誕生ともいえるが、その後、近代において「ロゴス」は新たな展開を迎えた。近代・現代において、「ロゴス」はどのように展開されたのかについて、各時代の西洋哲学思想の変遷を踏まえつつ、具体的に論じなさい。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

- ①近代・現代といっても広範にわたるが、叙述が散漫にならないように注意してほしい。もちろん、複数の時代や章にまたがるような広い視野からの論述が必要であるが、必ずしも網羅的である必要はない。むしろ、自分なりに着眼点を絞って、その視点から「ロゴス」や「理性」の展開に光を当てるような首尾一貫した論述が望ましい。
- ②テキストの内容をよく読んで十分に理解し、課題に即した形で再構成し、説明できるようにする。
- ③テキストの「引き写し」はルール違反であり、また単なるテキストの「要約」だけではレポートとして不十分である。

〈評価の観点〉

- ①レポート作成上の基本的なルール（表記、誤字脱字の有無、「引き写し」の厳禁、引用や注など）が守られているかどうか。
- ②課題に対応した的確な論述になっているかどうか。
- ③叙述内容を十分に理解した上で書かれているかどうか。
- ④「問題提起—本論—結論」が明確であり、論の構成・展開が適切であり、説得力のある論述になっているかどうか。
- ⑤その他、自分なりの創意工夫がなされているかどうか。

〈その他の注意点〉

できるだけ、他の参考文献も参照するのが望ましい。

参考文献

- ・学習は、まずテキスト自体の学習を中心として進めてほしいが、理解の補助として、下記の参考文献を挙げておくので、必要に応じて参考にしてほしい。
- 岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣、1975年
 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書、2003年
 熊野純彦『西洋哲学史——古代から中世へ』岩波新書、2006年
 熊野純彦『西洋哲学史——近代から現代へ』岩波新書、2006年 その他

科目試験等への
アドバイス

- ・科目試験でも、レポート作成の場合と同じく、設問の意味と意図をよく理解し、自分の言葉で適切に再構成して論述することである。
- ・ここでも、テキストの「引き写し」はルール違反であり、不合格となるので注意してほしい。
- ・単なるテキストの要約や単なる主観的なエッセイではなく、テキストの内容をよく理解した上で、設問に応じて自分の言葉でその問題を再構成して、首尾一貫した形で論理的に説明することができるかどうかが重要である。

教員からの
メッセージ

- ・テキストの各章・各節によってかなり難易度の差はあるが、重要なのは、枝葉末節ではなくて、各時代の哲学者たちが要するに何を考えたのかというその思想のポイントをレポート課題に即しつつ、よく理解することである。
- ・そのためにはとくに大切だと思われる箇所にアンダーラインを引いたり、付箋を付けたりする工夫が必要であり、それをもとに自分の言葉で再構成することが重要である。

科目概要	本科目は、歴史的な視点から、東洋の思想を学ぶ科目である。東洋思想形成の史的文脈を踏まえたうえで、諸子百家に代表される東洋思想の蓄積と特質に焦点をあて、学習を進める。本科目では諸子百家の理解を通して、東洋思想の基本的知識を修得し、東洋思想史に関する理解を深めることによって、ものごとを判断する力を養い、教員にふさわしい教養を身につける。
主な到達目標	1. 諸子百家とは何かを学習し、理解する。 2. 諸子百家の学習を通して、東洋思想の基礎知識を得る。 3. 東洋思想理解の視点と方法を獲得する。
テキスト学修の留意点	1. テキストの著者はいかなる意図をもって、なにを説明しようとしているのか、著者が説明と論述を進めるにあたって、どのような順序で組み立てどのような論理に基づいて論じているのか、という問題意識をもって、自らの理解を深めること。 2. 思想・哲学を現す用語は、それぞれの時代、社会の特質を反映するものである。テキストの内容に基づき、諸子百家の思想を生んだ時代背景を深く考察すること。

	学修テーマ	課 題
1	諸子百家とは	テキストの、「はじめに」と「序章」を読む。新しく発見された中国の古代文献は東洋思想史の学習にとっていかなる意味をもつのか。春秋戦国時代において、どのような社会状況の下、諸子百家が生まれたに注目し、諸子百家を理解する。
2	諸子百家前史（1）	次の点について学習し、理解する。 1. 上博楚簡『莊王既成』にはどのような予言が述べられているのか。 2. 周の景王の故事とはどのようなものか。 3. 『莊王既成』の教訓とはどのようなものか。
3	諸子百家前史（2）	次の点に答えられるよう、学習を進める。 1. 太子「木」に関する記述は、どのような意図のもとに書かれたのか。 2. 楚の昭王の宮室落成式の際、どのようなことが発生したのか。
4	孔子の思想（1）	『聖跡図』に記録された孔子の生涯について学ぶ。特に、孔子はどのように政治に関わったかについて理解を深める。
5	孔子の思想（2）	次の点を問題意識に、孔子思想の本質について理解を深める。 1. 孔子はどのような理想の人格像を描き出したのか。 2. 孔子の思想に見る「礼」という考え方は、どのようなものか。 3. 孔子の思想に見る「孝」という考え方は、どのように語られたか。
6	孟子の思想	孟子の思想について、どのように形成されたか、「性善説」は、どのような価値観に基づいて生み出されたのか、「王道」政治はなにを目指したのかを中心に学習する。
7	墨家の思想	「兼愛」「忠」をキーワードに、墨家思想を学習する。
8	小括	諸子百家の前史について復習をし、孔子、孟子の思想を中心に儒家思想の特徴と本質を理解する。ここまでの東洋思想についての学習を確認、復習する。
9	老子の思想	次の点を問題意識に、老子はどのような思想家か、理解を深める。 1. 「持たぬことの幸せ」とはどのようなことか、考えてみよう。 2. 老子にとって、「天」はどのような存在であるのか。 3. 老子思想は、水に関してどのように説いたのか。
10	莊子の思想	次の点を問題意識に、学習を進める。 1. 「朝三暮四」からどのような考えを読み取れるか。 2. 莊子は、なぜ「人間の判断は、決して世界の絶対的な真実ではない」と論じたのか。 3. 「胡蝶の夢」の意味と意義はどのようなものか。
11	法家の思想	次の点を問題意識に、法家はどのような社会背景のもとに生まれ、その思想の本質はなにかを学習する。秦国の法を重んじる考え方は韓非子の思想とどのようなかわりを有するのかをも理解する。 1. 法家思想の代表的思想家である韓非子の思想はどのようなものか。
12	孫子の思想（1）	孫武とはどのような人物かを知り、『孫子』の内容を中心に学習する。
13	孫子の思想（2）	1. 『孫子』十三篇の一つである「計篇」に見られる孫子の思想はどのようなものか。 2. 『孫子』の「作戰篇」「謀攻篇」「虚实篇」「軍争篇」「九变篇」「行軍篇」「地形篇」「九地篇」から3つを取りあげ、孫子の思想の特質を述べてみよう。
14	諸子百家と現代	諸子百家と現代とのかかわりを学び、諸子百家思想の今日的意義を考察する。
15	総括	孔子、孟子、墨子、老子、莊子、韓非子、孫子の思想を中心とした東洋思想史の学習を復習する。各思想の特徴と本質を理解し、その現代的意義を把握する。

レポート課題

第1分冊 朱 浩東

第2分冊 朱 浩東

第1分冊 〈略題〉東洋思想史Ⅰ 第一章から第四章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

孔子の生涯はどのようなものであったかをまとめよ。また、孔子の「礼」と「孝」についてまとめ、考察せよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、孔子の生涯についてまとめる(要約する)。
2. テキストに基づき、「礼」と「孝」はどのような考え方をまとめる(要約する)。
3. テキストに書かれた「礼」と「孝」を理解したうえで、その現代史的意義について、自らの考えをまとめる。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

第2分冊 〈略題〉東洋思想史Ⅱ 第五章から終章まで

横書き

Word添付

〈課題〉

老子はどのような特徴をもつ思想家であるか、また老子の思想の本質はなにかについて述べよ。

〈レポート作成にあたっての留意事項〉

1. テキストに基づき、老子の思想を、その独自性に焦点をあててまとめる(要約する)。
2. 「道」と老子思想との関係に注目し、老子思想の本質について考察する(まとめ、自らの考えをまとめる)。

〈評価の観点〉

1. テキストの記載内容を正確に把握しているか。
2. 自分の意見を論理的に展開しているか。
3. 誤字、脱字の有無、正確な文章が書けているか、論理の一貫性があるか。

〈その他の注意点〉

人名、地名など固有名詞に用いられる漢字を正確に確認すること。今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字については、特に間違いないよう記載すること。

参考文献

以下の6点を参考とし、他は学習指導書を参照。

1. 貝塚茂樹『孔子』岩波書店、1997年。
2. 宮崎市定『論語の新しい読み方』岩波書店、1996年。
3. 貝塚茂樹『孟子』講談社、2004年。
4. 森三樹三郎訳『墨子』筑摩書房、2012年。
5. 小川環樹訳注『老子』中央公論社、1973年。
6. 浅野裕一『孫子』講談社、1997年。

科目試験等への
アドバイス

1. テキストの内容を十分に理解することが重要である。その際には、丸暗記をするのではなく、学習指導書の「各章ごとの学習の留意点」の設問を念頭に置き、テキストの内容を総合的に理解し、自らの思考力を高めることが大切である。
2. 思想家個人の思想、思想的系譜による流派の思想の両者の違いを理解し、それぞれの思想をその思想形成の背景から把握し、各思想の内容と特徴を理解することを念頭に置く。また、東洋思想史の思想家、思想的系譜による流派の両者に見られる、人間の生き方を問うという共通点についても、もう一度、確認することが、学習の到達度を高める手掛かりとなる。
3. 思想に関する自らの考察を、根拠を示して論点を明確にまとめ、客観性・実証性・論理一貫性をもってまとめること。

教員からの
メッセージ

1. 本科目の眼目は、東洋思想を歴史的な視点から学ぶことである。思想を生み出した社会的背景に注目することによって、思想そのものをより深く理解することが可能になる。
2. 現代社会における人間の生き方との関連性を問うところから、東洋思想の今日的意義を探ることが、学習の効果を高める。
3. 人名、地名などの固有名詞に使われる、今日において使用されない漢字および使用されることの少ない漢字を正確に確認し、把握すること。